講義科目名称：　医療・福祉・教育の基礎　　授業コード：1000

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。
授業の概要	人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。 また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション／「支援するってどんなこと？」　―介護福祉からの対人援助―を考える 【key words】 支援　パラダイムシフト　視座　視点　解釈　分析　ケア 【授業概要】 「支援」ということばと、援助・応援・お手伝いなどはどのように違うと思いますか?　医療・福祉職はまず「支援」とは何かを理解する必要があります。そのため、「支援」という言葉について介護福祉の視点から考えていく授業です。知識を身につけるのはもちろんですが、体験型学習を通して探求的な学習を行います。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業時体験、ワークを行うため上記に挙げたキーワードを調べましょう。
	第２回	学校におけるコミュニケーションの不思議 【key words】 指導言、発問と質問、コミュニケーション 【授業概要】 授業を活性化し、子どもに考える力をつけるための必須アイテムである発問とは何か。質問との違いは何か。具体例を通して発問と質問の違いに触れ、実際の学校現場の様子を体感することで、学校におけるコミュニケーションの不思議を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、「発問とは何か」について、調べておくこと。
	第３回	社会福祉士の専門性とコミュニケーション 【key words】 社会福祉士　バイステック　連携 【授業概要】

		社会福祉士とは、どのような職業なのか概要を講義します。また、社会福祉士として連絡・調整を行なう時に必要なスキルは何かを演習を通して考え、社会福祉士を理解することを目的とします。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士及び介護福祉士法　第2条　社会福祉士の定義を読み
	第４回	人を科学する　―臨床心理学の世界―
		【key words】 多職種連携、守秘義務と情報共有、心理的アセスメント、自己課題発見、生涯学習 【授業概要】 「心」を科学的に分析するのが心理学です。人に関わる諸領域における多様な援助には、心理学的視点が重要となります。他者理解には自己理解が前提ですが、自分を知るのは、実はとても難しいことです。科学的に自分を知る方法の一つに人と人との交流パターンを分析する「エゴグラム」という心理テストがあります。授業では実際にやってみましょう。また，臨床現場（保険医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野）における心理師の専門技能と役割を学びましょう。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：日常生活において、人の行動で気になること（問題）を一つ提案してください。なぜだろう？と疑問を感じることなど。
	第５回	生きているってどういうこと～生命徴候を知ろう～
		【key words】 バイタルサイン　救命救急処置　心肺蘇生法 【授業概要】 看護師を目指す者として、命の尊さや大切さを講義を通して学びます。また、バイタル測定から生命徴候を観察する方法を習得し、緊急時における救命処置を、本授業により身につけます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前課題：身の回りのＡＥＤ設置場所を、10か所以上確認しておく。 事後課題：講義終了時に感想（コメント）カードを提出する。
	第６回	認知症高齢者の心をつかむコミュニケーション技法を学ぼう
		【key words】 認知症、ユマニチュード 【授業概要】 認知症の特徴を理解した上で効果的なコミュニケーション技術と根拠について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 ＤＶＤ，パワーポイント、講義資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料の内容確認。
	第７回	健康な小児の成長発達　～アニメキャラクターを通して小児の発達を学ぼう～
		【key words】 乳児、幼児、学童、思春期 【授業概要】 新生児から中学までの成長発達を言語・遊び・運動をポイントにアニメキャラクターを通して学んでいく 【教科書ページ・参考文献】 医学書院　小児臨床看護概論 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、外出先で見かけた子どもの行動、言動から年齢を予想してください。
	第８回	ピア・カウンセリング入門！
		【key words】 思春期、　ピア、　サポート、　カウンセリング、　自己決定 【授業概要】 ピア・カウンセリングスキルを使った、支援の方法を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相談しやすい人はどんな人か、自分の体験の中から考えておいてください。
	第９回	リハビリテーションと理学療法のこれから
		【key words】 リハビリテーション、ノーマライゼーション、IL運動、理学療法 【授業概要】 リハビリテーションの言葉の意味から始まり、リハビリテーションの根幹となる思想や活動を紹介します。リハビリテーションの多様さと、それを支える専門職、さらにチームで活動する必要性についても説明します。そしてリハビリテーションの中核となる、理学療法についても、将来の方向性も含めて紹介してい行きます。 【教科書ページ・参考文献】 適宜資料を配布いたします。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リハビリという言葉が、どこで良く使われているか、周囲の方々にインタビューしておいてください。
	第１０回	理学療法士が担う治療と患者との関わり
		【key words】 運動療法，物理療法，徒手療法 【授業概要】 理学療法士が担う治療についての知識を深め，多くの選択肢から治療をしていることを学ぶ。また，セラピストの知識や技術が患者さんに与える影響が大きいということや，マネージメント力がどのように問われているなどについて紹介する。 【教科書ページ・参考文献】

	配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本理学療法士協会のホームページ（http://www.japanpt.or.jp/）から治療に関する内容を確認しておくこと。 第１１回　「作業」って何だろう？ 【key words】 作業、生活行為、健康、well-being 【授業概要】 「作業」という言葉には、少し泥臭いようなイメージをもつ方もいるかと思います。しかし、作業療法の観点から捉える「作業」は、ひとの幅広い生活行為そのものを指します。人が健康的な生活を送るために、作業療法士はどのようなことを考え、どんな支援をしているのか、作業療法の概要についてご紹介します。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、日本作業療法士協会HP <http://www.jaot.or.jp/>を確認し、作業療法の概要について調べておくこと。 第１２回　作業療法における治療支援と活躍の場 【key words】 作業療法、治療支援、領域 【授業概要】 作業療法の基本的な知識を学んだ上で、具体的な作業療法における治療支援について説明します。また、作業療法の中にも様々な専門性があり、各領域における特徴を説明し、作業療法に関する理解を深めることを目的とします。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、日本作業療法士協会HP <http://www.jaot.or.jp/>を確認し、作業療法の概要について調べておくこと。 第１３回　受診時、保険証はなぜ必要？ 【key words】 保険証、保険診療、被保険者、保険者、保険医療機関、一部負担金 【授業概要】 医療機関受診時、保険証の提示で自己負担分3割で治療が受けられる仕組み（保険診療の仕組み）を学び、医療保障制度について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業時、保険証、医療機関受診時の領収書、明細書がある人は持参して下さい。 第１４回　子どもの虐待はどうして起こるの？ 【key words】 児童虐待　養育　家族 【授業概要】 児童虐待の現状をお話しします。その中で、予防、発見防止、支援について、現在の対応システムに沿って理解していきたいと思います。また、専門職の役割についても考えてみたいと思います。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞やニュースを通じて、児童虐待の実態を把握しておいてください。 第１５回　教師の専門性と指導技術 【key words】 変わる学校、アクティブ・ラーニング、教師に求められる力量 【授業概要】 初め、2020年度からの新しいカリキュラムや教師の仕事等基礎的知識について、具体的事例で話します。次に、その知識を受け、「魅力的な先生」とは、どんな力量を持つ人なのか、グループワーク及び全体発表を行い、共有します。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校や教育に関するニュース・新聞記事に目を通しておく。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者となる。 ・予習復習をしっかりすること。 ・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。 〔受講のルール〕 ・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。 ・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。 ・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	-
オフィスアワー	講義時に指示する。

評価方法	各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%）
教科書	講義内で適時資料配布する。
参考書	講義内で適時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 哲学　　授業コード： 1015

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
鈴木　利定			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「人間とは何か」　我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。
授業の概要	孔子は人間にいかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近は礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きなる者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。
	第２回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
	第３回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
	第４回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。（右伝の三章、右伝の二章）
	第５回	至善に止まるを釈く。本末を釈く。（右伝の三章、右伝の四章）　心を正しくして身を脩めて、家を斉う。（右伝の七章、右伝の八章）
	第６回	家を斉へて国を治むるを釈く。（右伝の十章）　朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。（中庸章句序）
	第７回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。（右章第四章、五章、六章）
	第８回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。（右第七、八、九章）

	第９回　国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子略に示す。（右第十、十一章） 第１０回　孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。（右第十九章） 第１１回　よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。（右第二十章） 第１２回　孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 第１３回　孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 第１４回　老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 第１５回　老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、試験・レポート・出席状況を監み、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者（二回以上の者）は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告（代返等）をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	火曜日 10:30～12:00
評価方法	■筆記試験（□論述 □客観）　■レポート　□口答試験　□実地試験　□その他 評価配分：成績評価は、試験（60%）・レポート（20%）・授業取組み状況（20%）を鑑み、評価を与える。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究－修正版」（明治書院）　　咸有一徳（中央法規）
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学理論と心理的支援（心理学概論）　　授業コード：1052

英文科目名称： Psychological Theory and Psychological Support
(Introduction to Psychology)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース／児童福祉コース／初等教育コース・必修／学校教育コース・選択
担当教員			
安崎　文子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人間行動について，科学としての心理学の視点で，科学的客観的に観察するための基礎知識の習得を目指す。さまざまな領域の心理学を学びながら、人間に対する視野を広げることを目的とする。 【到達目標】 ①心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解できる。 ②人の成長・発達と心理との関係について理解できる。 ③日常生活と心の健康との関係について理解できる。 ④心理的支援の方法と実際について理解できる。
授業の概要	はじめて心理学を専門的に学ぶ講義として，知覚・認知・学習・発達・適応・臨床の分野に分け，心理学の主要領域について，広く概説を行う。また，心理学の基礎的な知識の習得を通じて，社会福祉士・精神保健福祉士・幼小中高特別支援学校教諭・保育士・公認心理師などをはじめとする対人援助職を目指す上で基本となる心理学的な観点からの人間理解・支援の方法について学ぶことを目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	心理学の歴史と心理学の研究法 【key words】 授業についてのガイダンス，心理学の歴史，心理学の種類 【授業概要】 授業開始にあたっての連絡事項を説明する。続いて，科学としての心理学の誕生から現在の心理学までの経緯，心理学の研究法や心理学の種類を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書１～２０ページ・参考書１～９ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の最後に確認テストを行うので，確認テストの内容を覚えること。教科書第２章「外部環境をとらえる」を予め読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間
	第２回	外部環境をとらえる 【key words】 感覚の種類と特徴，視知覚，対比，錯視，プレグナンツの法則，運動の知覚 【授業概要】 外部環境のとらえ方，網膜に写る像とは異なる形で知覚される人間の視知覚について学習し，実際に簡単な知覚の実験も行う。また，アニメーションの原理であるベータ運動とファイ現象についても確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書２１～４７ページ・参考書５２～６２ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 確認テストの内容を覚える。教科書第３章「内部環境の調整」を予め読んでおくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第３回　内部環境の調整ー神経系の仕組み

【key words】
神経伝達物質とホルモン，中枢神経系の仕組み，脳の構造と機能
【授業概要】
感覚器官から入った刺激は中枢神経系に入る。脳の神経回路を用いて推理し判断する。中枢系の構造と機能について学習確認する
【教科書ページ・参考文献】
教科書４８～６６ページ・参考書２０１～２０４ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。教科書第４章「発達とライフサイクル」の中から，エリクソンとハヴィガーストについて予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第４回　発達１

【key words】
発達とライフサイクル，生涯発達について，ハヴィガーストとエリクソンの発達理論
【授業概要】
人間の発達を生涯という観点から捉えたハヴィガーストとエリクソンの発達理論を学習する。現代社会での生涯発達を考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書６９～７８ページ・参考書１１９～１３０ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。教科書第４章「発達とライフサイクル」の中から，情動の発達，ピアジェの認知発達理論について予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第５回　発達２

【key words】
情動の発達，自律と依存，援助行動，認知思考の発達とピアジェの発達理論，恐怖と不信感，現代の発達病理

【授業概要】
人間の発達の中でも，情動・自律と依存・援助行動といった対人関係に関わる発達，心の理論の発達，更にピアジェの認知発達について学習していく。心の理論課題を実際に体験する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書７８～９２ページ・参考書７５～８７ページ，１１９－１３０ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。教科書第５章「学習」について予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第６回　学習，欲求と動機づけ

【key words】
古典的条件づけとオペラント条件づけ，動機づけ，技能の学習における集中と分散
【授業概要】
古典的条件づけとオペラント条件づけの違い，様々な動機づけ，技能学習における集中と分散の効果の違いについて学習を進める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書９３～１０８ページ・参考書３７～５０ページ，６４～６９ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。教科書第６章「認知」について予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第７回　認知と記憶

【key words】
記憶，記銘の方略，情報の検索と忘却，問題解決，記憶障害と認知症
【授業概要】
短期記憶と長期記憶の違い，エラーフリーや記憶のコード化等の記憶方略，情報の検索と忘却，問題の解決について学習を進める。記憶障害について，記憶のコード化の課題作成練習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１０９～１２８ページ・参考書６３～７４ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。教科書第７章「知能」について予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第８回　知能

【key words】
知能と知能テスト，知能検査と知能の表示法，知的障害と発達障害
【授業概要】
知能の定義と様々な知能検査について確認する。また実際に知能検査結果から知能指数を算出する。知的障害と発達障害の違いを確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１２９～１３８ページ・参考書７５～８７ページ，１３１－１４７ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。知能検査のプロフィールを書いてくること。教科書第８章「パーソナリティ」について予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第９回　パーソナリティ

【key words】
パーソナリティとその測定，心理検査の信頼性と妥当性，性格の形成，テストバッテリー

【授業概要】
パーソナリティとその測定方法である心理検査の違いを確認していく。さまざまなテストを組み合わせるテストバッテリーについて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１３９～１５０ページ・参考書１１～２０ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。教科書第９章「適応の問題」の中から，正常と異常・適応と不適応について予め読んでおくこと。参考書第１０章「適応とストレス」について予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１０回　適応の問題１
【key words】
適応とストレス，正常と異常，適応と不適応，ストレスが身体に及ぼす影響
【授業概要】
正常と異常の違い，適応と不適応の違いを確認する。ストレスが身体に与える影響について，心理学的理論と個体差などについて取り上げ学習を進める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１５１～１５９ページ・参考書１４９～１７１ページ，
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。教科書第９章「適応の問題」の中から，乳幼児期・児童期の適応困難，思春期・青年期の不適応，青年期・成人の適応困難について予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１１回　適応の問題２
【key words】
乳幼児期・児童期の適応困難，思春期・青年期の不適応，青年期・成人の適応困難
【授業概要】
乳幼児期・児童期からの適応困難として，学習障害・注意欠陥／多動性障害・自閉症スペクトラム障害について学習を進める。思春期・青年期の不適応として，摂食障害・家庭内暴力・不登校などを取り上げる。青年期・成人の適応困難として，神経症と心身症，及び精神病，特に双極性障害（躁うつ病）と統合失調症についてその違いと対応について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１５９～１６２ページ・参考書２９～３５ページ，１３１－１４３ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。参考書第１２章「脳と心」を予め読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１２回　高次脳機能障害
【key words】
注意障害，記憶障害，遂行機能障害，失認失行，病識，
【授業概要】
頭部外傷や脳血管症などによる高次脳機能障害の主なものについて，その機序を説明し，その対応についても取り上げる。
【教科書ページ・参考文献】
参考書２０１～２１１ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。教科書第９章「適応の問題」の中から，心理臨床とカウンセリングについて予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１３回　心理臨床とカウンセリング
【key words】
アセスメントの諸技法，面接法，心理療法
【授業概要】
心理臨床にとって必要なアセスメントの諸技法，面接法・観察法・検査法を確認する。更に面接法での基本的スキルを概説する。様々な心理療法についても概説していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１６７～１７０ページ・参考書１７３～２００ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。教科書第１０章「対人関係」の中から，非言語的コミュニケーション・対人効果の決定因・非言語的コミュニケーション・対人距離の意味について予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１４回　対人関係１
【key words】
非言語的コミュニケーション，好意の獲得，対人距離
【授業概要】
対人関係における非言語的コミュニケーションの役割，対人効果の決定因，パーソナルスペース等，対人関係の取り方，その意味について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１７１～１９１ページ・参考書８９～１０３ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストの内容を覚える。教科書第１０章「対人関係」の中から，親和欲求コミュニケーションスキルの高め方，第１１章「社会と文化」について予め読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１５回　対人関係２，社会と文化，対人交流とコミュニケーション
【key words】
対人関係における親和欲求，コミュニケーションスキル，社会と文化におけるグローバルコミュ

	ニケーション 【授業概要】 対人関係における親和欲求，効果的なコミュニケーションスキル，社会と文化におけるグローバルコミュニケーション，文化，ジェンダーの問題を取り上げ，学習を進めていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書１９１～２０９ページ・参考書１０６～１１７ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 確認テストの内容を覚える。授業全体を再確認し，定期テストに備えること。 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ 授業の最後に，受講態度を確認する為に，受講していれば必ずわかる必須問題について，毎回確認テストを行う。 ［受講のルール］ ・教科書を毎回持参すること。 ・欠席した場合，資料の再配布は行わないので，欠席の届け出をしておくこと。 ・スマートフォンや携帯電話、タブレット端末などはマナーモードにし，鞄の中にしまっておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式，コメントカードに記載した内容について次回の授業にて対応する。
授業外時間にかかわる情報	授業中に，必要な文献を適宜紹介するので，文献探索・ダウンロードしておくこと。 また，授業内でも検査や文献を渡すので，資料用のファイルを用意すること。
オフィスアワー	授業の前後20分は対応可能
評価方法	定期試験：50%，受講態度30％，確認テスト20%にて総合的に評価する
教科書	塩見邦男（編），『対話で学ぶ心理学』，ナカニシヤ出版，2007年
参考書	社会福祉士養成講座編集委員会(編)，『新・社会福祉士養成講座２　心理学理論と心理的支援』　第３版　中央法規出版　2015年 ・アメリカ精神医学会(編)　日本精神医学会(日本語版監訳) DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 医学書院 2014年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床発達心理士・公認心理師として，教育委員会の心理判定の他，病院や頭部外傷のリハビリテーションセンターなどで，認知リハビリテーションを行ってきた。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会理論と社会システム　　授業コード：1074

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース／学校教育コース／児童福祉コース／初等教育コース・選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人口構造の変化、経済の低成長、グローバル化、技術進歩などによって生じている現在の大きな社会変動や社会問題について、マクロ、ミクロ、メゾレベルから整理することにより、社会学のエッセンスを解説することを目的とする。 【到達目標】 「社会を見る眼」を養い、社会問題の改善のための処方箋を模索する力を身につけることを到達目標とする。
授業の概要	個別的な問題領域について、統計資料や研究事例を紹介するとともに、社会学の理論的・抽象的な概念について整理する。授業では小テストを適宜実施して、学生の理解の確認も行っていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション 【key words】 【key words】 社会学 【授業概要】 講義で扱う内容について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～237頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4 4時間
	第２回	貧困問題 【key words】 貧困線、相対的貧困 【授業概要】 貧困の種類、健康格差について、統計数値を用いて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 51頁～56頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 貧困率の統計について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】

		4時間
	第３回	アメリカの社会問題 【key words】 アメリカ、健康格差 【授業概要】 アメリカの健康格差の実態について、具体例に基づき学習する。 【教科書ページ・参考文献】 312頁～315頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第４回	アメリカの社会保障費用 【key words】 アメリカ、医療保険 【授業概要】 アメリカの医療保険の実態について、具体例に基づき学習する。 【教科書ページ・参考文献】 312頁～315頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第５回	福祉国家 【key words】 イギリス、アンデルセン 【授業概要】 イギリスの福祉の歴史とアンデルセンの福祉国家レジーム論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 85頁～87頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 諸外国の社会保障制度について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第６回	虐待 【key words】 児童・障害者・高齢者虐待、DV 【授業概要】 虐待の種類と対応を中心に学習する。 【教科書ページ・参考文献】 220頁～223頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第７回	人口からみた社会変動 【key words】 合計特殊出生率、人口オーナス 【授業概要】 人口に関係する指標について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 72頁～85頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人口統計について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第８回	社会集団と組織 【key words】 官僚、集団の類型 【授業概要】 集団の諸類型について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 164頁～175頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第９回	生活の質 【key words】 幸福感 【授業概要】 幸福感の決定要因について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 99頁～104頁

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 幸福感の統計について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１０回　社会問題と福祉 【key words】 社会問題、福祉 【授業概要】 社会問題と福祉の関係について、実例に基づいて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 224頁～225頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１１回　社会的ジレンマ 【key words】 囚人のジレンマ、社会的ジレンマ 【授業概要】 囚人のジレンマ、社会的ジレンマの具体例、社会的ジレンマ解消の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 176頁～186頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１２回　児童虐待 【key words】 児童虐待 【授業概要】 現場での児童虐待の対応について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 220頁～223頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１３回　ジェンダー 【key words】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数 【授業概要】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の解釈の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 110頁、158頁、235頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の統計を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１４回　家族 【key words】 マードック、ウォーナー、オグバーン、パーソンズ 【授業概要】 家族の機能、制度としての家族について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 105頁～119頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１５回　日本社会と社会問題 【key words】 マルクス、オグバーン、ウェーバー、マートン 【授業概要】 日本の社会問題と社会学における思想とのかかわりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 211頁～225頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわ	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。

る情報	
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験（80%）と授業中の課題（20%）によって評価
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会「社会理論と社会システム」（中央法規出版株式会社）
参考書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 道徳教育　　授業コード： 1091

英文科目名称： moral education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の習得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を厚生・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力に育成に当たります。 【到達目標】 ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。 ・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。
授業の概要	・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。 ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。 ・道徳や倫理に限らず、考察の根本は先ず「知る」ことです。そして「知る」ための手段が読書です。課題図書や読書に関する発表やレポートを課します。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとしずく（事象の論説・事実把握・論述すること） 【key words】 受講の際の注意事項　はちどり　自分にできること 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明します。ハチドリのひとしずくをを読み、どのように感じたか書いてもらい、発表をしてもらいます。何人かに発表をしてもらった後に傾向を分析し、人間の道徳的判断の基準について解説していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します 【課題・予習・復習・授業準備指示】 初回は特にないが、遅刻をしないこと。 【予習復習に必要な想定時間】 初回はなし。
	第２回	咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅰ 【key words】 咸有一徳　仁　習慣 【授業概要】

		これから２週にわたり、「若きみなさんへ」を読んでいきます。この訓話はテキスト『咸有一徳』及び本学教育方針のエッセンスです。この訓話が理解できれば本学の精神のおおよそは理解できたと言っても過言ではないでしょう。この回では「咸有一徳」の意味と「躾と習慣」についてともに考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１３～Ｐ２６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておくこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第３回	咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅱ 【key words】 古典　論語　仁　建学の精神 【授業概要】 訓話「若きみなさんへ」の後半です。教養を身に付ける方法はいくつもあるでしょう。しかしその中でも読書、なかんずく古典を読むことは、オーソドックスな身に付け方ではないでしょうか。この回では、本学の建学精神とも関わる、中国の古典『論語』を例に教養について考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ２６～Ｐ３７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第４回	「仁」とは何か　「真心」とは何か 【key words】 仁　真心　惻隠の心　四端 【授業概要】 「仁」の意味を一言で述べるのは実に難しいことです。それは『論語』の中で孔子が仁の意味を定義せず、場面場面で違うことを述べているからです。しかし、それでも最大多数的に述べることは可能です。この回では論語に現れた「仁」を分析し、どのような意味が付与されているのか、そして私たちに「仁」は何を要求しているのか。「真心」という言葉とともに考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３９～Ｐ５６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。くこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第５回	「至誠」とは何か 【key words】 至誠　尽くす　儒教　儒学 【授業概要】 「至誠」とは「真心」の漢語的表現です。至誠なればこそ人を動かすことが可能なのです。中国古典によれば、人間も本来は善≒至誠なのですが、そのようになれないのは何故なのでしょうか。「至誠」という言葉をキーワードに中国古典の中から考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ５７～Ｐ７０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第６回	家庭生活の基本マナー　福祉界が望むマナー（儒学における関係古典文献より考察） 【key words】 家族　あいさつ　服装　ホウレンソウ 【授業概要】 社会は人と人との関係で成り立っています。お互いが快適に生活するための礼儀作法、それがマナーです。マナー違反は罪ではないですが悪にはなります。それは他人をして不愉快にするからです。お互いが快適に生活するためにどのようなマナーを身に付けなくてはならないのか。この回では家庭と多くの学生が就職するであろう福祉界を例に考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ７１～Ｐ８６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第７回	ボランティアにおける品位あるマナー　学校生活における品位あるマナー（中国古典、先達の言葉から考察） 【key words】 ボランティア　礼儀　あいさつ　学校生活　服装　環境美化活動 【授業概要】 私たちはボランティア先で、学ばせてもらう立場の者です。したがって、ボランティア先で失礼な言動や礼儀に欠けた行為をすることは断じて許されません。快く受け入れてもらい、お互いが気持ちよく作業するためのマナーをここでは学びます。また、学校生活におけるマナーについて考えて生きます。「親しき仲にも礼儀あり」ということわざが示すように、友人同士でもマナーは必要です。また先生に対する「礼」というのも重要です。友人や先生にどのように接するべきなのか考えてみましょう。

【教科書ページ・参考文献】
『咸有一徳』P87～P102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
敬語の使い方を高校までに使用した便覧等を用いて復習しておくこと。講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。
【予習復習に必要な想定時間】
２０分

第８回　咸有一徳の振り返り　芥川龍之介「桃太郎」を利用した道徳教育
【key words】
咸有一徳、儒学　仁
【授業概要】
前回までの学んだ内容を復習します。本学では建学の精神とのかかわりから、儒学を教科書『咸有一徳』を通じて学んでいます。教科書に出て来た「仁」を代表とするテクニカルターム（術語）を他者に説明できるようにしてください。次回以降、小中高における道徳について講義していきます。どのように道徳の授業準備をしていくべきなのか、芥川龍之介「桃太郎」を例に講義していきます。
【教科書ページ・参考文献】
最初～Ｐ１０２　芥川龍之介「桃太郎」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今まで扱った部分を読んでおくこと。青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）に収録されている芥川龍之介「桃太郎」を講義前までに必ず読み、紙にダウンロードしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第９回　小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」－各年代における位置づけ－、明治以降の教育界における道徳教育の変遷
【key words】
修身　道徳　学習指導要領
【授業概要】
この回より５週にわたり、学習指導要領に記されている「道徳」について考察していきます。戦後教育において「道徳」がどのように位置づけされてきたのか。また近代以降の日本の公教育の変遷について概説しますを考察していきます。
【教科書ページ・参考文献】
プリントを配布します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
『学制百年史』（文部科学省のホームページに全文が掲載されています）から日本における公教育変遷の概略を理解しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１０回　小学校・中学校における道徳課題について
【key words】
小学校学習指導要領　中学校学習指導要領　特別の教科　道徳
【授業概要】
小学校では平成３０年度から、中学校では平成３１年度から道徳教育の教科化が始まりました。小学･中学生にはどのような道徳的課題があるのでしょうか。また教師としてどのように日常生活で生徒に接するべきなのか考えてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領の中から関連部分を抜き出したプリントを配布します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
その日のうちに、講義で触れた学習指導要領の部分を再度読み直し、意味を定着させてください。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１１回　道徳課題に基づき指導案を作成してみる
【key words】
指導案作成　足袋の季節
【授業概要】
次回以降の模擬授業に備え指導案を作成してもらいます。指導案・模擬授業で使用する題材は、中学校「道徳」の教科書に必ず収録されている「足袋の季節」です。どのようにして生徒み多面的な発想をもたらし、また道徳心を育むか。グループに分かれ指導案を作成し、次週以降の模擬授業に備えてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「足袋の季節」はプリントを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
『学習指導要領』の授業を進める際の注意点をよく読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１２回　模擬授業
【key words】
指導案　模擬授業　足袋の季節
【授業概要】
各班が作成した指導案に基づき「足袋の季節」の模擬授業をしてもらいます。模擬授業を見ている側にも、問題点の指摘や、参考になった点を発表してもらいます。発表･見学ともに積極的に参加して意見を出してもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
前回配布済みの「足袋の季節」を持参してください。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班で計画を立て練習をして、当日の発表に臨んでください。また発表の終えた班は訂正の上、次週提出をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１３回　続模擬授業、総括（総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます）

	【key words】 指導案　模擬授業　足袋の季節 【授業概要】 前回に続き発表してもらいます。発表済みの班はこの日に訂正を加えた指導案を提出してもらいます。（この日、発表の版は次週に提出）指導案を作成したままでなく、見直し・訂正を加えた上で各班に提出してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 前回配布済みの「足袋の季節」を持参してください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各班で計画を立て練習をして、当日の発表に臨んでください。また発表の終えた班は訂正の上、次週提出をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第１４回　夏目漱石『坊っちゃん』から、教師のありかたを考える 【key words】 夏目漱石　坊っちゃん　教師のあり方 【授業概要】 教師を題材とした文学作品で有名なものに夏目漱石の『坊っちゃん』が挙げられます。この作品は漱石自身の松山中学での教師生活が下敷きにあります。主人公の坊ちゃんが教師としてなぜ成功しなかったのか。クラス運営等を含め、作品の中から教師のあり方を探っていきます。 【教科書ページ・参考文献】 夏目漱石『坊ちゃん』（新潮文庫・岩波文庫等） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 『坊っちゃん』を授業が始まる前までに必ず読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間～４時間 第１５回　時事問題の考察・発表・解説（人としてのあり方・生き方を考える） 【key words】 時事問題 【授業概要】 最近の入社試験における時事問題は、答えのない時事問題を出す企業が増加しているようです。情報化社会において知りたい情報は直ぐに手に入りますが、手に入れた情報をどう分析し活用するかは、その人の思考力にかかっています。答えが一つでない問いに対し、どのように答えるか。時事問題について考察し提出してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 各自が一週間前後の新聞記事から、気になった話題を選んできてください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 気になった新聞記事について、相手にどのようにわかりやすく発表するか。家で400字から600字でまとめてきてください。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間～２時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。注意をしてもやめない時は退室を命ずる。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に１人１分で発表をしてもらいます。 ・道徳に関する問題について、毎回受講生に議論と意見を表明してもらいます。道徳は他人の問題でなく、自分の問題です。また学生諸君に課題を出しますので積極的・能動的に取り組むこと。 ・シラバスは講義の進行状況によって変わることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。 ・社会は人間相互の道徳心で成立していることを、新聞・ニュース等を契機として自分の頭で考えること。 ・１年生のうちに文庫本・親書100冊以上を読みこなすという気合を持つこと。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　課題１５％　発表１５％
教科書	鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第３版、中央法規、2020年5月
参考書	『岩波哲学・思想事典』岩波書店、1998年3月『中国文化史大事典』大修館書店、2013年5月『中学校学習指導要領（平成29年告示）』『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科 道徳編』『小学校学習指導要領（平成29年告示）』『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説　特別の教科 道徳編』夏目漱石『坊っちゃん』（新潮文庫、岩波文庫等）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

	情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 健康論　　授業コード： 1111

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、自らの健康観に基づく取り組みを、地域社会の健康施策と連携し、健康生活を実現することを図る。特に、日常生活の心身のを通じて、健康を増進し疾病を予防する「一次予防」に焦点をあて、日常生活に取り入れられるよう、さまざまな工夫と方法を習得する。 【到達目標】 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めることができる。 ②日常的に栄養･休養･運動を積極的に取り入れ、健康生活の向上を図ることができる。 ③生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることができる。
授業の概要	健康の意義、疾病やその対処法、心の健康とその保持、社会と健康の関わり、健康の自己管理、体力つくりの方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　健康を考える（意識、意義、人間の幸福） 【key words】 WHOの健康の定義 【授業概要】 シラバスの説明、「健康」を考えるをテーマに、健康の社会的マネジメント（健康を社会問題として考える、健康マネジメント施策の歴史と展開、ヘルスプロモーション）を学び、健康を考えることの大切さを習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　p 1-7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ヘルスマネジメント」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	ヘルスマネジメント論（我が国の動向、健康の個人的マネジメント） 【key words】 健康政策　健康管理 【授業概要】 わが国の動向（健康づくり政策、健康増進政策と個人の身体運動との関わり）、健康の個人的マネジメント（運動不足を生む現代的背景、健康と運動、“運動不足病”の始まり、分銅不足がもたらすもの、健康をつくるということ）を学び、健康管理の大切さを習得する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 8-p22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「生活習慣」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　疾病予防論（生活習慣病）

【key words】
疾病　生活習慣

【授業概要】
生活習慣病（がん、循環器疾患、高血圧、心血管疾患、脳血管疾患、糖尿病、高脂血症、生活習慣病を予防するライフスタイル：運動、栄養、喫煙、飲酒、休養、・睡眠など）について学び、、日常生活で予測される疾病を取り上げ、その対処方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：　「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 23-p34
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「感染症」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　疾病予防論（感染症）

【key words】
疾病　感染症

【授業概要】
感染症（近年の感染症の動向と感染症の発症要因、主な感染症とその対策、かぜ、とインフルエンザ、結核、ＨＩＶ，ＡＩＤＳ、感染経路、話題になった感染症）、について学び、日常生活で予測される疾病を取り上げ、その対処方法について習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 35-p43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「メンタルヘルス」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　メンタルヘルス論（精神の正常と異常、心身相関、精神障がいの分類）

【key words】
精神衛生　健康管理

【授業概要】
精神の正常と異常（健康と病気、正常と異常、事例性）、心身相関（心身相関の問題、脳と精神現象、精神心理学、ニューロンと精神伝達物質）、精神障害の分類（伝統分類、操作的分類）について学び、心の健康とその保持を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 44-p52
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「青年期の心性と身体」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　メンタルヘルス論（青年期の身体と心性、青年期に多い精神障がいとその治療）

【key words】
精神衛生　健康管理

【授業概要】
青年期の身体と心性（青年期の身体変化、青年期の心性）、青年期に多い精神障害とその治療（青年期の主な精神障害、疾病分類以外の視点からの状態像分類）、精神の健康増進と予防（キャンパス内、大学保健管理センター）について学び、心の健康とその保持について習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 53-p70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「体力」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　体力論（体力、体力診断、青少年の体力、青少年の体力、加齢と体力）

【key words】
体力

【授業概要】
体力となにか（体力の概念、体力の分類、体力と健康とのかかわり）、体力診断（意義、歴史、

新体力テストの概要）、青少年の体力（発育・発達と体力、体力の性差、体力の年次変化、運動習慣と体力）、加齢と体力（加齢の影響、加齢と体力の個人差、暦年齢と体力年齢）を学び、体力の把握とその増進方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 71-p96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「運動のプログラム」など経験したことをまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　運動プログラム論（身体運動プログラムの考え方、運動の実際）
【key words】
運動プログラム

【授業概要】
運動プログラムの考え方（意義、効果的な運動、プロセス、運動プログラムの自由度、運動の自覚的効果）、運動処方の実際（心肺機能を高める運動、筋力と筋持久力を高める運動）、運動処方の現実と課題を学び、具体的な体力増進のための方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 97-p114
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「スポーツと健康」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　スポーツと健康論（スポーツと寿命、スポーツとスキル、運動スキルの学習）
【key words】
運動　スキル

【授業概要】
スポーツと健康をテーマに、スポーツと寿命（アスリートの寿命、運動と寿命）、スポーツとスキル（アスリートのスキル、スキルの個人差）、運動スキルの学習（運動スキルの学習と転移、ゴールデンエイジとシナプスの可塑性、運動システムとミラーシステム）を学び、個々の健康つくりにスポーツの大切さと応用方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 115-p132
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「運動文化」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　運動文化論（身体運動と文化、運動･スポーツの文化と思想、現代のスポーツ･身体運動）
【key words】
運動　文化

【授業概要】
身体運動と文化（身体運動に対する視線、今日の健康ブームと身体観）、運動・スポーツの文化と思想（古代ギリシャ・ローマ時代の身体運動文化、中世・近世の身体文化、西洋の身体運動文化、日本における身体運動文化、中東の身体運動文化）、現代のスポーツ・身体運動（文化としてのスポーツ・身体運動、レジャーとしてのスポーツ）について学び、運動の持つ文化性に着目し運動の意味を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー p 133～143
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「生涯スポーツ」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　生涯スポーツ論（スポーツ行政と地域スポーツ）
【key words】
スポーツ基本法　総合型スポーツクラブ

【授業概要】
生涯スポーツと健康生活の推進について、スポーツ基本法の生涯スポーツ振興施策で、種目の多様性、多世代、指導者、会員が集う拠点施設、自主的運営を掲げ、地域に根ざした自主的運営型・複合型スポーツクラブとして「総合型地域スポーツクラブ」を推進していることを学び、これからの健康つくりに地域住民が主体的に運営する生涯スポーツクラブの推進が重要であることを習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：（資料）スポーツ基本法　総合型地域スポーツクラブ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「職と健康」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　食の健康論（食生活の推移、各栄養素の役割、ＰＦＣバランスと健康、スポーツと運動）
【key words】
食　食育　健康　スポーツ

【授業概要】
日本人の食生活推移（食生活の変遷、食品群別摂取量の年次推移、エネルギー産生栄養素の年次推移、食料自給率、和食文化）、各栄養素の役割、食に関する日本の政策（食事摂取基準、食生

	活指針、食事バランスガイド、日本人の長寿を支える「健康な食事」のあり方）、ＰＦＣバランスと健康（日本型食生活、ＰＦＣバランスと減量効果、糖質制限と健康）、スポーツと栄養（栄養摂取とリカバリー、運動パフォーマンスと栄養摂取）を学び、食生活のスポーツとの関連を習得する 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ーｐ149～169 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「職と健康」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　健康つくりと運動（ラジオ体操・みんなの体操の基礎理論と実践） 【key words】 身体運動　リズム　健康 【授業概要】 ラジオ体操皆の体操の基礎理論と実践を通じて、身体運動の正しい動きの仕組み、運動の組み合わせと実施方法、運動中の留意点等を学び、ラジオ体操・皆の体操の理解と指導方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）参考文献:　ラジオ体操教則本　日本郵政公社　日本ラジオ体操連盟 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ラジオ体操」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　健康つくりと運動（ラジオ体操・みんなの体操の応用理論と実践） 【key words】 身体運動　リズム　健康 【授業概要】 ラジオ体操・みんな体操の応用理論と実践を通じて、身体運動の正しい動きの仕組み、運動の組み合わせと実施方法、運動中の留意点等を学び、ラジオ体操・みんなの体操の理解と指導方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）参考文献:　ラジオ体操教則本　日本郵政公社　日本ラジオ体操連盟 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ラジオ体操、みんなの体操」についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 健康　運動　栄養　休養 【授業概要】 現代の健康つくりに係わる様々な問題を取り上げ、現在あるいは未来に向かって生きていくためにどのように考えていけばよいのか質疑応答をおこなう。個々の健康つくりについて自己評価をおこなう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　ｐ176-p183 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身の健康つくりについてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	コメントカードを使用
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	新聞、ニュースなどで最新の健康情報に関することはメモをしておくなど、特に意識するよう習慣づけること。
授業外時間にかかわる情報	講義の初日に周知する　　他の時間の希望時は随時相談。
オフィスアワー	筆記試験（70%）　日常の健康管理や授業への取り組みなどの平常点（30%）　総合評価で60%以上
評価方法	電気通信大学健康・スポーツ科学部会編：　大学生のための「健康」論　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー：　道和書院：　2018
教科書	健康・体力つくり財団：「健康日本21」　2010
参考書	笹川スポーツ財団：「スポーツ白書」2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立学校教員（保健体育）21年管理職6年、群馬県教育委員会指導部体育課指導主事（学校体育、生涯スポーツ指導）4年、群馬県スポーツ振興事業団健康スポーツ課指導主事（県内市町村の健康スポーツ普及指導）群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐（県内市町村の健康スポーツ指導）2年、群馬県知事部局（障害福祉・社会福祉・保健福祉）、群馬県社会福祉事業団、群馬県立ふれあいスポーツプラザ次長・指導課長5年（高齢者・障がい者の健康・スポーツ指導に当たる）

	群馬県教育委員会教育長表彰（保健体育）群馬県障がい者スポーツ指導者協議会会長（現在） アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　スポーツ及びレクリエーション実技　　授業コード：1121　1122

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「授業の目的」レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、福祉施設、病院、学校教育の現場等で対象者や目的に合わせた支援活動できるようになることを目的とする。 [到達目標] 1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている
授業の概要	レクリエーションの楽しさを知り、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用したレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解 【key words】 レクリエーション 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ指定体育着、体育館シューズを着用し装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P4～8 学習課題の概要を確認しておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｱｲｽﾌﾞﾚｰｷﾝｸﾞとして相応しい材料を検討しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のためのゲーム 【key words】 アイスブレーキング 【授業概要】 集団の雰囲気を和らげ、無理なく、無駄なく、快く活動が進められるようなアイスブレーキング

を実践し、その効果を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P66

【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のためのゲーム対象に合わせたアレンジ方法①
【key words】
アレンジ
【授業概要】
対象にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。あわせて「環境の設定」についてその用法を学ぶ。様々な「アレンジ」手法を知るとともに、基本となる「段階的なアレンジ法」を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材・アクティビティの中から段階的なアレンジ法を活用したアレンジに取り組んでみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　レクリエーション支援の方法　自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法　段階的に成功体験をしやすくするアレンジの基本と応用
【key words】
アレンジの方法

【授業概要】
アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アレンジ方法を用いて中高年向けの健康体操などをアレンジしてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための歌
【key words】
アイスブレイク　集団ゲーム　　歌
【授業概要】
室内でできるレクリエーションゲーム実践する。歌を歌いながら体を動かす支援の方法及び２重課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
対象者にとって快適な遊びの提供とは何かを考えておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動　新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)
【key words】
アイスブレイク　集団ゲーム
【授業概要】
新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム　遊びができることを確認する。子どもから高齢者まで楽しめるアクティビティについて知る。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分にはどんなレクリエーションが提供できるか考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第８回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】

		レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第９回	レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　(企画案の評価及び好評) 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 アレンジ　キンボール 【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 アレンジ　キンボール 【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第１３回	レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第１４回	レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　(企画案の評価及び好評) 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】

		レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	前期の振り返り　まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期レポート指示を確認し振り返りを行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１６回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための歌 【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献 【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する 【教科書ページ・参考文献】 参考書P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１７回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための歌 【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献 【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する 【教科書ページ・参考文献】 参考書P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１８回	レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　①あたたかくもてなすという意識と配慮 【key words】 ホスピタリティ、コミュニケーションワーク 【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常の生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１９回	レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　②対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術 【key words】 ラポート　ジョイニング　トラッキング　アコモデーション　マイム 【授業概要】 対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P62 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。ラポートの成立している状態等について意識してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２０回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 ユニバーサルホッケー 【授業概要】 ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
ユニバーサルホッケー
【授業概要】
ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
対象者が快適に楽しめる工夫について検討しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第２３回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第２４回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　（企画案の評価及び好評）
【key words】

レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　レクリエーション支援の方法　良好な集団作りの方法・アイスブレーキング　集団がまとまる仕組みを活かすプログラム　アイスブレーキングモデル
【key words】
よりより生の実現
【授業概要】
レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P70　参考書P274
【課題・予習・復習・授業準備指示】
CASE STUDY の事例を確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　レクリエーション支援の方法　自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法　対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技法の活用方法（CSSプロセス）
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス

【授業概要】
支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選

		択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P78　参考書　P278～P287 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２７回	レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第２８回	レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
	第２９回	レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３０回	1年間の振り返り　まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。 ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。	
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード	
授業外時間にかかわる情報	・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ　インターネット等で収集するよう心がけること。 ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。	
オフィスアワー	月曜日　5時限　（変更時は掲示する）	
評価方法	評価の基準：到達目標の達成度を評価する。 評価の方法：筆記試験50%　ﾚﾎﾟｰﾄ等提出物(活動企画書)20%　実技30%　として総合的に評価する。	

教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト　【レクリエーション支援の基礎】　～楽しさ･心地よさを活かす理論と技術～ (財)日本レクリエーション協会編
参考書	必要に応じて紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 地域においてスポーツ活動指導の経験あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 情報処理演習　　授業コード：1131　1132　1134

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
藤本　壱			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする 【到達目標】 ①パソコンの基本的な操作を理解する ②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる ④Microsoft PowerPointでプレゼンテーションができる
授業の概要	授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使ってレポートなどの各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	(概論)オリエンテーション、パソコンの基本操作 【key words】 キーボード、マウス、タッチタイピング 【授業概要】 ・講義のオリエンテーション ・キーボードの使い方、タッチタイピング ・マウスの使い方 ・キーボード練習サイト(イータイピング)の利用 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーボード入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	(Word)基本的な文章の入力 【key words】 日本語入力、ファイル 【授業概要】 ・日本語の入力と変換(漢字変換、カタカナ変換、記号入力等) ・作成したファイルの保存 ・ファイルを開く 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本語入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	(概論)ホームページの利用と情報セキュリティ 【key words】

ホームページ、検索、ダウンロード、ブックマーク、セキュリティ
【授業概要】
・ホームページの見方
・Googleを利用したホームページの検索
・ファイルのダウンロードと保存
・よく見るホームページのブックマーク
・インターネットのセキュリティ(ウィルス対策、各種詐欺対策等)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ホームページの検索やファイルのダウンロードを練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　(Word)各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
【key words】
ページレイアウト、文字書式、段落書式
【授業概要】
・ページレイアウトの設定（用紙サイズ、余白、用紙方向、縦書き／横書き）
・文字書式の設定（太字、斜体、下線、フォント、色）
・段落書式の設定（揃え、行間、インデント）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
文書に書式を付ける練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　(Excel)Excelの基本操作
【key words】
セル、行、列、オートフィル
【授業概要】
・基本的なデータの入力(データの型、オートフィル等)
・行、列の操作(行／列の挿入、削除等)
・データのコピーと貼りつけ
・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートにデータを入力する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　(PowerPoint)プレゼンテーション作成の基本
【key words】
プレゼンテーション、スライド、レイアウト、インデント、アウトライン
【授業概要】
・スライドの作成と編集（コピー、移動、削除等）
・レイアウトの変更
・インデントとアウトライン
・ファイルの操作(ファイルの保存、ファイルを開く)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
文章だけのプレゼンテーションを作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　(Word/PowerPoint共通)表を含む文書の作成
【key words】
表、行、列、セル
【授業概要】
・表の作成とデータ入力
・表の操作（行／列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作）
・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
WordやPowerPointで表を作る練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　(Word/Excel/PowerPoint共通)図形や写真を含む文書の作成
【key words】
図形、写真、ワードアート、スマートアート
【授業概要】
・図形の挿入と書式設定
・図や写真の挿入
・図等のレイアウト
・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入
・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図形や写真を含む文書を作る練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

	第９回	(Word)複数ページ文書の作成 【key words】 改ページ、表紙、ヘッダー、フッター、スタイル、目次 【授業概要】 ・改ページの挿入 ・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用 ・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定 ・目次の作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 複数ページの文書をスムーズに作れるように練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	(Excel)グラフの作成 【key words】 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ 【授業概要】 ・棒グラフの作成 ・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど）と書式設定 ・折線、円グラフの作成 ・複合グラフの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グラフの作成を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	(Excel)基本的な計算 【key words】 数式、オートSUM、関数 【授業概要】 ・数式の基本(数式の入力、計算の順序、数式のコピーと貼り付け) ・オートSUM機能による簡単な計算(合計、平均など) ・よく使う関数（COUNT,ROUND,IF　など） 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 数式や関数を使った計算を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	(PowerPoint)画面切り替えとアニメーション 【key words】 画面切り替え、アニメーション 【授業概要】 ・画面切り替えの設定 ・アニメーションの設定 ・動画と音声の利用 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 動きのあるプレゼンテーションを作れるように練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	(PowerPoint)プレゼンテーションに関する機能 【key words】 ノート、スライドショー、リハーサル、配布 【授業概要】 ・ノートの作成 ・スライドショーの実行 ・リハーサル機能 ・資料の配布 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際のプレゼンテーションを行えるように練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	(Word/Excel/PowerPoint共通)アプリケーションにまたがる操作とファイル操作 【key words】 コピー、貼り付け、ドライブ、フォルダ、ファイル 【授業概要】 ・アプリケーション間のコピーと貼り付け ・ドライブ／フォルダ／ファイルの概念 ・フォルダ／ファイルの操作（コピー、移動、削除など） 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アプリケーション間のデータのやり取りを練習する ファイル操作に慣れる 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第１５回	情報モラルと課題説明・作成 【key words】 情報モラル、課題 【授業概要】 ・情報モラルについて ・課題内容の説明 ・課題作成実習 ・課題を作成して期限までに提出 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 情報モラルを守り、他の人に迷惑をかけないようにする 課題を作成して期限までに提出する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１６回	[Word]長文関連の機能 (1) 【key words】 脚注、図表番号、テンプレート 【授業概要】 ・脚注の設定(ページ末尾の脚注、文末脚注) ・図表番号の設定(図表番号の入力、図表番号の参照) ・テンプレートの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポートを作る際に目次や脚注等の機能を利用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１７回	[Word]長文関連の機能 (2) 【key words】 セクション、ブックマーク、相互参照、引用文献 【授業概要】 ・段組みの設定(2段組み等) ・セクションで文章を複数のブロックに区切る ・ブックマーク(文章内に付ける目印)の挿入 ・相互参照(ブックマークの位置のページ番号等の情報を挿入する) ・引用文献の挿入 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 長文作成の際にブックマークや相互参照を活用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１８回	[Word]差し込み印刷関連の機能 【key words】 差し込み印刷 【授業概要】 ・差し込み印刷の基本 ・差し込み印刷ウィザードの使い方 ・はがき宛名印刷ウィザードの使い方 ・封筒やラベルへの差し込み印刷 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 複数の人に同じ文面の文書を送るときなどに差し込み印刷を活用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１９回	[Excel]データの視覚化 【key words】 スパークライン、条件付き書式 【授業概要】 ・スパークラインの作成 ・条件付き書式の設定 ・各種の条件付き書式（データバー、カラーバー、アイコンセット） 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スパークラインや条件付き書式を活用してデータを見やすくする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２０回	[Excel]データベース的な活用 【key words】 データベース、並べ替え、抽出、ピボットテーブル 【授業概要】 ・データベース用のデータ入力 ・データの並べ替え ・データの抽出 ・ピボットテーブルを使った集計 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アンケートなどのデータを整理する際にExcelを活用する

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　[Excel]複雑な計算 (1)

【key words】
相対参照、絶対参照、関数
【授業概要】
・相対参照と絶対参照
・順位(RANK関数)
・複合条件(AND関数／OR関数)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Excelで複雑な計算を行う際にこの回で行ったことを利用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　[Excel]複雑な計算 (2)

【key words】
名前、関数
【授業概要】
・セルに名前を付けて数式で利用する
・セルにふりがなを表示する
・日付に関する関数
・文字列に関する関数
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
名前機能や各種の関数の使い方を理解する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　[Excel]各種の機能の利用

【key words】
ワークシート、インポート、マクロ
【授業概要】
・複数のワークシートを使う
・データのインポート
・マクロの基本
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Excelの各種の機能を理解する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　[ホームページ]ホームページ作成の基本

【key words】
ホームページ、HTML
【授業概要】
・HTMLの考え方
・段落と見出しの作成
・文章に意味を持たせる(強調、引用など)
・他のページにリンクする
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
簡単なホームページを作る練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　[ホームページ]ホームページに表や画像を入れる

【key words】
表、画像
【授業概要】
・ホームページに画像を入れる
・ホームページに表を入れる
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
表や画像を含んだホームページを作る練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　[ホームページ]ホームページの見た目を変える

【key words】
スタイルシート
【授業概要】
・スタイルシートの考え方
・インラインスタイルシートと外部スタイルシート
・基本的な書式設定
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
スタイルシートを使ってホームページの見た目を変える練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　[ホームページ]既存のフレームワークを使う

	【key words】 フレームワーク 【授業概要】 ・フレームワークの概要 ・フレームワークに沿ったHTMLの作成 ・フレームワークのスタイルシートのカスタマイズ 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 フレームワークを使ってホームページを作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２８回　[プログラム]Scratchの基本 【key words】 Scratch 【授業概要】 ・Scratchの概要 ・キャラクタを動かす ・見た目を変える ・音を出す 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Scratchでプログラムを作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２９回　[プログラム]繰り返しと条件判断 【key words】 繰り返し、条件 【授業概要】 ・処理を繰り返す ・条件で処理を変える 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 繰り返しや条件判断を使ったプログラムを作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　[プログラム]イベントに応じた処理を行う 【key words】 イベント 【授業概要】 ・イベントの考え方 ・旗が押されたときに動作させる ・キーが押されたときに動作させる 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 イベントを使ったプログラムを作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報]　配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。 [受講のルール] 積極的に授業に臨むこと。 実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	配布資料を使って復習する
オフィスアワー	授業前後20分
評価方法	・前期 レポート課題による評価 レポートとしてのまとまり(30%)、Wordの各種機能の活用度(50%)、Excelの各種機能の活用度(20%) ・後期 レポート課題による評価 レポートとしてのまとまり(50%)、HTMLやスタイルシートの理解度 (50%)
教科書	PowerPointによるスライド資料(当科目のホームページで配布)
参考書	できるWord&Excel 2019、インプレス、2019年 できるPowerPoint 2019、インプレス、2019年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Office関連雑誌原稿執筆多数 パソコン関連書籍執筆多数 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 内容がやや複雑な一部の箇所について、YouTubeに復習用の動画を用意

講義科目名称：　英語Ⅰ　　授業コード：1151　1152

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(社福Ⅱ)・後期(社福Ⅰ)	1年次	2単位(30)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
五十嵐　久子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	医療の現場において必要な英会話を想定し、基礎的なコミュニケーション能力を養うことを目指します。 個人の技能を高めるために外部英語検定試験にも触れます。留学や外国人と接する仕事に興味のある学生は個人の スキルとして外部試験に挑戦することをお勧めします。
授業の概要	各章はテーマごとにⅠVocabular　StudyⅡListeningActivityⅢReadingActivityⅣWritingActivitがあります。ⅠのVocabularyを押さえてⅡのListeningを最初は教科書を見ないで聞くことだけに専念します。Ⅲ、Ⅳのリーディングとライティングは担当者を決めて発表します。 過去の英検2級の問題を演習します。語彙やidiomに関しては出題される頻度が高いものを覚えます。長文に関してはパラグラフで内容をつかみ、正答を導く練習をします。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 英語検定2級一次試験筆記 1(1)～(20)語彙とidiom2A(21~23) 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	第１章　初診 【key words】 VIRUS vacine Polio vaccine(opv,Ipv) epidemic 体温(摂氏、華氏) 【授業概要】 初診での患者と受付の会話 ポリオという病気の説明と歴史。二通りのワクチン接種について どのようにポリオになり何を引き起こすか。 【教科書ページ・参考文献】 pp7-10 【課題・予習・復習・授業準備指示】 VocabularyStudyとReadingActivity

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　第２章内科での診察
【key words】
処方箋、抗生剤、服用
Amoxicillin
【授業概要】
診察室での患者と医者の会話
実際に使われている英文の処方箋について。
【教科書ページ・参考文献】
pp11-14
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　第3章頭痛
【key words】
偏頭痛
花粉症の3つのタイプと症状、免疫療法

【授業概要】
偏頭痛に襲われた患者と医師の会話
どのような痛みか、継続的かどうか。どのようなときに痛みが和らぐか。
【教科書ページ・参考文献】
pp15-18
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　第４章腹痛
【key words】
動脈、高血圧症
薬の説明(腹痛、下痢)

【授業概要】
生死にかかわる様々な病気を引き起こす動脈硬化について。
処方箋、注意書き
【教科書ページ・参考文献】
pp19-21
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　第５章 不眠症
【key words】
睡眠障害
ストレス
【授業概要】
アメリカの大人の半数がかかっていると言われている不眠症について。ギャロップ世論調査。
【教科書ページ・参考文献】
pp23-26
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　中間考査
【key words】
英語検定2級演習問題
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　第6章Ｘ線検査
【key words】
SARS
WHO
【授業概要】
重症急性呼吸器症候群について
症状
対策
【教科書ページ・参考文献】
pp27-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　第7章　小児科
【key words】
diabates

【授業概要】
子どもの肥満と糖尿病の関係、その対策について。
【教科書ページ・参考文献】
pp31-34
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１０回　第８章　血液検査と尿検査
【key words】
血中コレステロールLDLHDL

【授業概要】
動脈系疾患
食生活と生活の改善
薬の処方と血管形成手術
【教科書ページ・参考文献】
pp39-42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１１回　第９章インフルエンザ
【key words】
flu
アメリカの保険制度

【授業概要】
インフルエンザワクチン接種について

【教科書ページ・参考文献】
pp43-46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１２回　第10章アレルギー
【key words】
Food allergies と Food Intoleranceについて
【授業概要】
食物アレルギーと食物不耐について。またアレルギー反応の対応策について。
【教科書ページ・参考文献】
pp47-50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１３回　第11章手根管症候群①
【key words】

CarpalTunnelSyndromeについて

【授業概要】
CTSとは
どのような人がかかりやすいか
【教科書ページ・参考文献】
pp51-54
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１４回　第12章手根管症候群②
【key words】
CTS
【授業概要】
CTSの対策
スポーツに関連した怪我と病気
【教科書ページ・参考文献】
pp55-58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
VocabularyStudyとReadingActivity
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１５回　第13章診察(更年期障害)
【key words】
更年期とは

	【授業概要】 更年期の症状とは 女性のライフステージの変化に伴う病気、更年期障害について 【教科書ページ・参考文献】 pp59-62 【課題・予習・復習・授業準備指示】 VocabularyStudyとReadingActivity 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	定期考査は中間と期末の2回、実施します。必ず受験すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード・その他
授業外時間にかかわる情報	英語が得意で将来、海外でのボランティアを希望する学生は英語検定試験を受験することを勧めたい
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	定期考査2回の合計
教科書	English for Medicine 金星堂
参考書	英和辞典　英英辞典　英語検定試験問題集
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 英語Ⅱ　　授業コード：1154

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
Zack　Grace			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	The goal of this class is to give future teachers a blueprint for what to teach children who are just beginning their English study. Students will learn a number of skills to incorporate into their future lessons. These skills include but are not limited to: how to design the class to fit the maturity level of children, how to incorporate games to support retention of key vocabulary, how to use humour to maintain student attention and motivation, how to identify various types of students, adjusting teaching style to fit the student and how to handle discipline with small children.
授業の概要	The class will be a combination of practicing teaching simple English lessons for children learning how to play games to reinforce key vocabulary and will include adult conversational English for use in everyday life.

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	Introductions. Talking about what you want to do. 【key words】 Verbs: go, eat, play, drink, watch. I want to go to, eat, play, watch, drink ~~. 【授業概要】 We will practice making simple sentances using games. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.
	第２回	Sentance structure SVO. Talking about what you don’t want to do. 【key words】 I don’t want to eat, drink, play, watch, go to ~~. 【授業概要】 Practice teaching simple sentances in groups of 5-6 students. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.
	第３回	How to teach reading, introdutory phonics. Making questions. 【key words】 Do you want to eat, drink, play, watch, go to ~~? 【授業概要】 Practice making simple conversations. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.

	第４回	Simple past tense. Talking about what you did. 【key words】 What did you eat for breakfast? I ate ~~. I drank ~~. I watched ~~. I played ~~. I went to ~~. 【授業概要】 Use the running game to practice sentances. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.
	第５回	Using adjectives to expand sentances. 【key words】 Cute, delicious, nice, cool, strong, good, bad, etc. 【授業概要】 Talk about what we think about the world. I think cookies are delicious. I think dogs are cute. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.
	第６回	Using prepositions to expand sentances. 【key words】 In, on, at, with, for, etc. 【授業概要】 Let’s play tennis in the gym. Let’s play baseball at school. Let’s watch a movie on Friday. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.
	第７回	Talking about experiences. Making “Have you V O?” questions. 【key words】 eaten, drunk, played, watched, gone, etc. 【授業概要】 Have you eaten pizza at Potate? Have you watched Snow White? 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.
	第８回	Making comparisons. Which do you think is bigger A or B? 【key words】 Bigger, cuter, more delicious, more beautiful, etc. 【授業概要】 Practice games to play in the kindergarden. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.
	第９回	Introductory writing. Resturaunt conversation. 【key words】 I want to order ~~. What does ~~ have in it? Excuse me, we need a spoon, some pepper, etc. 【授業概要】 Teach the students the game “Go Fish”. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.
	第１０回	Discussing responsibities. I have to V O. I have to go to school on Friday, etc. 【key words】 I have to V O. I don’t have to V O. 【授業概要】 Simple conversation including responciblilites. Are you free on Saturday? No, I have to go to work, etc. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.
	第１１回	Identifiying nouns, countable, uncountable, proper nouns. 【key words】 A cookie, some cookies, a fish, some fish, etc. 【授業概要】 Practicing proper use of “a”, “some”, “many”, etc. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten.
	第１２回	Introducing friends and family. 【key words】 This is ~~, He is ~~, She is ~~, His, Her, etc. 【授業概要】

	This is my friend. His name is Kenta. He is very kind. He is a university student, etc. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten. 第１３回　Describing locations with prepositions. 【key words】 In, on, under, by, next to, behind, with, etc. 【授業概要】 The cup is on the table. The Starbucks is across from the Kaldi. My house is in Motoshimana-machi. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Students will prepare to work in the kindergarten. 第１４回　Preparing for the final exam. 【key words】 Review all vocabulary. 【授業概要】 Spend 5-10 minutes reviewing every lesson previously completed. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Preparing answers for final exam. 第１５回　Preparing for the final exam. 【key words】 Review all vocabulary. 【授業概要】 Spend 5-10 minutes reviewing every lesson previously completed. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Preparing answers for final exam.
受講生に関わる情報および受講のルール	Students are expected to respect each other. Speaking during the class lecture and using phones are also prohibited.
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	Because the class will not have homework it is important to pay attention carefully and actively participate in class.
オフィスアワー	By appointment.
評価方法	The class will have one final exam. Additional credit will be earned by participating in the kindergarten class.
教科書	授業内で適宜配布する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 英語Ⅱ　　授業コード：1163　1164

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(社福Ⅰ)・後期(社福Ⅱ)	1年次	2単位(30)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
グジェビック　マレク			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	受講生は初歩的で実際的な英語の知識を次の事柄に関連して習得する。 （1）学生は単語同士がつながった場合の発音、文の中でのアクセント、イントネーションができる。 （2）語彙－学生は人間関係と社会に関する基本的な言葉と語句を使える。 （3）機能的な言語の構造－学生はさまざまな社会生活の場面で相手の人が反応してくれて、意思の疎通がはかれるようになる。 （4）文法－学生は英語の文法の基本的な原則を理解できる。
授業の概要	自己紹介、自分の趣味や興味のあること、学校や仕事の話をする場面、自分の願いや計画を述べたり、能力を表す言い方、前の出来事を表す言い方、提案をしたり、約束をする場面などが扱われる。さまざまな方法でこうした事柄を表す言い方を勉強する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	オリエンテーション　Self-introduction. Meeting People（自己紹介、他の人を紹介すること）
	第２回	Pastimes and Hobbies（他の人について話す、趣味・興味）
	第３回	Would You Like One?（提供すること）
	第４回	I Feel Like Doing It（提案すること、意図・意思を表す）
	第５回	Let’s Do It Together!（招待する、理由を説明すること）
	第６回	Jobs and Occupations（仕事について話す）
	第７回	What Do You Do?（仕事の描写をすること、意見を表現すること）
	第８回	Look! What Is He Doing?（いまのところ起こる活動、時間を数える）
	第９回	What Are You Going to Be?（自分の経験について話す）
	第１０回	Can You Read It?（能力を表す、能力不足を表す）
	第１１回	When a Big One Strikes（可能性を、許可・同意する）

	第１２回　The Last Trip to Tokyo（昔の出来事・経験について話す） 第１３回　A Game of Tennis（どちらが良い？どちらが一番良い？） 第１４回　Touring the States（アメリカ(USA)を旅行する。行ったことがありますか？） 第１５回　General review and test preparation（一般的な復習と試験の準備）
受講生に関わる情報および受講のルール	会話のコースなので、次の点がとても重要。 ●授業に出席すること ●授業の事柄を準備すること ●練習に参加すること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	オリエンテーション時に指示する。
オフィスアワー	月 12:00-13:00 / 水 11:30-12:30
評価方法	1.学んだ語彙と文法に関する定期試験の成績（70%） 2.授業へ積極的に参加しているかという点から総合的に評価する（30%）
教科書	『By Way of Review. A Short Course of English for University Students』グジェビック・マレク著(2019)
参考書	授業時に指示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 英語Ⅰ　　授業コード：1165

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
五十嵐　久子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 2020年から小学校中学年で英語が外国語活動、高学年では教科として始まります。初等英語教育の理論と実践を学びます。 【到達目標】 ①基本的な語彙を増やす ②英語の構造を理解する ③わからない単語を類推する ④単語をわかりやすく言い換える
授業の概要	小学校、中学ではクラスルームイングリッシュを使って授業を進めることが望ましいとされています。挨拶や会話文で授業を進める会話を習得しましょう。リスニングをリピートしながら、耳から英語に慣れましょう。 英語検定の過去の問題を授業で取り上げます。小学校で英語の授業を行う上で、英文法などの基礎的な英語学力が求められます。パラグラフで英文を読み、英語の論理的な思考法にも触れます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第１回	科目オリエンテーション教科書と英語検定2級過去問題 【key words】 一次試験筆記 1 (1)～(20)語彙とidiom 2A(21)～(23)適語補充 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	Lesson1学習指導要領を考える 【key words】 学習指導要領 外国語活動 必修教科 【授業概要】 2020年に小学校中学年で外国語活動、高学年で教科として英語は必修となります。 どのような段階を経て中学へのスムーズな連携がとれるのか、考えてゆきます。 【教科書ページ・参考文献】 pp10-13 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		Let'sReadとExercises 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第３回	Lesson２主要な英語教授法の変遷を概観する 【key words】 さまざまな教授法 S.Krashen第二言語習得に関する5つの仮説 【授業概要】 英語を母語としない生徒が、どのように英語を習得する第一歩を踏めるのか 教授法、指導者の英語力、指導技術について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 pp14-17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Let'sReadとExercises 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第４回	Lesson3小学校英語の指導法 【key words】 英語を英語で教える直説法 【授業概要】 リスニング 英語の指示ですぐに動作で反応させる 歌、チャンツ インタビュー 【教科書ページ・参考文献】 pp18-21 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Let'sReadとExercises 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第５回	Lesson4小学校英語の指導者 【key words】 ALTの活用 【授業概要】 HRT(担任)と異なる文化的背景を持つALTとのコミュニケーションを見せることで生徒は何を学ぶか。 【教科書ページ・参考文献】 pp24-27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Let'sReadとExercises 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第６回	Lesson５リスニングの指導法 【key words】 リズムと強勢 【授業概要】 何を強く発音するか。早いリスニングの中で聞き取れるか。 【教科書ページ・参考文献】 pp28-31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Let'sReadとExercises 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第７回	中間考査と英語検定試験過去問題 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	Lesson6スピーキングの指導法 【key words】 アウトプット プレゼンテーション 【授業概要】 耳から聞いたことをインプットし、それに自分の考えをまとめて加えて外に発信するアウトプッ

トを行います。
日本人は苦手とされています。
【教科書ページ・参考文献】
pp32-35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Let'sReadとExercises
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　Lesson7リーディングの指導法
【key words】
リーディング
ライティング
フォニックス

【授業概要】
中学校への連携として「読み書き」を高学年で指導します。
発音とつづりの結びつきを身に着けます。
【教科書ページ・参考文献】
pp36-39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Let'sReadとExercises
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１０回　Lesson8ライティングの指導法
【key words】
大文字、小文字
活字体

【授業概要】
アルファベットの書写
固有名詞
自分の名前、身近なもの
【教科書ページ・参考文献】
pp40-43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Let'sReadとExercises
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１１回　Lesson9, 10、11アクティビティ
【key words】
アクティビティ

【授業概要】
歌、チャンツ
ゲーム・クイズ
デジタル教材(ICT)映像
【教科書ページ・参考文献】
pp50-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Let'sReadとExercises
【予習復習に必要な想定時間】
3時間

第１２回　Lesson12考えさせる指導法(1)
【key words】
自ら課題を発見して解決のために考える力
アイデンティティー
クリティカルシンキング
【授業概要】
自ら課題を発見し解決へと導く力
自らの発見、気付きを発信する
【教科書ページ・参考文献】
pp58-61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Let'sReadとExercises
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１３回　Lesson13考えさせる指導法(2)
【key words】
プレゼン

caffeine
cancer cellsの増殖を防ぐ

【授業概要】
児童が母語と英語を交えて、自らの気付きを発表する。
他教科とも連携する。

【教科書ページ・参考文献】
pp62-65
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	Let'sReadとExercises 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１４回　Lesson14評価を考える 【key words】 ＣＥＦＲ Ｃａｎ－Ｄｏリスト 【授業概要】 評価を考える。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ68-71 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Let'sReadとExercises 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１５回　Lesson15模擬授業 【key words】 指導案 模擬授業 【授業概要】 話し方、アイコンタクト、わかりやすい英語で授業を作る。 堂々と時間の配分も注意する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ72-75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導案を作る 【予習復習に必要な想定時間】 3時間
受講生に関わる情報および受講のルール	定期考査は中間と期末の2回、実施します。必ず受験すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード・その他
授業外時間にかかわる情報	新指導要領による初等英語教育の理論と実践を学びます。個人の技能として英語検定を受験することをお勧めします
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期考査2回の合計(100%)
教科書	Let's Have Fun Teaching English　From Theory to Practice 南雲堂
参考書	英和辞典　　英英辞典　英語検定試験問題集
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　国際文化論　　授業コード：1301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 国際文化論（intercultural studies）では、国際的な相互依存関係の中で生きていく私達が、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人達をも受け入れ、彼らと繋がっていける能力や態度を身に付けていくことを主眼としている。
授業の概要	世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	和の文化（1）～その構造について～ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	和の文化（2）～神の文化との比較～ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1）
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　日本外交の原点に位置する聖徳太子
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　日本・韓国・中国の文化の違い（２）
【key words】
日・韓・中の比較文化、歴史問題
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私たちはどのように乗り越えていったらよいかについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　EU、そして英国（東アジアと比較）
【key words】
西ドイツ・フランス・イタリア、ド・ゴール、東アジア共同体構想
【授業概要】
EUはアメリカニズムに対する危機感から生じたとも言える。しかし、地域統合には独自性と一体性があるから、限界もある。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　日本と中東（１）
【key words】
ムハンマド、共存・共生、斎戒
【授業概要】
「和」を提唱した聖徳太子と「サラーム」（平和）の世界観を紹介したムハンマドが同時代人であったということもあって、日本と中東には共通の観念が多々見られることも紹介し、現代の中東世界の特徴についても言及する。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　日本と中東（２）
【key words】
ハリーファ、サウジアラビアからヨルダンまで、統合と断絶
【授業概要】
日本史に現れる権威としての天皇と将軍は、イスラーム史におけるハリーファ（カリフ）とスルターンの関係のようである。ところで、中東地域それぞれの国家の統合の柱は、宗教、言語（民族）の視点で見ると分かり易いと思う。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１１回　国際ボランティア活動、湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動 【key words】 イラク、国際ボランティア活動、経済制裁 【授業概要】 湾岸戦争後、１３回も出かけることになったイラクの乳幼児に対する緊急救援活動を通して、イラクと日本での国際ボランティア活動のスタートから終了までの大事な諸点を紹介し、ボランティア精神の重要性を明らかにする。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１２回　ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地である「聖母ホスピス」を訪ねて 【key words】 ターミナルケア、聖母ホスピス、careとcure 【授業概要】 医療技術は絶えず最新のものでなければならないが、「死」に対する深い精神的な態度は変わるものではない。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１３回　「国際平和」実現への第一歩とは（1） 【key words】 旧約・新約聖書、報復、汝の敵を赦す・愛する 【授業概要】 「あなたの目はその人に憐みを掛けてはいけない。命には命、目には目、歯には歯、手には手、足には足をもって償わせなければならない」（申命記１９～２１）とあるが、この旧約の報復の論理を身をもって克服・完成させたのは誰であろうか。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　「国際平和」実現への第一歩とは（２） 【key words】 聖遷、聖家族エジプト避難の旅の実際、積極的な反一抵抗・敵対 【授業概要】 聖遷（ヘジュラ）と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　国際文化論として考えるリハビリテーション 【key words】 リハビリテーション観・宗教観・障害 【授業概要】 世界をリードする立場にある日本のリハビリテーションであるが、それぞれの国との関係では言語・行政問題以外では、リハビリテーション観・宗教観の違いに注目することが重要である。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の10分間は対応可能です。
評価方法	最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　こころの学び　　授業コード：1315

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
井上　新甫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 身心を修めて自主独立の気風を養う。 〔到達目標〕 学問と人生は一体。学問と事実は一体。これを知る。
授業の概要	心こそ己の司令塔である。その司令塔が人生開拓の成否を握る。では心とは何か、司令塔とは何か。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　講義の概要 第２回　君、心を賤しむなかれ① 第３回　君、心を賤しむなかれ② 第４回　君、心を賤しむなかれ③ 第５回　心の歌をうたう① 第６回　心の歌をうたう② 第７回　心の歌をうたう③ 第８回　心の歌をうたう④ 第９回　人はだれもが聖人である① 第１０回　人はだれもが聖人である② 第１１回　われわれはどこから来て、どこへ行くのか① 第１２回　われわれはどこから来て、どこへ行くのか②

	第１３回　　日本人の心の故郷① 第１４回　　日本人の心の故郷② 第１５回　　授業の総括
受講生に関わる情報および受講のルール	受講生は毎回、こまめにメモを取ることが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	時々、質問や感想を書いてもらう。これにより学生の理解度と進捗状況を確認。
授業外時間にかかわる情報	学問と人生は一体。ゆえに時間外すべての見聞・経験・情報はみな学問である。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	-
教科書	①井上新甫著・三輪執斎『四言教講義』通釈と解説 ②井上新甫著『神ながらの道』
参考書	井上新甫著『王陽明と儒教』、中江藤樹の『翁問答』、佐藤一斎の『四志四録』（言志録・言録後録・言録晩録・言録耋録の四部作）。『古事記』『日本書紀』。しかしあくまでも参考書であって授業をよく聞いていれば必ずしも読む必要はない。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： チームケア入門Ⅰ　　授業コード：1401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次	1単位(15)	選択
担当教員			
1年次担任教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。 [到達目標] 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。 2) 他職種の基本的な役割について述べることができる。 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。 4) 他職種との連携について関心が持てる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、講義、演習を通して「チームケア」について学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 講義概要、チームケア、多職種連携、地域包括ケアシステム 【授業概要】 全8回の講義の進め方や評価方法等のオリエンテーション後、医療・福祉・教育領域において、なぜ今連携なのか、チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：配布資料のみ ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートに沿い、自分の所属しているコースで取得が可能な資格／専門職を1つ取り上げ、具体的に、どんな仕事をしているのか」を簡単にまとめてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第２回	チームケアを担う人々を理解する 【key words】 社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、特別支援学校教諭、中学校・高校教諭 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、各自が作成した課題を用いたグループワークと解説を通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートに沿い、自分の選択した専門職について以下の事柄を調べ、まとめること
①根拠法規、②対象者、③活躍の場、④具体的な業の内容、⑤他職種との連携、⑥その他
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　チームケア・チーム医療を担う人々を理解する
【key words】
多職種連携、認知症患者へのチームケア、発達障害を持つ児童へのチームケア
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、各自が作成した課題を用いたグループワークを行い、他職を目指す学生にどのように説明することが望ましいかの検討を行う。また、呈示された事例へのチームでの対応の中で自職の担う役割についてグループでの検討を行い、自職の専門性に関する理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：合同演習で使用する自職の紹介についての資料を班ごとに作成し、担任に添削を受けること
課題：配布されたワークシートに沿い、事例内での自職の関わりについて班内で検討を行い、まとめること
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第４回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。
【key words】
多職種連携
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、他学部の学生との間でお互いが作成した資料を用いたグループワークを行い、それぞれの専門職に関する基本的理解について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：自職について調べた資料をグループの人数分、用意・持参すること
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。
【key words】
多職種連携、認知症患者へのチームケア、発達障害を持つ児童へのチームケア
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、共通の事例に対するそれぞれのかかわりについて他学部の学生との間でグループワークを行い、それぞれの専門職の専門性について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：自職の事例への関わりについてまとめた資料を持参すること
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会①
【key words】
多職種連携
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割に関するこれまでの討議をもとに、多職種が連携することの意義について他学部の学生との間でグループワークを行い、その必要性や求められる姿勢について理解を深める
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：各グループ内で指定された時間の発表ができるよう準備を行なうこと
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会②
【key words】
多職種連携
【授業概要】
医療・福祉・教育領域においてチームケアを行うことの意義についての討議結果について、演習参加者全員でのシェアリングを行い、多職種連携を行う中での自職の役割や他職との連携方法について考察を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：第4回～第7回の合同演習に関する振り返りを指定されたワークシートに行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第８回　学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。

	【key words】 多職種連携 【授業概要】 一連の学習過程について振り返りを行い、医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う専門職を目指す今後の学習に向けた目標設定や課題設定を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：指定されたレポート課題 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ①予習：指示された事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 ③授業日程：履修者に対して6～7月を目安に掲示板にて8回の日程を提示するため、留意すること。 ［受講のルール］ ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守すること。 ③授業の学びをぽ配布されるポートフォリオ等に記載すること。 ④欠席・遅刻については大学事務局に必ず連絡を行い、後日授業担当教員に対応を確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学習ポートフォリオ内の感想の記載欄など
授業外時間にかかわる情報	・自分の目指す職種等に関する調べ学習など、各回で課題が提示される予定である。それらに積極的に取り組むこと。 ・課題作成に用いた資料はフラットファイルなどに保管し、合同討議の際、参考にできるようにしておくこと。
オフィスアワー	初回に指示する。
評価方法	①グループワークでの取り組み50%。 ②ポートフォリオ評価50%。
教科書	各回で資料を配布する。
参考書	1. 鷹野和美著： チームケア論　　ぱる出版，2008. 2. 小松秀樹： 地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、 2015
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 海外語学研修（カナダ）　　授業コード：1501

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームスティ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。　研修期間　平成31年8月28日～9月7日

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 【key words】 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	研修先の概要(2)　リジャイナ大学についての概要 【key words】 【授業概要】 リジャイナ大学についての概要 訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群

馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　カナダ研究(1)　世界とカナダの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について
【key words】

【授業概要】
カナダの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて
【key words】

【授業概要】
パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと
【key words】

【授業概要】
入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話
機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し
【key words】

【授業概要】
英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　英語研修(3)　日常英会話　研修先でのコミュニケーション
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　英語研修(4)　日常英会話　寮、ホームスティ　研修先での注意事項
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　英語研修(5)　日常英会話　危機管理
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　協定校での授業　会話、課外授業　Meet with Program Team
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　協定校での授業　会話、課外授業　Welcome &Program Orientation
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　協定校での授業　会話、課外授業　Campus Orientation & Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Saskatchewan Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第16回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第17回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第18回　協定校での授業　会話、課外授業　Farmer,s Market and Regina Down Town Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第19回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第20回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Cu l ture②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第21回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of Sa s katoon & Western Development Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第22回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第23回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第24回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第25回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Arts ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第26回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Arts ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第27回　協定校での授業　会話、課外授業　Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第28回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第29回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony
【key words】

【授業概要】
研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間
第30回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【key words】

【授業概要】
研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話 し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい ⑦本講義は10人以上により開講する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	月曜日　16:00～17:30　(変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など 海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）

	□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 海外医療福祉研修（フィリピン）　　授業コード：1505

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦・小林　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院)にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間　平成32年3月15日～3月23日

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第1回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。
	第2回	研修先の概要(2)　アレリアノ大学についての概要 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。
	第3回	フィリピン研究(1)　世界とフィリピンの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について フィリピンの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。
	第4回	手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
	第5回	医療福祉研修(1)　ボランティア先での注意事項 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。

	第6回	医療福祉研修(2)　ボランティア先でのレクリエーション企画について 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいのかを考えてみる。
	第7回	英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第8回	英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第9回	英語研修(3)　医療英語　　患者及び施設利用者とのコミュニケーション 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第10回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学　医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第11回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第12回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第13回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第14回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第15回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第16回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第17回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Rehabilitative therapies　リハビリ病院訪問　フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第18回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Adult day care services　高齢者デイケア訪問　フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第19回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation　身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第20回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation terapiesを訪問し　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第21回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第22回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第23回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第24回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第25回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第26回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第27回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第28回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。

	第29回　　研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 第30回　　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり） 研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥本講義は10人以上により
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	月曜日　5時限　（変更が生じた場合は適宜指示する）
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人体の構造と機能及び疾病　　授業コード：2032

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
石井　幸仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉専門職（又は医療専門職）に求められる基本的な医学知識・医学用語を正しく理解できる。人体の構造と機能及び疾病を説明することができる。疾病・障害とその支援について説明することができる。 【到達目標】 将来医療福祉分野に携わる者として、ふさわしい人格を形成できる。 生命の尊厳を知り、人体への畏怖の念を持つことができる。 医療、福祉分野においてのコミュニケーション力、危機管理能力の形成がなされる。 　また、他者への伝達技法を学び取ることができる。
授業の概要	社会福祉専門職(又は医療専門職）に必要な基本的な医学知識・医学用語を学び、次に人体の構造と機能、さらに疾病・障害とその支援について学んでいく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　受講のルール　人体の成長・発達・老化　（身体の成長・発達　精神の成長・発達　老化に伴う身体的・精神的変化） 【key words】 正常が理解できていないと異常に気づきません 【授業概要】 解剖学、生理学とは 身体の成長・発達 精神の成長・発達 老化に伴う身体的・精神的変化 復習にあたっての整理法 【教科書ページ・参考文献】 P1-24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	心身機能と身体構造の概要（1） 〃 【key words】 体がどんな体位にあっても基準となる用語 【授業概要】 人体各部位の名称 方向用語 体表解剖学 【教科書ページ・参考文献】 P25-27

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第３回　心身機能と身体構造の概要（2）
〃
【key words】
器官系とは
【授業概要】
各器官の構造と機能1)
水分と脱水
血液
心臓と循環器系
【教科書ページ・参考文献】
P28-34

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　心身機能と身体構造の概要（3）
〃
【key words】
人体の神秘
【授業概要】
各部位の構造と機能2)
腎臓・泌尿器系・呼吸器系・消化器系
神経系
内分泌系

【教科書ページ・参考文献】
P34-40

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　心身機能と身体構造の概要（4）
〃
【key words】
知れば知るほど人体に驚かされます
【授業概要】
各器官の構造と機能3)
神経系
内分泌系
生殖器系
身体機能の調節
【教科書ページ・参考文献】
P41-52
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　健康の捉え方
〃
【key words】
疾病に進む前にまず健康を復習
【授業概要】
健康とは（定義）
国際生活機能分類（ICF)の基本的考え方と概要
【教科書ページ・参考文献】
P193-238
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　疾病の概要（1）
〃
【key words】
正しい定義を知って疾病を理解する
【授業概要】
生活習慣病　悪性新生物　心疾患
【教科書ページ・参考文献】
P54-68

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　疾病の概要（2）
〃
【key words】
ホメオスタシスの失調
【授業概要】
高血圧　糖尿病と内分泌疾患　呼吸器疾患　消化器疾患
【教科書ページ・参考文献】
P69-83
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第９回　疾病の概要（3） 【key words】 クライアントの疾病の概要を学ぶ 【授業概要】 血液疾患と膠原病　腎臓疾患　泌尿器系疾患 【教科書ページ・参考文献】 P84-98 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　疾病の概要（4） 【key words】 障害を学ぶ前の疾病　総復習 【授業概要】 目、耳の疾患　先天性疾患　その他 【教科書ページ・参考文献】 P99-128 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　障害の概要（1） 〃 【key words】 疾病の概要　総復習の後　障害の概要について 視覚障害　聴覚障害　平衡機能障害 【授業概要】 疾病の概要　総復習の後　障害の概要について 視覚障害　聴覚障害　平衡機能障害 【教科書ページ・参考文献】 P129-140　身障者手帳所持　表　資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　障害の概要（2） 〃 【key words】 身体障害者障害程度等級表　療育手帳 【授業概要】 肢体不自由　内部障害　先天性障害 【教科書ページ・参考文献】 P140-152 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　障害の概要（3） 【key words】 精神障害者保健福祉手帳 【授業概要】 発達障害　認知症　高次脳機能障害 【教科書ページ・参考文献】 P152-166 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　障害の概要（4） 〃 【key words】 精神障害者の通院・入院 【授業概要】 精神障害 【教科書ページ・参考文献】 P167-172 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　リハビリテーション 〃 【key words】 医療系療法士を知る 【授業概要】 前回の総復習 リハビリテーションの概要　概念　範囲 【教科書ページ・参考文献】 P173-192 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書のみに依存する事なく、口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事。又、そのノートのとり方を学んでいく事。各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関しての確

	認テストを行う。 講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。 教科書の通読のみでは正しく、十分な理解は困難である。全体像との関連、前後の脈絡を踏まえての講義を行うため、全出席を原則とする。教科書は書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義内容を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。 〔受講のルール〕 初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（80%）、その他教科書への書き込み状況やノートの点検（20%）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座1　人体の構造と機能及び疾病―医学一般』最新版　中央法規
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保健医療サービス　　授業コード： 2043

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
石井　幸仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保健・保険制度の概要・医療施設・保健医療専門職の役割を説明できると共に、他専門職との連携・協働に際して求められる広範な知識を身につけることができる。 【到達目標】 将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できる。又、医療福祉コミュニケーション構築力・医療福祉危機管理能力を形成獲得できる。また、他者への伝達技法を学び取ることができる。
授業の概要	社会福祉専門職（又は医療専門職）として患者（利用者）のQOL（生活の質）の向上に寄与・支援できる広範な知識を身につけられるように進めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 保健と保険 【授業概要】 保健医療サービス　保健医療対策の概要 【教科書ページ・参考文献】 P1-38 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　医療保険制度 【key words】 フリーアクセス　被保険者証 【授業概要】 医療保険制度の概要　医療費に関する政策動向 【教科書ページ・参考文献】 P3-4　P20-29　P163-173 【課題・予習・復習・授業準備指示】 カルテ用紙配布　記載実習 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　診療報酬 〃 【key words】 １点　単価 【授業概要】 診療報酬制度の概要 【教科書ページ・参考文献】 P173-184 【課題・予習・復習・授業準備指示】

先日配ったカルテ用紙への記載
【予習復習に必要な想定時間】
第４回　介護保険制度　公費負担医療制度
〃
【key words】
医療介護福祉　公費負担
【授業概要】
自立支援医療を含む公費負担医療制度
【教科書ページ・参考文献】
P8-11　P185-196
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　医療概念　介護概念　公費負担医療の総復習
【key words】
公費負担
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】
P173-184　P8-11　P185-196
【課題・予習・復習・授業準備指示】
主治医意見書　介護認定調査票　配布
【予習復習に必要な想定時間】
第６回　医療施設等の概要
〃
【key words】
法律・政策
【授業概要】
（１）医療法による医療施設
（２）保健医療政策による医療施設
（３）診療報酬における医療施設
【教科書ページ・参考文献】
P39-80
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　介護保険法における施設
〃
【key words】
介護保険
【授業概要】
介護施設と各サービス　在宅支援システム
【教科書ページ・参考文献】
P81-90
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　医療　介護ケア　総復習
【key words】
フリーアクセス？　介護予防
【授業概要】
介護福祉
【教科書ページ・参考文献】
教科書　ノート
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　生命倫理学
【key words】
専門職として　よって立つべき基盤
【授業概要】
インフォームド・コンセント　守秘義務等　教科書　ノート
【教科書ページ・参考文献】
P144-155　他配プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　保健医療サービスにおける専門職の役割（１）（２）
【key words】
医療系専門職・福祉系専門職
【授業概要】
医師　看護師　保健師制度　医療系療法士　医療福祉専門職
【教科書ページ・参考文献】
P131-143　P156-162
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士（１）
【key words】
MSW
【授業概要】

	医療ソーシャルワーカー業務指針 【教科書ページ・参考文献】 P30-38　P91-102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士（２） 【key words】 MSｗの基礎 【授業概要】 MSW と業務の内容―理論編― 【教科書ページ・参考文献】 P103-130 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　医療連携と社会福祉士・精神保健福祉士（３） 【key words】 MSWの具体的な活動内容 【授業概要】 MSWと業務の内容―応用編― 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　保健医療サービス関係者との連携と実際（１）（２） 【key words】 多職種協働 【授業概要】 医師・看護師・保健師との連携と実際 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　医療福祉コミュニケーション・医療福祉危機管理　総括 〃 【key words】 傾聴・真実を聞き出せる力・クレーム処理 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 オリジナルプリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書のみに依存する事なく、口述・板書した内容を必ず教科書又はノートに筆記していく事、又そのノートのとり方を学んでいく事。 各講義において国家試験過去問題や前回講義内容に関しての確認テストを行う。 講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。 教科書の通読のみでは正しく、十分な理解は困難である。全体像との関連・前後の脈絡を踏まえての講義を行うため、全出席を原則とする。 教科書は書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義内容・資料を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。 〔受講のルール〕 初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（80%）、その他教科書への書き込み状況やノートの点検（20%）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会（編）　『新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス』最新版　中央法規出版 15－15に関してはオリジナルプリントを配布します。
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習)

	□ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　高齢者に対する支援と介護保険制度　　授業コード：2063

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
新木　惠一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　高齢化が著しい我が国において、高齢者を取り巻く環境は大きく変化してきていることを理解し、高齢者が活き活きとその人らしい生き方を実現するための各種施策を理解する。また、介護を必要とする高齢者も増加することが予測されていることから、介護保険制度を中心に介護を社会で支えるということはどのようなことかを知る。 【到達目標】 　①高齢者に対する全人的理解を図る。　②これまで行われてきた高齢者への福祉サービスの課題を把握し、なぜ介護保険制度が導入されたかを検証する。　③介護保険制度の現状の理解と今後の課題を検証する。　④介護に従事した時に役に立つレベルの介護保険制度の理解。　⑤今後の高齢者福祉サービスの在り方を考える。
授業の概要	我が国の高齢者を取り巻く環境は大きく変容している。そこで高齢化の現状を把握するとともに、高齢者の特性の理解や高齢者のニーズについての理解を高める。また、具体的な支援方策の論拠となる介護保険制度をはじめとした諸制度をしっかり理解する。このことにより、専門職である社会福祉士として高齢者に対するより適切な支援が可能となり、高齢者の自立した生活と生活の質の向上に資するものである。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業の進め方等概説） 【key words】 高齢者に対する支援を学ぶにあたって、「高齢者」と一括りにすることなく一人ひとりを尊厳をもって対応することが基本。 【授業概要】 高齢者に対する支援と介護保険制度を学ぶにあたって、学生の高齢者への意識やイメージについて確認し、それはどうしてなのかを自らの言葉で語れるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 － 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者感をイメージしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	高齢者の特性（社会的理解・身体的理解） 【key words】 高齢者と老いを検証する 【授業概要】 高齢期における生活の変化や家族と社会との関係、生きがいや安全安心の確保、高齢者差別など様々な課題・問題が発生している。その原因を探るために社会的理解や身体的機能の変化等を学

		ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P1～14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 我が国における高齢化率の推移を確認しておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	高齢者の特性（精神的理解・総合的理解） 【key words】 高齢者個々に特性がある 【授業概要】 高齢者の身体的理解をする。ここでは加齢に伴う身体機能の変化や外見から見た高齢化と内面から見た変化について検証するとともに、加齢に伴う基礎的運動機能の変化などから高齢者を総合的に理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P15～28 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の生活と高齢者の生活を比較してみる 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第４回	少子高齢化と社会的問題 【key words】 人生５０年時代から人生９０年時代へ 【授業概要】 我が国の高齢化は先進国に例を見ない速さで進行しており、その酔及びその大きな原因となった少子高齢化等の動向について現状認識をする。 【教科書ページ・参考文献】 P29~40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 少子化の要因を探究し整理しておく 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第５回	高齢者を取り巻く諸問題 【key words】 高齢化は重層的な課題を社会に投げかける 【授業概要】 高齢者を取り巻く諸問題とは何か、例えば健康問題や介護の門外、更には経済的な問題等々多くの問題の派生が懸念されている。それらについて具体的な事例を含めて検証する。 【教科書ページ・参考文献】 P41~60 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ライフサイクルの変化について予め考えておく 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第６回	高齢者保健福祉の起源と生成 【key words】 老いを歴史から考える 【授業概要】 我が国の高齢者の定義はどのように変遷してきたのか。高齢者（老人）に対する福祉サービスはどのようになされてきたのか、奈良時代までさかのぼってその起源から現代にいたるまでを検証する。 【教科書ページ・参考文献】 P61~76 【課題・予習・復習・授業準備指示】 我が国の歴史と高齢者福祉の流れを突合してみる 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	高齢者保健福祉制度の発展 【key words】 護の社会化とは何かを考え整理する 老年人口の急増とその対応は 【授業概要】 第二次世界大戦後、我が国の福祉制度は児童や障害者、貧困者に対する対応を中心に充実されてきた。そうした中で、新たな課題として老年人口の急増が表出し、その対応を図るため老人福祉法が制定された。その経緯と現在の状況について歴史的に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P77～86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 介護の社会化とは何かを整理する 【予習復習に必要な想定時間】

60分

第８回　高齢者保健福祉の法体系

【key words】
高齢者は一律に支えられる人ではない

【授業概要】
高齢者保健福祉推進の基本的考え方を示した「高齢社会対策基本法」や「高齢社会対策大綱」について、その理念や国等が行うべき施策について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P87～95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
高齢者のとらえ方の変化を整理する
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第９回　高齢者支援の関係法令　老人福祉法

【key words】
老人は敬愛される存在だけか？

【授業概要】
歴史的な救済制度等について学んできた中で、社会の変化に伴い「老人福祉法」が制定されるが、その基本的な理念や法の構成とその役割について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
P96～100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
老人福祉法を読みこなしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１０回　高齢者の医療の確保に関する法律

【key words】
高齢者と医療は切っても切れない

【授業概要】
高齢化に伴い多くの人々が加齢による身体機能の衰えや精神的課題を生じる。その対応を図るための医療制度について基本的なことを学ぶ。また、高齢者の支援に関連して近年表出してきた高齢者虐待や住宅問題等の課題への対策などについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P101～109
【課題・予習・復習・授業準備指示】
新たな高齢者の福祉ニーズについて検討しておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　高齢者虐待防止法・その他の関係法規　　「小テスト」

【key words】
高齢者を取り巻く環境は社会の縮図

【授業概要】
高齢者虐待や高齢者の住みやすい街づくり、更には高齢者の住まいの問題と様々な分野において高齢者の生活支援が求められている。そう言った分野についても知識を修得する。
「第１回から第１０回までを振り返り、その成果を小テストで評価する。」
【教科書ページ・参考文献】
P110～126
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テストの結果を振り返り今後の学びに活かす
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１２回　介護保険制度の全体像

【key words】
「介護を社会で支える」とはどういったことなのかの基本的な理解をする

【授業概要】
介護保険制度の最も初歩的・基本的事項である「サービス利用の方法」「サービス内容」「全体の仕組み」さらには目的と理念について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P127～133
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本的事項と対象者についてしっかりと把握すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１３回　法改正と背景と方向性

【key words】
新たな高齢者介護の在り方を考える

【授業概要】
介護保険制度の理念の把握と共に、介護保険制度創設から最近の制度改正に至る原因、改正内容について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P134～142

【課題・予習・復習・授業準備指示】
制度改正後のポイントについてしっかり把握する
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１４回　保険財政と保険者・被保険者
【key words】
安定したサービス供給のために

【授業概要】
制度の基本である財源の基本的な分野とともに、主体となる保険者・被保険者について、より詳細な把握を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P143～152
【課題・予習・復習・授業準備指示】
介護保険財源についてしっかり把握すること
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　前期授業の総括
【key words】
介護の普遍化
授業概要　第１回から第１４回までの講義を総括する
課題等　夏季休業中に高齢者福祉のポイントや介護保険制度についてしっかりと復習しておくこと

【授業概要】
第１回から第１４回までの講義を総括する
【教科書ページ・参考文献】
－
【課題・予習・復習・授業準備指示】
夏季休業中に高齢者福祉のポイントや介護保険制度についてしっかり復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
240分

第１６回　介護保険制度の仕組みとプロセス
【key words】
要介護認定とは保険給付とは何かを知る

【授業概要】
介護保険サービスを受けるには要介護認定の流れを理解し、介護保険サービス該当者になる条件等を理解する。また、その給付対象者や要介護認定のプロセスについて理解するとともに、受けられるサービスメニューを把握する。
【教科書ページ・参考文献】
P153～162
【課題・予習・復習・授業準備指示】
サービス項目について把握すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１７回　介護報酬と地域支援事業
【key words】
介護サービス事業者には介護報酬が支払われる。またサービスは地域での実施が主体となる

【授業概要】
サービス事業者に支払われる介護報酬について学ぶとともに、新たなサービスとしてセリされた地域支援事業創設の背景等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P163～173
【課題・予習・復習・授業準備指示】
介護報酬の理解と地域で行うサービス内容について整理しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１８回　地域包括支援センターと介護保険事業計画
【key words】
地域包括支援センターの創設と介護保険の計画的実施

【授業概要】
制度改正により創設された地域包括支援センターの役割や人員配置等について学ぶ。更には、介護保険制度を計画的に推進するための計画や組織等についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P174～179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
介護保険事業計画に網羅する事項について整理しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１９回　介護保険制度総括
【key words】
サービスは質の確保が肝要

【授業概要】
高齢者福祉サービスの主流となった介護保険制度の基本的事項についての整理を行う。また、サービスの質の確保等に関して求められる情報の公表や苦情への対応、更には「福祉サービス運営適正化委員会」「介護保険審査会」等の役割を知る。

【教科書ページ・参考文献】
P180～184
【課題・予習・復習・授業準備指示】
質の確保の必要性について検討する
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２０回　介護保険サービスにおける専門職の役割と実際
【key words】
サービスの基本はなにか

【授業概要】
サービスの対象者の変化や専門職の役割と実際について、特に中心となる各種職種ごとの具体的な業務や課題、専門職の資格取得要件等について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
P185～195
【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの専門職の役割を整理しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２１回　居宅サービスと施設サービス
【key words】
居宅と施設サービスの両立

【授業概要】
専門職のフォローを行うとともにサービスメニューの主体となる「居宅サービス」「施設サービス」には多くのサービス形態が存在しており、その内容について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
P196～203
【課題・予習・復習・授業準備指示】
サービスの詳細について復習し整理把握しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２２回　介護予防サービスと地域密着型サービス　　「小テスト」
【key words】
介護予防は元気な高齢者を創る

【授業概要】
介護予防の必要性と、どのようjな予防サービスが実施されているかを学ぶ。また、法改正により新たなサービスとして「地域密着型サービス」が創設されたころから、その概要についても学ぶ。
第１２回から第２１回までの理解度等について把握するため「小テスト」を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
P204～212
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予防による効果について検証すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２３回　高齢者を支援する組織と役割　行政の役割
【key words】
実施主体は市町村

【授業概要】
高齢者が安心して暮らし続けられる地域社会の仕組みづくりを推進するために、国や都道府県、市町村等がそれぞれの役割を分担している、それらの役割について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P213～224
【課題・予習・復習・授業準備指示】
サービス事業者や国民健康保険団体連合会の役割を理解すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２４回　地域包括支援センターの組織体系と役割
【key words】
地域を主体としたサービス体系の構築

【授業概要】
地域における高齢者サービスの中心的機関である「地域包括支援センター」の組織体系と役割について知るとともに地域における民間の中核組織である「社会福祉協議会」や「NPO法人」の役割についても理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
P225～248
【課題・予習・復習・授業準備指示】
民間の組織の役割を整理する
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２５回　高齢者支援の方法
【key words】
高齢者もパワーを有している

【授業概要】

		高齢者を多方面的にアセスメントし、高齢者の持つ弱さや強さを理解する。そこから、支援と共に家族との関連や家族の果たす役割、地域のグループを活用した相談援助等について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 P249～262 【課題・予習・復習・授業準備指示】 地域にどのような支援グループがあるかを検証しておく 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第２６回	高齢者支援の方法と実際 【key words】 ストレス耐性の脆弱性を支える 【授業概要】 高齢者を支えるケアマネジメントは、どのように発展したのか。その意義や実践面での対応等について学ぶ。また、各種事例からサービスの利用と地域連携等について検証する。 【教科書ページ・参考文献】 P263～286 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例を予め読み込み実践的支援を創造する 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第２７回	高齢者を支援する専門職の役割と実際 【key words】 専門職によるチームケアで効果を 【授業概要】 高齢者サービスにおいて多くの専門職がかかわることになるため、それぞれの職種について基本的理解と他職種連携についてその必要性にについてその必要性と実践の展開について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 P287～302 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉・医療の専門職との効率的連携方法について検討する 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第２８回	介護の概念や対象 【key words】 高齢者の全人的理解 【授業概要】 社会福祉士として介護を学ぶ必要性や介護の範囲、さらに求められる専門性と理念、介護の対象者への理解など幅広い分野での知識の高揚を図る。 【教科書ページ・参考文献】 P303～348 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで学んできたことの整理を行う 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第２９回	介護過程と介護各論 【key words】 介護サービスの 自己決定と自助努力 【授業概要】 介護サービスの目的は高齢者の自立を支援することであり、介護者や社会福祉士はどのような対応をとったら良いのかを学ぶ。また、介護サービスの範囲についても検証し、これから求められる介護サービスの在り方について検討を重ねる。 【教科書ページ・参考文献】 P349～404 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで学んできた総論的な部分であり、改めてしっかりと読み込んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第３０回	後期の総括 【key words】 介護の社会化を実現するために 【授業概要】 高齢者への支援にあたっては、介護サービスは勿論のこと、医療や保健、住宅、街づくりまで広範にわたることを改めて理解するとともに、特に今後の認知症対策や終末期ケアまで含めた今後予想される超高齢社会への様々な対応についても検証する。 【教科書ページ・参考文献】 P405～461 【課題・予習・復習・授業準備指示】 総合的・総括的に整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 240分
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。私語厳禁。携帯電話の電源を切り机上に置かないこと。	
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード	
授業外時間にかかわ	予習をして授業に臨むこと。わからない部分についてはコメントカードにより質問するか、授業中若	

る情報	しくは授業終了後に遠慮なく行うこと。なおマスコミに取り上げられた高齢者関係情報については必ず目を通すように心がけること。
オフィスアワー	月曜日　午後13：30～15：30（この時間帯以外については要予約）
評価方法	後期定期試験40%　後期小テスト20%　前期小テスト20%　　前期レポート20%
教科書	新・社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」（第６版）中央法規
参考書	関係資料は適宜配布する。「社会福祉用語辞典（ミネルヴァ書房）」は授業に役立つので購入することが望ましい。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県介護高齢課において介護保険制度創設時より係わる。福祉事務所でもケースワーカーとして７年の現場経験を有している。また、県庁勤務時には現場職員の指導にもあたってきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助の基盤と専門職　　授業コード： 2123

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	必修
担当教員			
新木　惠一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 相談援助（ソーシャルワーク）の担い手である社会福祉士の役割や相談援助の理念と技法を理解し、相談援助の価値などの基本的利根論と概念学び、地域での総合的な相談援助について理解する 【到達目標】 ソーシャルワーカーとしての基礎的知識をもち、自己決定、自立支援、権利擁護や総合的かつ包括的相談援助等について説明し実践することができる。
授業の概要	相談援助の形成過程について、その時代背景や歴史的経緯について体系的に理解し、相談援助の理論や技法を学び、総合的支援や地域の資源を有効活用する総合的包括的な相談援助について学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	授業の進め方について（オリエンテーション） 【key words】 社会福祉士として必要な相談援助（ソーシャルワーク）とは何かを修得するための基本的な取り組み姿勢を考える。 【授業概要】 相談援助とは何か、その形成過程は何か、実践の根拠となる理論とは何かなど具体的に学ぶ。また、なぜそういった学びが必要か、更には相談援助を必要とする主な現場はどういったところ（職場・機関）なのかなどにみついても確認しておく。 【教科書ページ・参考文献】 － 【課題・予習・復習・授業準備指示】 全コマ共通「講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。」自分の身の回りにある相談援助を行っている機関等についての知識を得ておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	社会福祉士の役割と意義①　　社会福祉士制度 【key words】 ソーシャルワークの担い手である社会福祉士は、社会の中で機能することが求められている。また、社会的ニーズに応えるためには、地域生活上の課題を知るとともに、社会福祉士の法的根拠の確認が必要である。 【授業概要】 社会福祉しか必要となった社会的背景は何かについて地域における課題を中心に学ぶ。また、社会福祉士の資格取得への道順や社会福祉士に課せられた義務や各種条件等についてもしっかりと把握する。 【教科書ページ・参考文献】 P1～4（第１章社会福祉士の役割と意義） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 地域における社会的課題を解決するために何が求められているかを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
60～90分

第３回　社会福祉士の役割と意義②　　社会福祉士の義務

【key words】
生活困窮者自立支援法とは何か。また、社会福祉士と関連する資格である精神保健福祉士との役割と意義、更には他職種の業務についている社会福祉士との連携について考える。
【授業概要】
生活困窮者を支援することは社会福祉sにとって一つの大きな課題であり、必要不可欠なことである。そこで、実践上の理念と実態について学ぶ。また、現代における性疾患を有する支援を行う精神保健福祉士の役割についても社会福祉士との連携を含めて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P5～7（第１章社会福祉士の役割と意義）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
何故生活困窮になるのか。なぜ、生活困窮者の支援が必要なのかなどについて、現在社会における課題について予め学んでおくことまた、現代社会と精神疾患についても考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　現代社会と地域生活①　　社会環境の変化と支援

【key words】
人は社会の中で他人とかかわりながら生活している。そう言った中で、社会環境（経済環境、産業構造、雇用形態）の変化により人々の生活は大きく左右されている。その実態について学んでおく。

【授業概要】
情報化社会、グローバル化社会、地球温暖化問題など地球規模の課題から、地域における経済環境や産業構造の変化などによって人の生活は大きく左右される。そう言った生活上の課題について具体的な学びを深めておくことが必要であり、そういった実態を共に考える。
【教科書ページ・参考文献】
P8～11（第１章第２節現代社会と地域生活）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の生活する地域の変化について様々な面から考察しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　現代社会っ地域生活②　　社会環境に適合した支援方法

【key words】
人の生活する地域は過疎化地域や都市部など様々な環境があるとともに、地域や家庭においても課題を抱えている場合が少なくない。どこにいても自分らしい生活をするための方策を考える。

【授業概要】
我が国は少子高齢課と共に身近なところで生活環境が大きく変化している。そうしたことをしっかりと認識するとともに、一人ひとりの生活を支援するための理解とソーシャルワーカーの係わり方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P12～22（第１章第２節現代社会と地域生活）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
少子化に伴ってどのように家庭生活が変化したのか。また、地域環境の変化が家庭に及ぼす影響等について考察しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　ソーシャルワークの概念①　　ソーシャルワークとは何か

【key words】
ソーシャルワーク専門職にはグローバル定義が存在し、どのように行動すべきかについての行動指針が示されている。
【授業概要】
グローバル定義とは何か。そこに示されている具体的なソーシャルワーカーとしての任務（社会変革、社会開発、社会的結束、エンパワメントと開放）及び諸原則（社会主義、人権、集団的責任、多様性尊重）などについて基本的なことを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P23～30（第２章相談援助の定義と構成要素）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会的結束と社会的排除の違いを考察しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　ソーシャルワークの概念②　　ソーシャルークの目的

【key words】
ソーシャルワークには基本的な学問理論と実践が必要であり、人々の求めるウェルビーイングを高めることが重要である。
【授業概要】
人々の求めるウェルビーイングとは何かを具体的に考察するとともに、人々がその環境と相互作用する接点についていかに勧誘するか。などについて考察する。また、そのための主だった定義について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P31～36（第2章第1節ソーシャルワークの概念）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ソーシャルワークで使用する専門用語の整理とその意味について予め検討しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　ソーシャルワークの構成要素

【key words】
構成要素には　①クライエント　②ニーズ　③ソーシャルワーク　④社会的資源　が必要となる。
【授業概要】

構成要素である「クライエント」とは何か。「クライエントシステム」とは何か。また、クライエントの持つニーズにはどのようなものであり、そこに働きかけるソーシャルワーカーの役割やクライエントのニーズに応える社会資源とはどのようなものかを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
P37～49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の身の回りの身近な社会の中でどのようなニーズがあるのか。また、社会資源はどのようなものがありどのような部分が欠けているのか（必要とされているのか）を考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　ソーシャルワークの源流①　古典的ソーシャルワーク
【key words】
ソーシャルワークはどのような必要性から生まれたのか。その前史となるキリスト教的思考や仏教的思考について学ぶとともに、現在のソーシャルワークに至るまで具体的な流れを考察する。
【授業概要】
キリスト教の隣人愛の精神が現在のソーシャルワークの源流となった。しかし、我が国においても仏教や儒教的思想などから同様の考え方は発生していた。その実態を学ぶとともに、ソーシャルワークの発生源等についての基本的な事項を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P50～55（第3章相談援助の形成過程第1節）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
地域の中で住民同士でどのような交流がなされているのか。その交流はどのような変遷を持つものなのかなどについて考察するとともに、キリスト教の隣人愛や仏教の慈悲思想について考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１０回　ソーシャルワークの源流②　現在ソーシャルワークの萌芽
【key words】
第9回で学んだ基本的な事項から発展し、古典的ではあるが具体的な支援方策が派生してきた。そういった基本的な流れとともに現在の基盤となる動きについて考察する。
【授業概要】
セツルメント運動やハル・ハウスの動きから、ソーシャルワークへの展開が見えてくる。更に、アメリカを中心としてソーシャルワークの基盤となる様々な動きが理論化され、それが具体的な動きとなって整理されてくる過程を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P56～67（第3章第1～第2節）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前組織協会の取り組みやリッチモンドの「社会診断」さらには医療ソーシャルワークの萌芽や専門化するソーシャルワークについて、さらには社会の動向に対処するために変化するソーシャルワークを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１１回　セツルメソーシャルワークの発展期
【key words】
第二次世界大戦後は人々の生活環境が大きく変化した。そういった中で、ソーシャルワークもさまざまな理論が展開された。
【授業概要】
様々なソーシャルワーク理論の発生とその変化、また、その理論による人々への対応とその課題などについて学ぶとともに、グループ・ワークや地域を主体としたコミュニティーオーガニゼーションの派生を確認する。また、わが国ではどのように取り入れられたのかについても考察する。
【教科書ページ・参考文献】
P68～77（第4章第1節）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティーとはdのようなものかなど基本的なことをあらかじめ考察しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１２回　ソーシャルワークの展開期
【key words】
1950年以降になると戦後の発展とともに新たな生活不安が発生する。そういったことへの対応は新たなケースワーク理論が必要となった。
【授業概要】
様々なソーシャルワーク理論やモデルが検討されてきたが、それらの理論・手法だけでは新たな社会問題に対応することが困難となった。そういった課題を学び整理して新たな理論への展開を期待する。
【教科書ページ・参考文献】
P78～85（第3章第2節）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
我が国における新たな課題について確認し整理をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１３回　ソーシャルワークの統合化
【key words】
ソーシャルワークの基盤である「ケースワーク」「グループ・ワーク」「コミュニティーオーガニゼーション」の共通基盤を明らかにし、新たなソーシャルワークについて学ぶ。
【授業概要】
共通基盤の上にあるジェネラリストアプローチから、ジェネラリスト・ソーシャルワークに至る経緯について学ぶ。特に、ソーシャルワークの統合化は複雑化、深刻化するクライエントの生活問題にソーシャルワーカーが対応するための新たな手法といえるものでありしっかり修得すること。
【教科書ページ・参考文献】
P86～91（第3章第3節）
【課題・予習・復習・授業準備指示】

		個人の価値観の戦後の変遷について考えておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第１４回	ソーシャルワークと価値 【key words】 価値とは何か。専門職として共有する価値と個人の価値観とは何かを考察する。 【授業概要】 価値とは様々な意味を持つ言葉であり、様々な性質を持っているといわれている。その性質について確認するとともに専門職と個人としての価値観の相違について整理する。 【教科書ページ・参考文献】 P92～98（第5章第1節） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 普遍的な価値。誰もが良いという価値とは何かを考察する。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第１５回	ソーシャルワーク実践と価値 【key words】 ソーシャルワークの実践にあたり、その判断と価値について、また、その基本となる「価値、理念と原則」についての基本的な視点から考察する。 【授業概要】 ソーシャルワーカーの判断に影響を与える価値について、その判断材料となるものは何か。また、解釈や決断の基本となる理念とは何か。更には、専門職として身についけなければならない価値とは何かを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 P99～106 （第5章第2節） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 利用者本位とは何か考察しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第１６回	クライエントへの実践と権利擁護 【key words】 権利擁護が必要とされる背景や人権侵害の顕在化、権利擁護の概念、権利擁護の態様、さらにはソーシャルワーク実践の権利擁護について学ぶ 【授業概要】 今、高齢者や障碍者の権利擁護について様々な分野で提言や発言がなされている。なぜ「今」こういった加害が表出しているのかを考察するとともに、その背景や具体的な対応についてしっかりと理解するとともに、そういった社会を是正するための方策について考える。 【教科書ページ・参考文献】 P107～120 【課題・予習・復習・授業準備指示】 地域の中でどういった権利侵害が行われているかを考えて授業に臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第１７回	クライエントの尊厳と自己決定 【key words】 自己決定とは何か。自己決定概念の成り立ちはどういった経緯があるのか。自己決定と判断能力と自己責任、更には、自立支援とは何かを考察する。 【授業概要】 何故自己決定なのか。判断能力に欠ける人の自己決定とは何か。自立支援はなぜ必要でクライエントにはどのようなエンパワメントがあり、そういったところをストレングス視点で見たらどうなのかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 P120～128（第６章第１節） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 認知症の高齢者の自己決定について考察してみること。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第１８回	ノーマライゼーションと社会的包摂 【key words】 ノーマライゼーションの理念と社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）について、その理論構成の変遷について学ぶ。 【授業概要】 誰もが誰もと同じように暮らすという理念であるノーマライゼーションの発祥と社会福祉推進に与えた影響やその発展的動きとしての社会的包摂とはどのようなものなのかを具体的事例を挙げつつ考察する。 【教科書ページ・参考文献】 P129～136（第６章第２節） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 地域のおけるノーマライゼーションの実態について考えて授業に臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第１９回	専門職倫理と倫理的ジレンマ 【key words】 ソーシャルワーク実践にあたっては、あらゆる場面で専門職としての判断が求まられる。そう行ったときに 必要なのが専門職倫理である。 【授業概要】 専門職には何故「専門職倫理」が求められるのか。また、どういったことが「専門職倫理」なのかを考察する。そういったときに必要となるのが専門職団体の示す「倫理綱領」であり、その必要性と倫理綱領の意義と内容について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

P137～158（第７章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本社会福祉士会の倫理綱領を読んで理解しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第２０回　総合的かつ包括的な相談援助
【key words】
ソーシャルワークは何よりも本人の生活の場である地域を基盤として展開する援助である。今後については、対象者の拡大や予防的かつ積極的なアプローチが求められるとともに、連携と協働が必要とされる。
【授業概要】
総合的かつ包括的な相談援助の動向やその背景を学ぶとともに、ソーシャルワーク実践をめぐるパラダイムシフトとは何かを学ぶ。また、援助活動が展開される生活の場の実態や生活のしづらい現代社会における対象の拡大に対応する支援。更に、予防的・積極的なアプローチを求められる現在sの社会について検証するとともにその対応について検証する。
【教科書ページ・参考文献】
P159～168（第８章第１節第２節）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
住民等のネットワークについてどういった頃が考えられるかを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第２１回　地域を基盤としたソーシャルワークの機能
【key words】
地域を基盤としたソーシャルワークに求められる機能としては、　①広範なニーズへの対応　②本人の解決能力の向上など八つの機能が上げられている。
【授業概要】
八つの機能を学びつつそういった機能が地域にあるのか、求められているのかをしっかりと把握する。また、クライエント個人への支援のみではいつまでも同じことの繰り返しであり、地域と一体的に支援することがポイントであり、そういった考えの基に地域の課題を整理して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P169～174（第８章第３節）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
地域の新たなニーズなどを把握する。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第２２回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点と基本的視点
【key words】
ソーシャルワークを構成する知識、技術、価値を一体的かつ体系的に理解する。特に、本人主体のケースワークを行う。
【授業概要】
ジェネラリスト・ソーシャルワークの特徴を知るとともに、主体であるクライエント本人との関係において本人を強調するという基本原理に立ち返り、支援の方法を検証していく。
【教科書ページ・参考文献】
P175～188（第９章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本人主体の視座とは何かを考察しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第２３回　相談援助にかかる専門書記の概念と範囲
【key words】
専門職と認知されるには様々な成立条件がある。
【授業概要】
専門職としての成立要件とは何か。特に、社会福祉士についてその条件を学ぶ。また、ソーシャルワーカーとしての独自性や専門領域の確認をするとともに、職能団体やその団体の活動について知る。
【教科書ページ・参考文献】
P189～198（第１０章第１節）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ソーシャルワークには何故専門性が必要なのかを考察してくること
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第２４回　相談援助専門職の範囲と諸外国の動向
【key words】
専門職はどのような場所でどのような活躍をしているのかを学ぶとともに諸外国の動向も知る。
【授業概要】
社会福祉士等の専門職が活躍する分野を把握する。具体的には、行政機関や民間の施設や組織におけるそれぞれの役割とともに、現在における新たな活躍の場の展開の実態と必要性について検証する。
【教科書ページ・参考文献】
P199～210（第１０章第２節第３節）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
具体的のどのような場所で働いているか確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
240分

第２５回　総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能①　　総合的支援機能
【key words】
今、地域では各関係機関がばらばらに対応するのではなく、一人の人間を包括的にとらえた総合相談体制の構築が求められている。
【授業概要】
これまでのように機関・事務所・相談所等がそれぞれの専門分野で個々に対応していたのでは、一人の人間が求めている包括的な支援が実現しないばかりか、大きなロスとなってしまう。そこで個と地域の一体的な支援機能が必要であり、その具体的な課題や実施について考察する。

	【教科書ページ・参考文献】 P211～220（第１１章第１節） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 地域包括支援センターの役割について学んでくること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第２６回　総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能②　予防機能 【key words】 介護予防に代表される介護になるのを防ぐ対策と共に、重度化することを抑止する支援は人間の生活を支える重要なポイントである。 【授業概要】 何故予防が必要なのかを考察するとともに、その対策としての点から面への展開による課題の見える化により、支援の在り方を考える。また、その効果についても検証する。 【教科書ページ・参考文献】 P221～228（第１１章第２節） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 対処療法と予防療法の差異について考察しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第２７回　総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能③　新し―ニーズへの対応 【key words】 時代によって常にニーズには変化が生じる。特に、現代社会においては複雑、深刻な事例が発生していると言っても過言ではない。そういった新たなニーズに対応する必要がある。 【授業概要】 新たなニーズとして具体的にはどのような課題が生じているのかを確認するとともに、そういった方々に対する支援の方法はラタな対応が求められることが少なくない。そういった意味で、包括的な支援の在り方を考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 P229～240（第１１章第３節） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近なところで発生している新たなニーズについて把握してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第２８回　総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能④　総合的支援機能 【key words】 家庭生活においては重層的な課題を抱えているクライエントも多く、特に一人ひとりは個別的なニーズであっても家族という視点から見ると様々な課題を抱えている例が少なくない。 【授業概要】 家族員の一人ひとりの抱えている課題は少ないが、世帯員としてのニーズは多様であり、その支援を別々のケースワーカーが行っているのでは世帯の自立支援という視点からすると実現は難しい。そうったケースについては他職種連携による総合的な支援が有効であると思慮されることから、そういった面での検討を重ねてみる。 【教科書ページ・参考文献】 P241～259（第１１章第４節第５節） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 どういった職種（専門職）の人々が周囲にいるかを確認しておく 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第２９回　総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能⑤　権利擁護と社会資源開発機能 【key words】 社会福祉サービスの利用方法が措置中心から契約中心へとシフトされ、そこで新たな動きとして利用者の権利擁護額リーズアップされるとともに、新たな社会資源の開発が求められている。 【授業概要】 利用者本位のソーシャルワークを実施するには、何よりも利用者の権利を擁護することも大きな柱となってきた。どういったときに権利が侵害され、どういった方法により権利を擁護するかを学ぶ。また、地域において利用者の援助を行うにはどのような社会資源があるかを確認するとともに、より有用な社会資源開発することもソーシャルワーカーに課せられた役割であることから、その開発方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P260～275（第１１章第６節７節） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 成年後見制度について予め知識を得ておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第３０回　まとめ・プレゼンテーション 【key words】 ソーシャルワーカーが行う相談援助は利用者の生活に直結するものであり、確かな知識を身につけておかなければならない。そこで、これまで学んできたことについて学生自らが発表する。 【授業概要】 利用者主体の援助を行うための理論などについて、基本的ポイントを確認するとともに、新たな対応策としての権利擁護や地域における資源活用と資源開発等について総論的に振り返る。また、具体的にどのような知識・技術等を修得できたか、今後どのように活かしたイカなどについて発表する。 【教科書ページ・参考文献】 ― 【課題・予習・復習・授業準備指示】 この科目において何を学んだか、何が課題として残されているかを自分自身のこととして認識しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の前には、教科書を必ず読んでおいてください。また、学びを深めるためにアクティブラーニングを行うので積極的に参加すること。　私語厳禁。携帯電話は電源を切り机上に出しておかないこ

	と。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。
オフィスアワー	月曜日　13時30分～15時30分
評価方法	授業への取り組み（10%）　小テスト２回（20%）　レポート（30%）後期定期試験（40%）。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座6　相談援助の基盤と専門職』（中央法規）最新版
参考書	適宜、紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県利根福祉事務所において現業員（ケースワーカー）として７年の経験をしている。そこで得られた様々なケース対応について実践的に生かした授業を展開する。更に、県庁において福祉関係各課に所属し、福祉事務所職員や児童相談所職員に対するソーシャルワーク技法の研修講師を務めてきた。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助演習Ⅰ　　授業コード：2171　2172　2173　2174　2175

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	社会福祉コース・児童福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・新家　めぐみ・安留　孝子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉における相談援助の実践は、単なるサービス提供やサービスマネジメントにとどまらず、利用者の全体性やストレングスに着目した援助を行うとともに、家族や近隣、地域など総合的に支援する視点が要請される。本演習では、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点の習得とそれを展開できる力量の習得を目指すための基礎固めとして、「自分を知り、他人の話をよく聴け、ソーシャルワークの価値や倫理を理解する」ことなどについて演習を通して学ぶことを目的とする。また、本演習によって相談援助実習等と理論との融合を目指し、実習において必要な知識・技術の基礎を理解し、説明できることを目的とする。 【到達目標】 ①福祉専門職として、自己覚知することの重要性を理解し、説明できる。 ②価値観の多様性について知るとともに、他者を理解するための方法論を学び、援助技術の活用の仕方を説明できる。 ③言語的及び非言語的コミュニケーションについて理解し、福祉専門職として他者との関わり方を想定して行動することができる。
授業の概要	相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な視点や原則、姿勢、態度についての理解を深め、援助技術として、ソーシャルワークの役割や価値基盤の理解、専門職としての自己覚知、他者理解、基本的なコミュニケーション技法の習得を目指し、ロールプレイやグループワークによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　相談援助演習の意義・目的及び位置づけ　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項 【key words】 演習の概要　相談援助実習規定 【授業概要】 相談援助演習の位置づけを理解し演習に参加することができる。 相談援助実習の規定を理解し、相談援助実習に向かう姿勢の基礎を構築する。 自己紹介を通して自分自身の振り返り、人の話を聞く態度を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 P1～12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の目次と序章を読みと演習のイメージを持つ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	社会福祉の基本的姿勢・定義（IFSWのソーシャルワーク専門職のグローバル定義、社会福祉士の定義等） 【key words】

IFSWのソーシャルワーク専門職のグローバル定義　介護福祉士及び社会福祉士法
バイステックの原則
【授業概要】
ソーシャルワークとは何かグローバル定義を使用し講義する。
介護福祉士及び社会福祉士法の社会福祉士の定義を理解する。
社会福祉を行うための基本的姿勢・原則を講義する。
【教科書ページ・参考文献】
P1～12
日本ソーシャルワーカー連盟HP
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ソーシャルワーク専門職のグローバル定義と日本における展開を読み、特徴を理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　社会資源の理解、社会福祉施設・機関、福祉専門職の把握
【key words】
社会福祉資源　フォーマル　インフォーマル　内的資源
【授業概要】
社会福祉資源とは何かを講義する。
具体的に学生が知っている社会資源を挙げ、身近な社会資源を理解する。
福祉社会資源とは何かを理解し、ソーシャルワーカーとして支援で活用する方法を考察する。
【教科書ページ・参考文献】
P130
【課題・予習・復習・授業準備指示】
クライエントを支援する際になぜ社会資源が必要か考える。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　自己理解　自己概念を学ぶ
【key words】
自己理解　20答法
【授業概要】
対人援助を行う際に自己理解をしなければならないと言われているのはなぜかを講義、理解する。
20答法を利用し自己理解に繋げる。

【教科書ページ・参考文献】
P20～29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを読み予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　自己覚知　ジェノグラム　自分のルーツ家族関係
【key words】
ジェノグラム（家族関係図）　マッピング技法
【授業概要】
社会福祉士としてジェノグラムの見方と書き方を理解する。ジェノグラムを使用することによりクライエントの家族関係を理解することにつながることを理解する。
自分自身のジェノグラムを書き、自分自身のルーツと家族関係を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P72
【課題・予習・復習・授業準備指示】
3世代分の家族構成を調べ書けるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　自己開示、他者理解
【key words】
ジョハリの窓　自己開示　返報性(互恵性)
【授業概要】
自己開示について理解し、自分自身の自己開示と相手からの自己開示をどのようにして受け止めるのかを体験する。
自己開示を行うことによりおこる作用について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P20～29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の事で他の人に話せる内容を考えてくる。その際話せない内容はなぜ話せないのかも考える。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　他者理解　共感と同情の違い
【key words】
共感　同情
【授業概要】
対人援助職としてクライエントを受容し、共感の態度で話を聞くことが重要だが、「共感とは」、「同情とは」を考え、共感の態度で話を聞くとは何か考える。
ワークシートを使用し共感と同情の違いを考える。事例を通して共感の言葉がけを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P20～29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
同情して話を聞いていた場面とその際のやり取りを思い出し書き出してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　多様な価値観
【key words】

		価値観の違い 【授業概要】 価値観の違いは人と人との関係にどのような影響をもたらすのか、人によって価値観が違うこと、それを理解し合うこと、その難しさについてワークを通して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P20～29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分が大切にしている物や考え方などをあげ、なぜ大切にしているのかを考える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	自他理解・自己覚知 【key words】 信頼関係　自己開示　自己覚知　自己受容 【授業概要】 グループ体験学習を行い、感じたこと、気づいたことを話し合うことにより自他理解・自己覚知に繋げる。 自己覚知をその都度、繰り返し行う重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P26～29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ソーシャルワーカーにとって自己覚知が必要な事由を書き出してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	コミュニケーション技法（１）　コミュニケーションの基本 【key words】 コミュニケーション　言語的コミュニケーション　非言語的コミュニケーション　コミュニケーションの分類 【授業概要】 コミュニケーションとは何か講義を行う。 普段何気なくおこなっいてるコミュニケーションを振り返りコミュニケーションとは何かを考える。 言語的コミュニケーションだけを使用し相手に伝える。どのようにすれば伝わるのか、受け取ることができるのか体感する。 【教科書ページ・参考文献】 P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの演習で行った他学生との関わり方を振り返る。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	コミュニケーション技法（２）　言語的コミュニケーションの特徴 【key words】 言語的コミュニケーションの変化　非言語的コミュニケーションの使い方 【授業概要】 人から人に伝えるとき言葉が変化していくことを理解する。 非言語的コミュニケーションを使用し相手に何がどの程度伝わるのかを理解する。 非言語的コミュニケーションの観察 【教科書ページ・参考文献】 P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 言語的コミュニケーションで伝わりやすい内容を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	コミュニケーション技法（３）　言語的コミュニケーション　コミュニケーションスタイル 【key words】 自分のコミュニケーションスタイル 【授業概要】 三人一組で、話手、聞き手、観察者になり話をする。普段の会話から自分自身のコミュニケーションスタイルを理解し、専門職としてクライエントとコミュニケーションをとる際注意する点を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の癖や話し方について考える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	コミュニケーション技法（４）　非言語的コミュニケーションの特徴 【key words】 非言語的コミュニケーション 【授業概要】 非言語的コミュニケーションだけを使用し話し合いを行う。何がどのように伝わるのかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活の中でどのような非言語が使用されているのか考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	コミュニケーション技法（５）　非言語的コミュニケーションの観察 【key words】 言語的コミュニケーション　非言語的コミュニケーション

	伝わり方　伝え方　聴き方 【授業概要】 これまでの演習を振り返り言語的コミュニケーションの特徴と非言語的コミュニケーションの特徴を理解する。 人と人の間で行われるコミュニケーションは言語・非言語両方が補完しあい意思の伝達をしている事を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　まとめ 【key words】 社会福祉士　社会資源　自己覚知　コミュニケーション 【授業概要】 これまでの演習Ｉを振り返り社会福祉士として身につけておく基本事項を理解する。利用者理解を深めるために復習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P1～P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを読み、講義内容を振り返る。 今までの演習で考えたことを振り返り、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	(1)履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加すること。無断欠席、無断遅刻はグループワークを乱すものであることを自覚すること。また、無断欠席、無断遅刻は実習に多大な影響を及ぼすことから、実習出来なくなる場合がある。 (2)学習上の助言 福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気付くことが重要である。 (3)予備知識や技能 「相談援助の基盤と専門職」と深い関わりがある科目であることから、講義内容を十分に理解することが重要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	演習で学んだ内容や援助技術等を意識しながらボランティア活動に参加することが重要である。また、ボランティア活動を通して自己理解を深め、あるいは他者理解に努め、その都度振り返ることが求められる。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉シリーズ21　ソーシャルワーク演習『相談援助演習』弘文堂
参考書	社会福祉六法（出版社は問わない）、社会福祉用語辞典（「相談援助の基盤と専門職」にて指定されたもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉心理学　　授業コード： 3001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
齊藤　和良			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　高齢者、障害者、乳幼児等の社会的弱者やその福祉現場の仕事に携わる福祉専門職について理解を深め、人道的な支援や受容・共感的態度を身につける。 〔到達目標〕 ①家庭における児童の問題や青少年の問題行動について説明できる。 ②福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ③福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 ④虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。
授業の概要	福祉心理学は、社会福祉の対象となるすべての人々とその支援者のウエルビーイング（well-being）のために、心理学的な手法を用いて支援していくことを探求する学問である。本授業では、発達及び加齢や障害の概念を学習することから始め、当事者と家族の福祉的な問題そして福祉従事者の抱える問題について整理し、これらの福祉心理学的な対応について学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（福祉心理学とは　福祉対象者への心理支援の必要性とあり方　－　社会福祉の展開と心理支援） 【key words】 　社会福祉　ウェルビーイング　ノーマライゼーション 多職種連携（IPW）　福祉心理学 【授業概要】 　社会福祉の展開（福祉の定義、歴史、理念と現在の施策の概要）　心理支援の必要性（福祉心理学の概要と生活支援の重視） 【教科書ページ・参考文献】 　教科書 p.11 - p.22　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.23 - p.38）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「福祉心理学の対象」を記入する。
	第２回	生活を支える心理支援 【key words】 　自立支援　就労支援　社会的養護　里親委託　当事者運動　コミュニティ・ケア 【授業概要】 　福祉と人々の生活　福祉の制度と心理職　児童福祉（子ども家庭福祉と子育て）　障害を持った人たちの支援　生活困窮者の生活支援　高齢者の生活支援　不登校・ひきこもりの福祉的支援　地域福祉における心理支援　予防的支援と公認心理師の役割 【教科書ページ・参考文献】 　教科書　p.23 - p.38.　プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.39 - p.50）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「福祉心理学の役割」を記入する。
	第３回	暴力被害者への心理支援

【key words】
DV（ドメスティック・バイオレンス）　虐待　被害者支援　トラウマケア　暴力被害
【授業概要】
夫婦間暴力　DVと子どもの虐待　その他の暴力
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p.39 - p.50　プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.39 - p.50）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「DVについて」を記入する。

第４回　高齢者への心理支援

【key words】
高齢者福祉関連法　地域ケア包括システム　新オレンジプラン　認知症（中核症状・周辺症状）　認知機能検査
【授業概要】
高齢者の現状と生活課題　高齢者福祉関連の法律と制度　高齢期の認知症　高齢者福祉領域における心理的支援の重要性
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p.51 - p.66　プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.67 - p.82）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「認知症について」を記入する。

第５回　障害・疾病のある人への心理支援

【key words】
乳幼児検診　発達障害　自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder: ASD)　発達障害者支援法　アウトリーチ
【授業概要】
障害・疾病のある人への福祉的支援と心理支援　事例から見る福祉心理学の実践　本人への発達支援と親子関係の調整　福祉サービス等の併用と効果　事例のまとめ
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p.67 - p.82　プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.83 - p.98）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「障害の概念について」を記入する。

第６回　生活困窮・貧困者への心理支援

【key words】
貧困　生活保護　ホームレス
【授業概要】
生活困窮・貧困の背景と問題　生活困窮・貧困の実態と心理支援　公認心理師の役割と期待
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p.83 - p.98　プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.99 - p.112）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。

第７回　福祉心理学的心理支援の実際 － 児童虐待への心理支援の実際

【key words】
児童虐待防止法　児童相談所　ネグレクト　児童福祉施設　児童心理治療施設　PTSD（心的外傷後ストレス障害）
【授業概要】
子どもの虐待相談件数の増大　児童虐待問題における児童相談所の役割　児童相談所における心理診断・支
援　児童福祉施設入所や里親委託時の支援　地域で家族を支援する、子どもは地域の一員として育つ
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p.99 - p.112　プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.113 - p.127）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。

第８回　子どもと親への心理支援の実際

【key words】
子育て支援　ひとり親家庭　婦人相談所　母子生活支援施設　児童家庭支援センター
【授業概要】
子育て支援　ひとり親家庭等の支援　要保護・要支援ケースへの支援　社会的養護における子どもと親への支援
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p.113 - p.127　プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.128 - p.139）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。

第９回　認知症高齢者の心理支援の実際

【key words】
アルツハイマー型認知症　認知機能障害　グループホーム　ユニットケア
【授業概要】
認知症の定義　認知症における症状の特徴とさまざまな心理問題　認知症高齢者の心理支援の実際
【教科書ページ・参考文献】
教科書 p.128 - p.139　プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.140 - p.152）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入す

	る。 第１０回　ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際 【key words】 社会的孤立　家族支援　多様性 【授業概要】 ひきこもりの心理支援　自殺予防の心理支援 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.140 - p.152　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.153 - p.167）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。 第１１回　精神障害者への心理支援の実際 【key words】 精神保健福祉法　障害者総合支援法　障害受容　権利擁護 【授業概要】 精神障害者を支える制度とサービス　精神障害者の困難さの理解　クラブハウス活動　就労に至ったAさんの事例　公認心理師に必要な基本姿勢 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.153 - p.167　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.168 - p.180）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。 第１２回　家族・職員への心理支援の実際 【key words】 介護負担　家族支援 【授業概要】 福祉対象者の家族への心理支援　福祉施設職員等への心理支援 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.168 - p.180　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.181 - p.192）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。 第１３回　福祉・介護分野での多職種協働（IPW）と心理職の位置づけ 【key words】 ケアマネージメント　専門職　多職種協働（IPW） 【授業概要】 多職種協働に関わる専門職とその役割　多職種協働とチームアプローチ　多職種協働における公認心理師の　役割 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p.181 - p.192　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.193 - p.204）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。 第１４回　IPW実践事例報告 【key words】 療養病床　地域包括ケアシステム　ケアプラン　グループケア　情報共有　介護職員　生活の質（QOL） 【授業概要】 療養病床でのIPWの実際と工夫　特別養護老人ホームでのIPWの実際と工夫　児童養護施設でのIPWの実際 と工夫　障害者生活介護施設でのIPWの実際と工夫　母子生活支援施設でのIPWの実際と工夫 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p.193 - p.204　プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。 第１５回　福祉心理学のまとめ 【key words】 福祉心理学の対象　虐待　いじめ　認知症　発達　障害の概念 【授業概要】 福祉心理学のまとめと試験対策 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉心理学全体に対する復習と期末試験の対策。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・虐待を始めとして、乳幼児、高齢者、障害者に関する問題について、各種メディア（新聞やテレビ、インターネットなど）で日常的に報道されているニュースに対して常に問題意識を持つように、主体的に捉えていく態度を日頃から養うこと。 〔受講のルール〕 ・事後学習として教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。 ・授業には、積極的に参加すること。 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード

授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（70%）と課題への積極的な取り組み（30%）でもって総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	中島健一編　公認心理師の基礎と実践　第17巻 福祉心理学　：遠見書房（2018/8/19）
参考書	佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著　福祉心理学総説　田研出版　(2013/1/25) 適宜、授業時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 福祉施設（障害者）に指導員として勤務した経験をもとに、福祉領域での心理臨床的な関わりの必要性や心理的支援の在り方について講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉史　　授業コード： 3011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉の歴史的変遷を見ながら、現代に至るまでの歴史的事実を学ぶ。 【到達目標】 日本および各国の福祉史を見ることで、現在の日本の福祉（社会保障）の問題点を探れるようになる。
授業の概要	日本および主要各国の福祉の歴史的事実、福祉思想の変遷を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 ＜key words＞ 講義の受け方 ＜授業概要＞ 講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する ＜教科書＞ 目次 【授業概要】 ＜授業概要＞ 講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必ず教科書を読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第２回　イギリスの社会福祉の歴史的変遷１　社会的状況の変遷 【key words】 ＜key words＞ 封建社会、救貧 ＜授業概要＞ ＜教科書＞ 【授業概要】 中世イギリスの社会的背景から、救貧の芽生えについて概観する 【教科書ページ・参考文献】 １１０－１１３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第３回　イギリスの社会福祉の歴史的変遷２　救貧法の制定
【key words】
＜key words＞
救貧法、
＜授業概要＞

＜教科書＞

【授業概要】
エリザベス救貧法につながる社会情勢の変化を概観する
【教科書ページ・参考文献】
１１４－１１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第４回　イギリスの社会福祉の歴史的変遷３　エリザベス救貧法を中心に
【key words】
＜key words＞
エリザベス救貧法
＜授業概要＞

＜教科書＞

【授業概要】
エリザベス救貧法について、その価値観について知る
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第５回　イギリスの社会福祉の歴史的変遷４　近代の社会福祉について
【key words】
＜key words＞
産業革命、工場法、新救貧法

【授業概要】
＜授業概要＞
産業革命等、社会状況の変化に伴う、救貧法の変容をたどっていく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１１６－１２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第６回　イギリスの社会福祉の歴史的変遷５
【key words】
＜key words＞
大戦、ヘヴァリッジ報告

【授業概要】
＜授業概要＞
近代から現代に至る福祉構造の変化を捉えていく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１２６－１３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第７回　日本の社会福祉の歴史的変遷１　封建社会から近代社会へ
【key words】
＜key words＞
封建社会、明治維新、救貧制度

【授業概要】
＜授業概要＞
封建社会から明治維新を経て近代国家としての救貧制度の変遷を見る。
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
６－９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様

【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第８回　日本の社会福祉の歴史的変遷２　恤救規則を中心に

【key words】
＜key words＞
恤救規則

【授業概要】
＜授業概要＞
恤救規則について、制定経緯と内容を時代的背景を基盤に見ていく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１０－
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第９回　日本の社会福祉の歴史的変遷３

【key words】
＜key words＞
社会福祉の変容
＜授業概要＞
恤救規則以後の社会保障の変遷を概観する
＜教科書＞
１４－１６

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　日本の社会福祉の歴史的変遷４　戦後の社会福祉の変遷

【key words】
＜key words＞
大戦後の復興、現代社会福祉の芽生え

【授業概要】
＜授業概要＞
太平洋戦争を挟んだ社会変容に伴う福祉の変化を見る
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１８－２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第１１回　日本の社会福祉の歴史的変遷５

【key words】
＜key words＞
現代の福祉、グローバル

【授業概要】
＜授業概要＞
現代社会につながる福祉システムの構築を概観する
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
２６－３７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第１２回　アメリカの社会福祉の歴史的変遷１　世界恐慌からの社会福祉の変遷

【key words】
＜key words＞
自助の伝統

【授業概要】
＜授業概要＞
アメリカの社会福祉の基盤である「自助」についてみる
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１３２－１３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

	第１３回　アメリカの社会福祉の歴史的変遷２ 【key words】 ＜key words＞ 社会保障法、ニューディール政策 【授業概要】 ＜授業概要＞ 社会的醸成から、アメリカ独自の社会保障システム構築を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 同上 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様 第１４回　アメリカの社会福祉の歴史的変遷３　　現代の社会福祉の状況 【key words】 ＜key words＞ 現代社会福祉の基盤 【授業概要】 ＜授業概要＞ 現代社会福祉の基盤の構築をリードした施策の流れを知る。 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 同上 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様 第１５回　まとめ 【key words】 【授業概要】 まとめ 質疑応答 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習復習を行うこと ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで必要に応じて伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業の中での質問等での参加など取り組み状況等　２０％
教科書	清水・朴　編著「よくわかる社会福祉の歴史」　ミネルヴァ書房
参考書	授業のなかで適宜伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 児童相談所、身体障害者更生相談所、児童自立支援施設 （児童心理司、児童福祉司、SV、言語聴覚士等） アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　福祉行財政と福祉計画　　授業コード：3022

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
新木　惠一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行政の組織と財政について知ることは、福祉専門職である社会福祉士や福祉従事者にとって必要不可欠なことである。また、従来の対処療法的福祉サービスから計画に基づいた福祉サービスを実施することの効果や、住民主体の福祉を展開するため福祉専門職として必要な知識を推考し修得する。 【到達目標】 ①福祉の法制度の変遷と現状及び福祉行政の骨格や組織と社会福祉基礎構造改革について理解する。②福祉推進の基礎である財政の動向と利用者負担等について考察する。③福祉計画の目的・理論・技法について実践例を考察しつつ住民主体の計画とは何かを理解する。
授業の概要	福祉の制度や法制度の展開について時代背景と比較しつつ理解を深める。さらに、福祉サービスの基盤となる福祉行政の組織や財政との関連についても考察する。また、将来の動向を見据えた福祉サービスを推進するために何故福祉計画が必要か、計画の主体となるのは「行政組織なのか住民なのか」などについて考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業の進め方等概説）　福祉と制度 【key words】 　人間の尊厳の保持、利用者本位、自立支援、住民参加、地域福祉の推進、情報公開 【授業概要】 授業の進め方や社会福祉の基本的な事項である福祉を実現する主体や機能、また社会福祉のとらえ方と変化する釈迦福祉の概念等について歴史的変遷などから学ぶ。さらには、我が国の社会福祉の基本法である「社会福祉法」について基本的部分について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P1～10 【課題・予習・復習・授業準備指示】 憲法に基づく「生存権」や福祉サービス推進の基本となる権利・義務等について学んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第２回	福祉の法制度の展開 【key words】 　戦後の福祉と福祉三法の成立と福祉六法体制の確立 【授業概要】 戦後の社会福祉制度の成立期、拡充期、見直し期に至る経緯について福祉六法の成立過程とともに基本的なことについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P11～20 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		戦後の日本の経済状況の動向を把握しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	社会福祉の現状と福祉改革の概要 【key words】 少子高齢化の進展と社会福祉サービスの変化により計画的な福祉行政の推進が求められる 【授業概要】 従来の社会福祉制度の行き詰まりから福祉改革に至る経緯、その改善のための福祉計画の登場と各福祉計画の基本的事項について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P21～34 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近な生活の中から、新たな福祉ニーズについて考察しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第４回	行政の骨格と法制度 【key words】 三権分立と国や地方自治体の役割、社会福祉の法制度について学ぶ 【授業概要】 福祉行政を推進するに当たり、国や都道府県、市町村の役割と共に、新たな行政を推進するために行財政改革が求められている。そういった中で法制度を理解することは重要なポイントである。 【教科書ページ・参考文献】 P35～46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 地方分権とはどういったことかを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第５回	福祉行政の組織と社会福祉基礎構造改革 【key words】 国と地方公共団体とは対等な立場となる 【授業概要】 国と地方公共団体の役割とともに、その組織や実施機関の実態を知ることは社会福祉推進に当たって重要なことである。そこで、それぞれの組織実態や課題について学ぶ。また、措置から契約へと福祉サービス提供体制も大きく変化しているが、その考え方なり方向性を考察する。 【教科書ページ・参考文献】 P47～64 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近な市町村行政の組織について調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 240分
	第６回	福祉財政 【key words】 福祉サービスを行うためには財政の確保が絶対条件である 【授業概要】 福祉サービスの推進主体となる国や地方公共団体は必要な財源を確保しつつサービスを推進しているところである。そこで、その財源構成や推移等について理解することが今後の社会福祉推進に欠かせないことから 財政についての基本的なことを学ぶ。さらには民間資金についてや費用負担についても学んでおく必要がある。 【教科書ページ・参考文献】 P65～80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 厚生労働省や地方公共団体の市組織や業務について調べてみる 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第７回	福祉の相談過程と相談体制 【key words】 福祉サービスを提供するには制度・組織・人材・場所・財源がなければならない 【授業概要】 社会福祉基礎構造改革に基づき住民の自立を支援することが大きな柱となった。そこで、その実現のためには適切な情報の提供などにより福祉サービスの実施にあたらなければならない。そこで、重要なのが相談体制の適切な構築であり、その実態や相談にあたる専門機関について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P81～95 【課題・予習・復習・授業準備指示】 地域にどういった福祉ニーズがあるかを考察しておく 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第８回	地域の相談システムと専門職 【key words】 福祉サービスの提供と相談機関や専門職を知る 【授業概要】 住民が適切な福祉サービスを利用するには的確な情報を得ることが必要であり、そのための相談

		機関にはどのようなものがあるのか。また、そこで情報提供を行う専門職にはどのような職種があるかを知る。 【教科書ページ・参考文献】 P96～106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 専門職としての資格について調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	福祉計画の目的・意義、福祉援助の現場から福祉計画へ 【key words】 計画はなぜ必要か。その策定の留意点、計画の適切な管理とな 【授業概要】 福祉計画が行政の中でどのような役割を担っているのか。また、計画策定のために社会福祉士としてどのような姿勢で係わるのか。計画策定での推計や計画管理について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P107～120 【課題・予習・復習・授業準備指示】 介護費用の形成の三つのモデルを咀嚼しておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１０回	福祉計画の基本的視点、計画過程と留意点 【key words】 福祉計画は住民主体と専門職の参加が重要である 【授業概要】 福祉計画の目的は何か。計画策定の主体は誰なのか。福祉現場の意見や将来推計の重要性と福祉計画。更には、計画のサイクル的見直しと計画への住民参加の重要性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P121～120 【課題・予習・復習・授業準備指示】 計画主体とは何かを整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第１１回	福祉計画におけるニーズ把握と評価 【key words】 ある姿の解明とあるべき姿の究明 【授業概要】 福祉計画の日常的視点や非日常的な視点、更には、社会体制における計画の差異や計画の概念、および、計画の主体としての係わり方の留意点について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P121～139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉計画とその技法について調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第１２回	福祉計画におけるニーズ把握と住民参加 【key words】 ニーズ把握と評価、住民参加は福祉計画の原点 【授業概要】 ニーズとは何か。ニーズの類型はどのように分類するのか。また、ニーズの把握方法はどのように行うのか。策定された計画の評価も重要なポイントである。更には、住民参加の意義と具体的な手法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P140～162 【課題・予習・復習・授業準備指示】 住民参加がなぜ求められるのかを考察しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第１３回	福祉計画の実際（事例研究の視点と老人福祉計画・介護保険事業計画） 【key words】 福祉計画策定には利用者を含む住民参加とともに住民合意が必要 【授業概要】 福祉改革の分析と枠組み。事例研究の視点。更には、各計画の根拠とその概要や何故策定が必要になったかの背景についても考察する。ここでは高齢者に関する計画について検証する。 【教科書ページ・参考文献】 P163～194 【課題・予習・復習・授業準備指示】 具体的事例を参考に計画全般についての必要性や方向性について考察すること 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第１４回	福祉計画の実際（障害者計画・障害福祉計画、次世代育成支援行動計画） 【key words】 障害者の自立と共生　少子化対策を柱とした子育ての社会化

	【授業概要】 障害者福祉計画に至る国際的な動きとともに、国内における計画策定についての基本的視点等について学ぶ。更に、次世代育成支援行動計画に至る基本的な方向性などについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P195～244 【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの計画の特徴や法的根拠を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１５回　福祉計画の実際（地域福祉計画）　授業のまとめ 【key words】 福祉のまちづくりと地域の社会資源の活用・開発 【授業概要】 地域福祉計画の基礎となる考え方は「福祉分野の統合」「公民協働による福祉推進」など、様々な生活課題への対応が求められるとともに、地域老いては新たな福祉ニーズが発生しているそれらの原因と対策を住民主体となって策定している状況を学ぶ。　また、教科のまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 P245～257 【課題・予習・復習・授業準備指示】 地域における福祉力や社会資源について予め整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。私語厳禁。携帯電話は電源を切り机上に置かないこと。教科書で予習・復習を行うこと。不明な単語等については辞書等で調べて授業に臨み、より質の高い授業展開に学生自ら取り組むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	配布資料を整理するとともにノートに学習状況を記録すること。また、関係施設や行政機関等を訪問し、その状況をノートに記録すること。ノートは定期試験前に提出を求める。
オフィスアワー	月曜日　午後13：30～15：30
評価方法	定期試験80%。　授業への参画状況による評価20%を基本とする。
教科書	新・社会福祉士養成講座「福祉行財政と福祉計画」（第５版）中央法規
参考書	社会福祉用語辞典（ミネルヴァ書房）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県健康福祉部において関係法規及び予算等の企画立案、各種福祉計画の策定にかかわる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学研究法　　授業コード：3051

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
長谷川　貴之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 心理学で用いられている研究法の共通する基礎的知識・考え方を理解させる. 【到達目標】 実験法・調査法・観察法・面接法の概容を理解させる. 研究を「公表する」ときのルールを理解させる.
授業の概要	本講義では，心理学研究入門としての技能・技術の最低限の基盤知識を紹介し，基本的な考え方を理解してもらう．更に，心理学における研究法である実験法・調査法・観察法・面接法の概要を紹介し，特徴を理解してもらう．また，研究結果を公表するということに関して，客観的・倫理的な観点からの理解を共有してもらう.

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス・心理学とは何か 【key words】 心理学　心　意識現象　意識　行動　実証的科学 【授業概要】 心理学の定義，心理学を研究することの難しさ，心理学を研究することの面白さ. 【教科書ページ・参考文献】 pp. i～iii, v, 1～7 (序章) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える. 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に.
	第２回	心理学のなりたち：心理学史 【key words】 アリストテレス　還元主義　ダーウィン　進化論　比較心理学　ヴント　近代心理学　内観法　ゲシュタルト心理学　行動主義　フロイト　精神分析　社会心理学　認知心理学　バンデューラ　社会的学習理論　公認心理士 【授業概要】 心理学と哲学，心理学と医学，心理学と生物学，近代心理学の創始とその発展，第二次大戦後の心理学，日本の心理学. 【教科書ページ・参考文献】 pp. 10～24 (第1章) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える. 【予習復習に必要な想定時間】

予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第３回　研究の準備：心理学研究の基礎知識

【key words】
概念　定義　概念的定義　操作的定義　妥当性　信頼性　誤差　系統誤差　偶然誤差　相関　因果　共変　変数　独立変数　従属変数　操作　剰余変数　交絡　統制
【授業概要】
概念的定義と操作的定義，信頼性と妥当性，相関と因果，さまざまな変数.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 25～36（第2章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第４回　研究の準備：先行研究の探し方

【key words】
J-STAGE　メディカルオンライン　CiNii Articles　PsycARTICLES　PsycINFO　KAKEN（科学研究費助成事業データベース）
【授業概要】
リサーチ・クエスチョン，巨人の肩の上に立つということ，先行研究レビューの意義，先行研究の収集法：概論，心理学の研究論文に触れる，心理学の研究テーマを知る，さあ，歩きはじめよう.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 37～52（第3章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第５回　研究の基礎：研究法概説

【key words】
実験法　統制群　要求特性　実験者効果　調査法　質問紙　尺度　評定法　内的一貫性　時間的安定性　オンライン調査　観察法　自然観察　実験的観察法　参与観察法　逸話記録法　行動目録法　生態学的妥当性　面接法
【授業概要】
実験法，調査法，観察法，面接法.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 53～65（第4章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第６回　研究の基礎：人間を対象とする測定における諸問題

【key words】
参加者効果　要求特性　社会的望ましさ　デセプション　デブリーフィング　キャリーオーバー効果　実験者効果　二重盲検法　努力の最小限化　IMC　生態学的妥当性
【授業概要】
参加者効果，実験者効果，努力の最小限化，生態学的妥当性との両立.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 66～78（第5章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第７回　データの中身を知る：記述統計

【key words】
変数　尺度　測定　比率尺度　間隔尺度　順序尺度　名義尺度　心理尺度　度数分布　ヒストグラム　代表値　平均　外れ値　中央値（メディアン）　最頻値（モード）　散布度　分散　標準偏差　四分位範囲
【授業概要】
数値データの利点，尺度，記述統計.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 79～90（第6章の前半）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第８回　データの中身を知る：記述統計／データから対象を見通す：推測統計

【key words】
標準化　標準得点　z値　偏差値　相関　散布図　相関係数　連関　疑似創刊　選抜効果　母集団　標本（サンプル）　推測統計　無作為抽出（ランダムサンプリング）　サンプルサイズ　標本統計量　標準誤差
【授業概要】
記述統計，推測統計とは，標本抽出に伴う結果の変動.

【教科書ページ・参考文献】
pp. 90～101（第6章の後半，第7章の前半）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第９回　データから対象を見通す：推測統計
【key words】
統計的仮説検定　帰無仮説　有意水準　有意確率（p値）　第１種の過誤　第２種の過誤　検定力　効果量　検定力分析　ベイズ統計学　事前確率　尤度　事後確率　事前分布　事後分布　ベイズファクター
【授業概要】
統計的仮説検定，統計的仮説検定における2種類の誤り，効果量と検定力分析，ベイズ統計学の基本的考え方．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 102～111（第7章の後半）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１０回　研究倫理：研究者として「なすべきこと」
【key words】
インフォームド・コンセント　デセプション　デブリーフィング　倫理審査　ＩＲＢ
【授業概要】
エシックスの基本的な考え方，最小限のコストやリスク，説明責任，個人情報・データの保護，成文化されたエシックス，倫理審査
【教科書ページ・参考文献】
pp. 113～124（第8章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１１回　研究倫理：研究者として「やってはいけないこと」
【key words】
問題のある研究実践　仮説の後づけ（HARKing）　後知恵バイアス　偽陽性　確証バイアス　p値ハッキング（p -hacking）　出版バイアス　「お蔵入り」問題
【授業概要】
モラルとしての研究倫理，研究者が陥るかもしれない「地獄」，仮説の後づけ（HARKing），p値ハッキング（p -hacking），蔓延するQRPs.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 125～134（第9章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１２回　研究倫理：モラル違反を抑止するシステム
【key words】
再現可能性　透明性　開放性　付録　事前登録制度
【授業概要】
研究結果の再現可能性，心理学界で起こった問題，システムの整備，心理学研究の「パラダイムシフト」．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 135～148（第10章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１３回　研究成果の公表：心理学論文の書き方・その１
【key words】
表題　問題と目的（序論）　方法　結果　考察　引用文献　要約　付録　テクニカル・ライティング
【授業概要】
論文のアウトライン，論文の文章表現．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 149～159（第11章の前半）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１４回　研究成果の公表：心理学論文の書き方・その２

	【key words】 アメリカ心理学会のマニュアル　執筆・投稿の手引き（日本心理学会）　心理科学実験実習 レポート作成 チェックリスト（関西学院大学心理学研究室） 【授業概要】 図表，全体的なチェック，心理科学実験実習 レポート作成 チェックリスト. 【教科書ページ・参考文献】 pp. 160～170（第11章の後半） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に. 第１５回　よりよい心理学研究のために 【key words】 確実性　意外性　学術的価値　社会的価値 【授業概要】 「研究」するということ，よい研究とは何か，心理学研究への船出. 【教科書ページ・参考文献】 pp. 171～176（終章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足して，学期末試験に備える. 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に.
受講生に関わる情報および受講のルール	コメントカードの提出を義務付ける.
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習・復習にかける時間は，３時間を目安にし，教科書の該当部分は必ず事前に通読しておく.
オフィスアワー	原則として，毎回授業終了後に質問・学習相談等に応じる.
評価方法	学期末試験が約６割，コメントカードが約４割．合計で60%以上が合格点.
教科書	三浦 麻子（監修・著）『なるほど！心理学研究法』北大路書房　2017
参考書	講義の中で適宜紹介する.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学習心理学（学習・言語心理学）　　授業コード：3061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
趙　成河			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学習・言語心理学を学ぶための基礎知識習得を目的とする。 【到達目標】 レスポンデント条件付け・オペラント条件付け・観察学習、初期の言語発達に関する概念説明ができる。 学習心理学、言語心理学に関連した専門用語、学習のプロセス等に関する知識を得ることができる。
授業の概要	本講義では、初学者が対象であることを念頭に、学習心理学で見出された研究の解説を体系的に行う。内容としては、学習の基本的メカニズム、レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、概念学習、言語発達、社会性の発達などを取り上げる。理解をより深めるために、演習および小テストの実施を予定している。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　心理学における学習とは 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　学習心理学における研究法 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　行動の観察と記録 【key words】 【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　行動の測定とグラフ化

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　強化

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　消去

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　分化強化

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　弱化

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　刺激性制御

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　レスポンデント条件づけ

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　先行子操作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　ことばの発生 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　言語の発達 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　コミュニケーションの発達 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　まとめ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１６回　到達テスト 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 小テストが２回予定される。講義の最後に授業内容に関するコメントカードを作成して提出することが求められる。 〔受講のルール〕 配布資料を冊子としてまとめておくこと。理解度把握のため、資料持参のチェックが行われる場合がある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に配布した資料は各自で復習すること。
オフィスアワー	授業開始２週目に指示する。
評価方法	コメントカード（20%）、小テスト１（20%）、小テスト２（20%）、到達テスト（40%）、授業内発言（追加点）
教科書	実森 正子 ・ 中島 定彦（著） 学習の心理―行動のメカニズムを探る（コンパクト新心理学ライブラリ 2） サイエンス社 2000
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 発達心理学　　授業コード：3071

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人は人として生きるように独自の準備をして生まれてくる。しかし、ただ生まれただけでは、「ヒト」として普通に生きていくことは不可能である。人は人として生きるために、誕生後に多くの変化を遂げることを前提に生まれてくるのである。しかも、その変化は一人で達成できるものではなく、親を代表とする周囲の環境との相互作用において、はじめて成しうる形になっている。本講義では、こうした人の生涯（Life）の中で起こる絶え間ない変化を”発達”として捉え、そこに潜む発達のメカニズムを学ぶことを第一の目的とする。 また、その理解を通して、人が経験する出来事や変化が、人生全体（生涯発達）においてはどのような意味を持つのかについて、その影響の仕方を理解する感性と力を磨いてもらいたい。その力が、今目の前にいる人に対してどのような支援が必要なのかを適切に理解する前提となるからである。 【到達目標】 ①人の発達的変化における心理的過程とその基本的なメカニズムを理解できる。 ②人の発達的変化を踏まえたうえで、各発達段階において顕著になる心理的特性を理解できる。 ③生涯発達の枠組みから見た各段階における心理的変化の意味や意義を理解し、各段階で人が背負う発達上の課題を説明することができる。
授業の概要	この授業では基本的に教科書のトピックに即しながら、生涯発達心理学の視点に立って各発達段階の一般的な心理的特性と発達的変化の過程を学習する。さらに、提示する参考資料を基に学習したことを応用し、具体的な人物の心理や発達的変化の意味や意義を考察し、学習の理解を深めていく。各自、“人”という存在に興味を持ち、積極的に人とその人生を探究する気持ちを持って受講してもらいたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　ヒトとして生まれるということ 【key words】 【キーワード】 ・進化、遺伝と環境、シュテルン、輻輳説、ジェンセン、環境閾値説、ルクセンブルガー、ライフサイクル、エリクソン、心理社会的危機 【授業概要】 ・科目のオリエンテーションを行う。1年間をかけながら「発達に関する心理学」を学ぶ見通しについて説明する。そして、人の連続的な変化の様相を「発達」としてとらえる見方について解説する。 ・また、あらゆる人が、誰かの子として生まれ、そこで育ち、どこかの社会に入り込み、やがて死と向き合いながら老いていくという基本的なライフサイクルを進む“旅”をしているというイメージについて考え、今後の学習課題のイメージを広げ、共有していく。 （予定ワーク「生まれてから死ぬまでの一生涯をいくつかの時期に分けるとするならば、どのように分けるか。また、そのように分けた理由を説明できるようにしておくこと。」） 【教科書ページ・参考文献】

・教科書1－7ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
①「ヒトの一生」をイメージしＡ４用紙に絵で表現する。余白に解説を加えること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２回　発達するとはどういうことか？

【key words】
発達観、寿命、バルテス、生涯発達、獲得と喪失、可塑性、個体発生、系統発生、ドーキンス、環境適応、社会脳仮説、
【授業概要】
・はじめに発達観の変化を考える。人の寿命は他の動物と比較して非常に長くなっているが、その変化がもたらすことを通して、ヒトの発達の独自性について考えていく。
・また、上記のように、大人になるまでが発達ではなく、一生の変化のあり方を考えるのが生涯発達心理学であるということを理解する。
・さらに、遺伝子の世代間伝達と文化の世代間伝達について、ドーキンスの考え方について紹介し、生物の変化の基本原理である、「環境適応」の考え方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書8-16ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ドーキンスについて調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第３回　ヒトの発達の独自性とは　子ども時代がなぜ長い？

【key words】
自己意識、共同注意、ポルトマン、離巣性、就巣性、生理的早産、祖母仮説、ブロンフェンブレンナー、生態学的システム理論、遺伝子型、表現型、双生児法、共有環境、行動遺伝学、
【授業概要】
・ヒトの発達の大きな特徴は、子ども期の長さにある。それが、どのような意味や意義をもっているのかを、他の動物との比較もしながら、学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書18-27ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
行動遺伝学について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　生命の芽生えから誕生まで

【key words】
胎児、胎芽、感覚、出生前診断、トリソミー、新優生学
【授業概要】
・ヒトの「胎児期」の発達状態についてまず学習する。ヒトとしての発達は受精直後からスタートするといえるが、時にはその時点での環境や発達上の問題が大きく人生を左右することを理解する。また、生まれた時に“本能的にできる”こと（原始反射・原始行動）を学び、それを備えて生まれてくることの意味を考えていく。
・後半は、出生をめぐる現代的な問題として、新型出生前診断がもたらす影響について検討し、「新優生学」について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書28-41ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
範囲が広いので、あらかじめ上記部分を熟読し、用語も調べておくこと。新優生学については、大きな問題でもあるので、興味を持って、授業後にも学びを広げてほしい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　見て・さわって・感じる①　赤ちゃんがとらえる世界

【key words】
タブラ・ラサ、選好注視法（ファンツ）、馴化ー脱馴化法、期待背反法、原始反射、原始行動、視覚的断崖（ギブソン）、運動発達の順序、感覚協応、発達性協調運動障害
【授業概要】
・人が生まれた時にはどのような状態であるのか、また、歩き話せるようになるまでの1年程度の間にどのような発達を遂げていくのかについて概観する。また、人が特殊な未成熟状態で生まれてくることを確認し、それが親子の関わりを育むあり方について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書42-50ページ（抜粋）　プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
言葉がわからず運動ができない赤ちゃんの心について研究する方法について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第６回　見て・さわって・感じる②　赤ちゃんがとらえる世界

【key words】
表象、対象の永続性、サビタイジング、顔の認知、ピアジェの認知発達理論、シェマ、同化、調節、均衡化、操作、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、脱中心化、三つ山問題
【授業概要】
・子どもが感じている感覚的な世界と大人の感じる世界の違いについて、ピアジェの理論を通して学んでいく。また、そこに見られる「子どもらしさ」というものがもたらす認知の特徴について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書43-53ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ピアジェとその理論について予習しておくこと。
・子どもらしい認知の世界がうまく表現されている映画、小説、アニメ、絵本などを調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

	第７回	他者との関係性を築く① 【key words】 ・ベビースキーマ、共鳴動作、生理的微笑、社会的微笑、デュシェンヌ・スマイル、ボウルビィ、愛着（アタッチメント）、ハーロウ、エインズワース、ストレンジシチュエーション法、Ａ～Ｄ型 【授業概要】 ・赤ちゃんとして生まれた時の特徴を踏まえ、それらが引き出す大人の反応を理解する。また、誕生と同時に、それぞれの個性を持った赤ちゃんと親の間に、強い関係性が生じるが、それらの型がどのように発達に影響を及ぼしていくかについて、新規場面法の実験を通して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書54-62ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 愛着についてよく調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第８回	他者との関係性を築く② 【key words】 内的作業モデル、愛着障害、分離不安、見捨てられ不安、発達障害、リスク要因、プロテクト要因、レジリエンス 【授業概要】 ・内的作業モデルについてまず学び、外からは見えにくい親子のあり方の及ぼす影響を理解する。また、うまく親子の深い親密な関係性を作れていない場合に生じると予想される、様々な心理的課題や問題について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書64-68ページ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 愛着障害についてよく調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第９回	「いま」「ここ」をこえて①：言語と遊びの発達 【key words】 スターン、表象、延滞模倣、象徴機能、シンボル、ふり遊び、ごっこ遊び、構音、クーイング、規準喃語、共同注視、共同注意、9カ月の奇跡、社会的参照、指さし行動（要求、叙述、応答）、初語 【授業概要】 ・言葉を持たずに生まれてきた赤ちゃんの世界は感覚的な世界として成り立っていると推測されるが、そこに言葉というものが入り込むプロセスを見ていく。また、単純ではあるが、一つの言葉を備えることによって、子どもの世界がどのように広がり、変化をしていくかについてイメージをできるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書69-76ページ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 言葉の発達の基本について、その流れをあらかじめ予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１０回	「いま」「ここ」をこえて②：言語と遊びの発達 【key words】 ・語彙爆発、統語、談話（ディスコース）、語り（ナラティブ）、足場かけ、鏡映文字、外言、内言、ビゴツキー、遊び、昨日阿曽儀、象徴遊び、役割遊び、パーテン、並行遊び、連合遊び、協同遊び 【授業概要】 言葉そのものの発達によって広がる知的感覚的世界と、それに伴って広がっていく、子どもの遊びの様相について学んでいく。子どもの遊びの背後にある、知的感覚的世界を理解することで、何が育っているか、何を使っているかを理解できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書76-83ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・子どもの頃の自分の遊びについて振り返り、どんな遊びをしていたか書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１１回	自分を知り、自分らしさを築く①：関わりの中で育まれる自己 【key words】 主体としての自己、客体としての自己、ダブルタッチ、生態学的自己、対人的自己、マークテスト、第1次反抗期、自己主張期、原初的感情、自己意識的感情、他者意識的感情、良い子 【授業概要】 ・生まれた時には、ヒトはおそらく自分がどのような人間なのかなどということを考えることさえできない。しかし、毎日の暮らしの中で積み上がっていく体験や感覚的世界の中で、やがて身体で感じる感覚、心に湧き出る感情などを通し、ある時「自己」というものの存在に気づく。ここでは、乳幼児期の自己の発達の様相を見ていくことで、ヒトらしさの元ともなる自己意識の形成過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書84-91ページ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当部分を熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１２回	自分を知り、自分らしさを築く②：関わりの中で育まれる自己 【key words】 自己概念、概念的自己、拡張自己、自己抑制、自己制御、自己主張、エフォートフル・コントロール、マシュマロ実験、自我耐性 【授業概要】 ・自己を客体として見ることができるようになり、自分の経験を表現する手段である話し言葉が

発達するに伴い、子どもは自分の内面に注意を向け、語り、自分がどのような人であるのかを形にしていく。こうして育つ自己概念は、やがて家庭という閉じた場だけではなく、社会との関係で調整を余儀なくされながら、子どもに自分と社会を調和させる抑制力を育てていく。ここでは、子どもがこうした過程を経る中で、様々な個性を形成することを学び、時としてそれがその後の人生に大きな影響を及ぼすことを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書91-97ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書該当部分を熟読しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１３回　思考の深まり①　学校での学び
【key words】
9歳の壁、10歳の壁、記憶、短期記憶、長期記憶、手続き記憶、宣言記憶、エピソード記憶、意味記憶、記憶術、ワーキングメモリ（作業記憶、作動記憶）、長期記憶、記憶の処理水準、分散効果
【授業概要】
・自分や世の中を漠然とでも捉える力がついた子どもたちは、やがて、社会に出ることを前提にした教育を一斉に受ける段階に入っていく。この長い学校時代において、学ぶ力は大きく子どもの人生に影響を及ぼすといえる。ここでは、学びの基礎ともなる記憶の基本的メカニズムを学び、思考を支える基盤を理解する。そして、そこに何が刻まれるかということが、その後の人生にどのような影響を及ぼすかについても考えてみたい。
【教科書ページ・参考文献】
教科書110-118ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分がテスト前などに、どのように記憶をしようとしているか、振り返って説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１４回　思考の深まり②　学校での学び
【key words】
内発的動機づけ、外発的動機づけ、アンダーマイニング効果、エンハンシング効果、メタ認知、コグニティブ・トレーニング
【授業概要】
思考の広がりを支える基盤ともなる動機づけについて学ぶ。何が促進し、何が阻害するかに関する基本理論を理解し、積極的な学習を引き出す方途を探る。また、思考の深まりを左右する大きな要因としての、メタ認知の問題を理解し、認知の力を引き出すための具体的方法を体験しながら学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書118-123ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コグニティブ・トレーニングを調べておくこと。できれば宮口幸治の本を調べて読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１５回　エリクソンのライフサイクル論（児童期まで）
【key words】
エリクソン、エピジェネティック・チャート、基本的信頼、自律性、勤勉性、コンピテンシー等
【授業概要】
・前期のまとめとして、誕生から死に至るまで、関連し合いながら一連の継続する発達過程を進むとしたエリク・エリクソンのライフサイクル論を学ぶ。ここでは、8段階あるエリクソンの発達理論の前半4段階を学びながら、これまで学んできたことを振り返り、まとめの課題を解説していきます。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「子ども時代とは、どのような時代なのか」を語り合えるように、あらかじめ考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１６回　子どもからの卒業①　青年期の身体的成熟と精神的未成熟
【key words】
思春期スパート、第2次性徴、自己評価、自我体験、青年期の自己中心性、想像上の観客、個人的寓話、自身焦点
【授業概要】
・児童期までの土台の上に、徐々に自分の将来を描く作業に取り組み始めるのが、社会に入っていくための準備期間ともいえる青年期である。後期は青年期から一生涯の発達について見ていくが、まずは「子どもの終わり」に対処するという観点からこの時期の意義について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書124-129ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「自我体験」について調べ、そうした体験がうまく表現されている作品などについて調べ、できればその場面をコピーしたり、文章で説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１７回　子どもからの卒業②　青年期の友人関係と恋愛関係
【key words】
・ホール（Hall,S.）、疾風怒涛、ジェンダー、形式的操作、第二反抗期、青年期年期平穏説、友人の機能、チャムシップ、恋愛、恋愛スタイル
【授業概要】
人生の十字路ともいえる青年期には大きな選択や変化を体験する。動揺することによって、新たな大人としての自己を生む過程において、自己を互いに支え合う仲間である友人の役割が大きくなる。また、そうした親密な関係づくりを通して、異性との出会いや関係の基本的スタイルも出来上がるといえる。ここでは、友人関係と恋愛関係のあり方の中に見える、青年期の心理につい

て学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書130-136ページ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
友情や恋愛感情がうまく表現されていると思われる作品を探して、説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１８回　子どもからの卒業③　青年期の親子関係
【key words】
親子関係、脱衛生化、心理的離乳、共依存
【授業概要】
子どもから大人への過渡期である青年期には、親子の関わりが再び重要なテーマにもなってくる。自立に向けたプロセスにおいて、かつて青年期を経験した親との間に、どのような関係が浮かんでくるか。ここでは、心理的離乳という言葉を手掛かりに、子どもが親の力も借りながら、親からも卒業し、一人の人として自立するステップについて理解していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書136-139ページ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
心理的離乳について調べておくこと。また、自分の日ごろの親子の関わり方について振り返っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１９回　大人になるために　アイデンティティ・クエスト
【key words】
アイデンティティ、アイデンティティ拡散、アイデンティティ・クエスト、マーシャのアイデンティティ・ステイタス、モラトリアム
【授業概要】
・青年期の変容過程の先に、自分がどのような人であるか、自分のパーソナリティがだんだん明確になってくる。自分が誰で、どのような人間であるべきかという意識の核にあるアイデンティティの課題について、エリクソンのアイデンティティ理論やマーシャの理論に基づいて学んでいく。。
【教科書ページ・参考文献】
教科書140－144ページ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
山田かまちについて調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２０回　青年期の危機と問題行動
【key words】
・反社会的行動、非社会的行動、
【授業概要】
・青年期の変容過程においては、進むべき道を見失ったり、自分がわからなくなったり、様々な混乱をを体験することが多くなる。少年院での事例などをもとに、人生を前に向かって進めなくなる青年たちの多くが体験する問題を整理し、何が本質的な課題であり、そこから進むために必要な支援は何かを探索する。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
非行の問題について、特に少年院について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２１回　青年期の危機と精神病理
【key words】
不安神経症、パーソナリティ障害、自傷、摂食障害、境界性人格障害、アタッチメントの問題、創造的退行
【授業概要】
・青年期には様々な形で、「病的」な状態になることが増え、「精神障害」や「精神疾患」のように、医療の対象になる状態になるものもあることを理解する。ここでは、精神病理として表現される青年期の危機の様相を学びながら、その症状の奥に横たわる「自立」や「アイデンティティ形成」上の課題を捉える視点を学びます

【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・できる限り映画か小説で「17歳のカルテ」を見ておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２２回　職業選択とキャリア発達
【key words】
・親密　対　孤立、ジェネラティビティ　対　停滞、スーパーのキャリア理論、ロストジェネレーション

【授業概要】
・社会人としての責任を負い始めることで、青年は自らの青年期を終わらせ、徐々に「成人」としての自分を生き始める初期成人期の課題について理解していく。社会人としての経験が浅い中で「役割」を求められる中で、「未解決の課題」が浮かび上がり、青年期以前の問題と向き合う必要性が出てくるプロセスなどを理解することで、初期成人期の課題の捉え方を深めます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書144-149ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
働くことが、収入の確保以上に何をもたらすかについて、考えておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２３回　家庭生活における発達

【key words】
結婚、婚姻制度、性役割観（ジェンダー）、親密性、機能不全家族
【授業概要】
・エリクソンのライフサイクル論における、成人期の課題について、特に親密性（intimacy）という言葉を通して学んでいく。また、成人期の大きな課題として多くの人が向かい合う、自分自身が新たな家族を形成するという課題について学び、家族の機能と機能しない家族の淵源について理解を深めます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書149-157ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分自身の性役割観について調べておくこと。また、結婚についての制度に関し、意見を述べられるように準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２４回　関わりの中で成熟する　成人期

【key words】
世代性（ジェネラティヴィティ）　対　停滞、現代女性のライフサイクルの木、アロマザリング、子どもの自立支援、老親の介護や看取りの問題
【授業概要】
・エリクソンンによる成人期の見方を基礎としながら、親となった大人が自己の内部に抱いている心理的な問題と向かい合う様相について学ぶ。また、大人としてのライフコースの選択の幅の広がりや、孤立した子育ての問題など、現代を生きる大人の問題について概説する。特に、世代と世代のライフサイクルのつながり合いについて理解を深めていきます。
【キーワード】
・コンステレーション、愛着、内的ワーキングモデル、虐待、世代間連鎖
【教科書・参考文献】
・（145-147ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・資料を読み切る時間がないので、授業後に熟読しておくこと
【アクティブラーニング】
・
【教科書ページ・参考文献】
教科書158-172ページ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートに沿って、自分の親とその親について、簡単なインタビューをしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２５回　中年期の発達と危機、そして再生へ

【key words】
・家族星座、コンステレーション、愛着、内的ワーキングモデル、虐待、世代間連鎖
【授業概要】
・かつてはあまり注目されなかった、大人になってからしばらく生きたがために生じてくる「中年期の危機」とその意義（再生）について学んでいく。中年期以降に、老いや社会的引退に向かって進む自己を自覚し始めるとき、再び問い直される人格のあり方と、その問い直しの意味について、ユングの「個性化」の理論を手掛かりに考えていく。

【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・中年期の危機を描いた映画を提示する。できる限り視聴しておくこと（『マディソン郡の橋』『アメリカン・ビューティ』『海辺の家』など）。あらすじなどを調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２６回　人生を振りかえる①

【key words】
・エイジズム、加齢、超高齢期、バトラー、ライフレビュー、サクセスフル・エイジング、役割の喪失、時計の時間、心の時間

【授業概要】
・ライフサイクルの最終段階である老年期の発達の特徴について、「老い」に注目しながらその基本的傾向について解説をしていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書173-184ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・松島恭子編（2004）『ライフサイクルの心理療法』（創元社）の「私の終わりとの対話」（プリント）藤子不二雄『未来ドロボウ』
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２７回　老年期の危機と統合

【key words】
・統合　対　絶望、老賢者、生き生きとした関わり合い、相互性（ミューチュアリティ）
【授業概要】
・老年期には、「これまで生きてきた私と再び向き合い直す」という発達上の課題があり、人によりこの過去との向き合いの中に、さらなる「危機」を体験することを学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
映画『ストレイト・ストーリー』をできる限りあらかじめ視聴しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

	第２８回　死への対応：死に対する態度と準備 【key words】 統合　対　絶望、グリーフケア、モーニングケア 【授業概要】 ・老年期の最終盤の心の仕事は、死んでいくこととともいえる。それは、その日その瞬間が車で、生きている限り生き続けていくことだともいえる。数々の心身の不調や不安に襲われながらも、自己を統合し続けていくという老年期の心理的課題を理解するために、ある夫婦がそれぞれの最晩年を過ごした時間を捉えた映画を通して、リアリティのある老年期の姿を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 プリント　映画を視聴する予定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定する映画のあらすじを調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間 第２９回　統合しきれない物語　ライフクリプトについて 【key words】 語れない物語、ライフクリプト、グリーフケア、モーニングケア、ＰＴＳＤ、ＰＴＧ 【授業概要】 ・長い人生を生きていく中では、人それぞれに、誰にも語ることのできない物語を抱え込むことが予想される。笑顔の奥に潜む、心の傷や負の記憶などを抱えて生きることの意味を理解し、そうした思い出を含めて、まるごと人を支える態度の大切さを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定した論文をもとに授業を行う。人によって、誰にも語れない物語を抱えていくことを前提に、そのようなことが描かれている作品を探して説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習2時間 第３０回　まとめ　”私”のライフサイクルが閉じる時 【key words】 終末期の死のプロセス、キューブラー＝ロス、お迎え体験、スピリチュアル・ペイン、延命治療と尊厳死、ライフサイクルの完結 【授業概要】 ・老年期に至り、「死」が現実のものとして意識されてくると、自分の人生を閉じるということが、リアリティをもつテーマとなります。 ・発達心理学の最後のテーマは、長い時間を築き上げてきた「私」の時間が終わることについて考える。映画の架空の物語を一つの題材として、「私が死んでいく」ということに対する意識や、死の瞬間について学び、本講義のまとめとする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書185-189ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 映画『ワンダフルライフ』をできる限り視聴しておくこと。最低限あらすじを調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・人生初期から終末期に至るまで長期間の発達を扱う。人の生涯全般に興味を持ち、人生そのものを深く考える姿勢を求める。 ・各発達段階の講義終了時などに、「まとめ課題」「調べ課題」など、ミニレポートの提出を求める予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業ごとの授業計画で、授業の前に調べておくことや授業後に整理すべきこと等の課題を課し、授業外学習を求めることがある。事前にシラバスをもとに何をすることを求められているかについて理解をし、準備や事後学習をすること。
オフィスアワー	木曜　17時30分～18時00分　その他１号館事務局待機中に声をかけること
評価方法	①前期後期の期末に実施する到達度を見る試験（80%）、②授業時に指示をする「まとめ」もしくは「調べ」課題（レポート課題等）に関する総合評価（20%）、これら①～②を合わせて総合評価を出し60%以上の評価得点のものを単位認定する。レターグレード（S・A・B・C）については、本学基準に沿って算出する。
教科書	坂上裕子・山口智子・林　創・仲間玲子（2014）『問いからはじめる発達心理学』（有斐閣）
参考書	適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	□プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ネット上で公開されている動画などの視聴をあらかじめ義務付け、授業の前提とする内容の回を設ける。

講義科目名称： 教育心理学（教育・学校心理学）　　授業コード：3111

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・選択／福祉心理コース・学校教育コース・必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 【到達目標】 ①発達段階や個人差を前提にした、適切な教育のあり方を理解する。 ②学校や園での教育を中心とした、発達と教育に関する心理学の基礎知識を修得する。 ③学習方法や指導法や教授法、学びや認知の過程の理解を深めることで、よりよい教育の成立のために必要なことについて理解し、説明できる。
授業の概要	発達段階や個人差を心理面からよく理解した上で、一人一人の子どもに対する適切な教育のあり方について、これまでの教育心理学の成果をふまえて考えていく。また、学校を中心とする子どもたちの集団での学びおよびその学びの場で、幼児、児童及び生徒が出会う発達上の課題や教育上の問題について理解する。 　本講義では、学生自身の体験を自ら振り返りながら、よりよい教育的な関わりとはどのようなことなのか、話し合う機会も多く設けたい。また、子どもが体験する具体的な学習項目も挙げながら、幼児、児童及び生徒の学習や認知的プロセスの傾向性を理解し、個に応じた指導や多様な教授法の基本となる考え方を理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：教育心理学を学ぶことの目標 【key words】 天動説、地動説、ヴント、ワトソン、行動主義、ソーンダイク 【授業概要】 人がヒトとして集団で社会を形成して生きる道を選んだことで、「教育」を重要な営みとする存在としての人が誕生したことについて理解する。また社会の変遷とともに、世界と人生の「物語的説明」が「科学的探究」になっていく経緯について、教育心理学の歴史を通して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1-5㌻、13-24㌻（教科書第1章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ガリレオ・ガリレイの宗教裁判について調べてみる。ワトソンを代表とする「行動主義」について、予習しておくこと。「地球は平らだ」という主張をする人のことを調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２回	遺伝か環境か：勉強ができるとか、何かが得意とか不得意とかは、親のせい？ 【key words】 遺伝子（DNA)、ゲノム、血、性悪説、性善説、成熟、学習、ワトソン、ピアジェ、保存の概念、レディネス、ヴィゴツキー、発達の最近接領域（ZPD）、行動遺伝学、安藤寿康 【授業概要】

教育は人の変容と深く関連するものである。それゆえ、人の行動や思考、人柄（パーソナリティ）などを決定するものは何かということについては、古くから論争がある。ここでは論争の大きな軸として設定されている遺伝と環境の影響について基本的な考え方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書26-35ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
遺伝と環境に関する諸問題について、各自で調べ、特に遺伝子を操作する技術に対して賛成反対を明らかにしておくこと。また、その理由を説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第３回　動物の学習・人間の学習・機械の学習①
【key words】
パブロフ、古典的条件付け、スキナー、オペラント条件付け、バンデューラー、観察学習、プログラム学習、CIL、CAI、プログラム学習の原理、行動療法、認知行動療法、系統的脱感作療法
【授業概要】
様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を学ぶ。特に、動物と人の対比を通しながら、生物全般に共通する学習のメカニズムについて、その特徴を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書37-41ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パブロフとスキナーの考え方の違いについてよく理解するために予習をすること。また、教科書にない、バンデューラーとセリグマンの研究について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第４回　動物の学習・人間の学習・機械の学習②
【key words】
ブラジルの花売り少年の研究、ブルーナー、発見学習、オーズベル、有意味受容学習、先行オーガナイザー、ディープラーニング
【授業概要】
前回、生物全般に共通する行動変容のメカニズムとしての学習のあり方を学んだが、今回は、「人」ならではの学習の特徴について考えていく。特に、言葉を使った学習に焦点を当てる。また、現在急速に発展している人工知能における学習についても学ぶことで、人の学習の特徴を理解する
【教科書ページ・参考文献】
教科書42-50ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「シンギュラリティ」について調べ、説明できるようにしておくこと。また、ディープラーニングの特徴をさらに調べて理解を深めておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第５回　言語・記憶・思考①
【key words】
認知心理学、チョムスキー、言語生得説、LAD（言語習得（獲得）装置）、エビングハウスの忘却曲線、記憶の貯蔵庫モデル、短期記憶、長期記憶、感覚記憶、リハーサル、精緻化、意味記憶、エピソード記憶、作業記憶
【授業概要】
人の独自性は、刺激や環境への本能的な対処だけではなく、状況に応じて物事を深く考えることができる力にあるといってもよい。これを思考と呼ぶならば、それを支える大きな機能が「記憶」になる。ここでは、記憶の研究からわかってきた、基本的な記憶のプロセスについて学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書52-58ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
重要用語が多いので、予習・復習をしっかりしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第６回　言語・記憶・思考②
【key words】
潜在記憶、メタ記憶、IAT、素朴概念、ル・バー、収束的思考、拡散的思考、ブレインストーミング、KJ法、演繹的推論、帰納的推論、アルゴリズム、ヒューリスティックス、システム１、システム２
【授業概要】
経験し記憶してきたことから、人は様々に未来や状況について推論をする。また、そこで何が起こっているかについて、考えることが可能になる。ここでは、こうした人の思考の傾向性について学ぶことで、人が自分や状況を理解する仕方の基本を学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書59-69ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「ハーバード大学、IAT」と検索し、無料でネット上でできる「IAT潜在連合テスト」体験版を体験しておくこと。また、その結果を記録しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第７回　知能と教育①　特に知能テストについて
【key words】
知能、ビネー式知能検査、ターマン、知能指数（ＩＱ）、教育測定運動、偏差知能指数（偏差ＩＱ）（ＤＩＱ）、ウェクスラー式知能検査、ＷＰＰＳＩ、ＷＩＳＣ、ＷＡＩＳ
【授業概要】
学習や教育に深く結び付く力に、知能がある。ここでは、知能の概念や測定に用いられるテストについて学び、現在、どのように知能が測定され、何が知能とされているかについて学ぶ。また、実際に簡便な形で知能検査を体験しながら、実際の検査のあり方について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書72-76ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

知能検査について予習復習をしっかりしておくこと。また、「学習障害」についても調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第８回　知能と教育②
【key words】
スピアマン、ｇ因子、ｓ因子、行動遺伝学、アンダーアチーバー、オーバーアチーバー、サーストンの多因子モデル、ガードナーの多重知能説、創造性知能、非認知能力、認知作業トレーニング
【授業概要】
知能テストで測られる力は、変わらないのか、生まれがどれほど影響するのか、また、知能テストと実際の学習や人生との関連はどうなのかなど、幅広く学んでいく。また、最近注目されている非認知能力を理解し、一部の不器用な子どもに見られる認知の問題を理解する。また、認知能力を挙げていくトレーニングについても見ていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書76-79ページ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「行動遺伝学」について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第９回　自己効力感と教育
【key words】
ジマーマン、自己調整学習、ハイダー、帰属理論、ワイナー、バンデューラ、観察学習、自己効力感（セルフ・エフィカシー）、一般的自己効力感、領域固有自己効力感、セリグマン、学習性無力感
【授業概要】
代表的な学習形態の一つとして、まずジマーマンの自己調整学習について学ぶ。そして、こうした自分で主体的に動き考えながら進める学習を左右する要因としての「効力感」に焦点を当て、それらが何に影響を受けるのかを理解することで、学習に関する一般的な「やる気」のメカニズムについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書82-91ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校や教育に関する場面で、「やる気が出たときの思い出」と「やる気を失ったときの思い出」を整理して報告できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１０回　動機づけの心理学
【key words】
動因、誘因、ハーロウ、マズロー、ケンリック、デシ、認知的不協和理論、知的好奇心、アンダーマイニング効果、エンハンシング効果
【授業概要】
学習のあり方を左右する要因としての「動機」に注目する。動因と誘因の区別を述べ、「やる気」が生理的欲求とは異なることを学ぶ。また、知的好奇心が引き起こす内発的な動機からくる「内発的動機付け」に関する研究を知ることで、学習者と教育者の視点の対立について理解を深めていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書93-102ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第7章を熟読しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１１回　教育における評価①
【key words】
科挙、バカロレア、アビトゥーア、教育測定運動、デューイ、教育評価、絶対評価、相対評価、偏差値、順序付け
【授業概要】
教育場面では、集団作りや学習評価などにおいて多くの「テスト」が行われる。このテストに関する基本的な理論についてまずは歴史的な観点から学び、そこに潜む多くの見方や問題点について理解し、理想的な測定についてのイメージを広げる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書103-109ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
キーワードとして挙げた語句についてあらかじめ調べておくこと。また、テストで体験した、「面白い事」「嫌だったこと」などについて自分や友人の体験を報告できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１２回　教育における評価②
【key words】
診断的評価、形成的評価、総括的評価、ルーブリック評価、学力ストップウォッチ、反応項目理論、OSCE（オスキー）、テスト理論
【授業概要】
前回に続き、教育における適切な評価のあり方について学びながら、検討を加える。最近話題になっているルーブリックなどを実際に作成しながら、評価の方法とあり方について前回よりさらに理解を深め、実際に行うべき評価の理想とはどのようなことなのか、考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書112-115ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ルーブリック、TOEFLなどの良い点、悪い点について考え、発表できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

	第１３回　社会性と道徳① 【key words】 コールバーグ、クリティカル・シンキングとしての道徳（正義）、向社会性、愛他行為、いじめ、いじめの場の構造 【授業概要】 小学校では2018年度から、中学校でも2019年度から、道徳が教科と位置付け直された。すなわち、道徳は組織的に学校で扱う科目となり、その理解の課程や程度について評価もされることになっている。ここでは、教科書にはないが、人が他者を大切にし、社会的に協調する心としての向社会性などを発達させる過程を学ぶ。そして、学校で道徳性の発達を学習目標として扱うことについて、多角的に考え、学校現場で多発するいじめの問題についてもその基本的な見方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書117ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 マイケル・サンデルについて調べ、できれば著書などを読んだり、授業の映像を見ておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１４回　社会性と道徳② 【key words】 利己的な遺伝子、ドーキンス、ミーム、進化心理学、ゲーム理論、生命倫理と心理学 【授業概要】 従来の道徳教育の枠組みから視点を大きく変え、「進化」の過程とその枠組みから道徳的な問題について考える。また、医療や社会の進展によって新たに問題として浮かび上がってきた諸問題について、生命倫理の角度から整理をし、そこから道徳を考えることの可能性について提案する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書117～127ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習2時間、復習2時間 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間 第１５回　教育心理学の使命と課題 【key words】 証拠に基づく教育、ＮＣＬＢ法、頂点への競争（Race to the Top:ＲＴＴＴ）、TIMSS、アメリカ公教育の歴史と課題、ヘッドスタート計画 【授業概要】 これまで学んできたことのまとめとして、改めて教育を心理学的に考えることの大切さを確認する。その上で、様々な問題に取り組んできたアメリカの歴史を簡単に振り返りながら、そこで浮かび上がってきた諸問題と、大切にすべき観点について検討し、この授業のしめくくりとしたい。 【教科書ページ・参考文献】 教科書129-141ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ヘッドスタート計画について調べておくこと。テスト準備をしっかりすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。授業の流れを示したコマシラバスを毎回配布するため、ファイル等を用いて各自管理をすること。 ・定期的に「まとめ」や「調べ」課題を出す予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業概要を参考に、次回の授業に出てくる用語について教科書、心理学辞典、ネットなどで調べ、Ａ４用紙に簡潔にまとめておくこと（長くとも裏表1枚以内）。授業終了時にシャトルカードとともに提出したものを評価に加える。
オフィスアワー	火曜　9時～11時
評価方法	①期末に実施する理解度・到達度を見る試験（80%）、②授業時に指示をする「まとめ」もしくは「調べ」課題（レポート課題等）に関する総合評価（20%）、これら①～②を合わせて総合評価を出し60%以上の評価得点のものを単位認定する。レターグレード（S・A・B・C）については、本学基準に沿って算出する。
教科書	守　一雄　(2019)『教職課程コアカリキュラムに対応した 教育心理学』（松本大学出版会）
参考書	適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	□プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ネット上の動画教材を利用し、事前学習や事後学習を促進する。

講義科目名称： 教育心理学　　授業コード：3113

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 【到達目標】 ①発達段階や個人差を前提にした、適切な教育のあり方を理解する。 ②学校や園での教育を中心とした、発達と教育に関する心理学の基礎知識を修得する。 ③学習方法や指導法や教授法、学びや認知の過程の理解を深めることで、よりよい教育の成立のために必要なことについて理解し、説明できる。
授業の概要	発達段階や個人差を心理面からよく理解した上で、一人一人の子どもに対する適切な教育のあり方について、これまでの教育心理学の成果をふまえて考えていく。また、学校を中心とする子どもたちの集団での学びおよびその学びの場で、幼児、児童及び生徒が出会う発達上の課題や教育上の問題について理解する。 　本講義では、学生自身の体験を自ら振り返りながら、よりよい教育的な関わりとはどのようなことなのか、話し合う機会も多く設けたい。また、子どもが体験する具体的な学習項目も挙げながら、幼児、児童及び生徒の学習や認知的プロセスの傾向性を理解し、個に応じた指導や多様な教授法の基本となる考え方を理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：教育心理学を学ぶことの目標 【key words】 天動説、地動説、ヴント、ワトソン、行動主義、ソーンダイク 【授業概要】 人がヒトとして集団で社会を形成して生きる道を選んだことで、「教育」を重要な営みとする存在としての人が誕生したことについて理解する。また社会の変遷とともに、世界と人生の「物語的説明」が「科学的探究」になっていく経緯について、教育心理学の歴史を通して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1-5ﾍﾟｰ、13-24ﾍﾟｰ（教科書第1章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ガリレオ・ガリレイの宗教裁判について調べてみる。ワトソンを代表とする「行動主義」について、予習しておくこと。「地球は平らだ」という主張をする人のことを調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２回	遺伝か環境か：勉強ができるとか、何かが得意とか不得意とかは、親のせい？ 【key words】 遺伝子（DNA)、ゲノム、血、性悪説、性善説、成熟、学習、ワトソン、ピアジェ、保存の概念、レディネス、ヴィゴツキー、発達の最近接領域（ZPD）、行動遺伝学、安藤寿康 【授業概要】 教育は人の変容と深く関連するものである。それゆえ、人の行動や思考、人柄（パーソナリ

		ティ）などを決定するものは何かということについては、古くから論争がある。ここでは論争の大きな軸として設定されている遺伝と環境の影響について基本的な考え方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書26-35ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 遺伝と環境に関する諸問題について、各自で調べ、特に遺伝子を操作する技術に対して賛成反対を明らかにしておくこと。また、その理由を説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第３回	動物の学習・人間の学習・機械の学習① 【key words】 パブロフ、古典的条件付け、スキナー、オペラント条件付け、バンデューラー、観察学習、プログラム学習、CIL、CAI、プログラム学習の原理、行動療法、認知行動療法、系統的脱感作療法 【授業概要】 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を学ぶ。特に、動物と人の対比を通しながら、生物全般に共通する学習のメカニズムについて、その特徴を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書37-41ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 パブロフとスキナーの考え方の違いについてよく理解するために予習をすること。また、教科書にない、バンデューラーとセリグマンの研究について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第４回	動物の学習・人間の学習・機械の学習② 【key words】 ブラジルの花売り少年の研究、ブルーナー、発見学習、オーズベル、有意味受容学習、先行オーガナイザー、ディープラーニング 【授業概要】 前回、生物全般に共通する行動変容のメカニズムとしての学習のあり方を学んだが、今回は、「人」ならではの学習の特徴について考えていく。特に、言葉を使った学習に焦点を当てる。また、現在急速に発展している人工知能における学習についても学ぶことで、人の学習の特徴を理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書42-50ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「シンギュラリティ」について調べ、説明できるようにしておくこと。また、ディープラーニングの特徴をさらに調べて理解を深めておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第５回	言語・記憶・思考① 【key words】 認知心理学、チョムスキー、言語生得説、LAD（言語習得（獲得）装置）、エビングハウスの忘却曲線、記憶の貯蔵庫モデル、短期記憶、長期記憶、感覚記憶、リハーサル、精緻化、意味記憶、エピソード記憶、作業記憶 【授業概要】 人の独自性は、刺激や環境への本能的な対処だけではなく、状況に応じて物事を深く考えることができる力にあるといってもよい。これを思考と呼ぶならば、それを支える大きな機能が「記憶」になる。ここでは、記憶の研究からわかってきた、基本的な記憶のプロセスについて学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書52-58ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 重要用語が多いので、予習・復習をしっかりしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第６回	言語・記憶・思考② 【key words】 潜在記憶、メタ記憶、IAT、素朴概念、ル・バー、収束的思考、拡散的思考、ブレインストーミング、KJ法、演繹的推論、帰納的推論、アルゴリズム、ヒューリスティックス、システム１、システム２ 【授業概要】 経験し記憶してきたことから、人は様々に未来や状況について推論をする。また、そこで何が起こっているかについて、考えることが可能になる。ここでは、こうした人の思考の傾向性について学ぶことで、人が自分や状況を理解する仕方の基本を学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書59-69ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ハーバード大学、IAT」と検索し、無料でネット上でできる「IAT潜在連合テスト」体験版を体験しておくこと。また、その結果を記録しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第７回	知能と教育①　特に知能テストについて 【key words】 知能、ビネー式知能検査、ターマン、知能指数（ＩＱ）、教育測定運動、偏差知能指数（偏差ＩＱ）（ＤＩＱ）、ウェクスラー式知能検査、ＷＰＰＳＩ、ＷＩＳＣ、ＷＡＩＳ 【授業概要】 学習や教育に深く結び付く力に、知能がある。ここでは、知能の概念や測定に用いられるテストについて学び、現在、どのように知能が測定され、何が知能とされているかについて学ぶ。また、実際に簡便な形で知能検査を体験しながら、実際の検査のあり方について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書72-76ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 知能検査について予習復習をしっかりしておくこと。また、「学習障害」についても調べておく

こと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第８回　知能と教育②

【key words】
スピアマン、ｇ因子、ｓ因子、行動遺伝学、アンダーアチーバー、オーバーアチーバー、サーストンの多因子モデル、ガードナーの多重知能説、創造性知能、非認知能力、認知作業トレーニング
【授業概要】
知能テストで測られる力は、変わらないのか、生まれがどれほど影響するのか、また、知能テストと実際の学習や人生との関連はどうなのかなど、幅広く学んでいく。また、最近注目されている非認知能力を理解し、一部の不器用な子どもに見られる認知の問題を理解する。また、認知能力を挙げていくトレーニングについても見ていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書76-79ページ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「行動遺伝学」について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第９回　自己効力感と教育

【key words】
ジマーマン、自己調整学習、ハイダー、帰属理論、ワイナー、バンデューラ、観察学習、自己効力感（セルフ・エフィカシー）、一般的自己効力感、領域固有自己効力感、セリグマン、学習性無力感
【授業概要】
代表的な学習形態の一つとして、まずジマーマンの自己調整学習について学ぶ。そして、こうした自分で主体的に動き考えながら進める学習を左右する要因としての「効力感」に焦点を当て、それらが何に影響を受けるのかを理解することで、学習に関する一般的な「やる気」のメカニズムについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書82-91ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校や教育に関する場面で、「やる気が出たときの思い出」と「やる気を失ったときの思い出」を整理して報告できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１０回　動機づけの心理学

【key words】
動因、誘因、ハーロウ、マズロー、ケンリック、デシ、認知的不協和理論、知的好奇心、アンダーマイニング効果、エンハンシング効果
【授業概要】
学習のあり方を左右する要因としての「動機」に注目する。動因と誘因の区別を述べ、「やる気」が生理的欲求とは異なることを学ぶ。また、知的好奇心が引き起こす内発的な動機からくる「内発的動機付け」に関する研究を知ることで、学習者と教育者の視点の対立について理解を深めていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書93-102ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第7章を熟読しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１１回　教育における評価①

【key words】
科挙、バカロレア、アビトゥーア、教育測定運動、デューイ、教育評価、絶対評価、相対評価、偏差値、順序付け
【授業概要】
教育場面では、集団作りや学習評価などにおいて多くの「テスト」が行われる。このテストに関する基本的な理論についてまずは歴史的な観点から学び、そこに潜む多くの見方や問題点について理解し、理想的な測定についてのイメージを広げる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書103-109ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
キーワードとして挙げた語句についてあらかじめ調べておくこと。また、テストで体験した、「面白い事」「嫌だったこと」などについて自分や友人の体験を報告できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１２回　教育における評価②

【key words】
診断的評価、形成的評価、総括的評価、ルーブリック評価、学力ストップウォッチ、反応項目理論、OSCE（オスキー）、テスト理論
【授業概要】
前回に続き、教育における適切な評価のあり方について学びながら、検討を加える。最近話題になっているルーブリックなどを実際に作成しながら、評価の方法とあり方について前回よりさらに理解を深め、実際に行うべき評価の理想とはどのようなことなのか、考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書112-115ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ルーブリック、TOEFLなどの良い点、悪い点について考え、発表できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１３回　社会性と道徳①

	【key words】 コールバーグ、クリティカル・シンキングとしての道徳（正義）、向社会性、愛他行為、いじめ、いじめの場の構造 【授業概要】 小学校では2018年度から、中学校でも2019年度から、道徳が教科と位置付け直された。すなわち、道徳は組織的に学校で扱う科目となり、その理解の課程や程度について評価もされることになっている。ここでは、教科書にはないが、人が他者を大切にし、社会的に協調する心としての向社会性などを発達させる過程を学ぶ。そして、学校で道徳性の発達を学習目標として扱うことについて、多角的に考え、学校現場で多発するいじめの問題についてもその基本的な見方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書117ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 マイケル・サンデルについて調べ、できれば著書などを読んだり、授業の映像を見ておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１４回　社会性と道徳② 【key words】 利己的な遺伝子、ドーキンス、ミーム、進化心理学、ゲーム理論、生命倫理と心理学 【授業概要】 従来の道徳教育の枠組みから視点を大きく変え、「進化」の過程とその枠組みから道徳的な問題について考える。また、医療や社会の進展によって新たに問題として浮かび上がってきた諸問題について、生命倫理の角度から整理をし、そこから道徳を考えることの可能性について提案する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書117～127ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習2時間、復習2時間 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間
	第１５回　教育心理学の使命と課題 【key words】 証拠に基づく教育、ＮＣＬＢ法、頂点への競争（Race to the Top:ＲＴＴＴ）、TIMSS、アメリカ公教育の歴史と課題、ヘッドスタート計画 【授業概要】 これまで学んできたことのまとめとして、改めて教育を心理学的に考えることの大切さを確認する。その上で、様々な問題に取り組んできたアメリカの歴史を簡単に振り返りながら、そこで浮かび上がってきた諸問題と、大切にすべき観点について検討し、この授業のしめくくりとしたい。 【教科書ページ・参考文献】 教科書129-141ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ヘッドスタート計画について調べておくこと。テスト準備をしっかりすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。授業の流れを示したコマシラバスを毎回配布するため、ファイル等を用いて各自管理をすること。 ・定期的に「まとめ」や「調べ」課題を出す予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業概要を参考に、次回の授業に出てくる用語について教科書、心理学辞典、ネットなどで調べ、Ａ４用紙に簡潔にまとめておくこと（長くとも裏表1枚以内）。授業終了時にシャトルカードとともに提出したものを評価に加える。
オフィスアワー	木曜　9時～11時
評価方法	①期末に実施する理解度・到達度を見る試験（80%）、②授業時に指示をする「まとめ」もしくは「調べ」課題（レポート課題等）に関する総合評価（20%）、これら①～②を合わせて総合評価を出し60%以上の評価得点のものを単位認定する。レターグレード（S・A・B・C）については、本学基準に沿って算出する。
教科書	守　一雄　(2019)『教職課程コアカリキュラムに対応した 教育心理学』（松本大学出版会）
参考書	適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ネット上の動画教材を利用し、事前学習や事後学習を促進する。

講義科目名称： 保育原理　　授業コード： 4001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　多角的、総合的な視点から「子ども」と「保育」に対する考え方を学ぶ。さらに、保育に関する幅広い視野を身につ　け、子どもの保育の基本理論を理解し、子どもの発達にとってよりよい保育とは何かを考える。 【到達目標】 　①保育の意義および保育所保育指針における保育の基本について理解する。 　②保育の内容と方法の基本について理解する。 　③保育の思想と歴史的変遷について理解する。 　④保育の現状と課題について考察できる。
授業の概要	保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本について理解し、保育の内容と方法の基本を学ぶ。さらに保育の歴史的変遷について学んだ上で、保育の現状と課題について分析する視点を養う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・保育とはなにか 【key words】 保育・児童福祉法・養護と教育・守秘義務・社会的役割と責任 【授業概要】 　下記の４点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。 １．保育とは ２．保育所保育における保育とは ３．児童福祉法第１条「児童福祉の理念」 ４．保育所と保育士の社会的責任と役割 【教科書ページ・参考文献】 第１章　pp9-18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・次回から「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。 ・予習として、次の章を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：20～30分、復習：60分
	第２回	子ども家庭福祉と保育の関係法令 【key words】 日本国憲法・児童憲章・児童権利条約・保育所保育指針・子ども子育て支援新制度 【授業概要】 　下記の４点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。 １．子どもの家庭福祉に関連する法令 ２．児童憲章における「児童」の理念

		３．児童福祉法 ４．子ども・子育て支援新制度のポイント 【教科書ページ・参考文献】 第２章　pp19-30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。 ・予習として、次の章を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：20～30分、復習：60分
	第３回	保育所保育の目的・内容・方法（１） 【key words】 保育所保育指針・保育所の目的と役割・保育士の役割・養護の理念・保育の目標 【授業概要】 　下記の４点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。 １．保育所保育指針改定の背景 ２．保育所保育指針とはなにか ３．保育所の目的と役割 ４．保育所保育の目標 【教科書ページ・参考文献】 第3章　pp31-40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。 ・予習として、次の章を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：20～30分、復習：60分
	第４回	保育所保育の目的・内容・方法（２） 【key words】 育みたい資質と能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿・保育のねらいと内容 【授業概要】 　下記の３点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。 １．幼児教育を行う施設として共有すべき事項 ２．保育のねらい及び内容（乳児保育、１歳以上３歳未満児、３歳以上児） ３．小学校との連携 【教科書ページ・参考文献】 第３章　pp40-51 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。 ・予習として、次の章を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：20～30分、復習：60分
	第５回	幼稚園教育の目的・内容・方法 【key words】 幼稚園教育要領・幼稚園教育の３つの原理・学校教育法 【授業概要】 　下記の４点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。 １．幼稚園教育要領の変遷 ２．幼稚園教育の目的と目標 ３．幼稚園教育の基本原理 ４．幼稚園教育において育みたい資質・能力 【教科書ページ・参考文献】 第４章　pp53-65 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。 ・予習として、次の章を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：20～30分、復習：60分
	第６回	幼保連携型認定こども園の目的・目標・ねらい・内容 【key words】 幼保連携型認定こども園 【授業概要】 　下記の３点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。 １．幼保連携型認定こども園の目的・目標 ２．幼保連携型認定こども園の内容、教育・保育 ３．幼保連携型認定こども園の子育て支援 【教科書ページ・参考文献】 第５章　pp67-75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。 ・予習として、次の章を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：20～30分、復習：60分
	第７回	保育所保育の方法　ー環境を通して行う保育ー 【key words】 保育の環境（人的・物的・自然や社会の事象）・環境構成・環境を通して行う保育

【授業概要】
　下記の３点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。
１．環境を通して行う保育の必要性
２．保育所保育指針における「環境を通して行う保育」
３．保育所保育の方法
【教科書ページ・参考文献】
第６章　pp77-87
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。
・予習として、次の章を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：20～30分、復習：60分

第８回　保育の計画と評価
【key words】
全体的な計画・指導計画（長期・短期）・PDCA
【授業概要】
　下記の４点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。
１．保育の計画
２．保育の過程（計画、実践、評価、改善）
３．学びを実習につなげる＜部分実習指導案の作成＞
【教科書ページ・参考文献】
第７章　pp89-105
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。
・予習として、次の章を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：20～30分、復習：60分

第９回　子ども理解と保育の実践（１）
【key words】
成長と発達・発達過程
【授業概要】
　子どもの発達過程の理解と保育について、各年齢や時期ごとのポイントと保育の原理について理解する。段階ごとの子どもの姿をイメージしやすいように映像を適宜用いながら解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第８章　pp107-115
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。
・予習として、次の章を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：20～30分、復習：60分

第１０回　子ども理解と保育の実践（２）
【key words】
個人差・自然観察法・教育的観察法
【授業概要】
　発達の個人差をどのようにとらえるかを考える。一人ひとりを理解するには発達過程の見極めとともに、日々の観察や記録に基づく理解も重要である。とくに保育者が最も活用する自然観察法と教育的観察法を取り上げ、子ども理解にどのように生かすか事例をもちいて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
第８章　pp116-123
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。
・予習として、次の章を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：20～30分、復習：60分

第１１回　地域社会で行う子育ての支援　ー子どもと子育てに優しい社会を目指してー
【key words】
子育て支援
【授業概要】
　下記の４点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。
１．保育所における子育て支援
２．幼稚園における子育て支援
３．保育所等以外の施設における子育て支援
４．地域の人たちによる子育て支援（学生にもできる子育て支援）
【教科書ページ・参考文献】
第９章　pp125-137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。
・予習として、次の章を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：20～30分、復習：60分

第１２回　障害のある子どもの保育
【key words】
障害・インクルーシブ保育・保護者への支援・関係機関との連携
【授業概要】
　下記の４点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とす

る。
１．障害の理解
２．インクルーシブ保育の実際
３．保護者及び関係機関との連携
４．特別な配慮が必要な子ども

【教科書ページ・参考文献】
第１０章　pp139-152
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。
・予習として、次の章を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：20～30分、復習：60分

第１３回　児童虐待とはなにか
【key words】
児童虐待の種類・近年の動向・背景・子育て支援
【授業概要】
　子どもや保護者と日常的に関わり、その生活や親子関係、養育の状態を把握する機会の多い保育所等は、虐待につながりかねない徴候を発見しやすいといえる。児童虐待の現状と支援について理解し、虐待の予防や早期発見に努めることは保育所等の社会的責任である。

【教科書ページ・参考文献】
別途、資料を配布します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。
・予習として、次の章を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：20～30分、復習：60分

第１４回　保育の歴史と思想
【key words】
倉橋惣三・二葉幼稚園・ルソー・フレーベル・オーエン・モンテッソーリ
【授業概要】
　下記の４点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。
１．幼稚園の歴史
２．保育所の歴史
３．幼児教育と保育をめぐる動向
４．欧米の教育・保育思想
【教科書ページ・参考文献】
第１１章　pp153-170
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。
・予習として、次の章を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：20～30分、復習：60分

第１５回　日本の保育の現状
【key words】
キャリアアップ研修・幼保一元化・幼保一体化・施設型給付・地域型保育給付
【授業概要】
　下記の４点についての基本的事項を理解し、記述および言語化して説明できることを目標とする。
１．子ども・子育て支援新制度の誕生
２．幼保一元化
３．保育者の資質・専門性の向上
４．保育における情報機器の活用
【教科書ページ・参考文献】
第１２章　pp9171-180
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・毎回、授業の冒頭で「振り返りテスト」を実施します。各章の「この章で学ぶこと」「学びの振り返り」を中心に復習して臨んで下さい。
・予習として、次の章を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習：20～30分、復習：60分

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業中に生じた疑問はそのままにせずシャトルカードに記入する、質問するなどの行動に移して学習を深めましょう。 ・遅刻、欠席等は大学のルールに則り対応すること。無断欠席はしないでください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・毎回の授業の冒頭で振り返りテスト（出題内容は教科書の「この章で学ぶこと」及び「学びの振り返り」を中心とする）を行うので、指示された範囲を学習して臨むこと。 ・日頃から子どもをめぐるニュースや話題に関心を向けるとともに、保育者を志す者としての自覚と責任をもって生活することを常に心がけてください。
オフィスアワー	水曜の14:20～17:30
評価方法	筆記試験70%、振り返りテスト30%。総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。
教科書	①保育原理　子どもの保育の基本理論の理解　2019　萌文書林 ②幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領　　チャイルド本社
参考書	授業内において適宜紹介します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・群馬県立しろがね学園にて障害のある子どもの保育に関する実践および保育所や幼稚園へのコンサルテーションに15年間従事した経験をもとに、インクルーシブ保育を含む現代の新しい保育の考え方や基礎について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称： 教育原理　　授業コード： 4011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択／初等教育コース・必修
担当教員			
江島　正子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	本科目「教育原理」は、教育職員免許法施行規則第６条付表第３欄の「教育の基礎倫理に関する科目」に含まれる「教育の理論並びに教育に関する歴史及び思想」に該当する。本授業では、教育の理念・思想と歴史を学ぶことにより、現代の「教育」が抱え込んでいるさまざまな問題について知り、「教育」という公共的・社会的問題に対する自分なりの考え方の基礎を確立することを目指す。
授業の概要	教育概念並びに教育に関する歴史的思想に触れ、今日のわが国における教育の根拠となる学習指導要領について学ぶ。具体的には、教育に関する社会的、制度的、または経営的要素を理解する。子どもの発達や教育に貢献した偉大な先人たちの考え方を学習し、大人としての、自立した人間像を探求する。教育問題とは何か。われわれはどのように教育の根本問題を解決できるかについて考察していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス　授業の進め方　「教育原理」の語源　教育の意義・目的及び家庭福祉等の関わりについて理解する
	第２回	教育目的の変遷　古代ギリシア時代　ローマ時代　中世　ルネサンス　実学主義　啓蒙時代　新人文主義　現代
	第３回	教育の場　家庭教育　就学前教育　学校教育　社会教育　生涯教育　乳幼児期の教育の特性　教育と子ども家庭福祉の関連性
	第４回	わが国の学校教育　明治前期の教育　明治後期の教育　大正期の教育　昭和期の教育　平成期の教育
	第５回	教師　人間形成と教師　教育の本質における教師　教育愛　教師の威厳　教職の誕生
	第６回	わが国における教師像の変遷　伝統的教育と聖職者的教師　教育の民主化と教育労働者
	第７回	専門としての教職教育行政と学校制度　教育行政の組織　中央教育行政のしくみ
	第８回	教育課程の役割・機能・意義
	第９回	教育課程の編成の基本原理及び編成方法

	第１０回　　カリキュラムマネジメントの意義　カリキュラム評価 第１１回　　学習指導法の類型　教師中心型　生徒中心型　プロジェクト法　ラボラトリ・メソッド 第１２回　　学習組織　グループ学習　個別学習　一斉学習　横割りクラス編成　縦割りクラス編成 第１３回　　現代の教育諸問題 第１４回　　教育情報　情報化の光と影 第１５回　　ディベイト　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。　6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。　授業中に課題として出されたレポートは必ず期限内に提出すること。　将来教職に携わる人として、授業中は私語を慎む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。
オフィスアワー	月曜日１０時３０分～１２時３０分。
評価方法	定期試験（60%）　レポート（20%）　ディベイト（20%）で総合的に判断する。
教科書	岩田朝一編著 『教育学教程』 学苑社
参考書	小学校学習指導要領　幼稚園教育要領　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 江島正子著 『世界のモンテッソーリ教育』 サンパウロ社　授業中にもそのつど紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の心理学Ⅰ　　授業コード： 4031

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 誕生の瞬間から大人に向かって変化をし続ける子どもの発達のあり方について、全般的なイメージを描くことが出来るようになる事を大きな目的とする。そのために、発達的変化の過程を幅広い視点から学ぶことがその基本となるが、子どもらしい心の特性を多角的に理解する視点を培い、保育者として子どもの行動や問題について発達的な意義を理解し、本人や保護者に助言するための知力を養う。 【到達目標】 ①保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ②子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ③乳幼児の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。
授業の概要	主に子どもの発達の様相について、発達心理学で明らかになっていることを中心に幅広く学習する。また、そこから実際の保育場面で生じる出来事に対する捉え方や考え方を提示し、１回の授業ごとに関連するトピックや実際の事例を通しながら、できる限り、学生自身が課題について考えられる授業を目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：子どもの発達を理解することの意義 【key words】 ＩＣＴ、3歳児神話、少子化、晩婚化、非婚化、児童虐待、マルトリートメント、発達障害、中退、ひきこみり、小1プロブレム、体罰、カウンセリングマインド 【授業概要】 科学技術の発展やインターネットを通じた交流が身近になり、大人社会においても家族や人生観など大人社会における価値観の多様化に代表されるように、大きな変化が急速に起こるようになっている。子どもたちは、めまぐるしく変化をする社会に生まれ、やがてはそこの一員になるためにたくさんのことを身に付けなければならない。こうした時代において、保育者が子どもの発達面で理解すべきことはどのようなことなのか、講義の最初に、こうした大きな問題について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1-13ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現代の子どもたちに大きな影響を及ぼしていると思われる物や、社会状況について思いつく限り書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第２回	子どもの発達と環境 【key words】 ポルトマン、生理的早産、シナプス、ゲザル、遺伝説、成熟説、レディネス、環境説、ワトソン、輻輳説、シュテルン、ジェンセン、相互作用説、トマスとチェス、気質、ブロンフェンブレ

ンナー、生態システム論
【授業概要】
子どもは、一人ではほぼ何もできないような状態で誕生する。そして、徐々に言葉を覚えたり身の回りのことができるようになっている。こうした「発達」に関して大きな要因となるものは、何だろうか。ここでは、子どもの発達の重要な要因について遺伝と環境の二つに注目し、子どもの発達に影響を及ぼすものごとについて理解を深めていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書14-28ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の子ども時代を思い返し、親から譲り受けたもの（遺伝）の影響を感じるものと、自分の環境が大きく影響をしたと思われるものについて、それぞれ説明できる準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第３回　子ども観・保育観と発達理論からの視点
【key words】
カニンガム、アリエス『子どもの誕生』、ルソー『エミール』、エレン・ケイ『児童の世紀』、デューイ『民主主義と教育』、貝原益軒『和俗童子訓』、オーベルラン、オーエン、フエーベル、恩物、教育勅語
【授業概要】
それぞれの社会にそれぞれの子どもの見方、子ども観がある。また、子どもをどう育てるべきであるかについての保育観もある。ふだん意識されないままに、大人の行動を規定しているこうした子どもや保育に対する見方を自覚することは、自分や他の大人がどのように子どもに向き合おうとしているかを理解する手掛かりとなるはずである。ここでは、代表的な子ども観や保育観について学び、その見方が結果としてどのような大人の行動を導くかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書29-38ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
石井十次、留岡幸助、高木憲次、糸賀一雄、松野クララ、野口幽香、森島峰、赤沢鐘美・仲子、倉橋惣三、木戸幡太郎について、一人を選び、教科書以上のことについて調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　社会情動的発達
【key words】
スピッツ、ホスピタリズム、ボウルビー、愛着、アタッチメント、分離不安、母性剥奪（マターナル・デプリベーション）、エインズワース、ストレンジシチュエーション法、内的ワーキングモデル、非認知能力、ＥＩ
【授業概要】
人は多くの人とともに生きることを前提として生まれてくる、社会的な動物だといえる。人との関わりは親子の間の絆を基盤として広がっていくが、それ自体が自分の存在の大切な基盤となる。今回は、こうした関わりの大切さについて学ぶとともに、関わりをうまく作れなかったり、関わりの中に十分生きることができなかった子どもの問題も考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書39-41、48-60ページ、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「愛着」と「愛着障害」について事前によく調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第５回　身体機能と運動機能の発達
【key words】
カウプ指数、スキャモン、免疫機能、第二次性徴、ＳＩＤＳ、不随意運動、随意運動、リーチング、ピンチ把握、主体的な遊び
【授業概要】
ヒトは、自分で移動や姿勢制御もできない状態で誕生してくる。そして、乳幼児期に親元での数年をかけながら、日々心身の機能を発達させていく。ここでは、比較的規則的に発達する身体機能や運動機能の発達の流れを確認し、それが一人の人として人格を形成していく上で、どんな意味をもつかを考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書62-77ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
子どもが自由に遊んでいる場面をネットや現場で観察し、どのような身体機能や運動機能を使っているかに注目をし、書き出しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第６回　認知の発達
【key words】
ファンツ、選好注視法、視覚的断崖実験、シナプス、ニューロン、感受性期（敏感期）、臨界期、心の理論、誤信念課題、メタ認知、ピアジェ、同化と調節、延滞模倣、コールバーグの道徳性発達理論
【授業概要】
子どもがどのように環境を捉え、認識しているか。子どもの感覚や認知の世界について、ピアジェの理論を中心に学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書77-89ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ピアジェの認知発達理論を予習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第７回　言語の発達
【key words】
クーイング、喃語、共同注意、マザリーズ、三項関係、表象、象徴機能、一語文、二語文、ヴィゴツキー、内言、外言、発達の最近接領域、言語障害
【授業概要】
ヒトと他の生き物とを大きく分けるもんが、言語の使用である。生まれた時には泣くか笑うかな

		どの身体言語しか持ちえない状態で生まれた赤ちゃんは、身の回りで使われている言語を速やかに習得をしていく。そこにあるメカニズムを学びながら、こうした言語の獲得に秘められた発達的な意義について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書91-102ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シナプスと脳の機能について、予習をしておくこと。特に「シナプスの刈込」ということについて調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第８回	アセスメント 【key words】 新版Ｋ式発達検査、田中ビネー式知能検査、ウェクスラー式知能検査（ＷＩＳＣ）、津守式乳幼児精神発達検査、Ｓ－Ｍ社会生活能力検査、ＰＶＴ－Ｒ絵画語い発達検査、ＤＡＭ、フロスティッグ視知覚発達検査　等 【授業概要】 ここまで身体機能や運動機能、認知発達などの基本的な流れを見てきた。そこで、ここではそれらがどの程度発達しているかを調べる検査について学んでいく。このような客観的な指標に基づいて発達状態を見る見方を学ぶことで、主観的・感情的な捉え方から離れて、専門職として的確に発達の状態を見極める視点を養ってもらいたい。 【教科書ページ・参考文献】 教科書103-113ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書に紹介されている検査について、それぞれ一つ選んで詳しく調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第９回	0.1.2歳の発達 【key words】 生理的微笑、普遍的微笑、社会的微笑、愛着と社会性の発達、自我と言葉の発達、 【授業概要】 教科書に基づきながら、誕生から0歳、1歳、2歳ごろまでの発達的特徴と発達課題について、特に自我の誕生とその育ちに注目して学んでいく。各時期における子どもの心を支える関わりについても考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書115-128ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近な親類などやボランティア先、またネットなどで2歳までの子どもの様子を見ることができたら、その年の行動の特徴について書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１０回	3.4.5歳の発達 【key words】 ジェンダー、秘密、ごっこ遊び、心の理論、同時処理、継時処理、葛藤、空間認知 【授業概要】 教科書に基づきながら、3歳児、4歳児、5歳児の発達的特徴と発達課題について、特に自我の育ちと集団づくりに注目して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書129-143ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幼稚園・保育園・子ども園の年代の子ども達の様子について、ネットや身近な親類、ボランティア先などで調べ、その年の行動の特徴について書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１１回	学童期から青年期までの発達 【key words】 小1プロブレム、スタートカリキュラム、いじめ、アイデンティティ、第二次反抗期、モラトリアム、不登校、ひきこもり 【授業概要】 学童期までの子ども時代を越えて、音などして世の中に出ていくまでの青年期の発達課題について概観する。各時期における子どもの心を支える関わりについても考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書145-156ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもが世の中に出ていくことについて、どのようなことが壁になるか、想像をしながら、書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１２回	成人期から老年期までの発達 【key words】 親密性、生殖性、ジェンダー・ステレオタイプ、ワークライフバランス、中年クライシス、空の巣症候群、加齢、流動性知能、結晶性知能、サクセスフルエイジング、喪失、モーニングワーク、グリーフワーク 【授業概要】 子どもにとっては、親となる世代の心理について学ぶ。また、子どもの家族となる祖父母世代の心理についても学び、生涯発達の観点から、それぞれの時代において、何が生きる課題になるかを考えていく。また、そうした視点を持って、家族の問題を捉える見方を学ぶことで、子どもの問題の背後にある家族の問題を理解する力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書157-167ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指示のあった映画などを視聴しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間

	第１３回　乳幼児期の学びに関する理論 【key words】 条件付け、対提示、動機づけ、内発的動機づけと達成動機、叱ることと褒めること 【授業概要】 子どもはその生活の名で自然に多くのことを学んでいる。ここでは、学習の基本原理を確認し、学校での学習以前に子どもが体験的に獲得していく学びの体験に注目し、それがどのように起こっているかを見ていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書169-180ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活や遊びの中で生じる学びについて考え、気づいたことを書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間 第１４回　乳幼児期の学び（遊び）の過程 【key words】 遊び、ホイジンガ、カイヨワ、ビューラーの遊びの分類、パーテンの遊びの分類、アフォーダンス 【授業概要】 乳幼児期において、「遊ぶこと」の意味や遊びのもつ機能について学ぶ。また、保育場面においていかに遊びを通して子どもの発達を引き出していくかという視点で遊びと発達、学びについて考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書181-194ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 様々な時代の子どもの遊びについて文献やネット等を通して調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１５回　乳幼児期の遊びを支える保育実践 【key words】 子どもとファンタジー、プロジェクト・アプローチ、レッジョ・エミリア 【授業概要】 本当に子どもたちに対して、遊びを通して主体性を伸ばすことを求めるのならば、どのような活動や大人の関わりが必要なのか。保育の心理学の最終講義として、子どもの感性や能力や興味を生き生きと引き出し、伸ばす教育実践を行ってきた教師の実践を学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書195-208ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の理想の保育者、教育者像を描くために、どんな実践ができると良いと思うか、言葉にしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を自ら高めようと努力すること。 [受講のルール] ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、化粧、飲食行為等など）はしないこと。 ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話等）はカバンの中にしまうこと。各自の諸事情により、机上に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・授業で紹介する図書、物語、絵本、映画などに積極的に触れ、子どもに関する豊かな知識や教養を広げていく姿勢を持つこと。 ・授業回数によって適宜調べ学習や発展学習の課題を課す予定。提出物は評価対象になるので必ず出すこと。
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	①授業時に課す課題（小レポート等）（30%）　②学期末試験（70%）　①～②を総合的に評価する。
教科書	大浦賢治（編著）（2019）『実践につながる新しい保育の心理学』（ミネルヴァ書房）
参考書	適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 子ども家庭支援の心理学　　授業コード： 4033

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
橋本　祐			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「保育の対象の理解に関する科目」として設定されている授業である。保育の対象である子どもたちだけではなく、子どもたちがそこで生まれ人格形成をする場である家族の役割や機能を理解し、実際に保育園等で出会う子どもと家庭の出来事に対応するための知識基盤と感性を育成することを目的とする。 【到達目標】（「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について（H30.6.24）」）に準ずる ①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ④子どもの精神保健とその課題について理解する。
授業の概要	教科書に基づき、毎回表題に掲げているテーマに関して基本的な知識をまず学習する。そして、発展的な問題として授業中に提案する課題に関して、皆でディスカッションを行っていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	科目紹介・乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴 【key words】 基本的信頼感、応答と受容、愛着、共同注意と三項関係、行動範囲の拡大と自我・自己の発達、基本的生活習慣、人生移行と環境移行、小1プロブレム、９，１０歳の節、二次的ことば、有能感と劣等感 【授業概要】 ・オリエンテーション ・乳児期から学童期にかけての大まかな発達の流れを確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p1～15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	思春期から青年期の発達の特徴およびアイデンティティの形成 【key words】 第二次性徴、心理的離乳（ホリングワース）、ギャンググループ、チャムグループ、ピアグループ、コールバーグの道徳的発達理論、モラトリアム、アイデンティティ、マーシャのアイデンティティ・ステイタス論 【授業概要】 ・学校生活と集団活動について振り返る。 ・思春期の親子関係について確認する。

・青年期に体験する大きな変化について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p12～24
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第3回　成人期から高齢期の発達の特徴
【key words】
親密性、世代性（生殖性、ジェネラティビティ）、キャリアと大人にとっての自立、世代と世代のライフサイクル、喪失、流動性知能と結晶性知能、統合　対　絶望、希望
【授業概要】
・子どもを育てる立場となり、親世代の抱える課題について学ぶ。
・祖父母世代におけるサクセスフルエイジングや、危機について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p25～36

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　家族システムと家族発達
【key words】
保育環境、家庭環境、システムとしての家族、ＩＰ、コペアレンティングと父性、母性の役割、生態学的システム論、複雑化・多様化、子どもの発達と家族の変容、空の巣症候群、祖父母的世代性
【授業概要】
・家族をシステムとして捉える視点を学ぶ。
・子どもの問題を、家族システム全体から捉える基本的な知識を学ぶ。
・多様な家族と迎える危機について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p37～48
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達
【key words】
児童虐待、マルトリートメント、ＨＳＣ（アーロン）、愛着関係を阻害する諸要因、愛着の世代間伝達
【授業概要】
・虐待の要因や、その影響としての脳の変容について理解する。
・愛着障害について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p49～61
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　愛着障害とパーソナリティ障害
【key words】
愛着、パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害
【授業概要】
・愛着障害について、発達障害やパーソナリティ障害との関連から学びます。

【教科書ページ・参考文献】
なし
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　子育て環境の社会状況的変化
【key words】
アロマザリング、拡大家族と複数養育、家族規模の縮小、ワーク・ワイフ・バランス
【授業概要】
・家族の時代的変化を大まかなに学ぶ。
・家族の変化や子育て上の問題について理解をする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p62～81
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　多様な子育て家庭への支援
【key words】
育児不安をもつ家庭、育児サポート環境のない夫婦共働き家庭等
【授業概要】
・家庭が前提となる現代において、様々な家庭とその支援について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p83-93
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第9回　特別な配慮を必要とする家庭への支援 【key words】 貧困家庭、虐待疑いのある家庭、保護者が精神障害等を抱える家庭、外国ルーツの家庭等 【授業概要】 ・貧困や精神障害をもつ保護者の家庭と、その支援について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p94-102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第10回　子どもの心と健康 【key words】 不安障害、選択性緘黙症、強迫性障害、チック障害、身体表現性障害等 【授業概要】 ・子どもにみられる精神障害について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p103-125 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第11回　遊戯療法と芸術療法 【key words】 遊戯療法、芸術療法、コラージュ療法、臨床の知 【授業概要】 ・子どもを対象とした心理療法について学ぶ。 ・コラージュ療法の具体的な手順を理解し、実践ができる。 【教科書ページ・参考文献】 副読本p56～68 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第12回　コラージュ療法の演習 【key words】 【授業概要】 ・コラージュ療法を自分たちで体験する。 ・フィードバックを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　障害のある子ども理解と対応 【key words】 知的障害、発達障害、知能検査 【授業概要】 ・知能検査に基づいて、知的障害や発達障害の理解を深めます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p126～135 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　子どもの理解 【key words】 様々な心理療法の学派、アセスメントの方法 【授業概要】 ・心理療法の学派に基づく子どもの全人格的な見立てについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 副読本p93～98 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　災害と子ども 【key words】 ＰＴＳＤ、強い衝撃と子どもの回復力、災害と子どもの遊び　等 【授業概要】 ・災害時における家族や子育て上の問題に注目して理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p136～146 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講生に関わる情報】 ・教科書を毎回持参すること。 ・授業の際には、プリントを配布することもあるので、ファイル等を用いて各自管理すること。 ・レポートや調べ課題を出す予定。 【受講のルール】 ・授業では、遅刻、居眠り、情報通信機器の操作などはせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）はしないこと。講義の妨げになる場合は、退出を命ずるこ

	ともありうる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	リアクションペーパー
授業外時間にかかわる情報	授業内のテーマに関する感想文や調べ学習を求めることがある。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	・総合評価は、以下の通しての割合で評価。総合得点60～69点：C　　70～79点：B　80～89点：A　90点以上：S・期末試験70%、小レポート・感想文等提出物30%（30÷提出回（予定3回）＝1提出物得点（1回10点満点：提出により得点））
教科書	本郷一夫・神谷哲司（編著、2019）『子ども家庭支援の心理学』（建帛社）
参考書	青木久子他（2001）『子ども理解とカウンセリングマインド』（萌文書林）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 行政の教育相談室やスクールカウンセラー等の学校臨床業務。 療育手帳の心理判定業務。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅰ（音楽）　　授業コード：4071　4072

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
平野　恵美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　音楽の基礎知識を理解し、それに伴い音楽的感性を養い乳幼児の音楽表現の指導に生かせるようにする。 【到達目標】 　音楽の基礎的な知識を習得することは、単に教養を身につけるというだけでなく、それが良い演奏や良い指導につながることを理解させたい。楽譜の学習に伴って、ソルフェージュを取り入れ、実習することで演奏及び表現の感覚を養っていきたい。 　また、西洋や日本の音楽史を学習することで、歴史上重要な作曲家の生涯や作品に触れたり、日本の音楽（民謡やわらべ歌）や諸外国の音楽に触れることにより、豊かな音楽感を習得させたい。
授業の概要	①保育者自身の音楽的感性や能力が、そのまま子どもに影響を及ぼすため、音楽の基礎的な知識を習得する。 ②正しいリズム感、即興的音楽活動をとらえる感覚を養うためのソルフェージュの学習や、コードネームの基礎について学習する。 ③移調の学習を通して弾き歌いに対する応用力を身につける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	前期オリエンテーション（授業の進め方・課題・小テスト等の評価方法の説明） 【key words】 シラバス、課題 【授業概要】 ・シラバスの確認と授業計画について ・授業の概要や進め方についての確認 ・音楽的経験についてのアンケート 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト　初め～P18まで読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	楽譜の決まり（譜表や記譜について） 【key words】 5線、ト音記号、ヘ音記号 【授業概要】 ・音部記号の種類と音の位置について ・5線上での音符の表記のし方について 【教科書ページ・参考文献】 初～P18 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		P32～40まで読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	音符と休符について 【key words】 音符、休符、付点音符、連符 【授業概要】 ・音符、休符の名前と長さについて ・連符の表し方 ・次回、確認小テスト 【教科書ページ・参考文献】 P32～40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 確認テストに向けて復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	音符の長さとリズムについて（グループ別によるリズム打ち、リズム遊び） 【key words】 音符の長さ、リズム打ち 【授業概要】 ・音符、休符混合のリズム打ち ・グループによるリズム打ち ・リズム打ちの課題提示（プリント配布） 【教科書ページ・参考文献】 P32～40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題プリントの練習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	音名について　日本音名・英音名の説明 【key words】 音名、英音名、白鍵、黒鍵 【授業概要】 ・音名とは何か ・日本音名と英音名の表記について ・白鍵と黒鍵の表記について 【教科書ページ・参考文献】 P19～23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本音名と英音名を覚える 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	変化記号・調号・異名同音について 【key words】 シャープ、フラット、ナチュラル 【授業概要】 ・変化記号の名前と意味について ・変化記号の調号と臨時記号での使い方 ・異名同音について ・次回、音名の確認小テスト 【教科書ページ・参考文献】 P23～31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 確認小テストのための復習 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	拍子（単純拍子・複合拍子）・拍子記号について 【key words】 拍子、リズム 【授業概要】 ・確認テスト ・拍子の表し方と意味について ・単純拍子と複合拍子について ・拍とリズムについて　練習問題 【教科書ページ・参考文献】 P64～75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リズム打ちの練習問題 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	強弱記号・発想記号・反復記号について 【key words】 リピート、Ｄ．Ｓ、Ｄ．Ｃ、コーダ 【授業概要】 ・反復記号と省略記号の種類と奏法について ・強弱記号と発想記号の種類と意味について 【教科書ページ・参考文献】 P157～168 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト中の練習問題を解答しておく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	音程について①音程の説明と長音程・短音程について

【key words】
音と音とのへだたり「度」
【授業概要】
・音程とは何か
・音程の表し方
・長音程、短音程の違いについて
【教科書ページ・参考文献】
P41～43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P43～54を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　音程について②完全音程の説明と音程のまとめ
【key words】
完全4度、完全5度、増、減
【授業概要】
・完全音程の種類について
・半音の数の関係による、増減について
・次回、音程の確認の小テスト
【教科書ページ・参考文献】
P43～54
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストのための復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　音階と調について①音階の説明と長音程について
【key words】
テトラコード、属音、下属音、導音
【授業概要】
・音階の音のならびについて
・音階の中の属音、下属音、導音について
【教科書ページ・参考文献】
P76～77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P76～81を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　音階と調について②調号と主音について
【key words】
♯系の調号、♭系の調号、主音
【授業概要】
・調号の書き方の注意点について
・各調における主音の位置について
【教科書ページ・参考文献】
P76～81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
調号と主音の位置の確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　音階と調について③短音階の説明　長調と短調の関係について
【key words】
和声的短音階、旋律的短音階
【授業概要】
・短音階の種類について
・長音階と短音階の関係について
・同名調と同主調について
【教科書ページ・参考文献】
P81～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
短音階が各調で弾けるようにしておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　日本音階について
【key words】
長音階、短音階、日本音階
【授業概要】
・日本音階の音列について
・わらべうた、民謡について
【教科書ページ・参考文献】
P85～88　こどものうた200
【課題・予習・復習・授業準備指示】
音列とは何か復習しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　前期のまとめ・復習等
【key words】
まとめ
【授業概要】
前期内容の復習
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

		前期試験範囲の確認と復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１６回	後期オリエンテーション 【key words】 授業の進め方 【授業概要】 ・授業の進め方の確認 ・授業内容について 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各調の調号と主音の確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１７回	転調・移調について 【key words】 調号、主音、「度」 【授業概要】 ・転調と移調の意味と違いについて ・移調の必要性について 【教科書ページ・参考文献】 P92～93 【課題・予習・復習・授業準備指示】 調と音程の復習をしておくように 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１８回	移調の方法・練習問題 【key words】 調号、主音、「度」 【授業概要】 ・調を変える移調 ・音程を移動させる移調 ・それぞれの方法の説明 ・練習問題の課題 【教科書ページ・参考文献】 P101～103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題問題を次回までに提出する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１９回	和声について①主要三和音・副三和音について 【key words】 主和音、属和音、下属和音 【授業概要】 ・音階上にできる三和音について 【教科書ページ・参考文献】 P114～120 【課題・予習・復習・授業準備指示】 和音の響きの違いを確認しておく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２０回	和声について②各調における主要三和音と終止形について 【key words】 主要三和音、カデンツ 【授業概要】 ・各調における主要三和音の構成音について ・和音の連結について 【教科書ページ・参考文献】 P121～124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ハ長調のカデンツを左手で練習しておく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２１回	コードネームについて（種類と表記の説明） 【key words】 英音名 【授業概要】 ・英音名の確認 ・各調でのⅠ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅴ7　について 【教科書ページ・参考文献】 P135～136 【課題・予習・復習・授業準備指示】 和音記号の表し方の確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２２回	和音記号とコードネームの関係について 【key words】 和音記号 【授業概要】 和音記号とコードネームの表し方の違いについて

【教科書ページ・参考文献】
P137～139
【課題・予習・復習・授業準備指示】
和音記号とコードネームを比較して確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　各調における主要三和音とコードネームの関係について
【key words】
スリーコード
【授業概要】
・各調（ハ長調、ヘ長調、ト長調）における主要三和音の確認
・スリーコードについて
【教科書ページ・参考文献】
P137～139
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P184を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　楽式（一部形式、二部形式、三部形式等の説明）
【key words】
楽節、形式
【授業概要】
・形式の説明と特徴
・各形式の曲によって説明
【教科書ページ・参考文献】
P184
【課題・予習・復習・授業準備指示】
形式の種類の確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　楽器の種類と奏法について、扱い方の注意点について
【key words】
有音程打楽器、無音程打楽器
【授業概要】
・打楽器の種類と奏法
・指導上の留意点
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（楽器の種類）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
楽器（打楽器）の名前を覚える
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　合奏（グループ別による選曲と、分担楽器の練習）
【key words】
合奏、アンサンブル
【授業概要】
・7～8人のグループによるハンドベル演奏（ドレミのうた）
・グループごとに合奏曲を選び楽器分担をする
【教科書ページ・参考文献】
合奏曲の配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の受けもち楽器の練習
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　合奏（グループ別演奏発表）
【key words】
合奏
【授業概要】
・グループごとに合奏曲の発表
・年令に適した合奏曲について
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　音楽史（西洋音楽史）鑑賞等
【key words】
バロック、古典派、ロマン派
【授業概要】
・各年代の音楽の特徴と主な作曲家
・各作曲家の代表的作品のＣＤ鑑賞
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（作曲家と作品）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
作曲者と作品が一致するように覚える
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２９回　音楽史（日本の音楽、わらべ歌・童謡等について）
【key words】
日本音階、わらべうた
【授業概要】
・西洋の長音階、短音階と日本音階の違いについて

	・わらべうたの伴奏について 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（わらべうた） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 わらべうたの伴奏練習 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　後期のまとめ復習 【key words】 後期授業内容のまとめ 【授業概要】 授業内容の復習とまとめ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末試験のための復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	五線紙を準備すること。予習・復習を行い授業の理解度を高めるようにする。 スマートフォンの電源は切っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内に配布されるプリント等は、きちんと整理しておく。 毎回講義の復習をし、疑問点等は次回の講義で質問する。 実技等の練習をしておくように。
オフィスアワー	授業時に指示する
評価方法	授業内課題（30%）　実技試験（70%）
教科書	わかりやすい楽典　音楽之友社
参考書	-
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅰ（音楽）　　授業コード：4071　4072

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
佃　朋子・峯岸　梓			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「遊び」は幼児にとって重要な学習である。保育や幼児教育の現場に於いて求められている表現活動について理解し、音楽を通して幼児が「遊び」から学ぶ資質・能力を養うことが出来るよう知識や技術を習得する。 【到達目標】 子どもの心身の発達や取り巻く環境等から保育内容を踏まえ、子どもの生活と遊びに於ける体験(身近な自然の音や音色・人の声・音楽等)や保育の日常生活を捉え、具体的展開のための技術を実践的に学ぶ。
授業の概要	（音楽）では、ピアノを使用し、6名前後のグループに分かれ音楽の基本的な知識やピアノ演奏法についてレッスンする。グループ内においては、各学生の進度にあわせて個別にレッスンを行い各自の演奏技能を高められるよう進行する。同時に幼児歌曲の弾き歌いを指定された曲数を演奏し、歌唱及び伴奏・コードを学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目（前期）オリエンテーション 【key words】 前期授業概要 【授業概要】 オリエンテーション・クラス分け 学生それぞれの進度に合わせた曲決め・バイエル50番以降＋弾き歌い３曲暗譜＋手遊び3曲 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	学生それぞれの進度に応じた内容　（ピアノ基礎）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方・音楽の記号・用語 【key words】 正しく練習する習慣を身につける 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備

【予習復習に必要な想定時間】
20分

第３回　学生それぞれの進度に応じた内容　（ピアノ基礎）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方・音楽の記号・用語
【key words】
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第４回　学生それぞれの進度に応じた内容　（ピアノ基礎）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方・音楽の記号・用語
【key words】
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第５回　学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
暗譜する力をつける
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第６回　学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
　ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
　弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
　特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
　弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第７回　学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
　ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
　弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
　弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

	第８回	学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法 【key words】 理論・ソルフェージュを理解しピアノ曲を表現豊かに演奏する技術 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） 　ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 　弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ 　特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける 　弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏 　伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第９回	学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法 【key words】 課題曲数（バイエル50番まで＋弾き歌い5曲暗譜）のクリアに向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） 　ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 　弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ 　特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける 　弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏 　伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１０回	学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法 【key words】 リズム、ハーモニー、テンポをきちんと理解して演奏する 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１１回	学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法 【key words】 試験曲（バイエル50番以降のピアノ曲を1曲暗譜で仕上げる）を選曲 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 　試験曲の練習 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１２回	学生それぞれの進度に応じた内容　　前期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 前期試験に向けて：試験曲の決定 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 　試験曲の練習 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１３回	学生それぞれの進度に応じた内容　　前期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 前期試験に向けて：試験曲の暗譜 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 　試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】

バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１４回　学生それぞれの進度に応じた内容　前期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏
【key words】
前期試験に向けて：人前での演奏
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
　試験曲の仕上げ・人前での演奏に慣れる
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
　個別指示：試験曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１５回　前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
前期試験のためのリハーサル
【授業概要】
授業内課題をクリアする
　試験曲の仕上げ・人前での演奏に慣れる
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験曲の仕上げ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１６回　科目（後期）オリエンテーション
【key words】
後期授業概要
【授業概要】
前期に引き続きレベルアップを図る
　学生それぞれの進度に合わせた曲決め（バイエル80番以降＋弾き歌い３曲暗譜＋絵描き歌2曲）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：実力に応じた選曲
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１７回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１８回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１９回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２０回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・絵描き歌・ピアノ演奏法

【key words】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２１回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・絵描き歌・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２２回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・絵描き歌・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２３回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２４回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２５回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２６回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
　試験曲選曲（バイエル80番以降のピアノ曲1曲を暗譜）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の準備

	【予習復習に必要な想定時間】 20分 第２７回　学生それぞれの進度に応じた内容　後期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 試験曲の決定 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第２８回　学生それぞれの進度に応じた内容　後期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 試験曲の練習 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第２９回　学生それぞれの進度に応じた内容　後期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 後期試験に向けて・人前での演奏 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 試験曲の仕上げと暗譜・人前での演奏に慣れる 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第３０回　後期実技試験について／後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期実技試験について／後期のまとめ 【授業概要】 授業内課題をクリアする 試験曲の仕上げ・人前での演奏に慣れる 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験曲の仕上げ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 五線紙とノートを準備すること。予習・復習を行うこと。子どもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、授業に持参すること。 〔受講のルール〕 実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜とノートは各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	演奏技術向上のために計画的に練習すること。音楽づくりについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて研究すること。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	実技試験80％・授業内評価20％
教科書	①バイエル『ピアノ教則本』全音楽譜出版社　②小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社 ③小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社
参考書	①田丸信明編『新訂ピアノの森２』GAKKEN　②田丸信明編『新訂ピアノの森３』GAKKEN　③ブルクミュラー『25の練習曲』全音楽譜出版社　④『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社　⑤『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅰ（図画工作）　　授業コード：4081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
関根　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児が表現を通してイメージを豊かにし感性を養うことができるように、幼児の造形表現指導に必要な知識や技能を身　に付けることを目的とする。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児の造形表現に関する基礎的な知識が理解できる。 ②幼稚園教育要領の表現のねらい、内容、内容の取扱いが理解できる。 ③造形表現における身近な自然やものなどの様々な素材や教材、用具等に触れ、表現を体験することを通して、その特性を理解し、幼児を想像して造形活動を構想することができる。 ④描画における子どもの発達段階、表現の傾向、類型、支援方法について理解できる。
授業の概要	幼児の造形表現の意義や特質に関する基礎的な知識、幼稚園教育要領、子どもの描画の発達等について学習する。また、現場で用いる多様な素材、用具を用いて教材作りをし、教材開発を試みると同時に、子どもへの支援活動のあり方について模索する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　（授業の概要説明、学習のための準備等の確認）　「表現」の意味の発見 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、表現、造形表現、創造性、感性 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○受講のために準備するもの　○受講のルール　○この講座を通して身に付けてほしいこと（自分自身の表現能力を高める　幼児の指導能力を高める　感性を豊かにする） 【教科書ページ・参考文献】 教科書　Ｐ１～３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　本講座で学びたいこと、要望等をメモしてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	子どもの「表現」とは　幼児期と造形表現の特質 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域「表現」、表出 【授業概要】 ○幼児期と表現の特質　○表現の分類　○幼児期と造形表現　○表現と表出 【教科書ページ・参考文献】 参考書　村内哲二　「造形表現の指導」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　トレイのギターのアイデアスケッチを描いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分

	第３回	幼稚園教育要領から　　領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱い 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、表現 【授業概要】 ○領域「表現」のねらいと内容　　１　ねらい（①豊かな感性　鑑賞力につながるもの　②自己表現を意欲的に楽しむ。　③イメージを豊かに表現を楽しむ、着想、創造性につながるもの）　２　内容　（造形に関するものだけ教科的に扱うのではなく、まだ認識が未分化の総合的に表現活動をすること）　３　内容の取扱い 【教科書ページ・参考文献】 石山哲郎　　「幼稚園教育要領・保育所保育指針」　　チャイルド社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 トレイのギターのアイデアスケッチを描いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第４回	製作　　「トレイのギター」　　（身の回りの材料をつかって） 【key words】 トレイのギター　　ボディー　　ネック　　遊ぶものをつくる 【授業概要】 トレイのギター製作　○幼児の製作のねらい　　楽器づくりを通して、身近な素材に親しみ、作った楽器を工夫して遊ぶ楽しさを味わう。　○製作の手順　①素材の形を選ぶ　②ボディーやネックに絵や模様を描く。③ネックをボディーにとりつける。輪ゴムを取り付ける　④音を鳴らして楽しむ 【教科書ページ・参考文献】 雑誌　「保育とカリキュラム」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「トレイのギター」の改良版を考えてくること（教材開発） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第５回	製作　　二つ折りの動物　　（紙を二つ折りにして立つ動物をつくる。） 【key words】 二つ折りの動物　　支援の方法 【授業概要】 「二つ折りの動物」　　○幼児の製作のねらい　　・紙を二つにおって立てた形から、思い浮かんだ動物を自分なりに表現してつくり楽しむ。　・皆でつくった動物を持ち寄り、動物園を作り、動物園ごっこをして楽しむ。　　○製作の手順　　絵本などを見て、動物の特徴を思い出し、表現する。 【教科書ページ・参考文献】 「絵画・製作・造形遊び百科」　　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 既成の紙による動物つくりの模倣ではなく、オリジナルの作り方を考案する　（教材開発） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第６回	製作　　吊るす飾り　　（保育室を飾るもの、七夕飾りをつくる） 【key words】 ちょうちん飾り　　七夕　　折り紙による伝承的な技法 【授業概要】 「吊るす飾り」　ちょうちんかざり　　ねらい　　昔から折り紙で七夕の日に作り続けられているちょうちんかざりの伝統的な技法をマスターし、さらに学生自身の創造性を発揮して、幼児たちがどのように楽しく創造的なちょうちん飾りを作るとよいか新しい感覚の参考作品を作り、指導方法を考える。（教材開発） 【教科書ページ・参考文献】 月刊雑誌　「Ｐｒｉｐｒｉ　６月号」　　世界文化社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　オリジナルの新しく創造的なちょうちん飾りを考案する　　（教材開発） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第７回	子どもの描画の発達段階（幼児の造形と心身の発達、錯画期、象徴期、前図式期） 【key words】 錯画期、スクリブル、象徴期、前図式期、頭足人 【授業概要】 ○子どもの造形表現の発達研究から　（チゼックの児童美術教育の実践）　　○錯画期（手指の運動の軌跡、生のリズム）　○象徴期（形に意味づけをする）　　○前図式期（頭足人間） 【教科書ページ・参考文献】 長谷川喜久一　　「図画工作」　　Ｐ８７～９３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ノートの整理　　練習問題をしてくる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第８回	子どもの描画の発達段階（幼児の造形と心身の発達、図式期、擬実期、写実期） 【key words】 図式期、基底線、擬実期、ギャングエイジ、写実表現 【授業概要】 ○幼児の造形と心身の発達　　○図式期　（基底線、外界と自分の関係を知るようになる。物と色の関係、大小関係も表せるようになる）　　○擬実期　（部分、全体に写実表現がみられる時期） 【教科書ページ・参考文献】 長谷川喜久一　　「図画工作」　　Ｐ９４～９６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　ノートの整理　　練習問題をしてくる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第９回	子どもの描画の表現の傾向と類型（表現にあらわれる類型）

【key words】
チゼック、誇張表現、天地空間表現、並列表現、積上表現、展開表現、レントゲン表現、同存表現、時間表現
【授業概要】
○子どもの造形表現の発達研究から　（チゼックの児童美術教育の実践）　○表現にあらわれる類型　（誇張表現、天地空間表現、並列表現、積上表現、展開表現、カタログ表現、レントゲン表現、同存表現、正面表現、時間表現）
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１０１～１０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノートの整理　練習問題をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　子どもの描画の表現の傾向と類型（傾向と問題点）
【key words】
発想の混乱、統合力の欠如、形や色の固定化、固定観念、心身の解放、情緒の安定、自信回復
【授業概要】
○傾向と問題点　（男女の相違、感動不足、発想の混乱、色や形の固定化、模倣の習慣、環境の影響）　○発達段階とその指導　（環境との接触、子どもの資料作成、教材研究）
【教科書ページ・参考文献】
教科書　長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ９６～１０１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノートの整理　練習問題をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　紙素材による制作方法について　（紙の様々な加工技術について　直線折り、曲線折り、カーリング、組む、広げる）
【key words】
ペーパースカルプチャー、紙工作の様々な技法、ペーパーアートの起源と歴史
【授業概要】
○紙の様々な加工方法について（直線折り、曲線折り、カーリング、組む等）　○紙の彫刻テーマ「お伽噺の世界」　○子どもたちに夢を与え、造形意欲を高めるような作品を製作し、保育室に設置する。　○製作　紙工作の様々な技法を駆使し、夢のある構成を考えたり、リアル感を追求したりして、創造性豊かな作品を作る。　○試作
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのような紙工作をつくるかアイデアスケッチをしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１２回　製作　物語の中の人物　（アイデアスケッチ、試作、製作）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　○子どもたちに夢を与え、造形意欲を高めるような作品を製作し、保育室に設置する。○製作　紙工作の様々な技法を駆使し、夢のある構成を考えたり、リアル感を追求したりして、創造性豊かな作品を作る。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品の続きをつくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１３回　製作　物語の中の人物　（製作　有効な紙の加工技法を用いて製作）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　製作つづき　効率的で美しく効果的な紙工芸の技法を考え、駆使して製作する。　ていねいで、リアル感ができるだけ出るように、繊細につくる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品の続きをつくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１４回　製作　物語の中の人物　（製作　仕上げ、鑑賞）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　製作つづき　効率的で美しく効果的な紙工芸の技法を考え、駆使して製作する。　ていねいで、リアル感ができるだけ出るように、繊細につくる。　作品を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品を完成させる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１５回　色彩の基礎　（色の三属性・混色）

【key words】
色の三属性　色相　明度　彩度　色立体　色環　色光の三原色　混色　純色　補色　濁色　清色
【授業概要】
○色彩の基礎　・色の三属性　・混色　純色　清色、　濁色　・補色　同系色　類似色　反対色　・色光の三原色と混合について学ぶ。
○まとめ　アクティブラーニングを採り入れた造形表現指導,　造形表現活動における支援の方法
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５１～１５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノート、プリント類を整理する
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１６回　色彩の基礎　（色面構成と配色練習）
【key words】
色相差を基調とした配色　明度差を基調とした配色　彩度差を基調とした配色
【授業概要】
○色彩の配置と面積との関係は重要な意味を持つこと知り、表現の目的に応じて柔軟に色彩を駆使し、配色効果を上げられるよう実践を通して色彩感覚を育む。
○画面を自由に分割して、構成や配色を考えながら美しく着色する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５４～１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノート、プリント類を整理する
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１７回　色彩の基礎　（色面構成と配色練習）
【key words】
色相差を基調とした配色　明度差を基調とした配色　彩度差を基調とした配色
【授業概要】
○表現の目的に合わせて、色彩のバランスを考えながら美しく着色する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５４～１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
色面構成の作品を仕上げる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１８回　形の基礎・構成の形式
【key words】
点による形　線による形　面による形　立体による形　左右対称　均衡　比例　強調　律動　動勢　調和
【授業概要】
○定規やコンパス、様々な線材料や面材料、量材料などを用いて、点、線、面による形態をつくって構成し、その構成のおもしろさを研究する。
○構成の形式とその効果を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５６～１６３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
形の構成の作品を仕上げる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１９回　マーブリング（墨流し）の制作
【key words】
版画　平版　マーブリング　墨流し
【授業概要】
○水面に、墨汁や絵の具を浮かし、紙をふせて写しとる，マーブリングの技法を学ぶ。
○墨汁や絵の具が水面に浮いて流動する形の面白さや美しさを味わう。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　マーブリングでできた形から、新しい造形的なイメージを展開させたことをまとめてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２０回　マーブリング（墨流し）の作成　墨流しをした紙を自由な形に切り、構成する
【key words】
マーブリング　墨流し　造形的なイメージ　再構成
【授業概要】
○マーブリングでできた形からイメージをふくらませ、形を切ったり貼り合わせたり、クレヨン等で加筆したりして、新しい造形的なイメージを展開し、作品をつくる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　マーブリングの実技で気付いたこと、絵の具の濃さや色の組合せ、流動的な形の工夫などをまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２１回　わたしのランチョンマット作成（染物）　給食の時間、おやつの時間に使って楽しめるもの
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　わたしのランチョンマット作成（染物）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　フロッタージュ（こすりだし）身近な植物の葉や身の回りのものを色鉛筆等でこすり、形や凹凸の面白さを楽しむ

【key words】
版画　凸版　フロッタージュ　こすりだし
【授業概要】
○凹凸のあるもの（木の葉、木目の美しいもの、金網、レース、ネットなど）に直接紙をのせて、鉛筆やクレヨン、パスなどで、物の地肌をそのまま写しとり楽しむ。
○貼り絵にしたり、こすりだしながら作品を作る。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５・１２６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　身の回りのもので凹凸のあるものをさがして用意する。　復習
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２４回　型押しあそび　自然の素材や身近なものを型押しして楽しむ

【key words】
版画　凸版　型押しスタンピング　押す　転がす　重ねる
【授業概要】
○自然物（木片、木の葉、石、野菜、果物）、器物（ビンのふた、ボタン、釘の頭）、ひも類、布類、紙類、空き箱、段ボールなどをそのままの形を生かしたり、形を変えたりして並べ方や組合せ方を工夫したりして絵の具を付けて押して楽しむ。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　身の回りにある版の材料となりそうなものを集める。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２５回　型押しあそび　型押ししたものを再構成して楽しむ

【key words】

【授業概要】
○気に入ったところを切り取って貼り絵にしたり、組み合わせたりして、イメージした世界を絵に表現する。○
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　紙版画の制作　紙を切り取って貼り合わせ版をつくる

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　紙版画の制作　摺る

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　コラグラフの作成　身近な素材を貼り合わせて版をつくる

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　　コラグラフの作成　摺る 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　　まとめ　造形表現における環境の構成 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会あるごとに復習小テストを行う。 ○実技製作をする場合はどのようなものをつくるか予めアイディアスケッチを描いて授業に臨むこと。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分まで対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び小課題（５０％）
教科書	長谷喜久一著　　「図画工作」　　建帛社
参考書	鬼丸吉弘著　「児童画のロゴス　一身体性と視覚」　勁草書房　　（２００５）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅰ（図画工作）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児が表現を通してイメージを豊かにし感性を養うことができるように、幼児の造形表現指導に必要な知識や技能を身　に付けることを目的とする。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児の造形表現に関する基礎的な知識が理解できる。 ②幼稚園教育要領の表現のねらい、内容、内容の取扱いが理解できる。 ③造形表現における身近な自然やものなどの様々な素材や教材、用具等に触れ、表現を体験することを通して、その特性を理解し、幼児を想像して造形活動を構想することができる。 ④描画における子どもの発達段階、表現の傾向、類型、支援方法について理解できる。
授業の概要	幼児の造形表現の意義や特質に関する基礎的な知識、幼稚園教育要領、子どもの描画の発達等について学習する。また、現場で用いる多様な素材、用具を用いて教材作りをし、教材開発を試みると同時に、子どもへの支援活動のあり方について模索する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　（授業の概要説明、学習のための準備等の確認）　「表現」の意味の発見 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、表現、造形表現、創造性、感性 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○受講のために準備するもの　○受講のルール　○この講座を通して身に付けてほしいこと（自分自身の表現能力を高める　幼児の指導能力を高める　感性を豊かにする） 【教科書ページ・参考文献】 教科書　Ｐ１～３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　本講座で学びたいこと、要望等をメモしてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	子どもの「表現」とは　　幼児期と造形表現の特質 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域「表現」、表出 【授業概要】 ○幼児期と表現の特質　○表現の分類　○幼児期と造形表現　○表現と表出 【教科書ページ・参考文献】 参考書　村内哲二　「造形表現の指導」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　トレイのギターのアイデアスケッチを描いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分

	第３回	幼稚園教育要領から　　領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱い 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、表現 【授業概要】 ○領域「表現」のねらいと内容　　１　ねらい（①豊かな感性　鑑賞力につながるもの　②自己表現を意欲的に楽しむ。　③イメージを豊かに表現を楽しむ、着想、創造性につながるもの）　２　内容　（造形に関するものだけ教科的に扱うのではなく、まだ認識が未分化の総合的に表現活動をすること）　３　内容の取扱い 【教科書ページ・参考文献】 石山哲郎　　「幼稚園教育要領・保育所保育指針」　　チャイルド社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 トレイのギターのアイデアスケッチを描いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第４回	製作　　「トレイのギター」　　（身の回りの材料をつかって） 【key words】 トレイのギター　　ボディー　　ネック　　遊ぶものをつくる 【授業概要】 トレイのギター製作　○幼児の製作のねらい　　楽器づくりを通して、身近な素材に親しみ、作った楽器を工夫して遊ぶ楽しさを味わう。　○製作の手順　①素材の形を選ぶ　②ボディーやネックに絵や模様を描く。③ネックをボディーにとりつける。輪ゴムを取り付ける　④音を鳴らして楽しむ 【教科書ページ・参考文献】 雑誌　「保育とカリキュラム」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「トレイのギター」の改良版を考えてくること（教材開発） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第５回	製作　　二つ折りの動物　　（紙を二つ折りにして立つ動物をつくる。） 【key words】 二つ折りの動物　　支援の方法 【授業概要】 「二つ折りの動物」　　○幼児の製作のねらい　　・紙を二つにおって立てた形から、思い浮かんだ動物を自分なりに表現してつくり楽しむ。　・皆でつくった動物を持ち寄り、動物園を作り、動物園ごっこをして楽しむ。　　○製作の手順　　絵本などを見て、動物の特徴を思い出し、表現する。 【教科書ページ・参考文献】 「絵画・製作・造形遊び百科」　　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 既成の紙による動物つくりの模倣ではなく、オリジナルの作り方を考案する　（教材開発） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第６回	製作　　吊るす飾り　　（保育室を飾るもの、七夕飾りをつくる） 【key words】 ちょうちん飾り　　七夕　　折り紙による伝承的な技法 【授業概要】 「吊るす飾り」　ちょうちんかざり　　ねらい　　昔から折り紙で七夕の日に作り続けられているちょうちんかざりの伝統的な技法をマスターし、さらに学生自身の創造性を発揮して、幼児たちがどのように楽しく創造的なちょうちん飾りを作るとよいか新しい感覚の参考作品を作り、指導方法を考える。（教材開発） 【教科書ページ・参考文献】 月刊雑誌　「Ｐｒｉｐｒｉ　６月号」　　世界文化社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　オリジナルの新しく創造的なちょうちん飾りを考案する　　（教材開発） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第７回	子どもの描画の発達段階（幼児の造形と心身の発達、錯画期、象徴期、前図式期） 【key words】 錯画期、スクリブル、象徴期、前図式期、頭足人 【授業概要】 ○子どもの造形表現の発達研究から　（チゼックの児童美術教育の実践）　　○錯画期（手指の運動の軌跡、生のリズム）　○象徴期（形に意味づけをする）　　○前図式期（頭足人間） 【教科書ページ・参考文献】 長谷川喜久一　　「図画工作」　　Ｐ８７～９３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ノートの整理　　練習問題をしてくる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第８回	子どもの描画の発達段階（幼児の造形と心身の発達、図式期、擬実期、写実期） 【key words】 図式期、基底線、擬実期、ギャングエイジ、写実表現 【授業概要】 ○幼児の造形と心身の発達　　○図式期　（基底線、外界と自分の関係を知るようになる。物と色の関係、大小関係も表せるようになる）　　○擬実期　（部分、全体に写実表現がみられる時期） 【教科書ページ・参考文献】 長谷川喜久一　　「図画工作」　　Ｐ９４～９６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　ノートの整理　　練習問題をしてくる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第９回	子どもの描画の表現の傾向と類型（表現にあらわれる類型）

【key words】
チゼック、誇張表現、天地空間表現、並列表現、積上表現、展開表現、レントゲン表現、同存表現、時間表現
【授業概要】
○子どもの造形表現の発達研究から　（チゼックの児童美術教育の実践）　○表現にあらわれる類型　（誇張表現、天地空間表現、並列表現、積上表現、展開表現、カタログ表現、レントゲン表現、同存表現、正面表現、時間表現）
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１０１～１０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノートの整理　練習問題をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　子どもの描画の表現の傾向と類型（傾向と問題点）
【key words】
発想の混乱、統合力の欠如、形や色の固定化、固定観念、心身の解放、情緒の安定、自信回復
【授業概要】
○傾向と問題点　（男女の相違、感動不足、発想の混乱、色や形の固定化、模倣の習慣、環境の影響）　○発達段階とその指導　（環境との接触、子どもの資料作成、教材研究）
【教科書ページ・参考文献】
教科書　長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ９６～１０１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノートの整理　練習問題をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　紙素材による制作方法について　（紙の様々な加工技術について　直線折り、曲線折り、カーリング、組む、広げる）
【key words】
ペーパースカルプチャー、紙工作の様々な技法、ペーパーアートの起源と歴史
【授業概要】
○紙の様々な加工方法について（直線折り、曲線折り、カーリング、組む等）　○紙の彫刻テーマ「お伽噺の世界」　○子どもたちに夢を与え、造形意欲を高めるような作品を製作し、保育室に設置する。　○製作　紙工作の様々な技法を駆使し、夢のある構成を考えたり、リアル感を追求したりして、創造性豊かな作品を作る。　○試作
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのような紙工作をつくるかアイデアスケッチをしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１２回　製作　物語の中の人物　（アイデアスケッチ、試作、製作）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　○子どもたちに夢を与え、造形意欲を高めるような作品を製作し、保育室に設置する。○製作　紙工作の様々な技法を駆使し、夢のある構成を考えたり、リアル感を追求したりして、創造性豊かな作品を作る。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品の続きをつくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１３回　製作　物語の中の人物　（製作　有効な紙の加工技法を用いて製作）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　製作つづき　効率的で美しく効果的な紙工芸の技法を考え、駆使して製作する。　ていねいで、リアル感ができるだけ出るように、繊細につくる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品の続きをつくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１４回　製作　物語の中の人物　（製作　仕上げ、鑑賞）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　製作つづき　効率的で美しく効果的な紙工芸の技法を考え、駆使して製作する。　ていねいで、リアル感ができるだけ出るように、繊細につくる。　作品を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品を完成させる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１５回　色彩の基礎　（色の三属性・混色）

【key words】
色の三属性　色相　明度　彩度　色立体　色環　色光の三原色　混色　純色　補色　濁色　清色
【授業概要】
○色彩の基礎　・色の三属性　・混色　純色　清色、　濁色　・補色　同系色　類似色　反対色　・色光の三原色と混合について学ぶ。
○まとめ　アクティブラーニングを採り入れた造形表現指導，　造形表現活動における支援の方法
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５１～１５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノート、プリント類を整理する
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１６回　色彩の基礎　（色面構成と配色練習）
【key words】
色相差を基調とした配色　明度差を基調とした配色　彩度差を基調とした配色
【授業概要】
○色彩の配置と面積との関係は重要な意味を持つこと知り、表現の目的に応じて柔軟に色彩を駆使し、配色効果を上げられるよう実践を通して色彩感覚を育む。
○画面を自由に分割して、構成や配色を考えながら美しく着色する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５４～１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノート、プリント類を整理する
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１７回　色彩の基礎　（色面構成と配色練習）
【key words】
色相差を基調とした配色　明度差を基調とした配色　彩度差を基調とした配色
【授業概要】
○表現の目的に合わせて、色彩のバランスを考えながら美しく着色する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５４～１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
色面構成の作品を仕上げる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１８回　形の基礎・構成の形式
【key words】
点による形　線による形　面による形　立体による形　左右対称　均衡　比例　強調　律動　動勢　調和
【授業概要】
○定規やコンパス、様々な線材料や面材料、量材料などを用いて、点、線、面による形態をつくって構成し、その構成のおもしろさを研究する。
○構成の形式とその効果を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５６～１６３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
形の構成の作品を仕上げる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１９回　マーブリング（墨流し）の制作
【key words】
版画　平版　マーブリング　墨流し
【授業概要】
○水面に、墨汁や絵の具を浮かし、紙をふせて写しとる，マーブリングの技法を学ぶ。
○墨汁や絵の具が水面に浮いて流動する形の面白さや美しさを味わう。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　マーブリングでできた形から、新しい造形的なイメージを展開させたことをまとめてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２０回　マーブリング（墨流し）の作成　墨流しをした紙を自由な形に切り、構成する
【key words】
マーブリング　墨流し　造形的なイメージ　再構成
【授業概要】
○マーブリングでできた形からイメージをふくらませ、形を切ったり貼り合わせたり、クレヨン等で加筆したりして、新しい造形的なイメージを展開し、作品をつくる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　マーブリングの実技で気付いたこと、絵の具の濃さや色の組合せ、流動的な形の工夫などをまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２１回　わたしのランチョンマット作成（染物）　給食の時間、おやつの時間に使って楽しめるもの
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　わたしのランチョンマット作成（染物）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　フロッタージュ（こすりだし）身近な植物の葉や身の回りのものを色鉛筆等でこすり、形や凹凸の面白さを楽しむ

【key words】
版画　凸版　フロッタージュ　こすりだし
【授業概要】
○凹凸のあるもの（木の葉、木目の美しいもの、金網、レース、ネットなど）に直接紙をのせて、鉛筆やクレヨン、パスなどで、物の地肌をそのまま写しとり楽しむ。
○貼り絵にしたり、こすりだしながら作品を作る。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５・１２６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　身の回りのもので凹凸のあるものをさがして用意する。　復習
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２４回　型押しあそび　自然の素材や身近なものを型押しして楽しむ

【key words】
版画　凸版　型押しスタンピング　押す　転がす　重ねる
【授業概要】
○自然物（木片、木の葉、石、野菜、果物）、器物（ビンのふた、ボタン、釘の頭）、ひも類、布類、紙類、空き箱、段ボールなどをそのままの形を生かしたり、形を変えたりして並べ方や組合せ方を工夫したりして絵の具を付けて押して楽しむ。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　身の回りにある版の材料となりそうなものを集める。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２５回　型押しあそび　型押ししたものを再構成して楽しむ

【key words】

【授業概要】
○気に入ったところを切り取って貼り絵にしたり、組み合わせたりして、イメージした世界を絵に表現する。○
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　紙版画の制作　紙を切り取って貼り合わせ版をつくる

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　紙版画の制作　摺る

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　コラグラフの作成　身近な素材を貼り合わせて版をつくる

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　　コラグラフの作成　摺る 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　　まとめ　造形表現における環境の構成 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会あるごとに復習小テストを行う。 ○実技製作をする場合はどのようなものをつくるか予めアイディアスケッチを描いて授業に臨むこと。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分まで対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び小課題（５０％）
教科書	長谷喜久一著　　「図画工作」　　建帛社
参考書	鬼丸吉弘著　「児童画のロゴス　一身体性と視覚」　勁草書房　　（２００５）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅰ（体育）　　授業コード：4091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
高橋　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　乳幼児の発育・発達に応じた運動遊びを実践的に学び、実際に子どもに指導できるようにすることを目的とする。 【到達目標】 ①乳幼児期の運動遊びの意味、内容、支援・援助方法を理解できる。 ②健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。 ③さまざまな運動遊びの体験を通して、支援・援助方法が行える。
授業の概要	乳幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びの教材研究と、授業内容の基礎・基本を習得する。また、授業の展開の中でいかに楽しく積極的に、且つ安全に遊べるかを学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　子どもの生活における運動遊びの必要性と目的 【key words】 【key words】 健康　からだ　こころ　社会性 【授業概要】 【授業概要】 運動遊びは、こころ、からだ、社会性の３つの要素の必要性があることを理解する。また、運動遊びの目標を、幼稚園教育要領と保育所指導指針の具体的なねらいを通して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 教科書：体育あそび１２０　p1～12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】「乳幼児期の心身の発達」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	乳幼児の心身の発達、運動遊びの指導の実際 【key words】 【key words】 発育・発達　からだ　こころ 【授業概要】

【授業概要】
幼児期の身体の発達の特徴（スキャモンの発達曲線、身長・体重の発育、身体各部分の比率、機能面の発達、身体発達の特徴）や運動能力の特徴（体力、運動能力、調整力、運動能力テスト）、こころの発達の特徴（情緒の発達、認知の発達、生活習慣の発達、パーソナリティーの発達）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p13～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「歩く・走る」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　「歩く」「走る」運動遊び
【key words】
【key words】
歩く　走る

【授業概要】
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。歩く運動では（しっかりと、おもちゃと、動物のものまねで、バランスをとって、リズミカルに、ゲーム等）走る運動では（早く歩く、自由に、まっすぐ、フォームをつくって、変化をつけて、障害物やゲーム等）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p39～６０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボールを使った運動遊び」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　教材「ボール」を使った運動遊び
【key words】
【key words】
ボール　一体感

【授業概要】
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。ボールを使った運動では（自由に、蹴って、渡して、投げて、打って、的に当て、ミニサッカーやドッチボール等）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p６1～７２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「縄」運動について学習し
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　教材「縄」を使った運動遊び
【key words】
【key words】
縄　一体感

【授業概要】
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。縄を利用した運動では（またいで、上を歩いて、波・ヘビ跳び、大波・小波、一人跳び、縄体操、幅跳び、縄跳びリレー等）について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p７３～８３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「新聞紙」を利用した運動
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　教材「新聞紙」を使った遊び
【key words】
【key words】
新聞紙　一体感

【授業概要】
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。新聞紙を利用した運動では（またいで、上を歩いて、丸めて、折りながら、跳ぶ、乗る、投げる、走る、くぐる等）の運動遊びについて学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p８４～83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「様々な用具を使った」運動について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　教材「様々な道具」を使った遊び
【key words】
【key words】
マット　跳び箱

【授業概要】
【授業概要】
マットや跳び箱など様々な道具を用いて保育場面で子どものからだの発達に役立つか体験する。体験を通して、発達に関することだけでなく安全面での対策などを具体的に学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p８４～83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「伝承遊び」運動について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　伝承遊び、鬼遊び、集団遊び
【key words】
【key words】
伝承　昔の遊び

【授業概要】
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。伝承遊び（かくれんぼ、ダルマさん転んだ、ハンカチ落とし、かごめかごめ、花いちもんめ等）の内容や鬼遊びなど地域性、昔の風習、遊びの歌ことばを通じて昔からの幼児の遊びを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p84～９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題・予習・復習・授業準備指示】「様々な用具を使った」運動について学習しておく
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　課題研究（班での計画・立案）
【key words】
【key words】
グループ研究

【授業概要】
【授業概要】
授業を通じて学習した内容を精査検討し、テーマの設定、指導上の留意点、遊具の作成等工夫をし、グループ発表の準備をおこなう。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p84～９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「様々な用具を使った」運動について学習しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　課題研究（遊具や用具・遊びの準備）
【key words】
【key words】
グループ研究

【授業概要】
【授業概要】
授業を通じて学習した内容を精査検討し、テーマの設定、指導上の留意点、遊具の作成等工夫をし、グループ発表の準備をおこなう
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

「テーマ・内容・発表方法」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　課題研究（発表準備）
【key words】
【key words】
グループ研究

【授業概要】
【授業概要】
授業を通じて学習した内容を精査検討し、テーマの設定、指導上の留意点、遊具の作成等工夫をし、グループ発表の役割分担、リハーサル等をおこなう。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「グループでの役割」について相談、分担して、リハーサルをおこなっておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　課題研究発表（班別発表）
【key words】
【key words】
研究発表　指導　協力

【授業概要】
【授業概要】
グループ員が指導者、他クラス員が児童の役割に分かれ、ミニ授業を行う。発表後に実際に指導した側と受講した児童側の感想や質疑応答のなかで、反省や課題について明確にすると共に改善方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「グループでの役割」を実際におこなっておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　課題研究発表（班別発表）
【key words】
【key words】
研究発表　指導　協力

【授業概要】
授業概要】
グループ員が指導者、他クラス員が児童の役割に分かれ、ミニ授業を行う。発表後に実際に指導した側と受講した児童側の感想や質疑応答のなかで、反省や課題について明確にすると共に改善方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「「グループでの役割」を実際におこなっておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　課題研究発表（班別発表）
【key words】
【key words】
研究発表　指導　協力

【授業概要】
【授業概要】
グループ員が指導者、他クラス員が児童の役割に分かれ、発表を行う。発表後に実際に指導した側と受講した児童側の感想や質疑応答のなかで、反省や課題について明確にすると共に改善方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「グループ別発表での課題」についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　課題研究発表振り返り　まとめ 【key words】 【key words】 保育　からだ　こころ　発育・発達 【授業概要】 【授業概要】 幼児期のからだとこころの発達や特徴を踏まえた運動体験を通じて、運動遊びの指導の実際を理解することにより、運動遊びの目的の明確化と必要性を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 教科書：体育あそび１２０　p1～12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保育の表現技術（体育）に関してまとめたものをまとめ、授業内で発表。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	【授業態度】 グループワークで話し合いの指示や、携帯電話を使用した調べ学習の指示がある場合以外は、私語、携帯電話の使用厳禁とする。 2人組や、グループで行う活動があるため、積極的に参加をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	ボランティア活動や幼稚園・保育兼等の見学実習において、子どもの遊びや言動を意識して観察をする。
オフィスアワー	火曜日（16：00～17：30）、木曜日（16：00～17：30）
評価方法	実技・発表試験50%、レポート試験50%を総合的に評価する
教科書	岩崎洋子　保育実用シリーズ　体育遊び120：チャイルド本社
参考書	黒井信隆：0～5歳児たのしい運動遊び：いかだ社：2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬大学の地域貢献型総合型地域スポーツクラブ群大クラブに所属し、地域のこども達対象にダンスを教える。現在はキッズダンススクールにて前橋地区のこども達にダンスを指導。 小中学校群馬県ダンス大会第1回から第3回までを主催。 また出張講座、公開講座等で地域の親子対象のダンス教室を実施、渋川地区の中学校教員対象の指導者講習会講師、伊勢崎市中体連ダンス大会の審査員、群馬県中体連ダンス大会審査員 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容（健康）　　授業コード： 4112

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
高橋　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　子どもを取り巻く健康の課題を知り、子どもの健康な心とからだを育てられる保育者を目指す。また、自分自身の健康を見直し、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養えることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児教育の基本や領域「健康」について理解ができる。 ②子どもの健康をめぐる現状と課題を理解し、保育者として課題に向けてどのようなことができるか考えることができる。 ③「健康」と、遊び、生活習慣、環境構成、安全教育のつながりを理解し、態度や技能を身につけることができる。
授業の概要	子どもの発育・発達段階に沿って、心と体の両面から理解を深め、幼児教育における子どもの健康保持・増進を図るうえで、必要な知識・技能とともに、環境教育、教育条件を整えるのに必要な資質を習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　（健康とは、領域「健康」について） 【key words】 【key words】 「健康とは」「他領域との関連」「幼児教育の基本」 【授業概要】 【授業概要】 授業の概要について説明する。保育における健康という領域に関して知る。他の領域とどのように関連しているか学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 P10～40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】幼児教育の基本を学んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２回　幼児教育の基本 【key words】 【key words】 「幼児教育の目的と領域」「環境を通しての保育」「保育者のさまざまな役割」 【授業概要】

【授業概要】
　幼児期においてどのような子どもの姿を目的に保育をしていくか学ぶ。それに関してどのような環境でどのような役割を保育士が担っていくか理解する。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P10～35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】こｂ
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　子どもの育ちと領域「健康」

【key words】
【key words】
「運動能力の発達」「情緒の安定」

【授業概要】
【授業概要】
　子どもの一般的な発達について理解する。情緒の安定の重要性について理解し、保育士がどのように保育の中でそれらを形成していくのか具体的に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P41～54
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供に健康について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　子どもの「健康」をめぐる現状と課題（環境）

【key words】
【key words】
「生活習慣の形成」「子どもの発達と事故」

【授業概要】
【授業概要】子どもの発達につれて、どのような危険が生じるのか理解する。また、生活習慣をどのように形成していくか学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P55～64
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供の生活について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　子どもの「健康」をめぐる現状と課題（生活 ）

【key words】
【key words】
「最近の子どもの姿」「運動能力を低下させた原因」「集団保育の役割」

【授業概要】
【授業概要】
　近年の子どもの姿について学び、どのように時代と共に変化しているか学ぶ。集団保育における保育者の役割とは何か学ぶ。実際の事例を見ながら、子どもの遊びについて学び、指導の方法などを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P65～84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　子どもの健康と遊び

【key words】
【key words】
「乳児の遊び」「ルールのある遊び」

【授業概要】
【授業概要】
　子どもの遊びについて学び、遊びの意味について事例を通して理解する。またグループワークを行う。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P85～99
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供の遊びについて調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】

６０分
第７回　子どもの健康と遊び
【key words】
【key words】
「遊具を使った遊び」「遊びの環境構成」

【授業概要】
【授業概要】
保育園などの環境で、どのように遊具を使って遊びを展開するか学ぶ。また、そうした遊びの環境がどのように構成されているかグループワークなどを通して学ぶ。
子どもの遊びに関してグループワークを通して保育者が援助すべきことや配慮すべきことに関して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P100～112
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供の仲間つくりについて調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第８回　子どもの健康と遊び
【key words】
【key words】
「遊具を使った遊びの配慮事項」「環境設定」

【授業概要】
【授業概要】
子どもの遊びに関してグループワークを通して保育者が援助すべきことや配慮すべきことに関して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P113～148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供の生活と健康について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第９回　子どもの健康という領域に関して
【key words】
【key words】
「健康における発達」「健康における遊び」「保育者の援助方法」

【授業概要】
【授業概要】
【授業概要】これまでの授業内容を振り返り、健康の領域における保育者に必要とされる知識・技能について学ぶ。特に発達や遊び、保育者の援助方法に関するレポートまたは小テストを行い、理解度についても確認を行う。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P10～148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供の集団生活について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第１０回　園生活と生活習慣
【key words】
【key words】
「園生活の中での生活習慣」「園生活と食」「園生活と睡眠」

【授業概要】
【授業概要】
園の中での生活における生活習慣の身につけ方や、食の重要性、睡眠の意味などについて事例を通して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P149～167
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】園と生活習慣について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第１１回　園生活と生活習慣
【key words】
【key words】
「園環境と当番活動」「生活習慣を育む保育者の役割」「生活習慣と家庭との連携」

【授業概要】
【授業概要】
　生活習慣を身につける中で、保育者はどのような役割を担っているのか学ぶ。また家庭ともどのように連携していくべきか事例を通して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P168～184
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】家庭と園での生活習慣を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　園生活と生活習慣のまとめ

【key words】
【key words】
「健康における生活習慣」「保育者の援助方法」

【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【授業概要】
　これまでの授業内容を振り返り、健康の領域における保育者に必要とされる知識・技能について学ぶ。特に生活習慣や環境構成、保育者の援助方法に関するレポートまたは小テストを行い、理解度についても確認を行う
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P149～184

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】園生活と生活習慣をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　子どもの健康と安全教育

【key words】
【key words】
「安全教育の考え方」「遊びの中で育む安全の意識」「事故が起きた場合の対応」

【授業概要】
【授業概要】
　子どもにとって事故は日常的に起こるものである。その中で予防的な対応から実際に事故が起きた時の対応に関して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P185～202
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供を取り巻く課題について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　幼児教育の現代的課題と領域「健康」

【key words】
【key words】
「現代社会における今日的課題」「保育者の役割」「生涯発達」

【授業概要】
【授業概要】
　社会的な課題や生涯発達における課題などを統計的な調査などを確認し、理解する。保育における健康が世界的にどのような状況であるか理解する
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P203～216
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】現代の子供を取り巻く環境と課題をまとめておく。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１５回　全体の振り返り

【key words】
【key words】
「健康の重要性」「健康における子どもの発達」「健康における保育の環境構成」

【授業概要】
【授業概要】
　これまでの授業を振り返り、具体的に健康という領域における保育者の役割について理解する。保育において健康がどのような意味を持つのか重要性について理解する

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P10～P216

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】健康について保育者の役割の重要性をまとめてしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	【資料の取り扱いについて】 授業にて資料を配布した際、欠席者は次回の授業までに教員の下へとりにくることとする。 【授業態度】 グループワークで話し合いの指示や、携帯電話を使用した調べ学習の指示がある場合以外は、私語、携帯電話の使用厳禁とする。 積極的な発言、意欲的な取り組みを期待する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	ボランティア活動や幼稚園見学実習において、子どもの遊びや言動を意識して観察をする。
オフィスアワー	火曜日（12：40～13：10）
評価方法	授業中の課題・提出物等30％、筆記試験70％を総合的に評価する
教科書	倉持清美：事例で学ぶ保育内容　領域「健康」改訂版：萌文書林2018
参考書	黒井信隆：0～5歳児たのしい運動遊び：いかだ社：2010 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬大学の地域貢献型総合型地域スポーツクラブ群大クラブに所属し、地域のこども達対象にダンスを教える。現在はキッズダンススクールにて前橋地区のこども達にダンスを指導。 小中学校群馬県ダンス大会第1回から第3回までを主催。 また出張講座、公開講座等で地域の親子対象のダンス教室を実施、渋川地区の中学校教員対象の指導者講習会講師、伊勢崎市中体連ダンス大会の審査員、群馬県中体連ダンス大会審査員 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容（環境）　　授業コード： 4132

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 今日、多様化した環境の中で成長している子ども達を保育するうえで、保育者にはそれらの環境に対して総合的かつ高度な知識と視野が要求されている。本講義では、領域「環境」に関する基礎的な知識を習得するとともに、子どもを取り巻く環境を様々な面から捉え、保育者として子どもにとって好ましい環境を創出していくために必要な考え方と能力を身につけることを目的とします。 【到達目標】 ①子ども達をとりまく様々な環境について理解する。 ②乳幼児の発達と保育環境の設定の相互関係を理解する。 ③保育者としてより良い環境を見つけるための視点を身につける。
授業の概要	乳幼児の発達と保育環境の設定との相互関係を知り、保育環境の意義や役割について考え、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めていきます。本講義では、多くの事例から子ども達を取り巻く環境について考え、保育者が適切な環境をどう整備し、どう提供するか、どう援助すればよいか、それによってどう子どもの伸びる力を引き出すかなどを考察し学んでいきます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション～この授業で何を学ぶのか 【key words】 保育、環境、保育内容、領域 【授業概要】 「保育」「環境」の二つのキーワードから連想されるイメージを各自あげることから始まり、保育内容としての「環境」を学ぶ意義について考察していく。 【教科書ページ・参考文献】 P1～2 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P3～11の事例をよく読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	保育の基本とは 【key words】 保育の基本、生きる力 【授業概要】 乳幼児期に何を培うべきかなど、「保育の基本」を学び、事例を基に「乳幼児期の保育として大切にしたいこと」を具体的に学び考察していく 【教科書ページ・参考文献】 P3～11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P12～19の事例をよく読んでおくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　領域「環境」の位置づけ
【key words】
領域、教科との違い
【授業概要】
領域と教科の違いについて、様々な事例を基に考察し、具体的に学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
P12～19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P20～23の事例を良く読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　子どもと環境とのかかわり（１）①身近な環境の捉え方
【key words】
身近な環境、身近な自然・生き物
【授業概要】
身近な環境の捉え方について考察し、子どもと「身近な自然・生き物」との関わりについて事例を基に具体的に考察し学んでいく。フィールドワークとして、学内の自然について調べる。
【教科書ページ・参考文献】
P20～23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P24～28の事例を良く読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　子どもと環境とのかかわり（１）②身近な自然・生き物とのかかわり
【key words】
身近な環境、身近な自然・生き物
【授業概要】
身近な環境の捉え方について考察し、子どもと「身近な自然・生き物」との関わりについて事例を基に具体的に考察し学んでいく
【教科書ページ・参考文献】
P24～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P29～31の事例を良く読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　子どもと環境とのかかわり（２）①物とのかかわり
【key words】
物、文字や記号
【授業概要】
子どもと「物」との関わりについて、 事例を基に具体的に考察し学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
P29～31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P31～35の事例を良く読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　子どもと環境とのかかわり（２）②文字や記号・数量とのかかわり
【key words】
文字や記号、数量
【授業概要】
子どもと「文字や記号」「数量」との関わりについて、事例を基に具体的に考察し学んでいく
【教科書ページ・参考文献】
P31～35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P36～43の事例を良く読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　子どもと環境とのかかわり（３）情報や施設とのかかわり
【key words】
情報、行事、異文化、地域
【授業概要】
子どもと「情報や施設」「園内外行事」との関わりについて、様々な事例を基に具体的に考察し学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
P36～43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P44～51の事例を良く読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　さまざまな保育環境について【ＤＶＤ学習】
【key words】
コーナー保育、自然保育、年中行事
【授業概要】
さまざまな保育環境について【ＤＶＤ学習】を行う。いくつかの園の保育について比較し、保育内容や保育環境についての考察を深めていく。ＤＶＤの感想をまとめグループワークを行う
【教科書ページ・参考文献】
P44～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P44～51の事例を良く読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】

	30分 第１０回　園庭の自然や遊具とのかかわり　模擬保育 【key words】 園庭の自然、固定遊具 【授業概要】 子どもと園庭の自然や遊具とのかかわりについて、事例を基に具体的に考察していく。 【教科書ページ・参考文献】 P44～51 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P52～57の事例を良く読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１１回　室内の遊具・教材・設備とのかかわり（情報機器及び教材の活用） 【key words】 室内の遊具・教材・設備 【授業概要】 子どもと「室内の遊具」「教材」「設備」との関わりについて、事例を基に具体的に考察していく。 【教科書ページ・参考文献】 P52～57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P58～67の事例を良く読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　飼育・栽培・園外保育 【key words】 飼育・栽培、当番活動、園外保育 【授業概要】 保育内容として行なわれる「飼育」「栽培」「園外保育」について、事例を基に具体的に考察していく。 【教科書ページ・参考文献】 P58～67 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P81～90の事例を良く読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　領域「環境」と保育の実際（１）環境を生活に取り入れる 【key words】 生活環境、法則性 【授業概要】 「身の回りの生活環境の変化や法則性に気付く」ことや「環境を生活に取り入れる」ことなどを事例を基に、具体的に学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 P81～90 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P91～98の事例を良く読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　領域「環境」と保育の実際（２）文字･数量の感覚を身に付ける 【key words】 思考力の芽生え、文字・数量の感覚 【授業概要】 保育内容のなかで、「思考力の芽生え」や「文字・数量の感覚を身に付ける」ことなどを事例を基に、具体的に学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 P91～98 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P108～111　幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と照らし合わせて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　まとめ 【key words】 幼児理解　保育内容の統合性、地域の資源の活用 【授業概要】 幼児教育では、保育者自身が保育環境に関心を持つことが非常に大切であり、地域の資源の活用も含めて保育内容を構成していく必要がある。 【教科書ページ・参考文献】 P108～111　幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と照らし合わせて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	○幼稚園教諭免許状、保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。 ○課題等の提出期限は必ず守ること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず連絡すること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	・身近な環境・自然に興味を持ち授業に臨むこと。 ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参照すること。
オフィスアワー	木曜13：00～15：50　それ以外の時間帯についてはアポイントを取ってください。
評価方法	定期試験（60%）授業内レポート・小テスト（40%）の総合評価
教科書	演習 保育内容 環境　　柴崎 正行 編著　　建帛社
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育原理　　授業コード： 5001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース・選択／学校教育コース・必修
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育の①理念並びに歴史及び思想、②教育課程の意義及び編成の基礎的理解を得る。新しい時代に必要とされる資質・能力の育成とカリキュラム･マネジメントを行うことの意義を理解する。 [到達目標] １　教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。 ２　学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。 ３　教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。
授業の概要	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を社会的背景に照らし合わせて考察し、学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、教育の基本的概念を習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、教育の可能性 【key words】 教育の語源、教育の可能性･必要性、カント 【授業概要】 科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、教育の可能性･授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。 毎回、【視点】にそった内容のミニレポートを課す。課題をミニレポートという形でまとめることにより、授業内容をより理解し、各自の興味関心が膨らむ。・講義内容によっては、資料、レジュメ等で進める回もある。各自が捉える「教育」とは何かについて、意見・考えを述べる。教育の語源に視点をあてながら、語源からみえる「教育」とは何かについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP1～P7　第1章　なぜ教育学をまなぶのか 参考書：沼田裕之(2004)『＜問い＞としての教育学』第１章　どうして学ばなければならないのだろうか 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育の語源からみえてくる「教育」とは何か、カントの命題から教育の可能性・必要性を整理し、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。ソクラテスの助産術について事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２回	子ども観と教育観（積極的教育、消極的教育、助教法、助産術） 【key words】

		積極的教育、消極的教育、助産術、ソクラテス、ルソー 【授業概要】 子ども観と教育観について、積極的教育、消極的教育、助産術から捉える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP1～第1章　なぜ教育学をまなぶのか 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子ども観と教育観について、積極的教育、消極的教育、助産術から捉え、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。アテネとスパルタの教育について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第３回	教育における人間像　（古代１、古代２、中世、あるゆる人にあらゆるものを、国民、市民 【key words】 7自由科、アテネの教育、スパルタの教育 【授業概要】 教育における人間像について、古代、中世に遡り、国民、市民となっていった歴史的変遷を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP23～P27　第2章　学校はどのようにつくられたか-その歴史と課題 資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育における人間像について、歴史的変遷から捉え、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP23～第2章学校はどのようにつくられたか、学校とは何かについて事前に学習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第４回	近代学校の誕生と発展（下構型・上構型の学校システム、複線型・分岐型・単線型の就学形態） 【key words】 下構型・上構型の学校システム、複線型・分岐型・単線型の就学形態 【授業概要】 下構型・上構型の学校システムと複線型・分岐型・単線型の就学形態について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP28～第2章　学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題 テキストP243～付録：学校の系統図 【課題・予習・復習・授業準備指示】 下構型・上構型の学校システムと複線型・分岐型・単線型の就学形態について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP23～、義務教育の成立について事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第５回	日本における義務教育の成立と展開（明治以前、明治～昭和10年代、昭和20年代以降） 【key words】 学制、小学校令、学校教育法 【授業概要】 日本における義務教育の成立と展開（明治以前、明治～昭和10年代、昭和20年代以降）を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題 資料：日本における義務教育の成立と展開 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本の義務教育の成立と展開について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 オープンスクールについて調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第６回	多様化する学校・学校は誰のためにあるか（閉鎖性・開放性、オープンスクール） 【key words】 閉鎖性、開放性、オープンスクール

【授業概要】
近代国家が教育を支配する巧妙な支配方式であることを学び、教育を学校のみに閉じ込めてしまう閉鎖性の体制から開放性へと向う多様化する学校について考察する。改めて学校は誰のためにあるのかを確認する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP23～第2章　学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題
資料：閉鎖性・開放性、オープンスクール
【課題・予習・復習・授業準備指示】
閉鎖性から開放性へと向かう中で、学校は誰のためにあるのかを考察する。本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。児童中心主義と教師中心主義を調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　教育実践を支える思想（児童中心主義、教師中心主義、問題解決／活動／労作の原理）
【key words】
児童中心主義、教師中心主義、問題解、デューイ

【授業概要】

教育実践を支える思想（児童中心主義、教師中心主義、問題解決／活動／労作の原理）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP1～第1章　なぜ教育学をまなぶのか
資料：教育実践を支える思想

【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童中心主義とは何か、教師中心主義とは何かを確認し、教育実践を支える思想について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP131～「子どもに学ぶということ」を事前学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第８回　教えると学ぶ（教えていないけど学ぶ・教えているけど学ばない、教師－教材－子ども）
【key words】
教えると学ぶ、教師－教材－子ども

【授業概要】
教えていないけど学ぶ・教えているけど学ばない、教師－教材－子どもの関係性を読み解き、教えると学ぶとはどういったことなのか、について学ぶ。
グループ討議を行う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP131～　第6章　子どもに学ぶということ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教えると学ぶとはどういったことなのか、について本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育課程について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　教育課程編成の主体（学校で何を教え、何を学ぶか）
【key words】
教育課程の編成、学習指導要領、教師

【授業概要】

教育課程編成の主体は何かを学び、学校で何を教え、何を学ぶのかを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか
参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ
　　文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育課程編成の主体とは何かを確認し、学校で何を教え、何を学ぶのかを教育課程編成から読み解き、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育課程の類型について、事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１０回　教育課程の類型　（経験主義、系統主義）
【key words】

教育課程の類型、経験主義、系統主義

【授業概要】

教育課程の類型である経験主義と系統主義について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP71～　第4章　なぜ学習指導の転換が必要か
参考書:田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ
　　文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育課程の類型（経験主義、系統主義）について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出する。
学習指導要領の変遷(小学校則～国民学校令施行規則まで、試案)について事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１１回　学習指導要領の変遷①（小学校則～国民学校令施行規則まで、試案としての学習指導要領）
【key words】
小学校教則、国民学校令施行規則、学習指導要領（試案）、経験主義

【授業概要】

学習指導要領の変遷（小学校教則～国民学校令施行規則まで、試案としての学習指導要領）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか、参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ、文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領の変遷について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
学習指導要領の変遷(告示としての学習指導要領)について事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１２回　学習指導要領の変遷②（告示としての学習指導要領）
【key words】
改訂のねらいと特徴

【授業概要】

告示としての学習指導要領の改訂のねらいと特徴について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか、参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ、文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領の変遷（告示としての学習指導要領の改訂のねらいと特徴）について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育課程編成の方法について、事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１３回　教育課程編成の方法
【key words】
新学習指導要領、社会に開かれた教育課程の実現、主体的･対話的で深い学び

【授業概要】

教育課程編成の方法について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか、参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ、文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育課程編成の方法について、本時の内容をミニレポートにまとめて提出すること。
カリキュラム・マネイジメントについて、調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　カリキュラム・マネイジメントと評価
【key words】
カリキュラム･マネイジメント、評価

	【授業概要】 カリキュラム･マネイジメントと評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料・レジュメ:カリキュラム・マネイジメントと評価 参考書：田村 知子他(2016)『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい 【課題・予習・復習・授業準備指示】 カリキュラム･マネイジメントと評価について、本時の内容をミニレポートにまとめ、提出する。 テキストP205～「教師について考える」を熟読し、教師の仕事･教職の専門性について事前に学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１５回　教師について考える 【key words】 教師の仕事、教職の専門性 【授業概要】 教師の仕事とは何か、教職の専門性とは何かについて学ぶ。 グループで意見交換を行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP205～第９章　教師について考える 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教師の仕事、教職の専門性について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 教育原理の講義で学んだことを復習し、定期試験に向けて準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、試験またはレポート（70%）を総合して評価する。
教科書	柴田義松著『新教育原理』有斐閣双書、2005年
参考書	田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領 講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉相談援助の基盤(専門)　　授業コード： 7005

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】精神保健福祉の基本を学ぶ。精神保健福祉と社会福祉の共通点・相違点を明確にし二つの国家試験受験資格を取得できる福祉系大学の特色を生かし福祉の多方面、ジェネラルなソーシャルワークを学ぶ。 【到達目標】総合的かつ包括的相談援助の理念と方法を精神保健福祉学から次に精神科医療との協働・連携する方法に関する知識や技術を学び精神保健福祉士の倫理観、責任感、行動力の基盤を学ぶ。
授業の概要	精神保健福祉の総合的かつ包括的援助の理念と方法に関する知識と技術を学ぶ。精神科医療及び地域福祉サービスとの協働・連携する方法に関する知識と技術を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション　講義の進め方 【key words】 退院後生活環境相談員 グループワーク体験学習。 ※プリントの配布 【授業概要】 プリントから精神保健福祉士の「お仕事」を概観する。退院後生活環境相談員の誕生について理解させ、コミュニティーミーティングにつなげる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書１）14ページ，２）140ページ、３）32ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　精神保健福祉士制度の歩み 【key words】 精神保健福祉士の歴史。 【授業概要】 PSW(精神科ソーシャルワーカー）とは？ 【教科書ページ・参考文献】 教科書1～16P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

第３回　資格化と専門性
【key words】
社会福祉士と精神保健福祉士

【授業概要】
保護者制度の廃止と退院後生活環境相談員

※社会構造の変化と医療構造の変化
【教科書ページ・参考文献】
教科書13ページ、136ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　人間理解促進のための概念を学ぶ
【key words】
抵抗、両価性、転移・逆転移。

【授業概要】
支援関係のポイント。心理社会療法というソーシャルワーク。
【教科書ページ・参考文献】
※51ｐハミルトン。54ｐホリス
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　退院促進の始まり、ゴッフマンてしている
【key words】
ビバリッジ報告、五つの悪、知ってます？
【授業概要】
大規模収容施設をアサイラムと言います。精神科病院のことです。そこで暮らすと自然にいつの間にか身につくことがあってそれを『スティグマ』と呼びます。社会学者のゴッフマンがつけました。
そこから抜け出すことを「治療共同体理論」として広めたのがイギリスの脱施設化です。
【教科書ページ・参考文献】
教科書32ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　精神科ソーシャルワークの説明
【key words】
アメリカのMSWと日本のMSW。

【授業概要】
SWのグローバル定義と社会正義。
ロールズの格差理論、センのケーパビリティー。
【教科書ページ・参考文献】
教科書35～63P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　精神障害者の人権
【key words】

「措置入院」という強制入院がある。

【授業概要】
何人にもある侵さざるべき基本的人権とは。
「措置入院」という強制入院がある。
日本では一時期、措置入院患者が多く居た。なぜか？
【教科書ページ・参考文献】
教科書7ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　日本のＰＳＷ（精神保健福祉士）
【key words】
精神保健医療福祉の改革ビジョン。

【授業概要】
※教科書に従って。
【教科書ページ・参考文献】
教科書11P、130～136P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第９回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク 【key words】 エンパワーメント、ストレングス、リカバリー。 【授業概要】 コミュニティーミーティングの説明からシステム論、エコロジカル論、ナラティブアプローチまで。 【教科書ページ・参考文献】 教科書87～95ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	ソーシャルワークの定義と構成要素 【key words】 人と状況の全体関連性。 【授業概要】 教科書57～58Pを中心に。 バイスティックの７つの原則と３つの方向「力動的相互作用」を扱う。（注・前本４７P） SSTも少しやる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書57～58P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	ソーシャルワークと精神保健 【key words】 ホリスの心理社会的アプローチを学ぶ。 【授業概要】 心理社会的アプローチを学ぶ。 教科書90P、図３－１の説明。 そして事例を検討する。 １）問題は何か ２）どうしてそうなったか ３）どうしたらいいか 【教科書ページ・参考文献】 54ページ、90ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	人間理解のための重要な概念と「見立て」 【key words】 未解決問題の理解。 【授業概要】 アセスメント⇒見立て……社会診断。 隠れている本質を探る、見抜く。再び転移、両価性、抵抗。 ※十分わかっていれば「分裂＝スプリット」 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	ソーシャルワークの展開過程 【key words】 相互作用、交互作用。 【授業概要】 エコロジカルソーシャルワークの本質。 グループワークにも展開過程がある。ケースワークにも。 【教科書ページ・参考文献】 教科書108～121P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回	ケースワーク、グループワークのまとめ 【key words】 課題グループ、プログラム活動、治療グループ。 【授業概要】 教科書に従って。 【教科書ページ・参考文献】 教科書120P～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回	生活支援とコミュニティーワーク 【key words】

	生活モデルと生活支援 【授業概要】 地域で当たり前の生活を。 生活支援、コミュニティーワークとしての地域生活支援。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　　精神保健福祉相談援助の基盤
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、３０年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施、他、医局勉強会において医師、SW,CPを対象にSSTトレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅰ　　授業コード：8001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
白石　憲一・安留　孝子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。 【到達目標】 社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。自身が作成した解説を用い、他者に説明することができる。月例テストを行うことで、学びが身についているのかを自身で判断できる。
授業の概要	既習科目を中心に学習していく。社会福祉士国家試験に合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るため、過去問を解いた上で、自身で解説を作成し提出する。自身が作成した解説を他者に伝える。月に1回、月例テストを行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験の出題傾向やレポートの作成方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～21頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉振興・試験センターのHPを調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第２回	学習目標，学習計画の立案 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 今後の学習目標や学習計画を立案し、グループワークで意見交換を行う。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士国家試験関係の参考書を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第３回	本学の国家試験対策の体制について 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験委員会の担当教員を紹介し、さらに本学での国家試験対策の取り組みについて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
14頁～352頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士国家試験の出題科目を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第４回　読解力テストの実施
【key words】
読解力
【授業概要】
読解力テストの実施し、各自が自分の読解力について把握する。
【教科書ページ・参考文献】
各教科の教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各教科の教科書を使って、文章を読む練習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第５回　「読解力」が問われる国家試験問題の紹介と解説
【key words】
相談援助の理論と方法
【授業概要】
社会福祉士国家試験の事例問題で、読解力の重要性を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
社会福祉士国家試験
【課題・予習・復習・授業準備指示】
319頁
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第６回　社会理論と社会システム①
【key words】
社会理論と社会システム、社会福祉士国家試験
【授業概要】
社会理論と社会システムの過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。
【教科書ページ・参考文献】
202頁～223頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第７回　社会理論と社会システム②
【key words】
社会理論と社会システム、社会福祉士国家試験
【授業概要】
社会理論と社会システムの過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。
【教科書ページ・参考文献】
202頁～223頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第８回　相談援助の基盤と専門職①
【key words】
相談援助の基盤と専門職、社会福祉士国家試験
【授業概要】
相談援助の基盤と専門職の過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。
【教科書ページ・参考文献】
310頁～330頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第９回　相談援助の基盤と専門職②
【key words】
相談援助の基盤と専門職、社会福祉士国家試験
【授業概要】
相談援助の基盤と専門職の過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。
【教科書ページ・参考文献】
310頁～330頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当ページを通読する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１０回　第１回　月例テスト
【key words】
社会理論と社会システム、相談援助の基盤と専門職、社会福祉士国家試験
【授業概要】
社会理論と社会システム、相談援助の基盤と専門職の月例テストに解答し、習熟度を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
202頁～223頁、290頁～306頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	社会理論と社会システムと心理学理論と心理的支援の社会福祉士国家試験の過去問題を理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１１回　人体の構造と機能及び疾病 【key words】 人体の構造と機能及び疾病、社会福祉士国家試験 【授業概要】 人体の構造と機能及び疾病の過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 262頁～289頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１２回　福祉行財政と福祉計画 【key words】 福祉行財政と福祉計画、社会福祉士国家試験 【授業概要】 福祉行財政と福祉計画の過去問題を1問解説し、2問レポートを各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 174頁～192頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１３回　第2回　月例テスト 【key words】 人体の構造と機能及び疾病、福祉行財政と福祉計画、社会福祉士国家試験 【授業概要】 人体の構造と機能及び疾病、福祉行財政と福祉計画の月例テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 262頁～289頁、174頁～192頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体の構造と機能及び疾病、福祉行財政と福祉計画の社会福祉士国家試験の過去問題を理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１４回　学習目標と学習計画の振り返り 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 これまでの学習を振り返り、今後の学習計画を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士国家試験関係の参考書を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１５回　期末テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会理論と社会システム、心理学理論と心理的支援の、人体の構造と機能及び疾病、福祉行財政と福祉計画の期末テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人体の構造と機能及び疾病、福祉行財政と福祉計画、社会理論と社会システム、相談援助の基盤と専門職の社会福祉士国家試験の過去問題 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	各回において、最新の国家試験該当科目をプリントアウトし持参すること。各回の該当科目のテキスト、ノート等を用意すること。 各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内で解答の解説作りを行う。授業内で作り終えない場合には、原則翌週までに提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくこと。授業で学 習した内容は、その日のうちにしっかりと理解するように努めること。学内模試が行われる場合には、参加すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験またはレポート20%、月例テスト40%、課題への取り組み・提出物など40%。
教科書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）

参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（ 出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎演習Ⅰ　　授業コード：9001　9002　9003　9004　9005　9006　9007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
安留　孝子・大島　由之・江原　京子・吉澤　幸・櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。 ②基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成などの学習スキルを身に付けることができる。 ③昌賢祭の研究発表や制作を通じて、問題解決能力、コミュニケーション能力を養うことができる。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養成するとともに、基礎的学習スキルを身に付けることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①（学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅰの年間計画、授業の受け方、履修届等の確認） 【key words】 【key words】学長等の訓話・講話、年間計画、履修届　他学問との理解･交流　初年次教育」 【授業概要】 【授業概要】①基礎演習Ⅰで、４年後の目標<個人・クラス>、クラスの目標を話し合い、目標作りをし、発表する。 ②以後、定期的に４年後の目標<個人・クラス>、クラスの目標の達成度について、話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】学生ハンドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】令和２年度前後期の授業計画を確認し、提出日には必ず履修届を出すこと。また、手帳に自己の時間割をメモしておくことを指示。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	心身の健康プログラム①－生活の充実についてⅠ（防犯講座） 【key words】 【key words】防犯、ネット被害　一人暮らしの注意事項　ＳＮＳの上手な使用方法

【key words】防犯　安全・安心な学生生活

【授業概要】
【授業概要】①生活安全、ネット犯罪・被害について、講話を聞く。（全体）
②男子と女子に分かれ、必要な防犯講話を聞く。
③本時の学習をワークシートにまとめ、担任に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】群馬県警作成のＤＶＤやパンフレットを教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】群馬県警からのパンフレットや資料を読んでおくことを指示。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　心身の健康プログラム②－生活の充実についてⅡ（クラス・学年での交流 ）
【key words】

【key words】スポーツ　友情　仲間つくり　健康

【授業概要】
【授業概要】①クラスや学年単位で、個々の特徴を述べ「宝探し」のコメントを記入しあい、交流を深める。
②レクリエーション活動をおこない、友人との交流を深める。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】「宝さがし」コメントカード
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】次回は　タオル、裁縫用具を用意しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　建学の精神と実践教育プログラム②－生活を科学するⅠ（雑巾作成、タオル、糸と針、はさみ用意）
【key words】
【key words】　雑巾縫い、少年に日、家庭の日標語作成

【key words】生活科学　環境美化

【授業概要】

【授業概要】①環境美化活動の意義を資料やグループで話し合う。
②実際に雑巾を縫う。特に、針や糸、はさみの準備・後始末について、きちんと行い安全に作業ができるよう配慮する。③少年に日、家庭の日標語作成
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】パンフレット（資料）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】雑巾縫い・標語作成が終わっていない場合は、締め切り期日までにしあげ、提出するよう指示。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　学士力育成プログラム①－ボランティア学活動支援①（マナー、申し込み方法）
【key words】
【【key words】　ボランティア　マナー

【授業概要】
【授業概要】①ボランティアの意義について学ぶ。②ボランティア活動を実践していくにあたり、マナーやボランティア先への連絡方法など、基本的な知識を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】ボランティアノートやボランティア資料を活用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】ボランティアとは何かということをまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　進路・資格取得プログラム①（入学前教育に基づく学力試験：ＩＲ室）
【key words】
【Key　words】日本語力、数理能力、一般常識

【授業概要】
【授業概要】①ＩＲ室で準備した基礎学力確認試験を実施。自己の学習課題を確認する。。
②自己課題に則り、自主学習をする。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ･参考文献】ＩＲ室と連携した基礎学力の点検とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題･予習･復習・授業準備指示】日本語や数理能力の復習とする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　学士力育成プログラム②レポート指導Ⅰ（図書館の利用の仕方）
【key words】
【key words】図書館、蔵書検索、レポートの書き方

【授業概要】
【授業概要】①図書館職員を招き、「図書館の利用の仕方」の話しを伺う。
②蔵書検索に関しては、実際にＰＰ画面を見ながら学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】図書館職員の方が持参した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】図書館職員の方からいただいた資料を熟読し、積極的に本を借りるよう指示。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　学士力育成プログラム③レポート指導Ⅱ（レポート作成Ⅰ：レポートと作文、感想文の違い、『知へのステップ』）

【key words】
【key words】情報モラル、情報分析

【授業概要】
【授業概要】①収集した情報を適切に管理するために必要な情報モラルを身につける②収集した情報をＩＣＴを利用して分析・評価をする。③検索・並び替え機能を利用して、利用しやすい資料作成法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】『知へのステップ第５版』（2019版、学習技術研究会　著書、くろしお出版　発行）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】上記テキストの第６・７章を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　学士力育成プログラム④レポート指導Ⅲ（レポート作成Ⅱ：レポート構成、執筆、『知へのステップ』）

【key words】
【key words】レポートの書き方、作文・感想文との違い、情報をまとめる

【授業概要】
【授業概要】①レポートと作文の相違を実例を通じて学ぶ②レポート執筆スケジュールに基づき執筆を始める。③パソコンを利用してレポートを推敲する。④ＩＣＴを活用してグループで情報の共有化を図る。（お互いにどのようなものに興味を持っているのかを共有化するため）④『知へのステップ』を活用し、レポートの書き方の講義を受ける。⑤書きたいテーマを考え、構想を練る。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】『知へのステップ第５版』（2019版、学習技術研究会　著書、くろしお出版　発行）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】上記テキストの第６・７・８・９章を熟読する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　学士力育成プログラム⑤レポート指導Ⅳ（レポート作成Ⅲ：レポートの推敲、完成、『知へのステップ』）

【key words】
【key words】
レポートの構成、執筆

【key　words】レポート　推敲
【授業概要】
【授業概要】①『知へのステップ』を活用し、レポートの構成、執筆をする。大きなテーマ：「福祉と教育」②文章の推敲を行い、完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】『知へのステップ第5版』の第８・９章。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】上記テキストを熟読して最終推敲とまとめを自己点検する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　学士力育成プログラム⑥－ボランティア学活動支援②（卒業生講話）

【key words】
【key　words】ボランティア活動　多職種

【key　words】　ボランティア体験

【授業概要】
【授業概要】①卒業生を招き、学生時に活動したボランティア体験を話す。②多くのボランティア活動を通して社会を知り自己研鑽になること。③ボランティア活動が進路実現に大きな役割をもたらしていることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ、参考文献】卒業生の作成資料、パワーポイント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】卒業生の体験談をワークシートにまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　学士力育成プログラム⑦－ボランティア学活動支援③（車椅子体験）
【key words】
【key　words】ボランティア　車椅子　身体障がい

【key　words】ボランティア活動　身体障がい者（脊椎損傷、麻痺）

【授業概要】
【授業概要】①車椅子体験を行い、車椅子利用者の日常生活を体験する。②車椅子利用者が社会に出た時の不便さを体験し、ノーマライゼイション思想や共生社会について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ、参考文献】担当者が配布したプリントを資料とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】車椅子利用者が不便に感じることをまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　学士力育成プログラム⑧－ボランティア学活動支援④（ブラインドウォーク体験）
【key words】
【key　words】ボランティア　アイマスク　視覚障がい

【授業概要】
【授業概要】①アイマスクを着用しブラインドウォークを行い、視覚障害者の日常生活を体験する。②視覚障がい者が社会に出た時の不便さを体験し、ノーマライゼイション思想や共生社会について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習授業・準備指示】視覚障がい者が不便に感じることをまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　建学の精神と実践教育プログラム③（試験と成績評価、ＧＰＡ制度等の説明）
【key words】
【key　words】前期総括　演習ファイル整理、授業アンケート　学生生活　環境美化活動
【授業概要】
【授業概要】※授業最初に、教務課職員から「前期定期試験の説明」を受けてから、各クラス・専攻に分かれる。
①クラスまたは専攻で、昌賢祭のテーマ、発表内容、夏季休業中の課題について話し合う。②昌賢祭実行委員が主体になって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】夏季休業中の課題をきちんとやっておくことを指示。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　精神と実践教育プログラム④（学長訓話・学部長講話、前期の振り返り・後期の計画）
【key words】
【key　words】前期総括　演習ファイル整理、授業アンケート　学生生活　環境美化活動

【授業概要】
【授業概要】①演習ファイルの前期総括を記入する。②本授業の評価アンケートを行う。③環境美化活動を念入りに行う。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】演習ファイル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】教員が演習ファイルを確認して、後期の演習課題を見つけるよう指示。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１６回　地域貢献プログラム①地域とのかかわりⅠ（障がい者スポーツとは、障がい者スポーツ大会事前説明）
【key words】
【key words】　障がい者　スポーツ　ボランティア

【key　words】障がい者　スポーツ　共生社会　ノーマライゼーション

【授業概要】
【授業概要】①群馬県障がい者スポーツ大会のボランティア体験を通じて、ノーマライゼーション思想を学ぶ。②障がいの理解を深めることにより、障がい者スポーツ参加者との交流を通じて共生社会の理解をより深める。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ大会の運営補助資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者スポーツについて学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１７回　精神と実践教育プログラム⑤（学長訓話・学部長講話）障がい者スポーツ大会の振り返り
【key words】
【key words】　学長等の訓話・講話

【授業概要】
【授業概要】①学長先生の訓話、学部長先生の講話を聞き、大学１年目の後期を意欲的にスタートする。
②後期の演習計画を知り、演習ファイルを整理する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】演習ファイル資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】演習ファイルの整理及びキャリアデザインノートの記入をしておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１８回　心身の健康プログラム③－生活の充実について（デートＤＶ防止教育）
【key words】
【key words】　昌賢祭、制作・発表

【key words】　ハラスメント、デートＤＶ

【授業概要】
【授業概要】①デートＤＶについてパワーポイントを見ながら理解する。
②代表学生によるロールプレイングを行う。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】講師持参資料を教科書とする
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】デートＤＶに関する資料を熟読しておくよう指示。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　地域貢献プログラム②地域とのかかわりⅡ（昌賢祭：各研究班の資料分析・発表検討）
【key words】
【key words】　昌賢祭、制作・発表準備

【授業概要】
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の意義を学び、制作活動・発表内容を検討する。
③昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表準備について、まとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２０回　地域貢献プログラム③地域とのかかわりⅢ（昌賢祭：各研究班の資料分析・発表検討）
【key words】
【key words】昌賢祭、制作・発表準備
【授業概要】
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の意義を学び、制作活動・発表内容を検討する。
③昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表準備について、まとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２１回　地域貢献プログラム④地域とのかかわりⅣ（昌賢祭：各研究班の資料分析・発表検討）
【key words】
【key words】　昌賢祭、制作・発表準備

【授業概要】
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の意義を学び、制作活動・発表内容を検討する。
③昌賢祭委員が主体となって進めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表準備について、まとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２２回　地域貢献プログラム⑤地域とのかかわりⅤ（昌賢祭：各研究班の資料分析・発表準備）
【key words】
【key words】　昌賢祭、制作・発表

【授業概要】
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
②昌賢祭委員と学生全員が主体となって発表する準備行う。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】今までの研究成果のまとめ資料を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表について、過去のアンケートも参考にしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　地域貢献プログラム⑥地域とのかかわりⅥ（昌賢祭：各研究班の資料分析・発表検討）
【key words】

【key words】　昌賢祭、制作・発表

【授業概要】
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の制作活動・発表準備を行う。
②昌賢祭委員と学生全員が主体となって発表する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】今までの研究成果のまとめ資を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表準備経過をまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２４回　地域貢献プログラム⑦地域とのかかわりⅦ（昌賢祭：前日準備）
【key words】
【key words】　健康　こころ　精神衛生

【key words】昌賢祭　前日準備

【授業概要】
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭の制作活動・発表の最終準備を行う。
②昌賢祭委員と学生全員が主体となって発表できるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】今までの研究成果のまとめ資を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表準備について再度確認すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　地域貢献プログラム⑧地域とのかかわりⅧ（昌賢祭：振り返り）
【key words】
【key words】昌賢祭　まとめ　発表

【key words】　昌賢祭、制作・発表のまとめ

【授業概要】
【授業概要】①クラスまたは専攻で、昌賢祭のまとめをおこなう。
②昌賢祭の振り返りシートを各自まとめ、各グループ毎に話し合う。③各グループ毎に全体会でその成果と課題等を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】振り返りシートを教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】昌賢祭の制作活動・発表成果について、きちんとまとめておくことを指示。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２６回　心身の健康プログラム④－生活の充実についてⅣ（消費者被害防止教育）
【key words】
【key words】　消費者被害防止教育

【key words】消費者被害防止

【授業概要】
【授業概要】①消費者被害防止について理解する。（群馬県消費生活課消費生活センター　講師）
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】講師持参資料を教科書とする
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】講師持参資料を熟読しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２７回　進路・資格取得プログラム②（学研　一般常識試験対策　就職常識試験）
【key words】
【key words】学力自己診断

【授業概要】
【授業概要】①約60分間の一般常識試験に取り組む。②事後、自己採点をおこない、自己の長所、短所を把握しておく。③後日、各個人に成績、学習アドバイスが送付されるので、再度学習計画をたて、教養の向上意識を高める。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】試験問題等を教科書とする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題･予習･復習・授業準備指示】試験に出された問題と自己点検内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第２８回　　進路・資格取得プログラム③（４年生講話） 【key words】 【key words】　４年生　進路 【授業概要】 【授業概要】①就職の決まった４年生をコースごとに招き、全体への講話、コース分科会での質疑応答を行う。 ①各コースごとに４年生、約８名を招へいし、全体への講話を聞く。 ②専攻毎の分科会に分かれ、全体会より一層具体的な講話を聞く。 ③もっと聞きたい場合は、先輩とコンタクトを取り、話を聞くようにする。 ④２月中旬から３月中旬の三者面談も参考にし、自己の将来を考えるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】担当が配布した資料を教科書とする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】配布したワークシートに講話内容をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２９回　　建学の精神と実践教育プログラム⑤（環境美化活動、クラス活動の振り返り） 【key words】 【key words】　環境美化活動、委員活動 【授業概要】 【授業概要】①１年間の環境美化活動と委員活動を省察する。 ②①の省察を基に、意見交流を図る。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】講師持参資料を教科書とする。環境美化ファイル 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】演習ファイルを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第３０回　　建学の精神と実践教育プログラム⑥（後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート、環境美化活動） 【key words】 【key words】　後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート、環境美化活動 【授業概要】 【授業概要】①演習ファイルの総括頁、そのた該当ページを記入する。 ②本授業の評価アンケートを行う。 ③環境美化活動を念入りに行う。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】演習ファイル 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】教員が演習ファイルに書いたコメントを見て、２年次の演習の課題を見つけるよう指示。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。 ４　基礎演習Ｉで使用した資料は、必ず基礎演習Ｉファイルに綴じておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。
オフィスアワー	各担当者に確認すること
評価方法	基礎演習Ｉへの取り組み（５０%）、ワークシート（３０%）、基礎演習Ｉファイルの整理（２０%）を総合して評価する。
教科書	鈴木利定・中田勝（著）『咸有一徳〈〉中央法規、2002年。中田勝（翻訳）初編『伝習録』明治書院、2009年。『基礎演習テキスト』群馬医療福祉大学、2012年。学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版、2002年
参考書	その他、講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 担当者全員が社会福祉（臨床心理、スクールカウンセラー）、子ども（保育園、幼稚園）、学校教育（特別支援、高等学校、教育委員会での教育行政）等で勤務実績を積み上げている。。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート

	■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 倫理学　　授業コード： 1035

英文科目名称： Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
鈴木　育三			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	地球生命の一部として存在する人類の直面している諸課題を（共生の倫理）の視点から実践事例をあげて考察する。
授業の概要	①　倫理の思想と歴史 ②　自然との共生　Eco-Ethica(生圏倫理）を中心にして ③　社会的存在としての人間の歴史的現実と倫理的諸課題 ④　社会福祉（保障）と共生の倫理 ⑤　グローバル化社会の倫理的諸課題についてシラバスに従って展開する

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　orientation 【key words】 Ethos（エートス） 【授業概要】 ①　倫理とは何か、その意味について考え、その言葉の由来を考察する。 ②　履修上の諸注意 ③　推薦図書紹介 ・今道友信著「エコエティカ」生圏倫理学入門（講談社学術文庫） ・山脇直司著「公共哲学とは何か」ちくま新書 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　今道友信著「エコエティカ」生圏倫理学入門　ect. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　倫理主体としての「人間」とは 【key words】 人間性（humanity） 【授業概要】 『人間的実存の基本的事実は「人と人が共存しつつある人間」である』－M,Buber 推薦図書　M・ブバー著「人間とは何か」児島洋訳、理想社 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　絵本「あおくんときいろちゃん」レオ・レオーニ作　至光社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　共生する＜生命＞の倫理 【key words】 Bio Ethics（生命倫理） 【授業概要】

		中村元著、構造倫理講座Ⅲ「＜生命＞の倫理」を中心にして、生命科学の進歩と生命の不思議さについて学び、その倫理的課題について、生命倫理について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	共生（Convivency)とは 【key words】 Ecology 【授業概要】 「地球上のあらゆる生物は、お互いの関係なしには生存できず、すべてがネットワークをつくっているわけです。このなかのどこかにほころびができると、ネットワークはうまく働かなくなるわけで、いまでは共生は生態系を構成するすべての生き物の関係と考えられるようになりました。『「生きもの」感覚で生きる』中村桂子著、講談社p.33ー共生は生きもののルールより 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	自然との共生①ー自然とLifeCycle 【key words】 【授業概要】 「もう一度、共生と循環という哲学を人類は取り戻さなければならない。もちろん人間にとって進歩は必要です。ですから科学技術を共生と循環という哲学のもとに共存させていく。」梅原猛著、「共生と循環の哲学」p.112 「人間は、自然を父とし母として生まれたものであり、自然のなかの他のすべての生きとし生けるものと共生する以外には生きられない。人間には神によって与えられた自然支配の特権などというものは存在しない。この自然との共生を人類の根本原理としなければならない」p.60 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　上掲書　梅原猛「共生と循環の哲学」小学館 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	生態学Ecologyと経済学Economics 【key words】 自然環境破壊と科学技術 【授業概要】 科学技術の発展によって、自然環境破壊は、著しく広大、深刻化しています。公害、気候異変ect.は、人間の生活のみならず、多様な生物を絶滅へと追いやっています。現代社会の倫理的課題を考察。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	人間の歴史と倫理的課題（Ⅰ） 【key words】 ①戦争 【授業概要】 共生の倫理の重要な課題は、戦争ー国家が他国に対し、政治的な意志を貫徹するためにとる最終的かつ暴力的手段ーである。 何故人間は‘戦争’という手段を行使するのか、人間の内に秘んでいるディーモーニッシュな＜悪性＞についてアウシュビッツ強制収容所の『夜と霧』DVDを教材にして考察する。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　「共生と平和への道」聖心女子大学キリスト教文化研究所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	人間の歴史と倫理的課題（Ⅱ） 【key words】 ②差別と偏見 【授業概要】 ・「ハンセン病重監房の記録」宮坂道夫著 ・水平社運動ー部落解放運動の原点から差別・偏見の歴史を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　DVD「草津重監房収容者」の記録 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	多様性と共生への道 【key words】 apartheid 【授業概要】 南アフリカ共和国のアパルトヘイト（人種差別制度）及びその政策に対して、隔離政策関連を廃止させ、南アフリカ初の黒人大統領となった、ネルソン・マンデラの生涯に学ぶ。 教材　DVD「マンデラとデクラーク」 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　社会福祉の思想と共生の倫理 【key words】 Human Rights 【授業概要】 人権思想の歴史と、世界人権宣言を中心にして、社会福祉（保障）の基本的理念について学ぶ。 ・基本的人権の尊重（９条） ・生存権（２５条） 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　日本国憲法（１９４６年１１月３日発布） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　科学技術と人類の課題（Ⅰ） 【key words】 ＜核エネルギーと共生の倫理＞ 【授業概要】 情報技術（IT)の発展によって、グローバル化する世界にあって、地球倫理の構築が必要とされている今日、核エネルギーをはじめ、技術革新によってもたらされる利便性と弊害について考察する。 ・福島原発事故をめぐって ・大気汚染と気候異変 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　松井孝典著『地球倫理へ』岩波書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　科学技術と人類の課題（Ⅱ） 【key words】 Pandemic 【授業概要】 ２０２０年、新型コロナウィルスが世界的規模で大流行している。これに対応するために、我々は今、何をするべきか。 「重要なことは、生命倫理をめぐる個々の解答をするよりも、むしろそうした個々の判断のベースにある『価値の体系（信念体系）』をできるだけ一貫した形で個人が築いていくことではないだろうか」広井良典著、『生命の政治学』岩波書店p.212 【教科書ページ・参考文献】 上掲書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　倫理学・補足講義（1）いかに生きるか？ 【key words】 【授業概要】 「われわれは、好むと好まざるとにかかわらず人間として生まれ、人間として生きてきたのであるが、今後どのように生きたらよいのであろうか？」中村元著『＜生きる道＞の倫理　春秋社p.3 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　倫理学・補足講義（2）分ち合の行為 【key words】 ＜実践＞すること 【授業概要】 「仏教の理想は＜慈悲＞であるが、人々に対する温かな思いやりというものは、単に心の中で思っているだけでは慈悲にならない。それは実際の行為、奉仕の行に具現されねばならない。」上掲書p.208 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　倫理学　総括：質疑・応答 【key words】 【授業概要】 最終レポート提出について、課題の提示 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	私語厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	リアクション・ペーパー提出
授業外時間にかかわ	講義時に指示する。

る情報	
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	リアクション・ペーパー、及び出席　５０点 レポート提出　５０点
教科書	教科書は無いが、随時参考文献を紹介する。
参考書	随時提示
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 倫理学　　授業コード： 1036

英文科目名称： ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会とは人と人との関係性のなかで構築されている。その中で我々は日々決断を求められている。その時に判断基準はあるのでしょうか。我々が普段下す判断を倫理学的に考察することで、よりよく生活をおくることが可能になります。 【到達目標】 ・倫理学の基礎的用語を理解し他者に説明できる。 ・東西両洋の倫理思想について、他者に説明できる。 ・倫理学的発想の構造に注目し、その内部構造を把握し文章化できる。
授業の概要	・人間の判断基準や思考が具体的な場でどのように変化したりするのか、倫理学の思考に基づき考察する。 ・倫理的に考察することは、既存の思考に対する懐疑を生ずることもありますが、自分なりの答えを導くことにより新しいステップに行くことが可能になります。そのような訓練の場でもこの授業はあります。 ・倫理・道徳に限らず、考察の根本は先ず「知る」ことです。そして「知る」ための手段が読書です。課題図書や読書に関する発表やレポートを課します。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　倫理学で学ぶ内容について　人を助けるために嘘をつくことは許されるか 【key words】 嘘も方便　キケロ、カントの倫理主義 【授業概要】 カント「人間愛のために嘘をつく権利について」をもとにして、倫理的な原理の厳密性（厳格性）について考察する。アンネ・フランクを救うためにナチス側の権力者を欺いた行為をカントの立場では非難することになる。しかし、キケロは嘘をつくことが倫理的になるような事例を挙げている。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３～Ｐ９、Ｐ１７～Ｐ２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	一〇人の命を救うために一人の人を殺すことは許されるか　一〇人のエイズ患者に対して特効薬が一人分しかない時、誰に渡すか 【key words】 サバイバル・ロッターリ　人格の尊厳　最大多数の最大幸福 【授業概要】 ジョン・ハリス「生き残り選別の問題」（原題「サバイタル・ロッターリー」）を題材にして、単純な功利性の原理だけで生命の問題を扱うと、個人の生存権の絶対性が成り立たなくなるとい

う問題を扱う。功利性の原理の位置づけが問われる。ベンサムは「最大多数の最大幸福」という原理だけが、道徳の究極の原理だと考えた。平等がよいか悪いかも」、この原理で判断しなければならないとすると、一部の人の犠牲によって全体の人が利益を得ることが功利主義の立場では正義に一致することになってしまう。ここに民主主義という条件がからんでくる。多数決原理と功利主義原理が、一緒に使われると、多数者が少数者を犠牲にすることがつねに正当化される危険が出てくる。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ２８～Ｐ４９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか
【key words】
功利主義
【授業概要】
快楽を求め、苦痛を避ける。これは人情の自然であり、それが悪だといっても仕方がない。しかし、カントは、それでは道徳性にならないと言う。道徳的な内容は、有無を言わさず、ひたむきに「正直であれ」と命令するものだから、無条件の命令という意味で「定言命法」の形になるというのがカントの立場である。ベンサムの方は許容できるエゴイズムの態度を決めるのが倫理学だという姿勢である。ところがミルは「豚よりもソクラテス」という主張をして混乱を招いた。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５０～Ｐ６４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　どうすれば幸福の計算ができるか　判断能力の判断は誰がするのか
【key words】
功利主義批判　決定権　人格
【授業概要】
「最大多数の最大幸福」という原理には、誰も異議を差し挟めないように思われる。ところが、この原理に対して提出された疑問は多い。そもそも幸福は計算できないはずだ。たとえばドンブリ勘定で幸福の総量を決めれば、どんな不公平だって許されることになる。人が〈大きい方の幸福を選ぶ〉というのは、事実ではない。人が選んだ方を〈より大なる〉幸福と名づけるのだ。選好の強さを経済的に測定するという方法を採用すると、計算は可能になるが、必要の度合いの評価が抜け落ちてしまう。ベンサムは、「誰でも一人として数え、誰も一人以上に数えてはならない」と述べたという。選挙権の平等などが、この言葉に含まれていると言われる。共同体の正式のメンバーとそうでない人とを区別することは、人間の集団生活で避けられない。しｋｓ、正常者と異常者の区別は正常者がするということに、異常者は同意しない。意思決定のシステムが機能するためには、その前提となる決定権をもつ者の決定が有効でなければならない。現代のバイオエシックスは、そこに大きな問題を抱え込んでいる。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６５～Ｐ９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　〈……である〉から〈……べきである〉を導き出すことはできないか
【key words】
価値判断と事実判断　自然主義的誤謬
【授業概要】
「男は男らしくしろ」と言うと、「男である」から、「男らしくあるべきである」を導いたことにならないだろうか。すると倫理学の主張の大部分が「である」から「べきである」を導き出すという誤りを犯しているのかもしれない。Ｇ・Ｅ・ムーアがこれを「自然主義的誤謬」と呼んで以来、「〈……である〉から〈……べきである〉を導いてはならない」は、現代倫理学の基本的なドグマとなっている。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１００～Ｐ１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第６回　正義の原理は純粋な形式で決まるのか、共同の利益で決まるのか
【key words】
定言命法　格律
【授業概要】
カントは純粋な形式だけで正義の原理を決めないと、エゴイズムに引きずられると考えて、「自分の格律が普遍的原理と一致するように」という形式的な規則を作って「定言命法」と呼んだ。ミルは、カントの定言命法も「最大多数の最大幸福」の原理の中に収まるはずだという。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１１７～Ｐ１２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第７回　他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか　貧しい人を助けるのは豊かな人の義務であるか
【key words】
自由主義の原則　完全義務と不完全義務
【授業概要】
自由主義の原則は、要約すると、「①判断能力のある大人なら、②自分の生命、身体、財産にかんして、③他人に危害を及ぼさない限り、④たとえその決定が当人にとって不利益なことでも、⑤自己決定の権限をもつ」となる。ところが、この五つの条件のすべてに難問がからんでいる。

何を自由にしてよいかについて、大枠の合意が必要である。約束を守るのは相互的な完全義務だが、慈善をするのは恩恵的な不完全義務だという考え方が、ミルの自由主義の背景になっている。カントは義務のこの二つのあり方にさらに自分自身に対する義務と他人に対する義務という分類項目を導入して、四個の形について具体的に実例を挙げている。さらに人工妊娠中絶論に出てくる不完全義務の一例を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１６７～Ｐ２０３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　読書の効用Ⅰ
【key words】
読書　ビブリオバトル
【授業概要】
社会人になってからの学習は、学校教育のように先生から教わるという形式でなく、自らが主体的になって学習することが中心になるでしょう。そして主体的に学ぶ際に中心となるのが読書です。この回では読書が人間生活に必須な理由について考察していきます。また、他者を読書に誘う手段としてのビブリオバトルを実施します。この回までに自分のお勧めの書籍をよういしてください。その上で、全員の前でお勧めの理由を発表してもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回までにプリントを配布しますので、読んどいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第９回　読書の効用Ⅱ
【key words】
読書　ビブリオバトル　要旨を作成する
【授業概要】
ビブリオバトルで紹介した本を含め、３冊分の要旨200字前後で作成してもらいます。要旨作成の目的は①読書した内容の定着を図る②他者の主張を正確に読み取る練習③時間内に仕上げる練習の３つです。社会人になると、学生時代と異なり時間の制限があります。限られた時間の中で如何に読書をして己を伸ばし、正確な知識を身に着けられるか。そのための読書を学んでいきます。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
この授業の回までに最低３冊の本（分野は問わない）を最後まで読んどいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１０回　孔子の倫理思想Ⅰ
【key words】
孔子　論語　儒学
【授業概要】
孔子（前552または前551～前479）は古代中国を代表する思想家・教育者です。孔子は孔子の時代（春秋時代）までに伝わってきた学問をまとめてました。これを我々は「儒学」と言っています。孔子がまとめた「儒学」は中国のみならず、東アジアの思想や倫理観に大きな影響を与えました。この回では、孔子が何故学問の重要性を力説したのか『論語』を中心にして考察していきます。
【教科書ページ・参考文献】
プリント。宇野哲人『論語』上下（明徳出版社）金谷治『論語』（岩波文庫）ともに図書館にあります。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回までにプリントを配布しますので、読んでおいてください。解らない言葉が出てきたら図書館にある『大漢和辞典』『中国文化史大辞典』を調べてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　孔子の倫理思想Ⅱ
【key words】
孝行
【授業概要】
我々は生まれた瞬間から「親子」という関係が始まります。この親子関係に注目したのが他ならぬ孔子です。孔子は親子の愛情（親から子への“慈”子から親への“孝”）が基本となって、他との関係性も規定されると考えていました。孔子は孝についてどのように考えていたのか『論語』を中心にして考察していきます。
【教科書ページ・参考文献】
プリント。宇野哲人『論語』上下（明徳出版社）金谷治『論語』（岩波文庫）ともに図書館にあります。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回までにプリントを配布しますので、読んでおいてください。解らない言葉が出てきたら図書館にある『大漢和辞典』『中国文化史大辞典』を調べてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　孟子の倫理思想
【key words】
孟子　性善説　惻隠の心
【授業概要】
孔子の思想を継承発展させた人物に孟子と荀子が挙げられます。孟子（前372？年～前289年）は人間は他人の不幸を見るに忍びない心（惻隠の心）を持っている。これを拡充していけば仁（人間愛）が実現されると考えました。また、この心があるからこそ、本来人間は善である（性善説）を主張します。つまり、孔子の時代では論じられなかった「人間の本性」について、孟子の時代では議論されるようになったのです。人間という存在を孟子はどのように捉えていたのか。

	『孟子』から考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント。内野熊一郎『孟子』（明治書院、１９６２年６月） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回までにプリントを配布しますので、読んでおいてください。解らない言葉が出てきたら図書館にある『大漢和辞典』『中国文化史大辞典』を調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
第１３回	荀子の倫理思想 【key words】 荀子　性悪説　学問の勧め 【授業概要】 荀子（前313？年～前238年）は中国戦国時代最末期の思想家で、法家の思想家韓非子（「守株」の原典）や秦の丞相（総理大臣に相当）となる李斯（漫画『キングダム』に出てきますね）の師匠にあたります。荀子は孟子と異なり、人間の本性を悪だと捉えます。なぜならば、人間は生まれながらにして利益を好むものであり、生まれたままにしておけば、争いが絶えないと荀子は考えます。そこで重要になるのが「学問」による人格の陶冶です。荀子は人間は学問をすることによって、礼節を知り、人に譲ることができると考えるのです。荀子における人間性の捉え方と学問観について考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント。藤井専英『荀子』（明治書院１９６６年１０月） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回までにプリントを配布しますので、読んでおいてください。解らない言葉が出てきたら図書館にある『大漢和辞典』『中国文化史大辞典』を調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
第１４回	儒学の日本での展開ー貝原益軒の幼児教育観Ｉー 【key words】 貝原益軒　和俗童子訓　気随 【授業概要】 貝原益軒（1630年～1714年）は江戸初期から中期にかけての日本を代表する儒学者であり、初学者や子ども向けの解説書を数多く著しております。この「和俗童子訓」は、どのように幼児を教育していくのかを、儒学思想に基づき書かれています。人によっては日本で最初の幼児教育書とも言っています。儒学思想の観点から2回にわたり益軒の幼児教育について考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント。貝原益軒『養生訓・和俗童子訓』（岩波文庫、１９６１年１月）） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 貝原益軒の文章は子供向けにわかりやすい和文で書かれています。わからないところが出てきたら、図書館にある『日本国語大辞典』で調べてください。この辞書を引けば必ず解ります。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
第１５回	儒学の日本での展開ー貝原益軒の幼児教育観Ⅱー 【key words】 貝原益軒　和俗童子訓　五常訓 【授業概要】 現代の幼児教育と益軒の幼児教育は、一致しない点も当然ありますが、肯首すべきところも当然あります。どのような面に注意して幼児を自主性ある子どもに成長させていくか。またその過程で、どのようにして道徳心を身に着けさせるか。益軒の幼児教育に対する考え方を「和俗童子訓」や「五常訓」（和俗童子訓の翌年に刊行）の中から考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント。貝原益軒『養生訓・和俗童子訓』（岩波文庫、１９６１年１月）） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 貝原益軒の文章は子供向けにわかりやすい和文で書かれています。わからないところが出てきたら、図書館にある『日本国語大辞典』で調べてください。この辞書を引けば必ず解ります。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。注意してもやめない時は退室を命ずる。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、講義中に１人１分で発表をしてもらう。 ・講義では受講生にも、講義内容について意見を表明したり、学生同士で議論をしてもらいます。また課題について必ず調べてきてもらいます。要するに、アクティブラーニングを促す。 ・自分は何ができるのか。自問自答してみてください。それが倫理観の形成に繋がります。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。（先読みをしてこないと、授業の半分も理解できないでしょう。） ・講義で不明な点は、講師に質問するなり、図書館にある辞典類、『岩波哲学思想辞典』（岩波書店）『哲学辞典』（平凡社）で調べ、理解できるように努めること。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％（期末試験をレポートにする場合もあり）　課題１５％　発表１５％
教科書	加藤尚武『現代倫理学入門』（講談社学術文庫、１９９７年２月）と配布プリント
参考書	宇都宮芳明 熊野純彦編『倫理学を学ぶ人のために』（世界思想社、1994年9月）宇野哲人『論語』上下（明徳出版社、１９６７年３月）
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　日本国憲法　　授業コード：1081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース／児童福祉コース・選択／学校教育コース／初等教育コース・必修
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　日本国憲法が実質的にも日本の最高法規となりうるのは、それが人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、社会福祉六法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎とする。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としての、また、社会福祉の専門家としての基礎を作る。 【到達目標】 ①六法で条文を調べることができる。 ②憲法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ③法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	先ずは、条文に当たり、その理解をしたい。次に、それを基礎にして考えてほしい判例を、出来るだけ多く示す。適宜、関連する法律(特に行政法)の紹介も行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　人権①（～前文） 【key words】 憲法　基本原理 【授業概要】 社会規範について説明をする。 憲法の意義、歴史、基本原理を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ16～22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ22～27 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	人権②（天皇～私人間効力） 【key words】 国民主権　平和主義　人権享有主体性 【授業概要】 日本国憲法の基本原理である国民主権、平和主義について説明をする。 基本的人権総論として、人権共有主体性等の説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ22～27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ27～30

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　人権③（包括的基本権・法の下の平等）

【key words】
包括的基本権　法の下の平等
【授業概要】
新しい人権を生む１３条と自由とともに保障されている平等権について説明をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ27～30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書ｐｐ30～32
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　人権④（精神的自由（１））

【key words】
精神的自由　思想良心の自由　信教の自由　学問の自由
【授業概要】
精神的自由権について、思想良心の自由　信教の自由　学問の自由を題材に説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ30～32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ32～34
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　人権⑤（精神的自由（２））

【key words】
表現の自由　知る権利　検閲

【授業概要】
精神的自由の中心と位置付けられる表現の自由、そこから生まれる知る権利等について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ32～34
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ34～35
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　人権⑥（経済的自由）

【key words】
経済的自由　職業選択の自由　財産権　居住・移転の自由
【授業概要】
職業選択の自由、財産権等を題材とし、精神的自由と比較して経済的自由について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ34～35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ35～37
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　人権⑦（人身の自由）

【key words】
人身の自由　適性手続の保障
【授業概要】
人身の自由の保障と、そのための適正手続の重要性について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ35～37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ37～39

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　人権⑧（生存権・教育を受ける権利）

【key words】
生存権　プログラム規定説　教育を受ける権利

【授業概要】

社会権につき自由権との比較のうえ説明する。
特に、福祉の基礎となる生存権に関する判例の考え方を紹介する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ37～39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ39～41

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　人権⑨（労働権・参政権・国務請求権・国民の義務）
【key words】
労働権　参政権　国務請求権　国民の義務
【授業概要】
前回までに取り上げた人権以外の人権につき概説する。
国民の義務を説明する。〃

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ39～41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ43～49

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　統治①（統治機構・国会）
【key words】
権力分立　立法権　国会　二院制
【授業概要】
日本国憲法が定める統治機構について説明をし、そのうちの立法権を担う国会につき説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ43～49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ49～51

【予習復習に必要な想定時間】
60分
60分

第１１回　統治②（内閣）
【key words】
行政権　内閣　議員内閣制
【授業概要】
行政権を担う内閣について説明をする。
国会との関係において議院内閣制を説明する。〃
【教科書ページ・参考文献】

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ49～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ52～57
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　統治③（裁判所Ⅰ）
【key words】
司法権　裁判所　統治行為論　三審制

【授業概要】
司法権の意義・範囲とその限界を説明する。
司法権を担う裁判所の組織について説明する。〃
【教科書ページ・参考文献】

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ52～57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ57～59
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　統治④（裁判所Ⅱ（裁判員制度含む））
【key words】
裁判官の独立　違憲審査権　裁判員制度
【授業概要】
裁判所を構成する裁判官の独立性、法律等を違憲とする違憲審査権につき説明をする。
あわせて、裁判員制度について概説する。〃

【教科書ページ・参考文献】

	ｐｐ57～59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ59～63 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　統治⑤（財政・地方自治） 【key words】 財政立憲主義　公金支出　地方自治の本旨 【授業概要】 社会福祉に関しても重要性を有する財政、地方自治について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ59～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書、プリントを見直しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 憲法　人権　統治 【授業概要】 憲法に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ16～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、特に憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	森長秀 編著「法学入門」光生館，2015年
参考書	小六法（例：「ポケット六法」有斐閣，2018年）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会調査の基礎　　授業コード：1102　1103

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（社福Ⅱ）・後期（社福Ⅰ）	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・選択
担当教員			
大野　俊和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 社会福祉士受験のためだけでなく、社会科学としての社会福祉を生み出すうえで必要な調査の知識習得を目的とする。 〔到達目標〕 社会調査の基本的な手続き・技法を理解・習得する。 量的調査・質的調査についての知識を得る。 調査における倫理について理解する。
授業の概要	本講義では、社会現象を検討する上で用いられる社会調査の理論とその分析手法について解説を行う。 講義では、実際のデータを用いた基礎分析ならびに、表グラフを用いたレポート作成についての実習がなされることになる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	社会福祉と社会調査　社会調査とは何か 【key words】 【授業概要】 講義ガイダンスおよび社会調査の捉え方について学びます。 ブースのロンドン調査、ラウントリーのヨーク調査について資料をもとに触れていきます。 アクティブラーニング ブースのロンドン調査についてインターネットを通じて実際のデータを眺めながら理解します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	社会福祉と社会調査　社会福祉士の役割と社会調査 【key words】 【授業概要】 社会調査は何か、社会福祉士の役割という観点から、社会調査の今日的意義について概観した後、社会調査の意義や重要性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	社会調査の概要 社会調査の意義と目的

【key words】

【授業概要】
社会調査は、調査対象に関係する諸問題の理解、対応策の立案を目的とした、調査主体による調査対象を実態把握するための試みです。
この社会調査の意義や目的について触れ、調査の一連の進め方について学びます。
またキーワードとして、上級財、下級財、SSM調査について学びます。

アクティブラーニング
データを用いて度数分布表およびヒストグラムを作成します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　社会調査の概要 社会調査の対象と方法 統計法の概要
【key words】

【授業概要】
前回に引き続き、度数分布表とヒストグラムの作成を行います。
また、代表値について理解を深めます。

アクティブラーニング
エクセルを用いてヒストグラムを作成します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　量的調査の方法　量的調査の特徴と種類
【key words】

【授業概要】
量的調査の特徴と種類について、全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査、自計式調査と他計式調査のキーワードをもとに学びます。
また、今後の分析に先立ちΣの計算などの基礎的事項の確認を行います。

アクティブラーニング
グループ単位でΣの計算課題を解きます。また平均と標本標準偏差の課題を個人で解いていきます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　量的調査の方法　調査票（質問紙）の作成方法と留意点
【key words】

【授業概要】
前週に引き続き、平均と標本標準偏差の課題を個人で解いていきます。
その後、調査票作成時におけるワーディングの問題について学びます。

アクティブラーニング
平均と標本標準偏差の課題を個人で解いていきます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析
【key words】

【授業概要】
代表値および散布度についてデータを用いて学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析
【key words】

【授業概要】
不偏分散、標本標準偏差についてデータを用いて学びます。

アクティブラーニング
エクセルを用いて、例題を解きながら学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第９回	量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析 【key words】 【授業概要】 前回に引き続き、不偏分散、標本標準偏差についてデータを用いて学びます。 アクティブラーニング エクセルを用いて、例題を解きながら学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析 【key words】 【授業概要】 量的調査の重要用語および、回帰、相関係数を学びます。 アクティブラーニング エクセルを用いて、例題を解きながら学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	質的調査の方法　質的調査の特徴と種類 【key words】 【授業概要】 質的調査の特徴や種類について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	質的調査の方法　質的調査の特徴と種類　質的調査におけるデータの分析 【key words】 【授業概要】 質的調査の代表的な方法である、KJ法およびグラウンデッドセオリーアプローチについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	質的調査の方法　質的調査におけるデータの分析 【key words】 【授業概要】 前回に引き続き、質的調査の代表的な方法である、KJ法およびグラウンデッドセオリーアプローチについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回	社会調査における倫理と個人情報保護 【key words】 【授業概要】 調査における倫理的配慮や個人情報保護とその管理について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回	社会科学としての社会福祉および到達テスト 【key words】 【授業概要】 社会福祉と社会科学との関係を確認した後に、社会科学としての社会福祉のあり方について理解を深めます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 LL教室での講義・実習が主体となる。 〔受講のルール〕 データの受け渡しのため、USBメモリ等の記録媒体を用意しておくこと。 マイクロソフトエクセルの基礎的な操作知識（if関数等）を前もって習得しておくことが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	エクセルとワードが不得手の学生は1年次の情報処理のテキストを持参すること。教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	金曜日3時限目
評価方法	コメント評価（15%）、課題の提出（55%）、小テスト（30%）。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会　新・社会福祉士養成講座 第5巻 社会調査の基礎　中央法規　第3版 2013
参考書	講義中に適宜指定する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会調査の基礎　　授業コード： 1104

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択
担当教員			
河内 和直			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会調査の基礎理論と統計分析の初歩について学ぶことを目的とする. 【到達目標】 実社会において行われている様々な調査や情報の本質について基本的な考え方を修得するとともに，将来，保育士・幼稚園教諭のみならず社会福祉士の取得も目指している学生に対しては国家試験科目「社会調査の基礎」の内容も意識した知識を身につける.
授業の概要	本講義では，種々の社会現象（e.g.，社会問題，流行）について調べ，解明するための理論と統計的方法について解説を行う．講義内容は社会調査の基礎理論と検定を中心とした推測統計学の２本立てから成るが，単に教科書的・学問的に学ぶだけでなく，適宜，多様な具体例を提示しながら，事象の本質・隠れた真実を読み解くことの困難さと奥深さについての洞察を得ることをねらいとする.

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　社会調査を学ぶにあたって 【key words】 社会調査 【授業概要】 社会調査を学ぶにあたっての基本的な心構えについて解説する．また，社会福祉士になぜ統計調査技術が求められるかについても解説を行う. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第1章Pp.1-6. 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第２回	社会調査の目的　社会調査と社会福祉調査 【key words】 社会調査，社会福祉調査 【授業概要】 目的別に見た社会調査の分類について解説する．また，歴史的経緯や現行の統計制度についても解説を行う. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第1章Pp.7-16. 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第３回	社会調査の種類　量的調査と質的調査 【key words】 量的調査と質的調査 【授業概要】

量的調査と質的調査の大別を中心に社会調査の種類について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第2章Pp.17-32.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：量的調査と質的調査の違いについて理解する.

第４回　社会調査のプロセス　調査実施のためのプロセス
【key words】
調査プロセス
【授業概要】
構想・計画段階から結果の報告，データの管理まで，社会調査の基本的なプロセスについて量的調査の場合を中心に解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第3章Pp.33-45.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：調査実務の手順について理解する.

第５回　標本抽出法Ⅰ　無作為標本抽出法と有意抽出法
【key words】
無作為抽出法，有意抽出法
【授業概要】
標本抽出法について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第7章Pp.93-111.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：無作為の意味について理解する.

第６回　標本抽出法Ⅱ　無作為標本抽出法の演習
【key words】
等確率性，独立性
【授業概要】
演習形式で無作為抽出法の実演を行う.
【教科書ページ・参考文献】
配布資料を参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習：等確率性，独立性について理解する.

第７回　データの収集法　調査票調査，他記式調査，自記式調査
【key words】
調査票調査，他記式調査，自記式調査
【授業概要】
社会調査における様々なデータ収集の方法について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第5章Pp.62-78.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：他記式調査，自記式調査の代表的な方法について理解する.

第８回　調査票(アンケート)の作成　質問項目の執筆における留意点を中心に
【key words】
調査票
【授業概要】
質問紙調査票の作成について特に質問項目の執筆における留意点を中心に解説する.

【教科書ページ・参考文献】
教科書第6章Pp.79-92.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第９回　データの処理・集計　データの数値化，単純集計・クロス集計
【key words】
エディティング，コーディング，データ入力，データ・クリーニング
【授業概要】
データ収集後の作業について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第9章Pp.129-145.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１０回　統計分析Ⅰ　変数の種類と代表値
【key words】
変数の種類，代表値
【授業概要】
変数の種類(質的変数，量的変数)と代表値(算術平均，中央値，最頻値)について解説する.

【教科書ページ・参考文献】
教科書第10章Pp.150-152.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：変数の種類と代表値の使い分けについて理解する.

第１１回　統計分析Ⅱ　データの分散，シグマの法則

	【key words】 分散，標準偏差，シグマの法則 【授業概要】 散布度(分散，標準偏差)とそれに基づくシグマの法則について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第12章Pp.153-158. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：データ分布における「分散」の概念について理解する. 第１２回　統計分析Ⅲ　ピアソンの積率相関係数 【key words】 相関係数 【授業概要】 2変量の記述統計量としてピアソンの積率相関係数について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第12章Pp. 179-184. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：相関係数の絶対値と関連の程度について理解する. 第１３回　統計分析Ⅳ　クロス集計表の作成 【key words】 クロス集計表 【授業概要】 質的変数の関連性を分析するためのクロス集計表について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第12章Pp. 184-187. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：クロス集計表の作成と見方について理解する. 第１４回　統計分析Ⅴ　クロス集計表の独立性の検定 【key words】 独立性の検定 【授業概要】 クロス集計表における推測統計としてピアソンの独立性の検定を取り上げて解説する. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第12章Pp.190-192. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 統計的検定の考え方，有意確率(P値)の見方について理解する. 第１５回　総括 【key words】 社会調査・統計調査 【授業概要】 総括として，社会調査法のまとめを行い，定期試験への勉強法について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験勉強をきちんと行う.
受講生に関わる情報および受講のルール	アンケート(調査票)による統計調査の方法とその分析法に関する授業です．社会問題や世論などについてデータ(根拠)に基づいて考える視点を学びたい受講生を望みます．また，受講にあたっては恒常的に出席してください.
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（質問等は授業ごとに随時対応。紙面にて対応する場合もあり。）
授業外時間にかかわる情報	統計概念の復習に重点をおき，わからない点は何度でも質問し，理解を深めること.
オフィスアワー	授業後に教室内で次の授業に支障の出ない時間で対応.
評価方法	定期試験（８０％）と平常点（２０％）（提出課題）で総合評価を行います.
教科書	轟 亮・杉野 勇(編)「入門・社会調査法[第3版] ―2ステップで基礎から学ぶ―」，法律文化社，2017年.
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	□情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 韓国語Ⅰ　　授業コード： 1194

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴　惠蘭			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付 ける。韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。 【到達目標】 １）ハングル文字が書けて正しく読める。 ２）挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 ３）韓国語で自己紹介が出来る。 ４）　パソコンで韓国語の入力が出来る。
授業の概要	ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が 出来る様に何度も口に出して練習する。 ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様にくり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテイション　ハングルについて、語順、仕組み、特徴 【key words】 ハングル・仕組み・語順 【授業概要】 ハングルが創られた時代、歴史的な背景をDVDを見せて説明して、ハングルの仕組みと語順、特徴、漢字との関連性を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ14～17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ハングルの仕組みを理解して次の授業に備える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	ハングルの母音、出会いの挨拶 【key words】 母音・組み合わせ・挨拶 【授業概要】 ハングルの10個の基本母音の読み書きを説明して練習させて組み合わせを説明して覚えさせる。 出会いの時の挨拶を口に出して練習させる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ20～24 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		母音10個の読み書きを復習して覚えること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶 【key words】 子音・平音・激音・有声音化 【授業概要】 ハングルの基本子音14個の形と発音の読み書きを復習して覚える。基本母音との組み合わせを説明して、子音には平音と激音があり発音の際にコツがあることを教える。別れる時の会話を口に出して繰り返して練習させる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ26～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子音14個の読み書きを復習して覚えること。であいと別れの時の会話を復習して次の授業でペアで発表すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第４回	ハングルの子音（平音、激音、濃音の相違点）　感謝、謝罪の際の会話 【key words】 濃音・感謝・謝罪 【授業概要】 ハングルの基本子音14個以外に5個の子音(濃音)を平音、激音と比較しながら息の量で発音のコツを覚えさせる。感謝と謝罪の時の会話を口に出して練習させる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ38～47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 平音・激音・濃音の違いを理解して書けるように復習すること。教科書48ｐ49ｐ課題を提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	ハングルの二重母音、有声音化　食事の時の会話 【key words】 複合母音・組み合わせ 【授業概要】 基本母音を二重に組み合わせて、さらに11個の複合母音(二重母音)を書けて読めるように練習させる。 食事の時の会話を何度も口に出して練習して、ペアで発表する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ50～55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基本母音、二重母音、子音(平音・激音・濃音）を組み合わせた文字を書いて提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	ハングルのパッチム、出かける時の会話 【key words】 パッチム・有声音パッチム・連音化 【授業概要】 パッチムとは何かを説明して、パッチムの中で有声音パッチムの読み方、書き方を覚えて発音出来るようにする。出かける時の会話(行って来ます、行ってらっしゃい)を何度も口に出してペアで練習する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ58～61 【課題・予習・復習・授業準備指示】 パッチムのある単語の読み書きを復習して覚える。 【予習復習に必要な想定時間】 60
	第７回	ハングルの二重パッチム、お願いの時の会話 【key words】 二重パッチム・無声音パッチム 【授業概要】 パッチムは有声音パッチムと無声音パッチムと二重パッチムに分類し区別して説明して、発音出来るように練習させる。お願いの時の会話を何度も口に出して練習する。 【教科書ページ・参考文献】 p62～65 【課題・予習・復習・授業準備指示】 無声音パッチムの読み書きを復習して覚える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	ハングルの発音の法則 【key words】 有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化 【授業概要】 ハングルの発音の際には様々な発音の法則(有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化)があることを説明して、正確に発音出来るように練習する。 【教科書ページ・参考文献】

p66～69　付録ｐ204～207
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書67ｐ69ｐ練習ドリルをやること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記
【key words】
人名・地名・住所

【授業概要】
日本語の人名・地名などをハングルで書く時に表記法によるルールを説明して、名前と住所をハングルで書いてみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の都道府県名をハングルで書いてみること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　パソコンでのハングルの入力の仕方
【key words】
ハングルのキーボード

【授業概要】
パソコンでのハングルのキーボードを画面上に出す方法を操作して打ち方を教えて簡単な自己紹介文を打ってみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
家のパソコンを操作してハングルが打ってるようにして自己紹介文を打ってプリントアウトして提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１１回　～は～ですの文型、自己紹介
【key words】
人称代名詞・職業

【授業概要】
人称代名詞・職業の韓国語の単語を覚えて～は～ですの文型を練習して自己紹介文を書いてみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ75～77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人称代名詞を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　～は～ですか？の文型
【key words】
国名・何人(日本人、韓国人、中国人、イギリス人、アメリカ人)

【授業概要】
国名を韓国語で覚えてあなたは何人ですか、私は～人ですの文型を国の名前を入れ替えながら練習する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ78～79
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書80ｐ課題を書いて提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60％

第１３回　これは～ですか、それは～ですの文型、指示代名詞
【key words】
指示代名詞・これ・それ・あれ・どれ・身の回りの単語

【授業概要】
指示代名詞と身の回りの単語を覚えてこれは～ですか、それは～ですの文型を書いてみる。又ペアで単語を入れ替えながら読む練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ83～85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指示代名詞を復習して暗記して来ること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

	第１４回　助詞～も、～ではありませんの文型、ハングルゲーム 【key words】 教室の中のもの・野菜・果物・動物の名前動物の名前をゲーム形式 【授業概要】 教室の中にあるものの単語を覚えてこれも～ですか、それは～ではありませんの文型を単語を入れ替えながら繰り返して練習して覚える。ハングルで野菜、果物、動物の名前をゲーム形式で探すことをしてハングルの読む能力を確かめる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ86～87 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書88ｐ課題を書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　読み書きのまとめ、日常会話の復習 【key words】 まとめ・基礎会話 【授業概要】 ハングル文字が書けて発音の変化の法則通り正しく読めるかをまとめて復習する。日常生活での基礎会話と自己紹介を韓国語で発表する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストに備えての復習用のプリントを書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する 事が望ましい。 文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。 韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『　韓国語へ旅しよう　（初級）　』　　朝日出版社
参考書	自作プリント
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 韓国語Ⅱ　　授業コード： 1196

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴　惠蘭			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味が持て、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。 【到達目標】 1) 基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。 2) 月・日・番号・値段が言える。 3) 韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。 4) 簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。 5) 韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。
授業の概要	韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、この人は誰ですか、助詞～の 【key words】 家族の呼び名・性別・三人称 【授業概要】 韓国語では性別によって呼び名が違うことを知って呼び名を覚える。三人称代名詞この方、その方、あの方どの方を覚える。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ97 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族の呼び名を覚えて暗記して来ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	指示代名詞　（事物・場所）、これは誰のものですかの文型 【key words】 この、その、あの、どの、省略 【授業概要】

		この人は～です、この～は～の物ですの文型に物や人物の名を入れ替えながら練習する。助詞～のは会話の中でほとんど省略されることは日本語との相違点である事を知る。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ91～96 【課題・予習・復習・授業準備指示】 この～は～の物ですの文を10個作って宿題として提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第３回	助詞（も）、否定形、家族の呼び名、指示代名詞の復習 【key words】 まとめ・復習 【授業概要】 人称代名詞、家族の名称、身の回りの単語を用いて今まで習った文型に書き入れる練習をして復習ししっかり覚えたかを確認していく。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ98～101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指示代名詞、身の回りの単語、家族の名称を復習して暗記して来ること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	助詞（と）、位置関係の言葉 【key words】 前後・左右・上下・パッチムある単語、ない単語 【授業概要】 位置関係の言葉を口に出して練習して覚える。助詞～もはパッチムある単語とない単語のあとに形で接続を理解してそれぞれの形を覚える。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ103～105 【課題・予習・復習・授業準備指示】 位置関係の言葉を復習して暗記して来ること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	助詞（に）、～に～があります、ありませんの文型 【key words】 居る・ある・場所 【授業概要】 位置関係の言葉と場所の言葉を用いて～に～があります、ありませんの文型を練習して覚えて行く。居る・あるを区別しない事もと日本語との相違点である事を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ106～110 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ～に～がありますの文を10個作って次回に宿題として提出する事。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	用言の「です・ます形」、助詞（を） 【key words】 基本形・語幹・語尾・活用 【授業概要】 生活の中でよく使う動詞、形容詞の基本形から語尾を変えて～です、ます形の会話体にすることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ111～115 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校、教室の中でよく使う動詞、形容詞を20個覚えること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第７回	～で～をしますの文型、助詞（で） 【key words】 丁寧な会話体 【授業概要】 覚えた基本動詞と形容詞を丁寧な会話体に書き換える練習をして～で～をしますの文型を覚える。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ116～117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 113ｐのドリルをして提出する事。 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分
	第８回	映像（韓国映画）で学ぶハングル 【key words】 映画・聴き取り・感想文 【授業概要】 映像（韓国映画）を通して文化を知って、今まで教科書で学んだ会話文の聴き取り能力を確かめ

る。
【教科書ページ・参考文献】
DVD
【課題・予習・復習・授業準備指示】
韓国映画の感想文を書いて提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　否定の表現、体の名称
【key words】
後置否定形

【授業概要】
覚えた基本動詞と形容詞を語尾を変えて、否定形（～しません、～くありません）の文型を覚える。体の名称を覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ118～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
体の名称を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　曜日の言い方、尊敬会話体
【key words】
何曜日・いつ・尊敬補助語幹

【授業概要】
一週間の曜日の言い方を練習して覚える。尊敬補助語幹を用いて尊敬会話体の文章作りの練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ121～125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
曜日の言い方を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　不規則活用、連結語尾～しにの文型
【key words】
脱落・連結語尾

【授業概要】
用言を尊敬会話体に活用する際に不規則活用の用言があることを説明して覚える。連結語尾～しにを用いて文作りの練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ126～129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
～しにの語尾を用いて5個の文作りをして提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１２回　疑問詞
【key words】
誰・いつ・どこ・なぜ・何・いくら・どうやって

【授業概要】
疑問詞を用いての疑問文を単語を入れ替えながら練習して覚える。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
疑問詞7個を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　過去形、過去尊敬形
【key words】
過去時制補助語幹

【授業概要】
用言の基本形の過去補助語幹と尊敬補助語幹を用いて過去形、過去尊敬形の会話文を復習して覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ135～137、ｐ140～141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
138ｐ139ｐのドリルで復習して提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　連結語尾～て、して、連結語尾～けれとも、が
【key words】
動作の継続・順序・内容の対立

【授業概要】
動作の継続と順序の連結語尾～で、～してと内容の対立の連結語尾～けれともを用いて会話文作りの練習をして覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ142～144
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書145ｐの課題をやって提出すること。

	【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　まとめて復習 【key words】 助詞・活用・不規則活用 【授業概要】 今までの助詞、活用した会話文、単語、文型をまとめて復習して日常会話、教室会話を二人ペアで発表させる。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活会話、教室会話を復習してテストに備える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ｉ」の修了者を対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『 韓国語へ旅しよう （初級） 』　朝日出版社
参考書	自作プリント
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 中国語Ⅰ　　授業コード：1197

英文科目名称： Chinese (Mandarin)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。 ・中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。 【到達目標】 ・ピンインを見て発音ができるようになる。 ・中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　読みなれている言葉を中国語で発音してみよう 【key words】 受講にあたっての諸注意　中国語　漢語　簡体字　繁体字　ピンイン 【授業概要】 みなさんにとって中国語を本格的に学ぶのは初めてのことだと思います。初回に中国語と中国に関する概説をします。漢字や漢文表現は日本語の一部となっています。しかしもとは中国語（古典中国語）です。孔子やラーメンを中国語で発音し、日本語との差異を感じてください。なお、この授業で言う「中国語」とは、中華人民共和国で使用されている“普通话”（普通話）を指して言います。 【教科書ページ・参考文献】 P2 【課題・予習・復習・授業準備指示】 この日講義した内容を忘れないように、帰宅後もう一度ノートを見返してください。大まかな中国語の概略の定着が図れます。 【予習復習に必要な想定時間】 １０分
	第２回	発音の決まりごと（１） 【key words】 ピンイン　声調（四声）　単母音　複合母音 【教科書ページ・参考文献】 教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【授業概要】 中国語は声調言語（音の高低によって意味が異なる）です。故に入門段階では発音の練習が最も重視されます。著名な中国語研究者が「中国語　発音よければ　半ばよし」と言うほど、中国語

		における発音の比重は高いのです。この回では、声調（四声）・単母音・複合母音について発音練習していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P2・P3 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第３回	発音の決まりごと（２） 【key words】 声調　併音 【授業概要】 前回に続き発音の練習をします。今回は鼻母音・軽声・声調変化について練習していきます。また中国語の発音表記法である併音（ピンイン）の使い方についても講義します。 【教科書ページ・参考文献】 P4～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第４回	第０課　你好！（こんにちは　その1） 【key words】 你好　併音 【授業概要】 外国語を学ぶ際にあいさつはどの言語でも最初に学ぶ語彙でしょう。発音の練習をしっかりやっていきます。またピンインの綴り方を学習します。 【教科書ページ・参考文献】 P4・P5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第５回	第０課　你好！（こんにちは　その2） 【key words】 你好　併音　名前の尋ねかた 【授業概要】 今回より意味も含め本格的に中国語を学んで行きます。あいさつ・自己紹介・よろしくのあいさつ三大要素を暗記できるまで言ってみましょう。また中国語では名前の尋ねかた、あいさつの仕方についても何通りかあります。語彙を増やして表現を豊富にしてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P4・P5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第６回	第１課　你是日本人吗？（あなたは日本人ですか　その１） 【key words】 是構文（名詞述語文） 【授業概要】 この回では人称代名詞と動詞“是”「～です」について学習します。動詞“是”の構文は名詞述語文と呼ばれるもので基本構造の文です。この構文を使って会話と作文をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P10・P11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第７回	第１課　你是日本人吗？（日本人ですか　その２） 【key words】 是　不是　也　吗 【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。新しく動詞“是”の疑問文・否定文のつくり方と副詞”也”の使い方そして疑問文の作り方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P10～P13

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。
【予習復習に必要な想定時間】
１５分

第８回　第２課　这是什么？（これは何ですか　その１）
【key words】
这个 那个 哪个

【授業概要】
この回では指示代名詞（こそあど【これ・それ・あれ・どれ】）について学習します。この構文を使って会話と作文をしていきます。
【教科書ページ・参考文献】
P14・P15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。
【予習復習に必要な想定時間】
１５分

第９回　第２課　这是什么？（これは何ですか　その２）
【key words】
什么 谁 哪里 的

【授業概要】
前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。疑問詞疑問文“什么”“谁”“哪里”を使って疑問
文を作ってみましょう。また助詞“的”を使い所有を示す「～の」の構文も学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P14～P17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。
【予習復習に必要な想定時間】
１５分

第１０回　第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その１）
【key words】
曜日の言い方

【授業概要】
日付・曜日の尋ねかたについて学習します。日付･曜日の言い方は基本的に日本語と同じですが、語彙が異なりますので気をつけてください。
【教科書ページ・参考文献】
P18・P19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。
【予習復習に必要な想定時間】
２０分

第１１回　第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その２）
【key words】
動詞文　S+V+0

【授業概要】
前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。動詞文（主語+動詞【+目的語】）の構文は動
詞述語文と呼ばれるものです。動作を表す語彙を用いて表現力を豊富にしていきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P18～P21
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。
【予習復習に必要な想定時間】
２０分

第１２回　第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その１）
【key words】
年齢の尋ね方

【授業概要】
年齢の尋ねかた・年の言い方について学習します。中国語では年齢を聞くときに、①子ども②同世代･年下③目上の人で尋ね方が異なります。（日本語でもそうですよね）難しいことはありませんが、使い分けができるようにしてください。また年の言い方（おととし・去年・今年・来年・再来年）の言い方についても学習します。
【教科書ページ・参考文献】
P22・P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。次回、既習分の小テストを実施します。

	【予習復習に必要な想定時間】 ２０分 第１３回　第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その２） 【key words】 年の言い方　数の数え方 【授業概要】 小テスト及び前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。この回では一から百までの数の数え方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P22～P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分 第１４回　第５課　現在几点？（いま何時） 【key words】 時間 【授業概要】 講義の前に再小テストを実施します。講義では、時刻の尋ねかた・言い方について学習します。日本語と時刻の言い方が異なる場面もありますので、その違いに注意しながら学習していきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P26～P29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分 第１５回　前期総復習 【key words】 総復習　発音　併音の綴り方 【授業概要】 前期に学習したことが定着しているか復習します。特に発音は中国語学習における最大のポイントです。確実に定着させましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P3～P29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期最後の講義になりますので、よく理解できなかった点や発音しにくいところをリスト化して講義に来てください。また練習問題や小テストの間違えた部分を再度やり直して講義に臨んでください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　小テスト３０％
教科書	川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月
参考書	相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、１９９０年２月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

	情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 中国語Ⅱ　　授業コード：1198

英文科目名称： Chinese (Mandarin)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身辺の日常的な事柄を表現できるようにする。 ・中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。 ・語学学習を通して、異文化理解を深めます。 【到達目標】 ・簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定４級のレベルになります。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その１） 【key words】 你家　几 【授業概要】 数の数え方について学習します。中国語では１０以下か以上かで尋ね方が異なります。家族の場合はたいてい１０人以下でしょうから“几”になります。また家族人員を示す語彙も覚えましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P30・P31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P30・P31の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その２） 【key words】 動詞“有” 【授業概要】 所有を示す動詞“有”を使い「ある、持っている」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。関連表現も覚えていきましょう。また練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P30～P33 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		P33の単語帳（家族）を聞き、中国語で家族名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP30・P31の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その１） 【key words】 動詞“在”所在・在所を表す 【授業概要】 所在・存在を示す“在”を使い「ある、いる」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。更に願望を示す助動詞“想”を使い自分の願望を表す文章を作ってみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P34・P35 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P34・P35の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第４回	第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その２） 【key words】 連動文 【授業概要】 動作が二つ連続して行なわれる文章を連動文と言います。例えば、体育館に行ってバスケットをする。と言った場合、“行って”と“する”の二つの動詞からこの一文は成り立っています。中国語での連動文を作ってみましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P34～P37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P37の単語帳（方位詞）を聞き、中国語で方位名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP34・P35の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その１） 【key words】 100以上の数の数え方　動詞“在”の活用（肯定文・否定文・疑問文） 【課題・予習・復習・授業準備】 【授業概要】 この回では１００以上の数の数え方を学習します。日本語の数え方と若干異なりますので気をつけてください。また前々回に学習した所在・存在を示す“在”を使い（わたしは～にいる）という文章を作っていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P38・P39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P38・P39の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第６回	第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その２） 【key words】 电话 番号として言うときの“一”の発音 【授業概要】 電話口での中国語会話を学習します。電話で外国語を使用するのは想像以上に難しいです。（相手の顔が見えないので、表情を窺えません）しかし、初級者でも基本的なことはいえますので、基礎的な会話を学習しましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P38～P41 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p41の単語帳（街中）を聞き、中国語で街中に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP38・P39の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その１） 【key words】 Ｓ+Ｖ+Ｏ　喜欢 【授業概要】 中国語の基本構文はＳ+Ｖ+Ｏ（主語+述語+目的語）です。この構文を体に染み込むまで徹底して学習します。“喜欢”を使い（～が好き）という文章を作っていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P42・P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P42・P43の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第８回	第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その２） 【key words】

		喜欢　動詞 【授業概要】 “喜欢”を使って、肯定文以外に否定文や疑問文を作っていきます。中国語は日本語と異なり「～するのが好き」という形になります。ですから日本語では「野球が好き」で通じますが中国語の場合、「野球をするのが好き（我喜欢打棒球）」となります。（打が動作を示す）このことについても学習し理解してください。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P42～P45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p45の単語帳（行動）を聞き、中国語で行動に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP42・P43の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その１） 【key words】 副詞　很 真 【授業概要】 形容する際の文章（形容詞述語文）について学習し、習得してもらいます。形容詞述語文の大きな特徴として必ず副詞“很”“真”などを付けなければなりません。“是”構文との相違に着目しながら解説していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P46・P47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P46・P47の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１０回	第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その２） 【key words】 主述述語文　吧 【授業概要】 主述述語文（～は～が～だ、例として象は鼻が長い）と文末の“吧”について学習します。特に“吧”は３種類の使い方があるので注意して学習していきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P46～P47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p49の単語帳（対義語）を聞き、中国語で対義語を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP46・P47の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	第11課　　您要什么？（あなたは何が欲しいですか　その１） 【key words】 助動詞　要（要には二つの意味があるので気をつけてください） 【授業概要】 助動詞“要”は（～したい）という願望を意味するときと、（欲しい）の意味の場合と二つあります。この差異に注意して学習していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P50・P51 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P50・P51の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	第11課　　您要什么？？（あなたは何が欲しいですか　その２） 【key words】 金額の数え方 【授業概要】 お金の数え方について学習します。また買い物の際の中国語を身につけましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P50～P53 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p53の単語帳（色）を聞き、中国語で色を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP50・P51の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	第12課　　你打羽毛球打得很好！ 【key words】 様態補語　得 【授業概要】 様態補語“得”について学習します。日本語とは言い表し方が異なりますので、差異に着目しながら学習します。 【教科書ページ・参考文献】

	P54・P55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P54・P55の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第１４回　第12課　你打羽毛球打得很好！ 【key words】 助動詞　会 【授業概要】 助動詞“会”（できる）は学習･練習の結果何らかの技能が「できる」と言う意味を表します。この“会”を使い文章を作ります。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P54～P57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p57の単語帳（動作）を聞き、中国語で動作を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP54・P55の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　ドリル　総復習中国語のまとめ 【key words】 復習　外国語を学ぶ意義 【授業概要】 ドリル問題を解き弱点を把握し解決していきます。この時点でしっかりマスターしていれば中国語検定４級のレベルになります。４級は中国語の基礎をマスターしたレベルになります。中国語検定試験４級に挑戦してみるのも面白いと思います。最終回ですので、外国語を学ぶ意義について受講生とともに考えます。 【教科書ページ・参考文献】 P58～P69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P58～P62は初歩レベルですので、家で解いてきてください。（即ち宿題を意味します） 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　小テスト３０％
教科書	川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月
参考書	相原茂他「why？にこたえる　はじめての　中国語の文法書新訂版』同学社、２０１６年１１月　倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、１９７３年１月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称： 経済学　　授業コード： 1211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。 【到達目標】 そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。
授業の概要	経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション 【key words】 【key words】 経済学 【授業概要】 授業の概要について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第２回	貧困 【key words】 【key words】 相対的貧困、イギリス 【授業概要】 貧困の種類と福祉施策の歴史について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「国民生活基礎調査」（厚生労働省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相対的貧困について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第３回	社会保障と経済 【key words】

【key words】
医療保険制度、アメリカ
【授業概要】
福祉施策と経済学との関わりについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「社会保障」（中央法規）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アメリカの医療保険制度について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第４回　経済学とジェンダー
【key words】
【key words】
ジェンダー
【授業概要】
ジェンダーと経済学との関わりについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
4頁～7頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ノーベル平和賞受賞者について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第５回　格差
【key words】
ジニ係数
【授業概要】
ジニ係数の解釈の方法について学び、さらに格差拡大の要因とその影響について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
「格差と成長」（OECD）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ジニ係数の統計数値を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第６回　GDP
【key words】
ＧＤＰ、三面等価の原則
【授業概要】
ＧＤＰのデータの作成方法、データの読み方について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
「国民経済計算」（内閣府）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「国民経済計算」（内閣府）の統計数値を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第７回　幸福の経済学
【key words】
幸福、相対所得仮説
【授業概要】
相対所得仮説と幸福感の関係について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「幸福の政治経済学」（ダイヤモンド社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
幸福感に関係する統計を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第８回　ストック経済学
【key words】
株価

【授業概要】
株価データの見方、キャピタルゲインの計算方法について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の株価を新聞で確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第９回　経済成長
【key words】
ソロー、労働、資本、技術進歩

【授業概要】
新古典派の経済成長理論について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
経済成長率の統計を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１０回　教育の経済学
【key words】
認知能力、非認知能力

【授業概要】
認知能力、非認知能力の意味を理解し、仕事の業績との関係について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「学力の経済学」（ディスカヴァー・トゥエンティワン）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
認知能力、非認知能力について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１１回　福祉と経済学
【key words】
福祉教育

【授業概要】
福祉と経済学との関わりについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
4頁～7頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
明治・大正時代の日本の経済状況について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１２回　国際収支
【key words】
国際収支表

【授業概要】
国際収支表の統計について、具体的な統計数字を用いて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
国際収支表の統計を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１３回　国際金融
【key words】
為替レート

【授業概要】
為替レートの意味を理解し、貿易との関係について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
為替レートの統計数字を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１４回　金融
【key words】
貨幣ストック、金利、貨幣需要
【授業概要】
貨幣ストックの統計、金利・貨幣需要の決定要因について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
金融に関係する統計数値を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１５回　経済学と日本経済
【key words】
経済理論

【授業概要】
経済理論と経済現象の関係について学習する。

	【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巌「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： チームケア入門Ⅱ　　授業コード：1405

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2年次	1単位(15)	選択
担当教員			
2学年担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する。具体的な事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。 [到達目標] 1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くことができる。 4) 多職種連携・チームケアの気付き・課題について継続した取り組みができる。 5) チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。IPE (Interprofessional Education occurs)は、2職種間、またはそれ以上の専門職が主体となって、共同とケアの質を改善することを目的とし「共に学び、互いから学び、互いについて学ぶ」という方法をとる。その基本は共に尊重し学び合うという視点である。本学が目指す各専門職教育過程は、どの段階においても複数の職種との相互作用が求められる。IPEの体験は「仲間づくり、主体的学習、自身の考えを相手に伝える」という基本的学習姿勢を培う機会となる。初年次のIPEの体験の導入は、高学年の専門職連携を意図した実習に直接つながり、基礎教育の早期から段階的に積み上げ発展させていくことにより現在の保健医療福祉の変化に多様な対応が可能となる基礎的能力を養う。 保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　・授業オリエンテーション・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景　リハビリ・福祉職・看護職の役割 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　・事例展開に関する調べ学習 【key words】

		【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	・事例展開に関する調べ学習・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる（学部毎）。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための合同会議（3学部小グループ）・報告準備。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための合同会議（3学部小グループ）・報告準備。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告（3学部大グループ）、共有する。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告（3学部大グループ）、共有する。・体験者によるIPWの講義 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	事例検討による一連の学習過程を評価・考察する。その上で、チームケア教育への関心・自己の課題に気付き課題を達成するための方法を考えることができる。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	第１０回 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第１１回 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第１２回 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第１３回 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第１４回 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第１５回 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 ［受講のルール］ ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。
オフィスアワー	別途指示をする。
評価方法	①グループワークでの取り組み50%　　②ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，2008.　2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　ボランティア活動Ⅱ　　授業コード：2004　2006

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	必修
担当教員			
橋本　広信（主担当）・新木　恵一・梅山　文秀・森田　隆夫・塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　卒業後、地域の様々な場における課題と解決の道筋を発見し、それぞれが生きる場をより良いものに変革していく土台となる「体験基盤」を主体的・実践的学習活動を通して構築する。 【到達目標】 １）地域社会にある課題に対して興味を持ち、具体的に問題のありかを調べ、説明することができる。 ２）課題を見つけ出し、その解決に向けた道筋を描き出すことができる。 ３）具体的な地域貢献・社会貢献のための活動を計画することができる。 ４）計画した活動について、具体的な実践をすることができ、それを通して、自分の人生の豊かな「体験基盤」を作ることができる。
授業の概要	「学びのあるボランティア」「社会や地域に貢献する活動を通して深い学びの体験を得る」ことを目指し、地域で貢献できる場を探すための基礎知識を得る活動と、実際に自分が社会や地域に出かけて貢献する体験活動を組み合わせながら、実践学習を展開していく。それぞれに実践している継続ボランティアやボランティア活動Ｉで培った知識や力も活かしながら、後期には、グループで企画した活動について実際に実践活動を展開する。最終的にはそれぞれが活動した内容をポートフォリオとして記録に残し、全体での報告会によって知識と体験を共有する。これらを全体を通して、一人一人がそれぞれの進路や具体的な学習課題と向き合う上で、土台となる体験基盤を得られるよう、積極的な関与を求めたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション：ボランティア活動をとして、この一年間で何を目指すのか？ 【key words】 ボランティア、サービスラーニング、授業の予定確認、評価方法などについて 【授業概要】 今年度から従来の「ボランティア活動」という授業のあり方を転換し、「学び」を重視した活動（サービス・ラーニング）となるように計画を変更した。その趣旨と年間計画の概要を学ぶことで、各自がこの一年間何をしながら、具体的にどのような力をつけることを目指すのかについて理解を深めていく。 【教科書ページ・参考文献】 ・毎回資料を配布する。各自でファイルを用意し、すべて1冊に閉じていくこと。 ・ボランティア活動ハンドブックを持参し、適宜参照すること。 【 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスを熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間（今後の企画に関連することを調べる）
	第２回	（仮）「ぐんまで行われているボランティア活動について：地域福祉を推進する現場から、今、学生に伝えたいこと」 【key words】

		群馬県社会福祉協議会、地域福祉、ボランティア活動 【授業概要】 「地域での実践活動」を最終的にグループで実施できるようになる準備のため、まずは群馬県で数々のボランティア活動をコーディネートされてきた経験をお持ちの方に講師となっていただき、群馬県での具体的な活動について知ることから出発していく。外部講師の話をお聞きしながら、それぞれが実際に活動するとしたらどのような活動ができそうか、想像を広げていく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「社会福祉協議会」の仕事について調べておくこと。提示されたワークシート・感想文などを様式に従って提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第３回	（仮）「地域行政とボランティア団体が果たしている役割を知る：地域行政の立場から、今、学生に伝えたいこと」 【key words】 前橋市役所、地方自治体とボランティア 【授業概要】 前回に引き続き、今回は「行政」「市役所」の立場で、地域の活性化や地域福祉の問題に日々取り組まれている職員の方に来ていただき、私たちが実施できそうな活動のイメージを広げていく。日ごろの具体的な取組みを報告していただきながら、学生と率直な意見交換をしていく予定なので、積極的に発言をすること。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「市役所」「地方自治体」が取り組む、地域福祉や地域活性化の取り組み事例について、あらかじめ調べておき、質問ができるような準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第４回	地域における困りごとを調べよう　　※専攻別・グループ活動準備① 【key words】 地域福祉 【授業概要】 2回の外部講師による講義を受けて、自分たちができること、できそうなことで、地域の困りごとの解消に役立つようなプランを考えていく。ワークシートに沿って、①まず、「身近な地域にどんな困りごとがあると思うか」について調べていき、発表する。②同じような困りごとを対象とする仲間を見つけ、「私たちが考える、困りごと解消プラン」を個別に計画し、次週発表できる準備を進める。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分たちで実践できそうな地域におけるボランティア活動計画をあらかじめイメージしておくこと。他の大学の実践例など、具体的な例を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第５回	地域における困りごとの解消に役立つ実践活動プランニング　　※専攻別・グループ活動準備② 【key words】 地域福祉 【授業概要】 ①前回計画したプランを発表できるようにパワーポイントで資料を作成し、発表準備。 ②それぞれのグループでの活動計画を発表し、質疑応答をする。 ③反省と計画改善（実際に実践するとしたら、地域の誰に相談をするかも話し合い、実践につなげられるようなところまで計画をして、計画書を時間内に提出する。） 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ、グループごとにパワーポイントの作成に取り組んでおくこと。同じ資料を共有しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第６回	地域で子どもたちのために活動する方から学ぶ①　：子ども食堂、子どもの学習支援活動団体から 【key words】 子ども食堂、学習支援 【授業概要】 今回から、ボランティアのフィールドを、「子ども」に関する場に変えて、自分たちの活動の可能性を考えていく。初回は、「地域で子どもたちのために活動する方」の代表として、「子ども食堂」などを運営されている方に講師となっていただき、具体的な活動の様子について知ることから出発していく。今回も、外部講師の話をお聞きしながら、それぞれが実際に活動するとしたらどのような活動ができそうか、想像を広げていく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ「子ども食堂」や子どもの学習支援をしているボランティア団体について調べておくこと。提示されたワークシート・感想文などを様式に従って提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第７回	地域で子どもたちのために活動する方から学ぶ②　：子ども母親支援を行う支援活動団体から 【key words】 子どものたまり場、アウトリーチ支援、虐待、子どもの貧困 【授業概要】 「子ども」に関するフィールドで実際に活動されているゲストをお呼びする第二回目の講義。今回は、「地域で子どもたちのために活動する方」のうち、子どもの貧困問題に取り組む団体から

		講師をお呼びして、具体的な活動の様子について学んでいく。今回も、外部講師の話をお聞きしながら、それぞれが実際に活動するとしたらどのような活動ができそうか、想像を広げていく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ「子どもの貧困問題」や「母親支援」に取り組む方々の活動について調べておくこと。提示されたワークシート・感想文などを様式に従って提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第８回	子どもと母親の困りごとの解消に役立つ実践活動プランニング　※専攻別・グループ活動準備③ 【key words】 子ども食堂、子どもの学習支援、アウトリーチ、母親支援、その他子ども関係のボランティア 【授業概要】 ①前回一緒に計画したグループで、子どもに関連するボランティアプランを計画する。 ②それぞれの活動計画をパワーポイントで資料を作成し、発表準備をし、それぞれのグループでの活動計画を立てて提出する。。 ③上記の計画の中に、実際に実践するとしたら、地域の誰に相談をするかも話し合い、実践につなげられるようなところまで計画をしてみること。できるだけ、時間内に計画書を提出する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ「子どもの貧困問題」や「母親支援」に取り組む方々の活動について調べておくこと。提示されたワークシート・感想文などを様式に従って提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	●専攻別活動（社会福祉専攻）「がん患者とその家族の支援①」（医療・福祉関係者）（子ども専攻）「七夕まつり：子ども広場企画」 【key words】 がん、オンコロジー、自助グループ、がん哲学外来、七夕まつり 【授業概要】 今回からしばらく専攻別の活動に取り組む。子ども専攻は前橋市で実施する「七夕まつり」における「子ども広場」の実施に向けた活動を行う。社会福祉専攻は、引き続き外部講師をお招きし、フィールドを医療現場に移し、特に「がん」患者の支援に取り組む団体にその活動などを学びながら、医療の問題で支援を必要とする方々へのボランティア活動を学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの活動において、受け身ではなく主体的に自分が誰のために何をすべきかを考えながら、参加すること。事前に関連することを予習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１０回	●専攻別活動（社会福祉専攻）「がん患者とその家族の支援②」（医療・福祉関係者）（子ども専攻）「七夕まつり：子ども広場企画」 【key words】 がん、オンコロジー、自助グループ、がん哲学外来、七夕まつり 【授業概要】 前回の続きの活動を専攻別に行う。子ども専攻は引き続き前橋市で実施する「七夕まつり」における「子ども広場」の実施に向けた活動を行う。社会福祉専攻は、外部講師をお招きする。今回は、「がん」患者である当事者の方々の取り組みを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの活動において、受け身ではなく主体的に自分が誰のために何をすべきかを考えながら、参加すること。事前に関連することを予習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１１回	●専攻別活動（社会福祉専攻）「がん患者とその家族の支援③」（医療・福祉関係者２）（子ども専攻）「七夕まつり：子ども広場企画」 【key words】 がん、オンコロジー、自助グループ、がん哲学外来、七夕まつり 【授業概要】 前回の続きの活動を専攻別に行う。子ども専攻は引き続き前橋市で実施する「七夕まつり」における「子ども広場」の実施に向けた活動を行う。社会福祉専攻は、全国から集まる「がん哲学外来市民学会」ボランティアの準備のための学習や具体的準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 それぞれの活動において、受け身ではなく主体的に自分が誰のために何をすべきかを考えながら、参加すること。事前に関連することを予習すること。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料・ワークシート等 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１２回	●専攻別活動（社会福祉専攻）「活動の振り返り」、（子ども専攻）「活動の振り返り」 【key words】 ボランティア活動報告書 【授業概要】 ①ここまで、専攻別に具体的に実践を行った集団でのボランティア活動について振り返り、それぞれが報告書を作成する。 ②報告書の作成を通して、簡単な感想も作成し、その発表を通して、意見の共有を図る。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、ワークシート、ボランティア報告書等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ、報告書の作成を準備しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】

予習2時間、復習2時間

第１３回　地域で依存症の問題に取り組む方々から学ぶ①　：ダルクの方々から学ぶ依存症支援の取り組みとボランティア

【key words】
薬物依存、ダルク、ＡＡ、回復の12ステップ
【授業概要】
今回から、また学年全体で、「依存症」の支援に取り組む方々をお呼びし、社会福祉の知識を得るとともに、学生として依存症に関するボランティア活動の案の作成に取り組んでいく。今回は、群馬で活動をされている、「ダルク」の方々をお呼びして、依存症に関するフィールドでの実践についてお話をお聞きする。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料、ワークシート、ボランティア報告書等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ、依存症の学習をしておくこと。また、ダルクの本やネットでの情報について目を通しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１４回　地域で依存症の問題に取り組む方々から学ぶ②　：アルコール依存とギャンブル依存の支援団体に学ぶ依存症支援の取り組みとボランティア地域ボランティア活動企画の発表

【key words】
アルコール依存症、ギャンブル依存症（予定）
【授業概要】
前回に引き続き「依存症」の方の支援に取り組む方々をお呼びし、社会福祉の知識を得るとともに、学生として依存症に関するボランティア活動の案の作成に取り組んでいく。今回は、群馬で活動をされている、「アルコール依存症」支援に関わる方々や「ギャンブル依存症」支援に関わる方々をお呼びして、それぞれのフィールドでの実践についてお話をお聞きする。（予定）
【教科書ページ・参考文献】
配布資料、ワークシート、ボランティア報告書等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
あらかじめ、依存症の学習をしておくこと。また、アルコール依存やギャンブル依存症の本やネットでの情報について目を通しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１５回　●クラス単位活動　・前期のまとめ・発表

【key words】
ポートフォリオ
【授業概要】
①ここまで学習をしたり、活動をした資料を改めてポートフォリオに整理をし、前期の振り返りシートなどを作成して、前期のまとめを行う。
②それぞれクラス単位で、これまでの授業や活動を振り返り、感想と後期の活動の展望を発表する。
③後期のグループ活動について確認する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料、振り返りシート、ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
後期の活動の案を自分なりに計画してみること
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１６回　後期オリエンテーション　「地域実践活動プログラム」説明

【key words】
地域実践ボランティア活動、サービス・ラーニング
【授業概要】
後期は約1か月間、グループで地域に出かけ、それぞれが企画したプログラムに基づき実践する「地域活動プログラム」を軸にこの学習を展開する。まずは、後期にどのような活動をするか、なぜ、何のために行うかを全員で確認しながら、充実した活動が行えるように準備をしていく。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
地域実践活動プログラムについて、それぞれが行いたい活動を描きながら、調べ学習を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１７回　地域における福祉ニーズの捉え方　生活ニーズとサービスニーズ、集約による地域ニーズ（学内講師）

【key words】
地域福祉、地域でのボランティア
【授業概要】
これから、グループでの地域実践活動を計画していくにあたり、基本的な福祉ニーズの捉え方について、学内講師により講習を受ける。各自が、後期に取り組みたい活動をしっかり描きながら受講し、自分たちでできる活動計画を作る上での情報を手に入れていくこと。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
地域福祉におけるボランティア活動について、具体的な実践例を調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　地域での障害者支援を考える①　「車いす生活をされる方への支援活動を考える」

【key words】
障害の社会モデル、障害平等研修
【授業概要】
全体学習の最後のフィールドとして「障害」をテーマに学習をする。障害を負って地域で暮らしている方、また障害者の人権や社会の変革を目指して取り組む方々に来ていただき、学生としてどのような活動をすることで、すべての人が地域でい生き生きと暮らすことに貢献できるかを学

		んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身体面での障害を負って生きる方の書いた本を調べ、どのようなことが地域での暮らしの障害になるかを書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１９回	●（予定）専攻別活動　地域での障害者支援を考える②　「障害を持つ子の保護者として活動をされる方への支援活動を考える」（予定） 【key words】 障害の社会モデル、子どもの障害と家族 【授業概要】 ※子ども専攻は「あそか祭り」の準備（予定）。 前回に引き続き、「障害」をテーマに学習をする。今回は、自分と言うより、障害をもつ子どもたちととも地域で暮らしている方々に来ていただき、学生としてどのような活動をすることで、これらの方々が地域で生き生きと暮らすことに貢献できるかを学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児、またその家族の思いや取り組みについて調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２０回	地域における障害者の支援活動プログラムを考える　※専攻別・グループ活動準備④ 【key words】 地域福祉、障害 【授業概要】 障害に関する外部講師による講義を受けて、自分たちができること、できそうなことで、障害者の困りごとの解消に役立つようなプランを考えていく。ワークシートに沿って、①まず、「障害のある方が地域で暮らすうえでどんな困りごとがあると思うか」について調べていき、発表する。②同じような困りごとを対象とする仲間を見つけ、「私たちが考える、困りごと解消プラン」を個別に計画し、計画書を提出する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ、地域で暮らす障害児者へのボランティアとしてできそうなことを考えておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第２１回	「私の地域実践活動プログラム」作成準備①　　※グループ活動 【key words】 地域福祉、ボランティア 【授業概要】 ①これから具体的に実施していく地域実践活動を行うグループを作る。 ②グループ指導者の下、グループのメンバーがこれまで考えてきた活動プログラムを出し合い、全員が協力して取り組めそうな案を作る。 ③それを実践する場所を得るために、協力者を探し、実際にどのようにお願いをしていったらよいか、どのようなスケジュールで何を実践するか、細かく計画を立ててみる。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 地域実践活動プログラム計画書をあらかじめ作っておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２２回	「私の地域実践活動プログラム」作成準備②　　※グループ活動 【key words】 地域福祉、ボランティア 【授業概要】 ①前回作成した案をもとに、具体的にメンバー内で役割分担をし、どこにどのようにお願いをし、実際にどんな活動をいつどこでどのように行うかを明確にしていく。 ②　①ができたら、グループ指導者の確認の上、地域での実践に関して相談や依頼をしていく。 ③　実際に実践できる環境が整ったところから、具体的な実践スケジュールを明確にし、実施の予定を立てていく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 地域実践活動プログラム計画書を練り直しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２３回	「私の地域実践活動プログラム」作成準備②　　※グループ活動 【key words】 地域福祉、ボランティア 【授業概要】 ①　前回作成した案をもとに、次週から活動ができるように、具体的に外部の協力者と交渉を行う。 ②　①ができたところから、実践活動計画をさらに具体化し、必要な準備に取り組む。→「計画書」の提出 ③　グループ内で、活動に関してよく打ち合わせをし、計画通り実施できるように段取りをしっかり作る。 ※次週からの実施日程については、グループごとに決め、計画書を提出。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 互いによく意見交換をしながら、自己のないような計画になるように確認をしながら進めるこ

と。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２４回　「地域実践活動プログラム」開始・実施①
【key words】
地域福祉、ボランティア

【授業概要】
今回の第24回から第27回までを「活動実施期間」と定める。この期間に、それぞれが最低4回以上の活動を行うこと。活動については、グループ内全員で取り組んでもよいし、役割分担の上、バラバラに活動をしてもかまわない（活動内容自体はグループで統一）。活動日時についても、ボランティアの授業時間を利用しても良いし、それ以外の空きコマや土日に活動してもよい。それらを報告できるように記録をしておくこと。
【教科書ページ・参考文献】
活動記録をまとめておくこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
よくコミュニケーションをとりながら、地域で関わる方々に迷惑のかからない活動を実施すること。安全や健康に留意すること。危険なことは絶対行わないこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２５回　「地域実践活動プログラム」実施②
【key words】

【授業概要】
全体では集まらないので、活動を継続し、問題があったり先生に相談がある場合は、この時間に指導教員に指導を受けること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２６回　「地域実践活動プログラム」実施③
【key words】

【授業概要】
全体では集まらないので、活動を継続し、問題があったり先生に相談がある場合は、この時間に指導教員に指導を受けること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２７回　「地域実践活動プログラム」実施③
【key words】

【授業概要】
全体では集まらないので、活動を継続し、問題があったり先生に相談がある場合は、この時間に指導教員に指導を受けること。この時間までに活動を終えたグループは、全員でまとめの報告を作成する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２８回　●グループ活動　「地域実践活動プログラム」実践報告書作成
【key words】

【授業概要】
①グループごとに報告書を作成する時間とする。一定の様式で報告書を個々に作成する。
②グループごとに報告書に書いた内容に基づき、経験したことを共有する「グループ内報告会」を行う。
③報告されたことをもとにしながら、パワーポイントで自分たちが行った活動の報告発表資料を作成する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
地域実践活動プログラムの作成、全体への報告資料としてのパワーポイントの作成に取り組むこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２９回　「地域実践活動プログラム」活動報告会　①
【key words】

【授業概要】
これまで行ってきた学習に基づき実践した活動について、グループごとの報告を順次実施していく。
今回は、全体のグループの半分（社会福祉専攻）が報告を行う。
他の人は、報告を受けての感想をワークシートにまとめていく。
【教科書ページ・参考文献】

	各グループ発表資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表できるようにしっかりと準備をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間 第３０回　「地域実践活動プログラム」活動報告会　② 【key words】 【授業概要】 これまで行ってきた学習に基づき実践した活動について、グループごとの報告を順次実施していく。 今回は、全体のグループの半分（社会福祉専攻の残りと子ども専攻）が報告を行う。他の人は、報告を受けての感想をワークシートにまとめていく。 ・終了後、定められた期間内に、各自のポートフォリオを完成させて、担当まで提出し、評価を受けること。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回までの資料を加え、各自のポートフォリオを完成させ、提出できる状態にしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・グループ活動を実施するため、メンバー同士で協力し合い、活動がうまく動いていくように、各自積極的に役割を担っていくこと。 ・授業によって、感想文やワークシートなど、様々な角度で手書きの提出物を出すよう求める。真剣に受講し、時間内で課題を仕上げること。スピード感を大切にすること。 ・提出物は、すべて成績評価にも含める。また、それらがポートフォリオとして、自分の思索と活動の記録となるため、期日を厳守しながら、積極的に課題に取り組むこと。 ・わからないことなどがあれば、遠慮なく担任や主担当教員に相談をすること。一人で解決せず、人に力を借りることも学ぶこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	学外でのボランティア活動は、以下の事柄に留意して実践する事。 ①実習に準じ、責任を持って活動を行う事。 ②継続ボランティア、依頼ボランティア等にも積極的に参加し、活動すること。 ③ボランティア活動報告書を提出しない場合は、ボランティア活動実施を認めない。 ④個人で関わったボランティア活動先の施設・機関には必ず礼状を送付すること。
オフィスアワー	第１回オリエンテーションにて説明する。
評価方法	講義・演習への取り組み（ワークシート、企画書等の提出書類から取組みを評価）（50%）、後期に実施する地域実践活動の企画・実施状況（企画書・報告書等を基に評価）（30%）活動報告会でのプレゼンテーション（20%）を総合的に評価する。評価方式は5段階ではなく、「合格・不合格」の二種類のいずれかとなる。
教科書	ボランティアハンドブック（鈴木利定　監修　／　足立勤一　他　編著） ※必要に応じて、昨年配布されたものを随時参照すること。
参考書	適宜、授業中に紹介する。 依頼ボランティア、継続ボランティアなど個別に実施しているボランティアについては、ボランティア報告書を担任に提出するなど、昨年と同様の手続きで進めること。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　現代社会と福祉　　授業コード：2053

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	必修
担当教員			
稲葉　一洋			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・現代社会における福祉制度の意義や理念、社会福祉政策との関係について理解する 【到達目標】 ・社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる ・福祉制度の意義や理念、現状や課題について説明できる ・福祉政策におけるニーズと資源について理解できる ・福祉政策の構成要素について説明できる ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解できる
授業の概要	現代社会には、生活上の困難を抱える個人及び家族が存在している。 こうした人々の生活上の困難に対して、社会的に緩和や解決を図るために社会福祉は存在している。 この授業では、現代の社会福祉を理解するために、その存立基盤、概念・理念、歴史、政策・制度、支援技術等に関して理解を深めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション、本科目の視点と枠組み 【key words】 社会福祉　福祉政策 【授業概要】 ・科目の位置づけとシラバスの説明 ・社会福祉の視点と枠組みについて説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp1-10 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　　社会福祉の歴史　①前史と福祉国家の成立 【key words】 伝統社会　近代社会　夜警国家　市民権　福祉国家 【授業概要】 ・近代以前の歴史と市民権の確立および福祉国家の成立について説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp11-17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】

第３回　社会福祉の歴史　②福祉国家の変容・現代社会変化と福祉
【key words】
福祉多元主義　福祉国家レジーム　福国家の危機　人口・労働・家族の変化　社会的包摂

【授業概要】
・福祉国家の変容と福祉国家レジームについて解説
・現代の人口・労働・家族の変化と福祉との関連を説明
・福祉政策の現代的課題について説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp18-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　社会福祉の概念
【key words】
目的概念　実体概念　価値
【授業概要】
・福祉の概念について解説
・社会福祉の価値について説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：31-33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　社会福祉の拡大と限定
【key words】
福祉政策　福祉ニーズ　社会政策　　社会福祉のＬ字型構造

【授業概要】
・社会福祉拡大の要請について説明
・広義と狭義の社会福祉について説明し、社会福祉の定義について再度解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp34-42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　福祉政策の展開と社会福祉士
【key words】
福祉政策　福祉政策のブロッコリー型構造　社会福祉士

【授業概要】
・福祉政策の位置づけと類似概念との違いを解説
・社会福祉の社会的機能と福祉的機能について説明
・社会福祉士の役割と機能について説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp43-53
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　福祉の思想と市場の論理
【key words】
福祉の思想　公共的相互性　市場の論理

【授業概要】
・社会福祉を支える思想について解説
・市場の論理の特性について解説
・市場の論理と福祉の視野
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp55-70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　ロールズとセンおよび社会政策のなかの福祉政策
【key words】
ロールズ　セン　社会政策　福祉政策　社会福祉政策　公共政策

【授業概要】
・ロールズの正義論とセンの潜在能力理論について説明
・社会社会政策、福祉政策、社会福祉政策の概念について解説
・公共政策の体系とソーシャルワークついて説明

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp71-85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　社会政策体系と社会福祉政策および福祉政策の体系

【key words】
社会サービス　社会福祉事業　福祉サービス

【授業概要】
・社会政策の体系と社会福祉政策について解説
・福祉政策の体系について説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：86-96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　福祉政策の発展過程　①近代化と福祉政策

【key words】
慈善救済　救済制度　慈善事業　感化救済事業　社会事業

【授業概要】
・近代国家以前における救済制度について説明
・近代国家における救済制度と慈善事業、感化救済事業を経て社会事業の成立に至る流れについて解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp. 97-106
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　福祉政策の発展過程　②高度経済成長期の福祉政策

【key words】
ＧＨＱ　高度経済成長　「貧困の再発見」　「福祉元年」

【授業概要】
・戦後復興から戦後社会福祉の成立を経て、福祉元年に至るまでの流れを説明
・欧米における貧困の再発見について説明
・朝日訴訟と堀木訴訟の意義を中心に解説

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp. 107-119
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　少子高齢化時代の福祉政策　①福祉政策の調整と進展

【key words】
「日本型」福祉システム　福祉元年　福祉国家　日本型福祉社会論　第二臨調

【授業概要】
・高度経済成長期に形成された日本の福祉システムについて解説
・「福祉元年」～1980年代までの福祉政策の流れについて説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp. 121-128
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキキス、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　少子高齢化時代の福祉政策　②1990年代以降の福祉政策

【key words】
21世紀福祉ビジョン　95年勧告　介護保険制度　社会福祉基礎構造改革　分野横断的福祉政策

【授業概要】
・1990年代～2000年代以降の福祉政策の背景について解説
・1990年代～2000年代以降の福祉政策について説明
・1990年代～2000年代以降の社会福祉政策について説明
【教科書ページ・参考文献】

教科書：pp129-155
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　福祉政策における必要と資源

【key words】
必要　需要　資源

【授業概要】
・必要と需要及び行政需要について解説
・必要の判定と福祉政策における資源について解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp157-179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　中間まとめ～福祉とは何か？考えてみよう～

【key words】
社会福祉　福祉政策　社会政策
【授業概要】
・前期のまとめ
・第1回～第4回の授業課題レポートに対するコメント
・教科書(pp.1-32)の重点的な振り返りと説明

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp1-179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　福祉政策の理念

【key words】
ノーマライゼーション　自己責任　社会的包摂
【授業概要】
福祉政策の理念について、主な理念を取り上げて解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp180-185
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　福祉政策資源の配分システム

【key words】
公私分担論　福祉多元主義　政策決定　政策評価
【授業概要】
・福祉政策資源の配分システムについて解説
・福祉政策の手法と政策決定過程・評価について解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp186-203
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキキス、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　福祉政策の関連領域　①人権擁護と福祉政策

【key words】
バルネラビリティ　社会的排除　社会的包摂
【授業概要】
人権擁護の内容と福祉政策との関係について解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp204-208
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　福祉政策の関連領域　②保健医療と福祉政策

【key words】
社会保険

【授業概要】
保健医療政策の特徴と福祉政策の関係について解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp209-212

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　福祉政策の関連領域　③所得保障・雇用と福祉政策

【key words】
所得保障　雇用政策

【授業概要】
所得保障と雇用政策の特徴と福祉政策との関係について解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp213-223
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　福祉政策の関連領域　④教育と福祉政策

【key words】
生涯学習

【授業概要】
教育政策の特徴と福祉政策との関係について解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書：224-227
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること”
【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　社会福祉制度の体系　①社会福祉制度の構造

【key words】
社会福祉制度

【授業概要】
社会福祉制度の体系について説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp243-251
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　社会福祉制度の体系　②社会福祉制度と福祉サービス

【key words】
福祉サービス　福祉サービス提供方式
【授業概要】
社会福祉制度の体系と福祉サービスについて説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp252-264
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　福祉サービスの提供

【key words】
福祉サービス

【授業概要】
・福祉サービスの提供＝利用課程について説明
・運営管理部門の役割や機能について解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書：：pp265-282
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　福祉サービスと援助活動

【key words】
相談援助の原則　地域福祉
【授業概要】
・相談援助の原則・視点・考え方と方法について解説
・地域福祉の展開と社会福祉士の役割について説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp283-300
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　福祉政策の国際比較　①欧米型の福祉政策

【key words】

	福祉政策　国際比較　福祉レジーム 【授業概要】 ・福祉レジームと北欧型の福祉政策の特徴について解説 ・福祉レジームとヨーロッパ大陸型の福祉政策の特徴について説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp301-319 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　福祉政策の国際比較　②東アジア諸国の福祉政策 【key words】 福祉政策　国際比較 【授業概要】 福祉レジームと東アジア型の福祉政策の特徴について説明する 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp.320-340 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　福祉政策の課題と展望 【key words】 社会政策　福祉政策 【授業概要】 現代社会における社会不安と福政策の課題について説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp.341-351 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　包摂的福祉政策への展開 【key words】 社会的排除　社会的包摂 【授業概要】 現代社会における福祉政策の構図と包摂型社会の創出について解説 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp352-359 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　１年間のまとめ 【key words】 社会福祉　社会福祉政策　社会政策 【授業概要】 「現代社会と福祉」の総まとめを行う 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp1-359 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキスト・パワーポイントの全体を見直しておいてください ・テキスト、講義内容のノート全体の総まとめに取り組もう 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・社会科の基礎知識が必要です。中学校・高等学校の歴史分野、公民分野の復習をしておきましょう。 ・授業シラバスを必ず確認しておくこと。 ・授業の予習・復習は、必ず行い、積極的な態度で授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）
授業外時間にかかわる情報	・テキストをしっかり予習しましょう。 ・意味の解らない言葉・用語は、調べておきましょう。
オフィスアワー	・授業終了後の30分間
評価方法	・中間の小ﾚﾎﾟｰﾄ　40％ ・筆記試験　60％
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『現代社会と福祉』中央法規出版　2014
参考書	必要に応じて適宜指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 障害者に対する支援と障害者自立支援制度　　授業コード：2083

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
松永　尚樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握し、障害者福祉制度の発展過程を学んだうえで、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度を理解する。 【到達目標】 ①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握するために必要な統計調査を読み取ることができる。 ②障害者福祉制度の発展過程を理解し、現行の法制度までの流れを説明することができる。 ③専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるようになる。
授業の概要	この授業では、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や障害者福祉制度の発展過程について学び、障害者総合支援法の内容を理解するとともに、障害児者にかかる福祉制度を学修する。 　障害児者の支援の過程において、障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度からニーズにそったサービスを考え、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるように授業を展開する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション（講義の進め方、評価、リアクションペーパーや小テストの提出方法等） 【key words】 オリエンテーション／講義の進め方 【授業概要】 ①シラバスの確認 ②履修上の注意 ③コメントカードについて ④定期試験について ⑤教科書について ⑥予習・復習について 【教科書ページ・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第２回	障害の概念と理念≪レジュメ①≫ 【key words】 障害の概念／ICF／統合モデル 【授業概要】 ①障害の概念と理念

②障害者の人権保障と福祉の理念

【教科書ページ・参考文献】
教科書p26～p30／p2～p14
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。
※小テスト実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第３回　障害者の生活実態とニーズ≪レジュメ②≫
【key words】
障害者人口の現状／手帳取得状況／生活実態・ニーズ／基本指針
【授業概要】
①障害者人口からみた課題
②障害種別にみる定義と生活実態・ニーズ
③障害者問題とニーズ
【教科書ページ・参考文献】
教科書p15～p25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。　次回からは小六法を使用するので持参すること。
※小テスト実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第４回　障害者福祉制度の発展過程（障害者権利保障の歴史を含む）≪レジュメ③≫
【key words】
国連・障害者権利条約／国際障害者年／障害者権利条約／日本の障害者施策の歴史
【授業概要】
①国連・障害者権利条約
②日本における障害者福祉のあゆみ

【教科書ページ・参考文献】
教科書p2～p14
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した、条約や法律は小六法を再度見ておくこと。
※小テスト実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第５回　障害者福祉の法（障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法）
【key words】
障害者基本法／身体障害者福祉法／知的障害者福祉法／精神保健福祉法
【授業概要】
①障害者基本法と障害者福祉の法体系
②対象別の法
【教科書ページ・参考文献】
教科書p32～p89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した、法律は小六法を再度見ておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第６回　障害者福祉の法（発達障害者福祉法、医療観察法、難病法、障害者虐待防止法、障害者差別解消推進法、その他）
【key words】
発達障害者支援法／児童福祉法／子ども・子育て支援法／医療観察法／難病法／障害者虐待防止法
【授業概要】
①対象別の法
②差別の禁止、差別是正措置の法

【教科書ページ・参考文献】
教科書p32～p89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
障害者総合支援法のサービス利用説明パンフレットを熟読すること。（全国社会福祉協議会）
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第７回　障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　経緯・理念・考え方）
【key words】
障害者総合支援法の経緯・理念・考え方
【授業概要】
①障害者総合支援法までの経緯
②障害者総合支援法の概要

【教科書ページ・参考文献】
教科書p102～p167
【課題・予習・復習・授業準備指示】
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】

		1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第８回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　サービス内容・支給決定のプロセス） 【key words】 介護給付の種類／訓練等給付の種類／障害福祉サービスの支給決定／障害支援区分／利用者負担 【授業概要】 ①介護給付と訓練等給付 ②障害福祉サービスの支給決定、障害支援区分、利用者負担 【教科書ページ・参考文献】 教科書p102～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 サービス内容・支給決定のプロセスは覚えよう。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第９回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　自立支援医療・審査請求） 【key words】 自立支援医療／補装具／相談支援／地域生活支援事業／苦情解決／審査請求／他法との適用関係 【授業概要】 ①自立支援医療 ②補装具 ③相談支援 ④地域生活支援事業 ⑤苦情解決と審査請求 ⑥障害者総合支援法と他法との適用関係 【教科書ページ・参考文献】 教科書p102～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第１０回	障害者の所得保障（障害者雇用促進法を含む） 【key words】 障害者の就労実態／障害者雇用促進法／障害者優先調達推進法／ハローワーク等における支援／障害者職業センター／学校卒業後の進路保障 【授業概要】 ①障害者の就労実態 ②労働保障の制度 ③福祉と労働の統一的保障 【教科書ページ・参考文献】 教科書p187～p192 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第１１回	障害者の社会生活参加 【key words】 【授業概要】 ①障害者の低所得性と所得保障の課題 ②所得保障、経済的負担軽減の制度 障害基礎年金／障害厚生年金／特別障害給付金／特別児童扶養手当法／特別児童扶養手当／障害児福祉手当／特別障害者手当／経過的福祉手当／労働者災害補償保険法／生活保護法／税制による負担軽減措置／各種の負担軽減措置 【教科書ページ・参考文献】 教科書p76～p89 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 2.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第１２回	障害福祉の整備計画と障害者運動 【key words】 【授業概要】 ①障害者の社会参加実態とニーズ ②市民の障害理解と差別・偏見の実態とニーズ ③バリアフリー環境の整備 障害者の社会参加実態とニーズ／国連・障害者権利条約における社会参加の理念／障害者の社会参加における制度上の課題／情報アクセシビリティ／ユニバーサルデザイン／差別禁止と偏見／バリアフリー／バリアフリー新法 【教科書ページ・参考文献】 レジュメ　参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワード

	を事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。） 第１３回　専門職の役割と実際（相談支援事業所の内容を含む） 【key words】 障害児支援／児童の権利に関する条約／障害者の権利に関する条約／母子保健法／障害児の福祉サービス／障害児福祉計画／児童福祉法／特別支援教育 【授業概要】 ①子ども期の特徴と障害児支援 ②2つの権利条約と障害児支援 ③障害の早期発見と早期対応 ④障害児の福祉サービス 【教科書ページ・参考文献】 教科書p154～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。） 第１４回　多職種連携とネットワーキング 【key words】 障害者参加／障害福祉サービス利用における国、事業者の責務／障害者運動／生活のしづらさなどに関する調査／国・地方公共団体の役割／障害者基本計画／障害福祉計画 【授業概要】 ①障害者・関係団体の法参加、整備計画参加 ②障害者総合支援法等の国・自治体の役割と障害者参加 ③障害者基本法の障害者計画と障害者総合支援法の障害福祉計画 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。） 第１５回　まとめ（事例検討） 【key words】 まとめ 【授業概要】 ①まとめ ②授業の振り返り ③グループワークによる全体の総括 【教科書ページ・参考文献】 教科書全体 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストに向けた学習を進めること。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間、グループワークの準備時間等もを含める。）
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁。 授業開始時（単元の最初）にプリントを配布する場合がある。休んだ場合は、原則、友達等にプリントをもらってもらうこと。 単元の終わりに小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード（web）
授業外時間にかかわる情報	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。障害児者に関する事柄について、幅広い内容を学習するため、教科書及び配布プリント等を利用し予習、復習すること。
オフィスアワー	火曜　10時～12時／金曜日　10時30分～12時　それ以外の時間帯については、アポイントを取ってもらいたい。
評価方法	定期試験50%、小テスト20%、リアクションペーパー30% ※定期試験が60点を満たない場合は再試とする。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　「新･社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規（最新版）
参考書	福祉小六法編集委員会『福祉小六法』　（株）みらい（最新版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 授業コード：2092

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	４単位(60)	必修
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童福祉の現状と課題を理解し、支援のあり方や福祉制度を学ぶことにより、社会福祉業務に必要な知識等を身につけることを目的とする。 【到達目標】 ①現代の児童福祉の現状と課題、児童福祉の理念、児童福祉の関係法令・実施体制・専門職・権利擁護が理解できる。 ②社会福祉士や児童指導員等有資格者として必要な児童福祉の基本的な知識を修得できる。
授業の概要	教科書により、前期は、子育ての現状と課題、次世代育成支援策、児童福祉ニーズ、権利保障、児童福祉の法体系、等について講義を行う。 後期は、障害児、児童の健全育成、子育て支援、社会的養護児童、非行児童、被虐待児等の現状支援策について講義を行う

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 ＜key words＞ 授業の受け方 【授業概要】 ＜授業概要＞ 授業の受け方、予習復習、評価の方法などを説明 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書、六法を読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	少子高齢化社会と次世代育成支援 【key words】 ＜key words＞ 少子化、次世代への課題 える。 【授業概要】 ＜授業概要＞ 現代までの社会状況を踏まえて、次の社会への課題や解決案を考 【教科書ページ・参考文献】

＜教科書＞
２－
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３回　現代社会と子ども家庭の問題
【key words】
＜key words＞
子育て、養育力、発達、子育て支援

【授業概要】
＜授業概要＞
現代社会の子育て支援の必要性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
３４－５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　子どもの育ち、子育てニーズ
【key words】
＜key words＞
「子ども家庭福祉」、福祉的ニーズ

【授業概要】
＜授業概要＞
「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への変遷とニーズの変化を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
４７－５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第５回　子どものための福祉の原理・子ども家庭福祉の理念
【key words】
＜key words＞
「子ども」とは

【授業概要】
＜授業概要＞
「子ども」について、多視点で学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
６－１０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第６回　子ども家庭の権利保障
【key words】
＜key words＞
権利擁護、第三者評価

【授業概要】
＜授業概要＞
子育て支援、養育支援の中での権利擁護について知る
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１１６－１２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第７回　児童福祉の発展１
【key words】
＜key words＞
子ども家庭福祉の歴史

【授業概要】
＜授業概要＞
歴史的視点で、児童福祉を理解する
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１９－３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】

		前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第８回	児童福祉の発展２ 【key words】 同上 【授業概要】 同上 【教科書ページ・参考文献】 同上 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第９回	子ども家庭福祉の法体系 【key words】 ＜key words＞ 法の理解 【授業概要】 ＜授業概要＞ 児童福祉法及びその関連法について、概要を知る。 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ５６－８３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１０回	子ども家庭福祉の実施体制１ 【key words】 ＜key words＞ 行政機関、児童福祉施設 【授業概要】 ＜授業概要＞ 児童福祉の実施機関とそこにいる専門職の役割を知る。 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ８４－９９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１１回	子ども家庭福祉の実施体制２ 【key words】 同上 【授業概要】 同上 【教科書ページ・参考文献】 同上 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１２回	子ども家庭福祉の財政 【key words】 ＜key words＞ 福祉の財源、 【授業概要】 ＜授業概要＞ 児童福祉の財源（国、都道府県、市町村）の仕組みを知る 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １００－１０４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１３回	子ども家庭福祉の専門職 【key words】 ＜key words＞ 専門職、任用条件 【授業概要】 ＜授業概要＞ 児童福祉領域の専門職とその任用条件を知る。

【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１０５－１１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１４回　苦情解決と権利擁護
【key words】
＜key words＞
権利擁護、苦情解決、第三者評価

【授業概要】
＜授業概要＞
権利ノート等子どもの権利擁護について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１１６－１２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１５回　母子保健
【key words】
＜key words＞
母子保健の児童福祉で果たす役割

【授業概要】
＜授業概要＞
母子保健が児童福祉領域で果たす役割について知る。
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１２７－１３９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１６回　障害・難病のある子どもと家族への支援１
【key words】
＜key words＞
障害児、病児

【授業概要】
＜授業概要＞
障害児や難病児、病児に係る児童福祉の役割を概観する
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１４０－１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１７回　障害・難病のある子どもと家族への支援２
【key words】
同上
【授業概要】
同上
【教科書ページ・参考文献】
同上
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１８回　児童健全育成
【key words】
＜key words＞
健全育成

【授業概要】
＜授業概要＞
児童福祉における児童健全育成の動向と施策を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１５６－１６４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

	第１９回　保育１ 【key words】 ＜key words＞ 保育 【授業概要】 ＜授業概要＞ 保育制度の概要と保育士の専門性及び役割について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １６５－１７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第２０回　保育２ 【key words】 同上 【授業概要】 同上 【教科書ページ・参考文献】 同上 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第２１回　子育て支援 【key words】 ＜key words＞ 地域子育て支援 【授業概要】 ＜授業概要＞ 地域子育て支援の意味と支援事業について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １８４－１９４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第２２回　ひとり親家庭の福祉１ 【key words】 ＜key words＞ 片親家庭、貧困 【授業概要】 ＜授業概要＞ 一人親家庭に対する理解と法的支援について、社会状況に合わせて学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １９５－２０６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第２３回　ひとり親家庭の福祉２ 【key words】 同上 【授業概要】 同上 【教科書ページ・参考文献】 同上 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第２４回　児童の社会的養護サービス１ 【key words】 ＜key words＞ 社会的養護、社会的養育 【授業概要】 ＜授業概要＞ 社会的養護から社会的養育への変遷を子どもの発達という視点で概観する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ２０７－２３０

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２５回　児童の社会的養護サービス２
【key words】
同上
【授業概要】
同上
【教科書ページ・参考文献】
同上
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２６回　非行児童・情緒障害児への支援１
【key words】
＜key words＞
非行、情緒障害、発達障害

【授業概要】
＜授業概要＞
非行、情緒障害、発達障害について、児童福祉的対応を概観する。
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
２３１－２４３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２７回　非行児童・情緒障害児への支援２
【key words】
同上
【授業概要】
同上
【教科書ページ・参考文献】
同上
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２８回　児童虐待対策
【key words】
＜key words＞
児童虐待

【授業概要】
＜授業概要＞
児童虐待について、その予防、発見、防止、援助をおのおの学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
２４４－２６０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２９回　子ども家庭への援助活動
【key words】
＜key words＞
施設ケア、連携、協働

【授業概要】
＜授業概要＞
子ども家庭福祉のソーシャルワークの基本と施設ケアの基本を知る
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
２７０－２８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３０回　まとめ
【key words】
まとめ
質疑応答
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習復習を行うこと ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・授業内容を基盤にして、自己学習につなげていくこと ・その他、授業のなかで伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業への取り組み等　２０％
教科書	新・社会福祉士養成講座「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」　中央法規出版
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 児童相談所、児童自立支援施設、身体障害者更生相談所 (児童心理司、言語聴覚士、児童福祉司、sv) アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助の理論と方法Ⅰ　　授業コード：2114

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修／子ども専攻・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】クライエントは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライエントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライエントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライエントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。 【到達目標】(1～15) 1)クライエントとその社会生活環境の関係性の何に社会福祉士が関わりをもつのかを説明できる。2)社会福祉士が認識し呼応すべきクライエントのニーズの種類を述べることができる。3)クライエント-社会福祉士援助関係の構造形成とその質について説明できる。4)ケースの発見から支援終結までの支援展開過程の各段階を経時的に述べることができる。 (16～30) 1) 相談援助活動におけるアウトリーチの意義と必要性を説明できる。2) クライエント-社会福祉士関係の根底にある「契約」「面接」「介入」の特性を説明できる。3) 相談援助活動でのアセスメントとモニタリングの着目点を具体的に述べることができる。4) 相談援助活動記録の方法と活用について説明できる。
授業の概要	(1～15) 1)相談援助活動を構成する複数の要素とその関係構造を解説したのち、2)クライエント-社会福祉士間援助関係の構築について理解します。3)実際はつなぎ目なく連続している相談援助活動の展開過程を、段階的に追いながら、その各々の目的や意義について説明します。 (16～30) 1) 来談対応と対をなすアウトリーチによるクライエントへの接近について解説を追加し、2)クライエント-社会福祉士間援助関係の構築に欠かせない「契約」「介入」「面接」の意義を理解します。3)連続している相談援助活動展開上、目的に応じた修正を適宜図るために併行させる経過観察の実際について学び、支援の有効性・効果性の意識も高めます。4) 個人情報保護と職業倫理を基礎に、活用できる記録のあり方を説明します。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　現代社会の諸相と福祉ニーズに対応する社会福祉士 【key words】 福祉ニーズ　ウェルビーイング　QOL　クライエント　ソーシャルワーカー 【授業概要】 クライエントという人とその社会生活という環境の双方とその相互関係に関わりをもつことになる、ソーシャルワーカーとソーシャルワークの全体像・構成要素を概観します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1－25。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 クライエントを支援するためにソーシャルワーカーが自分自身をどのように準備しておくのかを理解しましょう。
	第２回	クライエント-環境-社会資源-社会福祉士

【key words】
相互作用過程/関係　ストレングス/エンパワメント　介入　社会資源活用　ソーシャルワーカーの役割/機能
【授業概要】
社会生活上の問題から導き出されるクライエントのニーズの階層性と、それに対応するソーシャルワーカーの役割・機能を整理します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp27－51。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

その場面や課題に応じて担うソーシャルワーカーの役割・機能は複合的です。クライエントの生活全体を見すえる観点を理解しましょう。

第３回　人と環境の相互作用をシステムとして理解する
【key words】
システム理論　相互作用　援助関係
【授業概要】
人の生活の全体を理解する際に有用なシステム論の考え方を学び、関係要因が相互作用する中でソーシャルワーカーがクライエントと援助関係を形成する意義にふれます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp53－77。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

システム論モデルについては抽象的な印象をもつかもしれませんが、本来多面的な社会生活をありのまま理解していくのに重要な視点群を用意してくれます。

第４回　相談援助の構造
【key words】
援助関係　援助構造　よい関係　自己覚知

【授業概要】
相談援助を進めるのにあたって、ソーシャルワーカーがクライエントにとってどのような位置関係にいる必要があるのか、について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp78－90。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントへ関わることと同時並行してソーシャルワーカーが自分自身を観察する意識を養いましょう。

第５回　相談援助の展開過程 1　ケース発見
【key words】
相談援助の過程　相談援助の構造　ケース発見　ラポール形成　不安の除去

【授業概要】
相談援助の展開過程について、その目的と対象を整理し、各段階の概要とそれを支える基本概念を理解します。それをふまえて、クライエントをケースとして見出す際の留意点を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp91－102。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ソーシャルワーカーとの出会いの段階でクライエントがもっている心理社会的特性を理解しましょう。

第６回　相談援助の展開過程 2　受理面接
【key words】
主訴　傾聴　個別化　問題の要点　緊急度

【授業概要】
クライエントの主訴を理解し、ソーシャルワーカーが具体的に担える役割・機能を提示し、支援契約を結ぶ確認をする段階の意義を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp103－107。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

主訴をより理解するためには、人－環境に関する情報が必須で、次回のテーマとなります。

第７回　相談援助の展開過程 3　問題の把握とニーズの確定
【key words】
ニーズ確定　人と環境の相互作用　アセスメント

【授業概要】
主訴を分析して問題の本質を理解し、具体的な支援のテーマであるニーズとして確認していくステップをたどります。その際、クライエントの現状を評価・把握する際に必須となる、人－環境に関する情報を多次元的に整理することも学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp108－117。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

人－環境に関する情報群を分析的かつ総合的に整理し、クライエントの全体像を理解する視点を理解しましょう。

第８回　相談援助の展開過程 4　評価から目標設定へ

【key words】
評価結果　目標設定　ニーズ　実現性　リスクの把握

【授業概要】
クライエントの生活問題の何をどのように判断して、支援の目標を設定するのかを具体的に学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp118－126。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

現時点で あるいは 今後 予測されるリスクについての意識と管理も、同時に考えていくことになります。

第９回　相談援助の展開過程 5　支援計画の立案と実施

【key words】
援助計画　介護計画　ソーシャルワーク理論　支援チーム　ケース会議

【授業概要】
クライエントと生活問題の双方を全体的に理解する多視点＝多様な理論的視野の概要を理解し、明確化された目標に向けての援助計画の立案と介護計画の検討について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp123－130。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

社会資源の単なる提供ではなく、クライエントおよび家族の能力の活用を促す支援の具体化が基本です。

第１０回　相談援助の展開過程 6　経過観察

【key words】
経過観察（モニタリング）　生活課題への取組状況の把握　新しい問題　状況の変化　記録

【授業概要】
計画にもとづく支援の提供が実際「的確に」進んでいるかを把握し、必要に応じて支援の修正などへつなげていく、経過観察（モニタリング）の内容を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp131－135。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援に伴われた生活の開始時点は、クライエントが戸惑いを覚えやすい時期でもあります。その心理社会的状態を理解しましょう。

第１１回　相談援助の展開過程 7　再評価

【key words】
再評価（再アセスメント）　支援の見直し　支援の強化　生活の継続　潜在的ニーズ

【授業概要】
経過観察よって確認されたクライエントの状況変化や新たなニーズについて、再度評価し、支援計画の調整を図ることを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp136－139。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援開始後に、よりきめ細やかな問題対応などが具体化してくる場合があります。支援の修正や目標の再設定は、クライエントの生活の継続性を支持するものです。

第１２回　相談援助の展開過程 8　支援終結

【key words】
支援の終結　分離不安　依存　自立

【授業概要】
支援は永久に続くものではなく、クライエントの自立性が確認されて一段落するものであることを理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp140－142。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

後任者に引き継ぐような場合も、ひとつの終結といえます。その準備についても、この機会に具体的に考えてみましょう。

第１３回　相談援助の展開過程 9　支援の効果測定

【key words】
支援計画の妥当性　支援の効果性　評価　アカウンタビリティ　エビデンス・ベースド・プラクティス
【授業概要】
支援の終結にあわせて行なう、計画の的確性、支援の効果性、クライエントが築いてきた力 の評価をすることについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp141－144。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援の過程を振り返るためには、記録を適切に残していくことが必須です。

第１４回　相談援助の展開過程10　地域支援
【key words】
地域ニーズ　地域資源の課題　予防的対応　サービス開発

【授業概要】
複数の個別的支援によって集約しうる地域ニーズを把握するとともに、問題の深刻化を回避するための予防的視点やサービス開発のためのソーシャルアクションを学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp144－148。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

個別的支援とともに地域社会へ目を向けることの意義を理解しましょう。

第１５回　前期のまとめ
【key words】
―
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容への接続を図ります。

【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】

相談援助の理論的方法論的な考え方学び始めました。十分に復習をして、Ｉ後期ひいては次年度Ⅱへ学習をつなげていきましょう。

第１６回　前期の復習　相談援助活動をより精緻にするために
【key words】
―
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容を概観します。

【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前期に学んだ相談援助の過程を実践活動として機能させる意識をもちましょう。

第１７回　地域福祉とアウトリーチ
【key words】
アウトリーチ　インボランタリー・クライエント　社会的不適応　ケース発見　ニーズの掘り起こし
【授業概要】
アウトリーチを必要としている人たち、アウトリーチの機能と方法、アウトリーチを実践する際の留意点について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ149－159。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

アウトリーチは、ソーシャルワーク実践上、来談対応と対をなす重要なクライエント接近方法です。

第１８回　相談援助活動における契約
【key words】
契約　合意形成　対等関係　目標設定　支援方法　目標達成

【授業概要】
相談援助過程の基本原則である クライエントとソーシャルワーカー間の各種合意とその総体の契約について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ161－173。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援においては、クライエントとの対等性やクライエントの自己決定を実現することが中核であり、そのために契約は重要な基盤です。

第１９回　相談援助活動におけるアセスメント１　問題の多面的統合的とらえ方
【key words】
アセスメント特性　援助関係　バイステックの7原則　自己覚知　面接における言語反応

【授業概要】
ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性を理解し、クライエントがかかえた問題を多面的統合的にとらえるための面接構成の方法や援助関係の形成について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp175－182。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

面接では、基本的な知識、観察力、感受性、コミュニケーション力が実践的に求められてきます。特に、ソーシャルワーカーのクライエントに向けた言語反応は、具体的に理解して下さい。

第２０回　相談援助活動におけるアセスメント２　得るべき情報項目と情報理解のための視覚化の手法

【key words】
統合的アセスメント　守秘義務　共感性と想像力　情報の分析と統合　エコマップ　ジェノグラム
【授業概要】
渡部（1999）をよりどころに、ジェネラリストソーシャルワーカーにおける統合的アセスメントの着目点16項目を学び、得られた情報群を視覚的に整理する方法を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp183－194。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントをとりまくさまざまな環境がかかわって問題がつくり出されることが多いので、背景情報の関係性をどのように整理するかについて注目しましょう。

第２１回　相談援助活動におけるアセスメント 3　得た情報の整理と活用
【key words】
情報の組織化　情報の関連性　情報の解釈と類推　情報の要約　ライフサイクル論

【授業概要】
アセスメント面接で得た情報を統合化し支援に利用するために必要な知識、想像力、分析・解析力、統合・要約についてまとめます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp195－198。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

アセスメント力を高めるためには、ひとと社会を理解する目的のさまざまな分野の知見を学んでいく必要があります。ソーシャルワーカーとしての自己研鑽を意識しましょう。

第２２回　支援介入の意義と方法
【key words】
全体論的認識　直接的介入　間接的介入　介入の戦略　クリティカル・シンカー

【授業概要】
ミクロからマクロに至る広範囲なレベルにおけるソーシャルワーク介入の意義とその方法について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp199－215。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援介入を適切に行なうために、エビデンス・ベースドの考え方を十分理解しましょう。

第２３回　経過観察（モニタリング）　1 対象　方法・手順
【key words】
インプリメンテーション　モニタリング　対象者の明確化　モニタリングのスケジュールと手続き
【授業概要】
支援計画の実施（インプリメンテーション）に付帯する支援進捗の観察（モニタリング）の意義と具体的な手続きを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp217－226。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援目標に向かって、関係支援者間でのリアルタイムな情報共有や役割修正・強化を図る主旨・根拠を理解しましょう。

第２４回　経過観察（モニタリング）　2 状況分析から再アセスメントへ
【key words】
進捗状況の把握　ソーシャルワーカーの態度　クライエントの問題解決能力　再アセスメント　支援計画の修正
【授業概要】
モニタリングによって把握した多面的な情報の再統合とそれにもとづく支援計画の的確な修正について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp226－232。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

モニタリングの結果は、短期目標ごとに時系列的にまとめていくことが、多岐にわたる問題の整理につながります。

第２５回　相談援助活動の効果性の検証
【key words】
効果測定　実験計画法　プロセス評価　アウトカム評価　サービス開発

【授業概要】
支援実行が支援目標にかかわってどのように有効であったかを検証し、社会資源提供とニーズ充足の因果関係について考えます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp233－242。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントの人権がかかわるために、全て数理科学的に効果測定が実施できるわけではないですが、支援活動の根拠をもとうとすることは重要です。

	第２６回　相談援助活動における面接 【key words】 面接の目的　焦点づけ・方向づけ　関与しながら待つ　構造化面接　非構造化面接 【授業概要】 支援の中核である面接の構造的特性を理解し、そこでのコミュニケーション展開について留意点をまとめます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp243－262。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 何のための面接か、今日のこの面接は次の何につながるのか、支援全体におけるその面接の意味をよく理解しましょう。 第２７回　記録をすること 1　意義と目的および種類 【key words】 記録業務　記録の活用目的　記録の種類 【授業概要】 最も基本となるケース記録・面接記録だけでなく、カンファレンス資料を含め、ケースワークに付帯して多様な記録業務がある認識と、記録は活用されて意味をもつという考え方を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp263－277。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目にするかもしれない他者を意識して、適切な情報内容や表現で都度記載することが重要です。 第２８回　記録をすること 2　記録業務のIT化と倫理的配慮 【key words】 記録の形式　記録のIT化　個人情報の保護　個人情報の利用・共有　倫理 【授業概要】 記録の形式について概観した後、記録のIT化にともなってより一層注意を払うべき個人情報の保護と利用にかかる倫理を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp278－287。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 クライエントの個人情報を十分保護するとともに、関係支援者とその個人情報を共有することは、一件相反しますが、倫理観を持って工夫を考えることにより、支援に結びつけることができます。 第２９回　交渉と支援チーム連携 【key words】 多様で複雑な問題　多職種支援チーム　交渉・調整　エンパワメント　プレゼンテーション 【授業概要】 支援にかかわる多職種混成チームの連携のあり方と、クライエントの多様なニーズに呼応する支援を目的とした交渉の技術について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp289－309。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 面接も交渉も目的的なコミュニケーションの技術が必要です。支援チームが機能するためにも、チームメンバーが相互理解を意識し、意見交流を図らなければなりません。 第３０回　相談援助の理論と方法Ⅰのまとめ 【key words】 ― 【授業概要】 後期学習内容を振り返るとともに、次年度Ⅱへの接続を図ります。 【教科書ページ・参考文献】 ― 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相談援助の理論的方法論的な考え方を1年間学びました。十分に復習をして、次年度Ⅱへ学習をつなげていきましょう。
受講生に関わる情報および受講のルール	チェック式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自 口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに 受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

	★1回の授業に対して、概ね1.5時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　相談援助の理論と方法Ⅰ　新・社会福祉士養成講座7　中央法規2016年
参考書	授業中に適宜紹介・提示します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、大学病院等 において 当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助実習指導Ⅰ　　授業コード：2151　2152　2153　2154　2155

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・松永　尚樹・新家　めぐみ・安留　孝子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ① 相談援助実習の意義について理解する。 ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 ③ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 【到達目標】 ①相談援助実習の意義、社会福祉士の役割や専門性について表現できる。 ②実習先施設・機関についての概要を伝えることができる。 ③相談援助実習履修試験に合格できる水準の知識及び技術を身につけている。 ④自己理解、自己覚知を行い、自分自身の実習先を選択できる。
授業の概要	相談援助実習の意義と目的、社会福祉士として必要な福祉倫理、相談援助実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についてグループによる調べ学習・発表を中心に授業を進める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業方法及び留意事項　相談援助実習資格試験について 【key words】 実習前学習　相談援助実習の意義 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックを購入し読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	相談援助実習の意義と目的の理解 【key words】 実習前学習　相談援助実習の意義 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉実習を行う意義や目的と目標としている社会福祉士について考えてくる。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　社会福祉士に期待される役割と専門性の理解（社会福祉士に求められる職業倫理）
【key words】
実習教育の流れ　倫理綱領　行動規範
【授業概要】
実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。相談援助実習の留意事項を解説する。社会福祉士の倫理綱領を読み、社会福祉士が守らなければならないことを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士の倫理綱領と行動規範を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　実習先機関・施設の理解（行政機関）
【key words】
実習が行なえる施設・機関　実習前学習
【授業概要】
事前学習の課題を整理し、事前学習のグループ分けを行い、グループ学習を行い発表の準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
福祉の行政機関の業務内容、関係法令を調べ、まとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　実習先機関・施設の理解（行政機関）
【key words】
福祉事務所　児童相談所
【授業概要】
行政関係施設①福祉事務所、②児童相談所に関するグループ学習の内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉協議会、地域包括支援センターの業務内容、関係法令をまとめ、疑問点や不明点を明確にしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　実習先機関・施設の理解（社会福祉協議会、地域包括支援センター）
【key words】
社会福祉協議会　地域包括支援センター
【授業概要】
市町村社会福祉協議会、地域包括支援センターに関するグループ学習の内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
高齢者施設の種別と業務内容、関係法令・制度について調べ、まとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　実習先機関・施設の理解（高齢者施設）
【key words】
高齢者者施設・事業
【授業概要】
高齢者関係施設（①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③介護老人保健施設、④デイサービスセンター（ショートステイ）、⑤グループホーム（地域密着型施設）、）に関する概要等調べた内容を発表し、質問を受け理解を深める。
事前学習の課題を整理し、グループ学習を行い発表の準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット
【課題・予習・復習・授業準備指示】
高齢者施設についての疑問点や不明点を明確にしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　実習先機関・施設の理解（高齢者施設）
【key words】
高齢者関係施設
【授業概要】
高齢者関係施設（①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③介護老人保健施設、④デイサービスセンター（ショートステイ）、⑤グループホーム（地域密着型施設）、）に関する概要、グループ学習で調べた内容を発表し、質問を受け理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット
【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童福祉施設の種別と業務内容、関係法令、制度について調べ、まとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　実習先機関・施設の理解（児童福祉施設）

【key words】
児童福祉施設
【授業概要】
児童福祉施設（①児童養護施設、②母子生活支援施設、③障害児入所施設、④児童発達支援センター、⑤情緒障害児短期治療施設、⑥児童自立支援施設）に関する事前学習の課題を整理し、グループ学習を行い発表の準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童福祉施設についての疑問点や不明点を明確にしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　実習先機関・施設の理解（児童福祉施設）
【key words】
児童福祉施設
【授業概要】
児童関係施設（①児童養護施設、②母子生活支援施設、③障害児入所施設、④児童発達支援センター、⑤情緒障害児短期治療施設、⑥児童自立支援施設）に関する事前学習内容の発表を行う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット
【課題・予習・復習・授業準備指示】
障害者関係施設の種別と業務内容、関係法令、制度について調べ、まとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　実習先機関・施設の理解（障害者支援施設）
【key words】
障害者施設・事業
【授業概要】
事前学習の課題を整理し、障害者関係施設・事業（①障害者支援施設、②就労継続・就労移行事業、③障害者地域活動支援センター、④相談支援事業・障害者就業・生活支援センター、⑤独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、⑥群馬県立障害者リハビリテーションセンター）のグループ学習を行い発表の準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット　障害者総合支援法
【課題・予習・復習・授業準備指示】
障害者関係施設についての疑問点や不明点を明確にしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　実習先機関・施設の理解（障害者支援施設、医療福祉関連施設）
【key words】
障害者施設・事業
【授業概要】
障害者関係施設・事業（①障害者支援施設、②就労継続・就労移行事業、③障害者地域活動支援センター、④相談支援事業・障害者就業・生活支援センター、⑤独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、⑥群馬県立障害者リハビリテーションセンター）のグループで調べた内容を発表する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　施設HP パンフレット
【課題・予習・復習・授業準備指示】
病院(MSW)や更正保護施設について調べて、まとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　実習先機関・施設の理解（その他の機関・施設）
【key words】
病院　更正保護　独立社会福祉士
【授業概要】
病院、更生保護施設、独立型社会福祉士に関するグループ学習の内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック　HP パンフレット

【課題・予習・復習・授業準備指示】
これまで調べた内容と発表を振り返り、実習先希望調査を記入してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　事前学習の意義・目的・方法の理解（実習先希望調査票の提出）
【key words】
事前学習　関係法令・制度　社会資源
【授業概要】
社会福祉援助実習を行なうまでに事前学習をしておく必要性を理解する。
事前学習の内容を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習の意義と目的についてまとめ、学習方法を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　実習開始までの取り組み（まとめ、レポート課題）　相談援助実習資格試験
【key words】
実習までの流れ
【授業概要】

	社会福祉援助実習を行なうまでの流れについて理解する。 実習開始までに準備をしておく内容について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉相談援助実習の意義、目的についてもう一度考え、実習への考えについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。 ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。 ③欠席、遅刻をする場合は、授業開始前に大学に連絡を入れること。 ④無断遅刻・無断欠席をした場合は社会福祉士実習委員会で対応を協議する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習先機関・施設の理解のために調べ学習をグループ等で行うことがある。グループで連携・協力し課題に取り組むこと。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	相談援助実習資格履修試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況 及びその内容（30%）を総合して評価する。　但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助演習Ⅱ　　授業コード：2191　2192　2193　2195　2196

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉コース・児童福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・松永　尚樹・新家　めぐみ・安留　孝子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。 ②本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方等を基本を養う。 【到達目標】 ①ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法を課題に応じて選択できる。 ②各相談援助技術の特色を理解し、説明できる。 ③相談援助実習指導Ⅰでの学びと並行し、各福祉領域での相談援助技術について説明できる。 ④倫理綱領、行動規範に基づいた社会福祉士としての行動を想定できる。
授業の概要	相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループによるり実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項　評価方法 【key words】 講義の進め方 【授業概要】 相談援助演習Ⅰの振り返り 相談援助演習Ⅱの流れと受講時のルール確認 本授業の進め方や参加する上での注意事項について説明する 【教科書ページ・参考文献】 P1～P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習Ⅰで行ったものを復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	ソーシャルワークの価値と倫理　倫理綱領 【key words】 傾聴　価値と倫理 【授業概要】 物語を読み、個人の考えをまとめた後グループになり話し合いを行う。まとまった意見を発表し、共感・受容、価値観の違いなどについて、ソーシャルワーカーとして利用者をどのように捉えることが重要になるのかを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士の倫理綱領・行動規範 ソーシャルワーク演習ワークブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		社会福祉士の倫理綱領と行動規範を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	ソーシャルワークの価値と倫理　行動規範 【key words】 社会福祉士の倫理綱領　行動規範 【授業概要】 社会福祉士の倫理綱領を読み、自分自身が考える社会福祉士の価値を理解する。 グループになり専門職の倫理を考える、日本社会福祉士会の「倫理綱領」と比較し、社会福祉士としての「倫理綱領」とは何かを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士の倫理綱領・行動規範 ソーシャルワーク演習ワークブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士の倫理綱領・行動規範を読んで重要だと思う部分をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	ソーシャルワーク実践　面接技法 面接の目的 【key words】 インテーク面接　非言語的コミュニケーション 【授業概要】 社会福祉士として行う面接とはどのようなものかビデオを見て考え、ワークシートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 P59～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士が行う面接はどのようなものかを考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	ソーシャルワーク実践　面接技法　面接に入る心構え 【key words】 構造化面接　SOLER 【授業概要】 面接に対する利用者の気持ちを理解する演習を行い、社会福祉士として面接を行う時の心構えと環境設定についてグループワークを行う。 【教科書ページ・参考文献】 P59～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 インテーク面接の目的と意義について考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	ソーシャルワーク実践　面接技法　インテーク面接 【key words】 インテーク面接　主訴　傾聴 【授業概要】 初めて会う社会福祉士に対する利用者の気持ちをグループで話し合う。利用者の気持ちを尊重した面接とはどのようなものか演習を行う。 インテーク面接の目的について講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P59～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 傾聴と聞くの違いについて考えてくる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	ソーシャルワーク実践　面接技法　傾聴の方法 【key words】 姿勢　態度　距離 【授業概要】 面接場面における非言語的コミュニケーションの重要性を知り、ソーシャルワーカーとして、姿勢・態度・距離などが利用者の話を促進させたり、逆に阻害させる要因になることを考えながら演習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P59～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 面接のロールプレイを行うため社会福祉士の技法と利用者の気持ちをまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	ソーシャルワーク実践　面接技法　面接の具体的技法 【key words】 ロールプレイ　面接技法 【授業概要】 三人一組になり、作成したシナリオに沿ってロールプレイを行なう。実際に行なって振り返りをグループと全体で行なう。 【教科書ページ・参考文献】 P59～P63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ロールプレイの振り返りをまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の意義と目的 【key words】 面接　記録 【授業概要】

		前回の振り返りを行い、面接とは何かを考える。その時のワーカーとしての心構えや使用する技術等についてまとめる。 面接や支援を行なった結果を記録として残す目的を講義する。 【教科書ページ・参考文献】 P65～P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 記録の種類について教科書を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の種類 【key words】 逐語記録　要約記録　説明体記録 【授業概要】 記録の種類について講義を行い、それぞれがどのように記録をする時に使用されるのかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P65～P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 記録技法の事例を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の内容と方法 【key words】 逐語記録　要約記録　説明体記録 【授業概要】 社会福祉士が記録に使用する用紙の説明を行う。説明を聞き、読んできた事例を面接用紙、アセスメント用紙にまとめる。 グループワークを行い読みやすい内容にするためにはどのようにすれば良いのか検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P65～P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 書いた記録を書き直してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１２回	ソーシャルワーク実践　記録技法　記録における留意点 【key words】 逐語記録　要約記録　説明体記録 【授業概要】 前回の記録を使用し、読みやすい内容に改善する。 記録技法のまとめの講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P65～P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ケースワークについて教科書を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	ケースワークの展開過程　ケースワーク 【key words】 ケースワークの展開過程　インテーク　アセスメント　プランニング 【授業概要】 ケースワークの展開過程の講義を行い、各段階を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P88～P94 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各段階の目的を復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	ケースワークの展開過程　ケースワーク 【key words】 モニタリング　評価　面接技法　記録技法 【授業概要】 展開過程の続きを講義し理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 P88～P94 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各段階の目的を復習しておく。事例を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１５回	ケースワークの展開過程　ケースワーク 【key words】 アセスメント　情報収集・分析　アセスメント時の留意点 【授業概要】 展開過程の一連の事例を使用し、各段階で何を行うのかを具体的に理解していく。 アセスメントではどのような情報を収集するのかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P88～P94 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プランニングの留意点について教科書を読んで、事例のプランニングを考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１６回	ケースワークの展開過程　ケースワーク 【key words】

プランニング　長期目標　短期目標　数値化
【授業概要】
展開過程の一連の事例を使用し、各段階で何を行うのかを具体的に理解していく。
アセスメントした情報からプランニングを行う。
自分で考えてきたプランニングをグループで話し合い、援内容を具体的に考える。

【教科書ページ・参考文献】
P88～P94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの留意点について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク
【key words】
グループダイナミクス　社会福祉士の役割
【授業概要】
グループワーク時の社会福祉士の役割と留意点の講義を行い、グループワークについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P95～P100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの展開過程について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク
【key words】
準備期　開始期　作業期　終結

【授業概要】
グループワークの事例を読み、社会福祉士の役割と留意点を理解し、グループで、どのようにグループワークを進めていくのか検討を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P95～P100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例を読み、社会福祉士の役割を考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク
【key words】
準備期　開始期　作業期　終結
【授業概要】
検討した結果を発表し、全体で理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P95～P100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティワークについて教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク
【key words】
コミュニティワーク　ニーズ把握　地域計画　社会福祉士の役割

【授業概要】
コミュニティワーク時の社会福祉士の役割と留意点の講義を行い、コミュニティワークについて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティワークの展開過程について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク
【key words】
地域診断　組織化　地域ニーズ　活動計画

【授業概要】
コミュニティワークの事例を読み、コミュニティの役割と留意点を理解し、グループで、どのようにコミュニティワークを進めていくのか検討を行う。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107

【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例を読み、社会福祉士の役割を考えてくる。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２２回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク
【key words】
地域診断　組織化　地域ニーズ　活動計画

【授業概要】
検討した結果を発表し、全体で理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークについてまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　治療モデル・環境モデル・生活モデル
【key words】
治療モデル　生活モデル
【授業概要】
事例を使用し、治療モデルと生活モデルのアセスメントやプランニングに違いについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
治療モデル　生活モデルの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ストレングスモデルについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２４回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　ストレングスモデル
【key words】
ストレングスモデル　リフレーミング

【授業概要】
事例を使用し、ストレングスモデルでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。

【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
ストレングスモデルの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
心理社会的アプローチについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　心理社会的アプローチ
【key words】
社会心理的アプローチ　状況の中の人
【授業概要】
事例を使用し、社会心理的アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
心理社会的アプローチの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
問題解決アプローチについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２６回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　問題解決アプローチ
【key words】
問題解決アプローチ　4つのP
【授業概要】
事例を使用し、問題解決アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
問題解決アプローチの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
危機介入アプローチについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２７回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　危機介入アプローチ
【key words】
危機介入アプローチ　死の受容過程
【授業概要】
事例を使用し、危機介入アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。

	【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 危機介入アプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 行動変容アプローチについて復習してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２８回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　行動変容アプローチ 【key words】 行動変容アプローチ　モデリング　オペラント条件付け 【授業概要】 事例を使用し、行動変容アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 行動変容アプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 エンパワメントアプローチについて復習してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２９回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　エンパワーメントアプローチ 【key words】 エンパワメントアプローチ　ストレングス　パワーレス 【授業概要】 事例を使用し、エンパワメントアプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 エンパワメントアプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族システム論アプローチについて復習してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第３０回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　家族システム論 【key words】 家族システム　家族の相互作用 【授業概要】 事例を使用し、家族システムアプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 家族システムアプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれのアプローチ法についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	（1）履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努めること。 グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁 （2）学習上の助言 社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。 （3）予備知識や技能 相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかり行うことが望まれる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	社会福祉士としての基本となる各種技法を復習し修得すること
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉シリーズ21　ソーシャルワーク演習　『相談援助演習』弘文堂
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会保障　　授業コード： 2202

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
松原　直樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会保障制度は、私たちが生活していく中で誰もが直面する失業や病気・けが、介護の必要性などの困難な状況に社会全体で手助けをしようとする制度である。社会保障は、日常生活に困難を抱えている場面において、なくてはならない仕組みであり、社会福祉に関わる仕事に就く人だけでなく、生活者としても、理解しておく必要のある事がらである。さまざまな場面でセーフティネットとなっている社会保障に関する理解を深めていくことを授業の目的とする。 【到達目標】 １．社会保障の用語及び歴史的理解。 ２．社会保障制度の目的・体系の理解。 ３．社会福祉及び国民生活への政策の理解。
授業の概要	まず社会保障の全体像について理解し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について理解する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行い、さらに社会福祉士・精神保健福祉士国家試験における、社会保障の過去問を活用しながら、具体的な事例を想定し、社会保障制度の目的・役割・課題について理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション、私たちの生活と社会保障、社会保障の理念と機能 【key words】 社会保障、社会保障の体系、社会福祉事業者、福祉国家、日本国憲法第25条、社会保障の定義・目的 【授業概要】 社会保障の定義について知り、その概要について学習する。さらに、現代の社会保障における個人・政府・地方自治体及び社会福祉事業者の関わりについて知る。また、社会保障と福祉国家の関係について理解する。また、日本国憲法及び基本的人権と社会保障の関係について理解する。続いて、社会保障全体についての目的及び機能について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p. i ～p. ix、p. 2～p. 16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第1章を読んでおく。 〈復習〉本日の授業の概要を確認する。まとめチェック1で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第２回	社会保障の歴史、社会保障の構造 【key words】 救貧法、社会保険法、恤救規則、救護法、社会保障制度の体系、社会保険、社会扶助、社会福祉 【授業概要】 社会保障がどのような経緯をたどって現在に至っているかを理解し、また社会保障制度の思想に関する知識や社会保障制度の沿革を全体的に把握する。次に、社会保障の仕組みを役割や機能

から体系的に理解する。また、社会保険の構造について整理し、その内容や特徴について理解する。さらに、社会扶助の構造について整理し、その内容や特徴について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.17～p.59
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第2章・第3章を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック2で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第３回　社会保障の財源と費用①社会保障の費用
【key words】
社会保障費用統計、社会保障給付費、政策分野別・部門別・機能別社会保障給付費
【授業概要】
最新社会保障費用統計を見て、その特徴を理解する。また、部門別、機能別の社会保障給付費に関する統計を検討し、その特徴を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.62～p.68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第4章第1節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック3で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第４回　社会保障の財源と費用②社会保障の財源・社会保障と経済
【key words】
社会保障関係費、国民経済、国民負担率
【授業概要】
社会保障の財源構成について理解する。まず、国及び地方の財政について、社会保障における役割を理解し、その上で、社会保障と国民経済の関係および国民負担率について現状を理解する。その上で、社会保障が経済活動にどのような影響を及ぼしているのかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.69～p.83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第4章第2節・第3節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック4で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第５回　年金保険制度①公的年金制度の沿革と概要
【key words】
国民皆年金体制、公的年金制度の沿革、社会保障・税一体改革
【授業概要】
公的年金の概要について理解する。そのため、公的年金制度が現在の制度に至る過程について理解する。さらに、公的年金制度めぐる近年の改革について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.85～p.98
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第5章第1節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック5で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第６回　年金保険制度②国民年金(1)
【key words】
国民年金第1～3号被保険者、老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金
【授業概要】
国民年金の被保険者の種類について理解する。また、国民年金の3種類の給付について、要件、受給額等を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.99～p.103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第5章第2節1～5を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック6で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第７回　年金保険制度③国民年金(2)、厚生年金保険(1)
【key words】
付加年金、国民年金基金、厚生年金適用事業所、老齢厚生年金
【授業概要】
国民年金に係る独自給付、上乗せ給付の制度を理解する。次に、厚生年金の概要について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.104～p.112
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第5章第2節6～8第3節1～3を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック7で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第８回　年金保険制度④厚生年金保険(2)

【key words】
障害厚生年金、遺族厚生年金、厚生年金保険料率、厚生年金の費用負担
【授業概要】
厚生年金の3種類の給付である、老齢厚生年金、遺族厚生年金と障害厚生年金等について、要件、受給額、費用負担等を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.112～p.116
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第5章第3節4～6を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック8で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第９回　年金保険制度⑤年金保険制度をめぐる最近の動向
【key words】
社会保障制度改革国民会議、マクロ経済スライド、財政検証、所得代替率、厚生年金基金
【授業概要】
社会保障・税一体改革以来の年金制度をめぐる動向について理解する。そして、現在の年金制度に関する課題と今後の見通しについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.117～p.124
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第5章第4節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック9で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１０回　医療保険①医療保険制度の沿革と概要
【key words】
国民皆保険、高齢者の医療の確保に関する法律、被用者保険、地域保険
【授業概要】
医療保険制度がこれまでどのように形作られてきたかについて理解する。そして、医療保険制度の全体像について理解する。また、保険診療をめぐる利用者・医療機関・保険者の関係について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.126～p.135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章第1節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック10で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１１回　医療保険②健康保険、共済制度
【key words】
被用者保険、健康保険、協会けんぽ、健康保険組合、療養の給付
【授業概要】
被用者保険である健康保険と共済制度について理解する。そのため、それぞれの保険の被保険者および保険者について理解する。また、共通する保険給付の内容について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.136～p.140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章第2節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック11で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１２回　医療保険③国民健康保険
【key words】
国民健康保険、国民健康保険組合、国民健康保険税
【授業概要】
地域保険である国民健康保険について理解する。給付内容、費用の徴収方法、等について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.141～p.146
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章第3節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック12で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１３回　医療保険④後期高齢者医療制度
【key words】
後期高齢者医療制度、高齢者の医療の確保に関する法律
【授業概要】
高齢者医療確保法の概要を理解し、さらに高齢者医療制度の沿革と内容、特に後期高齢者医療制度のしくみについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.147～p.150
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章第4節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック13で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】

		予習60分、復習120分
	第１４回	医療保険⑤国民医療費、医療をめぐる最近の動向 【key words】 国民医療費、医療費適正化、混合医療の拡大、診療報酬改定 【授業概要】 最新のデータにより国民医療費について理解する。また、最近の医療費や医療提供体制に関わる動向について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.151～p.160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章第5節を読んでおく。 〈復習〉本日の授業の概要を確認する。国民医療費の統計をネット上で調べる。まとめチェック14で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１５回	前半のまとめ 【key words】 社会保障の概念や対象及びその理念、社会保障の財源と費用、年金保険制度の具体的内容、医療保険制度の具体的内容 【授業概要】 これまで学習した「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「年金保険制度の具体的内容」「医療保険制度の具体的内容」について、その概要を復習するため、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説によって、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p.1～p.160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉配布プリントを通読しておく。 〈復習〉授業で取り上げた、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１６回	介護保険制度①介護保険制度創設の経緯 【key words】 措置から契約、介護保険法、介護保険法改正 【授業概要】 介護保険制度が創設された背景と創設された経緯について、理解する。まず、介護保険制度創設以前の高齢者福祉・老人保健制度について概観し、介護保険の創設過程及び介護保険制度の見直しの経緯について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.161～p.166 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第7章第1節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック16で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１７回	介護保険制度②介護保険制度の概要(保険者・被保険者・利用手続き) 【key words】 第1号被保険者・第2号被保険者、要介護認定、介護保険審査会 【授業概要】 現在の介護保険制度の概要について、保険者・被保険者・利用手続きについて、理解する。被保険者については第1号被保険者と第2号被保険者の別について、またそれぞれの保険料について学習する。利用手続きについては、要介護認定を含む介護保険利用手順を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.167～p.173 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第7章第2節1～4を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック17で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１８回	介護保険制度③介護保険制度の概要(保険給付) 【key words】 要介護、要支援、介護給付、予防給付、施設サービス、居宅サービス、介護予防サービス、地域密着型サービス 【授業概要】 介護保険の給付について、要介護1～5の認定を受けた要介護者を対象とした介護給付と要支援1～2の認定がされた要支援者を対象とした予防給付について、また地域密着型サービスについて、それらの内容を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.173～p.180 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第7章第2節5を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック18で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１９回	介護保険制度④介護保険制度の概要（運営)、介護保険をめぐる最近の動向 【key words】 介護保険財政、地域支援事業、地域包括支援センター、介護サービスの質、地域包括ケアシステム、介護保険民間事業者 【授業概要】

		介護保険の給付について、市町村による地域密着型サービスについて、具体的な内容を理解する。また、介護保険財政及び地域支援事業について、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.180～p.185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第7章第2節6・第3節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック19で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第２０回	労働保険制度①労働保険制度の概要と沿革、労働者災害補償保険 【key words】 労働保険、労働基準監督署、業務災害・通勤災害、労災認定 【授業概要】 労働者に対する保険制度である雇用保険・労働者災害補償保険について、概要と沿革を理解する。今回は、労働者災害補償保険の対象。保険給付の内容及び給付の前提となる労災認定について、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.188～p.200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第8章第1節・第2節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック20で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第２１回	労働保険制度②雇用保険、求職者支援、労働保険制度をめぐる最近の動向 【key words】 雇用保険、求職者給付、2事業、雇用保険保険料率、ハローワーク 【授業概要】 労働保険のうち、今回は雇用保険について、理解する。失業等給付の具体的な給付内容について、理解し、また雇用保険2事業について、その内容を理解する。雇用保険の財源構成についても理解する。さらに、最近の労働環境と労働保険の関係についても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.201～p.213 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第8章第3～5節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック21で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第２２回	社会福祉制度①沿革と概要、生活保護制度 【key words】 措置から契約、社会福祉法、社会福祉事業、社会福祉財政、生活保護制度 【授業概要】 社会福祉制度が整備されてきた経緯を学習し、社会福祉制度の現状を理解する。具体的に、社会福祉法の規定内容及び生活保護法の内容について、特に生活保護の基本原理・種類・保護施設について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.215～p.230 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第9章第1節・第2節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック22で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第２３回	社会福祉制度②児童福祉、障害者福祉 【key words】 児童福祉法、児童福祉施設、障害者基本法、障害者総合支援法 【授業概要】 児童及び障害者を対象とした福祉施策について、児童福祉法及び障害者基本法・障害者総合支援法をはじめとした障害者福祉関連法にもとづき、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.231～p.240 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第9章第3節・第4節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック23で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第２４回	社会福祉制度③母子・父子福祉、高齢者福祉、社会手当制度 【key words】 母子・父子家庭、寡婦、老人福祉法、高齢者虐待防止法、児童手当、児童扶養手当 【授業概要】 ひとり親家庭を支援するための福祉施策を理解する。また、介護保険を補完するための高齢者福祉施策として、老人福祉法及び高齢者虐待防止法を知る。税を財源とする金銭給付である社会手当制度について、具体的な施策を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.241～p.252 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第9章第5節～第7節を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック24で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】

予習60分、復習120分

第２５回　民間保険制度①民間保険と社会保険、民間保険の概要

【key words】
民間保険、生命保険、損害保険、第三分野の保険
【授業概要】
公的保険による所得補償では不十分な場合、それを補完するものとして重要な役割を有している民間保険について、公的保険との相違を中心に理解する。民間保険の諸原則及び保険給付の対象範囲について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.253～p.263
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第10章第1節～第3節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック25で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２６回　民間保険制度②企業年金と個人年金

【key words】
企業年金、確定拠出年金、確定給付年金、個人年金
【授業概要】
公的年金を補完する役割を担っている企業年金と個人年金について、その概要と具体的なしくみについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.264～p.270
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第10章第4節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック26で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２７回　社会保障が当面する課題①少子化対策響

【key words】
子育て支援、育児休業、保育サービス、ワーク・ライフ・バランス
【授業概要】
少子高齢化の現状と将来予測及び その問題点について検討した後、現在のさまざまな少子化対策について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.271～p.284
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第11章第1・2節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック27で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２８回　社会保障が当面する課題②労働市場と社会保障

【key words】
終身雇用、非正規労働者、ワーキング・プア、男女雇用機会均等法、高齢者の継続雇用
【授業概要】
少子高齢化、人口減少期を迎えている日本における労働人口やその将来予測について検討し、それに関連する労働環境の整備について理解する。特に定年後の高齢労働者や子育てをしている女性労働者に係る具体的な労働環境整備に関する施策を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.285～p.294
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第11章第3節を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック28で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２９回　諸外国における社会保障制度

【key words】
スウェーデンの社会保障、ドイツの社会保障、フランスの社会保障、イギリスの社会保障、アメリカの社会保障、中国の社会保障、韓国の社会保障、社会保障協定
【授業概要】
人口の高齢化を迎えている欧米や東アジア諸国の社会保障制度について、2つの類型に分けて、検討した上で、具体的に7カ国の社会保障制度についても日本と比較しながら理解する。社会保障に関わる諸協定について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.295～p.322
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第12章を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック29で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第３０回　総括的まとめ

【key words】
年金保険、医療保険、介護保険、労働保険、社会福祉制度
【授業概要】
　これまで学習してきた「年金保険」「医療保険」「介護保険」「労働保険」及び「社会福祉制度」について、その概要を復習するため、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説によって、理解を深める。

	【教科書ページ・参考文献】 p.1～p.322 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉配布プリントを通読しておく。 〈復習〉授業で取り上げた、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
受講生に関わる情報および受講のルール	・自己責任(無断欠席・遅刻等しない）を持って受講すること。 ・自分自身で社会保障分野の内容が理解できるように努めること。 ・社会福祉分野の国家試験と深い関わりがある科目のため、予習・復習をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ミニテスト及び質問・コメントカード
授業外時間にかかわる情報	配布資料、新聞や社会保障に関連する参考書等を自主的に勉強すること。
オフィスアワー	木曜日16時から16時30分
評価方法	期末試験（80%），ミニテスト・中間テスト・受講状況（20%）
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障（第６版）』中央法規出版（株）
参考書	社会福祉小六法・社会福祉用語辞典（最新版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理統計学(心理学統計法)　　授業コード：3081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
河内 和直			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義は，心理学データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的とする． 【到達目標】 単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく，人の精神活動や行動に関する情報を統計学的根拠に則して読みとくことができる．
授業の概要	授業は講義形式での説明のほか，模擬データを配布して実際に統計処理を行い，その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める．

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション　心理学研究の基礎としての統計学 第２回　統計学の初歩Ⅰ　「統計をとる」ことの意義 第３回　統計学の初歩Ⅱ　変数と尺度，シグマ(Σ)記号の意味 第４回　度数分布Ⅰ　質的変数の度数分布 第５回　度数分布Ⅱ　量的変数の度数分布 第６回　基本統計量Ⅰ　代表値(平均値，中央値，最頻値) 第７回　基本統計量Ⅱ　散布度(分散，標準偏差) 第８回　基本統計量Ⅲ　分布型(歪度，尖度，正規性) 第９回　基本統計量Ⅳ　標準正規分布の使い方 第１０回　相関と回帰Ⅰ　散布図，相関関係の理解 第１１回　相関と回帰Ⅱ　ピアソンの積率相関係数

	第１２回　　相関と回帰Ⅲ　相関行列，多変数間の相関分析 第１３回　　相関と回帰Ⅳ　回帰分析 第１４回　　相関と回帰Ｖ　回帰分析の応用(重回帰分析) 第１５回　　前期の総括 第１６回　　統計的検定Ⅰ　母集団と標本 第１７回　　統計的検定Ⅱ　統計的検定の考え方 第１８回　　カイ2乗検定Ⅰ　ピアソンの適合度の検定 第１９回　　カイ2乗検定Ⅱ　ピアソンの独立性の検定 第２０回　　t検定Ⅰ　対応のある標本の平均値の差の検定 第２１回　　t検定Ⅱ　独立2標本の平均値の差の検定 第２２回　　t検定Ⅲ　ウェルチの方法による平均値の差の検定 第２３回　　分散分析Ⅰ　分散分析の考え方 第２４回　　分散分析Ⅱ　一元配置の分散分析 第２５回　　分散分析Ⅲ　多重比較検定 第２６回　　その他の検定　中央値の検定　ほか 第２７回　　統計的検定をめぐる諸問題　その限界と適用上の留意点 第２８回　　多変量解析の概説Ⅰ　因子分析 第２９回　　多変量解析の概説Ⅱ　クラスター分析 第３０回　　後期の総括
受講生に関わる情報および受講のルール	数学的素養はほとんど必要ありませんが，数値情報を読解するための根気と思考力を要します．十分な学習意欲・態度をもって臨んでください．また，受講に際しては必ず恒常的に出席してください．なお，欠席した場合は別途，授業外課題に取り組んで頂きます．
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（質問等は授業ごとに随時対応。紙面にて対応する場合あり。）
授業外時間にかかわる情報	統計概念の復習に重点をおき，わからない点は何度でも質問し，理解を深めること．
オフィスアワー	授業後に教室内で次の授業に支障の出ない時間で対応．
評価方法	前期・後期の筆記試験の結果（８０％）と平常点（２０％）（宿題，演習課題）で総合評価を行います．演習課題は全て提出することが原則です．
教科書	松田文子・三宅幹子・橋本優花里(著)「わかって楽しい心理統計法入門 Ver.2」北大路書房，2012年．
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

	情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 老人心理学　　授業コード：3091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
齊藤　和良			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 老化が及ぼす様々な心理的影響について理解し、高齢者の心理に関する基礎的知識を習得するとともに，高齢者の抱える心理的諸問題についての理解を深めていくことを目的とする。同時に，高齢者への心理的支援についての知識や対応の仕方についての習得を目指す。 〔到達目標〕 ① 高齢者の心理的特徴について説明できる。 ② 高齢者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 ③ 高齢者の生活状況について、身体・心理・社会的側面から説明できる。 ④ 認知症の症状理解に基づき、適切な支援方法を考案することができる。
授業の概要	本講義では、高齢者の基本的理解として老化が及ぼす心理的影響（感覚・知覚の老化、認知機能の老化など）や高齢者を取り囲む環境の変化に触れ、高齢者の抱える心理的な諸問題を取り上げ、その支援のあり方について考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　－ 高齢者心理学（老人心理学）とは 【key words】 老人（高齢者）　超高齢社会　老化　老化の特徴 【授業概要】 高齢者の定義、超高齢社会、高齢者心理学の目的と対象、老化と加齢の違い、老化の定義（アーキング: 蓄積性、進行性、内因性、有害性）老化の特徴、生理機能の低下、ストレス耐性の低下、老化に伴う増大（疾病羅漢率の増大、死亡率の増大） 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.12-p.21 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【アクティブラーニングについて】 ケースメソッド（ある実際の事例を取り上げ、その問題の解決方法についてグループディスカッションの形で検討する。事例については４回を予定。）
	第２回	老化の特徴と老化現象 【key words】 老化現象　ライフサイクル　発達課題 【授業概要】 ライフサイクルと老年期の課題、高齢者の生活機能の偏差値モデル（シュロック）、老化現象、生理機能の老化、脳神経系機能の加齢変化、脳神経機能とは、加齢に伴う脳神経系機能の変化、脳神経系機能の加齢変　化がもたらす影響 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.2-p.5、p.22-p.31 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第３回	高齢者の日常生活動作（ADL）、感覚・知覚 【key words】 ADL　手段的日常生活動作（IADL）　感覚　知覚　注意 【授業概要】 高齢者の日常生活能力（ADL、IADL）、高齢者の理解と対応（ペックによる中高年期の発達課題と心理的危機）、高齢者の感覚・知覚（加齢に伴う感覚の変化、感覚の加齢変化がもたらす影響）、知覚の加齢変　化、知覚と注意 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.8-p.11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第４回	高齢者の認知機能 ①　－ 注意 【key words】 選択性注意　分配性注意　ストループ課題 【授業概要】 注意の種類（持続性注意、選択性注意、転換性注意、分配性注意）、意図的過程（注意の切り替え、切り替えコスト）、非意図的過程（ストループ課題、注意の捕捉、注意の解放）、日常場面の注意（中心視と周辺　視、加齢効果、自動車運転） 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.52-p.61 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。
	第５回	高齢者の認知機能 ②　－ 知能 【key words】 知能の定義　知能検査　結晶性知能　流動性知能 【授業概要】 知能の定義と知能検査、高齢者の知能（結晶性知能、流動性知能）高齢期の知能（加齢と知能の関連、発達曲線）、高齢期の知能研究法（横断法、縦断法、系列法）、シャイエの知能発達曲線、高齢者の知能に影響　する諸要因（健康状態、性差、教育的背景） 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.80-p.89 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第６回	高齢期の認知機能 ③　－ 記憶 【key words】 記憶のモデル　感覚記憶　短期記憶　長期記憶　エビングハウスの忘却曲線 【授業概要】 高齢者の記憶、エビングハウスの忘却曲線　記憶のメカニズムとシステム（感覚記憶、短期記憶、長期記　憶）　記憶の種類（顕在記憶　潜在記憶　意味記憶　エピソード記憶） 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.62-p.78 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第７回	高齢者のパーソナリティ 【key words】 パーソナリティ（人格）　性格　パーソナリティ類型　適応機制　老年期における三つの喪失 【授業概要】 パーソナリティ（人格）とは、エリクソンの心理社会的発達段階、高齢者のパーソナリティと適応、ライ　チャードのパーソナリティの類型（円熟型、安楽椅子型、自己防衛型、他罰型、自罰型）、高齢期の適応、　適応機制（防衛機制。逃避規制、攻撃規制）、老年期における三つの喪失（健康、経済、役割） 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.100-p.107 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第８回	高齢者の感情と欲求 【key words】 感情　欲求　マズローの欲求階層説 【授業概要】 老年期の三つの喪失（経済的喪失、健康の喪失、役割の喪失）と適応、高齢者の感情、感情の加齢的変化、 欲求の加齢変化、マズローの欲求階層 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.108-p.117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第９回	高齢期の適応と精神障害 【key words】 死への適応　キューブラー・ロス　死の受容へのプロセス（五段階説）　障害の受容　精神障害の分類 【授業概要】 死への適応、キューブラー・ロスの「死ぬ瞬間」、死の受容へのプロセス（五段階説）、障害の受容、障害の受容過程、高齢期における精神障害、精神障害の分類（外因性精神障害、内因性精神障害、心因性精神障　害、神経症）、精神障害の三大症状、器質性疾患と機能性疾患、老年期精神障害の特徴

	【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.158-p.167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第１０回　高齢期のライフイベント 【key words】 ライフイベント　配偶者との死別 悲嘆のプロセス グリーフケア 生きがい 【授業概要】 配偶者との死別、複雑性悲嘆の診断基準、正常でない悲嘆反応の危険因子、死別後の悲嘆、通常の悲嘆と正常でない悲嘆、悲嘆のプロセス、グリーフケア、高齢期における役割の変化、生きがい、高齢者の日常生活　と就労 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.130-p.139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第１１回　高齢期の認知症 【key words】 認知症　中核症状　周辺症状 アルツハイマー病　　脳血管障害 【授業概要】 老年期うつ病、老化による物忘れと認知症、変性疾患に伴う認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症、血管性認知症）、認知症の中核症状と周辺症状 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第１２回　高齢期の病気と健康増進 【key words】 老年症候群 廃用症候群 ヘルスプロモーション 【授業概要】 健常老化と病的老化、老年症候群と廃用症候群、高齢者を取り巻く環境上の問題、高齢者の健康・病気・疾病率、身体機能の障害と高齢者のADL、高齢者の健康改善の向上、ヘルスプロモーション、健康的な行動実　施の支援 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第１３回　高齢者への心理的支援 ① 【key words】 施設入所老人への対応 動機づけ療法　施設職員の心理的負担 【授業概要】 高齢者への対応、社会的対応、施設入所老人への対応、現実見当識プログラム、再動機づけ療法、施設で暮らす高齢者、施設で暮らす高齢者への心理的援助、施設職員の心理的負担と援助、事故と高齢者 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書　p.172-p.173　p.184-p.185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第１４回　高齢者への心理的支援 ② 【key words】 ソーシャルネットワーク　コンボイモデル　地域包括ケアシステム 【授業概要】 ソーシャルネットワーク、高齢期の対人関係、コンボイモデル、ソーシャルサポートの緩衝効果と直接効　果、ストレスの概念、高齢者福祉関連の法律と制度、老人福祉法、介護保険法、高齢者虐待防止法、地域包　括ケアシステム 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書　p.140-p.141 p.152-p.153 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第１５回　老人心理学（高齢者心理学）のまとめ 【key words】 老人心理学　知能の二面性　記憶の種類　認知症 【授業概要】 高齢者心理の基礎、生理的老化の学説、高齢者の感覚と知覚（視覚、聴覚）、高齢者の知能、知能の二面性（結晶性と流動性）、高齢者の記憶、パーソナリティと適応、高齢者の喪失感、死への適応、老年期の精神　障害、認知症 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。老人心理学（高齢者心理学）の復習。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・事後学習として、教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。 〔受講のルール〕 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（70%）と課題への積極的な取り組み（30%）により総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	佐藤眞一・権藤恭之編著　（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）　よくわかる高齢者心理学　ミネルヴァ書房　2016年
参考書	適宜、授業時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 障害児（者）心理学　　授業コード：3101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
齊藤　和良			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 本講義では、障害児（者）の基本的理解として、障害が及ぼす心理的影響（感覚・知覚、認知、自己概念、行動など）を学び、重要な心理的な諸問題を取り上げ、その支援の在り方について理解を深める。 〔到達目標〕 ①身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。 ②障害が及ぼす心理的影響について理解できる。 ③障害者（児）の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
授業の概要	障害児（者）心理学では、まず身体障害、知的障害及び発達障害などの様々な障害の特性（心理や行動）を学び、各障害児（者）に対する心理社会的な支援のあり方について理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　－　障害とは何か、障害の捉え方 【key words】 障害の概念　国際障害分類　国際生活機能分類（ICF）　障害者差別解消法　合理的配慮 【授業概要】 科目のオリエンテーションとして、障害とは何か、世界保健機関（WHO）の国際障害分類及び国際生活機能分類に基づく障害の捉え方の説明。 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.251 - p.255 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の「1 特殊教育から特別支援教育へ　p.11 - p.27」の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【アクティブラーニングについて】 ケースメソッド（ある実際の事例を取り上げ、その問題の解決方法についてグループディスカッションの形で検討する。事例は４例を予定。）
	第２回	特殊教育から特別支援教育へ 【key words】 ノーマライゼーション　インテグレーション　インクルージョン特別支援教育の内容 【授業概要】 法改正までの経緯　特別支援教育への転換　特別支援教育の内容 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.11 - p.27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の予習　（教科書 p.28 - p.43）。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
	第３回	乳幼児期における障害とその支援 【key words】 発達　障害の早期発見・早期療育　母子保健法

【授業概要】
母子保健と乳幼児の育ち障害がわかる時期とその特徴　発達支援　保育所等における支援活動　修学移行支援
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.28 - p.43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の授業の「視覚障害について教科書 p.44 - p.72」の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第４回　視覚障害児・者の理解と心理的援助
【key words】
視覚障害の定義　失明原因　盲と弱視　ロービジョン（low vision）
【授業概要】
視覚障害の概要と分類　医学的弱視と教育社会的弱視　視覚障害児の心理的特性　視覚障害のある人への支援
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.44 - p.72
【課題・予習・復習・授業準備指示】
視覚障害の復習と次回の聴覚障害（教科書 p.73 - p.94）の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第５回　聴覚障害児・者の理解と心理的援助
【key words】
伝音性難聴　感音性難聴　デシベル(dB)　９歳の壁
【授業概要】
聴覚障害の概要と分類　伝音性難聴　感音性難聴　聴覚障害児の心理的特性　９歳の壁　聴覚障害のある人への支援
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.73 - p.94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
聴覚障害についての復習　知的障害について（教科書 p.95 - p.106）の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第６回　知的障害児・者の理解
【key words】
知的障害の定義、知的障害の病因、ダウン症候群　知能　知能指数
【授業概要】
用語の変遷（精神薄弱、精神遅滞、知的障害）　知的障害の定義と分類　知的障害の病因（病理的、生理　的、心理的　知的障害の疫学　知能の定義　知能指数
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.95 - p.106
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害の復習と次回の知的障害児への心理的援助（教科書 p.107 - p.121）についての予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第７回　知的障害児・者への心理的援助
【key words】
知的発達　知的障害の知覚　知能特性　行動特性
【授業概要】
知的障害児の知能の発達と知能特性　行動特徴　知的障害のある人に必要な援助の全体像　臨床心理の専門家に求められる援助　心理アセスメント
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.107 - p.121
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害についての復習(p.106-p.121)。肢体不自由に関する予習(p.122-p.136)。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第８回　肢体不自由児・者の理解
【key words】
運動障害　脳性麻痺（CP）　脳損傷と非脳損傷　幻肢（痛）
【授業概要】
肢体不自由の原因（脳損傷、非脳損傷）　脳性麻痺（CP）の定義と類型　幻肢（痛）
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料 教科書 p.122 - p.136
【課題・予習・復習・授業準備指示】
肢体不自由、特に脳性麻痺についての復習。心理的援助（教科書 p.137 - p.153）についての予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第９回　肢体不自由児・者への心理的援助
【key words】
認知の障害　図-地の知覚障害　身体像（body image）　重複障害
【授業概要】
肢体不自由児の運動発達やコミュニケーションの発達、学力の問題　重複障害や重症心身障害の定義
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.137 - p.153
【課題・予習・復習・授業準備指示】
肢体不自由の行動と重複障害についての復習。病弱（教科書 p.154 - p.168）についての予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

第１０回　病弱児・者の理解と心理的援助
【key words】
病気の推移　ホスピタリズム　病弱　身体虚弱
【授業概要】
病弱の定義　病弱教育対象児の病気の推移　病弱教育対象児の病気の概要と心理的援助　病気の自己管理への心理的援助　ターミナル期の支援　二次的な発達や性格の偏り
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料　教科書 p.154 - p.168
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	病弱・身体虚弱の定義と種類そして病弱児の心理的な側面の復習。情緒障害（教科書 p.169 - p.182）の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１１回　情緒障害児の理解と心理的援助 【key words】 情緒障害　不登校　選択性緘黙症　外傷性ストレス障害（PTSD） 【授業概要】 情緒障害の定義　主として心理的な要因による情緒障害の分類　代表的な情緒障害の概要　情緒障害児に対する主な心理的支援 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.169 - p.182 【課題・予習・復習・授業準備指示】 情緒障害、PTSDの復習。注意欠陥多動性障害（教科書 p.183-p.201）についての予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１２回　発達障害児・者の理解と心理的援助　①　ADHD（注意欠陥/多動性障害） 【key words】 発達障害　ADHD（注意欠陥/多動性障害）　発達障害者支援法 【授業概要】 発達障害者支援法　発達障害の定義　ADHD（注意欠陥/多動性障害）ADHDの本質と困難　ADHDの原因　ADHDの疫学　ADHDのアセスメント　ADHDのある人への援助　ADHDの薬物療法　ADHDのある人の家族への援助 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.183-p.201 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発達障害についての復習(p.183-p.186)。広汎性発達障害についての予習(p.202-p.217)。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１３回　発達障害児・者の理解と心理的援助　②　自閉症 【key words】 発達障害の定義　広汎性発達障害　自閉症　アスベルガー症候群　障害の三つ組 【授業概要】 広汎性発達障害（自閉症、アスベルガー症候群その他）の特徴　自閉症とは　自閉症やアスベルガー症候群がある人の特性　自閉症の原因と有病率　他の障害との関係　自閉症のアセスメント　自閉症のある人への　援助 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.202-p.217 【課題・予習・復習・授業準備指示】 広汎性発達障害（自閉症、アスベルガー症候群その他）の復習。学習障害（LD）の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１４回　発達障害児・者の理解と心理的援助　③　LD（学習障害） 【key words】 学習障害(LD)　読字障害　算数障害　デイスレクシア 【授業概要】 LD（学習障害）とは　LD（学習障害）の原因と有病率　他の障害との関係　LDのアセスメント 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.218-p.233 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習障害(LD) の復習　教科書 p.234-p.267の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 第１５回　家族支援と障害の受容　障害児（者）心理学のまとめ 【key words】 家族の支援　障害の受容　価値転換理論 【授業概要】 家族支援　障害の受容　障害者観の変遷　障害児（者）心理学の総括　期末試験の傾向と対策 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料　教科書 p.234-p.267 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児（者）心理学のまとめ　期末試験対策
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・障害者の問題に関するメディア（新聞やインターネットなど）の情報を日頃から注意し、常に問題意識を養うこと。 〔受講のルール〕 ・授業には、積極的に参加すること。 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験の結果（70%）と課題に対する積極的な取り組み（30%）でもって総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	古賀精治 ・田中新正 著)障害児・障害者心理学特論（放送大学大学院教材） 放送大学教育振興会; 新訂版（2013/3/1）
参考書	太田信夫監修　柿澤敏文編集　（シリーズ心理学と仕事15）　障害者心理学:　北大路書房(2017/7/21) 便宜、授業時に紹介する。
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 視覚障害者のための福祉施設（日本盲人職能開発センター）にて点字やオプタコン訓練等のコミュニケーション指導員として約５年間の勤務経験あり。その時の臨床経験を活かし、障害児(者)理解に対する必要な知識や心理的支援について講ずる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　心理学実験実習Ⅰ(心理学実験)　　授業コード：3121

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	福祉心理コース・必修
担当教員			
大野　俊和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの基本用語が理解できるようになることを目的とする。 【到達目標】 実験計画や実験の手続きを理解できるようになる。 データの収集および適切な処理ができる。 独立変数・従属変数を操作・測定する統計的方法を学ぶ。 実験改善を発案する力を得る。 実験レポートを作成できるようになる。
授業の概要	通年の実験実習をとおして、研究の基本的なマナーを習得する。講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンスと課題実施 【key words】 【授業概要】 ガイダンスの後に、課題「第3の変数」を実施します。 アクティブラーニング　課題「第3の変数」についてグループ単位で話し合い、理解を深めます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	課題の解説と「錯視」実験準備 【key words】 【授業概要】 課題の回収および解説ののち、次週の実験実施のための錯視刺激の調整・準備をします。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	実験の実施と個人データの集計 【key words】 【授業概要】

		錯視実験を実施します。その後、個人単位でデータを集計します。 アクティブラーニング　実験の実施およびデータの集計を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	錯視実験のデータの分析 【key words】 【授業概要】 課題「錯視　全データを用いた分析」を実施します。 同時に、エクセルの関数の復習を行います。 アクティブラーニング　PCを用いたデータの集計および分析を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	課題の回収および講評、課題実施 【key words】 【授業概要】 最初に課題の提出と講評、錯視の解説を行います。 その後、課題「グラフ作成」を行います。 アクティブラーニング　エクセルを用いて研究結果に適したグラフを選び作成します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	グラフ課題の実施および提出 【key words】 【授業概要】 講義時間内にグラフ課題を提出します。その後、グラフ作成の講評を行います。 アクティブラーニング　エクセルを用いて研究結果に適したグラフを作成します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	「ストループ効果」実験の実施 【key words】 【授業概要】 インストラクションののちにストループ効果の実験を行います。 また、理解を促す論文を指定します。 アクティブラーニング　実験者および実験協力者になり、データを取得する手順を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	「ストループ効果」実験の分析 【key words】 【授業概要】 ストループ効果のデータの受け渡しと実験の解説およびデータの分析を行います。 アクティブラーニング　PCを用いたデータの集計および分析を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	「ストループ効果」課題の分析 【key words】 【授業概要】 集計データに基づいて、課題を行います。 アクティブラーニング　PCを用いてデータの分析および課題を解きます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	「ストループ効果」課題の提出、課題の講評 【key words】 【授業概要】 前週に引き続き課題を行います。課題提出後、講評と授業内課題「癒し系音楽の効果の検討」を行います。

アクティブラーニング　PCを用いてデータの分析および課題を解きます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　「触2点閾」実験の実施
【key words】

【授業概要】
実験者と実験協力者とでペアとなり、測定具を用いて、実際に背中の触2点閾を測定します。
アクティブラーニング　交互に実験者、実験協力者となり、実際にデータを取得する手順を理解します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　「触2点閾」実験の解説およびデータの集計
【key words】

【授業概要】
実験の解説および個人データの整理・集計を行います。その後、データの送信を行います。
アクティブラーニング　PCを用いてデータの集計を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　「触2点閾」実験　データの分析
【key words】

【授業概要】
課題のため、全データをダウンロードし、触2点閾についての分析を行います。
代表値の算出を主とします。
アクティブラーニング　PCを用いてデータの分析を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　「触2点閾」実験　データの分析　課題提出
【key words】

【授業概要】
課題提出後、配布したデータを用いて他に興味深い結果があるかを自主的に分析し、まとめます。
アクティブラーニング　PCを用いて主体的にデータを眺め、分析・報告します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　ユニバーサルデザイン
【key words】

【授業概要】
いくつかの失敗例を紹介しながら、ユニバーサルデザインについて考え、改善策を考えていきます。
アクティブラーニング　グループ単位で意見を出し合った後に、各自で改善案を作成・提出します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　「囚人のジレンマ」の実施
【key words】

【授業概要】
繰り返しのある囚人のジレンマのデモンストレーションを行います。その後、各自で得点を算出します。
アクティブラーニング　デモンストレーションに参加するとともによい方略を作成します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　「囚人のジレンマ」解説
【key words】

【授業概要】

		デモンストレーションの解説および囚人のジレンマ研究の背景について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１８回	「囚人のジレンマ」 【key words】 【授業概要】 囚人のジレンマから社会的ジレンマの研究を解説します。 アクティブラーニング　社会的ジレンマの定義に即した具体例についてグループ討議していきます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１９回	「囚人のジレンマ」 【key words】 【授業概要】 ジレンマ研究から利他行動、2次のジレンマ問題について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２０回	「記憶実験」実験の実施 【key words】 【授業概要】 無意味つづりを用いて記憶の実験を行います。その後データを集計します。 アクティブラーニング　実験協力者として実験に参加するとともに、収集したデータの集計を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２１回	「記憶実験」実験の解説と課題提示 【key words】 【授業概要】 記憶に関する解説と課題の指示、データの分析を行います。 アクティブラーニング　全データを用いて記憶のパターンについてPCを用いて分析します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２２回	「記憶実験」の課題遂行 【key words】 【授業概要】 前週に続いてデータの分析およびレポートの作成を行います。 アクティブラーニング　全データを用いて記憶のパターンについてPCを用いて分析します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２３回	「記憶実験」の課題 【key words】 【授業概要】 レポートの作成に関する補足的説明と、記憶のスキーマについてのデモンストレーションを行います。 アクティブラーニング　データ分析とともに、記憶のデモンストレーションに参加します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２４回	「漢字とかなの処理」　実験刺激の作成 【key words】 【授業概要】 「漢字とかなの処理」の実験に先立ち、実験で使用する刺激の作成を行います。 アクティブラーニング　インターネットを用いてグループ単位で刺激（2字熟語）の作成を行います。

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２５回　「漢字とかなの処理」実験実施と解説、課題提示 【key words】 【授業概要】 文字種の違いが認知処理に及ぼす差異についての実験と解説を行います。 各自で取得したデータを送信したのち、課題を提示します。 アクティブラーニング　実験者と実験協力者がペアとなり、実験を実施し、データをそれぞれ所得します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２６回　「漢字とかなの処理」の課題遂行 【key words】 【授業概要】 課題に基づいた分析及びレポートの作成を行います。 アクティブラーニング　エクセルを用いてデータの集計および分析を行ったのち、レポートを作成します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　「アクションスリップ」実験の実施および解説 【key words】 【授業概要】 「アクションスリップ」実験および解説を行います。 アクティブラーニング　実験者と実験協力者がペアとなり、スマートフォンを用いてデータの測定、データの送信を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　「アクションスリップ」課題の実施 【key words】 【授業概要】 「アクションスリップ」課題を解いていきます。 アクティブラーニング　PCを用いて、実験結果を分析し課題を解きます。また、アクションスリップの日常例について検討します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　「仕掛けの考案」仕掛けの紹介および仕掛けの考案 【key words】 【授業概要】 仕掛け学における仕掛けについて紹介します。その後、具体的な社会問題を提示し、それを解く仕掛けを考案します。 アクティブラーニング　グループによる検討および次週の発表準備 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　「仕掛けの考案」発表および講評 【key words】 【授業概要】 各グループ単位での仕掛けを発表します。 アクティブラーニング　パワーポイントを用いたグループによる発表を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 事前にUSBメモリを用意することが望ましい。LL教室を多用する。 〔受講ののルール〕

	各回メールでのコメント提出が義務付けられている。レポートは授業時間内に提出する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。また、課題の作成は、時間外学習時に行う必要がある。
オフィスアワー	金曜日3時限目（206研究室）
評価方法	レポート課題(50%)、授業内小課題（35%）、授業内でのコメント（15%）
教科書	なし。授業中にプリントを配布する。
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 青年心理学　　授業コード：3191

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 単に青年心理学に関連する知識を吸収するのではなく、まさに今青年期を生きる者として、学んだ用語や事柄を手がかりに自己洞察を深め、同時に他者への共感と理解を深めていく視点を得ることを目的とする。 【到達目標】 ①子どもとおとなの間にある、そのどちらでもない数年間のあり方が、いかにその他の人生の時期とつながっているのかを理解する。 ②青年期に何が彼らの課題となり、それはどのような意味・意義をもつのかについて、アイデンティティ概念を手掛かりに深く捉えられる。 ③青年期に意識されてくる心理的なテーマについて、「問い」の形で整理しながら、それらがもつ人生上の意味を理解し説明できる。
授業の概要	教科書に沿って、一回につき１章分のテーマをとりあげ、青年心理学の基礎用語や知識を解説する。毎回の授業で、テーマに沿った「問い」の場面を想定し、思考実験や互いの考えを出し合い共有するような課題を設定する。また、事例の考察などを通してテーマに関する青年心理の理解を深める努力をしていく。 以上のように、毎回の授業において、自分自身の中にある青年心理について省察をしながら授業を展開する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：授業の目的・進め方等について、大学生が考える「青年らしさ」 【key words】 ・周辺人、疾風怒涛、第二の誕生、サモアの青春 【授業概要】 ・科目のオリエンテーションを行います。 ・一般的に青年が背負う課題や問題を理解するにとどまらず、受講生自身の自己理解を広げかつ深め、進路探索にもつながる体験を得られることを目指します。 ・今回は「青年らしさ」に焦点を当てながら、青年期という発達段階の特質について皆さんと検討をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書2-8ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・グループに分かれて、「青年らしさ」について話し合う予定なので、それぞれが考える「青年らしさ」を言葉にできる準備をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間
	第２回	アイデンティティ 【key words】

・自我親和感（エゴシントニック）、自我異和感（エゴディストニック）、自我体験、役割実験、モラトリアム

【授業概要】
・青年期の発達課題の柱とみなされる「アイデンティティ」について、その概念の基礎について学んでいきます。
・学習を進める上で、「自我体験」という現象に注目しながら、具体的な個人に展開されて現れるアイデンティティの諸相を見ながらアイデンティティ概念の理解を深めていきます。
・さらに、受講生自身のアイデンティティとそのルーツについて考察を加えていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書9-22ページ　・吉野　弘「I was born」
・吉野源三郎『君たちはどう生きるか』　（プリント配布予定）
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・ワークシートを用いてアイデンティティについて検討し、グループ間で意見交流を行うので、自分自身について授業後もよく振り返りをしておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第３回　身体の発達：からだとこころ
【key words】

・第二次性徴、発達加速現象、早熟、晩熟、ボディ・イメージ、性役割葛藤、ジェンダー・アイデンティティ

【授業概要】
・男として、もしくは女として生まれてくることの意味を強く実感していくのが青年期であり、青年期に人は「性をもつ存在」としての自己と出会っていきます。
・それは同時に異性の発見ももたらしながら、恋愛や自分の身体への認識を形成することで、人をより個性的にしていくことになります。今回は、こうした身体の発達に伴う青年らしい心理について検討します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書27-37ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・身体醜形障害について調べておくこと。身体醜形障害の事例を通して、身体への理解が及ぼす意識の変化について話し合う予定です。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第４回　青年の自立：家族との関係
【key words】
・ブロス、マーラー、第二の分離―固体化過程、心理的離乳の三段階

【授業概要】
・青年期の大きな課題である「自立」について、親子関係を軸にして検討します。
・特に、自立が親子関係、なかでも親自身の青年期の越え方が子への向き合い方を左右し、結果として青年の自立に影響を及ぼしていくという、ライフサイクルの絡み合いについても見ていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書40-53ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・高村光太郎、新島襄の生涯について概要をあらかじめ調べておくこと
・「シャイン」などの映画のシナリオを通して、青年の自立と親子関係について意見を交換します。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　友人関係の発達：友人関係の昨日、チャムシップ
【key words】
・ヤマアラシのジレンマ、親密圏、公共圏、友人の機能、チャムシップ、サリバン

【授業概要】
・同年代の仲間との間における相互に指示的な「かかわり」や「つながり」である友人関係が青年期にもつ意味、意義について考えていきます。
・特に、友人関係の発達段階やそれぞれの青年にとっての「友人」の質がどのように決まっていくかについて理解を深めていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書54-67ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・あらかじめ、「友情」を描いた小説やマンガ、映画などを探し、どこに青年らしい友情が描かれているかを説明できるようにしておくこと。それぞれが調べてきたものを通して意見交換をする予定。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第６回　恋愛・結婚
【key words】
・ジェンダー・アイデンティティ、母子分離、ルービン、ＳＶＲ理論、アンドロギュヌス

【授業概要】
・思春期以降、異性間で強く働く「恋愛」感情を中心に、漠然とした未来の「結婚」への意識も含めた変化について検討していきます。

【教科書ページ・参考文献】

教科書68-80ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・恋愛名言集を調べ、自分の恋愛観をピッタリと表す言葉を抜き出しておくこと。
・悩み相談の事例をもとに、青年期の恋愛についてどのように捉えるべきかについてグループ討議をする予定
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第７回　道徳性の発達
【key words】
・フロイト、スキナー、バンデューラ、ピアジェ、コールバーグ、ハインツのジレンマ課題

【授業概要】
・思念期に特に鋭敏化しやすい正義に関する判断や道徳性について学んでいきます。
・また、それぞれの青年が生きている文化特有の倫理・道徳観が、発達の過程で青年たちに無批判に取り込まれるメカニズムを理解します。】
【教科書ページ・参考文献】
教科書96-108ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・コールバーグの道徳性理論について予習をしておくこと。ジレンマ課題を提示しながら道徳的な判断をし、その理由について話し合う予定。生命倫理の観点からのジレンマ課題について予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第８回　青年の死生観：「死ぬ」ことをどう受けとめる？
【key words】
・クインラン事件、クルーザン事件、カステンバウム、死生学、希死念慮、自殺念慮、死と再生

【授業概要】
・青年期は自己が大きく変容する時期であるため、象徴的な次元で“子どもである自分”の終わりを体験する感覚を味わうことが増えることを理解していきます。中には、象徴的な次元にとどまらず、実際的な「死」に接近したり、自殺未遂や自殺をしてしまう者も出る現実を学びます。
・ユング理論の核ともなる、「死と再生」という概念を手掛かりに、青年期における死への接近の意味について考えていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書136-147ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・安楽死と尊厳死について予習をしておくこと。生命倫理を考える実際の事例をもとに、青年期に死に接近することについて話し合いをします。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第９回　青年と時代
【key words】
・大学史、大学数の推移、帝国大学、新制大学、大学大衆化、消費社会、シラケ、モラトリアム人間、バブル、記号消費論、ロスト・ジェネレーション

【授業概要】
・教科書の内容から少し離れ、レポート課題に向けた準備となるような内容を2回続けていきます。
・今回は、特に青年期の中でも「大学生」に焦点をあてて、様々な時代の中の大学生像を学んでいきます。この学びを通して、それぞれの時代に、青年たちが何を求め、どのような思いで大学という場に集ったのかを考えていきます。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・大学のおおまかな発展の流れについて、それぞれ調べておくこと。それぞれの大学選択のプロセスを相互にインタビューしながら振り返り、グループ間で話し合いをします。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１０回　現代大学生論
【key words】
・インサイド・アウト、アウトサイド・イン、古典的モラトリアム、ビルドゥングスなきビルドゥングス

【授業概要】
・前回確認をした、学生の個人化やまじめ化、生徒化の流れをふまえた上で、受講生と同じ時代に生きる大学生の心理に関する研究を通して、「現代における大学と大学生の心理」について考えていきます。同年代の別の大学の学生たちがどのような思いで大学生活を送り、何に取り組み何を感じ、何を考えたかについて知ることで、受講者自身が、「大学生である自己」を見るときの見方を深めていくことを目指します。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・「自分という大学生の特徴」について言葉にできるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１１回　青年が向き合う心の仕事①：自分とつながること
【key words】
・アイデンティティ拡散、フツーの子、青年の問題行動、悩む力

【授業概要】
・青年期後期になると、大人への入り口が見えてきます。そこで、様々な人生の十字路に立つ中で、それぞれの青年がもつ課題も浮かび上がってくるということをまず理解していきます。この時点で、過去に解決すべきであった未解決の課題が浮かび上がったり、治療や回復を要する課題

	があるために前に進めず停滞をし、その問題と改めて向き合う青年たちの存在を理解していきます。そして、特に「自分とつながる」課題に焦点を当て、青年の支援の基本的な視点について解説をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料をあらかじめ熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
第１２回	青年が向き合う心の仕事②：青年期のつまづき（非行・問題行動）と心の成長 【key words】 ・児童相談所、一時保護所、非行、少年院 【授業概要】 ・資料を通しながら、「荒れる心・欠ける心」の奥にある自立を妨げる問題を理解していきます。 ・特にその心がもたらす結果としての非行・問題行動に焦点を当て、青年の引き起こす反社会的な行動の奥にある、発達的な意味、成長への願いについて検討をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・少年院についてあらかじめ調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
第１３回	ロストジェネレーションから青年期を考える：働くことと青年 【key words】 ・ロスト・ジェネレーション、メアリー・ブリントン、ワーキング・プア、ウィーク・タイズ、ストロング・タイズ、ＮＥＥＴ、早期離職、ポストモラトリアム 【授業概要】 ・「働くこと」は「愛すること」とともに、成熟した大人がクリアすべき課題だといえます。それは、直接的にアイデンティティの課題に答えを出すことにも関わってくる大事な問題として、青年にも捉えられ、青年が自己と向き合う契機になることを理解していきます。ただし、働くということは、社会の状況と密接に関連したことであり、能力とは別に世代全体を巻き込むような大きな影響を与えるということも解説をしていきます。これらのことを「ロスト・ジェネレーション」という言葉を手掛かりに学びながら、それぞれの進路探求を振り返ります。 【教科書ページ・参考文献】 教科書165-172ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・それぞれの進路意識についてワークシートを作成しておくこと。一通りの学習ののち、自らの職業選択について振り返り、グループ内で意見交換をしていきます。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
第１４回	物語を通して見る青年の人格の変容：教養小説、自己の相対化、自我体験 【key words】 ・教養小説、ＴＥＭ、ゲーテ、トーマス・マン、夏目漱石、三田誠広、ソラニン 【授業概要】 ・様々な体験や出会いを通して主人公が自分自身を作り上げる過程を描いた物語は、教養小説と呼ばれますが、それらが青年期の自己形成の物語をピークとする内容であることをまず理解します。その後、そうした代表的な教養小説をとりあげながら、主人公である青年の自己の広がりや変容について考え、受講生の青年期のあり方と比較をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教材として上げる作品のあらすじについて調べておくこと。課題としてワークシートを埋める課題を課す予定 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
第１５回	青年と危機　そして、その向こう側へ：患者性（エリクソン）、歴史的アイデンティティ、青年と夢 【key words】 ・患者性、歴史的アイデンティティ、夢、 【授業概要】 ・授業のまとめとして、映画を題材にしながら、これまで学んだことを振り返りながら、インタビュー課題に役立つような視点を探っていきます。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・映画「遠い空の向こうに」をあらかじめ視聴しておくこと。自分のインタビュー相手を想定して、質問を具体的に考え、実際にグループ内で役割交換しながら実践をしてみます。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・特に資格に関わる科目ではないが、青年期をリアルタイムで生きる大学生には積極的に受講をしてもらいたい。 ・知識を覚えるというより、それを自己や他者の理解に「応用」し考える問いを多く発する授業を行

	う。したがって、そうした問いに対して誠実に応え、考える姿勢を授業で求める。 　このような自己省察が耐えがたいと感じる学生は受講しないこと。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価にある通り、期末課題以外に、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	青年が主人公の物語、映画等を探索して3作品を目標に把握しておくこと。授業内でテーマに即して発表を求めることがある。授業後、テーマに関連した事件、出来事、物語、映画などを探し、授業理解を深めておくこと。
オフィスアワー	水曜日　9：00～11：30
評価方法	〈総合評価〉総合得点60～69点：C　70～79：B　80～89：A　90点以上：S　で評価。 〈評価割合〉期末レポート試験70%、小レポート・ポートレート等提出物 30%（30点÷提出回（予定3回）＝1提出物得点（1回10点）））
教科書	・宮下一博監修・松島公望・橋本広信編著『ようこそ！青年心理学』（ナカニシヤ出版、2009）
参考書	・藤森旭人『小説・漫画・映画・音楽から学ぶ児童・青年期のこころの理解―精神力動的な視点から』（ミネルヴァ書房、2016）他　適宜指示
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　■ディスカッション・ディベート 　■グループワーク 　□プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 　□情報モラルに関する教育 　□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） 　□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） 　□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） 　□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 　□ICTを活用した双方向型の授業の実施 　□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 　□その他 その他の具体的内容 　インタビューを実践し、聞き取りした内容をもとに最終レポートを作成する

講義科目名称： 公衆衛生学　　授業コード：3211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
石井　幸仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 公衆衛生学の概要を説明できると共に公衆衛生学を基礎に社会福祉専門職（又は医療専門職）としての各自の将来の進路にその学んだ知識・責任・自覚をどう活かしていくか述べることができる。 【到達目標】 将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できる。また、他者への伝達技法を学び取ることができる。　又、医療福祉コミュニケーション構築力・医療福祉危機管理能力を形成獲得できる。
授業の概要	社会福祉専門職（又は医療専門職）として必要な医学の根源をなす健康の学問である公衆衛生・衛生学の知識を理解・習得して、人々・患者・利用者・児童生徒・職員等の身体的・精神的健康と施設・機関の安全、及び福祉の向上に寄与する責任と自覚を形成できるよう進めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 衛生 Hygene 【授業概要】 公衆衛生学概論　公衆衛生学の目的・範囲等 【教科書ページ・参考文献】 第１章　第１３章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　保健統計 【key words】 統計の元となる調査 【授業概要】 公衆衛生学における人口問題　人口静態　生命表 【教科書ページ・参考文献】 第２章　＊患者調査票等配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　衛生行政 【key words】 行政 【授業概要】 機構　業務等及び地域保健　保健活動 【教科書ページ・参考文献】 第７章から１４章（一部）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　社会保障制度

【key words】
概念　医療保障　医療供給システム
【授業概要】
医療保障
公的医療保険制度
【教科書ページ・参考文献】
第１４章
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　環境衛生

【key words】
地球規模（グローバル）かつ我々の生活まで
【授業概要】
大気　住居　振動　衣服　飲料水　産業廃棄物　公害
【教科書ページ・参考文献】
第６章
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　国民栄養と食品衛生
〃

【key words】
食の安全・安心を求めて
【授業概要】
栄養学　食品衛生　食中毒
【教科書ページ・参考文献】
第５章
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　母子保健

【key words】
母子健康手帳
【授業概要】
意義　歴史的背景　出生率　現状　母性保護
【教科書ページ・参考文献】
第８章
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　成人保健・高齢者保健
〃

【key words】
ライフステージを追って
【授業概要】
成人病　高齢化社会　高齢者保健
【教科書ページ・参考文献】
第４章　５章の各部　１１章
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　学校保健

【key words】
教育
【授業概要】
目標　目的　内容　発育　保健管理　学校給食　衛生教育　学校体育　教科書・ノート（講義終了時に提出）
【教科書ページ・参考文献】
第９章
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　産業　衛生

【key words】
働き盛りだからこそ
【授業概要】
作業環境　労働時間と形態　職業病　産業災害
【教科書ページ・参考文献】
第１０章
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　(1) 疫学と感染症　(2) 優生学と精神衛生

【key words】
恐るべき感染症　社会の偏見
【授業概要】

	感染症　伝染病　遺伝　精神障害 【教科書ページ・参考文献】 第３章　５章　６章　１２章 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　医療福祉コミュニケーション 【key words】 相手は人間です 【授業概要】 医療福祉及び各専門職に役立つコミュニケーション 【教科書ページ・参考文献】 オリジナルプリント配布（２０頁） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　医療福祉危機管理 【key words】 クレーム処理 【授業概要】 医療福祉及び各専門職に不可欠な問題解決発想法 【教科書ページ・参考文献】 オリジナルプリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　口腔ケア 【key words】 誤嚥性肺炎 【授業概要】 口腔ケア　オーラルリハビリテーション　睡眠中の細菌 【教科書ページ・参考文献】 オリジナルプリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　総括　　まとめ 【key words】 総復習 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 オリジナルプリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書のみに依存する事なく、口述・板書した内容は、必ず教科書又は配布するオリジナルプリントやノートに必ず筆記していく事。 又、そのノートのとり方を学んでいく事。 講義の進め方を通じ、将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい人格を形成できるよう体得していく事。 教科書・オリジナルプリントは書き込みを行って初めて完成されたものとなる。15回の講義資料を必ず丁寧にまとめ上げ、体系化して、生涯に亘り学習に供すること。 〔受講のルール〕 初回の20分間に詳細な説明を実施する。必ずノートテイクを行っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（80%）、その他オリジナルプリントへの書き込み状況やノートの点検（20%）
教科書	『シンプル衛生公衆衛生学』最新版　南江堂　15－6・8・12・13・14・15に関してはオリジナルプリントを配布します。
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人間関係論（産業・組織心理学）　　授業コード：3231

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
漆畑　典子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 職場における問題や人間関係の問題、職場での支援方法についての心理学的知見を理解する。 【到達目標】 産業・組織心理学の基本的な知識・技法を理解・習得する。 自律型キャリア形成についてのプロセスを理解する。 労働法の基礎的知識を理解・習得する。
授業の概要	本講義では、職場における問題や人間関係の問題、職場での支援方法についての心理学的知見について解説する。 動機づけ（モチベーション）、リーダーシップ、人事評価、安全衛生管理とストレス、キャリア形成、組織論、広告、自律型キャリア形成といった概念について学び、グループワークを通して実践的に身につける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	授業ガイダンス　イントロダクション・産業・組織心理学とは何か 【key words】 人的資源管理，組織行動，安全衛生，消費者行動 【授業概要】 授業概要，シラバス（内容・評価法など），授業方式と注意点について理解する。 産業・組織心理学とは何かを概観する。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に配布する資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：シラバスを読み、授業概要を把握する。 復習：配布資料は復習に用い保存する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第２回	産業・組織心理学の歴史とテーマ 【key words】 科学的管理法，ホーソン研究，人間工学，人間関係論 【授業概要】 産業・組織心理学の歴史を概観し，産業・組織心理学を学ぶ意義について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p1～p13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書該当ページを読む。 復習：配布資料は復習に用い保存する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第３回	募集・採用と評価・処遇

【key words】
人事評価，職業適性検査，雇用ポートフォリオ，コンピテンシー，評価バイアス，教育訓練

【授業概要】
採用と評価の諸側面と問題点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p15～p30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第４回　キャリア発達と能力開発
【key words】
キャリア，キャリア発達，キャリアアンカー，キャリアカウンセリング
【授業概要】
キャリアの概念，キャリア理論の特徴について学習し，現時点での自身のライフプランを作成する。
【教科書ページ・参考文献】
p31～p41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第５回　人間関係管理と職場の人間関係　Ⅰ
【key words】
ソーシャルキャピタル，ソーシャルサポート，ハラスメント，傾聴
【授業概要】
職場の人間関係を良好に保つことの重要性と方法について学び，情緒的サポートとしての傾聴をグループワークを通して体験する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p42～p54
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第６回　人間関係管理と職場の人間関係　Ⅱ　・働くことの意味と働き方
【key words】
アサーション，アサーティブ，ノン・アサーティブ，アグレッシブ
【授業概要】
職場の人間関係を良好に保つ方法としてアサーションについて学び，ワークシート，ロールプレイを通して理解を深める。さらに，働くことの意味と働き方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p55～p65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。

【予習復習に必要な想定時間】
180分

第７回　組織行動の心理学的視点
【key words】
公式集団，非公式集団，集団凝集性，集団規範，社会的手抜き，集団浅慮，集団内コミュニケーション，組織文化
【授業概要】
集団・組織の特性や影響について学び，組織における人間行動に関する理解を深める。集団内コミュニケーションの方法としてグループワークを体験する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p67～p82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第８回　リーダーシップ
【key words】
リーダーシップ，マネジアル･グリッド，ＰＭ理論，コンティンジェンシー・アプローチ，変革型リーダーシップ，サーバント・リーダーシップ
【授業概要】
リーダーシップ理論の学びを通してリーダーシップについて理解し，グループワークを通して，どのようにリーダーシップが発揮されるかについて考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p83～p93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第９回　仕事へのモチベーション
【key words】

ワークモチベーション，内容理論，過程理論，目標設定理論，期待理論，内発的モチベーション
【授業概要】
ワークモチベーションとは何かを理解し，ワークモチベーションに関する理論を概観する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p94～p108
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１０回　組織開発
【key words】
ダイバーシティ，セクシャルハラスメント，ワールドカフェ
【授業概要】
組織開発について理解し，組織開発の手法であるワールドカフェのグループワークを体験する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p109～p122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１１回　仕事の安全
【key words】
作業研究，ヒューマンエラー，労働災害，ハインリッヒの法則，ヒヤリハット分析，インシデント
【授業概要】
労働災害や産業事故に関わる人間の特性とその防止方策について学習し，危険予知トレーニングを汎用したグループワークを通して，作業や職場にひそむ危険性や有害性等の危険要因を発見し解決する方法について考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p123～p140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１２回　仕事の疲労・ストレスと心身の健康，作業と職場をデザインする
【key words】
ストレス，ソーシャルサポート，ストレスチェック，ワーク・ライフ・バランス，メンタルヘルス，バーンアウト，感情労働，ワークエンゲイジメント，ヒューマンファクターズ
【授業概要】
労働者のストレスとメンタルヘルスに関する理解を深める。仕事の能率と生産性を高めるための作業設計，作業研究について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p141～p167
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１３回　産業・組織分野の制度・法律
【key words】
労働基準法，労働契約法，労働安全衛生法，男女雇用機会均等法，労働基準監督署
【授業概要】
労働法の基本的知識と，法改正の際に随時新しい情報にアクセスできる方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：知って役立つ労働法　働くときに必要な基礎知識 厚生労働省
https://www.mhlw.go.jp/content/000507287.pdf
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：参考文献（厚生労働省ホームページ該当資料）を読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１４回　消費者行動
【key words】
購買意思決定，認知的バイアス，期待不一致モデル，衡平モデル，認知的不協和理論，消費者の説得過程，悪徳商法
【授業概要】
消費者の購買意思決定に関する諸側面や消費者問題について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p169～p213
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１５回　産業・組織心理学の実践と応用のための社会人基礎力
【key words】
社会人基礎力
【授業概要】
職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力である社会人基礎力につ

	いて学び，グループワークを通して自身が既に身につけている能力と今後身に着ける必要がある能力について考える。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に配布する資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
受講生に関わる情報および受講のルール	各章ごとに確認小テストを実施する予定である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	次回講義の教科書該当ページを各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	授業開始2週目に指示する。水曜日1時限目を予定している。
評価方法	授業内小テスト15%、ワークシート、ふりかえりシート、コメントカードの提出とその内容35%、到達テスト50%
教科書	金井　篤子（編）　産業・組織心理学講座第１巻　産業・組織心理学を学ぶ　心理職のためのエッセンシャルズ 北大路書房　2019
参考書	講義に際に適宜指定する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公官庁や公立学校などに勤務し、他の職員と連携、協働して職務にあたった。また、労働相談や職業相談の相談員として産業・組織分野における心理的支援を行った。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会的養護Ⅰ　　授業コード：4021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会的養護及び子どもの権利について理解し、要保護家庭に対する支援方法について基本を学んでいく。 【到達目標】 1）児童虐待が急増している現況を認識し、子どもの人権を尊重する意識改革の実践に努めていく。 2)社会的養護の課題及び対応策について考察していく力を養う。
授業の概要	急増している児童虐待をはじめとする要保護児童を取り巻く社会環境、歴史的経過、法整備状況、児童の権利に関する条約等総括的に学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	・オリエンテーション・社会的養護とは何か
	第２回	・社会的養護の基本原則→・ウエルビーイングの実現
	第３回	・現代社会に暮らす子どもと家庭→・現在の日本社会
	第４回	・日本における家族の置かれた現状・子どもを生み育てることの意味
	第５回	・家族は今→理想と現実の狭間で葛藤する家族
	第６回	・子どもの権利
	第７回	・子どもの権利のとらえ方・社会的擁護を必要とする子どもたちの権利
	第８回	・子どもの養護の歴史→・日本の子どもの養護のはじまり・先駆的な取り組み　・日本の第二次境大戦後の子どもの養護
	第９回	・子どもの養護の歴史→・子どもの養護の展開　・現在の子どもの養護に求められる発想の転換
	第１０回	・社会的養護の体系→・家庭・施設・里親
	第１１回	・社会的養護体系の課題・社会的養護の制度→児童相談所・市町村

	第１２回　　・社会的養護の制度→・児童相談所・市町村 第１３回　　・社会的養護の制度→・家庭養護・ファミリーホーム等 第１４回　　・社会的養護の制度→・施設養護 第１５回　　・施設養護の特質→・施設養護の役割・施設で集団で暮らすということ
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・日頃の日常生活なかで児童虐待等要保護児童に関わる情報に関心を持って授業に臨まれたい。 〔受講のルール〕 ・出席時間の厳守。授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・社会的養護に関わる法令については、日頃から社会福祉小六法の活用を億劫がらずに習慣づけること。 ・予習復習に努め、わからない内容は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。
オフィスアワー	･質問事項等は、コメントカードに記入すること。次回授業時にインフォメーションします。
評価方法	・定期試験80％、授業中の課題（授業確認のレポート提出）20％で総合評価します。 　但し、定期試験が60％未満の場合は、再試験とします。
教科書	・ミネルヴァ書房：新プリマーズ/保育/福祉・小池由佳/山縣文治編著
参考書	・社会福祉小六法を授業時に持参すること。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 　児童相談所、児童自立支援施設等で実務経験あり アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 　□情報モラルに関する教育 　□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) 　□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) 　□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) 　□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 　□ICTを活用した双方向型の授業の実施 　□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 　□その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　子どもの食と栄養　　授業コード：4061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
平石　仁恵			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 健全な食生活を送るために必要な、基礎知識と調理技術を習得する。 【到達目標】 ・子どもの発育・発達と食生活の関連及び、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・食育の意義、内容について、近年のガイドラインやデータを踏まえて理解する。 ・基本的な調理技術を習得する。
授業の概要	子どもの成長の源である食べ物の摂取と栄養についての講義、家庭や現場で役立つ実習、口頭発表などを通じて実践力を培う。講義内容と関連した調理は、自宅でも作りやすく、応用しやすい内容になっている。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション、子どもの健康と食生活の意義 【key words】 評価方法、課題発表、子どもの食習慣 【授業概要】 授業の進め方、課題発表について知る。大人の食生活と子どもの食習慣の関連について学ぶ。 食生活チェック、実習事前アンケートの実施。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ２～７（１、子どもの健康と食生活の意義） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおき、興味を持った箇所に印をしておくこと。復習については授業時に指示する。 食物アレルギーのある生徒は、申告できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 【key words】 5大栄養素、主食、主菜、副菜 【授業概要】 栄養素の種類と働き、現代日本人の栄養素の摂取傾向などを学ぶ。課題発表。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ８～２０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

該当ページを読んでおくこと。高校で使用した教科書や副読本がある場合には、参照することを勧める。
課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
120～180分

第３回　食事摂取基準と献立作成・調理の基本、実習室の使い方、衛生管理
【key words】
食事摂取基準、食事バランスガイド、食生活指針
【授業概要】
食事摂取基準の見方と、家族や自分の摂取量を理解した上で、適正な献立作成を学ぶ。課題発表。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８～２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前週から本時までの間、どこか1日あたりの食事内容を記録しておくこと。該当ページを読んでおくこと。
課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　乳児期の授乳・離乳の意義と食生活、調乳と試飲
【key words】
母乳、人工栄養、無菌操作法、離乳
【授業概要】
母乳や人工栄養の利点や問題点を学ぶ。実際に調乳を行い、メーカーによる味の違いを体験する。課題発表。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３８～６１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。無菌操作法の実習をするので、Ｐ５１は必ず読んでおくこと。
課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　幼児期の心身の発達と食生活、離乳食の調理と試食
【key words】
離乳食、偏食、欠食、間食
【授業概要】
離乳食、幼児食の概要を学ぶとともに、偏食や肥満といった食生活上の問題点を学ぶ。離乳食を調理し、味や舌ざわりなどを確認する。課題発表。調理実習。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ７１～７２、Ｐ７６～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認すること。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　学童期の心身の発達と食生活、間食の調理と試食
【key words】
朝食欠食、肥満、ダイエット、摂食障害
【授業概要】
学童期や思春期の食生活上の問題を学ぶ。非科学的なダイエットや摂食障害の危険性について理解する。課題発表。調理実習。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８７～９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。
実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　生涯発達と食生活、妊娠期に適した調理と試食
【key words】
妊娠期の栄養、つわり、貧血
【授業概要】
成人期、妊娠期の栄養について学ぶ。特に妊娠期の症状やのぞましい食生活について理解を深める。課題発表。調理実習。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ９４～９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。
実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　.保育における食育の基本的考え方と評価方、食育のための環境、食育便りの作成
【key words】
食育基本法、保育所保育指針
【授業概要】
食育とは何か、概要を理解する。また、子どもや保護者を対象とした「食育便り」を作成する。課題発表。
【教科書ページ・参考文献】

Ｐ１００～１０６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
色鉛筆等を持参すること。該当ページを読んでおく。年間の行事食を調べ、書き出しておく。配布用紙に記入予定。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　地域の関係機関、職員間の連携、グループワーク
【key words】
連携、食生活指導、第３次食育推進基本計画
【授業概要】
家庭支援や児童福祉施設では、様々な背景の保護者と接する機会がある。どのような関わり方が求められるのか、グループごとに考えをまとめ、発表する。課題発表。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１０６～１１１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１０回　家庭における食事と栄養、強化食の調理と試食
【key words】
生体リズム、日本型食生活
【授業概要】
基本的な生活習慣の重要性と、現代家庭における食の課題を学ぶ。栄養的な課題として、不足しやすい栄養素を補う献立について学ぶ。課題発表。調理実習。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１１回　児童福祉施設における食事と栄養、おやつの調理と試食
【key words】
児童福祉施設、食中毒
【授業概要】
児童福祉施設の種類と働きを学び、食に関して各施設に求められる課題と対応を学ぶ。また食中毒についての概要と予防策など、衛生管理について理解する。課題発表。調理実習では、子どもが調理に携われるような、参加型のおやつを作る。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１１８～１２７（児童養護施設の上まで）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
食中毒については、高校の教科書や副読本があれば参照しておくとよい。該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１２回　疾病および体調不良のある子どもへの対応、炊飯の基礎とだしの取り方、実習と試食
【key words】
病児食、病時食
【授業概要】
子どもが訴えることの多い体調不良について、概要を学ぶ。粥や軟飯、普通炊きの水加減、だしの取り方について学ぶ。課題発表。調理実習。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１２７～１３５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１３回　食物アレルギーの概要、アレルギー対応食の調理と試食
【key words】
アナフィラキシーショック、エピペン、特定原材料
【授業概要】
食物アレルギーの症状、原因物質、対応などを理解した上で、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」、「保育所における食事の提供ガイドライン」を踏まえ、施設としての受け入れの実際について学ぶ。電課題発表。調理実習では特定原材料を用いずに、代替材料で調理を行う。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１３５～１４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１４回　障害のあるこどもへの対応、嚥下食の調理と試食
【key words】
摂食機能、こだわりによる偏食
【授業概要】

	代表的な摂食の障害について理解し、機能に応じた調理形態や補助具などについて学ぶ。調理実習では、嚥下機能の弱い子どもが食べられるような、嚥下食を調理する。課題発表。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１４２～１４５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第１５回　災害時への対応、保存食品を使った調理と試食 【key words】 非常食、液体ミルク 【授業概要】 緊急時や災害時に保育者に求められる、食生活上の備えを学ぶ。課題発表。調理実習では、長期保存可能な食品を用いた調理を行う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１４６～１４９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	講義中は受講生の迷惑にならないよう私語及びスマホ操作厳禁。 実習中はエプロン、三角巾を身につける。 長つめ、マニキュアは禁止。 腕時計、ブレスレットは外し、髪は束ねる。 ハンドタオル、布巾を持参する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード、実習後のレポート
授業外時間にかかわる情報	実習には手順を確認して臨むこと。調理実習後には、自宅等で再調理することが望ましい。
オフィスアワー	講義の前後15分は対応可能。
評価方法	筆記試験 50%　　授業への取り組み（身支度・実習レポート、課題発表）50%
教科書	発育期の子どもの食と栄養　1,800円＋税　菅原 園 他　　学建書院
参考書	授業時に紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関からの要請により、主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っている。また高等学校における家庭科教育は20年以上に及ぶ。現代の家庭は食生活の問題を高率に抱えている。栄養を摂取するだけの食ではなく、広い意味での食生活を考えたい。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容（人間関係）　　授業コード： 4121

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
巣立　佳宏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	保育所保育指針における乳児保育の３つの視点と1歳以上3歳未満児及び3歳以上の保育のそれぞれ5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 これらを踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 また、子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具などの活用と工夫、保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解する。
授業の概要	子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりである「養護」、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」について重点的に学ぶ。また、保育所保育指針における３つの視点①「健やかに伸び伸びと育つ」、②「身近な人と気持ちが通じ合う」、③「身近なものと関わり感性が育つ」について理解する。 　また、人間関係において他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養うことを学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション ： シラバスの読み方と授業の進め方の説明。 【key words】 幼児教育の基本、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿　非認知能力 【授業概要】 保育内容人間関係が保育所保育指針や幼稚園教育要領において、どのような役割や意味をもっているか理解する。 【教科書ページ・参考文献】 PP12～38 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の内容を読み込んでおくこと。指針を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	幼児教育の基本 【key words】 環境を通しての保育　他領域との関係性 【授業概要】 環境における保育や保育士の役割、他の５領域との人間関係のつながりをみていく。 【教科書ページ・参考文献】 12～44 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の内容を読み込んでおくこと。指針を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	乳幼児期の発達と領域「人間関係」 【key words】

		出会いと関わり　愛着の形成　信頼関係の基盤 【授業概要】 子どもが生まれてから成長する中で、人との関わりについて学ぶ。関わりの中で子どもがどのような体験をし、成長していくのか理解する。 【教科書ページ・参考文献】 44～67 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読み込んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	子どもと保育者の関わり 【key words】 自己主張　心の安全基地 【授業概要】 保育者が子どもの自己主張をうながし、成長を見守る一方で保育者が子どもの気持ちをどのように代弁するかグループワークなどを通して学ぶ。 また、自立に向けてどのように保育を行っていくか学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 68～99 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読み込んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	第２章、３章のまとめ 【key words】 子どもとの関わり方 【授業概要】 ２章、３章の内容を振り返り、理解度について確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 44～99 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内容および教科書を振り返っておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	遊びの中の人との関わり 【key words】 遊び　発達 【授業概要】 子どもが遊びの中でどのように成長していくか理解する。 【教科書ページ・参考文献】 100-123 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読み込んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	これまでの振り返り、生活を通して育つ人との関わり 【key words】 道徳性　規範意識　園生活と関わり 【授業概要】 これまでの内容に関して小テストを行います。 小テストの採点後、解説を行い、通常の授業を行います。 【教科書ページ・参考文献】 1-123 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで授業内での教科書、板書内容、口頭での説明などを振り返ってください。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	生活を通して育つ人との関わり～お店屋さんごっこ（グループ分け）～ 【key words】 道徳性　規範意識　園生活と関わり 【授業概要】 子どもの道徳性や規範意識について理解する。また保育場面における人間関係について学ぶため、お店屋さんごっこの準備を始めていく。 【教科書ページ・参考文献】 124-147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の内容を読み込んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	個と集団の育ち 【key words】 個と集団の関係性　協同性 【授業概要】 個と集団に関してグループワークなどを通して理解していく。 お店屋さんごっこの準備として何を制作するか決定する。 【教科書ページ・参考文献】 148-175 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の内容を読み込んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】

	30分 第１０回　人との関わりを見る視点 【key words】 自立心　自己抑制 【授業概要】 人との関わりの中で子どもが成長するために保育者として必要な視点を身に付ける お店屋さんごっこの教室内の配置などについて学生間で話し合い、決定する。 【教科書ページ・参考文献】 176-201 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の内容を読み込んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１１回　6章、７章のまとめ 【key words】 協同性、自立心 【授業概要】 6章と７章に関して内容を振り返り、理解度を確認する。 お店屋さんごっこに関する話し合いを深めていく。制作物の作成を進める。 【教科書ページ・参考文献】 148-201 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の内容を読み込んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　これまでの振り返り 【key words】 遊び、個と集団の育ち 【授業概要】 これまでの内容に関して小テストまたはレポート課題を出します。 【教科書ページ・参考文献】 124-201 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の内容を読み込んでおくこと、板書、口頭での説明に関しても振り返っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　現代の保育の課題と領域「人間関係」 【key words】 ICT　子育て支援 【授業概要】 現代の保育の課題について理解する。 グループでお店屋さんごっこの制作物、当日の流れについて確認する。 【教科書ページ・参考文献】 1-210 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで準備を進めておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　お店屋さんごっこ 【key words】 人間関係　保育 【授業概要】 お店の作り方から、お金など全体で話し合い、ルールの確認などを事前に行っていく。 作った作品を持ち寄り、適正な品物の量や魅力などに関して理解する。 実際の保育園を想定し、実践的に人間関係について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 1-210 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで準備を進めておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　保育内容（人間関係）のまとめ。 【key words】 人間関係　保育　グループ活動 【授業概要】 お店屋さんごっこの振り返りを全体で行う。 まか個人でワークシートやレポートなどで成果を確認、共有する。 【教科書ページ・参考文献】 1-210 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の振り返りを各自行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	【授業態度】 グループワークで話し合いの指示や、携帯電話を使用した調べ学習の指示がある場合以外は、私語、携帯電話の使用厳禁とする。 積極的な発言、意欲的な取り組みを期待する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	日頃から子どもの行動に興味関心を持ち、特に親子や友達の関係における子どもの動きや反応を観察するように心がけること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	試験を実施する場合には定期試験60%、授業への取り組み・レポート提出・小テストなど40%で評価する。 実施しない場合、授業への取り組み・レポート提出・小テストなどの結果から多角的に評価する。
教科書	廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい保育内容（人間関係）』あるふあ出版、2009
参考書	教科書「事例で学ぶ保育内容　人間関係」萌文書林　2018 （監）無藤隆　（編）岩立京子
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 児童養護施設、子育て支援センター、市教育委員会にて勤務経験あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容（言葉）　　授業コード： 4141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いについて理解する。子ども達の「言葉」の成長を支援できる保育者を目指す。 【到達目標】 ・領域「言葉」について理解し、保育・教育計画の立案と評価のための視点を得る。 ・理論を踏まえてどのように実践が行われているのか理解し、自らの実践に活かす力を養う。 ・言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援の方法を考えられるようにする。 ・子どもの言葉の発達を知り、言葉掛けの大切さを学ぶ。
授業の概要	５領域の「言葉」について基礎、実践、実技、発展という流れで学び、ステップアップしながら学習する。 生後間もない乳児への言葉掛けから就学時前の子どもへの言葉掛け、配慮が必要な子どもへの言葉掛け等、子どもの年齢や個人差、性格に合わせた言葉掛けを学んでいく。 保育所保育指針における3つの視点と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について理解する。 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の実践（計画・実践・省察・評価・改善）の実際について理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　　オリエンテーション、保育内容「言葉」の意義①　幼児教育と保育内容「言葉」 【key words】 人間と言葉 【授業概要】 ・この授業の取り組み方、全15回のペース配分などを伝える。 ・人間としてのコミュニケーションのはじまりについての段階を説明。 ・かかわりから言葉へ繋がっていく働きについて。（さまざまな体験・経験を積み重ねながら、言葉を広げ　　る） 【教科書ページ・参考文献】 テキストp13～16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「泣く」と「保護者の行為」の繰り返しの中でどのようなことが築かれていくのかまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分

第２回　　保育内容「言葉」の意義②　幼児と言葉
【key words】
コミュニケーションと言葉

【授業概要】
・言葉の5つの手段　①コミュニケーションとしての手段②思考する手段③行動を調整する手段④自己を表現する　手段⑤　ものや行為を意味づける手段　についての解説。
・保育内容「言葉」における保育者が担う役割を事例を通してグループで検討し、理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp17～23

【課題・予習・復習・授業準備指示】
言葉を使うときに何の手段の言葉か意識して分類してみる
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　　領域「言葉」のねらいと内容
【key words】
幼稚園教育要領と保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領

【授業概要】
・「ねらい」を達成するために、領域「言葉」ではどのような内容に沿って保育を展開することが望ましいのか　考えていく。
・乳児保育、1歳以上3歳未満児、3歳以上児に関わる「ねらい」および「内容」を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp25~31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
要領、指針および教育・保育要領の領域「言葉」に関する「ねらい」および「内容」の理解を更に深められるようまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　　子どもの言葉の発達①　言葉のめばえ
【key words】
言葉を育む環境　-生後間もない乳児への声かけから-

自身の乳児期の様子を家の方に聞いてみる

【授業概要】
・言葉の発声訓練としての笑いと身体の動きについて説明する。
・喃語が言葉になるまでの保育者のかかわりと意味づけを考える。
・目に見えないものを他者と共有する、表像機能の発達について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp39～41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自身の乳児期の様子を家の方に聞き、発語から言葉を覚えていく過程を表、または図式化したものを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　　子どもの言葉の発達②　言葉による世界の秩序化
【key words】
感情と経験を含めた言葉の理解

【授業概要】
・コミュニケーションの道具から思考の道具への移行について説明する。
・感情や経験と結びついた「自分なりの表現」とはどのようなものなのか具体例を挙げて考えてみる。
・子どもの言葉に耳を傾けながら、「言葉とは？」「意味とは？」と興味を広げ、考えを深めていく姿勢を整え　ていく。
【教科書ページ・参考文献】

テキストp42～49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例課題の検討をする。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　　子どもの言葉と環境
【key words】
発達初期の養育環境の重要性
愛着関係

【授業概要】
・愛着関係と言語発達について。また初期の養育環境とその後の言語発達。
・応答的環境と愛着関係について。
・話し言葉からはじまる言葉の理解と表現についての説明。
・環境としての仲間と集団生活についての配慮を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp51~57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストｐ58~59「読み・書き言葉と環境」をまとめる。
次週読み合いをする赤ちゃん絵本を1~2冊用意しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　　保育者の指導・支援１　　０歳児から２歳児までの言葉と保育者のかかわり
【key words】
仕草から聞こえる言葉

【授業概要】
・やりとりの楽しさの経験の積み重ねが、言葉を使ったコミュニケーションへと発展していく過程の説明。
・２歳児の言葉の増加の背景には増徴機能やイメージの発達があげられることを、事例に基づき解説していく。
・０～２歳児向けの絵本を読んでみる。（ペアになり、赤ちゃん役と保育者役になって読み合う）
【教科書ページ・参考文献】
テキストp63~70　絵本「がちゃがちゃ　どんどん」元永定正　「もけら　もけら」山下洋輔「かおかおどんなかお」柳原良平

【課題・予習・復習・授業準備指示】
赤ちゃん絵本をピックアップし、自分が保育に使いたい絵本リストを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　　保育者の指導・支援２　　３歳児から６歳児までの言葉と保育者のかかわり
【key words】
育ちの連続性と指導・支援の継続性

【授業概要】
・子どもの話したい気持ちを十分に聞き入れていくことの大切さについて理解する。
・言い間違いを指摘することで子どもの自尊感情を損なう可能性もあるので、間違いを否定的に捉えず、自然　に自己訂正ができるようになるように心がける支援法について学ぶ。
・テキストｐ70事例4とｐ72事例5についてグループワークを行う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp70~74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例課題の検討をする。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　　言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援①　　言葉の発達が気になる子ども
【key words】
子どもの言葉の育ち

【授業概要】
・言葉の育ちにかかわる諸課題を挙げてみる。
・言葉の発達の遅れ（言葉含まれる3つの要素）、　発語の課題、意味の理解、コミュニケーションの課題に　ついて考える。

・構音障がい、吃音、聴覚障がい、脳性麻痺についての障がいについて理解を深め、支援の手立てを検討す　　る。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp75～83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワーキングメモリ4つの側面を図式化する
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　　言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援②　言葉の発達に障がい・課題を抱えている子どもの保護者とのかかわり
【key words】
保護者の気持ち

【授業概要】
・障がいを抱える子どもの保護者の気持ちを知る。
・生活環境が狭くなってしまわないよう、さまざまなことをつないでいく手段・方法を考える。
・テキストｐ81~82の事例についてグループワークを行う。
・専門機関との連携について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp84～95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
言葉の発達課題についてどのような専門機関に相談できるのか調べる。また、専門機関から支援への流れをまとめておく。
次週の準備として、絵本・紙芝居等を2~3つ用意しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　　児童文化財１　　絵本、素話、紙芝居　など
【key words】
保育とお話

友達同士で絵本を読み合ってみる

【授業概要】
・絵本の種類、役割について学ぶ。
・ストーリーテリングの選び方、覚え方、語り方について学ぶ。
・紙芝居の演じ方の基本を身につける。
・少人数のグループを作り、絵本・紙芝居・素話の実演をする。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp99～113
絵本「おばけれっしゃ」　作・絵しのだこうへい　ひさかたチャイルド
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育に活用したい絵本・紙芝居を年齢別にリストを作成する。
素話ができるように練習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　　児童文化財２　　言葉遊び・演じられる物語
【key words】
子どもと楽しむ言葉遊びの実践

【授業概要】
・なぞなぞ、しりとり、ダジャレ、早口言葉、伝言ゲームなど実際にやってみる。
・手遊びの紹介。伝承遊びの実践をグループにわかれ、やってみる。良かった点や改善点などを伝え合い、保　育技術を向上させる。
・豊かな言葉の体験としての「演じられる物語」について楽しむ気持ちを育む。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp115～138
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ことば遊び、手遊び、なぞなぞのレパートリーを増やす。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

	第１３回　　言葉の指導計画 【key words】 指導計画の考え方 【授業概要】 ・教育課程、全体的な計画の位置づけと役割について学ぶ。 ・長期の指導計画と短期の指導計画について理解する。 ・事例からみる「言葉」の指導計画を実際に書いてみる。 ・テキストp151~152表11-2「日の指導計画」から書き入れるポイントを見つける。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp143~152 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導計画の事例を集めておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　　発展事例　　保育内容「言葉」のまとめ 【key words】 愛着行動の重要性 １～１５回の内容をもう一度ノート、ワークシートを確認しておくこと 【アクティブラーニングについて】 【授業概要】 ・０歳～６歳の乳児から幼児の言葉の発達についての事例をいくつかあげ、これから現場で出会う子どもたちへ　の対応や支援を考えていく。 ・愛着行動によって子どもの精神の発達に与える影響の説明。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp153～159 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までの内容をもう一度ノート、ワークシート等を見直し、理解が足りないところを書き出しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　　言葉と国語教育　―小学校へ― 【key words】 国語へのつながりと学習のはじまり 【授業概要】 ・読み聞かせについて（読み聞かせの回数、配慮点、絵本を選ぶ基準など） ・読み聞かせと小学校教育へのつながり。 ・保育内容「言葉」と小学校「国語科」を接続させる保幼小連携を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp161～170　音読の森①教育同人舎 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保幼小連携について調べてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生は全ての講義に出席すること 予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高める 積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用は厳禁） ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述すること 「意見交換」や「他者説明」を促した際には、近くの学生と積極的に取り組むこと 欠席、遅刻する場合は、学校に連絡すること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	子どもの言葉の発達だけでなく、子どもの発達全般についての理解を深める。児童文化財を積極的に活用すること。
オフィスアワー	月曜10：30～12：00　　それ以外の時間は、アポイントを取って下さい。
評価方法	授業への取り組み、授業時に課す課題等３０％、筆記試験５０％、提出物２０％を総合的に評価する。
教科書	駒井美智子編：保育者を目指す人の保育内容「言葉」：みらい２０１２

参考書	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育、保育要領　　チャイルド本社 絵本「おばけれっしゃ」作・絵しのだこうへい　ひさかたチャイルド
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【アクティブラーニングについて】 ①協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習②ディスカッション・ディベート③グループワーク④プレゼンテーション 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 幼稚園教諭、小学校教諭の経験を活かし、子どもへの言葉かけや、言葉を取り巻く環境、言葉の発達、問題について講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 学習状況などにより、授業計画を変更する場合もある。

講義科目名称： 保育実習Ⅰ（施設）　　授業コード：4184　4187

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(90)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①児童福祉施設等の社会福祉施設の役割や機能を具体的に理解する ②観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める ③既習の教科内容をふまえ、子ども・利用者への保育（養護・療育・介助・介護）及び保護者への支援を総合的に学ぶ ④保育（養護・療育・介助・介護）の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する ⑤保育士等の専門職種職員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ
授業の概要	■実習履修資格者 ①将来、保育士として児童福祉施設等の社会福祉施設で働く意志を強く持っているも者。 ②子どもの福祉等の関連教科目の学習及びボランティア活動等の実践活動に熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うにあたって適当と認められる者。 ③保育士資格取得に必要な教科目の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。 ④「保育実習指導Ⅰ（施設）」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」および「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得見込のある者 ■実習期間は、12日間以上90時間以上とする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回

	第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習生に帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断される次の事態が生じた場合は実習を中止する。 ①重大なルール違反（実習施設の就業規則及びそれに準ずる実習上のルール違反）を行ったとき。 ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。 ③心身の事由により実習の継続が困難なとき。 ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。 ⑤実習指導者が実習生に行った指導に対して適切に対応しなかったとき。 ⑥実習担当教員が実習生に行った指導に対して適切に対応しなかったとき。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	―
授業外時間にかかわる情報	―
オフィスアワー	―
評価方法	①実習施設による評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%） ②巡回での指導状況及び実習態度（10%） ③実習目標の達成状況（10%） ④実習日誌等記録の内容（10%） ⑤実習報告書の内容（10%） ⑥その他提出物の提出状況（10%） ＊実習が修了しても提出物が提出されない場合は、実習の単位は認定しない。
教科書	群馬医療福祉大学　実習ガイドブック　群馬医療福祉大学　2016
参考書	指定なし
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）にて１５年間、児童相談所にて５年間勤務し、多様な課題を抱える子どもの福祉に携わるとともに、保育所・幼稚園等へのコンサルテーションの経験からインクルーシブ保育の実践にも精通している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会的養護Ⅱ　　授業コード：4202

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会的養護の基本理念について学び、将来児童福祉の専門職としての実践力を養う。 【到達目標】 児童の権利擁護を基本理念とする要保護児童の保護、自立を支援していく児童福祉施実践を学び社会的養護の課題と対　応策について考察力を養う。
授業の概要	急増している児童虐待は子どもの心身の成長に深刻な影響を与えており、これらの子どもの社会的養護の基本理念、法制度、施設現場の実践を学ぶ。そして将来保育現場や児童養護施設等児童福祉の専門職員を目指す者に対して現場で役に立つ実践的な知識の取得と支援力を養う学習をする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第１回	・オリエンテーション・施設養護の基本原理→・運営指針の基本理念・基本原理 【key words】 「社会的養護とは」「第3者評価」「子どもの最善の利益」 【授業概要】 授業の概要について説明する。前期の振り返りを行う。施設養護における運営指針に関して学ぶ。第3者評価などの適切な施設へのアセスメントについて理解する。児童の権利に関する条約について理解し、子どもの最善の利益について学ぶ。 【教科書ページ】 P88～97
	第２回	・施設養護の実際→・日常生活の支援 【key words】 「日常生活支援」「学習支援」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の生活について学ぶ。学習支援などどのような方々が関係しているかについても学ぶDVD教材を視聴し、児童養護施設の流れなどについて理解する 【教科書ページ・参考文献】 P98～104
	第３回	・施設養護の実際→・自立支援 【key words】 「自立支援」「リービングケア」「アフターケア」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の入所前後、退所前後について学ぶ。ライフストーリーワークなど施設で生活する児童が行うワークなどについても理解していく・ 【教科書ページ・参考文献】 P105～110
	第４回	・施設養護の実際→・治療的援助を必要とする背景・子どもの行動特性・援助体制の整備 【key words】 「治療的援助」「行動特性」 【授業概要】

	社会的養護を必要とする児童に対する心理的な治療について学ぶ。虐待を受けた子どもの行動、特徴、発達障害についても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P111～120
第５回	・施設養護の実際→・治療的支援・援助の実際 【key words】 「心理担当職員」「治療的かかわり」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の心理的な治療方法（例：遊戯療法、箱庭療法）について知る。具体的な事例を通して個別対応職員の治療的かかわりなどについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P111～120
第６回	・施設養護の実際→・家族支援 【key words】 「家族再統合」「家族支援」「関係調整」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の家族との関係について学び、関係調整の方法について事例を通して理解する。家族関係を捉える視点を養う。エゴグラムについても知る。 【教科書ページ・参考文献】 P121～133
第７回	・施設養護の実際→・地域支援の必要性・地域支援の実際 【key words】 「地域支援」「トワイライトステイ」「虐待予防」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の生活のみならず、地域とのかかわりについて学ぶ。社会的養護を必要とする児童の施設が入所児童のみを対象としないことを理解し、どのように施設を活用しているか学ぶ。 レポート課題または小テストを実施し、理解度の確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P121～133
第８回	・社会的養護とソーシャルワーク→・ソーシャルワーク・ソーシャルワークの構成要素等 【key words】 「ソーシャルワーク」「働きかけの多様性」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童へのソーシャルワークに関して学び、事例を通して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P134～144
第９回	・社会的養護とソーシャルワーク→・ソーシャルワークの展開過程・児童自立支援計画とソーシャルワーク・　ファミリーソーシャルワーカー（家庭支援専門相談員） 【key words】 「FSW」「家族面接」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設におけるFSWの役割について学び、家族面接の設定などについて具体的な事例を通して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P134～144
第１０回	・児童福祉施設の運営管理→・運営管理の仕組み（設立の経緯・理念・法人理事会等） 【key words】 「施設運営」「建物・運営形態」「職員配置」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設の運営しについて学ぶ。最低基準や職員配置などを理解し、施設の運営にはどのようなことが必要か学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P145～160
第１１回	・児童福祉施設の運営管理→・施設の設備及び運営に関する基準・措置制度・苦情解決等 【key words】 「勤務体制」「措置制度」「施設内虐待防止」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設の職員の勤務体制について理解し、子どもの措置に関することや、施設での虐待防止に関して理解する。 小テストまたはレポート課題を実施し、理解度の確認を行う。 【教科書・参考文献】 P145～160
第１２回	・児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理→・児童福祉を目指す学生に見られる傾向と特徴 【key words】 「援助者に求められる資質」「倫理観」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設を希望する学生に求められるものや、学ぶべきことについて理解する。また、勤務に関して職員としての倫理観など道徳的なことに関して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P161～171
第１３回	・社会的養護のあるべき姿→・子どもの権利擁護・生活単位の小規模化・里親制度 【key words】 「社会的養護とソーシャルアクション」「小規模化と課題」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設におけるソーシャルアクションについて学び、グループ活動を通して小規模化などの課題解決の取り組みを行う。 【教科書ページ・参考文献】 P172～186
第１４回	・社会的養護のあるべき姿→･社会的養護の地域化・授業の総まとめ

	【key words】 「小規模住居型児童養育事業」「里親制度」「地域化」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設の事業について学び、地域との連携に関してもこれまで学んだ知識を活用しながら検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P172～186 第１５回　社会的養護とは：全体の振り返り 【key words】 「社会的養護とは」「被虐待児」「家族とは」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の生活についてこれまで学んだ知識を復習する。実際の事例について検討し、課題解決能力を身につける。社会的養護を取り巻く社会との関係性など、様々な視点から多角的に検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P88～186
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・日頃の日常生活のなかで児童虐待等要保護児童に関わる情報に関心を持って授業に臨まれたい。 〔受講のルール〕 ・出席時間の厳守。授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・予習復習に努め、わからない内容は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。 ・欠席した際には、配布資料を次回までに教員の下へ取りに行くこと。
オフィスアワー	･質問事項等は、コメントカードに記入すること。次回授業時にインフォメーションします。
評価方法	・定期試験70％、授業中の課題（レポートまたは小テスト提出）30％で総合評価します。 但し、定期試験が60％未満の場合は、再試験とします。
教科書	・ミネルヴァ書房：新プリマーズ/保育/福祉・小池由佳/山縣文治編著
参考書	・社会福祉小六法。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 児童相談所、児童自立支援室等で、実務経験あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）　　授業コード：4231　4232　4233

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
足立　勤一・佃　朋子・峯岸　梓			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育の表現技術Ⅰ（音楽）にて修得した基本的な音楽の知識とピアノ演奏技術を基礎として、保育や幼児教育の現場において求められている表現活動についてより深く理解し、速やかに実践(パフォーマンス）できるよう、知識や技術を習得する。弾き歌いについての基礎技術とともに絵画的表現を合わせて総合的な表現技術を身につけることを目的とする。 【到達目標】 ①弾き歌いについてピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を習得し、絵画表現と合わせて総合的に捉え、発表や指導が出来るようになること。 ②こどもの発達に即したパフォーマンスが出来るようになること。
授業の概要	総合的な表現の発表や指導ができるように、子どもの発達に即した物語の創作、絵画的表現の制作、選曲や効果音、導入、手遊び等について学ぶ。また、グループ内において個別に指導し各自のパフォーマンス技術を高められるように進行する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目（前期）オリエンテーション 【key words】 前期授業概要 【授業概要】 オリエンテーション・クラス分け・リズム遊び・パフォーマンスの説明。 学生それぞれの進度に合わせた曲決め。弾き歌いはこどもの発達に応じ、季節・行事・遊び歌等を選曲しピアノ伴奏・コード奏・アレンジを学ぶ。ピアノ曲はバイエル終了程度を目標とする。 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・創作物語内容説明小冊子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・コード奏・アレンジ・ピアノ曲 【key words】 1年次に修得した基本的な音楽知識とピアノ演奏技術を基礎としてレベルアップを図る 【授業概要】 ①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。 ②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。) ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００

【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第３回　学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・コード奏・アレンジ・ピアノ曲
【key words】
楽典の知識（音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱）に基づいて演奏する。

【授業概要】
①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第４回　学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・アレンジ・ピアノ曲
【key words】
楽典の知識（音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱）に基づいて演奏する。
【授業概要】
①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第５回　学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・アレンジ・ピアノ曲
【key words】
楽典の知識（音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱）に基づいて演奏する。
【授業概要】
①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第６回　学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・アレンジ・ピアノ曲
【key words】
楽典の知識（音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱）に基づいて演奏する。
【授業概要】
①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第７回　学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・アレンジ・ピアノ曲
【key words】
楽典の知識（音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱）に基づいた表現方法を学ぶ。
【授業概要】
①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛け

る。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第８回　パフォーマンス・リズム遊びと学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
こどもの発達に即したパフォーマンス・リズム遊びが出来るようになること。
【授業概要】
①２～３人組になりこどもの発達に応じた選曲をし、1人がピアノ伴奏、もう1人が歌いながらパフォーマンス・リズム遊びをする。クラスごとに小さな発表会形式で実践する。
②楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
③弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
④ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：選曲に合わせたパフォーマンスが出来るように協力し合って練習する。
弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第９回　パフォーマンス・リズム遊びと学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
こどもの発達に即したパフォーマンス・リズム遊びが出来るようになること。
【授業概要】
①２～３人組になりこどもの発達に応じた選曲をし、1人がピアノ伴奏、もう1人が歌いながらパフォーマンス・リズム遊びをする。クラスごとに小さな発表会形式で実践する。
②楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
③弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
④ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：選曲に合わせたパフォーマンスが出来るように協力し合って練習する。
弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１０回　パフォーマンス・リズム遊びと学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
こどもの発達に応じたパフォーマンス・リズム遊びが出来るようになること。

【授業概要】
①２～３人組になりこどもの発達に応じた選曲をし、1人がピアノ伴奏、もう1人が歌いながらパフォーマンス・リズム遊びをする。クラスごとに小さな発表会形式で実践する。
②楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
③弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
④ピアノ曲(楽典知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：選曲に合わせたパフォーマンスが出来るように協力し合って練習する。
弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１１回　パフォーマンス・リズム遊び学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
こどもの発達に応じたパフォーマンス・リズム遊びが出来るようになること。
【授業概要】
①２～３人組になりこどもの発達に応じた選曲をし、1人がピアノ伴奏、もう1人が歌いながらパフォーマンス・リズム遊びをする。クラスごとに小さな発表会形式で実践する。
②楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
③弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
④ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：選曲に合わせたパフォーマンスが出来るように協力し合って練習する。
弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１２回　学生それぞれの進度に応じた授業：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて：試験曲弾き歌い決定

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（試験曲数のクリアに向けて）
　弾き歌いの練習

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：弾き歌いは伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めないようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１３回　学生それぞれの進度に応じた授業：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて：試験曲弾き歌いの練習と暗譜

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
　弾き歌いの練習

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：弾き歌いは伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めないようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１４回　学生それぞれの進度に応じた授業：前期試験にむけて
【key words】
前期試験課題に向けて：人前での演奏

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（授業内課題をクリアする）
　試験曲の仕上げ

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：弾き歌いは伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めないようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１５回　前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
前期試験課題に向けて：リハーサル

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（授業内課題をクリアする）
　試験曲の仕上げ

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験曲の仕上げ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１６回　科目（後期）オリエンテーション　模擬保育：創作課題パフォーマンス内容についてのガイダンス及びＤＶＤ鑑賞
【key words】
後期授業概要
【授業概要】
情報機器及び教材の活用。模擬保育：創作物語作成課題の実践記録動画を鑑賞する。また、製作のためのプリント教材の説明をする。創作物語作成は２～３名一組で4場面または６場面の物語を作り、それぞれに合った選曲をし、弾き歌い、絵画表現、パフォーマンスをする。仕上がったら模擬保育のための導入・まとめをして物語の主旨を明確に伝えて実践をする。

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：弾き歌いは前期に引き続き、歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。ピアノ曲は表情豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１７回　総合的な表現：創作物語課題と学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
創作物語課題　こどもの発達に応じた素材研究(1)
【授業概要】
①創作物語：対象年齢を考慮した物語の素材を考える。
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。

③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表情豊かな演奏を心掛ける。)

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語作成の素材研究。弾き歌い、ピアノ曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１８回　総合的な表現：創作物語課題と学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
創作物語作成課題　こどもの発達に応じた素材研究(２)

【授業概要】
①創作物語作成：対象年齢を考慮した物語の素材を考える。
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表情豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語作成の素材研究。弾き歌い、ピアノ曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１９回　総合的な表現：創作物語課題と学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
創作物語のストーリーに合った選曲(1)
【授業概要】
①創作物語作成：ストーリーに合った選曲(弾き歌いは替え歌をしても良い)を考える。
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表情豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語のストーリーに合った選曲。弾き歌い、ピアノ曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２０回　総合的な表現：創作物語課題と学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
創作物語のストーリーに合った選曲(２)

【授業概要】
①創作物語作成：ストーリーに合った選曲(弾き歌いは替え歌をしても良い)を考える。
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表情豊かな演奏を心掛ける。)

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語のストーリーに合った選曲。弾き歌い、ピアノの練習。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２１回　総合的な表現：模擬保育(創作物語課題)と学生それぞれの進度に応じたj授業
【key words】
制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。
【授業概要】
①主旨：これまで習得して来た表現方法の基本的技術に絵画表現とパフォーマンスを合わせ総合的に捉え発表や指導が出来るようになること。
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語をどの様に展開させるかを考える。弾き歌い、ピアノの練習。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２２回　総合的な表現：模擬保育(創作物語課題)と学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。
【授業概要】
①創作物語制作準備・役割分担等
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語制作にあたり担当場面を決めて練習する。弾き歌い、ピアノの練習。
【予習復習に必要な想定時間】

		20分
	第２３回	総合的な表現：模擬保育(創作物語制作課題)と学生それぞれの進度に応じた授業 【key words】 制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。 【授業概要】 ①創作物語制作準備・音楽選曲・ＢＧＭ・効果音等。 ②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。 ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：創作物語制作にあたり、音響効果を考える。弾き歌い、ピアノの練習。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２４回	総合的な表現：模擬保育(創作物語制作課題)と学生それぞれの進度に応じた授業 【key words】 制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。 【授業概要】 ①創作物語制作準備・ストーリーに合ったパフォーマンスを考える。紙芝居、ペープサート、人形劇、パネルシアター等。 ②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。 ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：創作物語制作にあたり、音響効果に加え、パフォーマンスの方法を考える。弾き歌い、ピアノの練習。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２５回	総合的な表現：模擬保育(創作物語制作課題)と学生それぞれの進度に応じた授業 【key words】 制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。 【授業概要】 ①創作物語制作とストーリーに沿ったパフォーマンス(弾き歌い、音響効果、紙芝居、ペープサート、人形劇、パネルシアター等)に加え、導入・まとめ・時間配分を考える。 ②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。 ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・グループ指示：創作物語課題全場面仕上げに入り模擬保育に繋げていく。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２６回	総合的な表現：模擬保育(創作物語制作課題)と学生それぞれの進度に応じた授業 【key words】 制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。 【授業概要】 ①創作物語制作とストーリーに沿ったパフォーマンス(弾き歌い、音響効果、紙芝居、ペープサート、人形劇、パネルシアター等)に加え、導入・まとめ・時間配分を考える。 ②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。 ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・グループ指示：創作物語課題全場面仕上げに入り模擬保育に繋げていく。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２７回	総合的な表現：模擬保育・創作課題リハーサル① 【key words】 模擬保育実践リハーサル前半グループ 【授業概要】 模擬保育・創作物語課題全場面リハーサル前半グループ 【教科書ページ・参考文献】 新・幼児の音楽教育・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・グループ指示・全体指示：創作課題改善のアドバイス及びサポート 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２８回	総合的な表現：模擬保育・創作課題リハーサル② 【key words】 模擬保育実践リハーサル後半グループ

	【授業概要】 模擬保育・創作物語課題全場面リハーサル後半グループ 【教科書ページ・参考文献】 新・幼児の音楽教育・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・グループ指示・全体指示：創作課題改善のアドバイス及びサポート 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第２９回　後期実技試験について/後期のまとめ① 【key words】 後期試験に向けて：試験曲の確認 【授業概要】 ①模擬保育発表リハーサルの反省点を踏まえて創作課題の仕上げ、担当場面と試験曲確認 ②課題曲数のクリアに向けて 【教科書ページ・参考文献】 新・幼児の音楽教育・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：創作物語課題担当場面と試験曲の練習。 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第３０回　後期実技試験について／後期のまとめ②（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期実技試験について：試験曲の確認 【授業概要】 ①模擬保育発表リハーサルの反省点を踏まえて創作課題の仕上げ、担当場面と試験曲確認 ②授業内課題をクリアする 【教科書ページ・参考文献】 新・幼児の音楽教育・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：創作物語課題担当場面と試験曲の練習。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。 〔受講のルール〕実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	表現活動指導技術向上のため計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について考え、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、それをどのように活かすかについて深く研究すること。
オフィスアワー	授業終了後の３０分間
評価方法	実技試験70%・授業内課題20%・創作課題リハーサル10%
教科書	①『新・幼児の音楽教育』朝日出版社　②バイエル『ピアノ教則本』全音楽譜出版社　③ブルクミュラー『25の練習曲』全音楽譜出版社　④小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社　⑤小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・田丸信明編『新訂ピアノの森２』GAKKEN・田丸信明編『新訂ピアノの森３』GAKKEN・『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社・『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）

	■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 児童文化（演習）　　授業コード： 4313

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
岡部　千尋			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童文化財の製作を通して、児童文化に対する知識と技術を身につける。 保育現場での児童文化財のあり方を理解し、活用・実践がすぐに出来るようになる。 【到達目標】 保育実習などで、実際に子どもたちの前で絵本を読んだり、紙芝居を演じることが出来るようになる。 保育者になってからも、適切な児童文化財を選び用いることが出来るようになる。
授業の概要	保育者としての役割を理解し、実践につなげていくこと。子どもが児童文化に親しむ保育環境を理解し、実際の教材作りを通して、なぜ児童文化財が必要なのかを体感する。また、グループ発表をする事で、実践の場ですぐに活用できるスキルを高める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 授業概要説明 授業概要説明 【授業概要】 揃えてもらう教材の説明 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 折り紙・スケッチブック・のり・ハサミ等 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　　保育実践としての児童文化　　折り紙の実践① 【key words】 折り紙の実践 【授業概要】

保育現場で扱うことが多い折り紙を折り作品にする事で、より身近なものとすることを目的とする。スケッチブックを用意し、本講義終了までに12か月の折り紙を完成させる

【教科書ページ・参考文献】
ピコロ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
計画的に進められるように、時間内に終わらなかったものは授業時間外にやっておくようにする
次回、新聞紙シアターの説明と準備について
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第３回　児童文化を保育に生かす　　新聞紙シアター　ペープサート　演じ方　　手遊び

【key words】

新聞紙シアター

【授業概要】
身近にある素材をつかった児童文化財。全員で手順を確認しながら技術を身に付ける。「ペーパーさんの大冒険」　　新聞紙を使った遊びを考え、グループで提案発表しながら遊ぶ
　ペープサートの演じ方や歴史を学ぶ　　保育雑誌「ピコロ」を活用して保育教材を作成する
身近にある素材をつかった児童文化財。全員で手順を確認しながら技術を身に付ける。「ペーパーさんの大冒険」　　新聞紙を使った遊びを考え、グループで提案発表しながら遊ぶ
保育雑誌「ピコロ」を活用して保育教材を作成する

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
必要なもの　新聞紙
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第４回　児童文化財　パネルシアター　①　概要説明　展開の方法

【key words】
パネルシアター　展開

【授業概要】
パネルシアターバッチリキットの中身を確認し、完成したものを見ることでイメージを膨らませる。
計画的に作業を進められるように、集中して授業に取り組み、遅れが出たものは時間外に進めておく。

【教科書ページ・参考文献】
パネルシアターバッチリキット　ひかりのくに　阿部恵
【課題・予習・復習・授業準備指示】
必要なもの　　ハサミ・色ペン(ポスカ)・ボンド
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第５回　児童文化財　パネルシアター　②　各自製作

【key words】
パネルシアター　製作

【授業概要】
作品作り
計画的に作業を進められるように、集中して授業に取り組み、遅れが出たものは時間外に進めておく。

【教科書ページ・参考文献】
パネルシアターバッチリキット　ひかりのくに　阿部恵
【課題・予習・復習・授業準備指示】
必要なもの　　ハサミ・色ペン(ポスカ)・ボンド

【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第６回　児童文化財　パネルシアター　③　各自製作(着色)

【key words】
パネルシアター　着色

【授業概要】
作品作り
計画的に作業を進められるように、集中して授業に取り組み、遅れが出たものは時間外に進めておく。
白いPペーパは自由に作るものであり、事前にパネルシアターの本から作るものを決めておく。

【教科書ページ・参考文献】

パネルシアターやってみよう　実践講義　月下理恵著
ザ・パネルシアター　いきいき保育資料　阿部恵著
作って遊べるパネルシアター　後藤紀子著
保育いきいきパネルシアター　松家まきこ著　　他
【課題・予習・復習・授業準備指示】
必要なもの　　ハサミ・色ペン(ポスカ)・ボンド・貼れるボード・白ガムテープ
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第７回　児童文化財　パネルシアター　④　演じ方の練習

【key words】
パネルシアター　実演

【授業概要】
作品を完成させる。パネルを作成する。
各自演じ方の練習をする。

完成しなかった場合は、次回の授業までに完成させておく。

【教科書ページ・参考文献】

パネルシアターやってみよう　実践講義　月下理恵著
ザ・パネルシアター　いきいき保育資料　阿部恵著
作って遊べるパネルシアター　後藤紀子著
保育いきいきパネルシアター　松家まきこ著
【課題・予習・復習・授業準備指示】
必要なもの　　ハサミ・色ペン(ポスカ)・ボンド・貼れるボード・白ガムテープ
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第８回　児童文化財　パネルシアター　⑤　グループ内発表

【key words】
パネルシアター　発表

【授業概要】
実際に作成した作品を実演したり、他の人の作品を見る。
実習や就職後でも作れ、レパートリーが増やせるようにしておく。

【教科書ページ・参考文献】

パネルシアターやってみよう　実践講義　月下理恵著
ザ・パネルシアター　いきいき保育資料　阿部恵著
作って遊べるパネルシアター　後藤紀子著
保育いきいきパネルシアター　松家まきこ著
【課題・予習・復習・授業準備指示】
必要なもの　　ハサミ・色ペン(ポスカ)・ボンド・貼れるボード・白ガムテープ
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第９回　折り紙の実践②

【key words】
折り紙　児童文化財

【授業概要】

保育現場で扱うことが多い折り紙を折り作品にする事で、より身近なものとすることを目的とする。スケッチブックを用意し、本講義終了までに12か月の折り紙を完成させる　計画的に進められるように、時間内に終わらなかったものは授業時間外にやっておくようにする。

【教科書ページ・参考文献】
ピコロ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間内に終わらなかったものは授業時間外にやっておくようにする。

【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１０回　手づくりパペットシアター　①　　概要説明　展開の方法

【key words】
児童文化財
演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業

【授業概要】
手づくりパペットシアターの概要と展開の方法を説明し、グループを決める
課題となる絵本をみて、造形的思考力を働かせ、絵本の世界観を再現できるパペット人形を作る。
作製の計画をたて、効率よく作業を進める。
【教科書ページ・参考文献】
楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編
ペープサート大百科　阿部恵著
スケッチブックでシアター　阿部直美著
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図書館などを活用して、作成図や完成図を用意しておく。また必要な材料をそろえておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１１回　手づくりパペットシアター　②　グループワーク　台本づくり

【key words】
児童文化財
演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業

【授業概要】
台本・演出を考え、製作から発表までの計画を具体的にたてる
グループごとにオペレッタの構想・演出・製作・練習をすすめる。造形に対する感性と表現を考える。

・書記係りは進行の状況を記し、計画通りに進んでいるかチェックする。遅れが生じた場合は時間外に進めておく。
・パペットはなるべく廃材を利用し、作品の上演時間は短めのショートスタイルとする。
・必要な材料を書き出し、準備しておく。

【教科書ページ・参考文献】
楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編
ペープサート大百科　阿部恵著
スケッチブックでシアター　阿部直美著
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間内にまとまらなかったものに関しては、各グループで話し合い、廃材などを中心に必要なものを揃えておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１２回　手づくりパペットシアター　③　グループワーク　作成・練習

【key words】
児童文化財

【授業概要】
パペット単体でも、保育現場で実際に使うことを考え、年齢や作業工程・使用方法を考える。
他者の意見を取り入れ、グループ全体で協力する

・セリフを考えるときに意見が分かれたときは、他のグループの意見を参考にしたり、通し練習を見てもらうなどする。
・パペットの動かし方や声の出し方を工夫する
・書記係りは進行の状況を記し、計画通りに進んでいるかチェックする。遅れが生じた場合は時間外に進めておく。

【教科書ページ・参考文献】
楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編
ペープサート大百科　阿部恵著
スケッチブックでシアター　阿部直美著
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１３回　手づくりパペットシアター　④　グループワーク　発表

【key words】
児童文化財

【授業概要】
保育現場で使うときの注意点や配慮することなどを考え、レジュメにまとめる。
他者の作品を見たり、発表を聞くことで、改善点やアイディアを参考に出来るようにする。
グループごとに練習してきたものを発表し、クラス全体で相互評価をする。
改善・反省のための記録をとり、振り返る

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１４回　児童文化を保育に生かす教材について

【key words】
保育教材

【授業概要】
保育雑誌ピコロから保育教材を作成し、保育現場でいつでも使えるように練習する。

【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１５回　前期まとめ　折り紙の実践③

【key words】
折り紙　まとめ

【授業概要】
前期の講義内で作成したものを提出し、他者の作品にも目を向ける。
時間内に完成しなかったものについては、後期中に提出となる
後期の一回目で使うものを伝え、用意するようにする。

【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１６回　後期オリエンテーション　折り紙の実践④

【key words】
オリエンテーション

【授業概要】
前期の授業で作成した折り紙のスケッチブックを提出する。

【教科書ページ・参考文献】
ピコロ

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　児童文化を保育に生かす（紙芝居）①　　紙芝居の歴史

【key words】
児童文化財　紙芝居

【授業概要】
保育現場での紙芝居の使用に向けた実践的な学び。また、日本の伝統的な児童文化財である紙芝居の歴史を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
レジュメ　岡部用意

プロジェクター参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙芝居のはじまりはじまり-紙芝居の上手な演じ方　右手和子/童心者
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１８回　児童文化を保育に生かす（紙芝居）②　　上演のポイント　選択・練習　幕紙づくり
【key words】
紙芝居　幕紙づくり　製作

【授業概要】
紙芝居幕紙作り。幕紙の使い方を知り、作成し、実際に紙芝居を演じる。

紙芝居幕紙づくり

【教科書ページ・参考文献】
紙芝居のはじまりはじまり-紙芝居の上手な演じ方　右手和子/童心者
【課題・予習・復習・授業準備指示】
スティックのり・メンディングテープ・ハサミ・カッター・包装紙二色

【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１９回　児童文化を保育に生かす（紙芝居）③　　上演のポイント　発表
【key words】
紙芝居　上演方法

【授業概要】
人前で練習してきた紙芝居を上演することで、実際の保育現場において効果的に行えるようにする。
紙芝居の内容を聞き手である相手に伝えるための声の出し方とはどのようなものかなど、上演するときのテクニックを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
紙芝居のはじまりはじまり-紙芝居の上手な演じ方　右手和子/童心者
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題の紙芝居の練習をしておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第２０回　紙芝居の実践　外部講師
【key words】
紙芝居　上演方法

【授業概要】
「まねる」や「見せる」などの行為も、人とつながる喜びを感じながら豊かな表現へとつながる大切な体験である。
「紙芝居のたね」水出真弓先生を迎えて、本格的な紙芝居の上演を見る。授業で学んだことを実際に見て、間の取り方や環境設定・紙の抜き方・声の出し方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
レジュメ　岡部用意
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学んだ紙芝居の上演方法や気になった紙芝居をまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第２１回　保育と絵本　年齢にあった絵本について
【key words】
絵本　年齢別

【授業概要】
読み聞かせ　実践のコツ＆絵本の選び方をスライドで学び、絵本とはなにか、絵本を用いた保育の展開を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
読み聞かせ　実践のコツ＆絵本の選び方・確認シート

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回、絵本に関する確認のテストを行う。
次回、絵本を持参する。持っているものや図書館で借りたものなど。

【予習復習に必要な想定時間】

60分～120分
第２２回　絵本　ブックトーク　グループワーク
【key words】
絵本　ブックトーク

【授業概要】
自分自身が子どもたちの前に立ち、絵本を実演することを想定しながら、物語を相手に伝えるためにはどのようなポイントがあるのかを知る。また、前回の絵本のあり方について確認する。グループで一人一人が持参した絵本を読む。なぜこの絵本にしたのかや、対象年齢を言いブックリストをつくる。たくさんの絵本に触れ身近に感じる。

【教科書ページ・参考文献】
読み聞かせ　実践のコツ＆絵本の選び方・確認シート
レジュメ　岡部用意
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストで分からなかったことや、より知りたいことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分
第２３回　折り紙の実践⑤
【key words】
折り紙　児童文化財

【授業概要】
保育現場で扱うことが多い折り紙を折り、作品にする事で、より身近なものとすることを目的とする。スケッチブックを用意し、本講義終了までに12か月の折り紙を完成させる　計画的に進められるように、時間内に終わらなかったものは授業時間外にやっておくようにする。

【教科書ページ・参考文献】
ピコロ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間内に終わらなかったものは次回までに仕上げておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分
第２４回　児童文化を保育に生かすための教材について
【key words】
保育教材

【授業概要】
保育雑誌ピコロから保育教材を作成し、保育現場でいつでも使えるように練習する。

【教科書ページ・参考文献】
ピコロ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自必要なものは用意しておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分
第２５回　シアタースタイルの児童文化財　年齢別場面別プログラムの作り方
【key words】
児童文化財　年齢別プログラム

【授業概要】
子どもの発達を知り、年齢にあった手遊びなどを考え、実践的な児童文化財をもちいた保育内容を構成する。
就学前の子どもの育ちと文化的環境について。
子どもの発達やその時期にふさわしい児童文化財が整えられる環境づくりについて。

【教科書ページ・参考文献】
ことばと表現力を育む児童文化　萌文書林
楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分
第２６回　保育教材としての手作りおもちゃ①　各自製作
【key words】

手づくりおもちゃ　製作

【授業概要】
年齢にあった児童文化財を選び、場面構成や導入、子どもたちの声掛けの仕方などを学ぶ

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自必要なものは用意しておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第２７回　保育教材としての手作りおもちゃ②　各自製作　仕上げ
【key words】
手づくりおもちゃ　製作

【授業概要】

実践で使えるように丁寧に作業をし、仕上げる
授業時間内に終わらなかったものは次回の授業までに仕上げておく。
【教科書ページ・参考文献】

楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第２８回　保育教材としての手作りおもちゃ③　あそびの展開の仕方について
【key words】
手づくりおもちゃ　展開の方法

【授業概要】
保育教材としての手づくりおもちゃの意義を知り、ニーズにあったおもちゃを提供できるようにしておく。あそびの展開としては、対象年齢や導入の仕方・展開の方法を具体的に考えておくことで、対応できるようにしておく。レジュメにまとめる。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
展開方法を考えまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第２９回　折り紙の実践⑥
【key words】
折り紙　児童文化財

【授業概要】
保育現場で扱うことが多い折り紙を折り、作品にする事で、より身近なものとすることを目的とする。スケッチブックを用意し、本講義終了までに12か月の折り紙を完成させる　計画的に進められるように、時間内に終わらなかったものは授業時間外にやっておくようにする。

スケッチブック提出

【教科書ページ・参考文献】
ピコロ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
提出できるようにする
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第３０回　児童文化演習　まとめ　　児童文化財とをもちいた保育の実践　（保育者の専門性について）
【key words】
保育者の専門性

【授業概要】
通年で学んだことの振り返りをして、身につけてきた保育技術を発揮することが出来るように総復習する。
児童文化演習　まとめ　課題提出　実践方法の考察

【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題が提出できるようにしておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	発表に備えて計画的に製作等すすめておくこと。授業シラバスを確認し、積極的に授業に参加すること。他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。グループ活動も行うので協調性をもって参加すること。 授業に必要なものを事前に準備しておく。(材料などが揃っていないと授業にならないため)
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	自分自身が保育現場に立ち、児童文化財を用いた保育を展開している姿を想像しながら、演じたい作品を自らが選んだり、製作したものを色々な所で上演することで身に付けていく。また、時間内に完成しなかったものも、丁寧に自分自身のスキルアップのために完成させ、より自分のものにして欲しい。自分自身の幼少体験を思い出し、懐かしいおもちゃや絵本を見返したり、現在の絵本や玩具はどうなっているのかなど、話題を調べたり、実践的な体験を積みかさねてほしい。また、次回の授業の準備確認をし、必要な材料などを揃えておく。
オフィスアワー	授業終了30分
評価方法	授業時の課題など30%　グループ活動・発表30%　筆記試験40%を総合的に(出席状況、授業への参加態度・意欲、課題への取り組み、提出物、発表内容など)により総合的に評価する。
教科書	パネルシアターバッチリキット　ひかりのくに　阿部恵 ピコロ　学習研究社
参考書	パネルシアターやってみよう　実践講義　月下理恵著 ザ・パネルシアター　いきいき保育資料　阿部恵著 楽しさいっぱい！かんたんプチシアター　ポット編集部編 ベープサート大百科　阿部恵著 スケッチブックでシアター　阿部直美著 作って遊べるパネルシアター　後藤紀子著 保育いきいきパネルシアター　松家まきこ著 紙芝居のはじまりはじまり-紙芝居の上手な演じ方　右手和子/童心者 ことばと表現力を育む児童文化　萌文書林
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園・保育所勤務の経験をいかして、保育現場での実践方法を指導する。様々な事例を想定して対応できるスキルを身に着けられるよう演習を中心に行い知識・技術を指導する。 主に紙芝居の公演活動(様々な保育現場において)を行っている経験で、プログラムの立て方や子どもたちへの話し方、実際の上演方法を指導する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ（施設）　　授業コード：4415

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育実習における施設実習の意義と目的を理解し、施設保育士の倫理や役割を理解が深まる効果的な実習とするために必要な知識と態度を習得する。 【到達目標】 ①実習の意義と目的を理解し、実習生としての心得を身につけ実行できる。 ②実習施設の法的根拠、目的、利用児（者）の状況、１日の流れ、配置職員等を説明できる。 ③実習施設の利用児（者）に対する基礎的な支援方法を想定できる。 ④実習記録や関係書類を適切に記載することができる。
授業の概要	前期では、施設実習の意義と目的を確認し、様々な種別の実習施設について法的根拠、設置目的、業務内容等を広く学ぶ。さらに、事前学習として実習先へのボランティア活動を実施することで、実習施設についての理解を深めていく。 後期は、実習施設の概要や利用児（者）について理解した上で、実習計画書を作成する。また、実習日誌の書き方や関係書類の作成方法、実習オリエンテーションの対応方法や実習直前の再確認を行うなかで実習への意識を高めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（保育実習体系・授業概要・１年間の流れの確認） 【key words】 保育士資格　　保育実習Ⅰ（施設）　　保育実習指導Ⅰ（施設） 【授業概要】 保育士資格を取得するために必要な実習と実習教科目および実習のための要件について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ・ガイドブックＰ７～１２　　・授業計画 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ガイドブックと教科書の指示したページを読んでくること 【予習復習に必要な想定時間】 予習３０分
	第２回	施設実習の意義と目的・実習先種別の理解 【key words】 施設実習の意義　　施設実習の目的　　施設実習の内容　　児童福祉施設 【授業概要】 施設実習は、保育士養成課程における必修科目として保育実習Ⅰに位置づけられている。その意義と目的をりかいした上で、保育所以外の児童福祉施設（成人の福祉施設も含む）で働く保育士

の仕事への理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・ガイドブックＰ７～１２　　・教科書Ｐ８～１１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の「乳児院」に関するページ（p29,pp66-67）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第３回　実習施設の理解と実習内容①　乳児院
【key words】
乳児院　　社会的養護　　愛着形成　　担当制　　里親制度

【授業概要】
乳児院の概要や特徴を学び、子どもたちの自立支援をはじめとする施設の機能や、一人ひとりに合わせた支援について、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。また、入所の背景にある社会的問題についても考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ２９・Ｐ６６～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の「児童養護施設」に関するページ（p28,pp64-65）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第４回　実習施設の理解と実習内容②　児童養護施設
【key words】
児童養護施設　　社会的養護　　自立支援　　児童虐待
【授業概要】
児童養護施設の概要や特徴を学び、子どもたちの自立支援をはじめとする施設の機能や、一人ひとりに合わせた支援について、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。また、入所の背景にある社会的問題についても考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ２８・Ｐ６４～６５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の「児童相談所一時保護施設」に関するページ（p31,pp70-71）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第５回　実習施設の理解と実習内容③　児童相談所および一時保護所
【key words】
児童相談所　　一時保護所の機能　　守秘義務　　児童虐待　　児童福祉法

【授業概要】
一時保護所の概要と特徴を学ぶとともに、児童相談所の児童福祉司や児童心理司との連携、一時保護となる背景、一時保護所での生活について、とりわけ群馬県の状況を中心に概説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３１・Ｐ７０～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の「福祉型障害児入所施設」に関するページ（p32,pp72-73）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第６回　実習施設の理解と実習内容④　福祉型障害児入所施設
【key words】
福祉型障害児入所施設　　療育とは　　加齢児　　個別支援計画

【授業概要】
福祉型障害児入所施設の概要や特徴を学び、一人ひとりに合わせた食事・着脱・排泄などの日常生活動作（ＡＤＬ）の支援について、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。また、入所の背景にある社会的問題（養護上の問題）や退所にむけた自立の支援についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３２・Ｐ７２～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の「医療型障害児入所施設」に関するページ（p32,pp72-72）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第７回　実習施設の理解と実習内容⑤　医療型障害児入所施設
【key words】
医療型障害児入所施設　　多職種連携　　医療的ケア　　重症心身障害

【授業概要】
医療型障害児入所施設の概要や特徴を学び、一人ひとりに合わせた医療的視点を組み込んだ食事・着脱・排泄などのの支援について、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。また、言葉を使いこなせない利用者の思いを共感的に理解する支援や入所の背景にある社会的問題（養護上の問題）についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３２・Ｐ７２～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・実習用写真を学生課で１枚もらっておくこと
・自分の「長所・短所」「特技」を考えてくること
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第８回　実習生紹介表を書いてみよう
【key words】
実習生紹介表　実習生の心構え・マナー・礼儀

【授業概要】
実習生紹介表を記入するにあたり、実習生としての心構えや基本的態度について確認する。実習生紹介表が第一印象となることの重要性を理解し、それにふさわしい記入の文字や内容となるよう指導する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の「児童発達支援センター」に関するページ（p33,pp78-79）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第９回　実習施設の理解と実習内容⑥　児童発達支援センター
【key words】
児童発達支援センター　療育　就学支援　家庭との連携　並行通園

【授業概要】
児童発達支援センターの概要や特徴を学び、一人ひとりの障害特性に合わせた生活指導や療育プログラムについて、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。また、保育所等と連携する並行通園のあり方や、就学にむけた支援、家庭との連携についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３３・Ｐ７８～７９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の「障害者支援施設」に関するページ（p34,pp82-83）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第１０回　実習施設の理解と実習内容⑦　障害者支援施設
【key words】
障害者支援施設　障害者総合支援法　生活の質　余暇活動　高齢化

【授業概要】
障害者支援施設の概要や特徴を学び、一人ひとりに合わせた支援をうけながら、「家」として日々の生活を楽しみながら過ごすこと。入所者の高齢化が進み、医療との密接な連携や生活への配慮について、ＤＶＤ視聴も加えながら理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p34・Ｐ82～83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の「障害福祉サービス事業所」に関するページ（p35,pp84-85）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第１１回　実習施設の理解と実習内容⑧　障害福祉サービス事業所
【key words】
障害福祉サービス事業所　生活介護　就労移行支援　就労継続支援Ａ／Ｂ型
【授業概要】
障害福祉サービス事業所の概要や特徴を学び、障害のある人が働くことの意義を確認する。障害の有無にかかわらず、社会参加として作業や就労が位置づくことをＤＶＤ視聴も加えて理解する。さらに、職員が個々の障害特性に合わせてどのような配慮をして環境整備を行っているかという視点を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p35,pp84-85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備物は授業内で指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　障害のある子どもが楽しめるおもちゃを作ろう
【key words】
発達段階　楽しさ　興味関心

【授業概要】
障害のある子どもの発達段階を意識して、五感を使って家族とともに楽しめる遊び教材を手作りする（平成２８年度は「紙皿シアター」、平成２９年度は「パズル」を製作）。製作物は、たんぽぽ学園の子どもたちとの交流活動に参加する際のお土産として持参する。
【教科書ページ・参考文献】
別途、資料を準備します
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・児童発達支援センターの役割について復習しておく
・当日の諸注意をよく確認して臨むこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第１３回　児童発達支援センターでの体験学習
【key words】
児童発達支援センター　たんぽぽ学園　障害のある子との関わりのポイント

【授業概要】

毎年、たんぽぽ学園の園児との交流活動を実施している。園の概要を聞いてから、学生と園児の１対１で主に体を動かして楽しむ活動に参加する事前学習の一環である。
【教科書ページ・参考文献】
別途、資料を配付します
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践に参加しての学びと気づきについてレポートを提出
【予習復習に必要な想定時間】
レポート作成６０分

第１４回　実習施設概要書の作成
【key words】
実習施設概要書　　記載要領　　自主学習

【授業概要】
実習施設の設置目的、業務内容および支援の内容等、基本的な知識を自ら情報収集して記載することにより、理解を定着させる。不明な点については夏休みの事前ボランティアの際に、実習先で確認して記載すること。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ１０６～１１０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習ボランティアのときに情報収集しておくと書きやすい
【予習復習に必要な想定時間】
実習概要書の作成（夏期休業中の課題１２０分）

第１５回　夏期休業中の事前学習指導
【key words】
事前ボランティア（心構え・マナー等を含む）　　ボランティア日誌
【授業概要】
夏期休業中に、実習の事前学習として自主的にボランティアを実施するのが恒例となっている。このボランティアを実施することで、本番の実習が新しい場所・人・環境とならず緊張を緩和する効果が大きいためである。それに際して注意点や記録の書き方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ１０６～１１０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
夏季休業中の課題（実習施設概要書の作成、ボランティア日誌）
【予習復習に必要な想定時間】
前期の復習をしっかりして前期試験に臨むこと

第１６回　後期オリエンテーション　・　実習計画書作成の説明
【key words】
実習計画書　　実習目標　　目標達成のための方法　　事前学習

【授業概要】
実習計画書は、目的をもって実習を進めるために作成するもので、実習施設で何を学ぶのか（実習目標）と、どのように学ぶのか（目標を達成するための具体的方法や事前学習の内容）を明らかにするものである。記載要領をよく理解し、教員による添削指導を繰り返しながら完成させ、実習先に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・実習計画書を記入するにあたって実習先に関する資料があれば毎回持参すること
・実習で何を学びたいか、知りたいかを考えてくる
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第１７回　実習計画書の作成①　個別添削指導による加筆修正
【key words】
実習計画書　　実習目標　　目標達成のための方法　　事前学習

【授業概要】
実習計画書は、目的をもって実習を進めるために作成するもので、実習施設で何を学ぶのか（実習目標）と、どのように学ぶのか（目標を達成するための具体的方法や事前学習の内容）を明らかにするものである。記載要領をよく理解し、教員による添削指導を繰り返しながら完成させ、実習先に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
研究計画書の作成および随時修正
【予習復習に必要な想定時間】
計画書作成６０分

第１８回　実習計画書の作成②　完成　・　誓約書の記入
【key words】
実習計画書　　実習目標　　目標達成のための方法　　事前学習

【授業概要】
実習計画書は、目的をもって実習を進めるために作成するもので、実習施設で何を学ぶのか（実習目標）と、どのように学ぶのか（目標を達成するための具体的方法や事前学習の内容）を明らかにするものである。記載要領をよく理解し、教員による添削指導を繰り返しながら完成させて実習先に提出する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ１１２～１１７　　および　Ｐ１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・裁縫セット、名札作製の材料　を持参すること
・デザインを考えてくること

【予習復習に必要な想定時間】
予習・準備３０分

第１９回　実習の名札を作ろう

【key words】
安全への配慮　　わかりやすさ　　親しみやすさ
【授業概要】
保育実習（施設を含む）と幼稚園実習で使用する名札の作成方法と、配慮するポイントについて学び、実際に自らでデザインを考え、材料をそろえ、製作する。
【教科書ページ・参考文献】
別途、資料を配付します
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・グループ分けを前回の授業時に伝達するので、机の準備をしておいて下さい
・先輩に聞きたいことを考えてノートに書いてくること
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第２０回　先輩講話（前年度の実習生から話しを聴く）

【key words】
実習先理解　　不安感の軽減　　先輩の体験

【授業概要】
種別ごとのグループを作り、１グループに１人、先輩を招いて体験談を話してもらい、質疑応答によって実習先への理解を深めるとともに、不安感の軽減を図る。
【教科書ページ・参考文献】
使用しない
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書p90-91を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第２１回　実習日誌の書き方①　基本事項の確認

【key words】
実習日誌を書く意味　　記載要領　　考察とは　　ＰＤＣＡ

【授業概要】
概論として、実習日誌の目的と記録のポイント、記載する内容、記述の仕方を学び、各論としてポイントのつかみ方、誤字脱字や表現の注意、目標・考察・反省の書き方を理解する。理解を助けるために、プリント教材やＤＶＤの映像を観察して状況を記録する演習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９０～１０１　　ガイドブックＰ１２４～１２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内容の復習
【予習復習に必要な想定時間】
復習３０分

第２２回　実習日誌の書き方②　ＤＶＤを観て考察を記録する

【key words】
実習日誌を書く意味　　記載要領　　考察とは　　ＰＤＣＡ

【授業概要】
概論として、実習日誌の目的と記録のポイント、記載する内容、記述の仕方を学び、各論としてポイントのつかみ方、誤字脱字や表現の注意、目標・考察・反省の書き方を理解する。理解を助けるために、プリント教材やＤＶＤの映像を観察して状況を記録する演習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９０～１０１　　ガイドブックＰ１２４～１２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内容の復習
【予習復習に必要な想定時間】
復習３０分

第２３回　実習日誌の書き方③　話し言葉と書き言葉

【key words】
話し言葉　書き言葉　記載要領　誤字脱字　読みやすさ

【授業概要】
概論として、実習日誌の目的と記録のポイント、記載する内容、記述の仕方を学び、各論としてポイントのつかみ方、誤字脱字や表現の注意、目標・考察・反省の書き方を理解する。理解を助けるために、プリント教材やＤＶＤの映像を観察して状況を記録する演習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９０～１０１　　ガイドブックＰ１２４～１２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内容の復習
【予習復習に必要な想定時間】
復習３０分

第２４回　介護の基本技術

【key words】
支援の心構え　　支援のポイント（歯みがき・着脱・食事など）

【授業概要】
短期大学部の先生を講師に、利用者の介護にたずさわる際の基本的な留意事項について、実践を交えて学ぶ。実際の実習では、実習指導者に指示を仰ぎながらの実践となるので、技術より心構えやマナー、配慮のポイントを重点に理解しておく。
【教科書ページ・参考文献】

別途、資料を配付する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内容の復習
【予習復習に必要な想定時間】
復習３０分

第２５回　実習オリエンテーションについて（目的・電話のかけ方・諸注意）
【key words】
実習オリエンテーションの意義　訪問時の留意事項　確認や指導を受ける事項

【授業概要】
実習開始日のおおむね１ヶ月前から実習先でのオリエンテーションがある。日程や内容確認は、学生が実習担当者に連絡をとり調整する。訪問時の留意事項や確認・指導を受ける事項について、漏れがないように理解しておく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４８～５１　ガイドブックＰ２０～２２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・オリエンテーションの日程が決まったら報告書を提出し、必要に応じて公欠届を事務局に提出のこと。
【予習復習に必要な想定時間】
復習３０分

第２６回　実習関係書類（実習日誌　・　巡回用案内地図　・　後期試験の対応　・　自家用車使用届等）
【key words】
実習日誌、巡回地図、後期試験の対応、自家用車使用届、最近検査、健康診断書

【授業概要】
実習の前後において、様々な書類の作成・提出があるので、その記入や対応の方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ２２～２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個々でやるべきことを確実に遂行すること。とくに提出物について漏れがあると実習が行えない場合もある。
【予習復習に必要な想定時間】
復習３０分

第２７回　直前指導①　巡回指導への対応　細菌検査の説明　実習反省会
【key words】
巡回指導とは　細菌検査とは　実習反省会

【授業概要】
細菌検査の実施および提出方法、結果の受け取りと実習先への提出を理解し確実に実行する。巡回指導は、原則１回で、留意事項を理解しておく。実習反省会の形態も実習先によりさまざまであるが、臨む際の注意事項を理解しておく。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックＰ２２～２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内容の復習
【予習復習に必要な想定時間】
復習３０分

第２８回　直前指導②　こんなときどうする？トラブルシューティング
【key words】
報告・連絡・相談　心身の健康　学生事故補償制度

【授業概要】
実際に先輩たちが遭遇した事例などをもとに、判断に迷ったり困ったりしたときの行動について理解する。新しい環境での実習で心身の不調をきたす場合もあり、その予防と対策についても学ぶ。さらに、学生事故補償制度も理解しておく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ５２～５８・Ｐ１１６～１２２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内容の復習
【予習復習に必要な想定時間】
復習３０分

第２９回　直前指導③　種別グループ指導
【key words】
種別ごとの実習のポイントや配慮

【授業概要】
実習先の種別によって、学びの視点、実習のポイントや配慮事項は異なる。種別グループごとにミニレクチャーを行い、質疑応答を行いながら実習直前の不安軽減を図る。
【教科書ページ・参考文献】
種別ごとに資料を配布します
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個々で事前学習をしっかり行っておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
再度、実習先の種別について役割や機能を復習しておくこと

第３０回　直前指導④　実習終了後（礼状・日誌返却）の対応　直前最終チェック
【key words】
実習事後処理　礼状の書き方　自己評価　実習報告書

【授業概要】

	実習終了後、すみやかに事後処理を行うため、その意義や方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書・ガイドブックで重要事項の最終確認 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事後処理について、漏れのないよう実行すること 【予習復習に必要な想定時間】 後期の内容を十分に復習して後期試験に臨むこと
受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻や欠席は必ず事前に届け出ること。欠席分については補講が発生することがある。 ・実習関係書類を整理するためのファイルを用意すること。配布書類の予備は保管しないので出席者からコピーをすること。 ・書類の提出期限は絶対厳守。 ・日常の学校生活における身だしなみや礼儀作法など、実習生となるのに相応しくないと認められた場合は、実習が中止されることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・「障害児保育」「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「社会的養護」の科目と関連が深いので、いずれも積極的に学んでおく。 ・日頃から新聞やニュースの情報で「虐待」「貧困」「障害」などの語句に敏感になり、情報を得る努力をしておくこと。
オフィスアワー	水曜(14:30～17:30)
評価方法	定期試験７０％　　提出物状況（期限厳守・内容）３０％
教科書	１　群馬医療福祉大学　実習ガイドブック　群馬医療福祉大学２０１６ ２　施設実習パーフェクトガイド　わかば社２０１９
参考書	福祉小六法編集委員会『福祉小六法』　みらい２０１７
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育社会学　　授業コード： 5011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・必修／児童福祉コース・選択
担当教員			
木部　日出雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 子どもの社会化過程を中心に、具体的な教育事象について社会学の視点から考察する。 〔到達目標〕 ・子どもが家庭・学校・地域社会といった各集団を通して社会化されていく過程を具体的に把握できる。 ・各回の具体的な教育事象に興味・関心を持ち、それに即した身近な事例をとらえることができる。
授業の概要	・教育社会学の研究成果をもとに、教育と社会との相互関係を実証的・客観的に考察する。 ・親・教師・子どもの相互行為としての教育、教育に対する社会の影響、教育の社会に及ぼす影響等について考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション ー子どもの発達と社会化（人間の発達と社会、子どもの社会化過程の概要の把握） 【key words】 社会化、成長・発達、敏感期、発達課題 【授業概要】 講義の初めとして、教育社会学とは何かについて概要を理解し、次いで人間の発達と社会、子どもの社会化過程についてその概要を知り、今後の学習の見通しを持つ。 【教科書ページ・参考文献】 2ｐ～18ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもの社会化過程について、詳しく考察していこうとする心構えを持つ。次回に向けて教科書20ｐ～37ｐを読み、自身が幼い頃に家族から受けた様々な影響について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 １時間程度
	第２回	家族集団と子どもの社会化（家族における親からの社会化、現代における家族の社会化をめぐる諸問題の考察） 【key words】 家族集団、父親不在、母親不在、しつけモデル、育児不安 【授業概要】 運命的な出会いの集団である家族において、親からの社会化について学び、現代社会において指摘される「父親不在と母親密着」「母親の就業と母親不在」「しつけモデルの喪失」「育児不安」など、社会化をめぐる諸問題について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 20ｐ～37ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現代社会における家族集団のありようが子どもの社会化に与える影響について考える。次回に向けて教科書38ｐ～52ｐを読み、自身が幼い頃仲間集団から受けた影響について想起する。

【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第３回　仲間集団と子どもの社会化（子どもの仲間集団の特徴、その変容、変容の背景と変容がもたらす諸問題の考察）

【key words】
自発的選択性・対等性・流動性、重要な他者、一般化された他者
【授業概要】
子どもの仲間集団の特徴について理解し、仲間集団の現代的状況として「仲間集団の変容」「変容の背景」「遊びの変化」「変容がもたらす社会化の問題」について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
38ｐ～52ｐ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
仲間集団の変容と社会化の諸問題について考える。次回に向けて教科書53ｐ～66ｐを読み、自身の近隣集団とのかかわりについて想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第４回　近隣集団と子どもの社会化（地域社会の社会化機能と現代の弱体化傾向、その克服を目指した活動事例について考察）

【key words】
近隣集団、水平的関係、垂直的関係
【授業概要】
地域社会における社会化機能について理解し、現代社会における地域社会で「社会化機能の弱体化」の傾向と現在みられる「地域集団の子どもを対象にした活動事例」について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
53p～66p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
現在、各地域で行われている子どもを対象にした各種活動が子どもの社会化に及ぼす影響について考える。次回に向けて教科書67p～70pを読み、自身の経験した学校集団について想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第５回　学校集団と子どもの社会化（1）　ー学校の構造と組織ー（学校集団について教員、児童生徒の関係から考察）

【key words】
行政制度、社会制度、集団意識、組織体、校務分掌組織
【授業概要】
「学校」について「制度」「集団」「組織」の面から考察し、さらに「学校集団の構造と組織」について「教員」「児童生徒」及び「教員と児童生徒との関係」の観点から考察する。
【教科書ページ・参考文献】
67p～70p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
意図的な社会化機能をもつ「学校」についてその構造と組織を考察し、自身の体験も重ねて整理する。次回に向けて教科書71p～80pを読み、学校集団の社会化機能について考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第６回　学校集団と子どもの社会化（2）　ー学校集団の社会化機能ー（学校集団における顕在カリキュラムと潜在カリキュラムの考察）

【key words】
制度的カリキュラム、隠れたカリキュラム
【授業概要】
学校集団における子どもの社会化について、教育の対象、目的、内容、方法及び社会の成立と存続に欠かせない機能を有することを考察し、学校集団による社会化は顕在するカリキュラムによって行われるとともに潜在的なカリキュラムによっても行われることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
71p～80p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
隠れたカリキュラムについて、具体的にどのようなものがあるか挙げてみる。次回に向けて教科書93p～106pを読み、テレビ、新聞等の子どもたちへの影響について考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第７回　マス・メディアと社会化環境（子どもの生活におけるマス・メディアの影響、その対応策について考察）

【key words】
マス･メディア、印刷メディア、電波メディア、疑似環境
【授業概要】
現代社会とマス･メディア、子どもの生活におけるマス･メディアの影響について考察し、マス･メディアへの対応について考える。
【教科書ページ・参考文献】
93p～106p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
身近なマス･メディアである新聞や雑誌、テレビ等に、自身はどのような影響を受けているか、具体的に考えてみる。次回に向けて教科書107p～122pを読み、ニューメディアにどのようなものがあるか挙げてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第８回　ニューメディアと子どもたち（ニューメディアの特徴、メディアリテラシー教育の必要性、情報化社会の諸問題の考察）

【key words】
ニューメディア、ネットワーク化、マルチメディア化、モバイル化、メディアリテラシー、情報モラル
【授業概要】
ニューメディアの特徴、様式等について理解し、情報化社会の諸問題と主な対策として「メディ

		アリテラシー教育の必要性」「コンピュータウイルスや同犯罪に対する心構え」「情報モラル」「個人情報の保護」について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 107p～122p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ニューメディアの一つ「スマホ」の活用と注意すべき点は何か具体的に考え、特に「ﾒﾃﾞｨｱﾘﾃﾗｼｰ教育の必要性」を把握する。次回に向けて124p～138ｐを読み、最近の少年非行について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第９回	社会の変動と少年非行（逸脱行動、非行について理解し、現代の少年非行の特徴と原因について考察） 【key words】 逸脱行動、初発型非行、被害者なき犯罪 【授業概要】 逸脱行動、非行とは何かについて理解し、現代の少年非行の特徴及びその原因について資料を基に考察する。 【教科書ページ・参考文献】 124p～138ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 逸脱行動、非行の意味について理解し、現代の少年非行の特徴、原因について考える。次回に向けて教科書154ｐ～166ｐを読み、身近に不登校の事例はなかったか想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１０回	現代社会の不登校とひきこもり（不登校等の現状と推移、社会的背景、友人関係や支援の仕方等について考察） 【key words】 不登校、居場所づくり、進学・就職支援 【授業概要】 不登校の現状や推移について知り、その増加の社会的背景について考え、社会学の視点からのとらえ方、友人関係及び必要とされる支援の在り方について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 154p～166p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校基本調査等の資料から不登校児童生徒の現状や推移について読み取り、その友人関係や支援の仕方について考える。次回に向けて学校生活における安全上の課題について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 50分程度
	第１１回	学校安全の必要性（学校管理下における事件･事故･災害の実情と危機管理・事故対応について考察） 【key words】 危機管理 【授業概要】 学校管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえて、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無　参考書：渡邉正樹編著「学校安全と危機管理」(改訂版)大修館書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身のこれまでの学校生活を振り返り、学校の管理下で発生した事件・事故等について理解し、次回に向けて学校の安全管理・安全教育上の課題について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１２回	学校の安全管理・安全教育（生活安全・交通安全・災害安全及び新たな安全上の課題についての考察） 【key words】 安全管理、安全教育、学校保健安全法 【授業概要】 生活安全、交通安全、災害安全の各領域や新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組ついて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無　参考書：渡邉正樹編著「学校安全と危機管理」(改訂版)大修館書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 危機管理を含む学校安全の目的、具体的な取組を理解する。次回に向けてコミュニティ・スクールについて調べてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１３回	学校と地域の連携･協働による教育（開かれた学校づくり推進の経緯、コミュニティ・スクールについて考察） 【key words】 開かれた学校、コミュニティ・スクール 【授業概要】 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯について理解するとともに、現在推進されているコミュニティ・スクールについて、その目的と内容、現状等について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無　参考文献：文部科学省資料「コミュニティ・スクール」、貝瀬　滋著「図説コミュニティ・スクール入門」一藝社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 コミュニティ・スクールについて目的、内容、現状等について理解する。次回に向けて諸外国の教育事情について見聞きしたことを想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度

	第１４回　国際化する社会と教育（国境を越えた教育流動とアメリカ・中国等諸外国の教育事情についての考察） 【key words】 ミドルスクール運動（アメリカ）、課程標準（中国） 【授業概要】 近年の教育政策の動向及び諸外国の教育事情や教育改革の動向について考察する。諸外国としてはアメリカ、中国等を取り上げる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無　参考文献：二宮　晧編著「新版　世界の学校」学事出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 民主主義国としてのアメリカ、社会主義国としての中国の教育事情等について理解し、関心のある他の国の様子について調べてみる。次回に向けて身近な生涯学習の事例について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 第１５回　生涯学習社会の展望（生涯学習の歩みと現状、学習のボーダレス化等についての考察） 【key words】 生涯学習、経験知、専門知 【授業概要】 生涯学習について、社会教育→生涯教育→生涯学習と歩んできた日本の状況を学び、学習のボーダレス化について考察する。事例として「江戸川総合人生大学」等を取り上げ、日本の生涯学習の今後について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無　「江戸川総合人生大学」等の事例を示す資料配付　参考文献：岩永雅也･稲垣恭子編著「新版教育社会学」放送大学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 私たちはなぜ学校教育を終えてからも生涯にわたって学び続けようとするのか、「生涯学習」が学びの在り方そのものを変化させてきているのではないか、ということについて考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかり理解するように努めること。 ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。なお、配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。 ・教育に関し社会問題化している報道等に幅広く関心を持ち、常に問題意識を持って受講すること。 ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。 ・授業中携帯電話、スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること） ・授業中、私語は慎むこと。なお、飲食は禁止します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・各回のテーマに即してあらかじめ新聞報道等を読み、問題意識を持って講義に臨むように努めること。
オフィスアワー	火曜　9時30分～10時10分　それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。
評価方法	・筆記試験の成績の結果を主とする（90%） ・受講後の感想や質問内容を加味する（10%）
教科書	住田正樹・高島秀樹（編著）「変動社会と子どもの発達ー教育社会学入門」北樹出版　最新版
参考書	加野芳正・越智康詞（編著）「新しい時代の教育社会学」ミネルヴァ書房　最新版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小・中学校教諭・校長及び教育行政官（指導主事、指導係長、学校教育課長、指導部長）として勤務した。この経験を活かし、教育学、教育社会学の理論を、学校現場等の実際の状況と関連付けて具体的に分かりやすく講ずる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護技術Ⅰ　　授業コード：5041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	選択
担当教員			
辻　志帆			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 介護を必要としている人たちに、尊厳をもってその人らしい生活が送ることができるように、適切な支援が提供できるための、知識や技術を習得し実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 介護とは何か。介護の意義と役割を理解。日常生活に必要な介護技術を習得。介護における安全確保と危機管理を理解。
授業の概要	介護技術の基礎知識、介護と生活支援の関係、生活行為に関連した高齢者の生活支援に焦点をあて、介護の根拠を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　ガイダンス　介護とは・介護技術の基礎知識① 【key words】 授業内容を理解する。　演習時の実習室の使用上の注意事項の説明 【授業概要】 授業に対する意欲を促す。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　介護とは・介護技術の基礎知識②　（生活行為に関連したこころとからだのしくみ） 【key words】 介護とは何か、日常生活を送る上で様々な場面における支援方法を理解する。 【授業概要】 介護は実践学で、介護の質は実践力が大きく影響し、介護技術も重要である。介護の理念を具体化する技術の意味や展開する姿勢を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１～６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３回　人間関係を形成する技術①　（身体機能低下が及ぼす生活への影響）

【key words】
介護の基礎知識を理解する。

【授業概要】
介護は実践学で、介護の質は実践力が大きく影響し、介護技術も重要である。介護の理念を具体化する技術の意味や展開する姿勢を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p６～１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　人間関係を形成する技術②　（生活環境の整備）
【key words】
介護の基本であるボディメカニクスの重要性を理解する。

【授業概要】
人間の身体機能は、活動していることで機能が健康的に維持されている。生活行為の基本になっているのが、身体のボディメカニクスであることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１１８～１２７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　人間関係を形成する技術③　（居室環境の整備・ベッドメーキング）
【key words】
居室環境の整備の必要性を理解する。

【授業概要】
快適なベッド生活を送るためには、シーツを崩れにくく、寝心地がよく、見た目も美しいベッドを作成する必要性を学ぶ。シーツのたたみ方については清潔と手早さを重視することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　人間関係を形成する技術④　（居室環境の整備・ベッドメーキング・シーツ交換）
【key words】
居室環境の整備の必要性を理解する。

【授業概要】
快適なベッド生活を送るためには、シーツを崩れにくく、寝心地がよく、見た目も美しいベッドを作成する必要性を学ぶ。シーツのたたみ方については清潔と手早さを重視することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　自立に向けた移動の介護①　（移動の意義と目的）
【key words】
高齢者の心身の状況を把握し、生活行為のための移動。移乗動作があるということを理解する。

【授業概要】
移動・移乗動作援助の原則を理解し、ベッド上での水平移動を学ぶ。寝返り・起き上がり動作を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１２７～１３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　自立に向けた移動の介護②　（車いすの種類、操作の理解）
【key words】
車いすの各部の名称・車いすの種類・車いすの移乗方法を理解する。

【授業概要】
車いすの各部の名称や車いすの種類、車いすの移乗方法を学ぶ。車いすの操作に慣れる。段差の上がり方、降り方を学ぶ。砂利道や急な坂道の場合の介助方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１３４～１３８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　自立に向けた移動の介護③　（車いすの種類、操作の理解）
【key words】
車いすの移乗方法を理解する。
【授業概要】
車いすの各部の名称や車いすの種類、車いすの移乗方法を学ぶ。車いすの操作に慣れる。段差の上がり方、降り方を学ぶ。砂利道や急な坂道の場合の介助方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１３４～１４０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　自立に向けた移動の介護④　（歩行の介助）
【key words】
杖歩行の動作歩行を理解する。
【授業概要】
杖歩行の方法を学ぶ。階段の昇降、障害物をまたぐ方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１４１～１４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　自立に向けた移動の介護⑤　（安楽な姿勢、良肢位の理解）
【key words】
安楽な姿勢の重要性と保持の援助方法を理解する。

【授業概要】
安楽な姿勢の保持の原則を学ぶ。転倒予防の重要性を学ぶ。視覚障害者への介助の留意点を学ぶ。認知症の人への移動介助の方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１４５～１５０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護①
【key words】
前期実技試験の課題を理解する。

【授業概要】
グループ別に練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
次回は入浴介助を実施するので、タオル1本、バスタオル1枚必ず持ってくるよう伝える。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護②
【key words】
安全・安心で的確な入浴介助方法を理解する。

【授業概要】
入浴の意義や目的を学ぶ。入浴に関するアセスメントのポイント、安全で的確な入浴の援助方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１７７～１８２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護③
【key words】
特殊浴槽の場合の援助方法と一般浴の場合の援助方法を理解する。

【授業概要】
特殊浴槽と一般浴の介助方法を学ぶ。入浴後は、体調確認をし、水分補給をする。皮膚には、保湿剤を塗布し、乾燥を防ぐ。爪の手入れを行う。必要があれば福祉用具の活用もする。
【教科書ページ・参考文献】

p１７７～１８２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　前期のまとめ
【key words】
前期の振り返り

【授業概要】
前期の振り返りをする。前期実技試験の練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
次回は清拭をするので、タオル1本とバスタオル1枚必ず持ってくることを伝える。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護③
【key words】
清拭の方法を学ぶ。

【授業概要】
全身清拭と部分清拭の仕方を学ぶ。足浴を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
p１８２～１８６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　自立に向けた身じたくの介護①
【key words】
整容行動、衣生活を調整する。介護の工夫の必要性を理解する。

【授業概要】
身だしなみの意義、目的を学ぶ。高齢者の特徴を学ぶ。衣服の脱健着患を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１８７～１９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　自立に向けた身じたくの介護①
【key words】
衣服の着脱の基本は、脱健患脱である。基本にそって実施する。

【授業概要】
衣服の選択方法や着脱の留意点をよく把握し、着替えを実施する。感覚低下の人の場合、介助の留意点を考慮し、介助をする。様々な障害の場合を想定し、各グループで練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１８７～１９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　自立に向けた排泄の介護①
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで行う介助であることを理解する。

【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。ポータブルトイレの支援方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　自立に向けた排泄の介護②
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで

行う介助であることを理解する。
【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。差し込み便器の介助方法を学ぶ。オムツの当て方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　自立に向けた排泄の介護③
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで行う介助であることを理解する。
【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。オムツ交換を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　睡眠の介護①
【key words】
睡眠環境を整える支援の留意点を把握する。不眠状態にある人への援助方法を理解する。

【授業概要】
睡眠に関するアセスメントのポイントや安眠を促す介助の方法、不眠状態にある人への援助等々を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１９８～２０２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　自立に向けた食事の介護①
【key words】
食事の意義や身体を健康に保持することの重要性を理解する。

【授業概要】
食品の栄養素・調理方法を学ぶ。身体構造も理解し、咀嚼・嚥下のメカニズムを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１５１～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　自立に向けた食事の介護①
【key words】
食事の意義や身体を健康に保持することの重要性を理解する。

【授業概要】
食事の重要性を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１５１～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　総合生活支援技術①
【key words】
後期実技試験の課題を理解する。

【授業概要】
グループ別に練習をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習、練習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　総合生活支援技術①
【key words】
後期実技試験の課題を理解する。
【授業概要】
グループ別に練習をする。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２７回　家政的管理技術 【key words】 家政的管理方法を理解する。 【授業概要】 人間の精神的、身体的、技術的、社会的営みであり、その基本には、配慮と管理の働きが存在していることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２９７～３１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２８回　家政的管理技術 【key words】 家政的管理方法を理解する。 【授業概要】 人間の精神的、身体的、技術的、社会的営みであり、その基本には、配慮と管理の働きが存在していることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２９７～３１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２９回　学生の振り返り（介護の考え方、介護を適切に行う能力と姿勢とは何か） 【key words】 1年間の振りかえり　・　後期の実技試験の練習 【授業概要】 1年間の振り返り、技試験の練習・実施をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　まとめ（総括） 【key words】 1年間の振りかえり　・　後期の実技試験の練習 【授業概要】 実技試験の練習・実施をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	講義中の迷惑な行為、私語、携帯電話の使用は厳禁。演習時の教材の準備、後片付けは各グループで協力して行う。 教材は大切に使用し、整理・整頓を心掛ける。 演習時は学校指定のジャージを着用すること。イヤリング、ネックレス、腕時計はつけないこと。長い髪は束ねること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	介護は幅広い多面的な知識と人との関わりが重要である。授業だけではなく実習やボランティア等で学んだことを活かし、総合的な視点で利用者を支援することが大切である。
オフィスアワー	初回の授業時、周知する。
評価方法	授業態度：20%、筆記試験・実技試験：80%
教科書	新　大学社会福祉・介護福祉講座　介護技術論
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	介護施設にて介護実務の経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教職概論　　授業コード：5061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・必修／児童福祉コース・選択
担当教員			
木部　日出雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 「教職の意義及び教員の役割」や「教員の職務内容」について考察し、理解する 〔到達目標〕 ・教職の専門性及び教師に求められる資質・能力について理解できる。 ・各回の学校教育に関する事象に関心を持ち、具体的な事例をあげることができる。 ・自分自身の理想的な教師像についてイメージすることができる。
授業の概要	・学校教育の概要について学習し、教員の使命や服務義務について理解する。 ・日本の近代教育の成立から今日までの変遷をたどり、教育の今日的課題について考察する。 ・これからの時代に求められる教師像について考察し、自分自身の考えをもつ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション ー教師とは何か （教師の役割、資質能力、優れた教師等についての考察） 【key words】 教師、教員、教職員、教諭、資質能力 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明　「教師」という言葉の意味・概念、教師に求められる役割、優れた教師の条件、教師の資質能力について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 16p～29p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の理想的な教師像をイメージできるような心構えを持つ。次回に向けて教科書66p～99pを読み、自身の受けた学習指導の状況を想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第２回	学習指導（1）ーカリキュラムを作成する（教師の仕事の中核をなす学習指導、基盤となるカリキュラムの編成の考察） 【key words】 カリキュラム、教育課程の編成・管理、学習指導要領の改訂 【授業概要】 教師の仕事の中核をなす学習指導とその基盤であるカリキュラムの編成について、カリキュラムと学校の教育課程、学習指導要領及びその改訂の観点から考察する。

【教科書ページ・参考文献】
66p～99p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際の学校の教育課程をみてカリキュラムについて具体的に理解し、その基盤である学習指導要領とその改訂の変遷について理解する。次回に向けて教科書100p～116pを読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第３回　学習指導（2）ー授業力をつける（学力の現状と授業力が問われる背景、授業力の要素等についての考察）
【key words】

学力、授業力の要素、教材解釈、教材開発、授業評価

【授業概要】
教師の資質能力と専門性に負うところの大きい「良い授業をつくる力」について、子どもの学力の現状、授業力が問われる背景、授業力の要素、授業力をつけるという観点から考察する。
【教科書ページ・参考文献】
100p～116p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業力について、模擬授業を想定して具体的に理解し、自身の改善点について考える意欲を持つ。次回に向けて教科書32p～56pを読み、生徒指導上の課題について考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第４回　生徒指導ー子どもの心理と行動（児童生徒理解に必要な発達段階に応じた心理状態や行動様式の考察）
【key words】

発達課題、適応、不適応、生徒理解、問題行動、規範意識

【授業概要】
児童生徒を理解する上で必要な発達段階に応じた心理状態や行動様式について、学校生活における適応、不適応、生徒理解、問題行動の現状等の観点から考察し、問題行動に対する指導の在り方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
32p～56p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
生徒指導の基盤である生徒理解について、その視点や方法を具体的に理解する。次回に向けて教科書56p～64pを読み、自身の経験した学級集団について想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第５回　学級の経営ー集団で指導する（学級担任の学級集団づくりを学級活動との関連で経営的側面から考察）
【key words】

学級経営、学級活動、学級集団
【授業概要】
教師が学級担任として直面する学級集団づくりについて、学級担任の仕事、学級経営と学級活動、学級活動と学級集団づくりといった観点から考察し、学級経営における生徒指導の在り方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
56p～64p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学級集団づくりは、児童生徒一人一人の人間的成長に関わる教師の重要な仕事であることを理解する。次回に向けて教科書152p～158p、167p～173pを読み、自身が経験した教師の様子を想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第６回　学校の組織（校務分掌、職員会議、運営委員会等の組織・機能を理解し、学校運営への参画について考察）
【key words】

校務分掌、職員会議、企画調整会議（運営委員会）、教育環境の醸成、学校組織機能の向上

【授業概要】
現在の学校の組織・構造について、校務分掌、職員会議、企画調整会議、学校運営への参画といった観点から具体的に考察する。
【教科書ページ・参考文献】
152p～158p、167p～173p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校組織と構成員の役割について知り、教師がチームを組んで学校運営に当たっていることを理解する。次回に向けて教科書158p～167pを読み、組織体としての学校について考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第７回　学校の運営（学校は教育目標の具現化を目指し、常にP-D-C-Aｻｲｸﾙによって運営を改善）
【key words】

学校の教育目標、学校経営計画、学校評価、自己申告制度、人事考課制度

【授業概要】
学校は、全教育活動を通じて学校の教育目標の具現化を目指し、学校経営計画を立案し、P-D-C-Aサイクルによって内部評価、外部評価を行い、学校運営の改善を図っている。教職員は自己目標の設定と自己評価等によって学校運営に協力することが重要であることを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
158p～167p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「学校は組織体であり、教員は学校組織の一員である」ということの意味について具体的に理解する。次回に向けて教科書118p～132pを読み、教員の養成について考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第８回　教員の養成と任用（教員の養成、専門職性の向上、任用等は、国・地方公共団体が法令に基づき実施）

【key words】

県費負担教職員制度、教育委員会制度、教員免許状、教員免許更新制

【授業概要】
国や地方公共団体が法令に基づいて教育政策や施策を決定・実施していることを教育行政の仕組みを通して考察し、教員の養成、教職の専門職性、教員の資格、教員免許状、教員免許更新制及び任用について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
118p～132p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教員になるための条件、専門職性や資格の取得、任用の在り方について理解を深める。次回に向けて教科書132p～138pを読み、教員研修にはどのようなものがあるか知っておく。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第９回　教師の資質向上と研修（教員の力量形成、職能成長等を図るための様々な研修について考察）

【key words】

学校管理職研修、教職経験者研修、初任者研修、職務研修、校内研修

【授業概要】
教員は、それぞれの職能、専門分野、能力、適性、興味・関心等に応じて、常に資質能力を向上させる必要があり、そのため「絶えず研究と修養に努めなければならない」と規定されている。このことを教師の資質能力のとらえ方、力量形成と研修、職能成長と研修、研修の種類といった観点から考察する。
【教科書ページ・参考文献】
132p～138p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育公務員と地方公務員の研修についての規定の違いについて理解する。次回に向けて教科書138p～150pを読み、教員の服務義務等の規定について知っておく。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１０回　教員の服務制度と勤務条件（教育公務員の採用と任免、身分上・職務上の義務、勤務条件等を考察）

【key words】

任免、服務義務、分限、懲戒、時間外勤務

【授業概要】
公立学校教員の採用と任免、服務義務、身分保障と分限・懲戒、勤務条件といった点について考察し、身分上も職務上も厳しい基準が設けられているが、それによって教員としての身分が守られていることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
138p～150p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
服務義務の学習では、法令で示されている義務・禁止・制限について具体的事例を通して理解する。次回に向けて教科書152p～155p、234p～239pを読み、戦前期の教師像について考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１１回　時代の流れと教師像の変遷（1）ー戦前期の学校教育と教師像（明治期～大正・昭和期まで）

【key words】

寺子屋、学制、被仰出書、森有礼、聖職教師像、国民教育、沢柳政太郎

【授業概要】
様々な歴史性を帯びて存在する教師像について、近代学校成立以前の教師、近代学校成立と教師、定型的教師像の誕生、ファシズム期の教師像という観点から戦前期における教師像について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
152p～155p、234p～239p　　参考文献：秋田喜代美・佐藤　学編著「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
江戸・明治期から第二次世界大戦までの間、教師像はどのように変遷してきたかについて理解する。次回に向けて教科書240p～256pを読み、戦後の教師像の変化を考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

	第１２回　時代の流れと教師像の変遷（2）ー戦後教育改革と教育の普及（戦争直後～現在と今後） 【key words】 教育使節団、日本国憲法、教育基本法、学習指導要領、中央教育審議会、臨時教育審議会 【授業概要】 戦後、教育法制、学校制度等の改革、第三の教育改革といった教育改革が進められる中で、教師像はどのように変遷してきたかについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 240p～256p　参考文献：秋田喜代美・佐藤　学編著「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 戦後の教育改革の流れとその中における教師像の変化についてとらえる。次回に向けて教科書176p～187pを読み、道徳教育の変化について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 第１３回　教育の今日的課題（1）ー道徳教育の充実（「特別の教科 道徳」について、その概要と要請の背景について考察） 【key words】 道徳教育、「特別の教科　道徳」 【授業概要】 教育の今日的課題の一つである道徳教育、特に「特別の教科　道徳」について、中教審答申及び学習指導要領（一部改正）を基に、その概要とそれが要請された背景について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 176p～187p　配付資料：平成26年中教審答申、平成27年「学習指導要領解説　道徳編」等（抜粋） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校の全教育活動を通じて行う道徳教育と「特別の教科　道徳」の目標、内容の概要を理解した上で、なぜそれが教育の今日的課題なのかについて考える。次回に向けて小学校の外国語教育に関する資料を探してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 第１４回　教育の今日的課題（2）ー小学校の外国語教育（これまでの成果と課題、目標の改善、概要等） 【key words】 コミュニケーション能力 【授業概要】 学習指導要領改訂の中で大きな変化の一つである小学校における外国語教育について取り上げ、これまでの成果と課題、目標の改善等について理解し、今後の方向性について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書に該当ページ無　配付資料：平成28年12月中教審答申、平成29年3月改訂学習指導要領、同年７月初等教育資料（抜粋） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小学校における外国語教育が改訂されたポイントと理由について考える。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 第１５回　教育の今日的課題（3）ーチーム学校運営への対応（チーム学校運営の事例、今後の方向性等） 【key words】 学校組織マネジメント 【授業概要】 学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の教育資源が一体的にマネジメントされ、教職員のほか多様な人材が専門性を生かし、能力を発揮して、子どもたちに必要な資質能力を確実に身に付けさせることができる「チームとしての学校」になることが求められていることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書に該当ページ無　配付資料：文科省「チーム学校運営の推進等に関する法律案概要」「チームとしての学校の在り方（要約）」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校を取り巻く環境の変化に伴って、学校運営の在り方にも変化が求められている。こうした中で、これからの教師はどうあるべきか、教職に就く心構えについて考える。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかり理解するように努めること。 ・配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。 ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。 ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。 ・授業中携帯電話､スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること） ・私語は慎むこと。授業中の飲食は禁止します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞報道等の教師に関する記事などに関心を持ち、各回のテーマに即して問題意識を持って講義に臨むように努めること。毎回、次回の授業に該当する教科書のページを読み、予習しておくこと。
オフィスアワー	火曜　9時30分～10時10分　それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。

評価方法	・筆記試験の成績の結果を主とする（90%） ・受講後の感想や質問の内容を加味する（10%）
教科書	佐藤　徹（編著）「教職論ー教職に就くための基礎・基本ー」東海大学出版　最新版
参考書	秋田喜代美・佐藤　学（編著）「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ　最新版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小・中学校教諭・校長及び教育行政官（指導主事、指導係長、学校教育課長、指導部長）として勤務した。この経験を活かし、教育学、教育社会学の理論を、学校現場等の実際の状況と関連付けて具体的に分かりやすく講ずる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉科教育法　　授業コード： 5071

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 高等学校教科「福祉」の教育法について学び、いかに授業を構成していくべきかを考察し、模擬授業を通して、教育実習に向けた実践力を身につける。 【到達目標】 １．高校生が教科「福祉」を学ぶ意義を理解する。 ２．興味をもって学べるような授業を目指して、教科「福祉」の指導内容とその取扱いについて理解する。　３．「福祉」を考える教員として必要な資質を育む。
授業の概要	「福祉科教育法」では、高校生に対し「福祉」についていかに理解させるかといった教育実践上の視点、留意点、その教育方法と教材の仕方に関して学ぶ科目である。しかしながら、自分自身も社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底になければならない。この授業では、教科「福祉」の指導法を学ぶことの意義･役割について学ぶことを目的とするとともに、今日の社会福祉の動向を的確に把握し、何を生徒に伝えるべきかを考える授業とする。 １．福祉科教育の意義と福祉科教員の役割 ２．新学習指導要領に基づく教科「福祉」の指導内容とその取扱 ３．学習指導案の作成と模擬授業の実施

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 自分のことを知ってもらう（プロフィール票の作成･提出） 【key words】 自分を知ってもらう 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する。 教員としても福祉援助者としても必要なコミュニケーション能力の第一歩である「自分のことを知ってもらう」ことについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業時に配付するプロフィール票の作成 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第２回	障害者の理解、DVD 視聴（ 障害者の自立について）　（感想文を提出） 【key words】 障害者の自立　筋ジストロフィー　難病 【授業概要】

		社会福祉の援助の対象となる方への正しい理解は、福祉援助者としても、また援助者を養成する福祉科教員としても身につけるべき資質である。このことについて考察する。援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る 専門職者としての役割をレポートにまとめる 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の障害者観について考えてみる　筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第３回	対人援助技術の原則（コミュニケーション技術） 【key words】 ソーシャルワーカー　バイスティック 【授業概要】 場面にあわせた援助の原理原則についてバイスティックの７原則をもとに考察する 【教科書ページ・参考文献】 バイスティックの７原則に関する資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 バイスティックについて事前に調べておくこと（予習）原理原則をまとめる（復習） ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第４回	コミュニケーションスキルを磨く･演習とビデオ視聴（コミュニケーション技術） 【key words】 コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク 【授業概要】 援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ 映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第５回	伝達について（コミュニケーション技術） 【key words】 図形伝達　言語コミュニケーション　非言語コミュニケーション　コミュニケーション手段 【授業概要】 図形を言語コミュニケーションのみで伝達し、その難しさを体験する 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 話す側・聴く側の態度についても学ぶ 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第６回	信頼関係を結ぶ面接技術とは 【key words】 面接技術　ラポール　信頼関係 【授業概要】 信頼関係を結ぶ面接技術について映像を通して学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 普段の生活における自分の言動行動について考える 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第７回	コンセンサス（合意）について（コミュニケーション技術） 【key words】 コンセンサス 【授業概要】 グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ 演習を通して学んだことをレポートにまとめる 【教科書ページ・参考文献】 演習（ゲーム）の資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間

	第８回	家族について考える　DVD 視聴 【key words】 エンディングノート　終末医療　終末介護　家族　社会保障 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備】 家族についてあらためて考えてみよう 【授業概要】 映像を見て家族について考える 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族について考えてみよう 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第９回	人の一生と社会福祉 家族援助事例検討 【key words】 相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護 【授業概要】 事例をもとに援助の実際について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近でおきている問題について考えてみよう 福祉サービスの利用方法について調べる 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１０回	社会福祉制度（身近な問題から） 【key words】 相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護 【授業概要】 事例をもとに援助の実際について学び、わが国の社会福祉制度について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近でおきている問題について考えてみよう 福祉サービスの利用方法について調べる 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１１回	正しい敬語の使い方（教師としての正しい言葉使い） 【key words】 尊敬語　謙譲語　丁寧語　若者用語 【授業概要】 教師として身につけるべき必要な敬語の使い方について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常会話の中で間違った敬語を使用していないか考えてみよう 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第１２回	学習指導要領（福祉）　教科「福祉」９科目の指導内容 【key words】 【keywords】 福祉教育　福祉体験学習　総合的な学習の時間 【授業概要】 【授業概要】 福祉教育の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 自分が小中高で経験した福祉体験学習についてまとめてみよう 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１３回	学習指導要領（課外活動）　部活動指導の現状 【key words】 【keywords】 部活動　体罰問題　課外活動 【授業概要】

【授業概要】
課外活動の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
自分が小中高で経験した課外活動についてまとめてみよう
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第１４回　学習指導要領（道徳教育）　人種問題・障害者問題 等
【key words】
【keywords】
道徳教育　福祉教育　総合的な学習の時間

【授業概要】
【授業概要】
道徳教育の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
自分が小中高で経験した道徳教育についてまとめてみよう
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第１５回　福祉科教育法(教科書・学習ノート・参考図書)注文
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案

【授業概要】
【授業概要】
高校福祉教科書「社会福祉基礎」をもとに、模擬授業について考える

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
模擬授業で担当する単元を決定する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第１６回　模擬授業について　指導案の書き方、担当決め等（模擬授業の回数･内容等は受講者数によって変更があります)
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案

【授業概要】
【授業概要】
高校福祉教科書「社会福祉基礎」をもとに、担当する単元を決定し、模擬授業の指導案を作成してみる

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
模擬授業で担当する単元を決定する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第１７回　学習指導案の作成
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案

【授業概要】
【授業概要】
模擬授業を想定し、学習指導案を作成してみる

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
必要な資料収集の方法について考える

【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間

第１８回　模擬授業① 少子化時代の子ども子育て支援
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ
【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第１９回　模擬授業② 子育て支援と保育
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ
【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２０回　模擬授業③ 障害のある子どもの福祉
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２１回　模擬授業④ 子どものすこやかな成長への支援
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２２回　模擬授業⑤ 市町村と児童相談所の役割
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２３回　模擬授業⑥ 社会的養護と児童虐待への対応
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２４回　模擬授業⑦ 障害者福祉とは・身体障害者の現状と課題
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２５回　模擬授業⑧ 身体障害者福祉の推進・障害者の生活支援
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２６回　模擬授業⑨ 知的障害者の現状と課題・知的障害者の在宅支援と施設の役割
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２７回　模擬授業⑩ 人口の高齢化と高齢者福祉・高齢者の健康保持と社会参加
【key words】

	【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【授業概要】 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生） 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第２８回　模擬授業⑪ 介護保険制度（１）介護保険制度（２） 【key words】 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【授業概要】 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生） 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第２９回　模擬授業⑫ 高齢者の在宅サービス（１）・高齢者の在宅サービス（２） 【key words】 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【授業概要】 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生） 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第３０回　まとめ 【key words】 【keywords】 大村はま 【授業概要】 【授業概要】 教えるということについて考える 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
受講生に関わる情報および受講のルール	「福祉科教育法」は、模擬授業を中心とした実践的な科目となる。高校福祉科の社会福祉に関する専門教科の科目ではなく、教科 教育法に関する科目である以上、社会福祉の制度や歴史そのものを理解するというより、その理解のさせ方に関する教育実践上の 視点、留意点、その教育方法に関して学ぶ科目であるが、社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底 になければならない。福祉科教育法履修の前後に相談援助演習･介護技術等の科目も併せて履修すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード

授業外時間にかかわる情報	コメントカードにはその日の授業を振り返り、まとめを記入すること。 模擬授業の際には、自分の担当ではない場合も学習指導案を毎回提出すること。
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	提出レポート（ 50%）と学習指導案及び模擬授業（ 50%）により評価する。
教科書	社会福祉基礎（ 実教出版）　（購入方法について詳しくは授業中に説明する）。
参考書	介護福祉基礎（実教出版）、コミュニケーション技術（実教出版）、生活支援技術　（実教出版）、介護過程（実教出版）、こころとからだの理解（実教出版）、社会福祉基礎学習ノート（実教出版）、介護福祉基礎学習ノート（実教出版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育方法論　　授業コード：5121

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・必修
担当教員			
塚本　忠男			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・教育の方法について探求する。 ・教育のよりよい在り方を実践的に探る。 【到達目標】 ・教育方法についての学びを深め、教師としての実践に生かすことができるようになる。 ・教育方法に関する基礎的概念を習得することができる。 ・発表や討論を経験することにより、表現力をきたえるとともに他者の考えを知り、豊かな発想につなげることができる。
授業の概要	教育方法の意義と内容を学習・研究し、実践に役立てる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	・オリエンテーション（講義方法、内容と評価）・授業について（教室と学び） 【key words】 講義方法と内容、評価、授業（教育と学び） 【授業概要】 ・講義の受け方等、授業のスタートにあたっての留意事項の確認 ・教育者としての自覚（教育の方法、佐藤学より） 【教科書ページ・参考文献】 授業で配布した資料・テキスト「新しい時代の教育方法」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教室の風景、坊ちゃん（私の教師像記述プリント）、自己アピール（記述）、フィンランドの教育、学級を経営する（子どもと一緒につくる）を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	・変化する教室というところ（転換する学校・世界と日本の教室・21世紀の教室） 【key words】 転換する学校、世界と日本の教育、21世紀の教室 【授業概要】 ・変貌する教室について考察する。 ・「坊ちゃん」から教師像をさぐる。 ・発表第1回、「教育事情」 【アクティブラーニングについて】 教育事情について発表と討論を評価する。 【教科書ページ・参考文献】 授業で配布した資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 フィンランドの教育の変化、pisa2015調査を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分

	第３回	・授業の形（考えるという行為の意味） 【key words】 教える、模倣的様式、変容的様式、コメニウス、ソクラテス、メノン 【授業概要】 ・教えるという行為の2つの意味について考察する。 ・具体的に模倣的様式と変容的様式から考え、日本の学校文化を見る。 ・教育事情の発表、討論、評価を行う。 【アクティブラーニングについて】 教育事情について発表、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 授業で配布した資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 私が薦めるこの1冊「高校生ワーキングプア」（NHK）「明治乙女物語」（文春） 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	・授業の歴史(日本)（近代学校と授業の成立・新教育の展開と学びの改革・戦後新教育と授業の改革） 【key words】 一斉教授法、森有礼、聖職者教師像、国民教育、教師専門職論 【授業概要】 ・教師はその時代において歴史性を背負いながら存在している。 ・現代の教師はどのような時代性をもって教育に当たっているのかを考察する。 ・教育事情の発表 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価する。 【教科書ページ・参考文献】 授業で配布した資料・テキストP179－199 【課題・予習・復習・授業準備指示】 哲学について、時代の中の教師を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	・教育の技術（教育技術の特質とは・集団づくりの意義と方法） 【key words】 近代学校、学制、被仰出書、新教育、戦後新教育、アメリカ教育使節団、試案、齊藤喜博、島小教育 【授業概要】 ・近代学校と授業の成立、新教育の展開と学びの改革、戦後新教育と授業の改革について考察する。 ・教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 授業で配布した資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布された資料を熟読する。学事奨励に関する被仰出書を熟読して理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第６回	・授業のデザイン（授業の組織・授業の構造・授業をデザインし創造する） 【key words】 教育技術、普遍性と個別性、集団づくり 【授業概要】 ・教育における技能と技術、普遍性と個別性、教育技術の創造性を考察する。 ・集団づくりの意義と方法について教育的意義を考える。 ・教育事情の発表 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育方法の歴史を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	・授業をデザインして創造する（授業の主題・授業の省察と反省） 【key words】 授業の組織、授業の構造、教育をデザインし創造する。 【授業概要】 ・授業をデザインするためにその組織（授業づくりの過程）、構造（教師の活動）、創造（授業のデザインと実践のプロセス）から考察する。 ・教育事情の発表 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・テキスト

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育方法の歴史（近代以前、近代以後）を熟読する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　・学習指導案の意義と作成手順　・授業（教育）目標づくりとは（構造・種類と性格）
【key words】
デザイン、主題、過程の組織、個への対応、個と個のすり合わせ、省察と反省
【授業概要】
・教師はカリキュラムの単元の内容と、生徒の興味や関心を考慮しながら授業をデザインすることについて考察する。
・教育事情の発表
【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学級を経営する「ベテランの実践を学ぼう」
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　・教材について　・授業の展開　・教師の姿勢と心構え
【key words】
学習指導案、授業（教育）目標づくり

【授業概要】
・学習指導案の意義、記載の構成要素、作業手順について考察する。
・学習指導案の作成に不可欠な授業目標づくりを考える。
・教育事情の発表
【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・日本教育の最大の問題点・・・田原総一郎
・指導要録（小・中・高）
・教師に必要な資質5
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　・仮説実験授業　・発問のある授業　・教師の表現(伝え方)
【key words】
教職員の職務、教育法規・教育行政、教職の服務と分限・懲戒

【授業概要】
・教師としてあるべき姿を関係法規を中心に考察する。
・教育事情の発表
【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育法規、教育行政の戦後70年
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　・授業における説明の役割と方法　・学習集団の意義と方法　・違いを認め合い補い合う
【key words】
教材研究、教材解釈、授業構成、齊藤善博、教師の姿勢・心構え

【授業概要】
・展開のある授業について教材の作成・利用、そして齊藤善博の「教育学のすすめ」によって考察する。
・教育事情の発表
【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領の改訂、教師の姿勢・心構え
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　・体験的学習の意義と課題　・練習の意義と方法　・自分のキャラクターを分析する
【key words】
仮設―討論―検証、板倉聖宣、「科学教育の内容と方法」、発問

【授業概要】
・「仮説実験授業」から授業の展開、授業書、討論の重要性について考察する。さらには授業づくりの核となる発問づくりについて考える。
・教育事情の発表
【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教師の表現―伝え方の極意―

	【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１３回　・近代教育思想　・教育方法と学習指導 【key words】 ルソー、ペスタロッチ、カント、デューイ、教育方法とは 【授業概要】 ・近代教育学者が提唱する教育方法を知って、現代の教育について考察する。さらには、教育方法と学習指導の関係について学習指導要領によって考察する。 ・教育事情の発表 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育制度と学校、学習指導要領を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　・欧米の近代授業理論と受容（一斉授業と開発授業） 【key words】 一斉授業、開発授業、ヘルバルト学派、経験主義的学習指導法、新しい学力観 【授業概要】 ・日本教育の明治期の教授法から大正・昭和期に影響を及ぼした教授法と新学力観について考察する。 ・教育事情の発表 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導要領の改訂、授業時数、教科書制度、デジタル教科書と教科書制度 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　・学習指導と教授理論（指導の原理・方法・発達と学習心理） 【key words】 学習指導、稲富栄次郎、問題解釈学習、デューイ、系統学習、砂沢喜代次、プログラム学習、発見学習、レディネス、ピアジェ、ヴィゴッキー 【授業概要】 ・「学習指導」の意味、「教授理論と学習方法」、発達と学習の心理について研究し、考察する。 ・教育事情の発表 ・授業評価アンケートの実施（講義について感想を発表する） 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもの貧困対策と就学援助、外国人児童・生徒の教育 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	・意欲的な学習態度であること。 ・教師としての在り方について、常に意識を持って学生生活を行えること。 ・授業で配布する資料はファイルして保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育をとりまく社会状況、現場状況、教育改革等に関する情報の事象をとらえ、それを分析・考察し討論することによって客観的に検証・考察する。
オフィスアワー	水曜日の授業終了から12時まで。または授業終了から17時まで。
評価方法	提出物（レポート）、討論・発表内容と態度、定期試験による評価。いずれも60％を超えていること。
教科書	田中耕治・鶴田清司　新しい時代の教育方法　有斐閣
参考書	授業の中で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	・県立高等学校の教師として38年間教育に携わった。その経験をもとに、教育関係講座（科目）を担当し教授している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育方法論　　授業コード：5122

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択／初等教育コース・必修
担当教員			
江島　正子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	幼いこどもに対する基本的な指導のあり方と保育と教育の現場における実技を学ぶ。保育と教育の環境構成の重要性を知り、それに伴う教師の心構えについて理解する。教師主導ではなく、学生主体で学習する方法を身につける。
授業の概要	幼児期の教育は、こどもの身体と精神に生涯にわたって影響を与える。幼児の成長・発達の基本的特徴を教育といかに有効に連携させるかを追及し、可能な限りの最高で最善な教育方法を探究する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第１回	ガイダンス　自己紹介とアンケート　保育と教育の基本
	第２回	アンケート結果の紹介　フランスの幼稚園のDVDに学ぶ
	第３回	教育と保育の方法論上の基本　環境・生活の展開・遊び・こどもの発達の特性　幼稚園や保育所
	第４回	幼児についての理解とその方法　幼児理解とは何か　幼児理解を深める大人の注意点
	第５回	人間の進化・発達　発達のとらえ方　その姿
	第６回	環境構成と活動の展開　環境としての教師　こどもの楽しさとの共有　こどもの活動の充実
	第７回	一人ひとりに応じた援助　個人差　一人ひとりの興味・関心の違い　大人の温かな援助の仕方
	第８回	生活の指導　基本的な生活習慣の指導とこどもの自立　集団の中で生きる内的な喜び
	第９回	自己主張と自己抑制　幼稚園・保育所と家庭との連携　具体的な場面での援助の仕方
	第１０回	専門職としての保育者　保育の基本の理解　こどもの理解　発達・一人ひとりの育ち　保育者の役割
	第１１回	学びの場所　縦割り保育と横割り保育　一人ひとりのクラス作り　学びへの環境のあり方
	第１２回	こどもの援助の形態　さまざまな保育形態　グループ活動・個別活動・一斉保育

	第１３回　　園内外の環境を生かした保育　園内環境にかかわる　保育室　園外環境にかかわる　散歩 第１４回　　保育環境に求められること　幼稚園・保育所・小学校との連携　保護者と地域社会との連携 第１５回　　ディベイト　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。　6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。　授業中に課したレポートは必ず期限内に提出すること。将来教職に携わる者として授業中の私語を慎む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。
オフィスアワー	なし
評価方法	定期試験（60%）　レポート（20%）　ディベイト（20%）などで総合的に判断する。
教科書	神長美津子編著 『保育方法』 光生館
参考書	江島正子著 『たのしく育て子どもたち』 サンパウロ社　そのつど授業中に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育実習事前事後指導（中・高）　　授業コード：5141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	-	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習の事前事後に関する指導を通して、その意義・目的、課題、内容等を十分に理解し、教育実習が有意義で効果的なものとなることを目的とする。 [到達目標] １　学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。 ２　学習指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、振り返りとして授業研究に取り組むことができる。 ３　生徒理解に努めることができる。
授業の概要	１　３年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。 ２　中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ることで、本実習に向けての意識を高める。 ３　学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　教職への招待・ガイダンス　大学の事前指導で何を学ぶか 【key words】 教職とは、教育実習、教員免許状取得 【授業概要】 【授業にあたり】 １　中学校もしくは高等学校への授業参観は、新年度に参観校と日程調整を行うため、提示した回での実施とならない場合がある。 ２　先輩学生の研究授業の参観も同様である。 ３　模擬授業の順番は、前期中の授業内で決定する　※１～３、いずれの場合も変更した内容を提示する。 　教職への招待･ガイダンスを通して、教職に就くために必要とされるものは何かについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教職への招待･ガイダンスを通して、教職に就くために必要とされるものは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出する。プレゼンテーション用の資料の作成を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２回	教職に就くにあたり：教師を目指した理由－プレゼンテーション－ 【key words】 中学校/高等学校時代を振り返る、教師を目指した理由

【授業概要】

教職に就くにあたり、教師を目指した理由を中学校もしくは高等学校時代を振り返りながらプレゼンテーションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
プレゼンテーション用にまとめておいた冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・プレゼンテーションした内容を聞いて、意見・感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P.1　教育実習の意義と目的･目標とは何か
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　教育実習の意義と目的
【key words】
教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力
【授業概要】

教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』pp.1～2
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育実習生としての心構えとはどのようなことか、事前に考えてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　教育実習の課題と実習生としての心構え
【key words】
教育実習の課題、実習生としての心構え
【授業概要】

教育実習の課題、実習生としての心構えについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』pp.9～10
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習の課題、実習生としての心構えについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。観察実習について、事前に調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　観察実習の目的とその重要性
【key words】
教師の指導法、教師と生徒及び生徒間、学習適応
【授業概要】

「見ること」によって「学ぶ」観察実習の目的とその重要性を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P.15～
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・観察実習の目的とその重要性について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・学習指導案について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　学習指導案とは何か
【key words】
授業の設計図、確かな学びの保障
【授業概要】

生徒の確かな学びを保障する、授業づくりの指針となる学習指導案とは何かについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P15～
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・学習指導案とは何かについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：学習指導案の単元観、生徒観について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　学習指導案の作成にあたり　①　単元観、生徒観
【key words】
単元観、生徒観
【授業概要】

学習指導案の作成にあたり、単元観、生徒観について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導案の作成にあたり、単元観、生徒観について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P17～学習指

		導案を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第８回	学習指導案の作成にあたり　②　授業のねらい、導入、展開、まとめ 【key words】 授業のねらい、導入、展開、まとめ 【授業概要】 授業のねらいをつかみ、前回学んだ単元観、生徒観を踏まえ、導入、展開、まとめの流れに沿った学習指導案について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業のねらいをつかみ、前回学んだ単元観、生徒観を踏まえ、導入、展開、まとめの流れに沿った学習指導案について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第９回	中学校授業参観（朝の会、社会科、意見交換会） 【key words】 授業構成、生徒指導、教師の指導技術 【授業概要】 中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）を通して、学校現場における教育活動の実際を知る。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房・観察実習記録 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）を通して、学校現場における教育活動の在り方について、意見･感想をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	中学校授業参観の検討会　（朝の会、社会科、意見交換会） 【key words】 授業構成、生徒指導、教師の指導技術 【授業概要】 前回、実施した中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）の意見・感想を踏まえ、実習に向けた深い学びへと繋げる。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・学生の感想・意見をまとめた観察記録 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）を通して、学校現場における教育活動の在り方について、意見交換を行った内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	先輩学生による研究授業の視聴 【key words】 授業実習、各教科、学習指導案 【授業概要】 先輩学生の研究授業（中学校:社会科／高等学校:公民科･福祉科）を視聴し、授業実習の実際を知る。 【教科書ページ・参考文献】 ・先輩学生の研究授業指導案 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 先輩学生の研究授業（中学校（社会科）／高等学校（公民科･福祉科）視聴をし、意見・感想をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	先輩学生による研究授業の振り返り、意見交換会 【key words】 授業実習、各教科、学習指導案 【授業概要】 前回、視聴した先輩学生の研究授業（中学校:社会科／高等学校：公民科･福祉科）について意見交換を行い、授業実習に向けた深い学びへ繋げる。 【教科書ページ・参考文献】 ・先輩学生の研究授業指導案 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 先輩学生の研究授業について、自分の意見と共通、あるいは思ってもいなかった意見･感想について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。板書とは何かについて調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分

第１３回　板書とは
【key words】
文字の大小、内容、記述、チョークの使い方
【授業概要】

板書とは何かについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：板書とは何か、板書の要件
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・板書とは何か、板書の要件等について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・発問について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　発問とは
【key words】
発問と質問、指導言、子供の思考･認識過程
【授業概要】

発問とは何か、発問と質問の違いに言及し、子供の思考に働きかける発問の重要性について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：発問とは
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・発問と何か、発問の重要性について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・評価規準について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１５回　評価規準について
【key words】
到達目標、評価の観点、学力観
【授業概要】

評価規準について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：評価規準について
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・評価規準とは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・前期の授業で学んだことを復習し、後期から実施する模擬授業に備えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１６回　模擬授業の実践　①　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
【受講にあたり】
・後期の授業は模擬授業の実践と授業研究を行う。授業者は、予め、模擬授業を行う単元を決め、学習指導案（提示した形）を作成し、教科書、資料等のコピーを期日までに提出する。
･学習指導案に沿って模擬授業が行えるように準備をしておくこと。
･授業日の前週に模擬授業の単元が授業者から提示されるため、どの回のタイトルも模擬授業の実践と明記しておくことを了承願いたい。KJ法を活用した授業研究も同様である。
・中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業の実践を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１７回　模擬授業の実践　②　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。

【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１８回　授業研究　(1)　①、②の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する

【key words】
KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ
【授業概要】
－KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－
模擬授業の実践　①、②をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。
授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１９回　模擬授業の実践　③　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２０回　模擬授業の実践　④　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２１回　授業研究　(2)　③、④の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する
【key words】
KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ
【授業概要】
－KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－
模擬授業の実践　③、④をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。
授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２２回　模擬授業の実践　⑤　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２３回　模擬授業の実践　⑥　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－

		授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２４回	授業研究　(3)　　⑤、⑥の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する 【key words】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑤、⑥をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２５回	模擬授業の実践　⑦　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２６回	模擬授業の実践　⑧　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２７回	授業研究　(4)　　⑦、⑧の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する 【key words】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑦、⑧をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２８回	模擬授業の実践　⑨　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。

	【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２９回　模擬授業の実践　⑩　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第３０回　授業研究　(5)　⑨、⑩の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する。まとめ:本実習に向けて 【key words】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑨、⑩をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 本実習に向けてまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。 ・次年度に実施する教育実習に向けてまとめを行っておくこと。後期試験に向けて準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は３年次に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。　欠席や遅刻の多い学生（３回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るため、 熱心な受講態度を求める。 ２　教育実習の本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱 心に学習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　模擬授業を行う者は授業日の前週までに指導案、教科書のコピー等を提出すること。模擬授業を受けた学生は、観察　記録・意見・感想を次回の授業日までに提出すること。ＫＪ法のまとめは授業者が行い、次回の授業日までに提出する　こと。 ２　授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポー　トをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、模擬授業の実践（３0%）、試験またはレポート（40%）を総合して評価する。
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教育実習の本実習に向けて、授業運営方法、指導案の作成、生徒理解を踏まえた模擬授業の実践を指導する。実際の教育現場において、教師として相応しい資質･能力の向上を目指す指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　日本史Ⅰ　　授業コード：5201

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
冨田　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会科の指導者として、歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会、将来についてのあり方を考え実践できる資質を養う。 【到達目標】 ①日本史原始時代から中世までの流れを基本的に理解する。 ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識し、考察を深める。 ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。
授業の概要	日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　「歴史を学ぶ」ことの意義について理解する。 【key words】 考古学、文献史学、アルフィンス・デーケン 【授業概要】 科目オリエンテーション。「歴史を学ぶ」ことの意義を理解する。アルフォンス・デーケン氏の生涯を通して、歴史学とは暗記物ではなく「考える学問」、生き方を学ぶ学問であることを認識する。 【教科書ページ・参考文献】 アルフォンス・デーケン著「よく生きる」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 野口英世について調べる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	人物で学ぶ歴史・・・野口英世　野口英世についての資料を理解し、その生涯を考察する。 【key words】 野口英世の生涯、野口英世に学ぶ、医学の進歩の中で 【授業概要】 一人の人物の生涯を詳しく学ぶことにより歴史を考える。その人の生きた軌跡を通して、時代の背景、制約の中で人間らしく生きる姿を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 野口英世伝 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本人とは何か考察する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	日本列島と日本人 【key words】

人類の誕生・日本列島の形成・旧石器文化
【授業概要】
日本史を具体的に学ぶ第一歩である。人類の誕生・日本列島の形成・日本人の起源・形成を具体的に学ぶ。岩宿遺跡の重要性を認識する。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.13～ｐ.15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
縄文文化について調べる。　教ｐ.15～ｐ.19
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　縄文文化
【key words】
自然環境の変化・縄文文化・三内丸山遺跡
【授業概要】
完新世にはいり、日本列島の気候はあたたかくなり、人々が土器をともなう新しい文化を生み出した。数千年にわたり、日本列島にさかえ、日本の民族と文化の原型が形成された縄文文化について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.15～ｐ.19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
弥生文化について調べる。　教ｐ.19～ｐ.26
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　弥生文化
【key words】
水稲と鉄器　・　生産と階級　・　小国の分立
【授業概要】
大陸文化の影響を受けて、紀元前４世紀～紀元後３世紀まで、水稲耕作・青銅器。鉄器を特徴とする農耕文化がおこった。薄手・赤褐色・硬い弥生土器を持つ弥生文化について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.19～ｐ.26
【課題・予習・復習・授業準備指示】
古墳について調べる　教ｐ.26～ｐ.37
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　古墳とヤマト王権
【key words】
古墳の築造　・　大和と朝鮮　・　氏姓制度
【授業概要】
古墳がさかんに築造された３世紀後半から７世紀の文化を古墳文化とよぶ。古墳の特色とヤマト王権の成立過程を学ぶ。中国・朝鮮半島との交渉・渡来人の活躍に注目する。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.26～ｐ.37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
厩戸王（聖徳太子）について調べる。　教ｐ．ｐ.38～ｐ.40
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　飛鳥の宮廷
【key words】
蘇我氏の台頭　・　厩戸王の政治　・　遣隋使
【授業概要】
大陸から新しい文化を導入して支配体制を強力にしてきた大和朝廷の中で蘇我氏が台頭して来る。推古天皇のもと摂政となった厩戸王の政治の内容と意義を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.38～ｐ.40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
大化の改新について調べる。　教ｐ.41～ｐ.52
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　大化の改新
【key words】
政変の原因　・　改新の政治　・　近江の朝廷
【授業概要】
７世紀は古代東アジアの大転換期であった。中国では隋が滅び唐が成立した。日本は東アジアの激動の中で乙巳の変からはじまり、律令制度による中央集権体制形成の過程を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.41～ｐ.52
【課題・予習・復習・授業準備指示】
奈良の大仏について調べる　教ｐ.52～ｐ.60
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　平城京の政治
【key words】
平城京と遣唐使　・　政治と社会の変化
【授業概要】
710年平城京に都が移された。これ以降80年余りを奈良時代という。8世紀初め、皇族・貴族の均衡がとれていた政治制度は藤原氏の進出でくずれはじめた。政治と社会の変化を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.52～ｐ.60
【課題・予習・復習・授業準備指示】
藤原氏について調べる。　教ｐ.61～ｐ.81
【予習復習に必要な想定時間】

	30分 第１０回　摂関政治 【key words】 平安遷都　・　摂関政治　・　荘園と武士団 【授業概要】 794年、桓武天皇はあらたな政治基盤を確立するため、平安京へ遷都した。以後約400年間を平安時代とよぶ。律令制の変容・藤原氏の台頭・摂関政治について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.61～ｐ.81 【課題・予習・復習・授業準備指示】 院政・白河法皇について調べる。　教ｐ.86～ｐ.92 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１１回　院政 【key words】 院政　・　保元・平治の乱　・　平氏の栄華 【授業概要】 近年、11世紀半ばすぎから、中世社会の特色があらわれ院政期を中世の画期とする学説が定着してきた。このことに注目して院政期を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.86～ｐ.92 【課題・予習・復習・授業準備指示】 鎌倉幕府について調べる　教ｐ.92～ｐ.112 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　鎌倉幕府 【key words】 源平の争乱　・　鎌倉幕府　・　執権政治 【授業概要】 源平の争乱から、鎌倉幕府の成立を学び、将軍と御家人との主従関係を理解する。さらに執権政治に至る過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.92～ｐ.112 【課題・予習・復習・授業準備指示】 モンゴルについて調べる。　教ｐ.113～ｐ.119 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　蒙古襲来 【key words】 蒙古襲来　・　得宗専制政治　・　幕府滅亡 【授業概要】 モンゴル帝国の成立・元の建国という東アジア情勢の中で蒙古襲来の意味を学ぶ。幕府の政治が御家人の協力を基盤とした執権政治から得宗専制政治に移り、鎌倉幕府滅亡への流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.113～ｐ.119 【課題・予習・復習・授業準備指示】 足利尊氏について調べる。　教ｐ.120～ｐ.131 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　室町幕府 【key words】 建武の新政　・　動乱のふかまり　・　室町幕府 【授業概要】 14世紀鎌倉幕府は倒れ建武の新政となる。足利尊氏は室町幕府を開いて武家政権を再興した。全国的動乱の中南北朝の動乱はおわり、室町幕府の全国支配が完成する流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.120～ｐ.131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 応仁の乱について調べる。　教ｐ.132～ｐ.150 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　応仁の乱～戦国の世 【key words】 応仁の乱　・　戦国大名 【授業概要】 応仁の乱後、守護大名間の争い、国一揆、土一揆がおこる。家臣が主君を実力でたおす世は、下剋上の風潮を強め、戦国時代への流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.132～ｐ.150 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本史原始・古代～戦国時代までのポイントをまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・講義の進度にあわせ、予習復習を必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・ノートをしっかりとり、積極的に授業に臨むこと。 ・講義中に配布される資料・プリントはよく整理し、ノートとともに定期的に点検を受け、講義内容の理解を深めること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	岩宿遺跡・かみつけの里博物館・上野国分寺遺跡・県立歴史博物館等を巡検しレポートを提出する。
オフィスアワー	講義終了後20分
評価方法	試験（60%）、講義への参加態度・レポート・提出物（40%）を総合して評価する。
教科書	新もういちど読む山川日本史（山川出版社）
参考書	講義内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　日本史Ⅱ　　授業コード：5205

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
冨田　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会科の指導者として、歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会、将来についてのあり方を考え実践できる資質を養う。 【到達目標】 ①日本史戦国の世から近世・近代・現代までの流れを基本的に理解する。 ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識し、考察を深める。 ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。
授業の概要	日本の歴史を通史・テーマ史・人物史等様々な視点からアプローチすることにより、日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　「ヨーロッパ人の来航」から世界の動きと日本史を考察する。 【key words】 大航海時代　・　鉄砲の伝来　・　キリスト教のひろまり 【授業概要】 日本の戦国時代は、ヨーロッパではルネサンス・宗教改革・大航海時代へと近代への移行期にあった。ヨーロッパ人の来航・鉄砲の伝来・キリスト教のひろまりは大きく日本の歴史を動かしていったことを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.155～ｐ.157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 織田信長について考察する。　教ｐ.158～ｐ.159 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	織田信長 【key words】 天下布武　・　信長の政策　・　本能寺の変 【授業概要】 戦国乱世の中で、全国統一のさきがけとなったのは尾張の織田信長であった。信長の生涯・統一事業・政策を学ぶことにより、その歴史的意義を考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.158～ｐ.159 【課題・予習・復習・授業準備指示】 豊臣秀吉について考察する。　教p.159～ｐ.164 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	豊臣秀吉 【key words】

豊臣秀吉の全国統一　・　検地と刀狩　・　秀吉の対外政策
【授業概要】
豊臣秀吉は、信長の後継者の地位を確立し、1590年全国統一をなしとげた。秀吉の政策の中で後世に最も影響を与えた検地・刀狩について学ぶ。朝鮮出兵とその失敗は豊臣政権の崩れる原因であったことを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教p.159～ｐ.164
【課題・予習・復習・授業準備指示】
徳川家康について考察する　教ｐ.167～ｐ.168
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　江戸幕府
【key words】
関ヶ原の戦い　・　江戸幕府　・　大坂の役
【授業概要】
徳川家康は秀吉より関東の地を与えられ250万石の大名となる。秀吉の死後、関ヶ原の戦いで勝利し江戸幕府を開いた。大坂の役で豊臣氏を滅ぼし、徳川幕府の基礎を確立した流れを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.167～ｐ.168
【課題・予習・復習・授業準備指示】
幕藩体制について図表を理解する。　教ｐ.168～ｐ.170
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　将軍と大名
【key words】
幕府の職制　・　大名の統制　・　参勤交代
【授業概要】
幕藩体制は将軍と大名（幕府と藩）とが強力な領主権をもって土地と人民を支配した体制である。260年あまりにわたり続いた江戸時代の職制について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.168～ｐ.170
【課題・予習・復習・授業準備指示】
享保の改革について調べる　教ｐ.200～ｐ.202
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　幕政の改革Ⅰ･･･享保の改革
【key words】
徳川吉宗　・　財政の再建　・　法典の整備
【授業概要】
18世紀初め、幕府や諸藩は財政難に苦しむようになった。8代将軍吉宗は家康時代の政治を理想とし、幕府の権威を高め幕政ひきしめようと享保の改革した内容を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.200～ｐ.202
【課題・予習・復習・授業準備指示】
寛政の改革について調べる　教ｐ.202～ｐ.208
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　幕政の改革Ⅱ･･･寛政の改革
【key words】
田沼政治　・　寛政の改革
【授業概要】
大商人の経済力を利用した田沼政治に対して、1787年松平定信は寛政の改革を実施した。その内容と特色を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.202～ｐ.208
【課題・予習・復習・授業準備指示】
天保の改革・幕末について考察する　教ｐ.209～ｐ.214
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　幕政の改革Ⅲ･･･天保の改革と幕末
【key words】
大御所時代　・　大塩の乱　・　天保の改革
【授業概要】
１１代将軍家斉の大御所時代と大塩の乱から老中水野忠邦の天保の改革の内容と特色を学ぶ。改革が2年あまりでつまずいたことを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ.194～ｐ.215
【課題・予習・復習・授業準備指示】
明治維新について調べる　教ｐ.236～ｐ.239
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　明治維新
【key words】
大政奉還　・　戊辰戦争　・　新政府の方針
【授業概要】
王政復古の大号令により成立した新政府は、戊辰戦争を経て近代的な中央集権的国家体制を実現させていった。その過程を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教ｐ.236～ｐ.239
【課題・予習・復習・授業準備指示】
廃藩置県について調べる　教ｐ.239～ｐ.244
【予習復習に必要な想定時間】

	30分 第１０回　廃藩置県 【key words】 廃藩置県　・　四民平等　・　地租改正 【授業概要】 政府は強力な軍事力のもと廃藩置県を断行した。中央政府から任命された府知事・県令が地方行政にあたる中央集権体制が確立していく過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.239～ｐ.244 【課題・予習・復習・授業準備指示】 殖産興業について調べる　教ｐ.247～ｐ.250 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１１回　殖産興業 【key words】 官営工場　・　鉄道の敷設　・　松方財政 【授業概要】 政府は日本と欧米諸国との国力の大きなちがいは経済力の差に原因があると考えた。このため近代産業の育成に力を入れ、これを殖産興業という。この内容と特色を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.247～ｐ.250 【課題・予習・復習・授業準備指示】 文明開化について調べる　教ｐ.250～ｐ.253 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　文明開化 【key words】 自由と権利の思想　・　小学校のはじまり　・　西洋風俗 【授業概要】 政府は文化や国民生活を近代化促進するために、西洋の近代思想や生活様式をとり入れた。この風潮を文明開化という。この内容と特色を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.250～ｐ.253 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自由民権運動について調べる　教ｐ.253～ｐ.260 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　自由民権運動 【key words】 士族の抵抗　・　自由民権運動　・　明治十四年の政変 【授業概要】 政府の近代化のための変革は急激であった。特権を奪われた士族の不満が高まった。西南戦争後言論による自由民権運動が活発となった。明治十四年の政変をへて伊藤博文を中心とする薩長派中心の政権が確立して行く動きを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.253～ｐ.260 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大日本帝国憲法について調べる　教ｐ.260～ｐ.265 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　帝国議会 【key words】 憲法の調査　・　大日本帝国憲法 【授業概要】 ドイツ流の君主権の強い憲法をつくる方針の政府は憲法調査のため、伊藤博文らを渡欧させた。1889年大日本帝国憲法が制定され、1890年第一回帝国議会が開かれた。その内容と特色を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.260～ｐ.265 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日清戦争、日露戦争、第一次・第二次世界大戦について調べる　教ｐ.355～ｐ.362 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　戦争と現代日本 【key words】 戦争の世紀　・　私達の課題 【授業概要】 戦争の世紀を概観し、その流れを理解する。グローバル化した現代社会の課題を考察し、未来に生きる私達の指針を考える。 【教科書ページ・参考文献】 教ｐ.355～ｐ.362 【課題・予習・復習・授業準備指示】 歴史を学ぶ意義について考察を深める 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・講義の進度にあわせ、予習・復習を必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・ノートをしっかりとり、積極的に授業に臨むこと。 ・講義中に配布される資料・プリントはよく整理し、ノートとともに定期的に点検を受け、講義内容の理解を深めること。
毎回の授業に関する	コメントカード

質問や学習の進捗状況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	県立歴史博物館・世界遺産の産業遺産富岡製糸場等を巡検しレポートを提出する。
オフィスアワー	講義終了後20分
評価方法	試験（60%）、講義への参加態度・レポート・提出物（40%）を総合して評価する。
教科書	新もういちど読む山川日本史（山川出版社）
参考書	全集　日本の歴史（小学館）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 世界史　　授業コード：5211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
関根　正史			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	一般社会人の国際的教養を涵養するため，人類史及び世界史の概要について学ぶことを目的とする。現生人類のほぼ20万年に及ぶ歴史をわずか15回の講義で習得することは到底不可能であるため，とりわけ現代人の直面する国際的諸問題について理解することを目標において，近現代史を中心として授業を展開する。
授業の概要	日本を含む現代の国際社会がどのようにして形成されてきたかを理解するため，特にグローバリゼーションの考え方を基軸として世界の動きについて考える。そのため近代を分岐点として，近代以前の世界の諸相を概観した上で，現代の社会生活の基盤がどのように作られてきたか，またそれによってどのうような問題が生じてきたかについて，現代の視点から照射することによって世界史を通観する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　世界史とは何か　世界史の方法
【key words】
人類史と世界史
【授業概要】
世界史の意義とその方法について学び，現生人類の誕生以来，農耕・牧畜技法を獲得してやがて初期文明段階に至る間の歴史を通観し，人類最初の経済革命の意義を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.7～12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，世界史と世界の歴史の違いについて考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第２回　古代史概観
【key words】
古代帝国
【授業概要】
都市国家的段階の古代文明黎明期より，より大きな支配力を駆使して近隣の諸勢力を併せて成立する古代帝国（とりわけ中国，ローマ）の史的展開について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.17～56
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，秦漢帝国とローマ帝国の類似点と相違点について考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第３回　中世史概観
【key words】
封建制
【授業概要】
古代帝国が崩壊したのち，在地領主のもとで地域分散型の社会が優勢になるにつれ，とりわけ

ヨーロッパで際だった特性を備えた中世封建社会について理解する。また普遍的価値観が衰退する中紐帯の役割を担ったキリスト教，イスラームの諸相及び中国の冊封体制について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.61～68，PP.89～114
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，中世的世界のイメージをつかむ。
【予習復習に必要な想定時間】
120分～180分

第４回　１３世紀のユーラシア大陸
【key words】
13世紀の世界システム
【授業概要】
16世紀以降出現する「近代世界システム」に先行し，主にユーラシア大陸をカバーした「13世紀の世界システム」について学び，近代の国際システムとの差違について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.73～76　参考図書：『歴史から今を考える』（上杉・山根編・山川出版社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，ユーラシア大陸全般に渡る広い視野に立って当時のコミュニケーションについて考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第５回　ヨーロッパ封建制の危機と「主権国家体制」
【key words】
主権国家体制
【授業概要】
西欧での封建制の行き詰まりから（「封建制の危機」），生産諸力の上昇に伴い，資本主義的生産様式への移行に関する諸問題について学ぶ。併せてヨーロッパに特有の国際外交システムとなった「主権国家体制」の意義について考える。
【教科書ページ・参考文献】
PP.115～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，ヨーロッパが封建制から脱皮し，次第に中央集権国家が形成される過程について考える。主権国家体制についてはP.143参照。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第６回　近代以前における世界の諸地域
【key words】
世界の文化圏
【授業概要】
イベリア諸国による「地理上の発見」以降知られるようになった世界各地域における，伝統的な歴史社会の特性について整理し，各地域における古代・中世史の概観総括を行う。併せて，次回のメインテーマとなる各地域と西欧との関連について考える。
【教科書ページ・参考文献】
特に参照する教科書の部分はないので，授業中関連した部分について指摘する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ヨーロッパが進出する前の時期における世界各地の伝統的文化圏について考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第７回　近代への序曲と「近代世界システム」
【key words】
近代世界システム
【授業概要】
西欧が展開した３つの社会運動について理解し，現代史学では「近世」とされるこの時代にあって，いかにして国際的分業体制である「近代世界システム」（ウォーラーステイン）が成立していったかについて考える。
【教科書ページ・参考文献】
PP.129～158
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，近代世界システムの意味を捉え，これがグローバリゼーションとどう関わるかについて考える。近代世界システムについてはP.135参照。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第８回　「二重革命」と近代市民社会１
【key words】
二重革命
【授業概要】
市民革命と産業革命（二重革命）が，それぞれフィールドを異にしながら，あたかも両輪のように機能して西欧の近代化を導いた過程について学ぶ。同時に，市民革命によって達成された市民社会の基本原理について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.159～193
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，二重革命が近代社会形成に対してどのような役割を演じたかについて考える。二重革命についてはP.160参照。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第９回　「二重革命」と近代市民社会２
【key words】
近代市民社会の原理
【授業概要】
前時の授業で学んだ，二重革命からもたらされる近代市民社会についてグループセッションを行う。市民社会の原理が人々にどのような影響をもたらしたか，またそれは現在の我々の生活の中

でどう生きているか等について議論し，それをレポートにまとめて次回の授業で提出する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書参照部分は前回と同じ。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第８回授業で学んだ市民社会の原理について復習し，これをもとに議論の準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１０回　帝国主義とアジア・アフリカ諸地域の抵抗
【key words】
帝国主義
【授業概要】
グローバリゼーションの５段階について学び，その第３段階にあたる帝国主義のもたらした影響について，とりわけ第２回の講義で展開された古代帝国との相違について考える。また，帝国主義に対抗して展開されたアジア・アフリカ諸地域の運動の性格について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.194～236
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資本主義の独占段階と呼ばれる帝国主義的世界経済体制のもとで，地球上のあらゆる地域が先進国の（半）植民地と化していく過程と，それに対する民族主義的抵抗運動の在り方について予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１１回　二つの世界大戦
【key words】
世界戦争
【授業概要】
帝国主義政策によってもたらされた第一次世界大戦と，その戦後処理に端を発し，世界恐慌とともに現れたファシズムの本質について考え，イデオロギー対立から起こされた第二次世界大戦の過程について学び，何故悲惨な世界戦争を回避することができなかったかについて考える。
【教科書ページ・参考文献】
PP.237～268
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，二つの世界大戦の性格の相違に留意し，特に戦間期における国際情勢について理解し，それぞれ戦争を回避できなかった理由について考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１２回　冷戦の展開と多極化する世界
【key words】
東西冷戦
【授業概要】
第二次世界大戦終了直前期に起因する米ソ対立から始まり，20世紀後半を特徴づけた冷戦時代（パクス＝ルッソ＝アメリカーナ）に，どのような国際構造の変遷が見られたかについて考える。併せて現今の日本の政治社会体制の基盤を形成したこの時期における，日本をめぐる国際関係について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.269～289
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，東西冷戦に至った原因及び，第三勢力等の多極化する世界の動静について考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１３回　ポスト冷戦
【key words】
８９年東欧革命
【授業概要】
20世紀末期に冷戦がどのようにして終了したか，とりわけソ連を中心とした東欧の社会主義国の動向を踏まえ，冷戦終了の原因について考えるとともに，ポスト冷戦の国際環境の変化について考える
【教科書ページ・参考文献】
60分～120分
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，８９年東欧革命の起こった原因について考え，冷戦終了後世界の動向はどのように変遷したかについて探る。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１４回　現代のグローバリゼーション１
【key words】
現代のグローバリゼーション
【授業概要】
グローバリゼーションの第５段階として捉えられる現代において，近代以降もたらされたグローバリゼーションによって世界はどのように変わってきたか，現在各国各地域における社会問題（とりわけ日本国内の身近に現れる諸問題）を中心としてグループセッションを行い，その結果をまとめて発表する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.299～300
【課題・予習・復習・授業準備指示】
現代のグローバリゼーションの持つ一般的な性格をつかみ，グループセッションの中で有効な議論を進める。プレゼンテーション力を発揮する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１５回　現代のグローバリゼーション２
【key words】

	現代のグローバリゼーション 【授業概要】 前回のグループセッションの討議内容を踏まえ，現代人とりわけ若い世代が考えていくべきさまざまな問題点についてともに考え，それを学生たちの将来に向けてどう生かしていくかという問題意識を共有できるような示唆を込めて世界史の授業の総まとめとする。併せて定期試験への対策について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回のプレゼンテーションをもとに，現代社会の問題点について意識を高めるとともに，自らの職業・家庭生活の中でどう生かしていくかについて考える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回教科書とノートを準備すること。 ・授業中に配付される資料については，予備を用意しないので，欠席した場合出席者のものをコピーして用いること。 ・私語，居眠り等授業の妨げになることは慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	時間外の自学自習に関係する情報は、必要に応じて参考文献を印刷して配布する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業への取り組み態度（10%）・レポート及びプレゼンテーション（20%）・試験（70%）などを総合して評価する。
教科書	「世界の歴史」編集委員会編『新もういちど読む山川世界史』山川出版社
参考書	参考文献などは講義の中で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県内の公立高等学校で27年間，私立高等学校で5年間にわたり世界史の授業を担当してきた。本学でも昨年度前期の本講座を担当している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　世界史　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
須田　幸秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	一般社会人の国際的教養を涵養するため，人類史及び世界史の概要について学ぶことを目的とする。現生人類のほぼ20万年に及ぶ歴史をわずか15回の講義で習得することは到底不可能であるため，とりわけ現代人の直面する国際的諸問題について理解することを目標において，近現代史を中心として授業を展開する。
授業の概要	日本を含む現代の国際社会がどのようにして形成されてきたかを理解するため，特にグローバリゼーションの考え方を基軸として世界の動きについて考える。そのため近代を分岐点として，近代以前の世界の諸相を概観した上で，現代の社会生活の基盤がどのように作られてきたか，またそれによってどのうような問題が生じてきたかについて，現代の視点から照射することによって世界史を通観する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　世界史とは何か　世界史の方法
【key words】
人類史と世界史
【授業概要】
世界史の意義とその方法について学び，現生人類の誕生以来，農耕・牧畜技法を獲得してやがて初期文明段階に至る間の歴史を通観し，人類最初の経済革命の意義を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.7～12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，世界史と世界の歴史の違いについて考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第２回　古代史概観
【key words】
古代帝国
【授業概要】
都市国家的段階の古代文明黎明期より，より大きな支配力を駆使して近隣の諸勢力を併せて成立する古代帝国（とりわけ中国，ローマ）の史的展開について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.17～56
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，秦漢帝国とローマ帝国の類似点と相違点について考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第３回　中世史概観
【key words】
封建制
【授業概要】
古代帝国が崩壊したのち，在地領主のもとで地域分散型の社会が優勢になるにつれ，とりわけ

ヨーロッパで際だった特性を備えた中世封建社会について理解する。また普遍的価値観が衰退する中紐帯の役割を担ったキリスト教，イスラームの諸相及び中国の冊封体制について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.61～68，PP.89～114
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，中世的世界のイメージをつかむ。
【予習復習に必要な想定時間】
120分～180分

第４回　１３世紀のユーラシア大陸
【key words】
13世紀の世界システム
【授業概要】
16世紀以降出現する「近代世界システム」に先行し，主にユーラシア大陸をカバーした「13世紀の世界システム」について学び，近代の国際システムとの差違について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.73～76　参考図書：『歴史から今を考える』（上杉・山根編・山川出版社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，ユーラシア大陸全般に渡る広い視野に立って当時のコミュニケーションについて考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第５回　ヨーロッパ封建制の危機と「主権国家体制」
【key words】
主権国家体制
【授業概要】
西欧での封建制の行き詰まりから（「封建制の危機」），生産諸力の上昇に伴い，資本主義的生産様式への移行に関する諸問題について学ぶ。併せてヨーロッパに特有の国際外交システムとなった「主権国家体制」の意義について考える。
【教科書ページ・参考文献】
PP.115～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，ヨーロッパが封建制から脱皮し，次第に中央集権国家が形成される過程について考える。主権国家体制についてはP.143参照。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第６回　近代以前における世界の諸地域
【key words】
世界の文化圏
【授業概要】
イベリア諸国による「地理上の発見」以降知られるようになった世界各地域における，伝統的な歴史社会の特性について整理し，各地域における古代・中世史の概観総括を行う。併せて，次回のメインテーマとなる各地域と西欧との関連について考える。
【教科書ページ・参考文献】
特に参照する教科書の部分はないので，授業中関連した部分について指摘する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ヨーロッパが進出する前の時期における世界各地の伝統的文化圏について考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第７回　近代への序曲と「近代世界システム」
【key words】
近代世界システム
【授業概要】
西欧が展開した３つの社会運動について理解し，現代史学では「近世」とされるこの時代にあって，いかにして国際的分業体制である「近代世界システム」（ウォーラーステイン）が成立していったかについて考える。
【教科書ページ・参考文献】
PP.129～158
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，近代世界システムの意味を捉え，これがグローバリゼーションとどう関わるかについて考える。近代世界システムについてはP.135参照。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第８回　「二重革命」と近代市民社会１
【key words】
二重革命
【授業概要】
市民革命と産業革命（二重革命）が，それぞれフィールドを異にしながら，あたかも両輪のように機能して西欧の近代化を導いた過程について学ぶ。同時に，市民革命によって達成された市民社会の基本原理について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.159～193
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，二重革命が近代社会形成に対してどのような役割を演じたかについて考える。二重革命についてはP.160参照。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第９回　「二重革命」と近代市民社会２
【key words】
近代市民社会の原理
【授業概要】
前時の授業で学んだ，二重革命からもたらされる近代市民社会についてグループセッションを行う。市民社会の原理が人々にどのような影響をもたらしたか，またそれは現在の我々の生活の中

でどう生きているか等について議論し，それをレポートにまとめて次回の授業で提出する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書参照部分は前回と同じ。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第８回授業で学んだ市民社会の原理について復習し，これをもとに議論の準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１０回　帝国主義とアジア・アフリカ諸地域の抵抗
【key words】
帝国主義
【授業概要】
グローバリゼーションの５段階について学び，その第３段階にあたる帝国主義のもたらした影響について，とりわけ第２回の講義で展開された古代帝国との相違について考える。また，帝国主義に対抗して展開されたアジア・アフリカ諸地域の運動の性格について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.194～236
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資本主義の独占段階と呼ばれる帝国主義的世界経済体制のもとで，地球上のあらゆる地域が先進国の（半）植民地と化していく過程と，それに対する民族主義的抵抗運動の在り方について予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１１回　二つの世界大戦
【key words】
世界戦争
【授業概要】
帝国主義政策によってもたらされた第一次世界大戦と，その戦後処理に端を発し，世界恐慌とともに現れたファシズムの本質について考え，イデオロギー対立から起こされた第二次世界大戦の過程について学び，何故悲惨な世界戦争を回避することができなかったかについて考える。
【教科書ページ・参考文献】
PP.237～268
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，二つの世界大戦の性格の相違に留意し，特に戦間期における国際情勢について理解し，それぞれ戦争を回避できなかった理由について考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１２回　冷戦の展開と多極化する世界
【key words】
東西冷戦
【授業概要】
第二次世界大戦終了直前期に起因する米ソ対立から始まり，20世紀後半を特徴づけた冷戦時代（パクス＝ルッソ＝アメリカーナ）に，どのような国際構造の変遷が見られたかについて考える。併せて現今の日本の政治社会体制の基盤を形成したこの時期における，日本をめぐる国際関係について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.269～289
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，東西冷戦に至った原因及び，第三勢力等の多極化する世界の動静について考える。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１３回　ポスト冷戦
【key words】
８９年東欧革命
【授業概要】
20世紀末期に冷戦がどのようにして終了したか，とりわけソ連を中心とした東欧の社会主義国の動向を踏まえ，冷戦終了の原因について考えるとともに，ポスト冷戦の国際環境の変化について考える
【教科書ページ・参考文献】
60分～120分
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を予習し，８９年東欧革命の起こった原因について考え，冷戦終了後世界の動向はどのように変遷したかについて探る。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１４回　現代のグローバリゼーション１
【key words】
現代のグローバリゼーション
【授業概要】
グローバリゼーションの第５段階として捉えられる現代において，近代以降もたらされたグローバリゼーションによって世界はどのように変わってきたか，現在各国各地域における社会問題（とりわけ日本国内の身近に現れる諸問題）を中心としてグループセッションを行い，その結果をまとめて発表する。
【教科書ページ・参考文献】
PP.299～300
【課題・予習・復習・授業準備指示】
現代のグローバリゼーションの持つ一般的な性格をつかみ，グループセッションの中で有効な議論を進める。プレゼンテーション力を発揮する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第１５回　現代のグローバリゼーション２
【key words】

	現代のグローバリゼーション 【授業概要】 前回のグループセッションの討議内容を踏まえ，現代人とりわけ若い世代が考えていくべきさまざまな問題点についてともに考え，それを学生たちの将来に向けてどう生かしていくかという問題意識を共有できるような示唆を込めて世界史の授業の総まとめとする。併せて定期試験への対策について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回のプレゼンテーションをもとに，現代社会の問題点について意識を高めるとともに，自らの職業・家庭生活の中でどう生かしていくかについて考える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回教科書とノートを準備すること。 ・授業中に配付される資料については，予備を用意しないので，欠席した場合出席者のものをコピーして用いること。 ・私語，居眠り等授業の妨げになることは慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	時間外の自学自習に関係する情報は、必要に応じて参考文献を印刷して配布する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業への取り組み態度（10%）・レポート及びプレゼンテーション（20%）・試験（70%）などを総合して評価する。
教科書	「世界の歴史」編集委員会編『新もういちど読む山川世界史』山川出版社
参考書	参考文献などは講義の中で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県内の公立高等学校，私立高等学校で長年にわたり授業を担当してきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 地理学　　授業コード： 5215

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
大島　登志彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・地理の基礎教養を身につける。 ・世界や日本の基本的地誌や地理的感覚を認識する。 ・フィールド調査を通して、調査内容をレポートし、それを発表する素養を身につける。
授業の概要	地理学の本質や中学校・高等学校の社会科地理教材を学ぶ際の留意事項などを概観したうえで、その主要項目に関して、問題意識を提示しながら考察させる。また、受講学生各自に、身近な地域においてフィールド調査によるレポートを書かせたうえで、要約して発表させ、地理学の調査活動の一端を実践させる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　地理学の本質と中学校・高等学校における社会科・地歴科の教職 【key words】 【授業概要】 授業の概要説明 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　日本の文化財・遺産などの概況とレポート課題及びその調査方法 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　地球のあらましと世界地誌の概要 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第４回　　海外旅行に関する諸問題と世界観 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回　　世界の地形・国家と領域 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回　　世界の気候区分とその問題 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回　　最近の気候変化と温暖化 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回　　地図の基本と特徴 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第９回　　日本の地誌と地域区分 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　　群馬県の地理概要 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　　地震と自然災害 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　　レポートの提出と授業での発表の目的と順序、留意事項など

	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　身近な地域の調査の発表と考察（1） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　身近な地域の調査の発表と考察（2） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　身近な地域の調査の発表と考察（3） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	授業への取り組みを重視します。すなわち、欠席・遅刻は減点し、おおむね欠席が4分の1を超過した場合、レポートや試験が良好でも、単位の取得は困難になります。 健康に留意し、欠席しないようにして下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎回、穴うめ作業・演習問題を含んだプリントを配布します。地図帳とプリントでよく復習して下さい。 フィード調査を含むレポートを課します。地図を用意して現地に行って写真を撮り、レポートをしっかり書いてください。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（50%）、授業参加状況（25%）、レポートとそれを基にした授業中の発表（25%）を総合して評価します。
教科書	「社会科　中学生の地理」（帝国書院）　「中学校社会科地図」（帝国書院）
参考書	講義の中で適宜紹介していきます。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用

	□ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会科教育法Ⅰ　　授業コード：5221

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	中学校社会科指導に必要な知識・技能を身に付けることを基本とする。具体的な授業の到達目標は、①社会科学習指導要領の目標と内容について理解すること。②教材研究の方法、③学習指導案の作成、④模擬授業などを通して、⑤中学校社会科の実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	中学校社会科の指導に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本である学習指導要領及び解説の理解、三分野の基礎知識、板書の方法などを身に付ける。その上で生徒用の教科書を用い教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究などを行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション 【key words】 到達目標 【授業概要】 授業概要】授業の到達目標と概要、教科の目標、評価の方法 授業のルール確認 教科書入手方法 【教科書ページ・参考文献】 中学校地理教科書 中学校歴史教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　学習指導要領の概要　学習指導要領の概要 【key words】 板書計画、アクティブラーニング＝ALと記述 【授業概要】 授業概要】地理的分野・歴史的分野の目標と内容、次期学習指導要領の概要、 示範授業①を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 地理的分野年間指導計画表１ 地理用語集作成１（アクティブラーニング＝ALと記述） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【教科書ページ・参考文献】 中学校地理教科書 中学校歴史教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】

		30分から1時間
	第３回	社会科指導の基礎基本１ 【key words】 年間指導計画 【授業概要】 【授業概要　】地理的分野の内容、 授業の展開方法、示範授業②を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。 指導事例の紹介 地理的分野年間指導計画表２　AL 地理用語集作成２　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第４回	社会科指導の基礎基本２ 【key words】 授業展開例 【授業概要】 授業概要】歴史的分野の内容、 授業の展開方法、示範授業③を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。 指導事例の紹介 地理的分野年間指導計画表３　AL 地理用語集作成３　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第５回	教材研究の方法1 【key words】 地図帳の利用 【授業概要】 授業概要】地理的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、地理用語辞典など 示範授業④を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 地理的分野年間指導計画表４　AL 地理用語集作成４　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第６回	教材研究の方法２ 【key words】 【Key words】教授用ノート、板書ノート 【授業概要】 【授業概要】地理的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法、 示範授業⑤を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 地理的分野年間指導計画表５　AL 地理用語集作成５　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第７回	教材研究の方法３ 【key words】 歴史授業に必要なエピソード 【授業概要】 【授業概要】歴史的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、歴史用語辞典など 示範授業を⑥通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 歴史的分野年間指導計画表１　AL 歴史用語集作成１　A

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第８回　教材研究の方法４
【key words】
教授用ノートの作成、板書事項の作成方法
【授業概要】
【授業概要】歴史的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法
示範授業⑦を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″
歴史的分野年間指導計画表2　AL
歴史用語集作成２　AL

【Key words】
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第９回　学習評価の方法
【key words】
【Key words】総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオ
【授業概要】
【授業概要】総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオの活用
示範授業⑧を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。
歴史的分野年間指導計画表３　AL
歴史用語集作成３　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１０回　学習指導案と講義資料の作成方法
【key words】
【Key words】学習指導案と講義資料の作成
【授業概要】
【授業概要】導入・展開・まとめを基本として重点の把握に注意
示範授業⑨を通じて授業展開例を示し、学習宇指導案作成の基本的事項を学び、併せて板書計画を考えさせる。
歴史的分野年間指導計画表４　AL
歴史用語集作成４　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１１回　授業法を学ぶための示範授業⑩
【key words】
【Key words】世界の姿
【授業概要】
【授業概要】地理的分野「世界の様々な地域」を題材として授業法を学ぶ
歴史的分野年間指導計画表５　AL
歴史用語集作成５　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１２回　授業法を学ぶための示範授業⑪
【key words】
【Key words】世界の姿

【授業概要】
【授業概要】地理的分野「日本のあまざまな地域」を題材として授業法を学ぶ
授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１３回　授業法を学ぶための示範授業⑫
【key words】
板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材
【授業概要】
【授業概要】歴史的分野「古代までの日本」「中世の日本」を題材として授業法を学ぶ
授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１４回　授業法を学ぶための示範授業⑬
【key words】
板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材
【授業概要】
【授業概要】歴史的分野「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」を題材として授業法を学ぶ
授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１５回　授業法を学ぶための示範授業⑭
【key words】
地理的分野、歴史的分野の示範授業から何を学ぶか
【授業概要】
【授業概要】授業研究会、地理的分野、歴史的分野の示範授業で学習したことをまとめる
プレゼンテーションと討議

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１６回　後期授業計画オリエンテーション社会教師の基礎・基本
【key words】
東国文化副読本、地域学習の方法
【授業概要】
【授業概要】中学校社会科の指導を支える社会科学全般の知識を身に付ける方策を学ぶ
博物館、美術館などの活用や体験的学習、地域教材の扱い方やフィールドワークを学ぶ

東国文化副読本を使って、地域学習の方法を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１７回　生徒の実態の把握方法
【key words】
授業中の生徒指導

授業中の生徒指導について
【授業概要】
【授業概要】観察方法、学力調査、学習環境の整備、座席表の活用など
C&S調査法（Q―U テスト）の活用
授業中の生徒指導について

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１８回　情報機器と教材の活用法
【key words】
G-Tac　の活用
【授業概要】
【授業概要】インターネット、新聞、雑誌、年表、地図
群馬県総合教育センター　G-Tac　の活用方法
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１９回　指導案作成①
【key words】
学習指導案作成
【授業概要】
【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２０回　指導案作成②
【key words】
学習指導案作成
【授業概要】
【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２１回　指導案作成③
【key words】
学習指導案作成
【授業概要】
【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２２回　模擬授業①
【key words】
学習指導案、模擬授業、事後検討会
【授業概要】
【授業概要】
地理的分野「世界のさまざまな地域」、を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２３回　模擬授業②
【key words】

		学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 地理的分野「日本のさまざまな地域」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２４回	模擬授業③ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 授業概要】 歴史的分野「古代までの日本」「中世の日本」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２５回	模擬授業④ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 授業概要】 歴史的分野「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２６回	模擬授業⑤ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 歴史的分野「二度の世界大戦と日本」「現代の日本と世界」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２７回	模擬授業⑥ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 地理的分野「日本の様々な地域」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間

	第２８回　実践研究の方法、社会科教育の歴史 【key words】 実践研究事例紹介 【授業概要】 【授業概要】 社会科教育に関する学会の実践研究事例紹介、社会科教育論紹介、博物館学習紹介 昭和戦後の社会科の誕生、学習指導要領の変遷（１９４５年～１９７７年　１９７８年～現在） 教育関連法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）等 【教科書ページ・参考文献】 教育関連法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間 第２９回　学校教育の現状と課題 【key words】 アクティブラーニング 【授業概要】 【授業概要】アクティブラーニングによるジグソー、ディベート、シュミレーション、ロールプレイング、NIE いじめ、不登校、非行、貧困、虐待、働き方改革、ESD、コミニュケーションスクール 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 生徒指導提要　１章　（文部科学省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間 第３０回　ふりかえりとまとめ 【key words】 ふりかえり 【授業概要】 【授業概要】１年間を振り返り、学生間で意見交流、 教育実習に行くにあたっての課題等学生間で意見交流 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕講義に関係する情報は、必要に応じて口頭で伝えるか印刷をして配布する。〔受講のルール〕教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立ち注意をしても改まらない場合は、退出を命ずる場合もある。スマホは必ず机上に置き、陰で使用しないこと。調べ学習に必要な場合があるので指示によっては活用する。また、遅刻・早退・欠席については必ず申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育に関係する必要な情報は、日頃から留意をして収集するように心掛けること。また、授業の中に参考となる書籍や雑誌の記事は必要に応じて紹介する。
オフィスアワー	質問や相談については、原則として授業の前後を活用する。なお、質問は内容により文書を作成して配布する。
評価方法	授業への取り組み態度（20%）、指導案と模擬授業（30%）、試験（50%）＝前期 授業への取り組み態度（20%）、指導案作成（30%）と模擬授業（30%）年間計画と板書例作成（20%）＝後期
教科書	１、中学校生徒用教科書　社会科　中学生の地理　　帝国書院 ２、中学校生徒用教科書　社会科　中学生の歴史　　帝国書院 ３、中学校地図帳　　帝国書院 ４　中学校学習指導要領解説　社会編　東洋出版　平成30年3月刊行 ５　国立教育政策研究所論文及び群馬県教育センター資料（担当教員が準備）
参考書	近藤裕幸著　「まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法」梓出版社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭１５年、中学校社会科教諭４年、小中学校管理職１０年、市教育委員会学校教育課長３年、県教育委員会青少年行政６年、市教育研究所長２年（嘱託）など実務経験に基づき、学生には教師としての基本的資質と指導力の育成に当たることを授業の重要課題とする。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	□情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 社会科資料をインターネット、グーグルなどから引用、活用をし、実践的に使えること

講義科目名称：　社会科教育法Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
須田　幸秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	中学校社会科指導に必要な知識・技能を身に付けることを基本とする。具体的な授業の到達目標は、①社会科学習指導要領の目標と内容について理解すること。②教材研究の方法、③学習指導案の作成、④模擬授業などを通して、⑤中学校社会科の実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	中学校社会科の指導に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本である学習指導要領及び解説の理解、三分野の基礎知識、板書の方法などを身に付ける。その上で生徒用の教科書を用い教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究などを行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 到達目標 【授業概要】 授業概要】授業の到達目標と概要、教科の目標、評価の方法 授業のルール確認 教科書入手方法 【教科書ページ・参考文献】 中学校地理教科書 中学校歴史教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　　学習指導要領の概要　学習指導要領の概要 【key words】 板書計画、アクティブラーニング＝ALと記述 【授業概要】 授業概要】地理的分野・歴史的分野の目標と内容、次期学習指導要領の概要、 示範授業①を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 地理的分野年間指導計画表１ 地理用語集作成１（アクティブラーニング＝ALと記述） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【教科書ページ・参考文献】 中学校地理教科書 中学校歴史教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】

		30分から1時間
	第３回	社会科指導の基礎基本１ 【key words】 年間指導計画 【授業概要】 【授業概要　】地理的分野の内容、 授業の展開方法、示範授業②を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。 指導事例の紹介 地理的分野年間指導計画表２　AL 地理用語集作成２　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第４回	社会科指導の基礎基本２ 【key words】 授業展開例 【授業概要】 授業概要】歴史的分野の内容、 授業の展開方法、示範授業③を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。 指導事例の紹介 地理的分野年間指導計画表３　AL 地理用語集作成３　AL 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第５回	教材研究の方法1 【key words】 地図帳の利用 【授業概要】 授業概要】地理的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、地理用語辞典など 示範授業④を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 地理的分野年間指導計画表４　AL 地理用語集作成４　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第６回	教材研究の方法２ 【key words】 【Key words】教授用ノート、板書ノート 【授業概要】 【授業概要】地理的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法、 示範授業⑤を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 地理的分野年間指導計画表５　AL 地理用語集作成５　AL 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第７回	教材研究の方法３ 【key words】 歴史授業に必要なエピソード 【授業概要】 【授業概要】歴史的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、歴史用語辞典など 示範授業を⑥通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 歴史的分野年間指導計画表１　AL 歴史用語集作成１　A

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第８回　教材研究の方法４
【key words】
教授用ノートの作成、板書事項の作成方法
【授業概要】
【授業概要】歴史的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法
示範授業⑦を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。〞
歴史的分野年間指導計画表2　AL
歴史用語集作成２　AL

【Key words】
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第９回　学習評価の方法
【key words】
【Key words】総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオ
【授業概要】
【授業概要】総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオの活用
示範授業⑧を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。
歴史的分野年間指導計画表３　AL
歴史用語集作成３　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１０回　学習指導案と講義資料の作成方法
【key words】
【Key words】学習指導案と講義資料の作成
【授業概要】
【授業概要】導入・展開・まとめを基本として重点の把握に注意
示範授業⑨を通じて授業展開例を示し、学習宇指導案作成の基本的事項を学び、併せて板書計画を考えさせる。
歴史的分野年間指導計画表４　AL
歴史用語集作成４　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１１回　授業法を学ぶための示範授業⑩
【key words】
【Key words】世界の姿
【授業概要】
【授業概要】地理的分野「世界の様々な地域」を題材として授業法を学ぶ
歴史的分野年間指導計画表５　AL
歴史用語集作成５　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１２回　授業法を学ぶための示範授業⑪
【key words】
【Key words】世界の姿

【授業概要】
【授業概要】地理的分野「日本のあまざまな地域」を題材として授業法を学ぶ
授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１３回　授業法を学ぶための示範授業⑫
【key words】
板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材
【授業概要】
【授業概要】歴史的分野「古代までの日本」「中世の日本」を題材として授業法を学ぶ
授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１４回　授業法を学ぶための示範授業⑬
【key words】
板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材
【授業概要】
【授業概要】歴史的分野「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」を題材として授業法を学ぶ
授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１５回　授業法を学ぶための示範授業⑭
【key words】
地理的分野、歴史的分野の示範授業から何を学ぶか
【授業概要】
【授業概要】授業研究会、地理的分野、歴史的分野の示範授業で学習したことをまとめる
プレゼンテーションと討議

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１６回　後期授業計画オリエンテーション社会教師の基礎・基本
【key words】
東国文化副読本、地域学習の方法
【授業概要】
【授業概要】中学校社会科の指導を支える社会科学全般の知識を身に付ける方策を学ぶ
博物館、美術館などの活用や体験的学習、地域教材の扱い方やフィールドワークを学ぶ

東国文化副読本を使って、地域学習の方法を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１７回　生徒の実態の把握方法
【key words】
授業中の生徒指導

授業中の生徒指導について
【授業概要】
【授業概要】観察方法、学力調査、学習環境の整備、座席表の活用など
C&S調査法（Q―U テスト）の活用
授業中の生徒指導について

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１８回　情報機器と教材の活用法
【key words】
G-Tac　の活用
【授業概要】
【授業概要】インターネット、新聞、雑誌、年表、地図
群馬県総合教育センター　G-Tac　の活用方法
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１９回　指導案作成①
【key words】
学習指導案作成
【授業概要】
【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２０回　指導案作成②
【key words】
学習指導案作成
【授業概要】
【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２１回　指導案作成③
【key words】
学習指導案作成
【授業概要】
【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２２回　模擬授業①
【key words】
学習指導案、模擬授業、事後検討会
【授業概要】
【授業概要】
地理的分野「世界のさまざまな地域」、を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２３回　模擬授業②
【key words】

		学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 地理的分野「日本のさまざまな地域」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２４回	模擬授業③ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 授業概要】 歴史的分野「古代までの日本」「中世の日本」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２５回	模擬授業④ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 授業概要】 歴史的分野「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２６回	模擬授業⑤ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 歴史的分野「二度の世界大戦と日本」「現代の日本と世界」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２７回	模擬授業⑥ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 地理的分野「日本の様々な地域」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間

	第２８回　実践研究の方法、社会科教育の歴史 【key words】 実践研究事例紹介 【授業概要】 【授業概要】 社会科教育に関する学会の実践研究事例紹介、社会科教育論紹介、博物館学習紹介 昭和戦後の社会科の誕生、学習指導要領の変遷（１９４５年～１９７７年　１９７８年～現在） 教育関連法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）等 【教科書ページ・参考文献】 教育関連法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間 第２９回　学校教育の現状と課題 【key words】 アクティブラーニング 【授業概要】 【授業概要】アクティブラーニングによるジグソー、ディベート、シュミレーション、ロールプレイング、NIE いじめ、不登校、非行、貧困、虐待、働き方改革、ESD、コミニュケーションスクール 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 生徒指導提要　１章　（文部科学省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間 第３０回　ふりかえりとまとめ 【key words】 ふりかえり 【授業概要】 【授業概要】１年間を振り返り、学生間で意見交流、 教育実習に行くにあたっての課題等学生間で意見交流 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕講義に関係する情報は、必要に応じて口頭で伝えるか印刷をして配布する。〔受講のルール〕教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立ち注意をしても改まらない場合は、退出を命ずる場合もある。スマホは必ず机上に置き、陰で使用しないこと。調べ学習に必要な場合があるので指示によっては活用する。また、遅刻・早退・欠席については必ず申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育に関係する必要な情報は、日頃から留意をして収集するように心掛けること。また、授業の中に参考となる書籍や雑誌の記事は必要に応じて紹介する。
オフィスアワー	質問や相談については、原則として授業の前後を活用する。なお、質問は内容により文書を作成して配布する。
評価方法	授業への取り組み態度（20%）、指導案と模擬授業（30%）、試験（50%）＝前期 授業への取り組み態度（20%）、指導案作成（30%）と模擬授業（30%）年間計画と板書例作成（20%）＝後期
教科書	１、中学校生徒用教科書　社会科　中学生の地理　　帝国書院 ２、中学校生徒用教科書　社会科　中学生の歴史　　帝国書院 ３、中学校地図帳　　帝国書院 ４　中学校学習指導要領解説　社会編　東洋出版　平成30年3月刊行 ５　国立教育政策研究所論文及び群馬県教育センター資料（担当教員が準備）
参考書	近藤裕幸著　「まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法」梓出版社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 県内の公立高等学校，私立高等学校で長年にわたり授業を担当してきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 社会科資料をインターネット、グーグルなどから引用、活用をし、実践的に使えること

講義科目名称：　社会科教育法Ⅱ　　授業コード：5225

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 中学校社会科公民的分野等の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「社会科学習指導要領公民的分野等の目標と内容」、「解説」についての理解することができる。 ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、社会科の「実践的指導力」を身に付けることができる。
授業の概要	1　社会科（公民的分野等）を指導する教師の基礎基本について学ぶ。 2　実際の生徒用の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等を通して「実践的な授業」について学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解（３分野の目標と内容）、社会科学習ゲーム 【key words】 学習指導要領、３分野の概観、社会科学習ゲーム 【授業概要】 ①本授業の意義とシラバス、30コマの概観と評価方法について知る。 ②学習指導要領と解説を概観する。 ③地理・歴史・公民領域の主な指導内容について知る。 ④授業に生かせる学習ゲームについて知る。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○高校入試問題を解いたり、学習指導要領を読み、中学社会の概観すること、地理の中学生徒用教科書を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	社会科教師の基礎基本①、学習指導要領と解説の理解（地理的分野、生徒用地理教科書を用い指

導事例を紹介する。）
【key words】

学習指導要領の目標・内容、学習指導要領解説、地図帳の指導

【授業概要】
①学習指導要領と解説の関係を理解するとともに、地理的分野を概観する。
②高校入試問題（社会科）より、中学社会を概観する。
③生徒用地理教科書を用い、地理的分野を概観するとともに世界・日本の略地図が書けるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○歴史の中学生徒用教科書を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　社会科教師の基礎基本②、学習指導要領と解説の理解（歴史的分野、生徒用歴史教科書を用い指導事例を紹介する。）
【key words】

歴史的分野、年表の指導

【授業概要】
①学習指導要領と解説の歴史的分野を概観する。
②歴史教科書、年表、資料を活用し、社会科教師として必要な知識、特に、主な年号、教科書ゴシック重要語句は理解し、覚えるようにする。
③学習指導案略案（教師作成）を提示し、展開の具体化を考える。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○担当教員作成の学習指導案略案について、本時の学習の目標・準備まで提示し、展開の部分を書いてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　社会科教師の基礎基本③、学習指導要領と解説の理解（公民的分野、生徒用公民教科書を用い指導事例を紹介する。）
【key words】

公民的分野、新聞やＴＶを活用した指導

【授業概要】
①学習指導要領と解説の公民的分野を概観する。
②公民教科書、カルタ、クイズ等を活用し、社会科教師として必要な知識を身に付ける。
③学習指導案略案（教師作成）に基づく模擬授業ができるよう、授業者班、ワークシート班、板書計画班、教材班に別れ、準備・作成する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業（公民的分野）に向け、班毎にワークシート、板書計画、教材の作成すること。
○次回のミニテストの準備をしておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　教材研究「弥生文化と邪馬台国」、学習指導案略案の書き方、ミニテスト（第１回～第４回までの復習）
【key words】

教材づくり、略案の書き方

【授業概要】
①学習指導案略案（教師作成）を見て、作成方法を理解する。
②学習指導案略案（教師作成）を見て模擬授業ができるよう、授業者班、ワークシート班、板書計画班、教材班に別れ、準備・作成する。
③ミニテスト（第１～４回の復習）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業（公民的分野）に向け、班毎にワークシート、板書計画、教材作成、「弥生文化と邪馬台国」のプゼンテーションの準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　教材研究「弥生文化と邪馬台国」、プレゼンテーション（各自が調べたことを発表する。）
【key words】

教材研究、プレゼンテーション

【授業概要】
①教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照等、流れについて理解する。
②学習指導案略案（教師作成）に基づく模擬授業ができるよう、授業者班、ワークシート班、板書計画班、教材班に別れ、準備・作成する。
③指導するのに必要な教師としての知識技能を班ごとに分かれプレゼンをする。

【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業（公民的分野）に向け、班毎にワークシート、板書計画、教材を基に、模擬授業の練習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　教材研究「弥生文化と邪馬台国」、授業準備
【key words】

教材研究、授業準備

【授業概要】
①模擬授業実施に向け、班内で協力し、略案、ワークシート、板書計画、教材作成を行う。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学習指導案解説を熟読し、社会科の指導法について学んでおくことを指示。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　模擬授業①「弥生文化と邪馬台国」、授業研究会①　　（授業者は代表学生２名）
【key words】

模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○生徒用歴史教科書のゴシックの事項は、理解し漢字で書き、暗記すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　学習指導案細案の書き方①（生徒の実態、実態把握のためのアンケート、指導方針）
【key words】

学習指導案細案、生徒の実態、指導方針

【授業概要】
①学習指導案の書き方（生徒の実態、教材観、指導方針）について理解する。
②学習指導案作成の観点の内容と意味について理解する。
③学習指導案作成の観点に基づくレディネステストの作成方法について理解する。
④板書の仕方、ワークシート作成について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業の準備を班毎に行うよう指示。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　学習指導案細案の書き方②（目標、指導計画、評価規準）
【key words】

学習指導案細案、目標、指導計画、評価規準

【授業概要】
①単元の目標と評価規準の関係、指導計画、本時のねらいと展開内の評価項目と評価方法の関係について知る。
②模擬授業（公民的分野）の３つの班にわかれ、学習指導案細案作成、教材研究を行う。
③班内で、授業者、ワークシート、板書計画、教材の仕事を分担し、準備・作成をする。
④教師は、班内をめぐり、個別指導を行う。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業（公民的分野）の実施に向け、準備すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　学習指導案細案の書き方③（本時の学習、板書、ワークシート、掲示物）
【key words】

学習指導案細案作成、本時の学習、板書、ワークシート

【授業概要】
①模擬授業（公民的分野）の３つの班にわかれ、学習指導案細案作成、教材研究を行う。
②班内で、授業者、ワークシート、板書計画、教材の仕事を分担し、準備・作成をする。
③教師は、班内をめぐり、個別指導を行う。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業（公民的分野）の実施に向け、準備すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　模擬授業②（公民的分野「ちがいのちがい」）、授業研究会②　（授業者は代表学生２名）
【key words】

模擬授業、授業研究会、省察

【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
○志望受験自治体の過去問題について調べ、解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　社会科教師の基礎基本④「たくさんの知識を身に付けよう！」、地理的分野の必須な知識の習得、地図帳の指導例

【key words】

知識・技能の修得

【授業概要】
①地理的分野の教科書や地図帳を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。
②板書練習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○後期最初の授業でミニテストを実施するので、指示された地理的分野教科書の頁の学習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　社会科教師の基礎基本⑤「たくさんの知識を身に付けよう！」、歴史的分野の必須な知識の習得、歴史年表の扱い方

【key words】

知識・技能の修得

【授業概要】
①歴史的分野の教科書や年表を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。
②板書練習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○後期の授業でミニテストを実施するので、指示された歴史的分野教科書の頁の学習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１５回　社会科教師の基礎基本⑥「たくさんの知識を身に付けよう！」、公民的分野の必須な知識の習得、新聞・ニュースの扱い方、シャトルカード前期のまとめ欄への記入

【key words】

知識・技能の修得

【授業概要】
①公民的分野の教科書や新聞等を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。
②板書練習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○後期の授業でミニテストを実施するので、指示された公民的分野教科書の頁の学習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１６回　後期オリエンテーション、社会科学習ゲーム、ミニテスト

【key words】

後期オリエンテーション、社会科学習ゲーム

【授業概要】

①後期の４つの模擬授業実施について、クラスリーダーを中心に話し合う。（公民班、歴史班、地理班、ＴＴ班）
②社会科学習や学級経営に生かせるゲームについて、体験しながら身に付ける。
③ミニテスト（地理的分野）を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○ミニテスト（地理的分野）の直しと復習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１７回　学習指導案細案を作ろう！（公民的分野「民主主義と政治」）
【key words】
学習指導案細案、学習指導要領・解説

【授業概要】
①学習指導案細案（公民的分野）について、理解する。
②観点に基づくレディネステスト、レディネステスト結果と生徒の実態、生徒の実態と指導方針の関係について理解する。
③班ごとに、教材研究をする。
④ミニテスト（歴史的分野）を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○公民班は、模擬授業の展開部分について次回まで、紙面で発表できるようにしておくこと。
○ミニテスト（歴史的分野）の直しと復習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１８回　学習指導案事前検討会（公民的分野「民主主義と政治」）
【key words】

学習指導案細案検討

【授業概要】
①公民班は模擬授業の展開部分を板書または資料提示し、全体で検討する。
②①の検討を受け、公民班は学習指導案・ワークシート・板書計画の修正をする。
③他班は、学習指導案作成など、模擬授業準備をする。
④ミニテスト（公民的分野）を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業担当班はシミュレーションを複数回実施、他班は学習指導案事前検討会に向け、細案、ワークシート、板書計画、教材作成を行っておくこと。　○ミニテスト（公民的分野）の直しと復習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１９回　模擬授業③（公民的分野「民主主義と政治」）、授業研究会③（授業者は代表学生１名）
【key words】

模擬授業、授業研究会、省察

【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○公民班は、模擬授業の省察を行う。他班は、模擬授業の学習指導案細案、ワークシート、板書計画、教材を確実に行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２０回　学習指導案細案を作ろう！（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」）

【key words】

学習指導案細案、学習指導要領・解説

【授業概要】
①歴史班は模擬授業の展開部分を板書または資料提示し、全体で検討する。
②①の検討を受け、歴史班は学習指導案・ワークシート・板書計画の修正をする。
③地理班は、学習指導案作成など、模擬授業準備をする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業の実施に向け、準備すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２１回　学習指導案事前検討会（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」）

【key words】

学習指導案細案検討

【授業概要】
①歴史班長からの学習指導案、ワークシート、板書計画の説明を受け、学生が進行し、検討会を行い、よりよい学習指導案等に修正する。
②①の検討会を受け、歴史班は学習指導案等の修正、地理班は、学習指導案作成など、模擬授業準備をする。
③公民班は、歴史班と地理班のサポートに入る。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業の実施に向け、準備すること、授業が終わった班は、振り返りをすること。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２２回　模擬授業④（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」、授業研究会④（授業者は代表学生１名）

【key words】

模擬授業、授業研究会、省察

【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業の実施に向け、準備すること、授業が終わった班は、振り返りをすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２３回　学習指導案細案を作ろう！（地理的分野「世界と比べた日本の平野）」

【key words】

学習指導案細案、学習指導要領・解説

【授業概要】
①地理班は模擬授業の展開部分を提示し、全体で検討する。
②①の検討を受け地理班は学習指導案・ワークシート・板書計画の修正をする。
③地理班は、学習指導案作成など、模擬授業準備をする。他班は、自己の授業の省察を行う。
【教科書ページ・参考文献】

①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業の実施に向け、準備すること、授業が終わった班は、振り返りをすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２４回　学習指導案事前検討会（地理的分野「世界と比べた日本の平野）」
【key words】

学習指導案細案検討

【授業概要】
①地理班長からの学習指導案、ワークシート、板書計画の説明を受け、学生が進行し、検討会を行い、よりよい学習指導案等に修正する。
②①の検討会を受け、地理班は学習指導案等の修正、学習指導案作成など、模擬授業準備をする。
③他班は、地理班のサポート、または自班の省察を行う。″
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業の実施に向け、準備すること授業が終わった班は、振り返りをすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２５回　模擬授業⑤（地理的分野「世界と比べた日本の平野」）、授業研究会⑤（授業者は代表学生１名）
【key words】

模擬授業、授業研究会、省察

【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬授業実施に向け、準備すること、業が終わった班は、振り返りをすること。次回、Ｔ・Ｔ、ノート指導とワークシートについて話し合うので資料を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２６回　社会科授業におけるＴＴ、社会科におけるノート指導とワークシート（各自のレポートを基に討論会を行う。）
【key words】

Ｔ・Ｔ、　　Ｔ・Ｔの学習指導案

【授業概要】
①Ｔ・Ｔの意義、授業の仕方、学習指導案の作成について学生が作成した資料を用い、話し合う。
②学生が司会・板書をしながら進める。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○Ｔ・Ｔ模擬授業の準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２７回　模擬授業⑥（TT）、授業研究会⑥（授業者は代表学生２名）
【key words】

Ｔ・Ｔ、　　Ｔ・Ｔの指導方法

【授業概要】
①模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
定期試験に向け、今までの総復習をしておくこと、自己の志望自治体の過去問題を解いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２８回　教育実習に必要な社会科教師の知識について①（中学・高校教科書、教師用指導書、教採過去問より）
【key words】

知識の修得

【授業概要】
①中学校・高校教科書、教師用指導書、学習指導要領・解説、教採過去問題集を用い、必要最低限の知識を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○定期試験に向け、今までの総復習をしておくこと、自己の志望自治体の過去問題を解いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２９回　教育実習に必要な社会科教師の知識について②（中学・高校教科書、教師用指導書、教採過去問より）
【key words】

知識の修得

【授業概要】
①中学校・高校教科書、教師用指導書、学習指導要領・解説、教採過去問題集を用い、必要最低限の知識を習得する。

【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○定期試験に向け、今までの総復習をしておくこと、自己の志望自治体の過去問題を解いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３０回　１年間のまとめ（含む教育理論）、シャトルカード後期のまとめ欄への記入
【key words】

教育理論、目指す社会科教師像

【授業概要】
①生徒に十分な３分野の知識、資料活用能力、思考力、表現力を身に付け、考える社会科を実践できる教師を期待したい。
②社会科授業に使える教育理論について知る。
③目指す教師像についてのプレゼンを行う。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○定期試験に向け、今までの総復習をしておくこと、自己の志望自治体の過去問題を解いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

	90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	学期末試験（50%）、学習指導案の作成・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）
教科書	①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、②中学校生徒用教科書「新しい社会　歴史」東京書籍、③中学校生徒用教科書　「社会科中学生の地理」帝国書院、④中学校生徒用地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、⑤「中学校学習指導要領解説（社会編）平成29年７月」日本文教出版、⑥その他授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
参考書	・近藤裕幸：「まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法」梓出版社、2012年　　・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会科教員専修免許状（中、高地歴・公民）を持ち、群馬県教育委員会指導主事として、中学校社会科教員の指導に４年間携わった。本授業では、担当教員が、学生の実態に応じ示範授業を提示し、授業の流れを体得してもらうなど、現場経験を生かし、実践的な指導を行っている。公民に力点を置くが、大学３年次の教育実習に備え、他２分野でも学生の模擬授業を実施している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　知的障害教育Ⅰ　　授業コード：5301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　特別支援教育では最も対象者の多い障害種である知的障害について理解し、その教育の基本的な事項が理解できる。 【到達目標】 　①知的障害児の特性について理解できている。 　②知的障害教育の基本的な事項（教育課程、考え方、指導形態、指導方法など）が理解できている。 　③特別支援学校学習指導要領について理解できている。
授業の概要	講義を通して知的障害児の行動特性を理解する。また、知的障害児の学習指導要領の変遷、知的障害児のあゆみ、知的障害教育の歴史や知的障害児の現況について学習することにより、知的障害教育全般について幅広い知見を得る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（知的障害とは　　知的障害児の心理と行動傾向について） 【key words】 知的障害児について　　定義　　障害程度　　知能　　行動 【授業概要】 １５回の講義内容説明。　知的障害児の持つイメージについて。　知的障害児との接点を振り返る 　知的障害児とは（障害の程度、心理、行動、知能、運動機能、認知、記憶等）について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定された次回の資料の範囲を予習する。今回の復習と整理。知的障害児との接点、知的障害児のイメージ、どう係わりたいかをレポート①にし、提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分～６０分
	第２回	障害種について　　発達障害との関係　　知的障害に関する法律について 【key words】 障害種　　知的障害　　発達障害　　就学免除　就学猶予　　学校教育法他 【授業概要】 他の障害との関係、比較について　　法律面から　　障害の違いについて　　知的障害児の個性について

【教科書ページ・参考文献】
資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習、次回の予習
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第３回　知的障害児の歴史　知的障害教育の歴史
【key words】
知的障害児の歴史　差別　養護学校の義務化

【授業概要】
知的障害児と知的障害教育について　その歴史と歩み　養護学校の義務化　特殊教育と特別支援教育

【教科書ページ・参考文献】
提示資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害児と教育の変遷について、学んだことを自分なりに復習し整理する。次回の予習。知的障害児の理解を深める。学習指導要領と同解説書を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～６０分

第４回　学習指導要領の変遷、学習指導要領の位置づけ、学習指導要領について考える　知的障害教育の教育課程（１）　学習指導要領について
【key words】
法的根拠　学習指導要領の歩み　解説　教育課程

【授業概要】
知的障害児の指導と知的障害児の特性など考慮して、どのような配慮が必要かを考察し、さらに知的障害児教育の現在の教育課程に至るまでを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ．１ー３５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領及び解説に親しみ熟読して内容を理解する。次回以降学習指導要領と同解説書を持参する。次回以降に自分で調べた課題について発表するので準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
４０～６０分

第５回　学習指導要領　教科・領域別の指導について
【key words】
知的障害教育の教育課程（２）　教科別の指導について　教科　国語　算数　音楽　他

【授業概要】
教科書より障害教育の教育課程について理解する。他の障害児の教育課程と知的障害教育の教育課程の違いについても考察する。　そして、教科・領域別指導について考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ.３８－５５、　８０－８７，　１０８－１１１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特別支援学校学習指導要領、同解説を読み復習する。次回使用する資料配付、熟読しておく
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第６回　教科・領域を合わせた指導について（日常生活の指導）
【key words】
日常生活　日常の生活　遊び　学習

【授業概要】
領域・教科を合わせた指導の一つである日常生活の指導について学ぶ。それぞれ領域、教科をする場合の教科の内容、及びメリット、デメリット等についても検討する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p.８８－９３　１１２－１１５　特別支援学校学習指導要領解説　資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害と他の障害の教科の違いについて。教科の学習と合わせた指導の仕方など、混乱しないよう十分復習しておくこと。次回の資料配付、熟読しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第７回　教科・領域を合わせた指導について（遊びの指導、生活単元学習）
【key words】
遊び　生活　学習　集団　単元

【授業概要】
知的障害特別支援学校で主に実施されている指導形態の一つである遊びの指導、生活単元学習について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ８８－９３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的と他の障害の教科の違い、教科の学習と合わせた指導の仕方など十分復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

４０分～６０分
第８回　教科・領域を合わせた指導について（生活単元学習）
【key words】
領域・教科を合わせた指導　　日常の活動　　単元

【授業概要】
知的障害特別支援学校で一番知られている「生活単元学習」についていくつか事例を挙げ、詳しく検討する。

【教科書ページ・参考文献】
参考：阿部芳久　知的障害児の特別支援教育入門　日本文化科学社　２００６他
【課題・予習・復習・授業準備指示】
領域・教科を合わせた指導について理解する。次回使用の配付資料を読んでおく。次回ミニテスト①実施。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分
第９回　教科・領域を合わせた指導について（作業学習）
【key words】
領域・教科　　園芸　　農業　　陶芸　　木工　　紙工　　各種の作業

【授業概要】
ミニテスト①実施。主に中学部や高等部において実施することの多い指導形態の１つである作業学習について、いくつかの事例を挙げ説明する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書　阿部芳久　　知的障害児の特別支援教育入門　　日本文化科学社　２００６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分でも作業学習について調べて理解を深める。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分
第１０回　自立活動の指導について
【key words】
自立活動　　養護・訓練　　６領域

【授業概要】
特別支援教育の教育課程では特に重要な自立活動について、変遷や概要、意義等について理解する

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ９８－１０１、１１６－１２３　　参考書：前回同様

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自立活動について復習し理解を深める。次回の準備。
知的障害児の教育における学習形態について自分なりの考えをレポート②提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分
第１１回　学校参観　　調査発表　　特別支援学校と特別支援学級の学級経営について
【key words】
教育現場の実情　　授業　　諸問題

【授業概要】
県内の知的障害の特別支援学校の授業の様子を参観し、学校現場の授業の様子を知る
（参観出来ない場合は各地の知的障害特別支援学校の様子を資料を通して知る。各自調べた特別支援学校について発表する）

【教科書ページ・参考文献】
教科書全般　　参考資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参観（調査）した学校で感じたことや調査で出てきた課題などを含めた感じたことをレポート③にし提出する
知的障害児・者の進路問題について調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分
第１２回　特別支援学校と特別支援学級の指導方法について
【key words】
特別支援学校　　知的障害　　授業　　知的障害教育

【授業概要】
前回に続いて各特別支援学校、特別支援学級で行われている教育実践の実際を検討する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ、１３２－１３９　　教科書　特別支援学校学習指導要領、配付資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害教育特別支援学校の現状と課題を理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
復習２０分、予習３０分
第１３回　個別の指導計画と個別の教育支援計画について

	【key words】 個別支援　　教育支援計画　　指導計画 【授業概要】 個別の教育支援計画とは、また、個別の指導計画とは、個別の支援計画全般から眺めて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp.６０－６３　　参考資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児・者の一生を眺めて計画される観点から教育現場でおこなわれている各支援計画と指導計画を理解する 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　学校卒業後の課題　進路問題について　キャリア教育について 【key words】 進路　トラブル　サポート　卒業後の課題　卒業前に対応する課題　キャリア教育 【授業概要】 知的障害者の学校卒業後の進路の現状、そこから見える課題と学校現場で求められている課題について考察する。学生各個人が調査したものを元に、そこから見えてくる課題や問題点を出しながら進め、直面してい　る問題から学校教育を見直してみる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、５６－５９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業以外でも情報を集めて、進路問題に対して障害者の直面する課題の認識を深める 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　特別支援教育の展望と課題について 【key words】 学校卒業後の課題　社会生活　支援体制 【授業概要】 中学校卒業後すぐ社会に出る状態から後期教育の重視が叫ばれ、高等部進学が増えたが、新たなる課題が出てきた現状について講義する。講義等を通して知的障害教育の認識が深まったか話し合う。知的障害児の一　貫した取り組みの現状を理解し、どのような社会が今後どのような社会にしたいかを含め、自分の考えをまとめてレポート④を提出する。 【教科書ページ・参考文献】 資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義で出てきた知的障害教育の問題点、課題等を整理し、概要をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に係わる情報〕 ①講義の回数に応じて若干授業内容がずれる場合がある。 ②講義では予定のミニテスト以外に確認の意味でミニテストを実施する。 〔受講のルール〕 ①特別支援教育に進路を決めている学生は将来担当することが十分考えられるので、その自覚をもって授業に臨むこと。 ②予習、復習は必ず行うこと。参考書、資料にも目を通し熟知することが大切である。 ③他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の操作等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・ミニテスト・発表（内容、適切さ）５０％ ②筆記試験（客観的、論述）５０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	全日本特別支援教育研究連盟：「平成29年版特別支援学校新学習指導要領ポイント整理　特別支援教育」　東洋館出版社2018
参考書	授業の中で適宜紹介、またはプリント配付する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場などを通して特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習)

	■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 肢体不自由教育Ⅰ　　授業コード：5311

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 肢体不自由教育の基礎となる用語・概念を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から課題を捉える力が涵養される。 【到達目標】 1　肢体不自由教育の基礎基本を習得する。（知識・理解） 2　肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける。（思考） 3　知識を他者に表現することができる。（表現）
授業の概要	肢体不自由児の教育に関する教育・心理・生理・検査・歴史等について概説する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション、肢体不自由の定義、合理的配慮 【key words】 肢体不自由とは　脳性麻痺 【授業概要】 肢体不自由とはどういう状態であるか、肢体不自由の原因にはどんなものがあるか等について。 【教科書ページ・参考文献】 1ページ～3ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由とはどういうものか、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第２回	肢体不自由の骨格と関節、筋肉と神経系、脳機能と診断 【key words】 先天性疾患　二次障害 【授業概要】 人の身体の骨格や関節のおおまかな仕組みや筋肉や脳のおおまかな働き等について。骨や関節の先天性疾患や脳性麻痺における二次障害について。 【教科書ページ・参考文献】 4ページ～15ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 先天性疾患としてあげられる疾病を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第３回	肢体不自由の医学的理解、脳性まひ、重度重複化 【key words】 自閉症スペクトラム障害　未熟児 【授業概要】 脳障害の広がりに伴う麻痺以外の、前頭葉機能障害や視知覚認知障害や、脳性麻痺の様々なタイプについて。 【教科書ページ・参考文献】

		16ページ～23ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 未熟児がかかえる問題について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第４回	肢体不自由の心理特性、行動特性 【key words】 認知の障害　抽象的思考活動　社会性の発達 【授業概要】 肢体不自由児は移動運動に制限があることが多く、それが原因となって起こる様々な発達の遅れや、脳損傷によって起こる特徴的な行動特性について。 【教科書ページ・参考文献】 24ページ～27ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 移動制限がもたらす弊害についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第５回	肢体不自由児の社会的理解 【key words】 自己受容　社会的受容 【授業概要】 我が国で定着している障害受容の定義について。肢体不自由者に対する態度とその変容について。 【教科書ページ・参考文献】 28ページ～31ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由児（者）と接した経験についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第６回	肢体不自由教育におけるアセスメントの意義と活用、知能検査、運動検査の方法と活用 【key words】 フォーマル・アセスメント　インフォーマル・アセスメント 【授業概要】 肢体不自由教育における実態把握のための、WISC－ⅣやGMFM（粗大運動能力尺度）等のアセスメントの方法と活用の仕方について。 【教科書ページ・参考文献】 32ページ～39ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 WISC－Ⅳについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第７回	肢体不自由教育における　知覚・認知検査、感覚検査、言語検査の方法と活用 【key words】 空間認知　基礎感覚 【授業概要】 知覚・認知検査、感覚検査、言語検査の方法を知ると共に検査結果から見えてきた児童の実態に対して、どのような支援ができるかについて。 【教科書ページ・参考文献】 40ページ～45ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 検査結果を活かす支援についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第８回	肢体不自由教育における　発達検査、行動観察、学力検査の方法と活用 【key words】 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法　CRT・NRT 【授業概要】 発達検査、行動観察、学力検査の方法を知ると共に検査結果から見えてきた児童の実態に対して、どのような支援ができるかについて。 【教科書ページ・参考文献】 46ページ～51ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 検査結果を活かす支援についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第９回	動作法、静的弛緩誘導法、感覚統合療法の基礎 【key words】 課題－意図－努力－身体運動 【授業概要】 動作法の歴史や心理リハビリテーションキャンプ、動作法の理論等について。 【教科書ページ・参考文献】 52ページ～53ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 動作法について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１０回	肢体不自由教育の歴史（戦前）、高木憲次、学校の設立 【key words】 高木憲次　整肢療護園　柏学園 【授業概要】 肢体不自由教育の発展に関わる、田代義徳氏、高木憲次氏、柏倉松蔵氏等の業績について。 【教科書ページ・参考文献】

	56ページ～63ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由教育の発展に関わった先人の中から、一人を選んで調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１１回　肢体不自由教育の歴史　　公立養護学校整備特別措置法成立と養護学校の整備、学習指導要領の制定と改訂 【key words】 盲学校、聾学校の義務制実施　養護学校の義務制 【授業概要】 盲学校、聾学校の義務制が実施されその後養護学校が義務化されるまでの経緯、肢体不自由養護学校の学習指導要領の制定についてなど。 【教科書ページ・参考文献】 64ページ～67ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導要領を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１２回　肢体不自由教育の歴史　　養護学校義務制、自立活動の成立と意義、特別支援学校の理念と制度 【key words】 就学猶予・免除 【授業概要】 養護学校教育の義務制の実施により、どのような子どもが教育を受けられるようになったかについて。障害のある子どもに対して行われた養護・訓練から自立活動へと変わっていった経緯について。 【教科書ページ・参考文献】 68ページ～75ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 就学猶予・免除についての自分の考えをまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１３回　肢体不自由特別支援学校、肢体不自由特別支援学級の現状と課題、通級による指導の現状と役割 【key words】 障害の重複化 【授業概要】 肢体不自由の特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の特別支援教育における、それぞれの現状と課題、それぞれの役割について。 【教科書ページ・参考文献】 76ページ～81ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害の重複化に伴い、発生する問題についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１４回　小中学校等における肢体不自由児の教育的ニーズ、特別支援教育に関わる法令、個別の教育支援計画に基づく連携 【key words】 PT　OT　ST　バリアフリー 【授業概要】 「教育内容・方法の工夫」「支援体制の整備」「施設・設備の整備」の３つの観点から考える、肢体不自由児の教育的ニーズの実際、特別支援教育に関わる法令、支援の質に向上につながる個別の教育支援計画等について。 【教科書ページ・参考文献】 82ページ～87ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PT　OT　STの用語を詳しく調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１５回　肢体不自由教育のまとめ 【key words】 教員の役割 【授業概要】 肢体不自由教育に関わろうとする教員として、何を考え何をしていくべきかそれぞれの考えを述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書全ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他の人の発表を聞いての感想をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻、欠席は必ず届けること。 ・積極的な授業参加、予習を求めます。 ・他の学生の迷惑となる行為（私語、スマホの操作等）、授業の流れや雰囲気を壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード　ノート
授業外時間にかかわる情報	特別支援教育に関する情報に普段から触れておくこと。　（新聞、ニュース等からの情報収集） 特別支援教育の現場を知ること。　（見学、ボランティア等）
オフィスアワー	授業の前後10分間
評価方法	定期試験（50%）　ノート提出（30%）　授業への取り組み（コメントカードの内容、発言等）

	（20%）
教科書	安藤隆男・藤田継道編書「よくわかる肢体不自由教育」　2017　ミネルヴァ書房
参考書	特に指定しない
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教員として特別支援教育に携わってきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 言語障害について、外部講師を招いて講義をしてもらう。

講義科目名称： 特別支援教育総論　　授業コード：5321

英文科目名称： Introduction to Special Needs Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
久田　信行			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 特別支援教育とは何か、その全体像を理解すること。障害児教育の教育思想、歴史、制度、障害の特性、教育課程、教育方法の入門的な事項を学ぶことを通じて、特別支援教育の全体的な見通しを把握することが目的である。 【到達目標】 特別支援教育の教育思想，歴史，教育制度、法規、教育課程、教育方法等の基礎となる事項を幅広く学び、特別支援教育の基本的な考え方を身につけることが本授業の目標である。
授業の概要	目的に接近するため、障害児の心理・生理・病理を学ぶ意義や教育課程・指導方法を学ぶ必要を実践例を元に解説する。 「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？（インクルーシブ発想の教育シリーズ）」を教科書として用い、特別支援教育に関する基本的通知や学習指導要領等の文書を適宜参照しつつ、講義形式を中心に実施する。一部、project based learning (PBL)などのアクティブ学習を加える。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	国際生活機能分類（ICF)による障害の定義と国連障害者の権利条約：教育支援資料　p.1～序論，p.5～ICF 【key words】 障害　ICF(国際生活機能分類)　障害者の権利条約　共生社会　インクルージョン 【授業概要】 「障害」の定義をICFの図式から検討する。障害の全体像を俯瞰し、権利条約が強調している障害者の尊厳を理解し、権利条約と教育の関連へと目を向けてもらう 【教科書ページ・参考文献】 久田信行　2011　国際生活機能分類（ICF）の基本的概念と評価の考え方　―「生活機能」と「潜在能力」を中心に―　群馬大学教育実践研究，第28号，179～191頁. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の第1章を読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	特別支援教育の理念と制度 【key words】 特別支援学校　特別支援学級　通級による指導　交流及び共同学習 【授業概要】 特別支援教育を支える、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導および交流及び共同学習について学び、1回目の基礎的考え方との関連を考える。関連については小グループの討論を行う。 【教科書ページ・参考文献】 文部省　初等中等教育局長「特別支援教育の推進について（通知）」平成19年

【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記資料を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第３回　障害児教育の歴史的変遷　盲唖学校の誕生と肢体不自由児療育の誕生など
【key words】
京都訓盲唖院　楽善会訓盲院　整肢療護園
【授業概要】
我が国の障害児教育の開始時点を振り返ることで、その当時の人々が、障害のどのような側面に注目し、どのようなアプローチをしたかを学ぶことで、当時の障害者の置かれていた状況も推察する事が出来る。
【教科書ページ・参考文献】
久田信行　2009　盲唖学校の成立と山尾庸三　―吉田松陰の思想と時代背景―　群馬大学教育実践研究，　第 26号，89～100頁.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記参考文献を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第４回　インクルーシブ教育の基礎　：　第１章　インクルーシブ発想とは
【key words】
特別支援学校　特別支援学級　通級による指導　インクルーシブ教育　学級経営
【授業概要】
　通級を含む、幼稚園、小学校、中学校、中等教育学校、高等学校における特別支援教育の制度を理解し、それとインクルーシブ教育の関係を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　第1章　インクルーシブ発想とは～岩瀬直樹実践が問いかけるもの～
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第1章を読み、自らの小学校時代に障害児と接した経験を振り返ってくる
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第５回　インクルーシブ教育の実際　：　第２章　インクルーシブ教育をどう実践すればいいのか　PBL1
【key words】
合理的配慮　個別の教育支援計画　学級経営
【授業概要】
通常の学級におけるインクルーシブ教育の実践を討議することにより、特別支援教育の基礎を考える。何が必要か、各自の考えを出し合って、テーマを決めて、インクルーシブ教育について調べる計画を立て、情報交換をする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　第２章　インクルーシブ教育をどう実践すればいいのか（対談）青山新吾×岩瀬直樹
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第2章のp.87までを中心に読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　インクルーシブ教育の実際　：　第２章　インクルーシブ教育をどう実践すればいいのか　PBL2
【key words】
学級経営　自主性　多様性の尊重
【授業概要】
前回の調べ学習の成果を出し合い、インクルーシブ教育を実践する上で必要な事を話し合う。併せて、岩瀬の実践に対する青山の問いかけの意味を探る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　第２章　インクルーシブ教育をどう実践すればいいのか（対談）青山新吾×岩瀬直樹
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第2章のp.88以降を中心に読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　1 視覚障害のある幼児児童生徒に対する教育
【key words】
盲　弱視　視覚障害教育　点字　歴史　訓盲院
【授業概要】
視覚障害児に対する特別支援教育を視覚特別支援学校を学ぶことを通して学習する
【教科書ページ・参考文献】
教育支援資料　P.65-84.　久田信行　2009　盲唖学校の成立と山尾庸三　―吉田松陰の思想と時代背景―　群馬大学教育実践研究，　第 26号，89～100頁.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配付資料を読み、復習する
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第８回　2 聴覚障害のある幼児児童生徒に対する教育
【key words】
手話　口話　聾　難聴　聴力検査　人工内耳　早期教育
【授業概要】
聴覚障害児に対する特別支援教育を聴覚特別支援学校を学ぶことを通して学習する
【教科書ページ・参考文献】
教育支援資料　P.85-106.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記資料を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第９回　3 知的障害のある児童生徒に対する教育：その１　PBL
【key words】
知的障害　知能の発達　知能の測定（知能検査）　生活中心教育と生活単元学習
【授業概要】

		知的障害児に対する特別支援教育を知的特別支援学校を学ぶことを通して学習する 「教育支援資料」を主教材に、プロジェクト・ベースド・ラーニングを試みに行う。この資料の気になる部分を絞り込み、集団学習で手分けしてテーマに沿った調べ学習を行う。その作業分担を決めて討議を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教育支援資料　P.107-126. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「教育支援資料」の知的障害の章を読み、各自の気になる点をリストアップしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１０回	3 知的障害のある児童生徒に対する教育：その2　PBL 【key words】 生活単元　抽象的思考　知的障害者の就労 【授業概要】 先週、分担した各自のテーマを持ち寄り、困難の本質を語り合ったり、支援の基礎を考えたりする。 【教科書ページ・参考文献】 教育支援資料　P.107-126. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プロジェクトを振り返り、短いレポートを作成し次回提出。 【予習復習に必要な想定時間】 80分
	第１１回	4 肢体不自由の児童生徒に対する教育：その1 【key words】 肢体不自由　高木憲次　整肢療護園　動作法　自立活動 【授業概要】 肢体不自由教育の歴史から、「肢体不自由」という概念の背景を理解する。教育課程の詳細は後期に学ぶが、概略は講義する。 【教科書ページ・参考文献】 教育支援資料　P.127-154. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記資料を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	5 肢体不自由の児童生徒に対する教育：その２　動作法実習 【key words】 動作学習　動作法　リラクセイション 【授業概要】 動作法を講義し、実習を行う。動きやすい服装で参加する。 【教科書ページ・参考文献】 教育支援資料　P.127-154. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ネットで動作法について調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１３回	5 病弱の児童生徒に対する教育　6特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの役割 【key words】 慢性疾患　病弱　虚弱　学習空白　センター的役割　コーディネーター　コンサルテーション 【授業概要】 病弱児に対する特別支援教育を病弱特別支援学校を学ぶことを通して学習する。また、特別支援学校のセンター的機能についても学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教育支援資料　P.155-192. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育支援資料の該当箇所を予習しておく。病名等が多いので、事前にネットなどで調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１４回	6 通常の小中学校の特別支援教育コーディネーターの役割　：新ガイドライン 【key words】 旧ガイドラインとの比較　コーディネーター　ケースワーカー　スクールカウンセラー 【授業概要】 通常の学校における特別支援教育の体制整備を新ガイドラインから具体的に理解する 【教科書ページ・参考文献】 「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から，教育的ニーズに気付き，支え，つなぐために～」（文部科学省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記資料を読み、わかりにくい部分をピックアップしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１５回	インクルーシブ教育システムの方法論　：　第３章　インクルーシブ教育の実践って？ 【key words】 理念　児童観　人間観 【授業概要】 インクルーシブ教育の実践を通じて、教育を成り立たせている見方や考え方を検討する。そこから、教育思想等が実践に大きく影響していることを考える。 まとめと後期への課題を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　第3章　インクルーシブ教育の実践って？

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 第三章を読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】 40分
受講生に関わる情報および受講のルール	入門的な内容なので、受講の条件は無い。幅広く、特別支援教育の基本的な考え方を学習するので、日常生活の中でも、障害児の教育や福祉の話題について敏感に情報収集し、自ら考えることを努力されたい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	途中で本を探して読む学習等を求めますので、特別支援教育に関する本を探すようにしておいてください。
オフィスアワー	授業後の30分あるいは昼休み等をあてるので、相談等がある場合は、授業中にお知らせするメールアドレスで事前に申し込んでください。
評価方法	コメントカード　10%　読書レポート　20%　ショート・レポート　10%　最終レポート　60%
教科書	青山 新吾・岩瀬 直樹（著）「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？（インクルーシブ発想の教育シリーズ）」学事出版
参考書	文科省 「教育支援資料」（平成25年）及び「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（平成29年）（インターネットで入手のこと）　その他、適宜指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 昭和53年から58年まで、北九州市立総合療育センターの臨床心理士として超早期療育を中心に、各種の障害児への実務を行ってきた。その後、昭和58年から平成4年までは国立特殊教育総合研究所の教育相談を担当し、平成4年から平成24年まで群馬大学で教育相談を担当してきた。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ICTについては、今期内に1回は事前学習の一部にe-learning教材を用いる。

講義科目名称： 障害児支援法総論　　授業コード：5361

英文科目名称： Support Methods for Person with Special Educational Needs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
久田　信行			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 障害児教育は、個々の教育的ニーズに応える教育的営みである。この講義では、どのように障害のある児童・生徒の教育的ニーズに応えるか、講義・実習的アクティブラーニングを通じて、教育方法論について体験的に考えられるようになることを目的とする。 【到達目標】 特別支援教育の全体像を理解するためにも、広く障害全般についての理解を深め、その指導方法と教育課程を理解することが必要である。自立活動を中心に方法論の比較が出来るようになることを目標とする。
授業の概要	心身に障害のある子どもの教育課程及びに指導法に関する科目で、視聴知肢病を含む科目である。発達障害児等の指導についても講義する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ブラインドウォーク、難聴体験 【key words】 ブラインドウォーク、ガイドヘルプ、キャップハンディー、視野 【授業概要】 感覚を制限した状況で、ガイドされて歩く体験を通じて、介護される恐怖や介護する上での配慮事項について検討する 【教科書ページ・参考文献】 ガイドヘルパーに関する情報 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ネット等で調べてまとめてくる 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第２回	動作法１　基礎的な自己リラクセーション 【key words】 自己弛緩　リラクセーション　動作法 【授業概要】 動作法の理論と方法を講義し、自己弛緩の方法を練習する 【教科書ページ・参考文献】 動作法に関するネットの情報 【課題・予習・復習・授業準備指示】 しらべたものをまとめてくる 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第３回	動作法２　基礎的な他者リラクセーション 【key words】 リラクセーションの技法　肩、軀幹、膝、足首

【授業概要】
他者弛緩　身体各部位のリラクセーションの技法を実習する
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領解説　自立活動編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
運動動作に関連する部分をいくつか読んでまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第４回　自立活動とICF　：　個別の教育支援計画と個別の指導計画
【key words】
自立活動　心身機能　活動　参加　生活機能　拡大された心
【授業概要】
ICFの図式を参考に、自立活動が担うべき活動と教育全般ではぐくむ活動、参加について学習する。これらの学習を基礎に、どのように社会参加し、地域・社会の人々と連携するかの、枠組みを学習する。
それらを基礎に、個別の指導計画を立てる実習をする。

【教科書ページ・参考文献】
久田信行　2011　国際生活機能分類（ICF）の基本的概念と評価の考え方　―「生活機能」と「潜在能力」を中心に―　群馬大学教育実践研究，第28号，179～191頁.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　特異な行動の理解と支援　：　いわゆる問題行動へのアプローチ
【key words】
問題行動　離席　他害　定同行動
【授業概要】
いわゆる問題行動について、どう捉え、どう支援していくかを整理する
【教科書ページ・参考文献】
久田信行「特異な行動の理解と支援」という教材
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に配布するので、読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　インクルーシブ教育システム構築への道　前期の学習から学んだこと　PBL
【key words】
自立生活運動（IL運動）　ノーマライゼーション　インテグレーション　インクルージョン　インクルーシブ教育
【授業概要】
IL運動の歴史から、ノーマライゼーションという現在の考え方の基礎を学び、具体的にどう学校が変わって来たか海外の例を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　第3章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
IL運動の歴史や我が国での展開をネットで調べてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第７回　教育支援資料にみる障害児の教育方法1
【key words】
支援　指導　援助
【授業概要】
教育支援資料は就学支援のための資料であるが、教科書としてもすぐれている。その全体像をまず学習する。
【教科書ページ・参考文献】
文部科学省「教育支援資料」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記資料の一部を読む
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　教育支援資料にみる障害児の教育方法1；自閉症児の支援方法
【key words】
自閉症　対人行動　感覚過敏　視覚優位　言語機能
【授業概要】
自閉症児の指導について自らの体験等からディスカッションし、教育支援資料のまとめと比較検討する
【教科書ページ・参考文献】
教育新資料　p.223-240.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を読んで注目点を2つ挙げる
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第９回　教育支援資料にみる障害児の教育方法2；ADHD児の支援方法
【key words】
多動　注意散漫　衝動性　薬物療法
【授業概要】
注意欠如多動性障害について指導法を検討する。行動のコントロールが必要なこともあるため、その方法も実習し、留意点についても検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教育新資料　p.251-259.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を読んでくる。特性に応じた指導のかしょをまとめてくる。

	【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１０回　教育支援資料にみる障害児の教育方法3；学習障害児の支援方法 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 教育支援資料　p.241-250. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料を読んでくる。特性に関して述べられている部分をまとめてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 50分 第１１回　教育支援資料にみる障害児の教育方法4；知的障害児の支援方法 【key words】 作業学習　身体的プロンプト　強化　見通し 【授業概要】 作業における支援を検討するため、単純な素材を用いた造形活動を行い、生徒役と先生役になって、支援の際に留意する点を探す。 【教科書ページ・参考文献】 教育支援資料　p.107-126. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料を読み、作業学習の部分をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 50分 第１２回　教育支援資料にみる障害児の教育方法5；情緒障害児の支援方法 【key words】 情緒障害　場面緘黙　不登校 【授業概要】 情緒障害児への支援について、場面緘黙児を例に、捉え方と支援の方法について講義し、討論する。 【教科書ページ・参考文献】 教育支援資料P.211-222.　久田，金原，梶，角田，青木(2016) 総説 場面緘黙(選択性緘黙)の多様性-その臨床と教育-,不安症研究，8 巻 1 号 p. 31-45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 参考文献を読み、関心のある部分をまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　肢体不自由への支援からみた動作支援 【key words】 動作不自由　介護　学習性無力感　恐怖 【授業概要】 四肢や体幹の動きを制限した条件で介護を受ける体験をする。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領　自立活動編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由児の指導計画の中から、運動・動作に関連する部分を探してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　食事介助と食機能 【key words】 摂食　嚥下　咀嚼 【授業概要】 食事介護を実習し、食物の形態や扱いでどのような体験をするか、様々な条件で調べる。 【教科書ページ・参考文献】 ネットで食事介助について調べる（老人介護の情報でも可） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 調べた結果をまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 70分 第１５回　行動の自己コントロールといわゆる発達障害児等の対人関係の支援 【key words】 問題行動　離席　飛び出し　他害 【授業概要】 様々な状況で、いわゆる問題行動が発生する。それへの対処を検討するなかで、行動の自己調整が出来る様に教えることが重要になってくる。 【教科書ページ・参考文献】 ネット上の問題行動に関する情報 【課題・予習・復習・授業準備指示】 問題行動というキーワードで対処法を探してまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	指導法・支援法を中心とするが、生理・病理・心理の基礎的理解を前提に授業をするので、予習を充分に行うこと。実習的な授業も取り入れるので、動きやすい服装で受講して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	特別支援学校学習指導要領解説と教育支援資料(webから入手可）を部分的でも良いので予習しておいてください。

オフィスアワー	授業後の30分ないしは昼休み等をあてるので、相談等がある場合は、授業中にお知らせするメールアドレスで事前に申し込んでください。
評価方法	コメントカード　10%　読書レポート　20%　実習への取り組み　10%　最終レポート　60%
教科書	青山 新吾・岩瀬 直樹（著）「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？（インクルーシブ発想の教育シリーズ）」学事出版
参考書	文科省 「特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編」「教育支援資料」，「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（新ガイドライン）（後半2編はインターネットで入手のこと）　その他、適宜指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 5年間、北九州市立総合療育センターという大規模療育施設で臨床心理士として障害児療育を行ってきた。また、障害児専門の研究所(国立特殊教育総合研究所）の重複障害研究員として10年間教育相談に当たってきた。さらに、24年間大学教員として、教育相談を行ってきた。中心的な方法は動作法で、日本リハビリテイション心理学会認定の指導者資格を有している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　重複障害教育総論　　授業コード：5381

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 （重度）重複障害児の実態把握、重複障害教育の理解。個々の重複障害児に応じた指導の工夫、教材・教具の工夫をすることが重要と理解できる 【到達目標】 ①ヘレン・ケラーの学習の様子が十分理解できている。 ②日本で実践された重複障害児の学習と指導方法が理解できている。 ③重複障害児の実践事例を読み込んで、その学習内容と始動方法が理解できている。
授業の概要	（重度）重複障害児の指導について、ヘレン・ケラーの事例や日本での重複障害教育実践事例を通して考察する。そして、（重度）重複障害児一人一人に応じた支援の工夫や教材・教具の工夫について十分な理解を得る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（重度・重複障害児とは。　歴史の中における重複障害児の環境と教育実践） 【key words】 重複障害児　　重度・重複障害児　　重複障害児の歴史　　重複障害児の教育 【授業概要】 障害種について学習する　　重複障害児の概念　　重度・重複障害児とは　　重複障害児の実態　重複障害児の捉え方　　重度・重複障害児の教育の変遷等について 【教科書ページ・参考文献】 文部省：重複障害教育の手引き　東洋館　昭和４５　　文部省：重複障害児指導事例集　東洋館　昭和５８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習とまとめ　　次回の予習：テキスト「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp.1-１７ ）の熟読とミニテスト予定 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第２回	重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その１）ヘレン・ケラーとサリバンとの対面 【key words】 視覚聴覚障害　　ヘレンの生育歴　　サリバンについて　　サリバンの教育方針と指導 【授業概要】 ミニテスト　　目の見えない世界、聞こえない世界の体験　　教育的観点からヘレンの初期の行動を読み取る　　指導者サリバンのヘレン・ケラーに対する対応の仕方について

【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. １－１８）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習を確実にするために時々ミニテストを実施する。本時の箇所からヘレン・ケラーの行動の様子をまとめる。同様の仕方で次回の予習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第３回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その２）ヘレン・ケラーの食事、しつけとサリバンの教育方針
【key words】
食事の作法　つたみどりの家

【授業概要】
ヘレン・ケラーの学習前の様子　学習の方法　学習に対する取り組み　学習上のトラブル　身振りサインについて
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. １８－２６）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の確認ミニテストを実施・本時の箇所からヘレン・ケラーの行動の様子をまとめる。同様の仕　方で次回の予習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第４回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その３）つたみどりの家
【key words】
様々なトラブル　MUG　MILK　WATER　学習の混乱　井戸小屋

【授業概要】
教科書の記事と映像を通してヘレン・ケラーの教育について再確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ２６－４２）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の映像と教科書の記述の比較。次回の予習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第５回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その４）物には名前がある
【key words】
MUG　MILK　WATER　行動の変容　文章作成　色の名

【授業概要】
教科書の記事と映像を通してヘレン・ケラーの教育について再確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ４２－８８）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の映像続きと教科書の記述の比較し整理する。次回の予習をする。ヘレン・ケラーの教育について感想文を書く
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第６回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その５）物には名前があることが理解できたヘレン・ケラーのその後
【key words】
手話　単語　語い数　文章構成　疑問噴出

【授業概要】
物に名前があると理解した後のヘレン・ケラーの様子を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ４２－８８）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ４２－８８）
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分
予習確認ミニテスト・今まで学習したヘレン・ケラーの歩みについてまとめる。感想文提出。

第７回　（重度）重複障害児の理解　実地見学（施設もしくは学校）
【key words】
（重度）重複障害児の理解　実地見学（施設もしくは学校）

【授業概要】
特別支援学校もしくは入所施設にて、（重度）重複障害児の学習活動や日常の生活の様子を参観し、重複障害児の理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
参観しての感想文②を書く。次回の予習（配付資料）。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参観しての感想文を書いて提出。次回の予習（配付資料）
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第８回　重複障害教育の実践事例検討②　Y盲学校における盲ろう児の指導実践
【key words】
視覚・聴覚障害　　ことば　　身ぶりサイン　　発声　　見本合わせ学習　　手話

【授業概要】
戦後日本で行われた重複障害児の教育実践事例を検討し、重複障害教育について考察する
【教科書ページ・参考文献】
志村　太喜彌：　「重度･重複障害児の教育」コレール社１９８９　他資料提供
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本で実践された重複障害教育を理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第９回　重複障害教育の実践事例検討③　G盲学校における弱視ろう児の指導実践
【key words】
弱視・聴覚障害　　目の使い方　　形の学習　　文字の学習

【授業概要】
弱視で聴覚障害児の学習の様子を実践事例を通して学習する
【教科書ページ・参考文献】
大谷：「弱視難聴児の初期学習」　重複障害教育研究所研究報告書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の実践事例のまとめ　　ヘレン・ケラーの教育との違い、共通点などを考察しておく
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１０回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その１）自発行動の乏しい児童
【key words】
自発行動の乏しい重度・重複障害児　　適切な支援　　係わり方　　教材教具　仰臥位　　側臥位　　自発　行動　幼児

【授業概要】
①重度・重複障害児の一般的な捉え方　　一般的な理解　　重度・重複障害児に対する教師の仕事とは　　教材・教具の役割について。　　②指導の実際（指導事例１）の検討
【教科書ページ・参考文献】
教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp. ３ー１１）（ｐｐ７１－７７）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
重度・重複障害児について理解する　　今日のまとめと自分の考えを整理する
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１１回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その２、３）側臥位。　手と足の働き
【key words】
触刺激　　足の操作　　自発　　側臥位　　手の操作

【授業概要】
指導事例２と指導事例３の検討。事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp. ７８ー８８）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習確認ミニテスト・本時の指導事例を整理　　次回の事例４，５の予習
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１２回　重複障害教育の実践事例検討④重度・重複障害児の指導（その４、５）定頸困難。視覚障害のある重複障害児
【key words】
触刺激　　足の操作　　仰臥位　　手の操作　　姿勢の調整　　バランス

【授業概要】
ミニテスト（指導事例４，５より）　　指導事例４、５の検討。事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp８９ー９６）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の指導事例を整理　　次回の事例６，７の予習
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１３回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その６、７）前起こし。机座位
【key words】
手の操作　　垂直軸スイッチ　　視覚障害　　刺激の受容　　姿勢の調整　　前起こし

【授業概要】
指導事例６，７の検討。事例を読んで、関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。

	【教科書ページ・参考文献】 教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp. ９７－１０７) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の指導事例を整理　　次回の事例８，９の予習 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その８、９）初期学習。意思の表出 【key words】 姿勢　　感覚と運動　　体の部分の役割 【授業概要】 教科書の実践事例８，９の検討。　事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。　今までの重度・重複障害児の実践事例を振り返り、検討する 【教科書ページ・参考文献】 教科書「重度・重複障がい児の発達と指導法」（ｐｐ．１０８-１２０） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回使用する学習指導要領､同解説書から重複障害児の教育課程について、また、医療的ケアについて、進路問題等を調べる。今まで学んだ指導事例から考えたこと等レポート③にしてまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　重複障害教育の展望と課課（医療的ケア、教育課程、自立活動、進路指導、諸課題） 【key words】 医療的ケア　　重複障害教育の教育課程　　重複障害教育の課題　　自立活動　　進路指導 【授業概要】 重度・重複障害児の発達と学習、及び教育課程や自立活動、医療的ケアを含め、重複障害教育の課題と展望について考える。 【教科書ページ・参考文献】 医療的ケアの資料、特別支援学校学習指導要領及びその解説。 教科書「重度・重複障がい児の発達と指導法（ｐｐ.，１２－２５） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んできたことから課題と展望について考察する。重複障害教育に対する自分の意見をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～５０分
受講生に関わる情報および受講のルール	①重複障害児理解のため特別支援学校もしくは入所施設訪問を計画し、重複障害児の生活の様子を理解する。　　②予習、復習は必ず行うこと、教科書は授業の前に熟読すること。 ③授業で配付する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしておいてください。 ④授業中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。 ③授業の一環として特別支援学校か入所施設を参観するので、日程調節が必要になる場合がある。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・発表・ミニテスト（内容、適切さ）５０％　　②筆記試験（正確性、客観的、論述）５０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	①アン・サリバン：「ヘレン・ケラーはどう教育されたかーサリバン先生の記録ー」明治図書２０１０　　②進　一鷹：「重度・重複障がい児の発達と指導法」　明治図書　２０１０
参考書	ヘレン・ケラー：「わたしの生涯」角川文庫　1973　　他授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場などを通して特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）

	■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　国語科概論　　授業コード：5501

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校国語科学習指導要領の目標・内容を理解し、国語科の基本的な指導法を理解する。 【到達目標】 ①国語科学習指導要領及び解説について理解することができる。 ②国語科の基本的な指導方法を身に付けることができる。
授業の概要	１　学習指導要領及の内容が実際の国語科教科書にどのように具体化しているか、理解する。 ２　学習指導要領解説「国語編」を読み、教材研究の仕方、学習指導案の作成、基本的な指導方法について身に付ける。 ３　上記１と２を踏まえ、グループで教材研究や学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテーション、国語科指導の基礎基本①（敬語１、範読・読み聞かせ、学習指導要領及び解説１）、教師の体験談１（初任時の失敗談） 【key words】 オリエンテーション、国語科指導の基礎基本、体験談 【授業概要】 ①本授業の意義とシラバスの説明。15コマの概観と評価方法。 ②国語科指導の基礎基本として、敬語1、範読・読み聞かせ、学習指導要領及び解説1を学ぶ。 ③本授業と採用試験との関連、採用試験に向けての勉強方法。 ④国語科指導の成功談・失敗談。 【教科書ページ・参考文献】 １「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊」を読んでおくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２回　国語科指導の基礎基本②（敬語２、文学史、学習指導要領及び解説２、配当漢字１年）、教師の体験談２（１年生は宇宙人）

【key words】

心構え、範読、国語科指導の基礎基本、体験談

【授業概要】
①国語科指導の基礎基本として、敬語2、文学史、配当漢字１年、言葉、文法、学習指導要領及び解説2を学ぶ。
②国語科指導の成功談・失敗談を聞く。

【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学習指導要領国語およびその解説を熟読すること。
○１年配当漢字（80字）の正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　国語科指導の基礎基本③（文法１、板書法、学習指導要領及び解説３、配当漢字２年）、教師の体験談３（20代の頃）

【key words】

文法、板書法、国語科のワークシート、Ｔ・Ｔ、体験談

文法、板書、配当漢字、体験談

【授業概要】
①国語科指導の基礎基本として、文法１（品詞、ら抜き言葉）、板書法の理論を学び、チョークの持ち方・書き方を実際に黒板での練習、学習指導要領及び解説3を学ぶ。
②２学年の配当漢字（160字）を学ぶ。
③発達段階に応じたワークシートの作成方法を知る。ノート指導との違いについて考える。
④教師の20代の頃の失敗談やＴ・Ｔについての体験談を聞く。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学習指導要領国語およびその解説を熟読すること。○２年配当漢字（160字）の正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにしておくこと。○次回のミニテスト準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　国語科指導の基礎基本④（文法２、教材の配列・系統、学習指導要領及び解説４、書写、配当漢字３・４年）、教師の体験談４（学級経営、教育委員会）

【key words】

文法、教材の配列、書写指導、体験談

文法２、教材配列・系統、書写、配当漢字

【授業概要】
①国語科指導の基礎基本として、文法２（文のねじれ、接続語・指示語）、学習指導要領及び解説4
②小学校児童用教科書、６冊を見て、１学年の横の配列、各学年４月の縦の配列の特徴について気付く。
③書写指導の基礎基本を理解する。（硬筆と毛筆の関係、指導時数）
④３・４学年の配当漢字（200字・202字）を学ぶ。
⑤まとめミニテスト（１～３回分）を行う。

【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～

６年上」教育出版. ３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学習指導要領国語およびその解説を熟読すること。
○３・４年配当漢字（200字・202字）の正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　学習指導案（細案）の作成方法
【key words】
学習指導案（細案）の項目、教材研究

【授業概要】
①教師の提示した、国語科学習指導案（細案）「２年　かたかなで書く言葉」を見て、項目名とその内容について、理解する。
②教師は展開部分は、提示せず、学生が各班で考える。
③５・６学年の配当漢字（193字、191字）を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版. ３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○各班毎に、展開部分、板書計画、ワークシートの作成を指示。
○５・６年配当漢字（193字、191字）の正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにしておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　教材研究の仕方（実際に教科書教材「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項」を用い、学ぶ。）
【key words】
教材研究、ワークシート、教材作り

【授業概要】
①教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照、の流れについて理解する。
②教材づくりの方法：上記教材研究をしながら、作成する。（ワークシート、めあて短冊、絵カード等）

【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版. ３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○各班毎に、展開部分、板書計画、ワークシートの作成をすること。
○次回のミニテスト準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　学習指導案の作成（「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項」について、Ａ班・Ｂ班に分かれ、グループで協力し作成する。）
【key words】

学習指導案、ワークシート、板書計画、教材作り

【授業概要】
①班ごとに、展開部分、板書計画、ワークシート、必要な教材を作成する。
②学習指導案のおおまかな項目は決められているが、自治体、学校、教科領域により異なるので、実習時には、指導教員の指示に従うよう話す。
③まとめミニテスト　　（４～６回分）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～

６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○各班毎に模擬授業がスムーズに実施できるよう、授業練習をしっかり行うこと、学習指導案等の増刷、当日配付すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　模擬授業の準備（「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項」について、Ａ班・Ｂ班で教材作成、授業シミュレーションを行う。）
【key words】

シミュレーション、教材研究

【授業概要】
①学習指導案に則り、担当する授業のシミュレーションを班ごとに行う。
②シミュレーションと学習指導案の練り直しを繰り返す。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○各班毎に模擬授業がスムーズに実施できるよう、授業練習をしっかり行うこと、学習指導案等の増刷、当日配付すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　模擬授業（Ａ班）、授業研究会（Ａ班）「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項　全３時間中の第２時」
【key words】

模擬授業、授業研究会、授業の視点

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説する。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○各班毎に模擬授業がスムーズに実施できるよう、授業練習をしっかり行うこと、学習指導案等の増刷、当日配付すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　模擬授業（Ｂ班）、授業研究会（Ｂ班）「２年上　かたかなで書く言葉　言語事項　全３時間中の第３時」
【key words】

模擬授業、授業研究会、授業の視点

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説する。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○各班毎に、展開部分、板書計画、ワークシートの作成を指示。また、「すみれとあり」の学習指導案の下書きを班ごとに仕上げておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　学習指導案の作成（「３年上　すみれとあり　説明文」について、Ａ班・Ｂ班に分かれ、グルー

プで協力し作成する。）
【key words】

説明文の指導

【授業概要】
①班ごとに、展開部分、板書計画、ワークシート、必要な教材を作成する。
②説明文の教材研究の方法について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〇各班毎に、展開部分、板書計画、ワークシート、必要な教材を作成することを指示。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　模擬授業の準備（「３年上　すみれとあり　説明文」について、Ａ班・Ｂ班で教材作成、授業シミュレーションを行う。）
【key words】

模擬授業準備

【授業概要】
①班ごとに、展開部分、板書計画、ワークシート、必要な教材を完成する。
②模擬授業がスムーズに流れるよう、シミュレーションし、学習指導案の手直しをする。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に模擬授業がスムーズに実施できるよう、授業練習をしっかり行うこと、学習指導案等の増刷、当日配付すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　模擬授業（A班）、授業研究会（A班）「３年上　すみれとあり　説明文　全18時間中の第４時」
【key words】

模擬授業、授業研究会、授業の視点

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説する。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各班毎に模擬授業がスムーズに実施できるよう、授業練習をしっかり行うこと、学習指導案等の増刷、当日配付を指示。授業が終わった班は、振り返りをすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　模擬授業（B班）、授業研究会（B班）「３年上　すみれとあり　説明文　全18時間中の第５時」
【key words】

模擬授業、授業研究会、授業の視点

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校

	内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説する。 ②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。 【教科書ページ・参考文献】 １「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○授業が終わった班は、振り返りをすること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１５回　学習指導要領及び解説のまとめ、教員採用試験の国語科領域について、シャトルカードを用いた半期の振り返りと発表 【key words】 一般教養（国語）、専門教養（国語） 【授業概要】 ①教員採用試験での国語関連の過去問を実際に解き、傾向を理解する。 ②自己の受験自治体の傾向と対策を考える。 【教科書ページ・参考文献】 １「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○受験自治体の教員採用試験の過去問を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをすること。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。 ・就職センターで、教員採用試験の報告書を読んでおく。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	学期末試験（50%）、授業への取り組み・模擬授業（30%）、ミニテスト（20%）
教科書	１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、平成29年７月。 ２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年上、２年上、３年上、４年上、５年上、６年上、計６冊」教育出版 ３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年９月
参考書	・牛頭　哲宏・森篤　嗣：「現場で役立つ小学校国語科教育法」ココ出版、2012年　　・桂　聖「『考える音読』の授業　文学アイデア50」東洋館出版社、2011年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任として国語科の指導を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の国語科授業の指導を行った。それらの経験を活かし、小学校学習指導要領及び解説及び、国語科児童用教科書を活用し、具体的に解説する。さらに、学習指導案の書き方、模擬授業の実施・振り返りを行うなど、理論と実践の融合を目指した指導を行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）

	□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会科概論　　授業コード：5511

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　小学校社会科は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目標としていることを理解し、各学年ごとの指導内容を体系的につかむことができるようになること。 【到達目標】 ①学習指導要領のポイントを理解すること。 ②教科の目標及び各学年の目標を理解すること。 ③各学年の学習内容を理解すること。 ④基礎となる考え方を理解すること。
授業の概要	「生きる力」という理念をもとにした学習指導要領の主なポイントについて学ぶ。 指導要領の見方を学び、各学年の目標及び学習内容を体系的にまとめる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション、学習指導要領のポイント 【key words】 主体的対話的で深い学び、生きる力 【授業概要】 授業の進め方等について知る。楽手指導要領のポイントについて知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導要領を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　　社会科の目標、小学校社会科学習指導要領の学年別目標(指導要領の見方①) 【key words】 公民としての資質・能力の基礎の育成、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、 人間性等 【授業概要】 小学校社会科の目標の目標について知る。学年別目標について知る。 【教科書ページ・参考文献】 P17～P33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導要領を読む。 【予習復習に必要な想定時間】

		30分
	第３回	小学校社会科学習指導要領の学年別目標(指導要領の見方①)、学年別学習内容構成(指導要領の見方②) 【key words】 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等、三つの区分、五つの基本事項 【授業概要】 学年別目標について知る。学年別内容構成について知る。 【教科書ページ・参考文献】 P48～P50、P70～P72、P97～100 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導要領を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	第３学年の学習内容①・・身近な地域や市区町村の様子、地域に見られる生産や販売の仕事 【key words】 市を中心とする地域学習 【授業概要】 身近な地域や市の様子、地域に見られる生産や販売の仕事について、身につけるべき知識・技能、 思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P34～P40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	第３学年の学習内容②・・地域の安全を守る働き、市の様子の移り変わり 【key words】 市を中心とする地域学習 【授業概要】 地域の安全を守る働き、市の様子の移り変わりについて、身につけるべき知識・技能、 思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P41～P47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	第４学年の学習内容①・・都道府県の様子、県内の特色ある地域の様子、県内の伝統や文化、先人の働き 【key words】 県を中心とする地域学習 【授業概要】 県の様子、県内の特色ある地域の様子、県内の伝統や文化、先人の働きについて、 身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P51～P52、P62～P69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	第４学年の学習内容②・・人々の健康や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動 【key words】 県を中心とする地域学習 【授業概要】 人々の健康や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動について、 身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P53～P61 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	第５学年の学習内容①・・我が国の国土の様子と国民生活、我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり 【key words】 国土と産業の学習 【授業概要】 我が国の国土の様子と国民生活、我が国の国土の自然環境と国民生活との関わりについて、 身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解す

る。
【教科書ページ・参考文献】
P73～P77、P91～P96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　第５学年の学習内容②・・我が国の農業や水産業における食料生産、我が国の工業生産
【key words】
国土と産業の学習

【授業概要】
我が国の農業や水産業における食糧生産、我が国の工業生産について、
身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P77～P86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　第５学年の学習内容③・・我が国の産業と情報との関わり
【key words】
国土と産業の学習

【授業概要】
我が国の産業と情報との関わりについて、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、
また指導上の留意点について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P87～P91
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　第６学年の学習内容①・・我が国の政治の働き
【key words】
歴史と政治と国際理解の学習

【授業概要】
我が国の政治の働きについて、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、
また指導上の留意点について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P100～P106
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　第６学年の学習内容②・・我が国の歴史上の主な事象(縄文時代～平安時代)
【key words】
歴史と政治と国際理解の学習

【授業概要】
我が国の歴史上の主な事象(縄文時代～平安時代)について、身につけるべき知識・技能、
思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P106～P114
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　第６学年の学習内容③・・我が国の歴史上の主な事象(鎌倉時代～江戸時代)
【key words】
歴史と政治と国際理解の学習

【授業概要】
我が国の歴史上の主な事象(鎌倉時代～江戸時代)について、身につけるべき知識・技能、
思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P106～P110、P114～P119
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　第６学年の学習内容④・・我が国の歴史上の主な事象(幕末～昭和)
【key words】
歴史と政治と国際理解の学習

【授業概要】

	我が国の歴史上の主な事象(幕末～昭和)について、身につけるべき知識・技能、 思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P106～P110、P120～P124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　　第６学年の学習内容⑤・・グローバル化する世界と日本の役割 【key words】 歴史と政治と国際理解の学習 【授業概要】 グローバル化する世界と日本の役割について、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、 また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P128～P134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むと。 教育関係の報道等に留意し、自らの考えを明確に持つようにしておくこと。 地理・歴史・公民の基礎知識について確認しておくこと。 配付資料やワークシートは必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	新聞を毎日読むこと。博物館や資料館等を利用すること。
オフィスアワー	火曜日の14:30～17:30
評価方法	定期試験及び授業後の確認テストにて評価する。
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領解説　社会編」
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　数学概論　　授業コード：5521

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 算数教育の背景となる基礎的知識を身につけるとともに、数学的見方・考え方を働かせた数学的活動の理解を深め、小学校教師としての基本的知識と技能を養うことを目的とする。 〔到達目標〕 ①算数指導の基本原理を理解し、算数指導に役立てることができる。 ②算数指導における用語・記号活用の意義や方法を理解し、算数指導に役立てることができる。 ③算数指導における操作活動や数学ゲームなど算数指導の充実を図る創造力を養い、算数指導に役立てることができる。 ④アルゴリズムの理解と整数論・集合論など数学的思考や活動に役立つ基本概念を学び、算数指導の質の向上に役立てることができる。 ⑤数学の基本的知識を理解し、教員採用試験（一般教養）の回答に役立てる。
授業の概要	テキスト「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著に基づき、小学校算数教育の背景となる基本概念を講義・意見交換などで理解を深めるとともに、関連する数学理論の基本的理解を深める。操作活動や教材作成など実際の算数授業を体験しながら資質向上を図る。授業は全員参で問題解答、操作活動、数学ゲームなどに取り組み、アクティブラーニングを旨とする。数学的思考はノートづくりから始まりノートづくりでまとまるものであり、授業ノートをレポートとする。ノート作成は各自創意工夫するものだが、試験にノート持ち込み可（テキスト不可）として考えて記録すること。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション、問題解決学習のための算数・数学的活動 【key words】 問題解決学習　問題解決の４つの段階、数学的な考え方（帰納的、類推的、演繹的、統合化、発展的、抽象化、単純化、一般化、特殊化、記号化、数量化、図形化） 【授業概要】 講義・演習　オリエンテーション、問題解決学習のための算数・数学的活動　テキスト２４,25 公式用語理解（数） 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　２４，２５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	数の表し方（記数法・名数法）

【key words】

算数のねらい、十進位取り記数法、
【授業概要】

講義・演習　数の表し方（記数法・名数法）　テキスト１，２　数学広場（数の誕生・連続量）公式用語理解（四則計算）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１，２

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第３回　倍数・約数・素数・分数
【key words】

操作分数、量分数、数としての分数、割合分数、商分数、　最大公約数、最小公倍数
【授業概要】

講義・演習　倍数・約数・素数・分数　テキスト３、４　数学広場（互除法、友愛数）　公式用語理解
（等式、分数）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　３，４

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　計算の意味と作問（増加、合併、求残、求差）
【key words】
　増加、合併、求残、求差、

【授業概要】

講義・演習　計算の意味と作問（増加、合併、求残、求差）　テキスト５　数学広場（箱の中の数字当て）公式用語理解（アルゴリズム）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　５

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　かけ算、わり算と数直線（仮商，真商）
【key words】

小数をかける掛け算の意味、少数で割る割り算の意味、割り算の計算の特徴
【授業概要】

″講義・演習　かけ算、わり算と数直線（仮商，真商）　テキスト８，１０　数学広場（外的スキーマ、概念形成）
公式用語理解（分数）″

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　８，１０

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　少数、分数の掛け算割り算の説明
【key words】

計算の意味、数の仕組み、計算の決まり、類推
【授業概要】

講義・演習　少数、分数の掛け算割り算の説明　テキスト８，１１，１２　数学広場（循環小数）　公式用語理解（比と比例式）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　８，１１，１２

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　量の比較や測定
【key words】

量の意味、量の性質、測定の考え方、体積（かさ）や重さの測定の考え
【授業概要】

講義・演習　量の比較や測定　テキスト１３　数学広場（文字の数学）　　公式用語理解（方程式）

【教科書ページ・参考文献】
「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１３

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　単位量当たりの大きさ
【key words】

単位量、割合、速さ
【授業概要】

講義・演習　単位量当たりの大きさ　　テキスト１５　数学広場（　集合　）　　公式用語理解（方程式２）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　図形の定義・性質と操作活動、　平面図形の求積
【key words】

図形の構成要素、
【授業概要】

講義・演習　図形の定義・性質と操作活動、　平面図形の求積　テキスト１４　数学広場（三角形と多角形）
公式用語理解（図形１）″

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　基本的な図形の概念
【key words】

図形領域の系統性、対称概念、関係概念、操作概念、外延、内包
【授業概要】

講義・演習　基本的な図形の概念　テキスト１６　数学広場（タングラム）　公式用語理解（図形２）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　帰納的な考え方と演繹的な考え方
【key words】

帰納的、演繹的、類推、特殊化、発展的
【授業概要】

講義・演習　帰納的な考え方と演繹的な考え方　テキスト１７　数学広場（重心・ピタゴラスの定理　）公式用語理解（図形３）

【
【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　正多角形と円・円周率
【key words】

円周率、正多角形、円の求積
【授業概要】

講義・演習　正多角形と円・円周率　数学広場（円　）　テキスト１８　公式用語理解（図形４）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　立体図形
【key words】
立体図形
【授業概要】

講義・演習　立体図形　テキスト１９　　数学広場（正多面体・準多面体）　公式用語理解（
、

【教科書ページ・参考文献】
「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　関数的な考え方と式・グラフ
【key words】

関数の考え方、式、表、グラフ
【授業概要】

講義・演習　関数的な考え方と式・グラフ　テキスト２０　数学広場　（ブラックボックス　）公式用語理解（関数２）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　数学的活動を楽しむ
【key words】
算数的活動（数学的活動）
【授業概要】

講義・演習　算数的活動（数学的活動）を楽しむ　テキスト２３　数学広場（関数とグラフ）公式用語理解（関数３）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・三角定規、コンパス、ハサミ、USBメモリーは常時持参 ・テキスト「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著は必携 ・講義は小学校の授業を想定し、授業のルールを守り、誠実は授業態度で出席のこと。 ・演習は教員採用試験一般教養の数学問題に取り組みます。（数学広場・公式用語理解で扱い） ・授業中の発言、回答などは教師としての必要な資質である話術の鍛錬の時と考えて発言すること。不明瞭、無表情は禁物 〔受講のルール〕 ＊主体的に授業参加をすること。教師としての基礎基本は何かを考えて授業参加すること。自ら課題解決の方策を見出し、自己教育能力を 伸ばすこと。後半の模擬授業実施時は受講生は小学生として参加する。文具やノートも小学生と同じものを使います。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・教員採用試験の対策を念頭に問題解答など演習の時間を毎回作るので準備すること。
オフィスアワー	質問・意見・感想等はコメントカードに記入して授業後に提出すること。後日回答します。
評価方法	・期末試験（４０％） ・毎時間の学習ノートをレポートとして提出。（４０％） ・授業参加の意欲（発言、発表、回答）（２０％）
教科書	「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著　教育出版
参考書	遠山啓「数学の広場」
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭１５年、中学校数学教諭４年、小中学校管理職１０年、市教育委員会学校教育課長３年、県教育委員会青少年行政６年、市教育研究所長２年（嘱託）など実務経験に基づき、学生には教師としての基本的資質と指導力の育成な当たることを授業の重要課題とする。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 理科概論　　授業コード：5531

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
高山　幸延			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ 小学校理科の指導に必要な基礎・基本（知識・理解・技能）の修得、質の高い授業を計画し実行できる力の獲得 ［到達目標］ ①学習指導要領で示された理科の目標・内容・配慮事項の背景・趣旨・要点や、教科書の内容のすばらしさを理解する。 ②実際の授業場面を想定した授業の構想や設計ができ、学習指導の基礎・基本に則った授業ができる。
授業の概要	①小学校理科を指導する際に必要な理論面・実践面での基礎・基本（理科を学ぶ意義、学習指導要領の趣旨や理科の目標・内容の理解、理科で育成を目指す資質・能力など）を身に付ける。 ②①の理解を基に、理科の標準的な学習過程を理解し、実験・観察、ものづくり、模擬授業などの経験をとおして、よりよい授業が実行できる力を身に付ける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション（年間の講義の概要説明、評価方法の説明、講師・学生の自己紹介など） 【key words】 講義の概要、授業の受け方、評価方法、自己紹介 【授業概要】 ①「年間の講義の方針や内容」「単位認定の内容・方法」等を説明する。 ②自己紹介用アンケートに各自記入後、それをもとにクイズ形式で自己紹介を行う。 ③講義後の振り返りシートの記入上の約束事の説明を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ１～28) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○１年間の講義の方針や内容を再確認する。 ○新理科教科書､学習指導要領解説(理科編)を購入し内容を見ておく。 ○ワークシートをファイリングするための２穴ファイル等を購入する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	１．理科を学ぶ意義・理由について、考えてみよう！ 【key words】 理科を学ぶ意義・理由 【授業概要】 ①「理科をなぜ学ぶ必要があるのか」について、自ら考え、班で議論して発表し、講師の考えを聞く。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ1～8) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○理科を学ぶ意義・理由について、日常生活での具体的場面で思い出し、考えを深めておくこ

と。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３回　１.ふりこの学習（５年）をとおして、理科の本質を学ぼう！　２.「種子が発芽する条件」（５年）を考えることをとおして、問題解決能力を再確認しよう！
【key words】
ふりこ、条件、予想、理由（根拠）、結果、結論、問題解決の力、条件制御

【授業概要】
①簡単なふりこを操作しながら、「ふりこの１往復する時間は、何が関係するのか」を考える。
②条件ごとの予想と理由から計画を立て、結果から結論を考える。
③理科では、「問題解決の力を養う」ことが大きな目標の１つになっていることを学ぶ。
④種子が発芽するための条件を考える。
⑤ふりこの実験や種子が発芽するための条件を学ぶことをとおして、「条件制御」の概念を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
5年の旧教科書(Ｐ18～35、P140～151)、学習指導要領・解説(Ｐ１７)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「条件制御」の本質や意義から、非科学的なコマーシャル等の虚構を見破る力をつけること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　１.5年以外の、問題解決の能力（育成をめざす資質・能力）は何か、確認していこう！　２.今の教科書の「工夫やすばらしさ」を、自ら発見してみよう！
【key words】
問題解決の能力、育成をめざす資質・能力、教科書の工夫

【授業概要】
①３・４・６年の問題解決の能力は何かを、教科書、学習指導要領・解説から考える。
②自分の小学校時代の教科書と比べて、今の教科書の「すばらしいところ、異なるところ」を見つける。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説(Ｐ１～28、P118～129)、３～６年の教科書：全ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の工夫点を見つけ認識することは授業力向上に役立つので、他教科でも行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第５回　１.理科の核心である「教科の目標」について、学ぼう！　２.「理科の学習の学び方（進め方）」を確認しよう！
【key words】
「教科の目標」を学ぶ意義、理科の目標、学年の目標、理科の学び方（学習過程）
【授業概要】
①教科の目標を学ぶ意義と「理科の目標、学年の目標」の概要を学ぶ。
②理科の学び方（学習過程）と それぞれの過程での大事な点（ポイント）をまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説(Ｐ１～28、P118～129)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・他教科においても、学ぶ意義・理由を考えまとめておくこと。
・理科の学び方（探求過程）は、小・中・高・大・社会で活用できるものなので、しっかりと意識化しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分

第６回　１.ものづくりに挑戦しよう！　２.作った車をどのように使って、どんな授業を行えばよいか、考えてみよう！
【key words】
ものづくり、風で動く車、ゴムで動く車、製作、結果、結論
【授業概要】
①３年で学習する「風で動く車」「ゴムで動く車」を製作する。そのための条件、材料等を考える。
②ものづくりが大切な理由を考える。
③どんな問題（意識）で、授業をすすめればよいか、考える。結果や結論のまとめ方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説(Ｐ29～39)、３年の旧教科書(Ｐ94～103)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ものづくりに必要な材料を、100円ショップやホームセンター等を巡ってそろえること。
【予習復習に必要な想定時間】
１００分

第７回　１.ものづくりを始めよう！
【key words】
ものづくり、風で動く車、ゴムで動く車、製作、ものづくり報告書、評価カード
【授業概要】
①自分が作る車の概要（どんな車か、用意した材料・道具等）を発表する。
②完成後、ものづくり報告書を書き、発表する。
③他の人は、評価カードでその作品を評価し、それをもとに「ベストものづくり大賞」などを決める。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説（Ｐ29～39)、３年の旧教科書(Ｐ94～103)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義の時間内に作品が完成しなかった者は、次時までに作品を完成させ持ってくること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第８回　１.自分の作った車で、実際に実験してみよう！
【key words】

		実験、結果、結論、考察、実験を行ううえでの留意点 【授業概要】 ①自分が作った車で実際に実験する。 ②結果・結論・考察等をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ29～39)、３年の旧教科書(Ｐ94～103) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「実験、結果、結論、考察」を実体験し、教師の視点で理科指導の核心を再認識すること。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第９回	１.３年の学年の目標を基に、４・５・６年の学年の目標を確認しよう！ ２.４・６年の学年目標の②について、教科書で具体的に考えてみよう！ 【key words】 各学年の目標、金属のあたたまり方、てこのはたらき 【授業概要】 ①４～６年の学年目標を学ぶ。 ②４年「金属のあたたまり方」、６年「てこのはたらき」で、学年目標の②について具体的に考える。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ１～28、P118～129)、４年の旧教科書(Ｐ145～157)、６年の旧教科書(Ｐ132～145) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ４～６年の学年目標を、学習指導要領・解説（Ｐ１～28)を読み、より深い理解をする努力をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分
	第１０回	１.模擬授業を具体的に構想し、実際にやってみよう！ 【key words】 授業計画書、模擬授業のシナリオづくり、予備実験、湯気とあわの正体、水のあたたまり方、物が水にとけるとき 【授業概要】 ①次の３つの単元で模擬授業を行う。 ㋐４年「湯気とあわの正体」、㋑４年「水のあたたまり方」、㋒５年「物が水にとけるとき」 ②３つの班（２～３人）をつくり、班ごとに㋐～㋒の内容のどれかで行う。 ③自分たちが選んだ単元を、どのように授業（４５分間）するかを考える（シナリオづくり）。 ④予備実験が必要なら、自分たちで実験道具等を用意して実験し、模擬授業に備える。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ45～46、P48～50、P61～64)、４年の旧教科書（Ｐ113～116、Ｐ149～150）、5年の旧教科書（Ｐ92～96） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 模擬授業を行う単元の教材研究を、学習指導要領・解説と教科書等で行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １００分
	第１１回	１.模擬授業を具体的に構想し、実際にやってみよう（Ｎｏ２）！ 【key words】 授業計画書、模擬授業のシナリオ、予備実験、模擬授業の練習 【授業概要】 ①先週作成した「模擬授業のシナリオ」を再吟味する。 ②「本書き」のシナリオをもとに、予備実験を行う。 ③予備実験を踏まえ、シナリオの再修正と模擬授業の練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ45～46、P48～50、P61～64)、４年の旧教科書（Ｐ113～116、Ｐ149～150）、5年の旧教科書（Ｐ92～96） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業に必要な教材・教具等を準備すること。 ・誰がどの部分の授業をするかを班員で事前に検討し、予備練習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第１２回	１.模擬授業を具体的に構想し、実際にやってみよう（No３）！ 【key words】 模擬授業、模擬授業評価カード、評価の観点、授業の評価検討会、授業の自己評価 【授業概要】 ①児童役の班は、「模擬授業評価カード」で模擬授業を評価する。授業を受けながら、評価カードに記入する。 ②模擬授業の評価は、６つの観点で行う。評価尺度は５段階で行う。 ③模擬授業後、児童役の班は授業の評価検討会、教師役の班は自分たちの授業の自己評価を行う。 ④各班ごとに、次の内容「よかったところ、こうすればよかったのではないかと思ったところ」で検討結果を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ45～46、P48～50、P61～64)、４年の旧教科書（Ｐ113～116、Ｐ149～150）、5年の旧教科書（Ｐ92～96） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業に必要な教材・教具等を準備すること。 ・誰がどの部分の授業をするかを班員で事前に検討し、予備練習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第１３回	１.模擬授業を具体的に構想し、実際にやってみよう（No４）！ 【key words】 模擬授業、模擬授業評価カード、評価の観点、授業の評価検討会、授業の自己評価 【授業概要】 ①児童役の班は、「模擬授業評価カード」で模擬授業を評価する。授業を受けながら、評価カー

	ドに記入する。 ②模擬授業の評価は、６つの観点で行う。評価尺度は５段階で行う。 ③模擬授業後、児童役の班は授業の評価検討会、教師役の班は自分たちの授業の自己評価を行う。 ④各班ごとに、次の内容「よかったところ、こうすればよかったのではないかと思ったところ」で検討結果を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ45～46、P48～50、P61～64)、４年の旧教科書（Ｐ113～116、Ｐ149～150）、5年の旧教科書（Ｐ92～96） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業に必要な教材・教具等を準備すること。 ・誰がどの部分の授業をするかを班員で事前に検討し、予備練習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第１４回　１.模擬授業を具体的に構想し、実際にやってみよう（No５）！　２.後期定期試験に向け、後期の講義内容をふり返ってみよう！ 【key words】 模擬授業、模擬授業評価カード、評価の観点、授業の評価検討会、授業の自己評価 【授業概要】 ①児童役の班は、「模擬授業評価カード」で模擬授業を評価する。授業を受けながら、評価カードに記入する。 ②模擬授業の評価は、６つの観点で行う。評価尺度は５段階で行う。 ③模擬授業後、児童役の班は授業の評価検討会、教師役の班は自分たちの授業の自己評価検討会を行う。 ④各班ごとに、次の内容「よかったところ、こうすればよかったのではないかと思ったところ」で検討結果を発表する。 ⑤後期定期試験の概要の説明を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ45～46、P48～50、P61～64)、４年の旧教科書（Ｐ113～116、Ｐ149～150）、5年の旧教科書（Ｐ92～96） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・後期の講義内容をよく復習しておくこと。 ・最終授業日に、３５０ｍｌ以下のペットボトル1個を必ず持ってくること。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第１５回　１.「オモシロ科学実験」を体験しよう！　２.半年間の授業をふり返ってみよう！ 【key words】 オモシロ科学実験、振ると色が変わる液体、授業のふり返り 【授業概要】 ①半年間の理科概論のまとめとして、「科学の楽しさ・おもしろさ」をさらに体験する。 　○「振ると色が変わる液体」を作る。 　○実験書に従って、２つの班（3人、4人）で実験を行う。 ②半年間の授業をふり返って、ワークシートに記入する。 【教科書ページ・参考文献】 長谷川裕也ホームページ「メチレンブルーの酸化還元」(http://sekatsu-kagaku.sub.jp/methylene-blue-redox.htm) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後期定期試験に向け、毎回講義で配付したワークシート、学習指導要領・解説、全教科書を中心にしっかりと勉強しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １５０分
受講生に関わる情報および受講のルール	１.幼稚園・小学校教諭・保育士など、教職を目指す者としての自覚をもって講義に臨むこと。 ２.講義では、自らの思考力・判断力・表現力、コミュケーション力に磨きをかけることを目指して、積極的に意見や考えを発表すること。 ３.振り返りシートに、講義の評価、自らの参加意欲・態度、感想、質疑を、毎回しっかりと書くこと。 ４.毎回配布されるワークシートや参考資料の保管をきちんとしておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ふり返りシート・その他（ワークシート）
授業外時間にかかわる情報	・理科（科学）や教育の今日的な課題等に関するテレビ番組やニュース、新聞記事、書籍、ネット情報に触れる習慣を身に付けておくこと。 ・普段の生活の中で、身の回りの自然を観察し、自ら体験する習慣を付けておくこと。
オフィスアワー	・質問・要望等は「ふり返りシート」に記入する。次回、講師がワークシートで取り上げコメントする。 ・講義後の２０分は対応可能。また、メールでの質疑は随時受け付ける。
評価方法	学期末試験（５０％）、報告書や各種学習カードの内容、プレゼンテーション（３０％）、 授業への取り組み（授業中やグループワーク等での取り組み状況、意見発表、ふり返りシート等の記述内容）（２０％）
教科書	小学校学習指導要領（H29年告示)解説 理科編、小学校理科教科書（東京書籍発行「新編 新しい理科」）
参考書	・講義の中で、必要性を感じたときに紹介する。 ・文部科学省ホームページ、国立教育政策研究所ホームページ等、理科(科学)関連のＷｅｂサイトを時々閲覧すること。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	３７年間の義務教育での実務経験｛小学校（５年）、中学校（１４年）、指導主事（６年）、管理職（１２年）｝及び青少年とその関係者の悩み事相談（３年）を活かし、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭として必要とされる知識・技能、授業・学級経営・生徒指導等に関する的確で優れた指導力を身に付けるための方策について講義する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ・プレゼンテーションソフトを使用しての講義 ・実験体験 ・模擬授業体験

講義科目名称：　生活科概論　　授業コード：5541

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 身の回りの自然や社会について、子どもに関心を持たせるために必要な知識と技術を幅広く習得する。また、日本の文化についても理解し、国際社会にはばたく子どもたちに対して「文化の伝承」ができるよう、教養を身につける。 【到達目標】 １）　植物・生き物・気象・年中行事について、子どもが関心を寄せる内容の説明ができる。 ２）　植物の栽培・生き物の飼育についての知識を身につける。 ３）　子どもにとって身近な人々や社会とのかかわりについて理解する。 ４）　上記の１）～３）を四季の変化の中に位置づけることができる。
授業の概要	四季をとおしての自然と人事を概説するとともに、背景にある生活文化についても言及する。この講義をふまえ、各自が『生活科ずかん』の製作を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス　：　（生活科とは　生活科のめざすものと内容） 【key words】 身近な自然と社会　身近な文化　地域・家庭　保幼小連携　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 【授業概要】 生活科のめざすものと内容について解説する。また、どのような実践活動を行えば子どもたちが身近な自然や社会・文化について関心を持つことができるか、子どもたちが自分や友達の良さに気付くための活動にはどのようなものがあるかについて考える。最終提出物となる『生活科ずかん』の見本を見ながら、自分の作品をイメージする。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：『生活科ずかん』製作のための材料をそろえる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	身近な自然と文化のとらえ方　：　「ドリル」をやってみよう 【key words】 季節の草花　　生き物（哺乳類・魚類・爬虫類・両生類・昆虫累・クモ類）　身近なものの原材料　　年中行事　色々な職業 【授業概要】 幼児向け「ドリル」の問題に挑戦する。答え合わせをしながら、生活科の目指すものと知っておくべき事柄について説明する。 【教科書ページ・参考文献】

配布資料：「ドリル」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春夏秋冬の自然と文化及び社会に興味を持ちながら、図書館にある幼児教育の雑誌と図鑑を見ておくこと（どこに何があるか確認）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　春の自然と文化　：　『生活科ずかん』作成にあたっての調べ方と諸注意
【key words】
『生活科ずかん』　春夏秋冬の植物・生き物・気象・行事・あそび　幼児教育雑誌　図鑑
【授業概要】
オリジナル『生活科ずかん』を手作りする意義を説明し、参考にすべき雑誌・図鑑・書籍などを紹介する。調べ方については、『生活科ずかん』の春の部の例を示すので理解し、自身の製作活動につなげる。
【教科書ページ・参考文献】
参考資料：先輩たちの作った『生活科ずかん』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春夏秋冬の自然と文化に興味を持ち、図書館にある幼児教育系の雑誌・図鑑類を見ておく。
復習：授業で紹介された図書館にある雑誌・図鑑の種類や配架場所を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　春春の自然と文化　：　春の植物・生き物
【key words】
春の植物　生き物の春の様子
【授業概要】
ブレーンストーミングにより春の植物・春に特徴がある生き物を出し合い、その後、それらについての知識を解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「春のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春の植物と、春に特徴のある生き物を調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　春の自然と文化　：　春の気象・あそび
【key words】
気象　植物を使ったあそび
【授業概要】
ブレーンストーミングにより春特有の気象や春ならではのあそび方を出し合い、その後、それらについての知識を解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「春のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春ならではの植物を使ったあそびを調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　春の自然と文化　：　春の行事
【key words】
春の行事
【授業概要】
ブレーンストーミングにより春の行事を出し合い、次にそれらについての意味や歴史的背景を解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「春のメモ」「雛人形と甲冑」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春の行事を調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　夏の自然と文化　：　夏の植物・生き物
【key words】
夏の植物　夏の生き物
【授業概要】
ブレーンストーミングにより夏の花や野菜、夏に現れる生き物を出し合う。その後、栽培のしかたや飼育のしかたを解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「夏のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：夏の植物と生き物を調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　夏の自然と文化：　夏の気象・あそび
【key words】
夏の気象　夏ならではのあそび
【授業概要】
ブレーンストーミングにより、夏の様々な気象現象・夏ならではのあそびを出し合う。その後、

ひとつひとつについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「夏のメモ」「虹をつくろう」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：夏の気象や夏ならではのあそびを調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　夏の自然と文化　：　夏の行事
【key words】
夏の行事
【授業概要】
ブレーンストーミングにより夏の行事を出し合い、その後、行事を楽しく行う工夫を解説する。
また、ムシ歯予防週間に因んだ実践を行う（折紙でコップを折り、水を入れてみる）。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「夏のメモ」「コップの折り方」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：夏の行事にはどのようなものがあるか調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　秋の自然と文化　：　秋の植物・生き物
【key words】
秋の植物　秋に特徴のある生き物
【授業概要】
ブレーンストーミングにより秋の植物や秋に特徴のあらわれる生き物を出し合う。その後、解説を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「秋のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：秋の植物・生き物を調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　秋の自然と文化　：　秋の気象・あそび
【key words】
秋の気象　月の満ち欠け　秋の植物を使ったあそびや製作
【授業概要】
ブレーンストーミングにより秋の気象現象や秋ならではの植物を使ったあそび・製作を出し合う。その後、詳しく解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「秋のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：秋の雲や気象現象、月の満ち欠けについて調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　秋の自然と文化　：　秋の行事
【key words】
秋の行事
【授業概要】
ブレーンストーミングにより秋の行事を出し合う。その後、文化的意味の解説を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「秋のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：秋の行事や風物について調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　冬の自然と文化　：　冬の植物・生き物・気象
【key words】
冬の植物　冬の生き物のようす　冬の気象
【授業概要】
ブレーンストーミングにより冬の植物・生き物のようす・気象現象を出し合う。その後、代表的な動植物Ｙ日本の冬の気候について解説を行う。
雪の結晶の切紙を作る。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「冬のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：冬に咲く花・冬に特徴のある生き物・冬の独特な気象現象を調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　冬の自然と文化　：　冬の行事
【key words】
冬の伝統行事　冬のあそび
【授業概要】
ブレーンストーミングにより冬の伝統行事を出し合い、その後、それらの行事の文化的意味あ

	い、行事食やあそびなどについての解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「冬のメモ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：冬の行事や屋内で行うあそびを調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　日本の文化　：　生活の中の日本の文様 【key words】 幾何学模様　謎解き模様　古典文様　古典文学意匠 【授業概要】 生活の中で使われている色々な物の文様を紹介し、それらの意味の説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「日本の文様」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：日常生活の中にある伝統的な文様をさがす。 復習：授業でとり上げた文様を生活用品・衣類などの中に探す。 課題・復習：今まで作ってきた、自身の『生活科ずかん』全体を集約し、提出に供える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	『生活科ずかん』の製作に関し、以下のルールを守ること。 ・各季節ごとの概説を聴いたら、即座に自分が取り上げる事柄を決定して調べ学習と製作を行うこと。 ・製作物には既成のキャラクターは使わないこと。 ・計画的に製作を進めること。 ・図書館利用のマナーやルールを厳守すること（コピー機使用時の手続・貸し出しと返却の手続・書架への本の戻し方など）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業の時間以外にも、時間を見つけて調べたり製作を進めること。計画性を身につけること。
オフィスアワー	金曜日　13：00～15：00
評価方法	提出物（『生活科ずかん』）（７０％）・・・各季節とも、植物・生き物・気象・行事・あそび　を入れ、“楽しくわかりやすい”図鑑が丁寧に作成できているか。　授業への取り組み方（３０％）・・・発言・調べ学習・製作活動に対する積極性があるか。
教科書	『 どきどきわくわく あたらしいせいかつ』上、東京書籍、2020年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 音楽概論　　授業コード：5551

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
平野　恵美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　小学校音楽科学習指導要領の目的・内容を理解し、音楽科の授業を実施するために必要な基本的知識や能力を培いながら指導法を理解する。 【到達目標】 ①音楽科学習指導要領及び解説について理解することができる。 ②教科の目標及び各学年の目標と学習内容を理解し、「表現(歌唱・楽器・音楽づくり)」と「鑑賞」のそれぞれの活動を指導するための知識・技能を習得し、指導方法を身につける。
授業の概要	音楽科を教えるための基本的な理論と知識を学習し、学習指導要領の学習内容が授業でどのうように具体化されているか理解し、学年、及び内容に応じた指導法を学んでいく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　音楽の本質と要素 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　音楽教育の目標と芸術教育の目標 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第４回　小学校音楽科目標の組み立て（教科目標・学年目標） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回　総括目標（音楽性・情操・創造性） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回　表現（歌唱・楽器・音づくり）・鑑賞・共通事項の具体的目標と留意点について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回　指導内容　表現（歌唱）　基礎技能の必要性について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回　指導内容　表現（歌唱）　リズム・音程・和声・読譜の指導について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第９回　指導内容　表現（楽器）　楽器の種類と奏法・合奏指導について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　指導内容　表現（楽器）　指導上の問題点と留意点について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　指導内容　表現（音づくり）の指導について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第１２回　　指導内容　鑑賞　意義・聴き方について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　　指導内容　鑑賞　教材選択について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　　表現・鑑賞の各活動における共通事項との関連性について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　　音楽教育の他教育との関わりについて 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	予習や事前準備をしっかりして、積極的に授業に臨むこと。 スマホ等の電源は切っておく。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	配布されるプリント等は、きちんと整理しておく。 毎回の講義内容を復習し、疑問点等は次回の講義で質問するように、日ごろから弾き歌いの練習をし、演習の復習を各自でする。
オフィスアワー	授業寺に指示する。
評価方法	筆記試験80%　授業への取り組み（レポート提出・出欠等）20%
教科書	「最新・初等科音楽教育法〔改訂版〕小学校教員養成課程用」音楽之友社
参考書	小学校学習指導要領解説　音楽編　文部科学省
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援

	□その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　美術概論　　授業コード：5561

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
関根　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校図画工作科の授業構成を踏まえ、造形活動の支援に不可欠な知識や技能について基本を学習し、自分なりの造形教育観を持つことができるようにする。 【到達目標】 ①造形活動の意義や特性について理解することができる。 ②学習指導要領に掲載されている図画工作科の目標及び内容等を理解することができる。 ③造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞などそれぞれの内容に応じた授業の展開方法、支援方法の理解を深めることができる。 ④子どもの絵の発達を基盤に、子どもの絵の見方、育て方について理解を深めることができる。
授業の概要	造形活動がいかに人間をリフレッシュさせてくれているか造形活動の意義や特性について学ぶ。学習指導要領から図画工作の目的や内容を学ぶ。また、実際の授業で用いられている様々な表現対象、材料、技術、様式、形式を中心に、基礎的内容についての講義や製作実技を行う。さらに、子どもの絵からよさや美しさを感じ取り、子どもの絵の見方、育て方を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業の進め方の説明）　○芸術・美術の概念 【key words】 美術、図画工作科教育、小学校指導要領、アクティブラーニング 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○芸術・美術の概念　○造形教育の意義　○アクティブラーニングを踏まえて 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１～４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　この講座を通して特にどんなことを学びたいか考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	造形教育の理念と構造　○自然主義の教育観と表現の意味の発見 【key words】 造形教育の理念、アイスナー、ルソー、自然主義教育観 【授業概要】 ○造形教育の理念と構造　自然主義教育観と表現の意味の発見、美的欲求と造形欲求 ○無意識と表現(心の構造、無意識と表現)　○無意識と児童画　○理念の発展と推移、美術教育の主張　○造形教育の構造(造形教育の特殊) 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分

	第３回	造形活動の意義と図画工作　○「美術の機能」と図画工作科教育　○美術を通した教育 【key words】 芸術の機能、ユング、無意識と児童画、コンテクスチャリズム、エッセンシャリズム 【授業概要】 ○芸術の機能と図画工作教育　○美術を通した教育（コンテクスチャリズム）と美術の教育（エッセンシャリズム）　○諸感覚を目覚めさせる 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第４回	図画工作科の目標　○教科の目標　○学年の目標 【key words】 Ａ表現、Ｂ鑑賞、〔共通事項〕、領域、項目、事項、造形遊び、絵や立体、工作 【授業概要】 ○教科の目標、学年の目標、目標及び内容構成の関連　○図画工作科の内容 【教科書ページ・参考文献】 ○「小学校図画工作科教育法」　Ｐ２８～４１　○「小学校指導要領解説　図画工作編」Ｐ９～１９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第５回	図画工作科の内容　○内容の構成　○各領域及び〔共通事項〕の内容 【key words】 内容の構成、　Ａ表現　Ｂ鑑賞、　〔共通事項〕 【授業概要】 ○Ａ表現の内容　（造形遊び、絵や立体、工作）　○Ｂ鑑賞の内容　○〔共通事項〕の内容 ○各学年の目標及び内容 【教科書ページ・参考文献】 ○「小学校図画工作科教育法〕　Ｐ２８～４１　○「小学校指導要領解説　図画工作編」　Ｐ２０～３４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第６回	指導計画の作成と内容の取扱い　○指導計画作成上の配慮事項　○内容の取扱いと指導上の配慮事項 【key words】 〔共通事項〕　配当時間，　鑑賞の指導，　共同製作，　版画表現，　事故防止、　各学年の材料や用具 【授業概要】 指導計画の作成と内容の取扱い　○指導計画作成上の配慮事項　（共通事項、配当時間数、鑑賞の指導、共同製作、生活科との関連、道徳との関連）　○内容の取扱いと指導上の配慮事項（児童の特性を生かす、版画表現、焼きもの、材料や用具、事故防止、鑑賞） 【教科書ページ・参考文献】 「小学校指導要領解説　図画工作編」　Ｐ１０４～１２５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第７回	「造形遊び」の指導　○造形遊びの意義　○各学年の造形遊びの目的・内容について　○段ボールを使った制作（小３，４年） 【key words】 造形遊び　創造性　自主性　イメージ　着想　材料・場所・用具 【授業概要】 ○「造形遊び」の指導　・造形遊びの導入の経緯と意義　・各科学年の造形遊びの目標・内容について　・実践例から　「段ボールを使った製作」　（小３，４年）の教材研究　教材研究 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法〕　Ｐ４２～５４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「教材開発」　造形遊びで、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第８回	「絵に表す」の指導　○初めての水彩絵の具の使い方指導（小３，４年）○水彩画の技法について（重ね塗り、にじみ、ぼかし等） 【key words】 「絵に表す」の指導　心象表現　混色、重ね塗り、にじみ、ぼかし　絵画における思春期の危機 【授業概要】 ○絵に表す活動の特質　○初めての絵の具の使い方指導　○水彩画の技法（混色、重ね塗り、にじみ、ぼかし）　○絵画における思春期の危機　○実践例　写生画　「花を描く」　教材研究 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法〕　Ｐ５５～６７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「教材開発」　「絵に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。

【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第９回　「立体に表す」の指導

【key words】
心象表現　純粋美術　可塑性素材　立体性　素材性　触知性
【授業概要】
○立体に表す活動の特質　（立体性、素材性、触知性、心象性）　○題材化の視点　○各学年の立体に表す活動　○実践例　「１２年後のわたし」　人体の芯材の作り方　教材研究
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ６８～８０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」「立体に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１０回　「工作に表す」の指導

【key words】
応用美術（生活美術）　適応表現　試行錯誤　事故防止
【授業概要】
○「つくる」ということの意味　○ものと人間の関係つくり　○工作の題材の基本　○工作の材料○工作の学習課題　○各学年の工作に表す活動　○実践例から　５，６年生の題材から「アミアミアミーゴ」教材研究
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ８１～９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」「工作に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１１回　「鑑賞活動の指導

【key words】
鑑賞、導入時の鑑賞，完成作品の相互鑑賞、独立した鑑賞活動
【授業概要】
鑑賞活動の指導　○導入時の鑑賞　○完成作品の相互鑑賞　○独立した鑑賞活動
鑑賞活動の特質　各学年の鑑賞
実践例から　５，６年生の題材から「カードをつかって」　教材研究
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ９５～１１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　教材開発」　「鑑賞活動」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１２回　子どもの絵の見方、育て方　（低・中学年）

【key words】
子どもの造形表現の発達　図式期、　擬実期、　空想画、　生活画、写生画（観察画）、基底線
【授業概要】
○図式期、擬実期の絵画の特徴、　写実期の芽生え　思春期の絵画の危機　発達段階とその指導　○様々な児童画を鑑賞し、それぞれの児童画の主題や表現のよいと思われるところについて、話し合い、また、どのような素材や材料、用具を使って指導をしているか調べる。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１５～２７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　様々な児童画から好きな絵についてコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　子どもの絵の見方、育て方　（中・高学年）

【key words】
生活画、想像画（空想画）、観察画（写生画）
【授業概要】
○児童画作品を見て、主題や表現のよいと思われることについて話し合う。どのような指導をしたと考えられるか、適切な描画材料や紙質についてなど話し合う。話し合いにより「絵に表す」活動の支援方法を考え合う。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１３０～１３８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　様々な児童画から好きな絵についてコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　透視図法の表示練習　デッサンの基礎練習

【key words】
透視図法　消失点　アイレベル　円の透視図　タッチ　トーン　ハイライト
【授業概要】
透視図法の基礎練習　○一点透視図法　○二点透視図法　○円の透視図法
デッサンの基礎練習　○デッサンのこつ　タッチ　トーン　ハイライト　輪郭線
構造線　光と影の関係　稜線　○デッサン練習　立方体を描く　円柱を描く
【教科書ページ・参考文献】
「スーパー鉛筆デッサン」　絵画技法研究会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　円錐のデッサンに挑戦する。
【予習復習に必要な想定時間】

	６０～１２０分 第１５回　図画工作科教育の歴史　現代の諸相　まとめ 【key words】 臨画、図画、手工、自由画教育、民間美術教育運動 【授業概要】 １　戦前の様相(図画の歩みー臨画、自由画の台頭、手工教育)　２　図画工作科の登場と発展(試案としての学習指導要領、準教科書と検定教科書)　３　図画工作科の歩み　４　現代の諸相　アクティブラーニングの指導 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法]　Ｐ１６２～１８６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「図画工作科教育の指導に大切なことは」コメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技制作のある日は、汚れても構わない服装か、体育着で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板拭き等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	次回の授業に該当する箇所と授業資料を事前に配布する。　必要に応じて小テストを行うので、復習をすること。
オフィスアワー	毎授業後３０分間迄応じる。
評価方法	定期試験　７０％　実技制作作品及びレポート等　３０％
教科書	山口喜雄編著　「小学校図画工作科教育法」　建帛社、　文部科学省　「小学校学習指導要領解説図画工作編」　日本文教出版
参考書	高階　秀爾監修　「西洋美術史」　美術出版社　（２００７）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 図画工作科の学習指導要領に示された目標、内容などについて、小学校で担任として図画工作科を担当した経験を活かし、実例を紹介したり児童用教科書を活用したり、実技を行ったりしながら具体的に解説する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　美術概論　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校図画工作科の授業構成を踏まえ、造形活動の支援に不可欠な知識や技能について基本を学習し、自分なりの造形教育観を持つことができるようにする。 【到達目標】 ①造形活動の意義や特性について理解することができる。 ②学習指導要領に掲載されている図画工作科の目標及び内容等を理解することができる。 ③造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞などそれぞれの内容に応じた授業の展開方法、支援方法の理解を深めることができる。 ④子どもの絵の発達を基盤に、子どもの絵の見方、育て方について理解を深めることができる。
授業の概要	造形活動がいかに人間をリフレッシュさせてくれているか造形活動の意義や特性について学ぶ。学習指導要領から図画工作の目的や内容を学ぶ。また、実際の授業で用いられている様々な表現対象、材料、技術、様式、形式を中心に、基礎的内容についての講義や製作実技を行う。さらに、子どもの絵からよさや美しさを感じ取り、子どもの絵の見方、育て方を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業の進め方の説明）　○芸術・美術の概念 【key words】 美術、図画工作科教育、小学校指導要領、アクティブラーニング 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○芸術・美術の概念　○造形教育の意義　○アクティブラーニングを踏まえて 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１～４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　この講座を通して特にどんなことを学びたいか考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	造形教育の理念と構造　○自然主義の教育観と表現の意味の発見 【key words】 造形教育の理念、アイスナー、ルソー、自然主義教育観 【授業概要】 ○造形教育の理念と構造　自然主義教育観と表現の意味の発見、美的欲求と造形欲求 ○無意識と表現(心の構造、無意識と表現)　○無意識と児童画　○理念の発展と推移、美術教育の主張　○造形教育の構造(造形教育の特殊) 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分

	第３回	造形活動の意義と図画工作　○「美術の機能」と図画工作科教育　○美術を通した教育 【key words】 芸術の機能、ユング、無意識と児童画、コンテクスチャリズム、エッセンシャリズム 【授業概要】 ○芸術の機能と図画工作教育　○美術を通した教育（コンテクスチャリズム）と美術の教育（エッセンシャリズム）　○諸感覚を目覚めさせる 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第４回	図画工作科の目標　○教科の目標　○学年の目標 【key words】 Ａ表現、Ｂ鑑賞、〔共通事項〕、領域、項目、事項、造形遊び、絵や立体、工作 【授業概要】 ○教科の目標、学年の目標、目標及び内容構成の関連　○図画工作科の内容 【教科書ページ・参考文献】 ○「小学校図画工作科教育法」　Ｐ２８～４１　○「小学校指導要領解説　図画工作編」Ｐ９～１９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第５回	図画工作科の内容　○内容の構成　○各領域及び〔共通事項〕の内容 【key words】 内容の構成、　Ａ表現　Ｂ鑑賞、　〔共通事項〕 【授業概要】 ○Ａ表現の内容　（造形遊び、絵や立体、工作）　○Ｂ鑑賞の内容　○〔共通事項〕の内容 ○各学年の目標及び内容 【教科書ページ・参考文献】 ○「小学校図画工作科教育法〕　Ｐ２８～４１　○「小学校指導要領解説　図画工作編」　Ｐ２０～３４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第６回	指導計画の作成と内容の取扱い　○指導計画作成上の配慮事項　○内容の取扱いと指導上の配慮事項 【key words】 〔共通事項〕　配当時間，　鑑賞の指導，　共同製作，　版画表現，　事故防止、　各学年の材料や用具 【授業概要】 指導計画の作成と内容の取扱い　○指導計画作成上の配慮事項　（共通事項、配当時間数、鑑賞の指導、共同製作、生活科との関連、道徳との関連）　○内容の取扱いと指導上の配慮事項（児童の特性を生かす、版画表現、焼きもの、材料や用具、事故防止、鑑賞） 【教科書ページ・参考文献】 「小学校指導要領解説　図画工作編」　Ｐ１０４～１２５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第７回	「造形遊び」の指導　○造形遊びの意義　○各学年の造形遊びの目的・内容について　○段ボールを使った制作（小３，４年） 【key words】 造形遊び　創造性　自主性　イメージ　着想　材料・場所・用具 【授業概要】 ○「造形遊び」の指導　・造形遊びの導入の経緯と意義　・各科学年の造形遊びの目標・内容について　・実践例から　「段ボールを使った製作」　（小３，４年）の教材研究　教材研究 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法〕　Ｐ４２～５４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「教材開発」　造形遊びで、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第８回	「絵に表す」の指導　○初めての水彩絵の具の使い方指導（小３，４年）○水彩画の技法について（重ね塗り、にじみ、ぼかし等） 【key words】 「絵に表す」の指導　心象表現　混色、重ね塗り、にじみ、ぼかし　絵画における思春期の危機 【授業概要】 ○絵に表す活動の特質　○初めての絵の具の使い方指導　○水彩画の技法（混色、重ね塗り、にじみ、ぼかし）　○絵画における思春期の危機　○実践例　写生画　「花を描く」　教材研究 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法〕　Ｐ５５～６７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「教材開発」　「絵に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。

【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第９回　「立体に表す」の指導

【key words】
心象表現　純粋美術　可塑性素材　立体性　素材性　触知性
【授業概要】
○立体に表す活動の特質　（立体性、素材性、触知性、心象性）　○題材化の視点　○各学年の立体に表す活動　○実践例　「１２年後のわたし」　人体の芯材の作り方　教材研究
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ６８～８０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」「立体に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１０回　「工作に表す」の指導

【key words】
応用美術（生活美術）　適応表現　試行錯誤　事故防止
【授業概要】
○「つくる」ということの意味　○ものと人間の関係つくり　○工作の題材の基本　○工作の材料○工作の学習課題　○各学年の工作に表す活動　○実践例から　５，６年生の題材から「アミアミアミーゴ」教材研究
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ８１～９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」「工作に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１１回　「鑑賞活動の指導

【key words】
鑑賞、導入時の鑑賞，完成作品の相互鑑賞、独立した鑑賞活動
【授業概要】
鑑賞活動の指導　○導入時の鑑賞　○完成作品の相互鑑賞　○独立した鑑賞活動
鑑賞活動の特質　各学年の鑑賞
実践例から　５，６年生の題材から「カードをつかって」　教材研究
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ９５～１１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　教材開発」　「鑑賞活動」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１２回　子どもの絵の見方、育て方　（低・中学年）

【key words】
子どもの造形表現の発達　図式期、　擬実期、　空想画、　生活画、写生画（観察画）、基底線
【授業概要】
○図式期、擬実期の絵画の特徴、　写実期の芽生え　思春期の絵画の危機　発達段階とその指導　○様々な児童画を鑑賞し、それぞれの児童画の主題や表現のよいと思われるところについて、話し合い、また、どのような素材や材料、用具を使って指導をしているか調べる。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１５～２７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　様々な児童画から好きな絵についてコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　子どもの絵の見方、育て方　（中・高学年）

【key words】
生活画、想像画（空想画）、観察画（写生画）
【授業概要】
○児童画作品を見て、主題や表現のよいと思われることについて話し合う。どのような指導をしたと考えられるか、適切な描画材料や紙質についてなど話し合う。話し合いにより「絵に表す」活動の支援方法を考え合う。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１３０～１３８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　様々な児童画から好きな絵についてコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　透視図法の表示練習　デッサンの基礎練習

【key words】
透視図法　消失点　アイレベル　円の透視図　タッチ　トーン　ハイライト
【授業概要】
透視図法の基礎練習　○一点透視図法　○二点透視図法　○円の透視図法
デッサンの基礎練習　○デッサンのこつ　タッチ　トーン　ハイライト　輪郭線
構造線　光と影の関係　稜線　○デッサン練習　立方体を描く　円柱を描く
【教科書ページ・参考文献】
「スーパー鉛筆デッサン」　絵画技法研究会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　円錐のデッサンに挑戦する。
【予習復習に必要な想定時間】

	６０～１２０分 第１５回　図画工作科教育の歴史　現代の諸相　まとめ 【key words】 臨画、図画、手工、自由画教育、民間美術教育運動 【授業概要】 １　戦前の様相(図画の歩みー臨画、自由画の台頭、手工教育)　２　図画工作科の登場と発展(試案としての学習指導要領、準教科書と検定教科書)　３　図画工作科の歩み　４　現代の諸相　アクティブラーニングの指導 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１６２～１８６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「図画工作科教育の指導に大切なことは」コメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技制作のある日は、汚れても構わない服装か、体育着で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板拭き等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	次回の授業に該当する箇所と授業資料を事前に配布する。　必要に応じて小テストを行うので、復習をすること。
オフィスアワー	毎授業後３０分間迄応じる。
評価方法	定期試験　７０％　実技制作作品及びレポート等　３０％
教科書	山口喜雄編著　「小学校図画工作科教育法」　建帛社、　文部科学省　「小学校学習指導要領解説図画工作編」　日本文教出版
参考書	高階　秀爾監修　「西洋美術史」　美術出版社　（２００７）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 図画工作科の学習指導要領に示された目標、内容などについて、小学校で担任として図画工作科を担当した経験を活かし、実例を紹介したり児童用教科書を活用したり、実技を行ったりしながら具体的に解説する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　家庭科概論　　授業コード：5571

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校「家庭科」の教育内容に基づきながら、根底にある生活（衣・食・住・家庭管理）に関する基本的な知識を身につける。その際、各生活事象の背景にある原理・原則を根本的に理解し、家庭科教育の現場で児童の様々な発語や行動にも対応できるようになる。さらに、食と家庭経済・衣と住などのように、複合分野にわたる授業を実施できるようにする。 【到達目標】 １）　衣・食・住・家庭管理に関する知識を、自身の生活の中に明確に位置づけることができる。 ２）　１）をいつでも引き出して実践することができる。 ３）　「家庭科」は、より良い家庭生活を構築するための教科であることを常に意識し、家族に対する「思い」を持ち続けることができる。
授業の概要	“生活を科学する”という立場に立ちながら、家族と家庭生活、衣生活、食生活、住生活、家庭経済の各分野についての基礎知識を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス　：　生活者としての習熟度チェックと生活の中の科学・文化の考え方 【key words】 衣生活　食生活　住生活　金銭管理（家計）　生活事象の中の科学・文化 【授業概要】 身辺の生活事象（衣・食・住・金銭管理）についての自身の知識をチェックし、「家庭科」に欠かせない日常生活に関する科学的・文化的な考え方を身につける。また、それにより生活の科学・生活の中の文化の面白さや奥深さに気付く。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「生活科学チェックテスト」（プリント） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	家庭科への誘い　：　「家庭科」の特徴と家庭科教育の意義 【key words】 家庭科の歴史と意義　小学校高学年と家庭科　「生活を科学する」　「文化を伝承する」 【授業概要】 「家庭科」特有の“実践しながら学ぶ”ことの意味・意義について知る。また、「家庭科」は「家政学（生活科学）」の知見に基づく教科であるが、「家政学」の各領域における研究を紹介し、科学・文化が実生活に活用されている様子を知る。 【教科書ページ・参考文献】 10～22ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

予習：10～22ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　家族・家庭生活　：　家庭生活とは何か　家庭の仕事と生活時間　家族の現状
【key words】
家庭・家族　家庭生活の構造　家庭と社会　家庭生活を支える仕事（家事労働・家事分担）生活時間　児童虐待　子どもの貧困
【授業概要】
家庭生活の意義を学ぶとともに現代の家族の構造や現状について知る。また、家庭生活を支える仕事と生活時間について理解し、家庭生活における子どもたちの傾向について把握する。
【教科書ページ・参考文献】
24～46ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：24～46ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　食生活　：　現代の食生活の課題　食事の役割と日常食の大切さ
【key words】
食事の役割　日常食　内食・中食・外食・旬　栄養素　食物アレルギー　行事食　食事のマナー
【授業概要】
現代の食をめぐる状況を知り、食事の役割・日常食の大切さについて考える。また、体に必要な栄養素の働きを理解するとともに食文化についても学習する。
【教科書ページ・参考文献】
50～64ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：50～64ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　食生活　：　栄養を考えた食事（献立を立てる）
【key words】
６つの基礎食品群　食事摂取基準　食事バランスガイド　夕食の献立
【授業概要】
身体を健康（健全）に保つための栄養の基礎について学び、「６つの基礎食品群（小学校では「３色食品群」）が判別できるようになる（「食事摂取基準」「食事バランスガイド」についても言及する）。
【教科書ページ・参考文献】
64～69ページ
配布資料：ワークシート（献立）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：64～69ページ
課題：「１週間の食事調べ（６つの基礎食品群別摂取量）」（記入用紙配布）開始。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　食生活　：　調理の実際
【key words】
食品の購入・保存　計量　材料の洗い方・切り方　加熱調理（ゆでる・いためる・炊く）　後片付け
【授業概要】
調理するための基礎知識を身につける。「１週間の食事調べ（６つの基礎食品群別摂取量）」の結果を集約し、自身の食生活の問題点を把握する。
【教科書ページ・参考文献】
70～80ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：「１週間の食事調べ（６つの基礎食品群別摂取量）」
予習：70～80ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　衣生活　：　衣服の機能と役割
【key words】
体温の調節　身体の保護　身体の清潔　生活や作業動作の向上　TPOの配慮　所属集団や職業の識別　自己表現　繊維　糸　布　暖かい着方・涼しい着方
【授業概要】
「衣服とは何か」について物理的・精神的機能の両面から考える。また、快適な衣生活を営むための知識（素材・着方）についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
82～90ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：82～90ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　衣生活　：　衣服の手入れ
【key words】
界面活性剤の働き（浸透作用・乳化作用・分散作用・再付着防止作用）　洗濯の条件　衣服の取扱い表示　漂白　しみ抜き　柔軟仕上げ　のり付け　アイロンがけ　クリーニング業者による洗濯
【授業概要】
衣服の汚れを落とす目的と衣服の手入れの必要性を確認するとともに、正しい対処法（洗濯の方法・手順・用剤等）について学ぶ。
洗浄理論（汚れ落としのメカニズム）を理解し、生活に役立てることができるようになる。
【教科書ページ・参考文献】
91～102ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：「各自の家庭で使用している洗剤の成分について調べる」
予習：91～102ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　衣生活　：　布を用いた製作（手縫）
【key words】
裁縫用具　手縫いの基礎（玉結び・玉どめ・並縫い・返し縫い・かがり縫い・ボタン付け）　ミシン縫い
【授業概要】
布は他の素材と異なり温かみが感じられるものである。この布を用いて生活に役立つものを作る際の、手縫いの基礎について実践学習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
103～114ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：基礎縫いの作品を仕上げること（次回提出）。
予習：103～120ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　衣生活　：　布を用いた製作（ミシン縫い）
【key words】
ミシンの各部名称　上糸のかけ方　下糸の出し方　返し縫い　ミシンの不調原因と対策
【授業概要】
第9回の手縫いに引き続き、ミシン縫いの実践を行う（試し縫い）。
【教科書ページ・参考文献】
114～120ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：114～120ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　住生活　：　住まいの機能と役割　室内環境とその調整
【key words】
保護的機能　生活機能　文化的機能　温熱環境　空気環境　光環境　音環境
【授業概要】
「住まいとは何か」について物理的・精神的機能の両面から考える。また、室内環境を快適に整えるための条件について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
112～136ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：112～136ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　住生活　：　住居の管理　バリアフリーとユニバーサルデザイン
【key words】
整理・整頓　清掃　バリアフリー　ユニバーサルデザイン
【授業概要】
日常行っている整理整頓や清掃について科学的に学ぶ。清掃については、第8回で学んだ洗浄理論（汚れ落としのメカニズム）を活用しながら、汚れの落とし方を科学する。また、バリアフリーの作りについて検討し合うとともに、ユニバーサルデザインの例を紹介し合う。
【教科書ページ・参考文献】
137～142ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：137～142ページ
課題：バリアフリーの例・ユニバーサルデザインの例を探す。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　消費生活・環境　：　家庭経済（家計）と消費者生活
【key words】
家計・収入・支出　電子マネー　契約（物を買う行為）　クレジットカードのしくみ　消費者問題
【授業概要】
企業と同様、家庭も経営が順調でなければ破綻する。家庭経済（家計）のしくみについて学ぶとともに、賢い消費者になるための物の選び方や支払い方について知る。
【教科書ページ・参考文献】
144～157ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：144～157ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　消費生活・環境
【key words】
SDGs（国連が提唱している持続可能な世界実現のための目標）　消費生活と環境　３Ｒ　５Ｒ　衣生活と環境　食生活と環境　住生活と環境
【授業概要】
ますます悪化する地球温暖化に対し、世界の人々が地球上の資源をどのように消費すべきかを考えながら暮らしていかなければならない。そのための国際的合意について知るとともに、衣・食・住及び消費と環境について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
158～163ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：158～163ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

	第１５回　　生活文化 【key words】 四季の自然　色の呼び方　伝統模様　行事食　日本家屋　インテリア製品 【授業概要】 衣食住生活の中の日本独自の工夫や美意識について知り、それらは四季の変化に富む風土と深いつながりがあることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布配布：日本の文様（幾何学文様・情景をあらわす文様） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：衣食住に関する我が国独自の工夫や伝統について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中に発言を求めたりディスカッションを取り入れたりするため、積極的・能動的に受講すること。また、板書以外にも各自メモをとり、“生活の中の雑学”も身につけるよう心がけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	食材や生活用品・用具等に関する知識が無いと、講義で扱う内容が理解できない。そのため日頃から、食材や生活用品の買い物・調理・洗濯・家庭内の清掃を行い、自力で日常生活を営めるようになっておくこと。
オフィスアワー	金曜日　13：00～15：00
評価方法	小テスト（40%）　提出物（40%）　授業における積極性（発言・発表等）（20%）
教科書	大竹美登利・倉持清美編著　『初等家庭科の研究 ― 指導力につなげる専門性の育成』萌文書林、2018年 文部科学省　『小学校学習指導要領解説家庭編』 『わたしたちの家庭科５・６』開隆堂、2020年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　体育概論　　授業コード：5581

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校体育科の指導に必要な知識・技能を習得し、実践できることを目的とする。 【到達目標】　①生涯スポーツの基礎つくりになる理論と実技を身につけることができる。②児童の発育･発達段階に応じた教材の特性と内容を習得することができる。　③児童が自ら運動に親しみ実践できるような指導･助言を行うことができる。。
授業の概要	１　体育科を指導するための基礎的な理論と知識を学習し、学習内容に応じた実技の基礎動作を習得する。 ２　児童が各種の運動に親しみ、自ら進んで体力を高めることができるような方法を習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　体育の特色（概念、改定の趣旨、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法と体育） 【key words】 【key words】運動の教育　学習指導要領　総則と体育　スポーツ基本法　スポーツ基本計画 【授業概要】 【授業概要】体育の概念、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法の視点で、小学校教諭に必要な基本的知識を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ９～ｐ２１ 小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題・予習・復習・授業準備指示】「学習指導要領（体育）」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２回　学習指導要領の読み方（概念、改定の趣旨、体育の目標） 【key words】 【key words】生きる力　確かな学力　体系化　豊かなスポーツライフ　最低基準 【授業概要】 【授業概要】学習指導要領の概要（生きる力、確かな学力、基本的考え方）、体育科改訂の趣旨（改訂と学校教育）、体育科の目標（小学校体育の目標、読み方と授業つくり、カリキュラムの構造）を学び、学校教育のアカウンタビリティに応えるべく、体育的学力の育成について習得する。 【教科書ページ・参考文献】

【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ２２～ｐ３５
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「発育･発達」について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　発育･発達（発育の概要、運動機能の発達、運動指導）
【key words】
【key words】発育　発達　分化　統合

【授業概要】
【授業概要】学童期の心身の変化のうち、形態的側面の発育の概要、機能的側面の運動機能の発達として捉え、その変化を理解する。また、この発育･発達を、体育活動でどのように運動指導に結びつけていくかを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ３６～ｐ４８
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学生の体力」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　小学生の体力（体力の理解、児童期の体力要素、運動手段、体力測定評価）
【key words】
【key words】小学生の体力　神経系型　調整力　運動手段　体力テスト

【授業概要】
【授業概要】こどもの現状を踏まえ、体力とその要素について理解したうえで、児童期の発育・発達の特徴を学び、急激に発達する神経系と、密接に関係する調整力やその他柔軟性の役割、無気パワー、基礎的持久力について学ぶ。また、運動手段の準備や体力測定評価を効果的に体育指導に生かすことを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ４９～ｐ６３
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「こどもの生活」について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　子どもの生活（環境の変化、運動、栄養、休養、生活リズム）
【key words】
【key words】　変化する生活環境　３つの「間」の喪失　基本的生活習慣とリズム

【授業概要】
【授業概要】児童期における「健康３原則」を、運動（遊び）・栄養・休養として、その経緯や現状（ＴＶ、少子･高齢化、人口減少社会等、）を実態から把握し、運動（遊び）、栄養、休養の面から、生活リズム向上のための取り組みを考え、子どもの健康的な生活を促進することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ６４～ｐ７６
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学生に対する指導」について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　小学生に対する運動指導（発達的視点に立つ構成要素、運動技能の捉え方、練習･指導、好き嫌い）
【key words】
【key words】体育　発達　運動技能（スキル）　指導　運動嫌い

【授業概要】
【授業概要】運動を学ぶことと、子どものトータルな発達との関係を確認し、運動を学ぶ際の中核である運動技能（スキル）についての捉え方や指導にあたり留意する事項を学ぶ。また、生涯にわたって運動に親しむことができるために、運動好きと運動嫌いについてその要因を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ７７～ｐ８９
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「子どもの安全」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　子どもの安全（学校安全、体育活動時における安全）
【key words】
【key words】学校安全　安全管理　安全教育　ＢＬＳ教育　けがの処置

【授業概要】

【授業概要】学校安全の意義とねらい、安全教育の意義と推進や、体育活動における安全（事故の現状、事故防止の基本的考え方、安全教育と安全管理、体育科授業での取り組み、けがへの対処、熱中症やその他の取り組み）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ９０～ｐ１０３
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「保健」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　保健（毎日の生活と健康、育ちゆくからだと私、心の健康、ケガの防止、病気の予防）
【key words】
【key words】生活と健康　思春期　こころの健康　手当　予防

【授業概要】
【授業概要】保健領域の毎日の生活と健康（第３学年）、育ちゆく体とわたし（第４学年）、こころの健康・けがの防止（第５学年）、病気の予防（第６学年）の知識を習得する。また、修得した知識を活用する学習を通して、思考力や判断力を育成することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１０４～ｐ１１５
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「体つくり運動」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　体つくり運動（体つくり運動とは、体ほぐし運動、多様な動きをつくる運動、体力を高める運動）
【key words】
【key words】体ほぐし　多様な動きをつくる運動（遊び）　体力を高める運動　気づき　調整　交流

【授業概要】
【授業概要】　体つくり運動の概要、その内容である「体ほぐしの運動」、「多様な動きをつくる運動」、「体力を高める運動」の説明や、低・中・高学年での教材内容の取り扱いを学ぶ。また、実技として、体つくり運動の実践活動を取り入れ、その動きを通して「体つくり運動」の指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１１６～ｐ１２９
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　器械運動（基本の動き、器械･器具を使っての運動遊び、器械運動）
【key words】
【key words】　基本的運動技能　器械・器具を使っての運動遊び　マット運動　鉄棒運動　跳び箱運動

【授業概要】
授業概要】器械運動の基本動作や技術を実技を通して学び、日常的生活では味わえな運動が、潜在的身体能力として重要であることを習得する。　また、器械運動は「できる」「できない」がはっきり現れる教材であり、段階的指導方法により、「できた」達成感や成就感を味わえ、人間性を高めることへの効果も高いことも学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１３０～１４３
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　陸上運動（基本の動き、走の運動、跳の運動）
【key words】
【key words】短距離走　リレー　ハードル走

【授業概要】
【授業概要】陸上運動の基本の動き（短距離走）走の運動（短距離、リレーハードル走）の説明、実技を通じて、低・中・高学年での技術のポイント、基本的なフォームの指導方法を学ぶ。また、仲間と走る速さを競い合ったり、目標を達成させる楽しみを体験する中で、「走・跳の運動遊び」から「陸上運動」へ移行することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１４７～ｐ１６５
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】

	60分 第１２回　水泳（基本の動き、水遊び、浮く・泳ぐ運動、水泳） 【key words】 【key words】水遊び　浮く　泳ぐ 【授業概要】 【授業概要】水に慣れ親しむことや浮いたり泳いだりする中で、心地良さや楽しさを通じて手や足の動きを身に付けろとともに、安全の心得を学ぶ。泳法は、クロール・平泳ぎの習得をめざし、け伸び、プル、バタ足、呼吸法等の基礎的技術を学ぶと共に安全管理の知識も習得する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１６６～ｐ１８０ 小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　ボール運動（ゴール型、ネット型、ベースボール型） 【key words】 【key words】基本技術　ゲーム　技能　ゴール型　ネット型　ベースボール型　攻撃　守備　ルール　作戦 【授業概要】 【授業概要】ボール操作の基礎技能の理解と技術の習得を通し、ボール運動の特性であるゴール型（バスケットボール・サッカー等）、ネット型（バレーボール等）、ベースボール型（ソフトボール等）の特徴を学ぶ。また、ゲームを通じて、チームワークや役割分担等、お互いを理解する態度とコミュニケーション能力の向上を図る。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１８１～ｐ２０５ 小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】「表現運動」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　表現運動（表現リズム遊び、表現運動） 【key words】 【key words】　個性　内面　イメージ　人間性を豊かにする 【授業概要】 【授業概要】表現遊び・リズム遊び（低学年）や表現運動（中･高学年）の表現、リズムダンスを通じて児童一人ひとりが踊りの楽しさや喜びに触れられ、こころと体を解放、表現できることを学ぶ。また、地域に伝承している踊りや、発想やイメージによる動きつくりや表現方法も学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ２０６～ｐ２１８　小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】健康的な生活について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 【key words】体育　スポーツ　健康 【授業概要】 【授業概要】体育概論の授業で実施した体育・スポーツ活動を通じて、子どもたちが、こころと体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全について理解し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力をの基礎を育てると共に、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度ができるかをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）、小学校学習指導要領解説 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】生涯スポーツの基礎つくりとして小学校体育科のあり方を学ぶ。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講者に関する事〕 ・前半は講義、後半は実技を中心とする。・水泳は夏期集中講義でおこなう。 ・運動着、運動靴やメモ用紙の準備をする。 〔受講のルール〕 ・着替えは迅速にして授業の用具準備をおこなう。 ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	小学校のボランティア活動を積極的に実施する。野外活動やプール指導等で、子どもたちの状況を理解しておく。 総合型地域スポーツクラブ等、地域での子どもを取り巻く体育・スポーツ活動や地域社会で行っている子供参加のイベント等には参加して情報を収集しておく。
オフィスアワー	木曜日　13:00～16:00　他の時間帯を希望の場合はアポイントをお願いしたい。
評価方法	筆記試験、レポート（50%）実技試験（50%）の総合評価
教科書	文部科学省：小学校学習指導要領解説体育編：東洋出版社：平成29年　　高島二郎：小学校体育：玉川大学：平成29年
参考書	笹川スポーツ財団：スポーツ白書：2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立学校教員（保健体育）21年管理職6年、群馬県教育委員会指導部体育課指導主事（県内の学校体育、生涯体育指導：小学生にかかわる指導者、母集団指導）4年、群馬県スポーツ事業団指導主事（親子スポーツ、スポーツ少年団指導者養成講習会、母集団育成講習会等の講師）群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐（広域市町村派遣スポーツ指導主事指導、生涯スポーツ特に親子指導）群馬県学校体育研究連合会（小・中・高）表彰、群馬県教育長表彰（保健体育） アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神保健福祉に関する制度とサービス　　授業コード：7009

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】社会における精神障害者の人権上の問題点を踏まえ精神保健福祉士として支援できるようになることを目指す。 【到達目標】精神障害者の人権について学ぶ。障害に配慮した生活支援について理解させる。精神保健福祉法、障害者総合支援法、医療観察法等法律の意義を学ぶ。精神保健福祉士の理念、意義、対象について学ぶ。
授業の概要	精神障害者の理解のために障害者福祉の理念、基本施策を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　講義の進め方、精神病者監護法・私宅監置 【key words】 精神病者監護法 【授業概要】 精神障害者の扱いの歴史をひも解く。 ※私宅監置、呉秀三 【教科書ページ・参考文献】 1P ～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	精神障害者をめぐる法律の歴史的変遷 【key words】 家族の責任・賠償責任 【授業概要】 精神衛生法の誕生。そして１９６５年改正のもつ意味。同意入院、措置入院と自由入院。 精神疾患や精神医学についても扱う。 ※入院形態と保護者制度の廃止について。 【教科書ページ・参考文献】 3~11P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	クラーク勧告、Ｙ問題、宇都宮病院問題 【key words】 脱施設化 【授業概要】 精神衛生法、精神保健法から精神保健福祉法へ。 世界は脱施設化の中、日本の精神科医療は逆行し入院中心を進めてきた。

【教科書ページ・参考文献】
※保健学７P（下段、精神科特例より下）を参照。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　精神保健福祉法の誕生
【key words】
病院管理者は人の行動を制限できる
【授業概要】
法の38条『処遇』から精神保健福祉法に入る。

※、プリントと教科書。
【教科書ページ・参考文献】
17、20P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　精神保健福祉法の主な内容
【key words】
宇都宮病院事件
【授業概要】
精神障害者の人権を守る「精神医療審査会」。
精神保健福祉センターから精神科病院まで。

【教科書ページ・参考文献】
教科書７P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　医療保護入院
【key words】
退院後生活環境相談員。
【授業概要】
保護者制度の廃止から精神科病院、精神保健福祉士の業務が大きく変わった。

※退院後生活環境相談員。

【教科書ページ・参考文献】
教科書19～26P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　精神保健福祉法の改正、22年改正、25年改正
【key words】
人権擁護
【授業概要】
精神衛生法の改正を含め精神保健福祉法の流れを知る。

※教科書に従って。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　入院の実際、退院の実際
【key words】
入院手続き
【授業概要】
病院の精神保健福祉士の仕事から実際を学ぶ。

※教科書に従って。
【教科書ページ・参考文献】
資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　障害者基本法と精神障害者の人権
【key words】
精神障害の合理的配慮
【授業概要】
第4章における障害者の人権から入り、精神障害者に対する課題まで進める。

※差別の禁止、合理的配慮。
次回から「理論と展開1」の教科書を持ってくる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書197～216P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　精神障害者福祉の理念と人権
【key words】
本来の精神保健福祉論に沿って
【授業概要】
ここから「理論と展開１」の教科書に入る。

※ノーマライゼーション

【教科書ページ・参考文献】
理論と展開1の１P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　障害者権利条約の理念と人権
【key words】
禁治産・準禁治産
【授業概要】
地域社会における精神障害者の人権。

※欠格条項、心神喪失、心神耗弱。

【教科書ページ・参考文献】
教科書37P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　精神障害及び精神障害者
【key words】
障害構造論
【授業概要】
生活のしずらさに焦点を当てボランティア体験を報告。

※ICIDHからICFに

【教科書ページ・参考文献】
教科書50～74P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　精神保健福祉の歴史と理念
【key words】
精神障害者福祉の歴史
【授業概要】
英米の精神保健福祉の歴史から日本の取り組みまで。

※ケネディー教書。

【教科書ページ・参考文献】
教科書74～88P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　ノーマライゼーションをもう一度
【key words】
英米の歴史
【授業概要】
教科書に従い進める。

※能力障害と生活のしずらさ。
【教科書ページ・参考文献】
95P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　日本の精神保健福祉とソーシャルワーク
【key words】
日本の歴史
【授業概要】
Y問題に注目。
精神保健福祉士が誕生。
【教科書ページ・参考文献】
111P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　アメリカの巨大精神科病院
【key words】

世界の名作に触れる
【授業概要】
映画「カッコーの巣の上で」を鑑賞。脱施設化の前の州立精神科病院の実際。
力動精神医学、巨大収容所（アサイラム）、治療共同体。

※婦長の行うグループワークに注目。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　16回の続き
【key words】

見させられた世界
【授業概要】
映画鑑賞と感想文
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　国家資格とY問題
【key words】
Y問題
【授業概要】
かって精神科ソーシャルワーカーが診察し入院させた？本当？強制入院？

【教科書ページ・参考文献】
教科書119～149P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　精神保健福祉士の専門性
【key words】
ホリス、ジャーメイン
【授業概要】
人と状況の全体関連性。
生活者の視点に立つ精神保健福祉士の視点。

※病院精神保健福祉士の仕事
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　医療観察法と更生保護法
【key words】
元の教科書に戻って
【授業概要】
本来の教科書に戻り、医療観察法を学ぶ。教科書（111P～）に従って。

※社会復帰調整官。
【教科書ページ・参考文献】
111P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　法的手続き
【key words】
精神保健福祉士の仕事に関連する
【授業概要】
判断の間違えはだれでも起こり得る。しかし法的手続きをしないことは人権を守っていないことになる。最悪訴えられて負ける。
入院手続き、退院手続き。
任意入院、医療保護入院、措置入院の手続き。
※入院しているのに退院届。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　関連法、医療保険制度と介護保険制度
【key words】
社会保障制度
【授業概要】
障害者総合支援法との関連。
社会保障制度全般から見ていく。
【教科書ページ・参考文献】

143P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　年金制度と障がい者年金
【key words】

【授業概要】
教科書に従って。
172～183P

※拠出年金・無拠出年金。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　労災関連と精神障害者福祉
【key words】
労災とは？
【授業概要】
業務起因性、業務遂行性。
うつ病等精神疾患との係わり。※リワークプログラム
教科書168Pを中心に。

【教科書ページ・参考文献】
168P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　公的扶助と精神障害
【key words】
自立とは？
【授業概要】
仕事は励みになるし、ストレスになる。
就労がゴールではない。

【教科書ページ・参考文献】
教科書180～187P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　経済負担の軽減と生活支援
【key words】
精神保健福祉手帳
【授業概要】
教科書に従う。

手帳は役に立つか？
※精神障害者の取得率が一番低い。
【教科書ページ・参考文献】
186～195P

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　障害者雇用促進法
【key words】
労働行政と福祉行政
【授業概要】
障害者雇用促進法から職業リハビリテーションについて考える。

※雇用義務。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２８回　精神障害者の生活支援システム
【key words】
精神障害者の生活実態。
【授業概要】
教科書に従う。

※4年生で本格的に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書217P～

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　精神障害者の生活と人権 【key words】 精神医療審査会。 【授業概要】 入院しても処遇改善要求ができる。「理論と展開Ｉ」の事例172Pを復習。 【教科書ページ・参考文献】 理論と展開Ｉ」の事例172P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　障害者総合支援法と生活支援 【key words】 当事者の「語り」。 【授業概要】 2人の当事者の話、230Pと231Pの語り。 生活実態をアンケート調査結果から。 【教科書ページ・参考文献】 230Pと231P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。年に1～2回映像での勉強を予定している。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　　精神障害者の生活支援　制度・システムとサービス
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院３０年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護の勉強会を実施。他、医局の勉強会において医師、SW,CPを対象にSSTトレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ　　授業コード： 7014

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】精神障害者支援を中心にした社会福祉サービスと支援活動を学ぶ。 【到達目標】精神保健福祉士の専門技術と理論を学ぶ。
授業の概要	障がいに配慮した援助技術を理解するためグループワークから入る。初めにＳＳＴ(生活技能訓練)を学び、次の個別援助技術（ケースワーク）を学び、地域支援（コミュニティーワーク）を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　講義の進め方 【key words】 グループワークの分類 【授業概要】 科目オリエンテーション。 指示的グループワーク、非指示的グループワーク。 ※教科書188Pのデイケアプログラムを参考にする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書188P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	障がいに配慮したグループワーク 【key words】 【授業概要】 生活技能訓練（SST) ソーシャルスキルとは？ 【教科書ページ・参考文献】 教科書52P,190P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	障害者を対象としたグループ 【key words】 ソーシャルスキルとは！ 【授業概要】 課題グループ、プログラム活動、治療グループ。 ※リーダー練習のための準備。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　集団援助技術とＳＳＴ（生活技能訓練）

【key words】
SSTの実際
【授業概要】
ロールプレイ。ビデオから学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　グループプロセスから学ぶ

【key words】
グループの凝集性
【授業概要】
グループワーク共通のグループプロセス。
開始期から作業期。

※リーダー練習。

【教科書ページ・参考文献】
教科書185P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　障害者を対象としたグループワーク

【key words】
指示的はSST
【授業概要】
支持的（サポーティブ）グループワーク。

※リーダーシップとは？
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　ＳＳＴの有効性

【key words】
練習しよう！
【授業概要】
何でもあり、答えも用意されている。

※では何をする、…　スキルアップ！

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
☆前年の基盤の本を持ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　認知行動療法の色々

【key words】
これが分かれば本物
【授業概要】
基盤95Pのべてる式認知行動療法から学ぶ。

※外在化
【教科書ページ・参考文献】
基盤95P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　学びと般化

【key words】
いつもの通りにやる
【授業概要】
交代して学ぶ。宿題の報告。やってこなくて、パスしてほめられる。

※ドライラン
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　送信技能、受信技能、処理技能

【key words】

統合失調症を理解する。
【授業概要】
スキーマ、自動思考の説明。
理論的な話から認知機能に注目してもらう。

※問題解決法
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　ある精神科デイホスピタルでの実践
【key words】
腕を上げる
【授業概要】
デイケアとデイホスピタル。ビエラのソーシャルクラブ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　シナリオロールプレイ「役割と自分」
【key words】
本物から学ぶ
【授業概要】
ある大学病院デイホスピタルのSSTの実際をシナリオロールプレイで学ぶ。

※レポート提出へ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
※レポート提出
【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　ストレス―脆弱性モデルと防御因子
【key words】
発症、再発。
【授業概要】
統合失調症の発症モデル、再発モデルを理解し、防御因子としてのSSTを学ぶ。

※防御因子
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　アミン仮説と抗精神病薬
【key words】

【授業概要】
脳の生物学的視点。
精神医学理論とSST.

※第3世代の薬
【教科書ページ・参考文献】
精神医学の教科書を利用
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　精神科病院の開放化
【key words】
精神科病院の歴史
【授業概要】
回転ドア現象。入院しよくなって退院したのに家に戻って悪化する。そして再入院。

これも問題だがそれ以前は入院＝収容だけ。これを打ち破ったのが患者作業。そして病棟の開放化、病院の開放化。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　精神科デイケア、デイホスピタル
【key words】

【授業概要】
これまで身に着けてきたグループワーク、SST,コミュニティーミーティングを整理する。
※プログラム活動

教科書188Pの表の５－１を参照。
【教科書ページ・参考文献】

教科書188Pの表
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　集団活動の中の暗黙の了解（アザンプション）
【key words】
グループプロセス
【授業概要】
精神障害者を対象にしたグループワーク。
ホーソン実験の持つ意味。

※暗黙の了解（アザンプション）
【教科書ページ・参考文献】
184~186P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　退院促進と回転ドア
【key words】
治療共同体
【授業概要】
治療共同体の全体ミーティング。
自分の発言に責任を持つ。

※日中活動の場としての精神科デイケア
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　セルフヘルプグループ
【key words】
イネイブリングとアスピレーション
【授業概要】
もう一つの言葉だけによるグループ。自助グループ。
支援者、治療者のいないグループ。
※ワーカーの役割がない。ワーカーは何をする。

（イネイブリングとアスピレーション）
【教科書ページ・参考文献】
教科書283Pの支援事例を参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書283Pの支援事例を参照
【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　家族支援と感情表出研究
【key words】
感情表出
【授業概要】
ダブルバインド仮説から家族システム論的アプローチへ。

※高EE家族
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　ビオンのグループワーク理論
【key words】
ペアリング
【授業概要】
1年生時のコミュニティーミーティングを振り返る。
そして体験グルグループを実施。

※3つのアザンプション。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　個別援助技術と心理社会的アプローチ
【key words】
SWは社会療法
【授業概要】
ホリスの心理社会療法を振り返る。見立てからアセスメントの原型を学ぶ。

※未解決問題。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　個別支援プロセス

【key words】
ケースワークをする
【授業概要】
精神疾患に着目して教科書に従う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書162～170P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　事例1（30歳・統合失調症の青年）からケアプランを学ぶ
【key words】

【授業概要】
30歳統合失調症の事例（プリント配布）

※4～5人のグループを編成、班活動で進める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　教科書の事例（45歳）からのエコマップ、ジェノグラム、レーダーチャートを覚える
【key words】
可視化
【授業概要】
アセスメント、そして支援計画。

【教科書ページ・参考文献】
教科書171～177P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　ストレングスモデルに基づくアセスメント、ケアプラン
【key words】
この事例の本当の問題は？
【授業概要】
ジェノグラムから見える家族の問題。
ピアの登場をどう読み解くか？

※この事例の未解決問題とは？

【教科書ページ・参考文献】
教科書171～177P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　ケアプランの完成
【key words】
ストレングスモデルになっているか？
【授業概要】
ストレングスモデルの手順。
デマンドから即サービスに結び付けない。ブローカリングモデルとの違い。

※前回の未解決問題をいかにプランに生かすか？
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２８回　ケアプランの発表
【key words】
チャレンジは？
予期できるリスクは？
【授業概要】
教科書を読み解く。

※週間予定表
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２９回　総合支援法のサービス等支援計画
【key words】

【授業概要】
教科書2つ目の事例で仲介型（ブローカリングモデル）のケアマネジメントを学ぶ。
サービス等支援計画と個別支援計画。

	※計画相談とは？ 【教科書ページ・参考文献】 教科書254～260P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　教科書の2つの事例を比較し仲介型のケアマネジメントを学ぶ 【key words】 希望を聞くとは？ 【授業概要】 教科書では個別支援計画に触れていないのでこれを補完。 ※時間があれば279Pの統合失調症の事例も扱う。 【教科書ページ・参考文献】 時間があれば279P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ｉ
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、３０年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施。他、医局勉強会において医師、SW,CPを対象にSST トレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅱ　　授業コード：8003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
森田　隆夫・新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士国家試験対策の一環として、履修済み科目についてグループ学習を行う。問題の解説を作成することを通じて、調べる方法や適切なまとめ方、伝える手段を習得することを目的とする。 【到達目標】 ①履修済み科目（1年次及び2年次前期）の基本的事項を説明できる。 ②解説をグループメンバーに理解してもらうために適切な資料を作成し、説明することができる。
授業の概要	履修済み科目の国家試験の問題（過去問等）に取り組み、グループで解説を作り説明することでグループでの学習をすすめる。 社会福祉士国家試験の受験に向け、過去問題等を活用し試験の内容や傾向に慣れ、自己学習を各自が進められるようにする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション及び過去問等を解いてみる
	第２回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
	第３回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
	第４回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）
	第５回	確認テスト【第1回】
	第６回	確認テストの返却及び過去問等を解いてみる
	第７回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
	第８回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
	第９回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）

	第１０回　確認テスト【第2回】 第１１回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第１２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第１３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク） 第１４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第１５回　まとめ 第１６回　オリエンテーション及び過去問等を解いてみる 第１７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第１８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第１９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第２０回　確認テスト【第3回】 第２１回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第２２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第２３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第２４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第２５回　確認テスト【第4回】 第２６回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第２７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第２８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第２９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第３０回　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	①すでに履修済みの科目をグループワークを行うことから、教科書を持参することが望ましい。 ②グループワークを行う回は、担当の問題の解説を次回までに作成をすること。（1問につきA4　1枚程度） ③解説はグループのメンバー分及び提出分をコピーしてくること。 解説の作成に際しての評価基準は以下の通りである。 優（5点）・・・適切な正答・解説が示されているだけでなく、図表や関連する用語なども含め、受講生にとってわかりや すい記述がされているもの 良（3点）・・・適切な正答が示されており、なおかつ必要な解説がなされているもの 可（1点）・・・適切な正答が示されているものの、解説が殆どされていないもの 不可（0点）・・・提出がされていない／提出されたものの記述が非常に乏しいもの ※なお、提出に遅延が見られた場合には1段階低い評価とします
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	①グループワークを行う回は、担当の問題の解説を次回までに作成をすること。（1問につきA4　1枚）

	②自分の担当の問題以外も調べておくことが望ましい。
オフィスアワー	【益子】金曜日　10時30分～12時　事前にアポイントを取ってもらいたい。 【森田】第1回の授業時に説明する。
評価方法	定期試験30%、確認テスト20%、担当する問題の解説の作成50%（具体的な評価については受講のルールを参照のこと）※ただし、定期試験において、60 点に満たない場合は再試験とする。
教科書	1年次及び2年次前期に使用した各科目の教科書
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉領域における利用者への相談対応などを中心とした実務経験を有する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎演習Ⅱ　　授業コード：9011　9012　9013　9014　9015　9016　9017

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	必修
担当教員			
新木　恵一・橋本　広信・森田　隆夫・塚越　亜希子・梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅱにおいては基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップとして、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に工夫しながら自主的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。また、基礎演習の集大成となる研究小論文の作成により、研究テーマを自主的に設定し、適した研究方法に基づき収集した資料を駆使して問題の構造を明らかにするなかで学士力の向上を図る。 〔到達目標〕 １　礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行うことができる。 ２　研究小論文の完成を目指す。 ３　昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法に人間としての基礎的教養力と自立的実践能力の涵養と、研究小論文作成にむけて、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①：前期オリエンテーション 【key words】 学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅱのスケジュール 【授業概要】 ・学長先生の訓話、学部長先生の講話を聞き、大学２年目の各自の目標が達成できるように、計画的に進める。　・基礎演習Ⅱのスケジュールを確認する。　・クラス担任とクラス運営方針を確認しあい、２年次が充実した一年となるよう計画を立てる。　・本時の学修をワークシートにまとめ、担任に提出する。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　鈴木利定・中田勝共著「威有一徳」（2002）中央法規 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各委員の役割をしっかり認識すること 【予習復習に必要な想定時間】 ―
	第２回	心身の健康プログラム①：親睦スポーツ大会に向けて 【key words】 親睦スポーツ大会、健康、協働 【授業概要】 体育委員が中心となりネット張り等の準備・片付けを行う。専攻別グループワークを通して親

		睦スポーツ大会の出場種目を練習し、チーム内の作戦を考え優勝目指して練習に励む。 【教科書ページ・参考文献】 シンボク大会パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 競技内容・ルール等をよく理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 －
	第３回	建学の精神と実践教育プログラム②　生活を科学する 【key words】 雑巾縫い、手縫いとミシン縫い、環境美化 【授業概要】 手縫いとミシン縫いの違いを理解する。実際に雑巾を手縫いする。特に、針谷いと、はさみの準備、後始末まで安全に作業ができるように配慮する。 【教科書ページ・参考文献】 手縫いとミシン縫いの違いのパンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 雑巾縫いが終わっていない場合は翌日までに完成させて提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 －
	第４回	心身の健康プログラム②　学生生活の日常に潜むリスクを知る 【key words】 学生生活、日常にひそむリスクとは 【授業概要】 学生生活の中にあるリスクは、男女関係、アルバイト、交通安全、SNS、宗教、薬物、アルコール、タバコ、マネートラブルなどについて学習する。 ワークシートを提出する 【教科書ページ・参考文献】 「学生生活は危険がいっぱい」のパンフレットを活用 【課題・予習・復習・授業準備指示】 パンフレットを熟読し、学生生活が円滑に遅れるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 －
	第５回	学士力育成プログラム①　図書館を使いこなそう 【key words】 図書館、蔵書検索レポートの書き方 【授業概要】 図書館司書を招き、「図書館の利用の仕方」の講義を受ける。蔵書検索に関して、実際にPC画面を見ながら学ぶ。CiNiiの論文検索の仕方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 図書館司書が作成した資料を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料を熟読し、積極的に本を借りて学修する態度を身につける。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	学士力育成プログラム②　研究小論文の作成Ⅰ　作成の基礎を知る 【key words】 研究小論文、小論文作成の概要 【授業概要】 小論文の書き方について学ぶ。小論文の組み立て方を学ぶ。（提示された小論文を読み解く） 【教科書ページ・参考文献】 学習技術研究会「知のステップ」くろしお出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 知のステップを熟読し、小論文の書き方を確認すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第７回	心身の健康プログラム③　がんやストレス、たばこの害 【key words】 がん検診の啓発、ストレス理解、たばこの害 【授業概要】 外部の専門家を招聘し、がん検診の必要性やストレスとへの対応、たばこの与える影響等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 講義資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自らの問題としてとらえる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	学資力育成プログラム③　　研究小論文のテーマについて 【key words】 研究小論文、問いを立てる、テーマと背景は 【授業概要】 小論文のテーマの立て方について学ぶ。また、そこに至った背景等についても考察する。 【教科書ページ・参考文献】 知へのステップ等参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小論文のテーマについての資料収集を行う

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　学士力育成プログラム④：研究小論文作成Ⅰ（作成の概要）
【key words】
研究小論文、先行研究はどのようになっているか

【授業概要】
先行研究の状況を調べる。先行研究から自身の小論文のテーマを決める。
【教科書ページ・参考文献】
先行研究の資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自身の小論文の資料となる文献を調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１０回　進路・資格取得プログラム①　　年金制度について
【key words】
年金についての基礎的知識を考える

【授業概要】
外部の専門家を招聘し、講義を受けるとともに社会保障の大きな柱でもある年金について考える。
【教科書ページ・参考文献】
年金セミナーの資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
年金制度への理解が深められたか自ら検証してみる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　学士力育成プログラム⑤　　就職能力試験
【key words】
自己表現力、一般常識や長所と短所、弱点を知る

【授業概要】
就職能力試験の日本語力と数理能力分野の自己課題を確認する。自己課題に則り自主学習の課題を探る。
【教科書ページ・参考文献】
就職課と連携した試験を行う
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の能力を知り弱点を克服し、良い点をさらに伸ばす努力をする
【予習復習に必要な想定時間】
－

第１２回　地域貢献プログラム①　地域とのかかわりⅠ　昌賢祭の意義
【key words】
昌賢祭の意義、テーマ検討、計画立案

【授業概要】
昌賢祭の意義や昨年度の製作・発表について確認し、クラスとしてどのような意義を見出し今年度のテーマとするかを議論する。昌賢祭実行委員が主体となって推進する。
【教科書ページ・参考文献】
担当が配布した資料等を参考とする
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までにクラス発表のテーマを考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　地域貢献プログラム②　　地域とのかかわりⅡ　昌賢祭の意義確認とテーマ設定
【key words】
昌賢祭の意義、テーマ設定、制作・発表

【授業概要】
前回の授業における話し合いを基に、今年度の製作・発表について考える。発表内容や政策について夏季休業中の課題について話し合う。実行委員が主体となって進める。
【教科書ページ・参考文献】
配布した資料を参考に検討する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
夏季休業中、テーマに沿った課題を進める準備をする
【予習復習に必要な想定時間】
－

第１４回　学士力育成プログラム⑥　　研究小論文作成Ⅱ　（研究方法を考える→夏季休業中の取り組み）
【key words】
研究小論文、研究方法、テーマ決める

【授業概要】
前回までの授業で得た資料を基に小論文の書き方を確認する。小論文の研究方法を考える。
【教科書ページ・参考文献】
地へのステップ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料収集と研究方法を考えておく
【予習復習に必要な想定時間】
240分

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③：前期総括（演習ファイル整理、自己点検、夏期休暇中の過ごし方　他）
【key words】
前期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート

【授業概要】
　演習ファイルの該当ページを確認し、総括をまとめる。本授業の評価アンケートを行う。夏季休暇の過ごし方等についての注意事項を指導。
【教科書ページ・参考文献】
演習ファイル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
後期の演習課題を見つけておく。夏季休暇中の有意義な過ごし方について確認すること。昌賢祭や小論文の準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
240分

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　　後期オリエンテーション（学長訓話・学部長講話　等）
【key words】
　学長訓話、学部長講話、後期目標、大学院進学

【授業概要】
　学長先生の訓話や学部長先生の講話を聴き、大学2年時の後期の意義を確認し意欲的にスタートする。
後期の演習計画を知り、演習ファイルを整理する。
【教科書ページ・参考文献】
演習ファイル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習ファイルをまとめておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１７回　学士力育成プログラ⑦　　自己表現テスト
【key words】
　自己表現テストを実施する

【授業概要】
　自己表現テストに取り組む。終了後、自己採点を行い、自己の長所・弱点を把握する。
【教科書ページ・参考文献】
自己表現テスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己採点した結果を把握し改善や伸ばす点を把握し今後の学生生活に活かす。
【予習復習に必要な想定時間】
　－

第１８回　学士力プログラム⑧　　研究小論文Ⅳ（論文の表現と表記）
【key words】
　研究小論文、論文の表現と表記

【授業概要】
　前期から進めている自身の小論文の表現と表記を確認する。　各自小論文の作成を推進する。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小論文の進捗状況と次回までにやっておくことをまとめ、担任に提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
　120分

第１９回　学士力育成プログラ⑨　　研究小論文Ｖ（現状と考察）
【key words】
　研究小論文の進捗状況と考察

【授業概要】
　小論文の結果を見据えた進捗状況と考察を行う。各班（個人）に分かれて小論文の完成に向けて助言しあう。小論文の発表も見据えてレジュメの作成を行う。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ、収集資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小論文の完成に向けて考察を継続する。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２０回　地域貢献プログラム③　　地域とのかかわり（昌賢祭の製作活動・発表準備）
【key words】
昌賢祭、制作・発表準備

【授業概要】
クラスごとに昌賢祭実行委員が主体となって制作活動・発表準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭スケジュール表等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
クラス員一丸となって制作活動・発表準備にあたること
【予習復習に必要な想定時間】
　180分

第２１回　地域貢献プログラム④　　地域とのかかわり（昌賢祭の製作活動・発表準備のまとめ）
【key words】
　昌賢祭、制作・発表最終チェック

【授業概要】
昌賢祭実行委員を主体として最終準備、チェックを行い来場者にしっかりと趣旨を伝えられるようにする。
【教科書ページ・参考文献】

昌賢祭計画表等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の最終チェック
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２２回　地域貢献プログラム⑤　　地域とのかかわり（昌賢祭の実施）
【key words】
昌賢祭の実施

【授業概要】
来場者に楽しんでいただくとともに、発表内容の理解をしていただくために最大の努力を行う。
【教科書ページ・参考文献】
研究発表・計画表
【課題・予習・復習・授業準備指示】
淳簿と後片付けをしっかりと行う。
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２３回　地域貢献プログラム⑥　　地域とのかかわり（昌賢祭の振り返り）
【key words】
昌賢祭、制作・発表の振り返り

【授業概要】
昌賢祭の実施後の整理と共に実施結果についての総括を行う。特に、次年度への課題等についてできるだけ詳細に検証し、次に生かす努力を醸成する。
【教科書ページ・参考文献】
実施結果の報告
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次年度への申し送りを行う
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２４回　学士力育成プログラム⑩　　日本語能力試験
【key words】
日本語能力試験を実施する

【授業概要】
小論文の完成間近かになったこの時期に、正しい日本語を使用して書き上げることが重要であり、その確認のための試験を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
試験問題
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験結果を確認し自分の弱点や調書について検証する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　進路・資格取得プログラム④：外部講師講話
【key words】
福祉分野で活躍している方を招聘し知見を高める

【授業概要】
福祉現場で実践している関係者を招き、学生にとって福祉現場とはどういった課題を抱えているか、更にはその必要性等について話していただく。また、福祉現場で必要な資格や心構えなどについても併せて講義していただく。
【教科書ページ・参考文献】
講師資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の進路をイメージしつつ講話を自分自身の進路選択に活かす
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２６回　進路・資格取得プログラム⑤　　先輩学生が伝えたい事
【key words】
４年生が学んだ学修から、進路、資格取得にかかる話を聞く

【授業概要】
進路が決定した先輩からの話を聞くことで今後の学修の参考として活かす。
【教科書ページ・参考文献】
先輩からの資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自らの問題・課題としてとらえる
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２７回　学士力育成プログラム⑪：研究小論文Ⅵ（最終仕上げに向けて）
【key words】
小論文の最終的仕上げに向かって

【授業概要】
これまでの資料との整合性や文脈についてチェックし、推敲可能な部分はしっかりと加除修正を行い小論文の完成に向けた作業を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
誤字脱字についてもチェック
【予習復習に必要な想定時間】

	― 第２８回　学士力向上プログラム⑫　研究小論文Ⅶ　（論文の完成） 【key words】 研究小論文を完成させる 【授業概要】 参考文献の確認などを行い小論文を完成させるとともに、クラス発表内」のための準備（要点整理等）を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料の確認 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小論文の趣旨をクラス員にしっかりと伝えるための努力をする 【予習復習に必要な想定時間】 ― 第２９回　学士力育成プログラム⑩：研究小論文Ⅷ（クラス内発表会） 【key words】 研究小論文クラス内発表会 【授業概要】 これまでの成果を発表するとともに、クラス員の発表内容を聞き理解に努める。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表にあたって自分の思いが伝えられたかを検証する 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム：後期総括（演習ファイル整理、自己点検　他） 【key words】 後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート 【授業概要】 小売り総括を行うとともに演習ファイルを整理し担任に提出する。また、３年次への心構え等についてもしっかりと認識する。 【教科書ページ・参考文献】 演習ファイル 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ３年次への心構えを抱く 【予習復習に必要な想定時間】 ―
受講生に関わる情報および受講のルール	１　基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。 ４　座席を指定する。なお、携帯電話は指示のあった場合を除き電源を切り机上に置かないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	図書館の利用、資料収集や作成に要する時間は、授業時間外の活用が必須である。
オフィスアワー	各担当者に確認すること
評価方法	研究小論文（４０％）、課題等の提出状況及び成果物（３０％）、取り組み状況（３０％）を総合して評価する。
教科書	１　鈴木利定・中田勝（著）『咸有一徳』中央法規，2002年。 ２　学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版，2002年。
参考書	授業で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 本科目は複数名の教員がクラス別で指導を行っている。 従って、それぞれの教員の実務経験の内容は異なるが、これらを加味した上で、 基礎演習を展開していく。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉情報処理　　授業コード： 1141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
藤本　壱			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 実社会で不可欠な「伝える能力」に主眼を置き、PowerPointの操作技術習得と共に、情報収集能力・プレゼンテーション能力・資料作成能力の向上を目的とする。 【到達目標】 ①プレゼンテーション本来の意味を理解し、実践できる。 ②Powerpointを様々な資料作成に活用できる。 ③様々な機能を駆使してデザイン力の高い資料を作成できる。
授業の概要	本講義では、PowerPointの操作技術習得と共に、「伝える力」「コミュニケーション力」を習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーションとプレゼンテーションの基本 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 ・オリエンテーション ・プレゼンテーション作成前の準備（目的の明確化など） ・プレゼンテーション発表前の準備（リハーサルなど） ・プレゼンテーション発表後の作業（フォローなど） 【教科書ページ・参考文献】 7～19ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーション前の準備や、発表後のフォローアップなどの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	プレゼンテーションの作成(1) 【key words】 プレゼンテーション、スライド 【授業概要】 ・プレゼンテーションの新規作成 ・初期設定（スライドサイズ、デザインの設定） ・スライドの作成（文字の入力、書式の設定） 【教科書ページ・参考文献】 21～43ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの新規作成から入力までの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	プレゼンテーションの作成(2) 【key words】

スライド
【授業概要】
・既存のスライドの再利用
・Word文書の利用
・スライドのリセット
・Excelデータの利用
【教科書ページ・参考文献】
44～57ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
既存のデータをプレゼンテーションで活用する方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　訴求力のあるスライドの作成(1)
【key words】
表、罫線、セル
【授業概要】
・表の作成
・罫線の設定
・セルの塗りつぶしと結合
・セルの余白の設定
【教科書ページ・参考文献】
88～97ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
表を効果的に扱って見やすいプレゼンテーションを作ることができるようにする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　訴求力のあるスライドの作成(2)
【key words】
グラフ
【授業概要】
・グラフの元データの作成
・グラフ要素の追加と削除
・グラフ要素の書式設定
【教科書ページ・参考文献】
98～107ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グラフでデータを視覚的に表すことができるようにする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　訴求力のあるスライドの作成(3)
【key words】
図形、SmartArt
【授業概要】
・図形の作成
・図形の書式設定
・SmartArtグラフィックの作成
・SmartArtグラフィックの書式設定
【教科書ページ・参考文献】
108～129ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図形やSmartArtを活用してわかりやすいスライドを作る
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　瓦版の作成(1)
【key words】
レイアウト、配色、背景
【授業概要】
・ページレイアウトの設定
・配色の設定
・背景画像の設定
・図形の詳細な書式設定
【教科書ページ・参考文献】
143～155ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
瓦版を作る際の様々な作業を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　瓦版の作成(2)
【key words】
ワードアート、テキストボックス、段組み
【授業概要】
・ワードアートの作成
・テキストボックスの作成
・段組みの作成
・画像の配置
・スクリーンショットの利用
【教科書ページ・参考文献】
156～175ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
見やすい瓦版を作成することができるようにする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

	第９回	カタログ冊子の作成 【key words】 スライドマスター 【授業概要】 ・Word文書の利用 ・スライドのリセット ・スライドマスターの設定 【教科書ページ・参考文献】 156～175ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 カタログ冊子作成の際に使う機能を理解する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	動きのあるプレゼンテーション 【key words】 画面切り替え、アニメーション 【授業概要】 ・画面切り替えの設定 ・アニメーションの設定 ・動画の利用 【教科書ページ・参考文献】 177～209ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの動きを付けて訴求力を高められるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	配布用飼料の作成 【key words】 ノート、PDF、印刷 【授業概要】 ・ノートの作成 ・配布資料の印刷 ・スライドのPDF化 ・資料のインターネットでの公開 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料を作成し配布できるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	プレゼンテーションの実行 【key words】 スライドショー、リハーサル 【授業概要】 ・スライドショーの実行 ・スライドにペンで書きこむ ・リハーサルの実行 ・目的別スライドショーの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スライドショーやリハーサルの操作を覚えて実際の発表を行えるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	プレゼンテーション作成実習 【key words】 実習 【授業概要】 ・課題に沿ってプレゼンテーションを作成 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題に沿ったプレゼンテーションを作成し、発表の準備をする 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回	プレゼンテーション発表 【key words】 発表 【授業概要】 ・1人ずつ順番にプレゼンテーション発表 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表が終わった人は自分の発表を振り返る 発表がこれからの人は練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	プレゼンテーション発表 【key words】 発表 【授業概要】 ・1人ずつ順番にプレゼンテーション発表

	【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の発表を振り返る 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。 [受講のルール] ・積極的に授業に臨むこと。 ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。 ・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	教科書の練習問題等を利用して復習すること
オフィスアワー	授業前後20分。
評価方法	・平常点（50%） ・レポート課題（50%）
教科書	よくわかるPowerPoint2013ビジネス活用編　FOM出版
参考書	必要に応じて適宜指示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Office関係の雑誌原稿執筆多数あり コンピュータ関連書籍執筆多数あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ボランティア活動Ⅲ　　授業コード：2011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
足立　勤一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	この授業の目的は、ボランティアリーダー養成である。将来、社会福祉協議会や施設に就労し、ボランティア活動計画やボランティア募集活動に従事できる能力を身につける。また、社会貢献活動ができる人材養成を目的とする。そのために、地域社会から求められているボランティア活動とは何か？を体験し探求できる能力を身につける。
授業の概要	これまでのボランティア活動は、予め決められた内容あるいは募集掲示された活動体験が主であった。この講義では、自ら社会との接点としてのボランティア活動とは何か？を探求し、実践する。1年生のボランティア活動へのアドバイスや具体的なボランティア活動を支援する。毎時間、それまでのボランティア活動の実践発表を行う。最後に、年間の活動報告書をまとめ、提出する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第１回	オリエンテーション：学生ボランティア活動の目的とは何か？①学生ボランティア活動史（世界・日本）
	第２回	地域社会が求めているボランティア活動とは？①本学ボランティアセンターの任務と活動。
	第３回	発表１．各自（グループ）の考える地域社会における福祉向上としてのボランティア活動とは何か？
	第４回	発表２．これまでの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第５回	発表３．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後ディベートを行う。
	第６回	発表４．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後ディベートを行う。
	第７回	前期の活動のまとめ。報告書にて中間発表会実施及び質疑応答を行う。夏季休暇中の活動計画書の提出。
	第８回	発表５．夏季休業中の活動報告書会実施。その後ディベートを行う。。後期の活動計画書提出。
	第９回	発表６．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第１０回	発表７．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。

	第１１回　　発表８．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。 第１２回　　発表９．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。 第１３回　　発表10．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。 第１４回　　年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。 第１５回　　年間活動報告会：活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成、提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	１．受講希望者が１０名未満の場合は開講しない。 ２．毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を　　必要部数印刷し準備すること。 ３．活動に伴う諸経費に就いては、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ製本し、ボランティアセンターで保管する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１．地域社会の福祉向上のために行われているボランティアセンターやNPO法人等の活動に関心を持ち、出来れば活動参加すること。　　２．希望するボランティア活動に参加し、その運営方法や人集めには何が重要かを探求する。
オフィスアワー	毎週水曜日・木曜日の１６：００～
評価方法	１．活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。（４０％）＊２回未提出の場合、単位を認めない。 ２．各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。（２０％） ３．年間活動報告書の内容を評価する。（３０％） ４．活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する（10%）
教科書	『わかる　みつかる　できる』　財団法人　内外学生センター
参考書	講義初めの授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　地域福祉の理論と方法　　授業コード：2091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
井野　佳一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 様々な福祉サービスの実施主体が市町村へと委譲され，地域住民が主体となるまちづくり，地域福祉の推進が重要視されている。これらの活動の一翼を担う立場としてソーシャルワーク実践を理解する。また、福祉サービスの動向は少子高齢化の進展、それに伴う国の政策の方向を無視できないため、これらの理解も同時に進める。 【到達目標】 1）「地域」のとらえ方に関する理論を理解し，住民ニーズや解決すべき問題が把握できる（把握の方法を想定できる）。 2）コミュニティソーシャルワークに関する理論を理解し，住民参画を基本とする問題解決のあり方を想定できる。 3）ソーシャルワーカーとして協働すべきネットワークのあり方と地域組織化の過程が想定できる。 4）国等の政策を理解し、これに同調した事業の展開ができるとともに、必要に応じ行政機関等へ進言できる。
授業の概要	この講義では，地域でのソーシャルワーク実践に伴う基本的視座及び理論の活用方法を学修し，受講者それぞれがソーシャルワーカーとしての基本的実践を「想定できる」レベルで獲得するとともに、少子高齢化の進展に伴う国等の政策の方向を正しく理解できる。集団や地域の捉え方に関する理論，地域ニーズの捉え方に関する視点，生活課題として表出する問題認識の視点を基にソーシャルワークの実践過程を学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　　オリエンテーション　講義の進め方，評価法，レポート課題など 第２回　　少子高齢化社会と地域福祉 第３回　　地域福祉の発展過程 第４回　　地域自立生活の支援と地域福祉理論の発展、福祉圏域とは 第５回　　地域福祉の主体と福祉教育 第６回　　福祉教育の概念と内容、歩み 第７回　　福祉計画の定義・現状・課題

	第８回　　行政組織と民間組織 第９回　　地域福祉を進める各団体の役割と実際 第１０回　　地域福祉実践のための各種法人、団体等の役割と実際 第１１回　　コミュニティソーシャルワークの考え方と展開 第１２回　　コミュニティソーシャルワークの展開と展開を進めるためのシステム 第１３回　　専門多職種の連携とチームアプローチと住民・利用者等とのパートナーシップの保持 第１４回　　住民・利用者等の参加の意義と福祉行政への参画 第１５回　　ソーシャルサポートネットワークの考え方（助け合いの歴史と現代的なネットワーク） 第１６回　　ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ、ソーシャルサポートの実践例 第１７回　　地域における社会資源の活用と調整・開発 第１８回　　地域における社会資源の活用と調整・開発、税制面での優遇と助成金の活用 第１９回　　地域における福祉ニーズの把握（アウトリーチの重要性） 第２０回　　地域における福祉ニーズの把握方法と実際 第２１回　　地域トータルケアシステムの必要性と考え方等 第２２回　　地域トータルケアシステムの展開方法、ソーシャルケア従事者の研修と組織化 第２３回　　福祉サービス評価が必要となった背景と利用者の権利保護 第２４回　　福祉サービス評価の考え方と方法・実際、プログラム評価とその展開 第２５回　　災害支援の考え方と方法 第２６回　　災害支援における地域福祉実践と課題 第２７回　　復習（社会福祉基礎構造改革の必要性と検討過程） 第２８回　　諸外国と日本の地域福祉推進の相違と今後　欧米諸国とアジア，日本の比較，文化の差異によるまちづくり 第２９回　　復習（地域福祉を担う人・団体） 第３０回　　復習（社会保障制度の発展と地域福祉）
受講生に関わる情報および受講のルール	授業は教科書を中心に進めるが、必要に応じ講義の資料を配布する。その場合、予習した上で講義に臨むこと。 授業中に生じた疑問はそのままにせず，調べる，質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）
授業外時間にかかわる情報	テキストの該当箇所は可能な限り予習を行うものとする。次回の授業に該当する箇所は受講生個々で調べ予習を行うこと。また，必要に応じ時間外学習の課題としてWEB上でフォーラムを開設するので，ディスカッションに参加すること。 なお，定期試験での回答やレポートの提出のためには，授業中のトピックが極めて重要であるため，復習をすること。
オフィスアワー	授業中とその前後以外の時間には、アポイントを取っていただきたい。
評価方法	定期試験やレポート及び小課題60%　各回での考察40% これらに時間外学習の取り組みを加算する。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会　編　”新・社会福祉士養成講座　9　地域福祉の理論と方法”　中央法規出版　最新版

参考書	ベンクト・ニィリエ（ハンソン友子　訳）”再考・ノーマライゼーションの原理”現代書館（2008） 勝部麗子”ひとりぼっちをつくらない”全国社会福祉協議会（2016） 宮嶋望”いらない人間なんていない”フォレストブックス（2014）　など その他，授業のトピックスに合わせて紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助の理論と方法Ⅱ　　授業コード：2122

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修／子ども専攻・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】クライエントは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライエントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライエントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライエントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。 【到達目標】(1～15) 1) 相談援助活動の対象を適切に認識することができる。2) 適切なケアプランに至るケースマネジメントの過程・各段階を説明できる。3) クライエントが属する各集団の特性を理解し、相談援助活動への活用の意義を述べることができる。4) 地域福祉の充実を図りうる関与・関係者とのコーディネーションとネットワーキングの主旨を説明できる。5) 各種社会資源の守備範囲をふまえ、必要に応じてその開発に意見を述べることができる。 (16～30) 1) 相談援助活動の基盤となる各種実践モデル・アプローチの考え方の差異を述べることができる。2) スーパービジョンの意義について説明できる。3)ケースカンファレンス開催の意義と参加する際の望ましい姿勢について延べることができる。4) 個人情報の利用と管理について説明できる。
授業の概要	(1～15) 1) 相談援助の対象を包括的に理解する視点を解説し、2) ケースマネジメントの過程およびケアプラン作成・実践について説明します。さらに、3) 相談援助におけるグループ・ワークの有用性を理解したのち、4) 支援活動における関与・関係者間のコーディネーションの重要性や社会資源の活用について言及します。 (16～30) 1) 相談援助活動の基本的な考え方の変遷をたどり、現代的にふまえるべき実践モデル・アプローチの主旨を理解します。2) 社会福祉士としての成長に欠かせないスーパービジョンのあり方を解説します。3) ケースカンファレンスを開催する意義と支援チーム連携について学びます。4) 相談援助活動に不可避な個人情報の保護と活用について理解を深めます。5) Ⅰ・Ⅱの総括として、クライエントを支援し、ケースとしての関わりの過程から、社会福祉士が学ぶ意味について考えます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　相談援助活動の考え方　福祉ニーズの多様性 【key words】 社会福祉　制度と実践の相補性　ソーシャルワークの定義　対象化　システム論 【授業概要】 相談援助の対象・領域・ニーズについて、どのような観点から、どのようにとらえるのか、その本質と意義を検討します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1－8。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 多様で複雑な社会におけるクライエントの生活課題にかかわって、その問題解決の道筋をどのように見出していくのか、ソーシャルワーカーとしての根本的背景的な考え方を整理しましょう。

第２回　相談援助の対象
【key words】
クライエント個人　家族力動　集団力動　地域　互酬性

【授業概要】
クライエント個人と、そのひとを取り巻く環境；家族・集団・地域との相互作用を、それぞれソーシャルワーカーとしてどのようにとらえるか、具体的に考えていきます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp8－19。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントというひとと環境との相互作用状況を理解することは、クライエントの内的能力に力添えする相談援助活動の基盤です。

第３回　ケースマネジメント 1　目的と構成要素
【key words】
在宅介護支援センター　障害者総合支援法　生活支援　QOL　社会資源

【授業概要】
相談援助活動での基本的な要素である社会資源の適切な利用について、クライエントの個別性を念頭に考えます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp21－26。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースマネジメントは、ノーマライゼーション思潮の下、コミュニティケアを推進するものです。ソーシャルワークの価値・視点として理解しましょう。

第４回　ケースマネジメント 2　実践過程の概要
【key words】
ケースマネジメント過程　支援者の知・情・意　クライエントとの協働　生活ニーズ

【授業概要】
ケースとしての発見から支援の終結に至る一連の過程の概要を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp27－32。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースマネジメントを必要としているクライエントの特徴にも注目しましょう。

第５回　ケースマネジメント 3　アセスメントとケアプラン
【key words】
社会資源　ストレングス　ニーズ優先アプローチ　パートナーシップ　調整機能

【授業概要】
ケースマネジメント過程の中核となるアセスメントの意味を理解し、ケアプランに盛り込まれることになる目標と支援計画の概要を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp33－52。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエント自身とそのひとが身をおく生活状況の個別性をふまえ、ケースとしての身体・心理・社会 3側面の相互バランスを意識した調整と支援が重視されます。

第６回　相談援助活動における集団の活用
【key words】
集団経験　集団力学　参加の動機づけ　グループ規範　サブグループ

【授業概要】
個人の成長を促す社会的環境として注目すべき、集団（グループ）を活用したグループワークの意義と展開過程について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp53－64。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

集団に属していることにともなう安心と不安の両面性と、ソーシャルワーカーによる支援介入・調整の考え方を理解しましょう。

第７回　集団の特性とそのグループワークの展開過程 1　自助グループ　当事者組織
【key words】
自助グループ　当事者組織　自発的市民活動　ソーシャルアクション　体験のわかちあい

【授業概要】
クライエント支援を目的とする集団は、その組織特性とソーシャルワーカーの介入水準から4つに大別されます。その考え方・目的の区別を理解しましょう。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp65－73。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

区別が明確ではない実態もありますが、基本的に何に重きをおいて組織されているのか、テーマとなる集団の特性を理解しましょう。

第８回　集団の特性とそのグループワークの展開過程 2　サポートグループ　グループワーク
【key words】
サポートグループ　グループワーク　専門職のかかわり　専門機関の支援

【授業概要】
クライエント支援を目的とする集団は、その組織特性とソーシャルワーカーの介入水準から4つに大別されます。その考え方・目的の区別を理解しましょう。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp65－73。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

区別が明確ではない実態もありますが、基本的に何に重きをおいて組織されているのか、テーマとなる集団の特性を理解しましょう。

第９回　地域福祉関係者間のコーディネーション
【key words】
地域福祉　連携　協働　コーディネーション　相互の立場性

【授業概要】
地域福祉の有効実現のために必要な、多専門職種間および専門職－住民間の連携・調整について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp75－85。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

一職種の専門常識は、必ずしも他専門職にとっての常識とは限りません。ましてや、地域住民をや。連携の基本は、相手の立場に立ったていねいな働きかけと相互理解です。

第１０回　地域福祉実践とネットワーキング
【授業概要】
コーディネーションを有効機能化する前提として必要な、支援関係者の内発的・能動的な結びつき方；ネットワークの形成について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp86－94。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ミクロ、メゾ、マクロの各水準での多様で広範なつながり方が、地域福祉を具体化する大きな原動力となっていることを理解しましょう。

第１１回　地域ケアシステム
【key words】
地域ケアシステム　重層的ネットワーク　ケース発見　QOL

【授業概要】
クライエントへの早期対応を可能にし、そのQOLを確保しようとする 地域福祉の重層的かつ有機的な仕組みの構築について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp94－98。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

制度の狭間のニーズをもリアルタイムに受け止めようとする地域福祉の役割を考えましょう。

第１２回　社会資源 1　定義と目的
【key words】
フォーマルな社会資源　インフォーマルな社会資源　内的資源　肯定的自己概念

【授業概要】
ウェル・ビーイングの具体的な側面に関わって援用しうる有形・無形の社会資源とは何か について、確認します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp99－104。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

他者による支援だけが社会資源ではなく、クライエント個々が備えている適応の力；内的資源を、支援関係の中で見い出し、クライエント自らがそれらを活用し始められるのかが、実はポイントである点に注意して下さい。

第１３回　社会資源 2　活用と調整
【key words】
人と環境の相互作用　個人の力　環境の力　言語化　適応支援

【授業概要】
社会資源の活用とは、その資源のあてがい/ほどこしではありません。各クライエントが自ら将来に眼を向けるための契機となるように、個別に調整された 適応支援であることを理解しましょう。
【教科書ページ・参考文献】

教科書pp105－109。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

適切な社会資源の活用のためには、面談を通じて支援者が、クライエントに語り（言語化）を促し、それを助け、受け止める役割を適時担っていることを自己認識する必要があります。

第１４回　社会資源 3　開発　ソーシャルアクション
【key words】
社会資源の整備状況　再資源化　資源創出　アドヴォカシー機能　ソーシャルアクション

【授業概要】
質的にも量的にもより十分にクライエントへサービス提供するためには、支援者は、社会における資源整備の現状を認識し、社会資源の展開にも積極的に関与していくことになります。社会のさまざまなシステムへの働きかけや当事者の権利擁護のためのソーシャルアクションまで、その連続性について理解しましょう。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp109－120。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントを中心とした 同心円状の「環境」との 多様な相互作用の局面を、支援者として忘れないことが重要です。

第１５回　前期のまとめ
【key words】
－
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容への接続を図ります。

【教科書ページ・参考文献】
－
【課題・予習・復習・授業準備指示】

相談援助の理論的方法論的な考え方について、概ね3/4を学修しました。多くの履修学生は、この時期に相談援助実習にも臨むことになりますが、支援者としての根拠を具体的に意識するようにして下さい。

第１６回　ガイダンス　前期の復習　相談援助活動をより精緻にするために
【key words】
－
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容を概観します。

【教科書ページ・参考文献】
－
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前期に学んだ相談援助のシステムを実践活動として機能させる意識をもちましょう。

第１７回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 1　治療モデル　生活モデル　ストレングスモデル
【key words】
ジェネラリストソーシャルワーカー　ソーシャルワーク実践　モデル　アプローチ　パースペクティヴ
【授業概要】
クライエントの複雑多様な生活をリアルにとらえ、かかえる生活課題を精確に理解するよりどころとしての実践モデルを概観します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp121－141。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルの視点の差異を知るとともに、その総合が なぜジェネラリストソーシャルワーカーに必要なのかを説明できるようになりましょう。

第１８回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 2　心理社会的アプローチ　機能的アプローチ　問題解決アプローチ
【key words】
社会的診断　精神分析　自我　潜在的可能性　動機づけ

【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のうち、心理社会的　機能的　問題解決　の各アプローチについて学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp143－152。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第１９回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 3　課題中心アプローチ　危機介入アプローチ　行動変容アプローチ
【key words】
課題　短期処遇　危機介入　対処行動　学習理論　般化

【授業概要】

クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のうち、課題中心　危機介入　行動変容　の各アプローチについて学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp153－162。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第２０回　相談援助活動に基盤としての実践モデル 4　エンパワメントアプローチ　ナラティブアプローチ　その他のアプローチ
【key words】
ストレングス　リジリエンス　社会構成主義　問題の外在化　実存主義　ジェンダーレンズ　解決志向
【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のうち、エンパワメント　ナラティブ　実存主義　フェミニスト　解決志向　の各アプローチについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp163－182。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第２１回　スーパービジョンとコンサルテーション 1　スーパービジョン
【key words】
スーパービジョン　スーパーバイザー/スーパーバイジー関係　スーパーバイザリープロセス

【授業概要】
ソーシャルワーカーとしての成長を支援する支持的・教育的仕組みであるスーパービジョンの意義と目的について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp183－200。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

困難なクライエント支援の状況でもポジティブに考えていこうとする、ソーシャルワーカーの姿勢・自己覚知のようすを理解しましょう。

第２２回　スーパービジョンとコンサルテーション 2　コンサルテーション
【key words】
コンサルテーション　コンサルタント/コンサルティ関係　コンサルテーション・リエゾン

【授業概要】
複雑多様化するクライエントのニーズに対応する際に、ある特定の専門領域についての助言をその専門家から得ることが必要になります。すなわち、ジェネラリストソーシャルワーカーがコンサルテーションを受ける意義と目的について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp201－204。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前項 スーパービジョンと 本項 コンサルテーションの違いを理解しましょう。

第２３回　ケースカンファレンス 1　ケースカンファレンスの意義と目的
【key words】
ケースカンファレンス　サーベイランス　連携　共通理解　エビデンス・ベイスト

【授業概要】
相談援助実践過程における情報共有・役割分担・方針決定の場であるケースカンファレンスのあり方について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp205－210。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

多職種（他職種）との相互理解が、相談援助活動の基盤であることを意識しましょう。

第２４回　ケースカンファレンス 2　ケースカンファレンスの展開と運営
【key words】
カンファレンス委員　カンファレンス資料　個人情報保護　カンファレンススケジュール　カンファレンス進行
【授業概要】
ケースカンファレンスの開催の準備と進行について具体的に学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp210－216。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースカンファレンスに出席参加する際の姿勢についても考えていきましょう。

第２５回　ケースカンファレンス 3　実例の読み解き
【key words】
ケースカンファレンスの評価　ケースカンファレンスの普遍化

【授業概要】
ケースカンファレンスでは何がテーマとなり、出席参加者が何を取り決めて、次の支援につなげていくのか、実例を読み解きながら理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp217－230。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースカンファレンスは、やりっぱなしではいけません。記録を残すこと、カンファレンスそのものを振り返り、今後のさまざまな支援に生かしていくこと に注意して下さい。

第２６回　相談援助活動にともなう個人情報の保護
【key words】
個人情報　プライバシー　OECD8原則　個人情報保護法　倫理綱領　守秘義務

【授業概要】
ソーシャルワークは、個別性を尊重する＝個人情報にふれる業務であるといえます。現代社会における個人情報保護の重要性を認識しながら、福祉展開上の固有課題について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp231－242。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ボランティア活動や実習においても、広く守秘義務・個人情報保護の意識を高くもち続けて下さい。

第２７回　相談援助におけるICTの活用
【key words】
ICT　福祉情報　情報弱者　情報管理

【授業概要】
パソコンあるいはそのネットワークを活用した福祉情報のやり取り（提供と入手・利用）とそれらの管理について概観します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp243－256。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

福祉情報の利用に障壁がある 情報弱者 の存在に留意して下さい。

第２８回　事例の研究と分析
【key words】
事例研究　エビデンス・ベイスド・プラクティス　アカウンタビリティ　研究デザイン　研究倫理
【授業概要】
担当事例の振り返りは、相談援助実践上の有用・重要な知見を生み、支援サービスの質を向上させる契機となるものです。研究倫理に則った事例研究・事例分析のあり方について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp257－282。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

事例の研究と分析は、自己研鑽と職業倫理認識のよい機会となります。自ら進んで、それをもとめましょう。

第２９回　相談援助の実際
【授業概要】
提示された事例を読み解き、ジェネラリストソーシャルワークのありようを総括します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp283－298。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

各事例を理解し支援のポイントを押さえるのに必要となる関連知識も整理しましょう。

第３０回　相談援助の理論と方法Ⅱのまとめ
【key words】
エビデンス･ベイスド･プラクティス　職業倫理

【授業概要】
後期学習内容を振り返るとともに、現代社会でもとめられているソーシャルワーカー像を考えます。
【教科書ページ・参考文献】
－
【課題・予習・復習・授業準備指示】

相談援助の理論的方法論的な考え方を通算2年間学びました。十分に復習をするとともに、自らが理想とするソーシャルワーカーイメージを具体的に考えて下さい。

受講生に関わる情報および受講のルール	チェック式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自 口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに 受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしばk教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。 ★1回の授業に対して、概ね1.5時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　相談援助の理論と方法Ⅱ　新・社会福祉士養成講座7　中央法規　2016年
参考書	授業中に適宜紹介・提示します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、大学病院等 において 当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助演習Ⅲ　　授業コード：2141　2142　2143　2145　2146

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・新家　めぐみ・安留　孝子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　相談援助演習Ⅱでの学習を踏まえ、総合的かつ包括的な援助について事例を通し理解する。それらのソーシャルワーク実践や相談援助実習での具体的実践を想定し、ソーシャルワーク実践技術・知識の習得を目的とする。 【到達目標】 ①実習前段階のグループワーク（事例検討）において、事例に対する専門職としての実践方法を想定し言語化できる。 ②グループワークを通して、事例に関連する専門職としての実践方法及び多職種連携の在り方を導き出す事ができる。 ③実習後の事例研究を通して、専門職として必要な知識や技術について説明できる。 ④総合的かつ包括的援助の在り方について理解した上で、専門職を目指す上での自己アセスメントに基づく学習課題を明確化できる。 ⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から特定の事例のソーシャルワーク展開過程について想定し、アセスメントや支援計画作成ができる。
授業の概要	グループワークで事例検討を行い、ソーシャルワーカーとしての技術や価値観を修得し、知識の統合を図る。　実習後は、受講者自身の実習体験を基に事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての技術及び知識の向上と統合を図る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項　評価方法 【key words】 シラバス、社会福祉士実習 【授業概要】 本授業の進め方や参加する上での注意事項について説明する 【教科書ページ・参考文献】 ・『相談援助演習』（弘文堂）の目次，P13-17. ・実習へのガイドブックの目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で定めた書籍のページについて目を通してから受講すること 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助 【key words】 医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援 【授業概要】

		就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助 【key words】 医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援 【授業概要】 就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助 【key words】 医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援 【授業概要】 就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助 【key words】 プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設 【授業概要】 虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助 【key words】 プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設 【授業概要】 虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助 【key words】 プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設 【授業概要】 虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助 【key words】 生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則

【授業概要】
授業概要】低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助
【key words】
生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則

【授業概要】
【授業概要】低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助
【key words】
生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則

【授業概要】
低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助
【key words】
高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア

【授業概要】
高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助
【key words】
高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア

【授業概要】
高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助
【key words】
高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア

【授業概要】
高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】

		key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回	対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助 【key words】 障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画 【授業概要】 障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回	対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助 【key words】 障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画 【授業概要】 障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１６回	対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助 【key words】 障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画 【授業概要】 障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１７回	事例研究　成年後見制度と相談援助 【key words】 未成年後見人、成年後見人、身上監護 【授業概要】 成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１８回	事例研究　成年後見制度と相談援助 【key words】 未成年後見人、成年後見人、身上監護 【授業概要】 成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１９回	事例研究　成年後見制度と相談援助 【key words】 未成年後見人、成年後見人、身上監護 【授業概要】 成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　事例研究　苦情解決の対処方法
【key words】
苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書

【授業概要】
相談援助の場面において生じた苦情の対処方法について、事例を介して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　事例研究　苦情解決の対処方法
【key words】
苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書

【授業概要】
相談援助の場面において生じた苦情の対処方法について、事例を介して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【key words】
苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書

【授業概要】
実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【key words】
事例を提供する学生が自ら受講生らに提示

【授業概要】
実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【key words】
事例を提供する学生が自ら受講生らに提示

【授業概要】
実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション
【key words】
事例を提供する学生が自ら受講生らに提示

	【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２６回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　演習まとめ 【key words】 第1～29回までに用いたkey words 【授業概要】 【授業概要】相談援助演習Ⅲでこれまで学習してきた内容についてのまとめを行う 【教科書ページ・参考文献】 これまで扱ってきた『相談援助演習』（弘文堂）の範囲及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	（1）履修上の注意 本演習は、各種専門科目の応用である事を自覚し専門技術の獲得に向けてグループワーク等に積極

	的に参加すること。 　グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁 （2）学習上の助言 　社会福祉専門職として必要な実践能力を修得するためには、自ら考え、気づくことが重要である。 （3）予備知識や技能 　上述したように「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」を始めとする各種専門科目の応用であり、それらの講義科目で得た知識と関わりが深い内容である。復習をしっかり行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習を考慮し、各種制度やサービス提供機関の理解、ソーシャルワークの専門技術について復習しておく。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉シリーズ21　ソーシャルワーク演習　『相談援助演習』弘文堂
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 本科目は複数名の教員によるクラス別指導を行っている。従って、それぞれの教員の経歴は異なるものであるが、いずれの教員においても相談援助業務を中心とした社会福祉領域における実務経験を有しており、それらの経験を加味した上で演習を展開していく。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助実習指導Ⅱ　　授業コード：2161　2162　2163　2165　2166

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・新家　めぐみ・安留　孝子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ① 相談援助実習指導Ⅰを踏まえ、相談援助実習の意義についての再確認を行う。 ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識および技術を体得する。 ③ 社会福祉士として把握・修得しておくべき事項（姿勢、倫理、技能等）を総合的に修得する。 ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的に考察できる能力を養う。 【到達目標】 ①社会福祉士（ソーシャルワーカー）の役割、業務内容等を含めた専門性について説明できる。 ②実習体験を振り返り、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から支援のあり方を説明できる。 ③実習体験を自己省察し、自身の課題解決方法を想定できる。
授業の概要	前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について再確認すると共に、実習先に関する情報収集（根拠法・関連制度・利用対象者及びニーズ等）を行い、知識を深めることを主眼とする。また、問題・関心事項の具体化、、実習動機・実習課題の明確化を図るなかで、「実習計画書」等の作成を試み、加えて、実習に関する諸事項、実習関係書類の書き方等の伝達を通じ、実習に対する意識付けを行う。 後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、そのうえで、担当教員による個別指導のもと相談援助実習総括レポートを作成する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	前期オリエンテーション　授業方法と留意事項　実習先の確認 【key words】 実習前学習　実習への心構え 【授業概要】 今年度の実習指導Ⅱ・実習の流れの説明 各学生の状況確認 実習指導Ⅱ・実習の評価方法 事前学習一環として行った春休みボランティアの記録の提出 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提出書類を整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第２回	実習の意義と目的の理解（事前学習の理解・事前学習の課題と学習方法） 【key words】 課題の発見　実習計画書　相談援助実習

【授業概要】
事前ボランティアを行なう中で自分自身の課題と相談員としての学ぶべきことは何かを考える。
その学ぶべきことはどのようにしたら実習で学べるのか文章にしていく。
学習の方法をグループで話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で学ぶことは何かを考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第３回　実習体験者（先輩）の講話（実習への心構え・事前学習の必要性）
【key words】
実習課題　実習の留意点　実習計画
【授業概要】
各種別に分かれ、先輩の実習体験談を聞き、不安に感じていることを質問し解消する機会とする。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習を行なっていく中で、現在疑問や不安に感じていることをまとめてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第４回　実習先機関・施設の基本的理解　（設置根拠、業務内容、組織、利用者のニーズ、職員と業務内容）
【key words】
根拠法令　ニーズ　業務内容　多職種連携
【授業概要】
各実習先がどのような法令に基づいているのかを調べ、実習先の役割を知る。グループワークを行い施設・機関での社会福祉士の業務と多職種との関わりを話し合い、発表する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
福祉小六法

【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士の業務について調べてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第５回　相談援助実習資格試験
【key words】
社会福祉士　コミュニケーション
【授業概要】
社会福祉実習に向けた基礎知識や実習生としての態度に対して試験を行う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
相談援助の基盤と専門職

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今までの講義を復習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第６回　実習受け入れ体制の理解（実習指導者の講話）
【key words】
実習を行なうための心得
【授業概要】
　実習指導者より実習生に期待することについて講話をいただき、相談援助実習を行なうための心構えと実習において何を学びたいのかを考える機会にする。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習へ向けての心構えを復習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第７回　実習プログラムの理解（実習委託契約書の理解）
【key words】
契約書　合意書
【授業概要】
委託契約書と合意書の内容を講義し、実習生として遵守しなければならない事項を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
委託契約書、合意書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第８回　実習計画書作成の理解（実習の目的・実習先選定の動機）
【key words】
実習計画書　職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習
【授業概要】
実習計画書と各段階（職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習）の実習で行なうことを講義し、自分の課題がどの段階で学べるのかを考え実習計画に取り入れていく。
【教科書ページ・参考文献】

		実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 先輩の講話や実習指導者の講話を振り返っておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第９回	実習計画書作成の理解（実習の目標・実習課題） 【key words】 実習計画書　職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習 【授業概要】 ワークシートを通して実習を通して学ばなければならないことを文章化し実習計画書を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習計画を考えてくる 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第１０回	実習計画書作成の理解　＊「実習計画書」の完成、＊「実習生紹介票」、「誓約書」 【key words】 実習計画書　実習生紹介票　誓約書 【授業概要】 実習生紹介票と誓約書の講義を行い、実習計画書、実習生紹介票、誓約書を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習生紹介票、誓約書の内容を理解してくる 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第１１回	実習プログラムの理解（個別支援プログラムの作成） 【key words】 職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習 【授業概要】 実習目標ワークシートと実習計画書をもとに23日間ある実習の課題と毎日の目標を考える。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習計画書を基にどのような実習が行なえるのか考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第１２回	事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項） 【key words】 事前オリエンテーション　実習中の諸注意 【授業概要】 事前オリエンテーションの意義、目的に対して講義を行う。オリエンテーションで確認してくる事項、アポイントの取り方についてグループワークを行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 オリエンテーションで確認してくる事項、アポイントの取り方について復習する 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第１３回	記録方法の理解①（実習記録） 【key words】 実習日誌の目的　実習日誌の書き方 【授業概要】 実習日誌の例を読み、自分ならこのように書くと思われる箇所に赤で修正を加える。近くの学生と修正した日誌を見せ合い、意見を分かち合う。出た意見を発表し全体で分かち合う。 　自分が書いた日誌を参考に利用者とのかかわりを思い出し、実習時にどのように日誌を書くのかを考えワークシートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日誌を書き直してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第１４回	実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理） 【key words】 実習生としての態度　個人情報保護　守秘義務 【授業概要】 実習の場面を想定したワークシートを使用し、実習生としてどのように答えるのか、どのような行動を取るのか考える。考えた内容を発表し全員で分かち合う。 個人情報の管理方法、SNSの使用について講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人情報とSNSの取り扱いについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分

	第１５回	オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　巡回指導及び帰学日指導等 【key words】 実習プログラム　巡回指導　帰学日指導　PDCAサイクル 【授業概要】 実習に向けて学長より訓話、学部長より講話を頂く。 実習オリエンテーションで渡された実習プログラムを使用し、実習の内容や学ぶべき事を考える。 PDCAサイクルを使用し、実習中は実習計画の実行、評価、改善、計画を行いながら実習を行う。 巡回指導、帰学日指導について講話をし日程を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの講義の内容を復習してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第１６回	記録方法の理解　実習報告書、実習レポート等　礼状作成 【key words】 実習報告書　実習レポート 【授業概要】 行ってきた実習の振り返りとして報告書を作成する。 実習レポートと実習プログラム表について説明を行い作成する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の振り返りをするため、これまでの資料を整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第１７回	実習評価の理解　自己評価 【key words】 実習評価表　自己評価 【授業概要】 実習評価表の説明を行い、行ってきた実習に対して振り返り、自分自身で評価を行う。 どのようなことができなかったのか、理由を考え、課題として行く。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の振り返りをしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第１８回	実習評価の理解　実習先評価　実習指導者の講評 【key words】 実習評価 【授業概要】 実習先から送られてきた評価表と自分の評価表を比較し、どのような差があったのか、なぜそのようになったのか理由を考え、課題とし、これから何を学習していくのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の振り返りをしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第１９回	実習の振り返り（事前学習＊グループ討議と発表） 【key words】 実習事前学習 【授業概要】 実習を行なって、事前学習でやっていて良かった点、どのように役立ったのか、事前学習でもっとやっておけば良かった点、どのような場面でそのように思ったのか、それをどのように勉強したのかグループで話し合い、発表し分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習で使用したものを整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第２０回	実習の振り返り（自己理解、自己覚知、職業倫理＊グループ討議と発表） 【key words】 自己覚知 【授業概要】 実習中の自分自身が自己覚知で来た場面を振り返る。これから支援を行う中でどのように生かしていけるのか、また、他の人の意見を聞き自分自身はどのように考えるのか自己覚知を行い、グループで話し合い、発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習日誌を読み返しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第２１回	実習の振り返り（クライエントとの関わり、職員との関わり＊グループ討議と発表） 【key words】

コミュニケーション
【授業概要】
実習を振り返り、実習中にクライエントや職員との関わりで苦労した点を挙げ、自分がどのように対応したのかロールプレイを行い、クライエントの気持ちを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習日誌を読み返しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２２回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
【key words】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２３回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
【key words】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２４回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
【key words】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２５回　実習の総括　（※実習レポート等の完成）
【key words】
実習表定評　自己表定評　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成し提出する。
実習プログラム表も提出する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。
実習報告のパワーポイントを作成する。

【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２６回　実習の総括（クラス内実習報告会・プレゼンテーション技術）
【key words】
実習の成果　自己覚知　社会福祉士
【授業概要】
作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２７回　実習の総括　クラス内実習報告会
【key words】
実習の成果　自己覚知　社会福祉士
【授業概要】
作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分 第２８回　実習の総括　クラス内実習報告会 【key words】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分 第２９回　実習の総括　クラス内実習報告会 【key words】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。 クラスの代表を決定する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分 第３０回　全体実習報告会 【key words】 実習総括　社会福祉援助実習 【授業概要】 各実習指導クラスの代表による実習報告　実習での体験を聞き対人援助を考える。　2年生は来年の実習に向け事前学習の一貫として体験を聞き、ワークシートをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
受講生に関わる情報および受講のルール	①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。 ②提出物が期限内に提出されない場合、単位認定を行わない。 ③欠席、遅刻をする場合は、必ず授業開始前に大学に連絡を入れること。 ④無断欠席・無断遅刻者に対しては社会福祉士実習委員会で対応について協議する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習に向けて、事前学習に取り組むこと。また、後期は実習のまとめ、プレゼンテーション、報告会の準備をする。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	相談援助実習資格試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況及びその内容（30%）を総合して評価する。　但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　低所得者に対する支援と生活保護制度　　授業コード：2181

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
土屋　昭雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 貧困・低所得者が直面している生活問題、さらには、動向等の把握に努め、その主たる制度である「生活保護制度」についての理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 低所得者の生活実態とその背景にある社会経済情勢を把握し、生活保護制度や低所得者対策、さらには、関連する諸施策等について学び、福祉専門職として必要な知識を習得するとともに、国家試験合格水準到達を目標とする。 ・公的扶助の意義と役割について理解している。 ・生活保護制度の動向についての説明ができる。 ・関連法規、施策について理解している。 ・ソーシャルワーカーが果たすべき役割について説明することができる。 ・社会福祉士国家試験過去問題・模擬問題等において正答を導きだすことができる。
授業の概要	本講義では、ソーシャルワーク実践を考慮し、生活保護制度概要はもとより、支援施策としての自立支援プログラム、ホームレス関連等について概説していく。また、制度を運営する組織の役割、連携のあり方についても確認し、さらには、低所得者層の生活実態、具体的なニーズと実状などについても言及していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション〔授業の進め方、評価等授業概要に基づき説明〕、社会保険と公的扶助の違い 【key words】 生活保護・公的扶助・社会保険・社会福祉士 【授業概要】 ・授業の進め方、評価、社会福祉士国家試験における本科目について ・社会保険と公的扶助の相違点 【教科書ページ・参考文献】 p1～p6 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会保険と公的扶助の相違点の把握に努めること。第1章の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２回　　公的扶助の概念　〔公的扶助の概念および範囲、公的扶助の意義と役割〕 【key words】

所得再分配機能・ナショナルミニマム・セーフティネット

【授業概要】
・公的扶助の概念および範囲
・公的扶助の意義と役割
【教科書ページ・参考文献】
p6～p15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第2章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　貧困・低所得者問題と社会的排除　〔貧困と社会的排除、貧困・低所得者問題の現代的課題他〕
【key words】

貧困線・社会的排除・雇用、失業問題

【授業概要】
・貧困と社会的排除
・貧困および低所得者問題の現代的課題　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p17～p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第3章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　公的扶助制度の歴史　〔海外および日本の歴史、貧困・低所得者対策の動向〕
【key words】

エリザベス救貧法・恤救規則・救護法・生活保護法・リーマンショック

【授業概要】
・海外の歴史
・日本の歴史
・貧困および低所得者対策の動向

【教科書ページ・参考文献】
p35～p62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第4章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　生活保護制度の仕組み　〔生活保護法の原理・原則、保護の種類と内容および方法他〕
【key words】

基本原理・基本原則・扶助・金銭給付/現物給付

【授業概要】
・生活保護法の原理・原則
・保護の種類と内容および方法　ほか

【教科書ページ・参考文献】
p63～p88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第4章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　生活保護制度の仕組み　〔保護施設、被保護者の権利および義務、不服申立てと訴訟他〕
【key words】

保護施設・不服申立て・朝日訴訟

【授業概要】
・保護施設
・被保護者の権利および義務
・不服申立てと訴訟　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p89～p104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第5章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　最低生活保障水準と生活保護基準　〔最低生活保障水準および生活保護基準の考え方、生活保護基準額の実際他〕

【key words】

生活保護基準・ナショナルミニマム

【授業概要】
・最低生活保障水準および生活保護基準の考え方
・生活保護基準額の実際　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p105～p135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第6章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　生活保護の動向　〔被保護人員および被保護世帯数、保護の開始・廃止の動向、医療扶助・介護扶助の動向〕
【key words】

保護率・被保護人員/被保護世帯数

【授業概要】
・被保護人員および被保護世帯数
・保護の開始および廃止の動向
・医療扶助および介護扶助の動向
【教科書ページ・参考文献】
p137～p162
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第7章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　低所得者対策の概要　〔生活困窮者自立支援法の概要、生活福祉資金貸付制度、社会手当制度、ホームレス対策他〕
【key words】

生活困窮者自立支援法・生活福祉資金貸付制度・社会手当・ホームレス・ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法

【授業概要】
・生活困窮者自立支援法の概要
・生活福祉資金貸付制度
・社会手当制度
・ホームレス対策　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p163～p203
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第8章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１０回　生活保護の運営実施体制と関係機関・団体　〔国・都道府県・市町村の役割、福祉事務所の役割他〕
【key words】

福祉事務所・社会福祉主事・スーパービジョン・スーパーバイザー

【授業概要】
・国、都道府県、市町村の役割
・福祉事務所の役割
・福祉事務所専門職の役割
【教科書ページ・参考文献】
p205～p221
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第9章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１１回　貧困・低所得者に対する相談援助活動　〔生活保護制度における相談援助活動、他機関・他職種との連携・協働他〕
【key words】

アセスメント・就労支援・連携/協働・チームアプローチ・ケースカンファレンス

【授業概要】
・生活保護制度における相談援助活動

	・他機関、他職種との連携、協働　ほか 【教科書ページ・参考文献】 p223～p252 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業該当ページの再確認・第10章の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１２回　　生活保護における自立支援　〔自立とはなにか、自立支援プログラムの位置づけ、自立支援プログラムの策定および実施〕 【key words】 自立・経済的自立/日常生活自立/社会生活自立・自立支援プログラム 【授業概要】 ・自立とはなにか ・自立支援プログラムの位置づけ ・自立支援プログラムの策定および実施 【教科書ページ・参考文献】 p253～p272 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの再確認・積極的に国家試験過去問題等に取り組むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１３回　　確認テストおよび解答解説 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 授業内容に基づいた一問一答問題への取り組みおよび解答解説 (解説については教科書ページを示し説明) 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストの再確認 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１４回　　確認テストおよび解答解説 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 授業内容に基づいた一問一答問題への取り組みおよび解答解説 (解説については教科書ページを示し説明) 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストの再確認 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１５回　　授業総括〔重要事項の確認〕 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 重要箇所の再確認 【教科書ページ・参考文献】 p1～p272(該当ページ) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アンダーラインを引いた箇所の把握に努め教科書を熟読すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。知識習得に向け、予習、復習を励行すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	生活保護の動向〔被保護人員・被保護世帯数等〕については、最新の数値の把握に努めること。また、新聞等に掲載される関連記事にも注意を払うこと。
オフィスアワー	月曜日〔14：20～17：30〕及び昼休み〔12：00～12：30〕

評価方法	定期試験〔80%〕・確認テスト〔20%〕
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版
参考書	福祉小六法、その他は授業内で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　レクリエーション活動援助法　　授業コード：2223

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的]：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）　として、実践できるようになることを目的とする。 [到達目標]： 1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている
授業の概要	年代ごとの課題や特徴をを知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割 【key words】 生きがい、基本的人権、良循環 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	レクリエーション概論　　レクリエーションという言葉の主旨 【key words】 RE-CREATE 【授業概要】 レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのように

とらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P10～11　参考書　レクリエーション活動援助法P10～P11
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　レクリエーション概論　　レクリエーション支援の目的と方法　インストラクターの役割
【key words】
厚生、コメニウス、フレーベル、プレイグランド運動
【授業概要】
レクリエーションのルーツを理解し、社会福祉サービスの流れの中で、レクリエーションが果たしてきた役割と今後の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P11～P24　参考書　レクリエーション活動援助法P12～P16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
重要な語句が数多く出てきたのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　基礎理論　レクリエーションへの期待
【key words】
生活者　支援者　人を支える
【授業概要】
生活者　支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P25～P33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　基礎理論　生活のレクリエーション化
【key words】
生活のレクリエーション化
【授業概要】
レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　基礎理論　レクリエーションの生活化
【key words】
レクリエーションの生活化
【授業概要】
日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　日常生活におけるレクリエーションの捉え方
【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活

【授業概要】
近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくということを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P39～P42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　日常生活の３領域とレクリエーション援助の関係
【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活　ライフスタイル　基本的欲求
【授業概要】
福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の３つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P43～P48
【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

		1時間
	第９回	楽しさと心の元気づくりの理論　レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組み、および心の仕組みを根拠にした支援 【key words】 地域課題　コミュニティ　リージョン 【授業概要】 自分も楽しみ、その楽しさがまわりの人々や地域にも役立つことで、さらに事業を充実する方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P169 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人に働きかける場面と集団に働きかける場面について、それぞれにどんな効果があるか考えておく 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１０回	楽しさと心の元気づくりの理論　楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、および社会的な仕組み 【key words】 　地域課題　コミュニティ　リージョン 【授業概要】 　身近な地域（コミュニティ)とより広い範域の(リージョン)。それぞれの地域が抱える課題を理解し、解決するためのレクリエーションの活用について考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P142～157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きけｋることができる課題についてあげてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１１回	レクリエーション支援理論　レクリエーション支援におけるコミュニケーション 【key words】 コミュニケーションワーク　ホスピタリティ 【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うには、対象者との良好なコミュニケーションがかかせないことを理解 する必要がある。そのためのホスピタリティ、効果的な支援の方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P226～245 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ホスピタリティがどのような場面で有効的か、自分自身の活動を振り返り、その局面をイメージしてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１２回	レクリエーション支援理論　コミュニケーションワーク　アイスブレーキングのプログラミング～プログラミングの原則～ 【key words】 アイスブレーキングモデル 【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268　演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１３回	レクリエーション支援理論　自主的、主体的に楽しむ力を育む理論　～アイスブレーキングモデルの作成～ 【key words】 アイスブレーキングモデル 【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268　演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１４回	レクリエーション支援のプログラム　プログラムの立案　　アイスブレーキングのプログラミング・実践　発表 【key words】 アイスブレーキングのプログラミング 【授業概要】 アイスブレーキングのプログラミングについてグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、安心感、一体感が感じられるプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１５回　まとめ（評価・ふりかえり）
【key words】

【授業概要】
前期　授業の振り返りとテストについての確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期テストにむけて配付プリント　ノートを整理しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１６回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　　乳幼児期～児童期～青年期～老年期
【key words】
ライフスタイル　対応するレクリエーション課題
【授業概要】
年代ごとに大まかに共通する課題や生活環境、ライフスタイルを持っている。年代ごとの特徴を知り、対象者のニーズを把握する。さらにライフステージごとの課題について理解を深める。今回は乳幼児期～老年期を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P70～P81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルごとに対応するレクリエーションの視点について確認しておくこと。次回は青年期～老年期を学習するので先に取り上げた内容を事前に確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１７回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　　少子高齢社会の課題とレクリエーション
【key words】
ライフスタイル　対応するレクリエーション課題
【授業概要】
少子高齢者の中でレクリエーションが働きかけることのできる課題は何か理解する。「個人、集団、環境づくり」といったレクリエーションの考え方に沿いながら、それらの課題に向けた支援方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P92～P141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの課題とそれに対するレクリエーション支援について何ができるか自分自身で検討してみること。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１８回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　地域のきずなとレクリエーション（地域介護予防事業の取り組みについて）
【key words】
生活のレクリエーション化　個人への働きかけ　集団への働きかけ
【授業概要】
高齢者社会の課題に向けて、一人ひとりの対象者にどのようなレクリエーション支援が可能か、また一人の対象者を介して、その人が所属するグループや集団、対象者を取り巻く環境にどのような働きかけができるのか理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P92～116
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人への直接的支援、あるいは個人を介した支援が有効な高齢社会の課題をあげ、具体的な働きかけを考えてみる
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１９回　支援論　治療的意味合いを含めたレクリエーション　　セラピューティックレクリエーションサービス
【key words】
レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション
【授業概要】
治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規)　P150～P168
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２０回　目的にあわせたレクリエーションワーク　素材アクティビティの提供
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス
【授業概要】
レクリエーション支援がよりよい生の実現につながるものであることを理解する。あわせて、目的にあわせてレクリエーション支援の展開イメージを理解する。
【教科書ページ・参考文献】

教科書　P274～P277
【課題・予習・復習・授業準備指示】
目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２１回　目的にあわせたレクリエーションワーク　ハードル設定　CSSプロセス
【key words】
素材・アクティビティ、すり合わせ
【授業概要】
素材、アクティビティの選択について支援側からの特質と、対象者からの楽しさのすり合わせのプロセスについて理解する。さらに学習を深めるために、素材、アクティビティの選択方法について演習を行い各自検討する。レクリエーション実技　リズム手合わせ″
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P278～P287
【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２２回　目的にあわせたレクリエーションワーク　対象者間の相互作用の活用法
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P288～P297
【課題・予習・復習・授業準備指示】
リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。
【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　目的にあわせたレクリエーションワーク　指導実習
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２４回　レクリエーション支援のプログラム　事業計画　レクリエーション事業とは
【key words】
マズロー５段階欲求説　生活の快　動機づけ
【授業概要】
レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P162～P169　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。
【key words】
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２５回　レクリエーション支援のプログラム　アセスメントに基づいたプログラム計画　A-PIEプロセス～ニーズの確認　目標設定　展開　期待される効果　～
【key words】
A-PIEプロセス
【授業概要】
A－PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P184～P195　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
A-PIEプロセスについてテキストにでている事例を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２６回　レクリエーション支援のプログラム　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方～集団を介して個人にアプローチする支援計画のつくり方～
【key words】
レクリエーションプログラム総合計画　A-PIEプロセス
【授業概要】
福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～P195　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施

	の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２７回　レクリエーション支援のプログラム　プログラムの立案　事業計画　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 【key words】 Plan Do See プロセス 【授業概要】 「企画・準備・実施・整理」の段階から構成されるPlan-Do-Seeプロセスの手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P196～P207　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域の課題を想定し、目標設定とそれに基づく地域住民を対象とした事業計画をつくってみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２８回　レクリエーション支援のプログラム　リスクマネジメント　リスクマネジメントの方法～ 【key words】 リスクマネジメント 【授業概要】 レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書P208～P223　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２９回　レクリエーション支援のプログラム　　レクリエーションプログラムの計画発表及び実践 【key words】 レクリエーションプログラム総合計画 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第３０回　　一年間のまとめ（評価・ふりかえり） 【key words】 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる　態度、身だしなみを心掛けること。 ・授業シラバスを必ず確認すること。 ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。
オフィスアワー	月曜日　5時間目　(変更時は掲示する)
評価方法	筆記試験　６０％　　授業中レポート　２０％　　グループワーク及び発表　２０％
教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト　【レクリエーション支援の基礎】　～楽しさ･心地よさを活かす理論と技術～ (財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書　【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】　【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)　【レクリエーション活動援助法】　(中央法規)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 地域においてスポーツ活動指導の経験あり

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　相談援助実習　　授業コード：2801　2802　2803　2804　2805　2806

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	4単位(180)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・新家　めぐみ・安留　孝子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ②社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ③関連分野と専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 【到達目標】 ①実習機関・施設の役割や関連する社会資源について説明できる。 ②支援対象との状況に合わせた会話ができる。 ③地域における実習機関・施設の役割や位置づけを説明できる。 ④実習機関・施設に関連する他職種の役割や業務、連携方法の必要性を理解し説明できる。 ⑤実習機関・施設で使用する記録の必要性を理解し、適切な記録技法をもちいて記録する事ができる。 ⑥コミュニケーション技術、面接技術をもちいて利用者と関る事ができる。 ⑦適切なアセスメントツールを使用し支援対象の全体像を把握できる。 ⑧ソーシャルワーク過程を理解し、実習指導者の指導の下、支援対象に適切な支援を実践する事ができる。 ⑨社会福祉士として倫理綱領・行動規範に基づいた行動をすることができる。 ⑩実習担当者教員・指導者からスーパービジョンを受け、社会福祉士としての課題を抽出し学習に繋げる事ができる。
授業の概要	相談援助実習は原則3年次（編入生は4年次）において実施する。ただし、3年次に履修要件を満たさず実習できなかった者は、4年次に実習を行なうことができる。 相談援助実習は実23日以上かつ180時間以上とする。 実習期間中に原則3回以上の帰学日指導と1回の実習巡回指導を受けること。 群馬医療福祉大学相談援助実習資格及び実習中止等の基準と実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回

	第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準を参照すること。 相談援助実習を行うために以下の履修要件を全て満たさなければならない。 1　将来、社会福祉士として社会福祉現場で働く意思を強く持っている者 2　社会福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲を強くもっている者 3　健康状態、精神状態が相談援助実習を行うのに適当と認める者 4　実習履修年次までに哲学、倫理学、道徳教育、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、社会福祉特講Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者（再履修者においては、上記科目の他、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者、編入生においては、4年次までに哲学、倫理学、道徳教育、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者） 5　実習履修年次において相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅲを履修見込みの者（再履修者及び編入生においては、4年次に総合演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅳを履修見込みの者） 6　社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づき文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の履修済みまたは履修中の科目においての出席状況及び授業態度が良好な者 7　ボランティア活動に積極的に取り組み、施設・機関の理解及び技術の向上を促進した者 8　相談援助実習に必要な書類及び実習担当教員が課した課題を期限までに提出し、提出書類の内容が適当と認められる者 9　相談援助実習資格試験に合格している者 10　学則に違反していない者、または学則に違反し停学等の処分を受けた者で改善の見込みのある者
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える
授業外時間にかかわる情報	【相談援助実習中止の措置】 相談援助実習を行っている期間に以下の中止要件に該当する場合は相談援助実習を中止する場合がある。 1　重大なルール違反（実習先の就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき 2　利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき 3　心身の事由により相談援助実習の継続が困難なとき。 4　守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき 5　実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 6　実習施設・機関の長または実習指導者より相談援助実習中止の申し出があったとき 7　実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 8　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
オフィスアワー	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える
評価方法	①実習施設・機関による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価（40%） ②実習施設の概要の記載内容（10%） ③相談援助実習記録の記載内容（15%） ④実習のまとめの記載内容（10%） ⑤実習報告書の記載内容（10%） ⑥その他提出物の提出状況（15%） ※相談援助実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は相談援助実習の単位を認定しない。 ※相談援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において修得出来なかった場合は相談援助実習の単位を認定しない。

教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ※実務経験のある教員も含まれている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　卒業論文指導　　授業コード：2902　2903　2904　2905　2906　2907

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
担当教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 卒業論文の作成に必要な問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。 〔到達目標〕 論文作成に向けた研究計画作成と研究活動の準備ができる。
授業の概要	これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを立て、探求する活動の基本を学習する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践するための準備や論文としてまとめるための資料収集を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 教員（主な研究領域） 大島由之（臨床心理学・精神的健康） 柳澤充（マイノリティー・福祉問題） 新藤健太（障害福祉・ソーシャルワーク） 鈴木淳（障害児者支援臨床・医療心理） 真下潔（児童福祉・聴覚言語障害） 川端奈津子（発達障害・インクルーシブ保育） 乾明美（障害福祉・知的障害者支援） 益子徹（聴覚障害（情報保障・ろう文化）・障害者福祉） 巣立佳宏（社会的養護・児童心理） 大野俊和（社会心理学・教育社会心理学）※2019年度休講 上記教員が個別的に指導を行う。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。 授業内容：研究方法に関する指導、研究計画立案に関する指導 〔留意事項〕 履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、上記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。なお、「主な研究領域」は担当教員の主な専門領域を示しており、研究計画のテーマを制限するものではない。 第２回 第３回 第４回 第５回

	第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）
授業外時間にかかわる情報	各担当教員から指示する。
オフィスアワー	各担当教員による指示に従うこと。
評価方法	担当教員からの個別指導の履行状況：60%、研究計画：40%
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　福祉サービスの組織と経営　　授業コード：3031

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
高井　健二			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は、一般企業と同様に経営センスが求められている。本科目を受講することで経営学、経営理念・理論及び経営上の諸課題を学ぶことができ、社会福祉施設の経営に関する知識、センスを修得するとともに社会福祉の今後の動向を理解する。 【到達目標】 経営とは、経営資源であるヒト（人的資源）、モノ　（物的資源）、カネ（財源）、シラセ（情報資源）を効果的に活用して組織の目標を達成することである。社会福祉サービスの中核を担う専門職員として、①「経営管理」のとらえ方に関する理念・理論を理解し、リーダーシップやモチベーション等について考察できる。②規制緩和の流れの中でサービス提供組織の現状や課題を理解するとともに、特に社会福祉法人、特定非営利活動法人について理解する。③「経営管理」の構成要素として、業務管理（サービス管理）、人事・労務管理、会計・財務管理、情報管理、リスクマネジメント、建物・設備管理等についての知識を学ぶ。④組織経営のマネジメントには、幅広い知識・素養が求められる。オールランドプレイヤーとして諸課題が認識できるとともに、社会福祉施設での実践に当てはめることができる。
授業の概要	この講義では、「経営資源の活用」にかかるヒト（人的資源）、モノ（サービス管理）、カネ（財源、会計財務）、情報（経営理論、危機管理、福祉動向等）に関する事柄ついて、広範に学習する。教科書のコンテンツに沿って、下記の授業計画に基づき講義を進めるが、第１回から第６回までは補助プリントを配布、第７回以降は教科書と一部補助プリントを併用して授業を進める。経営学や人事・労務管理、簿記会計、労働法など全く学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにする。毎回講義終了後にミニテストを実施し、理解を深めるようにする。第１５回は試験準備として前期の総復習、第３０回は後期の総復習とする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション　　本科目全体を俯瞰するとともに、「社会福祉事業、社会福祉施設」について、基礎的な事項を再認識する。
	第２回	社会福祉（制度）の変遷と社会福祉基礎構造改革　　社会福祉の流れと社会福祉基礎構造改革（措置から契約への転換等）を学ぶ。
	第３回	企業経営・経営理念　　企業の基本的な性格や経営管理、経営理念等について学ぶ。
	第４回	経営理論（伝統的管理論）　　テイラーの科学的管理法、フアヨールの管理過程論を学ぶ。
	第５回	経営理論（人間関係論）　　メイヨーのホーソン実験、マズローの欲求５段階説、マグレガーの

		Ｘ理論・Ｙ理論を学ぶ。
	第６回	企業形態と株式会社　　企業の形態や株式会社の仕組み、設立、定款等について学ぶ。
	第７回	福祉サービスにおける組織と経営　　福祉サービスとは、経営管理とは、事業主体・提供組織、福祉サービスと制度等を概観する。
	第８回	法人とは　　法人の意味・存立意義、法人の基本形態（財団法人・社団法人）、ガバナンスとコンプライアンス等を学ぶ。
	第９回	社会福祉法人　　社会福祉法人法人の基本的な性格、業務内容、設立と機関、規制と優遇措置、課題等を学ぶ。
	第１０回	特定非営利活動法人　　特定非営利活動法人とは、管理運営の基本、現状と課題等を学ぶ。
	第１１回	戦略　　経営戦略の策定プロセス（経営ビジョンの設定）、環境分析の手法、経営戦略の系譜等を学ぶ。
	第１２回	事業計画　　事業計画の策定・報告、内部・外部環境の分析、事業計画の実行・評価等を学ぶ。。
	第１３回	組織論　　組織構造と組織原則、組織形態等を学ぶ。
	第１４回	管理運営の基礎理論　　管理とは、管理の手法（ＰＤＣＡサイクル）、集団の力学等を学ぶ。
	第１５回	まとめ　　前期の総復習、中間テスト対策等を行う。
	第１６回	リーダーシップ　　リーダーシップとは、リーダーシップ理論の系譜、福祉サービス組織におけるリーダーシップのあり方等を学ぶ。
	第１７回	サービスマネジメント　　福祉サービスの特性・課題、福祉サービスの価値・品質、品質マネジメント等を学ぶ。
	第１８回	サービスの質の評価　　福祉サービスの質の向上、評価システム、第3者評価の仕組みと課題等を学ぶ。
	第１９回	苦情処理とリスクマネジメント　　リスクマネジメントとは、事故・苦情発生のメカニズムと対応、リスクマネジメントの取り組み等を学ぶ。
	第２０回	人事・労務管理（１）　　動機づけ理論、人事システム、人材の確保と採用、配置、異動等を学ぶ。
	第２１回	人事・労務管理（２）　　職員の処遇、給与体系（職能資格等級制度）、人事考課、人事評価と課題等を学ぶ。
	第２２回	労働法規　　労働法規の理念・体系、労働基本権等を学ぶ。
	第２３回	労働基準法（１）　　人たるに値する生活とは、労働基準法の性格・効力・適用範囲、就業規則、賃金・解雇等を学ぶ。
	第２４回	労働基準法（２）　　労働条件の明示、労働時間、休日・有給休暇、産前産後・育児休業等を学ぶ。
	第２５回	人材育成　　福祉人材の確保、職場研修、キャリアパスの考え方等を学ぶ。
	第２６回	会計管理・財務管理（１）　　会計・財務とは、公会計と企業会計、財務諸表、社会福祉法人おける会計制度等を学ぶ。
	第２７回	会計管理・財務管理（２）　　社会福祉法人における財務諸表の見方、貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書等を学ぶ。
	第２８回	社会福祉施設の建物・設備管理　　建物・設備の分類、点検・防災、アメニテイ、防火・防災設備、防火・防災計画と対策等を学ぶ。
	第２９回	情報管理　　情報管理の重要性・必要性、個人情報保護、情報開示、経営における情報戦略、権利擁護制度・事業等を学ぶ。

	第３０回　　まとめ　　後期の総復習、期末テスト対策等を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	本科目は、社会福祉施設経営にとって必要な広範な内容のものになっているため、基礎知識の積み重ねが重要である。毎回出席は言うまでもないが、授業にかかわる事項については、関心を持って新聞、関連図書等により、自ら進んで調べる、学ぶ、知識を深めることが大事である。試験は「ノート持ち込み可」とするので、講義内容をノートに良く整理すること。毎回、事業計画に基づき予習をしたうえで講義に臨み、復習も欠かさないこと。授業中に生じた疑問は、コメントカード等により積極的に質問すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキスト該当箇所の予習を必須とする。本科目に関する事柄については、新聞を良く読むこと、関連図書、インターネット等で主体的に学習すること。幅広い素養、教養を身に着けるため、読書に努めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	中間試験、期末試験を実施し、その平均点で評価（100%）する。
教科書	新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規出版（最新版）
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学実験実習Ⅱ　　授業コード：3131

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・必修
担当教員			
長谷川　貴之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔 授業の目的 〕 受講生に調査研究に関する知識・技術を習得させ，受講生が調査レポートを作成できるようになってもらうことを目的とする． 〔 到達目標 〕 実験，量的・質的調査研究に関する知識・技術を習得させる． 実験・調査レポートを作成できるスキルを身につけさせる． 客観的にレポートを評価できるスキルを身につけさせる．
授業の概要	本講義では，質問紙法を利用しての人間理解の方法を学ぶ．その基礎として質問紙の作成に際しての項目作成，回答方法選択，face sheet の作成および倫理の問題，データ分析について触れる．

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	質問紙法のガイダンス 【key words】 質問紙法（質問紙調査）　観察法　面接法　検査法 【授業概要】 人間を科学的に理解するために，質問紙法を使うことができる． 質問紙法の持っている長所と短所を，他の手法である観察法・面接法・検査法と比較しながら概観する． 【教科書ページ・参考文献】 pp. i，ii（はじめに），1 ～ 8（序章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に．
	第２回	質問紙作成の基礎 【key words】 先行研究　内容的妥当性　2件法　3件法　多肢選択法　評定法　順位法　一対比較法　face sheet 【授業概要】 質問紙法における項目の具体的な作り方，回答方法の具体的な選び方，質問紙冊子の face sheet の具体的な書き方を紹介する． 【教科書ページ・参考文献】 pp. 10 ～ 21（１章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】

予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第３回　質問紙法の実施方法（その１）

【key words】
サンプリング　母集団　全数調査と悉皆調査　無作為抽出法と有意抽出法　２段抽出法　層化抽出法
【授業概要】
今回と次回は，質問紙法の実施方法を概観する.
今回（その１）は，主に，様々なサンプリングの具体的な方法を紹介する.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 26 ～ 35（２章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第４回　質問紙法の実施方法（その２）

【key words】
割り当て法　典型法　縁故法　募集法　便乗法　偶然法　調査の実施方法
【授業概要】
前回と今回は，質問紙法の実施方法を概観する.
今回（その２）は，サンプリングの方法紹介の続きと，調査の具体的な実施プロセス，様々なサンプリングの方法のそれぞれ長所・短所を紹介する.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 35 ～ 47（２章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第５回　コーディングと入力

【key words】
コーディング（coding，符号化）　欠損値　数量的データ　評定法　逆転項目　単一回答法　複数回答法　限定回答法　順位法　一対比較法　強制選択法　自由記述法　コードブック
【授業概要】
回収したデータを整理・整頓する方法を概観する.
実例を交えて，様々な場合のコーディングの具体的な方法を紹介する.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 54 ～ 61（３章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第６回　心理尺度

【key words】
尺度得点　名義尺度　順序尺度　間隔尺度　比尺度　尺度の信頼性　信頼性係数　再検査法　折半法　α係数　尺度の妥当性　内容的妥当性　基準関連妥当性　構成概念妥当性
【授業概要】
種々の心理尺度を紹介し，使い方を見る.
更に，尺度の信頼性・妥当性とは何かを定義する.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 64 ～ 74（４章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第７回　量的資料収集のための質問紙の作成

【key words】
内容的妥当性　回答方法の選択
【授業概要】
量的資料を得るための質問項目の具体例を紹介する.
〔実習課題〕質問紙を実際作ってみる.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 78 ～ 86（５章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第８回　質的資料収集のための質問紙の作成

【key words】
文章完成法　自由記述法
【授業概要】
質的資料を得るための質問項目の具体例を紹介する.
〔実習課題〕回答者の内面でどのような変化が起こり得るかを知るために，質問紙に実際回答してみる.

【教科書ページ・参考文献】
pp. 90 ～ 98（６章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第９回　心理尺度の作成
【key words】
項目分析　肯定率（困難度）　識別力（分解能）　等質性　G-P分析（Good-Poor 分析）　項目特性曲線　信頼性　妥当性
【授業概要】
「項目分析」という心理尺度項目それ自体の良否を分析する方法を紹介する．
信頼性と妥当性にも着目する．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 100 ～ 108（７章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１０回　データの処理法：質的データの集計
【key words】
質的データ　カテゴリカル・データ　検定　推計学（推測統計学）　統計的仮説検定　χ^2検定（カイ２乗検定）
【授業概要】
質的データの処理法を紹介する．
更に，推計学と検定の考え方を紹介する．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 110 ～ 121（８章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１１回　データの処理法：平均値の比較（その１）
【key words】
平均値　不偏分散　自由度　逆転項目　t値　t検定　両側検定　t分布表　有意水準
【授業概要】
〔実習課題〕今回（その１）と次回は，具体的な量的データに対して，実際に平均と不偏分散を求め，検定を試みる．表計算ソフト MS Excel を使う．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 126 ～ 137（９章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１２回　データの処理法：平均値の比較（その２）
【key words】
平均値　不偏分散　自由度　逆転項目　t値　t検定　両側検定　t分布表　有意水準
【授業概要】
〔実習課題〕前回と今回（その２）は，具体的な量的データに対して，実際に平均と不偏分散を求め，検定を試みる．表計算ソフト MS Excel を使う．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 126 ～ 137（９章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１３回　データの処理法：相関分析
【key words】
相関分析　ピアソンの積率相関係数　正の相関と負の相関　強い相関と弱い相関　回帰分析　最小２乗法　回帰直線
【授業概要】
相関関係に基づいたデータの処理法と回帰分析法を紹介する．
受講生の数学習熟度に応じて内容を変える．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 140 ～ 151（１０章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１４回　社会調査と心理尺度研究の実際

	【key words】 社会調査 【授業概要】 社会調査と心理尺度研究の実例を紹介する. 受講生の希望する進路に応じて内容を変える. 【教科書ページ・参考文献】 pp. 156 ～ 171（１１章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える. 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に. 第１５回　多変量解析を利用した研究の実際 【key words】 因子分析法　重回帰分析 【授業概要】 相関を上手に利用した研究として，因子分析法の実例を紹介する. 理論を支持するような分析結果が得られた例である. 【教科書ページ・参考文献】 pp. 172 ～ 183（１２章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておく. 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に.
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 PC室もしくはLL教室での課題作成を含む. 〔受講のルール〕 事前にUSBメモリを用意することが望ましい．課題レポートの提出が必須.
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習・復習にかける時間は，３時間を目安にし，教科書の該当部分は必ず事前に通読しておく.
オフィスアワー	原則として，毎回授業終了後に質問・学習相談などに応じる.
評価方法	課題レポートが約６割，コメント評価が約４割．合計で60%以上が合格点. 実験・実習科目であるため，中間試験・学期末試験は実施しない.
教科書	鎌原 雅彦・宮下 一博・大野木 裕明・中澤 潤 編著『心理学マニュアル　質問紙法』北大路書房，1998
参考書	講義の中で適宜紹介する.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 認知心理学　　授業コード：3151

英文科目名称： Cognitive Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
安崎　文子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人はどのように考え行動するのか，人間の認知行動の基本を理解する 【到達目標】 社会福祉の場面において、その知識が活用できる能力を得ること
授業の概要	認知心理学は，感覚や感情，思考や記憶，理解や推論といった人間の知覚・認知活動についてその仕組みと機能を探究する学問である。本講義では，臨床事例を紹介しながら，新たな知見や具体例を示しながら検討する

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	認知心理学の誕生 【key words】 授業の進め方の確認，認知心理学の誕生の経緯，感覚の種類 【授業概要】 授業の進め方の確認を行う。その後，認知心理学誕生に至った心理学の歴史を説明する。更に，知覚心理学の基礎である感覚の種類について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第１章３～１６ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第２章第１節「視覚系の基本構造」について予習を進める 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間
	第２回	視知覚１ 【key words】 視知覚の仕組みと機能，色彩、錯視、図と地 【授業概要】 視覚系の基本構造，二次元の視知覚の仕組みと機能，特に色彩，錯視，図と地について視知覚の不可思議について授業を進める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書１７～２４ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第２章第２節「視覚の基本属性とその認知」について予習を進める 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間
	第３回	視知覚２ 【key words】 視知覚の仕組みと機能，奥行・運動知覚 【授業概要】

三次元の立体視・奥行・運動知覚についての視知覚の仕組みについて授業を進める。特に，アニメーションの原理であるβ運動やファイ現象について説明する
【教科書ページ・参考文献】
教科書２５～３３ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第２章第３節「高次な視覚認知」について予習を進める
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第４回　視覚認知
【key words】
視覚認知の仕組みと機能，パターン認識，顔の認知，認知地図，失認症
【授業概要】
高次な視覚認知，特に視覚伝導路を確認する。さらにその障害による視覚失認，失読，顔や表情の認知などについて理解を進める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書３４～４４ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。
参考文献：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編），心理学 第５版，東京大学出版会，2020　第５章３節「聴知覚」を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第５回　聴覚知覚・聴覚認知
【key words】
聴知覚・聴認知の仕組みと機能，音楽と言語音，聴覚失認
【授業概要】
聴覚系の基本構造と聴覚伝導路を知る。聴知覚と聴覚認知による音楽と言語音の認知とその障害について学習を進める。また失語症についても症例を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編），心理学 第５版，東京大学出版会，2020，第５章３節「聴知覚」１４９～１５８ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。その他の感覚である「嗅覚」と認知症の関連について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第６回　触覚・感性認知・その他の感覚
【key words】
触覚・感性認知・味覚・触覚・嗅覚の仕組みと機能
【授業概要】
触覚・感性認知とその他の感覚である味覚・嗅覚について授業を進める。味覚や嗅覚と認知症との関連，触覚と点字等についても知識を深める
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編），心理学 第５版，東京大学出版会，2020，第５章４節「触覚」１４９～１５８ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第４章「注意」について予習を進める。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第７回　注意
【key words】
認知を支える注意の働き
【授業概要】
注意は認知を支えるものである。あらゆる学習も注意によって成り立っている。注意の機能について学習する。また注意の障害についても学習を進める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書６５～９４ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第５章「ワーキングメモリ」について予習を進める。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第８回　短期記憶とワーキングメモリ
【key words】
記憶の構造，ワーキングメモリの役割
【授業概要】
ワーキングメモリを介して記憶は蓄積される。記憶の構造を学習し，その中でも短期記憶について，長期記憶との違いについて学習を進める。また日常や臨床場面での如何に記憶の知識が必要か確認していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書９５～１１８ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第６章「長期記憶」について予習を進める。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第９回　長期記憶・潜在記憶とプライミング
【key words】
記憶と意識の関係，長期記憶の構造と機能
【授業概要】
長期記憶の構造について学習を進める。エピソード記憶・手続き記憶・プライミングなど，日常

生活との対応も確認する。更に記憶障害の有名な症例も紹介していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１１９～１２９ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。記憶についての簡単な検査について予習を進める。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第１０回　記憶障害
【key words】
記憶障害の実際，認知神経心理学的検査法
【授業概要】
実際の臨床で出会った認知症の症例から，記憶障害の様相を確認する。また簡単な検査法を習熟していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１２９～１４０ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。検査法に習熟し覚える。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１１回　記憶の獲得と忘却・日常認知
【key words】
展望記憶，自伝的記憶を含めた日常認知の過程と機能
【授業概要】
日常認知の中から，特に使用頻度の高い展望記憶と自伝的記憶，更に，偽りの記憶についてもその様相を学習していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１４１～１６４ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。展望記憶を定着させる方法を考える。教科書第８「カテゴリー化」第９章「知識の表象と構造」について予習を進める。
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１２回　カテゴリー化と知識
【key words】
人間の言語の特性と障害，問題解決と推論
【授業概要】
概念形成にとって重要なカテゴリー化の機能と過程，及び宣言的知識のイメージと構造，スキーマとスクリプトについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書１６５～２１６ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第１０章「言語理解」について予習を進める。
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１３回　言語理解と問題解決
【key words】
言語理解の方法とその認知モデル，脳の言語野と失語症，アルゴリズムとヒューリスティックス，帰納法と演繹法
【授業概要】
単語認知のロゴジェンモデルやトライアングルモデル等を確認する。また脳の言語野・脳部位を確認し，失語症についてその病態を知る。問題解決の方法として，アルゴリズムとヒューリスティックス，帰納法と演繹法などについて知識を深める
【教科書ページ・参考文献】
教科書２１７～２８１ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第１３章「認知と感情」について予習を進める。
参考文献：千住　淳(著)，社会脳の発達，東京大学出版会，2012　について読み進める。

【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１４回　動機づけ・感情認知・社会脳
【key words】
認知を支える動機づけ，社会脳，表情認知
【授業概要】
感情と認知について，古典的な理論から，最新の知見まで確認する。また社会的認知に特化した社会脳と心の理論について知識を深める。表情認知障害と精神障害等の疾患との関連も紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書３０７～３３０ページ，
参考文献：千住　淳(著)，社会脳の発達，東京大学出版会，2012
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。心の理論課題を一つ作成する。前頭葉機能とその障害例について予習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１５回　前頭葉機能とまとめ
【key words】
前頭葉機能，情動と抑制，認知心理学のまとめ
【授業概要】

	感情の中枢である扁桃体と大脳辺縁系，前頭葉の働きとその障害について説明する。また前頭葉機能の簡便な検査であるFrontal Assessment Batteryや流暢性検査の手続きを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業資料「前頭葉機能とその障害例」，前頭葉機能検査 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。前頭葉機能の検査を覚える。 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間
受講生に関わる情報および受講のルール	授業態度を確認する為と，国家試験の為の重要事項について，聞いていれば必ずわかる簡単な問題の確認テストを毎回実施する予定である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式，毎回の授業の理解度についてコメントカードにより確認する
授業外時間にかかわる情報	授業中に必要な文献を適宜紹介するので，文献探索・ダウンロードしておくこと。 授業中に検査や資料を渡すので，ファイルを用意しておくこと。
オフィスアワー	授業の前後20分は対応可能
評価方法	定期試験50%，授業態度30%，確認テスト20%
教科書	箱田裕二・都築誉史・川畑秀明・萩原　滋（著），認知心理学，有斐閣，2010年
参考書	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編），心理学 第５版，東京大学出版会，2020年 千住　淳(著)，社会脳の発達，東京大学出版会，2012
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床発達心理士・公認心理師として，教育委員会の心理判定の他，病院や頭部外傷リハビリテーションセンターにて認知リハビリテーションを行ってきた。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 展望記憶の訓練において，スマホのカレンダーやタイマーを利用し，実際に使えるようにする。

講義科目名称： 臨床心理学　　授業コード： 3172

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
鎌田　依里			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭をはじめとした子どもに対する援助職に求められる臨床心理学の基礎的知識の習得を目指す。特に、これまで学んだ定型発達に関する理解を基礎に、各発達段階での目立つ心身の異常/失調、発達障害等を心理学の観点から理解し、根拠に基づいた対応を行うための知識を習得する。 〔到達目標〕 ①子どものこころの異常/失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの基礎について説明できるようになること。 ②子どもに対する心理査定の方法とその意義に関する基礎的な内容について説明できるようになること。 ③代表的な子どもに対する心理療法の理論的背景とその技法、効果と課題について説明できるようになること。
授業の概要	臨床心理学とは、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、子どもと保護者に関わる対人援助職として「こころの失調/異常」を抱える人への適切な対応/他専門家との協同できるようになるための基礎知識を広く取り上げ、そのなりたちや実践との関連を紹介する予定である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約、こころの異常・失調 (1)発達の遅れと偏り 【key words】 発達の遅れ、発達の偏り 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。また、事例を用いた演習を通じて、この講義で取り上げる子どものこころの異常／失調とそれを理解するために必要となる知識について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p22-25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：演習で使用した事例について「発達の遅れがあるかどうか」を調べ、その根拠とした資料を次回持参
	第２回	こころの異常・失調(2)困りごとを捉える4つの基準 【key words】 異常、適応的基準、価値的基準、統計的基準、病理的基準、発達の可塑性

【授業概要】
臨床心理学という学問の中で取り上げられる「こころの失調／異常」を捉える視点である4つの基準について講義を通じて知識を得る。また、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて、子どもの発達の異常（遅れ／偏り）を捉える視点について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p1-15

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：配布されたワークシートを完成させて持参すること

第３回　〃　(3)ストレッサーとストレス反応、対処方略
【key words】
ストレッサー、ストレス反応、コーピング

【授業概要】
ストレッサーとストレス反応の関係性、およびコーピングの関係性とその代表的理論について講義を通じて知識を学ぶ。また、ラザルスの心理社会的ストレスモデルにおけるコーピングの重要性について、保護者への対応を例に各自が作成したワークシートを用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p68-69

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること。また、参考にした書籍を次回講義に持参すること。

第４回　〃　(4)発達の偏り①自閉的な子/不注意な子/多動な子とは
【key words】
発達障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、学習症、二次障害

【授業概要】
保育園や小学校をはじめ、さまざまな領域で正しい知識とそれに基づく対応が求められている発達障害の特徴について、特に代表的な3つを中心に講義を通じて知識を学ぶ。また、それぞれの特徴が教室や保育現場でどのようにあらわれうるかの視点について、各自が作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p81-97

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：次回は学内の様々な教室を移動しながら作業を行うため、バインダー等を用意することが望ましい

第５回　〃　(5)　〃　②学習指導上の困難さ
【key words】
発達障害、感覚過敏、環境調整
【授業概要】
代表的な発達障害で見られる感覚過敏による学習・生活上の困難と対応する環境調整について講義を通じて知識を学ぶ。また、学内の指定教室にて生じ得る困難と可能な環境調整についてのグループワークを行い、理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p81-97

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：グループワークで使用したワークシートを各自で完成させ、次回持参すること

第６回　〃　(6)正常発達の中で見られる異常/困りごと
【key words】
発達課題、しつけ、第一次反抗期、認知発達段階

【授業概要】
発達障害をはじめとした器質的な異常が原因ではなく、正常発達の中で見られるさまざまな困りごとの背景とそれがもつ意味について講義を通じて知識を学ぶ。また、事例を用いたグループワークを通じて、それらの困りごとに対する保護者や子どもへの支援を考える際の枠組みについて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p15-21,49-63

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること。

第７回　心理療法の理論(1)精神分析的なアプローチ

【key words】
意識・前意識・無意識、イド・自我・超自我、防衛機制

【授業概要】
正常発達の中で見られる困りごとの背景を理解・支援する際に用いる臨床心理学の代表的な理論の1つとして「精神分析的なアプローチ」を取り上げ、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、この理論的枠組みを事例理解に活用する視点について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p7,40-42

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義内で指示を受けた用語の意味を教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること。

第８回　〃　(2)行動療法的なアプローチ①理論的背景とその技法

【key words】
レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習

【授業概要】
正常発達の中で見られる困りごとの背景を理解・支援する際に用いる臨床心理学の代表的な理論の1つとして「行動療法的なアプローチ」を取り上げ、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、技法と理論的根拠の対応について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p183-184

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：講義の中で指示された仕組みが応用されている取り組みの例を3つ調べ、まとめたものを次回持参すること

第９回　〃　(3)　〃　②保育場面/教育場面での応用

【key words】
幼稚園嫌い、しつけ、引っ込み思案、系統的脱感作、トークンエコノミー法、SST

【授業概要】
行動療法の考え方に基づく幼稚園・保育園・小学校での実践とその仕組みについて講義を通じて知識を得る。また、その実践における留意点について各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p49-69,144-154

【課題・予習・復習・授業準備指示】

適宜指示

第１０回　心理査定(1)面接法

【key words】
構造化面接、半構造化面接、非構造化面接、ラポール

【授業概要】
心理アセスメントの諸技法の1つである面接法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、構造化による差異とそれぞれの特長について、保護者との面談のロールプレイを通じて理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p109

【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：配布されたワークシートを完成させて持参すること

第１１回　心理療法の理論(4)カウンセリングと遊戯療法

【key words】
無条件の積極的尊重、共感的理解、純粋性、カタルシス、制限

【授業概要】
正常発達の中で見られる困りごとの背景を理解・支援する際に用いる臨床心理学の代表的な理論の1つとして「カウンセリング・遊戯療法の考え方」を取り上げ、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、その効果を支えるメカニズムについて、各自の取り組んだ課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。

	【教科書ページ・参考文献】 p43-48,178-181 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 第１２回　心理査定(2)観察法 【key words】 自然観察法、実験観察法、参加観察法、非参加観察法 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである観察法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、それぞれの手法の特長と保護者・子ども達への影響について、事例を用いたグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：次回取り上げるテーマに関して紹介した記事／映像について適宜閲覧しておくこと 第１３回　こころの異常・失調(7)愛着の問題に関連した異常/困りごと 【key words】 愛着、愛着障害、マルトリートメント、ストレンジシュチエーション法 【授業概要】 昨今の保育・教育・福祉領域で正しい理解と対応が求められている愛着の問題について講義を通じて知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p36,98-106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布された心理検査について完成させて次回持参すること 第１４回　心理査定(3)検査法 【key words】 知能検査、質問紙法、投影法、作業検査法 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである検査法の特徴、特に知能検査について講義を通じて知識を学ぶ。また、各自の完成させた検査結果を用いたグループワークを通じて査定結果の意味について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p110-118、173-177 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 第１５回　まとめ 【key words】 【授業概要】 15回の講義の振り返りを行い、これまでに紹介した臨床心理学の知識を用いた実践について講義・演習を通じて知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内で受けた指示に沿って定期試験への準備を行うこと
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・社会福祉専攻の学生の受講は原則として不可とする。受講を希望する場合には必ず事前に相談すること。 ・初回のオリエンテーションに必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合は事前に担当教員に申し出ること。 ・課題として調べ学習や自分の考えをまとめるレポートの作成を求める機会が多いため、図書館，PC室／LL室の利用が可能なようにしておくこと。 ・講義内で上記の課題を教材として用いたグループワークを行う機会が多い点に留意すること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・教科書を毎回持参すること。 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。

	・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・授業中は、講義に集中するため、原則として携帯電話、スマートフォン、タブレット端末は使用せず、マナーモード等にして卓上に置かないこと。何らかの事情で使用が必要な場合には各回の講義開始前に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	次回内容の予習にあたる「用語調べ」をレポート課題として毎回課すため、シラバスの記載内容や授業内での指示に留意すること。なおこの課題を用いて講義内でグループワークを行うため、積極的かつ真摯な取り組みを望む。
オフィスアワー	初回に指示する。
評価方法	レポート課題の提出：35%、課題内容および授業内課題の取り組みの評価：35%、定期試験：40% （詳細は初回講義時に説明）
教科書	山口勝己（著）「子どもの理解と発達臨床」北大路書房（2007）
参考書	麻生 武・浜田寿美男(編)　よくわかる発達臨床心理学〔第4版〕　ミネルヴァ書房（2012）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人格心理学　　授業コード：3262

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人格（パーソナリティ）と感情に関わる事柄を考える際、常識的・経験的な視点ではなく、人格や人の感情の動きの理論に基づき、多面的に見る目を養うことを目的とする。 【到達目標】 ①人とその心の全体的な理解をめざして、多様な人格（パーソナリティ）理論と感情のメカニズムについて理解できる。 ②すべての人に共通する視点、集団の一員としての人を理解する視点、一人ひとり個別の人間を理解する視点という三層の視点を養う。 ③人格と感情の関係を理解し、その危機や回復について理解をし、「人がその人らしく生きる」ことを心理学的に支援する方法を描ける。
授業の概要	人格（パーソナリティ）と感情に関する心理的理論や心理学的な捉え方について、教科書に沿いながら学んでいく。人そのもののあり方やその感情の動きについて、時に了解しがたいものも抱え込む人間心理について理解をするため、人格や感情について編み出された概念や用語を学ぶことで、人間を深く理解する視点を養う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（パーソナリティの理論）（1-18ページ） ）：気質、類型論、特性論、ビッグファイブ、人間一状況論争
	第２回	パーソナリティの測定①（23-32ページ） 主要なパーソナリティ測定法、「質問で人を測るには？」 ・質問紙法 （MMＰＩ、ＹＧＰＩ、16ＰＦ、ＭＰＩ、ＮＥＯ－ＰＩ－Ｒ、ＥＰＰＳ　等）
	第３回	パーソナリティの測定②（33-39ページ） 作業検査、投影法検査「行動の仕方や反応のパターンで人を測るには？」 ・作業検査法 ・投影法 （クレペリン検査、ロールシャッハ・テスト、ＴＡＴ、Ｐ－Ｆスタディ、ＳＣＴ　等）
	第４回	知能の測定（39-44ページ） ・ビネー法、知能指数と偏差知能指数、ウェクスラー法、ＤＡＭ ・人口知能とパーソナリティ
	第５回	感情と認知（45-58ページ） 感情価、感情、気分、情動 ・記憶欠損、感情依存記憶、感情一致記憶、ネットワークモデル、スキーマモデル
	第６回	感情と動機づけ①（59-70ページ） 情動、期待、予期、原因帰属、自己効力、アンダーマイニング効果、エンハンシング効果
	第７回	感情と動機づけ②（71-80ページ） 自己決定論、基本的欲求理論、目標内容理論、達成目標理論、達成感情

	第８回　発達①（パーソナリティ心理学の視点から）（81-99ページ） クロニンジャーの気質・性格理論、行動遺伝学、アタッチメント・スタイル ・アイデンティティとパーソナリティ、加齢とパーソナリティの変化 ・ＳＯＣ理論、制御理論、赤の女王仮説 第９回　発達②（感情心理学の視点から）（101-109ページ） 感情、認知的評価理論、感情発達 ・微笑の発達、微笑の変化、デュシェンヌ・スマイル ・自己意識的感情、口紅課題、社会的参照、表示規則 第１０回　発達③（感情心理学の視点から）（109-119ページ） 性ホルモン、脳の変化 ・社会感情的選択理論、感情知性、社会感情的学習 第１１回　対人関係①（パーソナリティ心理学の視点から）（121-133ページ） 友人関係とパーソナリティ、恋愛関係とパーソナリティ ・成人の愛着理論（アダルトアタッチメント理論） 第１２回　対人関係②（感情心理学の視点から）（135-154ページ） 自己システム内におけるシグナル機能、感情のコミュニケーション機能 ・感情経験と感情表出、表出誇張、表出抑制、感情抑制 ・感情隠蔽、感情偽装、感情調整、感情コンピテンス 第１３回　適応・健康①（パーソナリティ心理学の視点から）（155-171ページ） タイプＡパーソナリティ、タイプＣパーソナリティ、タイプＤパーソナリティ ・アレキシサイミア、アレキシソミア ・楽観性、レジリエンス、完全主義 第１４回　適応・健康①（パーソナリティ心理学の視点から）（173-189ページ） ポジティブ感情、ネガティブ感情 ・精神疾患と感情、社交不安 ・パニック、強迫症 ・身体的健康、反復性思考、心的イメージと内的自己表象 第１５回　まとめにかえて（プリント） 「偉い人」とはどういう人か
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・選択科目ではあるが、社会福祉士や公認心理等国家資格に関連する基礎知識も扱うので、受験を考えている学生は積極的な受講を期待する。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用等）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象となるので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業概要を参考に、次回の授業範囲を読了して授業に臨むこと。授業時に発言を求めながら確認をする。
オフィスアワー	火曜日　11：00～13：30
評価方法	・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点６０～６９点：C　７０～７９点：B　８０～８９点：A　９０点以上：S ・期末試験７０％、小レポート・感想文等提出物３０％（３０÷提出回（予定3回）＝１提出物得点（１回10点満点：提出により得点）） ・ディラン・エヴァンズ（2005）『感情』（岩波書店） ・シュルツ（1982）（上田吉一訳）『健康な人格』（川島書店） ・西平直喜（2004）『偉い人とはどういう人か』（北大路書房） ・Dan.P.McAdams（2009） The Person:An Introduction to the Science of Personality Psychology .(5th edition). Wiley.,USA. 他適宜指示。
教科書	鈴木公啓・荒川歩・太幡直也・友野隆成（2018）『パーソナリティ心理学入門：ストーリーとトピックで学ぶ心の個性』（ナカニシヤ出版）
参考書	・ディラン・エヴァンズ（2005）『感情』（岩波書店） ・シュルツ（1982）（上田吉一訳）『健康な人格』（川島書店） ・西平直喜（2004）『偉い人とはどういう人か』（北大路書房） ・Dan.P.McAdams（2009） The Person:An Introduction to the Science of Personality Psychology .(5th edition). Wiley.,USA. 他適宜指示。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）

	□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉法制　　授業コード：3302

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　社会福祉は、憲法25条にその根拠を置くが、その多くは、憲法25条を具体化した福祉六法等の社会福祉に関する法律に基づいて運営される。従って、社会福祉をはじめとする相談援助を志す者は、この社会福祉に関する法律を知り、理解することが不可欠である。この授業は、社会福祉法制の歴史を踏まえた上で社会福祉に関する法律を理解し、法的な面からの社会福祉の考察を目指す。 【到達目標】 ①社会福祉と法の通史的観点を身につける。 ②六法で条文を調べることができる。 ③社会福祉六法等につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ④法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	社会福祉法制の歴史、憲法との関わりを明らかにした上、社会福祉法及び社会福祉6法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、介護保険法、そして、障害者自立支援法などを例にとり、概説する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	◎
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、社会福祉法制の意義と体系 【key words】 社会福祉法制　社会保障　社会福祉　公的扶助 【授業概要】 社会福祉法制の意義と体系について説明をする。 個々の社会福祉概念につき説明をする。” 【教科書ページ・参考文献】 プリント１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】プリント２pp1~2、資料pp12~15 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	社会福祉の法と行政のあゆみⅠ 【key words】 鰥寡条　目盲条　恤救規則 【授業概要】 古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント２pp1~2、資料pp12~15

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】プリント２pp3~4、資料pp16~19
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　社会福祉の法と行政のあゆみⅡ
【key words】
鰥寡条　目盲条　恤救規則
【授業概要】
古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。
【教科書ページ・参考文献】
プリント２pp3~4、資料pp16~19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】プリント３
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　日本国憲法と社会福祉
【key words】
幸福追求権　生存権　公的助成　地方自治
【授業概要】
社会福祉法制の基礎となる日本国憲法について、特に関連する事項について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
プリント３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp27～32、pp67～68
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　社会福祉法Ⅰ（理念・目的、定義、実施機関・専門職務者など）
【key words】
目的・理念　社会福祉事業　福祉事務所
【授業概要】
社会福祉法の目的・理念、定義、福祉事務所等の実施機関・専門職務者などについて説明する。

【教科書ページ・参考文献】
pp27～32、pp67～68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp32～67
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　社会福祉法Ⅱ（社会福祉法人、社会福祉事業、地域福祉の推進など）
【key words】
社会福祉法人　社会福祉事業　福祉サービス
【授業概要】
社会福祉法人について説明する。
社会福祉事業の主体、経営準則、福祉サービスの制度等につき説明する。
【教科書ページ・参考文献】
pp32～67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書 pp98～104
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　生活保護法Ⅰ（目的・理念、原理・原則、実施機関と専門職務者、収入認定など）
【key words】
目的・理念　原理・原則　福祉事務所、収入認定
【授業概要】
生活保護法の目的・理念　原理・原則を説明する。
福祉事務所といった実施・現業機関や専門職務者に就き説明をする。
保護決定のための収入認定について説明をする。
【教科書ページ・参考文献】
pp98～104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp104～120
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　生活保護法Ⅱ（保護の決定・実施、保護の種類・範囲・方法、保護施設、被保護者の権利義務など）
【key words】
保護の決定・実施　保護の種類・範囲・方法　保護施設　被保護者の権利義務
【授業概要】
保護の決定・実施、それに基づく保護の種類・範囲・方法、保護施設について説明をする。
保護を受ける被保護者の権利および義務について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
pp104～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp168～248
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　児童福祉法
【key words】
児童　児童相談所　児童福祉事業

【授業概要】
児童福祉法の基本理念、対象、実施期間、事業・施設について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
pp168～248
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp308～321　資料(教育基本法、少年法)
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　母子及び父子並びに寡婦福祉法、教育基本法、少年法（刑法との関連から）
【key words】
母子等　寡婦　児童福祉審議会、教育基本法、少年法、刑法
【授業概要】
母子及び父子並びに寡婦福祉法の目的、定義、サービス等を説明する。
児童・未成年保護の観点から教育基本法、少年法（刑法との関連して）についても概説する。
【教科書ページ・参考文献】
pp308～321　資料(教育基本法、少年法)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp617～627
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　身体障害者福祉法
【key words】
身体障害者　身体障害者更生相談所　身体障害者福祉司　身体障害者手帳　身体障害者更生施設
【授業概要】
身体障害者福祉法の目的・理念、定義、実施機関等について、身体障害者手帳、身体障害者福祉法のサービス・施設について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
pp617～627
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp654～681
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
【key words】
知的障害者　療育手帳　精神障害者　精神障害者保健福祉手帳
【授業概要】
知的障害者福祉法と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律を比較しつつ、それぞれの目的、定義実施機関等を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
pp654～681
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp559～602　資料(労働三法、労働安全衛生法)
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　障害者総合支援法、労働三法、労働安全衛生法
【key words】
目的・理念　障害者　応能負担、労働三法、労働安全衛生法
【授業概要】
障害者総合支援法の目的、基本理念、定義、サービス等を説明する。
就労支援に関連して労働三法、労働安全衛生法についても概説する。″
【教科書ページ・参考文献】
pp559～602　資料(労働三法、労働安全衛生法)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp323～336、pp377～513

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　老人福祉法、介護保険法
【key words】
老人福祉法、介護保険法、老人、被保険者、要支援、要介護
【授業概要】
老人福祉法、介護保険法の目的、定義、サービス等を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
pp323～336、pp377～513
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書（主だった条文）、プリントの見直し
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　まとめ
【key words】
社会福祉法制の体系　社会福祉法制のあゆみ　福祉六法　障害者総合支援法　介護保険法
【授業概要】
社会福祉法制に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（主だった条文）、プリントの見直し
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。　また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉六法」ミネルヴァ書房，2019年
参考書	宇山勝義 他 編「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房，2010年 河野正輝 他 編「社会福祉法入門 第3版」有斐閣，2015年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 臨床心理学特講(神経・生理心理学)　　授業コード：3342

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　淳			
公認心理師 学部科目	B. 心理学発展科目 ⑩神経・生理心理学		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】大脳を中心とした中枢神経系の構造と活動(すなわち、高次脳機能)は、ヒトが生きていく上でのさまざまな心理事象・認知行動の生物学的基盤そのものであり、その基盤自体を支持・応用するものでもあります。その一方で、高次脳機能障害の様子に対する世間一般の理解のしかたとしては多彩ゆえに不可解な印象をもちやすいともいえ、当事者の心理的ケアはそのリハビリテーション上 極めて重要です。その支援に携わる心理専門家は、一見不可解なその当事者の心の成り立ちや仕組みについての科学的理解・根拠にもとづくことが必須であるといえます。本授業では、その素養である神経・生理心理学の知識と考え方を教授し、症例等も提示しながら立体的・有機連関的な当事者理解に導きます。 【到達目標】 1)中枢神経系の構造と機能の概要を説明できる。2)心理事象・認知行動の生理学的基盤・機序を概説できる。3)高次脳機能障害の病態を説明できる。4)多彩な高次脳機能障害児者の多様なリハビリテーションに伴なう心理的ケアのポイントとその根拠を説明できる。
授業の概要	1)中枢神経系の構造・構成と機能・情報処理について、視覚的に講じ、2)認知行動の各側面とそれに与る中枢神経系部位等の対応関係(機能局在と神経連絡)をおさえます。その上で、3)脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患の各病態を概観し、高次脳機能障害の臨床症状群を理解し、4)当事者のリハビリテーションにおける心理的ケアのポイントと根拠について言及します。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　ヒトの心理事象とその生物学的基礎　神経・生理心理学を学ぶ意義 【key words】 精神機能　行動　生物学的基盤　全体論と局在論　研究方法 【授業概要】 心と脳は“同一”のものであるという作業仮説にもとづいて、多彩な精神機能・行動と脳との関係をどのように考えるか、その学問的背景を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 pp.1-10、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第２回	神経系の解剖・生理　1　神経系の構成と情報伝達　連絡線維　髄鞘化　神経系の発生と成長・発達 【key words】 神経細胞（ニューロン）　グリア細胞　血液-脳関門（BBB）　神経信号伝達の物理/化学　跳躍伝導 【授業概要】 神経活動の基本単位であるニューロンの機能解剖を概観し、特に中枢神経系の発達（髄鞘化）にともなう跳躍伝導が迅速な認知行動の下地であることを理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.11-13,18-46、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第３回　神経系の解剖・生理　２　大脳の3次元構成　皮質と皮質下　機能局在と全体　連合野　　脳動脈系　画像診断

【key words】
前頭葉　頭頂葉　側頭葉　後頭葉　大脳基底核　視床　機能局在　連合野　脳血管系　責任病巣　CT/MRI

【授業概要】
大脳の各部位(脳葉皮質および皮質下構造)が分担しかつ統合する生理・心理機能とあわせて、それらを維持するのに不可欠な栄養・酸素供給の仕組み(脳血管系・脳血流)を知り、臨床上基本的な画像診断情報について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第４回　小テスト　１　および　神経活動の背景・一般機能　意識　注意　認知適応のための構え

【key words】
意識レベル　見当識　感情　気分　意欲　(汎性)注意　精神反応　機能変動

【授業概要】
臨床上、大脳巣症状に多様に影響をおよぼし修飾しうる大局的・全体的な背景機能・一般機能の状態について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第５回　視覚　聴覚　体性感覚　運動　大脳の機能的非対称性(側性化)　利き手

【key words】
視覚　聴覚　体性感覚　身体運動　大脳の側性化　利き手

【授業概要】
感覚様式ごとの知覚・認識や身体運動の調整にかかわっている経路・仕組みを概観し、利き手や言語中枢と関係する大脳の機能偏倚を知ります。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.47-64,185-200、配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第６回　小テスト　２　および　言語(speechとlanguage　言語中枢　角回　縁上回　右半球と言語)

【key words】
話しことばと言語　運動言語中枢　感覚言語中枢　弓状束　角回　縁上回

【授業概要】
ヒトに固有な高次脳機能である言語行動を支持する神経系の機能解剖を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.185-200、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第７回　学習　記憶

【key words】
ワーキングメモリ　長期記憶　側頭葉内側部　間脳　健忘　学習　意思決定　脳の可塑性

【授業概要】
適応行動の基盤でもある学習と記憶の生理・病理について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.65-80,81-110
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第８回　小テスト　３　および　情動　感情　動機づけ　発動性　人格　ストレス

【key words】
情動　自律神経系　大脳辺縁系　情動の表出　情動の認知　ストレス　動機づけ

【授業概要】
喜怒哀楽が行動の組織化にどのようにかかわってくるのかについて言及します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.111-136,137-164
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第９回　睡眠　概日リズム

【key words】
睡眠　睡眠周期　脳波　脳幹網様体賦活系　概日リズム

【授業概要】
日常生活の大きなリズムである睡眠の生理について系統発生的・生涯発達的に学ぶとともに、睡眠の病態にもふれる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp201-226、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１０回　小テスト　４　および　脳損傷(神経内科・脳神経外科的疾患)概要、高次脳機能障害　１　失語　１　臨床分類と特徴的症状
【key words】
脳損傷の病態　失語症　古典的分類　臨床症状

【授業概要】
脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患を概観し、失語症の臨床分類・特性について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１１回　高次脳機能障害　２　失語　２　リハビリテーションにおける心理的ケア
【key words】
言語治療　失語症リハビリテーション　失語症者の心理・社会的問題

【授業概要】
失語症リハビリテーション過程ならびに治療的コミュニケーションの意味を理解します。また、失語症者がかかえやすい心理・社会的問題について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１２回　小テスト　５　および　高次脳機能障害　３　失行・失認　１　臨床分類と特徴的症状(遂行機能障害を中心に)
【key words】
高次脳機能障害　失行　失認　臨床症状

【授業概要】
一見不可解に感じられてしまいがちな高次脳機能障害の神経心理学的病態を、障害当事者の視点に立って理解します。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１３回　高次脳機能障害　４　失行・失認　２　リハビリテーションにおける心理的ケア
【key words】
高次脳機能障害リハビリテーション　高次脳機能障害者の心理・社会的問題

【授業概要】
高次脳機能障害リハビリテーション過程ならびに生活行動支援の意味を理解します。また、高次脳機能障害者がかかえやすい心理・社会的問題について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１４回　器質性精神疾患(認知症を中心に)　特徴的症状　リハビリテーションにおける心理的ケア
【key words】
認知症　臨床症状　認知症リハビリテーション　認知症者の心理・社会的問題

【授業概要】
記憶障害の特徴的進展が中核の認知症者について、その心理・社会的問題を中心に、リハビリテーション過程ならびに生活行動支援の意味を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.165-184,249-272、配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１５回　小テスト　６　および　臨床評価(神経心理検査)のテストバッテリー 概説　授業全体のまとめ
【key words】
神経心理検査　臨床評価　エビデンス　職業倫理

【授業概要】

	神経心理検査の代表的なものについて、その評価守備範囲・構成内容を紹介します。あわせて、支援対象者を評価し支援するということの職業倫理を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
受講生に関わる情報および受講のルール	各専門用語で表わされる内容を徐々に組み上げていくように授業が進展していきますから、小テストを足がかりに都度確実に理解しようという姿勢が受講生には求められます。それを経ることで、高次脳機能障害児者の支援にかかわる心理専門家としてのevidence-based practiceの基本が養われていきます。必ず慣れてきますから、少し難しさを感じたくらいで学びを諦めないこと。高次脳機能障害児者は、かかえてしまったその障害特性の本質を理解しようとする 一人でも多くのひと(＝皆さん)の支援現場登場を待っているのです。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	まずは授業の復習を十分に行なうようにして下さい。あわせて、世に送り出されている数多くの神経心理学書を複数手に取って読みましょう。電子メディアに載っている中枢神経系のアトラスも多く眺め、あわせて自分の手で実際にイラストを描いてみるなど、その構造の立体的理解に努めて下さい。 ★1回の授業に対して、概ね1.5時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	6回の小テスト(60%)および学期末レポート(40%)で評定します。
教科書	岡田隆・広中直行・宮森孝史　生理心理学　第2版　脳の働きから見た心の世界　サイエンス社　2015年
参考書	ジョン・ピネル　佐藤敬 他 訳　ピネル バイオサイコロジー 脳-心と行動の神経科学　西村書店　2005年 山鳥　重　神経心理学入門　医学書院　1985年 メディックメディア　脳・神経　病気がみえる 第7巻　メディックメディア　2014年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 言語聴覚士として、聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、大学病院等 において 当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育者論　　授業コード： 4002

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育者の役割と職務内容について理解し、保育者の専門性について理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 ①保育者の役割と倫理について理解する ②保育士の制度的位置づけについて理解する ③保育士の専門性について考察し、理解する ④保育者の協働について理解する ⑤保育者の専門職的成長について理解する
授業の概要	保育士の制度的な位置づけから、保育者に求められる役割や倫理について理解する。また、保育士に求められる専門性について考察を深めていく。 保育者の仕事内容と留意点について学び、子どもに寄り添う生活者としての保育者の役割や、子どもの安全に対する配慮についての知識を深める。 保育の課題と問題点をグループで課題解決に向けた話し合いが出来るようにする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 講義についての説明と解説（保育者論を学ぶにあたって） 次週の予定の教科書Ｐ１６～２７を読んでおくこと 【授業概要】 ・授業の目的、授業の概要、授業計画、評価方法などを伝え、保育者論を学ぶ取り組みについて説明。 ・働く目的と保育哲学について考え、深い学びを指導する。 ・社会人、保育士となる準備と心構えについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP11～15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保育を選んだ自分の気持ちを書き出してみる。 次週の予定　テキストP16～27を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	保育現場が求める保育者像 【key words】

「せんせい」と呼ばれる条件

【授業概要】
・ペスタロッチが広めた３Ｈ＋３つの条件の合わせて６つの条件について説明。
・保育の振り返り、評価を生かしてさらに改善していくことの大切さを伝える。
・保育における「自由」と「強制」の問題として、遊びをとおして行う保育の保育者の援助について考える。
【教科書ページ・参考文献】
「せんせい」と呼ばれる条件

テキストP16～27

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「発達の最近領域」について調べ、まとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　園での保育者の役割と信頼
【key words】
「気づき」と「気働き」

【授業概要】
・保育者に求められる「気づき」の力について説明。
・「気働き」ができる保育者を目指すには具体的にはどのようなことなのか、実例をいくつか挙げて解説。
・「観察力」と「洞察力」、「想像力」と「行動力」について事例を挙げながら、より深い理解を得られるよ　うにする。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP28～32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
周囲の人達に「気働き」を念頭に接していくことを試みる。試みた事例をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
継続的に行う

第４回　保育者の仕事内容と留意点①　保育者の仕事と役割
【key words】
「自由保育」と「一斉保育」

【授業概要】
・「自由保育」と「一斉保育」の形態について。またその対比をし、深い学びにする。
・自由保育の具体的な支援についてその方法ややり方を具体例を出して説明。
・主活動における保育者の仕事と役割について考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP62～70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「自由保育」と「一斉保育」の利点をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　保育者の仕事内容と留意点②　子どもに寄り添う生活者としての保育者
【key words】
保育者の存在

【授業概要】
・自分が幼少期の頃にかかわった先生との思い出のエピソードをあげてみる。
・子どもの育ちと保育者のかかわりについて一日を通して考えてみる。
・職員間の連携、保護者との連携について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

テキストP71～74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
職員間の連携、保護者との連携の事例を解釈する。（課題配布）
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　保育者の仕事内容と留意点③　子どもの安全に対する配慮
【key words】
環境を整える

【授業概要】
・子どもの安全に対する配慮として、求められる配慮を考える。
・実際にあった子どもの事故や怪我の実例を話し、どのような配慮が必要であったか、考え話し合う。
・安全指導の行い方について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP75～78
「死を招いた保育」猪熊弘子　ひとなる書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際にあった子どもの事故事例をしらべ、書き出しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　保護者・地域社会と保育者の役割①　信頼される保育者になるために
【key words】
「受容」「傾聴」「共感」

【授業概要】
・信頼されるために必要な専門性について学ぶ。
・信頼される保育者の基本姿勢として「受容」「傾聴」「共感」について説明。
・保護者に対し、親としての自信を支える姿勢になるためにはどのような手立てが必要なのか、事例の中から
　グループワークを行い、学びを深める。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP100～104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人と接する時、「受容」「傾聴」「共感」を普段から心掛けること。
【予習復習に必要な想定時間】
継続的に行う

第８回　保護者・地域社会と保育者の役割②　子ども理解を深める
【key words】
子どもを理解する視点

【授業概要】
・子どもの発達過程からの理解と子どもが生活する家庭・家族をどのようにとらえて子どもの理解を深めるの　か、という２つの視点から考えてみる。
・虐待の実態とその対策について考え、グループワークを行う。
・家庭の貧困について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP109～116
「つみびと」山田詠美　中央公論新社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週の予習として、一年間の行事を書き出しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　行事に対する保育者の取り組み①　「行事」はなぜ必要か
【key words】
「行事」はなぜ必要なのか

【授業概要】
・行事とは何か、行事がもつ意味や意義を考える。
・年間の行事をあげて、一年間にどのくらいの行事があるのか確認する。
・行事に関する絵本や紙芝居の紹介。
・行事を行う上での保育の導入をどのように扱うか考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP117～121
【課題・予習・復習・授業準備指示】
行事に関するペープサートを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１０回　行事に対する保育者の取り組み②　「行事」における保育者の役割
【key words】
行事に向けた指導法

【授業概要】
・行事に向けて体制をどのように整えるべきか考える。そこで導入の大切さに着眼し、子どもの自然な姿を引　き出せる指導方法を、事例を挙げながら説明。
・行事にかかわる保育者の取り組みと学びについて図式化して説明。
・課題のペープサートをグループで紹介し合い、良かった点や改善点を話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP122～133
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「集団生活の中での子どもにとっての行事」とはどうあるべきか自分の考えをレポートにする。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　保育環境の課題と問題点①　多様化する保育需要
【key words】
保育需要

【授業概要】
・保育需要の多様化の背景について学ぶ。
・保育需要の多様化への対応と保育者の役割について考える。
・早期教育の是非を考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP134～142
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「早期教育」についての自分の考えを記述する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　保育環境の課題と問題点②　保幼小連携
【key words】
育ちの問題

【授業概要】
・子どもの育ちの問題から、「学級崩壊」「小１プロブレム」についての説明。
・幼小連携の現状について。具体的な取り組みと課題を考える。
・幼保一体化と社会の方向性について考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP143～150
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週の予習として、各国の特徴を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　諸外国の保育から学ぶこと
【key words】
諸外国の保育を知る

【授業概要】
・ドイツ、フランス、中国、スウェーデン、オーストラリアの保育施設や保育方法について説明。
・社会と文化が生み出す保育の違いについて考える。
・保育の国際化がもたらすものを考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP151～167

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 諸外国の保育を調べ、更に学びを深める。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　保育者の専門職的成長①　専門性の発達 【key words】 プロとしての保育者の資質 【授業概要】 ・プロフェッショナルとは何か考え、プロになるためには自覚的努力が重要であることの説明。 ・一般常識としての職場での行動を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP168～172 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プロの最低必要条件を念頭において行動するよう、普段から心掛ける。 電話対応・敬語の使い方についての課題をする。 【予習復習に必要な想定時間】 継続的に行う 継続的に行う　課題60分 第１５回　保育者の専門職的成長②　生涯発達とキャリア形成 【key words】 保育を「わかる」ために 。 【授業概要】 ・常に学びの姿勢をもち、保育を「知る」から「わかる」へ変化させていけるようにすることの大切さを説　　明。 ・子育ての情報、保育施策への関心を導く。 ・専門的知識・技能を保育の「知恵」へ発展させる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP173～180 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んだところで疑問やさらに学びたいことを紙面に書き出す。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・保育士資格取得希望の学生はすべての授業に出席すること・授業シラバスを確認し、積極的に授業jに取り組むこと・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁 ・配布されたワークシートはまとめておき、毎授業持参する。 ・「意見交換」や「他者説明」を促した際には、近くの学生と積極的に取り組むこと ・欠席、遅刻する場合は、必ず学校に連絡すること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・保育についていつも関心を持っておくこと（保育関係の時事問題には必ず目を向けること） ・予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語を調べておき、調べた用語をノートにまとめておく
オフィスアワー	月曜10:30～12：00　それ以外の時間帯については、アポイントを取って下さい。
評価方法	筆記試験60%、授業への取組、授業時に課すレポート40%。総合評価は筆記試験、平常点ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	上野恭裕編：プロとしての保育者論．保育出版社．2011
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【アクティブラーニングについて】 ①協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習、②デスカッション、ディベート、③グループワーク 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 私立幼稚園教諭主任、公立幼稚園、小学校教諭での現場での経験を活かし、教諭としての知識、技術、価値、倫理について講じます。また「保幼少連係」についての重要度から課題解決に向けての意識を高めていきます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 学習状況により、変更する場合もある。

講義科目名称：　保育課程論　　授業コード：4003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
江島　正子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	保育所保育を含む幼児教育に関する教育課程・カリキュラムについて学習する。幼児期の教育と教育課程の基礎的・基本的理念を知る。その上で具体的に教育課程の編成、指導計画の作成を行う。この教育課程の作成は単なる技術論ではない。幼児教育の本質に根ざしていなければならない。保育者はこども一人ひとりの特性と発達の課題に即した教育環境を構成する。
授業の概要	世界とわが国における幼児教育の歴史を振り返り、現状の諸問題点を探る。入園から卒園までのこどもの生活を総括的に知り、保育所の保育計画を含めたカリキュラム、教育課程、指導案について考察を加える。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　自己紹介と授業の進め方 第２回　幼稚園教育の歴史を知る 第３回　幼稚園教育の目的と意義を知る 第４回　幼稚園教育要領の理解　基本・目標 第５回　幼稚園教育要領の理解　ねらい・内容 第６回　保育と教育方針　保育の実際と指導計画 第７回　年間計画　月案計画　日案計画（基本的事項と手順） 第８回　教育課程の編成と指導計画の作成 第９回　教育課程の意義 第１０回　教育課程と指導経緯の評価の実例　長期指導計画 第１１回　演習問題　ディベイト 第１２回　日案作成　環境の構成・再構成

	第１３回　　日案作成　指導計画　カリキュラム 第１４回　　指導の必要性　指導の評価 第１５回　　幼稚園と保育所および小学校の連携
受講生に関わる情報および受講のルール	欠席や遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。授業中は私語を慎む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内容に関係する内容をレポートでまとめる課題が課せられたら、必ず指定日までに提出すること。
オフィスアワー	なし
評価方法	定期試験（60%）　レポート（20%）　授業への取り組み（20%）　ディベイトなどで総合的に判断する。
教科書	岸井勇雄他著 『あたらしい幼児教育課程総論』 同文書院
参考書	マリア・モンテッソーリ著 『子ども―社会―世界』 ドンボスコ社　授業中にもそのつど紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 子どもの保健Ⅱ　　授業コード：4052

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 子どもの心身の健康増進と健やかな生活の確立をめざし、実際の保育現場で実践できる子どもの保健に関する知識や技能の習得を目的とする。 【到達目標】 ①小児各期における発育や発達に応じた保育・養護の知識・技術を身につける。 ②小児の病状を観察し、適切な救急処置・看護することができる。 ③保育における安全な環境を提供することができる。
授業の概要	子どもの発育の観察と評価、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境整備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の現場で実現できる能力を養う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション、日常の保育における健康観察 【key words】 授業の目的、注意事項、健康・発育観察 【授業概要】 授業の位置づけ、目的、授業の評価方法、注意事項、子どもの日常保育における健康観察、発育観察について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１１～２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ３０～４２ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	発育の観察 【key words】 発育の観察、身体測定、発育の評価 【授業概要】 身体発育の観察と評価、身体計測の方法、発育・栄養状態や体格の評価方法 【教科書ページ・参考文献】 ｐ３０～４２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ４２～４９ 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第３回	生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価 【key words】 生理、感覚、運動、精神機能 【授業概要】 生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ４２～４９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ５０～５８、ｐ６８～７２ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	子どもの健康増進と保健環境 【key words】 健康増進、保育環境、生活リズム、抱き方、寝かせ方、おんぶひもの使い方 【授業概要】 保育環境の条件、保育環境の整備、１日の生活リズム形成のための生活習慣、生活習慣形成のための支援技術について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ５０～５８、ｐ６８～７２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ５８～６５、ｐ７２～８２ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	健康的な生活習慣形成のための支援技術（１）食事、排泄 【key words】 食事習慣、排泄習慣、授乳・離乳、おむつ交換 【授業概要】 食の役割、食事習慣形成における留意点、排泄の意義、排泄習慣形成における留意点、授乳・離乳方法、おむつ交換方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ５８～６５、ｐ７２～８２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ６５～６７、ｐ８２～９１ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	健康的な生活習慣形成のための支援技術（２）衣服着脱、清潔 【key words】 衣服着脱、清潔、入浴 【授業概要】 衣服の意義、着脱習慣形成における留意点、清潔保持の意義、清潔習慣形成の留意点、乳児の服の着せ方、入浴の方法、浴後ケアの習慣形成について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ６５～６７、ｐ８２～９１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ９４～１０１ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	子どもの病気の特徴、起こりやすい症状とケア 【key words】 発熱、嘔吐、下痢、腹痛、咳、けいれん、発疹、便秘、薬の与え方 【授業概要】 発熱、嘔吐、下痢、腹痛、咳、けいれん、発疹、便秘の原因と観察・ケア、薬の与え方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ９４～１１２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ１１２～１１９ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	子どもの疾病と適切な対応 【key words】 てんかん、脳性まひ、心室中隔欠損、ネフローゼ症候群、糖尿病、喘息、食物アレルギー、発達障害 【授業概要】 先天性疾患、慢性疾患、発達障害のある子どもへの適切対応について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１１２～１１９

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１２０～１３７
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　事故防止および健康安全管理
【key words】
子どもの事故、安全保育、災害時
【授業概要】
子どもの事故の特徴、保育における安全教育、災害時等の対応について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１２０～１３７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１３８～１４３
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　保育の場における救急蘇生法
【key words】
救急蘇生法、反応、呼吸、大出血、体位、体温、救急車
【授業概要】
救急蘇生法の概念と目的、アルゴリズム、観察ポイント、体位管理、体温管理、救急車の要請方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１３８～１４３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１４３～１５５
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　子どもにおける一次救命処置
【key words】
意識・呼吸確認、胸骨圧迫、人工呼吸、AED、気道異物

【授業概要】
一次救命処置の意義、ガイドライン、手順、留意点、気道異物の除去方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１４３～１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１５５～１７０
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　起こりやすい事故と応急手当
【key words】
外傷、熱中症、溺水、異物の誤飲・誤嚥

【授業概要】
外傷、熱中症、溺水、異物の誤飲・誤嚥など起こりやすい事故と応急手当について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１５５～１７０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１７１～１９２
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　予防すべき感染症
【key words】
感染症、予防接種

【授業概要】
保育園・幼稚園・学校において予防すべき感染症と発生時の対応、予防接種について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１７１～１９２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１９２～１９７
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　予防接種、保育の場で行う感染の予防
【key words】
保育の場、感染症予防

【授業概要】
手の清潔、保育室・教室の消毒と清掃、トイレ・おむつ交換台のの清潔、屋外の清潔の確保について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１９２～１９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
期末まとめ
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　まとめ
【key words】
健康発達観察、保健環境整備、生活習慣形成、病気予防、事故防止、救急蘇生法、感染症の予防

	【授業概要】 子どもの健康発達の観察、保健環境の整備、生活習慣形成の支援、病気の予防と対応、事故防止、救急蘇生法、感染症の予防について復習する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末試験の準備 【予習復習に必要な想定時間】 240分
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。実習の準備から実施、後片付け、清掃まで積極的な態度で取り込むこと。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（80%）、ノート（20%）
教科書	今井七重　編著　　子どもの保健Ⅱ　　（株）みらい　　最新版
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容（表現）　　授業コード：4151

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	１単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
岡部　千尋			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「領域　表現」における理論的・実践的な学びを通じ、子どもの創造的・想像的表現の育ちを支える理論・技術・感性の獲得を目指す 基本的な表現技術や指導技術が備わるよう日々の練習を心がける。「表現」の高い技術を有することはもちろん大切だが、表現の楽しさを知っていること、表現に対して興味を持ち何でもやってみようとする姿勢を培う。 【到達目標】 ①乳幼児の表現に関わる保育内容の変遷を知り、「領域　表現」の基本的理念を理解する。 ②乳幼児の身体や言葉の表現の特徴を知る ③子どもの育ちを支える、学生自身の「感性・表現」を磨く ④グループ活動を通じ、保育者に必要な他者との「協力」して「総意工夫する」態度を養う
授業の概要	本講義では、子どもの能力を多面的に育む豊かな表現力を備えた保育者の養成を目標として、幼稚園教育要領及び保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における「領域　表現」について基本的理解を深めます。また、グループ演習を通して仲間と協同して表現する体験的・共感的な活動を行い、乳幼児の表現活動を支える保育者としての役割を理解し、自分自身の表現力を養い、保育現場で実践できる力を培います。 （本講は保育に必要な理論を学ぶ意欲と、表現力を磨く積極的な参加態度・他者と協力する前向きな態度を要します）

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 授業概要説明 【授業概要】 幼児期の表現は保育者に支えられながら、あくまでも子どもの主体の性のもとに発揮され、子どもの内面が外に表れたものとして理解されることを知る。また、子どもの生活において感性と創造性を育むことの意味を考え、子どもの表現を大人の価値観から評価すべきでないこと、しかし、一般的にそうしてしまいがちであることを知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２回　おはなし　語り　　言語表現

【key words】
言語　表現

【授業概要】

授業内発表にむけての概要説明　表現とはどのようなことか確認する
練習の方法などを伝え、音読を繰り返しする

【教科書ページ・参考文献】
チャイルドブック　ちいさな昔話51話より
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　子どもの豊かな感性と造形表現　①　新聞紙を使った空間表現

【key words】
造形　空間利用

【授業概要】
環境構成・子ども理解に事づいたねらいの考え方・教材研究のありかたについて。
造形による表現活動（新聞紙を使った空間表現）を通して、新聞紙を使って自分なりの空間を作り出していく。

【教科書ページ・参考文献】
無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018、188頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
完成したものの写真を撮るなど記録しておく。
必要なもの　新聞紙・のり・テープなど

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　諸感覚を通しての感性と表現　①小麦粘土より

【key words】
触れる　感触遊び

【授業概要】
表現することに対して心を開き、好奇心旺盛に関わる。
実際に小麦粘土で遊んでみることで、子どもの豊かな感性と表現を育む環境について考える
身近なものに触れる遊びを通じて十分にその触り心地や変化を味わう
【教科書ページ・参考文献】
無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018、199頁　203頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小麦アレルギーの有無を確認する
汚れても良い服装
必要なもの　洗面器やボール
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第５回　諸感覚を通しての感性と表現　②反省・改善・指導案まとめ

【key words】
感触遊び　反省　改善

【授業概要】
小麦粘土を通して、子どもの豊かな感性と表現を育む環境について考える。指導案に配慮すべき点などを考え、表現と環境のつながりを知る
実際に行ってみて、体感したことや気づいたことを発表し、他者の意見を聞く

実践することを想定して、反省や改善点を発表し、子どもたちにどのように接していけばよいか考える。
【教科書ページ・参考文献】
無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018、199頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】

次回の準備　色ペン・のり・ハサミ等
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　児童文化財（紙芝居）による表現活動の指導　①手作り紙芝居　製作
【key words】
紙芝居　物語　構成　発想

【授業概要】
紙芝居の構造をよく理解して、手づくり紙芝居を製作する。
下書きでは、自分が描きたい内容をどのように画割して、わかりやすい脚本にするかを考える。
　表現に至るまでのプロセスが大切であることを理解するために、学生自身の表現体験が大事である。普段から使用している何気ない保育環境(紙芝居)も、製作することであり方を再確認することができる。
【教科書ページ・参考文献】
紙芝居のはじまりはじまり-紙芝居の上手な演じ方　右手和子/童心者
【課題・予習・復習・授業準備指示】
どのような紙芝居を作りたいか考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第７回　児童文化財（紙芝居）による表現活動の指導　②手作り紙芝居　発表
【key words】
紙芝居　物語　構成　発想

【授業概要】
表現者としての保育者であることを知り、物語をより効果的に伝えられるようにする。
他者の作品や演じ方を見ることで、改善点や反省点に気づく。
環境構成・子ども理解に基づいたねらいの考え方・教材研究のあり方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙芝居舞台
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第８回　グループ表現活動　オペレッタを通して　①概要説明・グループ決め・調べ学習
【key words】
グループ表現　オペレッタ
構想　演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業

【授業概要】
仲間同士が自由な気持ちでアイディアを出せるようにするには、どのアイディアも受け入れて面白がったりする姿勢が必要になることを知る。柔軟な発想が持てるように、対話を重視し効率的にグループでの活動を進める。
心と体を存分に動かして表現を交わし、協同する喜びや面白さを体験する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ決め　お話の内容を深く読み、配役や演出を考える
時間内にまとまらなかったものに関しては、各グループで話し合ってまとめておく

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　グループ表現活動　オペレッタを通して　②構想・演出・製作・練習
【key words】
グループ表現　オペレッタ　練習
構想　演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業

【授業概要】

グループごとにオペレッタの構想・演出・製作・練習をすすめる。造形に対する感性と表現を考える。
時間内にまとまらなかったものに関しては、各グループで話し合い、廃材などを中心に必要なものを揃えておく

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１０回　グループ表現活動　オペレッタを通して　③グループ練習

【key words】
グループ表現　オペレッタ　練習
構想　演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業

【授業概要】
多様な表現が自由に行き来するように、それぞれのあり方や動きを肯定的に受け止める関わりが大切であること。
グループごとにオペレッタの構想・演出・製作・練習をすすめる。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間内にまとまらなかったものに関しては、各グループで話し合い、廃材などを中心に必要なものを揃えておく

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１１回　グループ表現活動　オペレッタを通して　④　オペレッタ発表会

【key words】
グループ表現　オペレッタ　発表
構想　演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業

【授業概要】
グループごとに練習してきたものを発表し、クラス全体で相互評価をし、表現とは何かを知る
改善・反省のための記録をとり、振り返る

第13回の発表にむけ、語りの中間発表をし、具体的な語りの方法を知る

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回必要なもの　　ペットボトルや空き缶・空箱などの廃材　　楽器作りに必要なもの　テープ　ハサミ　等
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１２回　音・音楽による表現活動　音あそび（廃材を使った楽器作り　表現テーマ「クリスマス」）

【key words】
音楽表現

【授業概要】
子どもの素朴な音楽表現に気づき共感する感性と、豊かな表現を誘うことのできる知識や表現力を、身につける。
身近な生活の音に耳を傾け、廃材から楽器を作り音を楽しむ。
子どもと向き合い、気持ちに寄り添い、子どもが「表現したい」と思える音楽表現を考える。工夫された音楽表現活動をする。

【教科書ページ・参考文献】
無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018、180頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回語り発表　練習をしておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　表現活動を行う際の保育者の役割　「語り」発表

【key words】
語り　発表

【授業概要】
個々の課題である物語を発表する。人前で話すことで、言葉の伝え方や興味ひきつけ方を体感する
人の発表を聞くことで、自分自身に置き換えて課題を見つける。

	【教科書ページ・参考文献】 チャイルドブック　ちいさな昔話51話より 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回必要なもの　ポスカ・写真等の資料・マスキングテープ等 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１４回　表現活動を行う際の保育者の役割　まとめ 【key words】 表現活動 【授業概要】 子どもの感性と表現を育む保育者としての存在について 第15回目の授業に備えて、今までの授業内容をまとめておく　資料整理など ポスター製作 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回必要なもの　ポスカ・写真等の資料・マスキングテープ等 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分 第１５回　まとめ学習　総まとめ　ポスター製作 【key words】 まとめ　ポスター製作 【授業概要】 本講義で学び、体感した「表現」をまとめ、自己評価をする。 ポスター製作に向けた資料や必要な画材の準備をしておく 本講で学んだことをポスターにまとめることで、学びの探索行為やその集積としての表現を大切に受け止めることに対する理解を他の学生と共有し、情報発信をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本講の授業資料(写真など)　のり　ポスカ　マスキングテープ　ハサミ　等 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	・保育士資格・幼稚園免許取得の学生はすべての講義に出席すること ・最終授業内で、まとめ学習を行う。毎回の授業の記録をよくとることと、作品の記録用写真を撮っておくこと。 ・表現活動内で使用する教材は配布資料をもとに事前に用意しておく ・関係書類などの提出期限は守ること ・積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・ボランティア活動や実習において、子どもの遊びや表現活動を意識して観察をする ・グループでの活動や事前準備が必要な場合は確認をしておく ・授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	授業時の課題など30%　グループ活動・発表30%　筆記試験40%を総合的に評価する
教科書	無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018
参考書	チャイルドブック　ちいさな昔話51話より
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園・保育所勤務の経験をいかして、保育現場での実践方法を指導する。様々な事例を想定して対応できるスキルを身に着けられるよう演習を中心に行い知識・技術を指導する。 主に紙芝居の公演活動(様々な保育現場において)を行っている経験で、プログラムの立て方や

	子どもたちへの話し方、実際の上演方法を指導する。 自分自身の得意な分野の力を伸ばしながら、保育者に必要な表現力を身につけていきましょう。グループで討論したり、自分で工夫することにより、それを実際に人前で披露し、その反応を基に改善していきく。このことが主体的に物事を考え進める力を養います。そしてその力“表現力”こそ実際の仕事で求められるものです。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習Ⅰ（保育所）　　授業コード：4191　4192　4193

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(90)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中 輝幸・川端　奈津子・吉澤　幸・塚越　亜希子・青木　純恵			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①保育所の役割と機能を理解する。 ②乳幼児を観察し理解する。 ③保育士の役割と仕事内容を理解する。 ④多様な保育内容を理解する。
授業の概要	-

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回

	第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習上の注意 「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。 【実習の中止措置】 　実習生の帰すべき責任によって実習継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。 ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。 ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。 ③心身の事由により、実習継続が困難なとき。 ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。 ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。 ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	–
授業外時間にかかわる情報	–
オフィスアワー	–
評価方法	①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%） ②巡回での指導状況及び実習態度（10%） ③実習計画、実習日誌（10%） ④実習のまとめ（10%） ⑤実習報告書（10%） ⑥その他の提出物の提出状況（10%） ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。 ※保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を修得出来なかった場合は単位を認定しない。
教科書	–
参考書	–
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 　保育士　幼稚園教諭　認定こども園園長 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 　□情報モラルに関する教育 　□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） 　□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） 　□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） 　□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 　□ICTを活用した双方向型の授業の実施 　□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 　□その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）　　授業コード：4241

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
関根　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児の造形活動の支援に必要な知識や技術を講義、教材作りや模擬保育を通して習得し、幼児が楽しめるような造形表　現活動を構想し、実践できる力を身につける。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児の造形表現指導に関する基本的な知識や技術が理解できる。 ②現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作りの体験を通して、教材の概要を把握し、教材開発に目を向けることができる。 ③造形表現の指導計画、指導案を立案し、模擬保育の実践を通し、子どもたちが楽しめるような創造的な造形活動が構想できるようになる。 ④保育室の造形的な環境づくりにも目を向け、子どもの豊かな感性を育てることに関心を持つことができるようになる。
授業の概要	１年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ（図画工作）の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を高める内容となっている。現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作り、教材研究を行う。また、模擬保育を通して指導案の作成方法、保育の展開方法を学ぶ。また、子どもたちの豊かな感性を高める方法の一つとして、保育室の紙レリーフの壁面装飾の様々な技法を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　（授業概要の説明、　実技実習の準備等の確認） 【key words】 シラバス、幼稚園教育要領、保育所保育指針、造形表現の特質 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○受講のために準備するもの　○受講のルール 【教科書ページ・参考文献】 造形表現の指導　Ｐ１～４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第２回	表現の本質　表出と表現　領域「表現」のねらいと内容　造形表現の分類　造形表現の特質 【key words】 自然主義の教育観、表現と表出、未分化、ルソー 【授業概要】 ○幼児期と造形表現教育　（自然主義の教育観と表現の意味の発見）　○表現の分類　○表現と表出　○領域の総合化と造形表現　○造形表現の特質　○子どもの豊かな表現を引き出す保育者の役割

【教科書ページ・参考文献】
造形表現の指導　Ｐ１～１２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第３回　幼児期と造形表現　　造形表現の指導のねらい
【key words】
幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、ねらい、内容、遊びの総合性
【授業概要】
○幼稚園教育要領における領域「表現」のねらいと内容　○保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容　○保育内容「５領域」の考え方　○遊びの総合性　○領域「表現」と小学校教科との関係

【教科書ページ・参考文献】
造形表現の指導　Ｐ３～４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを図面に書く。はさみ、カッターナイフ持参
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第４回　ポップアップカードの技法　　基本テクニック練習（平行折り、中心線折り、階段、左右に動く仕組み、回転して動く仕組み、文字）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○飛び出す仕組みのあるカードの利用契機　（誕生日、母の日、敬老の日、ありがとう、魚図鑑、動物図鑑、花図鑑、お菓子の国、お伽噺の世界等）　○基本の動く仕組み　○図面の見方　○製作工程　○アイデアスケッチ　○試作　　○図面書き
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：　菊池　清　「ペーパークラフト紙ワザ工房」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己のカード作品の続きを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第５回　ボップアップカード製作（構想－試作－図面書き－カッティング－折る（筋引き）－組み立て）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○基本の動く仕組み　○図面の見方　○製作工程　（アイデアスケッチ　試作　図面書き　カッティング　折る（筋引き）　組み立て）
【教科書ページ・参考文献】
菊池　清　「ペーパークラフト紙ワザ工房」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　自己のカードを完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第６回　子どもと作るポップアップカード製作（季節のたより、メッセージカード、動きを伴うカード等）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○基本の動く仕組み　　○図面の見方　（切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ）　　○製作工程　（図面書き→切る→筋付け→折る→組み立て→貼る）　○アイディアスケッチ　○試作　○図面書き　　○製作
【教科書ページ・参考文献】
ｍａｉｍａｉ　「はじめてり手作りカード」　　日本ヴォーグ社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　完成しなかった作品は仕上げてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第７回　子どもの感性と表現「子どもの絵の見方、育て方」
【key words】
表現と表出、子どものリアリティー、リアリズム
【授業概要】
○表現と表出について　　○子どもと大人のリアリティーの違い、子どものリアリティー(感覚の総体としてのリアリズム)とは？　　○褒めるのではなく「認める」こと　　○子どもの感性と絵画表現(その子の表現をどう読み取るか)　　○幼児の絵の良い点を見つけ出して話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
鬼丸吉弘　「児童画のロゴス」　　勁草書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　本日の資料（幼児の絵）の中から特によいと思った作品を選び、感想を書く。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第８回　教材研究（素材遊び）　折り染め　　染めた紙で役に立つ小物づくり
【key words】
折り染め　　浸透性のある紙　　ジャバラ折り
【授業概要】
○織り染め製作　浸透性のある和紙（障子紙）に絵の具をつけると、色が広がって思いがけない

		模様ができる。　様々な紙の折り方（ジャバラ折り、四つ折り、二つ折り、ランダムに折る等）を工夫。絵の具の色や濃さ、つける量を工夫する。　〇染まった紙で役立つ小物作りを考案・製作 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 染まった紙で生活に役立つ小物作りを考える。予習　面白く楽しいパクパク人形をつくるか考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第９回	教材研究　　紙コップでつくるパクパク人形 【key words】 紙コップのパクパク人形 【授業概要】 紙コップのパクパク人形の製作　　〇アイデアスケッチ。　〇紙工作のどのような技法を使うか考える。　〇紙コップを眞二つに切る。　〇頭部と身体部をつないで口がパクパク動く人形をつくる。　〇毛糸、色紙、色画用紙、和紙、フエルトペン、色鉛筆等を使って体や衣服をつくる。〇パクパク人形をつかった遊びを考える。 【教科書ページ・参考文献】 雑誌　「保育とカリキュラム」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　作品完成にむけて製作の続きをする。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１０回	教材研究（素材遊び）　吹き散らしと流し絵 【key words】 吹き散らし　　流し絵 【授業概要】 〇吹き散らし製作　　画用紙に水で溶いた絵の具をたらし、それをストローで吹いて絵の具を散らして遊ぶ活動。　　絵具の濃さを工夫する。　〇口で吹く、ストローで吹く。　　〇流し絵製作　　画用紙にスポイドで絵の具を落とし、画用紙を上下、左右、円形等に動かすことにより、絵の具をたらして遊ぶ活動。 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ６０～６１　　参考文献　「絵画あそび技法百科」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　でき上がった作品からイメージをふくらませ加筆して絵にする構想を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１１回	指導の計画・方法・留意点（指導計画の基本、望ましい指導のあり方、） 【key words】 指導計画の弾力的な取り扱い、未分化、総合的な活動、成長段階に即応、安全性 【授業概要】 〇指導計画の必要性とその意義　　〇指導計画の基本　（幼児の実態把握、家庭の実態や要求、地域社会の実態や要求、幼稚園・保育所の環境状況）　〇指導の目標(活動のねらい)の設定　　〇指導の内容(活動の展開)の構成 【教科書ページ・参考文献】 教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１０９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　質問事項をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１２回	指導の過程（指導の段階）　　ａ事前の準備　ｂ動機づけ　ｃ展開　ｄまとめ 【key words】 指導の過程　　事前準備　　動機づけ、導入段階　　相互評価 【授業概要】 〇造形表現の指導の過程（指導の段階）・事前の準備　・動機づけ（導入段階）の方法　①話し合い　②参考作品を見せる　③視聴覚的な器材を利用する方法　④環境や雰囲気を整える　　・展開（表現活動の主要部分、自主的意欲的に製作する）・まとめ（作品完成後の相互評価、材料・用具の整理整頓の方法） 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１１０～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　質問事項をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１３回	紙レリーフの表現技法練習　　（動物、人物、花、建物、英数文字、漢字・ひらがな文字等） 【key words】 ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞 【授業概要】 〇壁面装飾をする目的　（行事を豊かに、季節感、イメージを豊かに、装飾的なもの、ニュースや情報の伝達等）　　〇紙レリーフの様々な技法(顔、目、口、鼻、耳、体、髪の毛、帽子、服、建物、樹木、花）　〇試作　〇製作 【教科書ページ・参考文献】 七条けんじ　　「紙の芸術　ペーパーアート」　　むさし書房版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 どのような紙レリーフ作品をつくるかアイデアを練ってくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１４回	保育室の壁面を紙レリーフで表現する（季節感、行事を豊かに、物語や空想の世界）　アイデアスケッチ－試作－製作 【key words】

ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
○アイデアを練る　保育室の壁面を紙レリーフで表現する。　（季節感、行事関係、物語や空想の世界）　○紙レリーフの様々な技法(顔、目、口、鼻、耳、体、帽子、服、髪の毛、建物、樹木、花等）　○製作　保育室の壁面を子どもたちが楽しめる紙レリーフで装飾する。
【教科書ページ・参考文献】
七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１５回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　試作－製作
【key words】
紙レリーフ　ペーパースカルプチャー　感性　鑑賞　造形的な環境
【授業概要】
○壁面装飾の内容　（行事を豊かに、季節感、イメージを豊かに、情報伝達、その他）
○製作　○相互鑑賞をする
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１６回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　製作－鑑賞
【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
○製作　主体を引きたてる付属品の製作
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作り完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１７回　園内作品展開催の意義　展示計画・設営　（教材展開催の展示の方法について）
【key words】
保育教材展、搬入、搬出、ディスプレイ
【授業概要】
保育教材展、搬入、搬出、ディスプレイ、準備
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０４～１０５、１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育教材展の構想・準備について構想を練ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１８回　教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをする）　指導案の書き方
【key words】
つくってみることによる教材研究
【授業概要】
○教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択、開発し、その教材つくりをする）
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１２２，１１６、１０５、１０４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　教材作品を仕上げる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１９回　教材研究と指導案作成　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する）
【key words】
造形表現指導案、事前の準備、導入段階、動機づけ、参考作品、展開、まとめ
【授業概要】
○様々な子どもの実態や発達段階、環境等を配慮して、子どもが楽しめる創造的な造形活動を考える。(指導案作成)　○教材構想の視点(①はじめに子どもに経験させたいねらい・目標がある場合　②はじめに素材・材料がある場合　③素材を用いたり、場(環境)で経験、活動すること自体が目標の場合
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案作成の続きをする
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２０回　指導案作成（教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する）
【key words】
指導案　つくってみることによる教材研究　子どものすがた　導入段階　展開　まとめの段階
【授業概要】
○指導案の作成　つくってみることによる教材研究が終わったら、指導案作成にうつる。
・教材名　・子どものすがた　・教材のねらい　・実習生のねらい　・準備
・導入段階　・展開　・まとめの段階（相互評価　）
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案作成の続きをする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２１回　自然物を使って作る　（松ぼっくりのミニツリー）
【key words】
伝承的な草花遊び、笹の葉の小舟、椿の葉によるぞうり作り、草相撲、しろつめ草の首かざり
【授業概要】
○自然物(植物の花や葉や実、小石や貝殻)の色や形の美しさ、面白さ、不思議さに共感　○自然に親しむことの大切さ(自然の美しさ神秘さや自然特有の生命や時間－永遠－を伝えてくれる)
○草花を使った伝承遊びを伝える　○松ぼっくりの形の面白さ、不思議さ、美しさ　○松ぼっくりのミニクリスマスツリーを作る
【教科書ページ・参考文献】
「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬保育の準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２２回　模擬保育、造形表現研究会①　（デカルコマニー）
【key words】
デカルコマニー、あわせ絵、加筆、偶然にできる模様、イメージ
【授業概要】
○担当の学生による模擬保育「題材名　デカルコマニー」を行い、授業後反省会を行う。　○授業参観の着眼点(合わせ絵で偶然できる色々な形に興味を持って楽しく取り組めたか。できた形から何の形に見えるかイメージし、浮かんできたイメージを基に発想し、楽しく加筆できたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５０～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２３回　模擬保育、造形表現研究会②　（身につける飾り）
【key words】
装飾物　　シンボルマーク　　サイン　　機能的な技法
【授業概要】
○模擬保育　　「身につける飾り」　身近な材料を利用して身につけるための仕組みや機能的な技法を工夫して飾りを製作する。　○造形表現研究会　　（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ７０～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２４回　模擬保育、造形表現研究会③　（はじき絵）
【key words】
はじき絵、パチック、クレヨン、パス、ろうそく
【授業概要】
○模擬保育　　「はじき絵」　　画用紙にクレヨン等で絵や模様を書き、水彩絵の具や墨などを適当な濃さに溶き、刷毛や太筆でさっと塗ると、絵や模様が絵や模様が絵の具をはじいて表れる。　　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５８～５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２５回　模擬保育、造形表現研究会④　（にじみ絵）
【key words】
画用紙のぬらし方、準備の仕方、加筆
【授業概要】
○模擬保育　　「にじみ絵」　　画用紙の表面を水でぬらし、水が乾かないうちに絵の具をたらしたり、筆で描いたりする。できあがって乾いたら、イメージをもとに加筆して絵に仕上げる。
○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５０～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２６回　模擬保育、造形表現研究会⑤　（型押し版画）
【key words】
スポンジ、ダンボール、野菜類、発砲スチロール、布、タオル、スタンプインク
【授業概要】
○模擬保育「型押し版画」　身の回りのものを版にして型押しをする。自由に型押しを楽しむ。意図的に絵を描く。意図的に模様をつくる。　準備の方法（スタンプインクの作り方、スポンジ、糸等版がでるもの）　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５４～５５

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２７回　　模擬保育、造形表現研究会⑥　　（コラージュ） 【key words】 コラージュ　　身の回りの紙　　絵肌　　グラビア 【授業概要】 ○模擬保育　「コラージュ」　　様々な基礎技法を用いて製作した多様な絵肌の紙や身の回りにある広告や雑誌のグラビアなどの紙をちぎったり切ったりして組み合わせ方を工夫して表現する。　　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２８回　　教材研究発表会①　　（教材名、本教材の目的・内容　　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 【key words】 教材研究、　つくってみることによる教材研究、　教材開発、　自己評価 【授業概要】 教材教育研究発表会　　学生が各自自分で見付けたり、考案した教材の作品及び指導案、自己評価表等を見せながら発表する。【発表項目】　⑦　教材の内容や作品について、自己評価した評価表をみせながら発表する。　⑧発表後学ぶべき良い点、課題について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　友人の発表から学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２９回　　教材研究発表会②　　（教材名、本教材の目的・内容　　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 【key words】 教材研究、　つくってみることによる教材研究、　教材開発、　自己評価 【授業概要】 教材教育研究発表会　　学生が各自自分で見付けたり、考案した教材の作品及び指導案、自己評価表等を見せながら発表する。【発表項目】　⑦　教材の内容や作品について、自己評価した評価表をみせながら発表する。　⑧発表後学ぶべき良い点、課題について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　友人の発表から学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第３０回　　造形表現のまとめ　　（幼児の造形活動の支援の方法） 【key words】 子どもが表現の主体性をもつ　　安全性　　環境(条件設定)　　成長段階に即応　　興味・関心・意欲 【授業概要】 幼児の造形表現の支援の方法　　○子どもが表現の主体性をもつ　○環境を充分に整える ○成長段階に即応すること　　○表現への興味・関心・意欲をもたせる　　○技術的なものにこだわらず、自然発生的に　　○安全に配慮 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１１０～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　どのように造形表現の支援をすべきか感想を書く。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後当番制で机ふき、黒板拭き等の簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会に応じて復習テストを行う。 ○模擬保育を担当する学生は、相談の上、空き時間、放課後等に指導時間を数回設けて対応して指導する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分は対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び指導案、小規模課題等（５０％）
教科書	村内哲二編著　　「保育内容　造形表現の指導　〔第４版〕」　　建帛社
参考書	開　仁志編著　　「保育指導案　大百科事典」　　一藝社　　（２０１２）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児の造形活動の支援に必要な知識や技術を講義、教材作りや模擬保育を通して習得し、幼児が楽しめるような造形表　現活動を構想し、実践できる力を身につける。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児の造形表現指導に関する基本的な知識や技術が理解できる。 ②現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作りの体験を通して、教材の概要を把握し、教材開発に目を向けることができる。 ③造形表現の指導計画、指導案を立案し、模擬保育の実践を通し、子どもたちが楽しめるような創造的な造形活動が構想できるようになる。 ④保育室の造形的な環境づくりにも目を向け、子どもの豊かな感性を育てることに関心を持つことができるようになる。
授業の概要	１年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ（図画工作）の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を高める内容となっている。現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作り、教材研究を行う。また、模擬保育を通して指導案の作成方法、保育の展開方法を学ぶ。また、子どもたちの豊かな感性を高める方法の一つとして、保育室の紙レリーフの壁面装飾の様々な技法を学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　（授業概要の説明、　実技実習の準備等の確認） 【key words】 シラバス、幼稚園教育要領、保育所保育指針、造形表現の特質 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○受講のために準備するもの　○受講のルール 【教科書ページ・参考文献】 造形表現の指導　Ｐ１～４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第２回	表現の本質　表出と表現　領域「表現」のねらいと内容　造形表現の分類　造形表現の特質 【key words】 自然主義の教育観、表現と表出、未分化、ルソー 【授業概要】 ○幼児期と造形表現教育　（自然主義の教育観と表現の意味の発見）　○表現の分類　○表現と表出　○領域の総合化と造形表現　○造形表現の特質　○子どもの豊かな表現を引き出す保育者の役割

【教科書ページ・参考文献】
造形表現の指導　Ｐ１～１２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第３回　幼児期と造形表現　　造形表現の指導のねらい
【key words】
幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、ねらい、内容、遊びの総合性
【授業概要】
○幼稚園教育要領における領域「表現」のねらいと内容　○保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容　○保育内容「５領域」の考え方　○遊びの総合性　○領域「表現」と小学校教科との関係

【教科書ページ・参考文献】
造形表現の指導　Ｐ３～４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを図面に書く。はさみ、カッターナイフ持参
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第４回　ポップアップカードの技法　　基本テクニック練習（平行折り、中心線折り、階段、左右に動く仕組み、回転して動く仕組み、文字）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○飛び出す仕組みのあるカードの利用契機　（誕生日、母の日、敬老の日、ありがとう、魚図鑑、動物図鑑、花図鑑、お菓子の国、お伽噺の世界等）　○基本の動く仕組み　○図面の見方　○製作工程　○アイデアスケッチ　○試作　　○図面書き
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：　菊池　清　「ペーパークラフト紙ワザ工房」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己のカード作品の続きを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第５回　ボップアップカード製作（構想－試作－図面書き－カッティング－折る（筋引き）－組み立て）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○基本の動く仕組み　○図面の見方　○製作工程　（アイデアスケッチ　試作　図面書き　カッティング　折る（筋引き）　組み立て）
【教科書ページ・参考文献】
菊池　清　「ペーパークラフト紙ワザ工房」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　自己のカードを完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第６回　子どもと作るポップアップカード製作（季節のたより、メッセージカード、動きを伴うカード等）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○基本の動く仕組み　　○図面の見方　（切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ）　　○製作工程　（図面書き→切る→筋付け→折る→組み立て→貼る）　○アイディアスケッチ　○試作　○図面書き　　○製作
【教科書ページ・参考文献】
ｍａｉｍａｉ　「はじめてり手作りカード」　　日本ヴォーグ社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　完成しなかった作品は仕上げてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第７回　子どもの感性と表現「子どもの絵の見方、育て方」
【key words】
表現と表出、子どものリアリティー、リアリズム
【授業概要】
○表現と表出について　　○子どもと大人のリアリティーの違い、子どものリアリティー(感覚の総体としてのリアリズム)とは？　　○褒めるのではなく「認める」こと　　○子どもの感性と絵画表現(その子の表現をどう読み取るか)　　○幼児の絵の良い点を見つけ出して話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
鬼丸吉弘　「児童画のロゴス」　　勁草書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　本日の資料（幼児の絵）の中から特によいと思った作品を選び、感想を書く。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第８回　教材研究（素材遊び）　折り染め　　染めた紙で役に立つ小物づくり
【key words】
折り染め　　浸透性のある紙　　ジャバラ折り
【授業概要】
○織り染め製作　浸透性のある和紙（障子紙）に絵の具をつけると、色が広がって思いがけない

		模様ができる。　様々な紙の折り方（ジャバラ折り、四つ折り、二つ折り、ランダムに折る等）を工夫。絵の具の色や濃さ、つける量を工夫する。　〇染まった紙で役立つ小物作りを考案・製作 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 染まった紙で生活に役立つ小物作りを考える。予習　面白く楽しいパクパク人形をつくるか考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第９回	教材研究　　紙コップでつくるパクパク人形 【key words】 紙コップのパクパク人形 【授業概要】 紙コップのパクパク人形の製作　　〇アイデアスケッチ。　〇紙工作のどのような技法を使うか考える。　〇紙コップを眞二つに切る。　〇頭部と身体部をつないで口がパクパク動く人形をつくる。　〇毛糸、色紙、色画用紙、和紙、フエルトペン、色鉛筆等を使って体や衣服をつくる。〇パクパク人形をつかった遊びを考える。 【教科書ページ・参考文献】 雑誌　「保育とカリキュラム」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　作品完成にむけて製作の続きをする。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１０回	教材研究（素材遊び）　吹き散らしと流し絵 【key words】 吹き散らし　　流し絵 【授業概要】 〇吹き散らし製作　　画用紙に水で溶いた絵の具をたらし、それをストローで吹いて絵の具を散らして遊ぶ活動。　　絵具の濃さを工夫する。　〇口で吹く、ストローで吹く。　　〇流し絵製作　　画用紙にスポイドで絵の具を落とし、画用紙を上下、左右、円形等に動かすことにより、絵の具をたらして遊ぶ活動。 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ６０～６１　　参考文献　「絵画あそび技法百科」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　でき上がった作品からイメージをふくらませ加筆して絵にする構想を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１１回	指導の計画・方法・留意点（指導計画の基本、望ましい指導のあり方、） 【key words】 指導計画の弾力的な取り扱い、未分化、総合的な活動、成長段階に即応、安全性 【授業概要】 〇指導計画の必要性とその意義　　〇指導計画の基本　（幼児の実態把握、家庭の実態や要求、地域社会の実態や要求、幼稚園・保育所の環境状況）　〇指導の目標(活動のねらい)の設定　　〇指導の内容(活動の展開)の構成 【教科書ページ・参考文献】 教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１０９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　質問事項をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１２回	指導の過程（指導の段階）　　ａ事前の準備　ｂ動機づけ　ｃ展開　ｄまとめ 【key words】 指導の過程　　事前準備　　動機づけ、導入段階　　相互評価 【授業概要】 〇造形表現の指導の過程（指導の段階）・事前の準備　・動機づけ（導入段階）の方法　①話し合い　②参考作品を見せる　③視聴覚的な器材を利用する方法　④環境や雰囲気を整える　　・展開（表現活動の主要部分、自主的意欲的に製作する）・まとめ（作品完成後の相互評価、材料・用具の整理整頓の方法） 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１１０～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　質問事項をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１３回	紙レリーフの表現技法練習　　（動物、人物、花、建物、英数文字、漢字・ひらがな文字等） 【key words】 ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞 【授業概要】 〇壁面装飾をする目的　（行事を豊かに、季節感、イメージを豊かに、装飾的なもの、ニュースや情報の伝達等）　　〇紙レリーフの様々な技法(顔、目、口、鼻、耳、体、髪の毛、帽子、服、建物、樹木、花)　〇試作　〇製作 【教科書ページ・参考文献】 七条けんじ　　「紙の芸術　ペーパーアート」　　むさし書房版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 どのような紙レリーフ作品をつくるかアイデアを練ってくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１４回	保育室の壁面を紙レリーフで表現する（季節感、行事を豊かに、物語や空想の世界）　アイデアスケッチ－試作－製作 【key words】

ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
○アイデアを練る　保育室の壁面を紙レリーフで表現する。　（季節感、行事関係、物語や空想の世界）　○紙レリーフの様々な技法(顔、目、口、鼻、耳、体、帽子、服、髪の毛、建物、樹木、花等）　○製作　保育室の壁面を子どもたちが楽しめる紙レリーフで装飾する。
【教科書ページ・参考文献】
七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１５回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　試作－製作
【key words】
紙レリーフ　ペーパースカルプチャー　感性　鑑賞　造形的な環境
【授業概要】
○壁面装飾の内容　（行事を豊かに、季節感、イメージを豊かに、情報伝達、その他）
○製作　○相互鑑賞をする
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１６回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　製作－鑑賞
【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
○製作　主体を引きたてる付属品の製作
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作り完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１７回　園内作品展開催の意義　展示計画・設営　（教材展開催の展示の方法について）
【key words】
保育教材展、搬入、搬出、ディスプレイ
【授業概要】
保育教材展、搬入、搬出、ディスプレイ、準備
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０４～１０５、１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育教材展の構想・準備について構想を練ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１８回　教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをする）　指導案の書き方
【key words】
つくってみることによる教材研究
【授業概要】
○教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択、開発し、その教材つくりをする）
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１２２，１１６、１０５、１０４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　教材作品を仕上げる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１９回　教材研究と指導案作成　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する）
【key words】
造形表現指導案、事前の準備、導入段階、動機づけ、参考作品、展開、まとめ
【授業概要】
○様々な子どもの実態や発達段階、環境等を配慮して、子どもが楽しめる創造的な造形活動を考える。(指導案作成)　○教材構想の視点(①はじめに子どもに経験させたいねらい・目標がある場合　②はじめに素材・材料がある場合　③素材を用いたり、場(環境)で経験、活動すること自体が目標の場合
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案作成の続きをする
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２０回　指導案作成（教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する）
【key words】
指導案　つくってみることによる教材研究　子どものすがた　導入段階　展開　まとめの段階
【授業概要】
○指導案の作成　つくってみることによる教材研究が終わったら、指導案作成にうつる。
・教材名　・子どものすがた　・教材のねらい　・実習生のねらい　・準備
・導入段階　・展開　・まとめの段階（相互評価　）
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案作成の続きをする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２１回　自然物を使って作る　（松ぼっくりのミニツリー）
【key words】
伝承的な草花遊び、笹の葉の小舟、椿の葉によるぞうり作り、草相撲、しろつめ草の首かざり
【授業概要】
○自然物(植物の花や葉や実、小石や貝殻)の色や形の美しさ、面白さ、不思議さに共感　○自然に親しむことの大切さ(自然の美しさ神秘さや自然特有の生命や時間－永遠－を伝えてくれる)
○草花を使った伝承遊びを伝える　○松ぼっくりの形の面白さ、不思議さ、美しさ　○松ぼっくりのミニクリスマスツリーを作る
【教科書ページ・参考文献】
「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬保育の準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２２回　模擬保育、造形表現研究会①　（デカルコマニー）
【key words】
デカルコマニー、あわせ絵、加筆、偶然にできる模様、イメージ
【授業概要】
○担当の学生による模擬保育「題材名　デカルコマニー」を行い、授業後反省会を行う。　○授業参観の着眼点(合わせ絵で偶然できる色々な形に興味を持って楽しく取り組めたか。できた形から何の形に見えるかイメージし、浮かんできたイメージを基に発想し、楽しく加筆できたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５０～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２３回　模擬保育、造形表現研究会②　（身につける飾り）
【key words】
装飾物　シンボルマーク　サイン　機能的な技法
【授業概要】
○模擬保育　「身につける飾り」　身近な材料を利用して身につけるための仕組みや機能的な技法を工夫して飾りを製作する。　○造形表現研究会　（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ７０～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２４回　模擬保育、造形表現研究会③　（はじき絵）
【key words】
はじき絵、バチック、クレヨン、パス、ろうそく
【授業概要】
○模擬保育　「はじき絵」　画用紙にクレヨン等で絵や模様を書き、水彩絵の具や墨などを適当な濃さに溶き、刷毛や太筆でさっと塗ると、絵や模様が絵や模様が絵の具をはじいて表れる。　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５８～５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２５回　模擬保育、造形表現研究会④　（にじみ絵）
【key words】
画用紙のぬらし方、準備の仕方、加筆
【授業概要】
○模擬保育　「にじみ絵」　画用紙の表面を水でぬらし、水が乾かないうちに絵の具をたらしたり、筆で描いたりする。できあがって乾いたら、イメージをもとに加筆して絵に仕上げる。
○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５０～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２６回　模擬保育、造形表現研究会⑤　（型押し版画）
【key words】
スポンジ、ダンボール、野菜類、発砲スチロール、布、タオル、スタンプインク
【授業概要】
○模擬保育「型押し版画」　身の回りのものを版にして型押しをする。自由に型押しを楽しむ。意図的に絵を描く。意図的に模様をつくる。　準備の方法（スタンプインクの作り方、スポンジ、糸等版がでるもの）　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５４～５５

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２７回　　模擬保育、造形表現研究会⑥　　（コラージュ） 【key words】 コラージュ　　身の回りの紙　　絵肌　　グラビア 【授業概要】 ○模擬保育　「コラージュ」　　様々な基礎技法を用いて製作した多様な絵肌の紙や身の回りにある広告や雑誌のグラビアなどの紙をちぎったり切ったりして組み合わせ方を工夫して表現する。　　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２８回　　教材研究発表会①　　（教材名、本教材の目的・内容　　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 【key words】 教材研究、　つくってみることによる教材研究、　教材開発、　自己評価 【授業概要】 教材教育研究発表会　　学生が各自自分で見付けたり、考案した教材の作品及び指導案、自己評価表等を見せながら発表する。【発表項目】　⑦　教材の内容や作品について、自己評価した評価表をみせながら発表する。　⑧発表後学ぶべき良い点、課題について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　友人の発表から学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２９回　　教材研究発表会②　　（教材名、本教材の目的・内容　　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 【key words】 教材研究、　つくってみることによる教材研究、　教材開発、　自己評価 【授業概要】 教材教育研究発表会　　学生が各自自分で見付けたり、考案した教材の作品及び指導案、自己評価表等を見せながら発表する。【発表項目】　⑦　教材の内容や作品について、自己評価した評価表をみせながら発表する。　⑧発表後学ぶべき良い点、課題について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　友人の発表から学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第３０回　　造形表現のまとめ　　（幼児の造形活動の支援の方法） 【key words】 子どもが表現の主体性をもつ　　安全性　　環境(条件設定)　　成長段階に即応　　興味・関心・意欲 【授業概要】 幼児の造形表現の支援の方法　　○子どもが表現の主体性をもつ　○環境を充分に整える ○成長段階に即応すること　　○表現への興味・関心・意欲をもたせる　　○技術的なものにこだわらず、自然発生的に　　○安全に配慮 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１１０～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　どのように造形表現の支援をすべきか感想を書く。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後当番制で机ふき、黒板拭き等の簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会に応じて復習テストを行う。 ○模擬保育を担当する学生は、相談の上、空き時間、放課後等に指導時間を数回設けて対応して指導する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分は対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び指導案、小規模課題等（５０％）
教科書	村内哲二編著　　「保育内容　造形表現の指導　〔第４版〕」　　建帛社
参考書	開　仁志編著　　「保育指導案　大百科事典」　　一藝社　　（２０１２）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）　　授業コード：4251　4252　4253

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
平野　恵美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　音楽表現の様々な活動内容を理解し、乳幼児の年令等をふまえた音楽表現指導をするための知識や技能を習得する。 【到達目標】 　「表現」の構造から学び、乳幼児の発達とそれに伴う音楽表現についての認識・理解を深め、表現技術Ⅰで習得した技術を十分生かしながら、歌・手遊び・表現遊び・合奏など、様々な実践的音楽活動を通して、学生自身の感受性、表現力を向上させ乳幼児が楽しんで音楽にかかわり、自由な音楽表現が育つよう、発達段階に即した音楽指導を習得する。
授業の概要	①保育の音楽表現におけるいくつかの活動が単体での活動ではなく、発達段階を考慮しながら園での生活の中に総合的に取り入れられていることを理解し、活動の指導法や留意点を習得する。 ②保育の様々な場面で展開される音楽活動の基礎となる歌唱や弾き歌いなどに対し、幼児の感性や表現力を養い、表現活動を活発にするための指導法やコードネームによる伴奏付けを習得する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	前期オリエンテーション 【key words】 シラバス 【授業概要】 ・シラバスの確認と授業計画について ・授業の概要と進め方について 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 英音名の確認をしておくように 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	コードネーム①音程と三和音の関係・基礎コードについて 【key words】 音階上の三和音 【授業概要】 ・コードネームと和音記号について ・コードネームの表記のしかたについて ・コードネーム一覧表配布 【教科書ページ・参考文献】 P71～72 【課題・予習・復習・授業準備指示】 コードネームのプリントの復習 【予習復習に必要な想定時間】

		30分
	第３回	コードネーム②メジャーコードとマイナーコード 【key words】 長三和音、短三和音 【授業概要】 ・長三和音とメジャーコードの関係について ・短三和音とマイナーコードの関係について 【教科書ページ・参考文献】 P72 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各調における音階上の和音を分類する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	コードネーム③セブンスコードとその他のコード 【key words】 属七の和音、副三和音 【授業概要】 主要三和音と副三和音について Ｖ7、属七の和音の構成音とコードネームについて 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（副三和音のコード） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 属七和音の構成音を覚える 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	ハ長調、ヘ長調、ト長調における和音進行とコードの関係について 【key words】 和音行進、カデンツ、主要三和音 【授業概要】 ・各調におけるⅠ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅴ7の和音進行について ・各調における主要三和音のコードネームについて 【教科書ページ・参考文献】 P46～49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	和音の転回形による和音進行 【key words】 和音の回転（第1、第2、第3） 【授業概要】 ・和音の基本型から転回形への変化について ・伴奏における転回形の使い方 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（転回形） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	各調（ハ調、ヘ調、ト調）におけるコードネームによる童謡の伴奏付け 【key words】 スリーコード 【授業概要】 ・各調におけるスリーコードについて ・主要三和音とスリーコードの関係について ・スルーコードによる伴奏付けについて 【教科書ページ・参考文献】 コード一覧表 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	コードネームによる即興的な伴奏法と伴奏形の変化（分散和音等）について 【key words】 スリーコード、分散和音 【授業概要】 ・各調におけるスリーコードでの伴奏付けと伴奏の変化について 【教科書ページ・参考文献】 P47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	弾き歌いにおける前奏、後奏、アインザッツの入れ方について 【key words】 前奏、アインザッツ 【授業概要】 ・弾き歌いや曲の伴奏をする時の前奏、後奏のつくり方について ・伴奏時のアインザッツの入れ方について 【教科書ページ・参考文献】 P69～70

【課題・予習・復習・授業準備指示】
弾き歌い時のアインザッツの入れ方の練習
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　「手遊び」「指遊び」の指導について。年齢別遊び方の留意点について
【key words】
手遊び、わらべうた
【授業概要】
・手遊びの種類の実例
・年令別による手遊びの指導の留意点
【教科書ページ・参考文献】
P93～96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
わらべうたの手遊び練習
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　グループ別による「手遊び」「指遊び」の指導練習
【key words】
手遊び、指遊び
【授業概要】
・実演に向けてのグループ分け
・伴奏者と指導者の2人による手遊びの実演練習
・手遊びの曲目の配布プリント使用
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
2人で実演に向けての練習をしておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　グループ別による「手遊び」「指遊び」の実演発表
【key words】
手遊び発表
【授業概要】
・実演発表
・感想等を発表する。意見交換等
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実演に向けて練習しておく（次回発表者）
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　グループ別による「手遊び」「指遊び」の実演発表
【key words】
手遊び発表
【授業概要】
・実演発表
・感想、意見交換等
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　伴奏付けの和音及びコードの選択について
【key words】
和声音、非和声音
【授業概要】
・和音やコードネームの記載のない曲への伴奏付けについて
・メロディーの考慮と非和声音について
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
非和声音の種類の確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　前期のまとめ復習
【key words】
まとめ
【授業概要】
前期内容のまとめと復習
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期試験範囲の確認と復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　後期オリエンテーション
【key words】
授業内容
【授業概要】
後期授業の進め方の確認
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　移調①指定された調への旋律の移調

【key words】
移調、転調、近親調
【授業概要】
・移調の必要性について
・移調の方法について
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各調の主音を確認しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　移調②コードの移調　移調に伴うコードの変化について

【key words】
音程、調、コード
【授業概要】
・音程の移動による移調について
・調の変換による移調について
・コードネームの移調について
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「度」につおて、音程について確認しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　移調③幼児の声域内への移調（３才、４才、５才）

【key words】
声域、移調
【授業概要】
・声域に合わせた移調の必要性について
・幼児の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
声域についてどんなことか調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　保育の音楽表現における年令別の特徴について

【key words】
乳幼児の表現、幼児の表現
【授業概要】
・年令別による、音楽表現の特徴と指導上の留意点について
【教科書ページ・参考文献】
P21～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P17を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　音楽表現の5つの活動について

【key words】
「歌う」「ひく」「動く」「聴く」「つくる」
【授業概要】
5つの活動内容について、年令を考慮した指導法と留意点について
【教科書ページ・参考文献】
P17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P74～82を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　「歌う」活動について　年令別による教材選びや指導法

【key words】
声域、行事、季節
【授業概要】
・「歌う」活動の年令別特徴について
・年令、行事、季節に応じた選曲について
【教科書ページ・参考文献】
P74～82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P109～113を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　「ひく」活動について　年令別による指導法と留意点について

【key words】
楽器遊び、言葉のリズム遊び
【授業概要】
・音楽遊びの意義と多様性について
・色々なリズム遊びについて
【教科書ページ・参考文献】

P109～113
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト　P115～116を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　手作り楽器について　意義と作成時の留意点について
【key words】
身の回りにある物
【授業概要】
・手作り楽器の意義について
・音の出る仕組みについて
【教科書ページ・参考文献】
P115～116
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストP97～106まで読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　楽器の種類（無音程打楽器・有音程打楽器）と扱い方と奏法について
【key words】
有音程打楽器、無音程打楽器
【授業概要】
・打楽器の種類の名前と奏法について
・指導上の留意点について
【教科書ページ・参考文献】
P97～106
【課題・予習・復習・授業準備指示】
楽器の名前を覚える
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　合奏（グループ別による曲目選択と分担楽器の練習）
【key words】
合奏

【授業概要】
・7～8人のグループによる合奏練習
・曲目の選択、楽器分担
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の分担楽器のパート練習
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　合奏（グループ別演奏発表）
【key words】
合奏発表
【授業概要】
グループによる合奏発表演奏
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　「聴く」「つくる」活動の年令別指導法と留意点について
【key words】
音遊び、模倣・創造性
【授業概要】
・「聴く」活動によってはぐくまれるもの
・感性の発達について
【教科書ページ・参考文献】
P39～45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト　P54～60を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２９回　「動く」活動の年令別指導法について（リズム遊び、歌遊び等）
【key words】
身体表現活動、リズム運動
【授業概要】
・音楽に合わせて体を動かす身体表現活動の指導上の留意点について
・乳幼児の表現活動について
【教科書ページ・参考文献】
P54～60
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３０回　後期のまとめ、復習
【key words】
まとめ
【授業概要】
後期授業の内容確認と復習
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末試験に向けての内容復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	五線紙を準備すること。予習・復習を行い授業の理解度を高めるようにする。 スマートフォンの電源は切っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内に配布されるプリント等は、きちんと整理しておく。 講義内容を復習をし、疑問点等は次回の授業で質問するように。 実技等においては、日ごろから演奏練習をしておくように。
オフィスアワー	授業時に指示する
評価方法	授業内課題（30%）　実技試験（70%）
教科書	新刊　表現者を育てるための保育内容「音楽表現」　教育情報出版
参考書	-
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）　　授業コード：4251　4252　4253

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
足立　勤一・佃　朋子・峯岸　梓			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）にて修得した表現能力を基礎として、表現活動指導についてより深く理解し実践できるよう、知識や技術を習得することを目的とする。 【到達目標】 　ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を基に、弾き歌いの移調奏を理解し発表や指導ができる。子どもの発達に即した表現活動指導ができる。保育現場においての表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できる。
授業の概要	５名前後のグループに分かれ、保育現場にてすみやかに活用できるレパートリーを増やせるように各学生の進度に合わせて個人レッスンを行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目（前期）オリエンテーション 【key words】 前期授業概要 【授業概要】 クラス分け・今年度の到達目標の説明（課題曲数や学生の進度に合わせた課題の達成を目指す） 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示（全体としての準備：コード奏について） 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法 【key words】 カデンツ　　アレンジ　　移調　　コード奏 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジの説明後に演奏） 　マーチ曲（移調・記譜の説明後演奏） 　コード奏（ハ長調で説明し、♯・♭１つ付いた調に挑戦するor演奏 ） 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示（全体としての準備：カデンツ・①左手による3和音・②両手によるカデンツの練習） 【予習復習に必要な想定時間】 20分

	第３回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜 　移調：子供の声域に合わせた移調 　マーチ：原曲に近い調への移調 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ） 　マーチ・移調・記譜 　移調：使用教本からハ長調の曲を選び、その曲を2度上のニ長調に移調する 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：全体としての準備・カデンツ・コード奏 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第４回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜 　移調：子供の声域に合わせた移調 　マーチ：原曲に近い調への移調 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ） 　マーチ・移調・記譜 　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：全体としての準備・カデンツ・コード奏 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第５回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜 　移調：子供の声域に合わせた移調 　マーチ：原曲に近い調への移調 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ） 　マーチ・移調・記譜 　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：全体としての準備・カデンツ・コード奏 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第６回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜 　移調：子供の声域に合わせた移調 　マーチ：原曲に近い調への移調 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ） 　マーチ・移調・記譜 　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第７回	学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜 　移調：子供の声域に合わせた移調 　マーチ：原曲に近い調への移調 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ） 　マーチ・移調・記譜 　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２０

０・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第８回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第９回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１０回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１１回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）マーチ・移調・記譜
　試験曲選曲：（マーチ原曲＋移調１調とそのカデンツ）（前期に修了した弾き歌い1曲1コーラス）を申告し、当日指定された1曲を暗譜で演奏する。1,2年で履修した曲は不可。

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１２回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて：試験曲決定
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　課題曲数のクリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２０

０・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１３回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜・試験曲仕上げ
　課題曲数のクリアに向けて

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１４回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて：人前での演奏
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜・試験曲仕上げ
　課題曲数のクリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１５回　前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
前期試験課題に向けて
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜・試験曲仕上げ
　課題曲数のクリア

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲仕上げ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１６回　科目（後期）オリエンテーション
【key words】
後期授業概要
【授業概要】
学生それぞれの進度に応じたレッスン
（ピアノの森以降のレベルのピアノ曲1曲＋弾き歌い4曲、そのうち2曲とそのカデンツを2つの調に移調し移調譜を提出）
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：各自、実力に応じた選曲
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１７回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１８回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１９回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２０回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２１回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２２回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２３回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２４回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜

		移調：子供の声域に合わせた移調 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜 移調：子供の声域に合わせた移調 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２５回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜 移調：子供の声域に合わせた移調 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜 移調：子供の声域に合わせた移調 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２６回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法 【key words】 ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜 試験課題選曲（弾き歌い2曲４調とそのカデンツを申告し、任意の1曲を記譜し提出。当日1曲1調とそのカデンツを暗譜。） 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２７回	学生それぞれの進度に応じたレッスン：後期試験にむけて 【key words】 後期試験に向けて：試験曲決定 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜 課題曲クリアに向けて 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２８回	学生それぞれの進度に応じたレッスン：後期試験にむけて 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜 試験曲仕上げ 課題曲クリアに向けて 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２９回	学生それぞれの進度に応じたレッスン：後期試験にむけて 【key words】 後期試験に向けて：人前での演奏 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜 試験曲仕上げ 課題曲クリアに向けて 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第３０回	後期実技試験について／後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期試験に向けて：リハーサル 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜 試験曲仕上げ

	課題曲クリア 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験曲仕上げ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。 〔受講のルール〕 実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	表現活動指導技術向上のため計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について考え、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、それをどのように活かすかについて深く研究すること。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	実技試験70%・授業内評価30%
教科書	①ブルクミュラー『25の練習曲』全音楽譜出版社　②小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社　③小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社
参考書	①田丸信明編『新訂ピアノの森２』GAKKEN　②田丸信明編『新訂ピアノの森３』GAKKEN　③『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社　④『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 乳児保育Ⅰ（演習）　　授業コード：4272

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育所で行われている乳児保育の実際を知り、保育士として必要な乳児保育（3歳未満児の保育）の知識を獲得することを目的とします。また、乳児期の発達を理解すると同時に、現代の乳児保育を取り巻くさまざまな問題を分析し、その解決、援助となる具体的な方法を身につけることを学んでいきます。 【到達目標】 ①乳児期の発達の特性と発達過程を理解する。 ②乳児保育における基本的な援助やかかわりについて知る。 ③保育所保育における乳児保育の現状と課題について理解する。
授業の概要	乳児期の発達についての理解を深めるとともに、乳児保育の意義や乳児を取り巻く現状について知り、乳児保育を行う際に求められる知識や技術について学習していきます。また保育所保育における乳児保育の現状と課題について理解し、基本的な援助やかかわりについて学んでいきます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　「乳児」とは？グループワーク 【key words】 乳児保育の定義 【授業概要】 ・乳児保育の意義と目的、歴史的変遷について学ぶ。 ・乳児保育の役割と機能について理解する。 ・養護と教育の理解を深め、乳児期にいける養護および教育の一体性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp4～18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 乳児の定義を自分の言葉で説明できるようにまとめておく。 ワークシートの見直しとテキストを読み返し、重要なポイントにラインをひいておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 【key words】 社会的状況

【授業概要】
・子育て世代を取り巻く社会的状況を考え、「大人の生活変容と子育ての困難さ」や「家庭や地域における子　育て機能の低下」についての課題を明確化する。
・乳児保育の重要性と保育所の子育て支援について考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp20～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートのふり返りと、グループワークで出た意見をまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３回　保育所における乳児保育
【key words】
3歳未満児の低年齢児

【授業概要】
・保育所における現状と課題についての理解を深める。
・「増加する3歳未満児保育の現状」について意見交換を行う。
・妊娠、出産、育児を行うの母親の心理について考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp32～40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークで話し合ったことをまとめておく
自分が誕生した時の経緯等を家の人に聞き、ノートに書いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
【key words】
乳児院

乳児院の役割

【授業概要】
・児童福祉施設と乳児保育の関連を理解する。
・乳児院について（乳児院の生活と役割と理念）学ぶ。
・乳児院の現状と課題、社会的養護の方向性と乳児院について考え、理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp44～56
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の地域にはどのような児童福祉施設があるか調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第５回　家庭的保育・小規模保育等における乳児保育
【key words】
家庭的保育・小規模保育

【授業概要】
・家庭的保育・小規模保育の位置づけと、それぞれの課題と展望について学ぶ。
・その他の地域型給付の保育についても学ぶ。
・家庭的保育・小規模保育・その他の地域型給付の保育についてそれぞれ調べ、3～4人のグループで説明し合　う。
・家庭的保育・小規模保育における乳児保育の実際のデイリープログラムの一例をみる。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp58～68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
家庭的保育・小規模保育・その他の地域型給付の保育についてまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第６回　3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
【key words】
子育て支援の現状

【授業概要】
・求められる乳児保育の在り方について考える。
・子ども理解だけでなく、保護者理解の見識も持てるよう学ぶ。

・子育て支援施設や保育所などの「子育て支援」の実際について解説する。
・どのような子育て支援が必要か自分なりの考えを話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp70～80
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「子育て支援」について新聞でピックアップされた記事を見つけておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第７回　3歳未満児の生活と環境
【key words】
生活と環境

【アクティブラーニングについて】
保育環境を自分で考え、意見交換しながらグループで乳児保育室の間取り見取り図を描き上げてみる
【授業概要】
・乳児保育における生活の場としての環境の整え方を学ぶ。
・生活の場としての環境の整え方を学ぶ。
・乳児保育室の環境に関する研究に触れる。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp82～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「人的環境」と「物的環境」をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第８回　3歳未満児の遊びと環境
【key words】
環境を通して行う保育

【授業概要】
・0歳児の発達や運動機能について理解する。
・0歳児の遊び環境の整え方と、0歳児の遊び環境の安全配慮について考える。
・1歳以上3歳未満児の遊び（学び）環境の整え方について意見交換を行う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp92～102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
0歳児の運動機能の発達段階を復習しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　3歳以上児に移行する期間の保育
【key words】
保育の移行

【授業概要】
・乳児保育の前提を確認する。
・0歳児から1歳児の移行の検討と展開、1歳児から2歳児の検討とこの時期の養護と教育、2歳児から3歳児の　移行　の検討、3歳以上児の保育へ移行する時期の保育の配慮について学ぶ。
・0歳児から1歳、1歳児から2歳児、２歳児から３歳児、３歳以上児の保育へ移行するときの配慮点をグループ　で話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp106～115
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり
【key words】
３歳未満児の発達の様相と援助のポイント

【授業概要】
・保育所保育指針改定にみる保育の特性と援助の実際について理解する。
・０歳児・１歳以上３歳未満児の発達過程と保育者のかかわり（援助）、保育の配慮事項について学ぶ。
・一人ひとりの発達や家庭の状況など、個人差や月齢差に対応した援助やかかわりについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp120～130
保育所保育指針
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　3歳未満児の発育・発達をふまwた保育における配慮
【key words】
３歳未満児の発育・発達

【授業概要】
・保育全般にかかわる配慮事項と、３歳未満児に共通する配慮事項について説明する。
・「児童状況票」と「個人面談」について学び、健康状態の早期発見のポイントや、保育中の安全管理につい　て学ぶ。
・チャイルドビジョン（幼児視覚体験メガネ）を装着し、幼児の視野で見る経験をする。
・言語習得と音環境について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp132～140
【課題・予習・復習・授業準備指示】

チャイルドビジョンを装着して感じたことをまとめておく

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　保育の計画・記録・評価とその意義
【key words】
保育の実践と計画

【授業概要】
・実践の記録から評価の仕方について説明し、記録の取り方のポイントを学ぶ。その記録から保育の質の向上の　ための方法を考える。
・保育計画の概要を学び、指導計画から実践記録、評価までの流れを事例などとともに理解する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp144～152
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、テキストのポイント部分にラインを引いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　職員間の連携・協働
【key words】
チームですすめる保育

【授業概要】
・子どもにとっての保育者の役割と、保護者にとっての保育者の役割について理解を深める。
・子どもや保護者、職員との信頼構築のための学びをする。
・事例からみる支援の実際について意見交換しながら、支援の手立ての探り方を学ぶ。
・事例を参考に子育て支援のあり方や、実際の支援についての手立てを考え、グループで討議する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp154～164
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　保護者との連携・協働
【key words】
子育て支援の必要性

【授業概要】
・保護者に対する相談助言の原則について学ぶ。
・「保育の専門性」を活かした保護者支援の方法を学ぶ。
・外国籍家庭への支援について考えを深める。
・事例を通じてみる保護者との連携・協働について考える。

・事例から保護者との連携方法についての意見交換を行う
【教科書ページ・参考文献】
テキストp166～176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　自治体や地域の関係機関等との連携・協働
【key words】

保育所と地域の社会資源

【授業概要】
・保育所における関係機関との連携について理解する。
・児童虐待防止対策の強化について理解を深める。
・虐待の事例をあげ、どのような手立てを組み、どこから連携していくのかシュミレーションしたことを話し　合い、意見交換を行う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp178～188
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育所における関係機関との連携（テキストｐ178図表15-1）を覚えられるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１６回　乳児保育の基本
【key words】
子どもと保育者の関係

【授業概要】
・乳児（０歳）と１歳以上３歳未満児の保育内容について説明する。
・演習1「応答的なかかわりと言葉の育ち」にはどんな関係があるか考えてみる。
・演習2「物」をめぐって他者との関係性がどのように発達していくか考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp192～198
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１７回　子どもの生活の流れ（0歳児クラス）
【key words】
０歳児のデイリープログラム

【授業概要】

・乳児のデイリープログラムの特徴について学ぶ。
・演習1「流れる日課」を行うためには、どのような保育者の配慮や作業が必要なのか考えてみる。
・演習２「育児担当制」を実施する場合の利点と弱点について話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp202～210
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１８回　子どもの保育環境（0歳児）
【key words】
家庭的な環境

【授業概要】
・保育所保育指針からみる保育環境について説明する。
・演習1「家庭的な雰囲気」にするために、どのような工夫が出来るか考えてみる。
・演習2玩具を使った遊びが発達課題にどのように関連するのか考えてみる。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp212～220
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１９回　子どもの援助の実際（0歳児クラス）
【key words】
生活と遊びの援助

【授業概要】
・「保育のねらい」と保育者の配慮を学ぶ。また、乳児の主体性を考える。
・演習1「0歳児クラス」の食事場面をイメージして、どのような「ねらい」と「内容」「配慮事項」が考えら　れるか書いてみる。
・演習2①食事場面の環境設定　②オムツ交換の環境構成（交換台、マット等のメリット、デメリット、注意点　など）を考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp222～230
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２０回　子どもの生活の流れ（1歳児クラス）
【key words】
生活リズムの情報共有

【授業概要】
・デイリープログラムからみる1歳児クラスの生活の流れについて説明する。
・演習「朝の視診」について考えてみる。
・トイレトレーニングにおける家庭との連携を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp232～239
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
次週、製作が出来る用具等を準備しておく

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２１回　子どもの保育環境
【key words】
環境の整備

【授業概要】
・この時期の子どもの「ミンナノモノ」と「ジブンノモノ」のとらえ方を学ぶ。
・演習1　子どもの目の高さで地域を歩いてみる。
・演習2　手作りのおもちゃを作ってみる。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp242～250
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２２回　子どもの援助の実際（1歳児クラス）
【key words】
生活と遊びの援助

【授業概要】
・「かみつき」についての留意点、配慮点、対応策などの説明をする。
・演習1　排泄の自立について保護者はどのように考えているか調べてみる。
・着脱の動作を分割してとらえ、どのような援助が必要なのかを考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp252～258
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「かみつき」のついてまとめておく
着脱の動作分割の図を作る

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　子どもの生活の流れ（2歳児クラス）
【key words】
2歳児のデイリープログラム

【授業概要】
・2歳8か月の事例から、一人ひとりの内面の思いを受け止める保育者のかかわりについて考える。
・子どもの生活場面について、自立をうながす保育者のかかわりを考える。
・演習1　事例から一人ひとりの内面の思いを受け止める保育者のかかわりについて考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐ262~270
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２４回　子どもの保育環境（2歳児クラス）
【key words】
見立て遊び

【授業概要】
・玩具のそろえ方のポイントと手指の発達をうながすあそびについて説明する。
・演習1　2歳児の発達に適した人形はどのようなものがあるか考える。
・演習2　子どもが探索行動を通して、遊びこむことのできる安全で活動しやすい環境を考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp272～278
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２５回　子どもの援助の実際（2歳児クラス）
【key words】
2歳児の育みたい資質と能力

【授業概要】
・演習1　2歳児の発達をうながす遊びを考える。
・演習2　自分で排泄をしようとするための適切な援助を考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp282～288
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２６回　子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
【key words】
危機管理

【授業概要】
・子どもの死亡および事故の現状と課題について説明する。
・睡眠中の事故予防について学ぶ。（乳幼児突然死症候群と睡眠時チェック表）
・演習1　乳幼児の発達と、発達段階によって起きそうな事故を予測してみる。
・演習2　乳幼児の愛着形成を考慮した保育者のかかわりを考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストｐ292~300
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２７回　集団での生活における配慮
【key words】
家庭との連携の手段

【授業概要】
・集団保育と個々への援助について説明する。
・演習1　保護者との連携について考えてみる。
・保育者同士、他職種との連携を考えてみる。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp302～309
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２８回　環境の変化や移行に対する配慮
【key words】
移行とはなにか

【授業概要】
・演習1　子どもがスムーズに移行するためになにをしたらよいのか考えてみる。
・演習2　年度途中に行う園内での移行における対応を考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp312～324
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２９回　長期的な指導計画と短期的な指導計画
【key words】
保育の振り返り

【授業概要】
・演習1　なぜ指導計画が必要か考えてみる。
・演習2　次の計画や実践に活かせる記録の書き方を考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp326～336
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３０回　個別的な指導計画と集団の指導計画
【key words】
個と集団

【授業概要】
・演習1　個別の計画作成にあたり、月齢差による発達の違いについて考える。
・演習2　個別の計画作成にあたり、個人差について考える。

【教科書ページ・参考文献】

	テキストp338～346 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習1.2で話し合ったことをまとめておく 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。 ○関係書類等の提出期限は必ず守ること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	保育・子育て支援に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。 地域の子育て支援イベントなどのボランティア活動に積極的に参加すること。
オフィスアワー	月曜 10:30～12:30　それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。
評価方法	講義内でのレポート・小テスト（３０％）提出物（１０％）定期試験（６０％）
教科書	乳児保育　基本保育シリーズ⑯　寺田清美 大方美香 塩谷香 編集　　中央法規出版
参考書	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園・保育所等での実践、病児保育施設での経験を活かし、乳児における基本的な留意事項から、健やかな成長のために保育者が配慮していくことなどを講じます。また、実際の乳児と触れ合う経験を取り入れ、乳児とのかかわりを肌で感じる実技演習も行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ（保育所）　　授業コード：4416　4417

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中　輝幸・吉澤　幸・川端　奈津子・塚越　亜希子・青木　純恵			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育実習（保育所）における実習の意義・目的を理解し、有意義で効果的な実習となるために必要な知識と技術を習得する。 【到達目標】 ①実習の意義と目的を理解し実習生の心得等を身に付け実行できる。 ②実習記録や関係書類を適切に記載することができる。 ③発達年齢に合わせた保育実技等を習得し実践することができる。
授業の概要	本講義は保育実習Ⅰ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 保育実習Ⅰ（保育所）、認可保育所、保育所保育指針 【授業概要】 保育実習Ⅰ（保育所）の流れについて確認する。 実習希望地域ごとに実習先の調整を行なう。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック、配布プリント（実習園調査書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習希望先の情報等を各自調べ、次週持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	保育実習の流れ、依頼の仕方 【key words】 観察実習・参加実習、実習依頼、内諾 【授業概要】 実習全体の流れを知る。実習依頼の流れを知り、地域ごとに実習先の調整を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P14～15

【課題・予習・復習・授業準備指示】
引き続き、次週も実習園の調整を行うので、各自実習先に関してさらに調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　保育実習の具体的内容と実習計画
【key words】
見学・観察・参加実習、部分実習

【授業概要】
観察実習のポイントを確認し、参加～部分実習の内容を実例をもとに考察していく。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P16～20
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P26～31を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　実習施設の理解①実習園を知る
【key words】
保育方針・保育形態、デイリープログラム

【授業概要】
実習を行うにあたり、園ごとに保育方針・保育形態等が異なることを知る。
教科書のデイリープログラムを見比べて、園ごとの違いについて知る。
実習依頼先の最終調整を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P26～31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習希望先の情報等を各自調べ、次週持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　実習施設の理解②デイリープログラム
【key words】
設定保育・自由保育、登園・降園

【授業概要】
教科書の各園ごとのデイリープログラムを比較し、保育の流れを確認していく。
実習先依頼に関して再度、地域ごとに調整を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P29～31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週は保育実技を行うので、動きやすい服装で参加すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　保育実技①集団遊び・リズム体操
【key words】
リズム体操・組遊び・集団遊び

【授業概要】
実習で役立つリズム体操・組遊び・集団遊びについて実践する。1つずつの遊びを体験すると同時に、遊びの展開（流れ）についても知る。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週は、本日配布のプリントを持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　保育実技②新聞紙遊び等
【key words】
遊びの流れ・指導案

【授業概要】
身近な素材（新聞紙）を使い、各年齢ごとの遊びの流れを知る。
また、天候によっても指導案を変える等の配慮も学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント参照。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P32～34を読んでくること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　観察実習のポイント
【key words】
見学・観察・参加実習

【授業概要】
保育実習Ⅰ（保育所）の流れを確認し、見学～観察実習のポイントを確認していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P32～34
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P34～35を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　実習課題の明確化
【key words】
実習課題・実習目標、実習の目的
次
【授業概要】
保育実習Ⅰ（保育所）での実習課題を、各自、実習へのガイドブックや配布プリントをもとに、作成する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP61、配布プリント（実習の目的）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週、実習の目的の書類を記入し提出すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　個人調書と自己紹介
【key words】
個人調書（自己紹介表）自己紹介

【授業概要】
観察実習のポイントを確認し、参加～部分実習の内容を実例をもとに考察していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P34～35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P36～37を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　実習の心構えと理解①守秘義務・個人情報等
【key words】
守秘義務・個人情報

【授業概要】
保育実習を行なうのにあたり、日誌や記録の取り扱いなど
実習中～実習後にかけての注意事項を知る。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリント及び教科書P9のコラムを読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　実習の心構えと理解②実習生としての心構え
【key words】
専門職、資格取得

【授業概要】
実習を行なうのにあたり、基本的な心構えを確認し、専門職として必要な事項を確認していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P9、配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週は、絵本の読み聞かせをグループごとに行なう。
各自、絵本を持参し、プリントも記入してくること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　保育実技③読み聞かせについて
【key words】
導入の手遊び、対象年齢

【授業概要】
グループに分かれて、絵本の読み聞かせを行う。対象年齢に合わせ

		導入の手遊びも行う。読み聞かせを見た感想をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリントに各自記入。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布プリントをまとめ持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	保育実技④紙芝居について 【key words】 対象年齢　導入の手遊び　部分実習 【授業概要】 前回行なった「読み聞かせ」の感想をグループごとにまとめ発表する。また夏期休暇中の計画等も各自行なう。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 夏期休暇中は、実習先および保育園・幼稚園、子ども関係のイベント等に多く参加すること。参加して気づいた点を 　配布プリントに記入すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	前期まとめ 【key words】 観察実習　部分実習　ボランティア 【授業概要】 前回行なった「紙芝居」の感想をグループごとにまとめ発表する。また夏期休暇中の計画等も各自行なう。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 夏期休暇中は、実習先および保育園・幼稚園、子ども関係のイベント等に多く参加すること。参加して気づいた点を 　配布プリントに記入すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１６回	後期オリエンテーション 【key words】 保育実習Ⅰ（保育所）、責任実習、指導案 【授業概要】 保育実習Ⅰ（保育所）の流れについて確認する。 保育実技⑤（視覚的教材等）準備について 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 視覚的教材の材料を各自持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１７回	保育実技⑤（視覚的教材等） 【key words】 保育実技、部分実習,視覚的教材 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次週も製作の続きを行う。 【授業概要】 各自、視覚的教材等を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次週も製作の続きを行う。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１８回	部分・責任実習について 【key words】

部分・責任実習

【授業概要】
部分実習について流れを知り、各年齢ごとの注意点を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント・指導案
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指導案（見本）を持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　実習記録について①本日のねらいについて
【key words】
本日のねらい、実習計画、実習目的

【授業概要】
実習記録の書き方及び、実習目的について確認する。
各自、実習目的について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、視覚的教材・自己紹介の製作を進めておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　実習記録について②実習生の動き・気づいた点・環境構成の記入の仕方について
【key words】
責任実習、導入、指導案

【授業概要】
指導案の書き方について概要を知る。
各年齢ごとの指導案作成のポイントについて知る。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各年齢ごとの指導案を考え記入すること。
資料等も準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　部分実習のポイント（外部講師）
【key words】
部分実習のポイント、指導案、導入、展開、まとめ

【授業概要】
各年齢ごとの部分実習についてのポイントを知る。
時間内に製作・実演・質問等も受け付ける。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回作成した年齢以外の指導案の準備も各自進めておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　部分実習のポイント　指導案について①子どもの姿の記入について
【key words】
子どもの姿、指導案、導入、展開、まとめ

【授業概要】
各年齢ごとの指導案を実際に書いてみる。
時間内に添削も行なう。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（指導案）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、保育実技教材を作成すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　部分実習のポイント　指導案について②年齢ごとの配慮点について
【key words】
指導案、導入、展開、まとめ

【授業概要】

【教科書ページ】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【授業概要】
各年齢ごとの指導案を実際に書いてみる。
　時間内に添削も行なう。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、視覚的教材・自己紹介を完成させ実演の練習を進めておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　服装と身だしなみ・持ち物・実習園が実習生に期待すること
【key words】
報告・連絡・相談

【授業概要】
実習中の注意点について、連絡・報告などについて確認する。
特に実習終了後の注意点について確認する。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（保育実習Ｉチェックリスト）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育実習Ｉチェックリストをもとに各自準備を進めること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　オリエンテーションについて、実習関係書類について
【key words】
オリエンテーション、準備物、提出物、報告の仕方

【授業概要】
実習に向かうにあたり、巡回指導者から注意点を確認する。園や大学への連絡の仕方についても再度確認する。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、視覚的教材・自己紹介を完成させ実演の練習を進めておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　視覚的教材提出及び実演
【key words】
視覚的教材・自己紹介

【授業概要】
視覚的教材・自己紹介の実演　グループごとにまとめをする。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指導案（見本）を持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　保育実習Ｉ（保育所）先輩の体験談
【key words】
保育実習Ｉ（保育所）実習記録、部分実習

【授業概要】
実習を終えた４学年の学生より体験談を聞き参考にする。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント・ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自指導案の準備を進めること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２８回　実習記録・部分実習について

	【key words】 実習記録・部分実習 【授業概要】 部分実習に向けた指導案の準備を行う。 時間内に添削も行なう。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント・指導案 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自指導案の準備を進めること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２９回　実習直前指導 【key words】 保育実習Ⅰ（保育所）観察・参加実習　部分実習 【授業概要】 保育実習に向けた注意事項を行う。 提出書類等のチェックを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（グループのまとめ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保育実習Ⅰ提出物チェックシートを記入すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　まとめ 【key words】 実習記録、お礼状 【授業概要】 実習準備物の確認と実習終了後の流れを確認。 実習記録の提出とお礼状の書き方についても確認。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（グループのまとめ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習終了後の流れを確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。 ○提出物の期限は必ず守ること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。
オフィスアワー	講義終了後３０分間対応します。それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。
評価方法	提出物（50%）授業内レポート（30%）小テスト（20%）の総合評価
教科書	「実習の記録と指導案」　山本　淳子　編著　ひかりのくに　、 幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド　徳永 満理　編著　チャイルド本社
参考書	「実習へのガイドブック」　群馬医療福祉大学　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保育士　幼稚園教諭　認定こども園園長 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

	情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ（施設）　　授業コード： 4418

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　自らの実習を振り返ることで、保育士となるための今後の自己課題を明確化する。また、他者の報告をとおして体験を共有することで、幅広く児童福祉施設等の社会福祉施設についての理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 　①自分の実習を客観的に振り返り、自己課題を発見できる 　②自分の実習先以外の施設についても概要を理解し、基本的事項を説明できる 　③支援者となるための職業倫理を身につけ言語化できる
授業の概要	実習報告書の作成や自己評価を行うことにより、自身の課題を明確化した上で、グループ単位（種別ごと）で実習を振り返る。さらに、実習スーパービジョンを行い個々で実習レポートを作成し、報告会を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（振り返りの意義・自己評価と実習先評価・自己課題の明確化） 【key words】 振り返りの意義　　自己評価と実習先評価　　自己課題の明確化　　学びの往還 【授業概要】 実習後に、客観的に自分自身の実習や実習日誌を振り返り、評価すること、仲間と情報交換や学び合いで視野を広げていくことをとおして、保育士としての自分を高め、自分の体験に対して理論的整合性を整理する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１２６～Ｐ１３１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実習日誌を持参すること ・自分の実習先の概要と実習内容を他者に伝えられるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習３０分
	第２回	グループで体験の共有①　施設の概要・実習内容 【key words】 施設の概要　　実習内容　　情報の共有　　施設の多様性理解 【授業概要】 実習体験は各自異なり、多様な現場についての情報を交換することで自分の知らない現場を知ることに価値がある。さらに、子どもや福祉に対する見方や考え方、さらには職業意識にまで学びを広げていく。 【教科書ページ・参考文献】 各自で必要な部分を抜粋して使用

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・実習日誌を持参すること
・自分の実習先の子ども（利用者）および職員とのかかわりを他者に伝えられるようにしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第３回　グループで体験の共有②　子ども（利用者）および職員とのかかわり
【key words】
子ども（利用者）および職員とのかかわり　　情報の共有　　施設の多様性理解

【授業概要】
実習先の種別ごとのグループで、各回のテーマにそって情報交換と体験共有を行いながら、ワークシートに共通点と相違点（独自性）をまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
各自で必要な部分を抜粋して使用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・実習日誌を持参すること
・自分の事前学習の内容と実習日誌への取り組みについて他者に伝えられるようにしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第４回　グループで体験の共有③　事前学習のあり方・記録の視点
【key words】
事前学習　　記録　　情報の共有　　施設の多様性理解

【授業概要】
実習先の種別ごとのグループで、各回のテーマにそって情報交換と体験共有を行いながら、ワークシートに共通点と相違点（独自性）をまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
各自で必要な部分を抜粋して使用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・発表準備
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第５回　グループで体験の共有④　グループ発表
【key words】
情報の共有　　施設の多様性理解

【授業概要】
実習先の種別によって、実習で体験した内容は多種多様である。第２回～４回までに整理したものを、グループごとに発表し、各種別についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
各自で必要な部分を抜粋して使用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内でワークシートを記入し、終了時に提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
なし

第６回　個別スーパービジョン（学籍番号０１～０８）、実習レポートおよび報告会資料（ＰＰ）の作成①
【key words】
評価　　自己課題の明確化　　自己覚知

【授業概要】
①実習先ごとの報告用パワーポイント資料の作成
②実習報告レポートの作成を各自および同じ実習先の仲間とともに計画的に進める。その合間に実習先評価と自己評価にもとづき、個別スーパービジョンを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
各自で必要な部分を抜粋して使用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
計画的に進めること。実習報告レポートの提出期限は厳守。
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　個別スーパービジョン（学籍番号０９～１６）、実習レポートおよび報告会資料（ＰＰ）の作成②
【key words】
評価　　自己課題の明確化　　自己覚知
【授業概要】
①実習先ごとの報告用パワーポイント資料の作成
②実習報告レポートの作成を各自および同じ実習先の仲間とともに計画的に進める。その合間に実習先評価と自己評価にもとづき、個別スーパービジョンを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
各自で必要な部分を抜粋して使用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
計画的に進めること。実習報告レポートの提出期限は厳守。
【予習復習に必要な想定時間】
レポートおよび発表準備６０分

第８回　個別スーパービジョン（学籍番号１７～２４）、実習レポートおよび報告会資料（ＰＰ）の作成③
【key words】
評価　　自己課題の明確化　　自己覚知

【授業概要】

①実習先ごとの報告用パワーポイント資料の作成
②実習報告レポートの作成を各自および同じ実習先の仲間とともに計画的に進める。その合間に実習先評価と自己評価にもとづき、個別スーパービジョンを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
各自で必要な部分を抜粋して使用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
計画的に進めること。実習報告レポートの提出期限は厳守。
【予習復習に必要な想定時間】
レポートおよび発表準備６０分

第９回　個別スーパービジョン（学籍番号２５～３２）、実習レポートおよび報告会資料（ＰＰ）の作成④
【key words】
評価　自己課題の明確化　自己覚知
【授業概要】
①実習先ごとの報告用パワーポイント資料の作成
②実習報告レポートの作成を各自および同じ実習先の仲間とともに計画的に進める。その合間に実習先評価と自己評価にもとづき、個別スーパービジョンを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
各自で必要な部分を抜粋して使用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
計画的に進めること。実習報告レポートの提出期限は厳守。
【予習復習に必要な想定時間】
レポートおよび発表準備６０分

第１０回　個別スーパービジョン（学籍番号３３～４０）、実習レポートおよび報告会資料（ＰＰ）の作成⑤
【key words】
評価　自己課題の明確化　自己覚知

【授業概要】
①実習先ごとの報告用パワーポイント資料の作成
②実習報告レポートの作成を各自および同じ実習先の仲間とともに計画的に進める。その合間に実習先評価と自己評価にもとづき、個別スーパービジョンを実施する。
【教科書ページ・参考文献】
各自で必要な部分を抜粋して使用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
計画的に進めること。実習報告レポートの提出期限は厳守。
【予習復習に必要な想定時間】
レポートおよび発表準備６０分

第１１回　実習報告会①（乳児院・児童養護施設）
【key words】
乳児院　児童養護施設　一時保護所

【授業概要】
実習先施設ごとに作成したパワーポイントをもとに、実習報告会を行う。自らの実習先以外の施設について理解を深めるとともに、自分の実習を振り返り考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートに要点をまとめながら発表を聴く。ワークシートは授業終了時に回収する。
【予習復習に必要な想定時間】
レポートおよび発表準備６０分

第１２回　実習報告会②（児童発達支援センター・福祉型障害児入所施設）
【key words】
児童発達支援センター　福祉型障害児入所施設
【授業概要】
実習先施設ごとに作成したパワーポイントをもとに、実習報告会を行う。自らの実習先以外の施設について理解を深めるとともに、自分の実習を振り返り考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートに要点をまとめながら発表を聴く。ワークシートは授業終了時に回収する。
【予習復習に必要な想定時間】
レポートおよび発表準備６０分

第１３回　実習報告会③（医療型障害児入所施設・障害者支援施設）
【key words】
医療型障害児入所施設　障害者支援施設
【授業概要】
実習先施設ごとに作成したパワーポイントをもとに、実習報告会を行う。自らの実習先以外の施設について理解を深めるとともに、自分の実習を振り返り考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートに要点をまとめながら発表を聴く。ワークシートは授業終了時に回収する。
【予習復習に必要な想定時間】
レポートおよび発表準備６０分

第１４回　実習報告会④（障害者支援施設）
【key words】
障害者支援施設
【授業概要】
実習先施設ごとに作成したパワーポイントをもとに、実習報告会を行う。自らの実習先以外の施設について理解を深めるとともに、自分の実習を振り返り考察する。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートに要点をまとめながら発表を聴く。ワークシートは授業終了時に回収する。 【予習復習に必要な想定時間】 レポートおよび発表準備６０分 第１５回　実習報告会⑤（障害福祉サービス事業所）　後期のまとめ 【key words】 障害福祉サービス事業所 【授業概要】 実習先施設ごとに作成したパワーポイントをもとに、実習報告会を行う。自らの実習先以外の施設について理解を深めるとともに、自分の実習を振り返り考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートに要点をまとめながら発表を聴く。ワークシートは授業終了時に回収する。 【予習復習に必要な想定時間】 なし
受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻や欠席の連絡は必ず事前に届け出ること ・実習関係書類を整理するためのファイルを用意する。配付資料の予備は保管しないので、出席者からコピーしてください。 ・実習体験の共有化を図るために他者の発表は真剣に聴くこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	明確化された個々の課題克服にむけた目標を立てること。施設を就職先の選択肢として考慮する場合は、日頃からボランティア等を継続しておくこと。
オフィスアワー	水曜（１４：３０～１７：３０）
評価方法	授業内での発表・取り組み姿勢（３０％）　実習関係書類の提出状況（２０％）　実習レポートの内容（５０％）
教科書	１　群馬医療福祉大学『実習へのガイドブック』群馬医療福祉大学２０１６ ２　施設実習パーフェクトガイド　わかば社２０１９
参考書	福祉小六法編集委員会『福祉小六法』　みらい２０１７
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 児童文学　　授業コード： 4431

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童文学について正しく理解し、単に子どもの本ではなくどんな年齢層にもアピールする魅力と、子どもの本の深さを理解できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①児童文学の成り立ちと発展の過程等について理解できる ②児童文学が扱うさまざまなテーマや主題に沿った各論について説明できる ③現在の子どもを取り巻く状況と児童文学の関係について考える
授業の概要	実際の作品に触れながら、児童文学の豊かな世界を鑑賞する。「児童文学とはなにか」だけではなく、絵本、童話、ファンタジーなど児童文学の周辺を取り巻く用語について整理し、正しく理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション(授業計画説明、予習復習の説明、評価方法の説明など）・児童文学とは 【key words】 講義の受け方、本 【授業概要】 ・この授業の取り組み方、全15回のペース配分などを伝える。 ・個々にどんな文学に興味・関心があるのかを4～5人のグループで紹介し合う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp7～14（第1章児童文学理解の基本）　わたしの好きな子どもの本50冊　著中村美子 クリエータおすすめの絵本650冊　玄光社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分が知っている絵本を書き出す。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	子どもの本の分類 【key words】 「児童文学」と「絵本」の違い 次回の題材「ロビンソンクルーソー」を読んでおく

【授業概要】
・小学校児童文学についての対象年齢や内容についての解説、説明。文学にも様々な形式やジャンルがあること　を知る。「絵本」と「挿絵入りの本」の違い等についても学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp16～20
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の題材「ロビンソンクルーソー」を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
一週間のうちに「ロビンソン・クルーソー」の本を読む

第３回　子どもの本の歴史
【key words】
二つの子ども観

【授業概要】
・小学校子どもの文化についての歴史的流れを知り、18世紀の「罪深き子ども」の概念について考える。
・児童館に大きな変化を生じさせた「ロビンソンクルーソー」の影響について考え、他者と意見交換をする。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp21～27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の準日として、神話や伝説で知っているものを書き出しておく
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　神話　（日本神話、ギリシャ神話）　・　伝説
【key words】
伝承文芸

【授業概要】
・日本誕生の神話（イザナミとイザナギやヤマタノオロチ　など）とギリシャ神話（ゼウスやアポロンなどの　　神々　など）の比較を楽しむ。また伝説について調べ、他者とそれぞれが調べたものを伝え合う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐ62~65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の昔話について調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　日本の昔話
【key words】
「桃太郎」「竹取物語」

【授業概要】
・日本の昔話に含まれる、人間の心の深層やあり方を読み解いていく。また、昔話が果たしてきた役割について　考え、意見交換を行う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp62～68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
昔話の本や絵本を持参する
童話の絵本を何冊か準備しておく
【予習復習に必要な想定時間】
翌週までに図書館等で絵本をかりておき、準備しておく

第６回　童話（グリム童話・イソップ童話・アンデルセン童話）
【key words】
童話の「戒め」

テキストp64～68

【授業概要】
・各童話の特徴や、作者の特徴を知り、理解を深める。
・童話の中で伝えている「戒め」について考え、童話への興味・関心を高める。
【教科書ページ・参考文献】
p183
【課題・予習・復習・授業準備指示】
気になる童話の「戒め」を読み解き、レポートとしてまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　ファンタジーとリアリズム

【key words】
空想と魔法、架空の世界

次回小テストを行うので、第1～7回までの復習をしておく
【授業概要】
・関心現実の子どもが、別世界を体験するファンタジーには、その経験が主人公の子どもにどのような影響を　与える要素があるか考える。擬人化されたファンタジーの、動物の視点の導入効果に注目してみる。
・19世紀と現在の家庭小説を比較し、家族の定義と営みなどに着目する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp69~83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ファンタジーとリアリズムの特徴や違いについてまとめてレポートを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　冒険物語

【key words】
主体性の目覚め

【授業概要】
・主人公が経験する波乱万丈の物語（探索・試練・挑戦・救出・サバイバル）は、なぜ人の心を惹き付けるの　　か、なぜ魅了させられるのか、考えていく。
・前半のまとめの小テストを行う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp101～107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小テストで理解できていなかったところを復習する
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　歴史小説

【key words】
過去という舞台の上で

【授業概要】
・歴史上の事実を重視し、過去を再現することを目的とする歴史物語と、時代設定を守りつつも架空の人物を配　した歴史物語の比較を楽しむ。
・歴史的な事件を扱った歴史小説を取りあげ、どのような方法で小説家しているか、調べたり考えたりする。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp116～122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業を受け、自分の気になる（好きな）歴史上の人物で物語となっているものを見つけ、「再現」なのか「架空」なのか調べてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　フィクションとノンフィクション

【key words】
想像力の本と知識の本

【授業概要】
・フィクションとノンフィクションの違いについて考え、ノンフィクションにおけるフィクション的手法にお　いての効果のあり方を学ぶ。
・伝記に取り上げられる対象である人々は、時代を追って「偉人」であることから「個人」であることに変化　してきていることについて論じる。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp134～138
【課題・予習・復習・授業準備指示】
フィクションとノンフィクションについての説明が自分の言葉でできるようまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　わらべうた・童謡

【key words】
わらべうたと子どもの育ち

【授業概要】
・わらべうたについての基礎知識と3つの特性について学習する。またわらべうたから見える地域の特徴性に　ついて、出身地ごとに「どれにしようかな」を発表する。
・わらべうたを活かした保育を考える。（社会的な育ちと音楽的な育ち）
・いろんなわらべうたに触れてみる。（子守唄、数え唄、悪口唄、からかい唄　　など）

【教科書ページ・参考文献】
レジュメを用意する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が子どもの頃に慣れ親しんできた「わらべうた」を思い出して書き出しておく。家の方にも聞いてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
時間数でなく、1週間以内に調べて書き出しておく

第１２回　子どものための詩
【key words】
わらべうたから現代詩まで

【授業概要】
・詩のルーツを学習する。
・詩とは、その言葉のもつ力を最大限に活かした「言語芸術」であるということを理解し、代表的な詩を例題に　出し、その詩から感じるものをそれぞれ意見を出し合う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp166～171
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際に詩や俳句を書いてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　自分史
【key words】
自分が生きてきた歴史を振り返る

【授業概要】
・自分が生きてきた歴史を箇条書きで書き出し、それを文章化していく。
・自分が生きてきた時代の記録を振り返ってみる。
・今までにかかわってきた人々や人間関係とともに、自分自身を振り返る。ありのままの自分を書き出し、客　観視することでステップアップしていけるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
「自分詩の書き方・手引き」のレジュメを用意する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
最終授業日を提出日とし、「自分史」をA4用紙2～5枚程度にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
提出期限日まで

第１４回　原作・アニメ・実写映画などの比較
【key words】
表現方法

【授業概要】
・小学校原作・アニメ・実写映画を鑑賞し、同じ登場人物、かつ同じ内容でも、表現方法の違いによって、別物　のように見える理由について考え、意見を出し合う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp56～60　　ピクサーやジブリなどの作品
【課題・予習・復習・授業準備指示】
最終授業日を提出日とし、「自分史」をA4用紙2～5枚程度にまとめる。
絵本、紙芝居を準備しておく
【予習復習に必要な想定時間】
提出期限日まで、絵本・紙芝居は次週までに準備しておく

第１５回　絵本、紙芝居、幼年文学
【key words】
知っておきたい読み聞かせのポイント

【授業概要】
・絵本の読み聞かせの具体的な効果について学習する。

	・子どもの本・紙芝居の選び方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp201～222　　絵本・紙芝居 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終授業日を提出日とし、「自分史」をA4用紙2～5枚程度にまとめる。 「自分史」の提出。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業シラバスを確認し、積極的に授業jに取り組むこと・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解して授業に臨むこと。わからない部分は授業で解決するように努力すること。
オフィスアワー	月曜13：00～15：00　それ以外の時間帯はアポイントを取って下さい。
評価方法	レポート試験60%、授業への取組、授業時の課題、小テスト40%。
教科書	川端有子：児童文学の教科書
参考書	授業時に指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園・小学校の現場で、読み聞かせ等の実務を行っていた。そのため、多くの絵本と触れ合い、また読み聞かせが与える影響・効能等についても学んできた。その経験と知識を基に学生たちに児童文学の歴史から現代に至るまでについて指導していく。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 児童文学　　授業コード： 4432

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
鈴木　耕太郎			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 「児童文学」と呼ばれるジャンルの作品について、受講生ひとりひとりが理解を深め、その役割や意義についてさまざまな視点から考えられるようになることが本授業の目的となる。 [到達目標] 1:「児童文学」とは何かを理解し、その役割や意義を学ぶ。 2:「児童文学」の世界に触れ、それぞれの作品の楽しさ/おもしろさを自分のことばで述べることができるようになる。 3:「児童文学」にたくさん触れ、自分のおすすめの作品を紹介できるようになる。
授業の概要	ひとことで「児童文学」といっても、その範囲は広い。授業では「児童文学」の歴史やジャンルなど知識面を広げるとともに、なるべく多くの「児童文学」作品に触れ、それらが示す「世界」を共有してもらう。そのほか、本授業では以下のような取り組みをする。 ・毎回、講義時に絵本を中心とした児童文学作品を紹介する(10分弱)。 ・講義第7回目に受講生参加型の児童書限定「ビブリオバトル」を行う(ただし、受講人数次第で全員参加か希望者参加かを決める)。 ・講義第14回目に「絵本読み聞かせ大会」を行う(グループにわけておこなう)。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション（授業の進め方・評価のしかた・注意点など）/<概要1>児童文学とは何か？ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　<概要2>児童文学の形式とジャンル 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　<概要3>児童文学のはじまり（児童文学史①） 【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　〈概要4〉児童文学の展開（児童文学史②）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　【各論1】神話・伝説・昔話と子ども

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　【各論2】日本の説話文学と子ども

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　≪実践1≫児童書限定ビブリオバトル

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

第5回目までにどの児童書でビブリオバトルを行うか、教員に伝えること。

なお、ビブリオバトルについてはネット上の動画などを参考にしておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　【各論3】ファンタジーの世界（日常編）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　【各論4】ファンタジーの世界（異世界編）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　【各論5】戦争と平和の児童文学

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　【各論6】ノンフィクション作品と子どもの成長

【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　【各論7】多様な絵本のおもしろさ（外国編） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　【各論8】多様な絵本のおもしろさ（日本編） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　≪実践2≫絵本読み聞かせ大会（グループワーク） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 班は第10回の講義時までに決定する。各班とも、事前に練習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　【各論9】アニメ・マンガと児童文学 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・なるべく前から詰めて座ること。 ・私語厳禁。遅刻にも厳しく対処する(2回の遅刻に1回の欠席とみなす）。 ・授業中、携帯電話などの使用(通話やゲーム、LINEなど)は原則認めない(教員が許可した場合に限る)。 ・5回以上、欠席した場合は定期試験は受験できないこととする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・日常的に児童文学に触れておくこと。 ・小レポートの未提出は原則認めない。未提出の場合は、大幅な減点を行う。
オフィスアワー	原則は授業終了後、講師室で30分(ただし、月に1回は終了後10しか時間が取れない)
評価方法	①定期試験(記述式・論述あり)60%、②小レポート10%、③授業への取り組み・態度(毎回のコメントカード内容やグループワークなど)30%
教科書	特に指定しない(レジュメを用いる)
参考書	・川端有子『児童文学の教科書』(玉川大学出版、2013年)　・三宅興子、多田昌美『児童文学12の扉をひらく』(翰林書房、1999年)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

	情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　介護技術Ⅱ　　授業コード：5045

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
辻　志帆・福田　智久			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「授業の目的」 介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要としている人に、全人的で質の高い介護が提供できるよう、基礎的な　知識と技術及び態度を習得し、実践できるようになることを目的とする。 「到達目標」 ①身体障害のある人に対する医学的な知識と介護の方法が理解でき対応することができる。 ②認知症に伴うこころとからだの変化と介護について理解することができる。 ③終末期における介護の意義と尊厳を考慮した支援について理解することができる。 ④介護における安全確保と危機管理の重要性について理解し対応することができる。
授業の概要	本講義は、介護を必要とする人の「尊厳の保持」や「自立支援」などの観点から、基本的な日常の「生活支援」に焦点をあて質の高い適切な介護を提供できる能力と態度を育てることを重視している。また介護を実践する際に必要なこころとからだについての基礎的な知識を習得するとともに、社会的に重要性を増している高齢者や認知症、障害、終末期における介護についても理解を深め、介護の現状と支援のあり方について学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明） 【key words】 シラバス 【授業概要】 科目の位置付けと授業概要の説明。学生個々の履修目的、学習目標についてレポート 【教科書ページ・参考文献】 授業概要 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習時は身だしなみを整えてくること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	介護の意義と役割　①　（介護の意義　介護と生活） 【key words】 介護の概念、介護と生活支援、介護は実践 【授業概要】 介護とは、介護の仕事とは何か、介護をめぐる社会的背景、介護福祉士の誕生と法的規定について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P2~5　参考書「介護福祉総論」P2~P14　第一法規 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第３回	介護の意義と役割　②　（尊厳を支える介護　生活の質と介護） 【key words】 人間の尊厳、QOL 【授業概要】 尊厳の持つ意味について、尊厳を支え援助をする側と尊厳を持つ要介護者との側面について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P6~P17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義、演習をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	介護の意義と役割　③　（自立に向けた介護　ノーマライゼーションの理念　介護予防とリハビリテーション） 【key words】 自立支援、介護予防とリハビリテーション、ノーマライゼーション 【授業概要】 自立を支える介護の意義と役割について、ノーマライゼーションやICFを取り上げ、利用者の自己決定と個別化などについて学ぶ。また介護実践における介護予防とリハビリテーションの考え方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P2~7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義、演習をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	生活の場による介護の特徴　（居宅介護　家族介護　施設介護）グループ学習 【key words】 居宅介護・家族介護・施設介護 【授業概要】 居宅と施設など生活の場による介護の特徴、居宅サービス従事者に求められる基礎知識、介護保険制度と施設介護の現状と入居者の生活について学ぶ。家庭生活の変化と介護に　ついても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P6～7、P11~12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義、演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	生活の場による介護の特徴　（居宅介護　家族介護　施設介護）発表 【key words】 居宅介護・家族介護・施設介護 【授業概要】 居宅と施設など生活の場による介護の特徴、居宅サービス従事者に求められる基礎知識、介護保険制度と施設介護の現状と入居者の生活について学ぶ。家庭生活の変化と介護に　ついても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P6～7、P11~12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義、演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしと生活、身体障害のある人の暮らしと生活）① 【key words】 高齢者、障がい者の生活、介護ニーズ、介護福祉サービス、ノーマライゼーション 【授業概要】 介護を必要とする高齢者や障がい者などについて具体的な事例を通して生活に関する状況と課題及び介護ニーズを取り上げ、それぞれ高齢者、障がい者を支えるための介護の在り方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P13~P17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしと生活、身体障害のある人の暮らしと生活）② 【key words】 【授業概要】 介護福祉サービスの概要やそのサービスが提供される場の特性などについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P13~P17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	介護従事者に求められる倫理性・専門性 【key words】 倫理綱領　倫理性　　専門性　バイスティックの7原則 【授業概要】 介護の専門職としての職業倫理について理解し、介護従事者に求められる倫理性、専門性につい

て学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P18～22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　こころとからだのしくみ（こころのしくみ）
【key words】
ひとのからだ、こころ、人間の基本的欲求、社会的欲求
【授業概要】
こころのしくみの理解では思考、記憶、学習、感情、意欲など様々な欲求に対する適応の仕組みを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P20～p30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　こころとからだのしくみ（からだのしくみ）
【key words】
からだの構成、ホメオスタシス、脳と脊髄、脳神経と脊髄神経
【授業概要】
からだのしくみの理解では、人間の生命維持と生体恒常性のしくみ。人体の構造やからだの各部の名称、ボディーメカニクスなどを取り上げ、人間のからだのしくみについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p31～38
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　生活行為に関連したこころとからだのしくみ（食事、排せつ）
【key words】
1日あたりの水分出納、口渇中枢、摂食・嚥下のメカニズム、排尿、排便のメカニズム、尿失禁
【授業概要】
食事に関するこころとからだの基礎知識として食べることの生理的意味、必要な栄養素量や水分量、食べるしくみ、食欲や口渇などを学ぶ。排せつに関するこころとからだの基礎知識として排尿・排便のしくみ、排せつ物の性状、便秘や下痢、失禁などの機能の低下や障害の原因とその影響について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
p54-67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　高齢者と健康（病気、身体機能の低下が及ぼす生活への影響）
【key words】
加齢と病気　高齢者の病気の特徴　ホメオスタシス　人体の成分と体液
【授業概要】
身体機能が低下してきている高齢者の病気の特徴と老化が生活行為に及ぶ影響について学習する。また、高齢者の健康管理には、保健医療職との連携が必要であることについても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P100～103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　高齢者と健康（加齢による身体機能低下、運動機能低下とADL）
【key words】
高齢者の食生活の影響　高齢者の排泄への影響　高齢者の活動への影響　ADL
【授業概要】
加齢に伴う身体機能低下が及ぼす日常生活への影響について、食生活、排せつ、活動を取り上げ学習する。また加齢による運動機能低下とADLの低下について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P103~107

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　まとめ　（総括）
【key words】
尊厳を支える介護　自立に向けた介護　高齢者と障がい者の暮らしと生活　ひとのこころとからだのしくみ
【授業概要】
14回までの授業を振り返る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

	第１６回	後期　科目オリエンテーション（授業概要） 【key words】 シラバス　授業の関連性 【授業概要】 前期授業の振り返りと後期授業の関連性の説明。後期授業目標と行動目標 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１７回	心身状態、生活状態のアセスメント技術（全身状態とバイタルサインの観察） 【key words】 全身観察　バイタルサインの観察 【授業概要】 心身状態のアセスメント技術である「バイタルサイン」の基本的な医療知識と観察方法、その対応について 学ぶ。観察方法の体験学習を通じ、観察したことの正常、異常時の判断基準、医療職との連絡調整の必要性について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ204～212 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１８回	心身状態、生活状態のアセスメント技術（バイタルサインの計測） 【key words】 体温　呼吸　パルスオキシメーター　脈拍　血圧 【授業概要】 バイタルサインが正しく計測できるよう、基本的な医療知識と観察方法、その対応について学び、体験学習を通じて観察したことの正常、異常の判断がつき、医療職との連絡調整の必要性について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P204~218 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１９回	身体不調時・異常時の介護①　（発熱時と脱水の対応） 【key words】 発熱時の対応　冷あん法によるクーリング　解熱への対応　脱水の観察と対応 【授業概要】 発熱時と脱水状態の介護について、基本的な医療知識と観察方法などを関連付け学習する。 【教科書ページ・参考文献】 P213～216 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２０回	身体不調時・異常時の介護②　（呼吸困難時、意識障害時のケア） 【key words】 呼吸困難　起座位　意識障害　ジャパン・コーマ・スケール 【授業概要】 基本的な医療知識と観察方法、その対応について学び実践を演習で行う。呼吸困難時の体位、意識障害時の対応を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P216~217 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２１回	身体障害のある人への理解①　（視覚障害） 【key words】 目の構造・機能　視覚機能障害　日常生活への影響 【授業概要】 視覚障害について、医学的に疾患や病態を学び、視覚障害を持つ人への理解を深めたうえで演習を通して、援助の方向性を学習する。視覚障がい者への誘導方法など。 【教科書ページ・参考文献】 P226~229　P147~149 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２２回	身体障害のある人への理解②　（聴覚・言語機能障害） 【key words】 耳の構造と機能　伝音声難聴　感音性難聴　失語症　運動機能障害性構音障害 【授業概要】 外見では分かりにくい障害であり、障害の本質が理解されにくい聴覚・言語機能障害について、医学的な知識に基づいた障害の理解と自立に向けた適切な介護について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P226~229 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　身体障害のある人への理解③　肢体不自由（運動機能障害）
【key words】
脳血管障害　神経系疾患　パーキンソン病
【授業概要】
脳血管障害、パーキンソン病の特性を医学的に学び、障害によって今まで慣れ親しんだ生活様式を変えざるを得ない現状と自立に向けた介護の方向性について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　身体障害のある人への理解④　内部障害（腎臓機能障害）
【key words】
内部障害　腎臓機能　腎不全　腎臓透析療法
【授業概要】
内部障害の現状と課題を視野に入れながら、医学的な知識に基づいた腎臓機能障害のある人の自立に向けての介護技術を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P234~238
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　認知症のある人への理解②　（認知症の医学的理解、認知症に伴う心身の変化と日常生活）
【key words】
アルツハイマー型認知症　脳血管性認知症　若年性認知症
【授業概要】
認知症の原因となる疾病や症状の特徴、それらによって引き起こされる機能の変化と生活障害などの医学的理解を深めながら認知症の基礎知識と特性、心の特徴について学ぶ。また人間関係や居住環境などが認知症の人の日常生活に与える影響について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P271
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　認知症のある人への理解③　（認知症に対する介護技術）
【key words】
認知症ケアの理念　パーソンセンタードケア　グループホームケア
【授業概要】
認知症ケアの歴史や理念、罹患者数の推移と認知症高齢者の現状、認知症高齢者支援対策の概要などを取り上げ。認知症を取り巻く現状について学ぶ。認知症の人の理解の重要性について「人の生活や暮らし」の視点での介護のありかたを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P266～268
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　介護における安全確保と危機管理　（安全対策）
【key words】
感染症　ノロウイルス　MRSA　日和見感染症　感染予防
【授業概要】
介護現場における感染症の実態を取り上げ、感染予防の意義と必要性について理解させるとともに、感染対策の基礎知識と技術を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　参考「人体の構造と機能及び疾病」P101~104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２８回　人生の最終段階の介護①　（死にゆく人のこころとからだの変化）
【key words】
人間の死　医学的　法学的　人生の最終段階　危篤状態　安楽死　尊厳死
【授業概要】
人生の最終章の終末期の介護では、「死にゆく人のこころとからだの変化を取り上げ、人間の死のとらえ方、危篤状態に陥った時のからだの変化について学ぶ。また死に向かってゆく過程のこころの変化についても学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P284～296
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２９回　人生の最終段階の介護②　（終末期における介護技術）
【key words】
高齢者のターミナルケア　緩和ケア　事前意思確認　グリーフケア
【授業概要】
人生の最終段階における介護の意義と目的、介護のポイント、高齢者のターミナルケア、緩和ケ

	アなど、様々な症状に対しての援助方法や精神支援の重要性を学ぶ。死別後のグリーフケアについても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P293~296 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　まとめ（総括） 【key words】 人間の尊厳の保持　自立支援　介護職と多職種との連携　介護予防 【授業概要】 後期授業の振り返りと総括 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 介護について自己の思いや考え方を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	「受講生に関わる情報」 演習は、学校指定の運動着、シューズを着用のこと。イヤリング、ネックレス腕時計はつけないこと。 長い爪と　マニュキアは禁止、長い髪は束ねること。 「受講のルール」 他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。挨拶や身だしなみを整えること。 演習時の教材の準備、後片付けはグループメンバーと協力して行うこと。 教材は大切に使用し、整理整頓を心がけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	介護は、人間らしく生きることの支援なので、幅広い多面的な知識と人との関りが重要である。日頃から、新聞等の情報から社会情勢や高齢者・障害者問題等にも関心をもつことが大切である。
オフィスアワー	授業時に指示します。
評価方法	定期試験　６０％　　小テスト・レポート２０％　　授業への取り組み　２０％
教科書	「新　大学社会福祉・介護福祉講座　介護技術論」　第一法規
参考書	講義の中で適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 高齢者施設にて介護実務の経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　公民科教育法　　授業コード：5082

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
大島　登志彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・公民科で指導する各科目の主要項目や重要用語・内容、指導上の留意状況などを考察する。 ・「政治・経済」「現代社会」で扱う現代日本の主要な時事課題について、受講生各自が大枠に沿ったテーマを決めて、模擬授業を想定した指導案形式のレポート（以下模擬指導案レポート）を作成し、指導計画を立案する資質を身に付ける。また、それに沿った発表・考察・討論を重ねて、その内容及び科目全体を指導・批判・課題解決できる指導力と評価の指針を養う。
授業の概要	・前期：「政治・経済」のなかで、三権分立や経済の変動などや高校生の日常認識事項を事例考察する。 ・後期：「現代社会」「倫理」では、環境や国際関係、人間（日本人）の思想・宗教・文化などの取扱いを学ぶ。 ・「政治・経済」と「現代社会」で扱う内容の一端を、模擬授業を想定した指導案形式のレポート（以下模擬指導案レポート）を作成させ、それを授業実践として発表させ、考察・討論させる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	授業の概要説明（公民科の概要、授業の主眼と到達目標、授業の進め方や課題提出、評価方法）
	第２回	学習指導要領とその包括科目の変遷と課題、中学校との学習の関わり公民分野に係る問題意識
	第３回	戦後日本の経済発達や情報化社会の進展に関わる生活や学習事情の変遷（新聞、テレビ、インターネット・電子メール等の功罪、第３～１４回が政治・経済分野の学習）
	第４回	模擬指導案レポート執筆の指示（テーマの決め方や、執筆方法と内容の分担などの討論を含む）
	第５回	生徒の実態（学校所在地域の特性、生徒の通学事情や地域との関わりなど）と把握と授業への反映
	第６回	模擬指導案レポートの提出とその発表（レポートの内容紹介と発表順序等）の指示
	第７回	模擬指導案レポートの即した発表（①主に政治＝行政・選挙・地方自治などの内容を主体）
	第８回	政治に関わる専門用語の考察や公約の実現や留意事項、発表の考察と討論
	第９回	模擬指導案レポートに即した発表（②主に司法・裁判などの内容を主体）

	第１０回　司法に関わる専門用語の確認とそれに関わる諸問題や留意事項習事項、発表の考察と討論 第１１回　模擬指導案レポートに即した発表（③主に経済・金融・規制緩和等に関わる内容を主体） 第１２回　経済に関わる専門用語の確認と国際動向の指導に関わる留意事項、発表の考察と討論 第１３回　政治・経済の時事問題の重要性と考察指針（新聞の読み方、マスコミの対応など）（第１２・１３回では、政治経済の時事課題に関わる資料や統計データのインターネット検索を実践） 第１４回　「政治・経済」の総括、レポートやコメントカードなどの返却 第１５回　「現代社会」の模擬指導案レポート作成を指示（夏休みの課題＝日本の労働や医療・環境問題等）ここまでを前期での学習計画とし、前期（中間）試験を行う 第１６回　現代社会における色々な問題意識と高校での学習内容の示唆（第１６～２４回が現代社会分野）（近年顕著となった日本の諸問題：労働と福祉・医療・年金・少子高齢化、環境問題など） 第１７回　模擬指導案レポートの提出（夏休み前の第１５回で指示したもの）と発表の留意事項と分担 第１８回　模擬指導案レポートに即した発表（①主に労働問題に関わる内容を主体） 第１９回　労働に関わる専門用語の確認と諸問題や留意事項、発表の考察と討論（現代日本の労働各種課題を物語る資料・統計をインターネット検索して、考察する資質を磨く） 第２０回　模擬指導案レポートに即した発表（②主に福祉・医療・年金・少子高齢化に関わる内容主体） 第２１回　福祉・医療・年金等に関わる専門用語の確認と課題の留意事項、発表の考察と討論 第２２回　模擬指導案レポートに即した発表（③主に環境問題に関わる内容を主体） 第２３回　環境に関わる専門用語の確認とそれに関わる現実と日常生活との関わりの対比や留意事項 第２４回　「現代社会」の指導上の留意事項などを総括した上で、後期提出の模擬指導案レポートの返却 第２５回　現代人の思想・宗教に関わる諸課題を考察（第２５～２７回は倫理分野、講義と学生相互の討論） 第２６回　日本文化の歴史や種別の概要を把握し、その重要性と将来に伝承していく重要性を理解する。 第２７回　現代日本の社会環境の特性やその長短所を捉える。（深刻な環境事情の事例を把握し、それを解決する指針となる動画や資料を検索して考察する） 第２８回　「倫理」の授業での捉え方を総括し、学習項目や指導上の留意事項などを確認する。 第２９回　後期の模擬授業指導案・レポートやコメントカードなどの返却 第３０回　公民科全体の課題とポイントを総括・討論するなどによる１年間のまとめ、期末試験の指示
受講生に関わる情報および受講のルール	健康に留意し、欠席しないようにして下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・毎回穴うめ作業や演習問題を含んだプリントを配布します。プリントや教科書でよく復習して下さい。 ・レポートを課します。図書館で本を検索したり、新聞など資料を集めて、しっかり書いてください。
オフィスアワー	授業終了後30分程度（目安）
評価方法	前後期とも定期試験を行う（50%）、授業への参加状況（25%、下記小テストを含む）、模擬指導案レポートの内容とそれに即した発表・討論（25%） 毎回の授業での評価は、コメントカードで行う（小テスト等を含む）。
教科書	『公民科教育』（社会認識教育学会編、学術図書出版社）　『高等学校学習指導要領　公民編』（文部科学省）　『高等学校学習指導要領解説　公民編』（文部科学省）
参考書	『政治・経済用語集』『現代社会用語集』『倫理用語集』（いずれも山川出版社）　高等学校用教科

	書『政治・経済』『現代社会』『倫理』（いずれも東京書籍）　中学校用教科書『新しい社会　公民』（東京書籍）　『理解しやすい政治・経済』（松本美保）　『理解しやすい現代社会』（真渕勝）　『理解しやすい倫理』（藤田正勝）（いずれも文英堂） 授業の要目に沿って、毎回穴埋め事項を含めたプリントを配布する。 授業の内容と学生の興味関心に合わせて、個別に参考図書を紹介する。 模擬指導案レポートの執筆に際して、分担テーマに即した参考図書を紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育相談論　　授業コード：5091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	教師として児童生徒の悩みに共感し、一人一人の課題解決への適切な支援ができる能力や人間としての心の痛みを理解でき、児童生徒のよさを引き出すことのできる資質の育成を図る。
授業の概要	教育相談の意義や目的、教育相談の心理学的基礎、心理アセスメント、カウンセリング諸理論、不登校等の問題行動の理解と指導について学ぶとともに、カウンセリング実習を通して教育相談の基礎的技法を身に付け、教師として必要な教育相談的資質や能力を養う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画

第１回　オリエンテーション　子どもの存在と「生きる力」
【key words】
【Key Word】
生きる力　教育相談の考え方　自己育成

【授業概要】
オリエンテーション、シラバス、教育相談の目的及び必要性について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１～１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１４～２９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第２回　教育相談・カウンセリングの考え方
【key words】
【Key Word】
教育相談の考え方　教育相談と生徒指導　カウンセリングの発想

【授業概要】
教育相談の考え方、教育相談と生徒指導、カウンセリング感覚について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４～２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ３１～４４
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第３回　子どもとかかわる基本原理　ーカウンセリングの発想からー　①
【key words】
【key word】
教師としての自己を語る　自己開示　子どもの心を聴く　感情の明確化
【授業概要】
教師として自己開示をすること、子どもの気持ちを聴き取り感情の明確化をすることの重要性を

理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３１～４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４４～５７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　子どもとかかわる基本原理　ーカウンセリングの発想からー　②
【key words】
【Key Word】
スピーディーな対応　子どものメッセージに応じる　子どもの努力・成長に学ぶ　事実に即して誉める・叱る

【授業概要】
子どもとかかわる基本原理について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４４～５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ５９～７２
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　子どもの人間関係づくり①　学級の「まとまり」をつくる　＜かかわる力＞をはぐくむ
【key words】
【Key Word】
学級のまとまり　かかわる力

【授業概要】
学級のまとまりをつくること、「かかわる力」を育むことの重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ５９～７２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７２～８７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　子どもの人間関係づくり②　コミュニケーション能力を育成する　指導観・授業観の転換
【key words】
【Key Word】
コミュニケーション能力　指導観・授業観の転換

【授業概要】
コミュニケーション能力を育成することの大切さや指導観・授業観の転換について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７２～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　教科書Ｐ１～８７
【予習復習に必要な想定時間】
復習２時間

第７回　前半のまとめとテスト
【key words】
【Key Word】
前半まとめ　カウンセリング実習　ロールプレイ

【授業概要】
前半のまとめをする。　テスト　次回からのカウンセリング実習の意義を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８９～１１４
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　教育相談の計画と活動の実際　　カウンセリング実習①
【key words】
【Key Word】
教育相談の計画　計画立案の実際例　教育相談活動　家庭訪問　進路指導　保護者会

【授業概要】
教育相談計画の立案や教育相談活動の実際例（家庭訪問・進路指導・保護者会）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８９～１１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１５～１２３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　学級担任が向き合う危機的な問題①　学級崩壊を防ぐ　　カウンセリング実習②
【key words】
【Key Word】
学級崩壊　状況分析　事態改善の方向　予防対策

【授業概要】
学級崩壊の要因を理解し、学級崩壊を克服する対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】

教科書Ｐ１１５～１２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２４～１４５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　学級担任が向き合う危機的な問題②　いじめや自殺とその対応　　カウンセリング実習③
【key words】
【Key Word】
いじめの基本認識　いじめ集団　指導体制　教師に求められる指導

【授業概要】
いじめについての理解を深め、いじめ解消の対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１２４～１４５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１４５～１５７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　学級担任が向き合う危機的な問題③　不登校とその支援　　カウンセリング実習④
【key words】
【Key Word】
不登校の実態　不登校のきっかけ　不登校のサイン　子どものサイン

【授業概要】
不登校の実態を知り、不登校対策としてカウンセリングの考えを生かした対応や子どものサインに気づくことの大切さを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４５～１５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１５８～１７１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１２回　学級担任が向き合う危機的な問題④　保護者支援　　カウンセリング実習⑤
【key words】
【Key Word】
保護者との対応力　関係づくり　保護者の不安を解消する　体罰

【授業概要】
保護者との対応力を高めるために必要なポイントを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１５８～１７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ
【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　問題行動の理解と指導①　　カウンセリング実習⑥
【key words】
【Key Word】
早期発見　組織的対応　近年の問題行動の考え方

【授業概要】
問題行動の考え方を知り、早期発見や組織的対応の重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１７３～１８２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　教科書Ｐ８９～１８２
【予習復習に必要な想定時間】
復習　２時間

第１４回　問題行動の理解と指導②　　後半のまとめとテスト
【key words】
【Key Word】
後半のまとめ　テスト　事例から学ぶ　対応の実際例

【授業概要】
後半のまとめをする　テスト　カウンセリング実習のまとめをする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８９～１８２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１８２～２０５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１５回　まとめ
【key words】
【Key Word】
事例から学ぶ　対応の実際例

【授業概要】
事例を通して対応の実際例を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１８２～２０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１～２０５
【予習復習に必要な想定時間】

	試験に向けて　５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（８０％）、授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	有村久春著　学級教育相談入門　金子書房　２，５００円＋税
参考書	学習指導要領（文部科学省）　生徒指導提要（文部科学省）　幼稚園教育要領　幼保連携子ども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小・中学校の教諭経験　公立小学校の管理職経験 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　特別活動研究　　授業コード：5101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（ＨＲ）活動・児童会（生徒会）活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を理解し、小・中・高等学校教師として、特別活動を指導できる資質や能力の育成を図る。
授業の概要	特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（ＨＲ）活動・児童会（生徒会）活動・学校行事・クラブ活動の目標・内容等を講義やグループ協議を通して理解する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	オリエンテーション　特別活動はどんな学習活動か 【key words】 オリエンテーション　思い出に残る特別活動　集団活動 【授業概要】 特別活動における集団活動の重要性を理解する。集団活動の学習形態や展開方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ８～１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１８～２９ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	特別活動の教育上の特性 【key words】 近代に成立した学校教育　課外活動　世界の学校　日本の学校　学級経営　特別活動の位置づけ 【授業概要】 学校教育の歴史や世界の学校教育の特徴を知り、日本のこれからの学校教育における特別活動の教育上の特性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１８～２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３０～３８ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	特別活動の目標と主な内容 【key words】 特別活動の目標　学級活動　ＨＲ活動　児童会活動　生徒会活動　クラブ活動　国旗・国歌 【授業概要】 特別活動の目標を理解する。学級活動・ＨＲ活動、児童会活動・生徒会活動、クラブ活動の概要を理解する。 国旗・国歌の取り扱いについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ３０～３８

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ３９～４６
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　特別活動の教育課程上の位置づけ
【key words】
各教科・外国語活動との関連　道徳教育との関連　　総合的な学習の時間との関連　学級経営との関連
【授業概要】
特別活動の教育課程上の位置づけを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３９～４６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４７～６４
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　特別活動で教師に求められる力量
【key words】
教師の指導力　ガイダンスとカウンセリング　学級ソーシャルスキル
【授業概要】
特別活動で教師に求められる力量について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４７～６４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ６５～７３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　特別活動と学級経営　学級集団の心理学
【key words】
学習指導要領　学級風土　学級集団づくり
【授業概要】
学級集団の心理学を理解し、特別活動を充実させる学級経営の重要性を知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６５～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　教科書Ｐ８～７３
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第７回　前半のまとめとテスト
【key words】
前半のまとめ　テスト
【授業概要】
前半のまとめとテストをする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７６～８７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　特別活動の全体計画と指導計画
【key words】
全体計画　指導計画　小学校における年間計画　中学校における年間計画
【授業概要】
特別活動の全体計画と指導計画について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７６～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８８～９７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　学級活動・ホームルーム活動とは
【key words】
学級活動の目標　学習過程　　学級活動の内容　ＨＲ活動
【授業概要】
学級活動・ＨＲ活動の目標と内容を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８８～９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ９８～１１５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　学級活動の指導の実際
【key words】
学級活動　学級会　オリエンテーション　クラス会議　キャリア教育
【授業概要】
小学校・中学校における学級活動の指導の実際を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９８～１１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１６～１３２
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

	第１１回　児童会・生徒会活動とは　児童会・生徒会活動の指導の実際 【key words】 児童会活動　生徒会活動　指導計画　指導内容　指導の実際 【授業概要】 児童会活動・生徒会活動の成立や目標・内容について理解し、指導の実際を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１１６～１３２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１３３～１４５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　クラブ活動の内容と指導の実際 【key words】 クラブ活動　目標と内容　指導計画 【授業概要】 クラブ活動の内容と指導の実際を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１３３～１４５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１４６～１６１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　学校行事の内容と指導の実際 【key words】 学校行事の目標　学校行事の内容　指導のポイント　文化的行事 【授業概要】 学校行事の内容を理解し、指導の実際例を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１４６～１６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習課題　教科書Ｐ７６～１６１ 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間 第１４回　後半のまとめとテスト 【key words】 後半のまとめ　テスト 【授業概要】 後半のまとめをする。テスト 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ７６～１６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１６２～１７３ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　特別活動における評価 【key words】 特別活動における評価　教師の評価　自己評価 【授業概要】 特別活動における評価の意義を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１６２～１７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ８～１７３ 【予習復習に必要な想定時間】 試験に向けて　５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度・私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（８０％）・授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	川村茂雄　編著　特別活動の理論と実際　図書文化　２，２００円＋税
参考書	小・中・高等学校学習指導要領　特別活動編　文部科学省
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小中学校の教諭経験　公立小学校の管理職経験 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 生徒指導論　　授業コード：5131

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について学び、生徒指導に関する基礎・基本を身に付け、教師として必要な基礎的資質や能力の育成を図る。
授業の概要	生徒指導の定義・ねらい・意義、生徒指導の原理、児童生徒理解の考え方・進め方、生徒指導の方法、いじめ問題等について講義やグループ協議等を通して、教師としての生徒指導に関する基礎・基本を身に付ける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	オリエンテーション　生徒指導とは 【key words】 オリエンテーション　日本の学校教育の特徴　生徒指導　ガイダンス 【授業概要】 授業の進め方のオリエンテーション　日本の学校教育の特徴と生徒指導の概念を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１０～２１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２２～３５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	現代の子どもとこれからの生徒指導 【key words】 発達課題　対人関係　これからの生徒指導 【授業概要】 子どもの発達課題を理解し、これからの生徒指導のあり方を考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ２２～３５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３６～６１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	教育活動における生徒指導 【key words】 学習指導と生徒指導　アセスメント 【授業概要】 教育活動における生徒指導の重要性を理解し、アセスメントの方法を知る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ３６～６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ６２～７３

【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　生徒指導体制と組織的な取組
【key words】
生徒指導体制　校務分掌　生徒指導主事
【授業概要】
生徒指導体制の確立と組織的な取組の重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６２～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７４～８１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　生徒指導に関する主な法令
【key words】
校則　懲戒　体罰　中途退学
【授業概要】
生徒指導に関する主な法令を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７４～８１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８２～９７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　進路指導・キャリア教育とは
【key words】
進路指導　キャリア教育
【授業概要】
進路指導・キャリア教育について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８２～９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　教科書Ｐ１０～９７
【予習復習に必要な想定時間】
復習　２時間

第７回　前半のまとめとテスト
【key words】
前半のまとめ　テスト
【授業概要】
前半のまとめをする　テスト
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１０～９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１００～１２５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　現代の子どもを取り巻く問題　不登校の理解と対応
【key words】
現代の子ども　社会の変化　不登校
【授業概要】
現代の子どもを取り巻く問題と不登校について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１００～１２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２６～１４１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　いじめの理解と対応
【key words】
いじめ　いじめの４層構造　被害者　加害者　傍観者
【授業概要】
いじめの理解と対応について考えを深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１２６～１４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１４２～１５９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　非行の理解と対応
【key words】
非行　遍在性　偏在性　基本的危機　個人的危機
【授業概要】
非行の理解と対応について考えを深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４２～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１６０～１７３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　学級崩壊・授業崩壊の理解と対応
【key words】

	学級崩壊　授業崩壊　学級経営 【授業概要】 学級崩壊・授業崩壊についての理解を深め、その対応を考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１６０～１７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１７４～１９７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　家庭・地域・関係機関との連携　特別支援教育と生徒指導 【key words】 家庭・地域・関係機関との連携　特別支援教育 【授業概要】 家庭・地域・関係機関との連携の重要性を理解する。特別支援教育と生徒指導の関係性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１７４～１９３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１９８～２０９ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　進路指導・キャリア教育の展開 【key words】 ガイダンス機能　進路指導　キャリア教育　職場体験　ポートフォリオ 【授業概要】 進路指導・キャリア教育の展開について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１８９～２０９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習課題　教科書Ｐ１２６～２０９ 【予習復習に必要な想定時間】 復習　２時間 第１４回　後半のまとめとテスト 【key words】 後半のまとめ　テスト 【授業概要】 後半のまとめをする。　テスト 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１２６～２０９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２１０～２１７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　高等学校中途退学問題の理解と対応 【key words】 中途退学 【授業概要】 高等学校中途退学問題について理解を深め、その対応を知る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ２１０～２１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　教科書Ｐ１０～２１７ 【予習復習に必要な想定時間】 復習　３時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や学習を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（８０％）・授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	河村茂雄編著　生徒指導・進路指導の理論と実際　図書文化　定価２，２００円＋税
参考書	文部科学省　生徒指導提要　教育図書株式会社　定価２９０円
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小中学校教諭経験　公立小学校管理職経験 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

	情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育実習（高等学校）　　授業コード：5145

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
－	3年次	2単位(80)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。 [到達目標] １　高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる 　知識・技能・態度を修得する。 ２　教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
授業の概要	「実習時期及び実習日数・時間」 　原則として当該学年の6月中に、80時間(2週間)の実習を行う。 　※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時 　間（3週間）の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　福祉祉科　教育実習履修資格者要件 － 【key words】 【福祉科　教育実習履修資格者】 【授業概要】 以下に記載するすべての履修要件を満たした者 １　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者 ２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者 ４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、介護概論、介護技術Ⅰ、福祉科　　教育法を履修済みあるいは履修中であること。 ５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者 ７　1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで） ８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること） 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２回　公民科　教育実習履修資格者要件

－

【key words】
【公民科　教育実習履修資格者】

【授業概要】
以下に記載するすべての履修要件を満たした者
１　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、公民科教育法を履修済みあるい　　は履修中であること。
５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者
７　1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで）
８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること）

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回

－

	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	「実習上の注意」 １　実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと ２　実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること ３　「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること ４　授業研究を充分に行い、授業に臨むこと ５　実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること ６　実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること ［実習中止の措置］ １　本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者 ２　実習上の注意（１～６）が守れない者 ３　実習校の校長より実習中止の申し出があったとき ４　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習中におけるメール等（文章化したもの）での報告
授業外時間にかかわる情報	※　実習中は本学実習指導教員に実習状況･内容等をメール等で必ず報告(評価に関わる）し、疑問を残さないようにすること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告(２０％)：メール等（文章化したもの）での報告を義務付ける。 ２　実習校の評価(５０％) ３　教育実習録の評価(３０％)
教科書	１　群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック』 ２　文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 ３　文部科学省『高等学校学習指導要領解説(平成30年度告示)福祉編』(福祉科の教員免許状取得希望者) ４　文部科学省『高等学校学習指導要領解説(平成30年度告示)公民編』(公民科の教員免許状取得希望者)
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、実習の巡回指導を行うほか、教師としての指導力が身に着くよう実践的な指導を行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育実習事前事後指導（中・高）　　授業コード：5146

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(90)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　中学校及び高等学校の本実習を控え、教育基本法の目標と目的を熟知し、教育の理念・目標を熟知して教育実習に臨む。直前に控えた本実習では、どのようなことを学び、どのような視点で実習を行っていったら良いか、教材研究にも力を注ぎ、教育実習生としての心得や自覚を促すことを目的とする。 　本実習終了後は、教育実習の成果を再確認して今後の課題を見いだせるようにする。 [到達目標] １　学校の組織・運営や生徒指導および学習（教科）指導に関する基礎・基本となる内容を確実におさえることができ　　る。 ２　本実習終了後は報告会を行い、将来学校教育に従事する教員としての役割や資質について考えられる。
授業の概要	１　２年次に行った事前指導の内容を確認し、直前に控えた本実習に向けて、教育実習生としての心得や実習中に留意 　することを中心に講義を行う。 ２　生徒一人一人に対しての望ましい教育的働きかけに言及し、教材研究が充実したものとなるように指導していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　教育実習に臨み　　－教育実習の範囲と内容－ 【key words】 学生指導、生徒指導、学級／クラス活動、校務分掌 【授業概要】 【授業にあたり】 　１　教育実習の期間が異なるため、提示した回の内容での実施とならない場合がある。 　　※　変更した内容を適宜提示する。 　２　本実習中は、必ずメール等で実習内容についてメールで報告を行うこと（週3回必須） 　３　本実習中に困ったこと、不安なこと、わからないこと等、自分で判断せず、必ず相談すること。 【授業概要】教育実習本実習に向けて、教育実習の範囲と内容について確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育実習本実習に向けて、教育実習の範囲と内容について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。中学生の特徴について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分

第２回　実習を受け入れる立場から　①　－中学校の立場から－
【key words】
思春期、生徒指導、進路指導、学習指導
【授業概要】

教育実習を受け入れる中学校の立場から、思春期真っ只中の中学生との接し方、学習面で開きがある生徒の指導について等、学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習を受け入れる中学校の立場から、実習生に必要とされる資質・能力とは何か等、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。高校生の特徴について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　実習を受け入れる立場から　②　－高等学校の立場から－
【key words】
青年期、生徒指導、進路指導
【授業概要】

教育実習を受け入れる高等学校の立場から、子どもでも大人でもない、「高校生」という時期の接し方、将来の自分像を考え･悩む進路指導について等、学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・配布資料等

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習を受け入れる高等学校の立場から、実習生に必要とされる資質･能力とは何か等、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育実習で留意する点をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　教育実習で留意すること
【key words】
規則正しい生活、守秘義務、報告･連絡･相談、提出物
【授業概要】

教育実習で留意することについて、確認する。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・レジュメ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習で留意することについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
教育実習校の特徴等をホームページ等で確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　観察実習、教育実習録の書き方
【key words】
実習校の特徴、時間割、実習日誌、実習内容、総括

【授業概要】

教育実習録（実習日誌）の書き方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P82～
・配布資料：書き方例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・配布資料の書き方例を参考にして実習日誌を書き、期日までに提出すること。
・教育実習録に必要事項を記入しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　教育実習･本実習における教材研究の在り方
【key words】
教材研究、教材･教具、補助教材、確かな学びの保障
【授業概要】

教育実習･本実習における教材研究の進め方について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P15～

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習･本実習における教材研究の進め方について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

	第７回	教育実習･本実習の流れ　　一日の日程（朝の会･帰りの会／ショートホームルーム等） 【key words】 一日の流れ、観察実習、授業実習、実習内容 【授業概要】 教育実習･本実習の流れ、実習内容、一日の流れ：日程（朝の会･帰りの会／ショートホームルーム等）について確認をする。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・大学オリテンのレジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各実習校の教育実習･本実習の流れ、実習内容、一日の流れについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 実習校の流れを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第８回	本実習前　大学オリエンテーション 【key words】 実習の心構え、守秘義務、留意事項 【授業概要】 本実習前　大学オリエンテーションを実施する。 学長、学部長先生より訓話・講話をいただく。 心構え、留意事項等、担当教員より 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大学オリエンテーションの内容をまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第９回	研究授業案の作成（各実習校の形式に合わせて） 【key words】 学習指導案の作成、生徒理解、材料の提示、学びの保障 【授業概要】 研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する準備を整える。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』・観察実習記録 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する準備を整える。 ・次回の授業で研究授業案を作成するため、準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	研究授業に向けて　　①　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の実習校での計画 【key words】 学習指導案の作成、生徒理解、材料の提示、学びの保障 【授業概要】 研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P17～P36、P35～P45 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	研究授業に向けて　　②　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の実習校での実際 【key words】 挨拶（実習前･後、全体集会での挨拶、担当学級･クラス）、御礼状 【授業概要】 実習校における挨拶の仕方・御礼状の書き方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・挨拶の仕方：レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・挨拶の仕方について、まとめたものを期日までに提出すること。 ・教育実習報告会に向けて、報告書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	教育実習報告・検討会①　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会）

	【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育実習の報告について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１３回　教育実習報告・検討会②　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会） 【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育実習の報告について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１４回　教育実習報告・検討会③　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会） 【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育実習の報告について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１５回　教育実習報告・検討会④　中学校及び高等学校教育実習 【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・後輩学生に向けた教育実習報告会の準備（教育実習報告書の作成等）を行う。 ・教員採用試験に向けて学習計画を立てる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポー　トをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　教育実習の報告書は指定された形式に則り、教育実習報告会までに提出すること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（40%）、実習報告書の内容･発表（50%）、大学オリエンテーションのまとめレポート（10%）を総合して評価する。
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教育実習の本実習に向けて、授業運営方法、指導案の作成、生徒理解を踏まえた模擬授業の実践を指導する。実際の教育現場において、教師として相応しい資質･能力の向上を目指す指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（中学校）　　授業コード：5149

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
－	3年次	4単位(120)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。 [到達目標] １　中学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる 　知識・技能・態度を修得する。 ２　教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
授業の概要	【実習時期及び実習日数・時間】 　原則として当該学年の6月中に、120時間(3週間)の実習を行う。 　※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時 　間（3週間）の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　教育実習履修資格者要件 【key words】 【教育実習履修資格者】 【授業概要】 以下に記載するすべての履修要件を満たした者 １　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者 ２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者 ４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導論、日本国憲法、地理学、世界史、日本史Ⅰ、日　　本史Ⅱ、社会科教育法Ⅰを履修済みあるいは履修中であること。 ５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者 ７　１年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで） ８　実習後に各都道府県で実施する教員採用試験を必ず受験する者 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第９回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第１０回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	【実習上の注意】 １　実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと ２　実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること ３　「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること ４　授業研究を充分に行い、授業に臨むこと ５　実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること ６　実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること 【実習中止の措置】 １　本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者 ２　実習上の注意（１～６）が守れない者 ３　実習校の校長より実習中止の申し出があったとき ４　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習中におけるメール等（文章化したもの）での報告
授業外時間にかかわる情報	※　実習中は本学実習指導教員に実習状況･内容等をメール等(評価に関わる）で必ず報告し、課題･

	疑問点等を残さないようにすること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告（２０％）：メール等（文章化したもの）での報告を義務付ける。 ２　実習校の評価（５０％） ３　教育実習録の評価（３０％）
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領解説（平成29年3月告示）社会科編』、文京出版 ４　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、実習の巡回指導を行うほか、教師としての指導力が身に着くよう実践的な指導を行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　知的障害者の心理・生理・病理　　授業コード：5331

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義を通して、知的障害児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。 【到達目標】 ①知的障害者（児）の心理・生理・病理特性の基本的知識について説明することができる。 ②知的障害者（児）の認知特性について説明することができる。
授業の概要	知的障害者（児）を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。知的障害の心理・生理・病理の特性を理解したうえで、知的障害児の教育及び社会参加のための支援について考える。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 知的障害、知能障害、適応行動の障害、発達期 【授業概要】 知的障害の概念、分類、疫学、原因、症状、診断について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：周産期に生じる脳障害 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	周産期に生じる脳障害 【key words】 周産期、低酸素、虚血状態 【授業概要】 低酸素・虚血状態の原因、胎児仮死・新生児仮死の症状、頭蓋内出血、早期産児の異常症状について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：染色体異常 【予習復習に必要な想定時間】 60分

	第３回	染色体異常 【key words】 ダウン症候群、脆弱X症候群 【授業概要】 染色体異常の疾病の病因、症状、疫学、診断、治療について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：先天性風疹症候群 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	先天性風疹症候群 【key words】 風疹、白内障、ろう、先天性心臓病 【授業概要】 先天性風疹症候群の原因、疫学、症状、診断、治療、予防について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：二分脊椎、水頭症 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	二分脊椎 【key words】 二分脊椎、水頭症 【授業概要】 二分脊椎、水頭症の原因、疫学、症状、検査、診断、治療、予後、予防について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：脳炎、髄膜炎 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	脳炎、髄膜炎 【key words】 細菌性、無菌性 【授業概要】 髄膜炎・脳炎の原因、症状、疫学、検査、診断、治療、予後、予防について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：先天性代謝異常 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	先天性代謝異常 【key words】 遺伝子異常、代謝障害、マススクリーニング検査 【授業概要】 先天性代謝異常の定義、原因、疫学、症状、検査、診断、治療、予後について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：頭部外傷、脳血管障害 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	頭部外傷、脳血管障害 【key words】 不慮の事故、頭部外傷、脳血管障害 【授業概要】 小児の頭部外傷の実態とその予防対策、脳血管障害について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：てんかん 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	てんかん 【key words】 てんかん、全般発作、部分発作 【授業概要】 てんかんの定義、病因、症状、分類、検査、診断、治療、予防、応急手当について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	予習：先天性筋ジストロフィー 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１０回　先天性筋ジストロフィー 【key words】 遺伝性疾患、骨格筋、変性、壊死 【授業概要】 先天性筋ジストロフィーの定義、分類、症状、治療、予後等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：胎児性アルコール症候群、胎児性水俣病 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１１回　胎児性アルコール症候群、水俣病 【key words】 アルコールの摂取、有機水銀中毒 【授業概要】 胎児性アルコール症候群・胎児性水俣病の定義、疫学、原因、症状、検査、診断、治療、予防について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発達障害総論 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１２回　発達障害 【key words】 発達障害、自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害 【授業概要】 発達障害の定義、疫学、原因、分類、症状、治療等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：知的障害児（者）の心理発達と認知特性（１）乳幼児期～学童期 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　知的障害児（者）の心理発達と認知特性（１）　乳幼児期 【key words】 心理発達、認知特性 【授業概要】 乳幼児期から学童期までにおける知的障害児（者）の心理発達と認知特性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：思春期から成人期までにおける知的障害児（者）の心理発達と認知特性 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　知的障害児（者）の心理発達と認知特性（２）　思春期・青年期～成人期 【key words】 思春期、青年期、成人期 【授業概要】 思春期・青年期～成人期における知的障害児（者）の心理発達と認知特性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んだ内容の復習 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 知的障害児の原因疾患 【授業概要】 今まで学んだ知的障害児の基礎疾患について復習する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末試験勉強 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	知的障害者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（80%）、発表(20%)
教科書	なし
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 肢体不自由者の心理・生理・病理　　授業コード：5341

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義を通して、肢体不自由児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。 【到達目標】 ①肢体不自由をきたす疾患および障がい者（児）を取り巻く状況について説明することができる。 ②運動発達と認知発達の関係、肢体不自由者（児）の認知特性について説明することができる。
授業の概要	肢体不自由者（児）は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。特別支援学校教諭として必要な医学知識と障がい者（児）の心理、家族と地域の介護、教育との連携による支援体制を学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 肢体不自由、二次障害、障害の受容 【授業概要】 肢体不自由者の概念、小児の肢体不自由の原因・特徴、二次障害、障害の受容について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１～１０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　ｐ１３～３１ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	脳性麻痺 【key words】 脳性麻痺、周産期 【授業概要】 脳性麻痺の概念、原因、分類、症状、診断、合併症、治療、予後等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１３～３１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　ｐ３３～４２ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第３回	二分脊椎

【key words】
二分脊椎、中枢神経系の奇形、合併障害

【授業概要】
二分脊椎の定義、疫学、原因、分類、症状、治療、予防等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p３３～４２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p４３～５１
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　筋ジストロフィー
【key words】
筋ジストロフィー、遺伝性、登はん性起立

【授業概要】
筋ジストロフィーの定義、分類、症状、診断、治療等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p４１～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p５３～５９
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第５回　ペルテス病
【key words】
ペルテス病、股関節壊死

【授業概要】
ペルテス病の概念、疫学、症状、診断、治療、予後について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p５３～５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p６１～７０
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第６回　骨系統疾患
【key words】
軟骨無形成症、骨形成不全症

【授業概要】
軟骨無形成症、骨形成不全症の概念、原因、疫学、症状、診断、治療について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p６１～７０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p７１～７９
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第７回　手足の先天奇形
【key words】
手の先天奇形、足の先天奇形

【授業概要】
多指症、合指症、母指形成不全、裂手、先天性切断、分娩麻痺、先天性内反足等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p７１～７９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p８１～８５
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第８回　先天性多発性関節拘縮症
【key words】
関節拘縮症、先天性、多発性、非進行性

【授業概要】
先天性多発性関節拘縮症の定義、病因、疫学、症状、診断、治療について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p８１～８５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p８７～９１
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第９回　ダウン症の整形外科の合併症
【key words】
関節弛緩性、環軸椎亜脱臼、膝蓋骨脱臼、股関節脱臼、外反扁平足

【授業概要】

		ダウン症の整形外科的合併症の発症率、症状、治療について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p８７～９５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p９７～１０４ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１０回	先天性股関節脱臼 【key words】 脱臼、亜脱臼、臼蓋形成不全 【授業概要】 先天性股関節脱臼の原因、症状、治療について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p９７～１０４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p１０５～１３７ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１１回	リハビリテーション 【key words】 リハビリテーション、ADL、QOL、ノーマライゼーション 【授業概要】 リハビリテーションの定義、内容、ADLとQOLの定義、リハビリテーションの目標について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１０５～１４４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p１４５～１５９ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１２回	肢体不自由者（児）の心理（１）障害の受容 【key words】 障害の受容、受容の過程 【授業概要】 肢体不自由児の障害の告知・受容・支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p８～１１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p１６１～１６５ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１３回	肢体不自由者（児）の心理（２）適応と適応規制 【key words】 適応、適応規制 【授業概要】 肢体不自由者（児）の心理（２）適応と適応規制について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p２２５～２３６ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１４回	肢体不自由者（児）の心理（３）心理的な支援 【key words】 エンパワーメント、自己決定力 【授業概要】 肢体不自由児、保護者への援助の基本姿勢、具体化する援助法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２２５～２３６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んだ内容の復習 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１５回	まとめ 【key words】 肢体不自由児の原因疾患 【授業概要】 今まで学んだ肢体不自由児の基礎疾患について復習する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末試験勉強 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分

受講生に関わる情報および受講のルール	肢体不自由者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（８０％）、発表（２０％）
教科書	篠田達明監修　　肢体不自由児の医療・療育・教育　　金芳堂　最新版
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　知的障害教育Ⅱ　　授業コード：5371

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　知的障害教育の基本的知識を基に、障害の重度化・重複化している障害児の実態を考慮しながら、人間行動の成り立ちや基本的行動や概念行動などの学習内容が理解できる。個々の障害児に合った学習法について考察できる。 【到達目標】 　①アヴェロンの野生児から当時の学習の様子が理解できる。 　②様々な学習停滞時の支援の仕方が理解できる。 　③特別支援教育の学習の方法が理解できる。
授業の概要	知的障害教育の原点である「アヴェロンの野生児の記録」をはじめ、知的障害教育の現状を知る。さらに、知的障害児には難しいといわれている教科的な学習についても、その実践事例を通して理解する。また、知的障害教育の教材・教具を実際に見たり、使い方を学習することにより知的障害教育の支援の方法を知る。今後の知的障害教育の在り方についても考察する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　　知的障害教育1の復習（教育課程　領域・教科別の指導他） 【key words】 知的障害教育　　知的障害児の特徴　　各教科　　教科別の指導　　領域別の指導 【授業概要】 知的障害児について知的障害教育Ｉで学んだことを復習する。知的障害とは？ 知的障害児の特徴につい　て、知的障害の歴史。　知的障害児の学習について、教科、領域別の指導　等。 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 領域・教科を合わせた指導について復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分～４０分
	第２回	知的障害教育Ｉの復習（領域・教科を合わせた指導他） 【key words】 日常生活の指導　　遊びの学習　　生活単元学習　　作業学習 【授業概要】 領域・教科を合わせた指導の歴史　　それぞれの指導形態について復習　　現場で行われている指導と課題について話し合う。ミニテスト①を実施

【教科書ページ・参考文献】
前回配付資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アヴェロンの野生児の資料配付、次回までに読んでおくこと。次回予習の確認のためミニテスト②実施
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～５０分

第３回　知的障害教育の原点と言われる「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ①　捕らえられた野生児の様子
【key words】
観察された行動　　動物との比較　　人間性とは

【授業概要】
ミニテスト②実施。　観察された野生児の様子をどう見るか　　当時の人の考え方　　野生児に見られる変化　　等を資料から読み取り考察する。　　イタールの指導方針と野生児の対応について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
配付資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習・整理をし、次回使用の資料に目を通しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～５０分

第４回　「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ②　人間の社会に入れられた野生児、野生児の変化
【key words】
野生児の変化　　人との係わり方　　イタールの指導

【授業概要】
野生児に対して試みたイタールの指導について資料から読み取り考察する。イタールの指導、野生児の対応について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「アヴェロンの野生児」について復習。「アヴェロンの野生児」について感想文①を提出する。次回の予習。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～５０分

第５回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法①（教材とは、日常生活行動の学習）
【key words】
日常生活行動　　学習の見通し　　学習の区切り　　自発の尊重　　見るということ　　教材の役割

【授業概要】
学習とは？学習の見通しとは？子どもの現状保障とは？教材の果たす役割などなど　基本的なことからを説明し重要なことであることを知る。

【教科書ページ・参考文献】
テキスト（ｐｐ２７－３５）を読んでおく。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストと配付資料のまとめ。次回の箇所予習。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第６回　知的障害児の教材・教具について参観
【key words】
教材・教具　　自作教材　　学習するということ
【
【授業概要】
今後の学習に関係する知的障害児の学習場面の様子を見学するか、もしくは知的障害児の学習場面で使用している教材・教具を手にとって学ぶ。授業に関係する学習方法と知的障害児との係わり、子どもと教材との　係わり、教材に対する工夫の仕方など実際の場面を通して考察する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料、参考になる書物等紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参観を通して次回以降に行う授業との係わりについて、見通しをつける。参観の感想文②を提出する
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第７回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法②（初期学習、課題学習）
【key words】
目と手の使い方　　初期学習　　教材・教具　　自作教材　　自発行動　　考えるということ

【授業概要】
学習に必要な条件が整うことの大切さ。学習を前進させるための基礎的な課題（初期学習）について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
配付資料、参考になる書物等紹介

【課題・予習・復習・授業準備指示】
参観を通して次回以降に行う授業との係わりについて、見通しをつける。参観の感想文②を提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第８回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法③（概念行動の学習）
【key words】
位置　順序　形　概念行動　棒指し　目と手の協応

【授業概要】
様々な基礎的な学習を積み重ねた知的障害児・者が次のステップに行う学習とはどのようなものがあるのか、概観的に知る。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、５９ー７４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回に学ぶテキスト（ｐ７４～ｐ８９）を読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第９回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法④（見本合わせの学習）
【key words】
見本合わせ　宝探し　遅延見本合わせ　ことば　型はめ　形の分類　形の分解と合成

【授業概要】
学習の見通しが出来て、それが文字や数の学習となるまでの一連の流れを理解し、初期学習の重要性について考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、７４ー８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回に学ぶテキスト（ｐ８９～ｐ１０３）を読んでおく

【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１０回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑤（記号操作の学習）
【key words】
大小　比較　文字の重ね合わせ　形の構成　位置の記号化　方向　目と手の使い方

【授業概要】
そもそも教材とはどのようなものか、なぜ大切なのか？また、概念行動とは何なのか等、文字学習に至る前におこなう学習の内容について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．８９－１０３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習、次回の予習

【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１１回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑥（絵と実物　文字と単語の学習）
【key words】
見本合わせ　文字と文字　絵と文字　絵と単語　５０音表

【授業概要】
教材の確認　教材の工夫　概念行動について　物には名前があること等を具体的に検討する

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．１０３ー１１２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習と次回に学ぶテキスト（ｐｐ１１３ー１２７）を読んでおく・次回の予習確認のためミニテスト実施
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１２回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑦（文書と数の学習）
【key words】
数の系列化　順序数と集合数　３と５までの分解合成　属性

【授業概要】
ミニテスト実施。学習の見通しが出来て、それが文字や数の学習に繋がることまでの一連の流れを理解し、基礎の学習の重要性について考察する。

【教科書ページ・参考文献】

	テキストpp１１３-１２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回に学ぶテキスト（ｐｐ１２７ー１４４）を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１３回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑧（ことば・文字・数の基礎学習） 【key words】 文の構成と計算　お金の計算　お金のそろばん　足し算　引き算　文章問題 【授業概要】 様々な基礎的な学習を積み重ねた知的障害児・者が行う学習とはどのようなものであるのか、今まで学んできたことを積み重ねて整理する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ１２７ー１４４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回に学ぶ箇所（テキストｐｐ、７－２６）を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑨（基礎学習、概念行動形成の学習、記号操作の学習） 【key words】 基礎学習　コミュニケーション　概念行動形成の学習　記号操作学習 【授業概要】 今まで学習してきた知的障害教育について復習し、整理、まとめをする。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ７～２６回の復習と次回に学ぶ箇所予習。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と整理。　今までのテキストの中から「障害児の指導」に関して自分なりの考え方をまとめ③提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　知的障害児の教育の可能性と学習法、今後の展望について 【key words】 知的障害　教科　生活単元　個に応じた教育 【授業概要】 知的障害児の学習や教育課程について検討してきたことを、テキストや資料を通してふり返る。知的障害児の学習は可能か、出来ない原因は何かなど話合いを通して考察する。自分なりの考えをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト　今までの配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までのまとめ、復習。解らないところがあれば早めに質問を 【予習復習に必要な想定時間】 復習４０分
受講生に関わる情報および受講のルール	①知的障害児を指導している現場の視察、もしくは実際に使用している教材・教具の見学を計画予定。 ②進捗状況によって講義回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。 ③予習、復習は必ず行うこと、教科書は授業の前に必ず熟読すること。 ④授業で配付する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしておいてください。 ⑤授業中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。 ③授業の一環として特別支援学校か教材・教具のあるところを参観するので、日程調節が必要になる場合がある。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・発表・ミニテスト（内容、適切さ）５０％ ②筆記試験（正確性、客観性、論述）５０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	進　一鷹：「＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材づくりと学習法」　明治図書　２００６
参考書	進　一鷹：「＜ことば・文字・数＞国語・算数の基礎学習と指導の実際」　明治図書　２００７　他プリント配付をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場などを通して特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 肢体不自由教育Ⅱ　　授業コード：5391

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　肢体不自由教育の実際を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から深く課題を捉える力が涵養される。 【到達目標】 １　肢体不自由教育の実践的知識、技能を獲得する。（知識・理解） ２　肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける。（思考） ３　知識を他者に表現することができる。（表現）
授業の概要	肢体不自由児の教育の実践に関する教育・心理・生理、福祉等について概説する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション、医療的ケア、食事指導、排泄指導 【key words】 教員による３つの行為　誤嚥　便秘 【授業概要】 教員が行う３つの医療的ケアの詳細について。重度・重複障害児に対しての食事指導や排泄指導における留意点について。 【教科書ページ・参考文献】 92ページ～97ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 食事指導で留意することについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第２回	呼吸障害と姿勢づくり、ポジショニングと変形・側弯 【key words】 ポジショニング　感覚のフィルター機能 【授業概要】 呼吸障害を起こしやすい重度・重複障害児に対して行うポジショニングについて。また、感覚過敏の除去の仕方等について。 【教科書ページ・参考文献】 98ページ～103ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポジショニングの種類を調べる 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第３回	発作の理解と対応、外部専門家との連携、教育課程の基準と学習指導要領 【key words】 てんかん　教育計画 【授業概要】 肢体不自由児はてんかんを高頻度に合併する。その発作の種類や対応について。肢体不自由教育は医師、看護師をはじめ外部専門家との連携のもとで行われるが、その中での教師の役割や教育

		計画の立て方について。 【教科書ページ・参考文献】 104ページ～111ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 てんかん発作への対応についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第４回	教育課程の原理と編成、体育の指導 【key words】 法令　個別の評価基準　肢体不自由をふまえた体育の指導 【授業概要】 法令の下、実態・地域の教育資源・学校の設備等をふまえて、調和のとれた人間の形成を目指して作成される教育課程について。表現することや認知面で困難を抱えていることが多い肢体不自由児に対する体育の指導について。 【教科書ページ・参考文献】 112ページ～121ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで経験した総合学習についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第５回	肢体不自由者と各教科等を合わせた指導 【key words】 単元設定の力　総合的な学習 【授業概要】 肢体不自由のある子どもが知的障害を併せ持つ場合に行うことができる、知的障害特別支援学校の各教科や領域・教科を合わせた指導について。地域や子どもの実態に合わせて行う総合学習の内容について。 【教科書ページ・参考文献】 122ページ～127ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由児に対して、どのような総合学習ができるか、考える。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第６回	進路指導、キャリア教育、自立活動とは 【key words】 自己決定権　養護・訓練から自立活動へ 【授業概要】 肢体不自由のある子どもが、自己理解を深め進路を決定できるように進めるキャリア教育のあり方について。養護・訓練という名称で行われていたものが自立活動と言われるようになった理由等について。 【教科書ページ・参考文献】 128ページ～135ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自立活動の6つの区分について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第７回	自立活動の指導と個別の指導計画、身体の動きの指導 【key words】 自立活動の６つの区分　座位と立位 【授業概要】 自立活動における、「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の６つの区分の詳しい内容について。その中の、「身体の動き」に関わる、座位から立位への指導の方法等について。 【教科書ページ・参考文献】 136ページ～145ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 6つの区分の中の1つを選んで、評価規準を作る。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第８回	コミュニケーション、学習指導要領における重複障害者への対応 【key words】 サイン・シンボル　AAC 【授業概要】 言葉を話すことが困難、言語理解が困難、文字を書くことが困難等の重複障害を含む肢体不自由児のコミュニケーション指導で使われる、サインやシンボル、拡大・代替コミュニケーション機器（AAC）とその効果的な使い方について。 【教科書ページ・参考文献】 146ページ～157ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 マカトンサインについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第９回	肢体不自由特別支援学校の専門性 【key words】 教員の力量　研修 【授業概要】 教員の力量の３つの側面と言われる、「①目に見える実践的技量」「②内面的な思考様式」「③総合的な人間力」を高めていくには、どのようなにしたらいいか、専門性の向上を図るにはどのような研修を重ねたらいいか等について。 【教科書ページ・参考文献】 158ページ～167ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	特別支援学校に求められる機能について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１０回　特別支援学校教員の養成、保護者との連携 【key words】 肢体不自由特別支援学校教師の専門性の５つの因子 【授業概要】 教員が身につけておかなければならない、「専門知識と技能」「仕事の理解」「協働」「教育に対する熱意」「子どもの健康ケア」の５つの因子の内容について。保護者と教員が共通の視点で子どもを見るためにはどのような支援が必要か等について。 【教科書ページ・参考文献】 168ページ～181ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保護者に対する具体的な支援についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１１回　脳性まひへの治療と最新アプローチ 【key words】 早期発見・早期治療 【授業概要】 理学療法（上田法）、ボツリヌス療法、胎児臍帯血移植等の脳性麻痺への治療や療育について。神経可塑性と早期発見・早期治療の関係について。 【教科書ページ・参考文献】 184ページ～193ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 脳性麻痺の治療の1つについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１２回　肢体不自由者、障害児の福祉サービス 【key words】 障害者総合支援法　障害者手帳 【授業概要】 身体障害者手帳を持つことで受けられる福祉サービスや、障害のある一人一人の生涯にわたる生活充実のための支援について。 【教科書ページ・参考文献】 194ページ～203ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉サービスの中の1つについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１３回　障害者の権利擁護、肢体不自由児とインクルーシブ教育、 【key words】 アドボカシー　合理的配慮 【授業概要】 障害者権利条約における、「すべての障害者」の「あらゆる人権」をどのように保障していくかについて。障害のある者と障害のない者が共に学ぶインクルーシブ教育では、どのような合理的配慮が求められているか等について。 【教科書ページ・参考文献】 204ページ～211ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 インクルーシブ教育の具体例について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１４回　就学前の肢体不自由教育・療育、交流及び共同学習 【key words】 通所支援　医療型児童発達支援センター　居住地校交流 【授業概要】 肢体不自由児が地域で生活していく上で、主体的に過ごすことができるようにするにはどんな支援が必要か、また、子どもを養育する親にはどのような支援が必要か等について。 【教科書ページ・参考文献】 212ページ～219ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 居住地交流をする場合、どんな交流ができるかまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１５回　地域生活と余暇活動、肢体不自由者と家族 【key words】 生活の質（QOL）　親のストレス 【授業概要】 肢体不自由者が地域において生きがいのある生活を送り、生活の質を高めるにはどのような支援ができるか、また、親のストレスを和らげるためにどのような支援ができるか等について。 【教科書ページ・参考文献】 220ページ～227ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 親がかかえるストレスについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻、欠席は必ず届けること。 ・積極的な授業参加、予習を求めます。 ・他の学生の迷惑となる行為（私語、スマホの操作等）、授業の流れや雰囲気を壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード ノート提出
授業外時間にかかわる情報	特別支援教育に関する情報に普段から触れておくこと。　（新聞、ニュース等からの情報収集） 特別支援教育の現場を知ること。　（見学、ボランティア等）
オフィスアワー	授業の前後10分間
評価方法	授業への取り組み（コメントカードの内容、発表）20% 提出物（ノート）30%　　定期試験　50%
教科書	安藤隆男・藤田継道編書「よくわかる肢体不自由教育」　　2017　　ミネルヴア書房
参考書	特に指定しない
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 特別支援教員として教育に携わってきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 医療的ケアやインクルーシブ教育に関わる映像（DVD）から、実態を知ったり課題を考えたりする。 肢体不自由児をもつ保護者の方の話を聴く。

講義科目名称： 小学校教科教育法（国語）　　授業コード：5601

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「小学校国語科指導に必要な知識・技能の習得」をテーマとする。具体的な授業の到達目標は、①「国語科学習指導要領の目標と内容及び解説」について理解することができる、②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、国語科の実践的指導力を身に付けることができ る、の２点である。
授業の概要	小学校国語科指導に必要な理論面・実践面での基礎基本（学習指導要領及び解説の理解、文学史、説明文・物語文の読解、詩や短歌等の鑑賞、配当漢字、国語科のT・T、板書の仕方、ワークシートの作成方法、小論文の書き方、毛筆、教師の話し方等）を身に付ける。その基礎基本の力量を活用して、児童用の教科書を用いた教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解①(実際に教科書を見ながら、どのように具体化されているか考える。) 【key words】 学習指導要領と解説、国語科児童用教科書 【授業概要】 ①本授業の意義とシラバスの説明。30コマの概観と評価方法の説明。 ②「学習指導要領国語」と「その解説」の違いを理解する。 ③学習指導要領改訂の要点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上、計６冊を読んでおくこと、配当漢字１年生（80字）正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにすること、１年教科書上巻を熟読すること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	学習指導要領と解説の理解②（配当漢字、教科の目標、各学年の目標と内容、指導計画の作成と内容の取扱い） 【key words】 学習指導要領と解説、配当漢字、目標と内容

【授業概要】
①学習指導要領国語の「教科の目標」「各学年の目標・内容」「内容の取扱い」「指導計画の作成」「授業時数」についてのおおよそを理解する。
②漢字の基本的な指導方法（空書き、漢字ミニ黒板、色別筆順カード、市販漢字ドリル、漢字ノート等）について理解する。
③クラスリーダーを中心に模擬授業者の年間の分担を決める。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○配当漢字２年生（160字）の正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにすること、２年教科書上巻を熟読するようこと。自己の模擬授業準備を確実に行っておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　国語科教師の基礎基本①(国語教育における歴史、Ｔ・Ｔ、ノート指導、ワークシート作成)
【key words】

国語科におけるＴ・Ｔ、ノート指導

【授業概要】
①国語教育の歴史を知る。
②国語科におけるＴ・Ｔの実践例を知る。
③ワークシートとノート指導の違いについて考える。
④専門教養（国語科）の過去問を知り、教員採用試験への準備をする。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○配当漢字３年生（200字）の正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにすること、３年教科書上巻を熟読すること。
自己の模擬授業準備を確実に行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　国語科教師の基礎基本②(ことわざ・慣用句・故事成語等）、情報機器の活用
【key words】

ことわざ・慣用句・故事成語、情報機器

【授業概要】
①国語科における情報機器、教材活用（DVD,ネット活用、OHCなど）を学ぶ
②日本語（平仮名・片仮名・漢字・ローマ字）の由来について、理解する。
③ことわざ・慣用句・故事成語、漢字の知識を身に付ける。
④専門教養（国語科）の過去問を知り、解けるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○配当漢字４年生（20②字）の正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにすること、４年教科書上巻を熟読すること。
自己の模擬授業準備を確実に行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　日本語の歴史、音読・黙読・群読、範読・読み聞かせ、分かりやすい話し方、正しく整った文字の書き方)
【key words】
日本語の歴史
音読・黙読・群読、範読・読み聞かせ

【授業概要】
①日本語の歴史（平仮名、片仮名、漢字、ローマ字）について知る。
②音読・黙読・群読の意義と方法を実際に行いながら理解する。
③教科書、絵本等を用い、範読・読み聞かせの意義と方法を実際に行いながら理解する。
【教科書ページ・参考文献】

「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○配当漢字５年生（193字）の正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにすること、５年教科書上巻を熟読すること、自己の模擬授業準備を確実に行っておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　教材研究の仕方、学習指導案の書き方①（細案、Ｔ・Ｔの学習指導案の書き方、児童の実態の把握方法）
【key words】

教材研究の仕方、学習指導案細案の書き方（Ｔ・Ｔ）

【授業概要】
①教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照、の流れについて理解する。
②観察法、３観点によるレディネステスト等による児童の実態の把握方法を理解する。
③国語科におけるＴ・Ｔの学習指導案の書き方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○配当漢字６年生（191字）の正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにすること、６年教科書上巻を熟読すること、自己の模擬授業準備を確実に行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　教材研究の仕方、学習指導案の書き方②（細案、児童の実態の書き方）　、漢字指導用黒板について
【key words】

教材研究の仕方、学習指導案細案の書き方

【授業概要】
①教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照、の流れについて理解する。
②観察法、３観点によるレディネステスト等による児童の実態の把握方法及び学習指導案への書き方を理解する。
③漢字用指導黒板について知る。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○平仮名、片仮名の正しい筆順を理解し、字形を整えて書けるようにすること、自己の模擬授業準備を確実に行っておくこと。次回ミニテストをするので、準備をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　教材研究の仕方、学習指導案の書き方③（細案、考察・評価規準以降の書き方）
【key words】

教材研究の仕方、学習指導案細案の書き方

【授業概要】
①教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照、の流れについて理解する。
②本時の学習の書き方について復習する。
④ミニテスト（今までの復習）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　学習指導案事前検討会（説明文「めだか」：授業者は代表学生１名）

【key words】

模擬授業（説明文）、学習指導案事前検討会、授業の視点

【授業概要】
①次回授業者の司会で、学習指導案事前検討会（約60分）を実施する。教員は最後に補説・指導をする。
②説明文の読解指導（1・2年）の基本的な指導方法について理解する。
③学習指導案における「授業の視点」について、理解する。

【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　模擬授業①、授業研究会①（説明文「めだか」）

【key words】

模擬授業、授業研究会、授業の視点

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくこと。模擬授業が終わった者は、省察をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　学習指導案事前検討会（物語文「一つの花」Ｔ・Ｔ：授業者は代表学生２名）

【key words】

模擬授業（物語文）、学習指導案事前検討会、国語科におけるＴ・Ｔ

【授業概要】
①次回授業者の司会で、学習指導案事前検討会（約60分）を実施する。教員は最後に補説・指導をする。
②物語文の読解指導（3・4年）の基本的な指導方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくこと。模擬授業が終わった者は、省察をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　模擬授業②、授業研究会②（物語文「一つの花」Ｔ・Ｔ）

【key words】

模擬授業（物語文）、学習指導案事前検討会、国語科におけるＴ・Ｔ

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③T・T・のメリット・デメリットについて理解する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）

【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくこと。模擬授業が終わった者は、省察をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　学習指導案事前検討会（話す・聞く「立場を決めて話し合おう～『意見こうかん会』をしよう～」：授業者は代表学生１名）
【key words】

模擬授業（話すこと・聞くこと）、学習指導案事前検討会

【授業概要】
①次回授業者の司会で、学習指導案事前検討会（約60分）を実施する。教員は最後に補説・指導をする。
②話すこと・聞くことの討論指導（5・6年）の基本的な指導方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくこと。模擬授業が終わった者は、省察をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　模擬授業③、授業研究会③（話す・聞く「立場を決めて話し合おう～『意見こうかん会』をしよう～」）
【key words】

模擬授業、授業研究会、討論会の指導法

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画等そろえ、模擬授業練習もしておくこと。次回のミニテストの準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１５回　漢字の指導方法（漢字の基礎知識【漢字の成り立ち、音訓、平仮名・片仮名の由来等】、現場の漢字指導の実践例を紹介する
【key words】

漢字指導の実際

【授業概要】
①漢字の基礎知識（平仮名・片仮名の由来、漢字の成り立ち、配当漢字、漢字ゲーム）を身に付ける。
②漢字指導の実践例から学ぶ。
③漢字ドリル、漢字用小黒板の使い方を知る。
④ミニテスト（今までの復習）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくこと。模擬授業が終わった者は、省察をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１６回　学習指導案事前検討会（文化「日本語のひびきを味わおう『春はあけぼの』」Ｔ・Ｔ：授業者は代表学生２名）
【key words】

模擬授業（文化「春はあけぼの」Ｔ・Ｔ））、学習指導案事前検討会

【授業概要】
①次回授業者の司会で、学習指導案事前検討会（約60分）を実施する。教員は最後に補説・指導をする。
②文化に関する古文指導（5・6年）の基本的な指導方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上下、計12冊」の言語文化に関する教材を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１７回　模擬授業④、授業研究会④（文化「日本語のひびきを味わおう『春はあけぼの』」）
【key words】

模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）
④文化領域の評価について、知る。

【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくこと。模擬授業が終わった者は、省察をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１８回　模擬授業⑤、授業研究会⑤（学生が単元・題材を選択、単独授業　　授業者は代表学生１名）
【key words】

模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校

内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。

【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくこと。模擬授業が終わった者は、省察をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１９回　模擬授業⑥、授業研究会⑥（学生が単元・題材を選択、単独授業　　授業者は代表学生１名）
【key words】

模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の模擬授業準備をきちんと行っておくこと、特に次回授業者は、学習指導案、ワークシート、板書計画、教材等すべてそろえ、模擬授業練習もしておくこと。模擬授業が終わった者は、省察をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２０回　模擬授業⑦、授業研究会⑦（学生が単元・題材を選択、単独授業　　授業者は代表学生１名）
【key words】

模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○受験志望自治体の過去問（第１次試験の国語関連、第二次試験）を徹底的に行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２１回　小論文の書き方①（構成、肉付け、推敲等について）、国語力①（文学史、漢字）
【key words】

小論文、文学史、漢字

【授業概要】
①教採過去問の小論文の構成、肉付け、推敲等について、実際に小論文を書き、理解する。
②教採過去問の文学史・漢字について、実際に解き傾向を掴んだり、自己の課題を把握する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○受験志望自治体の過去問（第１次試験の国語関連、第二次試験）を徹底的に行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

	第２２回	小論文の書き方②（実際に書き、班で読み合い、推敲する。）、国語力②（ことわざ・故事成語、漢字） 【key words】 小論文、ことわざ、故事成語、漢字 【授業概要】 ①教採過去問の小論文の構成、肉付け、推敲等について、実際に小論文を書き、理解する。 ②教採過去問のことわざ・故事成語、漢字について、実際に解き傾向を掴んだり、自己の課題を把握する。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○受験志望自治体の過去問（第１次試験の国語関連、第二次試験）を徹底的に行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２３回	書写について①（硬筆指導、毛筆指導、学習指導要領での位置づけ、書写の教科書）、国語力③（文法、漢字） 【key words】 硬筆、毛筆、文法 【授業概要】 ①１～６年までの書写の学習内容と指導方法について、学習指導要領及び解説より知る。 ②文法（文節、品詞等）、漢字の読み書きについて、過去問を解く。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○受験志望自治体の過去問（第１次試験の国語関連、第二次試験）を徹底的に行うこと。 ○次回、習字道具・半紙・新聞紙を用意するよう伝える。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２４回	書写について②（実際に６年書写教科書より「友情」を書き、学生間で相互評価をしあう。習字道具の片づけ方法の検討。） 【key words】 毛筆、実技 【授業概要】 ①6年毛筆「友情」を実際に書く。事前準備・事中の指導・事後指導（後片付け）、評価方法について学ぶ。 ②学生間で作品の相互評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○受験志望自治体の過去問（第１次試験の国語関連、第二次試験）を徹底的に行うこと。 ○次回のミニテストの準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２５回	教師の話し方・聞き方（実際の生活指導場面を提示し、児童に伝わる話し方・児童が安心する聞き方について協議する。） 【key words】 伝わる話し方、受容的な聞き方 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【授業概要】 ①面接試験での話し方・聞き方、礼・挨拶・入退室・姿勢・表情について理解する。 ②過去に出題された面接質問を用い、実際に個人面接・集団面接の隊形で、受験生役・試験官役となり、模擬面接を行う。

③事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。
④ミニテスト（今までの復習）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○教員採用試験の論文（過去問）を書き、友達同士で添削し、必要に応じ教員に指導を依頼するのも可とすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２６回　コミュニケーション力の向上、集団討議①（児童、保護者、同僚を想定し、伝わる話し方・聞き方について協議する。）
【key words】

集団討議

【授業概要】
①面接試験での話し方・聞き方、礼・挨拶・入退室・姿勢・表情について理解する。
②過去に出題された面接質問を用い、実際に個人面接・集団面接の隊形で、受験生役・試験官役となり、模擬面接を行う。
③事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○面接ノートを作成し、よりよい回答を書きこんでいくよう指示。友達同士で面接練習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２７回　コミュニケーション力の向上、集団討議②（児童、保護者、同僚を想定し、伝わる話し方・聞き方について協議する。）
【key words】

集団討議

【授業概要】
①過去に出題された面接質問を用い、実際に集団討議（司会者なし）の隊形で、受験生役・試験官役となり、模擬面接を行う。
②事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○面接ノートを作成し、よりよい回答を書きこんでいくよう指示。友達同士で面接練習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２８回　国語科指導に必要な専門教養①（説明文の指導、教採過去問より）
【key words】

専門教養

【授業概要】
①過去に出題された面接質問を用い、実際に集団討議（司会者なし）の隊形で、受験生役・試験官役となり、模擬面接を行う。
②事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○面接ノートを作成し、よりよい回答を書きこんでいくよう指示。友達同士で面接練習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２９回　国語科指導に必要な専門教養②（物語文の指導、教採過去問より
【key words】

専門教養

	【授業概要】 ①過去に出た専門教養（国語）、教職教養（国語）について解かせ、自己の長所や弱点に気付く。 ②グループ学習も取り入れ、仲間で学び合う雰囲気を醸成する。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○自己受験自治体の国語科関連過去問、予想問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３０回　１年間のまとめ（１年間の学習を振り返りシャトルカードに記入し、学生間で交流を図る。） 【key words】 国語科指導の心構え、意見交換 【授業概要】 ①児童に十分な国語科の力を身に付けさせることができる「実践的指導力」を備えた教師になるための自己課題を考える。 ②国語科の指導に関する図書を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○国語科指導に関する図書、教員採用試験の過去問題について学習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	学期末試験（50%）、学習指導案の作成・模擬授業、提出物（30%）、ミニテスト（20%）
教科書	１　１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、平成29年７月。 ２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年上、２年上、３年上、４年上、５年上、６年上、計６冊」教育出版 ３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年９月
参考書	・牛頭　哲宏・森篤　嗣：「現場で役立つ小学校国語科教育法」ココ出版、2012年　・桂　聖「『考える音読』の授業　文学アイデア50」東洋館出版社、2011年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任として国語科の指導を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の国語科授業の指導を行った。それらの経験を活かし、小学校学習指導要領及び解説及び、国語科児童用教科書を活用し、具体的に解説する。さらに、学習指導案の書き方（細案）、模擬授業の実施・振り返りを行うなど、理論と実践の融合を目指した指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）

	□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（算数）　　授業コード：5621

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 小学校の教材に即した指導方法を実践的に深め、指導案を作成して模擬授業ができるようにする。さらに算数教師としての必要な数学的知識・技能の習得を通して、教員採用試験の数学問題に対応できる能力を向上させることを目的とする。 〔到達目標〕 ①指導要領改訂期にあり、現行と新指導要領の改訂ポイントをつかむみ、算数指導に役立てることができる。 ②小学校学習指導要領（算数）の解説書を活用して教材研究ができる。 ③学習指導案の作成の仕方を理解し、模擬授業のための指導案が作成できる。 ④自分で選んだ単元の模擬授業を実施し、わかる授業を行うための創意工夫の仕方がわかる。
授業の概要	授業前半は指導要領の学年別目標の理解と、領域別の指導内容の理解を深め、教科書・教材等を具体的に究明する。これらの成果を生かして、後半は指導案作成と模擬授業を実施し、相互に授業分析等を通して小学校教師としての算数指導力を磨きあう。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	講義・演習　オリエンテーション（到達目標と授業概要、評価方法等） 【key words】 シラバス確認、授業のルール 【授業概要】 小学校指導要領　算数 学年別目標と新指導要領改訂内容、30回分のシラバス確認、小学校算数の基礎（必要な用具、ノート作成、授業のルール、図の活用、ICT活用）について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	講義・演習　小学校指導要領　算数　学年別目標と新指導要領改訂内容 【key words】 新指導要領改訂内容,教材研究の仕方 【授業概要】 前年度「数学概論」ふりかえり

講義・演習　小学校指導要領　算数　学年別目標と新指導要領改訂内容　について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　講義・演習　小学校指導要領　算数　領域別ポイントと新指導要領改訂内容
【key words】

新指導要領改訂内容、授業方法を深めるための教材研究の仕方
【授業概要】

前年度「数学概論」ふりかえり
講義・演習　小学校指導要領　算数　領域別ポイントと新指導要領改訂内容について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　講義・演習　第１・２学年の「数と計算」
【key words】

十進位取り記数法、筆算とアルゴリズム、
【授業概要】

前年度「数学概論」ふりかえり
講義・演習　第１・２学年の「数と計算」の領域内容を理解する。１対１対応、数図ブロックと数図、集合数・順序数、数の合成・分解、加法・減法、求差、求減、求部分等の理解と指導に活用する方法、十進位取り記数法、筆算とアルゴリズム、乗法の意味、乗法九九のＡＶ（アクティブラーニング）について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　講義・演習　第３・４学年の「数と計算」
【key words】

乗法の計算法則、乗法の筆算とアルゴリズム、除法の計算法則,等分除・包含除
【授業概要】

講義・演習　第３・４学年の「数と計算」の領域内容を理解する。万の単位の記数法、数の相対的な大きさ、３位数・４位数の加法減法、乗法の計算法則、乗法の筆算とアルゴリズム、除法の計算法則、除法の筆算、等分除・包含除、小数の仕組み、分数の仕組み、算盤について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　講義・演習　第５・６学年の「数と計算」
【key words】

少数の乗法・除法,通分・約分
【授業概要】

講義・演習　第５・６学年の「数と計算」の領域内容を理解する。偶数・奇数、約数・倍数、整数と小数の十進位取り記数法、少数の乗法・除法、分数の意味、通分・約分、分数の加法−・減法、分数の乗法・除法、文字式、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第７回	講義・演習　第１・２学年の「図形」 【key words】 図形の構成分解 【授業概要】 講義・演習　第１・２学年の「図形」　ものの形、図形の構成分解、三角形や四角形、正方形、長方形直角三角形、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	講義・演習　第３・４学年の「図形」 【key words】 操作活動,見取り図、展開図 【授業概要】 講義・演習　第３・４学年の「図形」二等辺三角形、正三角形、操作活動、コンパスによる作図、平行四辺形、ひし形、台形、立方体、直方体、見取り図、展開図　について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	講義・演習　第５・６学年の「図形」 【key words】 平面図形の性質、多角形、立体図形、平面図形の面積 【授業概要】 講義・演習　第５・６学年の「図形」　平面図形の性質、多角形、立体図形、平面図形の面積、立体図形の体積、縮図、拡大図、対称な図形、円の面積、角柱や円柱の体積について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	講義・演習　第１・２学年の「測定」 【key words】 【Key　words】 直接比較・間接比較,長さやかさの単位と測定、時間の単位 【授業概要】 １・２学年の「測定」量の大きさの直接比較・間接比較、絵や図を用いた数量の表現 長さやかさの単位と測定、時間の単位、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	講義・演習　第３第３学年「測定」・４学年「変化と関係」 【key words】 時刻と時間,簡単な場合についての割合 【授業概要】 講義・演習　第３学年「測定」長さ重さの単位と測定、時刻と時間、 ４学年の「変化と関係」伴って変わる2つの数量、簡単な場合についての割合について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　講義・演習　第５・６学年の「変化と関係」
【key words】

割合、比例、反比例、比
【授業概要】

講義・演習　第５・６学年の「変化と関係」伴って変わる2つの数量の関係・比例、異種の2つの量の割合、割合、比例、反比例、比、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　講義・演習　第１・２学年の「数量関係」
【key words】
データの活用,簡単な表やグラフを読む力

【授業概要】

講義・演習　第１・２学年の「データの活用」絵や図を用いた数量の表現、簡単な表やグラフを読む力について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　講義・演習　第３・４学年の「データの活用」
【key words】

データの分類整理、統計データの特徴
【授業概要】

講義・演習　第３・４学年の「データの活用」表と棒グラフ、データの分類整理、統計データの特徴を読み取り判断することについて理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　講義・演習　第５・６学年の「データの活用」
【key words】

測定値の平均、データの考察、起こりうる場合
【授業概要】

講義・演習　第５・６学年の「データの活用」円グラフや帯グラフ、測定値の平均、データの考察、起こりうる場合について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　後半授業オリエンテーション　模擬授業（師範授業）
【key words】

指導案の実際、単元構想の実際
【授業概要】

後半授業オリエンテーション　模擬授業（示範授業）指導案の実際、単元構想の実際、展開例、予測される発言についてつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検

定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　模擬授業の分担計画と指導案作成準備
【key words】

指導案の構成要素
【授業概要】

模擬授業の分担計画と指導案作成準備

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　指導案作成の実際　１
【key words】

単元構想
【授業概要】

指導案作成の実際　１　１年から６年まで領域別に担当グループを作り単元構想、指導案作成

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　指導案作成の実際　２
【key words】

評価の方法
【授業概要】

指導案作成の実際　２　学習評価の方法を踏まえて、実際に指導案を作成し、グループごとに事前検討会を行う

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　指導案作成の実際　３
【key words】

事前検討会の方法
【授業概要】

指導案作成の実際　３　事前検討会を経て、指導案を完成させる

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　「数と計算」領域に関する模擬授業の展開１
【key words】
模擬授業,授業研究会
【授業概要】

「数と計算」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価）
【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第２２回　「数と計算」領域に関する模擬授業の展開２ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「数と計算」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２３回　「量と測定」領域に関する模擬授業の展開１ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「図形」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価） 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２４回　「量と測定」領域に関する模擬授業の展開２ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「図形」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２５回　「図形」領域に関する模擬授業の展開１ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「測定」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価） 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２６回　「図形」領域に関する模擬授業の展開２ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「変化と関係」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　「数量関係」領域に関する模擬授業の展開１ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「データの活用」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価） 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検

	定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　「数量関係」領域に関する模擬授業の展開２ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「データの活用」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　模擬授業の分析、指導案の改善 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 模擬授業の分析、指導案の改善 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　指導案、ノート、模擬授業の反省等の提出 【key words】 成果と課題 【授業概要】 １年間のまとめ（特に模擬授業や教材研究について振り返り、成果と課題について、学生間で意見交換を行う。） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 授業中の発言、回答などは教師としての必要な資質である話術の鍛錬の時と考えて発言すること。不明瞭、無表情は禁物 〔受講のルール〕 ＊主体的に授業参加をすること。教師としての基礎基本は何かを考えて授業参加すること。自ら課題解決の方策を見出し、自己教育能力を伸ばすこと。後半の模擬授業実施時は受講生は小学生として参加する。文具やノートも小学生と同じものを使います。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・教員採用試験に関する資料を配布するので、試験対策も併行して行うこと。 ・模擬授業実施に当たっては先輩模擬授業を参考にすること。
オフィスアワー	質問・意見・感想等はコメントカードに記入して授業後に提出すること。後日回答します。
評価方法	・授業ノート（板書・問題解答）をレポートとする。４０％ ・模擬授業の充実度（指導案、教材準備、授業態度、発問等の指導力）３０％ ・授業への積極性３０％
教科書	・小学校学習指導要領解説　算数編 ・文部省検定済教科書　模擬授業実施学年のものは各自購入する（分担が決まったら一括購入します） ・文部科学省平成２９年度告示準拠「小学校指導要領解説　算数遍」東洋出版社 小学校児童用教科書「あたらしい算数　１年上下、２年上下、３年上下、４年上下、５年上下、６年上下」
参考書	新指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍） 廣田敬一著「算数の基礎基本を楽しく学べる授業」（教育出版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教員（担任）として１５年、中学校数学教師として４年、管理職として１０年、市教育委員会学校教育課長として３年など小学校及び中学校数学教育に携わり、退職後は市教育研究研究所所長として教員研修にも深くかかわった。また、社会教育に１０年携わり、とりわけ青少年の健全育成の施策振興を主に担当した。

	実務経験を活かし、示範授業も十分取り入れ、体験的に授業指導法を学ぶ機会とし、指導案を作成方法し、学生各自模擬授業が実践できるようにする。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（図工）　　授業コード：5661

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
関根　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 図画工作科の指導に必要な知識・技能を講義、教材研究（製作実技）、模擬授業等を通して習得する。 【到達目標】 ①「造形教育の基礎理論」や「図画工作科学習指導要領」について理解することができる。 ②図画工作科の教科の特質上、「つくってみることによる教材研究」を実施することから、教材の概要をとらえたり、子どもを想像し学習活動が構想できるようになる。 ③指導案の作成、模擬授業、授業研究会の実践を通して、図画工作科の授業の指導力を身に付けることができる。
授業の概要	図画工作科では子どもの思いや考えを大切にしながら、よりよい題材を設定し、授業の構想を練る方法を学ぶ。また、現場で用いる多様な教材、素材、用具にできるだけたくさん触れ、教材作り、教材開発、教材研究を行う。学習指導案の作成、模擬授業、授業研究を行い、実践力を身に付ける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　造形活動の意義 【key words】 アイスナー、エッセンシャリズム、コンテクスチャリズム、自己決定の連続、子ども一人一人に正解がある 【授業概要】 ○科目の位置づけとシラバスの説明　（授業概要の説明、実技実習の準備等の確認） ○造形活動の意義　　（ アイスナーの考え方、　図画工作科の性格　） 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　理解できた項目に○印をつけ、理解しにくかった項目について復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第２回	学習指導要領の概要（図画工作科の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い　） 【key words】 Ａ表現、Ｂ鑑賞、〔共通事項〕、造形遊び、絵や立体、工作、領域、発想や構想の能力、創造的な技能 【授業概要】 ○図画工作科の内容　（内容の構成、「Ａ表現」の内容、Ｂ鑑賞」の内容，〔共通事項〕の内容）　　○「Ａ表現」の（１）造形遊びと（２）絵や立体、工作の相違点、各学年の内容 指導計画の作成と内容の取り扱い 【教科書ページ・参考文献】 小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　図画工作編　Ｐ１１～２０　Ｐ５７～６６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　理解できた項目に○印をつけ、理解しにくかった項目について復習する。 【予習復習に必要な想定時間】

６０～１２０分

第３回　「造形遊び」の授業の実際　（造形遊びの特質、題材化の視点、各学年の活動）

【key words】
造形遊び　自主性　創造性　意図的学習　発想　構想
【授業概要】
「造形遊び」の授業
○造形遊びの特質　意図的学習としての造形遊び　造形遊びで目指す能力　○題材化の視点　造形遊びの材料・場所・用具　○各学年の造形遊び
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ４２～５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った造形遊びの題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　「絵に表す」の授業の実際（絵に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）

【key words】
心象表現　適応表現　試行錯誤
【授業概要】
「絵に表す」の授業
①「絵に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　試行錯誤　②題材化の視点　子どもの絵の発達　生活画　想像画　観察画　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ５５～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　「立体に表す」の授業の実際（立体に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）

【key words】
心象表現　適応表現　素材性　試行錯誤　立体性　触知性
【授業概要】
「立体に表す」の授業
①「立体に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　立体性　素材性　触知性　試行錯誤　②題材化の視点　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動

【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ６８～８０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　「工作に表す」の授業の実際（工作に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）

【key words】
心象表現　適応表現　素材性　試行錯誤
【授業概要】
「工作に表す」の授業
①「工作に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　試行錯誤　②題材化の視点　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動

【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ８１～９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　「鑑賞」の授業の実際（鑑賞活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）

【key words】
鑑賞　表現活動に直接結びついた鑑賞　導入時の鑑賞　完成作品の相互鑑賞　独立した鑑賞
【授業概要】
鑑賞の授業
①鑑賞活動の特質　鑑賞とは　鑑賞の意義　②題材化の視点　表現活動に直接結びついた鑑賞　導入時の鑑賞　完成作品の相互鑑賞　独立した鑑賞　③各学年の鑑賞活動のポイント
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ９５～１１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った鑑賞の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　授業の組み立てと学習指導案の書き方（授業組み立てのプロセス、題材設定、授業の構想、授業プラン等）

【key words】
キット教材　目標と評価　図工科の授業のプロセス　教材研究　授業の構造
【授業概要】
授業の組み立てと学習指導案　①図画工作科における授業の特色　子どもの思いや考えを大切にする図画工作　図画工作科の授業構造　②授業組み立てのプロセス　学習指導案の作成方法
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習　　実践してみたいと思った教材の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　教材研究の方法　（各自が選んだ題材について、つくってみることによる教材研究〔製作実技〕をし、題材の概要を把握する。）
【key words】
つくってみることによる教材研究　　児童の実態　　教材観　　題材の目標　　評価規準
【授業概要】
①教材研究　　○木切れを使った教材研究　　○段ボール、割ピン、ダンボールカッターを使った教材研究　②学習指導案の作成　　児童の実態　　教材観　　題材の目標　　評価規準
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　指導案作成のための資料を収集する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１０回　指導案作成　（造形遊びの中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
児童の実態　　教材観　　共通事項　　題材の目標　　評価規準　　導入段階　　展開段階
【授業概要】
学習指導案の作成
・題材名　　・教材観(題材について)　　・児童の実態　　・共通事項　　・題材の目標
・評価規準について　　・指導計画　　本時の学習　　（本時の目標，準備，　本時の展開　）
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案の原案を作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１１回　指導案作成　（各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
児童の実態　　教材観　　共通事項　　題材の目標　　評価規準　　導入段階　　展開段階
【授業概要】
学習指導案の作成
・題材名　　・教材観(題材について)　　・児童の実態　　・共通事項　　・題材の目標
・評価規準について　　・指導計画　　本時の学習　　（本時の目標，準備，　本時の展開　）
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案の原案を作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１２回　模擬授業＆授業研究会①　　（造形遊び）　　１，２年　　「ならべて　つんで」
【key words】
不揃いの木切れ　　並べる　　積む　　発想　　構想
【授業概要】
○模擬授業の展開　　題材名「ならべて　つんで」　造形遊び　１，２年　導入段階　　展開段階　まとめの段階　　○授業研究会　【話し合いの視点】　木切れを並べたり積んだりして思い付いたものをつくる活動が楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　低学年の他の造形遊びの活動について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１３回　模擬授業＆授業研究会②　　（造形遊び）　　３，４年　「切ってつないで大へんしん」
【key words】
ダンボール紙　ダンボールカッター　　割りピン　ボルト・ナットー・ワッシャー　面白い形の変身
【授業概要】
○模擬授業の展開　　題材名「切ってつないで大へんしん」　造形遊び　３，４年　導入段階　展開段階　まとめの段階　○授業研究会　【話し合いの視点】切った紙をつなぐことから面白い形の変身を思い付き、工夫し、活動が楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　中学年の他の造形遊びの活動について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１４回　教材研究　　紙工作の指導方法　１，２年　　「まどをひらいて」　　用具の使い方（カッターナイフ、はさみ、定規、糊等）
【key words】
空間や場所に働きかける　　不要になった傘　　発想　　場所の変化
【授業概要】
○模擬授業の展開　　題材名「ひらいてみると」　５，６年　造形遊び　導入段階　展開段階　まとめの段階○授業研究会　【話し合いの視点】傘を使って空間に働き掛けて場所の変化を楽しんだり、自分たちの思いを表せたか。
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　高学年の他の造形遊びの活動について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】

６０～１２０分
第１５回　教材研究　紙工作の教材開発　３，４年　「幸せを運ぶカード」　飛び出す仕組みから面白い仕組みを考える
【key words】
平面の紙を折って立体化する　紙を立たせる工夫　用具の使い方
【授業概要】
○紙工作の指導法　１，２年　「おってたてたら」　紙を折って立てた形から思いついたものをつくる。
○用具の正しい使い方　(はさみ、カッターナイフ、定規、糊)
○低学年の紙の様々な技法　参考作品の製作
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書　「ずがこうさく」　１，２年上　日本文教出版　Ｐ２０～２１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのような参考作品を作るかアイディアスケッチをしてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分
第１６回　教材研究　紙工作の教材開発　５，６年　「おどれ！わりピンキャラクター」　紙工作の面白い立体化の仕組みを考える。
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　教材研究　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で各自が選択した題材について、教材研究をする。）
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　指導案作成　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　指導案作成　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　模擬授業＆授業研究会③　（絵に表す）　３，４年　「まぼろしの花」
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　模擬授業＆授業研究会④　（絵に表す）　５，６年　「物語から広がる世界」
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　模擬授業＆授業研究会⑤　（立体に表す）　１，２年　「ごちそうパーティーをはじめよう」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　模擬授業＆授業研究会⑥　（工作に表す）　１，２年　「おってたてたら」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　模擬授業＆授業研究会⑦　（工作に表す）　３，４年　「サクサク　小刀名人」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　模擬授業＆授業研究会⑧　（工作に表す）　５，６年　「伝え合いたい思いや気持ち」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　模擬授業＆授業研究会⑨　（鑑賞活動）　１，２年　「でこぼこ　はっけん」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　模擬授業＆授業研究会⑩　（鑑賞活動）　５，６年　「何をかいているのかな？」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　教育評価の考え方と方法　○図画工作科の評価と考え方　○評価と評定の実際

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２９回　児童画の見方・育て方　（低・中・高学年の成長過程における絵画の特徴を把握し、子どもの絵の面白さ、楽しさ、よさを見出す。）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３０回　まとめ　現代の諸相　図画工作科と教師の役割

	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業で使用する資料を事前に配布し、目を通して授業に臨むようにする。また、機会に応じて復習テストを行う。 ○学生一人一人個別に模擬授業の指導を空き時間、放課後等に行う。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分まで対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、指導案、模擬授業、教材作品等（５０％）
教科書	文部科学省　「小学校学習指導要領解説（図画工作）」　日本文教出版、　新井哲夫編著「小学校図画工作の指導」　建帛社
参考書	0
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 図画工作科の授業の指導力を身に付けることができよう、小学校で担任として図画工作科を担当した経験を活かし、指導案の作成、授業実践、授業研究会のあり方について、実例を紹介したり、模擬授業の実践を通して具体的に解説する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（図工）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 図画工作科の指導に必要な知識・技能を講義、教材研究（製作実技）、模擬授業等を通して習得する。 【到達目標】 ①「造形教育の基礎理論」や「図画工作科学習指導要領」について理解することができる。 ②図画工作科の教科の特質上、「つくってみることによる教材研究」を実施することから、教材の概要をとらえたり、子どもを想像し学習活動が構想できるようになる。 ③指導案の作成、模擬授業、授業研究会の実践を通して、図画工作科の授業の指導力を身に付けることができる。
授業の概要	図画工作科では子どもの思いや考えを大切にしながら、よりよい題材を設定し、授業の構想を練る方法を学ぶ。また、現場で用いる多様な教材、素材、用具にできるだけたくさん触れ、教材作り、教材開発、教材研究を行う。学習指導案の作成、模擬授業、授業研究を行い、実践力を身に付ける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　造形活動の意義 【key words】 アイスナー、エッセンシャリズム、コンテクスチャリズム、自己決定の連続、子ども一人一人に正解がある 【授業概要】 ○科目の位置づけとシラバスの説明　（授業概要の説明、実技実習の準備等の確認） ○造形活動の意義　　（ アイスナーの考え方、　図画工作科の性格　） 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　理解できた項目に○印をつけ、理解しにくかった項目について復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第２回	学習指導要領の概要（図画工作科の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い　） 【key words】 Ａ表現、Ｂ鑑賞、〔共通事項〕、造形遊び、絵や立体、工作、領域、発想や構想の能力、創造的な技能 【授業概要】 ○図画工作科の内容　（内容の構成、「Ａ表現」の内容、Ｂ鑑賞」の内容，〔共通事項〕の内容）　　○「Ａ表現」の（１）造形遊びと（２）絵や立体、工作の相違点、各学年の内容 指導計画の作成と内容の取り扱い 【教科書ページ・参考文献】 小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　図画工作編　Ｐ１１～２０　Ｐ５７～６６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　理解できた項目に○印をつけ、理解しにくかった項目について復習する。 【予習復習に必要な想定時間】

６０～１２０分

第３回　「造形遊び」の授業の実際　（造形遊びの特質、題材化の視点、各学年の活動）

【key words】
造形遊び　自主性　創造性　意図的学習　発想　構想
【授業概要】
「造形遊び」の授業
○造形遊びの特質　意図的学習としての造形遊び　造形遊びで目指す能力　○題材化の視点　造形遊びの材料・場所・用具　○各学年の造形遊び
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ４２～５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った造形遊びの題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　「絵に表す」の授業の実際（絵に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）

【key words】
心象表現　適応表現　試行錯誤
【授業概要】
「絵に表す」の授業
①「絵に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　試行錯誤　②題材化の視点　子どもの絵の発達　生活画　想像画　観察画　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ５５～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　「立体に表す」の授業の実際（立体に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）

【key words】
心象表現　適応表現　素材性　試行錯誤　立体性　触知性
【授業概要】
「立体に表す」の授業
①「立体に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　立体性　素材性　触知性　試行錯誤　②題材化の視点　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動

【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ６８～８０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　「工作に表す」の授業の実際（工作に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）

【key words】
心象表現　適応表現　素材性　試行錯誤
【授業概要】
「工作に表す」の授業
①「工作に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　試行錯誤　②題材化の視点　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動

【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ８１～９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　「鑑賞」の授業の実際（鑑賞活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）

【key words】
鑑賞　表現活動に直接結びついた鑑賞　導入時の鑑賞　完成作品の相互鑑賞　独立した鑑賞
【授業概要】
鑑賞の授業
①鑑賞活動の特質　鑑賞とは　鑑賞の意義　②題材化の視点　表現活動に直接結びついた鑑賞　導入時の鑑賞　完成作品の相互鑑賞　独立した鑑賞　③各学年の鑑賞活動のポイント
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ９５～１１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った鑑賞の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　授業の組み立てと学習指導案の書き方（授業組み立てのプロセス、題材設定、授業の構想、授業プラン等）

【key words】
キット教材　目標と評価　図工科の授業のプロセス　教材研究　授業の構造
【授業概要】
授業の組み立てと学習指導案　①図画工作科における授業の特色　子どもの思いや考えを大切にする図画工作　図画工作科の授業構造　②授業組み立てのプロセス　学習指導案の作成方法
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習　　実践してみたいと思った教材の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　教材研究の方法　（各自が選んだ題材について、つくってみることによる教材研究〔製作実技〕をし、題材の概要を把握する。）
【key words】
つくってみることによる教材研究　　児童の実態　　教材観　　題材の目標　　評価規準
【授業概要】
①教材研究　　○木切れを使った教材研究　　○段ボール、割ピン、ダンボールカッターを使った教材研究　②学習指導案の作成　　児童の実態　　教材観　　題材の目標　　評価規準
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　指導案作成のための資料を収集する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１０回　指導案作成　（造形遊びの中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
児童の実態　　教材観　　共通事項　　題材の目標　　評価規準　　導入段階　　展開段階
【授業概要】
学習指導案の作成
・題材名　　・教材観(題材について)　　・児童の実態　　・共通事項　　・題材の目標
・評価規準について　　・指導計画　　本時の学習　　（本時の目標，準備，　本時の展開　）
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案の原案を作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１１回　指導案作成　（各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
児童の実態　　教材観　　共通事項　　題材の目標　　評価規準　　導入段階　　展開段階
【授業概要】
学習指導案の作成
・題材名　　・教材観(題材について)　　・児童の実態　　・共通事項　　・題材の目標
・評価規準について　　・指導計画　　本時の学習　　（本時の目標，準備，　本時の展開　）
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案の原案を作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１２回　模擬授業＆授業研究会①　　（造形遊び）　　１，２年　　「ならべて　つんで」
【key words】
不揃いの木切れ　　並べる　　積む　　発想　　構想
【授業概要】
○模擬授業の展開　　題材名「ならべて　つんで」　造形遊び　１，２年　導入段階　　展開段階　まとめの段階　　○授業研究会　【話し合いの視点】　木切れを並べたり積んだりして思い付いたものをつくる活動が楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　低学年の他の造形遊びの活動について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１３回　模擬授業＆授業研究会②　　（造形遊び）　　３，４年　「切ってつないで大へんしん」
【key words】
ダンボール紙　ダンボールカッター　　割りピン　ボルト・ナットー・ワッシャー　面白い形の変身
【授業概要】
○模擬授業の展開　　題材名「切ってつないで大へんしん」　造形遊び　３，４年　導入段階　展開段階　まとめの段階　○授業研究会　【話し合いの視点】切った紙をつなぐことから面白い形の変身を思い付き、工夫し、活動が楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　中学年の他の造形遊びの活動について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１４回　教材研究　　紙工作の指導方法　１，２年　　「まどをひらいて」　　用具の使い方（カッターナイフ、はさみ、定規、糊等）
【key words】
空間や場所に働きかける　　不要になった傘　　発想　　場所の変化
【授業概要】
○模擬授業の展開　　題材名「ひらいてみると」　５，６年　造形遊び　導入段階　展開段階　まとめの段階○授業研究会　【話し合いの視点】傘を使って空間に働き掛けて場所の変化を楽しんだり、自分たちの思いを表せたか。
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　高学年の他の造形遊びの活動について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】

６０～１２０分
第１５回　教材研究　紙工作の教材開発　３，４年　「幸せを運ぶカード」　飛び出す仕組みから面白い仕組みを考える
【key words】
平面の紙を折って立体化する　紙を立たせる工夫　用具の使い方
【授業概要】
○紙工作の指導法　１，２年　「おってたてたら」　紙を折って立てた形から思いついたものをつくる。
○用具の正しい使い方　(はさみ、カッターナイフ、定規、糊)
○低学年の紙の様々な技法　参考作品の製作
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書　「ずがこうさく」　１，２年上　日本文教出版　Ｐ２０～２１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのような参考作品を作るかアイディアスケッチをしてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分
第１６回　教材研究　紙工作の教材開発　５，６年　「おどれ！わりピンキャラクター」　紙工作の面白い立体化の仕組みを考える。
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　教材研究　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で各自が選択した題材について、教材研究をする。）
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　指導案作成　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　指導案作成　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　模擬授業＆授業研究会③　（絵に表す）　３，４年　「まぼろしの花」
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　模擬授業＆授業研究会④　（絵に表す）　５，６年　「物語から広がる世界」
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　模擬授業＆授業研究会⑤　（立体に表す）　１，２年　「ごちそうパーティーをはじめよう」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　模擬授業＆授業研究会⑥　（工作に表す）　１，２年　「おってたてたら」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　模擬授業＆授業研究会⑦　（工作に表す）　３，４年　「サクサク　小刀名人」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　模擬授業＆授業研究会⑧　（工作に表す）　５，６年　「伝え合いたい思いや気持ち」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　模擬授業＆授業研究会⑨　（鑑賞活動）　１，２年　「でこぼこ　はっけん」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　模擬授業＆授業研究会⑩　（鑑賞活動）　５，６年　「何をかいているのかな？」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　教育評価の考え方と方法　○図画工作科の評価と考え方　○評価と評定の実際

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２９回　児童画の見方・育て方　（低・中・高学年の成長過程における絵画の特徴を把握し、子どもの絵の面白さ、楽しさ、よさを見出す。）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３０回　まとめ　現代の諸相　図画工作科と教師の役割

	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業で使用する資料を事前に配布し、目を通して授業に臨むようにする。また、機会に応じて復習テストを行う。 ○学生一人一人個別に模擬授業の指導を空き時間、放課後等に行う。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分まで対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、指導案、模擬授業、教材作品等（５０％）
教科書	文部科学省　「小学校学習指導要領解説（図画工作）」　日本文教出版、　新井哲夫編著「小学校図画工作の指導」　建帛社
参考書	0
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 図画工作科の授業の指導力を身に付けることができよう、小学校で担任として図画工作科を担当した経験を活かし、指導案の作成、授業実践、授業研究会のあり方について、実例を紹介したり、模擬授業の実践を通して具体的に解説する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 小学校教科教育法（体育）　　授業コード：5681

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校体育科の指導について必要な知識･技能を学び、実践できることを目的とする。、 【到達目標】 ①心と体を一体として捉え、運動や健康･安全についての理解ができる。 ②積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる指導技術を具体的にできる。 ③健康的な明るい豊かな生活を営む態度を身につけることができる。
授業の概要	基本の運動、ゲーム、体つくり、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域に関する教材の指導方法を理論、実技で学び、模擬授業での指導研究を通しながら教育内容を理解し、実践的な問題を本質的に捉える基礎能力を高める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（体育の概念、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法） 小学校教科教育法（体育）とは 【key words】 【key words】教育　体育 【授業概要】 【授業概要】科目の位置づけとシラバスの説明。初等科体育改訂経緯、趣旨、要点の説明、体育の概念、総則と体育、スポーツ基本法と学校体育等の概要を通じて初等科体育の目的について学ぶ 。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） ｐ1～ｐ5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】「体ほぐし運動」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	体つくり運動①（体ほぐし運動）　体ほぐし運動のねらい、運動の具体例 【key words】 【key words】体を動かす楽しさ　心地よさ 【授業概要】 【授業概要】手軽な運動や律動的な運動（のびのびとした運動、リズムに乗った運動、ペアでのストレッチ運動、伝承遊びや集団での運動遊び等）を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、自分の体の状態に気づき、体の調子を整えたり、仲間と豊かに交流したりすることを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 12,13､23、40、62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「多様な動きをつくる運動」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　体つくり運動②（多様な動きをつくる運動）　多様な動きをつくる運動のねらい、運動の具体例
【key words】
【key words】バランス　移動　操作　力試し

【授業概要】
【授業概要】体のバランスをとったり（姿勢や方向を変えておこなう運動）、移動をしたりする動き（速さ、リズム、方向を変えて体を移動する運動）や、用具を操作したり（用具を掴んだり、くぐりぬけたりする運動）力試しをしたり（人を押す、引く、運ぶ、支える運動）する動きを、意図的に育む運動遊びを通じて、体の基本的な動きを総合的に身につけることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 24､41、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「体力を高める運動」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　体つくり運動③（体力を高める運動）　体力を高める運動のねらい、運動の具体例
【key words】
【key words】　体力　力試し　持続性

【授業概要】
【授業概要】「多様な動きをつくる運動」で身につけた動きや動きの組み合わせを基に、体力の必要性や体力を高めるための運動（体の巧みな動き、力強い動きや持続する能力を他かむる動きの運動）のおこない方を理解し、自己の体力に応じて体力つくりが実践できることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 62-p63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「体つくり運動」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　体つくり運動④（体つくり運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　体つくり運動　指導計画　教材　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】体つくり運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講者になる、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 86-p90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動（マット運動）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　器械運動①（マット運動）　マット運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　回転　腕支持　倒立　バランス

【授業概要】
【授業概要】ゆりかご、前転、後転、側転などマットを使用した運動を学ぶ中で、前転では、背支持倒立の練習を活かした大きな回転へ、後転では腰の持ち上げ、両手の押しを意識させ、側転では、下を見ての支持での回転と倒立との関連など発展した技術への段階的指導を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 28,44,65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動（鉄棒運動）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　器械運動②（鉄棒運動）　鉄棒運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　振動　腕支持　回転

【授業概要】
【授業概要】前方回転、後方回転、こうもり、逆上がり等鉄棒での回転、支持した運動を学ぶ。前方回転では、前まわりおり、抱え込みまわり、後方回転では、足ぬきまわり、逆上がり、後方膝かけ後転、こうもりでは、足ぬき回り、膝掛け下がり振りを学び、関連する発展した技術の段階的指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】

【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 28,45,66
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動（跳び箱運動）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　器械運動③（跳び箱運動）　跳び箱運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】踏切　支持　着地　回転　切り返し

【授業概要】
【授業概要】またぎ越しや台上前転、はね跳び等、跳び箱を飛び越す運動を学ぶ。またぎ越しでは、馬跳び、ウサギ跳びなどの習熟から開脚跳び、台上前転、跳ね跳びでは、重ねたマットでの前転から台上前転や跳ね跳びへの発展など関連した技術の段階指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 16-17、28、67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　器械運動④（器械運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　器械運動　指導計画　教材　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】器械運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講者になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説 p 86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動」について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　陸上運動①（走の運動）　短距離･リレーの指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　リズム　フォーム　ダッシュ　記録　達成感

【授業概要】
【授業概要】かけっこ、リレー、では調子よく走り、一定の距離を全力で、リズミカルに走ることを学ぶ。また、走る距離やバトンパスなどのルールを定めて競走したり、自己（チーム）の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指しながら一定の距離を全力で走ることや、計測、スタートの指導方法も習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説 p 30,47、69
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動（短距離走）」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　陸上運動②（跳の運動）　幅跳び・ハードル走の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　リズム　フォーム　ハードル　記録　達成感

【授業概要】
【授業概要】インターバルの距離やハードルの台数などのルールを定めて競走したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指しながら、ハードルをリズミカルに走り越えることを学ぶ。また、計測やスタートの指導方法もあわせて習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 30、48、70

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動（走・跳）」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　陸上運動③（陸上運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　陸上運動　指導計画　教材　展開　まとめ

【
【授業概要】
【授業概要】陸上運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講者になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】

【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　水泳①（基本の動き、水遊び、浮き・泳ぎ運動）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　水慣れ　キック（ばた足、かえる足）　呼吸　クロール　平泳ぎ　安全

【授業概要】
【授業概要】　基本の動き（顔つけ、ばた足）水遊び（水に慣れる遊び、浮く・もぐる遊び）浮く･泳ぐ運動（ビート板浮き、けのび、補助具を使用したばた足、かえる足、めんかぶりクロール等）の初歩的な運動をおこない、クロール、平泳ぎへと繋げていく段階的指導のポイントを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ31,32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳（基礎泳法）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　水泳②（基礎泳法：クロール・平泳ぎ）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　キック（ばた足、かえる足）、呼吸、クロール、平泳ぎ、プル

【授業概要】
【授業概要】クロールでは、呼吸を効率的におこなえるよう、横向き呼吸を取り入れたばた足（ビート板使用）を学び、フォームつくりではローリングの姿勢が自然とできるように泳ぐことを習得する。平泳ぎでは、かえる足の構えや動きを段階的に指導することを学び、「キック・伸び・呼吸」のリズムを習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ49、50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳（応用泳法）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　水泳③（応用泳法：背泳・ターン・飛込み）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　クロール　平泳ぎ　遠泳

【授業概要】
【授業概要】クロールでは、ばた足、プル、伸びをリズミカルに取り入れて、続けて長く泳ぐことを目標とする。また、平泳ぎも、キック、伏し浮き、プル、呼吸をリズミカルに行い、続けて長く泳ぐことを目標とする。心地よく泳いだり、距離を伸ばしたりすることに楽しさや達成感を味わうことを体得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ71,72
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１６回　水泳④（水泳の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　水泳　指導計画　教材　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】水泳を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講生になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動（ゴール型）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１７回　ボール運動①（ゴール型：バスケットボール、サッカー）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　基本技術　攻撃　守備　ルール　ゴール型

【授業概要】
【授業概要】ボールゲームや鬼遊びの基本的運動を実施した後、コート内で攻守が入り混じり、

ボールを手や足で操作したり、あいている場所にすばやく動いたりして攻防を組み立て、ゴールにシュートしたり、陣地を取り合って得点を競うゲームをおこなう。ポートボール、ミニサッカー、ミニバスケットのゲームの指導方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ33、51、73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動（ネット型
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１８回　ボール運動②（ネット型：バレーボール、バドミントン）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　基本技術　攻撃　守備　ルール　ネット型

【授業概要】
【授業概要】ボールゲームや鬼遊びの基本的運動を実施した後、ネットで区切られたコートの中で攻防を組み立てながら、自軍から相手コートに向かって相手の取りにくいようなボールを返し、得点を競うゲームをおこなう。ソフトバレーボールのゲームの指導方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ34,52、74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動（ベースボール型）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　ボール運動③（ベースボール型：ソフトボール）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　基本技術　攻撃　守備　ルール　ベースボール型

【授業概要】
【授業概要】ボールゲームや鬼遊びの基本的運動を実施した後、攻守で規則的に交代し合い、一定の回数内で得点を競うゲームをおこなう。三角ベースのコートで、柔らかいボールを打つ簡易ベースボールの指導方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ53
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２０回　ボール運動④（ボール運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　ボール運動　指導計画　教材　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】ボール運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講生になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】各グループ作成の指導案
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「表現運動（表現・リズム）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２１回　表現運動①（表現とリズム運動：模倣、表現）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　個性　内面　イメージ　人間性を豊か

【授業概要】
【授業概要】身近にある題材や空想の世界をイメージしながら動きを表現する「表現」や、軽快なリズム感にあわせて全身で踊ったり、友達と自由にかかわりあって楽しく踊る「リズムダンス」を学ぶ。また、「表現遊び、表現リズム遊び」の両方の遊びを豊かに体験する中で、表現運動につながる即興的な身体表現能力やリズムにのって踊る能力、コミュニケーション能力などを習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ35,53、75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「表現運動（表現・リズム）」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２２回　表現運動②（表現運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　表現運動　指導計画　教材　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】表現運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講生になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学校実技で実施した教材」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　小学校実技教材・教具の研究とまとめ
【key words】
【key words】　体つくり　教材　教具　工夫

【授業概要】
【授業概要】小学校体育で実技に使用する教材・用具を、低学年、中学年、高学年に分けて、どのように教材・教具として使用すればより効果的な授業展開ができるかを学び、各運動指導の中で効果的な使用方法や工夫の方法をグループワークで研究して発表する。また、その教材の指導方法も合わせて習得する。ＤＶＤ健康･体力づくり視聴覚教材「みんなで楽しく健康つくり」を活用する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：エクササイズでコミュニケーション（健康･体力づくり事業財団）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学校実技で実施した教材」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２４回　課題研究①（準備運動の作成：テーマの設定、事例紹介）
【key words】
【key words】　教材　運動　安全

【授業概要】
【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果、そして指導方法をまとめ、受講者本人がモデルとなる映像を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について、各自テーマを設定して内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　課題研究②（準備運動の作成：ねらい、目的、内容、まとめの計画作成）
【key words】
【key words】　教材　運動　安全

【授業概要】
【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果、そして指導方法をまとめ、受講者本人がモデルとなる映像を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について各自テーマを設定して内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２６回　課題研究③（準備運動の作成：各動きのポイント映写、ＰＰの作成）
【key words】
【key words】　教材　運動　安全

【授業概要】
【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果そして指導方法をわまとめ、受講者本人がモデルとなる映像（ＣＤ－Ｒに収録）を作成して、発表する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について各自テーマを設定して内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２７回　課題研究④（準備運動の作成：ＰＰの作成、作品のレポート作成）
【key words】

	【key words】　教材　運動　安全 【授業概要】 【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果、そして指導方法をまとめ、受講者本人がモデルとなる映像（ＣＤ－Ｒに収録）を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について各自テーマを設定して内容をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２８回　課題研究⑤（研究発表と評価：前半グループ）　個人ごとにｐｐを使用し研究発表　学生の相互評価 【key words】 【key words】　教材　運動　安全 【授業概要】 【授業概要】課題研究として、作成した「効果的な準備運動」を、教材、目的、内容、効果、指導方法を映像（ＣＤ－Ｒに収録）を中心に発表する。質疑応答の中で改めて課題発見に努めるとともに、その課題の解決方法を学ぶ。また、研究発表をレポートとしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】「課題発表方法について」についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２９回　課題研究⑥（研究発表と評価：後半グループ）　個人ごとにｐｐを使用し研究発表　学生の相互評価 【key words】 【key words】　教材　運動　安全 【授業概要】 【授業概要】課題研究として、作成した「効果的な準備運動」を、教材、目的、内容、効果、指導方法を映像（ＣＤ－Ｒに収録）を中心に発表する。質疑応答の中で改めて課題発見に努めるとともに、その課題の解決方法を学ぶ。また、研究発表をレポートとしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究発表を通じて、効果的な準備運動についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３０回　まとめ 【key words】 【key words】　学校　児童　体育　スポーツ　健康 【授業概要】 【授業概要】小学校教科教育法（体育）の目的・内容を確認するとともに、教育現場でどのように実践しているかをテーマとしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育）ｐ99～109 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・実技の実践的な学習と模擬授業および指導研究をおこなう。 ・課題研究（作品制作と研究発表）はＣＤに収録する。 ・運動着、運動靴の準備、実技でもメモ用紙は準備する。 〔受講のルール〕 ・着替えは迅速にして授業の用具等の準備をおこなう。 ・教材の整理･整頓、会場の清掃は全員で協力する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	小学校のボランティア活動を積極的に実施し、野外活動やプール指導等でこども達の状況を理解しておく。
オフィスアワー	木曜日　13:00～16:00　他の時間帯を希望する学生はアポイントをいただきたい。
評価方法	筆記試験･レポート試験（50%）　実技試験（50%）　総合評価とする
教科書	文部科学省：小学校学習指導要領解説（体育編）：東洋館出版社：平成29年　高島二郎：小学校体育：玉川大学出版：平成29年

参考書	笹川スポーツ財団：スポーツ白書：2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立学校教員（保健体育）21年管理職6年、群馬県教育委員会指導部体育課指導主事（学校体育、生涯体育指導）4年、群馬県スポーツ振興事業団指導主事（小学生にかかわる指導者、母集団養成、親子スポーツ指導）群馬県教育委員会課長補佐（県内市町村教育委員会へ派遣スポーツ指導主事の指導、スポーツ少年団指導者養成講習会、母集団育成講習会講師）2年、群馬県学校体育研究連合会（小・中・高）表彰、群馬県教育長（保健体育）表彰 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　初等教育実習事前・事後指導　　授業コード：5701

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	-	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 教育実習に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の概要を理解することができる。 ②観察実習を行い、小学校現場や授業の進め方、児童の理解を図ることができる。 ③各教科、道徳、特別活動、総合等の模擬授業、授業研究を行い、実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	1　学習指導、生活指導の基礎基本について学ぶ。 2　現場の教師の学級経営、学習指導、生活指導について、観察・参加し、学ぶ。 3　模擬授業、授業研究等について学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、教育実習の理解①（意義と目的、３年次・４年次の流れ）、実習アンケート、実習書類の確認１ 【key words】 シラバスの概要、教育実習の意義と目的、履修の資格者、教育実習の実施 【授業概要】 ①全30回の概要を知る。 ②「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の意義と目的、実習履修の資格者、具体的な教育実習の実施（教育実習前・教育実習中・教育実習後）について、理解する。 ③母校への教育実習依頼の事務の流れについて理解する。（教委一括依頼<前橋市・桐生市・伊勢崎市・みどり市等>には注意する。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	教育実習の理解②（実習オリエンテーション）、観察実習について（前橋市立大利根小学校にて５・６月実施）、実習アンケートの結果、実習書類の確認２、履修カルテの記入 【key words】

教育実習の心得、観察実習、教員採用試験

【授業概要】
①「実習へのガイドブック」を活用し、実習の心得について理解する。実習事務の進行について確認する。
②「実習へのガイドブック」を活用し、観察実習の実施や心得について、理解する。
③教員採用試験の各自治体の出題傾向、大学推薦について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解くこと、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　小学校教師の基礎基本①（諸注意【SNS,体罰、守秘義務】、児童の心身の発達、教師の一日）
【key words】

個人情報、児童の発達段階、観察実習

【授業概要】
①教員の体験談より、個人情報、児童の発達段階について理解する。
②観察実習（全６回）の具体的な日時、配当学年、配慮事項について理解する。
③実習事務の進行について確認する。
④受験自治体の一般教養について調べる。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解くこと、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　小学校教師の基礎基本②（職員・保護者とのコミュニケーション）、実習書類の確認、観察実習に向けての諸注意
【key words】

学習指導案の作成、コミュニケーション力、観察実習

【授業概要】
①「実習へのガイドブック」を活用し、学習指導案作成の意義、作成方法について理解する。実習事務の進行について確認する。
②教員の体験談より、職員や保護者とのコミュニケーションについて話し合う。
③観察実習（全６回）の具体的な日時、配当学年、配慮事項について理解する。
④ミニテスト（第１～３回のまとめ）を受ける。
④大学推薦について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　観察実習の実施①（前橋市立小学校　低学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間の参観と参加）
【key words】

授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
①主に低学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。

③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　観察実習の実施②（前橋市立小学校　低学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間の参観と参加）
【key words】

授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
①主に低学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　観察実習の実施③（前橋市立小学校　中学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間の参観と参加）
【key words】

授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
①主に低学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　観察実習の実施④（前橋市立小学校　中学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間の参観と参加）
【key words】

授業補助、児童理解、教職理解

【授業概要】
①主に高学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　観察実習の実施⑤（前橋市立小学校　高学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間、特別

		支援教育について） 【key words】 授業補助、児童理解、教職理解 【授業概要】 ①主に高学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。 ②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。 ③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。 ④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１０回	観察実習の実施⑥（前橋市立小学校　高学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間、特別支援教育について）） 【key words】 授業補助、児童理解、教職理解 【授業概要】 ①主に高学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。 ②授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。 ③授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。 ④「授業参観・参加記録」シートを３枚書く。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。「観察実習報告書」を作成し、報告できること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１１回	観察実習の報告会①（うまくいったこと・課題等３名が発表） 【key words】 観察実習の省察、プレゼンテーション、討議 【授業概要】 ①一人ずつ報告（パワーポイントによるプレゼンテーション）をし、全体で協議する。 ②特に協議では、疑問や課題を解決し、本実習に意欲的に取り組めるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。「観察実習報告書」を作成し、報告できること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１２回	観察実習の報告会②（うまくいったこと・課題等３名が発表） 【key words】 観察実習の省察、プレゼンテーション、討議 【授業概要】 ①一人ずつ報告をし、全体で協議する。 ②特に協議では、疑問や課題を解決し、本実習に意欲的に取り組めるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　観察実習の振り返り（観察実習記録の提出、振り返りアンケート等）、教育実習の理解③（書類の確認、実習校の理解）
【key words】

観察実習の省察、アンケート

【授業概要】
①観察実習記録や観察実習アンケートに記入する。
②本実習をする学校について調べる。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「実習へのガイドブック」の熟読、自己受験自治体の過去問を解く、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　学習指導と生活指導①（具体的な場面、「忘れ物」「学校のきまり」「安全指導」）
【key words】

学習指導、生活指導

【授業概要】
①採用試験での面接（場面指導）をとりあげる。
②教員採用試験の各自治体の出題傾向、大学推薦について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「学習指導要領及び解説」の熟読、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１５回　学習指導と生活指導②（学級経営、「友達のよさを認め合う活動」「休み時間の大切さ」「発達障害」）
【key words】

学習指導、生活指導、学級経営

【授業概要】
①学級経営の実践例（友達のよさを認める活動）を知る。
②採用試験での面接（学級経営）をとりあげる。
③教員採用試験の各自治体の出題傾向、大学推薦について理解する。
④ミニテスト（前期まとめ）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○夏休みの学習計画に基づき、教員採用試験合格に向けての取り組み、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。まとめテストの復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１６回　教育実習を迎えるにあたって①（悩みや不安の軽減、コミュニケーション能力）
【key words】

教育実習への不安や悩み

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読する。

【授業概要】

①教育実習の不安や悩みについて発表、解決策を考える。
②実習へのガイドブックを活用し、不安や悩みを軽減する。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１７回　模擬授業①、授業研究会（道徳Ｔ・Ｔ「１年　はしの　うえの　おおかみ」　授業者は代表学生２名）、特別な教科としての道徳
【key words】

模擬授業、授業研究会

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「小学校学習指導要領及び解説、道徳編（東洋館出版社）」の熟読、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１８回　教育実習を迎えるにあたって②（学校組織、学級経営）
【key words】

学校組織、学級経営

【授業概要】
①教職員名簿、学校組織図より、職名・主任・委員会等学校組織について理解する。
②「学級だより」「学級経営案」より学級経営について理解する。
③「学級だより」作成の計画を練る。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学級だよりを作成すること、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１９回　模擬授業②、授業研究会（音楽Ｔ・Ｔ　　授業者は代表学生２名）
【key words】

音楽授業、Ｔ・Ｔ

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２０回　教育実習を迎えるにあたって③（４年生の先輩からの教育実習体験を聞く。１～４初等教育コース年合同。）

【key words】

教育実習、悩み、不安

【授業概要】
①実習を終えた先輩の報告を聞き、自己の悩みや不安、解消方法について知る。
②はじめ全体会、後半はグループワークを行い、積極的に質問する。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○『実習へのガイドブック』を熟読す、自己受験自治体の過去問題を解き、自己の弱点を補強、「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２１回　模擬授業③、授業研究会（外国語科Ｔ・Ｔ　　授業者は代表学生２名）

【key words】

外国語科授業、T・T

【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○『実習へのガイドブック』を熟読す、自己受験自治体の過去問題を解き、自己の弱点を補強、「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２２回　教育実習を迎えるにあたって④（保育実習との異同）

【key words】

教育実習、保育実習

【授業概要】
①保育実習と教育実習の類似点と相違点を考える。
②保育実習の経験が生かせる面について話し合う。（保育実習録を見ながら）
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○『実習へのガイドブック』を熟読す、自己受験自治体の過去問題を解き、自己の弱点を補強、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２３回　教員採用模擬試験（事前学習、事後学習を行い、教員採用試験について理解するとともに自己課題を見つける。）

【key words】

模擬試験

【授業概要】
①模擬試験を受けさせ、自己の課題に気付かせ、課題解決を図るようにする。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○模擬試験の自己採点を行い、解答の解説を見ながら弱点を補強すること、「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読し、問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

	第２４回	小学校現場の先輩教師による講話（本学既卒、初任者に、志望動機・教採に向けての勉強方法、教育実習、現場一年目の様子を話してもらう。１～４初等教育コース年合同） 【key words】 教育実習、褒め方・叱り方、現場での体験談 【授業概要】 ①本学卒の現場教員の体験談を聞く。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○褒め方・叱り方について整理しておくこと、「月刊誌　教員養成セミナー」を熟読し、問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２５回	教育実習を迎えるにあたって⑤（生活指導、具体的な場面での指導を協議する。） 【key words】 生活指導 【授業概要】 ①私語をなくす方法、忘れ物防止、整列のさせ方等、具体的な生活指導について学ぶ。 ②朝の会、帰りの会、学級活動等における生活指導について学ぶ。 ③学習指導と生活指導、学級経営について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○友達同士で面接練習を行うこと、面接ノートによりよい応答を蓄積していくこと、「月刊誌教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２６回	校長が求める教員像（現場の校長先生の招へい。１～４初等教育コース年合同） 【key words】 望ましい教員像 【授業概要】 ①元校長を招へいし、求められる教員像についての話を聞き、自己の理想像について考える。 ②ワークシートに学んだことをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○友達同士で面接練習を行うこと、面接ノートによりよい応答を蓄積していくこと、「月刊誌教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２７回	教育実習を迎えるにあたって⑥（学校事故：具体的な場面での指導を協議する。） 【key words】 危機管理 【授業概要】 ①学校内、通学路での危機管理の実践例を知る。 ②教員採用試験での二次面接で出される質問の回答について、話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○友達同士で面接練習を行うこと、面接ノートによりよい応答を蓄積していくこと、「月刊誌教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。

	【予習復習に必要な想定時間】 90分 第２８回　教育実習を迎えるにあたって⑦（実習に必要な教育法令、憲法・教育基本法・学校教育法・地方公務員法等を学ぶ。） 【key words】 教育法令 【授業概要】 ①教育実習、教員採用試験に必要な教育法令について学ぶ。 ②特に、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地方公務員法、教育職員特例法等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○友達同士で面接練習を行うこと、面接ノートによりよい応答を蓄積していくこと、「月刊誌教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第２９回　教員採用試験合格者体験談（合格した４年先輩からの体験談を聞く。１～４初等教育コース年合同） 【key words】 教員採用試験、体験談 【授業概要】 ①実際に教採に合格した４年先輩の講話を聞き、今後の学習課題を見つける。 ②４年生は、パネルディスカッション形式で説明する。１～３年生は、60分程度説明を聞き、その後質疑応答に入る。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○友達同士で面接練習を行うこと、面接ノートによりよい応答を蓄積していくこと、「月刊誌教員養成セミナー」の熟読と問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第３０回　１年のまとめ、履修カルテの記入 【key words】 教育実習、教員採用試験、履修カルテ 【授業概要】 ①面接ノートを学生同士提示し、学びあう。 ②教育実習や教員採用試験の自己課題をまとめる ③履修カルテの記載。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○春休みには、自己受験自治体の過去問題の総復習、「月刊誌　教員養成セミナー」の熟読と、問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時

評価方法	・観察実習への取り組み(３0%)、観察実習報告会（２０％）、ミニテスト（３0%）、授業への取り組み（２０％）
教科書	・群馬医療福祉大学：「実習へのガイドブック」2012年
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任及び教務主任、教育実習生の指導教員として指導等を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の教員の全般的な授業の指導を行った。それらの経験を活かし、教育実習生の事前事後指導を具体的かつ実践的に行う。特に、３年次５・６月には、６回程度、近隣の小学校に出向き、学習補助を行い、１年後の教育実習に備える。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学校図書館メディアの構成　　授業コード： 6001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 司書教諭として、学校図書館メディアの構成（選択・収集・組織・保存等）ができるようになることを目的とする。　〔到達目標〕 ①学校図書館メディアの選択・収集に関する基礎知識を習得する。 ②「日本目録規則1987年版　改訂3版」により学校図書館メディアの目録が作成できる。 ③「日本十進分類法　新訂10版」により学校図書館メディアの分類ができる。
授業の概要	学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性について学習し、その選択・収集・組織・保存等についての理解を図る。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための情報資源組織化の技術について学び、実務能力の養成を図る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　学校図書館メディアの教育的意義及び役割 (1)授業概要　配付資料に基づき学校図書館メディアの教育的意義･役割について解説する。 (2)KeyWord　学校図書館メディア (3)教科書ページ　配付資料 (4)課題･予習･復習･授業準備指示　・講義の目標を理解し、なぜ司書教諭資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。
	第２回	学校図書館メディアの種類と特性 (1)配付資料に基づき学校図書館メディアの種類と特性について解説する。 (2)学校図書館メディア、奥付 (3)配付資料 (4)・奥付とは何かを理解し､実例を挙げられるようにしておく。 ・学校図書館メディアの種類と特性について理解する。
	第３回	学校図書館メディアの選択と構成 (1)配付資料に基づき学校図書館メディアの選択について考察する。 (2)学校図書館メディア、資料選択論 (3)配付資料 (4)・「図書館の自由に関する宣言」に目を通しておく。 ・資料選択方針について理解する。
	第４回	学校図書館メディアの組織化（１）分類の意義と機能 (1)資料分類法の変遷について考察する。 (2)分類、資料分類法 (3)pp6-10,pp184-187 (4)分類とは何か、近代分類法出現以降の主要な分類表のれきしについて理解する。
	第５回	学校図書館メディアの組織化（２）日本十進分類法の概要 (1)日本十進分類法について考察する。 (2)ＮＤＣ (3)pp187-200 (4)類目表、綱目表、要目表について理解する。

	第６回　学校図書館メディアの組織化（３）日本十進分類法の使い方① (1)分類規定について考察し、分類作業を行う。分類･区分の分析的過程について補足する。 (2)ＮＤＣ、ブックトーク (3)pp200-256 (4)分類演習について復習する。 第７回　学校図書館メディアの組織化（４）日本十進分類法の使い方② (1)図書記号法について解説する。 (2)ＮＤＣ、図書記号法 (3)pp256-262 (4)別置法・図書記号法について理解する。 第８回　学校図書館メディアの組織化（５）日本十進分類法の使い方③ (1)図書以外の資料（メディア）の保管と運用について解説詩、考察する。 (2)ＮＤＣ (3)pp263-269 (4)図書以外の資料の保管と運用について理解する。 第９回　学校図書館メディアの組織化（６）件名標目表 (1)基本件名標目表の使い方について解説する。 (2)件名標目、シソーラス (3)pp165-182 (4)主題からのアプローチについて理解する。 第１０回　学校図書館メディアの組織化（７）目録の意義と機能 (1)目録の意義と機能について解説する。特別支援における学校図書館教育について考察する。 (2)目録法 (3)pp13-36 (4)目録とは何かを理解する。 第１１回　学校図書館メディアの組織化（８）日本目録規則の概要 (1)日本目録規則について解説し､考察する。 (2)日本目録規則 (3)pp37-48 (4)目録規則の意義と構成について理解する。 第１２回　学校図書館メディアの組織化（９）日本目録規則の使い方① (1)日本目録規則の使い方について解説し、考察する。 (2)日本目録規則 (3)pp49-134 (4)欧米及び、日本の目録規則の歴史、書誌記録の国際標準化について理解する。 第１３回　学校図書館メディアの組織化（１０）日本目録規則の使い方② (1)日本目録規則の使い方について考察する。 (2)日本目録規則、件名標目表、主題目録法 (3)pp135-163 (4)目録記入の実例集に目を通す。 第１４回　学校図書館メディアの組織化（１１）目録の電算化 (1)国立情報学研究所、国立国会図書館等の書誌情報ネットワークシステムを解説し、目録業務の電算化について考察する。 (2)ＯＰＡＣ、書誌ユーティリティ (3)pp18-33 (4)・身近にあるコンピュータ目録は何かを確認する。 ・コンピュータ目録の作成と検索について理解する。 第１５回　多様な学習環境と学校図書館メディアの配置、　まとめ (1)現在の多様化した学習環境の中で、どのような学校図書館メディアの配置が望ましいかを考察する。 (2)学校図書館メディア、学習環境 (3)全配付資料 (4) 自身が利用してきた学校図書館について、学習環境とメディア配置の特長･改善点について考察し、全講義を振り返る。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・指定した予習・復習は必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	「日本十進分類法　新訂10版」の第２次区分表（教科書にあり）を暗記すること。
オフィスアワー	授業後３０分程度は対応可能
評価方法	期末筆記試験　８０％、　授業の参加態度　２０％
教科書	志保田務・高鷲忠美編著、平井尊共著『情報資源組織法』（第２版）第一法規（最新版）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 進学塾教務職員として1年間勤務

	公立小中学校の教員でも、学力テスト対策等を行います。日常の教科指導等とのバランスを考えて、学校図書館の活用と連動させ、学力を向上させる手立ても講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 情報メディアの活用　　授業コード： 6011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 司書教諭として、学校図書館における情報メディアの活用ができるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 ①学校図書館の各種情報メディアの特性とその活用方法を理解できる。 ②データベースの構造を理解できる。 ③情報検索の理論と技法を習得する。 ④著作権法を理解できる。
授業の概要	学校図書館における多様な情報メディアの特性とその活用方法の理解を図る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　科目オリエンテーション、　メディア専門職としての司書教諭 第２回　高度情報通信社会と学校図書館 第３回　情報メディアの発達 第４回　情報メディアの特性と選択 第５回　視聴覚メディアの活用 第６回　教育用コンテンツの活用 第７回　データベースと情報検索（１）データベースの構造 第８回　データベースと情報検索（２）情報検索の技法 第９回　インターネットによる情報活用（１）概説 第１０回　インターネットによる情報活用（２）情報検索演習 第１１回　インターネットによる情報発信・情報共有と情報モラル

	第１２回　　著作権とメディア（１）著作権法概説①著作物とは 第１３回　　著作権とメディア（２）著作権法概説②著作者人格権、著作隣接権 第１４回　　著作権とメディア（３）学校図書館と著作権 第１５回　　著作権とメディア（４）インターネットと著作権、　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	コメントカード
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	本学図書館ホームページの「所蔵検索」及び「情報検索ポータル」を利用し、検索方法を習得すること。
授業外時間にかかわる情報	授業後30分程度は対応可能
オフィスアワー	期末レポート（試験）　６０％　　授業中の小レポート　４０％
評価方法	井口磯夫編『情報メディアの活用』樹村房（司書教諭テキストシリーズ０５）（最新版）
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学校図書館司書(市町村臨時職員)として18年間勤務 司書の立場から、図書主任・司書教諭への研修等も担当した経験により、学生の皆さんが教員となり司書教諭として発令された際、他教員の授業等のコーディネートについて講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学習指導と学校図書館　　授業コード： 6021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】学校図書館法および学習指導要領に示されているように、知識基盤社会・情報社会の中の諸学校における学習展開に 学校図書館は不可欠であり、児童・生徒の発達段階に応じた「読書センター」と「学習情報センター」の機能を十分に実践しなければなりません。その要としての司書教諭の役割を理解し、学習指導にかかわる図書館情報学の基礎を身につけます。 【到達目標】1) 学校図書館の目的と教育課程編成・学習指導展開との関係について述べることができる。2) 情報リテラシー育成の諸段階と司書教諭の介入について具体的に説明できる。3) 児童・生徒および教員に対するレファレンスサービス業務の実際について具体的に説明できる。
授業の概要	受講学生によるテキストの輪読分担発表をベースに、1) 図書館および図書館員の役割・業務、2) 学校図書館という館種の機能特性、3) 学校教育課程と連動した学校図書館としての学習指導・情報リテラシー教育、4) 司書教諭の役割、5) 学校図書館というインフラの整備・経営、6) レファレンスサービス業務の実際 について解説します。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　社会における図書館とは何か 【key words】 情報社会　図書館　図書館員　学校図書館　司書教諭 【授業概要】 情報社会における図書館および図書館員の役割・業務を概観し、学校図書館という館種が担う機能と司書教諭・学校司書の位置づけを理解します。 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料、教科書pp1－11。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 館種間の機能差異をふまえた上で、学校図書館とはどのような特徴をもったところなのか、概要をまとめましょう。
	第２回	学校図書館の意義・目的 【key words】 学校教育法　学校図書館法　読書センター　学習情報センター　発達段階 【授業概要】 学校図書館の意義と目的を理解し、各学年の学習指導要領；すなわち児童生徒の発達段階と連動して、学校図書館が学習指導展開に対してどのように密に関わるのかを考えます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp12－28。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的的に活発な読書センター/学習情報センターとしての学校図書館の役割を整理して下さい。

第３回　図書館活用教育と情報リテラシー教育
【key words】
図書館活用教育　情報リテラシー教育　学校図書館経営

【授業概要】
従来的な図書館教育・学校図書館利用指導から発展して、卒業後の生涯学習につながる、学び方の学びのための学校図書館活用ひいては情報リテラシーのスキル・アップを支援することについて、具体的に理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp29－55。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

図書館教育→学校図書館利用指導→学校図書館活用・情報リテラシー教育 各観点の差異をまとめて下さい。

第４回　学校図書館というインフラの整備と経営
【key words】
学校図書館基準　学校図書館の施設と設備　学校図書館資料選定　学習活動の充実

【授業概要】
教育課程の展開と実践に寄与するインフラとしての学校図書館の整備・経営について、そのハードウェア/ソフトウェア双方の有機的な関連を意識ながら、学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp231－245、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

よりよい学校図書館の構築・整備に関係する要因と現代的な課題を書き出してみましょう。

第５回　学習/教育活動を支援する情報サービス業務
【key words】
情報要求　情報サービス　二次資料　レファレンスプロセス　相互貸借

【授業概要】
情報サービスの種類のうち、特にレファレンスサービスについてその概要を学び、教員を含めた利用者のニーズに対応した資料・情報提供のための準備について理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業の第13回・第14回で、レファレンスサービスの演習を予定しています。それより前の時点で、演習課題が提示されますので、注意して下さい。

第６回　教科学習と学校図書館活用
【key words】
知識基盤社会　ＩＣＴ　分類法（NDC）　配架　教員間連携

【授業概要】
発達段階に即した知識修得を児童生徒に重ねさせることの前提として、調べ学習等に対応した学校図書館資料の整備と教員間の準備と連携について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp169－195。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

資料を探しやすい学校図書館とは何か、その条件要素をまとめましょう。

第７回　総合的な学習における学校図書館活用
【key words】
総合的な学習　調べ学習　問題意識の醸成

【授業概要】
総合的な学習における授業展開と学校図書館の活用の連動について理解を深めます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp196－214。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

領域横断的で探求的・協働的な学習に対する司書教諭としての支援のあり方を具体的に例示してみましょう。

第８回　特別支援教育における学校図書館活用
【key words】
特別な教育的ニーズ　個別の指導計画　障害特性　学校図書館サービスの工夫

【授業概要】
重複障害例も含め、特別支援教育の対象となる児童生徒の教育的ニーズを個別かつ総合的に把握し、普通教育と同質同等の学校図書館サービスを提供するために必要な工夫を認識します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp215－230。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

学校図書館の施設・設備、資料・メディア、活動の各々について、工夫の具体例を整理して下さい。

第９回　情報リテラシー教育の理論的背景

【key words】
情報探索過程　メタ認識　情報活用プロセス　情報リテラシー基準　司書教諭の関わりのレベル

【授業概要】
学習者の視点からの情報探索過程を概観し、目標としての児童生徒の情報リテラシー基準ならびに情報活用プロセスでの指導の基本事項を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp67－82。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報探索過程の児童生徒のニーズに沿った司書教諭の支援・指導；関わりの各水準をまとめて下さい。

第１０回　全校的組織的体系的指導　年間計画　チームティーチング　実施評価

【授業概要】
児童生徒の情報リテラシー育成にかかる全校教職員の共通理解の下で組織的体系的かつ計画的に取り組むことの重要性と教育実践後の評価の有用性について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp83－103。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報リテラシー教育の計画的なチーム連携実践とそこでの司書教諭の役割をまとめて下さい。

第１１回　情報リテラシー教育の実際　1

【key words】
情報活用プロセス　情報リテラシー　情報活用スキル　問いの可視化　テーマ設定

【授業概要】
探求型学習および情報活用プロセスの指導の実際のうち、テーマの設定と情報探索の計画について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp104－124。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

児童生徒の発達段階に沿ったテーマ設定の指導について、その具体例を示してみましょう。

第１２回　情報リテラシー教育の実際　2

【key words】
分類　目録　参考図書　情報カード　プレゼンテーション

【授業概要】
探求型学習および情報活用プロセスの指導の実際のうち、情報・資料の探索・収集および活用、まとめ方や発表の方法について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp125－167。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

児童生徒の発達段階に沿った資料検索とまとめ方の指導について、その具体例を示してみましょう。

第１３回　レファレンスサービス各論

【key words】
資料収集のためのチェックリスト　レファレンス依頼　レファレンス進行表

【授業概要】
第5回および第12回の内容をふまえ、レファレンスサービス業務演習のための準備をします。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

レファレンスサービスを実践するための実務的な準備について確認して下さい。

第１４回　レファレンスサービス演習

【key words】
資料収集のためのチェックリスト　レファレンス依頼　レファレンス進行表

【授業概要】
第5回、第12回および第13回の内容をふまえ、レファレンスサービス業務の演習をします。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

レファレンスサービスの実務的な流れと参考資料群を確認して下さい。

第１５回　まとめ　司書教諭という仕事

	【key words】 司書教諭の役割　教科間の連携　職員間の協働 【授業概要】 教育課程と図書館学の双方に通じている司書教諭が担う多面的な役割をまとめ、学校教育における学校図書館の意義を再確認しましょう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp264－277。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 司書であり教諭であることの二重性と期待される活動内容について、発展的にまとめておきましょう。
受講生に関わる情報および受講のルール	受講学生の多くは、初めて図書館情報学を学ぶのだと思います。司書教諭科目群では、限られた時間内で必須事項を説いていきますから、注意を集中して授業に参加し、まずは復習を習慣化させましょう。教科書の該当箇所をあらためて通読する、ノートを見返す ことをまめにすることが、この領域の総合的な理解の基礎になります。 ★1回の授業に対して、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	図書館情報学を学んで理解した観点から、さまざまな館種の図書館を見学することをおすすめします。特に、教育実習は、実習先の学校図書館を少しでも見学するよい機会ですし、母校の学校図書館を訪れるのもいいでしょう。ただし、見学を希望する際には、事前の申し出等、先方への打診・相談が必要です(本授業担当者に まずは相談して下さい)。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	堀川照代・塩谷京子　改訂新版 学習指導と学校図書館　放送大学振興協会　2016年
参考書	図書館ハンドブック編集委員会編　図書館ハンドブック　第6版補訂版　日本図書館協会　2010年 他
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 授業担当教員は、図書館司書資格を有しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学校経営と学校図書館　　授業コード： 6031

英文科目名称： School Library and School Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
井ノ口　雄久			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学校図書館は学校の教育的成果に深く関わっている。学校図書館活動において司書教諭が果たす役割はきわめて大きい。授業に関わるための学校図書館はいかなるものか、全体像を描くことを試みる。 【到達目標】 １）現行の学校教育の問題点を整理する。 ２）現行の学校図書館が学校教育の中でどのような位置づけにあるかを理解する。 ３）期待される学校図書館がどうあるべきかを考え、自分なりの学校図書館のあり方をイメージできるようにする。
授業の概要	学校図書館が学校教育の中で、果たす役割を制度化される課程と、これからますます重要となる児童生徒の自主性を育むために、学校図書館はいかにあるべきか、また実際の学校図書館活動の実際を通して理解することを目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・司書教諭になるための学習 【key words】 司書教諭資格付与の規程　　司書教諭資格科目　　テキストの編集方針 【授業概要】 「学校経営と学校図書館」という科目の位置づけを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp1-9　　参考書：適宜授業中に提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握する。 【予習復習に必要な想定時間】 概ね40分
	第２回	福島第一原子力発電所事故後の世界と新しい知的社会 【key words】 フクシマ　　原子力ムラ　　科学者集団のエートス　　専門知の公共性 【授業概要】 専門的知識の限界と知の民主化が必要となった現代社会の知のあり方について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp10-24　　参考書：適宜授業中に提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 概ね1時間
	第３回	これからの学校教育とあるべき学びの形 【key words】 拡張した心　　物知識　　協同的知識　　個人主義的学習観　　協同学習　　ファシリテーター

【授業概要】
新しい知のあり方とは、専門家と市民が協同探求する知である。その知のあり方を実現するための学校教育のあり方と学び方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp25-40　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第４回　メディアと人間の循環
【key words】
旧来の知識観　　新しい知識観　　協同的知識
【授業概要】
新しい知のあり方のための学校教育において、学校図書館はどうあるべきかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp41-51　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第５回　学校の中の図書館
【key words】
社会的機関　　収集・組織・保存・提供　　図書館の館種　　図書館ネットワーク
納本制度　　国立情報学研究所（NII）　　NACSIS-CAT/ILL
【授業概要】
日本における学校図書館を含む図書館制度及びその目的、そして学校図書館の目的実現の方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp52-68　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第６回　学校図書館の歴史（アメリカ）
【key words】
ライブラリアン　　『学校と社会』　　復誦（レシテーション）室　　プロジェクト・メソッド
ダルトン・プラン　　スクールライブラリアン　　アメリカスクールライブラリアン協会（ＡＡＳＬ）
【授業概要】
学校図書館の本質を具現化していると考えられるアメリカの学校図書館史を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp69-82　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第７回　学校図書館の歴史（日本）
【key words】
国定教科書　　問題解決学習の提唱　　新教科課程　　全国学校図書館協議会（全国ＳＬＡ）
学校図書館法の制定　　司書教諭の専従化　　学校図書館事務職員　　司書助教諭(のち学校司書)
【授業概要】
日本の学校図書館の源流について学び、近年どのように関心が寄せられているか理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp83-97　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第８回　日本の学校図書館の現状
【key words】
学校図書館の法的定義　　学校図書館の運営　　司書教諭　　学校司書
【授業概要】
本の学校図書館の最新の実態により現状を把握し、新しい学校図書館のあり方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp98-111　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。◎課題レポートを提示する。（字数：2,000字程度　　作成期間：1ヶ月程度）
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第９回　学校図書館の目的と機能
【key words】
学習指導要領と法的拘束力　　健全な教養　　リベラルアーツ　　奉仕機関　　指導機関
【授業概要】
近代的学校教育の課題を解決するために教育改革の中で誕生・発展してきた学校図書館の目的と

機能を総合的に理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp112-122　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１０回　学校図書館の図書館サービス
【key words】
テクニカルサービス　　パブリックサービス
【授業概要】
奉仕機関であり、指導機関である学校図書館の各種のサービスについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp123-133　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１１回　学校図書館の教育活動
【key words】
読書指導　　読解指導　　読みの教育の新しい視点　　読書推進運動協議会
読書週間　　子ども読書週間　　読書のアニマシオン　　ブックトーク
【授業概要】
「読み」の教育、教育内容の改革、教育方法の改革の観点から、学校図書館に期待される教育活動について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp134-146　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。◎課題レポートを提示する。（字数：2,000字程度　　作成期間：1ヶ月程度）
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１２回　学校図書館の担当者
【key words】
司書教諭制度　　学校司書の法制化　　これからの学校図書館の活用の在り方等について
ティーチャー・ライブラリアン　　ライブラリアンシップ　　専門職の要件
【授業概要】
学校図書館運営のための協力体制と学校図書館専門職の成立の可能性の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp147-156　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１３回　学校図書館のマネジメント
【key words】
学校図書館マネジメント　マネジメント・サイクル（ＰＤＣＡサイクル）　学校図書館評価基準
利用者からのフィードバック　報告・連絡・相談（ホウレンソウ）　学校図書館のステークホルダー
【授業概要】
学校図書館の「マネジメント」とその活動の「評価」の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p157-166　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１４回　学校図書館の設計
【key words】
学校図書館は機能である　　メディアセンター機能　　ゾーニング　　ユニバーサル・デザイン
インクルーシブ・デザイン　　アフォーダンス　　教科センター方式　　学校図書館施設基準
【授業概要】
学校図書館の現状を学び、課題やその克服のために手法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp167-179　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１５回　学校図書館研究と学校図書館の発展
【key words】
アメリカの学校図書館ガイドライン　全国学校図書館協議会　日本図書館協会学校図書館部会
学校図書館問題研究会　国際図書館連盟学校図書館分科会　国際スクール・ライブラリアンシップ協会
【授業概要】
学校図書館の発展のために何が社会的課題か、何をなすべきかを話し合ったことを整理して自分

	なりの学校図書館像を考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp180-188　　参考書：適宜授業中に提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。過去の授業中に自分なりに考えた問題・課題等を整理しておく。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 概ね1.5時間
受講生に関わる情報および受講のルール	毎回、次の講義の課題を配布する。課題に基づいて、テキストの該当部分は事前に読んで、自分なりに課題をこなし、授業に臨む。授業は、課題について、グループ学習を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習として、課題に対する疑問や興味を持ったことを整理する。また、毎回、必ずコメントカードに対する回答を行うので、回答によっては、どう対応すべきか考え、次のコメントカードにその結果を報告すること。また、授業中に参考図書を紹介するので、その内容を把握すること。
オフィスアワー	授業後、３０分程度対応可能。また、場合によっては、場所・時間等メールにて調整するも可
評価方法	授業の参加態度（40%）、レポート提出（２回－各30%）
教科書	司書教諭テキストシリーズⅡ…０１　『学校経営と学校図書館』　中村百合子編著　２０１５　樹村房
参考書	授業で、適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 高校の学校図書館運営 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 読書と豊かな人間性　　授業コード： 6041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 読書教育は豊かな人間性の涵養や生きる力の育成を目的とする。その目的を達成するための方法と実践力を身につける。 【到達目標】 ① 読書指導の計画を作成し、指導できる。　② ブックトークを実演し、指導できる。 ③ 読書ノートが作成できる。　④ 読書会を実施し、指導できる。
授業の概要	学校教育における読書指導の理論と実際の全体像を把握する。さらに、読書ノートの作成や読書会を実施し、評価する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。 授業の目的、到達目標、授業計画の全体像、評価方法等々、受講にかかわる必要情報を学ぶ。
	第２回	読書の意味(読書観／読書指導の三原則／読書についての思索)と学校図書館法 読書の意味を明らかにすると共に、その根拠を提示する。
	第３回	読書ノートの作成と読書指導の一環としての図書館利用指導プログラム 読書ノートの作成や評価の仕方を学び、図書館における読書指導計画の方法を理解する。
	第４回	読書の発達段階(読書能力／読書興味)とその構造 多様な読書材の選択は、読書能力と読書興味の発達段階に応じて行われることを学ぶ。
	第５回	読書指導の方法―ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク・自由読書・ブックリスト・読書ノート・読書会― 読書指導の方法は、さまざまなものがあるが、その主なものの概要について学ぶ。
	第６回	ブックトークの実際① ブックトークのポイント―多様な形態・テーマの多様さ・専門性・プロセス・実践上のヒント― ブックトークとは何かについて理解を深め、その一般的なプロセスや実践上のヒント等を学ぶ。
	第７回	ブックトークの実際② ブックトークのシナリオ作成―タイトル・対象・ねらい・展開（シナリオ）― ブックトークは統一テーマという呪術が生み出す創造的な演劇空間である。そのシナリオを作成する。
	第８回	ブックトークの実際③ ブックトークの試演・記録・評価 ブックトークを実際に試演し、評価ノートにより相互評価を試みて評価の仕方を学ぶ。
	第９回	第１回から第８回までの授業のまとめと課題レポート作成 第1回から第8回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。

	第１０回　読書会の実際① 読書会のポイント―多様な形態・対象の多様さ・一般的なプロセス― 読書会は、新しい価値発見や多様な評価法の存在に気づかせてくれる。そのポイントについて学ぶ。 第１１回　読書会の実際② 読書会の実施―対象作品を読む・進行者の決定・テーマの確認・記録・評価― 読書会の流れに従って進行し、問題の所在を深める。 第１２回　読みの原理(読書以前としてのブックスタート／読みの発達過程)と読書人格 読書法の原理を学び、読書人格を高める各種の方法を探求する。 第１３回　学校図書館における読書資料と読書環境の整備／読書療法 教育課程の具体化としての読書資料と読書環境をどう整備するかについて検討する。 第１４回　読書体験のひろがり(生徒委員会活動／教科教師との協力／図書館広報活動)と地域社会との連携 読書体験のひろがりとしての図書館活動や地域社会との連携の方法を学ぶ。 第１５回　第10回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成 第10回から第14回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回、次の授業の資料（オリジナルプリントなど）を配布し、授業内容を予告する。 ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。 ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。 ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。
オフィスアワー	授業の前後１０分程度は対応可能
評価方法	定期試験(レポート)が70%、提出物が30%の総合評価による。 定期試験レポートの評価基準：①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)　②文章表現が適切である。(20%) ③オリジナリティーがある。(20%)
教科書	司書教諭テキストシリーズ…04朝比奈大作編集『読書と豊かな人間性』樹村房（2002）
参考書	全国SLAブックトーク委員会編『ブックトーク―理論と実践―』全国学校図書館協議会（2001） ステーブン・クラッシェン（長倉美恵子・黒澤浩・塚原博共訳）『読書はパワー』金の星社（2002）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 平成９年度より学校図書館司書として、公立小中学校で図書館教育･読書指導に携わる アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神保健福祉援助実習指導Ⅰ　　授業コード：7007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 実習先機関の特徴を学びながら、精神保健福祉士の役割、精神障害者の理解、精神障害者および精神障害者施設の歴史的背景や制度を理解する。また学びをとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にしていくことを目的とする。 【到達目標】 ①実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。 ②学習をとおして精神疾患を抱えている人を理解する。 ③実習機関の役割を学び、そこで行われていることを理解して、希望実習先について考える。 ④精神保健福祉士としてのアイデンティティを明確にする。 ⑤実習の意義について考え、理解する。
授業の概要	実習先機関の学習をとおして精神障害者や精神保健福祉援助実習についての理解を深め、グループワークをとおした活動により、精神保健福祉士の活動する機関の役割および自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立を目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	本講義のオリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・他科目でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p2-p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「精神保健福祉援助実習の理解」を予習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	各実習先種別の学習①　精神科医療機関 【key words】 ・精神科病院，精神科診療所 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・p30-p32 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。

・テキストを参照し、「精神科病院」と「精神科診療所」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　各実習先種別の学習②　精神科医療機関
【key words】
・精神科デイ・ケア施設，総合病院精神科
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p30-p32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「精神科病院」と「精神科診療所」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　各実習先種別の学習③　精神科医療機関
【key words】
・アルコール専門病棟，認知症疾患医療センター，児童思春期病棟
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p30-p32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「アルコール専門病棟」と「認知症疾患医療センター」、「児童思春期病棟」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　各実習先種別の学習④　障害福祉サービス事業所
【key words】
・グループホーム，生活介護および自立訓練
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p33-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「グループホーム」と「生活介護および自立訓練」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　各実習先種別の学習⑤　障害福祉サービス事業所
【key words】
・就労移行支援，就労継続支援（A型・B型）
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p33-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「就労移行支援」と「就労継続支援（A型・B型）」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　各実習先種別の学習⑥　障害福祉サービス事業所
【key words】
・相談支援事業，地域活動支援センター
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p33-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「相談支援事業」と「地域活動支援センター」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　各実習先種別の学習⑦　行政機関

【key words】
・精神保健福祉センター，保健所
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p38-p39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「精神保健福祉センター」と「保健所」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　各実習先種別の学習⑧　行政機関
【key words】
・市町村保健センター，保護観察所
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p38-p39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「市町村保健センター」と「保護観察所」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　各実習先種別の学習⑨　行政機関
【key words】
・更生保護施設，児童相談所，児童自立支援施設
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p38-p39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「更生保護施設」と「児童相談所」、「保護観察所」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　各実習先種別の学習⑩　その他
【key words】
・児童福祉関連施設，法務省関連施設，など
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p40-p43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「児童福祉関連施設」や「法務省関連施設」などについて予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　倫理と秘密保持について①　精神保健福祉士の倫理綱領
【key words】
・ソーシャルワークにおける価値，ソーシャルワークにおける倫理
【授業概要】
・ソーシャルワークにおける価値や倫理について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルワークにおける価値や倫理についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・演習（基礎・専門）のテキストp24-p30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ソーシャルワークにおける価値と倫理」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　倫理と秘密保持について②　精神保健福祉士の倫理綱領
【key words】
・倫理綱領
【授業概要】
・精神保健福祉士の倫理綱領について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、精神保健福祉士の倫理綱領についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・演習（基礎・専門）のテキストp24-p30

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・精神保健福祉士の倫理綱領を参照し、その内容について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第14回　自らの課題検討 【key words】 ・実習先の理解 【授業概要】 ・いくつかのグループを設け、グループごとに実習計画書を作成してみる。 ・グループごとに実習計画書の発表を行い、質疑応答を行うことで、実習先に対する理解を深める。 ・実習先について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでに学習した内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第15回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・これまでに学習した内容の振り返りを行い、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでの学習した内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	3年生春休み期間中に精神科病院事前見学会を実施します。精神障害者及び実習機関の理解を深めるために、受入れ可能機関等の状況により随時現場での体験学習活動を実施予定です。 ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外の日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況を含む）35%。 ③課題レポート　40%。
教科書	・新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習　第2版」日本精神保健福祉士養成校協会　編集　中央法規出版　2015 ・「実習へのガイドブック（学生用）」群馬医療福祉大学　2015
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用

	□ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉援助演習（基礎）　　授業コード：7011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。 【到達目標】 ①対人援助専門職を目指す学生として、基本的なコミュニケーションと対人援助に関わる態度を身につける。 ②基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。 ③精神障害者の生活や生活上の困難について把握することができる。 ④精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術を習得する。 ⑤専門的技術を概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。
授業の概要	精神保健福祉士としての基本的コミュニケーション方法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で授業をすすめていく。尚、授業のなかでは相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いるとともに、個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げることとする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	前期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・他科目でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p2-p17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「演習の意義と目的」を予習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	自己覚知①　精神障害を抱えて生きる人の理解① 【key words】 ・自己覚知，精神障害者の理解，ストレス脆弱性モデル 【授業概要】 ・「精神」というDVDを鑑賞し、自分自身が精神障害に対してどのような感想を抱いたか理解する。 ・グループディスカッションを通して、精神障害に対して抱いた感想を話し合い、精神障害につ

いて抱いた感想における自身と他者の違いを理解する。
・一般的に言われている精神障害の特徴について解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第1章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp3-p18
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・「精神障害とは何か」について、テキストなどを参照して予習し、自分自身の言葉で説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　自己覚知②　精神障害を抱えて生きる人の理解②
【key words】
・自己覚知，精神障害者の理解，ピアサポート，ストレングス
【授業概要】
・「べてる流女の一生」というDVDを鑑賞し、自分自身が精神障害に対してどのような感想を抱いたか理解する。
・グループディスカッションを通して、精神障害に対して抱いた感想を話し合い、精神障害について抱いた感想における自身と他者の違いを理解する。
・ピアサポートやストレングスをキーワードに精神障害のある人の生活について解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第1章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp18-p30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・第2回の授業で、自分自身が精神障害について抱いた感想が何だったかを確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　コミュニケーションおよび面接技術の習得　ストレングスモデル
【key words】
・ストレングスモデル，リフレーミング，ケースマネジメント，社会資源
【授業概要】
・医学モデル・病理欠陥モデルとストレングスモデルの違いについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ストレングス視点のアセスメントについて理解する。
・ロールプレイを通して、ストレングス視点に基づいた声かけや対応の方法を学習する。
●輪読：ストレングスモデル（第1章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p210-p214
・ストレングスモデルp30-p44
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ストレングスモデル」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　グループダイナミクス活用技術の習得①　SSTについての理解
【key words】
・SST（社会生活機能訓練）
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、SSTの機能や必要性を理解する。
・ロールプレイを通して、SSTの具体的な方法について学習する。
・ロールプレイ後のグループディスカッションを通して、SSTにおけるリーダー、コ・リーダーの役割について考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第2章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p215-p219
・ストレングスモデルp45-p55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「SST」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　グループダイナミクス活用技術の習得②　心理教育についての理解①
【key words】
・心理教育，EE（感情表出），EBP（科学的根拠に基づいた実践），ツールキットプロジェクト
【授業概要】
・心理教育やEE研究について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、心理教育について理解する。
●輪読：ストレングスモデル（第2章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p220-p224
・ストレングスモデルp55-p66
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「心理教育」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】

60～120分

第７回　グループダイナミクス活用技術の習得③　心理教育についての理解②

【key words】
・心理教育，EE（感情表出），EBP（科学的根拠に基づいた実践），ツールキットプロジェクト
【授業概要】
・「心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキット（グループワークの実際）」というDVDを鑑賞し、心理教育におけるグループワークの実際を理解する。
●輪読：ストレングスモデル（第3章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp67-p80
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・さらに学習したい場合には、心理教育実施・普及ガイドライン・ツールキット研究会（大島巌・福井里江）（2011）「心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキットⅠ」を参照すると良い。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　グループダイナミクス活用技術の習得④　集団精神療法についての理解

【key words】
・集団精神療法
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、集団精神療法の特徴を考察する。
・集団精神療法について解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第3章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p225-p229
・ストレングスモデルp80-p91
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「集団精神療法」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　情報収集および課題解決技術の習得①　ソーシャルサポートシステム

【key words】
・ソーシャルサポート，社会資源，エコマップ
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルサポートについて理解する。
・事例に基づき、エコマップの作成を行うことで、エコマップについて理解する。
・精神障害者を支援するためのソーシャルサポートシステムについて解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第4章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp92-p110
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「社会資源」や「ソーシャルサポート」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　情報収集および課題解決技術の習得②　家族関係の理解　家族システム

【key words】
・精神障害者家族，EE（感情表出），循環的因果律（円環的因果律），心理教育
【授業概要】
・精神障害者の家族が置かれてきた状況（歴史）について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、精神障害者家族が精神保健福祉士に期待することなどを考察する。
・家族をシステムとして捉えることについて解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第4章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp110-p124
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「精神障害者家族」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　情報収集および課題解決技術の習得④　アウトリーチについての理解

【key words】
・アウトリーチ，面接技術，社会資源，ネットワーク形成
【授業概要】
・アウトリーチについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、援助を拒否するクライエントの気持ちや訪問支援を行う際の留意点，アウトリーチの有効な点などについて考察する。
・アウトリーチに関連する制度等について解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第5章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p235-p239
・ストレングスモデルp125-p141
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・テキストを参照し、「アウトリーチ」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　情報収集および課題解決技術の習得⑤　チームアプローチについての理解
【key words】
・高次脳機能障害，チームケア，チームワークの原則
【授業概要】
・高次脳機能障害について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、チームアプローチについて考察する。
・チームワークの原則などについて解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第5章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p240-p244
・ストレングスモデルp141-p156
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「チームアプローチ」につて予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　情報収集および課題解決技術の習得⑥　ケアマネジメントについての理解①
【key words】
・ケアマネジメント，サービス等利用計画，ストレングスモデル，ICF
【授業概要】
・事例を読み、グループごとに「サービス等利用計画」を作成する。
●輪読：ストレングスモデル（第5章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p245-p251
・ストレングスモデルp156-p167
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ケアマネジメント」や「サービス等利用計画」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　情報収集および課題解決技術の習得⑦　ケアマネジメントについての理解②
【key words】
・ケアマネジメント，サービス等利用計画，ストレングスモデル，ICF
【授業概要】
・第13回授業にて作成した「サービス等利用計画」をグループごとに発表し、良い点や改善点などについて議論をすることで、ケアマネジメントの理解を深める。
●輪読：ストレングスモデル（第5章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p245-p251
・ストレングスモデルp167-p178
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・第13回授業で取り組んだ「サービス等利用計画」を授業開始までに完成させ、発表の手順をグループごとに確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　前期のまとめ
【key words】
・まとめ
【授業概要】
・前期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・これまでの授業を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第16回　後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション
【key words】
・オリエンテーション
【授業概要】
・前期の授業で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。
・後期における本科目の授業内容について説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・前期の授業内容を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第17回　危機介入について理解する
【key words】
・危機，危機介入
【授業概要】

・危機とは何かについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、危機状態の特徴や必要な支援について考察する。
・必要な支援について解説する。
・ソーシャルワーカーが危機介入をしなければならない状況としてどのような場面が想定されるかを考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第6章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p230-p239
・ストレングスモデルp179-p192
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「危機介入」について予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第18回　医療に結びつける援助について理解する
【key words】
・摂食障害，家族関係，病識がない人へのアプローチ，治療拒否をしている人へのアプローチ，入院
【授業概要】
・摂食障害について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、病識がない人や治療拒否をしている人へのアプローチについて考察する。
・精神保健福祉法における入院について解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第6章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p252-p256
・ストレングスモデルp192-p207
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「医療に結び付ける援助」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第19回　自殺予防について理解する
【key words】
・自殺予防，バイステックの7原則
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、自殺を思い詰めるに至る課題や面接のポイントについて考察する。
・ロールプレイを通して、精神保健福祉士としての面接の仕方を学習する。
・自殺の危機にある人をどのような機関や人に繋げれば良いかを考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第6章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p257-p261
・ストレングスモデルp207-p227
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「自殺予防」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第20回　社会復帰①　地域移行支援について理解する
【key words】
・精神保健福祉士としての価値，施設症，地域移行支援，精神科病院
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、退院に消極的な患者の気持ち等を考察する。
・精神保健福祉士が行う地域移行支援について解説する。
・グループディスカッションを通して社会的入院や求められる支援について考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第6章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p267-p271
・ストレングスモデルp227-p246
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「地域移行支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第21回　社会復帰②　地域定着支援について理解する
【key words】
・ICF，チームアプローチ，地域定着支援，ACT（包括型地域生活支援）
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、精神障害のある人の地域生活支援について考察する。
・ICFについて解説する。
・グループごとに地域生活の支援をどのように展開するか、そのなかでの精神保健福祉士の役割を考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第7章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。

【教科書ページ・参考文献】
・p272-p276
・ストレングスモデルp247-p257
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「地域定着支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第22回　社会復帰③　医療観察法について理解する
【key words】
・医療観察法，社会復帰調整官
【授業概要】
・医療観察法について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、加害者側の気持ち、被害者側の気持ちを考察する。
・グループディスカッションを通して医療観察法の機能について考察する。
・医療観察法に関する批判的な意見について解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第7章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p277-p281
・ストレングスモデルp257-p276
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「医療観察法」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第23回　就労支援（IPS援助付き雇用）について理解する
【key words】
・IPS援助付き雇用，EBP（科学的根拠に基づく実践），就労移行支援
【授業概要】
・IPS援助付き雇用について解説する。
・「IPSを学ぶ　ストレングスモデルに基づく個別就労支援の進め方）」というDVDを鑑賞し、IPSの実際について理解する。
・我が国の一般的な就労支援とIPSの違いについて各々で考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第7章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp276-p292
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・さらに学習したい場合には、デボラ・R・ベッカー，ロバート・E・ドレイク（2004）「精神障害をもつ人たちのワーキングライフ　IPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド」を参照すると良い。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第24回　地域生活支援（ACT）について理解する
【key words】
・ACT（包括型地域生活支援），EBP（科学的根拠に基づく実践），地域生活支援
【授業概要】
・ACT（包括型地域生活支援）について解説する。
・「ACTは地域精神医療を変えるか」というDVDを鑑賞し、ACTの実際について理解する。
・我が国においてACTを実践するうえでの課題等について考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第7章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp292-p302
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・さらに学習したい場合には、西尾雅明（2004）「ACT入門　精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム」を参照すると良い。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第25回　権利擁護について理解する
【key words】
・社会権，権利擁護，自己決定，障害者の権利に関する条約，成年後見制度
【授業概要】
・各々で権利とは何かについて考察する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、権利侵害とは何かについて考察する。
・権利擁護について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、精神保健福祉士が行う権利擁護について考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第8章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p282-p286
・ストレングスモデルp303-p319
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「権利擁護」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第26回　地域の組織化について理解する

		【key words】 ・コミュニティワーク，地域福祉計画，住民参加 【授業概要】 ・コミュニティワークの3つのゴール（タスクゴール、プロセスゴール、リレーションシップゴール）について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、地域の精神保健福祉ニーズの把握方法や計画の作成方法について考察する。 ・地域福祉計画や住民参加について解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第8章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・p297-p301 ・ストレングスモデルp319-p333 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「地域の組織化」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第27回	障害年金について理解する 【key words】 ・障害年金，自立支援 【授業概要】 ・障害年金について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、障害年金の受給と自立の関係について考察する。 ・障害年金を受給しやすい社会について、各々に考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第8章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・p302-p305 ・ストレングスモデルp333-p353 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「障害年金」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第28回	社会資源につなげる支援について理解する 【key words】 ・アウトリーチ，ACT（包括型地域生活支援），ホームレス支援 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アウトリーチ支援を行ううえで必要な配慮等について考察する。 ・アウトリーチ支援における精神保健福祉士の関わりについて、事例に基づいて解説を行う。 ●輪読：ストレングスモデル（第9章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・p307-p311 ・ストレングスモデルp354-p369 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「社会資源につなげる支援」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第29回	自己覚知③　ゲストスピーカーによる講話 【key words】 ・精神障害者の実体験 【授業概要】 ・当事者であるとともに専門職でもある方をゲストスピーカーに招き、講話をして頂く。 ・講話を聞き、各々に精神保健福祉士として求められる役割を考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでの授業を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第30回	全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・後期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでの授業を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。	

	③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表およびグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況含む）40%。 ③定期試験または課題レポート35%。
教科書	・新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）第2版」日本精神保健福祉養成校協会　編集　中央法規出版　2016 ・Rapp, C. A. and Goscha, R. J.(2012) The Strengths Model:A Recovery-Oriented Approach to Mental Health Services, Third Edition, New York: Oxford University Press.（＝2014, 田中英樹監訳『ストレングスモデル―リカバリー志向の精神保健福祉サービス[第3版]金剛出版）
参考書	・Becker, D. R. and Drake, R. E.(2003) Working Life for People with Severe Mental Illness, Oxford University Press.（＝2004, 大島　巌・松為信雄・伊藤順一郎監訳『精神障害のある人たちのワーキングライフ―IPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド』金剛出版） ・西尾雅明（2004）『ACT入門―精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム』金剛出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ　　授業コード： 7016

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神科リハビリテーションの概念、構成について学ぶ。 【到達目標】理論と展開Ⅰで学んだ理論実践方法をさらに具体的事例や訓練によって内容を深める。地域生活支援にポイントを置く。精神障害者支援のかなめ「エンパワーメント」「リカバリー」の概念を体得できることを目指す。
授業の概要	この講義では医療機関をはじめ地域でのソーシャルワーク実践の視座および活用方法を順次学び、理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 仲介型のケアマネジメント 【授業概要】 理論と展開Ⅰの総まとめ、復習。 ソーシャルケースワークを振り返る。 ※次回から去年の教科書を持ってこさせる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 精神医学を入れるか確認 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	ストレングスモデル 【key words】 希望を聞く 【授業概要】 支援計画のポイントをおさらいする。 ※ラップは何を根拠に理論を発表したか！ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	心理社会的アプローチと未解決問題 【key words】 心理社会的アプローチ 【授業概要】 これまでの事例の中の未解決問題。 30歳男性の事例、45歳男性の事例から。

※社会診断とは？
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　相談支援専門員とサービス管理責任者
【key words】
支援計画に二つある
【授業概要】
福祉サービスのケアマネージャーが相談支援専門員とサービス管理責任者。

※仲介型ケアマネジメント
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　精神科リハビリテーション
【key words】
精神科リハビリテーション
【授業概要】
戻って「理論と展開２」の教科書に入る。
ICIDHの確認とICFの新しい視点。
教科書に従う

アンソニー、スレッシュホールズ

【教科書ページ・参考文献】
教科書1～10P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　WHOのリハビリテーションの定義
【key words】
４つのリハとその後の発展
【授業概要】
医者中心から多職種チームに。

※注意することは心理社会的リハビリテーション。これがアンチスティグマにつながる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　日本の精神科リハビリテーションの歴史
【key words】
外作業・委託作業
【授業概要】
外勤委託作業（院外作業療法）や職親制度。
デイホスピタル

部分入院とは？ソーシャルクラブ

【教科書ページ・参考文献】
教科書41～45P。177P。179P。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　ストレス－脆弱性モデルと精神医学の視点
【key words】
生物学的視点の持つ意味
【授業概要】
パラダイムの転換。入院中心から地域中心に。

※精神科リハビリテーションの実施機関
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　精神科デイケアの登場
【key words】
精神科デイケア・デイナイトケア
【授業概要】
デイケアの内容から診療報酬について学ぶ。プログラム活動というグループワーク。

※小規模、大規模デイケア。デイナイトケア。ナイトケア。

【教科書ページ・参考文献】
教科書157P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　治療共同体からデイホスピタルまで
【key words】
大集団精神療法
【授業概要】
退院促進の送り手と受け皿。

※M・ジョーンズとビエラ

【教科書ページ・参考文献】
教科書10P。128P～。88Pも参考に
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　中間施設の限界からEE研究と家族支援
【key words】
回転ドアの次に
【授業概要】
EE研究の成果。家族心理教育プログラムの誕生。

※回転ドア現象

【教科書ページ・参考文献】
教科書11P。88P。188P。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　精神科リハビリテーションの展開
【key words】
アンソニーの理念
【授業概要】
75Pから教科書に従い基本を押さえる。

※技術開発計画と資源開発計画
【教科書ページ・参考文献】
教科書75P~
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　第6章、西尾雅明の精神科リハビリテーション
【key words】
教科書6章の1から
【授業概要】
精神医学をからめ①187P～入り、②195Pのケアマネジメントの視点を押さえ、③205PのACTについても学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書①187P～②195P、③205P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　精神科リハとソーシャルワーク
【key words】
野中猛のケースマネジメント
【授業概要】
野中猛のケースマネジメントからイギリスのCPAまで。

※ケースマネジメント概論
【教科書ページ・参考文献】
索引を利用
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　新しい精神科リハビリテーションの展開
【key words】
クラブハウス運動から
【授業概要】
SHG(セルフヘルプグループ) とピアサポートグループの違い。

※アンチスティグマ理解を！

【教科書ページ・参考文献】
教科書209P～

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　精神科リハビリテーションと作業療法
【key words】
職業準備性、レディネスとは？
【授業概要】
患者作業の歴史と開放化。そして現在の作業療法。

※作業療法士

【教科書ページ・参考文献】
教科書115～127P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　職業リハビリテーションと就労支援
【key words】
これが間違いやすい！
【授業概要】
障害者雇用促進法に基づく就労支援。そして居住支援も。

※ILO 条約

【教科書ページ・参考文献】
教科書3、6、33、70P。176P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　アウトリーチとピアサポート
【key words】
セルフヘルプグループ
【授業概要】
教科書に従いながらアノニマス系と障害系の違いを理解する。
リカバリーからプロシューマー。

※二つのセルフヘルプグループ

【教科書ページ・参考文献】
教科書200P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　デイケア・ナイトケアとプログラム活動
【key words】
包括的な支援、切れ目ない支援
【授業概要】
医療機関の取り組みと福祉サービス事業所のグループ活動。

※SSTの多様性。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　実践的SSTトレーニング
【key words】
実習に向けて
【授業概要】
138Pから入りベラックのステップバイステップに。

※防御因子

【教科書ページ・参考文献】
教科書138P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　初めてSSTを導入したデイケア
【key words】
技法は山のように
【授業概要】
A・Tベックの認知行動療法の違い。

※外在化、自動思考とスキーマ。

【教科書ページ・参考文献】

精神医学の教科書から
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　中断したデイケアでのSST
【key words】
SSTトレーニング
【授業概要】
急いでプログラムに入らない。
傷つきに目を向ける。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　厳しい指摘が友情
【key words】
友情とは？指し手理論を披露
【授業概要】
治療共同体のコミュニティーミーティングでも同じ。
現実に直面し人は成長する。

※成長そして成熟
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　茶の湯の技法「花月」
【key words】
日本のグループワーク
【授業概要】
どんな状況でもSSTに持って行ける。

※ロールプレイ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　コ・リーダーは何をする
【key words】
本気
【授業概要】
うまくいったところ、難しかったところ、次回の工夫点。

※みんながリーダー
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　家族心理教育プログラム（家族教室）での実践
【key words】
それでもSSTだけではダメ
【授業概要】
パスができる。パスして誉めてもらえる。

※家族も入る
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　ピアサポートグループでの実践
【key words】
腕が上がったか！
【授業概要】
自助グループ、ピアリンクでの活動。
ナラティブ活動の延長線上に位置づける。

※サポーティブグループが前提
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２８回　指示的グループと非指示的グループ
【key words】
グループワークの色々
【授業概要】

	楽しくないと飽きてしまう。 ウォーミングアップを多用する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　話し合い、学び合い、助け合い 【key words】 まず話し合い。 【授業概要】 グループはメンバーを見捨てない。 自由に楽しくそしてスキルが身につく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　実践ＳＳＴを終えて 【key words】 これからが楽しみです 【授業概要】 これで皆さん精神保健福祉士援助実習に行ける。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、３０年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施。他、医局勉強会において医師、SW、CPを対象にSSTトレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅲ　　授業コード：8005

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹・新家　めぐみ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回解答演習を中心とし講義に加え、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。 【到達目標】 (1) 自身の学習状況を振り返り，国家試験受験に向けた学習内容を明確にできる。 (2) 解説や解答演習を通して，個々の学習方法を習慣化できる。 (3) 各回の解答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。
授業の概要	社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。 なお、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　人体の構造と機能及び疾病 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　月例テスト 【key words】 【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　心理学理論と心理的支援

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　社会理論と社会システム

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　月例テスト

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　現代社会と福祉

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　地域福祉の理論と方法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　福祉行財政と福祉計画

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　月例テスト

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　社会保障

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　低所得者に対する支援と生活保護制度

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　保健医療サービス

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　権利擁護と成年後見制度

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　月例テスト

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　社会調査の基礎

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　相談援助の基盤と専門職

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　相談援助の理論と方法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　月例テスト

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　福祉サービスの組織と経営
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　高齢者に対する支援と介護保険制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　障害者に対する支援と障害者自立支援制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　月例テスト
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　就労支援サービス
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　更生保護制度
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　月例テスト
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　重要項目解説　今後の学習方法の確認と整理 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　重要項目解説　合格に必要な知識の総まとめ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　月例テスト 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	自主学習を前提とした学習方法や内容の解説を行う。したがって，各々が国家試験に関する学習時間を確保した上で国家試験合格に向けた学修を進めていることが必要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	国家試験の過去問題を用いた予習，復習をしていること。
オフィスアワー	第1回授業時に説明する。
評価方法	試験(定期試験)（40%），授業中の課題や提出物（60%）
教科書	中央法規出版「模擬問題集」(最新版)
参考書	社会福祉用語辞典など，適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教職対策講座Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	–	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　次年度、全国の自治体で実施される教員採用試験に向けて、教職教養を中心として、過去・予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験の合格を目指す。 [到達目標] １　教職教養の知識を身につける。 ２　各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。 ３　将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。
授業の概要	１　4年次、各自治体で実施される教員採用試験の合格に向けて、教職教養を中心に採用試験対策に取組む。 ２　学内模擬試験を実施し本番の試験に備える（模擬試験の振り返りを行うことで力をつけていく）。 ３　教員採用試験の最新情報を得る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　学習指導要領の変遷－改訂の推移－ 【key words】 学習指導要領改訂の推移 【授業概要】 【受講にあたり】 ※教員免許状取得希望者の必須科目である。 1　授業の進捗状況により各回の内容に変更が生じる場合がある。随時、その旨を確認しながら進めていくことを了承願いたい。 2　予習・復習の内容についても同様である。 3　以下のテキストを使用する。予習・復習に関しては、その回毎に指示する。 　①文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示）』 　②東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版 　③時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』 4　予習･復習用のノートを用意すること（原則5冊以上の提出を求める）。 【授業概要】学習指導要領の改訂の推移を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018．12月号 ・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・学習指導要領の改訂の推移について、本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」を印刷してくること。 【予習復習に必要な想定時間】

60分から90分

第２回　新学習指導要領－総則を読み解く－①

【key words】
中教審、8つの観点、総則
【授業概要】

・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」を中央教育審議会が提示した8つの観点から読み解く
・新旧学習指導要領（総則）の対照表から総則を読み解く。
【教科書ページ・参考文献】
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018. 12月号
・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」・新旧対照表
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。
・配布プリントを確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第３回　小学校学習指導要領－改訂のポイント

【key words】
学習指導要領前文、小学校の教育課程の編成
【授業概要】

・小学校学習指導要領の総則を丁寧に読み解き、新学習指導要領の改訂部分を学習する。
・新旧学習指導要領（総則）の対照表から改訂のポイントを掴む。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「学習指導要領」

【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第４回　中学校学習指導要領－改訂のポイント

【key words】
学習指導要領前文、中学校の教育課程の編成
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・中学校学習指導要領の総則を丁寧に読み解き、新学習指導要領の改訂部分を学習する。
・新旧学習指導要領（総則）の対照表から改訂のポイントを掴む。
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「学習指導要領」
・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。・配布プリントを確認しておくこと。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「学習指導要領」

【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第５回　高等学校学習指導要領－改定のポイント－

【key words】
学習指導要領前文、高等学校の教育課程の編成
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・高等学校学習指導要領の総則を丁寧に読み解き、新学習指導要領の改訂部分を学習する。
・新旧学習指導要領（総則）の対照表から改訂のポイントを掴む。
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版
・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」を予習しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第６回　教育法規　①　教育基本法－教育の目的・理念－

【key words】
法規の概要、教育権･学習権、教育基本法
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・教育法規-法規の概要を学ぶ-。
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版　「教育法規」

・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」を予習しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第７回　教育法規　②　地方教育行政法、地方公務員法
【key words】
教育委員会、教職員の義務
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・地方教育行政法、地方公務員法とは何かを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」
・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第８回　教育法規　③　学校教育法
【key words】
教職員に関する法規、就学
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・教職員に関する法規とは何か、学校教育法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」
・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第９回　教育法規　④　学校保健安全法
【key words】
学校保健、学校安全
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・学校保健、学校安全について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」
・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第１０回　教育法規　⑤　学校の目的･目標
【key words】
小中高特支、教育課程
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・小中高特支の目的･目標を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」
・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第１１回　生徒指導の意義･課題
【key words】
生徒理解、教育相談
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。

	・生徒理解、教育相談の在り方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「生徒指導･安全指導」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第１２回　進路指導、安全指導のあり方 【key words】 職業理解、自己理解、安全管理 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・進路指導、安全指導のあり方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「生徒指導･安全指導」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第１３回　西洋教育史 【key words】 教育思想の流れ、主要人物･著作概要 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・西洋史について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「西洋教育史」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第１４回　日本教育史 【key words】 時代毎の教育、人物史 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・日本教育史について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「日本教育史」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第１５回　教育課程と教授･学習 【key words】 カリキュラム、学習の分類 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・教育課程とは何か、について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育課程と教授･学習」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・ノートのの提出（原則5冊以上）の準備をしておくこと。・春休みの学習計画を立てておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や 受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。

	２　教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること(評価にかかわる）。 ２　各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%)、授業中に実施した試験(20%)、予習復習を含めた自主学習 ノート（50%)を総合して評価する。
教科書	１　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示）』 ２　東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版 ３　時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』
参考書	東京ｱｶﾃﾞﾐｰ　『教員採用試験』（各教科）シリーズ、各自治体が出版している過去問題等
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教員採用試験合格に向けて、教職教養を中心に指導･支援をおこなう。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 総合演習Ⅰ　　授業コード：9021　9022　9023　9024　9025　9026　9027

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	必修
担当教員			
松永　尚樹・新家　めぐみ・鈴木　秀夫・岡野　康幸・真下　潔・時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身につけた基礎学力や問題解決能力等を基として、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、総合演習における集大成である課題研究・製作に向けて、リテラシー力を身につけ、テーマの設定や資料収集等を積極的におこなう。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通じて、進路を明確化し、具体化させる。　②総合演習の集大成である課題研究・製作についてグループで協力しながらテーマを設定し、資料収集等を積極的におこなう。 ③昌賢祭での総合的な活動を通じて、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②心身の健康、③地域貢献、④学習統合　⑤進路･資格取得の５つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を育成するとともに、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導ならびに学生生活全般に係わる個別相談などの指導･助言をおこなう。さらに、総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし具現化させる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　前期オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　総合演習Ⅰの内容説明 【key words】 学長等の訓話・講話、年間計画 【授業概要】 ①学長の訓話、学部長の講話を聞き、年度初めを意欲的にスタートする。 ②総合演習Ⅰの３０コマの計画を知り、学習内容の概要を知る。 【教科書ページ・参考文献】 ○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 ○授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○2020年度の授業計画を確認し、自スケジュールに記録する。特に、制服着用や提出物に留意することを伝える。次回は、雑巾縫いをするので、必要物品の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第２回	心身の健康プログラム①　心身の充実について（１）　親睦スポーツ大会にむけて

【key words】
親睦スポーツ大会、安全面での配慮

【授業概要】
①体育イベント委員が中心となり、各種目の準備・後片付けを行う。
②教員が準備運動を指導し、安全面での諸注意を行う。
③チーム内で作戦を考え、優勝目指し、練習に励む。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○親睦スポーツ大会のパンフレットを熟読し、ルールを理解しておくこと、会場までの行き方・駐車場について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３回　心身の健康プログラム②　心身の充実について（2）　親睦スポーツ大会にむけて
【key words】

親睦スポーツ大会、安全面での配慮

【授業概要】
①体育イベント委員が中心となり、各種目の準備・後片付けを行う。
②教員が準備運動を指導し、安全面での諸注意を行う。
③チーム内で作戦を考え、優勝目指し、練習に励む。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○親睦スポーツ大会のパンフレットを熟読し、ルールを理解しておくこと、会場までの行き方・駐車場について確認しておくこと。次回は、雑巾縫いをするので、必要物品の準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第４回　建学の精神と実践教育プログラム②　生活を科学する（雑巾の製作をとおした日常生活の科学）
心身の健康プログラム②　心身の充実について（２）　親睦スポーツ大会
【key words】
雑巾の製作、親睦スポーツ大会の省察

【授業概要】
①親睦スポーツ大会の振り返りを体育・イベント委員の司会の下、行う。
①ミシン縫いと手縫いの違いについて、理解する。
②実際に雑巾を縫う。特に針や糸、はさみの準備・後始末についてきちんと行い、安全に作業ができるよう配慮する。
③雑巾縫い完成について時間差がでるので、早く完成した者は、自学自習を行う。①体育イベント委員が中心となり、各種目の準備・後片付けを行う。
②教員が準備運動を指導し、安全面での諸注意を行う。また、当日の集合時刻、会場での注意事項を伝える。
③チーム内で作戦を考え、優勝目指し、練習に励む。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○雑巾縫いが終わっていない者は、仕上げ、指示された日時までに提仕上げ、提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第５回　進路・資格取得プログラム①　「就職・適性試験」
【key words】
就職・適性試験
【授業概要】
①PS-U総合適性試験を受ける。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○受験後、回答を即配付するので、復習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　学習統合プログラム①　国語の力をつける（国語の基礎基本：感じのいい話し方・聞き方）
【key words】

話し方・聞き方

【授業概要】

①国語の４領域：話す・聞く・読む・書くの基礎基本である感じのいい話し方・聞き方について知る。
②理論だけでなく、グループワークを行い、各自話し手・聞き手を体感しながら、感じのいい話し方・聞き方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の話し方・聞き方について、振り返りをしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第７回　学習統合プログラム②　国語の力をつける（文章の書き方の基礎基本：１ランク上の小論文を目指す）
【key words】

小論文の書き方

【授業概要】
①正しい漢字・主述のねじれ・句読点の打ち方・三段構成等について確認する。
②実際の小論文をみて、良さを学ぶ。また、推敲の仕方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の就職試験に関わる小論文を書いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　学習統合プログラム③　国語の力をつける（小論文を書くこと、相互評価）
【key words】

小論文の相互評価

【授業概要】
①班内で、小論文を読みあい、感想を言う。
②推敲し、仕上げる。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の小論文を推敲し、仕上げ、次回、担任に提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　学習統合プログラム④　課題研究にむけて～リーディング～
【key words】
リーディング

【授業概要】
①大学で触れる様々な文章について知る。
②文章の構成、全体像を知る。
③目的に合った読み方を知る。（通読、精読、速読等）
④要約、クリティカル・リーディングについて知る。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「知のナヴィゲーター」の第３章「リーディング」を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　学習統合プログラム⑤　課題研究にむけて～ライティング～
【key words】

ライティング

【授業概要】
①わかりやすい説明、わかりやすい論証文の書き方を知る。
②レポート執筆の手順を知る。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「知のナヴィゲーター」の第４章「ライティング」を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　学習統合プログラム⑥　課題研究にむけて～研究テーマの決め方～
【key words】
研究テーマ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
将来の志望職種として、障害を持った人にどのような支援ができるか、まとめておくよう指示。

【授業概要】
①研究テーマの決め方について理解する。
②興味関心のある研究テーマをあげ、1）研究の背景（問題の所在）、2）RQ（研究目的）を書く。A４判１枚にまとめる。（前期成果物の１つとなる）
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○上記前期成果物を仕上げ、指示された日時までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　地域貢献プログラム①　外部講師
【key words】
障害をお持ちの方の講話

【授業概要】
①障害をお持ちの伊勢崎市議をお迎えし、講話を聞く。
②グループワークを行い、社会福祉を学ぶ者として、どのような支援ができるか、考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○将来の志望職種として、障害を持った人にどのような支援ができるか、まとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１３回　心身の健康プログラム③　心身の充実について（3）クラスの絆づくり
【key words】
クラスの絆

【授業概要】
①クラスリーダー、サブリーダー司会・板書の下、クラスの絆を深めるプログラムを考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の志望職種に関する論文を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　地域貢献プログラム②　昌賢祭での研究発表の内容決め
【key words】

昌賢祭での研究発表内容決定

【授業概要】
①昌賢祭委員を中心に、クラスでの研究発表のテーマ・内容を決める。
②夏休みにできること、後期のおおよその計画を決める。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○昌賢祭での研究発表で、夏休みできることを計画しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第15回　建学の精神と実践教育プログラム③　前期の総括　「自己点検・自己評価」　夏休み中の目標
【key words】

前期総括、授業アンケート

【授業概要】
①前期総括を演習ファイルにまとめる。
②授業アンケートを行い、学生の視点から本授業を評価する。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○前期の本授業に関する本ファイルを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　後期オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　学年担任講話　連絡事項
【key words】

学長等の訓話・講話、後期計画

【授業概要】
①学長の訓話、学部長の講話を聞き、後期を意欲的にスタートする。
②総合演習Ⅰ後期の１５コマの計画を知り、学習内容の概要を知る。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○後期授業計画を確認し、自己のスケジュールに記録する。特に、制服着用や提出物に留意すること。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１７回　進路資格取得プログラム②　　就職常識試験
【key words】

就職常識試験

【授業概要】
①就職常識試験を受ける。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○受験後、回答が配布されるので、採点・間違い直し、復習をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１８回　進路・資格プログラム③　外部講師　就職に関する講演
【key words】

就職、ハローワーク
【授業概要】
①ハローワーク前橋所長の就職に関する講話を聞く。
②講話の要点を記録し、自己の就職適性について、考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○自己の職業適性について考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１９回　地域貢献プログラム③　　昌賢祭研究発表にむけて（計画）
【key words】

昌賢祭研究発表

【授業概要】
①昌賢祭研究発表具体物の作成計画を立てる。
②昌賢祭研究発表について、具体物を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

45分

第２０回　地域貢献プログラム④　　昌賢祭研究発表にむけて（発表資料・材料の準備と討議）

【key words】

昌賢祭研究発表

【授業概要】
①昌賢祭研究発表具体物の作成計画、実際の準備制作等を始める。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２１回　地域貢献プログラム⑤　　昌賢祭研究発表に向けて（発表資料・材料の準備と討議）

【key words】

昌賢祭研究発表

【授業概要】
①昌賢祭研究発表具体物の作成計画に則り、実際の準備制作等を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２２回　地域貢献プログラム⑥　　昌賢祭研究発表にむけて（発表資料・材料の調整：全体のアウトライン決定）

【key words】

昌賢祭研究発表

【授業概要】
①昌賢祭研究発表具体物の作成計画に則り、実際の準備制作等を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２３回　地域貢献プログラム⑦　昌賢祭のふり返り（活動に関する自己評価・相互評価・今後の展望と課題・提案）

【key words】

昌賢祭の振り返り

【授業概要】
①昌賢祭について振り返り、自己評価・相互評価を行う。
②昌賢祭委員を中心に、振り返りについて口頭で話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○昌賢祭の振り返りについて、整理しファイルに綴じてじておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２４回　地域貢献プログラム⑧　外部講師

【key words】
障害児施策

【授業概要】
①前藤岡市長　新井利明氏の講話を聞く。
②自己の志望職種に生かせる部分を知る。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○就職常識試験での弱点を補強しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第２５回　地域貢献プログラム⑨　　外部講師　社会福祉の現状

【key words】

社会福祉の現状

【授業概要】
①外部講師を招聘し、社会福祉の現状についての講話をいただく。
②講話の要点を記録し、社会福祉の現状について考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○講話の要点を記録し、ファイルに綴じておくよう指示。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２６回　地域貢献プログラム⑩　　外部講師　児童虐待の現状

【key words】

児童虐待の現状

【授業概要】
①外部講師を招聘し、児童虐待の現状についての講話をいただく。
②講話の要点を記録し、児童虐待の現状について考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○講話の要点を記録し、ファイルに綴じておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２７回　学習統合プログラム⑦　課題研究の振り返り

【key words】

課題研究、グループ研究

【授業概要】
①課題研究を振り返る。
②グループ編制をし、課題研究の執筆要綱を知る。

【教科書ページ・参考文献】

	○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 ○授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○課題研究の執筆要綱に従って、執筆できるところから書くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第２８回　学習統合プログラム⑧　課題研究の研究テーマ 【key words】 課題研究、研究テーマ 【授業概要】 ①先行研究について調べる。 ②先行研究、グループで研究したいことを鑑み、研究テーマを決定する。 【教科書ページ・参考文献】 ○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 ○授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○課題研究の執筆要綱に従って、執筆できるところから書くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第２９回　心身の健康プログラム④　クラス裁量、クラス経営のまとめ 【key words】 クラス裁量 【授業概要】 ①クラスリーダー、サブリーダーを中心に、１年のまとめとしてやりたいことを決める。 【教科書ページ・参考文献】 ○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 ○授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○学生になるべく任せ、１年が振り返られ、かつ楽しい時間となるように準備すること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤　後期の総括　　総括レポート作成　春期休業中の活動について 【key words】 後期総括、授業アンケート 【授業概要】 ①後期総括を演習ファイルにまとめ、提出する。 ②授業アンケートを行い、学生の視点から本授業を評価する。 【教科書ページ・参考文献】 ○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 ○授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○１年分の演習ファイルを整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講に係わる情報】 １　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等、本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	論理的思考力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。
オフィスアワー	各担当教員に確認すること。
評価方法	提出物（50%）　演習への取り組み・内容等（50%）を総合して評価する。
教科書	「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉施設現場、教育現場の実務経験を持つ教員がおり、理論や法律を具体化した指導ができる。また、現場より講師を招き、最新の情報を学生に話してもらうことも可能である。

	アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護体験実習指導　　授業コード： 9041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭１種免許状並びに小学校教諭１種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」「保育実習（社会福祉施設での実習に限る）」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 【授業の目的】 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	介護体験実習の意義と目的、教員として必要な福祉倫理、実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についての調べ学習・発表を中心に授業を進める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　科目オリエンテーション（シラバス説明、授業方法及び留意事項）、自己紹介カード作成 【key words】 【keywords】 授業の進め方　自己紹介 【授業概要】 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間

	第２回	障害者の理解、ＤＶＤ視聴（障害者の自立について） 【key words】 【keywords】 障害者の自立　筋ジストロフィー　難病 【授業概要】 【授業概要】 援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る 専門職者としての役割をレポートにまとめる 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 筋ジストロフィーに関する資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第３回	対人援助技術の原理原則 【key words】 【keywords】 ソーシャルワーカー　バイスティック 【授業概要】 【授業概要】 場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ バイスティックの７原則について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 バイスティックの７原則に関する資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 バイスティックについて事前に調べておくこと ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第４回	事前学習の意義・目的・方法の理解（実習先希望調査票の提出） 【key words】 【keywords】 介護体験　福祉施設 【授業概要】 【授業概要】 なぜ実習事前指導が必要かを考える 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 実習先として希望する種別・施設名をあらかじめ考えておく 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第５回	実習先機関・施設の理解（高齢者施設） 【key words】 【keywords】 関係法規　介護体験　福祉施設 【授業概要】 【授業概要】 実習先を理解する（高齢者施設） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第６回	実習先機関・施設の理解（児童福祉施設） 【key words】 【keywords】 関係法規　介護体験　福祉施設 【授業概要】

【授業概要】
実習先を理解する（児童福祉施設）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第７回　実習先機関・施設の理解（障害者支援施設）
【key words】
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】
実習先を理解する（障害者支援施設）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第８回　実習先機関・施設の理解（その他の施設）
【key words】
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】
実習先を理解する（その他施設）
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第９回　事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項）
【key words】
【keywords】
連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項

【授業概要】
【授業概要】
実習先訪問についての具体的指導

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第１０回　実習開始までの取り組み（まとめ、レポート課題）
【key words】
【keywords】
実習先概要　職員配置

【授業概要】
【授業概要】
実習開始まで準備しておくべきことについて考える

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】

1.0時間

第１１回　記録方法の理解（実習記録①）

【key words】
【keywords】
実習記録

【授業概要】
【授業概要】
実習記録の記入方法

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　記録方法の理解（実習記録②）

【key words】
【keywords】
実習記録

【授業概要】
【授業概要】
実習記録の記入方法

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第１３回　コミュニケーションスキルを磨こう

【key words】
【keywords】
コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク

【授業概要】
【授業概要】
援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ
映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう

【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第１４回　実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理）

【key words】
【keywords】
職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理

【授業概要】
【授業概要】
実習生に求められる基本姿勢について理解する

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】

【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第１５回　実習計画書作成の理解　＊「実習計画書」の完成、＊「実習生紹介票」、「誓約書」

【key words】
【keywords】
実習計画書　実習生紹介票　誓約書

	【授業概要】 【授業概要】 実習先に提出する資料の作成 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の練習、実習計画書の作成、実習生紹介票、誓約書等の作成は授業時間外に各自で行うこととなる。
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	レポート及び実習計画書・実習報告書による評価とする。書類の提出状況、演習への参加状況を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護体験実習Ⅰ　　授業コード：9045

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
-	3年次	1単位(45)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭１種免許状並びに小学校教諭１種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」「保育実習（社会福祉施設での実習に限る）」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 【授業の目的】 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	第３回	【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第４回	【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第５回	【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第６回	【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第７回	【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第８回	【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第９回	【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第１０回	【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。 また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の作成、実習報告書の作成
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	□情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護体験実習Ⅱ　　授業コード： 9046

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
-	3年次	1単位(45)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 〔授業の目的〕 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回

	第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。 また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の作成、実習報告書の作成
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 英会話　　授業コード： 1182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
ｻﾞｯｸ・ｸﾞﾚｰｽ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 様々な場面で英語を聞きとりそれに応答する会話や、様々な場面で英語で自分を表現する会話を学ぶことにより会話のスキルを習得する。 [到達目標] 1.基本的な英会話に必要な語彙、文法、語句表現などを場面に応じて聞きとり、それに応答できるようになること。 2.聞き取れない語句や言い回しがある場合は英語で質問できるようになること。 3.習得した語彙、文法、語句表現を用いて、自発的に話せるようになること（応答するだけでなく）。
授業の概要	Listening, Speakingの練習を中心に行う。使い慣れていない語彙や語句、文法は例文を通して練習を行い、次にペアーでそれらを用いて会話できるようにする。それぞれの練習では様々な場面を想定して想像力を豊かにして会話を練習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	1. What do you think？ 〔内容〕 ・Do you think..? Yes, I do.　No, I don't. ・Interview a partner 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 goes with Nouns related to clothes
	第２回	2. I' ll get him some CDs. 〔内容〕 ・Buying presents ・What do you have? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 dress up shopping list
	第３回	3. Do you mind if　I sit here？ 〔内容〕 ・Practice the conversation in pairs ・Asking permission board game. 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 Do you mind if? Yes, of course. Actually I'd rather you didn't
	第４回	4. Review Lesson 〔内容〕 The First Three Lessons

	〔Phrases, Vocab., Grammar〕 第５回　5. What was he doing？ 〔内容〕 ・適当な時制を用いる練習 ・Tell the story from the pictures ・what happened to you? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 過去形、過去進行形 Vocab related to injuries 第６回　6. What are you going to do？ 〔内容〕 ・Interview partner on their next vacation ・Make a sentence from words in brackets 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 I may go ～, I am going to go ～ Vocab related to occupations 第７回　7. Where should I go if I want to go out？ 〔内容〕 ・Make new conversation using examples ・How will you find your way? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 Vocab related to tourism what to take / why 第８回　8. Review Lesson 〔内容〕 Games, practice, and exercises 5,6 and 7 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 第９回　9. Complaints 〔内容〕 ・Put the complaints with the picture. ・Customer survey, Describing food ・How do you like your food?(Role Play) 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 I'm afraid / I'm terribly sorry Vocab. Related to food 第１０回　10. The best way to travel辞書を活用 〔内容〕 ・In pairs decide.which hotel to stay in. ・Personal qualities ・Match the adjectives with the phrases 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 比較級. Not quite as cheap/A little more expensive 性格を表す形容詞 第１１回　11. I wish it wasn't raining. 〔内容〕 ・Read the post card and talk about the things he wishes were different. 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 性格を表す形容詞 第１２回　12. What have you been doing？ 〔内容〕 ・Match the person with the activity and how long have they been doing it? ・Pronunciation Practice 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 現在完了進行形 感情を表す形容詞 get up to 第１３回　13. What would you do？ 〔内容〕 ・what would you do in each situation? ・Describe the people using the adjectives 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 人格を表す形容詞 第１４回　14. What have you done？ 〔内容〕 ・Use examples to make new conversations. ・Speaking before and after:What have these people had done. ・Interview partner :Would you ever...? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 現在完了形 使役動詞 I've had it dyed 第１５回　15. Review Lesson　(8-12) 〔内容〕 Games, exercises and practice. short test on whole syllabus
受講生に関わる情報および受講のルール	講師の説明が理解できない時や、質問がある場合は挙手して発言する。間違いを恐れないで積極的に会話する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）・その他（ミニテスト）

授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	定期試験50%、授業への参加50%。
教科書	″Get Real 3″ New edition　　出版社 Macmillan
参考書	英和辞典・英英辞典
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人間と宗教　　授業コード：1241

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
相澤　伸央			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	物質的な豊かさは科学、精神的な豊かさは宗教がそれぞれ主力です。「自分の全てを投げだして初めて共生はある」というのは福祉の源点であり、東洋の宗教に共通する根源でもあります。世界各地の宗教を理解し、特に日本の宗教を深く理解し、共に生きられる人間性を身につけたいものです。
授業の概要	グローバルな現代社会では多種多様な人間と接する機会が多くあります。このような日常の中で、互いに理解しあえる人間関係を作ることが大切です。その根底にある互いの宗教心を理解し、広い視野で共生の道を歩めるようにしたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション　本科目の目的とシラバスの説明等 第２回　宗教の基礎知識①　人間の特徴と弱点 第３回　宗教の基礎知識②　縄文人と現代人の比較　現代日本人の特性 第４回　宗教の基礎知識③　宗教・科学・芸術・哲学の比較　宗教の特性 第５回　世界の宗教①　アジアの環境の中で活動する宗教としての仏教の特性 第６回　世界の宗教②　インド社会の中で成立した仏教と釈迦の生涯の特徴を見る 第７回　世界の宗教③　オリエントの自然環境と社会の中で育まれたユダヤ教を見る 第８回　世界の宗教④　キリスト教の成立と成長 第９回　世界の宗教⑤　イスラム教の成立から現代へ 第１０回　日本の宗教①　空海の生涯を通し、当時の社会と密教の特性を知る 第１１回　日本の宗教②　鎌倉仏教の特性と日本社会への仏教の浸透を見る 第１２回　日本の宗教③　近世から現代の日本宗教　日本の社会の特性・文化と仏教の関わりを見る(1)

	第１３回　　日本の宗教④　近世から現代の日本宗教　日本の社会の特性・文化と仏教の関わりを見る(2) 第１４回　　日本の宗教⑤　宗教(仏教)を経験を通して知る 第１５回　　まとめ　人間として現代社会を力強く生きるための智慧を考える
受講生に関わる情報および受講のルール	○授業資料の再発行はしない。必要な場合、学生間でコピーするなど対応すること。 ○受講にふさわしくない態度（ふざける、礼儀に欠ける）を取る学生には受講を拒否することがある。その場合、その講義は欠席扱いとする。 ○授業に関係のないものの教室への持込みは禁止とする。 ○携帯電話、スマートフォン等は机上に出さない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキストを中心として各時間の予習を行ない、積極的に授業に参加する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業態度（積極的な授業参加）を30%とし、筆記試験（自分の生き方の問題を中心）を70%として評価します。
教科書	特になし（必要に応じてレジュメ、資料等を配布）
参考書	授業ごとに必要に応じて紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　生涯学習概論　　授業コード：1271

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。
授業の概要	生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとＯＥＣＤの相違、外国の生涯教育、日本の生涯教育の先駆け、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。 社会人として仕事上必要とする書類作成の要領を公用文を中心に学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画		
	第１回	オリエンテーション 【key words】 生涯学習　生涯教育　豊かな人生　偶発的学習　独力的学習 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明。生涯学習とは何か。生涯学習は様々な局面で使われており、使う人の立場によって異なる場合が多い。法律や答申での用法を始め、これをめぐる現実や課題をさまざまな側面から説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ１～４ 参考文献：三輪健二著「生涯学習の理論と実践」放送大学出版会、香川正弘他編「よくわかる生涯学習」ミネルヴァ書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生涯学習に対する考え方を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	国際社会の議論　21世紀教育はケルン宣言によって方向づけられ、生涯学習による知識と技術と資格の重要性を解説する。 【key words】 ケルン憲章　教育大臣会議　知識　技術　資格 【授業概要】 21世紀の教育の世界の流れは、先進国首脳会議でのケルン宣言・生涯学習の目的と希望によって方向づけられたと言われている。そのなかで知識と技術と資格が重要であり、すべての人々の流動性へのパスポートは教育と生涯学習であることを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書： 参考文献：文部科学省ホームページ・ケルン宣言と世界教育大臣会議 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ケルン憲章・教育大臣会議の内容を確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	日本での議論・政策　教育基本法は生涯学習の理念を導入、だれでも、いつでも、どこでも学習でき、どう評価するかを考える。 【key words】

		誰でも　どこでも　いつでも　ワークライフバランス 【授業概要】 教育基本法の改正で生涯学習の理念を導入。これを踏まえて、国、文部科学省の政策・方針を学び、どこでも、いつでも学習でき、それをどのように評価するかをを説明。ワークライフバランスや遠隔教育の重要性を知る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P9～14 参考文献：「生涯学習政策研究」文部科学省生涯学習政策局 【課題・予習・復習・授業準備指示】 世界大学学長シンポジウム（さいたま）での文部科学省生涯学習政策局長の講演を確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	生涯学習の理念と理論１　古代ギリシャの思想、公教育の父コンドルセの公教育理念、私学教育を概観する。 【key words】 公教育　知識を育てる 【授業概要】 ソクラテス、プラトン、ソクラテスの思想を考える。 コンドルセの公教育の理念とその後を説明し、わが国おける私学教育と生涯学習の考えを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P5～6 参考文献：荻野弘之著「哲学の饗宴」ＮＨＫライブラリー、コンドルセ著「人間精神進歩史第1部」「人間精神進歩史第２部」岩波文庫 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家庭教師的学習　コンドルセ、天野貞祐氏の考え方を知ること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	生涯学習の理念と理論２　ユネスコとOECDの流れを知り、最近話題のPISAの問題点を考える。 【key words】 ペタゴジー　アンドラゴジー　自己決定性　生きることを学ぶ　ＰＩＳＡ 【授業概要】 ユネスコとＯＥＣＤの教育・学習の流れと相違を知り、基本的なそれぞれの考え方を学ぶ。 最近、3年ごとに行われ話題となっているＰＩＳＡによる学習調査の問題点と将来を考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P20から22 参考文献：ポール・ラングラン著「生涯教育入門」全日本教育連合会、マルカム・ノールズ著「成人教育の現代的実践」鳳出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ユネスコとＯＥＣＤの基本的な考え方を整理 ＰＩＳＡの日本の推移をどこに問題点があるかを知る。 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	生涯学習の内容と形態　民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習への影響を検討する。 【key words】 役に立つ学習　楽しむ学習　学習の基礎となる学習　個人・集団・集合学習　ワークショップ 【授業概要】 生涯学習の実態を実態を内容と形態という側面から説明 生涯学習を支える学校開放に着目しその動向を紹介する。 最近の民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習にどのような影響するかを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P37から40 参考文献：藤岡英雄「学習関心と行動」学文社、山本思外里「大人の学校」中央公論社、廣瀬隆人「生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方」ぎょうせい 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の地域の学校がどのような開放をしているか調べること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	学校教育と生涯学習　現在の学校は生涯学習の場であり、そのような役割を期待されているかを考える。 【key words】 リカレント教育　生きる力　奉仕・体験活動　学社連携　コミュニティールーム 【授業概要】 学校教育にかかわる人々にとって、現在の学校とは、どのような生涯学習の場であり、またどのような役割を期待されているかを説明 初等・中等教育を検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P49～64 参考文献：浦野東洋一「学校改革に挑む」つなん書房、教師養成研究会編著「教育原理八訂版」学芸図書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自己の学校観がどのようなものか整理して授業に臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	外国の生涯学習１　ドイツの生涯学習の学習プログラム、統一後の問題点や北欧の生涯学習事情を概説する。 【key words】 宿泊型学習プログラム　コンブックス　学習サークル

【授業概要】
ドイツの生涯学習の特徴はフォルクスホッホシューレという公の施設を中心に幅広い学習プログラムが提供されている点である。この点を説明するとともに、統一後のドイツ社会が抱える問題を考える。
豊かな生活水準や充実した福祉国家政策で知られているスウェーデンとデンマークの生涯学習事情を説明

【教科書ページ・参考文献】
教科書：
参考文献：三島憲一「現代ドイツ」岩波新書、野崎俊一「スウェーデンの生涯学習支援」『生涯学習e辞典』日本生涯教育学会

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ドイツ、スウェーデンとデンマークの学校教育制度と福祉の関係を整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　外国の生涯学習２　オランダの個別教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーを概説する。
【key words】
ワールドオリエンテーション　シティズンシップ　サービスラーニング
【授業概要】
テーマ型の教育が取り入られているのオランダの教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーのこと、世界最大規模と言われるスミソニアン美術館を説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：
参考文献：リヒテルズ直子「オランダの個別教育はなぜ成功したのか」平凡社、嶺井明子「シティズンシップ教育」東信堂、藤村好美「地域を変えるサービスラーニング」東洋館

【課題・予習・復習・授業準備指示】
オランダ、アメリカの教育事情、スミソニアン博物館について調べること。
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　生涯学習の先駆け１　生涯勉強に励むことは古今東西を問わず語られてきた。セネカや世阿弥佐藤一斎を概説する。
【key words】
初心　修身　学は一生の大事
【授業概要】
生涯を通して勉学に励むことの重要性は古今東西を問わず語られてきた（セネカ、スマイルズ、大学　世阿弥　佐藤一斎）が、その語られ方は多様である。学び続けることの意義はどのように説かれてきたのかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：諸橋轍次著「古典の叡智」講談社学術文庫、野上豊一郎・西尾実「風姿花伝」岩波　文庫宇野哲人「大学」講談社学術文庫、川上正光「言志四録」講談社学術文庫
【課題・予習・復習・授業準備指示】
大学　風姿花伝　言志四録の一つ読むこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　生涯学習の先駆け２　理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生き方、生活倫理実践者の石田梅岩の石門心学を概説する。
【key words】
致良知　　五事を正す　職分　心学
【授業概要】
学問に専念することを人格完成への道筋と捉え、理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生きたかを説明
生活倫理の生涯学習実践者の石田梅岩の石門心学を説明

【教科書ページ・参考文献】
参考文献：山住正巳著「中江藤樹」朝日新聞、古川治著「中江藤樹」明徳出版　今井淳・山本真功編「石門心学の思想」ぺりかん社、柴田実著「石田梅岩」吉川弘文館
【課題・予習・復習・授業準備指示】
中江藤樹、石田梅岩の時代背景を事前に調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　社会教育制度　生涯学習を推進するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。
【key words】
公的社会教育生涯学習センター
【授業概要】
生涯学習を推進・進行するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P65～86
参考文献：田中雅文「現代生涯学習の展望」学文社、今西幸蔵・村井茂編「現代における社会教育の課題」八千代出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会教育を担う人々の役割を考えること。
【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　生涯学習支援の動向と課題　個人、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し連携・協力する課題について考える。
【key words】
ネットワーク型行政　NPM　学ぶ意欲　知の循環型社会
【授業概要】
生涯学習支援においては、学習支援に係わるあらゆる人々、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し、連携・協力することが重要であるといわれている。これらの生涯学習支援の動向と課題について取り上げエ考える。
【教科書ページ・参考文献】

	教科書：P87～97 参考文献：伊藤俊夫編「生涯学習の支援」実務教育出版、白石克己・廣瀬編隆人編「生涯学習の新しいステージを拓く１」ぎょうせい 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身が主体となり学習支援を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　まちづくりと生涯学習　自治体が旗振り役のまちづくりと住民主体のまつづくりで、「学び」がどのように関連しているか考える。 【key words】 生涯学習宣言市町村　まちおこし　地域文化 【授業概要】 自治体が旗振り役を務めるまちづくりと住民が主体となって草の根的に展開するまちづくりに分類したうえで、それぞれの街づくりに人々の「学び」がどのように関連しているか考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P99～110 参考文献：田村明「まちづくりの実践」岩波書店、柴田彩千子「市民主体のまちづくり活動の成立」日本女子大学大学院人間社会研究科紀要第10号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 住民自らの生涯学習学習成果をまちづくりにいかにして反映しているかを考える。 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　グローバリゼーションと生涯学習　ダカール行動枠組みなどを初めとする世界の動きを概観し、私たちの生活への影響を考える。 【key words】 ダカール行動枠組み　ESD　自分自身との闘い 【授業概要】 生涯学習の領域でもグローバリゼーションに関する議論が活発に行われるようになった。国境にとらわれない世界が一つであるという感覚と、それに起因する諸問題が私たちの生活に影響を及ぼしている。ダカール行動枠組みなどを始めとする世界の動きを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P111～121 参考文献：ロランド・ロバートソン「グローバリゼーション」東京あ大学出版会、アンソニー・ギデンズ「モダニティとアイデンテティ」ハーベスト社　斉藤純一「公共性」岩波書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 経済・文化的グローバリゼーションの生み出す諸問題を解決するにはどのようにすればよいかを考えること。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 レポートは必ず提出すること。 ５回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。
オフィスアワー	講師室で授業後30分
評価方法	レポート等で総合的に評価する。
教科書	「　テキスト生涯学習　　新訂版　」　学文社
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称： ボランティア活動Ⅳ　　授業コード： 2021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	選択
担当教員			
足立　勤一・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ委員会			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	ボランティア活動Ⅳの到達目標は、施設関係団体等への就職後の任務（活動）を想定した実践力を高める。この目標達成に求められるボランティアリーダーシップやコーディネート力を身に付けることことでである。他人を「動かす」リーダーシップと依頼先（施設等）と学生を結びつけるコーディネート力は、人間形成にも通じる。
授業の概要	これまでのボランティア活動で身に付けた能力を、更に向上させる。その為には、他人を動かすリーダーシップと依頼先と学生を結びつけるコーディネート力を身に付けるためのプログラムである。正に、本学の建学の精神である「仁」の精神を具体的活動から理解し身に付けることである。「他人にやさしい」とは、弱者や高齢者への支援又は災害ボランティア支援などを視野に入れた活動の実践である。実践を通して、建学の精神を身に付けるプログラムである。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション：学生ボランティア活動に求められているのは何か？①学生ボランティア活動史（災害支援・弱者支援） 【key words】 講義の受け方・基本はグループワーク 【授業概要】 これまでのボランティア活動を基に、更に自己啓発に基づくボランティア活動とは何かを求める。 【教科書ページ・参考文献】 『わかる　みつかる　できる』　財団法人内外学生センター、他必要なテキストを紹介する。 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 3年間体験したボランティア活動を基に、主体的にボランティア活動ができるよう準備する。
	第２回	地域社会が求めているボランティア活動とは？①本学ボランティアセンターの任務と活動を支援する方策とは？ 【key words】 ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会 【授業概要】 地域連携センター（ボランティア部門）や社会福祉協議会ボランティアセンターの役割について調べる。 求めるボランティア活動を計画立案し出来る事から活動を開始する。 【教科書ページ・参考文献】 P14～　ボランティアグループのつくり方 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 これまでのボランティア体験の上で、地域の求めるボランティア活動とは何か？を関係諸団体等を訪問 し、調査する。
	第３回	発表１．各自（グループ）の考える地域社会における福祉向上を目指したボランティア活動とは何か？（身近から考える。） 【key words】 ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第1回活動準備会。依頼されたボランティア活動の内容や希望人数等を把握し、協力者を募る。
希望者等の人数や活動目的を精査し、依頼先と連携し、具体的なボランティア活動計画を実行する。
グループ内の人間関係に注意し、依頼側とも連絡を密にして、楽しく活動できるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６１～　「ボランティア活動をはじめる」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域連携センター（ボランティア部門）と協力し、担当するボランティア活動の協力者を集め、勉強会を開　催する。

第４回　発表２．これまでの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第２回活動報告会。これまでの活動を、目的や目標設定を含めて活動報告書を作成し発表する。
その後、質疑応答する。（ディベートを行い、次の活動計画や実施に生かす。）
グループ内の人間関係に注意し、参加メンバーの希望に沿う役割分担し、楽しく活動できるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６４～「快適！ボランティア術」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
約束事を確認し守る。学ぶ姿勢から活動を始める。活動先が目指す夢や願いや目標を理解する。

第５回　発表３．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後、批判的精神でディベートを行う。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第３回活動報告会。これまでの活動を発表する。他の活動グループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行うことによって、次の活動計画や実施に生かす。
参加メンバーの希望に沿う役割分担し、楽しく活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６５～　「報連相の法則を忘れずに・エマージェンシー（危機回避・危機対応）への心構えを忘れずに」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
ボランティア活動は参加する者皆で協力すること。コミュニケーションが大切。

第６回　発表４．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後、批判的精神でディベートを行う。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第４回活動報告会。これまでの活動を発表する。他の活動グループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行うことによって、次の活動計画や実施に生かす。
参加メンバーの希望に沿う役割分担し、更に賛同者を募る。楽しく活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６７～　「人間の連帯の普遍的な表現としてのボランティア活動」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
人類の歴史に誕生した新しい“草の芽”。ボランティア活動は世界の普遍的な“文化”になった。

第７回　前期の活動のまとめ。中間発表会実施及び活動に関するディベートを行う。夏季休暇中の活動計画書の提出。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
前期の活動を総括して発表する。他の活動グループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、夏季休暇中の活動計画案を作成し提出する。
参加メンバーの希望に沿う役割分担し、更に賛同者を募る。協働して活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６９～　「成熟した市民社会を築く」
地域社会から求められていることを探求し、一緒に活動することが求められている。
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
報道に関心を寄せ、社会の変革に気づくことが大切。社協との連携や地域の自治体との連携を模索する。

第８回　発表５．夏季休業中の活動報告書会実施。その後、批判的精神でディベートを行う。。後期の活動計画書提出。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第５回活動報告会。夏季休暇中の活動を総括して発表する。他の活動グループの発表についてディベート
する。批判的精神でディベートすることによって、活動を見直し、後期の活動計画を作成し提出する。
参加メンバーを募り、協働して目的・目標達成するための活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ７４～　「私学教育（学習）とボランティア活動」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】

本学の「環境美化活動」の精神を忘れずに！環境づくりもボランティア。

第９回　発表６．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第6回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画に生かす。
参加メンバーを募り、協働して目的・目標達成するための活動ができるようPRに努める。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ７７～　「情報源を知りたい」～ボランティア情報ファイルの作成～

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域福祉向上の観点から、視野を日本全国に広げ、報道関係を注視し、社協や他のグループがどのような
活動をしているか調べる。その１。（インターネットの活用）

第１０回　発表７．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第７回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
依頼者と連携し、参加者が協働して、目的・目標達成するための活動ができるよう他の学生にPRする。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８５～　「ボランティア活動推進団体一覧」

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域福祉向上の観点から、視野を日本全国に広げ、報道関係を注視し、社協や他のグループがどのような
活動をしているか調べる。その２。（インターネットの活用）

第１１回　発表８．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第８回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
依頼者と連携し、参加者が協働して、目的・目標達成するための活動ができるようPRする。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８７～　「ボランティア関連書籍・資料一覧」

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域福祉向上の観点から、視野を日本全国に広げ、どんな団体やグループがどのような活動をしているか
大学生の活動を中心に調べる。その３。（インターネットの活用）

第１２回　発表９．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第９回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
参加者が協働して、目的・目標達成する喜びを共有できる活動ができるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
本学の『ボランティアハンドブック』及び「活動記録簿」をまとめる。

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
これまでの活動について、活動の目的や目標に対する「達成度」を自己評価する。
第3者評価を受け、謙虚な態度でその評価についての分析を行い、知識・技能のみならずコミュニケーショ
ンに於いても不足していると感じた点を改善する努力をする。。

第１３回　発表10．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第10回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
参加者が協働して、目的・目標達成する喜びを共有できる活動ができるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ４８～　「みなさんの力を待っている人々がいる」

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
これまでの活動について、活動の目的や目標に対する「達成度」を自己評価する。
地域社会から求められていることを自覚し、地域福祉の向上が“自らの喜び”となるように努める。

第１４回　年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】

	年間の実践活動をまとめ、報告書を作成する。活動報告書に基づき、当初の目的・目標に対する達成度を 自己評価する。4年間のボランティア活動体験で得られた“宝物”を卒後の社会生活に生かすようにする。 参加者が協働して、目的・目標達成した喜びを共有できる体験にする。達成感を味合う。 【教科書ページ・参考文献】 特に指定しない。 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 これまでの活動について、活動の目的や目標に対する「達成度」を、細かく分析の上で自己評価する。 4年間のボランティア活動体験で得られた“宝物”を卒後の社会生活に生かす方策を検討する。 第１５回　年間活動報告会：活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成、提出する。 【key words】 ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会 【授業概要】 年間活動報告会。活動報告書を作成し、それに基づいて、当初の目的・目標に対する達成度を含め発表 する。 謙虚な態度で自己評価し、身に着けた能力や知識、或いは、できなかった事の反省を行い、卒後の活動 に生かす方策を具体的に作成する。（就職先で、即生かせる活動から取り組むこと） 【教科書ページ・参考文献】 特に指定しない。 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 これまでの活動について、どのような活動体験が自己の人間的成長につながっているかを自覚する。
受講生に関わる情報および受講のルール	１．メンバーで地域社会の現状を検討し把握する。求められる活動計画書を作成・実践・評価・改善する。(ＰＤＣＡサイクルで改革改善する) ２．毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を　　必要部数印刷し準備すること。 ３．活動に伴う諸経費に就いては、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ製本し、ボランティアセンターで保管する。 ４．受講生希望者が10名未満の場合開講しない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１．地域の社会福祉協議会による福祉向上のための活動に関心を寄せ、ボランティアセンターやNPO法人等の活動に関心を持ち、出来れば活動に参加すること。 ２．希望するボランティア活動に参加し、その運営方法や広報活動を学び、他人集めには何が重要かを探求する。 ３．災害ボランティア活動に関心を寄持ち、出来れば活動に参加し実践する事が望まれる。
オフィスアワー	毎週水曜日・木曜日の１６：００～
評価方法	１．活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。（４０％）＊２回未提出・未発表の場合、単位を認めない。 ２．各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。（２０％） ３．年間活動報告書の内容を評価する。（３０％） ４．活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する（10%）
教科書	『よくわかる　NPO法人・ボランティア』　川口清史・田尾雅夫・新川達郎編　ミネルバ書房
参考書	講義初めの授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称：　更生保護制度　　授業コード：2185

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	更生保護の実態と社会支援のあり方を明らかにして、犯罪・非行をした人との共生社会の実現が不可欠であることを理解し、参加協力の意識を持たせる。更生保護制度は社会福祉士国家試験の科目なので、合格水準到達を目標とする。
授業の概要	相談援助活動において必要となる更生保護を考察し、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職についての知識を得るとともに、機関相互の連携を学習する。社会福祉士国家試験の過去問題を取り上げる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　更生保護は、罪を犯した者又は非行少年を社会内で処遇改善するものであり、福祉との関連も説明する。 【key words】 非行犯罪臨床　共生社会　犯罪少年　触法少年　司法福祉　ダブルロール 【授業概要】 更生保護は、犯罪をした者及び非行のある少年に対し適切に働きかけることで、再犯を防ぎ、立ち直らせることで社会を保護し個人と公共の福祉を増進させることを説明し、福祉との関連も踏まえ、その概要を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ２～１４ 参考書：法務省法務総合研究所編「犯罪白書24年版」、刑事立法研究会「更生保護改革ゆくえ―犯罪をした人の社会復帰のために」現在人文社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護は、犯罪をした者、非行をした者を社旗復帰させることを総合的に考察し共生社会を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	仮釈放等　仮釈放は収容期間満了前に仮に釈放し、円滑な社会復帰を図ろうとする制度であることを概説する。 【key words】 仮釈放　仮出場　仮退院　悔悟の情 【授業概要】 矯正施設に収容されている人は収容期間が決められているが、仮釈放等とは、その収容期間満了前に一定の条件を付けて仮に釈放し、社会の中で生活することで、円滑な社会復帰を図ろうとする制度であることを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１５～２２ 参考書：瀬川晃「＜論説＞仮釈放の現代的動向と課題」同志社法学Ｖｏｌ．38，Ｎｏ．３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 仮釈放、仮出場、仮退院ごとに整理をすること。

【予習復習に必要な想定時間】
50分

第３回　保護観察　保護観察の制度と処遇のあり方を捉え、保護観察の種類と方法に重点を置いて概説する。
【key words】
社会内処遇　指導監督　指導援護
【授業概要】
保護観察の制度と処遇のあり方を捉え、保護観察の種類と方法に重点を置いて説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書:p２３～３５
参考書：北沢信次著「犯罪者処遇の展開」成文社、刑事立法研究会「更生保護制度改革のゆくえ」現代人文社

【課題・予習・復習・授業準備指示】
保護観察の種類を中心にまとめること。
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第４回　生活環境の調整　刑事施設又少年院収容中の者、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整を考える。
【key words】
生活環境の調整、改善
【授業概要】
刑事施設又少年院に収容中の者に対する生活環境の調整、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整について主に説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ３６～４０
参考書：松本勝編者「更生保護入門」成文堂

【課題・予習・復習・授業準備指示】
更生保護法第82，83条を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　更生緊急保護・犯罪被害者対策　刑期を終えて出所した人や保護観察中の人の保護。被害者への救済を考える。
【key words】
応急の措置　意見等聴取　心情伝達　被害者等通知
【授業概要】
刑期を終えて出所した人や保護観察中の人が改善更生のために必要な保護が受けられない場合どのような保護が受けられるか。また犯罪の被害者への支援の取組を説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ４１～５１
参考書：野坂明宏著「司法と福祉の接点ー救護・更生緊急保護」犯罪社会学研究Ｎｏ２２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
最近、社会的問題となっている犯罪被害の事例を見ておく。
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　恩赦・犯罪予防活動　政令恩赦、個別恩赦について説明。犯罪予防活動の根拠、位置づけ、具体的活動を紹介する。
【key words】
大赦　特赦　復権　社会を明るくする運動　ＢＢＳ会　更生保護女性会
【授業概要】
恩赦の歴史は古く、奈良時代から行われていた。現在の政令恩赦、個別恩赦について説明。また犯罪予防活動の根拠、位置づけ、具体的活動を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ５２～５９
参考書：野坂明宏著「司法と福祉の接点ー救護・更生緊急保護」犯罪社会学研究Ｎｏ２２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
例年7月に実施されている社会を明るく運動について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第７回　保護観察官・保護司　わが国の保護観察制度は官民協働であり、保護観察官と保護司の役割とその実際を説明する。
【key words】
不良措置　所在調査　保護区
【授業概要】
わが国の保護観察制度は、官民協働に大きな特色があり、保護観察官と保護司はその主要な役割を担っているといえる。この人達の役割とその実際を説明
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ６２～６７
参考書：北沢信次著「犯罪者処遇の展開―保護観察を焦点としてー」」成文社

【課題・予習・復習・授業準備指示】
保護観察官と保護司の役割を整理すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　更生保護施設・民間協力者　更生保護施設の役割・機能を説明。更生保護女性会、BBS会、協力雇用主の活躍を概説する。
【key words】
更生保護事業　更生保護法人　更生保護女性会　ＢＢＳ会　協力雇用主
【授業概要】
更生保護施設は被保護者を宿泊させながら改善更生に必要な保護を行う場であるが、具体的にど

		のような役割・機能を担っているかを説明。また民間ボランティアとしての更生保護女性会、ＢＢＳ会、協力雇用主の役割を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ６８～７７ 参考書：日本更生保護女性連盟「40年に続く5年の歩み」、日本ＢＢＳ連盟編「ＭｅｓｓａｇｅＢＢＳ活動事例集」日本更生保護協会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 BBS会を調べてみること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	裁判所との連携　少年事件は家庭裁判所と密接に関係している。司法機能と福祉機能を有する家庭裁判所の役割を説明する。 【key words】 全件送致主義　少年保護手続　要保護性　福祉機能　処遇勧告　処遇の転換 【授業概要】 保護観察所は少年事件をめぐって家庭裁判所と密接に連携している。少年による事件は、警察、検察で犯罪の嫌疑があるとされると、すべて家庭裁判所に送致される。司法機能と福祉機能を有する家庭裁判所の役割を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ８０～８６ 参考書：更生保護50年史編集委員会編「更生保護50年史（第1篇） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最高裁判所のホームページで家庭裁判所の地位と権限を調べること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１０回	検察庁・矯正施設との連携　検察官、更生保護委員会、刑務所、少年院、拘置所の役割と児童相談所について概説する。 【key words】 刑の執行指揮者　再犯防止　矯正教育　矯正処遇　被害者の視点 【授業概要】 検察官は刑の執行指揮を行っており、試行期間である保護観察所や地方更生保護委員会は事件処理等で連携している。この検察庁について説明する。また刑事施設である刑務所、少年院、拘置所の役割と国機関とのかかわりを説明。さらに児童相談所について説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ８７～９５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 検察庁の組織図、刑務所、少年院、拘置所の配置場所を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１１回	公共職業安定所・福祉事務所との連携　公共職業安定所、福祉事務所のあり方、民間団体とのかかわりを説明する。 【key words】 社会参加　総合就労支援対策　応急の救護 【授業概要】 犯罪や非行を行った者を社会に再統合していく有効な方法は、就労支援と言われている。また保護観察対象者が適切な医療、食事など健全な社会生活を営むために援護を必要とする。そのための公共職業安定所、福祉事務所のあり方を説明。また更生保護と民間団体とのかかわりを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ９６～１０２ 参考書：阿部彩著「貧困から社会排除へ―指標の開発と現状」海外社会保障研究、田島良昭「罪を犯した障害者の地域生活支援について」政策第119巻第8号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉事務所のこと調べること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１２回	医療観察法に基づく処遇　重大な他害行為を行った人の社会復帰を目的とする医療観察制度を概説する。 【key words】 心神喪失、心神耗弱　他害行為　精神保健参与 【授業概要】 心神喪失、心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った人の社会復帰を促進することを目的とした医療観察制度が平成17年に施行された。この制度では精神保健福祉士、社会福祉士の活躍が期待されている。これについて説明。また、生活環境の調査を本人の社会復帰の促進のために行うことについても説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１０４～１１０ 参考書：松下正明他著【司法精神医療」中山書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 医療観察法、精神保健福祉法の該当条項を確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第１３回	地域社会における処遇、関係機関との連携　医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携について概説する。 【key words】 ケア会議　精神保健観察　処遇の実施計画 【授業概要】 本人の円滑な社会復帰を促進するためには地域社会における処遇の3要素ともいえる医療、精神保健観察、援助が統一的な方針のもとで、適正かつ円滑に実施されることが大切である。またそのための指定通院医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携について説明

	【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１１１～１１５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分 第１４回　社会復帰調整官等の業務の実際　専門知識を有する社会復帰調整官の業務の実際を説明する。 【key words】 精神保健審判員　精神保健参与　処遇実施計画 【授業概要】 平成15年に成立した医療観察法において社会復帰調整官が成立した。保護観察所において精神障害者の保健及び福祉に関する専門知識を有する者が社会復帰調整官として活躍している。この社会復帰調整官の業務の実際を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１３４～１４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会復帰調整官の配置の実際を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 50分 第１５回　更生保護の今後の展望　更生保護改革、国民・地域社会の理解の拡大、官民協働、保護観察の充実強化を概説する。 【key words】 再犯リスク　認知行動療法　処遇プログラム　証拠に基づく施策 【授業概要】 現在進行している更生保護改革を出発点として、問題点とされる国民・地域社会の理解の拡大、実効性の高い官民協働、保護観察の充実強化を中心に説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ14２～１５０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護改革の問題点を整理すること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 国家試験の過去・予想問題の小テストを実施する。 5回を超えての欠席は、定期試験の受験資格失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各授業内容の重要項目はその周辺の知識も得ておくこと。
オフィスアワー	講師室で授業後３０分
評価方法	定期試験、小テストを総合的に評価する。（目安）定期試験結果70%、小テスト30%
教科書	新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」中央法規出版
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　権利擁護と成年後見制度　　授業コード：2186

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在においても多くのものが用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず又は理解しなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り理解して、それを社会福祉の仕事、社会福祉士の資格の取得等に生かしてもらうことを目指す。 【到達目標】 ①憲法・行政法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ②成年後見制度につきその重要な概念、手続等を説明することができる。 ③成年後見に関連する事業、機関、団体、専門職につき重要な点を説明することができる。 ④権利擁護に関する実際の事案につき、分析、配慮等ができる。
授業の概要	相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えて行きたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、権利擁護と憲法Ⅰ（人権） 【key words】 基本原理　精神的自由　経済的自由　社会権 【授業概要】 基本的人権の保障につき、自由権と社会権の性質の違いを中心に説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P7～18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P19～26 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	権利擁護と憲法Ⅱ（統治） 【key words】 権力分立　国会　内閣　裁判所 【授業概要】 権力分立を基礎に国会、内閣、裁判所について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P19～26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P27～33　P44～45 【予習復習に必要な想定時間】

60分

第３回　権利擁護と行政法Ⅰ（行政組織、行政活動）

【key words】
行政主体　行政行為　行政手続
【授業概要】
行政主体、その行う行政行為の意義・種類・効果、それをチェックするための行政手続について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
P27～33　P44～45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P33～44
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　権利擁護と行政法Ⅱ（行政救済）

【key words】
行政不服審査　行政事件訴訟
【授業概要】
行政権行使に対する救済方法としての国家賠償、損失補償、行政不服審査、行政事件訴訟について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
P33～44
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P46～63
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　権利擁護と民法Ⅰ（契約など）

【key words】
契約　不法行為
【授業概要】
契約の成立、内容、効果、解除等を説明する。
契約がなくても法律関係の生じる不法行為も説明をする。″

【教科書ページ・参考文献】
P46～63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P64～75
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　権利擁護と民法Ⅱ（親族・相続）

【key words】
婚姻　親子　相続　遺言
【授業概要】
近しい関係にある人との法律関係として、婚姻、親子、相続、遺言について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
P64～75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P78～85
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　成年後見の概要

【key words】
成年後見制度　成年被後見人　後見開始の審判の申立
【授業概要】
成年後見制度（法定・任意）について説明する。
法定後見の一つである成年後見につき、対象、申立等を説明する。″
【教科書ページ・参考文献】
P78～85　P108～122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P86～93
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　保佐の概要

【key words】
被保佐人　保佐人　権限付与の申立
【授業概要】
補佐につき、対象、申立等を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
P86～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P86～93

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　補助の概要

【key words】
被補助人　補助人　権限付与の申立
【授業概要】
補助につき、対象、申立等を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P86～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P94～102
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　法定後見制度の手続等、任意後見制度

【key words】
欠格事由　行為能力　資格制限　鑑定　登記　任意後見契約　代理権
【授業概要】
後見人等の欠格事由を説明する。
成年被後見人等の行為能力・資格制限等について説明する。
鑑定、登記といった法定後見制度の手続について説明する。
任意後見について、その利用形態、手続、効力等を説明する。
日常生活自立支援事業について、その目的、内容、成年後見制度との連携等を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P94～102　P103～107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業、

【key words】
日常生活自立支援事業　成年後見制度利用支援事業
【授業概要】
成年後見制度利用支援事業につき、　その主旨、内容、課題力等を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
P124～132　P134～164
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P166～186
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　権利擁護にかかわる組織・団体、権利擁護にかかわる専門職の役割

【key words】
家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会　弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ
【授業概要】
権利擁護にかかわる組織、団体として、家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会等につき説明する。
権利擁護にかかわる専門職として、弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ等につき説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P166～186
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P188～233
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　権利擁護活動の実際Ⅰ（成年後見活動の実際・権利擁護活動の実際）

【key words】
成年後見制度の利用　クーリングオフ　市町村長申立て　児童虐待
【授業概要】
権利擁護活動の実際として、教科書の事例を題材にその対処例を提示・検討する。

【教科書ページ・参考文献】
P188～233
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P78～122
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　権利擁護活動の実際Ⅱ（ＤＶＤ鑑賞）

【key words】
成年後見制度　根抵当
【授業概要】
成年後見制度に関するＤＶＤを鑑賞し、その実際と手続の概要を見てもらう。

【教科書ページ・参考文献】
P78～122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P7～233
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　まとめ

【key words】

	憲法　行政法　民法　成年後見制度 【授業概要】 権利擁護と成年後見制度に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 P7～233 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員編「権利擁護と成年後見制度（新・社会福祉士養成講座19）」中央法規
参考書	六法（例：ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房，2018年） 森長秀 編著「法学入門」光生館，2015年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 就労支援サービス　　授業コード： 2187

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 障害者世帯や母子世帯、生活保護受給世帯等の低所得者を中心とする就労の現状及び就労支援等の実状を把握し、労働を取り巻く状況やそれらを調整するための支援について学習する。 【到達目標】 ①労働の権利性について理解し、言語化できる。 ②労働の意義及び労働を支えることの意義を理解し、言語化できる。 ③相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解し、説明できる。 ④就労支援組織と専門職の機能について理解し、概要について説明できる。 ⑤就労支援を実施する上での連携について理解し、個別のケースに応じた支援方法を想定できる。
授業の概要	労働は、一般市民としての権利である。生活を営む上でも重要な要素であるこの権利を全うするため、様々な支援施策が展開されており、社会福祉専門職としてもそれらの支援を担う人材が期待されている。 この授業では、①就労と就労支援の意義、②労働市場の動向、③労働法規の概要、④就労支援制度の概要、⑤就労支援サービスの実施体制、⑥就労支援を取り巻く各分野（労働、福祉、教育など）における連携と実際、これらの内容を中心に「就労」について社会福祉士が携わることの意義や目的を踏まえ学習を進める。 随時、授業中にその回の主題となるテーマについて受講者の発言を求める場合がある。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション　講義の目的、到達目標、評価方法等の理解 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・現行の社会福祉士養成カリキュラムのなかでの“就労支援サービス（本授業科目）”の位置づけを理解するとともに、この科目を学ぶことの意味について考える。 ・ソーシャルワークのグローバル定義、地域共生社会の実現、社会福祉士養成カリキュラムの改定などを概観し、今後、社会福祉士に期待されることについて考える。 ・就労支援サービス（本授業科目）のなかで学んでもらいたい（考えてもらいたい）ことなどを説明する。 ＜授業概要＞ ・社会福祉士のカリキュラム（就労支援サービスの位置づけ） ・社会福祉士養成のなかで、就労支援サービスを学ぶ意味 ・これからの社会福祉士に求められること①（社会福祉士の現状） ・これからの社会福祉士に求められること②（授業に望むことのメッセージ） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第２回　労働の意義　働く事の意味、労働の権利と義務との関係性、社会福祉士の役割

【key words】
・労働の意義，動機づけ，キャリア発達
【授業概要】
＜授業の目標＞
・就労の意義は“生計の維持”、“社会的役割の実現”、“個性の発揮”など多義的であることを理解する。
・就労の場において、労働者がその持てる個性を発揮するためには、仕事に対する“動機づけ”が重要であることを理解する。
・人間は生涯を通して、多様な役割を果たしつつ、“キャリア発達”していくことを理解する。
・就労支援のプロセスを理解する。
＜授業概要＞
・労働の多面的な意義
・動機づけ
・キャリア発達と就労支援
・就労支援のプロセス
【教科書ページ・参考文献】
・就労支援サービス（弘文堂）p1-p16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「労働の意義等」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　現代の労働を取り巻く状況　労働市場の変化

【key words】
・労働市場，雇用課題
【授業概要】
＜授業の目標＞
・労働力の概念や労働指標を通じて、労働市場の動向をみる基礎を学ぶ。
・今後も人口減少が進む中、就労支援の経済的意義も考える。
・産業別、職業別の就業者数の動向と特徴を考える。
・様々な日本の雇用課題を理解する。
・雇用、生活をめぐる新しい概念をみることで、あるべき労働の姿を考える。
＜授業概要＞
・労働市場の動向
　・就業状態の把握と労働指標
　・労働市場の変化
・労働をめぐる課題
　・非正規雇用の増大、長時間労働、など
　・労働をめぐる新たな概念
【教科書ページ・参考文献】
・p10-p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「現代の労働を取り巻く状況等」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　労働に関する法律と制度

【key words】
・労働法規
【授業概要】
＜授業の目標＞
・労働法規として、労働三法や労働三権について、労働契約について、労働紛争解決制度の動向について理解する。
・労働に関する公的保険として、労働災害補償保険法（労災保険法）と雇用保険法の概要を理解する。
・就労支援にかかる主な法律として、雇用対策法、職業安定法、職業能力開発促進法、最低賃金法、短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律の概要を理解する。
＜授業概要＞
・労働法規の動向
・労働に関する公的保険
・就労支援にかかる主な法律
【教科書ページ・参考文献】
・p19-p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「労働に関する法律と制度」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　障害者と就労支援①　障害者の就労の現状

【key words】
・授産事業，障害者総合支援法，障害者雇用制度
【授業概要】
＜授業の目標＞
・わが国における授産事業の歴史、その後の障害者雇用の概要を理解する。
・障害者の就労支援に関する、厚生省、労働省それぞれにおける就労支援、そして厚生労働省発足後の、就労支援について理解する。
・旧制度（自立支援法以前）の就労支援の課題、そして、障害者自立支援法（現、障害者総合支援法）における就労支援について理解する。
・就労支援にかかる諸制度と、現在の障害者雇用の状況について理解する。
＜授業概要＞
・職業補導事業－授産
・厚生省と労働省
・就労支援施策の統合機運

・障害者総合支援法と就労支援
・就労支援にかかる諸制度
・障害者雇用の状況
【教科書ページ・参考文献】
・p34-p43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者の就労の現状」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　障害者と就労支援②　障害者福祉施策における就労支援
【key words】
・就労移行支援事業，就労継続支援（A型・B型）事業
【授業概要】
＜授業の目標＞
・福祉分野のサービス体系と、障害者の（就労）支援において大切なポイントを理解する。
・障害者総合支援法における就労支援（就労移行支援事業、就労継続支援A型事業、就労継続支援B型事業）について、それぞれの違いを意識しながら理解する。
＜授業概要＞
・福祉分野のサービス体系
・障害者の就労支援において大切なこと
・福祉分野のサービス組織
・福祉施策と雇用施策の連携
【教科書ページ・参考文献】
・p44-p50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者福祉施策における就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　障害者と就労支援③　障害者雇用施策における就労支援
【key words】
・障害者雇用促進法
【授業概要】
＜授業の目標＞
・障害者雇用促進法の内容について、その主な内容である、①障害者雇用率制度（雇用義務制度、納付金制度）、②職業リハビリテーションを理解する。
・雇用サービスの組織、団体について、①ハローワーク、②障害者職業センター、③職業能力開発施設を理解する。
・雇用支援の具体的な内容を（なんとなく）理解する。
＜授業概要＞
・雇用分野のサービス体系
・雇用分野のサービス組織と団体
・雇用支援の内容
【教科書ページ・参考文献】
・p51-p65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者雇用施策における就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　障害者と就労支援④　特別支援学校における就労支援・民間の取り組み
【key words】
・特別支援学校，民間企業，CSR，SDGs，ソーシャルファーム
【授業概要】
＜授業の目標＞
・特別支援学校における就労支援について、特に、対象となる障害別の取り組みについて、その概要を理解する。
・特別支援学校における就労支援において、“個別の教育支援計画”の必要性や有効性について理解する。
・民間企業で働く障害者の現状（一般企業に雇用されている障害者数の推移など）を理解する。
・企業の社会的責任（CSR）やSDGs、社会的企業（ソーシャル・エンタープライズ）について（なんとなく）理解し、（可能であれば）自分なりの意見をもつ。
＜授業概要＞
・特別支援学校における就労支援、
　・特別支援学校の現状、
　・特別支援学校での就労支援、
　・移行期での連携と個別の教育支援計画、
・民間の取り組み、
　・民間企業で働く障害者の現状、
　・CSR、SDGs、社会的企業（ソーシャルファーム）
【教科書ページ・参考文献】
・p66-p80
・沖大幹，ほか（2018）『SDGsの基礎』，東英弥
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「特別支援学校における就労支援・民間の取り組み」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　障害者と就労支援⑤　諸外国の取り組み
【key words】
・IPS，EBP，フィデリティ
【授業概要】
＜授業の目標＞
・IPS（Individual Placement and Support）について（なんとなく）理解する。
・特に、IPSと従来の職業リハビリテーションサービスの違いについて理解し、説明できるように

		なる。 ・そのうえで、我が国の就労支援の現状や課題について、受講生それぞれが自分なりに考えることができるようになる。 ・EBP（Evidence-Based Practices）やフィデリティ尺度について（なんとなく）理解する。 ＜授業概要＞ ・IPS（Individual Placement and Support）とは何か、 ・IPSの理念、 ・DVD（IPSを学ぶ）、 ・Japan Individual Placement and Support Association（JIPSA）とフィデリティ尺度 【教科書ページ・参考文献】 ・デボラ・D・ベッカー，ロバート・E・ドレイク（2004）『精神障害をもつ人たちのワーキングライフーIPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド』，金剛出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第10回	低所得者と就労支援①　低所得者等の就労の現状 【key words】 ・生活保護受給世帯，ひとり親世帯，ホームレス，生活困窮者 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・生活保護受給世帯の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。 ・母子世帯（ひとり親世帯）の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。 ・ホームレスの現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。 ・生活困窮者の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。 ＜授業概要＞ ・低所得者の就労を学ぶ意味 ・生活保護受給世帯 ・母子世帯 ・ホームレス ・生活困窮者 【教科書ページ・参考文献】 ・p90-p99 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「低所得者等の就労の現状」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第11回	低所得者と就労支援②　生活保護受給世帯への就労支援 【key words】 ・自立，生活保護制度，自立支援プログラム 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・生活保護制度において“自立”という概念がどう変化してきたのか、現在は“自立”をどうとらえているのかを理解する。 ・自立支援プログラムの概要について理解する。 ・生活保護法による就労支援について、特に、①生活保護受給者等就労自立促進事業、②被保護者就労支援事業、③被保護者就労準備支援事業、を中心に理解する。 ＜授業概要＞ ・社会保障制度の目的と機能 ・生活保護制度における自立概念の再検討 ・自立支援プログラムの導入 ・生活保護法による就労支援の実際 　・生活保護受給者等就労自立促進事業 　・被保護者就労支援事業 　・被保護者就労準備支援事業 　・その他生活保護制度における就労支援の取り組み 【教科書ページ・参考文献】 ・p100-p113 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「生活保護受給世帯への就労支援」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第12回	低所得者と就労支援③　母子世帯への就労支援 【key words】 ・ひとり親世帯 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・母子及び父子ならびに寡婦福祉法や児童扶養手当法が改正され、ひとり親家庭の就労支援施策が充実してきた経緯を理解する。 ・ひとり親世帯を支援する様々な事業について（なんとなく）理解し、そのうちのいくつかは、自分の言葉で説明できるようになる。 ・ひとり親世帯を対象とした就労支援において、どのようなことが大切なのか、各々に考えてみる。 ＜授業概要＞ ・母子世帯の年間就労収入の状況 ・就労支援の実際 　・母子及び父子ならびに寡婦福祉法、児童扶養手当法等による就労支援 　・母子家庭等就業・自立支援事業 　・母子・父子自立支援プログラム策定事業 　・自立支援教育訓練給付金 　・高等職業訓練促進給付金 　・専門実践教育訓練給付金および教育訓練支援給付金

・ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業
【教科書ページ・参考文献】
・p114-p122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「ひとり親世帯への就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　低所得者と就労支援④　ホームレス・生活困窮者への就労支援
【key words】
・ホームレス，生活困窮者
【授業概要】
＜授業の目標＞
・ホームレスの自立支援に対する基本的な方針と、具体的な施策（とりわけ、就労支援に関するもの）について理解する。
・生活困窮者自立支援制度における基本的視点について理解する。
・生活困窮者自立支援制度に規定される事業（自立相談支援事業、住居確保給付金、就労準備支援事業、認定就労訓練事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、学習支援事業）について理解する。
＜授業概要＞
・ホームレスへの就労支援
　・ホームレスの自立支援対策と就労支援
　・ホームレスの自立に向けた施策と今後の展望
　・ビッグイシュー
・生活困窮者への就労支援
　・生活困窮者自立支援制度の基本的視点
　・生活困窮者自立支援制度における具体的支援
　・就労支援を展開するにあたっての今後の課題
【教科書ページ・参考文献】
・p123-p137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「ホームレス・生活困窮者への就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　専門職の役割と実際①　障害者福祉施策・障害者雇用施策における専門職の役割
【key words】
・障害者福祉施策，障害者雇用施策
【授業概要】
＜授業の目標＞
・障害福祉施策における専門職（サービス管理責任者、就労支援員、職業指導員、生活支援員、障害者就業・生活支援センターの生活支援担当職員）の役割について理解する。
・障害者雇用施策における専門職（ハローワークの職員、職業カウンセラー、障害者就業・生活支援センターの就業支援担当職員、ジョブコーチ、職業訓練指導員）の役割について理解する。
＜授業概要＞
・障害者福祉施策における専門職の役割
　・サービス管理責任者
　・就労支援員
　・職業指導員
　・生活支援員
　・障害者就業・生活支援センターの生活支援担当職員
・障害者雇用施策における専門職の役割
　・ハローワークの職員
　・障害者職業カウンセラー
　・障害者就業・生活支援センターの就業支援担当職員
　・職場適応援助者（ジョブコーチ）
　・職業訓練指導員
【教科書ページ・参考文献】
・p138-148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者福祉施策・障害者雇用施策における専門職の役割」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　専門職の役割と実際②　低所得者等の就労支援における専門職の役割・その他の就労支援従事者
【key words】
・低所得者等の就労支援
【授業概要】
＜授業の目標＞
・低所得者等の就労支援における専門職（生活保護の就労支援員、福祉事務所の就労支援コーディネーター、福祉事務所の総括コーディネーター、ハローワークの就労支援ナビゲーター、生活困窮者自立支援制度における支援員）の役割を理解する。
・特別支援学校の進路指導担当者、企業の従業員、発達障害者支援センターの就労支援担当職員、などを（なんとなく）理解する。
＜授業概要＞
・低所得者等の就労支援における専門職の役割
　・生活保護の現業員
　・福祉事務所の就労支援員
　・福祉事務所の就労支援コーディネーター
　・福祉事務所の総括コーディネーター
　・ハローワークの生活保護受給者等就労支援ナビゲーター
　・生活困窮者自立支援制度における支援員
・その他の就労支援の従事者
　・特別支援学校の進路指導担当者
　・企業の従業員
　・発達障害者支援センターの就労支援担当職員

	・その他の専門職 【教科書ページ・参考文献】 ・p149-157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「低所得者等の就労支援における専門職の役割・その他の就労支援従事者」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	この科目の指定テキストを一読し、分からない用語は事前に調べておくこと。また、授業中には受講者に対して授業の主題や視聴覚教材に対する発言を求める場合がある。受講者同士の相談等は認めるものの、他の受講者の迷惑にならないよう配慮すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	本科目は、社会福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。また、就労支援を必要とする人々を支援するためには、労働関係法規や就労支援に係るサービスだけでなく、障害者や母子家庭、低所得者支援施策に関する知識も実務レベルで求められる。 したがって、この科目だけでなく「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」や「低所得者に対する支援と生活保護制度」等の専門科目で学習した内容を復習することが必要となる。 なお、予習や復習の範囲については、授業時間中に指示する。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①定期試験40% ②提出物や課題40% ③授業への取り組み（授業内での発言等）20%
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座18　就労支援サービス』中央法規（最新版）
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： アクティビティ・サービス援助技術　　授業コード：2252

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
清水　久二雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	福祉サービス利用者の心身と生活の活性化を支援するための知識・技術を身につけるとともに、社会人としての人間性の向上と教養を体得し、まず福祉サービスの担い手として国家資格の取得を第1の目的とし、さらにその資格を補強するアクティビティ・ワーカー資格取得を目指すことを到達目標とする。
授業の概要	近年、福祉施設や医療機関だけでなく日常の生活の中に『アクティビティ』という言葉が使われますが、その正しい意味と使い方について理解を深めるとともに、『人間の尊厳』『自立支援』『その人らしい生き方とは』『高齢者の生きてきた道』などの言葉の意味と内容について、講義と演習により学習する。時には昔の歌を歌ったり、有名な映画や歴史的なDVD を鑑賞したりする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテーション：履修上の注意と講義の進め方と受け方について説明します。 第２回　導入の話「なぜアクティビティ・サービスなのか」 第３回　レクリエーションからアクティビティ・サービスへ 第４回　アクティビティ・サービスの定義 第５回　アクティビティ・サービスの効果と対象について 第６回　お年寄りと自分の人生の比較 第７回　高齢者の知っている歌と文化を知る 第８回　アクティビティ・サービスと介護過程 第９回　高齢者を理解する 第１０回　高齢者の生きがいについて 第１１回　DVD鑑賞『認知症に効果的な音楽療法』

	第１２回　　生活支援学とは 第１３回　　生活支援学としてのアクティビティ・サービスとは 第１４回　　日本におけるアクティビティ・サービスの誕生 第１５回　　アクティビティ・サービスとICFについてと前期のまとめ 第１６回　　後期オリエンテーション 第１７回　　アクティビティ・サービスの計画 第１８回　　アクティビティ・サービス計画上の留意点と具体的な立案法（1） 第１９回　　アクティビティ・サービス計画上の留意点と具体的な立案法（2） 第２０回　　アクティビティカレンダーの作成上の留意点 第２１回　　グループワーク『カレンダーの作成』 第２２回　　グループ発表 第２３回　　ユーモアとは何か・DVD鑑賞『チャップリンの映画』（前編） 第２４回　　ユーモアとは何か・DVD鑑賞『チャップリンの映画』（後編） 第２５回　　グループワーク『テキストの演習課題について話し合う』 第２６回　　有名なDVD鑑賞（前編） 第２７回　　有名なDVD鑑賞(後編) 第２８回　　アクティビティ・ワーカー資格取得のレポート作成法について 第２９回　　アクティビティ・サービスと死について考える 第３０回　　アクティビティ・サービスのまとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	私語を慎み、積極的な受講態度を評価する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	日頃より高齢者、障害者に関する新聞記事やTV番組などに興味をもつことを心がける。
オフィスアワー	原則として講義の前後
評価方法	定期試験60％、授業態度、小テスト、提出物等40％で総合的に評価する。
教科書	新訂アクティビティ・サービス(中央法規出版・.2014)
参考書	講義中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　特設科目・論語　　授業コード：2301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・本学の特色は建学の精神に「仁」を据えていることである。「仁」とは他者を自分のように感じる心である。仁の精神を学ぶことにより、自己陶冶や他者への配慮といった、人格の絶えまざる向上を目指すものである。社会を担う人間にはある程度の社会倫理が要求される。“noblesse oblige”本講義では『論語』を通じて人としてどのように生きるべきか考えていく。 ・仁の実現のために孔子が重要視したものが「学習」である。そして学習の中心は古今東西「読書」であることに変わりはない。読書の習慣が身に付くか否かは、学生時代にかかっている。そのため、本講義では「読書」に関する様々な課題を出す。 【到達目標】 ・論語の内容を建学の精神との関りで他者に説明できる。 ・論語に現れる語彙を用いて自分の考えを説明できる。
授業の概要	・孔子の発言、あるいは孔子の弟子や当時の貴族との対話から、孔子が人間や社会にどのような関心を抱き、そして分析をしていたのか。当時の社会情勢を踏まえて説明していく。そのことにより孔子の考えていたことが我々にも共通する関心ごとであることが窺えよう。 ・講義では孔子に関する映画「孔子の教え」（放題）や中島敦「弟子」を併用していく。映画や小説を通じて、現代人が孔子をどのように捉えていたのかを読み解いていく。 ・内容理解を深めるために、抗議した個所を１００字から２００字程度でまとめる練習をしていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　論語概説 【key words】 論語　孔子　儒学 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明する。本学の建学の精神は『論語』で述べられている「仁」です。「仁」の理解を深めることで、人間そのものの理解を深めていきます。仁の説明の前に『論語』の来歴や孔子の人物について概説します。一つの書籍や人物が途絶えることなく、二千年以上読み継がれてきた所以を考えてみましょう。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P151、P152 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で孔子を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第２回	孔子の政治思想Ｉ 【key words】 徳治主義　修己治人 【授業概要】 孔子を祖とする「儒家」の政治思想は、一言で表すと「徳治主義」です。徳治主義とは、為政者

		が自己の身を正し、道徳性を高め、そのことにより周囲を感化・教導することが可能であると考える思想です。弟子たちや当時の貴族が孔子に政事（政治上の事柄）について尋ねています。孔子は政治をどのように考えていたのか。また（これは現在にも繋がりますが）政治と道徳の関係をどのように捉えていたのか考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で儒家を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第３回	孔子の政治思想Ⅱ 【key words】 正名 【授業概要】 孔子の政治思想を語る上で見逃せない言葉が一つあります。それが「正名」です。正名とは名実（名前と実態）がともなっているかどうかを図る思想です。名実の均衡がとれていないと国が乱れる原因になると孔子は考えています。この名実の考えは今の我々にも受け継がれていますし、哲学的問題としても議論がなされています。このことについて考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で正名・五倫・五常を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第４回	孔子の倫理思想Ⅰ 【key words】 孝　父母　身体 【授業概要】 芥川龍之介は「人生の悲劇の第一幕は親子となったことにはじまっている」（『侏儒の言葉』）と言っています。芥川の真意がどこにあるかは別として、人間は生れた瞬間に親子という関係が自然・必然的に発生します。この親子関係の情愛を重視したのが孔子です。孔子は親（父母）と子の関係をどのように考えていたのか考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P1、P6、P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で惻隠・羞悪・辞譲・是非・四端を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第５回	孔子の倫理思想Ⅱ 【key words】 仁 【授業概要】 孔子思想の中心をなすものは「仁」です。『論語』の中で仁について言及している箇所は６０以上ありますが、定義づけはなされていません。孔子自身によって場面場面でさまざまな意味合いが付されています。ここでは孔子自身によって「仁」がどのように展開されていったのか考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で仁・義・礼・智・信・を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第６回	孔子の学問観 【key words】 学　習　文献 【授業概要】 「学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。」これは『論語』開巻第一章の言葉であり、誰もが聞いたことのある言葉でしょう。儒家における「学」の重視は、まさに孔子から始まります。孔子にとって、「学」にはどのような意味が込められていたのか。また我々が学ぶ意義についても考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P1、P8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で学・習を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第７回	「弟子」1・2を読む 【key words】 子路　論語　中島敦 【授業概要】 今回より授業と平行して中島敦「弟子（ていし）」を読んでいきます。みなさんも中島の作品「山月記」（人間が虎になる話）は、高校の現代文の時間に読んだことがあるかと思います。その中島には『論語』を題材にした小説があるのです。それが「弟子」です。「弟子」は孔子より9歳年下の弟子である子路（しろ）の眼を通して、孔子と子路自身の変化を書いた小説です。第7回では子路の孔子への入門から（１）、孔子の下で学ぶ子路の姿を読んでいきます（２）。また子路の母への孝行についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」1・2 【課題・予習・復習・授業準備指示】

「弟子」1・2を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第８回　「弟子」3・4を読む
【key words】
子路　論語
【授業概要】
子路が街中を歩いていると、人々は孔子の噂をしています。それを聞いた子路はどうしたか（３）。孔子の学園では音楽を重視し、弟子たちに瑟（しつ）の練習をさせます。しかし子路の音は殺気にあふれています。それを聞いて孔子はどうしたのでしょう（４）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」3・4
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」3・4を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第９回　「弟子」5・6を読む
【key words】
子路　読書
【授業概要】
子路はよく孔子に怒られていますが、孔子は子路をどのように捉えていたのか（５）。孔子が政治の表舞台に立つと子路も師とともに出てきます。しかし孔子の活躍を隣国は恐れ策をめぐらします。母国の政治に失望した孔子は、子路をはじめ弟子たちとともに放浪の旅に出ます（６）。孔子と弟子の絆についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。読書に関する発表をしてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」5・6
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」5・6を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１０回　「弟子」7・8を読む
【key words】
天道　天命　読書
【授業概要】
「邪が栄えて正が虐げられるという・ありきたりの事実について」子路は疑問に思っている。と中島は子路をしてかく言わしめています。中島も抱いたであろうこの難題は、古代中国の歴史書『史記』の作者司馬遷も「伯夷列伝」に「天道是か非か」と記しています。ここでは「弟子」の他に「伯夷列伝」も視野にいれて考えていきます（７）。孔子の門下は多士済々です。子路以外の弟子の様子も読んでいきましょう（８）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。読書に関する発表をしてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」7・8
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」7・8を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１１回　「弟子」9・10を読む
【key words】
放浪
【授業概要】
孔子は諸国放浪中、衛の国の為政者とたびたび面会していますが、孔子は受け入れられるのか（９）。また放浪中の孔子と弟子の集団はしばしば危険な目に遭いますが、そのような時でも孔子は泰然自若としています。その様子を見た子路はどうしたでしょうか（10）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」9・10
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」9・10を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１２回　「弟子」11・12を読む
【key words】
隠者　道　心
【授業概要】
放浪中の孔子師弟はさまざまな種類の人間に会います。その中でも逸民（世間を逃れ隠れ住んでいる人）との対話が眼を引きます。『論語』微子篇にその様子が記されていますが、これを題材に中島は小説「弟子」の一齣に入れます。逸民の態度に孔子や子路は自分たちの考えをどう伝えるのか、読んでみましょう。また「道」という言葉の持つ意味について夏目漱石の『心』からも考察してみましょう（11）。孔子に心酔している子路ではありますが、そんな子路にも師孔子への不満はあります。どういう不満なのでしょうか（12）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」11・12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」11・12を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１３回　「弟子」13・14を読む
【key words】
政事

	【授業概要】 孔子師弟の放浪は１４年に及びます。その間、子路は孔子から離れずついていき成長していきます（13）。子路は衛の国に乞われ仕官することになりました。これは表舞台で政治に携わることを意味します。政治家子路の誕生です。子路の手腕を読んでいきましょう（14）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」13・14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」13・14を読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第１４回　「弟子」15・16を読む 【key words】 君子 【授業概要】 子路の名声は諸国に鳴り響くようになりましたが（15）、子路は衛の国の内乱に巻き込まれてしまいます。衛の内乱を伝え聞いた孔子は「由や死なん（子路は死ぬだろう）」と発言しました（16）。果たしてどうなるのか、最終章を読んでみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」15・16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」15・16を読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第１５回　『論語』と儒家思想の展開ー孟子を例にー 【key words】 鰥　寡　孤　独　惻隠の心 【授業概要】 孔子の歿後、孔子の教えは弟子たちによって諸国に広められていきます。孔子の教えを受け継いだ者たちの中で、現在にも伝わっているのが孟子と荀子の思想です。ここでは、孔子の倫理思想の展開として『孟子』の中から「仁義」「鰥寡孤独（かんかこどく）」と「惻隠の心」を取り上げ、孔子の思想がどのように展開したのか跡を追っていきます。また孟子の思想について考察していきます。 プリントを配布します。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 孟子の性善説について説明できるよう調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を問いかけながら、積極的に参加すること。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めません。また注意しても態度を改めない者（講義中のおしゃべり・居眠り等）には、退室を命ず。 ・不明な用語の当たったら、辞典類で調べること。 ・この講義では毎回受講生にも、講義内容について意見を表明したり、学生同士で議論をしてもらう。また課題について自分で調べてもらう。 ・日頃より古典をはじめとした人文学に親しみ、読書の習慣を取得すること。人生において読書の習慣が身に付くか否かの最後の年になろう。学生時代に読書が習慣化されなかったならば、恐らく一生涯読書の習慣が身に付くことはないであろう。したがって、読書に関する課題や発表等を課す。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・『論語』を代表とする古典に親しみ、古人の思考に触れ、人文学における学問様式を理解するように努めること。 ・授業計画に示されている部分を必ず一読してから授業に臨むこと。
オフィスアワー	火曜日16時から18時
評価方法	定期試験60%、レポート20%、発表20%
教科書	鈴木利定監修／中田勝編著『注解書下し論語全文』明治書院
参考書	金谷治訳注『論語』（岩波文庫）吉田賢抗著『論語』（明治書院、1960年5月）渋沢栄一『論語と算盤』（2008年10月、角川ソフィア文庫）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　卒業論文　　授業コード：2952　2953　2954　2955　2956　2957

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	選択
担当教員			
担当教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 卒業論文の作成を通して問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。 〔到達目標〕 論文作成
授業の概要	これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを立て、探求する活動を実践する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践し論文としてまとめる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 教員（主な研究領域） 大島由之（臨床心理学・精神的健康） 柳澤充（マイノリティー・福祉問題） 新藤健太（障害福祉・ソーシャルワーク） 鈴木淳（障害児者支援臨床・医療心理） 真下潔（児童福祉・聴覚言語障害） 川端奈津子（発達障害・インクルーシブ保育） 大野俊和（社会心理学・教育社会心理学）※2019年度休講 上記教員が個別的に指導を行う。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。 授業内容：論文執筆に関する指導 〔留意事項〕 履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、上記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。なお、「主な研究領域」は担当教員の主な専門領域を示しており、卒業論文のテーマを制限するものではない。 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回

	第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）
授業外時間にかかわる情報	各担当教員から指示する。
オフィスアワー	各担当教員による指示に従うこと。
評価方法	担当教員からの個別指導の履行状況：50%、執筆論文：50%
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　福祉事務所運営論　　授業コード：3041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	２単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
新木　恵一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　行政組織の仕組み、そこで働く専門職の実態について理解を深め、「福祉事務所」の制度や社会福祉主事等の専門職員の役割を理解する。
授業の概要	福祉事務所の組織や機能、歴史と関連法制度など概要を理解し、特に行政組織の仕組みやそこで働く専門職員の実態から、福祉事務所運の今日的課題等を学ぶものである。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	授業のすすめ方、福祉事務所運営 【key words】 社会福祉行政の実施主体となるのが福祉事務所である 【授業概要】 社会福祉サービスに関することの中心となる機関である福祉事務所について学ぶための基本的事項を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 － 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉事務所の存在を確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	福祉事務所を取り巻く環境の変化 【key words】 福祉ニーズと社会福祉サービスの特徴を知るとは 【授業概要】 福祉事務所を取り巻く環境の変化。社会福祉の目的や時代によって変化する福祉ニーズについて知る。また、福祉サービスの基本である地域性・総合性・迅速性とは何かについても考察する。 【教科書ページ・参考文献】 P1～4 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉サービスにおける地域性とは何か考察しておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	社会福祉の目的、福祉事務所運営について 【key words】 社会福祉推進の要であり、第一線機関である福祉事務所を包括的に知る 【授業概要】

社会福祉の目的や使命、自立支援や社会統合を推進する福祉事務所の役割と目的。更には、福祉事務所における実施責任と実施権限。また、業務執行体制等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P5～14
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実施責任と権限について考察しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第４回　福祉事務所の成立と歴史的展開
【key words】
福祉事務所の大きな役割は国民のセーフティーネット実践の最前線機関である。
【授業概要】
セーフティネットの中心となる困窮対策の流れを時代考証し、恤救規則や救護法、旧生活保護法や現在の生活保護法に至る経緯を学ぶとともに、福祉事務所の設置に至る法整備の状況についても検証する。
【教科書ページ・参考文献】
P15～35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
我が国の困窮対策の歴史的流れを考察しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第５回　福祉事務所制度の展開　創設期から発展期まで
【key words】
福祉事務所の成立時から時代によって業務内容が変化してきた
授業概要　福祉事務所運営指針　福祉事務所の組織と業務の今日的課題
教科書頁　63～84
【授業概要】
社会福祉事業法の制定により新婚対策を中心業務とした福祉事務所が昭和２６年に設置されたが、その後の社会情勢の変化により様々な業務が付与された。その流れを歴史的に把握する。
【教科書ページ・参考文献】
P35～44
【課題・予習・復習・授業準備指示】
年代別に福祉事務所業務の整理を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　福祉事務所制度の展開　見直し期の現状と関係法について
【key words】
社会の変化により福祉事務所の機能も大きく変化する。その実態を整理する

【授業概要】
社会経済等の状況の著しい変化により、国民の生活課題はより幅広いものとなった。そうした中、福祉事務所の業務もそれに伴って大きく変化してきた。特に、社会福祉基礎構造改革により市部と郡部の福祉事務所業務は大幅に見直されたことからその実態について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P44～50（基本法改正）　P157～176（法制度）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
市部と郡部の福祉事務所の役割の変化について整理しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第７回　福祉事務所の業務と組織
【key words】
福祉事務所の具体的な組織や業務及び運営指針を知る

【授業概要】
福祉事務所の設置根拠。所掌事務や組織、所員や専門職種の配置状況。更には、福祉事務所運営の基本となる運営指針とともに、今日的課題についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P51～70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
福祉事務所の今日的課題について考察しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第８回　福祉事務所と関係社会資源との連携
【key words】
社会資源との連携の意義・目的は利用者の生活向上のため

【授業概要】
地域等の設置されている各種の関連機関との連携はクライエントの幸福を確保するうえで大きな役割を果たす。そういった機関等について具体的に例示しその役割を知り・理解して対応することが重要である。また、公的機関だけでなく民間の関係団体があることからその実態についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P71～84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
民間機関の行っている支援について具体的な事項を調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
240分

第９回　福祉事務所の運営と民生委員の役割
【key words】
民生員制度の歴史は100年を超えており、民間の福祉推進協力者としての役割は大きい

【授業概要】
民生委員と行政の係わりや福祉事務所との関係（役割）等について学ぶとともに、民生委員活動の実態についても学び、福祉事務所の協力機関としての民生委員（児童委員）の果たす役割を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P85～92
【課題・予習・復習・授業準備指示】
民生委員・児童委員の役割について法的理解も含めて検証しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１０回　福祉事務所の専門職員とその役割

【key words】
福祉事務所には様々な専門職が配置され、住民の相談支援にあたっている

【授業概要】
住民が生活上の不安を抱えて相談に訪れる最初の窓口は福祉事務所であり、更には、その支援の中心的役割を果たさなければならない。そうしてことから様々な職種の福祉分野の専門職が配置されていることからその実態を把握するとともに、専門職に必要な研修・訓練等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P93～102
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　社会福祉主事の専門性と倫理

【key words】
専門職としての資格を有するとともに、その行動は専門職としての原理や倫理に基づいた行動が求められてる

【授業概要】
専門職として社会に受け入れられる要件とは何か、更に専門職が社会的に認知される大きな支柱となる倫理や原則はどのようなものかについて基本的な事項を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P103～128
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士の倫理について整理しておく
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１２回　社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開

【key words】
福祉サービスを提供し自立支援を行うためには専門的な援助技術を有していることが求められる

【授業概要】
社会福祉の専門職として社会福祉援助技術を有していることか基本要件である。その技術とはどういった機能があり役割を果たすのか、具体的な援助技術についてその歴史と体系、内容について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P129～156
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケアマネジメントとは何か考察しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１３回　福祉事務所における自立支援の事例

【key words】
対人援助における基本的なコンセプトと実践における最も重要な視点とは何か

【授業概要】
福祉事務所における自立支援の事例について、生活保護や高齢者、障害者、母子家庭等の分野別に検討をし、そこから何が必要なのかなどについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P177～194
【課題・予習・復習・授業準備指示】
身の回りの事例を自ら検討してみる
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１４回　福祉事務所の運営をめぐる課題と動向

【key words】
福祉事務所の運営を巡る課題や最近の動向などについてマクロ、ミクロ的視点からとらえる

【授業概要】
地方分権により福祉事務所の設置要件等が規制緩和されるなど福祉事務所をめぐる社会環境の変化は大きい。特に生活保護受給者の自立支援については不正受給防止のためにも積極的な対応が必要であり、そういった取り組みについて学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
P195～216
【課題・予習・復習・授業準備指示】
生活保護の不正受給の発生メカニズムについて応札しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
120分

	第１５回　　まとめ 【key words】 社会福祉推進の第一線機関として抱える諸課題等について整理するとともに、今後の在り方についても検討を試みる 【授業概要】 社会福祉基礎構造改革により多くの福祉サービスが市町村により主体的に行われることとなった。そういった中で、福祉事務所の果たしてきた役割や今後の在り方について総論的に学びを深める。 【教科書ページ・参考文献】 － 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで学修してきた中で、課題やそれに対する提言などを整理しておく 【予習復習に必要な想定時間】 120分
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。　授業の前に教科書は読んで予習をすること。学びを深めるためにアクティブラーニングを行うので積極的に参加すること。携帯電話は電源を切り机上に置かないこと。私語を慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	上記に示した授業以外の学修は、身近な行政機関、福祉事務所や福祉施設を訪れて学習するなど６０時間以上の授業外学修をすること。
オフィスアワー	月曜日　13：30～15：30　（この時間帯以外は予約により実施する）
評価方法	授業への取り組み姿勢(１０％)、レポート（４０％）試験（５０％）で評価する。
教科書	宇山勝儀/船水浩行編著　『福祉事務所運営論』　［第４版］　ミネルバァ書房　　2016年4月
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 福祉事務所に７年間勤務し現業員（ケースワーカー）業務を行うとともに、県庁福祉関係各課において福祉事務所業務の指導・監督等を長年行ってきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： カウンセリング　　授業コード：3182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
鎌田　依里			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師に代表される対人援助職の援助技法としてのコミュニケーション，カウンセリング技法やアセスメント結果や支援計画の伝達等について，その基本的技能と研鑽の方法について具体的な場面を想定したロールプレイを通じて理解し，一定の水準で技法を意図的に使用できるようになること。 ［到達目標］ ①カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得すること。 ②対人援助場面における「伝えること」に関する基礎的な技能を修得すること。 ③自分の「聴き方」「伝え方」の特徴を把握し，その振り返りと自己研鑽の計画が立てられるようになること。
授業の概要	対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き，その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉え、支援計画や情報を伝えることは重要な課題である。本講義では、こうしたコミュニケーションの基本的な技法について確認した上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」と「伝えること」の実践的なトレーニングを行う。講義は演習とロールプレイを中心に進める予定であり，受講生間でのロールプレイの実施、振り返り、記録の作成を通じて技能の習得を目指す。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約，カウンセリングとは 【key words】 カウンセリングの技法，理論的背景 【授業概要】 ・講師および授業内容の紹介，成績評価の説明 ・これまでに学んでいる相談援助技術と「カウンセリング技法」との関連について理解し，この授業での学びについてイメージを深める。 ・グループワーク等の試行。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：まえがき，p1-12. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	カウンセリング技法の理論的背景・効果・機能するための条件 【key words】 カウンセリング技法の大別，人間性中心理論，社会的影響条 【授業概要】 カウンセリングの技法の理論的背景，技法に期待される効果，技法がその機能を発揮するための条件について理解する。 【教科書ページ・参考文献】

教科書：p1-12.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第３回　クライエントの観察技法
【key words】
身振り，表情，生理反応や容姿，声と話し振り，スペースと時間
【授業概要】
カウンセリングの基盤となるクライエントの観察技法似ついて、非言語要素ごとの特徴とその検討について講義と演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p13-23.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：教科書p25-35を通読し、「傾聴技法」がどんな技法かを理解しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
10-15分

第４回　傾聴技法①全体説明と明確化
【key words】
傾聴技法，理解とフィードバック，ラポール形成，明確化
【授業概要】
カウンセリング技法の中心となる傾聴技法の目的を理解し，これから取り上げる4つの傾聴技法についてイメージを持つ。
その後，明確化技法についての講義・演習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p25-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　傾聴技法②明確化と感情反映
【key words】
明確化，感情反映，感情と生理的変化，感情の背景にある動機と欲求
【授業概要】
傾聴技法「明確化」と「感情反映」について講義・演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p27-35.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　傾聴技法③言い換えと要約
【key words】
思考と事実，発言の簡略化
【授業概要】
傾聴技法「言い換え」と「要約」について講義・演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p35-40.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　カウンセリング技法の訓練方法
【key words】
ロールプレイ、ロールテイキング、オブザーバー、映像による振り返
【授業概要】
カウンセリング技法の訓練方法について講義と演習を通じて理解を深める。模擬事例を用いたロールテイキングによる模倣学習や今後の受講生間のロールプレイで使用するクライエント役の準備などを行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp129-139.
参考書：氏原寛・藤田博康（2014）「ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ」創元社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　カウンセリング技法を実践・振り返る①傾聴技法
【key words】
ロールプレイ，明確化，感情反映，言い換え，要約
【授業概要】
これまでに取り上げた4つの傾聴技法を用いた模擬面接（ロールプレイ）を受講生間で実施し，傾聴技法の理解の度合いについて知識と実践から振り返る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p25-40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　活動技法①探索と矛盾提示
【key words】
活動技法、探索（開放型／閉鎖型），情報収集，クライエントの言動の不一致
【授業概要】
傾聴技法によるラポール形成の次の段階であるクライエントのより深い理解を目的としたカウンセリング技法として活動技法の紹介を行う。また，4つの活動技法のうち，探索と矛盾提示を取り上げ，講義と演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

	教科書p41-49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　活動技法②解釈と情報提供 【key words】 高度な共感，仮説の提起，心理教育，意図的応答 【授業概要】 活動技法「解釈」と「情報提供」について講義・演習を通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p49-58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示；録音・録画を次回行う可能性がある。適宜指示を受けること。 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　カウンセリング技法を実践・振り返る②傾聴技法と活動技法 【key words】 ロールプレイ，傾聴技法，活動技法 【授業概要】 これまでに取り上げた傾聴技法と活動技法を用いた模擬面接（ロールプレイ）を受講生間で実施し，それぞれの技法の理解の度合いについて知識と実践から振り返る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p25-40，41-58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　さまざまなカウンセリング技法 【key words】 リフレーミング，語調反射，自己開示，反復，沈黙 【授業概要】 これまでに学んだ傾聴技法，活動技法には分類されていない技法について，講義と演習を通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p59-80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　模擬面接①実施 【key words】 傾聴技法，活動技法，観察技法 【授業概要】 これまでに講義で取り上げた技法について各自の目標を設定し，模擬面接を行う。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実施した模擬面接の振り返り（例：遂語録またはワークシートなど）の完成 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　模擬面接②振り返り 【key words】 傾聴技法，活動技法，観察技法 【授業概要】 前回行った模擬面接の振り返りについてグループワーク等を行う 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　まとめ 【key words】 傾聴技法，活動技法，観察技法 【授業概要】 これまでの振り返りを行う 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・受講生間でロールプレイやグループワークを行う講義であるため，遅刻／欠席については厳密に連絡を行うこと。 ・携帯電話やタブレット端末等は講義中、指示があった場合を除き、原則として使用しないこと。個別の事情がある場合には、各回の講義開始前に申し出ること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・教科書を毎回持参すること。 ・授業で使用したワークシートを講義後半で振り返りに用いるため、フラットファイル等で各自保管すること。 ・模擬面接を録画したVTRや音声の保管が必要となる場合があるため，指示に応じてUSBメモリー等を用意すること。

	・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。 ・受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料やワークシートの再配布を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・各回の演習内容の振り返りをレポートとして課すため，授業内の指示に留意すること
オフィスアワー	初回に指示する。
評価方法	(1) レポート課題の提出：35% ・100%の提出で35点評価。また規定の方法で連絡のあった欠席のみ後日の提出を認める。 ・ルーズリーフ等、規定の用紙や様式以外の提出は評価の対象としないので留意すること。 ・ワークシートの形式では、指示された全ての欄に記述があることを条件とする。空欄や不足がある場合には評価の対象としない。 (2) 課題内容および授業内課題の取り組みの評価：65% 以下の2つの基準で評価を行う。なお最終レポートについても同様である。 基準①（7点）：指示に沿った内容の記述や考察が行われている。 基準②（3点）：レポートの体裁面の評価として、「誤字脱字なし」・「論文調の表現」・「文字数の規定」を評価する ；①②を満たして1つの課題あたり10点満点。 最終評価では総得点を100点満点に換算し、0.65をかけた値を評価点とする。
教科書	大谷 彰（著） カウンセリングテクニック入門 二瓶社（2004）.
参考書	氏原 寛・藤田博康（著） ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ 創元社（2014）.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談心理学　　授業コード：3321

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 対人援助職の中でも，公認心理師をはじめとした心理学の専門職が関わる心理的援助の具体的な活動や，そこで求められる知識・職責を理解すること。 【到達目標】 ①福祉，保健医療，教育その他の分野における心理職の役割，求められる倫理、法的義務等について説明できるようになる。 ②各分野における心理職の具体的な業務について例示できるようになる。 ③心理的支援を要する者等の安全を確保するための方法やその考え方、情報の適切な取り扱い方の留意点ついて具体的に述べることができ，各分野での相談援助活動での実践に関連づけることができるようになる。 ④心理職として求めらる知識・技術に関する自己分析や研鑽の方法について理解し，将来的な実践に沿って計画できるようになる。 ⑤心理職の立場から多職種間の連携や地域資源の活用の意義とその実践について説明できるようになる。
授業の概要	福祉，保健医療，教育等の領域で実践されている心理的支援やその業務の具体像を学び，それぞれの領域で求められる専門性や資格とその職責について理解することを目指す講義である。様々な領域における心理職やその支援の実際について座学と演習を通じて紹介する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 公認心理師，社会福祉士，精神保健福祉士 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。また、平成29年7月に施行された「公認心理師法」によって誕生した国家資格である公認心理師について紹介を行い、主な活動分野である保健医療・福祉・司法犯罪・教育・産業労働における相談活動の実際やそこでの役割についてグループワークを通じて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：野村れいか（2017）「病院で働く心理職；現場から伝えたいこと」日本評論社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートを完成させて次回授業時に持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 15-20分
	第２回	福祉，保健医療，教育等の領域における「心理職」の役割 【key words】 心理職の役割，相談，介助 【授業概要】 各領域における心理職の業務とその役割について，特に社会福祉士や精神保健福祉士，介護福祉

士との差異を中心に知識を学び，事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書
・鑪幹八郎 ・名島潤慈（2010）「心理臨床家の手引［第3版］」誠信書房
・福山清蔵（2006）改訂版「独習 入門カウンセリング・ワークブック」金子書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：グループワークの中で担当した事例への対応における倫理的問題への対応ついて調べてまとめ、次回持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
20-30

第３回　福祉，保健医療，教育等の領域における「心理職」の法的義務，倫理
【key words】
法的義務，倫理綱領，行動規範，信用失墜行為
【授業概要】
各領域の心理職に求められる法的義務・倫理について、特に福祉領域を例に，社会福祉士や精神保健福祉士，介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める
【教科書ページ・参考文献】
参考書：水野修次郎（2006）「最新カウンセリング倫理ガイド；APA倫理綱領対訳とAPA倫理綱領全文訳」河出書房新社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：グループワークの感想の作成
【予習復習に必要な想定時間】
15-20

第４回　相談をはじめとする心理的支援の場でどのようにクライエントの安全を確保するか
【key words】
インフォームド・コンセント、秘密保持、リファー、制限の設定、多重関係、治療契約
【授業概要】
各領域の心理職が行う相談活動に共通して求められるクライエントの安全確保のための手段や考え方について、社会福祉士や精神保健福祉士，介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書
・村本詔司（1998）「心理臨床と倫理」朱鷺書房,1998年
・津川律子・元永拓郎（2017）「心理臨床における法と倫理」放送大学教育振興会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させて次回授業時に持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
15-20

第５回　誰に・どこまで・何を？；心理的支援を行う上で得た情報の取り扱いと守秘義務
【key words】
守秘義務、警告義務、守秘義務の例外的状況
【授業概要】
各領域の心理職が行う相談活動に共通して求められる情報の取り扱いと守秘義務に関する留意点とジレンマについて、社会福祉士や介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書：水野修次郎（2006）「最新カウンセリング倫理ガイド；APA倫理綱領対訳とAPA倫理綱領全文訳」河出書房新社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回予習：福祉領域における相談に関する資料の通読
【予習復習に必要な想定時間】
10-15

第６回　福祉施設や障害者支援センターをはじめとする福祉領域における心理的支援の実際
【key words】
エンパワメント、権利擁護、アウトリーチ
【授業概要】
福祉分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
適宜指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：保健医療領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出
【予習復習に必要な想定時間】
10-15

第７回　病院をはじめとする保健医療分野における心理的支援の実際
【key words】
心理面接、心理査定、心理療法、緊急対応
【授業概要】
保健医療分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
適宜指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回予習：教育領域における相談に関する資料の通読
【予習復習に必要な想定時間】
10-15

第８回　学校や教育センターをはじめとする教育分野における心理的支援の実際
【key words】
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談
【授業概要】
教育分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面

		での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回予習：司法犯罪領域における相談に関する資料の通読 【予習復習に必要な想定時間】 10-15
	第９回	被害者支援センターや少年鑑別所等をはじめとする司法・犯罪分野における心理的支援の実際 【key words】 家庭裁判所調査官、心理技官、保護観察官 【授業概要】 司法犯罪分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回予習：産業労働領域における相談に関する資料の通読 【予習復習に必要な想定時間】 10-15
	第１０回	企業内健康管理センター等をはじめとする産業・労働分野における心理的支援の実際 【key words】 ストレスチェック、EAP、復職支援 【授業概要】 産業労働分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：5つの領域のうち、興味関心に応じて領域を1つ選び、社会福祉士／精神保健福祉士／介護福祉士との連携についてのレポート課題を実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 20-30
	第１１回	心理的支援を行う専門家としての自己課題の発見とその解決 【key words】 知識、技術、職業的ウェルビーイング、自己覚知 【授業概要】 各領域で心理職をはじめとした相談に関わる専門職に共通して求められる自己覚知と自己研鑽について知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：対人援助実践研究会HEART（2003）「77のワークから学ぶ 対人援助ワークブック」久美株式会社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：最終レポートのテーマの提示に沿って準備を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60-120
	第１２回	心理的支援を行う専門家としての生涯にわたって学び続けるために 【key words】 自己研鑽、ロールプレイ、スーパーヴィジョン、教育分析 【授業概要】 各領域で心理職をはじめとした相談に関わる専門職に共通して求められる自己研鑽についてスーパーヴィジョンとロールプレイ、教育分析などの手法についての知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：大谷 彰（2004）「カウンセリングテクニック入門」二瓶社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：配布された第10回レポートの冊子を熟読し、グループワーク時に他の学生がどのような考え／意見を持っているか分かるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 15-20
	第１３回	多職種と連携した心理的支援の実際 【key words】 チーム医療、チーム学校、リエゾン 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種の連携について知識を学び、それぞれの作成したレポートを教材としたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回	地域資源を活用した心理的支援の実際 【key words】 アウトリーチ、包括型地域支援、一次予防、二次予防、三次予防 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種が行う地域支援について知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回	まとめ

	【key words】 自己研鑽、生涯学習 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種が行う相談活動とそこで求められる資質とその向上について、各自が作成したレポートを用いたグループワークを通じて理解を深め、講義のまとめとする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・原則として、将来的に公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士等をはじめとした相談職としての活動を志望する者を対象とする講義である。 ・公認心理師の資格取得の必須科目である。興味を持つ学生は必ず受講すること。 ・受講の際は初回のオリエンテーションに必ず出席すること。また，やむを得ない理由で欠席する場合には事前に担当教員に申し出ること。 ・講義内での提出物や課題作成等を求める場合が多い。図書館の活用，コンピューター室の利用が可能なようにしておくこと。 ・講義内で上記の課題を教材として用いたグループワークを行う機会が多い点に留意すること。 ・補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・授業中は、講義に集中するため、原則として携帯電話、スマートフォン、タブレット端末は使用せず、マナーモード等にして卓上に置かないこと。何らかの事情で使用が必要な場合には各回の講義開始前に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	各回ごとに事前学習として事例や記事を配布し，その感想や自分なりの対応案をレポート課題として課すため，授業内での指示に留意すること。積極的かつ真摯な取り組むを望む。
オフィスアワー	初回に指示。
評価方法	授業ごとの小レポート課題：60%，学期末レポート課題または研究課題発表：40%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	なし
参考書	鑪幹八郎 ・名島潤慈（編著） 心理臨床家の手引［第3版］ 誠信書房 (2010) マリアン・コーリィ，ジェラルド・コーリー（著） 心理援助の専門職になるために；臨床心理士・カウンセラー・PSWを目指す人の基本テキスト 金剛出版 (2004)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　発達心理学特講　　授業コード：3331

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	福祉心理コース・選択
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ わが国では多くのメンタルヘルスの問題を抱えており、その解決は目社会全体の重要な課題である。医療・保険領域におけるチーム医療に参加する場合は言うまでもなく、福祉や教育などの他領域においても、適切な実践活動をするためには、精神医療の基本的な知識は必須である。心理学を健康づくりに応用するために、医療ではどの湯女視点が必要なのかを学ぶ。 ［到達目標］ ①健康心理学、医療心理学の特徴を説明することができる。 ②地域での心理学的視点での支援を理解できる。 ③多職種協働における患者中心の連携システムの特徴を説明できる。 ④生物・心理・社会的アセスメントの概略を説明できる。
授業の概要	主に保健医療関連分野における予防，治療，リハビリテーションに関する心理的支援を行うために必要となる心理学の基礎知識とその実践について理解することを目指す講義である。 ディスカッション：調べてきた内容・用語をグループで他者に説明し合う。また、違いや共通する側面について議論し、代表者が発表し、全体で共有することを授業の基本とする。 ミニテスト：授業の冒頭に前回授業内容のミニテストを実施して理解度を確認する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　及び健康心理学 【key words】 生活習慣病、疾病予防、行動変容、一字・二次・三次予防、健康日本21 【授業概要】 【講義の進め方】 ①出席の確認 ②ミニテスト ③テーマの確認 ④テーマについて、グループディスカッション ④次回までの課題提示(レポート等) 【講義の概要】 健康とは、心身両面の健やかさに留まらず、社会情勢や信仰などの個人の信念まで含めて、良好な状態を指す。我が国においても、国民の健康を保持増進する目的から、我が国固有の医療保険制度を確立してきた。その制度の維持等、を含めて健康と医療とは何かを考える。 【授業の目標】 保健医療領域における公認心理師の役割は今後ますます期待されてくる。医学・心理学における正確な知識とそれに基づくアセスメント、心理支援の方法を習得することは重要なカリキュラムである。ここでは、その基本となる予防、心理相談、アセスメント、再発予防、リハビリテーションを柱として、チーム医療の流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp.6-16　資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終

了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２回　健康心理学におけるアセスメントと支援
【key words】
健康行動変容、計画行動理論、社会認知理論、認知行動療法
【授業概要】
目標
■健康心理学におけるアセスメントの特性について理解する。
■計画行動理論とそのアセスメントについて学ぶ。
■社会的認知理論とそのアセスメントについて説明できるようにする。
ディスカッション：調べてきた用語をグループで話し合い代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.17-28

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　ストレスマネジメント
【key words】
ストレス、コーピング、トランスアクショナル・モデル、ストレスマネジメント
【授業概要】
目標
■ストレスの成立プロセスを理解し説明できる。
■コーピングの種類を説明できる。
ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.29-38
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　各種の心理支援法
【key words】
リラクセーション法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法、腹式呼吸、エクスポージャー療法、アクセプタンス＆コミットメントセラピー、多職種協働
【授業概要】
目標
■リラクセーション法の機序と効果を説明できる。
■エクスポージャー療法の機序と効果を説明できる。
■健康心理学的多職種協働について理解し、具体例を述べることができる。
ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.39-53
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　医療心理学
【key words】
チーム医療、他職種との連携、個別支援、医療制度、ライフステージ
【授業概要】
目標
■医療機関での心理職の役割を説明できる。
■診断の意味を理解できる。
ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.56-66

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　医療心理学におけるアセスメントと支援
【key words】
面接、テストバッテリー、心理検査、生物・心理・社会的アセスメント
【授業概要】
目標
■面接によるアセスメントの概略を説明できる。
■テストバッテリーを説明できる。

ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.67-81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　精神科・児童精神科
【key words】
精神科医療、精神疾患、コンサルテーション、リエゾン、精神科リエゾンチーム
【授業概要】
目標
■精神科医療の領域・疾患・心理支援について説明できる。
■精神科における心理臨床とコンサルテーション、及びコンサルテーション・リエゾンの違いを説明できる。
ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.63-101

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　院内独立型審理室
【key words】
総合病院、独立型審理室、コンサルテーション・リエゾン精神医学、力動的アセスメント
【授業概要】
目標
■独立型心理室の支援について理解し、説明できる。
■心理支援に必要な職能について理解し、説明できる。
グループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.102-112
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　心療内科
【key words】
心療内科、心身相関、心身症の発症、心身医学的アセスメント、心身症の治療
【授業概要】
目標
■心身症について説明できる。
■心身相関について説明できる。
■心身症の発症機序と心身医学的心理療法について説明できる。
事前に用語調べをして当日はグループでディスカッションする。グループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.113-125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　小児科（母子保健含む）
【key words】
小児科疾患、周産期の心理支援、NICU、周産期母子医療センター
【授業概要】
目標
■小児科でのチーム医療の特徴を説明できる。
■周産期医療について説明できる。
ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.127-140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　緩和医療
【key words】
緩和医療、全人的苦痛、がん対策基本法、対象喪失、悲嘆の過程
【授業概要】
目標
■緩和医療について説明できる。

■対象喪失に伴う心理過程、悲嘆の過程について理解し、説明できる。
ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.141-147
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　産業保健
【key words】
労働者の心の健康、ストレス関連疾患、セルフケア、、ストレスチェック制度
【授業概要】
目標
■産業保健について説明できる。
■産業保健領域の疾患と心理支援について説明できる。
ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.150-157
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　地域保険活動の実際
【key words】
社会資源、多職種連携、地域機関連携、生活支援、ケア会議
【授業概要】
目標
■地域で暮らす人々のニーズを把握できる。
■地域での相談活動の進め方を理解できる。
ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.164-185

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　災害心理学
【key words】
急性ストレス障害、外傷後ストレス障害、PFA、フラッシュバック、ストレスマネジメント
【授業概要】
目標
■急性ストレス障害、外傷後ストレス障害を説明できる。
■災害時の心理状態の変化と心理的ケアについて説明できる。
■心理的応急措置（PFA）の活動内容を述べることができる。
ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.188-198
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１５回　多職種協働と医療連携
【key words】
チーム医療、キーパーソン、多職種協働、スペシャリティ・ジェネラリティ、患者中心
【授業概要】
目標
■臨床チームワークについての歴史的の経緯を説明できる。
■チーム医療の重要性を理解しチーム医療について説明できる。
ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
健康・医療心理学　pp.212-22　資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・受講に際しては，「心理学理論と心理的支援」「臨床心理学（社会福祉専攻）」の授業を受講済みであることが望まし　い。 ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。 ・授業の予習をしてまとめたレポートは提出する。

	・授業では、調べた内容をグループで話し合い、代表者が発表する。 ・各授業の学習成果を確認するため，毎回授業の冒頭にミニテストを実施する。 [受講のルール] ・授業には，遅刻、居眠り、忘れ物、私語、等をせずに、目的意識を持ち、集中して臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為はしないこと。 ・授業に関係のない物は鞄の中にしまうこと。各自の諸事情により、机上に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項をチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。 ・各授業の学習成果を確認するため，小レポートや小テストを適宜行う予定である。復習をしっかりしておくこと。
オフィスアワー	火曜日：15:00～18:00　以外の時間帯は応相談。
評価方法	■筆記試験60%　■ミニテスト20%　■事前学習10%　■レポート課題の提出10%
教科書	健康・医療心理学（公認心理師カリキュラム準拠）　宮脇　稔・大野太郎・藤本　豊・松野俊夫（編）医歯薬出版
参考書	臨床発達心理学の基礎（講座・臨床発達心理学)2017　臨床発達心理士認定運営機構　ミネルヴァ書房 丹野義彦（編著）「公認心理師の基礎と実践」シリーズ⑯健康・医療心理学 遠見書房、2018年 適宜，授業時に紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など15年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称：　子どもの保健Ⅰ　　授業コード：4041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　子ども、特に発育・発達の目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の特徴と対応法および不慮事故の予防知識を身につける。 【到達目標】 　１）子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 　２）子どもの身体の成長や運動機能・生理機能・精神機能の発達について理解できる。 　３）子どもが健康に成長できる環境について考えることが出来る。 　４）子ども保健の講義で学んだことを、社会人（親、保育士）になって、育児・保育の現場で活用して、子供や家族に適切な支援・指導・助言もできる。
授業の概要	子どもの保健は、子どもたちのこころと身体の健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。子どもの健康問題を把握し、心身の健康づくりと保健活動の重要性について学ぶ。具体的には、乳幼児期の身体発育・生理機能の発達、子どもの主な病気について学ぶ。また、子どもの精神保健、保育現場における衛生管理・安全対策について理解する。保育者の役割、地域における健康づくり・家庭との連携の必要性について考える。前期では、こどもの身体発育とその評価、生理機能の発達などについて学び、後期では、子どもの主な病気、精神保健と衛生安全管理について学び、理解を深める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション、「子ども」の健康概念 【key words】 子どもの保健、健康，子どもの権利の条約 【授業概要】 子どもの保健Ⅰの概要、目的、授業の注意事項、成績の評価方法、子どもの概念、子どもの健康の定義、子どもの権利の条約について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p８～９、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　p９～１１ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	「健やか親子21（第２次）」 【key words】 健やか親子21(第２次)、周産期、合計特殊出生率、新生児・乳児死亡率、幼児死亡率 【授業概要】 健やか親子２１（第２次）の課題、周産期、合計特殊出生率、新生児・乳児死亡率、幼児死亡率

について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p９～１１、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１２～１４
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３回　子どもの保健の実践と課題
【key words】
発育、発達、児童虐待

【授業概要】
子どもの発育と発達の保障、社会的育児支援、疾病障害予防、地域における保健活動と児童虐待防止について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１２～１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１５～１８
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　子どもの発育・発達
【key words】
胎内発育、発育期、発育曲線、発育原則
【授業概要】
受精と胎内発育、発育の区分、発育の経過と発育曲線、発育の原則について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１５～１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１８～２１
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第５回　新生児期の身体発育
【key words】
出生時体重、新生児黄疸、生理的体重減少
【授業概要】
出生時の身体計測、低出生体重児、成熟新生児の身体特徴、新生児黄疸、新生児生理的体重減少について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１８～２１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p２１～２３
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第６回　乳児期以降の身体発育
【key words】
乳児期、幼児期、学童期、思春期
【授業概要】
乳児期、幼児期、学童期、思春期の身体発育と特徴について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p２１～２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p２４～３０
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第７回　乳幼児身体発育の評価
【key words】
乳幼児身体発育曲線、肥満度、カウプ指数、BMI
【授業概要】
乳幼児身体発育曲線、肥満度、カウプ指数、BMIの読み方、判定基準について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p２４～３０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p３１～３４
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第８回　呼吸・循環機能の発達
【key words】
呼吸機能、循環機能
【授業概要】
子どもの呼吸機能の発達、呼吸形式の変化、循環機能を構成する組織、出生後の循環変化、血圧・血液の成分の変化について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

		p３１～３４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p３４～３８ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第９回	免疫機能・消化機能の発達 【key words】 免疫機能、消化機能 【授業概要】 免疫の概念、免疫のしくみ、消化機能を構成する器官および各々の機能について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p３４～３８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p３８～４１ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１０回	尿排泄機能・水分代謝・体温調節機能の発達 【key words】 尿排泄機能・体温調節機能 【授業概要】 尿排泄機能を構成する組織、尿排泄機能の発達，身体の水分構成、水分必要量、子どもの平熱、体温調節機能の発達について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p３８～４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p４２～４４ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１１回	内分泌機能の発達、睡眠リスム 【key words】 内分泌機能、睡眠リスム 【授業概要】 子どもの内分泌機能の発達、主な内分泌器官と分泌するホルモンの作用、子どもの睡眠・覚醒リズムの変化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p４２～４４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p４５～４７ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１２回	感覚機能の発達 【key words】 感覚機能 【授業概要】 子どもの皮膚覚、味覚、嗅覚、聴覚、視覚の発達について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p４３～４５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p４５～４８ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１３回	神経機能の発達 【key words】 神経機能、原始反射 【授業概要】 こどもの神経系を構成する組織とその発育、神経機能の発達、原始反射、乳幼児期の運動発達について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p４７～５０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p５１～５８ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１４回	精神機能・情緒・行動の発達 【key words】 精神機能、言語発達、愛着行動、社会性 【授業概要】 子どもの知能の発達、言語の発達、情緒の発達、愛着行動の変化、社会性の発達について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p５１～５８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 いままで配布したプリントの問題を完成する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１５回	前期のまとめ

【key words】
子どもの正常な発育発達
【授業概要】
前期で学んだ子どもの正常の身体の発育、生理機能の発達について復習する。
【教科書ページ・参考文献】
p９～５６、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プリントの問題をしっかりと理解し暗記する。
【予習復習に必要な想定時間】
２４０分

第１６回　後期オリエンテーション、子どもの病気の特徴
【key words】
病気の特徴
【授業概要】
子どもの保健Ⅰ後期の概要、授業の注意事項、成績の評価方法、子どもの病気の特徴について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p５７～６３
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１７回　ウイルス性感染症
【key words】
感染症、予防接種、ウイルス感染症
【授業概要】
感染症の概念、感染症の分類、感染の経路、予防接種、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、突発性疱疹、伝染性紅斑、手足口病、日本脳炎、インフルエンザについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p５７～６３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p６３～６５
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１８回　細菌性感染症
【key words】
細菌性感染症
【授業概要】
扁桃炎、溶連菌感染症、破傷風、乳児ボツリヌス症、マイコプラズマ感染症、クラミジア感染症、寄生虫症について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p６３～６５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p６５～６８
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１９回　先天異常
【key words】
先天奇形、先天代謝異常
【授業概要】
先天異常の概念、遺伝子病、染色体異常、外因・環境要因による先天異常について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p６５～６８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p６５～７１
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２０回　アレルギー性疾患
【key words】
アレルギー
【授業概要】
アレルギー反応、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、川崎病について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p６５～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p７１～７５
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２１回　消化器疾患
【key words】
消化器、食中毒
【授業概要】
肥厚性幽門狭窄症、腸重積、鼠径ヘルニア、虫垂炎、食中毒、ウイルス性胃腸炎について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p７１～７５
【課題・予習・復習・授業準備指示】

p７５～７７
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２２回　呼吸器・循環器・血液系の疾患
【key words】
呼吸器、循環器、血液系
【授業概要】
かぜ、グループ症候群、細気管支炎、先天性心疾患、不整脈、貧血、小児白血病について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p７５～７７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p７７～８０
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２３回　神経系・泌尿器・生殖器・皮膚の疾患
【key words】
神経系、けいれん、泌尿器、皮膚
【授業概要】
髄膜炎、脳炎、脳性まひ、けいれん性疾患、けいれん発作時の手当、尿路感染症、包茎、ネフローゼ症候群、水いぼ、伝染性膿痂疹、おむつかぶれについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p７７～８０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p８０～８３
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２４回　眼・耳科、整形外科の疾患、内分泌・代謝性疾患
【key words】
眼・耳科、整形外科の疾患、内分泌・代謝性疾患
【授業概要】
目の病気、中耳炎、成長痛、O脚、X脚、低身長、糖尿病、小児期の肥満、先天性代謝異常症について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p８０～８３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p８３～８４
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２５回　人畜共通感染症、乳幼児突然死症候群
【key words】
狂犬病、乳幼児突然死症候群
【授業概要】
狂犬病、乳幼児突然死症候群について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p８３～８４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p８９～９９
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２６回　子どもの心の健康
【key words】
精神保健、虐待
【授業概要】
子どもの精神発達課題、乳児期・幼児期・学齢期・思春期の精神保健、問題行動とその対応、虐待について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p８９～９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p９９～１０１
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２７回　発達障害
【key words】
発達障害、広汎性発達障害、注意欠陥発達障害、学習障害
【授業概要】
広汎性発達障害、注意欠陥発達障害、学習障害について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p９９～１０１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１１９～１３３
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２８回　保育現場における衛生管理と安全対策
【key words】
不慮の事故、事故予防対策
【授業概要】
子どもの不慮の事故、事故の背景・要因と内容、保育所での事故、事故防止と安全対策について学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 p１１９～１３３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p１３６～１４０ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第２９回　主な母子保健対策と保育 【key words】 健康診査、保健指導、療養援護 【授業概要】 母子保健対策における健康診査、保健指導、療養援護について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１３６～１４０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 いままで配布したプリントの問題を完成する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第３０回　後期のまとめ 【key words】 子どもの主な病気、精神保健、衛生安全管理 【授業概要】 配布したプリントの問題を沿って、今まで学んだ子どもの主な病気、精神保健と衛生安全管理について復習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p５７～１４０、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プリントの問題をしっかりと理解し暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 ２４０分
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	期末筆記試験（80%）とノート（20%）を総合して評価する。
教科書	佐藤益子編著　　子どもの保健Ⅰ　　ななみ書房　　最新版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容総論　　授業コード： 4101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
岡部　千尋			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育内容とは、保育の目標を達成するために展開される全ての内容を示すものであることを理解し、その内容を保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のそれぞれの目的や方法について学び、基本的な保育内容の意図を理解することを目的とする。 【到達目標】 保育内容を総合的に捉える視点を養う。 新改訂の保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿及び、保育内容５領域を理解する 保育における、養護と教育の一体的な展開と保育計画について学ぶ
授業の概要	幼児教育は、遊びをとおして総合的に学んでいくということを知り、保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本を理解し、保育現場のエピソードや実践事例に沿いながら５領域の総合的な展開を理解していきます。また、今後の保育はどうあるべきか自分なりの考えを持てるよう、やグループワークを多く取り入れ、アクティブラーニングを導入し学生による相互評価を行っていきます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 授業概要説明 授業概要説明 【授業概要】 授業概要説明 保育内容総論について 保育内容五領域についてを再確認する。 【教科書ページ・参考文献】 レジュメ参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分

第２回　幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容
【key words】
幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容

【授業概要】
保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂のポイント。幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容について。
【教科書ページ・参考文献】
レジュメ参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　養護と教育が一体的に展開する保育①　～砂遊びから～　グループワーク　日案を通して
【key words】
養護と教育が一体的に展開する保育

【授業概要】
乳児及び1歳以上３歳未満の保育の視点について。
養護と教育が一体的に展開する保育を考え、グループワークでより具体的な保育の展開を考える。

【教科書ページ・参考文献】
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はやわかりBOOK P50・P104

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内に終わらなかったものをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　保育内容と保育者の専門性　～保育の内容を深める遊びや児童文化財①～
【key words】
手袋人形(ねずみ)　製作

【授業概要】
手袋人形を作製して児童文化財の活用方法を身に着ける。
今後の実習などで活用できるように展開方法やなどを考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
必要なもの　ボンド　カラーペン　裁縫道具等用意しておく
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　保育内容と保育者の専門性　～保育の内容を深める遊びや児童文化財②～
【key words】
手袋人形(ねずみ)　展開

【授業概要】
手袋人形を作製して児童文化財の活用方法を身に着ける。
今後の実習などで活用できるように展開方法やなどを考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
必要なもの　ボンド　カラーペン　裁縫道具等用意しておく
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　幼児教育における「見方・考え方」 ～紙飛行機作りをとおして何を学ぶか～
【key words】
見方・考え方 試行錯誤

環境を通して行う教育

【授業概要】
幼児教育は、身近な環境に子どもが能動的・主体的に関わり、試行錯誤しながら学んでいく環境に子どもが関わり、意味を見出すという「見方・考え方」を生かす教育だということを学ぶ。
紙飛行機をつくり、遊びながら学ぶ事を体感しまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はやわかりBOOK P28
演習ワークP13
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習ワークの再確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力
【key words】
幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力

【授業概要】
遊びの中に見る、「資質・能力」の三つの柱について
日々の子どもたちの遊びを、「資質・能力」の三つの柱の視点で見ていく。
【教科書ページ・参考文献】
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はやわかりBOOK P10
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　主体的・対話的で深い学び
【key words】

アクティブラーニング

【授業概要】
幼児教育における「主体的・対話的で深い学び」
小学校との接続を意識した記録や研修。
具体的な指導の手立てが指導の改善の視点として示される。
【教科書ページ・参考文献】
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はやわかりBOOK P20

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　小学校との連携・スタートプログラムについて
【key words】

小学校との連携

【授業概要】
幼児教育を引き継ぎながら小学校教育を始めていくために必要なことは何かを知る。実際の幼児教育から小学校教育へ移行していく子どもの様子をDVDの事例を見ながら考える。

【教科書ページ・参考文献】
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はやわかりBOOK P24
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　保育内容の今日的な課題と保育者の専門性　　新聞などの時事問題　レポート
【key words】
保育者の専門性

【授業概要】
仕事に関わる記事を収集し、制度や問題点を考える
教育・福祉・保育・子どもなど、関心のある記事を収集し、保育者としての観点から問題点を分析し、グループで話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
切抜き速報　保育と幼児教育出版
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　保育内容の今日的な課題と保育者の専門性　　新聞などの時事問題　レポート
【key words】
保育者の専門性

【授業概要】
保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領
まえばし幼児教育充実指針『めぶく～幼児の育ち～』を活用して、「環境」を通して行う保育を考える。

【教科書ページ・参考文献】
切抜き速報　保育と幼児教育出版
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　保育の全体構造と保育内容①幼児期の終わりまでに育ってほしい姿　グループワーク
【key words】

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

【授業概要】
自分の幼少期の思い出や実習やボランティアでの子どもとの関わりを発表し、グループでまとめる。グループワークをとおして、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を分析する。
【教科書ページ・参考文献】
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はやわかりBOOK P14

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　保育の全体構造と保育内容②５領域　グループワーク
【key words】

	保育内容　5領域 【授業概要】 グループワークで幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を分析し、保育全体の構造から保育内容五領域を細分化した内容を考える。 子どもの姿を書き出し、ブレーンストーミングによって五領域を知る。 【教科書ページ・参考文献】 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はやわかりBOOK P36・100 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　保護者との連携・多様な保育経験の子どもたちへの対応 【key words】 保護者との連携 【授業概要】 保育者が担う園での保育、保護者が担う家庭での子育てには、それぞれの役割がある。両者の間を行き来きして育つ子どもたちのために、事例をもとにどのようなことを配慮して保護者との連携に努めていけばよいのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はやわかりBOOK P78 演習　保育内容総論　あなたならどうしますか？P166　ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　特別な支援を必要とする子どもの保育　DVD学習 【key words】 インクルーシブ保育 【授業概要】 年齢、国籍、障害の有無にかかわらず、どんな背景をもった子どもも受け入れるというインクルーシブ保育では、「違い」を排除することなく受け入れ、共に育つ環境を提供する。DVD学習を通して、実際の保育現場での様々な取り組みを学び、事例研究をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生は積極的に授業に参加すること ○関係書類などの提出期限は必ず守ること ○他の受講生の迷惑になる行為は厳禁 ○授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で必要なものの準備や練習をしておくこと。途中で小テストの実施も予定している。 保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参照すること
オフィスアワー	授業終了の30分
評価方法	授業時の課題など30％　グループ活動・発表20％　筆記試験50％を総合的に評価する
教科書	イラストで読む　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　はや

	わかりBOOK　学陽書房
参考書	演習　保育内容総論　あなたならどうしますか？　萌文書林 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領 まえばし幼児教育充実指針『めぶく～幼児の育ち～』　前橋市教育委員会・2017 切抜き速報　保育と幼児教育出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園・保育所勤務の経験をいかして、様々な事例を想定した子どもたちの指導実践方法を伝え、総合的な指導の必要性についての理解を深めていく。 実際の保育現場での子どもたちの生活やあそんでいる姿・成長過程を前提に講義を進め、五領域間の相互関係を捉えていく。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（幼稚園）　　授業コード： 4182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(160)	子ども専攻・選択
担当教員			
塚越　亜希子・吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義、演習を通して得た専門的知識・技能を活かし実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。１幼稚園の保育教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識・技能・態度を修得する。２　保育教育活動の実践を通して、幼児理解、学級経営等について理解し、人間尊重の精神および保育者としての使命感を養う。
授業の概要	原則として4学年の6月に160時間（4週間）の実習を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回

	第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	1.教育実習に参加できる要件を備えていること。（必修単位取得） 2.事前ガイダンスの受講および「教育実習の記録」を必須とする。 【実習中止の措置】 本学指導教員および実習先指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことが出来ない。 実習前のオリエンテーションを行っていなければ、実習することは認められない。また、実習中に不適切な言動等があった場合は直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	巡回指導時にて対応
授業外時間にかかわる情報	実習園で弾く曲（園歌・挨拶の歌・季節の歌　など）を弾けるように、ピアノの個別レッスンも行う。 その他、実習についての不安や悩みについても随時対応する。 部分実習や責任実習の指導案の添削や指導も個別対応を行う。
オフィスアワー	放課後（実習後）
評価方法	実習園の評価（70%） 「教育実習の記録」の評価（30%）
教科書	「実習ガイドブック」群馬医療福祉大学
参考書	「実習の記録と指導案」ひかりのくに
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 私立幼稚園教諭主任、公立幼稚園、小学校教諭での経験を活かし、実習巡回等で実習園の園長や主任からの実習生の評価を本人に伝え、より良い実習を行えるようにしていく。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習Ⅱ（保育所）　　授業コード：4196　4197　4198

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(90)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中 輝幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①乳幼児の発達を理解し、保育を計画・実践する。 ②保育士としての資質・能力・技術を習得する。 ③多様な保育内容に参加する。 ④家庭と地域の子育て支援について具体的に学ぶ。
授業の概要	-

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回

	第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習上の注意 「実習へのガイドブック」を参照にし、実習上の注意事項を遵守すること。 【実習の中止措置】 　実習生の帰すべき責任によって実習継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。 ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。 ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。 ③心身の事由により、実習継続が困難なとき。 ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。 ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。 ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	–
授業外時間にかかわる情報	–
オフィスアワー	–
評価方法	①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%） ②巡回での指導状況及び実習態度（10%） ③実習計画、実習日誌（10%） ④実習のまとめ（10%） ⑤実習報告書（10%） ⑥その他の提出物の提出状況（10%） ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。 ※保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位を修得出来なかった場合は単位を認定しない。
教科書	–
参考書	–
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 　保育士　幼稚園教諭　認定こども園園長 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 　□情報モラルに関する教育 　□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） 　□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） 　□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） 　□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 　□ICTを活用した双方向型の授業の実施 　□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 　□その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 障害児保育Ⅱ　　授業コード： 4211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	まず、障害を理解することから出発。早期発見、早期治療は発達を促す上で重要です。各種の施設で、障害を持つ幼児の指導や訓練が活発に展開されて、発達援助を日常化させています。保育の現場でも受入れが進む中で、子どもたちの発達に有効な保育実践が求められます。本演習では、実践に役立つ保育の在り方とその方法論について演習考察していく。
授業の概要	障害を理解するということ、すなわち、頭で理解し、障害の質と広がりに気づき、障害の本質を研究、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的としたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　障害児保育とは（総論） 【key words】 「心身機能・身体構造」「活動」「参加」 【授業概要】 国際生活機能分類における障害の分類と障害のとらえ方について。 【教科書ページ・参考文献】 2ページ～4ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児保育とは何かについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第２回	障害とは何か 【key words】 アドボカシー　ノーマライゼーション 【授業概要】 障害を持った子どもをどうとらえていくか。障害児保育の歴史と現状について。 【教科書ページ・参考文献】 5ページ～15ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アドボカシー、ノーマライゼーションの用語についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第３回	発達とは 【key words】 順序性と方向性　個人差 【授業概要】 子どもの発達過程と重視すべき視点について。脳の構造や働きについて。 【教科書ページ・参考文献】 16ページ～33ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 脳の部位の名称を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】

		30～45分
	第４回	脳の発達と障害 【key words】 肢体不自由　PDD　ADHD　LD 【授業概要】 脳が損傷を受けたことによる様々な機能障害について。身体障害、発達障害等に対する基本的な対応について。 【教科書ページ・参考文献】 34ページ～44ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PDD　ADHD　LDについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第５回	障害児の理解と保育における発達の援助　感覚統合の発達 【key words】 意識的感覚　無意識的感覚 【授業概要】 固有感覚や前庭感覚、触覚などの感覚統合とはどういうことか、また、感覚統合を発達させる遊びにはどういうものがあるか等について。 【教科書ページ・参考文献】 45ページ～57ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 感覚統合を発達させる遊びについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第６回	視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児の理解と援助 【key words】 視力障害　視野障害　色覚障害　全聾　難聴 【授業概要】 視覚障害や聴覚障害とはどういうものか、また、視覚障害児や聴覚障害児にはどのような支援ができるかについて。脳性麻痺の症状の分類や支援の方法について。 【教科書ページ・参考文献】 58ページ～69ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人工内耳ついて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第７回	知的障害児の理解と援助 【key words】 IQ　知的能力　適応能力 【授業概要】 知的障害をもたらすと考えられる３つの原因と、知的障害児の特性と対応、教材の工夫等について。 【教科書ページ・参考文献】 70ページ～81ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 IQと程度別判定について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第８回	発達障害児の理解と援助 【key words】 不器用な子　落ち着きのない子　集団から離れている子 【授業概要】 発達障害児の行動の特徴について。日常生活動作や遊びへの支援の具体的な方法について。 【教科書ページ・参考文献】 82ページ～90ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 OT　ST　PTについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第９回	重症心身障害児・医療的ケア児の理解と援助 【key words】 発達支援　放課後等デイサービス　レスパイトケア 【授業概要】 重症心身障害児の状態像と医療的ケアの実際について。在宅障害児の障害者福祉サービスについて。 【教科書ページ・参考文献】 91ページ～96ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 近隣にある発達支援センターや放課後等デイサービスについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１０回	指導計画及び個別の支援計画① 【key words】 健康　人間関係　環境　言葉　表現 【授業概要】 保育所の役割と保育の目標を達成するための方法について。指導計画及び個別計画の作成について。 【教科書ページ・参考文献】 98ページ～115ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導計画を作成してする。

	【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１１回　指導計画及び個別の支援計画② 【key words】 児童虐待　社会的養護 【授業概要】 個別保育目標を立てる時の留意点について。特別な保育ニーズの把握（虐待）について。 【教科書ページ・参考文献】 116ページ～129ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最近の虐待に関する情報（テレビ・新聞など）を収集する。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１２回　発達を促す生活や遊びの環境① 【key words】 人的環境　物的環境 【授業概要】 感覚を活かした遊び（触れ合い遊び、外遊び、砂遊び、ブランコ、滑り台等）と支援、教材教具の工夫等について。 【教科書ページ・参考文献】 130ページ～148ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 どのような教材教具があるか調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１３回　発達を促す生活や遊びの環境② 【key words】 障害受容 【授業概要】 障害のある子を持った親が障害を受け入れるまでの心の変化と、親や家族への支援の方法について。統合保育と分離保育のそれぞれの特徴について。 【教科書ページ・参考文献】 149ページ～164ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 親や家族への支援として考えられる具体例を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１４回　障害児保育の制度（制度化以前） 【key words】 保護者や家族に対する援助　地域の専門職や機関との連携 【授業概要】 子どもを取り巻く状況の中での課題について。地域の専門機関との連携や、特別支援学校・小学校等との連携について。 【教科書ページ・参考文献】 166ページ～192ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族構成の変化についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１５回　障害に対する理念の変化　保健・医療における現状と課題 【key words】 自己決定　NICU　ノーマライゼーション・インクルージョン 【授業概要】 障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの保育の現状と今後の課題について。在宅療養に関わる関係機関などの役割と福祉サービスについて。 【教科書ページ・参考文献】 194ページ～209ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 NICUの役割を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
受講生に関わる情報および受講のルール	・人との出会いを大切にする学生。意欲的な態度や豊かな想像力ある学生の態度を望みます。そのために授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。 ・欠席・遅刻者の代返は認めない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード ノート提出
授業外時間にかかわる情報	障害児保育・教育に関する情報に普段から触れておくこと。（新聞・ニュース等からの情報収集） 保育の現場を知ること（見学・ボランティア等）
オフィスアワー	授業の前後10分間
評価方法	授業への取り組み（コメントカードの内容、発表）（20%） 提出物（ノート）（30%）　定期試験（50%）
教科書	障がい児保育（中山書店） 監修　小橋晶子　　編著　小橋拓真　　著　小山内あかね　竹野内ゆかり
参考書	指定しない
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 　教員として特別支援教育に携わり、多くの障害児と接してきた。 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　□ディスカッション・ディベート 　■グループワーク 　□プレゼンテーション 　□実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 　□情報モラルに関する教育 　□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） 　□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） 　□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） 　■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 　□ICTを活用した双方向型の授業の実施 　□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 　□その他 その他の具体的内容 　障害児をもつ保護者の方の話を聴く。

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法C）　　授業コード：4261　4262　4263

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	子ども専攻・選択
担当教員			
足立　勤一・佃　朋子・峯岸　梓			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）までに修得した表現活動指導法の知識・技術やピアノの演奏表現技術を保育現場や初等教育現場にて有意義な活動として実践できる。 【到達目標】 保育現場や小学校において音楽が担っている重要な役割について理解し、表現出来るようになる。弾き歌いやピアノ演奏法の技術・能力を身につける。
授業の概要	有資格者になる者としての倫理や意識を養い、適切で効果的な表現活動・指導ができるようになること。総合的な表現活動技術を向上させることができるよう、個人レッスンを通して、各自の表現活動の指導力を高めるようにする。 授業は５名前後のグループに分かれ保育現場や小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やし、後期には学生主体の音楽会企画を実践する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目（前期）オリエンテーション 【key words】 前期授業概要 【授業概要】 クラス分け・書類記入・学生それぞれの進度に合わせた曲決め 　実習や就職試験の内容に沿った課題を参考に教員と相談する（国歌・園歌・季節の歌・行事の歌・ピアノ曲） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる） 【key words】 レパートリーを増やす 【授業概要】 ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】

		20分
	第３回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる） 【key words】 レパートリーを増やす 【授業概要】 ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第４回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（完全2度上下に移調できる） 【key words】 レパートリーを増やす 【授業概要】 ピアノ演奏技術の向上（完全2度上下に移調できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第５回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（短3度上下に移調できる） 【key words】 レパートリーを増やす 【授業概要】 　ピアノ演奏技術の向上（短3度上下に移調できる。及び子どもの声域にあった調に移調出来る。） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第６回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第７回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第８回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第９回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【key words】

		レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１０回	進度に応じたレッスン：弾き歌い技術の向上（歌詞を朗読し感情を表現できる） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 弾き歌い技術の向上（歌詞を朗読し感情を表現できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１１回	進度に応じたレッスン：弾き歌い技術の向上（強弱をつけて弾き歌いで表現できる） 【key words】 前期試験課題に向けて：試験曲選曲（ピアノ曲1曲又は弾き歌い1曲全コーラスを暗譜） 【授業概要】 弾き歌い技術の向上（強弱をつけて弾き歌いで表現できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１２回	進度に応じたレッスン：前期試験にむけて 【key words】 前期試験課題に向けて：試験曲決定 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 　試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：個人の実力に応じた選曲 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１３回	進度に応じたレッスン：前期試験にむけて 【key words】 前期試験課題に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 　試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１４回	進度に応じたレッスン：前期試験にむけて 【key words】 前期試験課題に向けて：リハーサル 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 　試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１５回	前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 前期試験課題に向けて：仕上げ 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 　試験曲の仕上げ

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験曲の仕上げ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１６回　科目（後期）オリエンテーション
【key words】
後期授業概要：学生主体の音楽会企画のＤＶＤ鑑賞
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：個人の実力に応じた選曲
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１７回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１８回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１９回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２０回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２１回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ

【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２２回　進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備①（弾き歌い・ピアノ曲）
【key words】
お楽しみ会準備①（弾き歌い・ピアノ曲）
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示・全体指示：総合的練習と音楽会企画①
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２３回　進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備②（弾き歌い・ピアノ曲）
【key words】
お楽しみ会準備②（弾き歌い・ピアノ曲）
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示・全体指示：総合的練習と音楽会企画②
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２４回　進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備③（弾き歌い・ピアノ曲）
【key words】
お楽しみ会準備③（弾き歌い・ピアノ曲）
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示・全体指示：総合的練習と音楽会企画③
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２５回　進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備④（歌詞を感情移入し朗読で表現する：コーラス）
【key words】
お楽しみ会準備④（歌詞を感情移入し朗読で表現する：コーラス）
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示・全体指示：総合的練習と音楽会企画④
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２６回　進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備⑤（身体的パフォーマンスで表現する：カップス）
【key words】
お楽しみ会準備⑤（身体的パフォーマンスで表現する：カップス）
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示・全体指示：総合的練習と音楽会企画⑤
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２７回　お楽しみ会（保育・小学校現場の実際と表現活動指導について）：後期試験にむけて
【key words】
保育・小学校現場の実際と表現活動指導について
お楽しみ会本番
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い・コーラス・カップス
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：後期試験準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２８回　進度に応じたレッスン：後期試験にむけて
【key words】
後期試験に向けて：試験曲選曲（ピアノ曲1曲又は弾き歌い1曲全コーラスを暗譜）

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い
試験曲の仕上げ

	【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第２９回　進度に応じたレッスン：後期試験にむけて 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 　試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第３０回　後期実技試験について／後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期実技試験について／後期のまとめ 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 　試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験曲の仕上げ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 　五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。子どもの表現活動について常に留意すること。表現技術について工夫し、創作やアレンジを行うこと。特に初等教育コースの学生は[学習指導要領（音楽）]を常時持参すること。配布した資料等は、毎回の授業に持参すること。 〔受講のルール〕 　表現技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	表現指導技術向上のために計画的に学習すること。歌詞の意味や教育効果等について常に考え、子どもの表現についての知識を高めておくこと。音楽についての知識を高め、各自の良い点を伸ばすように取り組むこと。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	実技試験70％・授業内評価30％
教科書	初等教育コース：『小学校教科書（音楽）』
参考書	①バイエル『ピアノ教則本』全音楽譜出版社　②田丸信明編『新訂ピアノの森２』GAKKEN　③田丸信明編『新訂ピアノの森３』GAKKEN　④ブルクミュラー『25の練習曲』全音楽譜出版社　⑤『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社　⑥『ソナタアルバム』全音楽譜出版社　⑦小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社　⑧小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　■PBL(課題解決型学習) 　■ディスカッション・ディベート 　■グループワーク 　■プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 　□情報モラルに関する教育 　■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) 　□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） 　■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） 　□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用

	□ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 家庭支援論　　授業コード： 4331

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・社会的養護の目的と実践を学ぶ。 ・現代の家族の特性とその支援を具体的に知る。 ・地域における家庭支援に係る根拠法や体制を知る。 【到達目標】 相談・援助を基盤にした、家族支援のプロセスを修得する。
授業の概要	テキストを軸にして、家族支援、子育て支援に関して、広い視野でつかんでいく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 ＜key words＞ 抗議の受け方 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を必ず読み返すこと 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	現代社会と家庭 【key words】 ＜key words＞ 家庭の変容、家庭支援、ワーク・ライフ・バランス 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 家庭や地域社会の変容を経時的に見ながら、支援の必要性や意味を知る 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １－２３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】

		３０分
	第３回	家庭支援の意義と役割１ 【key words】 ＜key words＞ 家庭支援、家族支援、相談援助技術 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 家庭支援の目的を知り、それに必要な相談技術を概観する。ソーシャルワークに基本を知る 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ２４－４７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第４回	家庭支援の意義と役割２ 【key words】 同上 【授業概要】 同上 【教科書ページ・参考文献】 同上 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第５回	家庭支援と法制度 【key words】 ＜key words＞ 支援に必要な法制度 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 家庭支援を推敲するために知っておきたい法制度について概観する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ４８－７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第６回	家庭を支援する技術１ 【key words】 ＜key words＞ 援助技術、相談技術、スーパービジョン 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 家庭支援で使われる援助技術と相談の組み立てのためのプロセスを学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ７４－１００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第７回	事例検討 【key words】 ＜key words＞ 事例 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 事例を見ながら、具体的な糧支援の方法をみる 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	家庭を支援する技術２ 【key words】 第６回に同じ 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 事例検討で得た実際の援助プロセスを生かす 【教科書ページ・参考文献】

		第６回に同じ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を必ず読み返すこと 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第９回	家庭支援の形態 【key words】 ＜key words＞ 支援のバラエティ 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 支援のバラエティを見ながら、具体的な支援の展開を見る 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １０１－１２８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１０回	家庭支援に関わる社会資源 【key words】 ＜key words＞ 社会資源 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 家庭支援に生かせる専門機関や地域の資源を見ていく 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １２９－１５５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１１回	子育て支援政策 【key words】 ＜key words＞ 次世代育成支援、待機児童、少子化社会対策 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 子育て支援施策の歴史的展開を見ながら、効果等について検証する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １５６－１８２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１２回	保育所の子育て支援機能 【key words】 ＜key words＞ 保育の中での支援機能 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 保育所における支援の実際を見ていく 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １８３－２１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１３回	保育所における子育て支援サービス 【key words】 ＜key words＞ 保育サービス 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 保育事業の現状から、支援の課題や問題を掘り起こしていく 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ２１５－２４３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様

	【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第１４回　特別な配慮の必要な家庭への支援 【key words】 ＜key words＞ 支援の意味、児童虐待、発達障害 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 児童虐待や発達障害等配慮の必要な家庭への支援の方法を考えていく 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ２４４－２７４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第１５回　まとめ 【key words】 まとめ 質疑応答 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習、復習をすること ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで必要に応じて伝える
オフィスアワー	授業のなかで必要に応じて伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業への取り組み　２０％
教科書	小野・田中・大塚編「家庭支援論」ミネルヴァ書房
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 児童相談所、身体障害者更生相談所、児童自立支援施設 （児童心理司、言語聴覚士、児童福祉司、sv） アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育教職実践演習　　授業コード： 4341

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中　輝幸・吉澤　幸・ 川端　奈津子・塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 これまで保育士養成課程、幼稚園教諭養成課程の履修を通じて習得してきた保育者・教育者として必要な資質能力の総仕上げとして、演習により主体的でかつ体験的・実践的に協働した学びを通して、保育者・教育者として必要な実践力を多角的に身につけることを目的としている。講義だけでなく、グループ討議や模擬保育など多様な形態の授業を通じて、これまで学んだ知識や技術をより精度の高いものにすることを目指す。 【到達目標】 講義や実習等で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割についての認識を深めていきます。「保育職・教職に対する使命感・責任感」「社会性や対人関係能力」「子ども理解や学級経営力」「保育内容の指導力」を高め、保育者としての資質のさらなる向上を目指します。
授業の概要	保育現場に立つ前の総まとめとして、４年間の講義や実習で学んだ様々な体験をもとに、実践的指導力を有する保育者としてのスキル高める学習として、事例検討や模擬保育等のグループ討議を多く実施します。また、保育職・教職の意義や役割・責任感、保育者の専門性等のテーマにより、子ども専攻の複数の教員をはじめ、保育現場より外部講師を迎え、より幅広い保育実践力の向上を目指していきます。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 「保育士」「幼稚園教諭」「保育者」「保育者像」 【授業概要】 講義全体の流れや、講義の目的・目標を知り、理想の保育者像について考え、保育者を目指し始めてから今までの思いを各自整理していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P1-12、授業概要（プリント） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P13-17をよく読んでおくこと。履修カルテを必ず持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	保育者への歩みと足跡　（履修カルテ記入・確認） 【key words】 「保育者」「保育者像」「実践的力量」「履修カルテ」

【授業概要】
「履修カルテ」の確認を通して、大学での これまでの学びの振り返りと整理を進めていきます。
【教科書ページ・参考文献】
P13-17　履修カルテ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P20-30をよく読んでおくこと。特にP22-23を読み、自分なりの感想をまとめておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　子どもの理解の方法と実際①
【key words】
「個人記録」「保育マップ型記録」「保育カンファレンス」「子ども理解」

【授業概要】
保育における「子ども理解」の方法やその重要性について考察していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P20-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P25-30をよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　子どもの理解の方法と実際②模擬保育
【key words】
「個人記録」「保育マップ型記録」「保育カンファレンス」「子ども理解」

【授業概要】
保育における「子ども理解」の方法やその重要性について考察していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P25-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P112-122をよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　園の安全管理
【key words】
「日常の安全管理」「事故防止マニュアル」「避難訓練」「リスクマネジメント」

【授業概要】
幼稚園・保育所の安全管理の考え方について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に基づいて考察し、乳幼児の事故の実態を踏まえて、園の安全管理体制の整備と危機管理の視点について考察していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P112-122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P64-74をよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　協同的な学びと育ちへ
【key words】
「協同的な活動」「協同的な学び」
【授業概要】
子どもたちの協同的な学びと育ちを可能にする保育実践について考察し、協同的な学びの意義について理解し子どもが仲間と協同的な活動を展開できるまでの乳幼児期の発達過程を確認していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P64-74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P100-110をよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　幼保小の接続
【key words】
「幼保小の連携」「小１プログレム」「幼保小の接続」「接続期のカリキュラム」

【授業概要】
幼保小の相違点、幼保小の接続のあり方、課題、接続期のカリキュラム、接続期の実践の工夫について学んでいきます。配布資料によるディスカッション及びグループワークを行う。
【教科書ページ・参考文献】
P100-110
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P32-40をよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　気になる子どもの行動の理解と対応①
【key words】

「気になる子ども」「必要な配慮」「発達障害」

【授業概要】
保育現場で「気になる子ども」の理解と保育現場で「必要な配慮」等の対応について考察していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P32-40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P32-40をよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　気になる子どもの行動の理解と対応②グループワーク
【key words】
「気になる子ども」「必要な配慮」「発達障害」

【授業概要】
保育現場で「気になる子ども」の理解と保育現場で「必要な配慮」等の対応について考察していきます。発達障害児の感覚を感じられる実習をグループごとに行う。
【教科書ページ・参考文献】
P32-40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P90-98をよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　保護者および地域との関係づくり
【key words】
「保護者との協働」「地域との協働」「関係機関との協働」

【授業概要】
保護者および地域との関係づくり、また地域の関係機関と、どのような関係を築きながら保育を展開していくべきかを考察していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P90-98
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P60-62、配布プリントをよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　保育内容と保育方法の研究①（外部講師）
【key words】
「保育の形態」「指導計画」「模擬保育」「カンファレンス」

【授業概要】
グループごとに「模擬保育」を行い、その後、実践した「模擬保育」についてグループごとにカンファレンスを行います。
【教科書ページ・参考文献】
P60-62　配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P76-88をよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　保育内容と保育方法の研究②グループワーク
【key words】
「保育内容」「保育方法」「保育の形態」「指導計画」

【授業概要】
　幼稚園や保育園での「保育内容」や「保育方法」の基本的な考え方について確認し、多様な保育内容と保育方法、保育形態についての学びを深めていきます。
【教科書ページ・参考文献】
P76-88　配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P124-134をよく読んでおくこと。　配布プリント（指導案）

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　保育者の専門性
【key words】
「保育者の専門性」「保育者の資質」「保育者の研修」「保育者の倫理」

【授業概要】
保育者の専門性の特質について考察していきます。次に保育者の成長について考察し研修などの取り組みや保育者の倫理のあり方について学んでいきます。
【教科書ページ・参考文献】
P124-134

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 P136-139をよく読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　保育職・教職に就くものとしての使命感・責任感（外部講師） 【key words】 「保育者・教職者の使命感・責任感」「保育観」「教育観」 【授業概要】 これまでの学びのまとめとして外部講師を招き、「保育者・教育者の使命感・責任感」をテーマに講話を行う。実際の保育現場での体験を聴き、自身の保育者・教育者像や保育者としての使命感・責任感について考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P136-139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P140-147をよく読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　自分の保育者像を目指して 【key words】 「保育者像」「保育観」「保育者の専門的知識」 【授業概要】 「保育者とは何か？」「保育者とはどのような存在なのか？」「保育者としてあるべき姿とは？」などを様々な保育理論、法や制度で求められる保育などを考慮して考え、自分の保育者像を捉えていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P140-147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 定期テストに向け、各回のキーワードを良くまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。 ○関係書類等の提出期限は必ず守ること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	保育・幼児教育に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。 実習やボランティア等での体験をまとめておくこと。
オフィスアワー	講義終了後３０分間対応します。それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。
評価方法	グループ活動への参加状況（50%）提出物・レポート（50%）の総合評価。
教科書	保育教職実践演習　これまでの学びと保育者への歩み　　小櫃 智子　矢藤 誠慈郎　編著　わかば社
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保育士　認定こども園園長　幼稚園教諭　小学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 地域子育て支援論　　授業コード： 4351

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
真下　潔			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 子育て家庭に対する社会的支援の意味、および支援のあり方についての理解を深め、具体的かつさまざまな支援方法を知る。 【到達目標】 ①子育てへの社会的支援の具体的方法を知る。 ②社会的支援における多職種連携のあり方を理解する。
授業の概要	テキストを基盤にして、広い観点からさまざまなアプローチを示していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 ＜key words＞ 講義の受け方 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必ず教科書を読み返すこと 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	子育て支援の理念 【key words】 ＜key words＞ 子育て支援 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 子育て支援は何のためにあるか、経時的に見てその変遷を知る 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １－１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】

３０分
第３回　子育て支援の歴史文化的諸相
【key words】
＜key words＞
子育ての歴史的変容、子育て不安

【授業概要】
＜授業の概要＞
子育ての歴史的変容を見ながら、現代の子育て不安の状況を把握する
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１５－２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分
第４回　幼稚園における子育て支援の取り組み
【key words】
＜key words＞
子育て支援

【授業概要】
＜授業の概要＞
幼稚園の実際の支援例を見ながら、その展開を見ていく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
２９－４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分
第５回　幼稚園による地域の子育て支援
【key words】
＜key words＞
地域における支援、アウトリーチ

【授業概要】
＜授業の概要＞
幼稚園の地域を対象とした支援の意義と実際を概観していく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
４５－５８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分
第６回　保育所における子育て支援
【key words】
＜key words＞
保育所保育指針、子育て支援

【授業概要】
＜授業の概要＞
保育所保育指針にある子育て支援の必要性と意味を知る
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
５９－７５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分
第７回　子育てセンターの活動と課題
【key words】
＜key words＞
子育て支援、子育てセンター

【授業概要】
＜授業の概要＞
子育てセンター等支援の具体的な活動内容と課題を考える
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
７６－９１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分
第８回　事例検討

【key words】
＜key words＞
事例検討

【授業概要】
＜授業の概要＞
支援の事例を通して、活動内容の実際を知る

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　地域子育て支援活動１
【key words】
＜key words＞
子育て支援センター、障害家庭

【授業概要】
＜授業の概要＞
どこがどんな役割を持って、また連携をして支援を展開していくかを学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
９２－１２４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第７回同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１０回　地域子育て支援活動２
【key words】
同上
【授業概要】
同上
【教科書ページ・参考文献】
同上
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１１回　子育て支援の効果
【key words】
＜key words＞
支援の効果判定

【授業概要】
＜授業の概要＞
子育て意識に基づいた支援の実施と効果の判定について概観する
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１２５－１４０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１２回　父親の子育て支援活動
【key words】
＜key words＞
父親支援

【授業概要】
＜授業の概要＞
母親主体の養育から父親の養育参加の支援の方法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１４１－１６１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１３回　事例検討
【key words】
＜key words＞
事例検討

【授業概要】
＜授業の概要＞
支援の事例を通して、支援内容の実際を知る

【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　子育て支援活動の展望と課題 【key words】 ＜key words＞ 今後の展望と課題 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 子育て支援の今後の展開とそこにある課題について見ながら、支援の必要性を協議する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １６２－１７６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第１２回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第１５回　まとめ 【key words】 まとめ 【授業概要】 質疑応答 補足説明 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習復習を行うこと ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで適宜伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業への取り組み等　２０％
教科書	子育て支援プロジェクト研究会編「子育て支援の理論と実践」　ミネルヴァ書房
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 児童相談所、児童自立支援施設、身体障害者更生相談所 （心理職、言語聴覚士、児童福祉司、sv） アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人権教育論　　授業コード：4371

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、戦争の惨禍の中から世界に誇れる経済大国にまで成長してきたが、これからは更に、真に人権が確立された新しい日本につくり変えていく努力が必要である。 【到達目標】 人権の面において、新しい日本を創り出すことへと動く勇気ある人になるよう努力することである。
授業の概要	真に人権が確立されることによって、日本社会には画一性ではない、多様性と豊かな自由が齎される真の国際化がなされ、これによっての新しい日本が生まれてくるよう、私達は努力したいものである。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　人権教育の推進は真の国際化につながる 第２回　人格教育のための国連10年 第３回　“みんな同じ”　という幻想 第４回　国際的な人格基準の歴史 第５回　国際交流では本来、対立が生じることになる 第６回　多様性教育と人格教育の関わり 第７回　偏見・階級・人権侵害に対するMINORITYの闘い 第８回　日本の人格教育の特徴 第９回　日本の政府関係者の取り組みとこれからの課題 第１０回　真の国際化と間違った国際化 第１１回　人格文化とは

	第１２回　　善意の姿勢 第１３回　　絶縁社会 第１４回　　江戸時代の子育てについて学ぶ 第１５回　　経済大国にまでなった日本であるが、更に、新しい日本につくり変えていかなければならない
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本の人権問題のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育実習事前事後指導（幼稚園）　　授業コード：4419

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
塚越　亜希子・吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼稚園における教育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。 【到達目標】 ・子どもの姿のとらえ方、援助の言葉掛け等ができるようにする。 ・環境構成の考え方を学ぶ。 ・実習での指導案、日誌、記録が書けるようになる。 ・運動遊び、製作活動などさまざまな保育が行えるようにする。 ・責任実習での1日を想定できるようにする。
授業の概要	事前指導では教育実習（幼稚園）の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに実習日誌の記録方法・指導案立案・保育技術等を習得する。事後指導では実習の総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション　教育実習（幼稚園）の意義・目的　実習関係書類作成 【key words】 幼稚園教育実習とは 【授業概要】 ・教育実習を行うための事前準備のポイントを把握する。 ・実習生紹介票の下書きを書く（自分の長所、短所、実習目的を明確に相手に伝わる文章を書く） 【教科書ページ・参考文献】 実習ガイドブックP146～147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回「実習生紹介票」の清書を書く準備をしておく 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	教育実習（幼稚園）の実習計画、実習方法と心構え　オリエンテーションについて 【key words】 教育実習の準備、心構え①

【授業概要】
・実習生としての身なりや服装、立ち振る舞い、言葉についての説明を受け、準備するものを書き出してみる。
・実習生紹介票の清書をする。

【教科書ページ・参考文献】
実習ガイドブックP146～147
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習園の概要、沿革等を調べ、ノートに書いておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　実習記録について　実習記録の意義と内容、実習日誌の書き方
【key words】
教育実習の準備、心構え②

【授業概要】
・実習記録の書き方や、着眼点についての説明を受け、その日の流れを実習日誌にどのように書き込んでいく　か理解できるようにする。
・実習日誌の書く分量や、相手にとって読みやすい文字の書き方や大きさ、保育での言いまわしの表現方法の　ポイントを把握できるようにする。
・オリエンテーションの大切さについて知り、事前の準備をしっかり行っておく。

【教科書ページ・参考文献】
実習ガイドブック
「実習の記録と指導案」　ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指導案の事例を書き写しておく
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　指導計画①指導計画と指導案の書き方、指導案作成
【key words】
【key words】
部分実習・責任実習

【授業概要】
部分実習・責任実習、それぞれの指導案の書き方と、書く際の留意点の説明を聞く。
実際の指導案を何枚か読んでみる。

【教科書ページ・参考文献】
実習ガイドブック
「実習の記録と指導案」　ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
部分実習と責任実習を自分の言葉で説明できるようにまとめておく。
手遊び2つ、読み聞かせ用の絵本を2冊を各自準備しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　指導計画②指導案作成　教材研究と指導技術
【key words】
絵本と手遊び

【授業概要】
実際に部分実習指導案を書いてみる。そおの指導案に合わせて「手遊び」と「読み聞かせ」をグループ内で発表し合う。
手遊び2つ、読み聞かせ用の絵本を2冊を各自準備しておくこと

【教科書ページ・参考文献】
実習ガイドブック
「実習の記録と指導案」　ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
2つ以上の製作物の見本をつくって持ってくる。
材料や作り方の手順、材料の購入先や値段等も答えられる準備をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　指導計画③指導案作成　教材研究と指導技術（1）
【key words】
子どもの製作

【授業概要】
ひとり2つ以上の製作物を発表する
発表の後に意見交換や、気になるものがあったら作り方などを聞き、共有しながら学び合っていく。

【教科書ページ・参考文献】

実習ガイドブック
「実習の記録と指導案」　ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
製作の手順を図と文章で書いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　指導計画④指導案作成　　教材研究と指導技術（2）
【key words】
子どもの運動遊び

【授業概要】
外部講師（やまて幼稚園園長）による、子どもが楽しめる運動遊びの指導をいただく。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今日行った運動遊びを忘れないよう、図と文章でまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　指導計画⑤指導案作成（1）
【key words】
指導案の記入（1）

教材研究と指導技術（1）（2）でやったことを、指導案に書いてみる

指導案を書くので、各自参考になる保育雑誌を持ってくる
【アクティブラーニングについて】
【授業概要】
教材研究と指導技術（1）（2）でやったことを、指導案に書いてみる。

【教科書ページ・参考文献】
「実習の記録と指導案」ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指導案を書くので、各自参考になる保育雑誌を持ってくる。
授業の続きで指導案を進めておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　指導計画⑥指導案作成（2）
【key words】
指導案の記入

【授業概要】
教材研究と指導技術（1）（2）でやったことを、指導案に書いてみる。

【教科書ページ・参考文献】
「実習の記録と指導案」ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指導案を書く。
次週の直前実習指導は制服着用。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　幼稚園教育実習直前指導
【key words】
実習生の心得

【授業概要】
学長、学部長、子ども専攻児童福祉コース教員から、実習に行く心得の講話をいただく
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の講話をまとめてレポート作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　実習スタートの総まとめ
【key words】
実りある実習にするために

【授業概要】
指導案、日誌の書き方等の質疑応答。ピアノ指導等。

	【教科書ページ・参考文献】 実習ガイドブック 「実習の記録と指導案」ひかりのくに　山本淳子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習園での課題曲を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 継続的に行う 第１２回　実習での自己評価 【key words】 お礼状・自己評価 実習ガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 便箋・封筒・82円切手を持参する（お礼状） 【アクティブラーニングについて】 【授業概要】 ・実習園にお礼状を書く ・実習での自己評価をワークシートに書く 【教科書ページ・参考文献】 実習ガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自己評価ワークシートを見直し、文章にまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１３回　事後指導①実習報告会 【key words】 責任実習 【授業概要】 責任実習を行った年齢別にわかれ、グループワークを行う 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 責任実習で書いた指導案を持ってくる グループワークで話し合ったことをまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　実習反省会 【key words】 保育者になるために 【授業概要】 実習に向けて準備不足を感じたことや、実習中に困ったことなど意見交換を行い、情報を共有し、保育者になるためにどんな力が必要か課題を見つけ、検討する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の実習内容を振り返り、今後の課題としてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　まとめ 【key words】 実習生評価票 【授業概要】 園から送られてきた実習生評価票に基づき、よかった点や課題となるところを伝え、実習での学びを生きた経験にする 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ノートを持ってくる 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	・幼稚園教諭免許取得を希望する学生は必ず履修すること ・すべての講義に出席すること ・課せられた課題の提出期限は厳守すること ・欠席、遅刻する場合は、必ず学校に連絡すること

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	製作や運動遊び、手遊び、読み聞かせ等いつでも出来るように準備しておく
オフィスアワー	月曜13：00〜15：00　それ以外の時間帯については、アポイントを取って下さい。
評価方法	平常点（授業への取り組み、授業中に課す課題等）５０％　　授業中に実施したレポート、発表および提出物５０％　を総合的に評価する。
教科書	「実習ガイドブック」群馬医療福祉大学
参考書	「実習の記録と指導案」（ひかりのくに）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【アクティブラーニングについて】 ①協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習、②デスカッション、③グループワーク、④プレゼンテーション、⑤実習、フィールドワーク 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 私立幼稚園教諭主任、公立幼稚園、小学校教諭の経験を活かし、幼稚園教諭としての知識、技術、価値、倫理について講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習指導Ⅱ（保育所）　　授業コード：4421　4422

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中　輝幸・吉澤　幸・川端　奈津子・塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育実習（保育所）における実習の意義・目的を理解し、有意義で効果的な実習となるために必要な知識と技術を習得する。また責任実習に向け発達年齢に合わせた指導案を作成し実践する力を養っていく。 【到達目標】 ①実習の意義と目的を理解し実習生の心得等を身に付け実行できる。 ②実習記録や関係書類を適切に記載することができる。 ③発達年齢に合わせた指導案を作成し実践することができる。
授業の概要	本講義は保育所実習Ⅱ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育所実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。特に責任実習に向け発達年齢に合わせた指導案を作成し実践する力を養っていく。事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 保育実習Ⅱ（保育所）、責任実習、指導案 【授業概要】 保育実習Ⅱ（保育所）の流れについて確認する。 実習希望地域ごとに実習先の調整を行なう。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブックP61、配布プリント（実習園調査書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習希望先の情報等を各自調べ、次週持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	保育実習Ⅰ（保育所）振り返り 【key words】 保育実習Ⅰ、保育実技、部分実習 【授業概要】 保育実習Ⅰに関して、各自振り返り及び自己評価を行なう。 グループごとに反省点をまとめ発表する。保育実習Ⅱ希望園を地域ごとに調整する 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（自己評価票、実習終了報告書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブック、配布プリントを良く参照すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分

第３回　実習課題の明確化
【key words】
実習課題・実習目標、実習の目的

【授業概要】
保育実習Ⅱ（保育所）での実習課題を、各自、実習へのガイドブックや配布プリントをもとに、作成する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP61、配布プリント（実習の目的）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週、実習の目的の書類を記入し提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　実習の心構えと理解
【key words】
専門職、資格取得

【授業概要】
実習を行なうのにあたり、基本的な心構えを確認し、専門職として必要な事項を確認していく

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP26、配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習へのガイドブック、配布プリントを良く参照すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　責任実習のポイント　指導案について①4、5歳児のポイント
【key words】
責任実習、導入、指導案

【授業概要】
指導案の書き方について概要を知る。各年齢ごとの指導案作成のポイントについて知る。　各年齢ごとの指導案を実際に書いてみる。時間内に添削指導質問等も受け付ける。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P12～13、配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各年齢ごとの指導案を考え記入すること。資料等も準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　責任実習のポイント　指導案について②3、4歳児のポイント
【key words】
指導案、導入、展開、まとめ

【授業概要】
各年齢ごとの指導案を実際に書いてみる。時間内に添削指導、質問等も受け付ける。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P60、配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各年齢ごとの指導案を考え記入すること。資料等も準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　責任実習のポイント　指導案について③未満児のポイント
【key words】
指導案、導入、展開、まとめ

【授業概要】
各年齢ごとの指導案を実際に書いてみる。時間内に添削指導、質問等も受け付ける。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P44、配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各年齢ごとの指導案を考え記入すること。資料等も準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　保育実習の具体的内容と実習計画
【key words】
部分実習、責任実習、指導案、反省会

【授業概要】
実習の具体的な内容及び実習計画、実習の流れについて確認する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP64
【課題・予習・復習・授業準備指示】
視覚的教材について、演じ方も含めて良く練習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　保育実技について（手作り教材等）
【key words】
視覚的教材

【授業概要】
各自作成した視覚的教材の発表を行なう。発表後、改善点を各自まとめる。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（視覚的教材について）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習先オリエンテーションの準備を行なっておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　オリエンテーションについて
【key words】
実習記録、園の概要、デイリープログラム、持ち物、責任実習

【授業概要】
実習先でのオリエンテーション時の注意点やポイントを中心に確認する。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（オリエンテーションについて）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習へのガイドブッjクP28～29を熟読しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　実習中の注意事項について　守秘義務・個人情報等
【key words】
守秘義務・個人情報、実習記録

【授業概要】
実習中の注意点について、特に守秘義務・個人情報等について確認する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブッjクP28～29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習巡回担当者に、挨拶ともに実習中のスケジュールなどを伝えておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　保育実習直前指導
【key words】
実習への心構え、報告・連絡・相談、実習関係書類

【授業概要】
実習に向かうにあたり、実習に対する心構え及び注意点を確認する。園や大学への連絡の仕方についても再度確認する。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（直前指導メモ）

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習自己評価、実習振り返りは、後期１～３回の講義内で行なう。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　保育実習Ⅱ（保育所）事後指導①自己評価表及び報告書の作成 【key words】 実習自己評価　実習報告書 【授業概要】 実習終了報告書の作成及び実習自己評価を行なう。随時、実習先からの評価面談も行なう。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（実習終了報告書・実習自己評価票） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の評価面談は随時行なうので、申し出ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　保育実習Ⅱ（保育所）事後指導②グループワーク及び評価面談 【key words】 責任実習　実習課題　発達年齢 【授業概要】 責任実習を行った年齢別で、実習のまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（グループのまとめ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の評価面談は随時行なうので、申し出ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　まとめ 【key words】 責任実習　実習課題　発達年齢 【授業概要】 責任実習の年齢別でまとめとしてグループ発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（グループのまとめ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習の評価面談は随時行なうので、申し出ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通して連絡すること。 ○提出物の期限は必ず守ること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習園にて、必ず事前ボランティアを行うこと。
オフィスアワー	講義終了後３０分間対応します。それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。
評価方法	提出物（50%）授業内レポート（30%）小テスト（20%）の総合評価
教科書	「実習の記録と指導案」　山本　淳子　編著　ひかりのくに
参考書	実習へのガイドブック　群馬医療福祉大学　　保育所保育指針　　幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保育士　認定こども園園長　幼稚園教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 幼児理解　　授業コード： 4441

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択／初等教育コース・必修
担当教員			
塚越　康子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人間の成長・発達を学び、その過程における子どもや家族の課題を理解したうえで、子どもを対象とした援助者として必要な子どもおよび家族を理解し、支援できる具体的方法を考え、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①子どもを含む人間の成長・発達過程における課題についてを学び、理解する。 ②子どもを取り巻く環境について学び、理解する。 ③保護者について学び、理解する。 ④保護者からの教育相談を受けることについて学び、理解し、実践できるようになる。 ⑤対人援助専門職として自己理解および他者理解の方法を学び、実践できるようになる。
授業の概要	子どもの援助を行うためには、子どもの成長・発達の過程を理解するとともに子どもを取り巻く家族の理解も必要である。子どもおよびその家族を支援することができる援助方法や関わり方を学び、子どもおよび家族への援助を考えていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	本講義のオリエンテーション　講義の進め方および対人援助専門職における自己覚知 【key words】 子ども理解、人間理解、自分のことを知る、考える、表現する 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明を含めた講義オリエンテーション。 幼児理解に必要な方法を自己理解を深めるための自己表現をとおして学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 まえがき　第1章　幼児理解の必要性と概要　P2-19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の学習について教科書を熟読する。子どもの目線での絵本を選定し、第2回目に持参する。 【予習復習に必要な想定時間】 復習20分、絵本の選定30分
	第２回	子どもを理解する　①子どもを理解する方法 【key words】 子ども理解、まなざし、子どもの側に立つ 【授業概要】 子どもへの支援方法を具体的に考え、学ぶ。子ども理解のために必要な子どもの側に立つことを理解する。各自が選んだ子ども（人間）の内面を表現した絵本を具プールワークにて発表しあう。 【教科書ページ・参考文献】 第1章　幼児教育の基本　P8－19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の学習について教科書を熟読する。子ども（または人間）の目線での絵本を各自1冊ずつ選び、持参する。

【予習復習に必要な想定時間】
復習30分

第３回　子どもを理解する　②絵本をとおして子どもを理解する
【key words】

非言語の表現、絵本、表現を感じる、子どもの内面、
【授業概要】
子どもや他者の表現を受けとめるために、絵本を使い、内面の表現を掴む。その表現を掴む援助者自身の視点を学び、理解する。グループワークに各自の発表を聴き、さらに全体へのプレゼンテーションを行い、伝える、受けとめる体験をとおして自他の考えや価値観の違いを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第1章　幼児教育の基本　P8－19　第9章　幼児理解の方法3－パーソナリティ　P104－113.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の学習について教科書を熟読する。子ども（または人間）の目線の絵本を各自1冊ずつ選び、持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
復習30分

第４回　子どもを理解する　③子どもの視点
【key words】
非言語の表現、子どもの内面、絵本の表現、他者に伝える、他者の視点・表現を受けとめて考える
【授業概要】
子どもや他者の表現を受けとめるために、絵本を使い、内面の表現を掴む。その表現を掴む援助者自身の視点を学び、理解する。自らの考えを他者に伝える。プレゼンテーション方法を具体的に体験し、学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第10章　幼児理解の方法4－社会性、　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の学習について教科書を熟読する。子ども（または人間）の目線の絵本を各自1冊ずつ選び、持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習および復習25
予習および復習30分

第５回　子どもを理解する　④子どもの成長と発達
【key words】
かかわる、観る、聴く、考える
【授業概要】
援助者のからだとこころをとおして行うには、子どもの何を理解し、何を援助するのか。理解と援助の内容や方法を具体的に知り、考える。
【教科書ページ・参考文献】
第5章　発達段階理論P56-67　第6章　幼児理解の方法1－行動観察P68-77、　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習復習30～50分

第６回　子どもを理解する　⑤仲間とともに検討する　援助の必要な子どもの特徴
【key words】
保育カンファレンス・事例検討・発達障害の特徴・関わり方・積み重ね
【授業概要】
子ども理解のために、他者と話し合い、関わりながら理解する方法を学ぶ。発達障害の内容及び特徴を理解する。さらに当時者の言葉から障害を持つ人の気持ちを理解して、障害を持つ人との関わり方を具体的に考える。
【教科書ページ・参考文献】
第10章　具体的な幼児の捉え方　P111－120　第13章　特別な支援を必要とする幼児の理解　P145－155.　配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の学習について教科書を熟読する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習および復習30から50分

第７回　子どもを理解する　⑥援助の必要な子どもの特徴
【key words】
発達障害の特徴・関わり方・積み重ね
【授業概要】
発達障碍の内容及び特徴を理解する。さらに当時者の言葉から障碍を持つ人の気持ちを理解して、障碍を持つ人との関わり方を具体的に考える。
【教科書ページ・参考文献】
第12章　特別な支援を必要とする幼児の理解　P132－142.　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習および復習30から50分

第８回　子どもを理解する　⑦援助の必要な子どもとの関わり方　その２発達障害
【key words】
発達障害の特徴・関わり方・積み重ね
【授業概要】
発達障害の内容及び特徴を理解する。さらに当時者の言葉から障害を持つ人の気持ちを理解して、障害を持つ人との関わり方を具体的に考える。
【教科書ページ・参考文献】
第12章　特別な支援を必要とする幼児の理解　P132－142.　・　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。
【予習復習に必要な想定時間】

		予習およぶ復習30から50分
	第９回	子どもを理解する⑧　援助の必要な当事者の気持ちを理解する 【key words】 事者のことば・理解方法・繰り返しと積み重ね 【授業概要】 当事者の言葉から障害を持つ人の気持ちを理解して、障害を持つ人との関わり方を具体的に考える。 【教科書ページ・参考文献】 第12章　特別な支援を必要とする幼児の理解　P132－142.　配布プリント、東田直樹著 あるがままに自閉症です　　エスコアール　2013 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習および復習30分
	第１０回	保護者を理解する　①子どもにとっての環境　②保護者からの訴え ③保護者との関わり方 【key words】 親子関係、家庭環境、背景、関わり方・伝え方 【授業概要】 気になる保護者の特徴を理解した上で、気になる子どもや気になる保護者との関わり方を教科書および配布資料の事例から具体的に考える。 【教科書ページ・参考文献】 第14章　幼児を知るための保護者理解　P154 - 164 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の学習について教科書を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習および復習30から50分
	第１１回	子どもと家族を支援する　①子どもと保護者の特徴を理解する　　②背景を理解する　③相談援助と保護者を支えること 【key words】 保護者支援・家庭支援、自らの価値観、関わり方・伝え方、援助者の姿勢 【授業概要】 子どもにとって保護者とは、どのような存在なのかを学び、子どもを持つ保護者や家庭について理解を深め、保護者との関わり方を具体的に考える。 【教科書ページ・参考文献】 第14章　幼児を知るための保護者理解　P154 - 164　第13章　教師の姿勢と幼児に対する共感的理解　P143-153 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習および復習30から50分
	第１２回	学校における教育相談の意義と理論 【key words】 教育相談・話を聴く・背景・保護者との関わり方 【授業概要】 学校での教育相談の意義について学び、具体的な援助方法を考える。 【教科書ページ・参考文献】 第14章 教師の姿勢と幼児に対する共感的理解 P156－166 ・配布資料（教育相談の基礎理論） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習および復習30から50分
	第１３回	教育相談の基礎的知識　　－子どもと家族を支援するための支援者の姿勢－ 【key words】 関わり方・伝え方、カウンセリングマインド、共感的理解、肯定的見方 【授業概要】 子どもと保護者の理解を深めるための、支援者側の姿勢と共感的理解の方法を具体的に考える。 【教科書ページ・参考文献】 第13章　教師の姿勢と幼児に対する共感的理解　P143-153・配布資料（教育相談の理解） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習および復習30から50分
	第１４回	教育相談の具体的な進め方 【key words】 肯定的見方、教育相談、関わり方と伝え方、 【授業概要】 教育相談を行う支援者側の姿勢と関わり方を考え、教育相談の具体的方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第13章　教師の姿勢と幼児に対する共感的理解　P143-153、配布資料（教育相談の方法） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習および復習30から50分
	第１５回	地域の専門機関との連携、全体のまとめ 【key words】 専門機関・医療機関・福祉制度・心理専門家・つなぐ 【授業概要】 外部機関について学び、どのように保護者を繋ぐ方法を考える。 【教科書ページ・参考文献】 第14章 教師の姿勢と幼児に対する共感的理解 P156－166 ・配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の学習について教科書および配布資料を熟読する。

	【予習復習に必要な想定時間】 予習および復習30から50分
受講生に関わる情報および受講のルール	①子どもに関わる対人援助専門職の資格取得にかかわる講義のため、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本となります。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めません。 ②授業参加状況（相談・連絡･報告ができる、講義理解の確認のためのコメントカードの記述内容）を重視します。 ③自ら具体的に考え、工夫し、現場における子どもの援助についての視点が持てることを目標に積極的な授業参加を期待します。 ④授業中の活動を乱す行為(私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は謹んでください。 ⑤欠席をした場合、授業配布プリント等は次週自ら申し出てください。欠席者の分を出席者が受け取ることはできませ　ん。 ⑥提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。② 授業時間外の日常生活において人間に興味を向けて過ごすこと。
オフィスアワー	講義前後の各20分間初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み(グループワークなど授業への参加状況)15% ②授業レポート（内容および提出状況含む）35%③ 定期試験および課題レポート50%
教科書	新版幼児理解　谷田貝公昭監修　大沢裕編著　一藝社　2018
参考書	①教育相談　高柳真人・前田基成・服部環・吉田武男編著　ミネルヴァ書房　2019 ②最新保育講座こども理解と援助　高嶋景子・砂上史子・森上史朗編　ミネルヴァ書房　2011 ③ 新･保育講座３幼児理解と保育援助　森上史朗+浜口順子編　ミネルヴァ書房　2003 ④ 新時代の保育双書 「子どもの理解と保育・教育相談」　小田豊･秋田喜代美編（株）みらい 2009　⑤ 「子ども理解と保育実践子どもを知る・自分を知る」塚本美知子編著　萌文書林　2013　⑥ 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領　その他参考書は講義内で適宜指示します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、児童養護施設での被虐待児への心理療法、幼稚園でのキンダーカウンセラー・小学校および中学校でのスクールカウンセラー、市町村発達支援センターでの対象児童および保護者面接などを行う。幼児および保護者への心理的支援の基盤として、臨床心理学や発達心理学、さらに社会状況や福祉制度の理解を進め、様々な年齢の具体的な援助対象者への心理的支援を、他職種と連携しながら実践している。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育実習事前事後指導（特支）　　授業コード：5144

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
小林　義信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　特別支援学校の教育実習にあたり、本実習に必要な知識・技能・態度を学び、教育実習を通して特別支援学校の教員となる資質・意欲を高める。 【到達目標】 1　特別支援学校の組織、教育課程の仕組みを理解する。 2　障害のある児童生徒理解に努め、一人一人の障害特性に合った個別の指導計画及び学習指導案の作成方法を学び、児童生徒の実態に即した指導方法を組み立てることができる。
授業の概要	1　特別支援学校教育実習の意義・目的を十分理解し、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を　　行う。 2　障害のある児童生徒一人一人の理解に努め、障害特性を踏まえた個別の指導計画及び学習指導案の作成方法を学び、　　教育課程の自主編成を理解する。 3　本実習終了後、報告書を作成し発表する。研究授業の指導案をもとに授業実習の振り返りを行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテ―ション　教育実習の意義と目的、心構え 【key words】 教職　免許法、特別支援教育、特別支援学校、特別な教育課程、守秘義務 【授業概要】 教育実習へのガイドブックをもとに、教育実習の意義と目的、実施の方法と内容、手続き、心得等について学習する。また、特別支援学校（知的障害）の教育課程の基礎的知識について、ワークシートを通して確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ1-11、Ｐ46-49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を事前に読んで予習しておくこと。キーワードについて簡単に説明できるようにしておくこと。 授業終了後は、キーワードについてそれぞれ理解を深めておく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第２回	知的障害特別支援学校の教育活動の理解　（ＤＶＤ視聴）

【key words】

知的障害を主な対象とする特別支援学校、教科等を合わせた指導、自立活動

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学校現場のDVDによる映像を視聴することで、実際の教育現場の様子を概観する。必要に応じて、指導者が　映像を止め説明を加える。特に、知的障害を対象とする特別支援学校における特徴的な指導形態である教科　等を合わせた指導について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業を復習し、キーワードについて説明できるようにしておくこと。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３回　肢体不自由特別支援学校の教育活動の理解　（ＤＶＤ視聴）
【key words】

バリヤフリー設備、自立活動、医療的ケア、摂食指導、食形態

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。　学校現場のDVDによる映像を視聴することで、実際の教育現場の様子を概観する。必要に応じて、指導者が　映像を止め説明を加える。特に、肢体不自由を対象とする特別支援学校における特徴的な校舎設備（バリヤ　フリー、自立活動室等）や自立活動の指導、医療的ケア等について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業を復習し、キーワードについて説明できるようにしておくこと。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第４回　障害特性の理解（知的障害・肢体不自由・病弱）
【key words】

学校教育法施行規則22-３　就学基準　、知的障害、肢体不自由、病弱の障害特性

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

教育実習へのガイドブックを中心に、基本的事項の確認を行うとともに、各障害の特性に対応した教育的配慮について理解を深める。県内の病弱特別支援学校の現状についても把握する。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ61-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教科書を事前に読んで各障害の特性について整理しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第５回　特別支援学校の教育課程　①
【key words】

特別支援学校の教育課程の類型　準ずる教育課程　特別な教育課程　各教科等を合わせた指導　自立活動

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

教育実習へのガイドブックを中心に、特別支援学校の教育課程の基本的な類型について確認するとともに、それぞれの特徴について理解する。また、知的障害教育において特徴的な指導形態である各教科等を合わせた指導について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ65-67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで知的障害教育における各教科等を合わせた指導について、説明できるようにしておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第６回　特別支援学校の教育課程　②
【key words】
準ずる教育課程　下学年適応教育課程　自立活動を主とする教育課程

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

教育実習へのガイドブックを中心に、特別支援学校の教育課程の基本的な類型について確認するとともに、それぞれの特徴について理解する。特に、肢体不自由、病弱、盲、ろう　特別支援学校等で取り入れられている準ずる教育課程、下学年適応教育課程、また、自立活動を主とした教育課程については、児童生徒の実態によってさまざまな類型があることも理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ62-64　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで教育課程の類型について整理しておく。また、自立活動について基本事項を確認しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第７回　個別の教育支援計画、個別の指導計画
【key words】

個別の教育支援計画、個別の指導計画、個別の支援計画

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

個別の支援計画と個別の教育支援計画、個別の指導計画との関係について概観図をもとに理解する。また、個別の教育支援計画、個別の指導計画について、具体例をもと項目、記述内容等確認する。指導案との関係についても触れる。
また、学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ67-69　特別支援学校学習指導要領解説、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書及び資料を事前に読んでおく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第８回　学習指導案の作成　　生活単元学習　①
【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。生活単元学習の学習指導案の作成例をもとに、各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成方法について理解する。特に、題材設定の理由の書き方、実態、目標、評価の整合性及び関係する各教科等について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。　教科書及び学習指導要領を読んでおくこと。各教科等を合わせた指導について、説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第９回　学習指導案の作成　　生活単元学習　②
【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学生が加筆・修正した生活単元学習指導案(教科書掲載）について発表した後、学生が中心となって検討をする。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
生活単元学習の学習指導案について指示された項目を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１０回　学習指導案の作成　自立活動
【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性、学習上又は生活上の困難

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
自立活動の学習指導案の作成例をもとに、作成方法について理解する。特に、題材設定の理由の書き方、実態、目標、評価の整合性について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配付された自立活動学習指導案及び自立活動の学習指導要領解説書を読んでおくこと。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１１回　学習指導案の作成　日常生活の指導
【key words】
日常生活の指導（朝の会、帰りの会、基本的生活習慣の指導等）

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。日常生活の指導の学習指導案の作成例をもとに、各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成方法について理解する。特に、題材設定の理由の書き方、実態、目標、評価の整合性及び関係する各教科等について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
配付された学習指導案を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１２回　学習指導案の作成　各教科の指導（算数・数学、国語）　①
【key words】

教科指導における実態把握、各段階、内容、目標、評価

自立活動の学習指導案について指示された項目を作成しておくこと。

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学習指導案の作成例をもとに、各教科の学習指導案の作成方法について理解する。特に、個人ごとの実態把握の方法と指導内容、目標、評価との関係について整理していく。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

配付された学習指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１３回　学習指導案の作成　　各教科の指導（算数・数学）　　②
【key words】
教科指導における実態把握、各段階、内容、目標、評価

国語、算数・数学、図工・美術等の指導

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
学習指導案例の記述内容について、実態、内容、目標、評価の一貫性についてワークシートにより整理する。その後、学生が中心となって記述内容について検討をする。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

ワークシートにより整理した内容について改めて確認をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１４回　教育実習で留意すること、教育実習録の書き方
【key words】
教育実習録　評価　教育実習報告会
【授業概要】

学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

教育実習を実施するにあたり、教育実習録や教育実習報告書の書き方について、資料（様式）をもとに学習する。また、これらの書類の作成については、事務的な面だけでなく、作成過程を通じで自己評価をするということを学習する。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ11、p82-92
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を読んでおく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１５回　本実習前オリエンテーション
【key words】

教育実習に向けての個人目標、守秘義務、安全管理

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
教育実習を実施するに当たり、実習生としての心得を改めて確認するとともに、学生が一人ずつ自分の目標　について発表する。併せて実習校の概要についても説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ1-10、Ｐ46-49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、個人目標の発表及び学校概要説明の準備をしておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１６回　教育実習報告会・検討会　①　　1名　　インクルーシブ教育と特別支援教育　①
【key words】
学習指導、生徒指導、個別の教育支援計画、個別の指導計画、TT、保護者との連携　　障害者の権利条約、障害者差別解消法、合理的配慮、基礎的環境整備、特別支援教育の現状、医療的ケア

【授業概要】
教育実習報告書をもとに、学生が一人ずつ、教育実習の概要や教育実習で学んだこと等を発表する。特に個　別に立案した教育実習の目標に対する評価について、詳しく説明する。その後、質疑応答や課題等について　検討を加えることで、教育実習をより充実したものとする。障害者係法規の変遷を押えがら、現在の障害者をめぐる社会の動きについて概要を理解する。併せて、特殊教育から特別支援教育への概念の変化、現在、今後の課題等についても理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習報告書発表者は、発表事項をわかりやすくまとめておくこと。講義後、インクルーシブ教育に関するキーワードを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１７回　インクルーシブ教育と特別支援教育　②

【key words】
障害の捉え方　障害モデル（医学モデル、社会モデル）　多様性　想像力

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。人の多様性や障がいの捉え方について事例や実地体験をとおして改めて考える。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１８回　インクルーシブ教育と特別支援教育　①

【key words】
障害者の権利条約、障害者差別解消法、合理的配慮、基礎的環境整備、特別支援教育の現状、医療的ケア

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
障害者係法規の変遷を押えがら、現在の障害者をめぐる社会の動きについて概要を理解する。併せて、特殊教育から特別支援教育への概念の変化、現在、今後の課題等についても理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１９回　インクルーシブ教育と特別支援教育　②

【key words】
障害の捉え方　障害モデル（医学モデル、社会モデル）　多様性　想像力

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

人の多様性や障害の捉え方について事例や実地体験をとおして改めて考える。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２０回　教育実習報告会・検討会　②　　3名

【key words】
学習指導、生徒指導、個別の教育支援計画、個別の指導計画、チームティーチング、校務分掌、保護者との　連携

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
　　教育実習報告書をもとに、学生が一人ずつ、教育実習の概要や教育実習で学んだこと等を発表する。特に個　別に立案した教育実習の目標に対する評価について、詳しく説明する。その後、質疑応答や課題等について　検討を加えることで、教育実習をより充実したものとする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、教育実習報告書発表者は、発表事項をわかりやすくまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２１回　教育実習報告会・検討会　③　　3名
【key words】
学習指導、生徒指導、学校組織（チームで働く）、保護者との連携、コミュニケーション力

個別の教育支援計画、個別の指導計画、チームティーチング、保護者との連携

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
　　教育実習報告書をもとに、学生が一人ずつ、教育実習の概要や教育実習で学んだこと等を発表する。特に個　別に立案した教育実習の目標に対する評価について、詳しく説明する。その後、質疑応答や課題等について　検討を加えることで、教育実習をより充実したものとする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、教育実習報告書発表者は、発表事項をわかりやすくまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２２回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　　1名ずつ
①
【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２３回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　　1名ずつ
②
【key words】

個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読

んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２４回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ずつ
③
【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２５回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ずつ
④
【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２６回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ずつ
⑤
【key words】

個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２７回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ずつ
⑥
【key words】

個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２８回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ず　⑦

【key words】

個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案
【授業概要】

学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２９回　教育実習のまとめ　①

【key words】

個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

研究授業指導案検討会を通じて検討してきた各教科等の指導案について、改めて各教科等ごとに作成上のポ　イントを確認、整理する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。自分が修正を加えた研究授業指導案について読み直しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３０回　教育実習のまとめ　②　学校の危機管理

【key words】

学習指導案の整合性　　危機管理　　信用失墜行為

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

現在の教育現場における様々な危機管理について、想定される危機とそれぞれの危機への対応方法について　具体的に学ぶ。また、併せて教育公務員としての意識（識見）の向上を図る。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。講義後は、教育公務員として求められる責任、安全配慮、資質等について整理しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

受講生に関わる情報および受講のルール	1　本講義は4年時に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届けること。欠席　　や遅刻の多い学生（3回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止もあり得るため、熱心な受講態度を求める。 2　教育実習に向けて、児童生徒の障害特性を理解し、個別の指導計画及び学習指導案の作成に積極

	的に取り組み、授業構成や教材研究を熱心に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・授業の要約もしくは課題をミニレポートという形でまとめ、指定した日時までに提出すること。教育実習の報告書は指　定された形式に則り、教育実習報告会の1週間前までに提出すること。 ・実習校の情報に注意を向け、学習支援ボランティア等に積極的に参加すること。 ・学習指導案に関連した資料や図書を理解し授業に臨むこと。 ・学習指導要領、解説書等を読んでおくこと。
オフィスアワー	火曜日、水曜日　（9:00～18:00）
評価方法	授業中に課したミニレポート・コメントカードの内容（20%）、実習報告書の内容（50%）、試験またはまとめのレポート（30%）を総合して評価する。
教科書	群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック』 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領』、『解説総則編（幼稚園、小学部、中学部）と（高等部）』、『自立活動編』『各教科等編　小・中学部』
参考書	宮崎英憲　監修　全国特別支援学校長会　編著　　『特別支援学校のすべてがわかる　　教員をめざすあなたへ』　ジアース教育新社 2017
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育実習（特別支援学校）　　授業コード：5148

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
10日間	4年次	2単位(80)	学校教育コース・選択
担当教員			
小林　義信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　障害のある児童生徒一人一人の実態に即した教育的ニーズを把握し、個別の指導計画を立て、児童生徒が主体的に 　活動し、全人的発達を促せる指導･支援ができるような実践力や指導技術を習得することを目指す。 [到達目標] １　特別支援学校の教育活動の場に臨み、特別支援学校の仕組みを知り、障害のある児童生徒の理解に努め、教育課 　　程の自主編成が理解できる。 ２　一人一人の障害特性にあった個別の指導計画･教育支援計画、学習指導案の作成方法を学び、児童生徒の実態に 　　即した学習指導（教材教具の開発や工夫等）ができる。ティームティーチングの方法を知る。 ３　保護者理解や地域と学校との関連を理解する。
授業の概要	１　実習校（特別支援学校）において、原則として10日間（80時間以上）の実習を行う。 ２　教育実習前に立案した自己目標に対しての評価を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	就務式　　配属学級での実習（授業観察・授業参加）　校長講話 【key words】 職員への挨拶、指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	配属学級での実習（授業参観・授業参加）　　講話（生徒指導、進路指導、教務主任等） 【key words】 指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	配属学級での実習（授業参観・授業参加）　　講話（生徒指導、進路指導、教務主任等）

【key words】
指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　配属学級での実習（授業参観・授業参加）
【key words】
実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習）
【key words】
実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習）
【key words】
実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習）
【key words】
実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習、研究授業）、授業研究会
【key words】
実指導教諭との打ち合わせ、授業研究会への参加、授業説明、評価、実習録記入
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習）
【key words】
実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　解務式、配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習）
【key words】
職員への挨拶、実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入（まとめ）
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回
【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	以下の全ての履修条件を満たしている者。 １　将来、教員として学校現場で働く意思を満たしている者。 ２　特別支援教育とその教育課程の学習に熱意と意欲を持っている者。 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者。 ４　中学校もしくは高等学校教員免許状取得可能な単位を持っている者。 ５　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：障害者教育総論、障害児教育総論、知的障害教育Ⅰ、　Ⅱ、肢体不自由教育Ⅰ、Ⅱ、重複障害教育総論、ＬＤ等教育総論、知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者へ　の心理・生理・病理、病弱者への心理・生理・病理、教育実習事前・事後指導を履修済みあるいは履修中であること。 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者。 ７　ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に行い、体験した者。 ８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科があ　る。その場合は私立学校主催の適性検査を必ず受験すること。）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習校では、指導教諭から指導を受ける。大学担当者へは、進捗状況をメール等で報告する。また、担当者の巡回指導時にも進捗状況を報告する。必要があれば指導を受ける。
授業外時間にかかわる情報	１　ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に体験しておく。 ２　ＨＰ等で実習を希望する特別支援学校等の情報を得ておく。
オフィスアワー	火曜日（終日）　水曜日（10:30～18:00）
評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告（10%） ２　実習校の評価（50%） ３　教育実習録の評価（40%）
教科書	群馬医療福祉大学：「教育実習へのガイドブック」
参考書	文科省：特別支援学校小学部・中学部・高等部学習指導要領」「特別支援学校学習指導要領解説　総則編・自立活動編・各教科　編」
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 政治学Ⅰ　　授業コード：5152

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国の人達にもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える。
授業の概要	目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	現代の世界が抱える地球的問題 【key words】 ポスト主権、NGO、国連、欧州共同体 【授業概要】 国連組織というものが主権国家同士の関係で動かされていると、国家の段階では存在している民主的な統制が忘れられ、国家間の力学で動かされることになりかねない。そのような状況下でのNGOの成長していく可能性に期待したい。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	政治（politics)ということば、政治とことばは切り離せない。 【key words】 Politicsと日本の政治、国民・選挙民 【授業概要】 学問の世界に嘘・誤解が入り込むと虚構になるように、政治も本来はアカデミックなものであるから、同様になる。我が国のリーダーが誰になるとしても、リーダーの条件としては、先ず、真のことばを語る人であるということである。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	平和憲法と社会福祉 【key words】 コスタリカ、紛争の仲介、積極的永世非武装中立宣言、平和憲法 【授業概要】 平和憲法の精神は、コスタリカから学ぶことが多いが、コスタリカの人たちにとって平和とは、戦争がないこと、軍隊が存在しないことではなくて、民主主義・人権・自由・豊かな自然環境、

そして、謙虚・寛容等の価値観が統合されている状態である。コスタリカはまた、「積極的永世非武装中立宣言」を公表した国であるが、それは、どの国にも加担しないが、紛争を終わらせるために仲介者として積極的に介入するということである。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　国際ボランティア活動、湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動
【key words】
イラク、国際ボランティア活動、経済制裁
【授業概要】
湾岸戦争後、１３回も出かけることになったイラクの乳幼児に対する緊急救援活動を通して、イラクと日本での国際ボランティア活動のスタートから終了までの大事な諸点を紹介し、ボランティア精神の重要性も明らかにする。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　カリタス・ジャパンと社会福祉
【key words】
カリタス・ジャパン、政教分離、アガペー
【授業概要】
アガペー的な愛他行動に源流がある社会福祉（賀川豊彦など）であるが、人間観の世俗化が行き着くところまで行ってるようにも思われる。社会福祉におけるSpiritualityにも触れたい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　「感染症」問題
【key words】
都市化、自然の生態系、コロンブス
【授業概要】
都市化やグローバル化が進んできたことや、人間が自然の生態系を破壊し攪乱させてきたことが等が、ヒトにとってまだ免疫が低い新規の病原微生物との接触頻度を増やしていくことになった。今回は感染症の問題を政治学として扱いたい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　資源枯渇と環境破壊
【key words】
エネルギー供給、森林・オゾン層・温室効果、地球環境危機
【授業概要】
１　ソフト・エネルギーへの転換が今日ほど求められている時はない。
２　森林消失が、オゾン層破壊が、大気中の二酸化炭素濃度上昇が、どんな物理的作用を私たちに齎すかは、科学的には問題は解けているのに、政治的には解決されていない。そのことは大きな問題である。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　難民の問題
【key words】
難民、基本的人権、ドイツ、日本、グローバル化、シリア難民
【授業概要】
現在、難民こそ実在であり、基本的人権の観点から保護すべきである、ということが言えるであろうか。どうもこの問いは宙に浮いてしまっているようだ。難民の定義そのものが混迷しているからである。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　人口問題
【key words】
緑の革命、漁場、水不足、環境破壊、砂漠か
【授業概要】
宇宙船地球号は、現在の技術水準から考えられる収容定員があるようである。ただ、この水準は変動してきたし、今後も変動するようである。この問題を技術的に突破しても、問題が悪化する可能性もあるようだ。
【教科書ページ・参考文献】

授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　宗教紛争（１）
【key words】
排他性、孤立、合理主義、物質主義、選民、イエス
【授業概要】
今日のユダヤ教徒・キリスト教徒・イスラーム教徒間の争いの根にあるものの一つは、三教徒間の根深い偏見、そして特に、神の子イエスの十字架上での死を巡る問題であり、もう一つは、宗教が異なる国家間の富・技術・工業発展などの格差から来るものである。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　宗教紛争（２）
【key words】
教会組織、スンナとシーア、クルアーン、民主主義
【授業概要】
イスラームでは、ローマ・カトリックで見られる教皇・枢機卿・司教・神父・信徒という特別の教階的組織はない。宗教的なヒエラルヒー（教階制）はイスラームではどのように働くのであろうか。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　人種差別問題
【key words】
イタリア、移民、多様性、アメリカ、個性、ローマ帝国
【授業概要】
ユニークであること、クリエイティブであること、人と違うことは、尊重されるべき個性であり、このような違いをあるがままに受け止めるのがイタリア人の姿勢である。人種差別のないイタリア人の視点から今回の問題を検討したい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　中東・中国に対する民主化要求
【key words】
リベラル・デモクラシー、アラブの春、世俗主義、イスラーム
【授業概要】
アラブの春のことに限らず、イスラームと民主主義について考える時には、何よりも先ず、イスラーム社会には、神から離脱することによって民主主義が達成されるという捉え方はない、と言うことである。中国については、新彊ウイグル自治区の問題を扱いたい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　平和について考える～聖遷（ヒジュラ）と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起～
【key words】
平和への第一歩、聖遷、聖家族エジプト避難の旅の実際
【授業概要】
自分に敵対する悪行に反抗・敵対することで、真の平和がもたらされるであろうか？ムハンマドや聖家族がとった姿勢は、＜平和的な反一抵抗（敵対）＞あった。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１５回　世界と日本の間違い～日本や諸外国を巨視的に捉える～
【key words】
中東、文化交流、カイロ大学文学部日本学科
【授業概要】
近代化１００年のスローガンは「西洋に追い着き追い越せ」であったが、日本人は中東世界については全く欠落していた。１９７３年、オイルショックが起こって初めて、中東世界との文化交流の重要性が認識されはじめることになった。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 政治学Ⅱ　　授業コード：5154

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国の人達にもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える。
授業の概要	目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	２１世紀の世界秩序 【key words】 平和、イスラーム、ハーガ・リッラー、赦し 【授業概要】 平和を巡っての、イスラームの中での「サラーム」と日本の「和」の関わりを中心に、２１世紀の世界秩序について考察したい。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	余暇・研究・仕事 【key words】 二つの世界観、受験教育、労働原理、プラトンのアカデメイア、cultとculture 【授業概要】 毎日の重要な睡眠・食事・適度の運動以外に、勉学（研究）・仕事・休息余暇の関わりについて深く考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	神の文化と和の文化 【key words】 和、一と多、個人化のプロセス 【授業概要】 神中心の思惟方法に対する和中心の思惟方法について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布

【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　日本・韓国・中国の文化の違い（１）
【key words】
日同一文化圏、漢字文化圏、儒教文化圏
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私達はどのように乗り越えていったらよいかについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　日本・韓国・中国の文化の違い（２）
【key words】
日・韓・中の比較文化、歴史問題
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私達はどのように乗り越えていったらよいかについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　文明の衝突
【key words】
ハンチントン、八つの文明、パックス・アメリカーナ、テロの時代
【授業概要】
冷戦後の世界からは諸文明の対立・衝突が生じ、これが世界を動かしていくというハンチントン理論を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　聖徳太子・福沢諭吉の方針が日本外交の原点
【key words】
聖徳太子・福沢諭吉・華夷秩序、冊封国家、時事新報
【授業概要】
６０７年に聖徳太子が隋に送った「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。つつがなきや」という、日中対等の姿勢を表す手紙は、日本外交の原点を説いたものと言えるが、この外交方針はその後の歴史を顧みれば、正しかったと言える。近代日本でこの外交の原点を説いたのは福沢諭吉である。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　ユダヤ文明とキリスト教文明の対話
【key words】
ヘブライズム・ヘレニズム、イエス、準備と完成
【授業概要】
クリスチャンはユダヤ人の信仰を、他の信仰の伝統とは違ったものと見做している。キリスト教は自らを、イスラエルの子供たちの信仰の自然的な継続と見ているのである。神がイスラエルの子供たちになした約束は、イエスにおいて成就された、と新約聖書は語っている。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　ロシア（ギリシャ）正教文明～ローマ・カトリック世界と比較しつつ～
【key words】
第二バチカン公会議、教皇皇帝主義・皇帝教皇主義、テオドシウス一世
【授業概要】
キリスト教をローマ帝国の国教にしたテオドシウス一世の死後、この国は西ローマ帝国（ローマ・カトリック教会）と東ローマ帝国（ギリシャ正教会）にわかれ、ギリシャ正教会（東方正教会）はイスラームの影響もあって、聖像禁止令まで出すことになった。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　キリスト教文明とイスラーム文明の対話（１）
【key words】
モーセ、サリーブ（十字架）と、アッラー・アクバル、共存
【授業概要】

	モーセの山（ガバル・ムーサ）の頂上を目指す旅を通じて、ムスリムとクリスチャンの対話を考えてみたい。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１１回　キリスト教文明とイスラーム文明の対話（２） 【key words】 クルアーン、ネストリウス派のクリスチャン、ムハンマド 【授業概要】 イスラームの聖典、クルアーンは、旧約・新約聖書のアラビア的陳述であると言われる。「我らはこれをアラビア語のクルアーンにしておいた。お前たちにもわかるように。その内容はすべて我々の手元にある啓典の母体に載っているいと高くいとも賢きもの。」（光まばゆい部屋飾りの章４３：３～４９）対話の第一歩は相互認識だと思う。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１２回　平和について考える（１）～コプトの平和観～ 【key words】 報復の原理、コプトの平和論 【授業概要】 ヘロデ王の幼子イエス殺害計画という攻撃に対してなされた聖家族のエジプト避難の旅には、積極的な反一抵抗（敵対）という極めて能動的な態度が見られるが、これは「汝の敵を愛し、汝の敵を赦すように」というコプトの平和論からきている。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１３回　平和について考える（２）～アッシジの聖フランシスコの平和観～ 【key words】 聖フランシスコと教皇フランシスコ、「平和を求める祈り」 【授業概要】 戦いと平和を巡って、エジプトのスルターンと熱い対話をした聖フランシスコであったが、スルターンの真の回心は望めなかった。これは現在のムスリムとクリスチャンの対話にも通じるものがあるようだ。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　ダブリン（Dublin）のホスピス発祥の地である「聖母ホスピス」を訪ねて 【key words】 ターミナルケア、聖母ホスピス、careとcure 【授業概要】 医療技術は絶えず最新のものでなければならないが、「死」に対する深い精神的な態度は変わるものではない。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　歴史から学ぶ国際政治学と日本の進む道 【key words】 国際政治学、理想主義、現実主義、現状是認主義 【授業概要】 国際政治学は、時代によって平和の到来を大きく捉えたり、現実主義へ回帰していったりしている。歴史の中には因果関係を考える題材が豊富にあるはずである。しかし、体系的な因果関係を考えることはなかなか難しい。また、日本で言われる現実主義は現状是認主義の場合が多く、Realismと区別しなければならない。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。

オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　マスメディア論　　授業コード：5155

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
新井　英司			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　混迷の現代社会の中で、いかに自分の人生を輝かせていくか。そのために、物事を客観的に見ていくには どうしたらよいのだろうか。 　３５年前、群馬県上野村で起きた日航機の墜落という大惨事を多角的に見つめながら、墜落は事故だった のか、それとも事件だったのか、考察してゆきます。 【到達目標】 ①ものの見方、考え方が深められるようになる。 ②客観的な認識の方法と態度について理解する。 ③メディア・リテラシーが磨かれる。 ④複眼で見る大切さを知る。 ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。
授業の概要	日航１２３便の墜落は単独機としては世界最大の犠牲者、５２０人を数えました。しかし、３５年も 経とうとするいま、依然として原因は不明で、墜落の責任はだれ一人とっていません。 　そこで、墜落をめぐる国、自衛隊、警察、日航、米軍等の動きを追いながら、墜落の真相を探ります。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 令和の時代と世界 【授業概要】 ・オリエンテーション ・「令和」という時代、どんな風景？ ・ファクト(事実)とフェイク(偽) ・政府はいつも真実を語っているか 【教科書ページ・参考文献】 米国映画『記者たち』と日本映画『新聞記者』➡政府はウソをつく 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・情報やニュースを批判的に読むことを日日の生活態度にしよう。 ・これ本当か、疑問に思ったら確かな複数の新聞で確認してみよう。 【予習復習に必要な想定時間】

６０分

第２回　１９８５年８月１２日、それは起きた！

【key words】
「どうして自分たちは死ななければならなかったのか」
【授業概要】
・あの日に何が見えたのか
・事故原因は圧力隔壁修理ミスか
・多数の腑に落ちない出来事
・新たな真実を求めて

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』の序章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「日航機の航跡と機内状況」（テキストの第１，２章）
墜落した日航機は羽田を離陸して４４分、細かく追ってみよう。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　日航機の航跡と機内状況

【key words】
離陸から４４分間のドキュメント
【授業概要】
・日航１２３便の航跡
・１８時２４分、コックピットは極度の緊張
・事故から３５年、いま遺族は‥

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）
配布資料　「日航機の航跡図」「家族に宛てたメモ」ほか

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「圧力隔壁をめぐって」
（テキストの序章、第１、２、３章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　圧力隔壁をめぐって

【key words】
原因は圧力隔壁の修理ミスか？
【授業概要】
・事故原因を推理してみよう
・全日空雫石事件とは何か
・墜落原因の不徹底な究明
・真相を追って

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）、
「日航機墜落　今日１５年　圧力隔壁説に？」（毎日新聞）ほか

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺族の気持ち、政治家や日航関係者の発言」
（テキストの序章、第１、２、３章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　遺族の気持ち、政治家、関係者の発言

【key words】
原因究明への温度差
【授業概要】
・まるで他人事、政治家の動き
・事故原因に触れたがらない日航関係者
・２６万人の署名、究明を求める遺族

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）、
「変わらぬ想い　日航機事故３４年　英国婦人」（2015/08/04　上毛新聞）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「自衛隊、米軍、警察等の動向」
（テキストの序章、第１、２、３、４章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　不可解な救助体制　～自衛隊、米軍、警察等の動向～

【key words】
不可解な救助活動
【授業概要】
・これまでの登場人物を確認しょう　（別紙資料）
・不可解な自衛隊の動向
・墜落時の自衛隊
・米軍の対応

・東京消防庁の対応
・群馬県警察の対応

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４章)
「国産ミサイル本格推進」(1985/08/11　日航機墜落前日の読売新聞)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「地元の小、中学生は見た」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　地元の小、中学生は見た

【key words】
生かされない目撃情報
【授業概要】
・「小さな目、事故に怒り」
・文集が記録した墜落前後の上野村
・真っ赤な飛行機とファントム二機
・未来を見つめて

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
「川上慶子さん　死の直前の妹を励ます」(上毛新聞)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺体に秘められた事実」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　遺体に秘められた事実

【key words】
「死人に口あり」
【授業概要】
・「死人に口あり」
・どうしてなの、完全炭化の遺体
・炭化遺体の不自然な位置
・ガソリンとタールの異臭

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
「５０５名の遺体の位置」(事故調査報告書から作成)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺物、展示品が教えるもの」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　遺物、展示品が教えるもの

【key words】
第４エンジンのなぞ
【授業概要】
・木っ葉微塵の第４エンジン
・墜落現場にはあり得ない遺物
・編集されたボイスレコーダ

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
参考文献　青山　透子『日航１２３便墜落　遺物は真相を語る』

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「御巣鷹山と高天原山」
墜落現場の上野村の「上野」とは何のこと？

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　御巣鷹山と高天原山

【key words】
古い信仰に根付いた地域
【授業概要】
・上野村の「上野」とは
・御巣鷹山とはどんな山
・墜落現場、高天原山とは
・「彷徨える魂を救う」

【教科書ページ・参考文献】
配布資料　「山中領」と呼ばれた地域の地図と特徴
【課題・予習・復習・授業準備指示】

次回は「点と線と面と」
青山　透子　　著者は全体をどう推理したか

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　点と線と面と

【key words】
著者、青山　透子さんの推理

【授業概要】
・点と線と面と
・墜落にまつわる異例な事態
・著者、青山　透子さんの推理
・間違ったことを正す勇気

【教科書ページ・参考文献】
青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「墜落から３５年、いま」
風化していく墜落、次世代への語り部は

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　墜落から３５年、いま

【key words】
我がもの顔の日米地位協定

【授業概要】
・墜落から３４年、いま
・不平等な日米地位協定
・次世代に向け、語り部となれ

【教科書ページ・参考文献】
青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章)
沖縄では基地内の「水質汚染調査　米軍拒む」(2018/11/25　朝日)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「討論　墜落は事故か事件か」
日航１２３便の墜落をどう見るか、各自の考えをまとめて下さい

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　討論　墜落は事故か事件か

【key words】
事故か事件か

【授業概要】
・討論　墜落は事故か事件か
・事故ならば‥‥
・事件ならば‥‥

【教科書ページ・参考文献】
青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「急がば回れ」
人は常に選択、判断を迫られる、そこで大切なことは

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　急がば回れ

【key words】
迫られる真偽の判断

【授業概要】
・公権力によるデータのデタラメ化
・急がば回れ
・苦労は買ってでも
・迫られる判断、選択
・「嘘つきは、戦争のはじまり」(2019/01/07　宝島社の朝日新聞への全面広告)
・「ハンマーを持って。バカがまた、壁をつくっている。」
(2020/01/07　宝島社の朝日新聞への全面広告)

【教科書ページ・参考文献】
配布資料「時代を切る宝島社の新聞への全面広告」

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「まとめ　客観的認識とは」
最終回はありがとうの心で前進

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１５回　まとめ　客観的認識とは

【key words】
客観的認識とは

【授業概要】
・客観的
・主観と客観
・客観的認識に大切な三つの視点

	・ありがとうの心で前進 【教科書ページ・参考文献】 「自分で考える社会を取りもどす」（毎日新聞） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後期の試験に向けて 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後、３０分は対応可能。
評価方法	筆記試験１００％
教科書	テキストは　青山　透子　著『日航１２３便　墜落の新事実』（河出書房新社　刊）の最新版
参考書	日々の新聞、テレビ等。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬テレビに４１年余り勤務し、この間、報道、制作、編成、営業、事業と各部門を経験、一方、アナウンサー　やプロデューサーとして番組・イベントの企画、制作に携わりました。 また、県域テレビ局の誕生から成長、さらにはテレビのデジタル化という難局に直面し、現場の局員として、あるいは役員、顧問として様々な試練を乗り越えて来ました。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教職実践演習（中・高）　　授業コード：5163

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　それまでに履修した教職に関する科目の状況を踏まえ、教員としての必要な実践的指導力を確認し、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできることを目的とする。 [到達目標] １　履修カルテを通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補うことができる。 ２　急激な社会の変化に対応しきれない子どもたちの心の叫びに耳を傾けることができる。 ３　教師に求められる規範意識を確認することができる。
授業の概要	１　講義形態はオムニバス方式である。学校教育からの視点にとどまらず、それぞれの担当教員が、社会的規範、福祉の分野から、広い視野をもって将来、教員を目指す学生の資質の向上を図る。 ２　教師としての使命感や責任感、教育的愛情がもてるようにする。 ３　社会性や対人関係能力を養う。 ４　教科内容等の指導力が身につくように、授業設計と模擬授業を取り入れる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　共生社会を生きる 【key words】 ～との共生、共生･共育の思想と実践 【授業概要】 【受講にあたり】 1　全15回の授業はオムニバス方式となっているため、タイトル自体の変更はないが、回の入れ替わりがある。その旨を授業の初日に配布資料等で説明する。 2　資料等に関しては、各担当の教員が用意する。 　障害のある子どもと共に生き、共に学び合う、共生社会を生きる意味を探る。 【教科書ページ・参考文献】 参考図書：嶺井正也･小沢牧子(1996)『共生・教育を求めて』赤石書店. 資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 共生･教育の思想と実践について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 子ども観について調べてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２回	子どもの世界　-子ども観とは- 【key words】 子供の世界、子供観

【授業概要】
子供観とは、子供をどのような存在とみなすかに関する大人社会で広く共有されている見方のことである。近世になって、子供はただの「小さな大人」なのではなく、子供という独自な存在であるとみなされるようになった。子供観の変遷について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
参考図書：宮澤康人、星薫(1992)『子供の世界』放送大学教育振興会.
舘昭、広瀬洋子(1991)『子供観』放送大学教育振興会. 資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
子ども観とは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
インテグレーションとインクルージョンについて調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　障害児教育を考える
【key words】
障害者の定義、障害児教育の成立、養護学校義務化

【授業概要】
生産性の低い原始・古代社会は、多くの障害児（者）の遺棄・殺害が行われ、生産力向上･キリスト教の普及になると、障害児（者）の保護・救済が行われるようになった。貧困からの開放の手段として、子ども･障害児（者）の教育・訓練に着目されるようになった歴史的変遷を辿り、現在の障害児教育を考える。
【教科書ページ・参考文献】
参考図書：後藤安彦(1988)『逆光の中の障害者たち』千書房
資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
障害児教育の歴史的変遷を理解し、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
障害者の権利条約･教育について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　学校における合理的配慮と環境整備
【key words】
障害者の権利に関する条約、合理的配慮、環境整備

【復習・課題：
【授業概要】
平成26年1月、わが国は「障害者の権利に関する条約」を批准し、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育を推進していく必要がある。学校における合理的配慮と環境整備について具体的に学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
障害者の権利条約･教育
資料・レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校における合理的配慮と環境整備について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教師に必要とされる資質について考えてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　教職について考える　①　A小学校教諭のドキュメンタリーから教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について学ぶ
【key words】
教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感

【授業概要】
A小学校教諭のドキュメンタリー番組の映像を視聴し、教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について学ぶ。
グループになり、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】

ドキュメンタリー番組の録画
レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。配布資料を読んでおくこと。学校文化と教師文化について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　教職について考える　②　学校文化、教師文化からみる教師像
【key words】
学校文化、教師文化

予習：配布資料と生徒指導提要を読んでおくこと。
　　生徒指導提要を持参すること。
【授業概要】
学校文化、教師文化からみる教師像について学ぶ。
わが国における学校文化、教師文化についてグループ討議を行う。

【教科書ページ・参考文献】
参考書：長田勇他(1990)『なぜ少女は走ったか』川島書店.
配付資料･レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
わが国における学校文化、教師文化について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。生徒指導提要を読み、次回の授業に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　教職について考える　③　生徒指導の事例から教師と家庭との連携について考える
【key words】
生徒指導の在り方、家庭との連携

生徒指導、家庭との連携

【授業概要】
生徒指導（「断念を教えることのつらさ－家庭に複雑な事情のある生徒－」）の事例から教師と家庭との連携について考える
グループになり、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書：関根正明(1998)『子どもの心にせまる生徒指導』学事出版.
配付資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
生徒指導の在り方について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。学校内の職務内容、役割等を調べておくこと。第12回、13回のプレゼンテーションの準備をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第８回　学校内におけるチームアプローチ
【key words】
教員の役割、職務内容、教職員間の連携

【授業概要】

教員の役割、職務内容、教職員間の連携の在り方について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
配布資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校を取り巻く地域社会と保護者との人間関係について、各自、考えをまとめておくこと。
学校内におけるチームアプローチについて、ミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　学校外の関係者との協働
【key words】

地域社会、保護者との連携

【授業概要】

学校を取り巻く地域社会や保護者との人間関係の構築等について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
配布資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校を取り巻く地域社会や保護者との人間関係の構築等について、ミニミニレポートにまとめ、期日日までに提出すること。学校と協働している専門機関・専門職にはどのような所・ものがあるか、調べておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１０回　他専門機関・専門職との協働
【key words】
医療、福祉、労働
【授業概要】

教員が医療、福祉、労働といった他専門機関・専門職と協働することで、生徒理解を深める

【教科書ページ・参考文献】
配布資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
他専門機関・専門職との協働について、ミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１１回　教育法規－教師がよってたつべき法規範－①日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則
【key words】
日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、体罰

【授業概要】
日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則の重要な条文を音読してもらった後、その意義等の解説を加える。それを踏まえて、体罰に関する判例を用いて討論を行なう。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリント（学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法）の特に下線が引かれた条文を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１２回　教育法規－教師がよってたつべき法規範－②学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法
【key words】
学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権、

【授業概要】
学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法の重要な条文を音読してもらった後、その意義等の解説を加える。それを踏まえて、著作権に関する具体例を用いて討論を行なう。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
練習問題の答案提出と交換に解説を渡すので、よく復習をしておいてほしい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１３回　授業設計と模擬授業　① -中学校の教育実習から-
【key words】
教材観、生徒観、導入の仕方、授業設計

【授業概要】
　中学校の教育実習で実施した授業実習を振り返り、授業実習の総まとめとして行なった研究授業を基にして授業設計のあり方を検証する。
　作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
発表者が作成した資料、レジュメ

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 各発表者の授業設計について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１４回　授業設計と模擬授業　② -高等学校の教育実習から- 【key words】 教材観、生徒観、導入の仕方、授業設計 【授業概要】 高等学校の教育実習で実施した授業実習を振り返り、授業実習の総まとめとして行なった研究授業を基にして授業設計のあり方を検証する。 作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。 【教科書ページ・参考文献】 発表者が作成した資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各発表者の授業設計について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１５回　「教職実践演習」のまとめ；改めて教師とはー使命感・責任感、教育的愛情等を確認するーB小学校の実践事例を通してー 【key words】 使命感・責任感、教育的愛情 【授業概要】 F県B小学校のLD通級指導教室に通う子どもの「わかった」に寄り添う指導の実際の場面を録画したビデオを視聴し、教師としての使命感・責任感・教育的愛情とは何かを確認する。 【教科書ページ・参考文献】 B小学校の実際の指導の様子を録画したDVD レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 改めて教師とはー使命感・責任感、教育的愛情等-について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。定期試験に向けて準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポー　トをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確　認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・小テスト、発表、シャトルカードの内容（８０%）、試験またはレポート（20%）を総合して評価する。
教科書	各担当教員が準備する。
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・教育委員会の適応指導教室、中学校の特別支援学級を担当した経験をもつ教員が、一人一人の子どもの障害特性を理解し、多様性を受け入れられる広い視野がもてる教師の育成を目指す。 ・カウンセラー経験のある教員が、学校現場で求められる教育相談についての解説や、スクールカウンセラー・外部機関との連携の重要性、カウンセリングの 基本的な考え方、技法などについて指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習)

	■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教職実践演習（小学校）　　授業コード：5167

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 今までの大学での学習を振り返り、次年度、教職にスムーズにつけることを目的とする。 【到達目標】 ①履修カルテにより、自己の学習履歴を振り返り、自己課題を見つけることができる。 ②教師に求められる力量、学級経営、自己課題、現代的な教育課題等について、考えることができる。
授業の概要	１　次年度、教育現場にたつことを踏まえ、既習の知識技能を総動員して、教師に求められる力量、発達障害、学級経営、現代的な教育課題等について、課題解決学習を行う。 ２　まとめや発表方法として、現場で活用できる効果的なＫＪ法、グループワーク、パワーポイント、板書等について学ぶ。 ３　自己の学びの軌跡を「履修カルテ」により確認し、次年度、教師として教壇に立つ意欲を高める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、履修カルテの記入、教師に求められる力量①（KJ法により班ごとにまとめる。） 【key words】 オリエンテーション、履修カルテ、教師に求められる力量、ＫＪ法 【授業概要】 ①本授業の意義とシラバスの説明。15コマの概観と評価方法。 ②履修カルテの確認と記入。 ③教師に求められる力量について、ＫＪ法を用いて班ごとにまとめる。 ④教員体験の成功談・失敗談 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作レジュメ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○履修カルテの記入し次週、提出すること。 ○班ごとに「教師に求められる力量（KJ法）」の掲示物を完成させ、発表練習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	教師に求められる力量②（班ごとに発表をする。）、教育者・哲学者の格言（カント・モンテスキュー等）

【key words】

教師に求められる力量、教育に関する格言

【授業概要】
①求められる力量について、班ごとの発表する。相互評価も行う。
②教育者・哲学者の「教育に関わる格言」を学ぶ。
③中教審が述べている教師の力量について知る。
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）
○中教審答申（2005）「新しい時代の義務教育を創造する」、中教審答申（2012）「教職生活の全体を通じた資質能力の総合的な向上方策について」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○授業で学習した教育者・哲学者について、主著・業績をまとめておく。
○中教審答申を熟読しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分
○

第３回　映像授業①「発達障害」（映像を見て、グループディスカッション及び全体討議を行う。）

【key words】

発達障害、特別支援教育

【授業概要】
①発達障害の意味について理解する。
②通常学級で見られる発達障害の具体的な指導方法について、グループワークで意見交流を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）
○映像資料「発達障害」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○発達障害に関する事柄を整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　映像授業②「多様な性について（映像を見て、グループディスカッション及び全体討議を行う。）

【key words】

ＬＧＢＴ、多様な性

【授業概要】

①ＬＧＢＴ、多様な性について理解する。
②通常学級で見られる多様な性の課題について、グループワークで意見交流を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）
○映像資料「多様な性」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○多様な性に関する事柄を整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　模擬授業①、授業研究会①（道徳：代表学生が教育実習時実施した授業をさらに改善したものを提示する。）

【key words】
模擬授業、道徳の時間、特別の教科道徳

【授業概要】
①教育実習で行った「道徳の授業」を見直し、模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○小学校学習指導要領道徳の目標・内容を熟読しておくこと、ワークシート（①昔の遊びの実演をまじえた紹介、②昔と今の遊びの比較、③遊びと学びの関係）により下調べをすること。
【予習復習に必要な想定時間】
270分

第６回　学習指導要領について（アクティブ・ラーニングとカリキュラムマネージメント、道徳・英語の教科化等）
【key words】
アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネージメント、道徳・英語の教科化

【授業概要】

①アクティブ・ラーニングの具体的指導事例を理解する。
②カリキュラム・マネージメントの具体例を理解する。
③道徳と英語の教科化について理解する。

【教科書ページ・参考文献】

○配付資料（教師自作レジュメ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○現在児童が行っている遊びについて調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　模擬授業②、授業研究会②（外国語活動または外国語科：代表学生の授業提示が無理な場合は、他領域・教科を実施する。）
【key words】

模擬授業、外国語活動、外国語科

【授業概要】
①教育実習で行った「外国語活動の授業」を見直し、模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）

【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）、「学習指導要領解説外国語活動編及び外国語編」、教材「Let’s Try!1」「Let’s Try!2」及びデジタル教材「We Can!1」「We Can!2」等
【課題・予習・復習・授業準備指示】

○小学校学習指導要領外国語活動及び外国語科の目標・内容を熟読しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　小学校教育実習報告会（４年生は、教育実習録を提示しながら、後輩に報告する。班別及び全体の協議を行う。１～４年合同）
【key words】
教育実習の実際、教育実習録の記載

【授業概要】
【授業概要】
①１～３年の初等教育コース学生に向け、４年生が教育実習の報告を口頭で行う。
②班別（１～４年混合）になり、協議する。

③後輩代表が、お礼を述べる。
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作　報告会の流れ）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
○実習ハンドブックをよく読んでおくよう指示。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　小学校現場の先輩教師の講話（本学既卒の初任者より志望動機・教採に向けての勉強方法、教育実習、現場１年目の様子等を話してもらう。１～４年合同）
【key words】

学校現場、学級担任、教師の失敗談

【授業概要】
①本学を卒業した、１年目の初任者教師としての先輩を招へいし、講話と質疑応答を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ）
○参考文献：時田詠子「教職員改革と人事行政～子どもたちの未来を支える教師～」小松茂久編著『教育行政学 ～教育ガバナンスの未来図』昭和堂（2013/04)等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○先輩講師の発表に対するレポートをまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　学校・学年・学級経営（学校組織、学級経営案、学級通信）
【key words】

学級経営の意味、学級経営案、学級経営実践例、学級通信

【授業概要】
①学級経営の意味、学級経営案の意義や項目について理解する。
②学級経営実践例「級友の宝探し」「ゲームを活用した学級作り」「学級通信を活用した保護者との連携」等、教員の体験をもとに、提示された実物を見たりしながら理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作のレジュメ）
○参考文献：教師自作の「学級通信」を提示する。″
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学級経営の配付資料を用い、架空の学級だよりを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１１回　校長が求める教員像（現場の校長先生の招へい　１～４年合同）
【key words】

校長と学校経営、新任教師に求めること

【授業概要】
①学校組織について知る。
②新任教師のよい面、改善したい面についての話を聞く。
③１～３年初等教育コースの学生も参加する。
【教科書ページ・参考文献】
○外部講師のレジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○講話を受けレポートを書き、次回授業で提出することを指示。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１２回　「宝自慢～自己そして友の再発見～」（自己の大切にしている物、体験等を発表する）
【key words】

友達の長所、自己の長所

【授業概要】
①友達や自己の長所（＝宝）を知る。
②「児童の宝を認め合う活動」の実践例を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作のレジュメ）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○ほめ方、しかり方についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　現代的な教育課題①（いじめ、体罰など）、履修カルテの記入
【key words】
いじめ、体罰

【授業概要】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
いじめ・体罰について整理しておくよう指示。

【授業概要】
①いじめ・体罰の定義と現状について知る。（パワーポイント）
②体罰防止について、協議する。その際、学生が司会・板書を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作レジュメ、パワーポイントスライド資料）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○いじめ・体罰について整理しておくよう指示。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　現代的な教育課題②（教師のメンタルヘルス、特別支援教育など）
【key words】

教師の多忙感、メンタルヘルス、特別支援教育

【授業概要】
①教師の多忙感、メンタルヘルスの現状と課題について知る。（パワーポイント）
②メンタルヘルスを保つための方策について協議する。その際、学生が司会・板書を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作ワークシート、パワーポイントスライド資料）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○教師のメンタルヘルス、特別支援教育を整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１５回　魅力的な指導者を目指して（児童理解、保護者対応、感じのいい話し方・聞き方など）、履修カルテの提出
【key words】
話す・聞く力、子どものほめ方・叱り方、履修カルテ

【授業概要】
①　感じのいい話し方・聞き方、ほめ方・しかり方について協議する。その際、学生が司会・板書を行う。
②　子どものよさを見つけ、引きだし、認めることについて、「宝カード」交換をし、実感を待って学ぶ。
③　履修カルテの記入を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○配付資料（教師自作ワークシート）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○半年間の授業を振り返り、４月からの仕事や学習に不足している部分を補うこと。
○履修カルテを完成し、提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
⑥0分

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕

	・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	・授業への取り組み（30%）、模擬授業（30%）、提出物（40%）
教科書	・授業者担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用する。
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任及び教務主任として指導を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の教員の全般的な授業の指導を行った。それらの経験を活かし、小学校学習指導要領及び解説及び児童用教科書を活用し、具体的に解説する。さらに、学習指導案の書き方、模擬授業の実施・振り返り、現場教員・校長による講話など、理論と実践の融合を目指した指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　病弱者の心理・生理・病理　　授業コード：5351

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義を通して、病弱児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。 【到達目標】 ①病弱児の生理・心理の基礎知識について説明することができる。 ②「特別支援教育」などに携わる際に「子どもの慢性疾患」の基本的知識を身につけることができる。
授業の概要	病弱児は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。病弱児を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、病弱児の教育及び社会参加のための支援について考える。特別支援学校教諭として必要な医学知識と病弱児の心理、家族と地域の介護、教育との連携による支援体制を学習する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 健康、病気、障害、病弱者（児） 【授業概要】 健康、病気、障害の定義、病弱者両育児の対象疾患について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１～７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：ｐ２８～４４ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害 【key words】 発達障害、自閉症、ADHD 【授業概要】 発達障害の定義、自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害の原因、疫学、症状、治療、支援方法等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ２８～４４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　ｐ４５～５４

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３回　知的障害を伴わない発達障害と二次障害
【key words】
発達障害、二次障害、予防
【授業概要】
発達障害の二次障害の症状と予防対策等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p４５～５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p５９～７３
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　循環器疾患の理解と支援
【key words】
先天性心疾患、後天性心疾患
【授業概要】
先天性心疾患と後天性心疾患の症状、診断、治療および学校における心疾患児童への対応の注意点等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p５９～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p７４～８５
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第５回　呼吸器疾患の理解と支援
【key words】
呼吸器の感染症、喘息、過換気性症候群
【授業概要】
呼吸器の感染症、喘息、過換気性症候群の定義、原因、疫学、症状、治療、支援方法等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p７４～８５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p８６～１０２
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第６回　悪性腫瘍の理解と支援
【key words】
小児がん、白血病、脳腫瘍
【授業概要】
小児がんの特徴、白血病、脳腫瘍の原因、疫学、症状、検査、診断、治療、緩和医療とターミナルケア等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p８６～１０２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１０３～１１４
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第７回　腎・泌尿器疾患の理解と支援
【key words】
腎炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症
【授業概要】
急性、慢性腎疾患の原因・疫学・症状・検査・診断・治療、子どもの学校生活における留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１０３～１１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１１５～１３３
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第８回　成長障害、内分泌疾患の理解と支援
【key words】
成長障害、低身長、肥満、糖尿病
【授業概要】
成長障害、低身長、肥満、糖尿病の原因・診断基準・症状・治療等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１１５～１３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１３４～１４９
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第９回　消化器疾患の理解と支援
【key words】
嘔吐、下痢、便秘、胃・十二指腸潰瘍

【授業概要】
嘔吐下痢症、便秘、消化道潰瘍の原因・症状・治療・予防について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１３４～１４９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１５０～１７３
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１０回　神経系疾患の理解と支援（１）　てんかん、脳性まひ、ダウン症
【key words】
てんかん、脳性麻痺、ダウン症
【授業概要】
てんかん、脳性麻痺、ダウン症の原因・疫学・症状・診断・治療・支援方法等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１５０～１７２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１７３～１９４
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１１回　神経系疾患の理解と支援（２）　知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー
【key words】
知的障害、脊髄性筋萎縮症（SMA）
【授業概要】
知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィーの定義・疫学・症状・診断・治療・予後について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１７３～１９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１９７～２０５
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１２回　病気、障害の受容とセルフケア
【key words】
受容、セルフケア
【授業概要】
病気・障害の受容とセルフケアの定義、過程と特徴について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１９７～２０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p２０６～２１４
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１３回　病気、障害の子どもの心理的特性
【key words】
疾患、病気、、社会、心理問題
【授業概要】
病弱児の病気への理解、抱えやすい心理、社会的問題について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p２０６～２１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p２１５～２２４
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１４回　教育・医療・保健・福祉の連携と支援
【key words】
フォーマル・サービス、インフォーマル・サポート、ノーマライゼーション、全人的ケア
【授業概要】
地域で暮らすことへの包括的支援、全人的ケアの理念と機能等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p２１５～２２４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習内容を復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１５回　まとめ
【key words】
病弱児の基礎疾患
【授業概要】
今まで学んだ病弱児の原因疾患について、疾病の定義、原因、疫学、分類、症状、検査、診断、治療、予後、支援法などを復習する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐ１～２２４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
期末試験準備
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

受講生に関わる情報および受講のルール	病弱児の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（100%）
教科書	小野次朗ら　編著　　病弱児の生理・病理・心理　　ミネルヴァ書房　　最新版
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： LD等教育総論　　授業コード：5401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　地域の小・中学校に在籍するLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等、発達障障害のある子ども達の特性を把握し、一人一人がもつ「困り感」を理解し、その指導・支援方法を考えていく。 [到達目標] 1　LD･ ADHD･高機能自閉症等、発達障害のある子ども達の特性を把握できる。 2　LD･ ADHD･高機能自閉症等、発達障害のある子ども達がもつ「困り感」に寄り添う指導・支援ができる。 3　LD通級指導教室の実際の指導の様子をみて、一人一人に合った教材・教具を作成することができる。
授業の概要	1　特殊教育から特別支援教育へと移行した歴史的背景に触れながら、LD,ADHD,高機能自閉症といわれる発達障がい 　　のある子どもたちの学校における「困り感」を緩和できるような指導・支援方法を考えていく。 2　LD 通級指導教室での実際の指導の様子を見ながら、発達障がいのある子どもにとって有効な指導・支援方法を探 　　り、個別の教育支援計画・指導計画の作成方法を学ぶ。 3　学校の支援体制にも触れ、保護者との好ましい関係づくりを模索していく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　　特殊教育から特別支援教育へ 【key words】 特殊教育、特別支援教育 【授業概要】 ※　15回の予定は、受講生の関心や理解の程度により多少変更があります。 障害の種類や程度等に応じ特別の場で指導を行う特殊教育から、障害のある児童生徒まで含めて一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切に支援を行う特別支援教育とは何かを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：石部元雄『よくわかる障害児教育　第3版』(2015) ミネルヴァ書房 文部科学省ホームページ　第1章　特殊教育から特別支援教育へ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特殊教育から特別支援教育へと変わっていった歴史的変遷を復習し、本時の授業内容をミニレ

ポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP64～P79の該当ページを事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２回　LDとは　LDの定義・特性（視･聴覚）-アメリカにみる歴史的な背景 -
【key words】
LDの定義、特性(視覚･聴覚)

【授業概要】

LDの概念がS.A.Kirkによって提唱された当時のアメリカの社会的背景に目を向ける。
LDの定義に言及し、その特性（視覚･聴覚）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP64～P71　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論
【課題・予習・復習・授業準備指示】
LDとは何か、LDの定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP64～P71、P80～P92の該当ページを事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　ADHDとは　ADHDの定義・特性(感覚と知覚)
【key words】
ADHDの定義、特性(感覚と知覚)

【授業概要】

ADHDの定義に言及し、その特性(感覚と知覚）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP64～P71、P80～P92　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ADHDとは何か、ADHDの定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP64～P79、P93～P102の該当ページを事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　高機能自閉症と自閉症　自閉症の定義・特性(感覚と知覚)
【key words】
高機能自閉症、自閉症の定義、特性(感覚と知覚)

【授業概要】

高機能自閉症、自閉症の定義に言及し、その特性(感覚と知覚）を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP64～P79、P93～P102　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論
【課題・予習・復習・授業準備指示】
高機能自閉症の定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。発達の遅滞や発達障害の判定のために用いられることの多い、WISC知能検査について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　WISC知能検査から子どもの特徴を捉える
【key words】
WISC知能検査、子どもの特徴･特性

【授業概要】
・発達の遅滞や広汎性発達障害の判定のために用いられることの多いWISC知能検査を学び、子どもの
特徴･特性を捉える。

・実際のWISC知能検査に触れる。

【教科書ページ・参考文献】
WISC知能検査
WISC知能検査についての配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際のWISC知能検査に触れ、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
文部科学省ホームページ：「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」とについて調べておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」

【key words】
個別の教育支援計画、個別の指導計画

【授業概要】

「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」とは何かについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
文部科学省ホームページ「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について
「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」についての資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」とは何か、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP12～P19の該当ページを事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　①　読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方

【key words】
発達障がい、「困り感」、読み書きの指導

【授業概要】

読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP12～P19　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして

【課題・予習・復習・授業準備指示】
読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP20～P27　第2章　指導の方法と理論:具体例を事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第８回　発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　②　算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方

【key words】
発達障がい、「困り感」、算数の指導

【授業概要】

算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP20～P27　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
【課題・予習・復習・授業準備指示】
算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP28～P43　第2章　指導の方法と理論:具体例を事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

	第９回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　③　不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方 在り方 【key words】 発達障がい、「困り感」、不注意･多動･衝動性 【授業概要】 不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP28～P43　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 【課題・予習・復習・授業準備指示】 不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP44～P61の該当箇所を事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　④　対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方 【key words】 発達障がい、「困り感」、対人関係 【授業概要】 対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP44～P61　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 【課題・予習・復習・授業準備指示】 対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP8～プレゼンテーションを行う箇所を選び、事前にレジュメを作成し準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	LD通級指導教室の指導の実際　　①　子どもの実態を把握する 【key words】 LD通級指導教室、子どもの実態、指導の実際 LD通級指導教室、子どもの実態、指導の実際 【授業概要】 ※プレゼンテーションの順番について;予め学生相互で話し合って決定する。 　レジュメ等、プレゼンテーションに必要な資料は各自が予め用意し、配布する。 LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、指導の実際を学ぶ。 テキストの第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う①。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：プレゼンテーションのレジュメ等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	LD通級指導教室の指導の実際　　②　子どもの実態に合った指導・支援方法を捉える 【key words】 LD通級指導教室、子どもの実態、指導･支援方法 【授業概要】 LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、指導・支援方法を捉える。 テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまと

め、プレゼンテーションを行う②。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
資料：プレゼンテーションのレジュメ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１３回　LD通級指導教室の指導の実際　③　子どもの実態に合った教材・教具を考える
【key words】
LD通級指導教室、子どもの実態、教材･教具

【授業概要】
LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、一人ひとりに合った教材・教具の在り方について考える。
テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う③。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
資料：プレゼンテーションのレジュメ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　LD通級指導教室の指導の実際　④　教材・教具の有効的な活用方法
【key words】
LD通級指導教室、教材･教具の有効的な活用方法

【授業概要】
LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、一人ひとりに合った教材・教具の有効な活用方法について考える。
テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う④。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
資料：プレゼンテーションのレジュメ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。LD指導教室の指導の実際を確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１５回　保護者との関わり／まとめ
【key words】
保護者との関わり、寄り添う

【授業概要】
LD通級指導教室等、通常学級に在籍している発達障がいのある子どもとの指導・支援を通して、当該子どもの保護者との関わり、寄り添う支援を考える。
まとめを行う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
資料：保護者との関わりについて
【課題・予習・復習・授業準備指示】
LD通級指導教室等、通常学級に在籍する子どもとの関わりを通して、当該子どもの保護者との関わり方についてミニレポートにまとめ期日までに提出すること。定期試験に向けて準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

受講生に関わる情報および受講のルール	1　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 2　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。

	3　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 4　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	1 授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 2 定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、発表（20%）、試験またはレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	独立行政法人国立特殊教育総合研究所『LD・ADHD・高機能自閉症の子ども指導ガイド』東洋館出版、2005年
参考書	佐藤暁著　『見てわかる　困り感に寄り添う支援の実際』　学習研究社、200８年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学習障害コーディネーターの経験をもつ教員が、通常学級におけるLDの特性が見られる児童の指導、さらにはLD通級指導教室に通う児童の指導、担当教諭の指導を通して、一人一人に合った教材・教具の工夫・作成ができ、子どもの「困り感」に寄り添う指導･支援ができる教師を養成する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 病弱教育　　授業コード：5411

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目標〕 病弱教育では特別支援教育の中では普通教育に近い学習をすることも求められている。また、近年、からだの病気以外にも心に問題を抱えている児童生徒も入級してきている。病弱教育のこのような様々の現状とその対応について理解できる。 〔到達目標〕 ①病弱児の主な病気についての理解が深まる。 ②病弱教育に係わる教員の専門性について理解できる。 ③病気の子や保護者の気持ちが理解できる。
授業の概要	病弱教育は対象の児童生徒が罹患している主な病気について理解を深めるとともに、病弱教育の教員として問われる資質についても考えながら、病弱教育の専門性と病弱教員としての基本的な知識が習得出来る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　病弱教育とは　病気の子どもの現状 【key words】 病弱　虚弱　病弱教育　病弱の子の現状　障害者白書　全国病弱調査 【授業概要】 シラバスについて説明。病弱、虚弱の意味。テキストについて説明。県内の病弱特別支援学校について。学校参観について。　普通教育、特別支援教育、病弱教育のそれぞれの専門性について。学生に病気について調査発表の依頼。「①病弱教育ではどんな教員が求められているか？②また、そのことに対してどのような対応が必要と思うか？この授業で何を学習したいか」をレポートにより提出。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ．８－１４。参考書「病気の子どもの理解のために」より引用 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表担当の病気について調べること、本日のまとめ、次回の予習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０～４０分
	第２回	病弱教育の変遷と現状 【key words】 海外の病弱教育　日本の病弱教育　病弱児の学校教育 【授業概要】 海外の病弱教育の歴史　日本の病弱教育の歴史　休暇集落　養護学園など病弱教育の歴史と用語の説明　病弱教育の意義　病気の子どもの学校教育 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ．１５－２１

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日のまとめと整理、課せられた病気について調べまとめておくこと。次回の予習。次回の発表者は発表資料を準備すること。次回ミニテスト①実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第３回　特別支援教育の現状　病気の理解について①～例：色素性乾皮症　膠原病
【key words】
インクルーシブ教育　特別支援学校　特別支援学級　通級による指導　XP　紫外線　コラーゲン病　エリテマトーデス　あざ

【授業概要】
特別支援教育の現状特に病弱教育について理解する。また、色素性乾皮症、膠原病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。病弱教育についてミニテスト実施。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．２２－２８、　参考書「病気の子どもの理解のために」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第４回　指導への配慮事項　病気の理解について②～例：腎疾患　てんかん　等
【key words】
子どもの不安　組織的な対応　腎臓の働き　発作　コントロール　診断と治療法　退院後　セルフケア

【授業概要】
病気になった子どもの不安、対応の仕方について考える。　発表者に腎疾患等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、３０－３７　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第５回　学校視察　出来ない場合は全国の病弱教育特別支援学校について資料調査
【key words】
病弱教育の現場　全国にある病弱の特別支援学校

【授業概要】
県内の病弱特別支援学校を訪問、参観と説明を聞き、病弱教育の現状を知る。授業で出てきた病弱教育特有の特徴の確認を行う。見学の日を変更しても参観実施出来ない場合は全国にある病弱特別支援学校について資料等を通して実態調査をする。

【教科書ページ・参考文献】
必要に応じて病弱特別支援学校の資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病弱の特別支援学校の感想文を提出する。次回の発表者は発表資料準備を行うこと。学校参観が実施出来なかった場合は、授業で出された日本国内にある病弱特別支援学校についてまとめ、課題等まとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～４０分

第６回　病気の子どもに関する手続きと関係法令　病気の理解について③～例：アレルギーとぜんそく　クローン病　等
【key words】
学校教育法　病院にある学級　退院後　気管支　アレルゲン　治療　ピークフローメーター　炎症性腸疾患

【授業概要】
病気に罹患した子どものための教育環境について考える。法令に基づいた対応とは。　病気について発表してもらった後、病弱教育としての配慮事項を考察する。次回ミニテスト②実施計画

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、４０－５２　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第７回　学習指導要領を踏まえた病弱教育について①　病気の理解について④～例：肥満　糖尿病　等
【key words】
個別の教育支援計画　訪問教育　自立活動　食事　運動　生活　血糖値　インシュリン

【授業概要】
学習指導要領を踏まえて行う病弱教育の中にある個別の教育支援計画、教育課程編成について考える。また、発表者に肥満、糖尿病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。ミニテスト実施。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、５４－９２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第８回　学習指導要領を踏まえた病弱教育について②　　病気の理解について⑤～例：筋ジストロフィー　潰瘍性大腸炎　等

【key words】
高等部　自立活動　教科書　ベッドサイド　ジストロフィン　筋力低下　大腸　二次障害　クローン病

【授業概要】
前回に引き続けて学習指導要領を踏まえた指導について考える。　発表者に筋ジストロフィ、腫瘍性大腸炎等について発表してもらた後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、５４－９２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第９回　具体的な指導事例①（身体の病気）　　病気の理解について⑥～例：心疾患　ペルテス病等

【key words】
身体の病気の事例　チアノーゼ　大腿骨　早期診断　早期治療

【授業概要】
身体の病気の事例について検討する。　発表者に心疾患、ペルテス病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、９４－１１２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。次回ミニテスト実施予定。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１０回　具体的な指導事例②（こころの病気）　　病気の理解について⑦～例：もやもや病　ムコ多糖症　等

【key words】
心の病　脳血管　バイパス手術　GAG　酵素補充　喪失の体験

【授業概要】
身体の病気事例について検討する。　発表者にもやもや病、ムコ多糖症等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。ミニテスト実施。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、１１３－１２５　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１１回　具体的な指導事例③（退院後）　　病気の理解について⑧～例：白血病　血友病　等

【key words】
前籍校　連携　骨髄　プロトコール　造血組織　出血症状　インヒビター

【授業概要】
退院後に考えられることを事例を通して理解する。発表者に白血病、血友病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、１２６－１５２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１２回　病気の状態に応じた配慮事例①（総合失調症、うつ病）　　病気の理解について⑨～例：こころの病気　等

【key words】
ストレス、　脳の病気、１００人に一人

【授業概要】
心の病は誰もが罹患する可能性のあるものであり、適切な治療で完治するものでもあるが、こじらせてしまうこともありうる。様々な心の病気について知り、正しい理解をする。

	【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、１８９８－１９７　　必要に応じて参考書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。回の発表者は発表資料準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１３回　病気の状態に応じた配慮事例②（発達障害：LD、ADHD、自閉スペクトラム症）　病気の理解について⑩～例：脳腫瘍　他 【key words】 発達障害　LD　ADHD　自閉スペクトラム症 【授業概要】 発達障害（LD、ADHD、自閉スペクトラム症など）と病弱教育について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、２０２－２１１、２１６－２２０　他　必要に応じて参考書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　病気の状態に応じた配慮事例③（摂食障害、緘黙、不登校） 【key words】 配慮事項　受容　多軸評価　連携　知能検査　授業　活動 【授業概要】 現代社会の片隅で生じている様々な問題（摂食障害、不登校、緘黙等）について、考える目を持ち、理解し、対応について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、１９８－２０１、２１２－２１５、２２１－２２４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までのまとめをする。今までの様々な検討から病弱教育の教師像を考える。「①この授業で何を学んだか？②どんな病弱教師になりたいか」を振り返ってレポート②次週提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　病弱教育の展望と今日的課題について 【key words】 病気と社会　自立と病気　進路問題　教師の専門性 【授業概要】 病弱教育の抱えている問題、課題について今まで受講した中から明確にさせていく。病弱教育の現状から問われる教師としての専門性についても考察する。「①この授業で何を学んだか？②どんな病弱教師になりたいか」を振り返ってレポートを提出する。 【教科書ページ・参考文献】 まとめ資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特別支援教育の一つである病弱教育について理解が深めたかを自分でチェックする。病気と児童生徒の関係を正しく理解すること。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に係わる情報〕 ①病弱教育の現地視察が可能であれば、授業の一環として計画する。この場合は見学者の健康管理もできていないと実施できないので十分健康に注意する必要がある。 ②病弱教育は病気に関することを扱うきわめて教師の専門性や倫理観が求められる。そこで児童生徒について知り得た個人情報の取り扱いなどには十分注意する必要がある。 ③学校参観の日程などは不確実な面がある。また、病気について発表してもらうので、講義の回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。確認のため臨時にミニテストを行う場合がある。 〔受講のルール〕 ①予習・復習を必ず行うこと。教科書は授業前に熟読すること。 ②将来自分が病弱教育の担任になったつもりで課題を明確にすること。 ③受講中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	質問等あれば授業終了時に、またはコメントカードに記載あれば次回以降に対応。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①発表（取り組みと内容）　１０％　②ミニテスト・レポート（内容、適切さ）４０％　③筆記試験（客観　論述）５０％　総合評価は①②③の合計が６０％を超えていること
教科書	全国特別支援学校病弱教育校長会：「特別支援学校の学習指導要領を踏まえた　病気の子どもガイドブック」ジアーズ教育新社　平成２７
参考書	全国特別支援学校病弱教育校長会編：「病気の子どもの理解のために」　より引用するのでプリントアウトする。http://www.nise.go.jp/portal/elearm/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場などを通して特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（社会）　　授業コード：5611

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 授業とはどの様なものか学ぶこと。 小学校社会科の指導方法や教材・教具について学ぶこと。 学習評価について学ぶこと。 指導案の作成について学ぶこと。 【到達目標】 授業の組み立てや求められる授業技術について理解する。 求められる資質・能力を育てるための授業について理解する。 主な指導方法や教材・教具について理解する。 地図の基礎的事項を理解し、地図を読むことができるようになること。 学習評価について理解すること。 指導案を作成し、模擬授業・授業研究を行い、授業実践力を養うこと。
授業の概要	授業とはどのようなものなのかについて考え、学習指導者としての観点から授業をとらえられるようにすること。　　様々な学習指導方法や教材・教具について理解すること。 実際に博物館・郷土資料館等を見学し、その活用方法を身につけると。 地図を読むことができるよう、その基礎を学ぶこと。 社会科における学習評価について学ぶこと。 指導案の作成方法を学ぶこと。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、「主体的対話的で深い学び」とは何か。 【key words】 主体的な学び、対話的な学び、深い学び 【授業概要】 授業の進め方等について知る。「主体的対話的で深い学び」について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	授業とは①・・授業の組み立て。本時の授業をつくる。 【key words】 主役は子どもである。 【授業概要】

		授業とはどのように組み立てられているのかを知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	授業とは②・・求められる授業技術(発問・板書・ノート) 【key words】 発問、計画的な板書、児童理解の手だてとしてのノート 【授業概要】 求められる授業技術(発問・板書・ノート指導)について考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	授業とは③・・動機付け、主体性と指導性 【key words】 動機づけ、主体性と指導性 【授業概要】 学習への動機づけについて考える。児童の主体性と教師の指導性について考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	授業とは④・・望ましい学習環境のあり方 【key words】 学習環境 【授業概要】 望ましい学習環境について考える。PC、電子黒板の活用について触れる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	社会科の授業とは①・・社会科の教科目標 【key words】 公民としての資質・能力の基礎の育成 【授業概要】 小学校社会科の目標について知る。 【教科書ページ・参考文献】 P17～P24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	社会科の授業とは②・・主体的に調べて考える授業 【key words】 問題解決学習 【授業概要】 主体的に調べて考える授業について考える。基礎的基本的な知識や概念を身につける授業について 考える。思考力・判断力・表現力を育てる授業について考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	社会科の授業とは③・・能力や技能を育てる授業、社会的な見方や考え方を育てる授業 【key words】 観察・調査、資料活用能力、社会的な見方や考え方 【授業概要】 能力や技能を育てる授業、社会的な見方や考え方を育てる授業について考える。 デジタル教科書を使用した指導例も示す。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第９回	社会科の学習・指導方法①・・個別学習、グループ学習、一斉学習、ごっこ・劇化・構成活動 【key words】 個別学習、グループ学習 【授業概要】 様々な指導法や授業形態について知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	社会科の学習・指導方法②・・系統学習、問題解決学習 【key words】 つかむ、調べる。まとめる 【授業概要】 様々な指導法や授業形態について知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	社会科の学習・指導方法③・・作業学習・体験学習、プログラム学習 【key words】 体験学習 【授業概要】 様々な指導法や授業形態について知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	社会科の学習・指導方法④・・ロールプレイイング、ディベート、シミュレーションゲーム 【key words】 ディベート 【授業概要】 様々な指導法や授業形態について知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	社会科の学習・指導方法⑤・・問答・討議法、講義法、支援 【key words】 認識の深化、支援 【授業概要】 様々な指導法や授業形態について知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	社会科の学習・指導方法⑥・・表現活動、ティーム・ティーチング、複線型授業 【key words】 表現活動の方法、TTの利点 【授業概要】 様々な指導法や授業形態について知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	社会科の学習・指導方法⑦・・見学・調査・観察(社会科見学・地域調査) 【key words】 見学・調査・観察 【授業概要】 様々な指導法や授業形態について知る。社会科見学・地域調査の方法について学ぶ。 事前準備でのICT活用についても触れる。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　教材・教具について①・・教科書、学習ノート、郷土資料、現物資料
【key words】
学習ノート、郷土資料

【授業概要】
教材・教具について学ぶ。その種類と意義、用い方
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　教材・教具について②・・統計資料、年表、博物館・郷土資料館の活用、副読本、放送利用、コンピュータ利用
【key words】
統計資料、博物館等の活用

【授業概要】
教材・教具について学ぶ。その種類と意義、用い方
インターネットによる社会科ゲームの体験と授業での活用
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　教材・教具について③・・地図指導　様々地図について知る。地図を読む。
【key words】
地図記号・方位、地球儀

【授業概要】
地図の基礎事項を学ぶ。地図を読む。地球儀について学ぶ。
デジタル教材(地図・地球儀)の活用
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
地図を読む問題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　社会科における学習評価①・・学習評価の分類、評価規準と評価基準、評価計画の作成
【key words】
学習評価、評価規準と評価基準

【授業概要】
学習評価について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　社会科における学習評価②・・観点別学習状況の評価（４観点）
【key words】
4観点

【授業概要】
観点別学習状況の評価について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　社会科における学習評価③・・具体的な評価方法、学習評価の記録法、学習評価の課題
【key words】
具体的な評価方法

【授業概要】
評価方法の実際について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

	第２２回	指導案の作成①(学習指導案とは・教材研究とは・学習活動研究とは・児童理解とは) 【key words】 教材研究、学習活動研究、児童理解 【授業概要】 学習指導案とは、どのようなものであるか学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をし、指導案作成準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２３回	指導案の作成②(基本的な指導案の作成方法) 【key words】 児童の実態、教材観、教材の系統、単元の目標、評価規準、指導方針、指導と評価の計画 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【授業概要】 基本的な形式、記述内容について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をし、指導案を書き進める。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２４回	指導案の作成③(模擬授業用略案の作成) 【key words】 児童の実態、本時のねらい、ねらいを達成するための手だて 【授業概要】 模擬授業用略案を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導案を完成させる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２５回	模擬授業及び授業研究①　※原則として全員が模擬授業を行い、授業後に授業研究会を実施する。 【key words】 【授業概要】 模擬授業を行い、その授業研究を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第２６回	模擬授業及び授業研究② 【key words】 【授業概要】 模擬授業を行い、その授業研究を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第２７回	模擬授業及び授業研究③ 【key words】 【授業概要】 模擬授業を行い、その授業研究を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第２８回	模擬授業及び授業研究④ 【key words】 【授業概要】 模擬授業を行い、その授業研究を行う。

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第２９回　模擬授業及び授業研究⑤ 【key words】 【授業概要】 模擬授業を行い、その授業研究を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第３０回　模擬授業及び授業研究⑥ 【key words】 【授業概要】 模擬授業を行い、その授業研究を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 社会科概論を履修していること。 配付資料やワークシートは必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	新聞を毎日読むこと。「子どもを理解する」とはどのようなことなのかを常に考えながら学習すること。
オフィスアワー	火曜日の14:30～17:30
評価方法	筆記試験７０％、学習指導案２０％、模擬授業１０％を目安として総合的に評価する。
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　社会編」日本文教出版株式会社
参考書	「小学校指導法　社会」玉川大学出版部
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 小学校教科教育法（理科）　　授業コード：5631

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
高山　幸延			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ 小学校理科の指導に必要な知識・技能の修得、学外での理科施設体験、質の高い授業を立案し実践できる力の獲得 ［到達目標］ ①学習指導要領で示された理科の目標・内容・配慮事項等を十分に理解する。 ②野外実習で得た知識や経験等を実際の指導に活かすことができる。 ③基礎的な学習指導理論の本質を理解し、児童の実態やニーズを十二分に考慮した授業設計を行い、指導に活きる学習評価を加味した優れた授業を実践することができる。
授業の概要	①小学校理科を指導する際に必要な理論面・実践面での基礎・基本（理科を学ぶ意義、学習指導要領改訂の背景と経緯、学習指導要領で示された教科と各学年の目標・内容の深い理解、理科で育成を目指す資質・能力、年間指導計画の意義や計画の立て方とその利用、実験・観察・野外活動の行い方、実験・観察等における配慮など）を身に付ける。 ②野外実習を体験することにより、理科施設利用の意義や課題を考え、現場での指導に活かす。 ③①の理解を基に、学習指導要領・解説と教科書を利用しての教材研究、優れた授業のあり方、学習指導案の立案、模擬授業の実施等を学ぶことをとおして、質の高い授業を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション（年間の講義の概要説明、評価内容・方法の説明など） 【key words】 1年間の講義の概要、授業の受け方、評価内容・方法 【授業概要】 ①「１年間の講義の方針や内容」「単位認定の内容・方法」等をワークシートや資料を基に説明する。 ②２年のときの自己紹介用アンケートを修正したり、成長した部分を新たに加筆したりした後、それをもとにクイズ形式で相互理解の深化を図る。 ③講義後の振り返りシートの記入上の約束事の説明を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○１年間の講義の方針や内容を再確認する。 ○新理科教科書(東書､大日本)､学習指導要領解説を購入し、内容を見ておく。 ○ワークシートをファイリングするための２穴ファイル等を購入する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	１.児童に力がつく「理科の授業」を行うためには！　２.学習指導要領の中身を確認しよう！　３.３年の学習内容「植物を育てよう１～４」を体験しよう。 【key words】 学習指導要領・解説、年間指導計画、教科書、授業構想

【授業概要】
①教師が授業前に行うべきことについて、対話形式で確認する。
②「学習指導要領の記述内容の構成」「目標の構成と内容」を学習指導要領で確認する。
③３年の学習内容「植物を育てよう１～４」の体験のための準備と具体的方法について考える。
【教科書ページ・参考文献】
３年の旧教科書：Ｐ12～17（東書）、Ｐ12～19(大日本）、学習指導要領・解説(Ｐ12～28、Ｐ118～129)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○家で育てる植物を何にするかを考え、種子等を用意する。
○観察記録カードの様式をどうするかを考え、パソコン等でカードを作成しておく。
○観察記録カードを綴じ込むファイルを購入する。
【予習復習に必要な想定時間】
１２０分

第３回　１.学習指導要領の中身を確認しよう！　２.年間指導計画を確認しよう！
【key words】
理科の目標、学年の目標、年間指導計画が必要な理由、年間指導計画の細案と略案
【授業概要】
①「理科の目標、学年の目標」を確認する。
②年間指導計画の略案と細案について学ぶ。
③年間指導計画が必要な理由について考える。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説(Ｐ12～28、Ｐ118～129)、東京書籍Ｗｅｂページの年間指導計画
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物への水くれ等を忘れないこと。
○植物の成長を観察記録カードに記録すること。
○理科及び学年の目標を復習しておくこと。
○略案と細案を教科書会社のサイトからダウンロードし見ておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
７０分

第４回　１.各学年の「問題解決の力」｛具体目標(2)｝を確認してみよう！　２.旧教科書と比べ、新教科書が「教科書づくり」で工夫・改善している点(Ｎｏ１)を見つけ確認しよう！
【key words】
問題解決の力、具体目標、教科書づくりの工夫
【授業概要】
①「各学年の目標」の「問題解決の力」について再確認する。
②新教科書の工夫・改善点を見つける。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説(Ｐ12～28、Ｐ118～129)、教科書：全ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○家でしっかりと植物を育てるための水くれや除草等を忘れないこと。
○植物の成長を観察し、観察記録カードに記録すること。
○「各学年の目標」の「問題解決の力」を復習し、自分のものにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
５０分

第５回　１.教科書会社（東京書籍、大日本図書）の工夫・改善点(Ｎｏ２)を見つけ発表しまとめる。　２.「理科の学び方・進め方」を確認しよう！
【key words】
教科書会社（東京書籍、大日本図書）の工夫、理科の学び方・進め方
【授業概要】
①教科書会社の工夫・改善点を見つけてまとめ、発表する。
②４～６年の教科書を見て、学習過程や「分け方・内容」の「意図や意義」を考える。
【教科書ページ・参考文献】
３～６年の教科書：全ページ、４～６年の教科書：Ｐ2～3

【課題・予習・復習・授業準備指示】
○家でしっかりと植物を育てるための水くれや除草等を忘れないこと。
○植物の成長を観察し、観察記録カードに記録すること。
○新教科書の「教科書づくり」での工夫・改善点を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
５０分

第６回　１.教育実習をふり返って　２.教員採用試験等に向けて
【key words】
教育実習、教育実習の発表の仕方、教員採用一次試験、対策
【授業概要】
①教育実習の「成果や課題」等をまとめ、仲間と私に発表するための目的・方法を確認する。
②教員採用試験に関するアンケートに答える。
③一次試験（教職教養・一般・専門教養）の対策を考えながら学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
一次試験に関する記述のある各種Ｗｅｂページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○一次試験（教職教養・一般・専門教養）のための勉強を行う。
○観察記録カードを次時に提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
１２０分

第７回　１.二次試験に向けて
【key words】
個人面接、集団面接
【授業概要】
①個人面接
　○事前に、定番と想定外の質問を考える。
　○３人（面接官、受験生、観察官）のグループになり面接を体験し、改善点等を論議する。
②集団面接

○私が面接官になって質問する。面接をしていないグループは観察し、終了後助言する。
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○個人・集団面接の練習で学んだことを復習する
○教育実習の概要の発表に向け、プレゼン資料を作成すること。
【予習復習に必要な想定時間】
１２０分

第８回　１.教育実習のプレゼンテーション
【key words】
教育実習の発表、発表の評価
【授業概要】
①順番に発表する（１人１０分）。
②発表者に対する評価を評価カードに記入する（自分のプレゼンは自分で自己評価する）。
③質疑応答（１人２分）。
○発表者の「よかったところ、参考になったこと、改善点」を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○教育実習のプレゼン内容でよかったところ等を確認し、自分のものにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第９回　１.教育実習のプレゼンテーション(続き) ２.二次試験に向けて ３.観察記録カードについて
【key words】
教育実習の発表、発表の評価、面接試験対策、論文・作文対策、観察記録カードの改善
【授業概要】
①教育実習プレゼン（続き）
②面接試験、論文・作文について
○資料（面接試験を受けるにあたっての重要ポイント、基本的な小論文・論作文の書き方）で学ぶ。
③提出された、みんなの観察記録カードを見て
○今後の「観察記録カードの書き方」の改善すべき点を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
面接及び論作文に関する記述のある各種Ｗｅｂページ、３年の旧教科書：Ｐ148（東書）、Ｐ15(大日本)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○観察記録カードの改善すべき点を学んだので、今後はそれに即してカードを書くこと。
○面接試験や論文・作文対策の復習をしっかりと行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
１００分

第１０回　１.群馬自然史博物館での学外施設学習（前半）
【key words】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、博物館の歴史と概要
【授業概要】
①化石のレプリカor海藻ハーバリウム等を作る。
②博物館の歴史と概要を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ、学習指導要領・解説(Ｐ１02～１03)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１１回　２.群馬自然史博物館での学外施設学習（後半）
【key words】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、バックヤード見学
【授業概要】
①バックヤードを見学し説明を受ける。
②館内を見学して、教師（引率者）の視点で学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ、学習指導要領・解説(Ｐ１02～１03)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１２回　１.ぐんま昆虫の森での学外施設学習（前半）
【key words】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、野外観察の仕方、虫取り体験
【授業概要】
①野外観察の仕方を実際に体験したり説明を受けたりする。
②虫取り体験をする。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ、学習指導要領・解説(Ｐ１02～１03)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１３回　２.ぐんま昆虫の森での学外施設学習（後半）
【key words】

		学外施設学習、学外施設との連携・活用、バックヤード見学 【授業概要】 ①バックヤードを見学し説明を受ける。 ②館内の見学を見学して、教師（引率者）の視点で学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ、学習指導要領・解説（Ｐ１02～１03） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１４回	１．学外施設での体験研修から ２．理科を学ぶ意義・理由について、考えてみよう！ 【key words】 学外施設での体験研修、学外施設の具体的な活用方法、学外施設利用の課題と対策、理科を学ぶ意義・理由 【授業概要】 ①学外施設で学んだことを発表する。 ②学外施設との連携・活用、具体的な活用方法、課題とその対策について考える。 ③「理科をなぜ学ぶ必要があるのか」について考える。 【教科書ページ・参考文献】 「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ、学習指導要領・解説（Ｐ１02～１03） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○植物の面倒を見て、カードに記録すること。 ○他教科を学ぶ意義・理由についても考え、自分なりの考え・答えをしっかりともっておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分
	第１５回	１.理科（小・中・高）の内容構成を確認してみよう！ ２.ものづくりに挑戦してみよう！ 【key words】 小学校の内容区分、理科（小・中・高）の内容構成、小・中・高校の内容の系統、ものづくり、ものづくりの大切さ 【授業概要】 ①「小学校の内容区分、小・中学校の内容構成、小・中・高校の内容の系統」を学ぶ。 ②各学年のものづくりの単元を探す。ものづくりの大切さを学ぶ。作ってみたいおもちゃ等を決める。必要な材料等を考える。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説（Ｐ１～29、Ｐ118～129）、３～６年の教科書のものづくり単元 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○植物の面倒を見て、カードに記録すること。 ○自分が作るおもちゃに必要な材料を次時までに用意すること。 【予習復習に必要な想定時間】 １００分
	第１６回	１.実際にものづくりに挑戦しよう！ 【key words】 ものづくり、ものづくりのための準備・材料、ものづくり報告書、作品評価カード 【授業概要】 ①「ものづくり報告書」や「作品評価カード」の説明を受ける。 ②実際にものづくりを行う。 ③自分の作品をみんなに披露する。 ④作品評価カードで評価する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説（Ｐ１～29、Ｐ118～129）、３～６年の教科書のものづくり単元 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○植物の面倒を見て、カードに記録すること。 ○時間内に作品が完成しなかった場合は、次の講義までに完成させておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１７回	１.小学校教師が苦手と感じている分野の克服法を考えよう！ 【key words】 指導が苦手な理科の分野、高学年のエネルギー・地球分野の内容、指導が苦手な分野の克服法 【授業概要】 ①小学校教師が苦手だと感じている指導分野を知る。 ②苦手な、高学年のエネルギー・地球分野の内容を確認する。 ③理科指導で不安に感じている分野の克服法を考える。 【教科書ページ・参考文献】 ５・６年の教科書のエネルギー・地球分野、学習指導要領・解説（Ｐ６１～93） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○植物の面倒を見て、カードに記録すること。 ○模擬授業をする単元を決め、どんな授業にするか、構想を練っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第１８回	１.実際に授業を構想し、模擬授業に挑戦しよう！ 【key words】 模擬授業、５・６年のエネルギー・地球分野、素案づくり 【授業概要】 ①５・６年のエネルギー・地球分野で模擬授業にチャレンジする。 ②どの分野・単元にするか、考える。 ③実際に授業を構想し、素案づくりを始める。 【教科書ページ・参考文献】 ５・６年の教科書のエネルギー・地球分野、学習指導要領・解説（Ｐ６１～93） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○植物の面倒を見て、カードに記録すること。 ○観察記録カードを次回持ってくること。 ○模擬授業をする単元を決め、どんな授業にするか、構想を練っておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
１２０分

第１９回　１.私の模擬授業を体験しよう！　２.「優れた授業を行うための１０のチェックリスト」（私の発案）を学ぼう！
【key words】
模擬授業、優れた授業を行うための１０のチェックリスト、燃焼の仕組み
【授業概要】
①Ａ区分の（１）燃焼の仕組み（６年）の模擬授業を受ける。
②「優れた授業を行うためにはどうしたらよいか」を考える。
③「優れた授業を行うための１０のチェックリスト」の説明や解説を聞きながら、自分のストロングポイントとウィークポイントを考える。
【教科書ページ・参考文献】
６年の旧教科書Ｐ12～27(東書)、Ｐ8～27（大日本)、学習指導要領・解説(Ｐ75～78)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○模擬授業と講義を参考に、自分の模擬授業をどうするかを考え、学習指導案を完成させること。
○学習指導案を、次回人数分印刷して持ってくること。
【予習復習に必要な想定時間】
１２０分

第２０回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ１)！
【key words】
模擬授業、授業説明、授業検討会
【授業概要】
①模擬授業の行い方、受け方を確認する。
②模擬授業（２人）を行う。授業後、授業説明を行う。
③授業検討会を行い、その内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー・地球分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見てカードに記録すること。
○仲間の模擬授業の成果と課題を自分のものにするため、ふり返り復習しておくこと。
○学習指導案を、次回人数分印刷して持ってくること。
【予習復習に必要な想定時間】
１００分

第２１回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ２)！
【key words】
模擬授業、授業説明、授業検討会
【授業概要】
①模擬授業（２人）を行う。授業後、授業説明を行う。
②授業検討会を行い、その内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー・地球分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○仲間の模擬授業の成果と課題を自分のものにするため、ふり返り復習しておくこと。
○学習指導案を、次回人数分印刷して持ってくること。
【予習復習に必要な想定時間】
１００分

第２２回　１.ぐんま天文台での学外施設学習（前半）
【key words】
天文台の役割・仕事、ぐんま天文台の概要、天体観測、星、太陽系、惑星、恒星、銀河、宇宙
【授業概要】
①ぐんま天文台の概要の説明を受ける。
②天体観測の仕方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
３～６年の教科書の地球分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを書き、次回提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２３回　２．ぐんま天文台での学外施設学習（後半）
【key words】
天体望遠鏡の使い方、天体観測、惑星、恒星、星座
【授業概要】
①天体望遠鏡の使い方を学び、実際に観測する。
②施設（バックヤードを含む）を見学し説明を受ける。
【教科書ページ・参考文献】
３～６年の教科書の地球分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを書き、次回提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２４回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ３)！
【key words】
模擬授業、授業説明、授業検討会
【授業概要】
①模擬授業（２人）を行う。授業後、授業説明を行う。
②授業検討会を行い、その内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー・地球分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○仲間の模擬授業の成果と課題を自分のものにするため、ふり返り復習しておくこと。

		○学習指導案（略案）を、次回人数分印刷して持ってくること。 【予習復習に必要な想定時間】 １００分
	第２５回	１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ４)！ 【key words】 模擬授業、授業説明、授業検討会 【授業概要】 ①模擬授業（２人）を行う。授業後、授業説明を行う。 ②授業検討会を行い、その内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 ５・６年の教科書のエネルギー・地球分野 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○仲間の模擬授業の成果と課題を自分のものにするため、ふり返り復習しておくこと。 ○学習指導案（略案）を、次回人数分印刷して持ってくること。 【予習復習に必要な想定時間】 １００分
	第２６回	１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ５)！ 【key words】 模擬授業、授業説明、授業検討会 【授業概要】 ①模擬授業（２人）を行う。授業後、授業説明を行う。 ②授業検討会を行い、その内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 ５・６年の教科書のエネルギー・地球分野 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○仲間の模擬授業の成果と課題を自分のものにするため、ふり返り復習しておくこと。 ○学習指導案を、次回人数分印刷して持ってくること。 【予習復習に必要な想定時間】 １００分
	第２７回	１.なぞ解きを楽しみながら、指導の力量をアップさせよう（Ｎｏ１）！ 【key words】 水溶液の性質、なぞ解き、指導力向上 【授業概要】 ①６年「水溶液の性質」を題材に、「なぞ解きの面白さ」を味わいながら、「指導力のさらなるアップ」をめざす。 ○６種類の無色・透明な水溶液のどれが何の水溶液なのかを３人で手順と方法を考える。 ○教科書は、考えがあって独自の展開で学習を組み立てている。なぜそのような展開にしているのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 ６年の旧教科書(Ｐ146～165＜東書＞、Ｐ94～111＜大日本＞)、学習指導要領・解説(Ｐ78～80) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○６種類の水溶液のどれが何の水溶液なのかを調べるための方策を、班員で考えまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分
	第２８回	１.なぞ解きを楽しみながら、指導の力量をアップさせよう（Ｎｏ２）！ 【key words】 水溶液の性質、なぞ解き、実験計画、実験、結果・結論、まとめと発表 【授業概要】 ①自分たちが立てた実験計画に従って、実験を行う。 ②実験結果の発表の仕方を考える。 ③実際に発表する。評価カードで他班を評価する。 【教科書ページ・参考文献】 ６年の旧教科書(Ｐ146～165＜東書＞、Ｐ94～111＜大日本＞)、学習指導要領・解説(Ｐ78～80) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○発表の準備が終わらなかった班は、次時までに仕上げておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分
	第２９回	１.なぞ解きを楽しみながら、指導の力量をアップさせよう（Ｎｏ３）！ ２.後期定期試験に向けて 【key words】 水溶液の性質、なぞ解き、教科書での展開、指導力向上 【授業概要】 ①実験結果を班ごとに発表する。 ②教科書は、考えがあって独自の展開で学習を組み立てている。なぜそのような展開にしているのかを考える。　○自分たちで取り組んだ方法と教科書の展開を比較する。 ③教科書の展開の仕方がわかった時点で、そのよさと課題を考える。 ④後期定期試験に向けて勉強しておくべきことや留意点等の説明を聞くとともに、聞きたいことがあれば質問する。 【教科書ページ・参考文献】 ６年の旧教科書(Ｐ146～165＜東書＞、Ｐ94～111＜大日本＞)、学習指導要領・解説(Ｐ78～80) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○教科書の授業展開と自分たちの方法を比較し、それぞれのよさと課題を明らかにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分
	第３０回	１.「理科（科学）のオモシロ実験」を体験しよう！ ２.１年間の授業をふり返ろう！ ３.観察記録カードを評価しよう！ 【key words】 オモシロ実験体験、ふり返り、自身の成長と反省、観察記録カードの評価 【授業概要】 ①1年間の理科教育法のまとめとして、「科学の楽しさ・おもしろさ」をさらに体験する。

	○海ほたる(人工イクラ)を作る。 ②１年間講義を受けて、自分が成長したところと課題をまとめる。 ③仲間の観察記録カードを評価するとともに、そのよさや頑張りを学び４月からの仕事に活かす。 【教科書ページ・参考文献】 ScienceLab 冨田塾(http://www.s-lab-tomita.com/) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○1年間で学んだことをワークシートや資料でふり返るとともに、しっかりと復習し、後期試験に備えること。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	１.小学校教諭、保育士等、教職を目指す者としての自覚をもち講義に臨むこと。 ２.各課題に対し、自らの考えをしっかりともち積極的に意見を発表するとともに、周りの意見や考えに謙虚に耳を傾けること。 ３.振り返りシートに、講義の評価、内容の理解、質問、感想等を毎回明記し、提出すること。 ４.毎回配布されるワークシートについては、復習を行うとともにきちんと保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ふり返りシート・その他（ワークシート）
授業外時間にかかわる情報	・理科（科学）や教育の今日的な課題等に関するテレビ番組やニュース、新聞記事、書籍、ネット情報に触れる習慣を身に付けておくこと。 ・普段の生活の中で、身の回りの動植物や自然に関心をもち、自ら体験しようとする意欲と習慣を身に付けること。
オフィスアワー	・質問・要望等は「振り返りシート」に記入する。次回、講師がワークシートで取り上げコメントする。 ・講義後の２０分は対応可能。また、メールでの質疑は随時受け付ける。
評価方法	学期末試験（５０％）、報告書や各種学習カードの内容、プレゼンテーション（30％）、 授業への取り組み（授業中やグループワーク等での取り組み状況、意見発表、ふり返りシート等の記述内容）（２０％）
教科書	小学校学習指導要領（H29年告示)解説 理科編、小学校理科教科書（東京書籍発行「新編 新しい理科」、大日本図書「新版 たのしい理科」）
参考書	・講義の中で、必要性を感じたときに紹介する。 ・文部科学省ホームページ、国立教育政策研究所ホームページ等、理科(科学)関連のＷｅｂサイトを時々閲覧すること。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ３７年間の義務教育での実務経験｛小学校（５年）、中学校（１４年）、指導主事（６年）、管理職（１２年）｝及び青少年とその関係者の悩み事相談（３年）を活かし、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭として必要とされる知識・技能、授業・学級経営・生徒指導等に関する的確で優れた指導力を身に付けるための方策について講義する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ・プレゼンテーションソフトを使用しての講義 ・学外施設体験学習（群馬自然史博物館、ぐんま昆虫の森、ぐんま天文台) ・実験体験学習 ・模擬授業体験学習

講義科目名称：　小学校教科教育法（生活）　　授業コード：5641

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童（1学年・2学年）が身近な人々・自然・社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができるための実践的・体験的学習を考案し、実施することができる。その際、日本独自の自然感情に基づく文化についても体得する。 【到達目標】 １）　児童が体験・実践・共同学習をとおして学ぶために効果的なワークシートを作成することができる。 ２）　児童の様々な発語をすくい上げながら授業を展開することができる。 ３）　幼児教育からの接続を意識するとともに、３年生以降の学習への興味につなげる内容を工夫できる。
授業の概要	生活科は、児童が体験や活動を通して自分自身と身近な自然や社会とのかかわりについて学ぶ教科であるため、教師は児童の気づきを育て、それを知的なものとして扱っていかねばならない。そこで実践研究においては、ワークシートに基づき実践体験を行いながら、対象領域を習熟する。また、課題研究においては、実践したことがらをもとに、指導計画を考案し検討する。さらに校外での活動を随時取り入れ、観察力や教員としての注意力を培う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス　（生活科の目標　・生活科の内容） 【key words】 人・社会とのかかわり　自然とのかかわり　自分自身　家族 【授業概要】 生活科の目標について示すとともに、内容（９項目）について詳説する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：『小学校学習指導要領解説生活編』を概観しておく。 復習：配布された資料をよく読み、内容をつかむ。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	実践研究　：　春の景色 【key words】 春の景色　スケッチ 【授業概要】 四季の変化を理解するために、適する場所（定点）を選んで景色をスケッチする。各季節とも同じ景色を描くため、変化がよくわかる場所を選ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　実践研究　：　植物の栽培と観察（植物の栽培に必要な材料・物品を準備し、実施する）〈開始〉
【key words】
種　土　水やり
【授業概要】
各グループで用意した苗・種と栽培用品を用いて植えつけ・種まきを行う。以後、受講生同士で登板を決めて水やり・手入れを行う。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：栽培に必要な材料・物品をグループ毎に持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　実践研究　：　春を探そう（植物）
【key words】
春の植物
【授業概要】
春の植物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　実践研究　：　春を探そう（生き物）
【key words】
春の生き物
【授業概要】
春になると現れたり、特に春に特徴のある生き物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　実践研究　：　生きものの採集と飼育・観察（学校周辺に生息している生きものについて調べる）
【key words】
春の生き物　鳥　魚　昆虫
【授業概要】
学校周辺に生息している生き物（昆虫）を捕えて調べ、特徴をワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　実践研究　：　植物の栽培と観察
【key words】
発芽　子葉　本葉　開花　水やり　日光
【授業概要】
第３回の授業で種をまいた植物の様子を観察してスケッチし、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　実践研究　：　夏の景色
【key words】
夏の景色　春の景色
【授業概要】
夏の景色をスケッチし（春にスケッチしたのと同じ場所）、ワークシートに記入する。そして、既に描いた春の景色と比較する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
【予習復習に必要な想定時間】

		30分
	第９回	実践研究　：　夏を探そう（植物） 【key words】 夏の植物　春の植物の様子との違い 【授業概要】 夏の植物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	実践研究　：　夏を探そう（生き物） 【key words】 夏の生き物 【授業概要】 夏に現れたり、夏に特徴があらわれる生き物を探して、スケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	課題研究　：　家族の生活について考えよう（「自分の家族」「家族の中の自分」について気づかせる方法を考える） 【key words】 家族　日常生活　役割（お手伝い） 【授業概要】 「自分の家族」「家族の一員としての自分」に気づかせる方法について話し合い、発表する。 ≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	課題研究　：　自分を取り巻く環境について考えよう 【key words】 家族　先生　友だち　お世話になっている人たち　地域の人々 【授業概要】 学校・地域・自分の活動場所などでお世話になっている人たちを正しく理解し、感謝の気持ちを持つことができるための教育方法について話し合い、発表する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	実践研究　：　地域（学校）マップを作ろう　（調査・計画） 【key words】 通学路　公共の施設　お店　自然 【授業概要】 本学に通ってくる小学生を想定し、学校周辺の生活に関連するお店や公共の施設などを取り入れたマップを作成する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	実践研究　：　地域（学校）マップを作ろう　（製作） 【key words】 通学路　公共の施設　お店　自然 【授業概要】 本学に通ってくる小学生を想定し、学校周辺の生活に関連するお店や公共の施設などを取り入れたマップを作成する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	実践研究　：　植物の栽培と観察のまとめ 【key words】 観察記録 【授業概要】 今まで作成してきた観察記録を集約・検討し、気づいたことや授業づくりのポイントなどを発表

し合う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生の観察記録にコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　生活科の指導計画（指導計画作成の要点と配慮事項・学習の基本課程・単元構成・年間計画等）
【key words】
生活科の特質　配慮事項　指導計画
【授業概要】
指導計画作成の要点と配慮事項・学習の進め方・年間計画と単元計画・評価の観点などについて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説生活編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：配布資料を熟読し、内容をしっかり理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　実践研究　：　不要になったものを使って遊びの道具を作ろう　（製作）
【key words】
不用品（ペットボトル・牛乳パック・空き箱・段ボールなど）
【授業概要】
生活の中で生じる不用品を用いて大きなおもちゃなどを共同で作る。　≪グループ学習≫

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：製作に必要な材料と道具を持ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　実践研究　：　不要になったものを使って遊びの道具を作ろう　（実践）
【key words】
遊び　工夫
【授業概要】
前回作った大きなおもちゃを使って遊んでみる。他グループが製作したもので遊んだり、新しいあそび方を考える。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：製作したおもちゃの作り方（ワークシート）をまとめる（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　実践研究　：　秋を探そう（植物）
【key words】
秋の風景　秋の植物　秋の生き物のようす
【授業概要】
秋の植物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
日本の秋の自然の情景を体感する。秋の実や葉などを集める。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　実践研究　：　秋を探そう（生き物）
【key words】
秋の風景　秋の生き物　「秋をみつけたよ日記」
【授業概要】
秋に特徴がある生き物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。また、日本の秋の自然と風物を体感する。「秋をみつけたよ日記」を書く。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
課題：提出された他の学生のワークシート・「秋をみつけたよ日記」にコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　実践研究　：　秋の景色
【key words】
秋の風景
【授業概要】
秋の景色をスケッチし（春・夏にスケッチしたのと同じ場所）、ワークシートに記入する。そして、既に描いた春・夏の景色と比較する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆

課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　実践研究　：　秋の植物や実を使った製作
【key words】
木の葉　枝　木の実
【授業概要】
第19回「秋を探そう」で集めた自然の産物を使って、おもちゃ・生活用品・アクセサリーなどを作る。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：第19回の授業で見つけた材料と、製作に必要なものを持ってくる。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　実践研究　：　冬の植物・生きものを探そう
【key words】
冬の植物　冬の生き物　冬の気象現象
【授業概要】
冬に咲く花や実などの植物、冬の生き物の様子・風物などを観察してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆・防寒対策をすること。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　課題研究　：　学校生活を楽しく有意義に過ごすための学習指導を考案する
【key words】
学校　先生　友だち　学校を支えている人々
【授業概要】
学校生活を楽しく有意義に過ごすとともに学校を支えている人々や友だちについて分かるための学習指導を考案する。　≪模擬授業≫
模擬授業終了後、ディスカッションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　課題研究　：　植物の栽培についての学習指導を考案する
【key words】
植物　栽培　変化　成長
【授業概要】
植物の栽培についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫
模擬授業終了後、ディスカッションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　課題研究　：　動物の飼育についての学習指導を考案する
【key words】
生き物　飼育　変化　成長　生命
【授業概要】
生き物の飼育についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫
模擬授業終了後、ディスカッションを行う。
年間を通じて飼うことができる生き物を選んで、授業を展開する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　実践研究　：　冬の景色　冬の暮らし
【key words】
冬の景色　スケッチ
【授業概要】
冬の景色をスケッチし、既に描いた春・夏・秋の景色と比較する。また、冬ならではの暮らし方・遊び・行事について検討する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２８回　課題研究　：　季節の変化と生活についての学習指導を考案する（春夏秋冬のスケッチをもとに）

	【key words】 四季の変化　植物　風物　文化　日本人の美意識 【授業概要】 季節の変化と生活についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２９回　課題研究　：　家庭と生活・地域と生活についての学習指導を考案する 【key words】 家族　自分の役割　　地域の人々と暮らし　安全 【授業概要】 家庭と生活・地域と生活について学習指導を考案する。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　課題研究　：　公共物や公共施設・自分の成長についての学習指導を考案する。　まとめ 【key words】 公共施設　施設を支えている人々　安全　自分の成長　友だち 【授業概要】 公共物や公共施設・自分の成長についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（指定された提出日）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	実践活動を中心に据えている科目であるため、常に積極的に活動し、意欲的に調べること。毎回ワークシートを提出するため、必ず時間内に仕上げること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	植物の栽培や製作などの前には、各自で材料を準備すること。
オフィスアワー	金曜日　13：00〜15：00
評価方法	実践活動・発表（５０％）、提出物（５０％）・・・全ての提出物は、期限が過ぎたものについては受け付けない。また、返却されたワークシートや配布されたプリントは整理し、1冊のファイルにまとめること（指定された期日に提出）。
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領生活編』 『新編 どきどきわくわく あたらしいせいかつ』上、東京書籍、2016年 『あしたへジャンプ 新編 新しい生活』下、東京書籍、2015年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 小学校教科教育法（音楽）　　授業コード：5651

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
小嶋　彩			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校音楽科の授業を実施するために求められる知識や能力を培い、それらを基に学習指導案を作成し授業実践できることを目的とする。 【到達目標】 ①学習指導要領に基づく小学校音楽科のカリキュラム構造と内容を理解する。 ②「表現（歌唱・器楽・音楽づくり）」・「鑑賞」指導のために必要な知識・技能を習得する。 ③学習指導案の作成や模擬授業を通して実践的指導力を身につける。
授業の概要	小学校音楽科の理論的内容を理解し、的確な教材研究や具体的な指導法を演習を通して学んでいく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	前期オリエンテーション（到達目標と概要、授業の進め方・課題・評価方法の説明等）　学習指導要領について（音楽科の目標） 【key words】 シラバス、学習指導案、模擬授業、成績評価、学習指導要領 【授業概要】 この授業の目的や到達目標、授業概要、授業計画、評価方法について理解する。 また、学習指導要領における音楽科の目標について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ８～１３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを購入し、Ｐ８～１３を読んでおく。 ソプラノリコーダーを継続的に使用するので、全員が用意し毎回持参すること。また、鍵盤ハーモニカを持っている人は指定した日に持ってこられるよう用意しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	音楽科の指導内容 【key words】 学習指導要領、児童の発達特性、2つの領域と3つの分野 【授業概要】 学習指導要領における音楽科の各学年の目標について学ぶ。また、音楽科の指導内容について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１４～２６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ１４～２６を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	音楽科の指導計画と評価 【key words】 教育計画、教育課程、題材、目標と指導内容、学習指導案、音楽学習の評価

【授業概要】
教育の目的を確認し、学習指導計画の必要性や指導内容及び題材の構成、学習指導案の作成について学ぶ。また、教育評価の意義と目的、音楽学習の評価の観点と評価方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ２７～４２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ２７～４２を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
70分

第４回　授業実践にあたって
【key words】
発達特性、学習特性、教材研究、主体的・対話的で深い学び
【授業概要】
児童期の発達的特性と音楽的発達の特性を踏まえた音楽学習について学ぶ。
また、学習指導要領の重要なキーワードである「主体的・対話的で深い学び」に基づいた音楽科の授業実践について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ４４～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ４４～５１を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　歌唱の学習と指導（１）「歌唱」の意義と留意点について
【key words】
範唱、発声、合唱、楽曲の分析、伴奏、歌う喜び
【授業概要】
音楽科における歌唱の意義と留意点について学ぶ。また、教師に必要な歌唱指導のスキルについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５２～５３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ５２～５３を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　歌唱の学習と指導（２）歌唱の指導法について
【key words】
自然で無理のない歌い方、発声、姿勢、呼吸、発音、変声期
【授業概要】
学習指導要領における「自然で無理のない歌い方」を指導するために、声の仕組みと発声、学年に応じた発声指導について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５４～５５，６０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ５４～５５，６０を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第７回　歌唱の学習と指導（３）歌唱教材研究について
【key words】
共通教材、分析と解釈、移動ド唱法
【授業概要】
歌唱共通教材を学習する意義や、歌唱教材の研究の方法と指導方法について学ぶ。
また、移動ド唱法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５６～５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ５６～５９を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　器楽の学習と指導（１）「器楽」の意義と留意点について、楽器の奏法と指導法について①
【key words】
音楽表現、楽器との出合い、打楽器、和楽器
【授業概要】
音楽科における器楽学習の意義と留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６１～６８，Ｐ７４～７９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Ｐ６１～６８，Ｐ７４～７９を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　器楽の学習と指導（２）楽器の奏法と指導法について②
【key words】
リコーダー、美しい音、タンギング、指づかい
【授業概要】
リコーダーの種類や奏法、指導法について学ぶ。3年生等の担任として音楽を担当した場合に備え、ソプラノリコーダーについての基礎的な知識や初心者に対しての指導法などを詳しく学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６９～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Ｐ６９～７１を読んでおく。
ソプラノリコーダーを忘れずに持ってくる。
学習したソプラノリコーダーの取り扱い方や奏法を復習し、練習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】

		50分
	第１０回	器楽の学習と指導（３）器楽教材研究について 【key words】 鍵盤ハーモニカ、美しい音、タンギング、指づかい 【授業概要】 鍵盤ハーモニカの種類や奏法、指導法について学ぶ。1年生等の担任として音楽を担当した場合に備え、鍵盤ハーモニカについての基礎的な知識や初心者に対しての指導法などを詳しく学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ７２～７３，Ｐ８０～８３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ７２～７３，Ｐ８０～８３を読んでおく。 鍵盤ハーモニカを持っている人は、必ず持ってくる。 学習した鍵盤ハーモニカの取り扱い方や奏法を復習し、練習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第１１回	音楽づくりの学習と指導（１）「音楽づくり」の意義と留意点について 【key words】 音遊び、即興的な表現、〔共通事項〕 【授業概要】 音楽づくりの特徴や〔共通事項〕との関係を理解し、音楽科における音楽づくりの意義と留意点について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ８３～８４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ８３～８４を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１２回	音楽づくりの学習と指導（２）音楽づくりの指導法について 【key words】 学習指導要領、音遊び、即興的な表現 【授業概要】 学習指導要領における音楽づくりの各学年の指導内容とその方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ８５～９２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ８５～９２を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１３回	鑑賞の学習と指導（１）「鑑賞」の意義と留意点について 【key words】 音楽の聴取、知覚・感受 【授業概要】 音楽鑑賞の特徴を理解し、音楽科における鑑賞指導の意義と留意点について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ９３～９４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ９３～９４を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１４回	鑑賞の学習と指導（２）鑑賞の指導法、教材研究について 【key words】 指導のステップ、ねらいの焦点化、楽しく聴く活動 【授業概要】 鑑賞指導の組み立て方と各学年の指導法、鑑賞の授業におけるトラブルシューティングについて学ぶ。また、鑑賞教材選択の観点と教材研究について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ９５～１０７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ９５～１０７を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１５回	表現と鑑賞との関わり 【key words】 指導の関連、〔共通事項〕 【授業概要】 表現と鑑賞との関連の意義と、〔共通事項〕を活用した実践例について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１０８～１１２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ１０８～１１２を読んでおく。 今までの学習内容をよく復習して前期試験に臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１６回	後期オリエンテーション（後期の授業概要、授業の進め方・課題・評価方法の説明等）　学習指導案の作成について（１）題材・目標の設定 【key words】 学習指導案、模擬授業、学習指導要領、目標、題材・教材 【授業概要】 後期の授業内容と進め方について理解する。模擬授業の学習の流れや日程を確認する。また、学習指導要領をもとにしながら、学習指導案の題材・目標の設定の仕方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ３３～３５の内容を復習しておく。
この講義までに模擬授業で自分が担当する題材について、どんな授業ができるかいくつかの案を考えておく。授業で学んだことをもとに、学習指導案の作成を進めておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１７回　学習指導案の作成について（２）題材の指導と評価の計画
【key words】
題材の目標、題材観、児童観、学習指導要領、評価規準
【授業概要】
教材研究から、題材の指導をどのように進めていくか考え、学習指導案の題材、教材についての記述方法、また題材の評価規準の設定の仕方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で学んだことをもとに、学習指導案の作成を進めておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１８回　学習指導案の作成について（３）学習指導案作成演習
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、評価規準
【授業概要】
題材の目標、教材研究をもとに本時の展開を考え、学習指導案を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で学んだことをもとに学習指導案を完成させ、次回の講義で全員提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１９回　音楽科と他教科との関連
【key words】
目標、活動内容、違いと共有点、カリキュラムマネジメント
【授業概要】
音楽科と他教科、総合的な学習の時間、特別活動との関連と、カリキュラムマネジメントについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１１６～１２２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ１１６～１２２を読んでおく。
＊模擬授業の学習指導案提出締め切り日。
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第２０回　学生による模擬授業（１）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２１回　学生による模擬授業（２）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２２回　学生による模擬授業（３）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２３回　学生による模擬授業（４）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】

		学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２４回	学生による模擬授業（５）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討 【key words】 題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応 【授業概要】 学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２５回	学生による模擬授業（６）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討 【key words】 題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応 【授業概要】 学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２６回	学生による模擬授業（７）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討 【key words】 題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応 【授業概要】 学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２７回	学生による模擬授業（８）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討 【key words】 題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応 【授業概要】 学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２８回	校種間の連携と音楽科 【key words】 実態、連携、協働、共感、共有、学校段階等間の接続、学習指導要領 【授業概要】 音楽科における、地域と学校、幼稚園と小学校、小学校と中学校との連携について学ぶ。 また、特別支援教育における音楽教育について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１２３～１２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ１２３～１２７を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第２９回	日本の伝統音楽と諸外国の音楽 【key words】 音楽文化の多様性、異文化理解、教材化、学習指導要領 【授業概要】 日本の伝統音楽の定義や特徴を学び、指導の意義を理解する。また、自国の音楽文化の理解、異文化の理解等の観点から、諸外国の音楽を学ぶ意義を理解し、指導や教材化の方法等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１２８～１３１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ１２８～１３１を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第３０回	小学校における音楽科の指導法についてのまとめ

	【key words】 学習指導要領、生涯学習、著作権、ＩＣＴ 【授業概要】 音楽科と生涯学習、著作権、音楽科とＩＣＴについて学ぶ。 音楽科の課題、指導等、既習事項振り返りながら1年間の学習のまとめをする。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１３２～１３４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ１３２～１３４を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	教員免許取得に関わる講義であることをきちんと理解し、真剣に授業に臨むこと。 リコーダーの実習があるため、ソプラノリコーダーを各自用意し、授業へ毎回持ってくること。 予習、事前準備をしっかりして授業に臨むこと。 課題の提出期限は必ず守ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキスト該当箇所の予習をすること。 歌唱共通教材に親しみ、日ごろから弾き歌いの練習をしておくこと。また、リコーダーの演奏技術向上のため、演習の復習を各自ですること。 様々な音楽に触れ、幅広く音楽に関わるよう心がけること。
オフィスアワー	授業終了後30分間は対応可能
評価方法	筆記試験（５０％）　学習指導案作成と模擬授業及び授業検討会への取り組み（４０％）　実技試験及びレポート課題（１０％）
教科書	「最新　初等科音楽教育法〔改訂版〕　小学校教員養成課程用」　音楽之友社
参考書	小学校学習指導要領解説音楽編　文部科学省
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校での勤務経験あり。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（家庭）　　授業コード：5671

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 家庭科は、現在、そして未来の家庭での日常生活をより豊かに営むために設けられている教科であることを理解する。児童が、衣食住などに関する基本的な知識および基礎技能を、楽しく身につけられるよう工夫できる。また、身につけた知識と技能を発揮し、家族の一員として生活をより良くしようと積極的に取り組むための学習指導の工夫ができる。 【到達目標】 １）　実践的・体験的な授業を考案することができる。 ２）　「家庭生活と家族」「衣食住の生活」「消費生活と環境」について,それぞれの領域にまたがる総合的な考え方ができる。
授業の概要	家庭科は、実践学習をとおして問題解決のための思考学習を行うものである。この立場から、ワークシートに基づき実習や実験を行い、知識を確かなものとする。また、仕上げとして教材研究を行い、現代の家庭生活に適合したアイディア豊かな教材開発も行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス 【key words】 衣・食・住・経済（家計）　家庭生活　日常生活 【授業概要】 家庭科とは、より良い家庭生活を営むことを中心に据え、そのための衣・食・住・家庭経済における知識と技能を身につける教科であることを解説する。また、家庭科教育の意義について、家庭科の歴史・家庭科教育の性格・家庭科と他領域との関係・今日の児童と家庭科教育の視点から説明する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』を概観しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	家庭科教育の目標 【key words】 家庭　地域社会　現代家族 【授業概要】 家庭科の学習内容（家庭生活と家族・日常の食事と調理の基礎・快適な住まい・身近な消費生活と環境）を現代家族や地域社会との関係でどのように学習させるかについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】

		『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：配布資料を見ながら、家庭科教育のポイント（目標・内容）をつかんでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	家庭生活と家族　：　家族の生活と役割しらべ 【key words】 家族の生活・家族の仕事・生活時間 【授業概要】 家族のメンバーはどのような日常生活を支える仕事（家事など）をしているかを考え、自分に出来ることを発見するための話し合いを行う。その後、児童の家庭生活の実態を考えながら、授業づくりのポイントについて発表し合う。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	家庭生活と家族　：　ライフコースの作成 【key words】 ライフコース　ライフステージ　ライフサイクル 【授業概要】 ライフステージを念頭に置きながらライフコースを考え、家族のメンバーに思いを寄せる。また、老後の過ごし方についても検討し、人の一生について考える。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 6～9ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシート（ライフコース）にコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	物や金銭の使い方と買い物　：　賢い消費者になるための工夫・環境への配慮 【key words】 買ったにもかかわらず使っていないもの　金銭　買い物　欲しいもの　必要なもの 【授業概要】 購入しても使っていないものについて何故使わないのか、何故買ったのかを考える。また、欲しいものがあったら、それは必要なものかどうかを再考することにより、賢い買い物のしかたを検討する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	衣服への関心　：　衣服の形態・素材の観察 【key words】 TPO　素材　形態　色彩　暖かさ　涼しさ 【授業概要】 衣服には季節や場に合った形態・色・素材などがあることを、それぞれが持ち寄った各種の衣服を検討することにより理解する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 97～107ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：各自好きな衣服を持参する（多種多様なものが望ましい）。 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	衣服への関心　：　洗濯に関する実験 【key words】 洗濯　洗剤 【授業概要】 手洗いで洗濯の実験を行う。「家庭科概論」で学んだ界面活性剤の作用を実践して理解する。 ≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 127～135ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：「小学校教科教育生活」の植物栽培において使用した汚れた軍手（左右）を持参する。 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	生活に役立つものの製作（計画） 【key words】 家族の生活　生活に役立つ小物　手縫い 【授業概要】 家族の生活に役立つ物を手縫いで製作する。家族の生活を考えながら計画を立て、製作を始める。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：裁縫道具・製作材料などを持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　生活に役立つものの製作（実践）
【key words】
家族の生活　生活に役立つ小物　手縫い
【授業概要】
家族の生活に役立つ物を手縫いで製作する。基礎縫いの技法を用いて製作し、作品を仕上げる。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：製作品（完成品）の作り方の手順や工夫をまとめる。
授業準備指示：裁縫道具・製作材料などを持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　食事への関心　：　献立作り
【key words】
６つの基礎食品群　栄養　朝食の献立
【授業概要】
栄養のバランスを考えながら、簡単にできる朝食の献立をグループ毎に考える。その結果を発表し共有し合う。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
58～63ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：朝食にふさわしい献立を調べる（主食がパンの場合とご飯の場合の両方）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　簡単な調理　：　調理実習（計画）
【key words】
簡単な調理（ゆでる・いためる・炊く）　食材　買い物
【授業概要】
グループ毎に第10回で考えた献立の調理実習の計画を立てる。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：野菜・肉加工品・卵の値段を調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　簡単な調理　：　調理実習（実践）
【key words】
材料の洗い方　切り方　加熱　味付け　盛りつけ　準備と後片付け
【授業概要】
第11回で計画した内容を実践する。　≪グループ学習≫
また、各グループの作った料理を試食し合い、全体で反省会を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：調理実習用の身じたくを準備し、食材を購入する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　住まいへの関心　：　汚れ調べと清掃に関する実験
【key words】
汚れと場所　道具　用具
【授業概要】
どのような場所にどんな汚れがあるかを観察し、それらをきれいにするための実践活動・実験を行う。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：各家庭の清掃道具・用剤について調べる。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　住まいへの関心　：　明るさ・風通し・暖かさ（涼しさ）に関する実験・実践
【key words】
明るさ　暖かさ（涼しさ）　風通し
【授業概要】
学内の各場所に行き、明るさ・暖かさ（涼しさ）・風の通りの違いなどを調べ、それらをもとに、どうすれば快適な環境を作れるかについて考える。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　家庭生活の工夫　：　家族との団らんの工夫
【key words】
家族のメンバー　団らん　おやつ　お茶
【授業概要】
お茶を飲みながら家族と団らんするための工夫を考えるとともに、日本茶の正しい入れ方を実践

する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：日本茶に合うお茶菓子を考え持参する。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　家庭科教育の特徴をふまえた学習指導①　：　指導の形態（一斉指導・グループ学習・個別学習など）
【key words】
一斉指導　グループ学習　個別学習
【授業概要】
家庭科は、それぞれ異なる家庭背景を持つ児童を対象に実践的・体験的な学習を行う教科である。「家庭科」の各領域における指導形態別の注意事項を説明する。
第21回以降に行う模擬授業の分担を決定する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：授業で説明した内容について、教科書（『小学校わたしたちの家庭科５・６』）の各領域・単元を見て確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　家庭科教育の特徴をふまえた学習指導②　：　様々な学習指導の方法と効果的な領域
【key words】
教育方法　領域の複合
【授業概要】
さまざまな学習指導の方法と、それぞれがどの領域の学習に適しているかについて、具体例をあげて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：授業で説明した内容について、教科書（『小学校わたしたちの家庭科５・６』）の各領域・単元を見て確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　家庭科教育の学習指導計画①　：　種類と形式・年間指導計画
【key words】
学習指導の種類　年間計画
【授業概要】
各領域の内容をどのように計画的に指導するか、また複合領域の組み合わせ方について概説する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業の準備
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　家庭科教育の学習指導計画②　：　題材指導計画・時案
【key words】
題材指導計画　時案　実習・実践・実験
【授業概要】
各領域の指導計画の作成方法について解説する。
各領域において模擬授業を行うに際してのポイントを説明する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業の準備
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　家庭科教育の評価　：　目的と対象・手順など
【key words】
自己評価　相互評価
【授業概要】
実践的・体験的学習を行い、かつ家庭背景がそれぞれ異なる児童の学習成果に対しての評価のあり方について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業の準備
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　実践研究（１）　：　衣生活についての実践的・体験的学習の指導例を考え、実施する。
【key words】
衣生活　暖かい（涼しい）着方　衣服の手入れ
【授業概要】
衣生活についての実践的・体験的学習の指導例を考え、実践する。その後、ディスカッションを

		行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２２回	実践研究（２）　：　被服製作の基礎技能を楽しく身につけるための学習の指導例を考え、実施する。 【key words】 手縫い　ミシン縫い 【授業概要】 被服製作の基礎技能を楽しく身につけさせるための学習指導例を考え、実践する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。 授業準備指示：裁縫道具一式 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２３回	実践研究（３）　：　調理に関する2年間を見通しての学習計画を立案する 【key words】 買い物　価格　ゆでる・いためる・炊く　栄養　食品群 【授業概要】 調理に関する２年間を見通しての学習計画を立案するとともに指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２４回	実践研究（４）　：　体験を通して調理の基礎技能を身につけるための学習指導例を考え、実施する。 【key words】 材料の切り方　加熱　味付け　盛り付け　衛生管理　手順 【授業概要】 調理の基礎技能を、体験を通して見につけさせるための学習指導を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２５回	実践研究（５）　：　住まいや住まい方について問題解決的な学習を行うための指導例を考え、実施する。 【key words】 暖かさ（涼しさ）　明るさ・温度・風通し・騒音　清掃　整理整頓 【授業概要】 住まいや住まい方について問題解決的な学習を行うための指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２６回	実践研究（６）　：　環境に配慮した生活の工夫について体験的学習の指導例を考え、実施する。 【key words】 リサイクル　ゴミの分別　買い物　地球環境 【授業概要】 環境に配慮した生活の工夫について、体験的学習の指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２７回	実践研究（７）　：　家庭生活と家族の内容と、日常の食事・調理の基礎の内容とを関連づけた指導例を考え、実施する 【key words】 家族　だんらん　会食　仕事の分担（お手伝い）

	【授業概要】 家庭生活と家族の内容と、日常の食事と調理の基礎の内容とを関連づけた指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２８回　実践研究（８）　：　被服等の製作と、家庭生活と家族の内容を関連させた指導例を考え実施する 【key words】 手縫い　ミシン縫い　家族にとって便利な物　家族の生活 【授業概要】 布を用いた製作学習と、家庭生活と家族の内容を関連させた指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２９回　実践研究（９）　：　身近な消費生活と環境について課題意識を持たせるための指導例を考え、実施する。 【key words】 地球環境　リサイクル（再利用）　ゴミの分別　賢い消費者　本当に必要なもの 【授業概要】 身近な消費生活と環境について、問題意識を持たせるための指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書き提出。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　まとめ　：　衣・食・住・家庭経済（家計）の内容を盛り込んだ会食を企画し、実施する。 【key words】 テーブルセッティング　献立　調理　買い物　だんらん 【授業概要】 衣・食・住・家庭経済の内容を盛り込んだ会食を企画・実施する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：１年分のワークシートを整理し、まとめる。 授業準備指示：調理実習の材料を購入する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	実践活動が中心となる形態の授業なので、積極的に活動すること。ワークシート・製作品・実験レポートの提出が頻繁にあるので期限を厳守して提出するとともに、返却された提出物の管理もきちんと行うこと。また製作に関しては、教師となった際の提示見本とするつもりで作品を仕上げること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各実習に際しては、各自で材料を準備すること。日々、日常生活に関する知識と技術を身につけるようこころがけること（食事作り・家庭生活に必要な買い物・洗濯・家庭内の整理整頓や清掃などを行うこと）。
オフィスアワー	金曜日　13：00～15：00
評価方法	実践活動・発表（50%）　提出物（50%）・・・全て期限までに提出しなかったものは受け付けない。また、返却されたワークシート・配布された印刷物等は1冊のファイルにまとめること（指定された日時に提出）。
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領家庭編』　／　ワークシートを配布 『わたしたちの家庭科５・６』開隆堂、2016年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション

	■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　初等教育実習事前・事後指導　　授業コード：5702

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(90)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 教育実習の準備、実施、省察を行い、「実践的指導力」を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の詳細を理解することができる。 ②教育実習後の報告会を通して、教育実習の省察することができる。
授業の概要	1　現場での学習指導、生活指導、学級経営の実際について学ぶ。 2　模擬授業、授業研究等、自己課題について互いに学び合うことができる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、教育実習の理解（実習の心構え、事務手続き、実習録のファイル作成・記入方法） 【key words】 教育実習の心構え、実習書類 【授業概要】 ①実習の心構えについて、「実習へのガイドブック」を用いて理解する（特にＳＮＳ、体罰、守秘義務）。 ②オリエンテーション日程の決定、実習校への提出書類、実習手続きを確実に行うことを理解する。 ③教員採用試験の志望受験自治体、大学推薦希望有無及び希望自治体について決定し、志願書を書き始める。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」 ○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○実習校の実態について調べ、実習録に記入できるところは記入すること。受験自治体の志願書の下書きをすること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	教育実習の理解と手続き①（諸注意【特にSNS、体罰、守秘義務】、実習計画、事前打ち合わせ日の決定、実習録の記入１） 【key words】

教育実習の事務手続き、オリエンテーション、実習録

【授業概要】
①オリエンテーション内容の確認、実習計画書作成、誓約書等の実習手続きを確実に行う。
②教員採用試験の志願手続きを理解し、実際に書類を作成する。
③受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は教員と共に提出書類を作成する。
④実習録を作成し、記入できる部分は記入する。実習校への送付書類の袋詰めを行い、送付する。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○実習校の実態の詳細について調べること、受験自治体志願に向け試験要項の熟読、書類作成、実習校のオリテン日時を決定すること、実習録で書ける場所は書くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　教育実習の理解と手続き②（参観授業、授業実践、研究授業の方法、三種の挨拶【職員室で、全校の前で、配属学級で】）
【key words】

実習録の記入、参観授業、授業実践、研究授業

【授業概要】
①学長先生、学部長先生より、実習前の訓話・講話をいただく。
②授業実施時数、巡回指導、授業参観記録、お礼状の書き方を理解する。
③三種の挨拶（職員室で、全校児童の前で、配属学級の前で）について学ぶ。
④小論文の書き方の復習をする。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○受験自治体志願に向け試験要項の熟読、書類作成を指示。また、小論文を次週までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第４回　教育実習の理解と手続き③（実習校の理解：事前に調べておき、実習録該当ページに記入する。）
【key words】

実習校の理解

【授業概要】
①実習録の書けるページの記入をする。（１～６頁、実習校の概況、教育実習の予定）
②ホームページ等を用い、実習校の理解、地域の理解を図る。
③受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は教員と共に提出書類を作成する。
④オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○実習校周辺の地域の実態について調べること、受験自治体合格に向けての学修を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第５回　教育実習の理解と手続き④（児童・先生方への対応、休み時間や給食の対応、事前打ち合わせの報告１）
【key words】

教育実習の心得、コミュニケーション力

【授業概要】
①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の心得について学ぶ。
②児童・先生方への対応、コミュニケーションについて学ぶ。
③面接練習をする。
④受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は教員と共に提出書類を作成する。
⑤オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○過去に出された教員採用試験論文問題を書くこと、面接問題の回答を「面接ノート」にまとめること。
【予習復習に必要な想定時間】
270分

第６回　教育実習の理解と手続き⑤（実習録の記入２、お礼状の書き方、事前打ち合わせの報告２）
【key words】

教育実習の心得、実習録

【授業概要】
①オリエンテーションについて学生同士で情報交換をし、本実習に生かすようにする。
②実習録の６頁以降の書き方を学ぶ。
③受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は教員と共に提出書類を作成する。
④オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○教職教養の過去問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　教育実習の理解と手続き⑥（褒め方・叱り方、朝の会・帰りの会、事前打ち合わせの報告３）
【key words】

実習トラブル、朝の会・帰りの会

【授業概要】
①実習におけるトラブルの対応について学ぶ。
②教員採用試験面接試験の問題（例　学校での様々なトラブル）について考える。
③受験自治体の過去問題を解く。
④オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○専門教養の過去問題を解くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　教育実習の理解と手続き⑦（トラブルの対応、特別支援教育、事前打ち合わせの報告４）
【key words】

褒め方・叱り方

【授業概要】
①実習を行った先輩の褒め方・叱り方から学ぶ。
②実際に褒め方・叱り方のロールプレイングを行い、よい点・課題を自覚する。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○面接についての自己課題のレポートをまとめること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　教育実習報告会その１（教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと）
【key words】

報告会、自己省察

【授業概要】
①一人ずつ報告をし、全体で協議する。
②特に協議では、友達のよい実践を学んだり、問題点を全員で解決したりする。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○お礼状を書き、実習校に送付（実習後１週間以内）、受験自治体合格に向け、試験勉強をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１０回　教育実習報告会その２（教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと）
【key words】

報告会、自己省察

【授業概要】
①一人ずつ報告をし、全体で協議する。
②特に協議では、友達のよい実践を学んだり、問題点を全員で解決したりする。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○お礼状を書き、実習校に送付（実習後１週間以内）、受験自治体合格に向け、試験勉強をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１１回　教育実習報告会その３（教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと）
【key words】

報告会、自己省察

【授業概要】
①一人ずつ報告をし、全体で協議する。
②特に協議では、友達のよい実践を学んだり、問題点を全員で解決したりする。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「教員採用試験第一次試験受験報告書」を書き、コピー２部を提出。
【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　教育実習のため授業はなし
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　教育実習のため授業はなし
【key words】
【key words】

【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示
【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　教育実習のため授業はなし
【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　　教育実習のため授業はなし 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業で配布する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしてください。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・欠席・遅刻・早退は必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	・教育実習報告会（30%）、ミニテスト（50%）、授業中への取り組み（20%）
教科書	・群馬医療福祉大学：「実習へのガイドブック」2012年
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任及び教務主任、教育実習生の指導教員として指導等を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の教員の全般的な授業の指導を行った。それらの経験を活かし、教育実習生の事前事後指導を具体的かつ実践的に行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（小学校）　　授業コード：5731

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
20日間	4年次	4単位(160)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習を通して得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。 〔到達目標〕 １　小学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、実習指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知識・技能を修得することができる。 ２　教科指導や生活指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養うことができる。 ３　「実習へのガイドブック」を活用し、自ら実習準備やまとめができるようにする。
授業の概要	１　実習校での実習方針や実習計画に則り、実習を実施する。 ２　実習１週目の３日目位までは、「授業観察」「授業参加」を行う ３　学習指導は、全教科等を対象とし、実習担当教員との相談により決定する。 ４　「授業実習」と「研究授業」の合計７時間以上を行う。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（管理職の講話、観察が中心） 【key words】 実習計画、実態把握 【授業概要】 ○第１週 　実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。地域や実習校、特に配属学級の実態把握や授業参観をし、次週以降の授業実習に備える。実習録は、丁寧かつ正確に記録し、実習担当教員に提出し、指導を仰ぐ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（他学年・領域の観察、朝の会・帰りの会、教科の授業実習が中心） 【key words】 学級経営、学習指導案、授業実習 【授業概要】 ○第２週

		朝の会、帰りの会、清掃、クラブ活動、委員会活動などの実践指導をする。また、実習校での学習指導案の形式を確認し、学習指導案の立案を始める。さらに、国語・算数等の授業実習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（研究授業の準備、教科・領域の授業実習が中心） 【key words】 授業実践、研究授業、学級経営 【授業概要】 ○第３週 本学実習規定に則り、授業実践を６時間行う。 学級経営や学級事務について、実習担当教員の指導を受けながら、行う。 研究授業に向け、学習指導案を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（研究授業の実施と反省、実習録のまとめが中心） 【key words】 ○第４週 研究授業、授業研究会、実習録整理、お礼状 【授業概要】 ○第４週 総まとめとして、研究授業の実施、授業研究会を開いていただき、実習担当教員以外の管理職や大学巡回 指導教員の指導を仰ぐ。実習録を期日までに提出し、指導をいただく。実習録の受け取り方法についても、　きちんと確認する。お礼状を適切な時期に出す。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	１　教育実習に参加する要件を備えていること。 ２　事前ガイダンスの受講および「小学校教育実習録」の提出を必須とする。 ３　本学指導教員及び実習校指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことができない。 ４　実習中、不適切な言動があった場合、直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	教育実習録
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	実習校の評価（50%）、実習報告会（30%）、「教育実習録」の評価（20%）

教科書	・群馬医療福祉大学：「実習へのガイドブック」2012年
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任及び教務主任、教育実習生の指導教員として指導等を20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員の全般的な授業の指導を行った。それらの経験を活かし、実習校・実習生との連絡を密にし、教育実習をみのりあるものとしたい。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神保健の課題と支援　　授業コード：7003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】こころと社会について深い関心を持ち、主体的に学習を続け基本知識を理解させる。 【到達目標】ライフサイクルで見る精神保健学の視点を理解させる。精神保健の個別課題への取り組みと実際について理解させる。
授業の概要	精神保健を縦軸（ライフサイクル）　と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ、現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　講義の進め方 【key words】 ライフサイクル 【授業概要】 昔は異常心理学と重なっていた。 今は精神保健・メンタルヘルスと呼び、切り口がライフサイクルになっている。 メンタルヘルスの啓発講話を実際に体験してもらい精神保健の理解を深める。 ※　海馬 【教科書ページ・参考文献】 １P～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	精神保健とは？メンタルヘルスの予防とは？ 【key words】 カプランさん 【授業概要】 精神保健とは？健康とは？ カプランの第一次予防、第二次予防、第三次予防を理解する。 ※ウエルビーン。ヘルスプロモーション 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	ライフサイクルと精神保健 【key words】 ウェルビーン 【授業概要】 WHOの健康の定義。

		疾病性、事例性を理解する。 腕のいい医者は疾病化させない。腕のいいワーカーは事例化させない。 ※スピリチュアルな健康も忘れない。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	これまでの精神保健教育 【key words】 学校精神保健 【授業概要】 精神疾患についての捉え方、学校保健教育の問題。 人生の節目（ライフサイクル）、ここに目を向ける。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	学童期前、学童期・青年期の精神保健 【key words】 思春期とドーパミン 【授業概要】 エリクソンの発達課題から教科書に従って。 【教科書ページ・参考文献】 教科書17～28P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	モンスターペアレントを精神保健で見ると 【key words】 家族は怖くない 【授業概要】 クライマー、モンスターペアレントはどこにもいる。 ※キーワードは罪悪感！ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	不登校・いじめ 【key words】 登校刺激は意味がない 【授業概要】 引きこもりの悪循環。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	虐待とその背景 【key words】 境界性パーソナリティ障害と虐待 【授業概要】 暴力の連鎖、NHKの教育番組から。斉藤学の調査。 精神疾患との関連。境界性人格障害、解離性障害　…等。 ※精神医学の教科書をひも解く。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	成人の精神保健 【key words】 うつ病の人格特性 【授業概要】 成人期の危機。職場、家庭での新たな精神保健課題。 ※うつ病 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　アルコール関連問題・薬物乱用について
【key words】
嗜癖とは？
【授業概要】
依存と乱用の区別、違い。

【教科書ページ・参考文献】
教科書107～121P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　高齢者の精神保健
【key words】
薬の誕生
【授業概要】
認知症対策を中心に。

※二つの失語。

教科書61～69P、82～92P
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　精神保健福祉法の成立と精神保健
【key words】
精神保健医療福祉の改革ビジョン
【授業概要】
精神障害者対策。
パラダイムの転換。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　精神保健福祉の歴史
【key words】
時代の変化
【授業概要】
新しい取り組み、精神保健医療福祉の改革ビジョン。
ストレス－脆弱性モデルを正確に理解し、精神保健福祉と精神科医療の実際を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　学校精神保健
【key words】
個人と集団の違い
【授業概要】
犯罪の低年齢化は本当か？
非行の二つのタイプ。家庭裁判所の調査報告を基に。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　DALYと精神保健
【key words】
DALY
【授業概要】
疾病調整生命年（DALY)を知る。
新しい精神保健の捉え方。

※21世紀はメンタルヘルスの時代。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　精神保健を精神病理から見る
【key words】
正常・異常
【授業概要】
異常とは？

量的異常と質的異常。では病的とは？

※清風堂書店「精神保健学」から
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　西のゲール、東の岩倉
【key words】
障害者を地域が支える。
【授業概要】
ベルギーゲールの取り組み。伝説と家庭看護の実際の取り組み。
日本では京都、岩倉の実際。

※スピリチュアルの世界。スピリチュアルな健康！
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　記憶の異常
【key words】
記憶、知能、認知
【授業概要】
前期、認知症の単元を復習。神経伝達物質、ドーパミン、セロトニンだけでなくアセチルコリンも。
大脳中枢神経について精神医学の教科書から。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　知能・　知覚の異常
【key words】
感覚、知覚
【授業概要】
幻覚としての幻聴、幻視の違い。

※精神医学をひも解く。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　感情の異常
【key words】
不安も感情の障害
【授業概要】
気分障害と感情の異常。
抑うつ、不安、パニックも感情の障害。
パニック障害を正確に知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　不眠と精神保健
【key words】
レム睡眠、ノンレム睡眠
【授業概要】
不眠のメカニズム。時差ボケがどうして起こるか？
うつ病の不眠。入眠導入剤。新たに非ベンゾジアゼピン系も出た。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　精神障害者の現状
【key words】
復習を兼ねて！
【授業概要】
平成25年精神保健福祉法の改正で「退院後生活環境相談員」が誕生。
そして地域移行が加速化。

※精神障害者制度改革
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　障害者総合支援法

【key words】
精神保健福祉法や医療法と組めるのか？

【授業概要】
教科書のポイントから総合支援法を押さえる。

【教科書ページ・参考文献】
教科書238P～。136P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　医療観察法、更生保護法
【key words】
CPAやケース会議の区別
【授業概要】
ソーシャルワークとプロベーションの違い。
更生保護制度を絡めて。

【教科書ページ・参考文献】
教科書149～164P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　精神保健関連法
【key words】
保健所の業務
【授業概要】
地域精神保健の実際と課題。
生活臨床も忘れずに！
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　世界の精神保健
【key words】
国連総会、WHO
【授業概要】
DALYをもう一度。アルコール関連問題での社会的損出をについても扱う。

※国連やWHOの新しい取り組み。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　緩和ケアと精神保健
【key words】
在宅でターミナルケア
【授業概要】
これまでのターミナルケアからの転換。

【教科書ページ・参考文献】
教科書164～179P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２８回　精神保健学の新しい取り組みと調査研究。
【key words】
調査研究
【授業概要】
国際調査研究。参与観察からトライアングレーション。

※プログラム研究とフディリティ尺度。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２９回　精神保健分野における精神保健福祉士の役割
【key words】
司法ソーシャルワーク
【授業概要】
教科書に従って。

※スクールソーシャルワーク、スクールカウンセリング。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　　精神保健の課題と支援を学んで 【key words】 1年間のまとめ。 【授業概要】 1年間のまとめ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　　精神保健学　　精神保健の課題と支援
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、30年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施。他、医局勉強会において医師、SW,CPを対象にSSTトレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神疾患とその治療　　授業コード： 7006

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
重田　理佐			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉士の仕事を行う基礎となる精神医学の知識を身につける。 【到達目標】 １、精神医学、医療の歴史と現状について理解する。 ２、脳及び神経の生理、解剖の基礎の理解。 ３、精神医学の概念、診断の基本について理解する。 ４、代表的な精神障害について理解する。 ５、精神障害の治療の概要について理解する。 ６、病院精神医療について理解する。 ７、司法精神医学、産業精神医学、学校精神保健について理解する。
授業の概要	精神科病院の勤務医としての臨床経験を伝えながら精神保健福祉士の仕事の基礎となる精神医学の知識を習得出来るよう援助する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　授業オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　精神医学、精神医療の歴史 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　精神現象の生物学的基礎 【key words】 【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　精神医学の概念

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　精神疾患の症状と診断１

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　精神疾患の症状と診断２

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　精神科検査法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　器質性精神障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　精神作用物質使用による精神及び行動の障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　統合失調症１

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　統合失調症２

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　気分障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　気分障害２

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　神経昇氏江障害１

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　神経症性障害２、摂食障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　パーソナリティ障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　知的障害、発達障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　精神科薬物療法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　電気けいれん療法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　精神療法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　作業療法、リハビリテーション

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　精神医療の現在

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　医療観察法、私法精神医学

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　精神科救急

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　産業精神医学

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　学校精神保健

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　　復習１ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　　復習２ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　　復習３ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	予習復習を行う。積極的な授業への参加、質問を行うことが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	前期末にレポート課題を行い、後期末に筆記試験を行う。筆記試験により評価を行う。
教科書	新・精神保健福祉士養成講座１　精神疾患とその治療　中央法規
参考書	講義のなかで適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院の勤務医 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神保健福祉援助実習指導Ⅱ　　授業コード：7008

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解をとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にし、精神保健福祉士として援助できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。 ②実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。 ③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人を理解し、受容できるようになる。 ④精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立する。
授業の概要	実習計画書の作成をとおして精神保健福祉援助実習についての理解を深め、実習後のグループワークをとおした振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	講義オリエンテーションおよび精神保健福祉援助実習に向けての心構え 【key words】 ・オリエンテーション，精神保健福祉援助実習 【授業概要】 【授業概要】 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰでこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 ・精神保健福祉援助実習について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p2-p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「精神保健福祉援助実習」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	精神保健福祉現場実習について　配属施設の決定 【key words】 ・精神保健福祉援助実習 【授業概要】 ・各自の配属先施設について伝える。 ・実習に向けて作成する各書類と作成におけるポイントについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】

60～120分
第３回　自己紹介表の作成①　自己紹介表の意義と目的および作成
【key words】
・自己紹介表
【授業概要】
・自己紹介表の意義や目的について説明する。
・グループディスカッションを通して検討することで、自己紹介表を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに自己紹介表を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分
第４回　自己紹介表の作成②　自己紹介表の作成
【key words】
・自己紹介表
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、自己紹介表を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに自己紹介表を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分
第５回　実習計画書の作成①　実習先施設の情報収集および概要書の作成
【key words】
・実習機関・施設の概要
【授業概要】
・実習機関・施設の概要を整理することの意義や目的について説明する。
・グループディスカッションを通して検討することで、実習機関・施設の概要を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
・p53-p63
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p14-p17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。
・各自、自分なりに実習機関・施設の概要を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分
第６回　実習計画書の作成②　実習先施設の情報収集および概要書の作成
【key words】
・実習機関・施設の概要
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習機関・施設の概要を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
・p53-p63
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p14-p17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習機関・施設の概要を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分
第７回　実習計画書の作成③　実習先施設の情報収集および概要書の作成
【key words】
・実習計画書
【授業概要】
・実習計画書を作成することの意義や目的について説明する。
・グループディスカッションを通して検討することで、実習計画書を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
・p53-p63
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p18-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。
・各自、自分なりに実習計画書を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分
第８回　実習計画書の作成④　実習先施設の情報収集および概要書の作成
【key words】
・実習計画書
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習計画書を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
・p53-p63
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p18-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習計画書を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分
第９回　現場実習に係わる留意事項①　守秘義務および契約・契約書
【key words】
・守秘義務，契約書
【授業概要】
・精神保健福祉士の倫理綱領について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、実習生としての守秘義務について理解を

深める。
・誓約書を作成する（印鑑持参）。
【教科書ページ・参考文献】
・p69-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「実習に向けての心構え」について予習をしておく。
・誓約書を作成するので、印鑑を持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　現場実習に係わる留意事項②　卒業生講話
【key words】
・卒業生講話
【授業概要】
・卒業生の講話を聞き、精神保健福祉士の仕事や精神保健福祉援助実習について具体的に理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・卒業生講話に向けて、質問したいことなどを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　実習記録・日誌の記述方法①
【key words】
・実習記録・日誌
【授業概要】
・実習記録・日誌の意義や目的について説明する。
・事例を読み、実際に実習記録を作成してみることによって、実習記録・日誌の書き方について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
・p79-p88
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p38-p61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「実習記録・実習日誌」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　実習記録・日誌の記述方法②
【key words】
・実習記録・日誌
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習記録・日誌の目的や書き方について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・p79-p88
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p38-p61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習記録・日誌を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　実習先への事前訪問について
【key words】
・事前訪問
【授業概要】
・事前訪問の目的について説明する。
・グループディスカッションを通して検討することで、事前訪問の目的や確認すべき内容について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・p64-p68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「事前訪問」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　自らの課題検討
【key words】
・課題
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習に向けての自らの課題を明らかにし、その対応について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、実習に向けて不安なことなどを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　前期のまとめ
【key words】
・まとめ
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習に向けての自らの課題を明らかにし、その対応について理解を深める。
・実習に向けての最終確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、実習に向けて不安などを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第16回　後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション
【key words】
・オリエンテーション
【授業概要】
・精神保健福祉援助実習で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。
・後期における本科目の授業内容について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「事後学習」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第17回　配属実習の振り返り①　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第18回　配属実習の振り返り②　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第19回　配属実習の振り返り③　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第20回　配属実習の振り返り④　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第21回　配属実習の振り返り⑤　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第22回　配属実習の振り返り⑥　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第23回　配属実習の振り返り⑦　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第24回　配属実習の振り返り⑧　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第25回　配属実習の振り返り⑨　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第26回　実習報告会①
【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第27回　実習報告会②
【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第28回　実習報告会③
【key words】

	・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第29回　振り返りと今後の課題 【key words】 ・振り返り，今後の課題 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、各自が専門職として今後どのような課題に向き合うべきかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第30回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、今後向けての講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況を含む）35%。 ③課題レポート　40%。
教科書	新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習　第2版」日本精神保健福祉士養成校協会　編集　中央法規出版　2015／「実習へのガイドブック（学生用）」群馬医療福祉大学　2015／「実習生必携　ソーシャルワーク実習ノート　第2版」杉本浩章・田中和彦　みらい　2015
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）

	□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉援助演習（専門）　　授業コード：7012

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。 【到達目標】 ①基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。 ②精神障害者の生活や生活上の困難について把握することができる。 ③精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術を習得する。 ④専門的技術を概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。
授業の概要	精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。尚、授業のなかでは総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげるとともに、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とした演習形態の授業を行うこととする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	前期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・精神保健福祉援助演習（基礎）でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・精神保健福祉援助演習（基礎）で学習してきた内容について復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	セルフヘルプグループについて理解する 【key words】 ・セルフヘルプグループ，ヘルパーセラピー原則，非専門性 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションによる検討を通して検討することで、セルフヘルプグループの役割などを理解する。 ・セルフヘルプグループの成り立ちや役割、専門職との関係について解説する。 【教科書ページ・参考文献】

・p312-p316
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「セルフヘルプグループ」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　ピアサポートについて理解する
【key words】
・ピアサポート，ピアサポーターのバウンダリー，ピアサポーターのヒエラルキー
【授業概要】
・ピアサポートについて解説する。
・「WRAPその魂に触れる」というDVDを鑑賞し、WRAPの実際からピアサポートに期待される要因について理解する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ピアサポートの必要性などを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p317-p321
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ピアサポート」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　自死遺族に対する支援について理解する
【key words】
・ソーシャルワークのグローバル定義，自死遺族への支援，グリーフワーク・グリーフケア
【授業概要】
・ソーシャルワークのグローバル定義について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルワーカーとしての自死遺族への支援について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p327-p331
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「自死遺族に対する支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　地域との連携について理解する
【key words】
・地域住民，ボランティア
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、地域住民が主体となる精神保健福祉の推進について考察する。
・地域住民が主体となる精神保健福祉の推進における精神保健福祉士の役割について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p332-p336
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「地域との連携」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　薬物事犯者の更正保護について理解する
【key words】
・保護観察所，社会復帰調整官，薬物依存，ダルク（自助グループ）
【授業概要】
・更生保護の目的や保護観察所について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、覚せい剤使用の影響や必要な支援について考察する。
・薬物事犯者の更生保護における自助グループや精神保健福祉士の役割について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p337-p343
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「薬物事犯者の更生保護」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　発達障害のある子ども・若者の支援について理解する
【key words】
・発達障害，ライフステージ，教育現場との連携
【授業概要】
・「発達障害へのアプローチ」および「発達障害の理解と支援」というDVDを鑑賞し、発達障害の特徴について理解する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、発達障害のある子ども・若者の支援について考察する。
・発達障害のある子ども・若者の支援について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p344-p348
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「発達障害のある子ども・若者の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　うつ病性障害（うつ病）の成人の支援について理解する
【key words】
・うつ病性障害（うつ病），自殺のリスク，家族への支援
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、うつ病性障害（うつ病）の成人の支援について考察する。
・うつ病性障害（うつ病）支援や家族支援について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p384-p388
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「うつ病性障害（うつ病）の成人の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　ひきこもりの若者の支援について理解する
【key words】
・ひきこもり，家族への支援，社会資源
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ひきこもりの若者の支援について理解する。
・ひきこもりの若者の支援について解説する。
※ 可能であれば、ゲストスピーカーによる講話を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p369-p373
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ひきこもりの若者の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　アルコール依存症の成人の支援について理解する
【key words】
・アルコール依存症，自助グループ（断酒会）
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アルコール依存症の成人の支援について考察する。
・断酒会を含んだ、アルコール依存症の成人の支援について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p379-p383
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「アルコール依存症の成人の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　相談援助場面を想定した実技指導①　インテーク
【key words】
・インテーク（受理面接）
【授業概要】
・インテーク（受理面接）の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、ロールプレイを通して検討することでインテーク（受理面接）の実際を理解する。
・インテーク（受理面接）のポイントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p124-p128
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「インテーク（受理面接）」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　相談援助場面を想定した実技指導②　アセスメント
【key words】
・アセスメント
【授業概要】
・アセスメントの目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アセスメントの実際について理解する。
・アセスメントのポイントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p129-p133
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「アセスメント」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　相談援助場面を想定した実技指導③　プランニング
【key words】
・プランニング（支援計画の作成）
【授業概要】
・プランニング（支援計画の作成）の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、プランニング（支援計画の作成）の実際について理解する。
・プランニング（支援計画の作成）のポイントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p134-p138
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「プランニング（支援計画の作成）」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　相談援助場面を想定した実技指導④　モニタリングおよび評価
【key words】
・モニタリング，評価
【授業概要】
・モニタリング及び評価の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、モニタリング及び評価の実際について理解する。

・モニタリング及び評価のポイントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p139-p148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「モニタリング及び評価」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　前期のまとめ
【key words】
・まとめ
【授業概要】
・前期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・これまでの授業を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第16回　後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション
【key words】
・オリエンテーション
【授業概要】
・前期の授業で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。
・後期における本科目の授業内容について説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・前期の授業内容を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第17回　配属実習の振り返り①　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第18回　配属実習の振り返り②　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第19回　配属実習の振り返り③　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第20回　配属実習の振り返り④　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

60～120分

第21回　配属実習の振り返り⑤　実習報告書の作成

【key words】
・実習報告書
【授業概要】
・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第22回　配属実習の振り返り⑥　実習報告書の作成

【key words】
・実習報告書
【授業概要】
・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第23回　配属実習の振り返り⑦　実習報告書の作成

【key words】
・実習報告書
【授業概要】
・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第24回　配属実習の振り返り⑧　実習報告会の準備

【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第25回　配属実習の振り返り⑨　実習報告会の準備

【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第26回　配属実習の振り返り⑩　実習報告会の準備

【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第27回　実習報告会①

【key words】
・実習報告会
【授業概要】
・実習報告会の目的や方法について説明する。
・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第28回　実習報告会② 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第29回　振り返りと今後の課題 【key words】 ・振り返り，今後の課題 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、各自が専門職として今後どのような課題に向き合うべきかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第３０回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、今後向けての講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表およびグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況含む）40%。 ③定期試験または課題レポート35%。
教科書	新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）第2版」日本精神保健福祉養成校協会　編集　中央法規出版　2016
参考書	Rapp, C. A. and Goscha, R. J.(2012) The Strengths Model:A Recovery-Oriented Approach to Mental Health Services, Third Edition, New York: Oxford University Press.（＝2014, 田中英樹監訳『ストレングスモデル―リカバリー志向の精神保健福祉サービス[第3版]金剛出版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない

	情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神障害者の生活支援システム　　授業コード： 7015

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】精神障害者の生活支援、相談支援、居住支援、雇用・就労支援を精神保健福祉士のかかわりから学ぶ。 【到達目標】地域生活支援と相談支援援助に焦点を当て事例を重ね実戦的なソーシャルワークを学ぶ。
授業の概要	これまでの精神保健福祉士養成科目の総まとめ。精神障害者の地域生活支援に焦点をあて「意義」と「特徴」について学ぶ。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション　講義の進め方 【key words】 精神保健福祉士と精神保健福祉。 【授業概要】 授業の進め方とパラダイムシフトについて。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　精神障害者の概念 【key words】 アンチスティグマ。 【授業概要】 オープンドアからオープン・ザ　ドア ICFとアンチスティグマ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1～26P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　パラダイムの転換とピア活動 【key words】 パラダイムの転換の歴史

【授業概要】
支援関係の転換。
地域移行・地域定着とピア活動
【教科書ページ・参考文献】
教科書26～46P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　精神障害者の生活実態
【key words】
患者調査と東日本大震災

【授業概要】
教科書に従い
内閣府の障害者白書、患者調査。
【教科書ページ・参考文献】
教科書51～60P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　居住支援
【key words】
ケア付きかケア無し。

【授業概要】
宿所提供
ケアホーム、グループホームの一元化。ほか
【教科書ページ・参考文献】
教科書135P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　障害者雇用
【key words】
WHOの定義

【授業概要】
教科書に従う。

障害者雇用と職業リハビリテーション。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
※体験グループの開始
【予習復習に必要な想定時間】
第７回　作業療法と就労支援
【key words】
「職業レディネス」。

【授業概要】
ソーシャルワークと障害者雇用。
【教科書ページ・参考文献】
教科書174～190P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　ストレングスモデル、ＩＰＳの考え方
【key words】

ACT、IPS

【授業概要】
脱施設化による地域移行とクライシス。
対応するクライシスシステム。
【教科書ページ・参考文献】
教科書113P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　障害者の自立と社会参加のための生活支援システム
【key words】
新しい支援、自助グループ

【授業概要】

障害者のための生活支援システム。
コープランドと仲間たちによるケア。

※WRAPによるケアシステム。

【教科書ページ・参考文献】
教科書57P,120P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　社会療法のための病院機構
【key words】
社会療法と治療共同体

【授業概要】
社会療法のための病院機構いわゆる精神科病院が本来あるべき姿を見直す。

社会学的視点。クラーク・Dの著書を読みあう。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
プリント配布
【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　退院時訪問指導と地域移行
【key words】
イギリスでの始まり
【授業概要】
コミュニティーミーティングのルール。
自我志向の発言、「私」を主語にした発言。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　新しい精神科医療の流れ
【key words】
人間図書館
【授業概要】
新しい役割とグループワーク。
①退院後生活環境相談員の仕事。
②英国の新しい取り組み。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　福祉的就労
【key words】
自由と責任
【授業概要】
医療機関でのグループ、福祉サービス事業所でのグループ。

※発言の自由。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　行政による相談支援
【key words】
ストレングスモデル
【授業概要】
精神保健福祉センター。保健所活動。
引きこもりの青年にミーティング。
ミーティングは人を育て、成長させる。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　世界の退院促進の流れに遅れない
【key words】
のぞえ式の紹介
【授業概要】
精神科スーパー救急。
入院は3か月以内。精神保健福祉士は病棟に2名以上。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	（注意）中央法規出版　　精神障害者の生活支援システム
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、３０年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施。他、医局勉強会において医師、SW、CPを対象にSST トレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神保健福祉援助実習　　授業コード：7021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	4単位(180)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①精神保健福祉援助実習をとおして、精神疾患を抱えている利用者の理解を深め、精神疾患を抱えて生活することを具体的に理解・把握し、援助実践の具体的技術を体得する。 ②精神保健福祉士として求められる資質、倫理を理解し、精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立するための自己理解につなげる課題把握および総合的に対応できる能力を習得する。 ③精神保健福祉士と関連分野の専門職との連携のあり方および具体的内容を実践的に理解する。
授業の概要	実習は4年次において大学の指定および実習受入れ機関の指定する期間にて実施する。実習は23日間以上かつ210時間（相談援助実習履修者は180時間）（休憩時間を除く総実習時間）とする。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回

		【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第10回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第11回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第12回	【key words】

	第13回 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 第14回 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】 第15回 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 【key words】
受講生に関わる情報および受講のルール	（実習履修資格者） 本学における実習履修者資格は原則として「精神保健福祉法」に定める「精神保健福祉士」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げる者とする。 ①将来、精神保健福祉士として精神保健福祉現場で働く意思を強くもっている者。 ②精神保健福祉の学習および実践に対しての熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認められる者。 ③精神保健福祉士国家試験の受験に必要な科目の単位を取得または、取得見込みのある者。 ④「精神保健福祉援助演習基礎・専門」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「総合演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得または、取得見込みのある者。 ⑤実習先機関事前見学実習に出席し、レポート課題を提出している者。 ⑥実習に関する書類等を提出期限内に提出している者。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	（実習上の注意） ①実習へのガイドブック（学生用）学校法人昌賢学園　最新版を参照し、遵守すること。 ②精神保健福祉援助実習の教科書を熟読し、精神保健福祉援助演習および精神保健福祉各科目を充分に事前学習すること。 ③群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準、群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準細則を熟読すること。
オフィスアワー	授業のなかで説明する。
評価方法	①実習機関における実習評価を基準に、実習担当教員による総合評価（40%） ②巡回および帰学日および実習中の指導状況と実習態度（15%） ③実習記録（10%） ④実習後の振り返りをとおした実習報告会を含めた実習のまとめ（10%） ⑤実習報告書（10%） 注意１：実習終了後、提出物等が未提出の場合は実習の単位を認定しない。 注意２：精神保健福祉援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において取得できない場合は実習の単位を認定しない。
教科書	授業のなかで適宜紹介する。
参考書	授業のなかで適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅳ　　授業コード：8007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹・川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉特講Ⅲで学習したことを基礎とし、社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。 【到達目標】 ①自身の学習状況を振り返り、国家試験受験に向けた学習内容を明確にする。 ②解説や回答演習を通して、個々の学習方法を習慣化する。 ③月例テストや各階の回答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。
授業の概要	社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習する。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション
	第２回	人体の構造と機能及び疾病
	第３回	月例テスト
	第４回	心理学理論と心理的支援
	第５回	社会理論と社会システム
	第６回	月例テスト
	第７回	現代社会と福祉
	第８回	地域福祉の理論と方法
	第９回	福祉行財政と福祉計画
	第１０回	月例テスト

	第１１回　　社会保障 第１２回　　低所得者に対する支援と生活保護制度 第１３回　　保健医療サービス 第１４回　　権利擁護と成年後見制度 第１５回　　月例テスト 第１６回　　社会調査の基礎 第１７回　　相談援助の基礎と専門職 第１８回　　相談援助の理論と方法 第１９回　　月例テスト 第２０回　　福祉サービスの組織と経営 第２１回　　高齢者に対する支援と介護保険制度 第２２回　　障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第２３回　　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第２４回　　月例テスト 第２５回　　就労支援サービス 第２６回　　更正保護制度 第２７回　　月例テスト 第２８回　　重要項目解説 第２９回　　重要項目解説 第３０回　　重要項目解説
受講生に関わる情報および受講のルール	自分自身での学習が大切となるため、毎日の積み重ねをすること 各国家試験対策委員が行なう試験対策グループのいずれかに必ず参加すること 過去3年分の国家試験問題の解答・解説を読んでおくこと 模擬試験や国家試験の案内を行うため聞き逃さないようにすること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	個人での学習とグループ学習を併用し学習へのモチベーションを維持していくこと。
オフィスアワー	0
評価方法	試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。
教科書	新・社会福祉士養成講座21　資料編　中央法規出版
参考書	医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、（最新版）　その他自分にあった参考書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　□ディスカッション・ディベート

	□グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教職対策講座Ⅱ　　授業コード：8014

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	–	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　全国の自治体で実施される教員採用試験に備え、願書の書き方、自己アピール文・小論文の作成、面接試験対策を行う。一般教養、教職教養、専門教養の直前予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験合格を目指す。 [到達目標] １　願書、自己アピール文、小論文の作成ができる。 ２　各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。 ３　面接試験対策を通して、将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。
授業の概要	１　３年次の後期から開講している教職対策講座Ⅰを教職教養、専門教養を中心に継続して行う。 ２　外部講師を招くなどして、面接試験対策を強化する。 ３　願書の書きかた、小論文の書きかた、面接試験対策を行い、教員採用試験合格に向けて取り組む。 ４　学内模擬試験を実施する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP）との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明　教員採用試験対策　教員採用試験の概要説明 【key words】 教員採用試験、願書 【授業概要】 【受講にあたり】 ※教員免許状取得希望者の必須科目である。 1　授業の進捗状況により各回の内容に変更が生じる場合がある。随時、その旨を確認しながら進めていくことを了承願いたい。 2　予習・復習の内容についても同様である。 3　以下のテキストを使用する。予習・復習に関しては、その回毎に指示する。 ①文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示）』 ②東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版 ③時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』 4　予習･復習用のノートを用意すること。 【授業概要】教員採用試験の概要説明　※希望する自治体の願書を持参すること。 次回以降、授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する。範囲は予めメール等で周知する。 【教科書ページ・参考文献】 希望する自治体の願書 【課題・予習・復習・授業準備指示】

時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号の願書の書き方を読んでおくこと。
次回の授業時に持参すること。希望する自治体の願書を作成し、次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２回　願書の書き方
【key words】
志望動機、求める教師像
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・希望する自治体の願書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
希望自治体の願書を作成、次回持参すること。
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号の願書の書き方を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　自己アピール文の作成方法・解説
【key words】
自己アピール、強み
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・自己アピール文を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・次回の授業時までに自己アピール文を完成させ、持参すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号、論作文のページを読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　論作文の基本
【key words】
序論･本論･結論
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・論作文の基本を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号、論作文のページを読んでおくこと。
当日、持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　パターンでスラスラ論作文
【key words】
論理性、教職への情熱、使命感
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・論作文の出題傾向を熟知する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号、論作文のページを読んでおくこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題にあった論作文を書き、期日までに提出すること。時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.5月号　合否を分ける「答申」の部分を読んでおくこと。当日持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　合否を分ける「答申」
【key words】
文部科学大臣、中教審、諮問
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・答申とは何か
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.5月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・答申とは何か、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.6月号「答申」早わかりシートを読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　「答申」早わかりシート
【key words】
教育制度改革、生徒指導、学力･学習活動関連
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。

・出る「答申」早わかり14シートを確認し、教育制度改革、生徒指導、学力･学習活動関連の「答申」を熟知する。

【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.6月号「答申」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.12月号を読んでおくこと。当日、持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第８回　試験直前対策　①　生徒指導
【key words】
生徒指導提要
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・圧倒的に出題される生徒指導（生徒指導提要）の資料を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.12月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.3月号を読んでおくこと。当日、持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　試験直前対策対策　②　いじめ、不登校、児童虐待
【key words】
いじめ、不登校、児童虐待
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・いじめ、不登校、児童虐待をデータで読み解く。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.3月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１０回　試験直前対策問題　③　教育法規・専門教養
【key words】
教育法規、専門教養
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・教員採用試験で頻出される教育法規、専門教養を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は前授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１１回　試験直前対策問題　④　教育時事、専門教養
【key words】
教育時事、専門教養
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・教員採用試験で頻出される教育時事・専門教養を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は前授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１２回　試験直前対策問題　⑤　個人面接試験対策
【key words】
志望動機、目指す教師像
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・個人面接試験対策を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・実際に行った個人面接について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号を持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

	第１３回　試験直前対策問題　⑥　集団面接試験対策 【key words】 自己アピール、教師としての資質･能力、使命感 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・集団面接試験対策を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った集団面接について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１４回　試験直前対策問題　⑦　集団討論試験対策 【key words】 教育時事、教師としての資質･能力、使命感 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・集団討論試験対策を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った集団討論について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１５回　試験直前対策問題　⑧　場面指導 【key words】 状況判断、児童生徒に寄り添う 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・場面指導のやり方を熟知する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った場面指導について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出する。 ・教員採用試験に向けて最終確認、準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や 受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。 ２　教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておき、授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。４　全国の自治体で行われる教員採用試験を必ず受験すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポー　トをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（50%）、試験またはまとめのレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	１　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 ２　東京教友会編著　『教職教養ランナー』一ツ橋書店、2019年度版 ３　時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』
参考書	東京ｱｶﾃﾞﾐｰ　『教員採用試験』シリーズ、各自治体が出版している過去問題等
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、間近に迫る教員採用試験に向けて、願書の作成、小論文、模擬授業の実践、個人面接、集団討論･面接を中心に指導・支援を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 総合演習Ⅱ　　授業コード：9031　9032　9033　9034　9035　9036　9037

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	必修
担当教員			
富澤　一央・鈴木　淳・新藤　健太・長津　一博・川端　奈津子・山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、３年次で身につけた知見を深める。総合演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、環境美化活動、課題研究・制作、進路決定等に主体的に取り組み、学士力を養成する。特に、この演習における集大成である課題研究・制作では、自発的なテーマ設定、資（史）料収集、分析・考察を行うが、適切な方法で丹念に調べることや、検討過程を論理的に記述できることを目指す。テーマ設定においては、地域貢献に供する課題をとりあげ、提案や論考を行うことも有効である。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動について、自主的に取り組むことができる。 ②総合演習の集大成である課題研究・制作について、的確な研究方法に基づいて取り組むことができる。 ③自己の適性を把握し、適切な進路決定ができる。
授業の概要	内容を、①建学の精神と実践教育 ②学習統合 ③進路・資格所得 ④地域貢献 ⑤心身の健康 の５つのプログラムから構成する。学年全体での授業では、建学の精神に則り、社会人となるための基礎的スキルの修得、福祉の視点から地域生活をとらえるための講義（外部講師）を予定している。クラス単位での授業では、「課題研究・制作」と題し、４年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論述・制作等を仕上げる。これらの演習を通し、総合的に学士力の向上を図る。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　学長訓話・学部長講話、ディプロマポリシー、演習Ⅱの計画 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	進路・資格プログラム①　「自己表現テスト」 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第３回　心身の健康プログラム①　心身のバランス（親睦スポーツ大会に向けた活動） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回　心身の健康プログラム②　心身のバランス・他者との連繋（親睦スポーツ大会） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回　建学の精神と実践教育プログラム②（生活を科学するー雑巾縫いをとおして） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回　学習統合プログラム①　課題研究・制作（ガイダンス） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回　進路・資格取得プログラム②　「自己表現テスト」のふりかえり 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回　学習統合プログラム②　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第９回　学習統合プログラム③　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　学習統合プログラム④　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第１１回　学習統合プログラム⑤　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　学習統合プログラム⑥　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　地域貢献プログラム①　「地域での住民と行政サービスとの関わり」 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　進路資格取得プログラム③　「エントリー試験」 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③　前期総括 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　学長訓話・学部長講話 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１７回　進路・資格取得プログラム④　「エントリー試験」のふりかえり 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１８回　地域貢献プログラム②　地域のネットワーク作り（クラス内研修） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１９回　地域貢献プログラム③　児童虐待の早期発見について

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　学習統合プログラム⑦　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　心身の健康プログラム③　「ストレス社会をどう生きるか」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　地域貢献プログラム④　「昌賢祭」での実践活動について

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　地域貢献プログラム⑤　「昌賢祭」実践活動

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　学習統合プログラム⑧　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　学習統合プログラム⑨　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　学習統合プログラム⑩　課題研究・制作（クラス内発表会①）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　学習統合プログラム⑪　課題研究・制作（クラス内発表会②）

【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　学習統合プログラム⑫　課題研究・制作（学年全体発表会） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　心身の健康プログラム④　「１年のまとめ、クラス裁量」 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤（後期総括） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	１　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　遅刻・欠席をしないことはもとより、折り目正しく熱意のある受講態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の「学校行事」には、必ず出席すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている内容を事前に把握し、わからない部分については授業にて解決するよう努力すること。課題研究・制作に共同で取り組む際は、まず綿密な計画を立て、進捗状況を確認しあうこと。また、不明な箇所については担当者に相談すること。
オフィスアワー	各担当者に確認すること。
評価方法	課題研究・制作（40%）、演習への取り組み・内容等（30%）、提出物（30%）の総合点とする。
教科書	『咸有一徳』中央法規、『初編 伝習録』明治書院、『知のナヴィゲーター』くろしお出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称：　サービス・ラーニングⅠ　　授業コード：2001　2003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
大島　由之（主担当）・安留　孝子・江原　京子・吉澤　幸・櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 大学近隣の地域の様々なフィールドで行われる実践活動と課題、そして学生らに期待されている事柄を知り、興味関心を持ったフィールドにおける課題解決のための取り組み企画することを通じて、地域社会の様々な実践に触れ、その経験を他の授業にフィードバックさせて学生自身の学修を深化させること、様々な人々と関わる経験からコミュニケーション能力・社会性・協調性・行動力といった能力を培うことを目的とする。 【到達目標】 ①本学カリキュラムにおけるサービス・ラーニングの位置づけを理解し、説明することが出来る ②大学近隣で実践される様々な団体・機関の活動について理解し、説明することが出来る ③地域の課題の調査分析、解決方法の提案、企画化の手順を体験し、実践することが出来る ④グループワークやプレゼンテーションのプロセスや留意点を学び、実践することが出来る
授業の概要	身近な地域で行われている実践を知り、そこでの課題を見つけ、その解決に向けた調査・分析から解決のためのプロジェクトの企画までを行う。1年目においては、学生にとって身近な大学近隣地域、災害の被災地支援等活動等をフィールドとし、前期に授業で学んだ知識を活かしながら、後期は小グループに分かれ、受講生が興味関心をもったフィールドにおけるプロジェクトを企画立案し、次年度の実践活動につなげるものを作成する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 知行合一，ボランティア活動，サービス・ラーニング，社会人基礎力 【授業概要】 これまでの「地域・団体からの依頼に受講生が参加・協力する」から「学生が主体となって地域の身近な問題を見つけ，その解決に向けて調査・分析から解決策の提示を行う」という，より能動的な活動を目指す本講義について，その導入経緯と意義の説明を行う。その後，全30回の授業の概要と各回の流れ，授業の中で必要となる姿勢等についての説明と簡単な演習を行う予定である。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1-13 参考書：基礎演習Ⅰテキスト：「知へのステップ」p6-14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートに自分の考えをまとめ，次回講義の際に持参すること。 予習：ワークシート作成の際の参考として教科書p14-27を読み進めること。 【予習復習に必要な想定時間】 15-30分
	第２回	サービス・ラーニングとボランティア活動の理念、歴史 【key words】 ボランティア活動，サービス・ラーニング，阪神・淡路大震災，ボランティア活動の原則

【授業概要】
今後，地域での活動を考えていく際の基盤となる「ボランティア」の理念について，その歴史と合わせて解説を行う。
その後，前回のワークシートを用いたグループワークを行い，ボランティアや地域で学ぶことに対するお互いの考えを共有し，理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p14-27
参考書：基礎演習Ⅰテキスト：「知へのステップ」p17-28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
予習：ワークシート作成の際，参考として教科書p77-82を読み進めること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第３回　これまでのボランティア体験と今後の地域での実践活動
【key words】
ボランティア活動，関わる対象，興味のある領域
【授業概要】
今後の地域での活動を具体的にイメージしていく際の基盤となる「これまでの自分のボランティアの体験」や「現時点で興味のある事柄」について，ワークシートを用いたグループワークを行い，お互いのもつ興味関心を共有し，次回以降の具体的な実践紹介に参加するための準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p77-106
参考書：基礎演習Ⅰテキスト：「知へのステップ」p29-41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
予習：ワークシート作成の際，参考として参考書「知へのステップ」p29-41を活用すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第４回　高齢者を対象とした活動の実
【key words】
高齢者，社会福祉施設でのボランティア活動
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に高齢者を対象とした活動の実際，そこでの課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として大学近隣の社会福祉法人より職員の方をお招きする予定である。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p79-80「第5章 1-3『施設の社会化』を目指すパートナーとしてのボランティア」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第５回　障害者を対象とした活動の実際
【key words】
障害者，障害者スポーツ
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に障害を持つ方を対象とした活動の実際，そこでの課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として障害者スポーツの普及・運営等に関わる法人より職員の方をお招きする予定である。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第６回　活動紹介の振り返り①高齢者・障害者
【key words】
社会福祉施設，障害者スポーツ，ボランティア活動
【授業概要】
前々回・前回の活動紹介から学んだ知識と受講生間でのグループワークを通じて感じた事柄について振り返りを行い，提示された課題や期待に対してどのような取り組みが可能かについて検討を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第７回　子どもを対象とした活動の実際①保育・児童福祉
【key words】
保育園・幼稚園・認定子ども園，児童福祉施設
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に幼児教育，児童福祉領域における活動を取り上げ，その活動の実際，課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として外部講師の方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第８回　子どもを対象とした活動の実際②学校・教育

【key words】
小学校，中学校，高等学校，特別支援学校
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に教育現場における活動を取り上げ，その活動の実際，課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として学内外で教員養成に関わる方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第９回　活動紹介の振り返り②子ども

【key words】
保育・幼児教育，児童福祉施設，学校
【授業概要】
前々回・前回の活動紹介から学んだ知識と受講生間でのグループワークを通じて感じた事柄について振り返りを行い，提示された課題や期待に対してどのような取り組みが可能かについて検討を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第１０回　地域で活動する団体と活動内容の紹介

【key words】
ボランティアセンター，社会福祉協議会，NPO法人
【授業概要】
近隣地域における様々な団体の団体・機関の実践について具体的な実践事例や取り組みの例について紹介を受け，地域での活動に向けたイメージを膨らませる。講師として群馬県または前橋市社会福祉協議会のボランティアセンターに関わる方をお招きする予定である。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p92-106
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第１１回　地域における実践の見学

【key words】
フィールドワーク、インタビュー
【授業概要】
これまでに講義を通じて紹介を受けた団体・機関等への見学を行う予定である。見学の際は，興味関心に応じて受講生をグループに分け，それぞれが別の団体・機関の見学やフィールドワーク，または学内に講師を招いてのインタビュー等を行う予定である。日時やグループ分けについては講義内で調整の上、別途指示する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：適宜紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：グループ内で受けた指示に従うこと
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１２回　行政の社会貢献活動

【key words】
まちづくり，シティプロモーション，地域貢献活動
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，行政が行う活動を取り上げ，その活動の実際，課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として前橋市職員の方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：適宜紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第１３回　地域における社会貢献活動

【key words】
公民館，防犯活動
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，公民館や保護者会等が行う活動を取り上げ，その活動の実際，課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として関連団体の方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：適宜紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第１４回　被災地に対する社会貢献活動
【key words】
被災地支援，災害ボランティア
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，台風や水害、地震などの災害で被害を受けた地域に対する活動を取り上げ，その活動の実際，課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として関連団体の方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p123-137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第１５回　前期のまとめ／後期の活動説明
【key words】
ふりかえり、ポートフォリオまとめ
【授業概要】
前期に紹介を受けた諸活動について振り返りを行い，後期からの興味関心に基づくグループ分けとそこでの活動について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：適宜指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　後期オリエンテーション／概要説明、領域分け
【key words】
調査分析、課題解決方法検討、企画化
【授業概要】
全体で集合し，後期の授業形態について説明を行い，グループを担当する教員の紹介を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：適宜指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内課題：グループ所属希望調査
【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　地域課題に関する調査・分析①共通事項説明
【key words】
インタビュー，フィールドワーク，文献研究
【授業概要】
全体で集合し，調査分析の概要と手続きについて講義を行った後，グループ別での活動予定である。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：適宜指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　地域課題に関する調査・分析②演習・実践
【key words】
インタビュー，フィールドワーク，文献研究
【授業概要】
グループごとに設定された時限に集合し，調査分析を進める予定である。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：適宜指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　地域課題に関する調査・分析③実践・振り返り
【key words】
インタビュー，フィールドワーク，文献研究
【授業概要】
グループごとに設定された時限に集合し，調査分析の実施およびとりまとめ等を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：適宜指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　地域課題に関する調査・分析④状況報告
【key words】
インタビュー，フィールドワーク，文献研究
【授業概要】
全体で集合し，グループごとの調査分析の実施状況についてグループワークを通じて共有を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：適宜指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

	第２１回	課題解決方法の検討・提案①共通事項説明 【key words】 サービス・ラーニング，提案 【授業概要】 全体で集合し，課題解決方法の検討に関する他大学の例や手続きについて紹介と講義を行った後，グループ別での活動予定である。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第２２回	課題解決方法の検討・提案②演習 【key words】 サービス・ラーニング，提案 【授業概要】 グループごとに設定された時限に集合し，課題解決方法の検討を進める予定である。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第２３回	課題解決方法の検討・提案③提案作成 【key words】 サービス・ラーニング，提案 【授業概要】 グループごとに設定された時限に集合し，課題解決方法の検討と提案の形への取りまとめを進める予定である。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第２４回	課題解決方法の検討・提案④状況報告 【key words】 サービス・ラーニング，提案 【授業概要】 全体で集合し，グループごとの課題解決方法の案出状況についてグループワークを通じて共有を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第２５回	企画立案①共通事項説明 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 全体で集合し，企画立案の際の必要事項について確認後，グループ別での活動予定である。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第２６回	企画立案②資料作成 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 グループごとに設定された時限に集合し，検討された企画を書面（計画書・予算書等）にまとめる作業を進める予定である。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第２７回	企画立案③書面でのまとめ 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 グループごとに設定された時限に集合し，検討された企画を外部機関に説明可能な形でまとめる作業を進める予定である。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第２８回	企画発表会準備 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 グループごとに設定された時限に集合し，とりまとめた企画のプレゼンテーションの準備を行う 【教科書ページ・参考文献】

	教科書：適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　企画発表会 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 全体で集合し，グループそれぞれによる企画発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　サービス・ラーニングⅠ振り返りとⅡに向けた説明 【key words】 サービス・ラーニング 【授業概要】 全体で集合し，全体の振り返りを行った後に次年度に向けた作業の確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	＜受講生に関わる情報＞ ・教科書／参考書、ポートフォリオ保管用として配布されたファイルを毎回持参すること ・講師を大学外から招くことや学外に出る機会が多く設定されているため、実習に順ずる態度で取り組むこと。 ・クラスやコース、専攻を超えたグループワークが多く行われる予定であるため、真摯な態度でのぞむこと。 ＜受講のルール＞ ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、教務課に連絡を行うこと。 ・特に後期は各グループで教室や時限が異なる可能性があるため、担当教員との連絡、掲示板の確認を密に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	毎回の授業後にコメントカード（またはシャトルカード）のやり取りを行う予定
授業外時間にかかわる情報	・前期：各回でワークシートの作成等が課題として課される。 ・後期：各グループでの指導となるため、担当教員の指示を確認すること
オフィスアワー	授業内で案内する
評価方法	各回のワークシートや配布資料を綴じたポートフォリオの評価（50%）、レポートによる評価（50%）予定。
教科書	授業内で指示
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談心理学（公認心理師の職責）　　授業コード：3322

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 対人援助職の中でも，公認心理師をはじめとした心理学の専門職が関わる心理的援助の具体的な活動や，そこで求められる知識・職責を理解すること。 【到達目標】 ①福祉，保健医療，教育その他の分野における心理職の役割，求められる倫理、法的義務等について説明できるようになる。 ②各分野における心理職の具体的な業務について例示できるようになる。 ③心理的支援を要する者等の安全を確保するための方法やその考え方、情報の適切な取り扱い方の留意点ついて具体的に述べることができ，各分野での相談援助活動での実践に関連づけることができるようになる。 ④心理職として求めらる知識・技術に関する自己分析や研鑽の方法について理解し，将来的な実践に沿って計画できるようになる。 ⑤心理職の立場から多職種間の連携や地域資源の活用の意義とその実践について説明できるようになる。
授業の概要	福祉，保健医療，教育等の領域で実践されている心理的支援やその業務の具体像を学び，それぞれの領域で求められる専門性や資格とその職責について理解することを目指す講義である。様々な領域における心理職やその支援の実際について座学と演習を通じて紹介する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 公認心理師，社会福祉士，精神保健福祉士 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。また、平成29年7月に施行された「公認心理師法」によって誕生した国家資格である公認心理師について紹介を行い、主な活動分野である保健医療・福祉・司法犯罪・教育・産業労働における相談活動の実際やそこでの役割についてグループワークを通じて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：野村れいか（2017）「病院で働く心理職；現場から伝えたいこと」日本評論社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートを完成させて次回授業時に持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 15-20分
	第２回	福祉，保健医療，教育等の領域における「心理職」の役割 【key words】 心理職の役割，相談，介助 【授業概要】 各領域における心理職の業務とその役割について，特に社会福祉士や精神保健福祉士，介護福祉

士との差異を中心に知識を学び，事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書
・鑪幹八郎 ・名島潤慈（2010）「心理臨床家の手引［第3版］」誠信書房
・福山清蔵（2006）改訂版「独習 入門カウンセリング・ワークブック」金子書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：グループワークの中で担当した事例への対応における倫理的問題への対応ついて調べてまとめ、次回持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
20-30

第３回　福祉，保健医療，教育等の領域における「心理職」の法的義務，倫理
【key words】
法的義務，倫理綱領，行動規範，信用失墜行為
【授業概要】
各領域の心理職に求められる法的義務・倫理について、特に福祉領域を例に，社会福祉士や精神保健福祉士，介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める
【教科書ページ・参考文献】
参考書：水野修次郎（2006）「最新カウンセリング倫理ガイド；APA倫理綱領対訳とAPA倫理綱領全文訳」河出書房新社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：グループワークの感想の作成
【予習復習に必要な想定時間】
15-20

第４回　相談をはじめとする心理的支援の場でどのようにクライエントの安全を確保するか
【key words】
インフォームド・コンセント、秘密保持、リファー、制限の設定、多重関係、治療契約
【授業概要】
各領域の心理職が行う相談活動に共通して求められるクライエントの安全確保のための手段や考え方について、社会福祉士や精神保健福祉士，介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書
・村本詔司（1998）「心理臨床と倫理」朱鷺書房,1998年
・津川律子・元永拓郎（2017）「心理臨床における法と倫理」放送大学教育振興会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させて次回授業時に持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
15-20

第５回　誰に・どこまで・何を？；心理的支援を行う上で得た情報の取り扱いと守秘義務
【key words】
守秘義務、警告義務、守秘義務の例外的状況
【授業概要】
各領域の心理職が行う相談活動に共通して求められる情報の取り扱いと守秘義務に関する留意点とジレンマについて、社会福祉士や介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書：水野修次郎（2006）「最新カウンセリング倫理ガイド；APA倫理綱領対訳とAPA倫理綱領全文訳」河出書房新社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回予習：福祉領域における相談に関する資料の通読
【予習復習に必要な想定時間】
10-15

第６回　福祉施設や障害者支援センターをはじめとする福祉領域における心理的支援の実際
【key words】
エンパワメント、権利擁護、アウトリーチ
【授業概要】
福祉分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
適宜指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：保健医療領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出
【予習復習に必要な想定時間】
10-15

第７回　病院をはじめとする保健医療分野における心理的支援の実際
【key words】
心理面接、心理査定、心理療法、緊急対応
【授業概要】
保健医療分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
適宜指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回予習：教育領域における相談に関する資料の通読
【予習復習に必要な想定時間】
10-15

第８回　学校や教育センターをはじめとする教育分野における心理的支援の実際
【key words】
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談
【授業概要】
教育分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面

		での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回予習：司法犯罪領域における相談に関する資料の通読 【予習復習に必要な想定時間】 10-15
	第９回	被害者支援センターや少年鑑別所等をはじめとする司法・犯罪分野における心理的支援の実際 【key words】 家庭裁判所調査官、心理技官、保護観察官 【授業概要】 司法犯罪分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回予習：産業労働領域における相談に関する資料の通読 【予習復習に必要な想定時間】 10-15
	第１０回	企業内健康管理センター等をはじめとする産業・労働分野における心理的支援の実際 【key words】 ストレスチェック、EAP、復職支援 【授業概要】 産業労働分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：5つの領域のうち、興味関心に応じて領域を1つ選び、社会福祉士／精神保健福祉士／介護福祉士との連携についてのレポート課題を実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 20-30
	第１１回	心理的支援を行う専門家としての自己課題の発見とその解決 【key words】 知識、技術、職業的ウェルビーイング、自己覚知 【授業概要】 各領域で心理職をはじめとした相談に関わる専門職に共通して求められる自己覚知と自己研鑽について知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：対人援助実践研究会HEART (2003) 「77のワークから学ぶ 対人援助ワークブック」久美株式会社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：最終レポートのテーマの提示に沿って準備を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60-120
	第１２回	心理的支援を行う専門家としての生涯にわたって学び続けるために 【key words】 自己研鑽、ロールプレイ、スーパーヴィジョン、教育分析 【授業概要】 各領域で心理職をはじめとした相談に関わる専門職に共通して求められる自己研鑽についてスーパーヴィジョンとロールプレイ、教育分析などの手法についての知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：大谷 彰 (2004) 「カウンセリングテクニック入門」二瓶社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：配布された第10回レポートの冊子を熟読し、グループワーク時に他の学生がどのような考え／意見を持っているか分かるようにしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 15-20
	第１３回	多職種と連携した心理的支援の実際 【key words】 チーム医療、チーム学校、リエゾン 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種の連携について知識を学び、それぞれの作成したレポートを教材としたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回	地域資源を活用した心理的支援の実際 【key words】 アウトリーチ、包括型地域支援、一次予防、二次予防、三次予防 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種が行う地域支援について知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回	まとめ

	【key words】 自己研鑽、生涯学習 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種が行う相談活動とそこで求められる資質とその向上について、各自が作成したレポートを用いたグループワークを通じて理解を深め、講義のまとめとする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・原則として、将来的に公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士等をはじめとした相談職としての活動を志望する者を対象とする講義である。 ・公認心理師の資格取得の必須科目である。興味を持つ学生は必ず受講すること。 ・受講の際は初回のオリエンテーションに必ず出席すること。また，やむを得ない理由で欠席する場合には事前に担当教員に申し出ること。 ・講義内での提出物や課題作成等を求める場合が多い。図書館の活用，コンピューター室の利用が可能なようにしておくこと。 ・講義内で上記の課題を教材として用いたグループワークを行う機会が多い点に留意すること。 ・補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・授業中は、講義に集中するため、原則として携帯電話、スマートフォン、タブレット端末は使用せず、マナーモード等にして卓上に置かないこと。何らかの事情で使用が必要な場合には各回の講義開始前に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	各回ごとに事前学習として事例や記事を配布し，その感想や自分なりの対応案をレポート課題として課すため，授業内での指示に留意すること。積極的かつ真摯な取り組むを望む。
オフィスアワー	初回に指示。
評価方法	授業ごとの小レポート課題：60%，学期末レポート課題または研究課題発表：40%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	なし
参考書	鑪幹八郎 ・名島潤慈（編著） 心理臨床家の手引［第3版］ 誠信書房 (2010) マリアン・コーリィ，ジェラルド・コーリー（著） 心理援助の専門職になるために；臨床心理士・カウンセラー・PSWを目指す人の基本テキスト 金剛出版 (2004)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 障害児保育　　授業コード： 4212

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 現在の保育所・幼稚園には、診断の有無にかかわらず様々な発達課題をもつ子どもが在籍している。それら発達的ニーズがある子どもの特性を理解し、その支援方法を知るとともに、インクルーシブ保育の意義や家族への支援について基礎的知識を身につけることを目的とする。 【到達目標】 ①保育場面で出会うことの多い障害の特性と基本的な支援方針や配慮について説明できる。 ②保護者支援の基本的態度および関係機関との連携の重要性を説明できる。 ③インクルーシブ保育の意義について説明できる。
授業の概要	障害のある子への保育形態を理解した上で、保育場面で出会うことの多い障害について特性や支援について学び、個々の状態に合わせた支援提供のための取り組みや家族・関係機関との連携についても理解を深める。また、２学年後期の保育実習指導Ⅰ（施設）の基盤となる科目の一つでもあり、基礎的知識の定着は必須である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷（１） 【key words】 国際生活機能分類（ICF）、国際障害分類（ICIDH）、就学猶予・免除 【授業概要】 科目オリエンテーションのあと、「障害」や障害児を理解するための代表的な「障害」の概念を紹介し、障害のある子どもたちがどのように生活し、社会からどのような待遇を受けてきたのか、その歴史的変遷をたどる。 【教科書ページ・参考文献】 第１講pp1-4 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：自分の住んでいる市町村に、どのような障害児支援サービスや施設があるのか調べてくる（施設名、打サービスの種類、目的や内容）。 【予習復習に必要な想定時間】 課題に30分。
	第２回	「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷（２） 【key words】 障害者権利条約、障害者総合支援法、インクルーシブ保育 【授業概要】 新しい障害児保育に関する施策について概観し、現在の障害児保育における課題について考察する。特別な配慮が必要な子どもを保育所等で受け入れる際の基本的スタンスについて学ぶ。なぜ、地域社会への参加・包容（インクルージョン）が重要なのか、インクルージョンを進める際に必要となる合理的配慮について理解し、実際の保育場面で生じやすい場面を例に具体的に考える。さいごにインクルーシブ保育の基本となる合理的配慮の視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

第１講pp6-14
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回、第１講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
復習45分

第３回　地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解（１）
【key words】
インクルーシブ保育、障害者権利条約、障害者差別解消法、合理的配慮
【授業概要】
特別な配慮が必要な子どもを保育所で受け入れる際の基本的な姿勢について学ぶ。なぜ地域社会への参加・包容（インクルージョン）が重要なのか、インクルージョンを進める際に必要となる合理的配慮を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
第２講pp16-21
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の範囲を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
予習20分

第４回　地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解（２）
【key words】
障害者差別解消法、合理的配慮
【授業概要】
身近な環境にある社会的障壁を知り、具体的な合理的配慮を考える。インクルーシブ保育の基本となる合理的配慮の視点を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第２講pp20-25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回、第２講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
復習45分

第５回　肢体不自由児の理解と援助（１）
【key words】
肢体不自由の概念・臨床像、起因疾患、心理特性
【授業概要】
肢体不自由児の保育に必要な知識の習得を目的として、肢体不自由の概念、臨床像、起因疾患、心理特性について学び、その保育のねらいを理解し、肢体不自由についての体験演習を通して、その実態把握の仕方をＩＣＦの観点で学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
pp27-31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の範囲を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第６回　肢体不自由児の理解と援助（２）
【key words】
他機関との連携、特別支援学校
【授業概要】
演習として、肢体不自由児の保育場面の動画を見て実態把握し、保育所の参加以外にどのような社会参加場面があるかリストアップしてみる。また、保育における他機関との連携の必要性と、肢体不自由児をめぐる教育の動向について知る。
【教科書ページ・参考文献】
pp31-37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回、第３講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第７回　知的障害児の理解と援助（１）
【key words】
知的障害とは、発達検査、IQ、ダウン症候群
【授業概要】
知的障害のとらえ方について、原因や症状、援助の観点について述べる。知的障害のある子どもが身体とこころの健康を保ちながら、保育所で質の高い生活を送るために、保育士にはどのようなかかわり方が求められるだろうか。知的障害の特徴を概説するとともに、実際のかかわり方についての理解を深めていく。
【教科書ページ・参考文献】
第４講pp39-45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の範囲を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分
予習30分

第８回　知的障害児の理解と援助（２）
【key words】
スモールステップ、専門機関との連携
【授業概要】
知的障害のとらえ方について、原因や症状、援助の観点について述べる。知的障害のある子どもが身体とこころの健康を保ちながら、保育所で質の高い生活を送るために、保育士にはどのようなかかわり方が求められるだろうか。知的障害の特徴を概説するとともに、実際のかかわり方についての理解を深めていく。
【教科書ページ・参考文献】
第４講pp46-49
【課題・予習・復習・授業準備指示】

		次回、第４講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習60分
	第９回	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助 【key words】 視力障害、視野障害、色覚障害、伝音難聴、感音難聴、言語障害、構音障害、吃音 【授業概要】 「みる」「きく」「はなす」は、身の回りの世界をとらえ、世界とつながるための重要な機能である。これらの機能における障害は対人コミュニケーションの困難にとどまらず、知的発達や運動発達にも大きく影響する。それぞれの障害の特性や援助の視点について学び、保育における課題へお理解を深めるための関連事項を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 第５講pp51-65 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回、第５講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習60分
	第１０回	発達障害児の理解と援助（１）　～ASDを中心に～ 【key words】 ASD、構造化、TEACCHプログラム 【授業概要】 ３回シリーズで発達障害の特性と援助について理解を深める。1回目では発達障害の定義や、代表的なASD,ADHD,LDの特徴を概観するとともに、その特性に基づいた保育の工夫について学ぶ。また、第１３回目のたんぽぽ学園での実践活動で、どのように子どもたちと関わるかまで発展させる。 【教科書ページ・参考文献】 第６講pp67-78 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今日、習ったことを振り返っておく。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分
	第１１回	発達障害児の理解と援助（２） 【key words】 感覚異常（過敏と鈍麻） 【授業概要】 ASDの特性である感覚の異常を体験することで、その困難さを理解し、感覚に問題を抱える子どもへの「配慮について考える。 【教科書ページ・参考文献】 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の範囲を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第１２回	発達障害児の理解と援助（３）～ADHDを中心に～ 【key words】 ADHD、二次障害、LD 【授業概要】 ADHDの特性をもつ子どもへの保育を検討するための演習を行う。また、ADHDの子どもが成長していくプロセスのなかで二次障害を併発するものが少なくないことから、子どもの自己肯定感が損なわれないような経験を積める保育。教育のあり方について考える。 【教科書ページ・参考文献】 第６講pp67-78 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回、第６講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習60分
	第１３回	フィールドワーク（たんぽぽ学園） 【key words】 療育、児童発達支援センター、保護者支援 【授業概要】 たんぽぽ学園を訪問し、午前中10:00～12:00の各クラスの活動に参加させて頂く。学生は担当する子どもとマンツーマンで活動に参加する。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動をさせていただくための身だしなみや礼儀挨拶を徹底する。かかわり方の原則を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 実践活動を体験して学んだことや気づいたことをレポートとして翌週に後期授業の最初に提出する。
	第１４回	重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な支援を必要とする子どもの理解と援助（１） 【key words】 重症心身障害、大島分類、医療的ケア 【授業概要】 障害児保育における課題の１つに、障害の重度化と多様化への対応があげられる。本講では、重度化の問題として重症心身障害児と医療的ケア児を、多様化の問題として心理・社会的な要因が背景にある愛着障害を取りあげる。 【教科書ページ・参考文献】 第７講pp79-92 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回、第７講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】

		復習60分
	第１５回	重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な支援を必要とする子どもの理解と援助（２） 【key words】 愛着障害、その他の特別な配慮を要する子ども 【授業概要】 障害児保育における課題の１つに、障害の重度化と多様化への対応があげられる。本講では、重度化の問題として重症心身障害児と医療的ケア児を、多様化の問題として心理・社会的な要因が背景にある愛着障害を取りあげる。 【教科書ページ・参考文献】 第７講pp79-92 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期試験にむけて、テキスト・授業ノートや資料・確認テストを中心に全範囲の復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１６回	指導計画および個別の支援計画の作成（１） 【key words】 個別の支援計画、指導計画 【授業概要】 個別の支援計画や指導計画とは何か、どのような内容が記載されるのかを理解するために、さまざまな自治体や保育所で作成されている様式を見比べたり、実際に自分なりに支援計画や指導計画を作成したりする。 【教科書ページ・参考文献】 第８講pp93-104 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提示された事例を読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第１７回	指導計画および個別の支援計画の作成（２） 【key words】 個別の支援計画、指導計画 【授業概要】 個別の支援計画や指導計画を作成後に必要なことを理解するとともに、個別の支援計画や指導計画の抱える課題について考える。 【教科書ページ・参考文献】 第８講pp93-104 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回、第８講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習60分
	第１８回	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ちあい（１） 【key words】 人的環境、統合保育、分離保育、並行通園、交流保育 【授業概要】 障害のある子ども一人ひとりの発達をうながすとともに、子ども同士がかかわり、育ちあう生活や遊びの環境とはどのようなものか考える。１回目では、保育者が考慮すべき子どもの生活と遊びの発達と環境、障害児保育の形態、障害のある子どもがほかの子どもとつながっていく過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第９講pp105-120 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「遊んでくれてありがとう」の映像を観てのレポートを作成 【予習復習に必要な想定時間】 課題60分
	第１９回	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ちあい（２） 【key words】 問題行動とは、保育所・幼稚園と専門施設の違い 【授業概要】 具体的なかかわりや環境構成のために必要なことを演習形式で学ぶとともに、実際に障害児保育を行う際の留意事項を「問題行動」「保育所・幼稚園と専門施設の違い」をテーマとして考える。 【教科書ページ・参考文献】 第９講pp105-120 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回、第9講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習60分
	第２０回	障害児保育における子どもの健康と安全 【key words】 健康支援、安全管理、医行為 【授業概要】 障害児保育における健康と安全について留意すべきことを確認し、理解する。具体的には、障害児を保育するにあたっての健康状態の把握と安全管理の基本を学ぶ。また、保育者が子どもに医行為などの処置を行うにあたっての条件を整備し、確認する。 【教科書ページ・参考文献】 第１０講pp121-132 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の範囲を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第２１回	職員間の連携・協働（１） 【key words】 連携・協働（保護者・専門機関・地域）

【授業概要】
障害のある子どもの成長・発達のためには、保育所の職員間の連携・協働だけでなく、保護者や専門機関、地域住民との連携・協働が必要である。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　職員間の連携・協働（２）
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　保護者に対する理解および保護者間の交流や支えあいの意義と支援（１）
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　保護者に対する理解および保護者間の交流や支えあいの意義と支援（２）
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　地域の専門機関との連携（１）
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　地域の専門機関との連携（２）
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　小学校との連携（１）
【key words】
就学とは、就学相談、就学時健康診断、
【授業概要】
子どもたちは保育所・幼稚園から小学校への入学（就学）を体験する。本講では、小学校との連携の中でも、より現実的で最も重要な「就学の際の支援」、いわゆる移行支援に注目し①就学に関する基本的事項、②移行支援の実際と課題、③移行支援の新たな取り組みと連携の重要性の３つを取り上げる。
【教科書ページ・参考文献】
第１４講pp171-184
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の範囲を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分
第２８回　小学校等との連携（２）
【key words】
特別支援コーディネーター、校内委員会、行動観察記録、リソースルーム
【授業概要】
主に入学後の支援に焦点をあてて、切れ目のない支援で一人ひとりの育ちをつなぐ手立てについて理解する。
演習形式で、子どもの姿を観察できる機会を利用して行動を客観的に観察。分析して記録してみる体験をする。さらに、子どもの特性を考えながら環境への配慮を学ぶ実践として、リソースルームの設計を試みる。
【教科書ページ・参考文献】

	第１４講pp171-184 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回、第14講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習60分 第２９回　福祉・教育における現状と課題（１） 【key words】 児童発達支援センター、放課後等児童デイサービス、保育所等訪問支援、 【授業概要】 障害児支援の目標は、地域で育ち、地域で暮らせる人を育てることである。育つ力の育成には、リハビリテーションなどの医療的支援の基盤として良質な保育が不可欠である。地域の子育て支援の拠点である保育所にも多くの障害児が在籍しその支援が求められている現在、保育士が障害児に関連する法制度を学ぶことも重要である。 【教科書ページ・参考文献】 第１５講pp185-196 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回、第１５講の確認テストを実施するので復習して臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習60分 第３０回　福祉・教育における現状と課題（２） 【key words】 特別支援教育、地域ネットワークの構築 【授業概要】 保育所などの子ども・子育て現場に視点をおいて地域ネットワークの構築の重要性や課題について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第１５講pp185-196 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期試験にむけて、テキスト・授業ノートや資料・確認テストを中心に全範囲の復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・私語や携帯電話の操作を慎む ・授業で配布する資料の予備は保管しませんので、出席者からコピーをとるなど各自で対処して下さい。 ・復習として確認テストを実施することがあるので、指示された範囲の復習をして臨んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・障害のある子どもと接することができるボランティアに積極的に参加し、授業で習ったことを確認する機会として下さい。 ・授業の冒頭で「確認テスト」を実施することがあるので、前回の授業の復習をして臨んで下さい。
オフィスアワー	水曜日（14:20～17:30）
評価方法	筆記試験（７０％）小テスト（３０％）。総合評価は、筆記試験で６０％以上得点できていることを前提とします。
教科書	障害児保育　新基本保育シリーズ⑰　中央法規出版　2019
参考書	授業の中で適宜紹介します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）にて１５年間、入所児童や地域の児童への療育に携わるとともに、保育所・幼稚園等へのコンサルテーションの経験をもとに、インクルーシブ保育の考え方や保育方法について事例も交えて講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 外国語概論　　授業コード：5591

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
上原　修			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な基本的知識・技能を身に付けることを目標とする。具体的な授業の到達目標は、①授業実践に必要な英語力を身に付けることができる、②授業実践のために必要な知識を身に付けることができる、の2点である。
授業の概要	小学校の外国語活動、外国語の授業実践に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本（学習指導要領及び解説の理解、外国語活動・外国語科誕生の背景、授業実践に必要な5領域である聞く力・話す力〈やり取り〉・話す力〈発表〉・読む力・書く力、ＡＬＴとのＴ・Ｔ、指導法等）を身に付ける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業概要、評価方法）、学習指導要領「外国語活動」「外国語」の目標と内容 【key words】 オリエンテーション（英語教育概論、学習指導要領（小学校）、授業概要、評価方法等） 【授業概要】 ○オリエンテーション ・自己紹介 ・第１回～１５回までの授業の概要について説明する。また、１単位時間の授業のながれ（導入、展開、ま　とめ、振り返りの過程）についても説明し、それぞれの過程ではどのような学習が行われるがについて　も説明する。 ・評価については、評価の仕方や評価する際の重点について説明する。 ・学習指導要領（小学校）の概要の説明。特に、小学校における外国語学習が必要に至った経緯、目的や目　標などについて説明する。教科書については、その活用について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第２回	異文化理解（生活や習慣、年中行事等） 【key words】 文化の捉え方、異文化理解とは、外国語教育における異文化理解 【授業概要】 ○文化の捉え方 ・各民族のもつ行動様式や価値観などを文化という視点から再確認し、文化の捉え方について考察する。 ○異文化理解 ・異文化理解の捉え方や異文化を理解する上での留意点などについて学習する。 ○外国語教育における異文化理解 ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気づくなど、外国語を学　習する上での異文化理解の重要性を知り、異文化への興味や関心を高める。

【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第３回　英語の文字
【key words】
英語の文字の特徴、アルファベットの発達の経緯、活字書体と手書き書体
【授業概要】
○英語の文字の特徴
・英語の文字の特徴である、母音字、子音字、書体方向や分かち書きなどについて理解する。
○アルファベットの発達
・２１文字で始まった初期アルファベットから中世期には２６文字となるまでのアルファベットの発達につ　いて理解する。
○書体の推移
・文字は手書き文字から発達し、１５世紀に活版印刷が発達し活字書体となり、その後ローマン体やイタ　リック体へと発達していく過程等を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第４回　英語の音声
【key words】
英語の音素、母音や子音、子音連鎖、プロソディー、音変化
【授業概要】
○英語の母音、子音などについて
・音素や母音、子音などについて理解する。また発音する際の口や唇、口腔内の特徴などについても理解　し、実際に発音練習し、理解を深める。
○プロソディーについて
・イントネーション、アクセント、リズムなどのプロソディーについて、個々の事項を理解しながら、日本　語との使用の違いを知る。
○音変化
・音変化については、英語の音の特徴である、脱音、同化、連結など、基本的な事項を理解する。また、日　本語にはない音連鎖についても発音したりして、理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０程度

第５回　英語の発音と綴りとの関係
【key words】
音と文字・綴りのずれ、綴りと発音の関係、母音字と子音字の発音、重子音字や音節構造等
【授業概要】
○英語の音と文字のずれ
・英語の綴りを理解しにくくしているのが、音（発音）と綴りのずれである。このずれを理解するための規　則性や約束事を理解する。
○母音字や子音字の発音について
・母音字や子音字の発音について理解し、実際に発音しさらに理解を深める。また、語末のeの働きや重子　音字などについても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第６回　英語の書き方
【key words】
英語の記号の書き方や使い方、段落・書体・配置や行間など
【授業概要】
○日本語との使い方の違いを理解
・ピリオドやコンマなど、日本語と英語では使い方が異なることを理解したり、ハイフンやダッシュ、マイ　ナスの記号などの使い方についても理解する。
○その他の記号の理解
・省略記号や文末記号、引用符やアポストロフィーなどの基本的な使い方の理解をする。また、英語の特徴　である分かち書きについては、歴史的背景やふれつをの効果などにふれつつ理解していく。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第７回　英語の文法及び語彙（１）
【key words】
名詞と動詞の語形変化、冠詞、疑問文、文法事項の留意点など
【授業概要】
○小学校英語学習で扱われることの多い文法事項の理解について
・名詞が複数形になるとsが付いたり、主語が３・単・現の場合に動詞にsが付いたりするなど、日本語に　はない語形変化が重要となる。また、be動詞や一般動詞も主語により変化する

		など、児童が英語を学習　　する際に確実に身に付けさせたい基本的な事項を理解する。学習の際には、演習したり発音したりする。 　・冠詞や疑問文など、基本的な文法事項を演習を通して再確認していく。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第８回	英語の文法事項及び語彙（２） 【key words】 他言語との関わりの中での英語の位置づけ、英語の平易化 【授業概要】 ○英語の位置づけ 　・言語としての英語の位置づけを歴史的視点から捉え、他の言語との相違や類似について理解する。例え　　ば、比較を表現する場合、er,estを付ける形とmore,mostを付ける形がある。これは前者がゲルマン系　　で、後者がフランス系である。など、英語に関わる歴史や語彙についての理解を深める。 ○英語に影響を及ぼした言語 　・英語は現在に至るまで、３回他言語の影響を受けている。古い順にケルト語、古ノルト語（バイキング　　語）、フランス語であり、それぞれの影響を受けた基本的な語彙についても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第９回	第二言語習得理論（１） 【key words】 第二言語習得過程、臨界期仮設、統語の習得順位、情意面や母語への影響 【授業概要】 ○音声や語彙の習得過程、臨界期仮設、音声や語彙の習得、統語の習得順位、情緒面や母語への影響 　・第二言語を習得する上での仮設や音声・語彙の習得について理解する。また、第二言語を習得することに　　よって母語や情緒面への影響などについても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第10回	第二言語習得理論（２） 【key words】 習慣形成、インプット・アウトプット・インタラクション、自動化、社会文化理論、用法基礎理論、第二言語を習得する際の学習者の要因 【授業概要】 ○第二限度習得に関わる理論の紹介 　・外国語活動や外国科を指導する上で関係の深い習得理論について理解し、実際の授業でどのように活用す　　ることが有効かなどについて理解する。 ○習得をより確実にするための学習者の要因 　・習得理論を活用しての指導を実施する際に、より学習効果を高めるたには、学習者の要因が大切であるこ　　とを例を基にしながら理解する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第11回	コミュニケーション能力（１） 【key words】 コミュニケーション能力とは、コミュニケーションモデル、異文化コミュニケーション、CEFRモデルの理解 【授業概要】 ○コミュニケーション能力の理解 　・コミュニケーション能力について理解するとともに、コミュニケーション能力を付けるための機能要素に　　ついても理解する。特に、その要素であるコンテクストやメッセージ、シンボルなどについて理解を深め　　るようにする。 ○コミュケーション能力モデル 　・コミュニケーション能力についての諸説について理解する。各言語学者が提唱しているモデルについて、　　その主要なモデルを理解し、実践に役立てるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第12回	コミュニケーション能力（２） 【key words】 話す、聞く、読む、書く　の各技能の理解 【授業概要】 ○各技能の理解及び実践演習

	・小学校において英語を指導する際に必要な、話す、聞く、読む、書く　の各技能について理解する。ま　　た、場面に応じた表現や活動について演習を通して理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第13回　担任（単独）授業、ALTやJTEとのTT授業おける留意点 【key words】 単独授業とTT授業について 【授業概要】 〇授業を組み立てる際に関わる留意事項 ・子供の実態について、十分に把握しておく。前時に授業の習熟の程度を子供一人ひとりについて分析して　　おく。また、各過程（導入、展開、まとめ、振り返り等の各過程）における指導項目、言語活動、評価方　　法などについて十分に吟味しておく。（教材研究の大切さ） ・ALTやJTEとのTT指導を行う場合においては、事前の打ち合わせが大事であり、各活動での役割分担、評　　価などを確認する。それら活動の実効を高めるために子供の実態について共通理解しておく。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第14回　英語の絵本の活用法 【key words】 絵本を選ぶ視点、外国語活動に有効な絵本の紹介 【授業概要】 〇絵本を選ぶ視点について ・選ぶ視点として、リズムや音韻があり、日常使われている単語がある。また、子供の生活体験に近く、学　　習者の読める力に近い。文とイラストが合っていること。などについて理解する。 〇外国語活動への有効活用 ・異文化理解や他者共感に適した絵本、長く親しまれてきた絵本などを紹介し、その有効活用などについて　　理解する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第15回　授業のまとめ、考査 【key words】 授業のまとめ、考査 【授業概要】 〇授業内容について、資料を基に復習し、内容を理解に努める。 〇考査を行い、理解の程度を確認し、その後の学習に役立てるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自作資料を基に授業内容を復習し、理解を深めておく。 【予習復習に必要な想定時間】 数時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は、３年生次に行われる教育実習の本実習の基礎的講義に位置づけられており、遅刻や欠席は事前に必ず届出 ること。欠席や遅刻の多い学生（３回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得る　ため、熱心な受講態度を求める。 ２　外国語（英語）教育に関わる概論は、３年生次で講義である外国語（英語）指導法の基礎的・基本的な内容であり、 指導法をより深く理解するための講義である。次年度も見据え熱心に学習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	自己評価カード、コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１　模擬授業を行う場合には、前週までに必要な要件を記入して提出すること。（指導案等が必要な場合には、事前に項 目説明や内容の的確性について説明する。）授業者の学生は、発表により気付いた点、成果と課題、改善に向けての視 点等、必要項目を記述し、次回授業日までに提出すること。 ２　授業を行った生徒は、自己評価及び他の生徒らの観察記録や感想等をまとめ、教材への理解を深めたり、学習への意 欲を付けたりする。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	定期試験　学期末試験（筆記試験）を行う。また、随時、ミニテストも行う。 学期末試験（50%）、レポート（30%）、ミニテスト（20%）
教科書	文部科学省：「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　外国語活動編」開隆堂 文部科学省：「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　外国語編」開隆堂

参考書	・文部科学省：小学校外国語活動教材「Let's Try!1」「Let's Try!2」、小学校外国語教材「We Can!1」「We Can!2」、それらのデジタル教材（DVD） ・児童用外国語教科書、その他、講義の中で随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学実験実習Ⅲ（心理的アセスメント）　　授業コード：3141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・必修
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師に代表される対人援助職に求められる心理的アセスメントに関する基礎的な知識を理解し，観察法や検査法（代表的な知能検査・パーソナリティ検査等）のなりたち・特徴・意義及び限界について説明できるようになること。 ［到達目標］ ①心理的アセスメントの手法，意義，目的について説明できるようになること ②代表的なパーソナリティ検査，知能検査，神経心理学的検査の理論的背景とその運用上の特徴について説明できるようになること ③事例を読み解く際に，どういった心理的アセスメントが必要かについて想定できるようになること
授業の概要	心理的アセスメントとは「対象となる事例の心理的側面に関する情報を収集し，その情報を統合し，事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業」と定義される。本講義ではその手法である面接や観察，信頼性・妥当性が確かめられた心理検査の概要と事例での運用，報告のまとめ方について解説を行う。 授業は双方向性で進めるため、教科書等で予習が必要である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約 【key words】 心理的アセスメント　信頼性と妥当性 【授業概要】 本講義15回の説明 本講義ではその手法である面接や観察、信頼性・妥当性が確かめられた心理検査の概要と事例での運用、報告のまとめ方について解説を行う。 授業の目標 社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師などに代表される対人援助職に求められる心理セスメントに関する基礎的な知識を理解し、観察法や検査法（代表的な知能検査・パーソナリティ検査等）のなりたち・特徴・意義及び限界について説明できるようになる。 成績評価の方法 ■筆記試験60%　■ミニテスト20%　■事前学習10%　レポート課題の提出10% 【教科書ページ・参考文献】 pp.40-41(アセスメントとは何か）資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心理学的アセスメントの定義、なぜアセスメントが重要なのかを調べてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	心理的アセスメントとは何か、心理的アセスメントの目的 【key words】

面接　行動観察　情報　守秘義務
【授業概要】
心理学的アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報を収集し、その情報を統合し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。アセスメントの諸技法について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P41（1アセスメントとは何か）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　面接法を用いたアセスメント
【key words】
初回面接　協働関係　情報収集　言語・非言語的情報

【授業概要】
初回面接とは、クライエントのどの問題をどのように扱っていくのかということを話し合う場である。またなぜ、ケース・フォーミュレーションが必要なのか、ケース・フォーミュレーションの特徴を理解する
【教科書ページ・参考文献】
P42～P45（2ケース・フォーミュレーション,3初回面接）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　観察法を用いたアセスメント
【key words】
観察　行動の生起頻度や連続性　観察法の利点と限界　観察法に対応した記録法

【授業概要】
観察法は、対象となる人や行動を、自然な状況や統制された状況の下で観察する方法である。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。ディスカッション：調べてきた内容を説明し話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
P48～P49（3.観察法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　検査法によるアセスメント（1）心理検査とは何か
【key words】
パーソナリティ理論　ビッグファイブ理論
【授業概要】
1980年代以降、人間に最も普遍的で重要と思われる特性を特定していこうという動向が強くなった。こうした流れの中、パーソナリティ理論、ビッグファイブが誕生した。この背景と理論を学ぶ。ディスカッション：調べてきた内容を説明し話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
P50～P51（3.質問紙法）、資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　〃　（2）質問紙法によるアセスメント
【key words】
リッカート尺度　介入効果　質問紙法の長所と短所

【授業概要】
質問法の長所・短所・使用上の注意点を理解する。授業では実際に標準化された質問紙を体験する。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。
【教科書ページ・参考文献】
P50～P51（3.質問紙法）、資料を配布する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　投影法によるアセスメント(1)
【key words】

あいまいな状況　SCT　　インクのしみ　反応

【授業概要】
投影法は、質問紙法や作業検査法と並ぶ人格検査の一方法である。その種類と特徴を理解する。投影法の代表的なロールシャッハ・テストや文章完成法・P-Fスタディの実施方法・内容を理解する。また質問紙法との比較をする。
【教科書ページ・参考文献】
P52～P53（4.検査法(2)投影法）、資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　投影法によるアセスメント(2)、資料
【key words】
あいまいな状況　バウム・テスト　統合型S-HTP法　家族画法

【授業概要】
描画法もいくつかの種類があるのでその種類と特徴を理解したうえで、体験してみる。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。

【教科書ページ・参考文献】
P52～P53（4.検査法(2)投影法）、資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　作業検査法によるアセスメント
【key words】
連続加算作業　作業曲線　作業の安定性や注意力
加算作業　一桁　内田勇三郎　パーソナリティ検査

【授業概要】
作業検査とは、一定の作業を課し、そこでの反応に認められる特徴から被験者のパーソナリティを推定する。具体的で明確な作業を課すため、投影法のような反応の自由度を持たない点が特徴である。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　知能検査と発達検査（1）保護者からの聞き取りによる発達段階の査定
【key words】
知的活動　精神年齢　知能指数(IQ)

【授業概要】
知能検査と発達検査の理解とそれぞれの特徴を学ぶ。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。

【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　〃　（2）個別式知能検査
【key words】
WAIS　WISC　WPPSI4つの指標得点

【授業概要】
事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。臨床心理学における「知能」は「賢さ」や「頭の良さ」というものより、もう少し広い要素を含めた概念である。知能検査の歴史を知る。
【教科書ページ・参考文献】
P54～P57（5.検査法3　知能検査）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

	第１２回　神経心理学的検査やストレスチェックに関連した心理的アセスメントの実際 【key words】 高次脳機能　見当識　言語　認知　行為　記憶　注意　前頭葉機能 【授業概要】 高次脳機能障害には、外傷、疾病などによる脳の損傷によって生じ、おもには言語、認知、行為、読み書き、記憶、注意、前頭葉機能に障害を示すもの、および認知症がある。授業では、各高次脳機能とその代表的な検査法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P58～P59(検査法(4.神経心理学的検査) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１３回　検査バッテリーとは 【key words】 質問紙検査　投影法　知能検査 【授業概要】 事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。人間のあらゆる側面を評価できる単独の心理検査は存在しない。そこで通常は、被験者を多面的にとらえるため、複数の異なる検査を組み合わせて使用する。 【教科書ページ・参考文献】 資料配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　心理的アセスメントの解釈・報告・倫理 【key words】 各検査の性質・長所・短所　背景にある理論　被験者の心身の状態 【授業概要】 心理検査が活かされ、真にクライエントに利するものとなるためには、検査のデータについて考えるだけではなく、面接時に受ける印象、家庭に関する情報など、心理検査結果以外の情報までを含めた総合的な査定が行われる必要がある。役立つ報告書について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　まとめ 【key words】 読み手のニーズ　守秘義務　通告義務　インフォームド・コンセント 【授業概要】 15回の授業を振り返り、守秘義務　通告義務　インフォームド・コンセントについて、理解できたか確認する。 アセスメントとは何か、診断との違い、定義、諸技法についてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 15回のまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・その他，詳細についてはシラバスを参照すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	シラバスにのっとり授業を進める。したがってシラバスで紹介した内容を事前に予習をしておくこと（レポート提出）。 毎回、授業の初めに前回の授業内容が把握できているか確認のためにミニテストを行うので復習をしておくこと。 また授業内での指示に留意すること。

オフィスアワー	火曜日　15時～18時。それ以外の時間を希望する場合には，応相談。
評価方法	■筆記試験60%　■ミニテスト20%　■事前学習10%　■レポート課題の提出10%
教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　［注］第11版以降を購入すること
参考書	下山晴彦（編）公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　医学書院　(2016) 福島哲夫（編）公認心理師　必携テキスト　学研　(2018)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など15年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 認知心理学（知覚・認知心理学）　　授業コード：3151

英文科目名称： Cognitive Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
安崎　安子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人はどのように考え行動するのか，人間の認知行動の基本を理解する 【到達目標】 社会福祉の場面において、その知識が活用できる能力を得ること
授業の概要	認知心理学は，感覚や感情，思考や記憶，理解や推論といった人間の知覚・認知活動についてその仕組みと機能を探究する学問である。本講義では，臨床事例を紹介しながら，新たな知見や具体例を示しながら検討する

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	認知心理学の誕生 【key words】 授業の進め方の確認，認知心理学の誕生の経緯，感覚の種類 【授業概要】 授業の進め方の確認を行う。その後，認知心理学誕生に至った心理学の歴史を説明する。更に，知覚心理学の基礎である感覚の種類について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第１章３～１６ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第２章第１節「視覚系の基本構造」について予習を進める 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間
	第２回	視知覚１ 【key words】 視知覚の仕組みと機能，色彩、錯視、図と地 【授業概要】 視覚系の基本構造，二次元の視知覚の仕組みと機能，特に色彩，錯視，図と地について視知覚の不可思議について授業を進める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書１７～２４ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第２章第２節「視覚の基本属性とその認知」について予習を進める。

【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第３回　視知覚２

【key words】
視知覚の仕組みと機能，奥行・運動知覚
【授業概要】
三次元の立体視・奥行・運動知覚についての視知覚の仕組みについて授業を進める。特に，アニメーションの原理であるβ運動やファイ現象について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書２５～３３ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第２章第３節「高次な視覚認知」について予習を進める。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第４回　視覚認知

【key words】
視覚認知の仕組みと機能，パターン認識，顔の認知，認知地図，失認症
【授業概要】
高次な視覚認知，特に視覚伝導路を確認する。さらにその障害による視覚失認，失読，顔や表情の認知などについて理解を進める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書３４～４４ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。
参考文献：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編），心理学第５版，東京大学出版会，2020　第５章３節「聴知覚」を調べておく。

【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第５回　聴覚知覚・聴覚認知

【key words】
聴知覚・聴認知の仕組みと機能，音楽と言語音，聴覚失認
【授業概要】
聴覚系の基本構造と聴覚伝導路を知る。聴知覚と聴覚認知による音楽と言語音の認知とその障害について学習を進める。また失語症についても症例を紹介する。

【教科書ページ・参考文献】
参考文献：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編），心理学第５版，東京大学出版会，2020，第５章３節「聴知覚」１４９～１５８ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。その他の感覚である「嗅覚」と認知症の関連について調べておく。

【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第６回　触覚・感性認知・その他の感覚

【key words】
触覚・感性認知・味覚・触覚・嗅覚の仕組みと機能
【授業概要】
触覚・感性認知とその他の感覚である味覚・嗅覚について授業を進める。味覚や嗅覚と認知症との関連，触覚と点字等についても知識を深める。

【教科書ページ・参考文献】
参考文献：鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編），心理学 第５版，東京大学出版会，2020，第５章４節「触覚」１４９～１５８ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第４章「注意」について予習を進める。

【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第７回　注意

【key words】
認知を支える注意の働き
【授業概要】
注意は認知を支えるものである。あらゆる学習も注意によって成り立っている。注意の機能について学習する。また注意の障害についても学習を進める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書６５～９４ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第５章「ワーキングメモリ」について予習を進める。

【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第８回　短期記憶とワーキングメモリ

【key words】

記憶の構造，ワーキングメモリの役割
【授業概要】
ワーキングメモリを介して記憶は蓄積される。記憶の構造を学習し，その中でも短期記憶について，長期記憶との違いについて学習を進める。また日常や臨床場面での如何に記憶の知識が必要か確認していく。

【教科書ページ・参考文献】
教科書９５～１１８ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第６章「長期記憶」について予習を進める。

【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第９回　長期記憶・潜在記憶とプライミング
【key words】
記憶と意識の関係，長期記憶の構造と機能
【授業概要】
長期記憶の構造について学習を進める。エピソード記憶・手続き記憶・プライミングなど，日常生活との対応も確認する。更に記憶障害の有名な症例も紹介していく。

【教科書ページ・参考文献】
教科書１１９～１２９ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。記憶についての簡単な検査について予習を進める。
【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１０回　記憶障害
【key words】
記憶障害の実際，認知神経心理学的検査法
【授業概要】
実際の臨床で出会った認知症の症例から，記憶障害の様相を確認する。また簡単な検査法を習熟していく。

【教科書ページ・参考文献】
教科書１２９～１４０ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。検査法に習熟し覚える。

【予習復習に必要な想定時間】
２時間

第１１回　記憶の獲得と忘却・日常認知
【key words】
展望記憶，自伝的記憶を含めた日常認知の過程と機能
【授業概要】
日常認知の中から，特に使用頻度の高い展望記憶と自伝的記憶，更に，偽りの記憶についてもその様相を学習していく。

【教科書ページ・参考文献】
教科書１４１～１６４ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。展望記憶を定着させる方法を考える。教科書第８「カテゴリー化」第９章「知識の表象と構造」について予習を進める。

【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１２回　カテゴリー化と知識
【key words】
人間の言語の特性と障害，問題解決と推論
【授業概要】
概念形成にとって重要なカテゴリー化の機能と過程，及び宣言的知識のイメージと構造，スキーマとスクリプトについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書１６５～２１６ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第１０章「言語理解」について予習を進める。

【予習復習に必要な想定時間】
３時間

第１３回　言語理解と問題解決
【key words】
言語理解の方法とその認知モデル，脳の言語野と失語症，アルゴリズムとヒューリスティックス，帰納法と演繹法

【授業概要】
単語認知のロゴジェンモデルやトライアングルモデル等を確認する。また脳の言語野・脳部位を確認し，失語症についてその病態を知る。問題解決の方法として，アルゴリズムとヒューリスティックス，帰納法と演繹法などについて知識を深める。

【教科書ページ・参考文献】

	教科書２１７～２８１ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。教科書第１３章「認知と感情」について予習を進める。 参考文献：千住　淳(著)，社会脳の発達，東京大学出版会，2012　について読み進める。 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間 第１４回　動機づけ・感情認知・社会脳 【key words】 認知を支える動機づけ，社会脳，表情認知 【授業概要】 感情と認知について，古典的な理論から，最新の知見まで確認する。また社会的認知に特化した社会脳と心の理論について知識を深める。表情認知障害と精神障害等の疾患との関連も紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書３０７～３３０ページ 参考文献：千住　淳(著)，社会脳の発達，東京大学出版会， 2012 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。心の理論課題を一つ作成する。前頭葉機能とその障害例について予習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間 第１５回　前頭葉機能とまとめ 【key words】 前頭葉機能，情動と抑制，認知心理学のまとめ 【授業概要】 感情の中枢である扁桃体と大脳辺縁系，前頭葉の働きとその障害について説明する。また前頭葉機能の簡便な検査であるFrontal Assessment Batteryや流暢性検査の手続きを学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業資料「前頭葉機能とその障害例」，前頭葉機能検査 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の最後に行った確認テスト内容を覚える。前頭葉機能の検査を覚える。 【予習復習に必要な想定時間】 ３時間
受講生に関わる情報および受講のルール	授業態度を確認する為と，国家試験の為の重要事項について，聞いていれば必ずわかる簡単な問題の確認テストを毎回実施する予定である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式，毎回の授業の理解度についてコメントカードにより確認する。
授業外時間にかかわる情報	授業中に必要な文献を適宜紹介するので，文献探索・ダウンロードしておくこと。 授業中に検査や資料を渡すので，ファイルを用意しておくこと。
オフィスアワー	授業の前後20分は対応可能
評価方法	定期試験50%，授業態度30%，確認テスト20％
教科書	箱田裕二・都築誉史・川畑秀明・萩原　滋（著），認知心理学，有斐閣，2010年
参考書	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編），心理学 第５版，東京大学出版会，2020年 千住　淳(著)，社会脳の発達，東京大学出版会，2012
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床発達心理士・公認心理師として，教育委員会の心理判定の他，病院や頭部外傷リハビリテーションセンターにて認知リハビリテーションを行ってきた。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用

	■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 展望記憶の訓練において，スマホのカレンダーやタイマーを利用し，実際に使えるようにする。

講義科目名称：　社会心理学（社会・集団・家族心理学）　　授業コード：3161

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
大野　俊和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　個人が集団や社会の中でどのように振る舞うかについて、適応およびマイクローマクロ関係という視点から社会心理学の基本知識を身につける。また、社会的相互作用を読み解くことで、人間と社会に関する幅広い視野と総合的な知識を身につける。 【到達目標】 ①人の心理や行動について、状況との関係から理解する視点を得る。 ②よりよい人間関係を阻害したり促進する要因について理解し、関係づくりのために必要なことについて考えることができる。 ③社会心理学の視点を学ぶことで集団間の対立を越えるために必要なことについて考えることができる。
授業の概要	「社会的動物」といわれる人間を理解するために、人間の社会性をめぐる社会心理学の知見を、「適応」、「マイクローマクロ関係」という2つのキーワードをもとに整理し、解説を試みる。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	◎
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	人間の社会性をどう捉えるか　ガイダンスと序章 【key words】 【授業概要】 「適応」と「マイクローマクロ関係」という2つのキーワードを用いて人間の社会性を理解する試みについて理解を深めます。 とくに、集団という生活形式の中で生じた適応がより複雑な情報処理能力を生み出してきた可能性を軸に学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	社会的影響過程 【key words】 【授業概要】 集団という生活形式はどのような特徴をもち、人々はその中でどのような行動傾向を見せるのでしょうか。 他者の存在だけで生じる社会的促進、社会的抑制、規範的影響や情報的影響といった社会心理学の古典的な研究を紹介しながら社会的影響の「文法」となるものについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第３回　社会的影響過程
【key words】

【授業概要】
個々人の社会的影響の結果、いったい何が巨視的には起こっているのでしょうか。
社会的影響のマクロ的帰結に関する限界質量モデルやダイナミック社会的インパクト理論について学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　社会的交換
【key words】

【授業概要】
霊長類の中で高度な知性を持つヒトが、協力的な関係をどのように作り出し、集団の中で適応していくのかを「社会的交換」の観点から理解を深めます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　社会的交換
【key words】

【授業概要】
社会的交換の視点から、協力行為や利他性に関する不思議について学びます
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　グループとしての協調行為
【key words】

【授業概要】
グループによる協調行為がどのような特徴をもつのかについてグループを媒介とする適応の観点から学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　グループとしての協調行為
【key words】

【授業概要】
ブレインストーミングを例証しながら、グループによる遂行が少なからず非効率を生み出すことを学びます。
この非効率とグループの耐性とのトレードオフ関係について理解を深めていきます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　社会環境と適応行動
【key words】

【授業概要】
適応論の視点を社会・文化の問題に拡張し、これまでの社会・文化研究での議論を学びます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　社会環境と適応行動
【key words】

【授業概要】
ヒトにとっての適応行動の有効性は、社会環境の性質に左右されます。この点についてパトナムや山岸の研究を紹介し、理解を深めます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　社会的認知のメカニズム
【key words】

	【授業概要】 「適応」と「マイクローマクロ関係」をキーワードにしながら、「個人の心理」について学びます。 ここではとくに、社会的認知の諸研究から社会的知性について理解を深めます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　社会的認知のメカニズム 【key words】 【授業概要】 前回に引き続き、社会的認知の研究の中から、意識的ではない自動的な認知処理過程を取り上げて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　集団間認知とステレオタイプ 【key words】 【授業概要】 集団に対する個人の認知を学びます。内集団びいき、外集団差別など社会的アイデンティティ理論にもとづく研究を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　集団間認知とステレオタイプ 【key words】 【授業概要】 社会的認知研究のうち、集団間認知や行動の背後にあるステレオタイプの性質やステレオタイプ化について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　統合的な社会心理学に向けて 【key words】 【授業概要】 各回を振り返り、あらためて「適応」と「マイクローマクロ関係」というキーワードを振り返り、メタ理論の重要性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　具体的な研究動向の紹介と到達テスト 【key words】 【授業概要】 配偶者選択や殺人に関する進化心理学的研究を学びます。最後に理解を深めるために各回のキーワードに確認のテストを行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 PCを用いて資料の閲覧を行うため、LLもしくはPC室で作業を行う。 〔受講のルール〕 メールでのコメントカード記入を毎回実施する。 各トピックごとに小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	スマートフォンを用いたコメントカードを使用する。
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	金曜日3時限目（206研究室）
評価方法	授業内コメントカード（15%）、小テスト・小レポート（55%）、到達テスト（30%）
教科書	亀田達也・村田光二　複雑さに挑む社会心理学(改訂版)：適応エージェントとしての人間　有斐閣アルマ

	(2010年改訂版)　2010
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 臨床心理学（臨床心理学概論）　　授業コード：3171

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師などに代表される対人援助職に求められる臨床心理学の基礎として，こころの病理・失調，心理アセスメント、心理療法に関する概要（歴史となりたち、概念、意義、適応及び限界）、その知識を有する者としての社会的責任に関する知識を習得すること。 ［到達目標］ ①こころの異常／失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの理論的枠組みについて説明できるようになること ②心理アセスメントの目的と意義，代表的な手法の種類と特徴と適応に関する基礎的な内容について説明できるようになること ③代表的な心理療法のなりたちと概要、特徴的な技法，効果と限界／課題について説明できるようになること
授業の概要	臨床心理学とは，「科学，理論，実践を統合して，人間行動の適応調整や人格的成長を促進し，さらには不適応，障害，苦悩の成り立ちを研究し，問題を予測し，そして問題を軽減，解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では，対人援助職として「こころの失調／異常」を抱える人への適切な対応／他専門家との協働できるようになるための基礎知識を広く取り上げ，その成り立ちや実践との関連を紹介する予定である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約，異常心理学（1）こころの異常・失調をどのように捉えるか 【key words】 異常、適応的基準、価値的基準、統計的基準、病理的基準 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。また、臨床心理学という学問の中で取り上げられる「こころの失調／異常」を捉える視点である4つの基準について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p69-70 参考書：青木省三（2012）「ぼくらの中の発達障害」筑摩書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：講義内で指示を受けた用語の意味を調べてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第２回	臨床心理学のなりたちと展開（1）歴史と社会的背景 【key words】 診断・査定・評価、臨床心理学・カウンセリング・心理療法、臨床心理士、PTSD、公認心理師 【授業概要】 わが国における臨床心理学の成り立ちについて、特に医療や社会情勢との関連を中心に知識を学

ぶ。また、医療との関連で必須となる診断の基準について、各自が作成したレポートを用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p2-9,18-25.
参考書：西井重超（2018）「精神疾患にかかわる人が最初に読む本」照林社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：『心理学理論と心理的支援』などを参考に、問題焦点型／情動焦点型コーピングの定義を調べ、それぞれ身近な例を5つ挙げてまとめること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第３回　異常心理学（2）ストレッサーとストレス反応，対処方略
【key words】
ストレッサー、ストレス反応、コーピング
【授業概要】
ストレッサーとストレス反応の関係性、およびコーピングの関係性とその代表的理論について講義を通じて知識を学ぶ。また、ラザルスの心理社会的ストレスモデルにおけるコーピングの重要性について、各自が作成したレポートを用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p36-37
参考書：マーガレット・M・ホームズ（2015）「子どものトラウマ治療のための絵本シリーズ；こわい目にあったアライグマくん」誠信書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：講義内で指示を受けた用語の意味について教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第４回　異常心理学（3）発達障害と二次障害
【key words】
発達障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、学習症、二次障害
【授業概要】
福祉・教育領域をはじめ、心理的アプローチの重要性が指摘されている発達障害の特徴について、特に代表的な3つを中心に講義を通じて知識を学ぶ。また、その対応や支援を検討する際の視点について、各自が作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p122-127
参考書：札幌市発達障が者支援関係機関連絡会議 就労支援プロジェクト（2017）「職場で使える『虎の巻』；発達障がいのある人たちへの八つの支援ポイント」同市保健福祉局
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：講義内で指示を受けた用語の意味について教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第５回　心理療法（1）精神分析／力動論的アプローチ①理論的背景
【key words】
意識・前意識・無意識（局所論）、リビドー、イド・エス・超自我（構造論）
【授業概要】
「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである精神分析／精神力動的アプローチの成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、実際にクライエントの困難を理解する際の視点について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p146-153
参考書：藤山直樹（2008）「集中講義・精神分析（上）精神分析とは何かフロイトの仕事」岩崎学術出版社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：『心理学理論と心理的支援』などの教科書を参考に、指定された防衛機制パターンの定義と例をまとめること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第６回　心理療法（2）精神分析／力動論的アプローチ①②防衛機制と心理・性的発達段階
【key words】
防衛機制、リビドー、心理・性的発達段階
【授業概要】
精神分析／精神力動的アプローチの特徴の1つである「心の平衡を保つために生じる心の中の働き（力動）」である防衛機制について、その個人差がどのように形成され、どのような形であらわれるのかを中心に講義を通じて知識を学ぶ。また、それぞれの表現型について各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p146-153
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：講義内で指示を受けた用語の意味について教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第７回　心理療法（3）行動療法／行動論的アプローチ
【key words】
レスポンデント条件づけ・系統的脱感作、オペラント条件づけ・トークンエコノミー法、観察学習・SST
【授業概要】
「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである行動療法の成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、具体的な技法とその基盤となった実験の対応について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

教科書：p154-161
参考書：
・三田村 仰（2017）「はじめてまなぶ行動療法」金剛出版
・アダム・ハート=デイヴィス（2016）「パブロフの犬:実験でたどる心理学の歴史」創元社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：講義内で指示を受けた用語の意味について教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第８回　心理療法（4）来談者中心療法／ヒューマニスティック・アプローチ
【key words】
無条件の肯定的関心、共感的理解、自己一致
【授業概要】
「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである来談者中心療法の成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、その理念と技法との対応について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p142-145
参考書：平木典子・藤田博康（編）（2019）「キーワードコレクション カウンセリング心理学」新曜社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：講義内で指示を受けた用語の意味について教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第９回　心理的アセスメント（1）面接法
【key words】
アセスメント、初回面接、ラポール、守秘義務、面接の構造化
【授業概要】
心理アセスメントの諸技法の1つである面接法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、構造化による差異について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p40-47
参考書：高野陽太郎・岡隆（2017）「心理学研究法；心を見つめる科学のまなざし 補訂版」有斐閣
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させて持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第１０回　心理的アセスメント（2）観察法
【key words】
参加観察法・非参加観察法、交流的観察・面接観察・非交流的観察、サンプリング
【授業概要】
心理アセスメントの諸技法の1つである観察法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、観察者の参加形態によって生じる変化と特長について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p48-49
参考書：高野陽太郎・岡隆（2017）「心理学研究法；心を見つめる科学のまなざし 補訂版」有斐閣
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：講義内で指示を受けた用語の意味について教科書等を用いてまとめ、次回のグループワークで他の受講生に説明できるよう準備すること
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１１回　心理的アセスメント（3）検査法①パーソナリティ
【key words】
質問紙法、投影法、作業検査法、テストバッテリー
【授業概要】
心理アセスメントの諸技法の1つである検査法、特にパーソナリティの測定を中心に、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、手法による差異と特長について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p50-53
参考書：高野陽太郎・岡隆（2017）「心理学研究法；心を見つめる科学のまなざし 補訂版」有斐閣
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させて持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第１２回　心理的アセスメント（4）検査法②知的能力・高次脳機能
【key words】
知能検査，神経心理学的検査
【授業概要】
心理アセスメントの諸技法の1つである検査法、特に知的能力・高次脳機能の測定を中心に、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、検査の特徴について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p54-61
参考書：武田克彦・山下 光（2019）「神経心理検査ベーシック」中外医学社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させて持参すること

	【予習復習に必要な想定時間】 15-30 第１３回　臨床心理学のなりたちと展開（2）専門性と社会的連携 【key words】 コミュニケーション、ケース・マネジメント、システム・オーガニゼーション 【授業概要】 これまでに紹介した異常心理学・心理アセスメント・心理療法についての専門職である臨床心理士や公認心理師の実践活動、特に諸領域で共通して必要となる技能を中心に、その特徴について講義を通じて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p10-13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：講義内で紹介のあった領域より1つ選び、その領域における臨床心理学を活用した実践について教科書を用いてまとめて持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 30-60 第１４回　臨床心理学のなりたちと展開　（3）各領域における実践の特徴 【key words】 保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働 【授業概要】 諸領域における臨床心理学を活用した実践活動について講義と各自の作成したレポート課題を用いて知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p260-281 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：講義内で指示のあった追加課題について各自の興味関心と状況に応じて作成を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 120-180 第１５回　臨床心理学のなりたちと展開　（4）職責と倫理、科目のまとめ 【key words】 倫理、法的義務、倫理的ジレンマ 【授業概要】 15回の講義の振り返りを行い、これまでに紹介した異常心理学・心理アセスメント・心理療法についての学んだ者に求められる倫理や法的義務について講義を通じて知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p254-257 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：講義内で受けた指示に沿って定期試験への準備を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・子ども専攻の学生の受講は、内容が大きく異なるため原則として不可とする。特別な理由があって受講を希望する場合には、事前に教務課と担当教員へご相談ください。 ・事前学習の課題作成のため、図書館やPC室／LL室の利用が可能な状態にしておいてください。 ・講義内で事前学習の課題を資料として用いるグループワークを行う機会があります。グループは基本的に教員がランダムに指定します。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布します。前述の事前学習の課題とあわせて、各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管するようにしてください。なくしてしまった場合の再発行はできない場合はあります。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡してください。受講生への伝言等による連絡は過去にトラブルがありましたので、行わないようにしてください。 ・事務局への事前連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布や課題の後日提出を認めます。 ・教科書を毎回持参してください。 ・授業中は、講義に集中するため、私用での携帯電話、スマートフォン、タブレット端末の使用せず、卓上にも置かないでください。 ・もちろん、授業中に実習先等からの連絡がある予定等、何らかの事情で確認や使用が必要な場合には使用・卓上に置くことを認めます。その回の授業開始前に担当教員にご相談ください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	次回内容の予習にあたる「用語調べ」や「事例検討」を事前学習として課すため，シラバスの記載内容や授業内での指示をよく確認するようにしてください。この事前学習の課題を用いて、授業時間中のグループワークを行うため，各自の積極的かつ真摯な取り組むを望みます。
オフィスアワー	初回に指示します。
評価方法	事前学習／授業内課題の提出の評価：25%，提出された課題内容／取り組みの評価：35%，定期試験：40%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　（2009）　［注］第11版以降を購入すること
参考書	本学図書館に所蔵のある書籍やウェブ上で公開されている資料などを各回の授業テーマや課題に応じて適宜紹介します。購入の必要はありませんが、興味を持った場合には各自で手に取ってみてください。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	教育機関・福祉施設での心理職経験 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理療法（心理学的支援法）　　授業コード：3221

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師に代表される対人援助職に求められる心理療法並びにカウンセリングに関する基礎的な知識を理解し，事例への適用について考察することができるようになること。 ［到達目標］ ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適用、その限界について説明できるようになること ②福祉，保健医療，教育等の領域における訪問による心理的支援や地域での実践の意義について説明できるようになること ③心理学的支援における留意点や倫理的配慮を想定できるようになること
授業の概要	心理療法は，臨床心理学の知見を応用した心理的支援の技法の総称であり，各々の背景には理論・歴史，特徴，効果と限界，特徴が存在する。本講義では「心理的支援が実施できるようになること」ではなく，これまでの講義で学んできた「心理的支援に関する理解」を深め，対人援助職を目指す／対人援助職として活躍する中で，その知識を活用できるようになることを目指す。そのため，講義では出来る限り演習形式や疑似体験を含めた体験的な学びを行う予定である。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約，心理療法とカウンセリングの歴史 【key words】 臨床心理学の全体構造　カウンセリングと心理療法と臨床心理学の違い　日本の臨床心理学の課題 【授業概要】 【講義の進め方】 ①出席の確認 ②ミニテスト ③テーマの確認 ④テーマについて、グループディスカッション ④次回までの課題提示(レポート等) 【授業の目標】 日本の臨床心理学には、森田療法や内観療法といった心理療法もあるが、基本的には欧米からの移入によって成立し、発展したのが日本の臨床心理学の歴史である。現在、日本の臨床心理学は、大きな転換点に立っている。外国から移入した各学派の理論を越えて、日本の社会的現実に根差した臨床心理学の統合と再構築が求められている。日本の臨床心理学の歴史を概観する。 【教科書ページ・参考文献】 P18-P25（6世界の臨床心理学の歴史　7日本の日臨床心理学の歴史） 資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予

習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２回　基礎となる3つの考え方（１）精神分析療法／力動的アプローチ
【key words】
Freud,S.　無意識と意識　精神分析の古典的技法（自由連想法・介入・会社ぅ・抵抗の分析・夢の分析・転移

【授業概要】
フロイトによる精神分析理論を学ぶ。精神分析の古典的分析技法にはどのような技法があるのかを学習する。ディスカッション：グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P146～P153（3.精神分析 4.分析心理学）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　〃　（２）行動療法／行動的アプローチ
【key words】
レスポンデント行動　オペラント行動　学習理論　古典的条件づけ　オペラント条件づけ

【授業概要】
ディスカッション：グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。現在の行動療法は、仮説検証を目指す実証的なアプローチを共通基盤に持ち、「行動科学から引き出された知識と系統的に利用して人間の問題の把握と編用意応用する技術の総体」として理解されている。授業では、行動療法における学習と行動を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
P154～P157(5.行動療法)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　〃　（３）来談者中心療法／ヒューマニスティック・アプローチ　面接技術
【key words】
クライエント　非指示的アプローチ　逐語記録　無条件の積極的関心　共感的理解　自己一致

【授業概要】
クライエント中心療法は、アメリカの心理療法家であるロジャーズによって提唱された。理論の基本について学ぶ。事前に調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P142～P143（2.クライエント中心新療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　エビデンスを重視する心理療法：認知療法と認知行動療法
【key words】
認知行動理論　エビデンスベイスト　ABC理論　推論のあやまり　三項随伴性（刺激ー反応ー結果）

【授業概要】
治療の有効性が厳しく審査される欧米において、クライエントの恩恵を最大限にすべく効率性を実証し、社会的な説明責任を全うしようとする認知行動療法が心理療法の中核的地位を占めるに至っている。その成り立ちを学ぶ。事前に調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P158～P161（6.認知行動療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　個人ではなくシステムに働きかける心理療法（１）家族療法／システムズ・アプローチ
【key words】
IP(Identitied Patient)　円環的因果律　家族システム論

【授業概要】
家族療法は個人を取り巻く家族をひとまとまりの単位として心理療法の対象とする。IPとは「患者とみなされる人」という意味であり、IPが示す問題行動や症状は、個人だけではなく家族のSOSであるとみなされる。事前に調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。代

表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P162～P165（7家族療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　〃　（２）アウトリーチとコミュニティ心理学
【key words】
地域精神保健活動　心理的社会的問題　社会的文脈のなかの人間　人と環境への働きかけ　社会構成主義　相対主義的性質

【授業概要】
コミュニティ心理学は、1960年代の米国において、地域精神保健活動を母体として誕生した新しい心理学の分野である。コミュニティ心理学の実践の場も変容を続けている。調べてきた内容・用語をグループ内で他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P166～P171(8コミュニティ心理学 9ナラティヌ・セラピー)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　日本独自の心理療法：森田療法、内観療法、動作法
【key words】
森田療法の「ヒポコンドリー現象」　内観療法の「身調べ」　動作法の心身一元「現象」

【授業概要】
日本で生まれた心理療法について、理論と方法を学ぶ。動作法は実際に体験する。調べてきた内容・用語をグループで他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P172～177（10動作法　11森田療法　12内観療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　『ことば』に頼らない心理療法（１）遊戯療法
【key words】
遊ぶことの意味　アクスラインの8原則　問題解決を促すかかわり

【授業概要】
遊戯療法では、子どもとセラピストが遊びに集中できるための枠組みが重要になる。枠組みとはどのようなものか、遊ぶことにはどのような意味があるのか学ぶ。調べてきた内容・用語をグループ内で他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
p178-p179（1遊戯療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　〃　（２）表現療法・箱庭療法・コラージュ療法
【key words】
「選ぶ」「置く」「切る」「貼る」

【授業概要】
箱庭療法はイメージを媒介する介入方法の一つである。たくさんのミニチュアからいくつかを「選んで」、それらを「箱」のなかに「置く」。箱庭療法の意義をを学ぶ。表現療法・コラージュ療法の理論・技法を学ぶ。実際に体験する。調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
p180～p181（2箱庭療法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　技法に特徴を持つ心理療法（１）ブリーフセラピー／短期療法
【key words】
受動的注意集中　標準練習　特殊練習　黙想練習　気持ちが落ち着いている

【授業概要】
ディスカッション：グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。自律訓練法は、心身安定のための心理整理学的訓練法で、一定の言語

公式を心の中で反復的に唱え、その公式の内容に受動的注意集中を行って、段階的に心理生理的再体制化をはかる方法である。その効果を体験的に学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P186-P187（5自律訓練法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　〃　（２）トラウマの治療

【key words】
自己表現　アサーション　非主張的表現　攻撃的表現　「私もOK、あなたもOK」

【授業概要】
【授業概要】
アサーションとは、「自分の気持ち・考え・意見・相手への希望などを伝えたいときには、なるべく素直に、その場にあった適切な方法で杖たる自己表現」すること。その根底には、人間一人ひとりが頃なる価値観や考えをもち、表現することを基本的人権として大切にしようとする理念がある。相手も自分も大切にする表現とはどのようなものかを学ぶ。
グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P196-P197（10アサーション・トレーニング）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　集団に対する心理的支援：エンカウンター，こころの健康教育,心理教育，SST,コンサルテーション

【key words】
ファシリテーターと複数のメンバー　グループ・ダイナミクス　対人関係

【授業概要】
集団療法は、集団を対象とした心理療法であり、セラピストあるいはファシリテーターと複数のメンバーによって行われる。集団療法の種類や特徴を学ぶ。調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P198～P207（1集団療法　4心理教育）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　福祉、保健医療、教育等の分野における心理的支援の実際　プライバシーの配慮や倫理

【key words】
被害・被災とトラウマ反応　心理的反応　適応の援助　文化の問題　従業員援助プログラム　行動側面に注目

【授業概要】
【授業概要】
衝撃的で強いすとれすとなる出来事に巻き込まれたときに、さまざまな精神的な変調を生じることがあり、これをトラウマと呼んでいる。こうしたトラウマ体験への多様な心理的反応を知り、どのような対応ができるのか考える。調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P218-P223（15被害者相談　6異文化間カウンセリング　7 EAP）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１５回　まとめ

【key words】
死への心理的プロセス　ターミナルケア　緩和ケア　精神的ケアの重要性

【授業概要】
ターミナルケアとは、積極的治療を中止し、人生ののこりの時間をできるだけ少ない苦痛で、安らかに、質の高い時間の中で過ごすことを目的にしている。調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。

【教科書ページ・参考文献】
P226-P227（9ターミナルケア）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
全講義のまとめ
【予習復習に必要な想定時間】
90分

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。 〔受講のルール〕

	・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・その他，詳細についてはシラバスを参照すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	シラバスにのっとり授業を進める。したがってシラバスで紹介した内容を事前に予習をしておくこと（レポート提出）。 毎回、授業の初めに前回の授業内容が把握できているか確認のためにミニテストを行うので復習をしておくこと。 また授業内での指示に留意すること。
オフィスアワー	火曜17時～18時。それ以外の時間を希望する場合には，応相談。
評価方法	■筆記試験60%　■ミニテスト20%　■事前学習10%　■レポート課題の提出10%
教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　［注］第11版以降を購入すること
参考書	下山晴彦（編）公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　医学書院　(2016) 福島哲夫（編）公認心理師　必携テキスト　学研　(2018)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など15年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 人格心理学（感情・人格心理学）　　授業コード：3261

英文科目名称： Psychology of Emotion and Personality

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 自分や自分以外の人がどのような人かを考える心理学的視点について、「人格（パーソナリティ）」と「感情」に注目しながら、人が生きている大きな時間的空間的な背景にも注目し、多面的に人とその人生をとらえる力を養うことを目的とする。 【到達目標】 ①人とその心の全体的な理解をめざして、多様な人格（パーソナリティ）理論と感情のメカニズムについて理解できる。 ②すべての人に共通する視点、集団の一員としての人を理解する視点、一人ひとり個別の人間を理解する視点という三層の視点を養う。 ③人格と感情の機能や構造を理解し、その人それぞれに出会うであろう危機や回復についての道筋をイメージすることができ、「人がその人らしく生きる」ことを心理学的に支援する方法を描ける。
授業の概要	・教科書に沿いながら、まず「人格（パーソナリティ）」に関する理論や研究を全般的に見ていく。そして、後半には時として人の行動を強く規定する「感情」について参考書を基に学んでいく。 ・この授業を通して、普通に生きる人のあり方やその感情の動きはもちろん、時に了解しがたい次元に行ってしまう人の心理をも理解し、それも人の心のある意味自然な働きとしてとらえる枠組みなどもつかみながら、深い人間理解に根差した人間観、人生観を磨く機会にしてもらいたい。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	どうして人は誰かの性格をきめつけるの？：科目オリエンテーション 【key words】 内集団・外集団、個人差、基本的な統計的手法、構成概念、統制過程と自動過程、ステレオタイプ、偏見、内集団ひいき、相貌学、体系によるパーソナリティ分類、ハロー効果、血液型ステレオタイプ、確証バイアス 【授業概要】 ・15回の授業の流れと目標などについて、科目のオリエンテーションを行います。まず、ある人に関心をもったとき、その人を端的な特徴に基づき単純化して捉える人の傾向性について学び、人が人と関わるときに何に基づいて振る舞いを決めているかについて検討します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1-21ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会心理学で基本的に扱う内容となるので、なるべく社会心理学の教科書を持参しながら受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第２回	性格の個人差などは、存在しないのでは？：社会構成主義のパーソナリティ観 【key words】 パーソナルコンストラクト理論（ケリー）、if...then...行動パターン、パーソナリティの一貫性、基本的帰属のエラー、対応バイアス、状態と特性

【授業概要】
パーソナリティというものが人の中に実態として存在するようなものではなく、状況に応じて場面場面で作られていくという考え方を基本的にとる立場の社会構成主義的な考え方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書22-34ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケリーのパーソナルコンストラクト理論についてあらかじめ予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第３回　類型としてとらえるパーソナリティ、特性でとらえるパーソナリティ
【key words】
ユング、外向、内向、キャッテルの特性論、アイゼンクの2軸、ビッグファイブ理論、オルポート、
【授業概要】
どのようにパーソナリティが形成されるかの論争とは別に、心理学の大きな課題として、人のパーソナリティを客観的に理解するにはどうすればよいかというテーマがある。今回はその基本となる類型論と特性論に基づくパーソナリティ理解のあり方について、様々な心理学者の考えを基に学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書35-46ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所について予習をしておくこと。またそれに基づいて作られたパーソナリティ検査についても調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　遺伝はパーソナリティのあり方にどう影響していると考えるべきか？
【key words】
遺伝、ポリジーンモデル、遺伝的多様性、クロニンジャー、行動遺伝学、共有環境、非共有環境
【授業概要】
自分の中に生まれながらにあって、歳をとるごとになおかつ影響を及ぼし続ける「遺伝」の影響について学んでいく。まだまだ不明な点も多い遺伝の影響であるが、「行動遺伝学」などの研究を理解し、どのように遺伝の影響を考えるべきかについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書47-62ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「「犯罪者」の先祖をもつ子どもがいたとしたら「犯罪者」になりやすいのか？」という問題について、いろいろ調べて自分なりの答えを出せるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　遺伝と環境の相互作用によるパーソナリティ形成の考え方
【key words】
新相互作用論、当為自己、理想自己、ＣＡＰＳ、パーソナリティの神経基盤、精神力動モデル、対話的自己（ハーマンス）
【授業概要】
遺伝の影響は侮れないが、それが決定的な要因になるとはいえない。遺伝はパーソナリティの基盤を作りながらも、生まれ育つ環境の中でどのようなことを学びながら生きるのかという環境との相互作用のあり方を理解する必要がある。ここでは、基本的に相互作用的にパーソナリティが形成されるメカニズムをモデル化した理論を学び、パーソナリティを多面的に動きのあるものとして見る視点を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書63-73ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
フロイト、ハーマンスの理論について予習をし、彼らの見方からどうパーソナリティのあり方を説明できるかを確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第６回　パーソナリティは変わるもの？変わらないもの？
【key words】
トーマスとチェス、ニューヨーク縦断研究、乳児期の３タイプ、愛着（アタッチメント）、ストレンジ・シチュエーション法、愛着スタイル、アイデンティティ地位論、モラトリアム、マクアダムスの3層構造
【授業概要】
パーソナリティは生まれた時と青年期、また老年期では同じだろうか、違うだろうか。それぞれどんなところが変わって、そして変わらないのだろうか。今回はそんな疑問に対して、発達心理学の研究から答えを考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書76-83ページ　（青年期、パーソナリティの形ができあがってくるまで）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パーソナリティを層構造としてとらえる視点について、特に復習をしっかりしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間、復習3時間

第７回　パーソナリティの完成ってあるの？　成人期・老年期のパーソナリティ
【key words】
親密性、生殖性（ジェネラティビティ）、中年期の危機（ミッドライフクライシス）、個性化（ユング）　ライフレビュー（バトラー）、後悔、老延期超越
【授業概要】
青年期を通過する間に、人それぞれのパーソナリティが明確になってくる。それに伴い、それぞれのパーソナリティの偏りやくせ、課題も明確になってくる。良い悪いは別として、そうした課題を抱えながら中年期以降に現れる、中年期の危機と「個性化」の過程について理解し、人格の全体を生きるという視点から人とその人生を捉える見方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書84-86ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ユングの個性化について予習をし、ある程度人に説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第８回　心の中に生きる過去の私（パーソナリティ）と向かい合うこと
【key words】
（映画）ベルイマン監督『野いちご』、エリクソン『老年期』
【授業概要】
ここまで学んだことのまとめとして、エリクソンの『野いちご』の分析を紹介し、ともに学んでいく。ベルイマン監督の映画『野いちご』は、ある高名な医師の晩年の一日の様子を描いたロードムービーであるが、そこには彼の一生の問題や彼のパーソナリティの問題が豊かに描かれている。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　論文から
【課題・予習・復習・授業準備指示】
この回までに、借りるなどしてベルイマン監督『野いちご』をあらかじめ視聴しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第９回　パーソナリティの測り方とは？
【key words】
観察法、実験法、面接法、質問紙法、投影法、
【授業概要】
これまでの心理学の歴史において、多様な方法とスタイルでパーソナリティを測ろうとする試みが行われてきた。他の教科でもすでに有名な心理検査を学習済みだと思われるので、そうした検査の解説というより、そうしたものを利用した研究などについて解説し、パーソナリティを測ることの意義や方法について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書87-112
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習3時間、復習1時間
【予習復習に必要な想定時間】
今あるものとは別に、自分が独自に客観的にパーソナリティを測りたいと仮定したとき、何をどう図ればよいかについて、学生なりの考えを説明できるようにしておくこと。

第１０回　パーソナリティに問題がある場合、臨床ではどうすればいいの？：パーソナリティ障害と心理臨床
【key words】
DSM-5、パーソナリティ障害、Ａ群、Ｂ群、Ｃ群、自己愛性人格障害、パーソナリティ障害、愛着障害
【授業概要】
パーソナリティのあり方自体に生きづらさを生む問題を抱え込みながら生きる人がいる。現在増えていると言われるこの障害は薬物療法そのもので問題が解決しにくい面もあり、専門家も忌避することが多いという。ここで、このパーソナリティ障害について、参考書を参照しながら、じっくりと考えてみたい。そして、具体的にどのような点が問題になるか、またどのようにして回復の道が開かれるのかを学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書113-116㌻、鍋田恭孝（2007）『思春期臨床の考え方・すすめ方』（金剛出版）、レイチェル・レイランド（2007）『ここは私の居場所じゃない：境界性人格障害からの回復』（星和書店）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書該当ページ、ＤＳＭ、参考文献などを調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１１回　普遍言語としての「感情」と、パーソナリティと感情の関係
【key words】
情動の文化理論、エクマン、高次認知的情動、基本情動の価値、罪悪感、愛情、復讐心の進化、道徳的感情
【授業概要】
動物に比較するとはるかに複雑に発達をしている「感情」が、人に普遍的にパーソナリティに備わっているのはなぜか。エヴァンズの参考書に沿いながら、進化論の観点からまず普遍言語のように備わる人の感情について学んでいく。そして、人それぞれにもっている感情の強さが、どのようにそのパーソナリティに関わっているかについても検討する。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献1-63㌻の中からトピックを抜き出して扱う。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
可能であれば参考書を手に入れること。なければ借りたり他の感情に関する図書に目を通しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１２回　感情心理学からみた幸福への近道
【key words】
幸福感（happiness）、喜び（joy）、世界幸福感データベース、デブリーフィング、ベック、認知療法、情動のカタルシス論、デブリーフィング、至高体験（マズロー）、フランクル
【授業概要】
人にとって満足をもたらす快感や幸福感を引き起こす要素は共通であるとはいえないが、ある意味でそれぞれの人が感じる幸福感の要素の中に、その人の個性もあるといえよう。また、中には幸福感を避けて通るような思考回路を形成する人もいる。こうした幸福を感じさせる感情が、いかにある人の人生と結びつくのかについて、様々な角度から探ってみる。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献64-105㌻、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
マズローの「至高体験」について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

	第１３回　感情と心の健康とパーソナリティ 【key words】 タイプＡ、タイプＢ、タイプＣ、タイプＤ、アレキシサイミア（失感情症）、自閉症、サイトカイン、オキシトシン、シナプスの刈込、自殺 【授業概要】 参考文献に基づき、感情のコントロールに課題をもつ感情障害について理解を深めていく。その基本的メカニズムを学びながら、事例も通して、人が自分の中から出てくる感情をうまく扱えないという状態について共感的に理解するための専門的な知識を得る。 【教科書ページ・参考文献】 島　義弘（2017）『パーソナリティと感情の心理学』（サイエンス社）、乾　敏郎（2018）『感情とはそもそも何なのか』（ミネルヴァ書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「感情障害」についてあらかじめ調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１４回　コンピューターは果たして感情を持ちうるのだろうか？：泣いたコンピューター 【key words】 感情的コンピューティング、動く主体の顔、キスメット、いくつかの映画（『ロスト・エモーション』『ブレード・ランナー』『Ａ・Ｉ』など）から 【授業概要】 コンピューターはすでにいくつかの感情を識別できるようになっている。しかし、今のところ、情動を持つかのようなコンピュータプログラムは作れても、実際の感情をもったロボットを作れる段階にはない。映画の世界では、はるかに実験的な世界がいくつも描かれており、そうした思考実験的な世界をもとに、感情とパーソナリティの関係について考えてみたい。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ、この授業時間までに上記の映画について、一つでも視聴をしておくようにすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１５回　まとめにかえて：偉い人（パーソナリティ）とはどういう人か 【key words】 偉人、人格の3次元（Ｘ，Ｙ，Ｚ）（西平直喜）、健康な人格（パーソナリティ） 【授業概要】 ・人格心理学の総まとめとして、様々に学んだことも通しながら、では、「理想的なパーソナリティ」とはどのようなものかについて考えていく。 ・「健康な人格」についてまとめた、シュルツの考えを参考に、よりよい生き方、あり方には何が必要なのかを考え、授業をしめくくる。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント、西平直喜（2004）『偉い人とはどういう人か』（北大路書房）、シュルツ（1982）『健康な人格』（川島書店） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・あらかじめ、「健康なパーソナリティ」だと思われる偉人などについて調べ、説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・選択科目ではあるが、社会福祉士や公認心理等国家資格に関連する基礎知識も扱うので、受験を考えている学生は積極的な受講を期待する。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用等）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象となるので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業概要を参考に、次回の授業範囲を読了して授業に臨むこと。授業時に発言を求めながら確認をする。
オフィスアワー	火曜日　11：00～13：30
評価方法	・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点６０～６９点：C　７０～７９点：B　８０～８９点：A　９０点以上：S ・期末試験７０％、小レポート・感想文等提出物３０％（３０÷提出回（予定3回）＝１提出物得点（１回10点満点：提出により得点））
教科書	鈴木公啓・荒川歩・太幡直也・友野隆成（2018）『パーソナリティ心理学入門：ストーリーとトピックで学ぶ心の個性』（ナカニシヤ出版）
参考書	・ディラン・エヴァンズ（遠藤利彦訳）『感情』（岩波書店） ・Dan.P.McAdams The Person:An Introduction to the Science of Personality Psychology .(5th edition). Wiley.,USA.2009. 他適宜指示。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　司法・犯罪心理学　　授業コード：3271

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
西中　宏吏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	我が国の司法システムや関係する法律・制度、犯罪心理学の諸理論について理解し説明できるようになること、司法・犯罪領域における公認心理師の業務について理解しその基礎を身につけることを目的とする。
授業の概要	犯罪心理学が関わるテーマを幅広く扱う。我が国の、司法システムや関係する法律・制度、犯罪心理学の諸理論、犯罪者に対するアセスメントや処遇、被害者の支援などについて講義を行い、必要に応じてディスカッションの時間を設ける。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション 【key words】 司法・犯罪心理学 【授業概要】 犯罪心理学のイメージと実際、犯罪心理学がカバーする範囲などについて概説する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：入門　犯罪心理学（ちくま書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 犯罪心理学についての自分のイメージを明確にしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第2回	司法・犯罪心理学に関する法律と制度 【key words】 刑事司法手続き、少年司法手続き、医療観察法、裁判員制度 【授業概要】 我が国の司法制度や関連する法律について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第3回	犯罪原因論（１） 【key words】 犯罪の生物学的要因 【授業概要】 犯罪の生物学的研究や諸理論について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、犯罪心理学　犯罪の原因をどこに求めるか（培風館） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学

【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第4回　犯罪原因論（２）
【key words】
犯罪の社会学的要因
【授業概要】
犯罪の社会学的要因や諸理論いついて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、犯罪心理学　犯罪の原因をどこに求めるか（培風館）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第5回　犯罪原因論（３）
【key words】
犯罪の心理学的要因
【授業概要】
犯罪の心理学的要因や諸理論について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、犯罪心理学　犯罪の原因をどこに求めるか（培風館）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第6回　犯罪者のリスク・アセスメントおよびリスク・マネジメント
【key words】
リスク・アセスメント、リスク・マネジメント、リスク要因、保護要因
【授業概要】
犯罪者のリスク・アセスメントおよびリスク・マネジメントについて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：HCR-20第２版　暴力のリスク・アセスメント（星和書店）、HCR-20コンパニオン・ガイド暴力のリスク・マネジメント（星和書店）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第7回　犯罪者処遇（１）
【key words】
施設内処遇、刑事施設
【授業概要】
主に刑事施設における心理学の専門家の役割と犯罪者の処遇について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第8回　犯罪者処遇（２）
【key words】
社会内処遇、更生保護
【授業概要】
更生保護における心理学の専門家の役割と犯罪者の処遇について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第9回　犯罪者処遇（３）
【key words】
少年法、少年事件
【授業概要】
非行少年の処遇における心理学の専門家の役割について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第10回　家事事件の心理学
【key words】
家事事件、離婚、児童虐待
【授業概要】
家事事件における制度や法律および心理学の専門家の役割などについて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房）
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第11回　被害者支援 【key words】 犯罪被害、トラウマ、被害者支援 【授業概要】 犯罪被害者に対する心理的支援について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第12回　精神鑑定 【key words】 責任能力、刑事精神鑑定、医療観察法鑑定、心理鑑定 【授業概要】 精神鑑定における制度・法律および心理学の専門家の役割について説明する 【教科書ページ・参考文献】 参考：刑事精神鑑定ハンドブック（中山書店） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第13回　医療観察法制度 【key words】 医療観察法の目的、疾病性、治療反応性、社会復帰要因 【授業概要】 医療観察法制度と心理学の専門家の役割について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：刑事精神鑑定ハンドブック（中山書店） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第14回　犯罪予防と犯罪対策と心理学 【key words】 犯罪予防、犯罪対策 【授業概要】 犯罪予防と犯罪対策における心理学について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房）、非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、入門　犯罪心理学（ちくま書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第15回　総括 【key words】 司法・犯罪心理学 【授業概要】 これまでの授業の振り借り、総括 【教科書ページ・参考文献】 これまでの配布資料および参考資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	欠席等により授業で配布する資料を取得できなかった場合、予備は保管しないので出席者に依頼しコピーをとること。 携帯電話等は音の出ない設定にし、使用を控えること（緊急の場合を除く）。 予習、復習を行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布した資料や参考文献を精読し、理解すること。必要に応じて小レポートを課す場合があるので、次回授業時に提出すること。
オフィスアワー	授業後２０分間対応可能
評価方法	平常点（60%）、レポート（40%）
教科書	授業時に配布するレジュメ等の配布資料
参考書	適宜指定する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉法制（関連行政論）　　授業コード：3301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　社会福祉は、憲法25条にその根拠を置くが、その多くは、憲法25条を具体化した福祉六法等の社会福祉に関する法律に基づいて運営される。従って、社会福祉をはじめとする相談援助を志す者は、この社会福祉に関する法律を知り、理解することが不可欠である。この授業は、社会福祉法制の歴史を踏まえた上で社会福祉に関する法律を理解し、法的な面からの社会福祉の考察を目指す。 【到達目標】 ①社会福祉と法の通史的観点を身につける。 ②六法で条文を調べることができる。 ③社会福祉六法等につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ④法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	社会福祉法制の歴史、憲法との関わりを明らかにした上、社会福祉法及び社会福祉6法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、介護保険法、そして、障害者自立支援法などを例にとり、概説する。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー（DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	◎
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、社会福祉法制の意義と体系 【key words】 社会福祉法制　社会保障　社会福祉　公的扶助 【授業概要】 社会福祉法制の意義と体系について説明をする。 個々の社会福祉概念につき説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 プリント１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】プリント２pp1~2、資料pp12~15 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	社会福祉の法と行政のあゆみⅠ 【key words】 鰥寡条　目盲条　恤救規則 【授業概要】 古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント２pp1~2、資料pp12~15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】プリント２pp3~4、資料pp16~19 【予習復習に必要な想定時間】 60分

	第３回	社会福祉の法と行政のあゆみⅡ 【key words】 鰥寡条　目盲条　恤救規則 【授業概要】 古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント２pp3~4、資料pp16~19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】プリント３ 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	日本国憲法と社会福祉 【key words】 幸福追求権　生存権　公的助成　地方自治 【授業概要】 社会福祉法制の基礎となる日本国憲法について、特に関連する事項について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp27～32、pp67～68 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	社会福祉法Ⅰ（理念・目的、定義、実施機関・専門職務者など） 【key words】 目的・理念　社会福祉事業　福祉事務所 【授業概要】 社会福祉法の目的・理念、定義、福祉事務所等の実施機関・専門職務者などについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp27～32、pp67～68 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp32～67 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	社会福祉法Ⅱ（社会福祉法人、社会福祉事業、地域福祉の推進など） 【key words】 社会福祉法人　社会福祉事業　福祉サービス 【授業概要】 社会福祉法人について説明する。 社会福祉事業の主体、経営準則、福祉サービスの制度等につき説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp32～67 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書 pp98～104 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	生活保護法Ⅰ（目的・理念、原理・原則、実施機関と専門職務者、収入認定など） 【key words】 目的・理念　原理・原則　福祉事務所、収入認 【授業概要】 生活保護法の目的・理念　原理・原則を説明する。 福祉事務所といった実施・現業機関や専門職務者に就き説明をする。 保護決定のための収入認定について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 pp98～104 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp104～120 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	生活保護法Ⅱ（保護の決定・実施、保護の種類・範囲・方法、保護施設、被保護者の権利義務など） 【key words】 保護の決定・実施　保護の種類・範囲・方法　保護施設　被保護者の権利義務 【授業概要】 保護の決定・実施、それに基づく保護の種類・範囲・方法、保護施設について説明をする。 保護を受ける被保護者の権利および義務について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp104～120 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp168～248 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	児童福祉法 【key words】 児童　児童相談所　児童福祉事 【授業概要】 児童福祉法の基本理念、対象、実施期間、事業・施設について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 pp168～248 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp308～321　資料(教育基本法、少年法) 【予習復習に必要な想定時間】

	60分 第１０回　母子及び父子並びに寡婦福祉法、教育基本法、少年法（刑法との関連から） 【key words】 母子等　寡婦　児童福祉審議会、教育基本法、少年法、刑法 【授業概要】 母子及び父子並びに寡婦福祉法の目的、定義、サービス等を説明する。 児童・未成年保護の観点から教育基本法、少年法（刑法との関連して）についても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 pp308～321　資料(教育基本法、少年法) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp617～627 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１１回　身体障害者福祉法 【key words】 身体障害者　身体障害者更生相談所　身体障害者福祉司　身体障害者手帳　身体障害者更生施設 【授業概要】 身体障害者福祉法の目的・理念、定義、実施機関等について、身体障害者手帳、身体障害者福祉法のサービス・施設について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp617～627 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp654～681 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１２回　知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 【key words】 知的障害者　療育手帳　精神障害者　精神障害者保健福祉手帳 【授業概要】 知的障害者福祉法と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律を比較しつつ、それぞれの目的、定義実施機関等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp654～681 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp559～602　資料(労働三法、労働安全衛生法 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　障害者総合支援法、労働三法、労働安全衛生法 【key words】 目的・理念　障害者　応能負担、労働三法、労働安全衛生法 【授業概要】 障害者総合支援法の目的、基本理念、定義、サービス等を説明する。 就労支援に関連して労働三法、労働安全衛生法についても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 pp559～602　資料(労働三法、労働安全衛生法) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp323～336、pp377～513 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　老人福祉法、介護保険法 【key words】 老人福祉法、介護保険法、老人、被保険者、要支援、要介護 【授業概要】 老人福祉法、介護保険法の目的、定義、サービス等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp323～336、pp377～513 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書（主だった条文）、プリントの見直し 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 社会福祉法制の体系　社会福祉法制のあゆみ　福祉六法　障害者総合支援法　介護保険法 【授業概要】 社会福祉法制に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（主だった条文）、プリントの見直し 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわ	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。　また、別掲の参

る情報	考書での学習も、お勧めします。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉六法」ミネルヴァ書房，2019年
参考書	宇山勝義 他 編「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房，2010年 河野正輝 他 編「社会福祉法入門 第3版」有斐閣，2015年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 臨床心理学特論（神経・生理心理学）　　授業コード：3341

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】大脳を中心とした中枢神経系の構造と活動(すなわち、高次脳機能)は、ヒトが生きていく上でのさまざまな心理事象・認知行動の生物学的基盤そのものであり、その基盤自体を支持・応用するものでもあります。その一方で、高次脳機能障害の様子に対する世間一般の理解のしかたとしては多彩ゆえに不可解な印象をもちやすいともいえ、当事者の心理的ケアはそのリハビリテーション上 極めて重要です。その支援に携わる心理専門家は、一見不可解なその当事者の心の成り立ちや仕組みについての科学的理解・根拠にもとづくことが必須であるといえます。本授業では、その素養である神経・生理心理学の知識と考え方を教授し、症例等も提示しながら立体的・有機連関的な当事者理解に導きます。 【到達目標】 1)中枢神経系の構造と機能の概要を説明できる。2)心理事象・認知行動の生理学的基盤・機序を概説できる。3)高次脳機能障害の病態を説明できる。4)多彩な高次脳機能障害児者の多様なリハビリテーションに伴なう心理的ケアのポイントとその根拠を説明できる。
授業の概要	1)中枢神経系の構造・構成と機能・情報処理について、視覚的に講じ、2)認知行動の各側面とそれに与る中枢神経系部位等の対応関係(機能局在と神経連絡)をおさえます。その上で、3)脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患の各病態を概観し、高次脳機能障害の臨床症状群を理解し、4)当事者のリハビリテーションにおける心理的ケアのポイントと根拠について言及します。

■当科目の社会福祉学部ディプロマポリシー (DP)との関係
◎＝DP達成のために、特に重要な事項　○＝DP達成のために、重要な事項△＝DP達成のために、望ましい事項

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　ヒトの心理事象とその生物学的基礎　神経・生理心理学を学ぶ意義 【key words】 精神機能　行動　生物学的基盤　全体論と局在論　研究方法 【授業概要】 心と脳は“同一”のものであるという作業仮説にもとづいて、多彩な精神機能・行動と脳との関係をどのように考えるか、その学問的背景を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 pp.1-10、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第２回	神経系の解剖・生理　1　神経系の構成と情報伝達　連絡線維　髄鞘化　神経系の発生と成長・発達 【key words】 神経細胞（ニューロン）　グリア細胞　血液-脳関門（BBB）　神経信号伝達の物理/化学　跳躍伝導 【授業概要】 神経活動の基本単位であるニューロンの機能解剖を概観し、特に中枢神経系の発達（髄鞘化）にともなう跳躍伝導が迅速な認知行動の下地であることを理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.11-13,18-46、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第３回　神経系の解剖・生理　２　大脳の3次元構成　皮質と皮質下　機能局在と全体　連合野　　脳動脈系　画像診断

【key words】
前頭葉　頭頂葉　側頭葉　後頭葉　大脳基底核　視床　機能局在　連合野　脳血管系　責任病巣　CT/MRI
【授業概要】
大脳の各部位(脳葉皮質および皮質下構造)が分担しかつ統合する生理・心理機能とあわせて、それらを維持するのに不可欠な栄養・酸素供給の仕組み(脳血管系・脳血流)を知り、臨床上基本的な画像診断情報について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第４回　小テスト　１　および　神経活動の背景・一般機能　意識　注意　認知適応のための構え

【key words】
意識レベル　見当識　感情　気分　意欲　(汎性)注意　精神反応　機能変動

【授業概要】
臨床上、大脳巣症状に多様に影響をおよぼし修飾しうる大局的・全体的な背景機能・一般機能の状態について考えます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第５回　視覚　聴覚　体性感覚　運動　大脳の機能的非対称性(側性化)　利き手

【key words】
視覚　聴覚　体性感覚　身体運動　大脳の側性化　利き手

【授業概要】
感覚様式ごとの知覚・認識や身体運動の調整にかかわっている経路・仕組みを概観し、利き手や言語中枢と関係する大脳の機能偏倚を知ります。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.47-64,185-200、配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第６回　小テスト　２　および　言語(speechとlanguage　言語中枢　角回　縁上回　右半球と言語)

【key words】
話しことばと言語　運動言語中枢　感覚言語中枢　弓状束　角回　縁上回

【授業概要】
ヒトに固有な高次脳機能である言語行動を支持する神経系の機能解剖を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.185-200、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第７回　学習　記憶

【key words】
ワーキングメモリ　長期記憶　側頭葉内側部　間脳　健忘　学習　意思決定　脳の可塑性

【授業概要】
適応行動の基盤でもある学習と記憶の生理・病理について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.65-80,81-110
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第８回　小テスト　３　および　情動　感情　動機づけ　発動性　人格　ストレス

【key words】
情動　自律神経系　大脳辺縁系　情動の表出　情動の認知　ストレス　動機づけ

【授業概要】
喜怒哀楽が行動の組織化にどのようにかかわってくるのかについて言及します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.111-136,137-164
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第９回　睡眠　概日リズム

【key words】
睡眠　睡眠周期　脳波　脳幹網様体賦活系　概日リズム

【授業概要】
日常生活の大きなリズムである睡眠の生理について系統発生的・生涯発達的に学ぶとともに、睡眠の病態にもふれる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp201-226、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１０回　小テスト　４　および　脳損傷(神経内科・脳神経外科的疾患)概要、高次脳機能障害　１　失語　１　臨床分類と特徴的症状
【key words】
脳損傷の病態　失語症　古典的分類　臨床症状

【授業概要】
脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患を概観し、失語症の臨床分類・特性について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１１回　高次脳機能障害　２　失語　２　リハビリテーションにおける心理的ケア
【key words】
言語治療　失語症リハビリテーション　失語症者の心理・社会的問題

【授業概要】
失語症リハビリテーション過程ならびに治療的コミュニケーションの意味を理解します。また、失語症者がかかえやすい心理・社会的問題について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１２回　小テスト　５　および　高次脳機能障害　３　失行・失認　１　臨床分類と特徴的症状(遂行機能障害を中心に)
【key words】
高次脳機能障害　失行　失認　臨床症状

【授業概要】
一見不可解に感じられてしまいがちな高次脳機能障害の神経心理学的病態を、障害当事者の視点に立って理解します。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１３回　高次脳機能障害　４　失行・失認　２　リハビリテーションにおける心理的ケア
【key words】
高次脳機能障害リハビリテーション　高次脳機能障害者の心理・社会的問題

【授業概要】
高次脳機能障害リハビリテーション過程ならびに生活行動支援の意味を理解します。また、高次脳機能障害者がかかえやすい心理・社会的問題について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１４回　器質性精神疾患(認知症を中心に)　特徴的症状　リハビリテーションにおける心理的ケア
【key words】
認知症　臨床症状　認知症リハビリテーション　認知症者の心理・社会的問題

【授業概要】
記憶障害の特徴的進展が中核の認知症者について、その心理・社会的問題を中心に、リハビリテーション過程ならびに生活行動支援の意味を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.165-184,249-272、配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視

第１５回　小テスト　６　および　臨床評価(神経心理検査)のテストバッテリー 概説　授業全体のまとめ
【key words】
神経心理検査　臨床評価　エビデンス　職業倫理

【授業概要】

	神経心理検査の代表的なものについて、その評価守備範囲・構成内容を紹介します。あわせて、支援対象者を評価し支援するということの職業倫理を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
受講生に関わる情報および受講のルール	各専門用語で表わされる内容を徐々に組み上げていくように授業が進展していきますから、小テストを足がかりに都度確実に理解しようという姿勢が受講生には求められます。それを経ることで、高次脳機能障害児者の支援にかかわる心理専門家としてのevidence-based practiceの基本が養われていきます。必ず慣れてきますから、少し難しさを感じたくらいで学びを諦めないこと。高次脳機能障害児者は、かかえてしまったその障害特性の本質を理解しようとする 一人でも多くのひと(＝皆さん)の支援現場登場を待っているのです。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	まずは授業の復習を十分に行なうようにして下さい。あわせて、世に送り出されている数多くの神経心理学書を複数手に取って読みましょう。電子メディアに載っている中枢神経系のアトラスも多く眺め、あわせて自分の手で実際にイラストを描いてみるなど、その構造の立体的理解に努めて下さい。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	6回の小テスト(60%)および学期末レポート(40%)で評定します。
教科書	岡田隆・広中直行・宮森孝史　生理心理学　第2版　脳の働きから見た心の世界　サイエンス社　2015年
参考書	ジョン・ピネル　佐藤敬 他 訳　ピネル バイオサイコロジー 脳-心と行動の神経科学　西村書店　2005年 山鳥　重　神経心理学入門　医学書院　1985年 メディックメディア　脳・神経　病気がみえる 第7巻　メディックメディア　2014年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 言語聴覚士として、聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容